

栃木県埋蔵文化財調査報告第 362 集

東谷・中島地区遺跡群 16

—都市再生機構による東谷・中島土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査—

西刑部西原遺跡
(古墳・奈良・平安時代編)

2013. 3

栃木県教育委員会
(財)とちぎ未来づくり財団

東谷・中島地区遺跡群 16

—都市再生機構による東谷・中島土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査—

西刑部西原遺跡 (古墳・奈良・平安時代編)

2013.3

栃木県教育委員会
(財)とちぎ未来づくり財団



西刑部西原遺跡3区全景（北上空から）



西刑部遺跡13区北部全景（南上空から）

序

東谷・中島地区遺跡群は、栃木県の中央部、宇都宮市南部から上三川町北部に位置しています。この地域は、なだらかに広がる低台地と肥沃な沖積地に恵まれているため、杉村遺跡・立野遺跡・西刑部西原遺跡・砂田遺跡などの原始・古代の集落跡と、東谷古墳群・中島笹塚古墳群・磯岡北古墳群・琴平塚古墳群をはじめとする多くの古墳群が所在します。

このたび、独立行政法人都市再生機構による土地区画整理事業に先立ち、事業地域内に所在する 12 遺跡の取り扱いについて、関係機関と協議の上、平成 6 年度から記録保存を目的とした発掘調査を行ってきました。

このうち、西刑部西原遺跡の発掘調査では、多くの土器・石器類や金属製品等が出土しました。特に平安時代の井戸から見つかった木製の馬具は極めて貴重な出土例といえるものです。

本報告書は、西刑部西原遺跡の古墳時代から奈良・平安時代における集落跡の発掘調査成果をまとめたものです。本書が県民の皆様にとって郷土の歴史を理解する一助になるとともに、各方面において広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで、多大なる御協力をいただきました独立行政法人都市再生機構、宇都宮市教育委員会、上三川町教育委員会をはじめとする関係機関、並びに関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成 25 年 3 月

栃木県教育委員会

教育長 古澤 利通

例 言

1. 本書は独立行政法人都市再生機構による東谷・中島土地区画整理事業に伴い発掘調査が実施された東谷・中島地区遺跡群のうち、上三川町および宇都宮市に所在する西刑部西原遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は栃木県教育委員会の指導のもと、財団法人とちぎ未来づくり財団が独立行政法人都市再生機構と受託契約を締結し、埋蔵文化財センターが実施している。

計画地内の発掘調査は平成6年度から平成20年度まで実施した。このうち西刑部西原遺跡は平成9年度に1区（琴平塚1号墳）と試掘調査、平成11年度に2区（琴平塚2号墳～13号墳及び推定東山道）の本調査、平成12年度は3・4区、平成13年度は5～7区（琴平塚14号墳及び推定東山道を含む）、平成15年度は8区（琴平塚9号墳の周溝一部及び推定東山道の一部を含む）、平成17年度は9～11区、平成18年度は12区、そして平成19年度は13・14区の本調査を実施した。

このうち推定東山道部分は平成14年度に、琴平塚古墳群は平成15年度に、また旧石器・縄文・弥生時代編は平成23年度にそれぞれ調査報告書を刊行している。平成20年度から、これらを除く集落部分の整理作業を断続的に行っており、今回は古墳時代及び奈良・平安時代の遺構・遺物について報告するものである。

3. 東谷・中島遺跡群の発掘調査は以下の担当者により実施した。

平成6年度 菅谷 豊、塚本師也、塚原孝一

平成7年度 中山 晋、稲木 実、関口正明、増山孝之、山本訓志、塚原孝一、安永真一、藤田直也

平成8年度 中山 晋、稲木 実、増山孝之、山本訓志、塚原孝一、石川幸広、藤田直也

平成9年度 初山孝行、小島昭寿、増山孝之、山本訓志、塚原孝一、石川幸広、高野瑞枝、藤田直也

平成10年度 初山孝行、松本 敏、名越侍郎、岡部正晴、小島昭寿、増山孝之、山本訓志、中村享史、塚原孝一、内山敏行、石川幸広、高野瑞枝、柿沼利幸、藤田直也、大島美智子、田中裕子

平成11年度 田代 隆、松本 敏、名越侍郎、岡部正晴、小島昭寿、後藤信祐、中村享史、塚原孝一、内山敏行、和久井宏行、高野瑞枝、柿沼利幸、上原康子、藤田直也、大島美智子、田中裕子、
(発掘補助員) 佐藤 斉

平成12年度 田代 隆、名越侍郎、江頭 進、中村享史、内山敏行、上原康子、藤田直也、矢野里織、
(発掘補助員) 佐藤 斉、田崎真理

平成13年度 田代 隆、江頭 進、中村享史、内山敏行、江原 英、谷中 隆、藤田直也、矢野里織、
(発掘補助員) 田崎真理

平成14年度 田代 隆、江頭 進、馬場秀典、中村享史、内山敏行、谷中 隆、藤田直也、矢野里織、
(発掘補助員) 田崎真理

平成15年度 田代 隆、小出功一、馬場秀典、中村享史、内山敏行、谷中 隆、藤田直也、塚田浩久、
(発掘補助員) 岡田 圭、田崎真理

平成16年度 田代 隆、津野 仁、小出功一、馬場秀典、内山敏行、谷中 隆、今平昌子、
(発掘補助員) 田崎真理

平成17年度 田代 隆、津野 仁、小出功一、馬場秀典、内山敏行、谷中 隆、今平昌子、
(発掘補助員) 田村雅樹

平成18年度 田代 隆、津野 仁、篠原浩恵、内山敏行、谷中 隆、中山真理、
(発掘補助員) 津野田陽介

平成19年度 後藤信祐、大瀧貴史、石田善成、内山敏行、谷中 隆、今平昌子、宮田宜浩、峰崎武昭、
田村雅樹、(発掘補助員) 津野田陽介

平成 20 年度 後藤信祐、内山敏行、今平昌子、亀田幸久
平成 21 年度 塚原孝一、内山敏行、今平昌子、亀田幸久
平成 22 年度 内山敏行、今平昌子、亀田幸久、藤田直也
平成 23 年度 内山敏行、今平昌子、亀田幸久
平成 24 年度 中村亨史、内山敏行、亀田幸久

4. 西刑部西原遺跡（琴平塚古墳群も含む）の発掘調査は、以下の担当者により実施した。

平成 9 年度（西刑部西原遺跡 1 区試掘・本調査）初山孝行、小島昭寿、増山孝之、山本訓志、藤田直也
平成 11 年度（西刑部西原遺跡 2 区本調査）名越侍郎、岡部正晴、中村亨史、内山敏行、高野瑞枝、大島美智子
平成 12 年度（西刑部西原遺跡 3・4 区本調査）名越侍郎、岡部正晴、江頭 進、中村亨史、上原康子
平成 13 年度（西刑部西原遺跡 5～7 区本調査）江頭 進、中村亨史、江原 英、矢野香織、田崎真理
平成 15 年度（西刑部西原遺跡 8 区本調査）小出功一、谷中 隆、岡田 圭
平成 17 年度（西刑部西原遺跡 9～11 区本調査）田代 隆、小出功一、馬場秀典、田村雅樹
平成 18 年度（西刑部西原遺跡 12 区本調査）田代 隆、中山真理、津野田陽介
平成 19 年度（西刑部西原遺跡 13・14 区本調査）後藤信祐、今平昌子、大瀧貴史、石田善成、峰崎武昭、
田村雅樹、津野田陽介

5. 本書の作成・執筆・編集は（財）とちぎ未来づくり財団 亀田幸久が行った。また第 5 章 西刑部西原遺跡の自然科学分析はパリノ・サーヴェイ株式会社が行った。

6. 西刑部西原遺跡の発掘調査にあたり、以下の委託事業を実施した。

基準点測量及び杭打ち・航空写真撮影・航空写真撮影図化・航空写真合成：中央航業株式会社、理化学分析（木製品樹種・種実遺体・昆虫遺体同定、塗膜破片作成・観察）：パリノ・サーヴェイ株式会社、木製品保存処理：株式会社東都文化財保存研究所

7. 遺構写真は各調査担当者が、遺物写真撮影は亀田幸久が撮影した。遺物の X 線撮影は車塚哲久、航空写真は中央航業株式会社が撮影した。

8. 発掘調査の実施並びに報告書の作成にあたっては栃木県教育委員会文化財課の指導を受けると共に、次の方々の御指導、御協力を賜った。

都市再生機構栃木開発事務所、宇都宮市教育委員会、上三川町教育委員会、栃木県立博物館
秋元陽光、上野修一、内川隆志、今平利幸、塙 静夫、深谷 昇、森嶋秀一、山口耕一（敬称略）

9. 本遺跡については、既に栃木県教育委員会『栃木県埋蔵文化財保護行政年報』21 平成 9 年度（1997）、同 23 平成 11 年度（1999）、同 24 平成 12 年度（2000）、同 25 平成 13 年度（2001）、同 27 平成 15 年度（2003）、同 29 平成 17 年度（2005）、同 30 平成 18 年度（2006）、同 31 平成 19 年度（2007）、同 33 平成 21 年度（2009）、『埋蔵文化財センター年報』第 9 号（平成 11 年度）、同第 10 号（平成 12 年度）、同第 11 号（平成 13 年度）、同第 15 号（平成 17 年度）、同第 16 号（平成 18 年度）、同第 17 号（平成 19 年度）、同第 18 号（平成 20 年度）、同第 19 号（平成 21 年度）、同第 20 号（平成 22 年度）、同第 21 号（平成 23 年度）、宇都宮市教育委員会文化課『宇都宮市文化財年報』第 16 号〔平成 11 年度〕、同第 17 号〔平成 12 年度〕、同第 18 号〔平成 13 年度〕、同第 20 号〔平成 15 年度〕、同第 22 号〔平成 17 年度〕、同第 23 号〔平成 18 年度〕、同第 24 号〔平成 19 年度〕、同第 25 号〔平成 20 年度〕、『栃木県埋蔵文化財センター便り』2011. 6 月号（平成 23 年）などで一部概要が公表されているが、本書をもって正式報告とする。

10. 本報告書名は遺跡名ではなく、業務名である。

11. 本遺跡に係わる出土遺物・実測図・写真等の資料は、財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターで保管している。

12. 発掘調査協力者は次のとおりである。(順不同・敬称略)

会沢嘉明、青木良人、青柳 茂、阿久津友恵、阿久津正代子、阿久津フミ、阿久津昌子、阿久津容子、朝倉栄子、阿部利三郎、鮎澤賢三、荒井光美、新井みや子、飯田国松、石井けい子、石川晶子、石川てる子、石川東司、石川良子、石崎幸子、石崎富美子、石塚洋太郎、石原昌子、石原朋子、石浜ふみ子、岩本文子、石渡ヨシイ、磯崎恵子、伊東祐子、稲垣 節、稲川洋子、稲葉るみ子、今井光子、入江キイ、入江セツ、入江タカ子、入江つや子、入江 徹、入江文子、入江通子、入江晴江、岩井タイ、猪瀬岩夫、岩本文子、上野久子、上野やえ子、白井ツヤ、植松雄介、榎本健夫、大垣一子、大谷三恵子、大田勝雄、大田リエ子、大垣カツ、大塚アエ、大塚サダ、大塚スガ、大塚 清、大塚タマ子、大塚三代子、岡田イセ、岡田紀子、岡田 満、尾島サキ、小椋朋子、小澤一雄、小貫邦生、柿沼 武、片山重子、加藤明美、加藤家康、加藤盛枝、加藤マツエ、川島利子、川島 昭、川畑忠久、河村祐治、木村昭絵、木村孝子、北村 順、工藤英子、栗原 徹、黒須エイ、黒須多喜子、黒川テル子、黒川法子、黒田 史、熊木秀男、毛塚雪子、小高真理子、小島清子、小林ミツエ、小林マス、小松寅雄、郷間和子、今能のぞみ、斉藤幸子、斉藤近由、斉藤みつ、坂井原弓子、坂入厚子、坂入寛子、坂田実穂、坂本キミ子、櫻井洋之、桜井靖久、笹崎剛夫、佐藤武尚、佐藤ツヤ子、佐藤ミサ子、佐藤ヨシ、佐藤芳夫、椎貝フヂエ、椎貝祥子、篠崎一美、篠原サク、篠原信子、清水タネ、清水裕子、柴タミ子、下谷文男、白井チセ子、杉山 巧、鈴木恒正、鈴木ヨシ子、須永剛生、田崎信夫、田崎真理、高木ハマ、高田滋子、高嶋一平、高島勝正、高嶋絹子、高嶋キヨノ、高島典子、高島秀子、高嶋ミヨ子、高瀬智代子、高野ヨシ子、高橋朝美、高橋政昌、高橋晴子、高橋洋子、高橋平次、高橋松男、高秀ハツエ、高松道子、高松美和子、高松米子、高山シズ江、田崎照明、田仲コト、田仲 静男、田中征子、田仲ヤス、津野田陽介、鶴見世及、対馬順子、圓谷由貴子、手塚智彦、寺内キイ、寺内きぬ、寺内 尉、寺内ミツエ、寺内千代子、豊田孝子、仲沢 隼、直井清之、直井房一、中山伸子、新村義一、根本有理子、野口コウ、野口忠士郎、野崎久美子、野沢伸嘉、野沢トシ、野沢トミ、野澤 守、野沢 充、畠山 弘、橋本フジ、林 孝行、馬場キワ、伴三千代、平井克美、平井待子、平石キヨノ、福富 準、広田愛子、深澤光一、深沢勝和、福田純子、福田安家、福田ツヤ、福田林蔵、藤原美枝、古谷安司、堀中國代、星野高雄、細野重信、本田 衛、本牧キン、増山晃広、増淵キミ、増淵京子、増淵フミ、増淵三枝子、増淵正広、増淵三男、増淵皓三、松沼 朗、松本かおる、真分フキ、三上あけみ、美野輪鋭二、宮本スミエ、宮本恒雄、宮本俊明、室井キン、毛利沙和子、茂垣 栄、李保美枝、望月シズイ、百瀬洋子、森田幸江、安井嘉津子、谷田部キヨ子、矢田部敏雄、柳田加子、柳田悦子、梁嶋ヨシ、山崎千代子、山崎洋子、吉沢明世、吉沢良助、吉沢千代、吉田みつえ、渡辺昭二郎、渡辺洋子、渡辺四郎、渡辺フミ

13. 整理作業・報告書作成作業の参加者は次のとおりである。(順不同・敬称略)

赤羽根清美、稲葉順子、太田由美、岡田陽子、生内千春、尾見 愛、後藤幸子、高田菜都実、武田智子、田崎 望、筑井くみこ、根本明美、石川尚子、村上啓子、本西幸子、山中貴博

凡 例

(遺跡)

遺跡の略号 略号は確認調査を「UT - TN」とし本調査を「UT - NS」とした。また調査区の表示は略号の後ろに付した(例：西刑部西原遺跡 13 区→UT - NS -13)。

公共座標 各調査区の全体図には国土調査法による平面直角座標第Ⅸ系の座標値を記入した。各遺構の配置については、国家座標第Ⅸ系に基づく東谷・中島地区遺跡群全体を覆うグリッドにより表記した。また、挿図中の方向については、座標北(平面直角座標第Ⅸ系の X 軸方向)である。なお、本書の座標値は平成 14 年(2002 年)4 月から試行されている世界測地系に基づく座標値は使用していないが、緯度・経度の表示は世界測地系による数値を示した。

(遺構)

遺構略号 竪穴建物跡：SI、掘立柱建物跡：SB、井戸：SE、土坑：SK、溝：SD、道路状遺構：SF、古墳：SZ、性格不明遺構(円形周溝遺構・方形竪穴状遺構・円形有段遺構・遺物集中地点など)：SX の略号で表した。基本的に調査区ごとに種別によらず確認された遺構順に番号を付したが、既に報告済みの古墳及び、道路状遺構は報告書記載の遺構番号を踏襲した。

縮尺 今回掲載した遺構実測図は原則として、竪穴建物跡・掘立柱建物跡・円形周溝遺構・井戸・土坑・ピット：1/80、遺物集中地点：1/20、道路遺構：1/100、古墳：1/200 である。また溝跡や各調査区の遺構配置図および遺構全体図は必要に応じて縮尺を変更している。

方位 図示した方位は、小縮尺の地形図(第 1 図)が真北、他の図中では座標北(平面直角座標Ⅸ系の X 軸方向)である。遺構の主軸方向は座標北に対する振れを示す。

標高 断面図基準線の値は海拔標高で、水系記号または土層注記の下段に記載した。

(遺物)

遺物番号 遺物は基本的に古い方から時代毎に行っている。この番号は、本文、遺物出土状況図、遺物実測図、遺物観察表、写真図版等に共通する。

計測値 遺物計測表における長さ・幅・厚さはそれぞれの最大値を表し、計測値は、数値のみ = 計測値、() = 復元値あるいは推定値、[] = 残存値を示す。

縮尺 遺物実測図は基本的に土器類：1/4、石器類：1/4、土製品・石製品：1/2、鉄製品：1/2、銅製品：原寸、和鏡：原寸だが、大型の遺物に関しては 1/5、1/6 で掲載した場合があり、縮尺はその都度スケールを入れ縮尺も表記している。なお、遺物写真図版の縮尺については不統一で、金属製品は基本的に実測図と同一(1/2)としたが、厳密なものではない。土器類・石器類・土製品・石製品は縮尺不同である。

破片実測の遺物 断面図の左側に内面、右側に外面を配置する。

器質 須恵器は断面黒塗り、灰釉陶器は断面にスクリーントーンを入れた。金属製品の断面には斜線を記した。

また実測図には必要に応じてスクリーントーンを入れたものがあるが、特に凡例は設けずその都度説明を記載した。

色調 土器・石器類の色調は標準土色帖をもとに記載した。

胎土 混和材の多少を基準に「粗い/やや粗い/やや緻密/緻密」とする。混和材が鉱物・岩石の場合：長径 0.5 mm 未満は「細砂」、0.5 ~ 2.0 mm は「砂」、2.0 mm 以上は「礫」とする。混和材が鉱物・岩石以外の場合、直径 0.5 mm 未満は「細粒」0.5 ~ 2.0 mm は「粒」、2.0 mm 以上は「粗粒」とする。混和材の色は「灰・白・黒・赤・透明」とする。半透明のものは「透明」とする。

焼成 「硬質/やや硬質/軟質/やや軟質」とする。

出土量 不掲載遺物の出土量は小コンテナ箱(内法：54×34×10 cm)で換算した。

目 次

序

例言

凡例

目次

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法	3
第3節 調査の経過	5

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境	8
第2節 歴史的環境	12

第3章 発見された遺構と遺物

第1節 調査の概要	23
第2節 標準土層	24
第3節 3区の遺構と遺物	
1. 竪穴建物跡	26
2. 掘立柱建物跡	185
3. 円形周溝遺構	196
4. 性格不明遺構	198
5. 井戸	203
6. 溝	213
7. 円形有段遺構	214
8. 土坑	216
9. ピット	221
10. 遺構外出土の遺物	222
第4節 4区の遺構と遺物	
1. 竪穴建物跡	225
2. 溝	230
3. 土坑	231
4. 遺構外	231
第5節 5区の遺構と遺物	
1. 竪穴建物跡	234
2. 掘立柱建物跡	245
3. 円形周溝遺構	247
4. 土坑	247
5. ピット	251
第6節 6区の遺構と遺物	
1. 溝	253
2. 土坑	253
3. ピット	254
第7節 7区の遺構と遺物	
1. 竪穴建物跡	256
2. 円形有段遺構	262
3. 土坑	263
4. 道路状遺構	263
第8節 8区の遺構と遺物	
1. 土坑	264
2. 古墳	265

3. 道路状遺構	266
第9節 9区の遺構と遺物	
1. 竪穴建物跡	271
2. 掘立柱建物跡	301
3. 性格不明遺構	305
4. 井戸	307
5. 溝	307
6. 土坑	311
7. ピット	312
第10節 10区の遺構と遺物	
1. 竪穴建物跡	320
2. 掘立柱建物跡	324
3. 円形周溝遺構	326
4. 溝	327
5. 土坑	329
6. ピット	330
第11節 11区の遺構と遺物	
1. 竪穴建物跡	336
2. 溝	337
3. 土坑	339
4. ピット	339
第12節 12区の遺構と遺物	
1. 竪穴建物跡	342
2. 掘立柱建物跡	354
3. 土坑	356
4. ピット	357
5. 遺構外	359
第13節 13区の遺構と遺物	
1. 竪穴建物跡	361
2. 掘立柱建物跡	421
3. 円形周溝遺構	427
4. 円形有段遺構	435
5. 性格不明遺構	435
6. 井戸	436
7. 溝	439
8. 土坑	449
9. ピット	455
10. 遺構外	461
第14節 14区の遺構と遺物	
1. 竪穴建物跡	463
2. 円形周溝遺構	466
3. 溝	467
4. 土坑	467
5. ピット	468
第15節 試掘トレンチ	470
第4章 まとめと成果	
第1節 遺構の変遷について	472
第2節 出土遺物について	476
第5章 西刑部西原遺跡の自然化学分析	
第1節 西刑部西原遺跡3区の自然科学分析(1)	479
第2節 西刑部西原遺跡3区の自然化学分析(2)	484

挿図目次

第1図	遺跡位置図	2	第60図	西刑部西原遺跡3区	SI-18 実測図	80
第2図	東谷・中島地区遺跡群遺跡配置図	4	第61図	西刑部西原遺跡3区	SI-18 出土遺物	80
第3図	西刑部西原遺跡調査区割図 (S = 1/4,000)	7	第62図	西刑部西原遺跡3区	SI-19 実測図	81
第4図	遺跡位置図	8	第63図	西刑部西原遺跡3区	SI-19 出土遺物	81
第5図	地形図 (1/600,000)	9	第64図	西刑部西原遺跡3区	SI-22 実測図	82
第6図	周辺の地形図 (S = 1/100,000)	10	第65図	西刑部西原遺跡3区	SI-22 出土遺物	83
第7図	周辺の遺跡分布図	14	第66図	西刑部西原遺跡3区	SI-24 実測図・出土遺物	84
第8図	東谷・中島地区遺跡群全体図	16	第67図	西刑部西原遺跡3区	SI-26 出土遺物	85
第9図	標準土層採取地点	24	第68図	西刑部西原遺跡3区	SI-26 実測図	86
第10図	西刑部西原遺跡標準土層図 (S=1/60)	24	第69図	西刑部西原遺跡3区	SI-30 実測図	87
第11図	西刑部西原遺跡3区 全体図 (1/1,200)	25	第70図	西刑部西原遺跡3区	SI-30 出土遺物	88
第12図	西刑部西原遺跡3区 SI-1 実測図 (1)	26	第71図	西刑部西原遺跡3区	SI-31 実測図	89
第13図	西刑部西原遺跡3区 SI-1 実測図 (2)	27	第72図	西刑部西原遺跡3区	SI-31 出土遺物	90
第14図	西刑部西原遺跡3区 SI-1 出土遺物 (1)	28	第73図	西刑部西原遺跡3区	SI-32 実測図	92
第15図	西刑部西原遺跡3区 SI-1 出土遺物 (2)	29	第74図	西刑部西原遺跡3区	SI-32 出土遺物	93
第16図	西刑部西原遺跡3区 SI-1 出土遺物 (3)	30	第75図	西刑部西原遺跡3区	SI-33 実測図	94
第17図	西刑部西原遺跡3区 SI-2 実測図 (1)	32	第76図	西刑部西原遺跡3区	SI-33 出土遺物	95
第19図	西刑部西原遺跡3区 SI-2 出土遺物 (1)	33	第77図	西刑部西原遺跡3区	SI-34 出土遺物	96
第18図	西刑部西原遺跡3区 SI-2 実測図 (2)	33	第78図	西刑部西原遺跡3区	SI-34 実測図	97
第20図	西刑部西原遺跡3区 SI-2 出土遺物 (2)	34	第79図	西刑部西原遺跡3区	SI-35 実測図	98
第21図	西刑部西原遺跡3区 SI-2 出土遺物 (3)	35	第80図	西刑部西原遺跡3区	SI-35 出土遺物	99
第22図	西刑部西原遺跡3区 SI-3 実測図 (1)	38	第81図	西刑部西原遺跡3区	SI-36 実測図 (1)	100
第23図	西刑部西原遺跡3区 SI-3 実測図 (2)	39	第82図	西刑部西原遺跡3区	SI-36 実測図 (2)	101
第24図	西刑部西原遺跡3区 SI-3 出土遺物 (1)	39	第83図	西刑部西原遺跡3区	SI-36 出土遺物 (1)	101
第25図	西刑部西原遺跡3区 SI-3 出土遺物 (2)	40	第84図	西刑部西原遺跡3区	SI-36 出土遺物 (2)	102
第26図	西刑部西原遺跡3区 SI-4 出土遺物 (1)	42	第85図	西刑部西原遺跡3区	SI-36 出土遺物 (3)	103
第27図	西刑部西原遺跡3区 SI-4 実測図	43	第86図	西刑部西原遺跡3区	SI-38 実測図	105
第28図	西刑部西原遺跡3区 SI-4 出土遺物 (2)	43	第87図	西刑部西原遺跡3区	SI-38 出土遺物	106
第29図	西刑部西原遺跡3区 SI-5 実測図 (1)	45	第88図	西刑部西原遺跡3区	SI-39 実測図	108
第30図	西刑部西原遺跡3区 SI-5 実測図 (2)	46	第89図	西刑部西原遺跡3区	SI-39 出土遺物	109
第31図	西刑部西原遺跡3区 SI-5 出土遺物 (1)	46	第90図	西刑部西原遺跡3区	SI-40 実測図	110
第32図	西刑部西原遺跡3区 SI-5 出土遺物 (2)	47	第91図	西刑部西原遺跡3区	SI-40 出土遺物	111
第33図	西刑部西原遺跡3区 SI-6 実測図	50	第92図	西刑部西原遺跡3区	SI-41 出土遺物	112
第34図	西刑部西原遺跡3区 SI-6 出土遺物	51	第93図	西刑部西原遺跡3区	SI-41 実測図	113
第35図	西刑部西原遺跡3区 SI-7 実測図	53	第94図	西刑部西原遺跡3区	SI-42 出土遺物 (1)	114
第36図	西刑部西原遺跡3区 SI-7 出土遺物 (1)	54	第95図	西刑部西原遺跡3区	SI-42 実測図	115
第37図	西刑部西原遺跡3区 SI-7 出土遺物 (2)	55	第96図	西刑部西原遺跡3区	SI-42 出土遺物 (2)	116
第38図	西刑部西原遺跡3区 SI-8 実測図	57	第97図	西刑部西原遺跡3区	SI-43 実測図	117
第39図	西刑部西原遺跡3区 SI-8 出土遺物 (1)	58	第98図	西刑部西原遺跡3区	SI-43 出土遺物	117
第40図	西刑部西原遺跡3区 SI-8 出土遺物 (2)	59	第99図	西刑部西原遺跡3区	SI-46 実測図	118
第41図	西刑部西原遺跡3区 SI-10 実測図	61	第100図	西刑部西原遺跡3区	SI-46 出土遺物	118
第42図	西刑部西原遺跡3区 SI-10 出土遺物	62	第101図	西刑部西原遺跡3区	SI-47 実測図	119
第43図	西刑部西原遺跡3区 SI-11 実測図 (1)	63	第102図	西刑部西原遺跡3区	SI-47 出土遺物	120
第44図	西刑部西原遺跡3区 SI-11 実測図 (2)	64	第103図	西刑部西原遺跡3区	SI-50 実測図	121
第45図	西刑部西原遺跡3区 SI-11 出土遺物 (1)	64	第104図	西刑部西原遺跡3区	SI-50 出土遺物	122
第46図	西刑部西原遺跡3区 SI-11 出土遺物 (2)	65	第105図	西刑部西原遺跡3区	SI-51 実測図	123
第47図	西刑部西原遺跡3区 SI-11 出土遺物 (3)	66	第106図	西刑部西原遺跡3区	SI-51 出土遺物	123
第48図	西刑部西原遺跡3区 SI-12 出土遺物	68	第107図	西刑部西原遺跡3区	SI-52 出土遺物 (1)	124
第49図	西刑部西原遺跡3区 SI-12 実測図	69	第108図	西刑部西原遺跡3区	SI-52 実測図	125
第50図	西刑部西原遺跡3区 SI-13 実測図 (1)	70	第109図	西刑部西原遺跡3区	SI-52 出土遺物 (2)	126
第51図	西刑部西原遺跡3区 SI-13 実測図 (2)	71	第110図	西刑部西原遺跡3区	SI-53 実測図 (1)	127
第52図	西刑部西原遺跡3区 SI-13 出土遺物 (1)	71	第111図	西刑部西原遺跡3区	SI-53 実測図 (2)	128
第53図	西刑部西原遺跡3区 SI-13 出土遺物 (2)	72	第112図	西刑部西原遺跡3区	SI-53 実測図 (3)	129
第54図	西刑部西原遺跡3区 SI-14 実測図	74	第113図	西刑部西原遺跡3区	SI-53 出土遺物 (1)	130
第55図	西刑部西原遺跡3区 SI-14 出土遺物	75	第114図	西刑部西原遺跡3区	SI-53 出土遺物 (2)	131
第56図	西刑部西原遺跡3区 SI-15 実測図	77	第115図	西刑部西原遺跡3区	SI-54 実測図	132
第57図	西刑部西原遺跡3区 SI-15 出土遺物	77	第116図	西刑部西原遺跡3区	SI-54 出土遺物 (1)	133
第58図	西刑部西原遺跡3区 SI-16 出土遺物	78	第117図	西刑部西原遺跡3区	SI-54 出土遺物 (2)	134
第59図	西刑部西原遺跡3区 SI-16 実測図	79	第118図	西刑部西原遺跡3区	SI-56 実測図	135

第 119 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-56 出土遺物	135	第 180 図	西刑部西原遺跡 3 区	SX-17 実測図・出土遺物	196
第 120 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-58 実測図 (1)	136	第 181 図	西刑部西原遺跡 3 区	SX-28 実測図・出土遺物	197
第 121 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-58 実測図 (2)	137	第 182 図	西刑部西原遺跡 3 区	SX-29 実測図	198
第 122 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-58 出土遺物 (1)	137	第 183 図	西刑部西原遺跡 3 区	SX-29 出土遺物	198
第 123 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-58 出土遺物 (2)	138	第 184 図	西刑部西原遺跡 3 区	SX-112 実測図	198
第 124 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-59 実測図	140	第 185 図	西刑部西原遺跡 3 区	SX-21 実測図	199
第 125 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-59 出土遺物	141	第 186 図	西刑部西原遺跡 3 区	SX-21 出土遺物	200
第 126 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-60 実測図	141	第 187 図	西刑部西原遺跡 3 区	SE-23 実測図	203
第 127 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-60 実測図・出土遺物	142	第 188 図	西刑部西原遺跡 3 区	SE-23 出土遺物 (1)	204
第 128 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-61 実測図	143	第 189 図	西刑部西原遺跡 3 区	SE-23 出土遺物 (2)	205
第 129 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-61 出土遺物	144	第 190 図	西刑部西原遺跡 3 区	SE-27 実測図	207
第 130 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-71 実測図・出土遺物	145	第 191 図	西刑部西原遺跡 3 区	SE-37 実測図	207
第 131 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-74 実測図 (1)	146	第 192 図	西刑部西原遺跡 3 区	SE-37 出土遺物	208
第 132 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-74 実測図 (2)	147	第 193 図	西刑部西原遺跡 3 区	SE-75 実測図・出土遺物	209
第 133 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-74 出土遺物	148	第 194 図	西刑部西原遺跡 3 区	SE-76 実測図・出土遺物	210
第 134 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-77 実測図	150	第 195 図	西刑部西原遺跡 3 区	SE-95 実測図・出土遺物	211
第 135 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-77 出土遺物	151	第 196 図	西刑部西原遺跡 3 区	SE-107 実測図・出土遺物	212
第 136 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-78 実測図	152	第 197 図	西刑部西原遺跡 3 区	SD-57 実測図・出土遺物	213
第 137 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-78 出土遺物	153	第 198 図	西刑部西原遺跡 3 区	SK-45 実測図	214
第 138 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-81 実測図	154	第 199 図	西刑部西原遺跡 3 区	SK-45 出土遺物	215
第 139 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-81 出土遺物	155	第 200 図	西刑部西原遺跡 3 区	SK-62 ~ 64・72 出土遺物	216
第 140 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-82 実測図	156	第 201 図	西刑部西原遺跡 3 区	土坑実測図 (1)	217
第 141 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-82 出土遺物	156	第 202 図	西刑部西原遺跡 3 区	土坑実測図 (2)	219
第 142 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-83 実測図 (1)	157	第 203 図	西刑部西原遺跡 3 区	SK-99・108 ~ 110・116 出土遺物	220
第 143 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-83 実測図	158	第 204 図	西刑部西原遺跡 3 区	ピット実測図	221
第 144 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-83 出土遺物	158	第 205 図	西刑部西原遺跡 3 区	遺構外出土遺物	223
第 145 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-84 実測図	159	第 206 図	西刑部西原遺跡 4 区	全体図 (S=1/600)	225
第 146 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-84 出土遺物	160	第 207 図	西刑部西原遺跡 4 区	SI-1 実測図	226
第 147 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-85 実測図	162	第 208 図	西刑部西原遺跡 4 区	SI-1 出土遺物 (1)	226
第 148 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-85 出土遺物 (1)	162	第 209 図	西刑部西原遺跡 4 区	SI-1 出土遺物 (2)	227
第 149 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-85 出土遺物 (2)	163	第 210 図	西刑部西原遺跡 4 区	SI-2 実測図	228
第 150 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-85 出土遺物 (3)	164	第 211 図	西刑部西原遺跡 4 区	SI-2 出土遺物	228
第 151 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-86 実測図	167	第 212 図	西刑部西原遺跡 4 区	SI-3 実測図	229
第 152 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-86 出土遺物 (1)	167	第 213 図	西刑部西原遺跡 4 区	SI-3 出土遺物	229
第 153 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-86 出土遺物 (2)	168	第 214 図	西刑部西原遺跡 4 区	SD-7 実測図・出土遺物	230
第 154 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-87 出土遺物	169	第 215 図	西刑部西原遺跡 4 区	土坑実測図	231
第 155 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-87 実測図	170	第 216 図	西刑部西原遺跡 4 区	SK-4 出土遺物	231
第 156 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-88 実測図	172	第 217 図	西刑部西原遺跡 4 区	遺構外出土 群蝶双雀鏡	232
第 157 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-88 出土遺物 (1)	172	第 218 図	西刑部西原遺跡 5 区	全体図 (S=1/600)	233
第 158 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-88 出土遺物 (2)	173	第 219 図	西刑部西原遺跡 5 区	SI-1 実測図	234
第 159 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-89 実測図	174	第 220 図	西刑部西原遺跡 5 区	SI-1 出土遺物	235
第 160 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-89 出土遺物	174	第 221 図	西刑部西原遺跡 5 区	SI-4 実測図	236
第 161 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-90 実測図	176	第 222 図	西刑部西原遺跡 5 区	SI-4 出土遺物 (1)	236
第 162 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-90 出土遺物	176	第 223 図	西刑部西原遺跡 5 区	SI-4 出土遺物 (2)	237
第 163 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-91 実測図	177	第 224 図	西刑部西原遺跡 5 区	SI-5 実測図	239
第 164 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-91 出土遺物 (1)	178	第 225 図	西刑部西原遺跡 5 区	SI-5 出土遺物 (1)	240
第 165 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-91 出土遺物 (2)	179	第 226 図	西刑部西原遺跡 5 区	SI-5 出土遺物 (2)	241
第 166 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-91 出土遺物 (3)	180	第 227 図	西刑部西原遺跡 5 区	SI-14 実測図 (1)	242
第 167 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-92 実測図	182	第 228 図	西刑部西原遺跡 5 区	SI-14 実測図 (2)	243
第 168 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-92 出土遺物	182	第 229 図	西刑部西原遺跡 5 区	SI-14 出土遺物 (1)	244
第 169 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-96 実測図	183	第 230 図	西刑部西原遺跡 5 区	SI-14 出土遺物 (2)	245
第 170 図	西刑部西原遺跡 3 区	SI-105 実測図	184	第 231 図	西刑部西原遺跡 5 区	SB-19 実測図	246
第 171 図	西刑部西原遺跡 3 区	SB-70 実測図・出土遺物	185	第 232 図	西刑部西原遺跡 5 区	SB-21 実測図	246
第 172 図	西刑部西原遺跡 3 区	SB-73 実測図・出土遺物	186	第 233 図	西刑部西原遺跡 5 区	SB-22 実測図	247
第 173 図	西刑部西原遺跡 3 区	SB-100 実測図 (1)	187	第 234 図	西刑部西原遺跡 5 区	SX-3 実測図	248
第 174 図	西刑部西原遺跡 3 区	SB-100 実測図 (2)	188	第 235 図	西刑部西原遺跡 5 区	SX-3 出土遺物	248
第 175 図	西刑部西原遺跡 3 区	SB-101 実測図・出土遺物	189	第 236 図	西刑部西原遺跡 5 区	土坑実測図 (1)	249
第 176 図	西刑部西原遺跡 3 区	SB-102 実測図	191	第 237 図	西刑部西原遺跡 5 区	土坑実測図 (2)	250
第 177 図	西刑部西原遺跡 3 区	SB-103 実測図	191	第 238 図	西刑部西原遺跡 5 区	SK-8 出土遺物	250
第 178 図	西刑部西原遺跡 3 区	SB-106 実測図・出土遺物	193	第 239 図	西刑部西原遺跡 5 区	ピット実測図	251
第 179 図	西刑部西原遺跡 3 区	SB-114 実測図	195				

第 240 図	西刑部西原遺跡 6 区	全体図 (S=1/600)	252	第 299 図	西刑部西原遺跡 9 区	SB-22 実測図・出土遺物	302
第 241 図	西刑部西原遺跡 6 区	SD-10・11 実測図	253	第 300 図	西刑部西原遺跡 9 区	SB-23 実測図・出土遺物	303
第 242 図	西刑部西原遺跡 6 区	土坑実測図	254	第 301 図	西刑部西原遺跡 9 区	SB-35 実測図	304
第 243 図	西刑部西原遺跡 6 区	P- 1 実測図	254	第 302 図	西刑部西原遺跡 9 区	SX-25 実測図・出土遺物	305
第 244 図	西刑部西原遺跡 7 区	全体図 (S=1/800)	255	第 303 図	西刑部西原遺跡 9 区	SX-29 実測図・出土遺物	306
第 245 図	西刑部西原遺跡 7 区	SI- 3 実測図	256	第 304 図	西刑部西原遺跡 9 区	SE- 6 実測図	307
第 246 図	西刑部西原遺跡 7 区	SI- 3 出土遺物	256	第 305 図	西刑部西原遺跡 9 区	SD- 2 実測図・出土遺物	307
第 247 図	西刑部西原遺跡 7 区	SI- 4 実測図	257	第 306 図	西刑部西原遺跡 9 区	SD- 3 実測図・出土遺物	308
第 248 図	西刑部西原遺跡 7 区	SI- 4 出土遺物	258	第 307 図	西刑部西原遺跡 9 区	SD-19・28・36 実測図	309
第 249 図	西刑部西原遺跡 7 区	SI- 5 実測図	260	第 308 図	西刑部西原遺跡 9 区	SD-120 実測図	310
第 250 図	西刑部西原遺跡 7 区	SI- 5 出土遺物 (1)	260	第 309 図	西刑部西原遺跡 9 区	SD-120 出土遺物	311
第 251 図	西刑部西原遺跡 7 区	SI- 5 出土遺物 (2)	261	第 310 図	西刑部西原遺跡 9 区	土坑実測図	312
第 252 図	西刑部西原遺跡 7 区	SI- 6 実測図	261	第 311 図	西刑部西原遺跡 9 区	ピット実測図 (1)	313
第 253 図	西刑部西原遺跡 7 区	SX- 7 実測図	262	第 312 図	西刑部西原遺跡 9 区	P-29 出土遺物	314
第 254 図	西刑部西原遺跡 7 区	SX- 7 出土遺物	262	第 313 図	西刑部西原遺跡 9 区	ピット実測図 (2)	314
第 255 図	西刑部西原遺跡 7 区	土坑実測図	263	第 314 図	西刑部西原遺跡 9 区	ピット実測図 (3)	315
第 256 図	西刑部西原遺跡 7 区	SF-13 出土遺物	263	第 315 図	西刑部西原遺跡 9 区	ピット実測図 (4)	316
第 257 図	西刑部西原遺跡 8 区	全体図 (1/300)	264	第 316 図	西刑部西原遺跡 10 区	全体図 (S=1/400)	319
第 258 図	西刑部西原遺跡 8 区	SK- 1 実測図	265	第 317 図	西刑部西原遺跡 10 区	SI- 1 実測図	320
第 259 図	西刑部西原遺跡 8 区	琴平塚 9 号墳実測図	266	第 318 図	西刑部西原遺跡 10 区	SI- 1 出土遺物	321
第 260 図	西刑部西原遺跡 8 区	SF-13 実測図 (1)		第 319 図	西刑部西原遺跡 10 区	SI- 2 実測図	322
	路面の掘り込み状況		267	第 320 図	西刑部西原遺跡 10 区	SI- 2 出土遺物	323
第 261 図	西刑部西原遺跡 8 区	SF-13 実測図 (2)		第 321 図	西刑部西原遺跡 10 区	SI-25 実測図	324
	路床の掘方の状況		268	第 322 図	西刑部西原遺跡 10 区	SB-19 実測図	324
第 262 図	西刑部西原遺跡 8 区	SF-13 出土遺物	269	第 323 図	西刑部西原遺跡 10 区	SB-21 実測図	325
第 263 図	西刑部西原遺跡 9 区	全体図 (S=1/600)	270	第 324 図	西刑部西原遺跡 10 区	SB-22 実測図	326
第 264 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI- 1 実測図	271	第 325 図	西刑部西原遺跡 10 区	SX- 6 実測図	326
第 265 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI- 1 出土遺物 (1)	272	第 326 図	西刑部西原遺跡 10 区	SX- 6 出土遺物	327
第 266 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI- 1 出土遺物 (2)	273	第 327 図	西刑部西原遺跡 10 区	SD- 7・15・20 実測図	328
第 267 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI- 1 出土遺物 (3)	273	第 328 図	西刑部西原遺跡 10 区	土坑実測図	329
第 268 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI- 7 実測図	275	第 329 図	西刑部西原遺跡 10 区	P-46 出土遺物	330
第 269 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI- 7 出土遺物	275	第 330 図	西刑部西原遺跡 10 区	ピット実測図 (1)	331
第 270 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI- 9 出土遺物	276	第 331 図	西刑部西原遺跡 10 区	ピット実測図 (2)	332
第 271 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI- 9 実測図	277	第 332 図	西刑部西原遺跡 10 区	ピット実測図 (3)	333
第 272 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-10 出土遺物	278	第 333 図	西刑部西原遺跡 11 区	全体図 (S=1/400)	335
第 273 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-10 実測図	279	第 334 図	西刑部西原遺跡 11 区	SI- 1 実測図	336
第 274 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-11 実測図	280	第 335 図	西刑部西原遺跡 11 区	SI- 1 出土遺物	337
第 275 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-11 出土遺物	280	第 336 図	西刑部西原遺跡 11 区	SD- 2 実測図・出土遺物	338
第 276 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-12 出土遺物	281	第 337 図	西刑部西原遺跡 11 区	SD- 3 実測図	338
第 277 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-12 実測図 (1)	282	第 338 図	西刑部西原遺跡 11 区	土坑実測図	339
第 278 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-12 実測図 (2)	283	第 339 図	西刑部西原遺跡 11 区	ピット実測図 (1)	340
第 279 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-13 出土遺物	284	第 340 図	西刑部西原遺跡 11 区	ピット実測図 (2)	341
第 280 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-13 実測図	285	第 341 図	西刑部西原遺跡 12 区	全体図 (S=1/400)	342
第 281 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-14 実測図	287	第 342 図	西刑部西原遺跡 12 区	SI- 1 実測図 (1)	343
第 282 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-14 出土遺物	288	第 343 図	西刑部西原遺跡 12 区	SI- 1 実測図 (2)	344
第 283 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-15 実測図 (1)	289	第 344 図	西刑部西原遺跡 12 区	SI- 1 出土遺物 (1)	344
第 284 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-15 実測図 (2)	290	第 345 図	西刑部西原遺跡 12 区	SI- 1 出土遺物 (2)	345
第 285 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-15 出土遺物	291	第 346 図	西刑部西原遺跡 12 区	SI- 1 出土遺物 (3)	346
第 286 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-16 実測図	292	第 347 図	西刑部西原遺跡 12 区	SI- 2 出土遺物	349
第 287 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-16 出土遺物	292	第 348 図	西刑部西原遺跡 12 区	SI- 2 実測図	350
第 288 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-17 出土遺物	293	第 349 図	西刑部西原遺跡 12 区	SI- 3 出土遺物	351
第 289 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-17 実測図	294	第 350 図	西刑部西原遺跡 12 区	SI- 3 実測図 (1)	352
第 290 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-21 実測図	295	第 351 図	西刑部西原遺跡 12 区	SI- 3 実測図 (2)	353
第 291 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-21 出土遺物	295	第 352 図	西刑部西原遺跡 12 区	SB- 6 実測図	354
第 292 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-26 実測図	296	第 353 図	西刑部西原遺跡 12 区	SB- 7 実測図	355
第 293 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-26 出土遺物	296	第 354 図	西刑部西原遺跡 12 区	SB- 9 実測図	356
第 294 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-27 実測図	297	第 355 図	西刑部西原遺跡 12 区	土坑実測図	356
第 295 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-27 出土遺物	298	第 356 図	西刑部西原遺跡 12 区	ピット実測図 (1)	357
第 296 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-49 実測図	299	第 357 図	西刑部西原遺跡 12 区	ピット実測図 (2)	358
第 297 図	西刑部西原遺跡 9 区	SI-49 出土遺物	300	第 358 図	西刑部西原遺跡 12 区	調査区一括出土遺物	359
第 298 図	西刑部西原遺跡 9 区	SB- 8 実測図	301	第 359 図	西刑部西原遺跡 13 区	全体図 (S=1/800)	360

第360図	西刑部西原遺跡 13区	SI-1 実測図(1)	361	第421図	西刑部西原遺跡 13区	SI-118 実測図	420
第361図	西刑部西原遺跡 13区	SI-1 実測図(2)	362	第422図	西刑部西原遺跡 13区	SI-118 出土遺物	420
第362図	西刑部西原遺跡 13区	SI-1 出土遺物	362	第423図	西刑部西原遺跡 13区	SB-17 実測図	421
第363図	西刑部西原遺跡 13区	SI-2 実測図(1)	364	第424図	西刑部西原遺跡 13区	SB-17 出土遺物	422
第364図	西刑部西原遺跡 13区	SI-2 実測図(2)	365	第425図	西刑部西原遺跡 13区	SB-18 実測図・出土遺物	423
第365図	西刑部西原遺跡 13区	SI-2 出土遺物	366	第426図	西刑部西原遺跡 13区	SB-44・66・67 実測図	425
第366図	西刑部西原遺跡 13区	SI-12 実測図	368	第427図	西刑部西原遺跡 13区	SB-82 実測図・出土遺物	426
第367図	西刑部西原遺跡 13区	SI-12 出土遺物	369	第428図	西刑部西原遺跡 13区	SX-16 実測図	427
第368図	西刑部西原遺跡 13区	SI-26 実測図	371	第429図	西刑部西原遺跡 13区	SX-20 実測図・出土遺物	428
第369図	西刑部西原遺跡 13区	SI-26 出土遺物	372	第430図	西刑部西原遺跡 13区	SX-21 実測図・出土遺物	430
第370図	西刑部西原遺跡 13区	SI-27 実測図(1)	373	第431図	西刑部西原遺跡 13区	SX-22 実測図・出土遺物	431
第371図	西刑部西原遺跡 13区	SI-27 実測図(2)	374	第432図	西刑部西原遺跡 13区	SX-34 出土遺物	431
第372図	西刑部西原遺跡 13区	SI-27 出土遺物(1)	375	第433図	西刑部西原遺跡 13区	SX-25・34 実測図	432
第373図	西刑部西原遺跡 13区	SI-27 出土遺物(2)	376	第434図	西刑部西原遺跡 13区	SX-47 実測図	432
第374図	西刑部西原遺跡 13区	SI-29 実測図	378	第435図	西刑部西原遺跡 13区	SX-98 出土遺物	433
第375図	西刑部西原遺跡 13区	SI-29 出土遺物	378	第436図	西刑部西原遺跡 13区	SX-98 実測図	434
第376図	西刑部西原遺跡 13区	SI-36 出土遺物	379	第437図	西刑部西原遺跡 13区	SX-94 実測図	435
第377図	西刑部西原遺跡 13区	SI-36 実測図	380	第438図	西刑部西原遺跡 13区	SX-28・35 実測図・出土遺物	436
第378図	西刑部西原遺跡 13区	SI-37 出土遺物	381	第439図	西刑部西原遺跡 13区	SE-11 実測図・出土遺物	436
第379図	西刑部西原遺跡 13区	SI-37 実測図(1)	382	第440図	西刑部西原遺跡 13区	SE-81 実測図・出土遺物	437
第380図	西刑部西原遺跡 13区	SI-37 実測図(2)	383	第441図	西刑部西原遺跡 13区	SE-93 実測図・出土遺物	438
第381図	西刑部西原遺跡 13区	SI-37 実測図(3)	384	第442図	西刑部西原遺跡 13区	SE-122 実測図	438
第382図	西刑部西原遺跡 13区	SI-38 実測図	385	第443図	西刑部西原遺跡 13区	SD-6 実測図・出土遺物	440
第383図	西刑部西原遺跡 13区	SI-38 出土遺物	386	第444図	西刑部西原遺跡 13区	SD-49・53・80 実測図	440
第384図	西刑部西原遺跡 13区	SI-39 実測図	387	第445図	西刑部西原遺跡 13区	SD-23 実測図・出土遺物	441
第385図	西刑部西原遺跡 13区	SI-39 出土遺物	388	第446図	西刑部西原遺跡 13区	SD-95 実測図	441
第386図	西刑部西原遺跡 13区	SI-40 実測図	389	第447図	西刑部西原遺跡 13区	SD-95 出土遺物	442
第387図	西刑部西原遺跡 13区	SI-40 出土遺物	390	第448図	西刑部西原遺跡 13区	SD-99 実測図	443
第388図	西刑部西原遺跡 13区	SI-52 出土遺物	391	第449図	西刑部西原遺跡 13区	SD-103 実測図・出土遺物	444
第389図	西刑部西原遺跡 13区	SI-52 実測図	392	第450図	西刑部西原遺跡 13区	SD-108 実測図	445
第390図	西刑部西原遺跡 13区	SI-56 出土遺物	393	第451図	西刑部西原遺跡 13区	SD-111 実測図・出土遺物	446
第391図	西刑部西原遺跡 13区	SI-56 実測図	394	第452図	西刑部西原遺跡 13区	SD-113 実測図・出土遺物	447
第392図	西刑部西原遺跡 13区	SI-57 実測図	395	第453図	西刑部西原遺跡 13区	SD-119・120 実測図	448
第393図	西刑部西原遺跡 13区	SI-57 出土遺物	396	第454図	西刑部西原遺跡 13区	土坑実測図(1)	450
第394図	西刑部西原遺跡 13区	SI-62 実測図・出土遺物	396	第455図	西刑部西原遺跡 13区	土坑実測図(2)	451
第395図	西刑部西原遺跡 13区	SI-89 実測図	397	第456図	西刑部西原遺跡 13区	土坑実測図(3)	452
第396図	西刑部西原遺跡 13区	SI-89 実出土遺物	398	第457図	西刑部西原遺跡 13区	土坑実測図(4)	453
第397図	西刑部西原遺跡 13区	SI-90 実測図	399	第458図	西刑部西原遺跡 13区	土坑出土遺物	454
第398図	西刑部西原遺跡 13区	SI-91 実測図・出土遺物	400	第459図	西刑部西原遺跡 13区	ピット実測図(1)	456
第399図	西刑部西原遺跡 13区	SI-92 実測図	401	第460図	西刑部西原遺跡 13区	ピット実測図(2)	457
第400図	西刑部西原遺跡 13区	SI-92 出土遺物	401	第461図	西刑部西原遺跡 13区	ピット実測図(3)	458
第401図	西刑部西原遺跡 13区	SI-96 出土遺物	402	第462図	西刑部西原遺跡 13区	ピット実測図(4)	459
第402図	西刑部西原遺跡 13区	SI-96 実測図	403	第463図	西刑部西原遺跡 13区	ピット出土遺物	460
第403図	西刑部西原遺跡 13区	SI-97 実測図	405	第464図	西刑部西原遺跡 13区	遺構外出土遺物	461
第404図	西刑部西原遺跡 13区	SI-97 出土遺物	406	第465図	西刑部西原遺跡 14区	全体図(S=1/400)	462
第405図	西刑部西原遺跡 13区	SI-100 実測図	407	第466図	西刑部西原遺跡 14区	SI-1 実測図・出土遺物	463
第406図	西刑部西原遺跡 13区	SI-100 出土遺物	408	第467図	西刑部西原遺跡 14区	SI-2 実測図・出土遺物	464
第407図	西刑部西原遺跡 13区	SI-101 実測図(1)	409	第468図	西刑部西原遺跡 14区	SI-8 実測図	465
第408図	西刑部西原遺跡 13区	SI-101 実測図(2)	410	第469図	西刑部西原遺跡 14区	SI-8 出土遺物	465
第409図	西刑部西原遺跡 13区	SI-101 出土遺物	410	第470図	西刑部西原遺跡 14区	SX-3 実測図・出土遺物	466
第410図	西刑部西原遺跡 13区	SI-102 実測図	412	第471図	西刑部西原遺跡 14区	SX-9 実測図・出土遺物	466
第411図	西刑部西原遺跡 13区	SI-102 出土遺物	412	第472図	西刑部西原遺跡 14区	SD-12 実測図	467
第412図	西刑部西原遺跡 13区	SI-105 実測図	413	第473図	西刑部西原遺跡 14区	SK 実測図・出土遺物	468
第413図	西刑部西原遺跡 13区	SI-105 出土遺物	414	第474図	西刑部西原遺跡 14区	ピット実測図	469
第414図	西刑部西原遺跡 13区	SI-110 実測図	415	第475図	西刑部西原遺跡	試掘トレンチ出土遺物	470
第415図	西刑部西原遺跡 13区	SI-110 出土遺物	415	第476図	西刑部西原遺跡	遺構変遷図(1)	473
第416図	西刑部西原遺跡 13区	SI-115 実測図	416	第477図	西刑部西原遺跡	遺構変遷図(2)	474
第417図	西刑部西原遺跡 13区	SI-115 出土遺物	417	第478図	西刑部西原遺跡	遺構変遷図(3)	475
第418図	西刑部西原遺跡 13区	SI-116 実測図・出土遺物	417	第479図	西刑部西原遺跡 3区	SE-23 出土の木材	489
第419図	西刑部西原遺跡 13区	SI-117 実測図	418	第480図	西刑部西原遺跡 3区	SE-75 出土の種実遺体	490
第420図	西刑部西原遺跡 13区	SI-117 出土遺物	419				

表目次

第 1 表	東谷・中島地区遺跡群一覧表.....	5
第 2 表	東谷・中島地区周辺の遺跡.....	15
第 3 表	3 区 SI- 1 出土遺物観察表.....	28
第 4 表	3 区 SI- 2 出土遺物観察表.....	35
第 5 表	3 区 SI- 3 出土遺物観察表.....	41
第 6 表	3 区 SI- 4 出土遺物観察表.....	44
第 7 表	3 区 SI- 5 出土遺物観察表.....	48
第 8 表	3 区 SI- 6 出土遺物観察表.....	52
第 9 表	3 区 SI- 7 出土遺物観察表.....	54
第 10 表	3 区 SI- 8 出土遺物観察表.....	56
第 11 表	3 区 SI-10 出土遺物観察表.....	60
第 12 表	3 区 SI-11 出土遺物観察表.....	66
第 13 表	3 区 SI-12 出土遺物観察表.....	68
第 14 表	3 区 SI-13 出土遺物観察表.....	72
第 15 表	3 区 SI-14 出土遺物観察表.....	76
第 16 表	3 区 SI-15 出土遺物観察表.....	76
第 17 表	3 区 SI-16 出土遺物観察表.....	78
第 18 表	3 区 SI-18 出土遺物観察表.....	81
第 19 表	3 区 SI-19 出土遺物観察表.....	81
第 20 表	3 区 SI-22 出土遺物観察表.....	83
第 21 表	3 区 SI-24 出土遺物観察表.....	85
第 22 表	3 区 SI-26 出土遺物観察表.....	86
第 23 表	3 区 SI-30 出土遺物観察表.....	88
第 24 表	3 区 SI-31 出土遺物観察表.....	90
第 25 表	3 区 SI-32 出土遺物観察表.....	91
第 26 表	3 区 SI-33 出土遺物観察表.....	93
第 27 表	3 区 SI-34 出土遺物観察表.....	96
第 28 表	3 区 SI-35 出土遺物観察表.....	99
第 29 表	3 区 SI-36 出土遺物観察表.....	103
第 30 表	3 区 SI-38 出土遺物観察表.....	107
第 31 表	3 区 SI-39 出土遺物観察表.....	109
第 32 表	3 区 SI-40 出土遺物観察表.....	111
第 33 表	3 区 SI-41 出土遺物観察表.....	112
第 34 表	3 区 SI-42 出土遺物観察表.....	115
第 35 表	3 区 SI-43 出土遺物観察表.....	117
第 36 表	3 区 SI-46 出土遺物観察表.....	118
第 37 表	3 区 SI-47 出土遺物観察表.....	119
第 38 表	3 区 SI-50 出土遺物観察表.....	122
第 39 表	3 区 SI-51 出土遺物観察表.....	124
第 40 表	3 区 SI-52 出土遺物観察表.....	125
第 41 表	3 区 SI-53 出土遺物観察表.....	128
第 42 表	3 区 SI-54 出土遺物観察表.....	133
第 43 表	3 区 SI-56 出土遺物観察表.....	135
第 44 表	3 区 SI-58 出土遺物観察表.....	139
第 45 表	3 区 SI-59 出土遺物観察表.....	141
第 46 表	3 区 SI-60 出土遺物観察表.....	142
第 47 表	3 区 SI-61 出土遺物観察表.....	143
第 48 表	3 区 SI-71 出土遺物観察表.....	146
第 49 表	3 区 SI-74 出土遺物観察表.....	149
第 50 表	3 区 SI-77 出土遺物観察表.....	151
第 51 表	3 区 SI-78 出土遺物観察表.....	153
第 52 表	3 区 SI-81 出土遺物観察表.....	155
第 53 表	3 区 SI-82 出土遺物観察表.....	156
第 54 表	3 区 SI-83 出土遺物観察表.....	158
第 55 表	3 区 SI-84 出土遺物観察表.....	160
第 56 表	3 区 SI-85 出土遺物観察表.....	161
第 57 表	3 区 SI-86 出土遺物観察表.....	166
第 58 表	3 区 SI-87 出土遺物観察表.....	171
第 59 表	3 区 SI-88 出土遺物観察表.....	173
第 60 表	3 区 SI-89 出土遺物観察表.....	175
第 61 表	3 区 SI-90 出土遺物観察表.....	175
第 62 表	3 区 SI-91 出土遺物観察表.....	178
第 63 表	3 区 SI-92 出土遺物観察表.....	181
第 64 表	3 区 SB-70 出土遺物観察表.....	185
第 65 表	3 区 SB-73 出土遺物観察表.....	186
第 66 表	3 区 SB-101 出土遺物観察表.....	190
第 67 表	3 区 SB-106 出土遺物観察表.....	192
第 68 表	3 区 SX-17 出土遺物観察表.....	196
第 69 表	3 区 SX-28 出土遺物観察表.....	197
第 70 表	3 区 SX-29 出土遺物観察表.....	197
第 71 表	3 区 SX-21 出土遺物観察表.....	201
第 72 表	3 区 SE-23 出土遺物観察表.....	206
第 73 表	3 区 SE-37 出土遺物観察表.....	208
第 74 表	3 区 SE-75 出土遺物観察表.....	210
第 75 表	3 区 SE-76 出土遺物観察表.....	211
第 76 表	3 区 SE-95 出土遺物観察表.....	212
第 77 表	3 区 SE-107 出土遺物観察表.....	212
第 78 表	3 区 SD-57 出土遺物観察表.....	214
第 79 表	3 区 SK-45 出土遺物観察表.....	216
第 80 表	3 区 土坑計測表.....	217
第 81 表	3 区 SK-62 出土遺物観察表.....	218
第 82 表	3 区 SK-63 出土遺物観察表.....	218
第 83 表	3 区 SK-64 出土遺物観察表.....	218
第 84 表	3 区 SK-72 出土遺物観察表.....	218
第 85 表	3 区 SK-99 出土遺物観察表.....	218
第 86 表	3 区 SK-108 出土遺物観察表.....	218
第 87 表	3 区 SK-109 出土遺物観察表.....	218
第 88 表	3 区 SK-110 出土遺物観察表.....	220
第 89 表	3 区 SK-116 出土遺物観察表.....	220
第 90 表	3 区 ピット計測表.....	222
第 91 表	3 区 遺構外出土遺物観察表.....	222
第 92 表	4 区 SI- 1 出土遺物観察表.....	227
第 93 表	4 区 SI- 2 出土遺物観察表.....	228
第 94 表	4 区 SI- 3 出土遺物観察表.....	230
第 95 表	4 区 SD- 7 出土遺物観察表.....	230
第 96 表	4 区 土坑計測表.....	231
第 97 表	4 区 SK- 4 出土遺物観察表.....	231
第 98 表	4 区 遺構外出土遺物観察表.....	231
第 99 表	5 区 SI- 1 出土遺物観察表.....	235
第 100 表	5 区 SI- 4 出土遺物観察表.....	237
第 101 表	5 区 SI- 5 出土遺物観察表.....	238
第 102 表	5 区 SI-14 出土遺物観察表.....	241
第 103 表	5 区 SX- 3 出土遺物観察表.....	248
第 104 表	5 区 土坑計測表.....	250
第 105 表	5 区 SK- 8 出土遺物観察表.....	250
第 106 表	5 区 ピット計測表.....	251
第 107 表	6 区 土坑計測表.....	253
第 108 表	6 区 ピット計測表.....	254
第 109 表	7 区 SI- 3 出土遺物観察表.....	256
第 110 表	7 区 SI- 4 出土遺物観察表.....	259
第 111 表	7 区 SI- 5 出土遺物観察表.....	259
第 112 表	7 区 SX- 7 出土遺物観察表.....	262

第113表	7区	土坑計測表	263	第174表	13区	SI-91 出土遺物観察表	400
第114表	7区	SF-13 出土遺物観察表	263	第175表	13区	SI-92 出土遺物観察表	402
第115表	8区	SK-1 計測表	265	第176表	13区	SI-96 出土遺物観察表	404
第116表	8区	SF-13 出土遺物観察表	269	第177表	13区	SI-97 出土遺物観察表	406
第117表	9区	SI-1 出土遺物観察表	274	第178表	13区	SI-100 出土遺物観察表	408
第118表	9区	SI-7 出土遺物観察表	276	第179表	13区	SI-101 出土遺物観察表	411
第119表	9区	SI-9 出土遺物観察表	276	第180表	13区	SI-102 出土遺物観察表	412
第120表	9区	SI-10 出土遺物観察表	278	第181表	13区	SI-105 出土遺物観察表	414
第121表	9区	SI-11 出土遺物観察表	280	第182表	13区	SI-110 出土遺物観察表	416
第122表	9区	SI-12 出土遺物観察表	281	第183表	13区	SI-115 出土遺物観察表	417
第123表	9区	SI-13 出土遺物観察表	286	第184表	13区	SI-116 出土遺物観察表	418
第124表	9区	SI-14 出土遺物観察表	286	第185表	13区	SI-117 出土遺物観察表	419
第125表	9区	SI-15 出土遺物観察表	290	第186表	13区	SI-118 出土遺物観察表	420
第126表	9区	SI-16 出土遺物観察表	293	第187表	13区	SB-17 出土遺物観察表	422
第127表	9区	SI-17 出土遺物観察表	294	第188表	13区	SB-18 出土遺物観察表	424
第128表	9区	SI-21 出土遺物観察表	295	第189表	13区	SB-82 出土遺物観察表	427
第129表	9区	SI-26 出土遺物観察表	296	第190表	13区	SX-20 出土遺物観察表	429
第130表	9区	SI-27 出土遺物観察表	298	第191表	13区	SX-21 出土遺物観察表	430
第131表	9区	SI-49 出土遺物観察表	298	第192表	13区	SX-22 出土遺物観察表	431
第132表	9区	SB-22 出土遺物観察表	303	第193表	13区	SX-34 出土遺物観察表	431
第133表	9区	SB-23 出土遺物観察表	304	第194表	13区	SX-98 出土遺物観察表	433
第134表	9区	SX-25 出土遺物観察表	305	第195表	13区	SX-28 出土遺物観察表	435
第135表	9区	SX-29 出土遺物観察表	306	第196表	13区	SX-35 出土遺物観察表	435
第136表	9区	SD-2 出土遺物観察表	308	第197表	13区	SE-11 出土遺物観察表	437
第137表	9区	SD-3 出土遺物観察表	309	第198表	13区	SE-81 出土遺物観察表	437
第138表	9区	SD-120 出土遺物観察表	311	第199表	13区	SE-93 出土遺物観察表	437
第139表	9区	土坑計測表	311	第200表	13区	SD-6 出土遺物観察表	442
第140表	9区	P-29 出土遺物観察表	315	第201表	13区	SD-23 出土遺物観察表	442
第141表	9区	ピット計測表	317	第202表	13区	SD-95 出土遺物観察表	442
第142表	10区	SI-1 出土遺物観察表	321	第203表	13区	SD-103 出土遺物観察表	443
第143表	10区	SI-2 出土遺物観察表	323	第204表	13区	SD-111 出土遺物観察表	445
第144表	10区	SX-6 出土遺物観察表	327	第205表	13区	SD-113 出土遺物観察表	447
第145表	10区	土坑計測表	330	第206表	13区	土坑計測表	449
第146表	10区	P-46 出土遺物観察表	333	第207表	13区	SK-9 出土遺物観察表	452
第147表	10区	ピット計測表	333	第208表	13区	SK-15 出土遺物観察表	452
第148表	11区	SI-1 出土遺物観察表	337	第209表	13区	SK-33 出土遺物観察表	454
第149表	11区	SD-2 出土遺物観察表	338	第210表	13区	SK-42 出土遺物観察表	454
第150表	11区	土坑計測表	339	第211表	13区	SK-46 出土遺物観察表	454
第151表	11区	ピット計測表	339	第212表	13区	SK-71 出土遺物観察表	454
第152表	12区	SI-1 出土遺物観察表	347	第213表	13区	SK-85 出土遺物観察表	454
第153表	12区	SI-2 出土遺物観察表	351	第214表	13区	ピット計測表	455
第154表	12区	SI-3 出土遺物観察表	353	第215表	13区	P-14 出土遺物観察表	460
第155表	12区	土坑計測表	356	第216表	13区	P-56 出土遺物観察表	460
第156表	12区	ピット計測表	358	第217表	13区	P-93 出土遺物観察表	460
第157表	12区	調査区一括出土遺物観察表	359	第218表	13区	遺構外出土遺物観察表	461
第158表	13区	SI-1 出土遺物観察表	363	第219表	14区	SI-1 出土遺物観察表	463
第159表	13区	SI-2 出土遺物観察表	367	第220表	14区	SI-2 出土遺物観察表	463
第160表	13区	SI-12 出土遺物観察表	369	第221表	14区	SI-8 出土遺物観察表	464
第161表	13区	SI-26 出土遺物観察表	370	第222表	14区	SX-3 出土遺物観察表	466
第162表	13区	SI-27 出土遺物観察表	375	第223表	14区	SX-9 出土遺物観察表	467
第163表	13区	SI-29 出土遺物観察表	379	第224表	14区	土坑計測表	468
第164表	13区	SI-36 出土遺物観察表	381	第225表	14区	SK-4 出土遺物観察表	468
第165表	13区	SI-37 出土遺物観察表	383	第226表	14区	SK-13 出土遺物観察表	468
第166表	13区	SI-38 出土遺物観察表	386	第227表	14区	ピット計測表	469
第167表	13区	SI-39 出土遺物観察表	388	第228表		西刑部西原遺跡 試掘トレンチ出土遺物	470
第168表	13区	SI-40 出土遺物観察表	390	第229表		西刑部西原遺跡 各調査区遺構時期変遷表	472
第169表	13区	SI-52 出土遺物観察表	392	第230表		西刑部西原遺跡3区の樹種同定結果	479
第170表	13区	SI-56 出土遺物観察表	393	第231表		西刑部西原遺跡3区の種実遺体同定結果	480
第171表	13区	SI-57 出土遺物観察表	396	第232表		種実同定結果	485
第172表	13区	SI-62 出土遺物観察表	396	第233表		検出分類群一覧	488
第173表	13区	SI-89 出土遺物観察表	398				

図版目次

巻頭カラー図版

- 西刑部西原遺跡 3区全景（北上空から）
- 西刑部遺跡 13区北部全景（北上空から）

図版一 西刑部西原遺跡全景・3区航空写真

- 西刑部西原遺跡 全景（東上空から）
- 3区航空写真（南西上空から）

図版二 3区遺構

- 3区 SI-1 掘方（南から）
- 3区 SI-1 カマド遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-2 遺物出土状況（東から）
- 3区 SI-2 炭化材出土状況（南から）
- 3区 SI-2 カマド掘方（南から）
- 3区 SI-2 紡錘車出土状況（東から）
- 3区 SI-2 坏・紡錘車出土状況（南から）
- 3区 SI-2 鎌出土状況（北から）

図版三 3区遺構

- 3区 SI-3 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-3 完掘（南から）
- 3区 SI-3 掘方（南から）
- 3区 SI-3 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-4 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-4 完掘（南から）
- 3区 SI-4 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-5 遺物出土状況（南から）

図版四 3区遺構

- 3区 SI-5 完掘（南から）
- 3区 SI-5 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-5 紡錘車出土状況（東から）
- 3区 SI-6 遺物出土状況（西から）
- 3区 SI-6 完掘（南から）
- 3区 SI-7 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-7 完掘（南から）
- 3区 SI-7 カマド完掘（南から）

図版五 3区遺構

- 3区 SI-7 カマド袖断ち割り状況（南から）
- 3区 SI-7 高坏出土状況（東から）
- 3区 SI-8 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-8 須恵器甕出土状況（南から）
- 3区 SI-10 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-10 完掘（南から）
- 3区 SI-10 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-11 遺物出土状況（南から）

図版六 3区遺構

- 3区 SI-11 完掘（南から）
- 3区 SI-11 カマド遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-11 鉄鏃出土状況（南から）
- 3区 SI-12 完掘（南から）
- 3区 SI-12 カマド袖断ち割り状況（南から）
- 3区 SI-13 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-13 カマド遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-13 掘方（南から）

図版七 3区遺構

- 3区 SI-14 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-14 完掘（南から）
- 3区 SI-14 カマド遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-14 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-15 完掘（西から）
- 3区 SI-15 カマド完掘（西から）
- 3区 SI-15 掘方（西から）
- 3区 SI-16 完掘（南から）

図版八 3区遺構

- 3区 SI-16 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-18 遺物出土状況（西から）
- 3区 SI-18・19 掘方（南から）
- 3区 SI-18 カマド完掘（西から）
- 3区 SI-18 P1 遺物出土状況（西から）
- 3区 SI-18 完掘（西から）
- 3区 SI-18 セクション（南から）
- 3区 SI-22 遺物出土状況（南から）

図版九 3区遺構

- 3区 SI-22 完掘（南から）
- 3区 SI-22 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-22 掘方（南から）
- 3区 SI-22 鉄製品出土状況（東から）
- 3区 SI-22 刀装具（足金物）出土状況（東から）
- 3区 SI-24 完掘（南西から）
- 3区 SI-26 完掘（南東から）
- 3区 SI-26 カマド完掘（南から）

図版一〇 3区遺構

- 3区 SI-30 完掘（南から）
- 3区 SI-30 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-31 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-31 完掘（南から）
- 3区 SI-31 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-32 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-32 完掘（南から）
- 3区 SI-32 カマド完掘（南から）

図版一一 3区遺構

- 3区 SI-33 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-33 完掘（南から）
- 3区 SI-34 完掘（南から）
- 3区 SI-34 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-35 完掘（南から）
- 3区 SI-36 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-36 完掘（南から）
- 3区 SI-36 カマド完掘（南から）

図版一二 3区遺構

- 3区 SI-36 坏出土状況（西から）
- 3区 SI-36 甕・甗出土状況（東から）
- 3区 SI-38 完掘（東から）
- 3区 SI-38 掘方（東から）
- 3区 SI-38 轡の引手出土状況（西から）
- 3区 SI-39 完掘（南から）
- 3区 SI-40 完掘（南から）
- 3区 SI-40 カマド完掘（南から）

図版一三 3区遺構

- 3区 SI-40 掘方（南から）
- 3区 SI-41 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-41 掘方（西から）
- 3区 SI-42 遺物出土状況（西から）
- 3区 SI-43 遺物出土状況（西から）
- 3区 SI-46 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-46 カマドセクション（南から）
- 3区 SI-47 遺物出土状況（北西から）

図版一四 3区遺構

- 3区 SI-47 完掘（南から）
- 3区 SI-47 カマド完掘（西から）
- 3区 SI-50 遺物出土状況（東から）
- 3区 SI-50 完掘（南から）
- 3区 SI-50 カマド完掘（南東から）
- 3区 SI-51 完掘（西から）
- 3区 SI-52・58 完掘（北から）
- 3区 SI-52 カマド完掘（南から）

図版一五 3区遺構

- 3区 SI-52 掘方（南から）
- 3区 SI-52 紡錘車出土状況（西から）
- 3区 SI-53 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-53 完掘（南から）
- 3区 SI-53 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-53 掘方（南から）
- 3区 SI-53 間仕切溝セクション（西から）
- 3区 SI-53・54 遺物出土状況（南西から）

図版一六 3区遺構

- 3区 SI-54 完掘（南西から）
- 3区 SI-54 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-54 カマド前面遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-54 掘方（南から）
- 3区 SI-54 紡錘車出土状況（北西から）
- 3区 SI-56 掘方（南から）
- 3区 SI-58 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-58 完掘（北西から）

図版一七 3区遺構

- 3区 SI-58 耳環出土状況（南から）
- 3区 SI-59 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-60 完掘（南東から）
- 3区 SI-60 遺物出土状況（東から）
- 3区 SI-61 北東部遺物出土状況（北から）
- 3区 SI-61 北東部完掘（北から）
- 3区 SI-71 完掘（南から）
- 3区 SI-71 掘方（南から）

図版一八 3区遺構

- 3区 SI-74 完掘（南から）
- 3区 SI-74 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-74 掘方（南から）
- 3区 SI-77 完掘（南西から）
- 3区 SI-77 カマド完掘（南西から）
- 3区 SI-77 掘方（南から）
- 3区 SI-78 完掘（南から）
- 3区 SI-78 カマド完掘（西から）

図版一九 3区遺構

- 3区 SI-81 完掘（南から）
- 3区 SI-81 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-82 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-82 完掘（南から）
- 3区 SI-82 P3セクション（北から）
- 3区 SI-82 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-83 完掘（西から）
- 3区 SI-83 カマド完掘（西から）

図版二〇 3区遺構

- 3区 SI-83 掘方（西から）
- 3区 SI-84 遺物出土状況（北から）
- 3区 SI-84 完掘（南から）
- 3区 SI-84 掘方（南から）
- 3区 SI-85 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-85 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-85 掘方（南から）
- 3区 SI-86・87・88 遺物出土状況（西から）

図版二一 3区遺構

- 3区 SI-86・87・88 完掘（南から）
- 3区 SI-87 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-87 貯蔵穴遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-87 掘方（南から）
- 3区 SI-88 完掘（南から）
- 3区 SI-88 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-88 入口ピット遺物出土状況（北西から）
- 3区 SI-89 完掘（南から）

図版二二 3区遺構

- 3区 SI-89 カマド遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-90 南西部遺物出土状況（西から）
- 3区 SI-90 完掘（南から）
- 3区 SI-90 カマド完掘（南から）
- 3区 SI-90 刀子出土状況（南から）
- 3区 SI-91 遺物出土状況（西から）
- 3区 SI-91 完掘（南から）
- 3区 SI-91 カマド完掘（南から）

図版二三 3区遺構

- 3区 SI-92 遺物出土状況（南から）
- 3区 SI-92 完掘（南から）
- 3区 SI-92 カマド完掘（南から）
- 3区 SB-70 完掘（南から）
- 3区 SB-70 P6セクション（東から）
- 3区 SB-73 完掘（北から）
- 3区 SB-73 P2上面遺物出土状況（南から）
- 3区 SB-100 完掘（西から）

図版二四 3区遺構

- 3区 SB-100 P11セクション（南から）
- 3区 SB-101 完掘（西から）
- 3区 SB-101 P8セクション（南から）
- 3区 SB-101 P12セクション（南から）
- 3区 SB-102 完掘（東から）
- 3区 SB-103 完掘（西から）
- 3区 SB-103 P2セクション（南から）
- 3区 SB-114 完掘（南から）

図版二五 3区遺構

- 3区 SB-106 P7 セクション (西から)
- 3区 SX-17・SI-90 セクション (南から)
- 3区 SX-17 セクション (南から)
- 3区 SX-29 確認状況 (南から)
- 3区 SX-29 B-B' セクション (南東から)
- 3区 SX-28 セクション (南から)
- 3区 SX-21 セクション (北から)
- 3区 SX-21 遺物出土状況 (北西から)

図版二六 3区遺構

- 3区 SE-23 上面セクション (南から)
- 3区 SE-23 底面遺物出土状況 (東から)
- 3区 SE-27 セクション (西から)
- 3区 SE-27 完掘 (西から)
- 3区 SE-27 底面アップ (西から)
- 3区 SE-37 上部セクション (南から)
- 3区 SE-37 底面セクション (南から)
- 3区 SE-37 完掘 (南東から)

図版二七 3区遺構

- 3区 SE-75 中央部セクション (西から)
- 3区 SE-75 底面付近のセクション (西から)
- 3区 SE-75 遺物出土状況 (西から)
- 3区 SE-76 完掘 (南から)
- 3区 SE-95 上面セクション (南西から)
- 3区 SE-95 完掘 (南から)
- 3区 SE-107 セクション (南から)
- 3区 SE-107 完掘 (南から)

図版二八 3区遺構

- 3区 SD-57 完掘 (南から)
- 3区 SD-57 D-D' セクション (東から)
- 3区 SK-25 完掘 (南から)
- 3区 SK-45 遺物出土状況 (西から)
- 3区 SK-45 完掘 (南から)
- 3区 SK-62 遺物出土状況 (南から)
- 3区 SK-63 完掘 (南から)
- 3区 SK-94 完掘 (南から)

図版二九 4区遺構

- 4区 SI- 1 遺物出土状況 (南から)
- 4区 SI- 2 完掘 (南から)
- 4区 SI- 2 カマド完掘 (南から)
- 4区 SI- 3 遺物出土状況 (東から)
- 4区 SI- 3 完掘 (北東から)
- 4区 SD- 7 完掘 (南東から)
- 4区遺構外 和鏡出土地点 (南から)
- 4区遺構外 和鏡出土状況 (南から)

図版三〇 5区・6区航空写真

- 5区航空写真 (北東上空から)
- 6区航空写真 (東上空から)

図版三一 5区遺構

- 5区 SI- 1 北西部遺物出土状況 (北から)
- 5区 SI- 1 完掘 (南から)
- 5区 SI- 1 カマド完掘 (南から)
- 5区 SI- 4 遺物出土状況 (南から)
- 5区 SI- 4 完掘 (南から)
- 5区 SI- 4 カマド遺物出土状況 (南から)

- 5区 SI- 4 須恵器甕出土状況 (南東から)
- 5区 SI- 5 掘方 (南から)

図版三二 5区遺構

- 5区 SI- 5 遺物出土状況 (南から)
- 5区 SI- 5 カマド遺物出土状況 (南から)
- 5区 SI-14 北部遺物出土状況 (西から)
- 5区 SI-14 完掘 (南から)
- 5区 SI-14 掘方 (南から)
- 5区 SI-14 カマド遺物出土状況 (南から)
- 5区 SB-19 完掘 (東から)
- 5区 SB-21 周辺 (西から)

図版三三 5区遺構

- 5区 SB-22 完掘 (東から)
- 5区 SB-22 P7 セクション (南から)
- 5区 SB-22 P8 セクション (南から)
- 5区 SX- 3 完掘 (南から)
- 5区 SX- 3 北西コーナー (北から)
- 5区 SX- 3 周溝内西側遺物出土状況 (北東から)
- 5区 SK-16 完掘 (南から)
- 5区 SK-25 完掘 (南から)

図版三四 6区遺構

- 6区 SD-10 西側 (東から)
- 6区 SD-11 全景 (北西から)
- 6区 SK- 2 完掘 (南から)
- 6区 SK- 3 完掘 (南から)
- 6区 SK- 5 完掘 (南から)
- 6区 SK- 6 遺物出土状況 (南から)
- 6区 SK- 7 完掘 (南から)
- 6区 SK- 8 完掘 (南から)

図版三五 7区西部・6区・7区東部航空写真

- 7区西部航空写真 (南西上空)
- 6区・7区東部航空写真 (南西上空)

図版三六 7区遺構

- 7区 SI- 3 完掘 (南から)
- 7区 SI- 3 掘方 (西から)
- 7区 SI- 4 遺物出土状況全景 (南から)
- 7区 SI- 4 貼床面柱穴 (南から)
- 7区 SI- 4 カマド遺物出土状況 (南から)
- 7区 SI- 5 遺物出土状況 (南から)
- 7区 SI- 5 完掘 (南から)
- 7区 SI- 5 カマド完掘 (南から)

図版三七 7区遺構

- 7区 SI- 6 完掘 (南から)
- 7区 SI- 6 掘方完掘 (南から)
- 7区 SX- 7 南側遺物出土状況 (南から)
- 7区 SX- 7 有段下部セクション (南から)
- 7区 SX- 7 有段下部セクション (南から)
- 7区 SX- 7 下部横穴アップ (東から)
- 7区 SX- 7 焼土範囲状況 (南から)
- 7区 SX- 7 完掘全景 (南上から)

図版三八 8区遺構

- 8区全景 (北から)
- 8区琴平塚9号墳周溝 ブリッジ状部分 (北から)
- 8区琴平塚9号墳周溝 ブリッジ状部分完掘 (南から)

- 8区琴平塚9号墳周溝 遺物出土状況（南から）
- 8区琴平塚9号墳周溝 東部完掘（南東から）
- 8区琴平塚9号墳周溝 東部完掘（北西から）
- 8区琴平塚9号墳周溝 北部完掘（東から）
- 8区琴平塚9号墳周溝 北部完掘（西から）

図版三九 8区遺構

- 8区SK-1 南北セクション（東から）
- 8区SK-1 北部南北セクション（東から）
- 8区SK-1 完掘（南から）
- 8区SK-1 掘方セクションA-A・B-B'（南から）
- 8区SK-1 掘方完掘（南から）
- 8区SF-13 セクション（南から）
- 8区SF-13（道路状遺構）路床の掘方（北から）
- 8区SF-13（道路状遺構）作業風景（北から）

図版四〇 9区北部・南部航空写真

- 9区北部航空写真（北東上空から）
- 9区南部航空写真（南上空から）

図版四一 9区遺構

- 9区SI-1 遺物出土状況（南から）
- 9区SI-1 カマド完掘（南から）
- 9区SI-1 刀子・糞出土状況（南から）
- 9区SI-1 紡錘車出土状況（西から）
- 9区SI-7 完掘（北から）
- 9区SI-7 炬完掘（北から）
- 9区SI-9 完掘（南から）
- 9区SI-9 カマド遺物出土状況（南から）

図版四二 9区遺構

- 9区SI-10 完掘（南から）
- 9区SI-10 カマド完掘（南から）
- 9区SI-10 カマド遺物出土状況（南から）
- 9区SI-11 完掘（南から）
- 9区SI-11 カマド完掘（南から）
- 9区SI-12 張出ピット（P6）遺物出土状況（南から）
- 9区SI-12 北部完掘（南から）
- 9区SI-12 カマド完掘（南から）

図版四三 9区遺構

- 9区SI-12 張出ピット（P6）完掘（南から）
- 9区SI-13・14 遺物出土状況（南から）
- 9区SI-13 カマド完掘（南から）
- 9区SI-14 遺物出土状況（南から）
- 9区SI-14 カマド遺物出土状況（南から）
- 9区SI-15 遺物出土状況（南から）
- 9区SI-15 完掘（南から）
- 9区SI-15 カマド遺物出土状況（南から）

図版四四 9区遺構

- 9区SI-16 遺物出土状況（南から）
- 9区SI-16 完掘（南から）
- 9区SI-17 遺物出土状況（南から）
- 9区SI-17 カマド完掘（南から）
- 9区SI-17 完掘（南から）
- 9区SI-21 完掘（南から）
- 9区SI-21 遺物出土状況（南から）
- 9区SI-26 完掘（南から）

図版四五 9区遺構

- 9区SI-26・SD-3 遺物出土状況（南から）
- 9区SI-27 完掘（西から）
- 9区SI-27 カマド遺物出土状況（西から）
- 9区SI-49 遺物出土状況（南から）
- 9区SI-49 カマド完掘（南から）
- 9区SB-8 完掘（南から）
- 9区SB-22 完掘（南から）
- 9区SB-22 P2、P-31 セクション（西から）

図版四六 9区遺構

- 9区SB-23・SI-9 完掘（南から）
- 9区SB-23 P1 セクション（北東から）
- 9区SB-35 完掘（東から）
- 9区SX-25 完掘（東から）
- 9区SX-25 完掘（東から）
- 9区SX-29 セクション（東から）
- 9区SX-29 底部（東から）
- 9区SE-6 完掘（南から）

図版四七 9区遺構

- 9区SE-6 断ち割り（西から）
- 9区SD-2 完掘（北東から）
- 9区SD-3 完掘（南から）
- 9区SD-3 北部完掘（南から）
- 9区SD-28 完掘（北西から）
- 9区SD-36 完掘（東から）
- 9区SD-120 完掘（北東から）
- 9区SK-4 完掘（南から）

図版四八 9区遺構

- 9区SK-5 完掘（南から）
- 9区SK-20 セクション（南から）
- 9区SK-20 完掘（南から）
- 9区SK-24 セクション（西から）
- 9区SK-30 完掘（東から）
- 9区SK-31・32 完掘（東から）
- 9区SK-33 完掘（南から）
- 9区SK-34 完掘（東から）

図版四九 10区・11区航空写真

- 10区航空写真（西上空から）
- 11区航空写真（北西上空から）

図版五〇 10区遺構

- 10区SI-1 遺物出土状況（東から）
- 10区SI-1 完掘（東から）
- 10区SI-1 カマド遺物出土状況（南から）
- 10区SI-2 遺物出土状況（南から）
- 10区SI-2 完掘（南から）
- 10区SI-2 カマド完掘（南から）
- 10区SB-19・SI-2 遺物出土状況（東から）
- 10区SB-19 P6 セクション（東から）

図版五一 10区遺構

- 10区SB-21 完掘（南から）
- 10区SB-21-P4、SB-22-P6 完掘（東から）
- 10区SB-22 完掘（南から）
- 10区SB-22 P8 完掘（西から）
- 10区SX-6 完掘（南から）
- 10区SX-6 P1 完掘（南東から）

- 10区SD-7 完掘(西から)
- 10区SD-15 完掘(東から)

図版五二 10区遺構

- 10区SD-20 完掘(北西から)
- 10区SK-3 完掘(南から)
- 10区SK-4 完掘(南から)
- 10区SK-5 完掘(南西から)
- 10区SK-9 完掘(南から)
- 10区SK-12 完掘(西から)
- 10区SK-13 完掘(西から)
- 10区SK-17 完掘(南から)

図版五三 11区遺構

- 11区SI-1 完掘(西から)
- 11区SI-1 カマド完掘(南から)
- 11区SD-2・SK-4 完掘(南から)
- 11区SD-2 須恵器出土状況(東から)
- 11区SD-2 セクション(南から)
- 11区SD-3 完掘(東から)
- 11区SK-5 完掘(南西から)
- 11区SK-6 完掘(西から)

図版五四 12区遺構

- 12区SI-1 遺物出土状況(西から)
- 12区SI-1 完掘(南から)
- 12区SI-1 東カマド遺物出土状況(西から)
- 12区SI-1 東カマド遺物出土状況(西から)
- 12区SI-1 東カマドセクション(東から)
- 12区SI-1 北カマド完掘(南から)
- 12区SI-1 北西部坏出土状況(南から)
- 12区SI-1 掘方(南から)

図版五五 12区遺構

- 12区SI-2 遺物出土状況(南から)
- 12区SI-2 カマド完掘(南から)
- 12区SI-2 坏出土状況(南から)
- 12区SI-2 鎌出土状況(西から)
- 12区SI-2 掘方(南から)
- 12区SI-3 完掘(西から)
- 12区SI-3 カマド完掘(南から)
- 12区SI-3 掘方(南から)

図版五六 12区遺構

- 12区SB-6 完掘(南から)
- 12区SB-6 P1 完掘(南から)
- 12区SB-7 完掘(南から)
- 12区SB-7 P1 完掘(南から)
- 12区SB-9 完掘(南から)
- 12区SB-9 P3 完掘(南から)
- 12区SK-8 完掘(南から)
- 12区SK-11 完掘(南から)

図版五七 13区北半部・南半部航空写真

- 13区北半部航空写真(南東上空から)
- 13区南半部航空写真(南上空から)

図版五八 13区遺構

- 13区SI-1 完掘(南から)
- 13区SI-1 遺物出土状況(南から)
- 13区SI-1 カマド完掘状況(南から)

- 13区SI-2 遺物出土状況(南から)
- 13区SI-2 完掘(南から)
- 13区SI-2 掘方(南から)
- 13区SI-2 カマドセクション(東から)
- 13区SI-2 耳環出土状況(南から)

図版五九 13区遺構

- 13区SI-12 完掘(南から)
- 13区SI-12 カマド完掘(南から)
- 13区SI-12 カマド遺物出土状況(南から)
- 13区SI-26 遺物出土状況(南から)
- 13区SI-26 完掘(南から)
- 13区SI-26 カマド完掘(南から)
- 13区SI-29 遺物出土状況(東から)
- 13区SI-29 完掘(南から)

図版六〇 13区遺構

- 13区SI-29 カマド遺物出土状況(南から)
- 13区SI-36 遺物出土状況(南から)
- 13区SI-36 カマド遺物出土状況(南から)
- 13区SI-36 掘方(南西から)
- 13区SI-37 遺物出土状況(西から)
- 13区SI-37 掘方(南から)
- 13区SI-37 東カマド完掘(西から)
- 13区SI-37 北カマド完掘(南から)

図版六一 13区遺構

- 13区SI-37 北カマド掘方(南から)
- 13区SI-38 完掘(南から)
- 13区SI-38 掘方(南から)
- 13区SI-38 カマド袖断ち割り状況(南から)
- 13区SI-39 遺物出土状況(南から)
- 13区SI-39 完掘(南西から)
- 13区SI-40 遺物出土状況(南西から)
- 13区SI-40 遺物出土状況アップ(南から)

図版六二 13区遺構

- 13区SI-52 完掘(南から)
- 13区SI-52 カマド完掘(南から)
- 13区SI-52 貯蔵穴遺物出土状況(南から)
- 13区SI-56 遺物出土状況(南から)
- 13区SI-56 カマド完掘(南から)
- 13区SI-57 セクション(南から)
- 13区SI-57 カマド遺物出土状況(南から)
- 13区SI-57 カマド掘方(南から)

図版六三 13区遺構

- 13区SI-62・SK-61 完掘(南から)
- 13区SI-89 完掘遺物出土状況(東から)
- 13区SI-89 完掘(南から)
- 13区SI-89 カマド完掘(南から)
- 13区SI-89 東部遺物出土状況(西から)
- 13区SI-90 完掘(東から)
- 13区SI-91 完掘(西から)
- 13区SI-91 掘方(西から)

図版六四 13区遺構

- 13区SI-92 完掘(西から)
- 13区SI-96 遺物出土状況(南から)
- 13区SI-96 カマド完掘(西から)
- 13区SI-97 遺物出土状況(南から)

13区SI-97 完掘(南から)
13区SI-97 カマド遺物出土状況(南から)
13区SI-100 完掘(南から)
13区SI-100 掘方(東から)

図版六五 13区遺構

13区SI-100 遺物出土状況(北から)
13区SI-101 完掘(南から)
13区SI-101 カマド完掘(南から)
13区SI-101 掘方(南から)
13区SI-102 遺物出土状況(東から)
13区SI-102 完掘(南から)
13区SI-105 完掘(南から)
13区SI-105 カマド遺物出土状況(南から)

図版六六 13区遺構

13区SI-110 遺物出土状況(南から)
13区SI-110 完掘(南から)
13区SI-110 カマド完掘(南から)
13区SI-115 遺物出土状況(南から)
13区SI-115 掘方(南から)
13区SI-116 遺物出土状況(南から)
13区SI-117 完掘(南から)
13区SI-117 遺物出土状況(南から)

図版六七 13区遺構

13区SI-117 カマド遺物出土状況(南から)
13区SI-118 遺物出土状況(東から)
13区SB-17 完掘(西から)
13区SB-17 P3 完掘(東から)
13区SB-17 P6 完掘(南から)
13区SB-17 P10 完掘(東から)
13区SB-17・18 完掘(西から)
13区SB-18 P1 完掘(南から)

図版六八 13区遺構

13区SB-18 P2 完掘(南から)
13区SB-18 P3 完掘(南から)
13区SB-18 P8 完掘(西から)
13区SB-44 完掘(西から)
13区SB-44 P4 完掘(南から)
13区SB-66 完掘(西から)
13区SB-66 P1 完掘(南から)
13区SB-67 完掘(西から)

図版六九 13区遺構

13区SB-67 P4 完掘(西から)
13区SB-67 P5 完掘(西から)
13区SB-67 P6 セクション
13区SB-82 完掘(西から)
13区SB-82 遺物出土状況
13区SX-16 完掘(南から)
13区SX-20 完掘(南から)
13区SX-20・21 セクション(南から)

図版七〇 13区遺構

13区SX-21 完掘(南から)
13区SX-21・22 セクション(南から)
13区SX-21・22 底面の状況(南から)
13区SX-22 完掘(南から)
13区SX-25 完掘(東から)

13区SX-28・34 完掘(南から)
13区SX-34 遺物出土状況(南から)
13区SX-35 完掘(南から)

図版七一 13区遺構

13区SX-47 完掘(南から)
13区SX-98 西半部完掘(南から)
13区SX-98 東半部完掘(東から)
13区SX-98 セクション(南西から)
13区SX-94 完掘(東から)
13区SE-11 完掘(東から)
13区SE-11 セクション(南から)
13区SE-81 全体完掘(南から)

図版七二 13区遺構

13区SE-81 中央部完掘(南から)
13区SE-93 セクション(南から)
13区SE-93 完掘(南東から)
13区SD-6 完掘(南から)
13区SD-6 セクション(南から)
13区SD-23 完掘(南から)
13区SD-49 完掘(東から)
13区SD-53 完掘(東から)

図版七三 13区遺構

13区SD-80 完掘(東から)
13区SD-95 完掘(南から)
13区SD-99 完掘(西から)
13区SD-103 完掘(南から)
13区SD-108 完掘(南から)
13区SD-111 完掘(南から)
13区SD-113 完掘(西から)
13区SD-119・120 完掘(南から)

図版七四 13区遺構

13区SK-3 完掘(南から)
13区SK-9 遺物出土状況(南から)
13区SK-9 完掘(南から)
13区SK-10 完掘(南から)
13区SK-45・46 完掘(東から)
13区SK-50・51 完掘(東から)
13区SK-54 完掘(東から)
13区SK-55 完掘(南東から)

図版七五 13区遺構

13区SK-58・P-65 完掘(南から)
13区SK-71 完掘(東から)
13区SK-73 完掘(東から)
13区SK-86 完掘(南から)
13区SK-88 完掘(南から)
13区SK-107 完掘(南から)
13区SK-112 完掘(南から)
13区調査区全景(南から)

図版七六 14区遺構

14区SI-1 完掘(西から)
14区SI-2 完掘(東から)
14区SI-2 カマド完掘(南から)
14区SI-8 完掘(南から)
14区SI-8 カマド遺物出土状況(南から)
14区SX-3 完掘(東から)

- 14区SX-3 南セクション（南から）
 14区SX-3 北セクション（南から）
- SI-42 出土遺物
 SI-46 出土遺物
 SI-47 出土遺物
- 図版七七 14区遺構
- 14区SX-9 完掘（南から）
 14区SX-9 B-B' セクション（南から）
 14区SD-12 完掘（南東から）
 14区SK-4 完掘（南から）
 14区SK-6 完掘（南から）
 14区SK-5 セクション（南から）
 14区SK-11 完掘（南から）
 14区SK-13 セクション（南から）
- 図版七八 西刑部西原遺跡3区（1）
- SI-1 出土遺物
 SI-2 出土遺物
- 図版七九 西刑部西原遺跡3区（2）
- SI-2 出土遺物
 SI-3 出土遺物
- 図版八〇 西刑部西原遺跡3区（3）
- SI-3 出土遺物
 SI-4 出土遺物
 SI-5 出土遺物
- 図版八一 西刑部西原遺跡3区（4）
- SI-5 出土遺物
 SI-6 出土遺物
 SI-7 出土遺物
 SI-8 出土遺物
- 図版八二 西刑部西原遺跡3区（5）
- SI-8 出土遺物
 SI-10 出土遺物
 SI-11 出土遺物
- 図版八三 西刑部西原遺跡3区（6）
- SI-11 出土遺物
 SI-12 出土遺物
 SI-13 出土遺物
 SI-14 出土遺物
 SI-16 出土遺物
- 図版八四 西刑部西原遺跡3区（7）
- SI-16 出土遺物
 SI-18 出土遺物
 SI-24 出土遺物
 SI-30 出土遺物
 SI-31 出土遺物
 SI-32 出土遺物
 SI-36 出土遺物
- 図版八五 西刑部西原遺跡3区（8）
- SI-36 出土遺物
 SI-38 出土遺物
- 図版八六 西刑部西原遺跡3区（9）
- SI-38 出土遺物
 SI-39 出土遺物
 SI-41 出土遺物
- 図版八七 西刑部西原遺跡3区（10）
- SI-47 出土遺物
 SI-50 出土遺物
 SI-51 出土遺物
 SI-52 出土遺物
 SI-53 出土遺物
- 図版八八 西刑部西原遺跡3区（11）
- SI-53 出土遺物
 SI-54 出土遺物
 SI-58 出土遺物
- 図版八九 西刑部西原遺跡3区（12）
- SI-60 出土遺物
 SI-61 出土遺物
 SI-71 出土遺物
 SI-74 出土遺物
- 図版九〇 西刑部西原遺跡3区（13）
- SI-74 出土遺物
 SI-77 出土遺物
 SI-78 出土遺物
 SI-81 出土遺物
 SI-82 出土遺物
 SI-84 出土遺物
 SI-85 出土遺物
- 図版九一 西刑部西原遺跡3区（14）
- SI-85 出土遺物
 SI-86 出土遺物
- 図版九二 西刑部西原遺跡3区（15）
- SI-86 出土遺物
 SI-87 出土遺物
 SI-88 出土遺物
- 図版九三 西刑部西原遺跡3区（16）
- SI-88 出土遺物
 SI-90 出土遺物
 SI-91 出土遺物
- 図版九四 西刑部西原遺跡3区（17）
- SI-91 出土遺物
 SI-92 出土遺物
 SX-21 出土遺物
- 図版九五 西刑部西原遺跡3区（18）
- SX-21 出土遺物
 SE-23 出土遺物
- 図版九六 西刑部西原遺跡3区（19）
- SE-23 出土遺物
- 図版九七 西刑部西原遺跡3区（20）
- SE-23 出土遺物
 SE-75 出土遺物

図版九八 西刑部西原遺跡 3区 (21)

SE-76 出土遺物
SE-95 出土遺物
SD-57 出土遺物
SK-45 出土遺物
グリッド出土遺物

SI-12 出土遺物
SI-26 出土遺物

図版一〇七 西刑部西原遺跡 13区 (3)

SI-26 出土遺物
SI-27 出土遺物
SI-29 出土遺物

図版九九 西刑部西原遺跡 4区・5区 (1)

4区 SI- 1 出土遺物
4区 SI- 2 出土遺物
4区 SI- 3 出土遺物
5区 SI- 1 出土遺物
5区 SI- 4 出土遺物
5区 SI- 5 出土遺物

図版一〇八 西刑部西原遺跡 13区 (4)

SI-29 出土遺物
SI-36 出土遺物
SI-38 出土遺物
SI-40 出土遺物
SI-52 出土遺物
SI-56 出土遺物
SI-89 出土遺物

図版一〇〇 西刑部西原遺跡 5区 (2)

SI- 5 出土遺物
SI-14 出土遺物

図版一〇九 西刑部西原遺跡 13区 (5)

SI-89 出土遺物
SI-96 出土遺物
SI-97 出土遺物
SI-100 出土遺物
SI-101 出土遺物

図版一〇一 西刑部西原遺跡 7区・9区 (1)

7区 SI- 4 出土遺物
7区 SI- 5 出土遺物
9区 SI- 1 出土遺物
9区 SI- 7 出土遺物
9区 SI- 9 出土遺物
9区 SI-10 出土遺物
9区 SI-12 出土遺物

図版一一〇 西刑部西原遺跡 13区 (6)

SI-102 出土遺物
SI-105 出土遺物
SI-110 出土遺物
SI-115 出土遺物
SI-116 出土遺物
SI-117 出土遺物
SB-17 出土遺物
SX-20 出土遺物
SX-21 出土遺物
SX-34 出土遺物
SX-98 出土遺物

図版一〇二 西刑部西原遺跡 9区 (2)

SI-12 出土遺物
SI-13 出土遺物
SI-14 出土遺物
SI-15 出土遺物

図版一〇三 西刑部西原遺跡 9区 (3)

SI-15 出土遺物
SI-16 出土遺物
SI-17 出土遺物
SI-21 出土遺物
SI-26 出土遺物
SI-27 出土遺物
SI-49 出土遺物
SD- 3 出土遺物
SD-120 出土遺物

図版一一一 西刑部西原遺跡 13区 (7)・14区・TN 試掘トレンチ

13区 SD-111 出土遺物
13区 SD-113 出土遺物
13区遺構外出土遺物
14区 SI- 8 出土遺物
14区 SX- 9 出土遺物
TN 試掘トレンチ出土遺物

図版一〇四 西刑部西原遺跡 10区・11区・12区 (1)

10区 SI- 1 出土遺物
10区 SI- 2 出土遺物
11区 SI- 1 出土遺物
11区 SD- 2 出土遺物
12区 SI- 1 出土遺物

図版一一二 西刑部西原遺跡 鉄製品 (鏃・直刀)

図版一一三 西刑部西原遺跡 鉄製品 (鎌・手鎌・鋤先・鉈等)

図版一一四 西刑部西原遺跡 鉄製品 (紡錘車)

図版一〇五 西刑部西原遺跡 12区 (2)・13区 (1)

12区 SI- 1 出土遺物
12区 SI- 2 出土遺物
12区 SI- 3 出土遺物
13区 SI- 1 出土遺物
13区 SI- 2 出土遺物

図版一一五 西刑部西原遺跡 鉄製品 (刀子・轡等) その他の金属製品 (鍔付足金物等)

図版一一六 西刑部西原遺跡 鉄滓・青銅鏡 X線写真

図版一〇六 西刑部西原遺跡 13区 (2)

SI- 2 出土遺物

図版一一七 西刑部西原遺跡 青銅鏡 (群蝶双雀鏡)

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

宇都宮テクノポリス計画は、「高度な技術をもつ産業の集積、産・学・官の共同研究と技術交流による頭脳ネットワークの形成、そして、自然と都市機能が調和した快適な空間づくり」を目標に、栃木県が昭和58年7月新栃木時代創造計画で開発計画を策定し、翌年5月に高度技術工業集積地開発促進法（テクノポリス法）に基づき通商産業省の開発計画の承認を受けた。

この開発計画を受け、昭和60年度より県企画部と県教育委員会で、開発区域内遺跡の取り扱いについて協議が開始された。また、平成元年度には、栃木県と宇都宮市が住宅・都市整備公団（以下、公団という）に開発の要請を行う。公団はこれを承認し、平成2年度より開発区域の用地取得に入る。

公団が主体となるテクノポリス計画は、宇都宮テクノポリスセンター土地区画整理事業と東谷・中島土地区画整理事業である。前者事業区域は、宇都宮市野高谷町・刈沼町・板戸町にまたがる地区（以下、「センター地区」という）の177.2haに及び、住宅を核に県工業技術センター、産業支援施設、商業施設、民間研究施設、小中学校などを整備したニュータウン計画で、テクノポリスが目指す「産・学・住・遊」の拠点整備をも担う。後者事業区域は宇都宮市東谷町・中島町・砂田町・平塚町・屋板町・上横田町・西刑部町と上三川町磯岡・西汗にまたがる地域（以下、「東谷・中島地区」という）の137.5haに及ぶ。計画は北関東横断自動車道路や新4号国道などの広域交通網の結び付いた利便性を生かし、流通業務施設や先端技術、高度技術産業の研究所・工場などの整備を図ることにある。

平成2年7月には公団から県教育委員会への事業区域内の埋蔵文化財の有無について照会がなされた。県教育委員会からの回答は、東谷・中島地区については、「周知されている遺跡6か所と遺跡の可能性のある区域を含め、約90haの確認調査が必要」であった。その後、開発事業と埋蔵文化財調査のスケジュールを調整するための協議が継続された。

平成6年8月、埋蔵文化財の保護と開発事業の円滑な推進を図るため、県教育委員会・宇都宮市・公団・埋蔵文化財センターの四者による事業区域内の分布調査が実施された。その結果、センター地区については「周知されている遺跡8か所・面積267,000㎡、試掘が必要な地点7か所・面積95,500㎡」、東谷中島地区については「周知されている遺跡12か所・面積490,400㎡、試掘が必要な地点8か所・面積340,600㎡」、であった。この結果を基に同月発掘調査を開始するための協議が行われ、同年9月1日付けで、県文化課の調整のもと公団と（財）栃木県文化振興事業団・埋蔵文化財センターが、「宇都宮テクノポリスセンター地区埋蔵文化財発掘調査」の受託契約を締結し、確認調査がなされた。平成8年4月からは調査規模の拡大に伴い、宇都宮市が同地区の発掘調査を担当することとなった。

なお、平成8年12月には東谷・中島地区、平成9年4月にはセンター地区の区画整理事業が各々建設大臣の事業認可を受け、開発事業が事実上開始された。このため、公団・県文化財課・宇都宮市・埋蔵文化財センターは年数回の綿密な協議を重ねつつ、開発事業計画に沿った発掘調査を実施している。なお開発事業は平成11年から都市基盤整備公団、平成16年から都市再生機構に継承された。また（財）栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センターは外郭団体の統廃合により平成12年度から（財）とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センターとなり、さらに平成23年度からは（財）とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターとして業務を継承している。



第1図 遺跡位置図

第2節 調査の方法

独立行政法人都市再生機構（旧住宅・都市整備公団および都市基盤整備公団）による東谷・中島土地区画整理事業の事業区域は、東西約1.0km、南北約2.5kmの137.5haに及ぶ。

調査対象地域は、周知の遺跡範囲及び平成6年8月に県文化課により実施された事業予定地区内の遺跡踏査した成果に基づいて決定された。この結果、東谷・中島地区遺跡群の10地区12遺跡、調査対象面積831,000㎡が把握された。対象面積が膨大であることにより、これらの遺跡範囲の確定及び調査事業量の把握が急務とされた。よって、住宅・都市整備公団による用地取得の完了した部分より確認調査を実施し、その結果に基づき概ね公団の示す調査優先地区について順次本調査を行った。確認調査の結果によっては遺構外とされる地区もあり、随時本調査地区より除外した。また、平成9年には発掘調査の進展に伴い調査対象地区の見直しを行った。この結果、調査対象地区は確認調査により遺跡外とした地区も含め10地区12遺跡、896,800㎡となった。さらに、2006（平成18）年度に面積の見直しがなされ、総面積887,600㎡となった。

[確認調査]

本調査に先行する確認調査は、遺跡範囲の確定及び遺構全体量の把握等が目的とされる。調査にあたっては調査対象範囲内にトレンチを設け、概ねローム層上面まで掘削することにより遺構・遺物の有無、また、その遺存状況の把握に努めた。調査対象面積に対するトレンチ総面積は5～10%を目安とした。

グリッド設定 調査対象地区南西外を原点（ $X=0$ 、 $Y=0$ ）とする局地座標を定めた。原点は日本測地系による平面直角座標第Ⅳ系 $X = +52,800$ 、 $Y = +6,400$ （世界測地系では $X=53154.1623$ 、 $Y=6107.0425$ ）の位置である。この座標軸は調査対象地区全体を覆い、20m単位に南から北へ $X = 0 \sim 130$ 、西から東へ $Y = 0 \sim 60$ と展開する。また、20m×20mの1グリッドの名称は南西隅の座標値で呼ぶ。1グリッド内の細分は小数点以下の座標値を用い、同様の方法で行う。以上のグリッドは本調査時においても踏襲した。

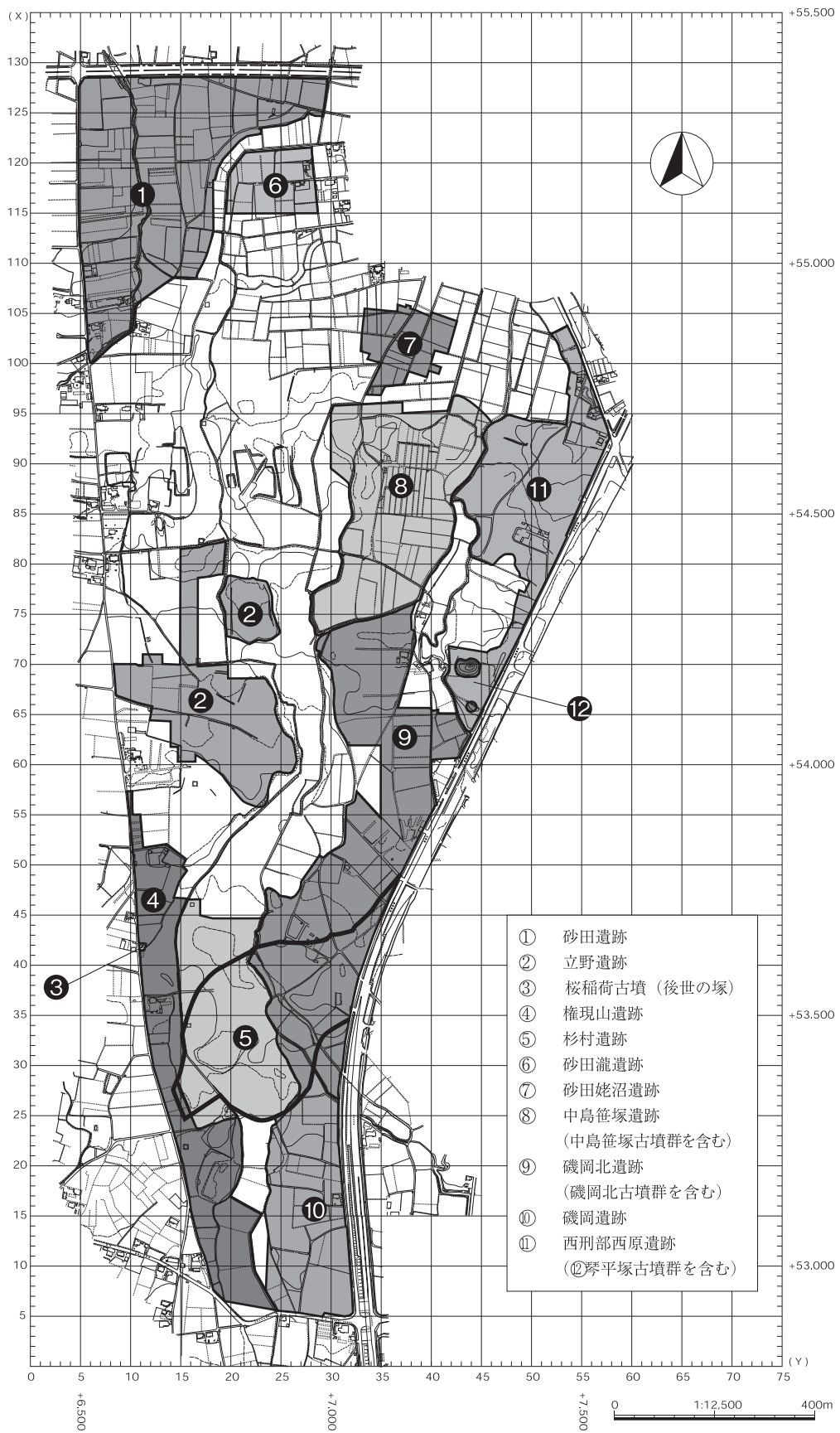
トレンチの設定 トレンチは幅約2m、グリッドラインの北側に沿って20ないし40mに一本の割合で東西方向に設けることを基本とした。これは、地形が概ね南北に延びる低地部とその東西の低台地部により形成されていることによる。記号“TX”にX軸の座標軸値を添えてトレンチの名称とし、必要に応じてY軸の座標値（ $Y=0 \sim 60$ ）を添える。なお、対象地区の微地形の相違等状況の変化によっては柔軟に対応した。

トレンチの発掘 重機を用い、精査の後、図面と写真による記録を行い、遺物を取り上げた。また、必要に応じ、一部遺構の精査、自然科学分析を実施した地区もある。

[本調査]

公団の示す地区とその優先順位に従って実施した。これは公団の用地取得状況と工事展開に従ったものである。よって、調査時にはこれを10地区12遺跡における調査地区とし、遺跡名に算用数字を付して調査地区名とした。2000（平成12）年度までは算用数字ではなくローマ数字（Ⅰ区、Ⅱ区、Ⅲ区）を使用していたが、この報告ではすべて算用数字を用いる。遺構の管理は各調査区で行い、種別によらず通し番号とした。遺物は出土遺構単位で管理し、種別に関係なく通し番号を付した。

現地調査は、重機による表土除去、基準杭設定、遺構確認、各遺構精査、航空写真撮影・測量図化、遺物洗浄、必要に応じ自然科学分析等の手順で概ね実施した。調査方法は担当間で統一を図り、図面・写真等の等質な記録作成に努めた。なお、表土除去、基準点測量、航空写真撮影・測量図化、自然科学分析等は委託業務とし、作業の効率化を図った。



第2図 東谷・中島地区遺跡群遺跡配置図

第1表 東谷・中島地区遺跡群一覧表

No.	遺跡名	略号	所在地	面積 (㎡)	時代・種別	調査前の状況
1	砂田遺跡	UT-SN	宇都宮市砂田町字瀧、同市屋板町字赤沢・字赤沢向、同市中島町字十里木	145,200	旧石器剥片、縄文時代陥穴、古墳～平安集落、方形周溝、近世墓、近世以降の炭窯	田畑等
2	立野遺跡	UT-TT	宇都宮市東谷町字立野、同市中島町字小路谷田	122,800	縄文・古墳時代と中世の集落、弥生時代土坑、終末期方墳、奈良時代竪穴建物、近世の溝	田畑・林
4	権現山遺跡 (3 桜稲荷古墳を含む)	UT-GN UT-SG	宇都宮市東谷町字立野・字杉村・字下原、同市砂田町字吉原・字原田、上三川町磯岡字西谷	92,000	古墳時代集落・豪族居館、縄文・平安時代竪穴建物、奈良・平安時代の推定東山道、中世集落	畑地等
5	杉村遺跡	UT-SG UT-GN	宇都宮市砂田町字原田他、上三川町磯岡字コムナセゴ	22,000	縄文～古墳・奈良時代集落、奈良・平安時代の推定東山道	田畑・林等
6	砂田瀧遺跡	UT-ST	宇都宮市砂田町字瀧	60,000	古墳・奈良時代の遺物散布地	田畑等
7	砂田姥沼遺跡	UT-SU	宇都宮市砂田町字姥沼	16,400	古墳～平安時代の集落	田等
8	中島笹塚遺跡 (中島笹塚古墳群を含む)	UT-NK	宇都宮市砂田町字笹塚・吉原・姥沼	91,100	旧石器剥片、縄文土坑、弥生土器、古墳群 16 基と土壇墓、古墳～奈良時代と中世の集落	畑・林
9	磯岡北遺跡 (磯岡北古墳群を含む)	UT-SG	宇都宮市砂田町字笹塚、上三川町磯岡字笹塚、同町磯岡字コムナセゴ	128,100	縄文～奈良時代・中世集落、古墳群 10 基と土壇墓等、奈良・平安時代の推定東山道	田等
10	磯岡遺跡	KM-IS	上三川町磯岡字中原・同町磯岡字屋敷西浦	72,000	縄文・古墳～平安時代集落、弥生時代土坑	田畑等
11	西刑部西原遺跡 (12 琴平塚古墳群を含む)	UT-NS	宇都宮市平塚町西原、同市西刑部町西原、上三川町西汗字西赤堀	138,000	縄文時代陥穴、旧石器・古墳～平安時代集落、古墳群 14 基、奈良・平安時代の推定東山道	田畑等

・4・9・10 の各遺跡は 5 杉村遺跡とは別遺跡だが、現地調査時に「杉村遺跡」(UT-SG) の名称や略号を用いた部分がある。
・確認調査の略号は UT-TN とし、本遺跡群内における位置はトレンチ及びグリッド番号で示した。

第3節 調査の経過

〔確認調査〕 関係機関との協議、事務処理、調査方針の策定を経て、確認調査は平成9年度と平成12年度に実施した。作業の手順は前述のとおりであるが、基本的には①重機による東西方向のトレンチ掘削②人力でのトレンチ内精査③遺構確認状況等の記録（写真撮影や平面実測）の順序で実施した。

〔本調査〕 本調査は調査区を1区から14区に分け、述べ11年間に亘り断続的に実施した。各調査区と調査年度をみると、1区は平成9（1997）年度、2区は平成11（1999）年度、3・4区は平成12（2000）年度、5・6・7区は平成13（2001）年度、8区は平成15（2003）年度、9・10・11区は平成17（2005）年度、12区は平成18（2006）年度、13・14区は平成19（2007）年度である。

3区 面積 8,200 ㎡ 調査期間 平成12年度(2000年4月4日～2001年2月6日) 遺構 竪穴建物跡63棟、掘立柱建物跡8棟、円形周溝遺構3基、性格不明遺構2基、井戸7本、溝1条、円形有段遺構1基、土坑20基 工程 表土除去は前年度に5,800 ㎡が終了（残り2,400 ㎡は9月13～18日に実施）。遺構確認作業5月9～24日。グリッド杭設置後、配置図を作成。遺構発掘5月25日～平成13年2月21日。12月20日に4区と合わせ航空写真撮影。1月23日～2月6日まで旧石器調査。井戸断ち割りは1月29日に実施。

4区 面積 900 ㎡ 調査期間 平成12年度(2000年9月13日～10月20日) 遺構 竪穴建物跡3棟、溝1条、土坑3基 工程 表土除去は9月13日、遺構確認・遺構発掘は10月4～20日にかけて実施。

5区 面積 3,000 ㎡ 調査期間 平成13年度(2001年5月1日～7月12日) 遺構 竪穴建物跡4棟、掘立柱建物跡3棟、円形周溝遺構1基、土坑20基 工程 表土除去は2月22～28日、グリッド杭設置は3月1日。遺構確認・遺構発掘は5月16日～6月18日。航空写真は7月12日に撮影。

6区 面積 2,800 ㎡ 調査期間 平成13年度(2001年5月1日～8月6日) 遺構 溝2条、土坑8基 工程 表土除去は2月22～28日。3月1日グリッド杭を設置。遺構確認は5月14～30日。同時に遺構配置図を作成。遺構発掘は、旧石器時代の調査を6月13日～7月16日まで実施。7月12日に航空写真を撮影。

7区 面積 4,800 ㎡ 調査期間 平成13年度(2001年11月5日～2002年1月28日) 遺構 古代の道路

状遺構、竪穴建物跡4棟、円形有段遺構1基、土坑3基 **工程** 表土除去は11月5～27日。遺構確認・遺構発掘は11月26日～1月28日。1月24日航空写真撮影。旧石器調査を1月7～28日に実施。

8区 面積 100㎡ 調査期間 平成15年度(2003年9月11日～2003年10月10日) **遺構** 道路状遺構、琴平塚9号墳、土坑1基 **工程** 表土除去9月11・12日。遺構確認・発掘は9月16日～10月10日まで実施。

9区 面積 1,200㎡ 調査期間 平成17年度(2005年7月7日～2006年2月23日) **遺構** 竪穴建物跡15棟、掘立柱建物跡4棟、溝6条、井戸1本、性格不明遺構2基、土坑10基 **工程** 表土除去は7月11～13日。遺構確認・遺構発掘は南部が7月15日～8月30日。北部が10月11日～2月23日まで実施。

10区 面積 600㎡ 調査期間 平成17年度(2005年11月28日～2006年1月26日) **遺構** 竪穴建物跡3棟、掘立柱建物跡3棟、円形周溝遺構1基、溝3条、土坑13基 **工程** 表土除去は11月28～30日に実施。遺構確認は12月2～7日。遺構発掘は12月8日～1月18日まで実施。航空写真は1月26日に撮影。

11区 面積 450㎡ 調査期間 平成17年度(2005年12月14日～2006年2月17日) **遺構** 竪穴建物跡1棟、溝2条、土坑3基 **工程** 表土除去は12月14～19日に実施。遺構確認は1月10・11日。遺構発掘は1月16日～2月6日まで実施。1月26日航空写真撮影。2月13日に旧石器調査を実施。

12区 面積 600㎡ 調査期間 平成18年度(2006年12月4日～2007年1月25日) **遺構** 竪穴建物跡3棟、掘立柱建物跡3棟、土坑3基 **工程** 表土除去は12月4・5日に実施、12月6～12日に遺構確認の後グリッド杭設置。遺構発掘は12月10～17日、旧石器調査は1月18～25日まで実施。

13区 面積 3,375㎡ 調査期間 平成19年度(2007年7月3日～12月27日) **遺構** 竪穴建物跡30棟、掘立柱建物跡6棟、円形周溝遺構8基、円形有段遺構1基、性格不明遺構2基、井戸4本、溝13条、土坑56基 **工程** 南部表土除去は7月3～9日。遺構確認・遺構発掘は7月20日～10月9日まで。北部表土除去は10月23～25日に行った。遺構確認・遺構発掘は10月30日～12月27日まで実施。航空写真は9月20日と1月22日に撮影。

14区 面積 540㎡ 調査期間 平成19年度(2007年12月6～20日) **遺構** 竪穴建物跡3棟、円形周溝遺構2基、溝1条、土坑5基 **工程** 表土除去12月6・7日。遺構確認・遺構発掘は12月10～20日。

〔整理作業・報告書作成作業〕

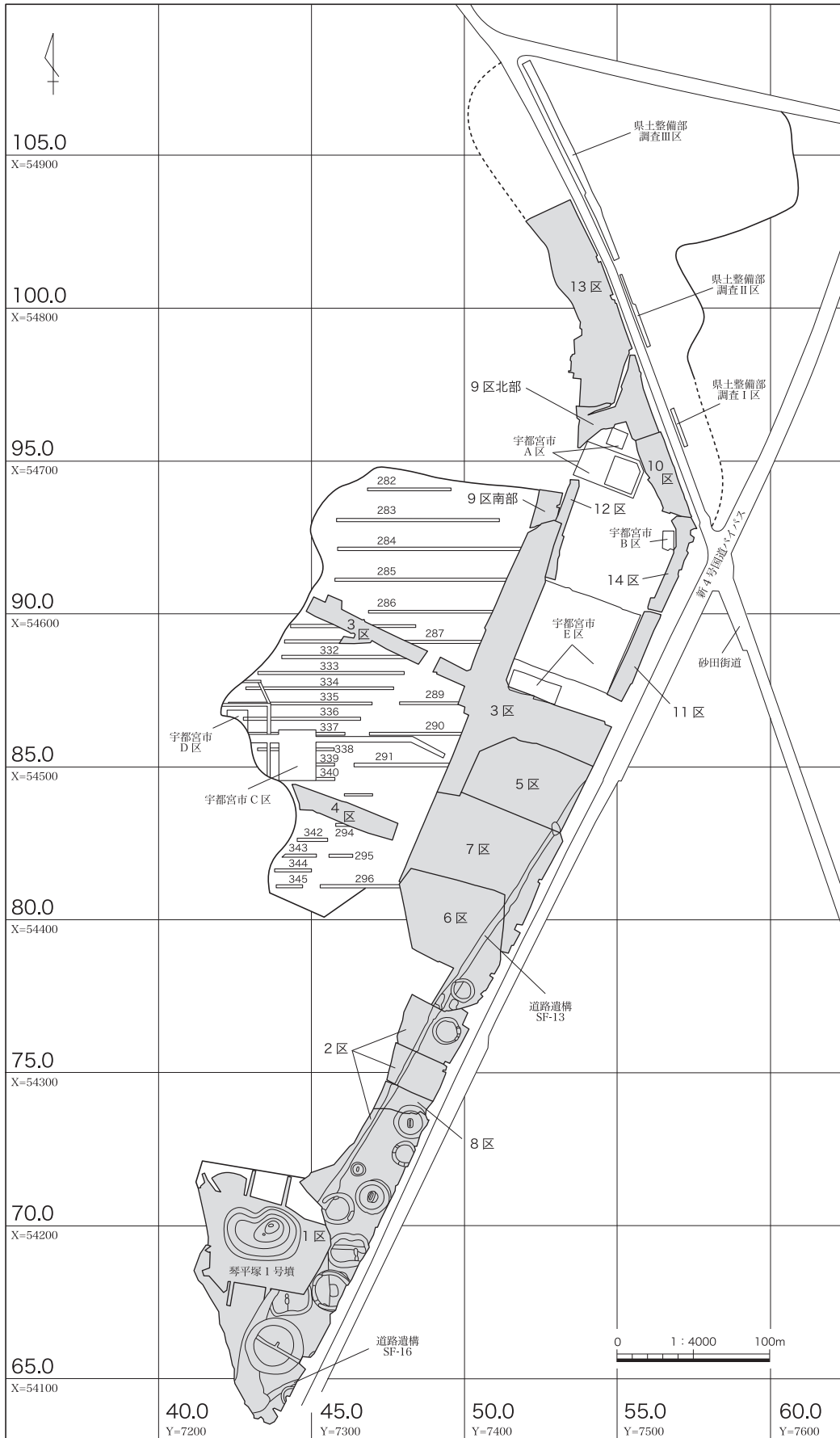
基礎整理作業は発掘調査と並行し随時実施していたが、本格的な整理作業は平成20年度から開始した。

1. 遺物整理作業の手順は、①水洗・注記作業②接合復元③拓本・実測④トレース(墨入れ)⑤版組⑥写真撮影の手順で実施した。なお実測遺物のうち調整の細かな遺物については、デジタルカメラを用いた写真実測を行い、作業の効率化および精度の向上を図った。また、遺物トレースに際しては、すべて手作業で行った。主にロットリングを用いたが、細部の調整には丸ペンを使用した。

2. 遺構図面整理作業の手順は、①図面整理②遺構図修正・第2原図作成③トレース④版組の順に実施した。多くの遺構図版はコンピュータトレース(Illustrator CS2を使用)し、データ上でレイアウトまで行ったが、必要に応じて手作業でのトレースを実施したものもある。

3. 遺構写真は主に発掘調査時に現場で撮影したモノクロネガフィルムを使用し①紙焼き②トリミング指定・割付③キャプション記入を行い、版下とした。遺物写真は①デジタルカメラによるカラー写真撮影②InDesignによる割付にキャプション入力を行い、データにて入稿した。巻頭写真はカラーポジフィルムを直接スキャンしたデータを出力したものを使用している。

報告書の編集は1～3で作成した図版・データをもとに①図表類の割付作業②原稿執筆③編集作業を経て、平成25年3月に『西刑部西原遺跡 古墳・奈良・平安時代編』の報告書刊行の運びとなった。



第3図 西刑部西原遺跡調査区割図 (S = 1/4,000)

第2章 遺跡の環境

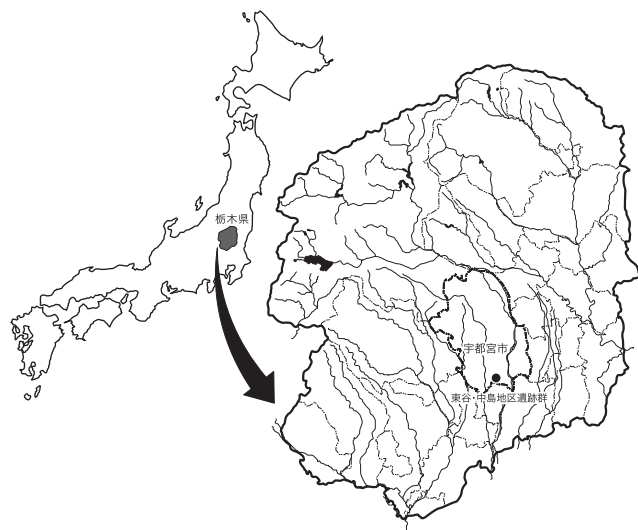
第1節 地理的環境

位置 東谷・中島地区遺跡群は栃木県域の南東部、宇都宮市と河内郡上三川町に跨り、宇都宮市街地から南南東へ約7 km、上三川町の中心地から北へ約5 kmに位置する。東へ約5 kmに鬼怒川、西へ約1.5 kmに田川がそれぞれ南流する。周辺は起伏の少ない田園地帯が広がっており、各遺跡の発掘調査前の状況は水田、畑地、平地林が主で、一部に宅地が見られた。一方、本遺跡群は、東側が国道4号バイパス（新4号国道）、西側は旧上三川街道、南側は県道雀宮・真岡線、北側は宇都宮環状線に接する。また、地区内に北関東自動車道路の宇都宮・上三川インターチェンジが位置し、交通の要衝としてその重要度を高めつつある。こうした利便性と相まって、近年、本地域は流通業務施設や商業施設等の進出と市街地化が進行している。西刑部西原遺跡は、東谷・中島土地区画整理地区（完成後の名称は「インターパーク宇都宮南」）の東部やや北寄りに位置する。

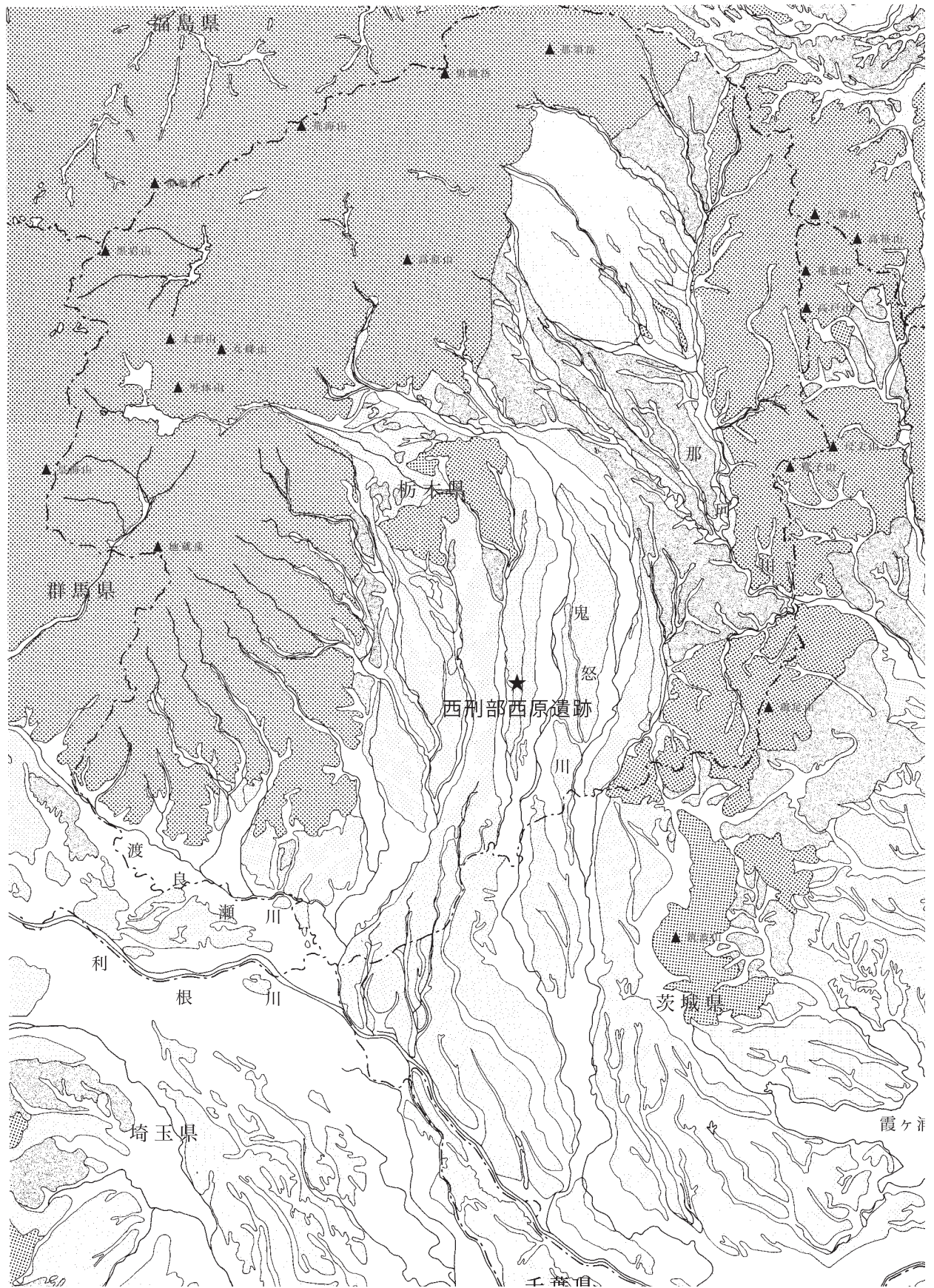
現況 西刑部西原遺跡は宇都宮市平塚町字西原および上三川町大字西汗に所在する。遺跡範囲は南北約900 mと南北に長いが、ほぼ中心の3区は北緯36度29分41秒・東経139度54分45秒に位置している（世界測地系）。遺跡の西側に南流する小河川「無名瀬川」（*2）による狭い開析谷があり標高85.0～87.5mの微高地上に立地する。対岸には中島笹塚遺跡が所在し、その西側は「中島谷田」（*1）に連続する開析谷に面している。

西刑部西原遺跡の総面積は49,600 m²におよび、主な遺構は古墳群、古墳時代～平安時代の集落跡、古代の道路遺構などである。今回報告する古墳・奈良・平安時代の集落跡については、その遺構・遺物は遺跡北半部に集中している。今回の報告で該当する主な調査区の面積をしてみると、3区：8,200 m²、4区：900 m²、5区：3,000 m²、6区：2,800 m²、7区：4,800 m²、8区：100 m²、9区：1,200 m²、10区：600 m²、11区：450 m²、12区：600 m²、13区：3,375 m²、14区：540 m²、となっている。調査前の状況は一部に宅地があったものの、その他殆どは畑地と水田であった。

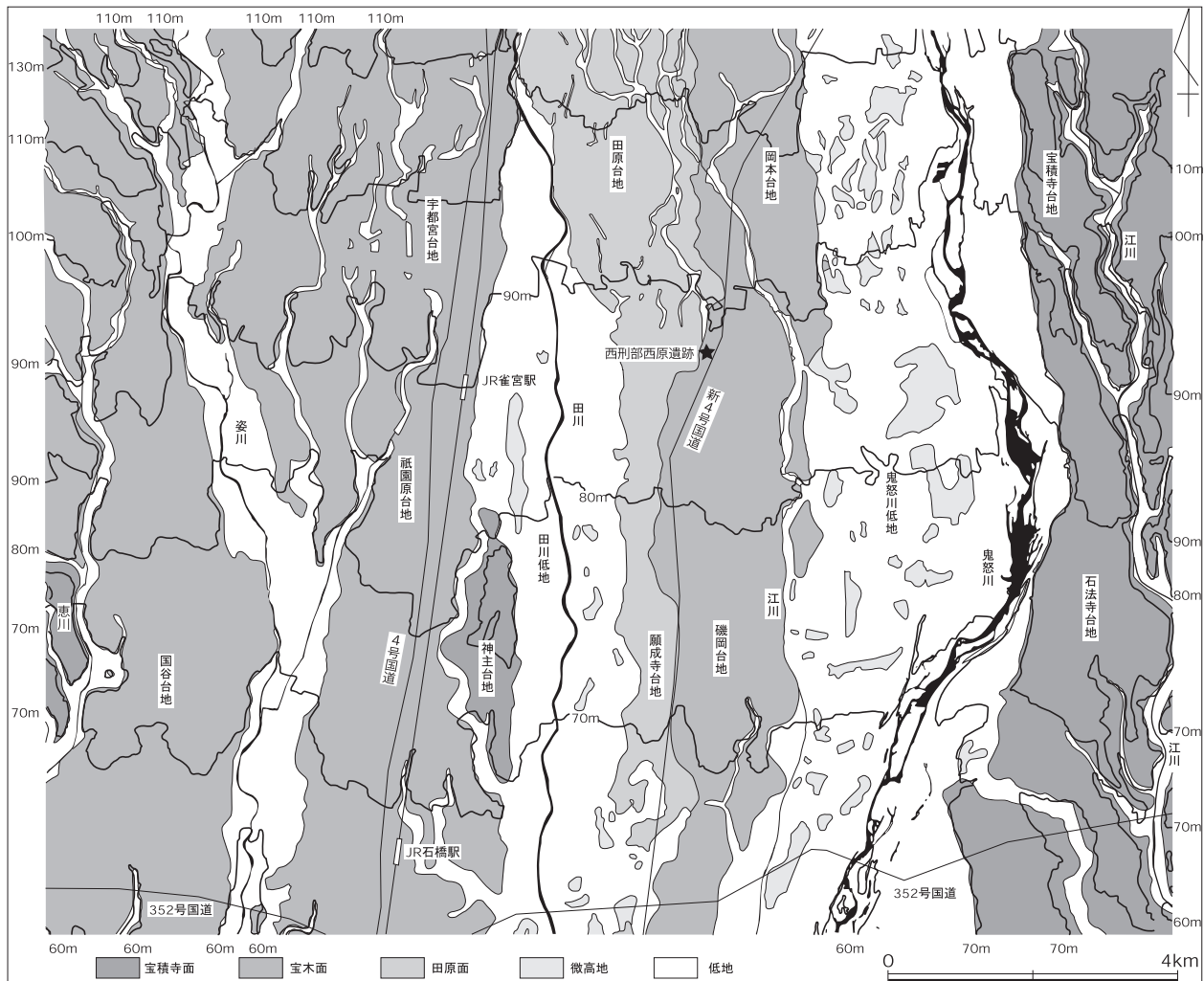
地形の分類 栃木県は関東地方の北部に位置し、東と南を茨城県、西を群馬県、北を福島県と境を接している。栃木県域の地形は、大きく見ると、東部山地、中央部平地、西部山地に分けられる。東部山地は八溝、鷲子、鷲足などの山塊からなる八溝山地、西部山地は那須、高原、日光、足尾などの山塊からなる下野山地と足尾山地である。東西の山地は南北に連なっており、両者に挟まれるように中央部平地が広がる（阿久津 1981）。本遺跡は中央部平地に位置する。中央部平地は関東平野の北縁をなし、山地から南北に延びる丘陵とそれに平行するように延びる台地と低地・河川からなる。これらの台地と低地・河川は、東から鬼怒川低地（鬼怒川）、岡本・磯岡台地（宝木段丘面＝中位段丘面）、田原・願成寺台地（田原段丘面＝下位段丘面）、田川低地（田川）、神主台地（宝積寺段丘面＝



第4図 遺跡位置図



第5図 地形図 (1/600,000)



第6図 周辺の地形図 (S=1/100,000)

上位段丘面)、宇都宮・祇園原台地（宝木段丘面＝中位段丘面）と分類されている。

田原・願成寺台地 砂田姥沼・砂田瀧両遺跡を含む東谷・中島地区遺跡群の大半の遺跡（砂田・立野・磯岡・磯岡北・中島笹塚・権現山・杉村）と、その周辺の関連遺跡群（東谷古墳群の東半部や上石田遺跡・砂田東遺跡）は、田原・願成寺台地の上に立地する（第5～7図）。この台地は、中央部低地の中央に南北に連なり、鬼怒川低地（鬼怒川）と田川低地（田川）に挟まれている。宇都宮市北部の今里町～北東部の上田原町～宇都宮市市街地東部の砂田町・東谷町～河内郡上三川町願成寺・上蒲生周辺にかけての台地であり、全長は約33km、東西の幅は2～2.5km、標高は170～68mである。台地の北から南への傾斜は平均すると4.2/1000mであり、田川低地との比高は1～2mほどである。台地内部には、小河川によって形成された細かな開析低地が発達している。東側にある一段高い岡本・磯岡台地とは約2mの比高があるが、両地形面の差は南に行くほど不明瞭となる。

田原・願成寺台地の台地表層部は、田原段丘礫層を最も新しい田原ロームが0.5～2mの厚さで覆っており、南に行くほど薄くなっている。田原ロームの鍵層である七本桜軽石層（Nt-S）と今市軽石層（Nt-I）は日光の男体山から噴火した火山灰（ともに1.4～1.5万年cal BP）で、栃木県域北部に分布する。宇都宮市街地北

方付近ではやや薄くなり、これ以南では本遺跡群のようにローム層中に軽石が点在する程度となる。田原ロームの下には、砂質土・砂層の厚い堆積が認められる。

田川低地 東谷・中島地区遺跡群の西方には田川低地が広がり、その微高地には東谷古墳群の西半部や百目鬼遺跡・東谷北浦遺跡が位置している（第7図）。田原・願成寺台地と田川低地との境には、南流する赤沢川（井川）がある。田川低地は、宇都宮市域の北から宇都宮市街地を通過して南へ延び、田原・願成寺台地の西側に幅 1.5 ～ 2 km にわたって分布する。この低地は、現在水田となっている田川の旧河道とされる部分と、それより 1 ～ 1.5 m ほど上位で現在は集落が分布する自然堤防などの微高地とに識別することが可能である。低地や微高地の形成時期などを決める資料は得られていないが、およそ 2 万年前以降に田川の営力によりできたものと推定されている。

岡本・磯岡台地 田原・願成寺台地の東側には岡本・磯岡台地が広がり、東谷・中島地区遺跡群の東端部にある西刑部西原遺跡および琴平塚古墳群や、東側にある西赤堀遺跡などが所在する。田原・願成寺台地と岡本・磯岡台地との境には、南流する無名瀬川（* 2）がある。岡本・磯岡台地は、宇都宮市白沢・岡本～宇都宮市平出・猿山～上三川町磯岡・日産自動車用地～下野市三王山周辺の南北に長い台地である。全長約 35 km、東西幅 1.5 ～ 2.5 km、標高 162.5 ～ 54 m である。台地の北から南への傾斜は 4.5/1000 ～ 1/1000 で南ほど緩傾斜となる。鬼怒川低地との比高は、白沢付近で約 15 m あり明瞭だが、南へ行くほど緩斜面状を呈する。台地表層部は宝木段丘礫層を田原ロームと宝木ロームが厚さ 5 ～ 10 m ほどで覆っている。厚さは南に行くほど薄くなる。台地内部は、小河川によって形成された細かな開析低地が発達している。

* 1 「にしやだ」および「なかじまやだ」の通称は、宇都宮市砂田町在住の福田林蔵氏（1930 年生）からの御教示による。漢字表記は推定である。

* 2 「むなせがわ」の漢字表記は、開発前の 10,000 分の 1 地形図による（上三川町役場 1981 年作成）。「武名瀬川」や「田川用水」とも表記・呼称されている。

<参考文献>

栃木県企画部土地対策課 1984 『土地分類基本調査 壬生』

経済企画庁総合開発局国土調査課 1960 『土地分類基本調査 地形・表層地質・土壌調査 宇都宮』

上三川町史編さん委員会 1979 『上三川町史』資料編 原始・古代・中世 上三川町

宇都宮市史編さん委員会 1979 『宇都宮市史』第一巻 原始・古代編 宇都宮市

阿久津純 1981 「自然と環境」栃木県史編さん委員会編『栃木県史』通史編 1 原始・古代一 栃木県 pp.11-36

第2節 歴史的環境

東谷・中島地区遺跡群内及び周辺地域においては、古墳時代から平安時代を中心とした遺跡が多く、分布密度も極めて高い。ここでは本遺跡から確認された遺構・遺物と比較しながら周辺の遺跡を概観してみることにはしたい。なお西刑部西原遺跡は、今回報告する UR 調査区の他に、必要に応じて埋蔵文化財センターが調査した県道拡幅部分、宇都宮市が行った民間開発に伴う調査区も含め述べるものとする。

古墳時代前期 田川東岸の東谷・中島地区周辺では、本格的な古墳時代集落は中期前葉に現れる。それまでは小規模な集落が点在する程度である。西刑部西原遺跡北部の県道拡幅部分から 4 世紀末葉の 3 軒の建物跡が確認されている（植木 2010）。また東谷・中島地区内では砂田姥沼遺跡 2 区 SI- 1 と 3 区 SI- 5 が前期の竪穴建物である。この他に西刑部古屋原遺跡 SI-02（145：清水 2002）、砂田東遺跡 B 区 SI-12・13（104：中山 1996）がある。田川東岸の低台地では、粕内遺跡に前期の遺物がある（94：前沢 1979）。

前期末～中期初めの建物は、杉村遺跡北関東自動車道路調査区の 60・69・70 号住居跡（藤田・安藤 2000, p.410）、その北側の立野遺跡 5 区 SI-14（108：内山 2005, pp.122-123,739）、西方の東谷北浦遺跡 SI-139（160：篠原・亀田 2009）がある。

前期古墳と同じく前期の集落も田川西岸の茂原地域に多い。大日塚・愛宕塚古墳下層（75・76：久保編 1990）・愛宕塚東（73：名取他 1998, pp.87-89）・西下谷田（50：今平 2006）の各遺跡に前期前半の集落が見られる。権現山北遺跡で前期後葉の竪穴 1 棟（72：大島編 1979）、上ノ原遺跡で竪穴 6 棟（56：大川他 1992）、殿山遺跡で 1 棟（85：大川他 1995, p.230）が報告されている。田川西岸に面する台地では、木田遺跡（68：栃木県教委 1988, p.77）に前期の竪穴建物がある。やや西方にある西川田川の開析谷では、天狗原遺跡（36：神野 1994）に竪穴 3 棟、留西遺跡（23：宇都宮市 1983, p.317）と留西南遺跡（25：名取他 1996, p.31）に前期の遺物がある。

前期～中期初頭の古墳 田川東岸では、前期古墳が小規模で数も少ない。最初に現れるのは小形方墳で、西刑部古屋原 2・4 号墳（145：辺長 10～14m、清水 2002）や上郷 26・27 号墳（172 の西部：辺長 11～14m、秋元 2000）である。中島笹塚 7・8 号墳も中期初頭の小形方墳と思われる（150：辺長 7.1～12.6m、内山 2008）。この他、権現山遺跡 B 区（112）の土壙墓 2 基が前期末～中期初頭である（谷中他 2001, III-p.284）。

東谷・中島地区から田川をはさんだ対岸（西岸）では、有力な首長墳が築かれる。前方後方墳 3 基を含む茂原古墳群がよく知られている（久保編 1990）。大日塚古墳（75：墳長 35.8m・箱式木棺・素文鏡 1 面）・愛宕塚古墳（76：墳長 50m・舟形木棺・S 字文または重圈文鏡）・権現山古墳（74：墳長 63m）の 3 基で、大形化している権現山古墳が最後に築かれたと推定されている。小形墳としては、牛塚東遺跡で辺長 11m と 6m の方墳（32：今平 1993）、北原東遺跡に辺長 13.0×11.8m の方墳（50 の南端部：安永 2001）、殿山遺跡に「方形周溝墓」2 基（85：大川他 1995, p.7）がある。上神主浅間神社古墳（82 の北端）は墳径 53～54m で、茂原古墳群に続いて方系墳から円墳に転換した中期初頭頃の首長墳である（石部・秋元編 1994）。茂原周辺地域以外では、城南 3 丁目遺跡 2 号墳が方墳の可能性もある（12：今平 1996）。

古墳時代中期の集落 西刑部西原遺跡から確認された古墳時代中期の建物は調査区北部の 14 区で 1 軒（中期末葉：SI- 2）が確認されるのみである。中期集落は周辺に数多い。田川東側地域では、上述した前期末～中期初頭の集落（立野 5 区 SI-14、杉村遺跡 60・69・70 号住居、東谷北浦遺跡 SI-139）の次段階から、東谷・

中島地区周辺に多数の中期集落が現れる。東谷北浦遺跡(160)のSD-77・87が中期初頭の溝で、東谷古墳群の初期首長墳と推定される笹塚古墳(117)のすぐ東北にある。東谷古墳群と周辺遺跡群の形成が中期初頭に東谷北浦遺跡から始まってきたことを示すものかもしれない。その中核である権現山遺跡は、豪族居館(首長居宅)と考えられる施設をSG 1区とSG 5区に含み、周辺の竪穴建物も高密度で(4区・SG 5区・SG10区・北関東自動車道A区)、遺物の質・量も豊富である。

周辺の中期集落群は中核である権現山遺跡と同時か、または少し遅れて現れる。その例は、砂田姥沼遺跡の1区と宇都宮市調査区D区(水野・柏崎 2008)や砂田4・6区(津野他 2007)、立野5・6区周辺(後述)、杉村(藤田他 2000)、磯岡(塚原 1999・藤田他 2000・高野他 2004・津野 2005・栗田 2005)の諸遺跡がある(103,108,146,160,164)。北東方の砂田東遺跡(104:中山 1996)やその東方の成願寺遺跡(144:篠原編 2000)も、東谷・中島地区の諸遺跡と時期をそろえるように形成される。

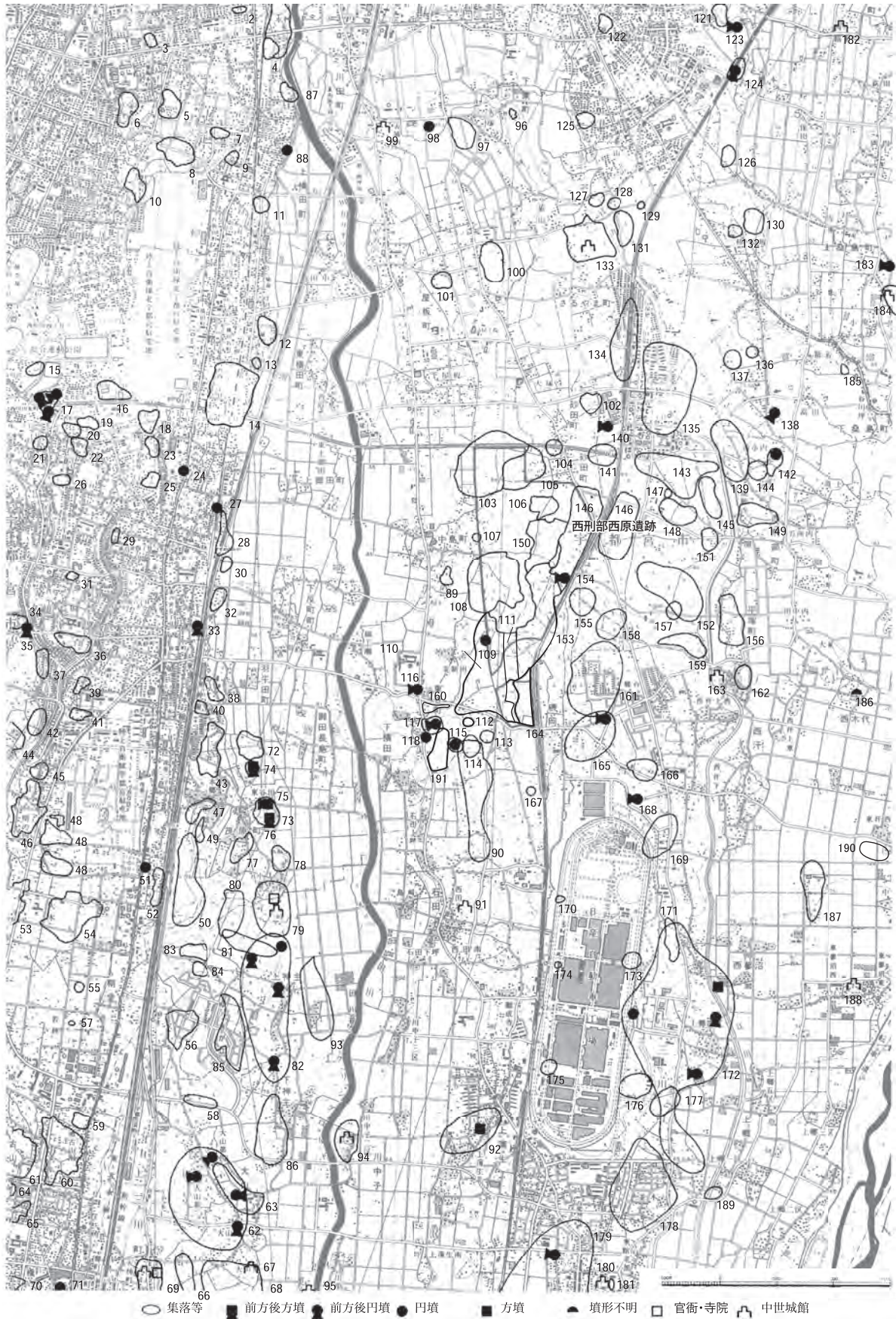
開析谷を挟んで西側集落の立野遺跡と、東側墓域の中期群集墳が対応して営まれる。立野遺跡(108)の5区・6区・宇都宮市調査A地区周辺で調査した91棟の古墳時代竪穴建物は、約半数の44棟が中期で、磯岡北古墳群(153)と中島笹塚古墳群(150)に先行する中期中葉に13棟、中島笹塚古墳群の前中期および磯岡北古墳群に対応する中期後葉に9棟が確認されている。磯岡北古墳群の造営停止後、中島笹塚古墳群の後半期に対応する中期末は立野5・6区周辺の竪穴建物が最も多い時期で、3区の単独建物を含めて21棟ある(内山 2005, pp.735-742; 水野他 2005, p.35)。このうち2棟はそれぞれ辺長14.5mと12mで(宇都宮市調査A地区SI-2・3)、古墳時代を通じて最大級の竪穴建物である。

開析谷の東側でも、少数の集落が形成される。磯岡北遺跡(153)では、磯岡北古墳群の造営前・造営後の竪穴建物6棟がSG17区(内山 2006)・SG11区(藤田 2003)と宇都宮市調査A・B区(勝見 2005)にある。中島笹塚遺跡(150)でも5区に中期(中葉?)の竪穴建物1棟と円筒形土坑3基がある。

田川西岸では、塚山古墳群(17)を中心とする兵庫川・西川田川の谷に大集落が現れる。北若松原遺跡は塚山古墳群とほぼ同じ頃の集落で、竪穴24棟が調査された(16:宇都宮市 1992, p.38; 1994, p.30)。中原(二軒屋)遺跡も同様と思われ(20:寺内他 1939b)、若松原(19)・西原北(22:名取他 1996, p.36)の両遺跡と一連の大集落であろう。若松原遺跡周辺と北若松原遺跡では石製模造品が豊富で、白玉生産を示す未成品も多数採集され(名取他 1998, pp.108-133)、塚山古墳群と対応する拠点集落の手工業生産地区と見てよい。北方の雷電山遺跡にはTK-23～47型式期の特異な長方形竪穴建物群がある(6:今平 1994)。

また、田川西岸で前期の中核地域だった神主台地の茂原周辺にも大集落がある。殿山遺跡(85:大川他 1995)では、首長居宅と見られる辺長50mの方形区画溝の周囲で調査した447棟の竪穴建物の大半が中～後期で、陶質土器(定森 1999)・初期須恵器・鍛冶遺構や、凝灰岩切石の竈焚口枠(水野他 2005, p.36)などを伴う。権現山北遺跡(72)では中期前～中葉の竪穴8棟と中期末葉の1棟を調査した。ここでは権現山4区・立野5区等と同様の円筒形土坑群が、遺物からみて中期の集落に伴うらしい(大島編 1979, pp.132-145)。

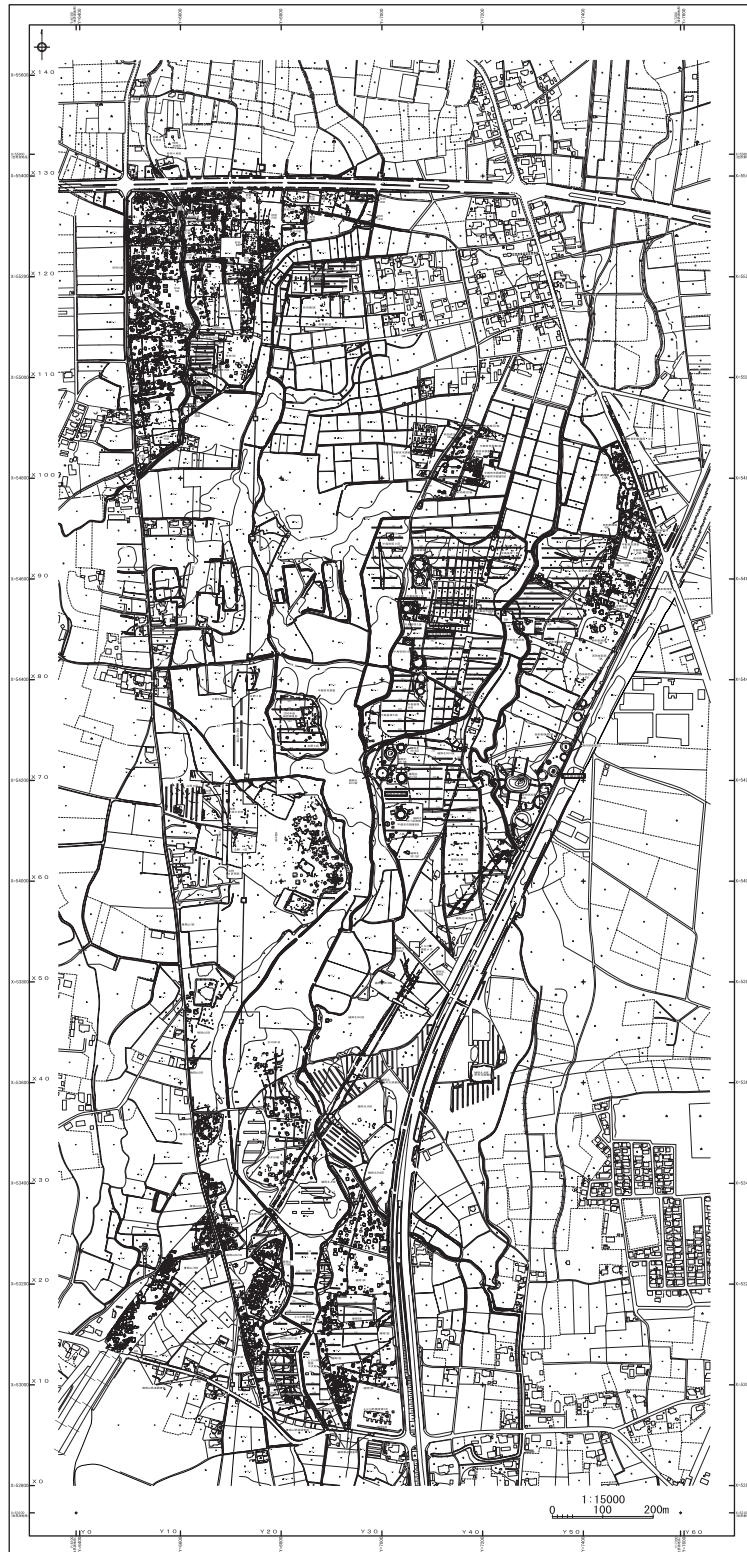
中期古墳 田川東岸では、栃木県域中央部を代表する中期古墳群の東谷古墳群が、東谷・中島地区のすぐ西側に造られる(橋本・谷中 2001)。双子塚(墳長73m)・笹塚(100m:小森 1979, 秋元・今平 1998)の前方後円墳2基と、鶴舞塚(径53m:梁木 1984)・松の塚(48m:谷中他 2001)・権現塚(30m)・車塚(35m)の大形円墳が北西から南東へ順に立地し、おおよその順序で築かれた可能性がある(112-118)。東谷地域における中期後半の首長墳は埴輪のない大形円墳になる。田川東岸で埴輪を持つ中期後葉の前方後円墳は墳長40mの八龍塚古墳がある(179:秋元 1989)。中期群集墳としては東谷古墳群の東半部に含まれる円墳群



第7図 周辺の遺跡分布図

第2表 東谷・中島地区周辺の遺跡

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	本村遺跡	66	舗飛内遺跡	129	猿山東原遺跡
2	隔南1丁目遺跡	67	大山館遺跡	130	柿木坂遺跡・柿木坂古墳群
3	がんセンター東遺跡	68	木田遺跡	131	東原古墳群
4	西原境遺跡	69	多功遺跡	132	西原庚申塚
5	並松遺跡	70	上大領兵行内遺跡	133	さるやま城遺跡・さるやま城古墳群
6	雷電山遺跡	71	長持塚古墳	134	猿山遺跡
7	江曾島北原遺跡	72	権現山北遺跡	135	瑞穂野団地遺跡
8	関道遺跡	73	愛宕塚東遺跡	136	根本西台古墳群
9	江曾島北原南遺跡	74	74 茂原古墳群	137	桑島台古墳群
10	おしめ尽遺跡	74	74 茂原権現山古墳	138	飯塚古墳
11	大房林遺跡	75	75 茂原大日塚古墳	139	藤腰遺跡
12	城南3丁目遺跡	76	76 茂原愛宕塚古墳	140	南原古墳
13	城南3丁目南遺跡	77	77 小蓋遺跡	141	上横田A遺跡
14	宮の内遺跡	78	78 江面遺跡	142	成願寺北遺跡
15	塚山北遺跡	79	79 上神主・茂原遺跡	143	大関台遺跡（小屋原遺跡）
16	北若松原遺跡		茂原城址	144	成願寺遺跡
17	塚山古墳群	80	80 茂原向原遺跡	145	西刑部古屋原遺跡・西刑部古屋原古墳群
	塚山古墳（1号墳）	81	81 後志部遺跡	146	西刑部西原遺跡
	塚山西古墳（2号墳）	82	82 神主古墳群	147	大関高塚群
	塚山南古墳（3号墳）		上神主浅間神社古墳（神主1号墳）	148	中道遺跡
18	一向寺別院付近遺跡		上神主孤塚古墳（神主5号墳）	149	榎戸遺跡
19	若松原遺跡		後志部古墳（神主7号墳）	150	中島笹塚遺跡（中島笹塚古墳群を含む）
20	二軒屋遺跡（中原遺跡）		下原古墳（神主20号墳）	151	後尚塚遺跡
21	旭ヶ丘団地遺跡	83	83 向原遺跡	152	古屋原高塚群
22	西原北遺跡	84	84 向原南遺跡	153	磯岡北遺跡（磯岡北古墳群を含む）
23	留西遺跡	85	85 殿山遺跡	154	琴平塚古墳群
24	十里木遺跡	86	86 薄市遺跡	155	西沼遺跡
25	留西南遺跡	87	87 台内手遺跡	156	平塚原根岸遺跡
26	若松原南遺跡	88	88 大山祇神社古墳	157	不動堂遺跡
27	綾女塚古墳	89	89 芋内遺跡	158	内野遺跡
28	雀宮東浦遺跡	90	90 上石田遺跡	159	下小屋原遺跡
29	雀の宮四丁目遺跡	91	91 石田館跡	160	東谷北浦遺跡
30	雀宮駅東遺跡	92	92 上蒲生の古墳群	161	西赤堀遺跡・西赤堀古墳群
31	大谷田遺跡		十三塚古墳（上蒲生1号墳）	162	南浦遺跡
32	牛塚東遺跡	93	93 後志部東遺跡	163	高島館跡・高島遺跡群
33	雀宮牛塚古墳	94	94 粕内遺跡	164	磯岡遺跡
34	二子塚北遺跡	95	95 梁館跡	165	磯岡・西汗の古墳群
35	針ヶ谷二子塚古墳	96	96 大塚神社古墳群		屋敷東浦愛宕塚古墳（磯岡・西汗3号墳）
36	天狗原遺跡	97	97 下栗念仏塚遺跡	166	西赤堀東遺跡
37	島の前遺跡	98	98 下栗大塚古墳	167	磯岡B遺跡
38	宇都宮機器南遺跡	99	99 東川田城	168	西赤堀孤塚古墳（磯岡・西汗2号墳）
39	赤土山遺跡	100	100 菅谷遺跡	169	西赤堀南遺跡
40	多功神塚古墳群	101	101 赤沢遺跡	170	西田遺跡
41	富士見団地北遺跡	102	102 下桑島西原古墳群	171	西林ノ内遺跡
42	岡田山遺跡	103	103 砂田遺跡	172	上郷の古墳群
43	茂原北原遺跡	104	104 砂田東遺跡		愛宕神社古墳（上郷1号古墳）
44	石川坪遺跡	105	105 砂田瀧遺跡		笹塚古墳（上郷2号墳）
45	富士見向山遺跡	106	106 砂田姥沼遺跡		上郷瓢箪塚古墳（上郷3号墳）
46	明ノ内遺跡	107	107 赤沢高塚群		長塚古墳（上郷D3号墳）
47	西の前遺跡	108	108 立野遺跡		しらみ塚古墳（上郷4号墳）
48	上原遺跡	109	109 稲荷塚古墳（古墳ではなく後世の塚）		上郷26・27号墳
49	前畑遺跡	110	110 権現山遺跡	173	仏沼遺跡
50	西下谷田遺跡（北原東遺跡）	111	111 杉村遺跡	174	願成寺遺跡
51	下古山北原古墳	112	112 東谷古墳群	175	上蒲生遺跡
52	北原遺跡	113	113 権現山遺跡B区（原古墳群）	176	大野遺跡
53	大木遺跡	114	114 車塚古墳群	177	西原遺跡
54	一本松遺跡	115	115 権現塚古墳群	178	島田遺跡
55	若林北遺跡	116	116 松の塚古墳	179	上三川地区の古墳群
56	上ノ原遺跡	117	117 二子塚古墳		八龍塚古墳（上三川1号墳）
57	若林南遺跡	118	118 笹塚古墳	180	上三川城跡
58	大山遺跡	119	119 鶴舞塚古墳	181	大町遺跡
59	谷端北遺跡	120	120 新谷台遺跡	182	石井城跡
60	谷端遺跡	121	121 三日月神社古墳	183	高尾神社古墳
61	東浦遺跡	122	122 三日月神社南古墳群	184	桑島城跡
62	62 大山古墳群	123	123 十ヶ屋敷遺跡	185	根本遺跡
	五社神社古墳（大山1号墳）	124	124 久部浅間山古墳	186	高籠神社古墳（西木代1号墳）
	大山瓢箪塚古墳（大山9号墳）	125	125 久部台古墳群	187	五丁免遺跡
	新出古墳（大山13号墳）		久部愛宕塚古墳（1号墳）	188	中館跡
	長塚古墳（大山D20号墳）	126	126 追金仏遺跡	189	上郷遺跡
63	新出遺跡	127	127 石井久保田古墳群	190	五霊遺跡
64	稲荷塚遺跡	128	128 大久保台山遺跡	191	百目鬼遺跡
65	横塚遺跡		天王山遺跡		



第8図 東谷・中島地区遺跡群全体図

(112:谷中他 2001) と、磯岡北古墳群 (153:内山 2006)・中島笹塚古墳群 (150)・西刑部古屋原 1・3・5・6・7号墳 (145:墳径 14～28m:清水 2002) がある。磯岡北と中島笹塚の古墳群は、立野遺跡 5・6区周辺の集落に対応する墓域と推定される (第7図)。中島笹塚 2・10号墳と磯岡北 3号墳でそれぞれ円墳から小形倭鏡を 1面ずつ出土している点は (とちぎ埋文 2005b)、次に述べる田川西岸の状況と同様である。

田川西岸では、東岸の東谷笹塚古墳に続いて塚山古墳群が現れる (17:宇都宮大 1995・2003)。また、雀宮牛塚古墳が豊富な副葬品を持つ (33:大和久 1969)。塚山 (墳長 98.3m) →塚山西 (63.1m) →雀宮牛塚 (56.7m)・塚山南古墳 (58.0m) の順で、TK-216～23型式期に築かれた可能性が高い。塚山西・南古墳並行期に、本村遺跡 (1:富川 2004) の 2号墳 (径 24m・乳文鏡 1面・銀杏葉文線刻埴輪他)、城南 3丁目遺跡 (12:今平 1996) の 1号墳 (径 12.9m・木棺 2基・乳文鏡 1面) など、副葬品がやや豊富な中小古墳がつくられる。

古墳時代後期・終末期の集落 砂田姥沼遺跡の他、権現山遺跡、立野遺跡 5・6区周辺 (108:内山 2005, p.742) の古墳時代集落は終末期前半 (8段階=7世紀前半)、砂田姥沼遺跡や杉村遺跡も終末期後半 (9段階=7世紀後半) までには衰退する。中期集落の項で上述した周辺各遺跡も、多くが同様な状況を示す。

それに代わって、砂田遺跡 (103:藤田他 2002・中山他 2005・津野他 2007) と、東側の岡本台地上にある西赤堀 (161:安藤 1996・亀田 2007)・瑞穂野団地 (135:岩上他 1978)・大関台 (143:杉浦 2001) の各遺跡が中心的な集落になってゆく。西刑部西原遺跡もこの例に漏れず、この時期から急激に遺構数が増え、特に 7世紀前半から中葉にかけては 40軒もの竪穴建物跡が確認されている。竪穴建物跡の増加と期を同じくして円形周溝遺構も増え、時期の推定できるもので 6基が認められる。

砂田姥沼遺跡は 1区～3区に 17棟の竪穴があるが、部分的な調査になるが宇都宮市調査区 (大塚他 2007) 3棟・B区 (小林・大橋 2007) 1棟・C区 (白崎・岩崎 2008) 3棟・D区 (水野・柏崎 2008) 9棟・E区 (佐々木他 2008) 1棟の竪穴が確認され、併せて 34棟にも及ぶ後～終末期の集落がある。2区には宇都宮市調査 C区や 3区へと続く大溝、その大溝に降りる通路状遺構が 3基あり、後～終末期にかけて使用された可能性がある。

また、後期から出現する集落も見られる。中期群集墳が形成された中島笹塚・磯岡北遺跡では、墓域が消滅する後期以降に集落が現れる (150・153)。中島笹塚遺跡では、部分的な調査で後～終末期集落が知られ、一部は奈良時代へ続く可能性がある。磯岡北遺跡は、宇都宮市調査 B区 (勝見 2005) と SG3区・SG11区 (藤田 2003) に終末期の建物が知られる。

田川の西岸地域でも同様な状況がある。神主台地の中核的集落として中期から続く殿山遺跡 (85) は、後期には向原遺跡 (83:大川・三輪 2000) や向原南遺跡 (84:大川・吉岡他 1992) も加わり、終末期前半まで継続する。権現山北遺跡 (72) も後期後半までは集落がみられる。殿山遺跡 KT-100などを最後として、終末期後半にはこれらの集落群が消滅し、南側の薄市遺跡 (86:秋元編 1988) と北側の西下谷田遺跡 (50:板橋編 2003, 2006・今平 2008) に中心が移る。西下谷田遺跡は竪穴建物 86棟と掘立柱建物 45棟の他に門を持つ 150×108mの板塀区画施設を含み、河内評家かと考えられている (板橋 2007)。

中期後半における田川西岸地域の中心であった塚山古墳群周辺の集落は、後期以後の状況が不明確である。弥生後期・古墳前期の項でも触れた天狗原遺跡 (36) では、古墳後期の竪穴建物や、立野 5区と同様の円筒形土坑・円形周溝遺構がある。関道遺跡 (8:赤石澤 1988) は古墳後期～奈良時代まで続くようである。

後期・終末期古墳 田川東岸の後期前半では、琴平塚 1号墳が最大の古墳である (154:長 52m・二重周溝、中村 2004)。ただし中期末の可能性もある。笹塚古墳以降の東谷・中島地区周辺でしばらく途絶えていた前

方後円墳と埴輪樹立がここで再開する。他に、墳長 31m のしらみ塚古墳がある（172 の西部：秋元 2000）。田川西岸の後期前半では、墳長 48.8m の上神主狐塚古墳が最大である（82 の北西部：石部・秋元編 1995）。琴平塚 1 号・上神主狐塚・しらみ塚は、いずれも前方部が短い帆立貝形前方後円墳である。琴平塚 1 号墳を中心として後期前半から群集墳が形成される（中村 2004）。下桑島西原古墳群（102：今平他 2002）では後期前半の円墳 2 基と後期後半の墳長 35m の前方後円墳 1 基（140：南原古墳）が知られ、周溝内の木棺直葬・竪穴式小石室や、古墳外の土壙墓も見られる点が琴平塚古墳群と同様な時期・群構成である。

後期後半に古墳が増えて群集墳が盛行し、その中に前方後円墳が所在する（中村 2004, p.190）。田川東岸では墳長 68m の上郷瓢箪塚古墳が最大である（172 の東端：前澤 1979, p.414）。東谷・中島地区では琴平塚 3・5 号墳（長 25.0 m と 23.7m）がある。周辺に長 50.5m の久部愛宕塚（124：梁木他 1995）、32～38m の根本西台 1・2・5 号墳（136：水野他 2008b・c）、38.5m の飯塚古墳（138：斎藤他 2003）、30～40m の西刑部古屋原 8 号墳（152：清水 2002）、42m の西赤堀 1 号墳と 27m の同 2 号墳（161：安藤編 1996）、39m の西赤堀狐塚（168：大川・水野他 1987/ 中山・井他 2005）、36m の高尾神社古墳（183：内山 1998, 2000）などがある。墳長 36 m の屋敷東浦愛宕塚古墳（165：前澤 1979, p.398）も後期後半と推定される。径 43.5m の下栗大塚古墳は終末期大形円墳と想定される（98：宇都宮市 1996, pp.2-3）。後～終末期群集墳は成願寺（144：篠原編 2000）・西赤堀（161：安藤 1996・亀田 2007）両遺跡、単独所在の小形方墳が立野遺跡 5 区にある（108：内山 2005）。

田川西岸では、推定長 45m 以上の本村 3 号（1 の北部：水野他 2007）、40～50m の綾女塚（27：秋元・飯田他 1998）、30～40m 前後の針ヶ谷二子塚（35：宇都宮市 1990）、43m の大山瓢箪塚（62 の南端：前澤 1979）、47.4m の後志部（82 の中央：石部他 1998）が後期後半の前方後円墳である。墳形不明の十里木古墳（24：宇都宮市 1998, p.16）は切石石室で 7 世紀初葉とされる（秋元・飯田他 1998, pp.114,128）。市街地化していない地域では、これら首長墳の周囲に群集墳を確認できる（1 本村古墳群・62 大山古墳群・82 神主古墳群）。また、円墳だけの古墳群もみられる（50 西下谷田古墳群：今平 2008）。

奈良・平安時代 西刑部西原遺跡では奈良時代に入り再び遺構数の増加が見られる。特に 3 区を中心に 8 世紀前葉には 19 棟の竪穴建物跡が確認され、8 世紀中葉から後半にかけ更に 21 棟の竪穴建物跡が調査された。この時期は竪穴建物以外では大型の掘立柱建物跡（3 区 SB-100）や井戸跡も 6 本確認されている。また 3 区 SK-45、7 区 SX-7、9 区 SX-25 は円形有段遺構と考えられる。平安時代になると遺構数は激減し、竪穴建物跡は 9 棟に留まる。注目される遺構としては井戸跡（3 区 SE-23）がある。「来」の墨書をもつ須恵器坏類の他、居木をはじめとする多くの木製品・自然遺物が出土している。

砂田姥沼遺跡では奈良時代以降の建物は少なく、3 区に 9 世紀代の 2 棟があり、大溝とその溝に降りる通路状遺構（10 段階・11 段階＝8 世紀前半）の 2 基がある。杉村遺跡では GN 1 区に 1 棟と北関東自動車道調査区（藤田・安藤 2000）に 2 棟の奈良時代前葉の竪穴建物があり、未報告書であるが権現山 SG10 区（旧称は杉村 X 区：とちぎ埋文 2000, p.32）で 9 世紀代の 1 棟がある。また、古代の溝が権現山 SG 1 区に 1 条ある。権現山・杉村遺跡・磯岡北・杉村北・西刑部西原遺跡に続く古代道路状遺構は東山道と推定されている（藤田 2003・亀田 1999）。上記の遺跡にはこの道路状遺構以外は古代の遺構・遺物が少ない。立野遺跡（108）でも古代の遺構が希薄で、5 区に奈良時代末頃の単独建物がある。立野遺跡では 4・7・8 区の大溝と、その溝に降りる 2 区の通路遺構が注意される（内山 2005, pp.748-749）。東に隣接する磯岡北 SG 3・SG 4 区でもそれぞれ単独の竪穴建物がある（藤田 2003, pp.167-172, 177-179）。磯岡北遺跡の各古墳や中世溝にも 7 世紀末～奈良時代の須恵器が少量混入していた（153：内山 2006）。中島笹塚遺跡では古墳終末期～奈良

時代の集落と、奈良時代の溝を通過する道路状遺構（8区）を調査した。東側の磯岡遺跡（164）でも8～9世紀代の竪穴・掘立柱建物が少数あり、漆紙文書の具注曆（塚原編 1999, pp.442-445）と円面硯・獸脚・鉄鉢形土器（津野 2005, p.103,112,117,294）が見られる。

東側の高位台地上に大規模な古代の集落 - 猿山（134：川原他 1981; 常川他 1978）・瑞穂野団地（135：岩上他 1978; 水野他 2008b）・大関台（143：杉浦 2001）・西刑部西原3区（146：とちぎ埋文 2001）・西赤堀（161：前澤 1976・安藤 1996・亀田 2007）がある。遺跡の立地が総じて東へ進むことが指摘されている（橋本 2002, p.13）。

東谷・中島地区遺跡群の多くが立地する田原低台地では、砂田遺跡が最も大規模である（103：芹澤 1993/ 藤田・田代 2002/ 中山・青木他 2005/ 津野・篠原・今平 2007）。8世紀代に掘立柱建物跡の比率が高い集落である。砂田3区 SI-97 に「中嶋」の墨書土器があり、『倭名鈔』の郷名に見られない「中島」の地名が9世紀から現代まで続くことを示した（藤田他前掲）。同遺跡5区の墨書土器から9世紀中～後葉に「大麻」部集団等が居住したと解釈されている（津野他前掲, p.687）。県調査分の砂田24区（津野他前掲）や宇都宮市調査分のA地区（中山・青木他 2005）では、旧河道に降りてゆく古墳後期と平安時代の水場遺構がある。

田川西岸台地にある上神主・茂原遺跡（79：秋元・保坂 1999; 深谷他 2003）は、西下谷田遺跡を引き継いで7世紀後葉に成立する。推定東山道に取り付く位置にあり、奈良時代の河内郡家政庁と、人名瓦を伴う瓦葺倉を含む正倉群と考えられている。また、多功遺跡（69：秋元他 1997）も河内郡衙と推定されている。

中世 西刑部西原遺跡では明確な中世の遺構は確認できなかった。但し調査4区から和鏡が単独で出土していることから、時期不明の土坑や溝などに一部中世の遺構が含まれる可能性は十分ある。和鏡（群蝶双雀鏡）は完形品で、その特徴から鎌倉時代の所産と考えられる。砂田瀧遺跡では中世の遺構は、土坑1基・井戸1本がある。砂田姥沼遺跡では宇都宮市調査B区（小林・大橋 2007）で土坑1基・溝1条、C区（白崎・岩崎 2008）には土坑3基・溝2条、D区（水野・柏崎 2008）に土坑3基・溝1条・井戸1本がある。遺物には陶器片・土師質土器片・砥石が認められている。権現山遺跡 SG 1区では不整形の区画溝内に13世紀後半～14世紀前半を中心とする竪穴遺構2基・土坑2基・井戸1本が認められた。方形区画溝は未報告であるが権現山 SG10区にもあり、区画内外に柱穴群や井戸を伴う（とちぎ埋文 2000, p.32）。すぐ北側の立野遺跡（108）では、5区に方形区画溝・8区に方形竪穴遺構1基（内山 2005）、宇都宮市調査A地区に方形竪穴遺構群（水野他 2005）がある。

台地の東端から西端まで、古墳群の周溝をも連結・利用しながら伸びる13世紀ころの長い溝が、磯岡北古墳群の北端部に認められる（磯岡北遺跡 SG12・SG 16～17区）。常滑産陶器・青磁碗・かわらけが見られ、磯岡北古墳群周辺を中世に利用していたようである。集落に関わる遺構としては方形竪穴があり、磯岡北遺跡 SG 3区で1基（153：藤田 2003, p.173）と、同じく磯岡北遺跡の一部に含まれる「杉村北遺跡」（亀田 1999）で2基が確認され、後者では井戸が隣接している。

東谷・中島地区の周辺は、鎌倉・室町時代において宇都宮氏および芳賀氏の支配下にあったことが知られている。小規模な城館として刑部城（186の北東1km）・桑島城（184）・高島館（163）がある。また北方には石井城（182）・さるやま城（133：宇都宮市 2005b, p.12）があり、これらの分布から、中世から鬼怒川低地の開発が本格的に行われたものと考えられている（橋本 2002, p.19）。大関台遺跡（143）では長辺80mの方形区画溝を戦時の臨時拠点と考える意見がある（杉浦 2001, p.386）。立野遺跡5区や権現山遺跡 SG 1区・SG10区の方形区画溝はより小規模で溝も浅く、大関台遺跡と同様な性格と考えてよいかどうかは不詳である。

(第2章第2節 参考文献)

- 赤石澤亮 1988『関道遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第25集 宇都宮市教育委員会
- 秋元陽光編 1988『薄市遺跡・大山遺跡』上三川町埋蔵文化財調査報告第7集 上三川町教育委員会(栃木県河内郡)
- 秋元陽光編 1989『八龍塚古墳』上三川町埋蔵文化財調査報告第8集 上三川町教育委員会(栃木県河内郡)
- 秋元陽光編 2000『上三川町の古墳』I 上三川町埋蔵文化財調査報告第21集 上三川町教育委員会(栃木県河内郡)
- 秋元陽光 2003「上三川町における古墳の素描-古墳から見た古墳時代集団の抽出-」『栃木の考古学』塙静夫先生古稀記念論文集「栃木の考古学」刊行会(宇都宮) pp.225-238.
- 秋元陽光・飯田光央・篠原真理 1998「綾女塚古墳の課題」『栃木県考古学会誌』第19集 栃木県考古学会 宇都宮 pp.109-133.
- 秋元陽光・大橋泰夫 1988「栃木県南部の古墳時代後期の首長墓の動向」『栃木県考古学会誌』第9集 栃木県考古学会 宇都宮 pp.7-40.
- 秋元陽光・君島利行・諏訪間伸・藤田典夫・植木茂雄 1985『大町遺跡』上三川町埋蔵文化財調査報告第5集 上三川町教育委員会(栃木県河内郡)
- 秋元陽光・今平利幸 1998「宇都宮市東谷笹塚古墳出土の遺物」『峰考古』第13号 宇都宮大学考古学研究会 宇都宮 pp.41-64.
- 秋元陽光・保坂知子・及川真紀 1997『多功遺跡』III 上三川町埋蔵文化財調査報告第16集 上三川町教育委員会(栃木県河内郡)
- 秋元陽光・保坂知子 1999『上神主・茂原遺跡』I 上三川町埋蔵文化財調査報告第19集 上三川町教育委員会(栃木県河内郡)
- 安藤美保編 1996『西赤堀遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第178集 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
- 五十嵐利勝 1979「権現山北遺跡採集の石器について」『権現山北遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第5集 宇都宮市教育委員会 pp.177-182.
- 五十嵐利勝 1981「宇都宮市二軒屋遺跡発掘調査報告」『下野考古学』2 下野考古学研究会 宇都宮 pp.1-140.
- 石部正志・秋元陽光編 1994『上神主浅間神社古墳・多功大塚山古墳』上三川町埋蔵文化財調査報告第12集 上三川町教育委員会(栃木県河内郡)
- 石部正志・秋元陽光編 1995『上神主孤塚古墳』上三川町埋蔵文化財調査報告第13集 上三川町教育委員会(栃木県河内郡)
- 石部正志・秋元陽光・飯田光央編 1998『後志部古墳』上三川町埋蔵文化財調査報告第17集 上三川町教育委員会(栃木県河内郡)
- 板橋正幸編 2003『西下谷田遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第273集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 板橋正幸編 2006『西下谷田遺跡II』栃木県埋蔵文化財調査報告第297集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 板橋正幸 2007「県内の郡内複数官衙について-古代下野国河内郡を中心として-」『上神主・茂原官衙遺跡の諸問題』栃木県考古学会 宇都宮 pp.51-64.
- 岩上照朗・石橋知明編 1978『宇都宮市瑞穂野田遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第4集 宇都宮市教育委員会
- 植木茂雄 2010『西刑部西原遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第329集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 内山敏行 1998「宇都宮市上桑島町 高尾神社古墳発掘調査報告(1)」『栃木県埋蔵文化財保護行政年報』20 平成8年度(1996) 栃木県埋蔵文化財調査報告第217集 栃木県教育委員会 pp.117-137.
- 内山敏行 2000「宇都宮市上桑島町 高尾神社古墳発掘調査報告(2)」『栃木県埋蔵文化財保護行政年報』22 平成10年度(1998) 栃木県埋蔵文化財調査報告第233集 栃木県教育委員会 pp.97-121.
- 内山敏行 2005『東谷・中島地区遺跡群5 立野遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第290集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 内山敏行 2006『東谷・中島地区遺跡群7 磯岡北古墳群』栃木県埋蔵文化財調査報告第299集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 内山敏行 2008『東谷・中島地区遺跡群9 中島笹塚古墳群・中島笹塚遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第311集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 内山敏行 2010『東谷・中島地区遺跡群10 権現山遺跡北部・杉村遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第331集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 宇都宮市教育委員会社会教育課編 1983『宇都宮の遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第10集
- 宇都宮市教育委員会文化課 1990～2009『宇都宮市文化財年報』第6号〔平成元年度〕～第25号〔平成20年度〕
- 宇都宮大学考古学研究会 1995「塚山古墳外形確認調査報告」『峰考古』第9号
- 宇都宮大学考古学研究会 2003『塚山西古墳 塚山南古墳』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第48集 宇都宮市教育委員会
- 江原美奈子・深谷昇 2004『島田遺跡』III 縄文時代編1 上三川町埋蔵文化財調査報告第28集 上三川町教育委員会(栃木県河内郡)
- 江原美奈子・深谷昇 2005『島田遺跡』IV 縄文時代編2 上三川町埋蔵文化財調査報告第31集 上三川町教育委員会(栃木県河内郡)
- 江原美奈子・深谷昇 2006『島田遺跡』V 縄文時代編3 上三川町埋蔵文化財調査報告第33集 上三川町教育委員会(栃木県河内郡)
- 海老原郁雄 2004「アメリカ式石鏃とその周辺」『唐澤考古』第23号 唐澤考古会 佐野 pp.1-16.
- 大川清・水野順敏・矢野淳一 1987『栃木県上三川町 西赤堀孤塚古墳』上三川町教育委員会(栃木県河内郡)
- 大川清・三輪孝幸 2000『向原遺跡』上三川町埋蔵文化財調査報告第22集 上三川町教育委員会(栃木県河内郡)
- 大川清・吉岡秀範・三輪孝幸・中島雄一 1992『栃木県上三川町 上ノ原・向原南遺跡』日本窯業史研究所報告第43冊 馬頭(栃木県那須郡)
- 大川清・吉岡秀範・三輪孝幸・中島雄一 1995『栃木県上三川町 殿山遺跡I』日本窯業史研究所報告第46冊 馬頭(栃木県那須郡)
- 大島和子編 1979『権現山北遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第5集 宇都宮市教育委員会
- 大関利之 1992「宇都宮市柿木坂遺跡の加曾利E式土器」『栃木県考古学会誌』14 宇都宮 pp.93-100.
- 大和久震平 1969『雀宮牛塚古墳』宇都宮市教育委員会(1984年『牛塚古墳』として再版)
- 小野麻人(東京航空研究所編) 2007『砂田姥沼遺跡 B区』宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第64集 宇都宮市教育委員会
- 勝見一品(埋蔵文化財発掘調査支援同組合編) 2005『磯岡北遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第53集 宇都宮市教育委員会
- 亀田幸久 1999『杉村北遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第221集 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
- 亀田幸久 2007『西赤堀遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第304集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 亀田幸久 2008「宇都宮市立野遺跡の縄文草創期土器について」『唐澤考古』27 唐澤考古会 佐野 pp.29-32.
- 亀田幸久 2012『東谷・中島遺跡群12 西刑部西原遺跡(旧石器・縄文・弥生時代編)』栃木県埋蔵文化財調査報告第354集 栃木県教育委員会・

(財) とちぎ未来づくり財団

- 川原由典・中山晋 1981『猿山遺跡 付久部台古墳群』栃木県埋蔵文化財調査報告第38集 栃木県教育委員会
- 神野安伸 1994『天狗原遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第34集 宇都宮市教育委員会
- 久保哲三編 1990『茂原古墳群』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第28集 宇都宮市教育委員会
- 倉田芳郎編 1971『栃木日産遺跡』先史7 駒沢大学考古学研究会 東京
- 栗田欣行 2005『磯岡遺跡第2次調査報告』上三川町埋蔵文化財調査報告第32集 上三川町教育委員会(栃木県河内郡)
- 小森哲也 1979「宇都宮市笹塚古墳出土の円筒埴輪の年代的位置づけ」『峰考古』第2号 宇都宮大学考古学研究会 宇都宮 pp.60-83.
- 今平利幸 1993『牛塚東遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第32集 宇都宮市教育委員会
- 今平利幸 1994『雷電山遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第34集 宇都宮市教育委員会
- 今平利幸 1996『城南3丁目遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第39集 宇都宮市教育委員会
- 今平利幸 2006『西下谷田遺跡-弥生・古墳時代前期編-』宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第56集 宇都宮市教育委員会
- 今平利幸 2008『西下谷田遺跡-古代編Ⅱ-』宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第65集 宇都宮市教育委員会
- 今平昌子 1999『一本松遺跡・文珠山遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第230集 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
- 今平昌子 2012『東谷・中島地区遺跡群 13 砂田遺跡(10区・12区・13区・16区・27区)』栃木県埋蔵文化財調査報告第355集 栃木県教育委員会・(財) とちぎ未来づくり財団
- 今平利幸・梁木誠 2002『下桑島西原古墳群』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第30集 宇都宮市教育委員会
- 斎藤恒夫・鈴木宣孝・栃木さや・大塚伸子 2003「宇都宮市飯塚古墳測量調査報告」『峰考古』第14号 宇都宮大学考古学研究会 宇都宮 pp.1-10.
- 定森秀夫 1999「陶質土器から見た東日本と朝鮮」『青丘学術論集』第15集 韓国文化研究振興財団 東京 pp.5-93.
- 篠原浩恵編 2000『成願寺遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第239集 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
- 篠原祐一・亀田幸久 2009『権現山遺跡・東谷北浦遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第318集 栃木県教育委員会・(財) とちぎ生涯学習文化財団
- 清水正幸 2002『西刑部古屋原遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第46集 宇都宮市教育委員会
- 下野考古学研究会 1993「石川坪遺跡」『下野考古学』19 宇都宮
- 白崎智隆(埋蔵文化財発掘調査支援協同組合編) 2008『砂田姥沼遺跡(C区)』宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第62集 埋蔵文化財発掘調査支援協同組合・宇都宮市教育委員会
- 白崎智隆(埋蔵文化財発掘調査支援協同組合編) 2010『西刑部西原遺跡(E区)』宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第76集 埋蔵文化財発掘調査支援協同組合・宇都宮市教育委員会
- 杉浦昭博編 2001『大関台遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第251集 栃木県教育委員会・(財) とちぎ生涯学習文化財団
- 鈴木正博 1991「栃木『先史土器』研究の課題」『古代』第91号 早稲田大学考古学会 東京 pp.133-171.
- 芹澤清八 1993『砂田A遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第132集 栃木県教育委員会
- 芹澤清八 2003「大曲北遺跡出土尖頭器の再評価」『栃木県考古学会誌』24 栃木県考古学会 宇都宮 pp.5-20.
- 高野浩之・戸部孝一・深谷昇・平岡和夫 2004『磯岡遺跡』上三川町埋蔵文化財調査報告第29集 都市基盤整備公団・上三川町教育委員会・山武考古学研究所
- 田代 寛 1968『鉢木遺跡の袋状土壌』塩谷郷土史館研究報告第2集 氏家(栃木県塩谷郡)
- 田代己佳 1996『宮の内A遺跡・宮の内B遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第175集 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
- 塚原孝一編 1999『東谷・中島地区遺跡群 No.1 磯岡遺跡(I区)』栃木県埋蔵文化財調査報告第229集 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
- 常川秀夫・山野井清人 1978『猿山A遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第24集(原本では第20集と記載) 栃木県教育委員会
- 津野 仁 2005『東谷・中島地区遺跡群6 磯岡遺跡(2~7区)』栃木県埋蔵文化財調査報告第292集 栃木県教育委員会・(財) とちぎ生涯学習文化財団
- 津野 仁・篠原浩恵・今平昌子 2007『東谷・中島地区遺跡群8 砂田遺跡(4~6・18・19・23・24区)』栃木県埋蔵文化財調査報告第305集 栃木県教育委員会・(財) とちぎ生涯学習文化財団
- 寺内武夫・篠崎善之助 1939a「下野中原遺跡調査概報-第一回-」『考古学』10-10 東京考古学会 pp.514-527.
- 寺内武夫・篠崎善之助 1939b「下野中原遺跡調査概報-第二回-」『考古学』10-11 東京考古学会 pp.537-555.
- 栃木県教育委員会事務局文化課 1988『栃木県埋蔵文化財保護行政年報(昭和62年度)』栃木県埋蔵文化財調査報告第99集
- 栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1997『埋蔵文化財センター年報』第7号(平成9年度)
- 栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999『埋蔵文化財センター年報』第9号(平成11年度)
- 栃木県立なす風土記の丘資料館 1999『栃木の遺跡』第7回企画展図録 小川(栃木県那須郡) p.45
- とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2000『埋蔵文化財センター年報』第10号(平成12年度版)
- とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2001『埋蔵文化財センター年報』第11号(平成13年度版)
- とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2002『埋蔵文化財センター年報』第12号(平成14年度版)
- とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2003『埋蔵文化財センター年報』第13号(平成15年度版)
- とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2004『埋蔵文化財センター年報』第14号(平成16年度版)
- とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2005a『埋蔵文化財センター年報』第15号(平成17年度版)
- とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2005b「中島笹塚遺跡と磯岡北遺跡」『栃木県埋蔵文化財センターだより やまかいどう』No.39 栃木県教育委員会 p.5.
- とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2006a『埋蔵文化財センター年報』第16号(平成18年度版)
- とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2006b「砂田姥沼遺跡3区」『栃木県埋蔵文化財センターだより やまかいどう』No.41 栃木県教育委員会 p.5.
- とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2007『埋蔵文化財センター年報』第17号(平成19年度版)
- 富川 努 2004『本村遺跡(弥生・古墳編)』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第49集 宇都宮市教育委員会
- 中村享史 2004『東谷・中島地区遺跡群4 琴平塚古墳群』栃木県埋蔵文化財調査報告第283集 栃木県教育委員会・(財) とちぎ生涯学習文化財団
- 中山 晋 1996『砂田東遺跡・上横田A遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第176集 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団

第2章 遺跡の環境

- 中山哲也・井 博幸・三輪孝幸（日本窯業史研究所編）2005『西赤堀塚古墳第2次調査報告』上三川町埋蔵文化財調査報告第30集 上三川町教育委員会
- 中山哲也・青木健二・倉田有子（日本窯業史研究所編）2005『砂田遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第54集 宇都宮市教育委員会
- 名取昌昭・武藤健三・五十嵐利勝 1994「宇都宮市二軒屋遺跡第二次調査報告」『下野考古学』21 下野考古学研究会 宇都宮 pp.1-146.
- 名取昌昭・武藤健三・五十嵐利勝 1996「雀宮周辺の分布調査 6」『下野考古学』24 下野考古学研究会 宇都宮 pp.1-60.
- 名取昌昭・武藤健三・五十嵐利勝 1998「雀宮周辺の分布調査 補足編」『下野考古学』26 宇都宮
- 橋本澄朗・谷中隆 2001『東谷古墳群』と権現山遺跡・百日鬼遺跡『権現山遺跡・百日鬼遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第257集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 橋本澄朗 2002「大谷磨崖仏造像の歴史的背景について」『研究紀要』10 (財)とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター pp.1-20.
- 土生朗治・越智徹・富川努 2008『中島笹塚遺跡(A区)』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第63集 山武考古学研究所・宇都宮市教育委員会 ※西刑部西原遺跡(C区・D区)を含む
- 土生朗治・宮田和男・越智徹・大塚雅之(山武考古学研究所編)2007a『西刑部西原遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第59集 宇都宮市教育委員会 ※西刑部西原遺跡A区
- 土生朗治・宮田和男・越智徹・大塚雅之(山武考古学研究所編)2007b『砂田姥沼遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第60集 宇都宮市教育委員会
- 深谷昇・梁木誠・田熊清彦 2003『上神主・茂原官衙遺跡』上三川町埋蔵文化財調査報告第27集・宇都宮市埋蔵文化財調査報告第47集 上三川町教育委員会・宇都宮市教育委員会
- 藤田直也・田代隆 2002『東谷・中島地区遺跡群2 砂田遺跡(1区・2区・3区)』栃木県埋蔵文化財調査報告第265集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 藤田直也 2003『東谷・中島地区遺跡群3 推定東山道関連地区』栃木県埋蔵文化財調査報告第274集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 藤田直也 2011『東谷・中島地区遺跡群11 砂田姥沼遺跡(1区・2区・3区)・砂田瀧遺跡(1区・2区・3区)』栃木県埋蔵文化財調査報告第337集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 藤田典夫・安藤美保編 2000『杉村・磯岡・磯岡北』栃木県埋蔵文化財調査報告第241集 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
- 前澤輝政 1976『西赤堀遺跡』上三川町教育委員会
- 前澤輝政 1979「原始・古代編」上三川町史編さん委員会編『上三川町史』資料編 原始・古代・中世 上三川町
- 増淵純子・築島佐知子 1985「宇都宮市茂原町愛宕塚東遺跡採集の弥生土器」『峰考古』第5号 宇都宮大学考古学研究会 pp.15-21.
- 水野順敏・河野一也・栗田欣行(日本窯業史研究所編)2005『立野遺跡(A地区)』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第55集 宇都宮市教育委員会
- 水野順敏・柏崎広伸・井 博幸・三辻利一・三輪孝幸(日本窯業史研究所編)2007『本村古墳群・本村遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第58集 宇都宮市教育委員会
- 水野順敏・柏崎広伸(日本窯業史研究所編)2008a『砂田姥沼遺跡(D区)』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第67集 宇都宮市教育委員会
- 水野順敏・柏崎広伸 2008b『みずほの台遺跡群(根本西台古墳群第2次・瑞穂野団地遺跡東地区)』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第68集 宇都宮市教育委員会
- 水野順敏・柏崎広伸 2008c『みずほの台遺跡群II(根本西台古墳群第3次・西刑部上原遺跡)』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第69集 宇都宮市教育委員会
- 森嶋秀一 2004「204.上三川町・宇都宮市上神主・茂原官衙遺跡出土の大型尖頭器」『Aesculus』No.22 Aesculus 同人(栃木県石器時代研究会) 宇都宮 pp.1-3.
- 安永真一 2001『上神主・茂原 茂原向原 北原東』栃木県埋蔵文化財調査報告第256集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 谷中隆・大島美智子編 2001『権現山遺跡・百日鬼遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第257集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 梁木誠 1984『鶴舞塚古墳』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第13集 宇都宮市教育委員会
- 梁木誠・今平利幸 1995『久部愛宕塚古墳・谷口山古墳・御蔵山古墳』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第37集 宇都宮市教育委員会
- 山崎芳家 1970「宇都宮市兵庫塚A地点・B地点および針ヶ谷遺跡について」『足跡』2 宇都宮学園高等学校地理・歴史研究会 宇都宮 pp.22-26.
- 渡辺邦夫・上野修一 1993「宇都宮市石川坪遺跡出土の石製品」『Aesculus』19 Aesculus 同人 宇都宮 pp.15-16.

第3章 発見された遺構と遺物

第1節 調査の概要

調査区と遺構

西刑部西原遺跡は東谷・中島土地区画整理事業地内の北東部に位置し、岡本・磯岡台地の西側縁辺上にあたる。小河川を挟んだ西側の中島笹塚遺跡は田原・成願寺台地東側縁辺部となる。遺跡の標高は南端部で85.0 m前後、北端部で87.5 m前後と遺跡内の傾斜は2/1,000～3/1,000程度の非常に緩やかな傾斜となっている。また西側の低地に緩やかに傾斜しているが、居住域は概ね平坦面に立地していると言えよう。

西刑部西原遺跡のうち、東谷・中島土地区画整理事業地内（以下センターUR調査区と仮称）は13の調査区に分け調査を実施した。ここでは、前述した琴平塚古墳群と道路遺構（推定東山道）以外にも、既に調査報告がなされている、宇都宮市教委調査区域と、県道拡幅に伴い埋蔵文化財センターで調査した区域の状況を若干補足してみたい。

宇都宮市教委調査A・B区

調査年度 平成18（2006）年度 **原因** 民間開発（山品商事株式会社） **面積** 1,000 m² **概要** センターUR調査区の9・10区南西部に近接。古墳時代中期から～平安時代の竪穴建物跡12軒のほか掘立柱建物跡2棟、土坑・小ピット・溝等を調査。注目される遺物としては平安時代の住居跡から鋸が出土している。古墳時代以前の遺構・遺物は確認できなかった。

宇都宮市教委調査C・D区

調査年度 平成19（2007）年度 **原因** 民間開発（福田屋百貨店） **面積** 1,700 m² **概要** 古墳時代後期から奈良・平安時代の竪穴建物跡8軒、土坑8基、小ピット17基、溝11条などを調査。センターUR調査区の4区北西部に近接する。限られた調査範囲であったが、C区から住居跡が集中して確認され、遺構密度が希薄と考えられていた遺跡西部においてその居住域を確認することができた。古墳時代以前の遺構・遺物は確認できなかった。

宇都宮市教委調査E区

調査年度 平成21（2009）年度 **原因** 民間開発（有限会社日環） **面積** 4,400 m² **概要** 古墳時代後期から～平安時代の竪穴建物跡17軒、掘立柱建物跡19棟、柵列1列、円形周溝遺構6基、円形有段遺構1基、土坑・溝・小穴多数が出土した。E区はセンターUR調査区の3区と境を接しており、ここは最も集落の密集する区域となっている。遺構数のピークは7世紀中葉～後葉と、9世紀中葉～後葉の2時期に亘り、竪穴住居跡と掘立柱建物跡を伴った遺構群が集中することが判明した。古墳時代以前の遺構・遺物は、縄文時代の土坑3基と、中期の土器片及び石鏃がそれぞれ1点出土した。

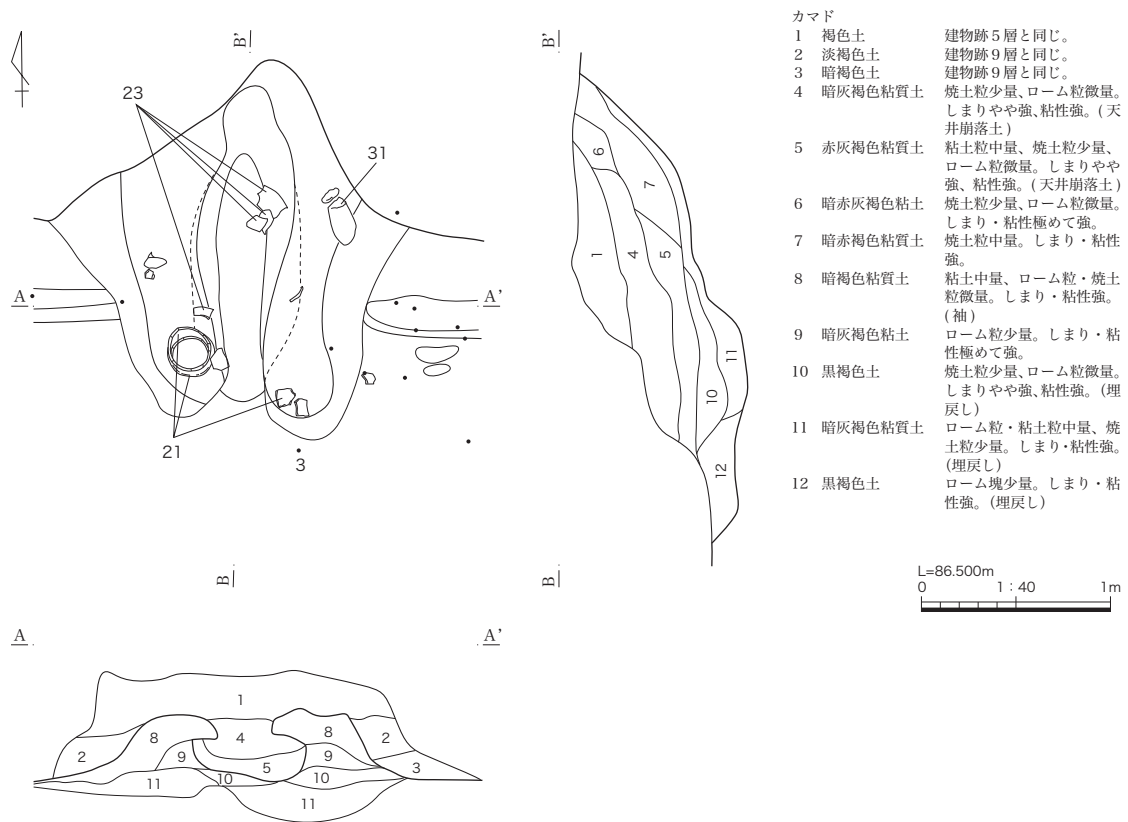
県土整備部調査区

調査年度 平成21（2009）年度 **原因** 県道二宮宇都宮線（通称砂田街道）改良工事に伴う調査 **調査面積** 925 m² **概要** センターUR調査区の9・10・13区と県道を挟み近接する。狭小な調査範囲であったが、古墳時代前期～平安時代の竪穴建物跡20軒、掘立柱建物跡1棟、円形周溝遺構2基、井戸2本、土坑32基を確認した。4世紀末の住居跡が4軒あり、本遺跡において初めて前期の遺構を確認した。また9世紀中葉の住居跡から径が復元可能な2個体分の製塩土器が出土した。古墳時代以前の遺構は確認できず、僅かに縄文時代早期と中期の土器片が出土したのみである。

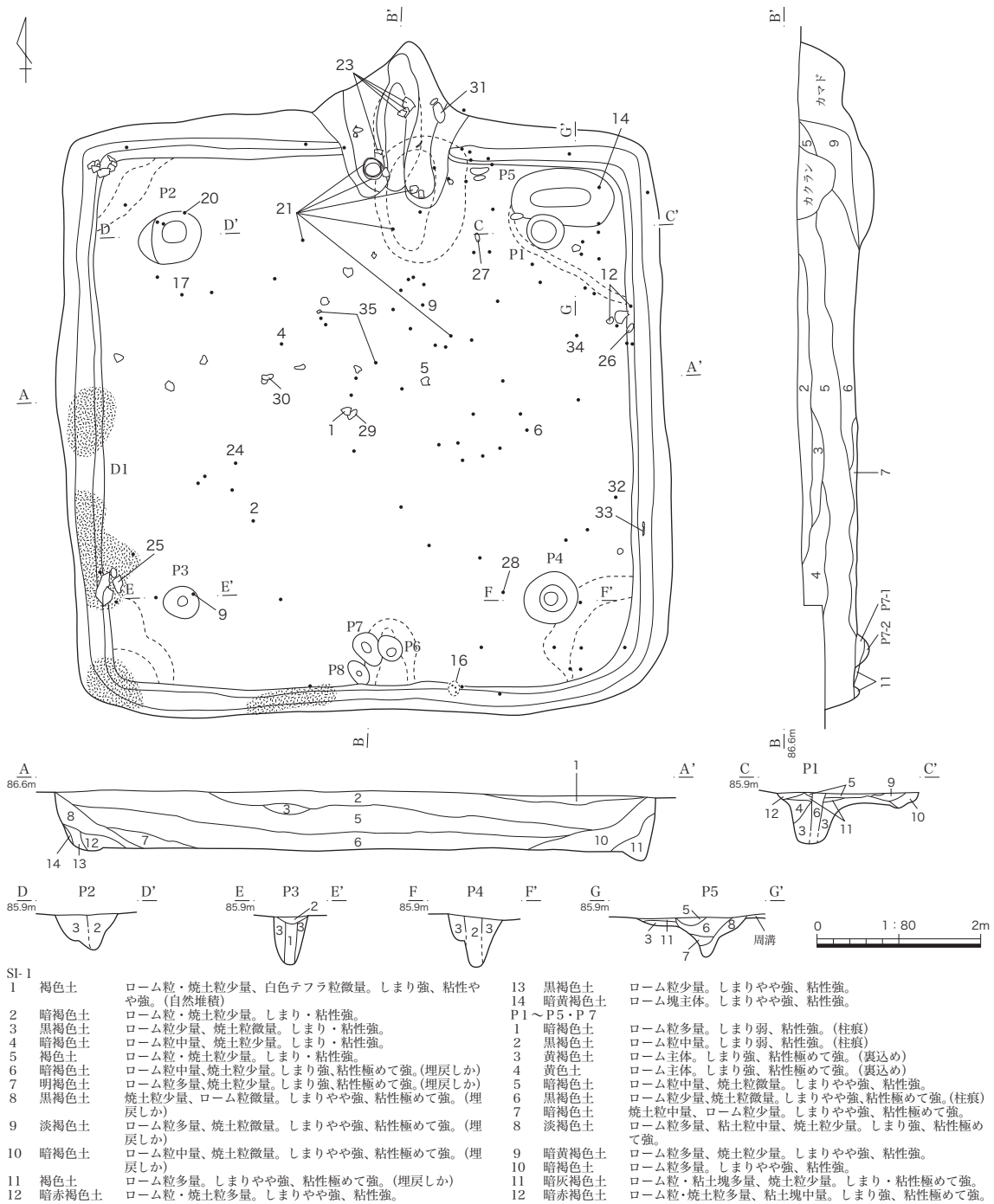
1. 竪穴建物跡

3区 SI- 1 (遺構：第12・13図、遺物：第14～16図、図版二・七八・一一二・一一三・一一六)

位置 グリッド 87.0-51.0・87.0-51.5 重複遺構 無し。 平面形 隅丸方形 規模 東西 7.31×南北 7.18 m 主軸方向 N -1° -W 覆土 褐色土または暗褐色土主体の計 14 層に分層。14～12層は壁崩落土、11～6層は人為的埋戻し、5～1層は自然堆積と考えられる。 壁 壁高は確認面から 34～73 cm 残る。 床 地山のローム層を床面とする。硬化部分は確認できなかった。 柱穴 主柱穴は計 4 本確認された。P1 (径 44～33 cm、深さ 62 cm)、P2 (径 76～56 cm、深さ 42 cm)、P3 (径 42～38 cm、深さ 62 cm)、P4 (径 64～63 cm、深さ 57 cm)。 入口ピット 南壁際中央部の P6～8 は入口ピットと考えられるが、覆土・切り合いは不明である。P6 (径 35～26 cm、深さ 16 cm)、P7 (径 43～29 cm、深さ 13 cm)、P8 (径 33～21 cm、深さ 19 cm)。 貯蔵穴 P5 (長軸 133～短軸 54 cm、深さ 15 cm) は東西軸の楕円形を呈し、北西コーナーに位置する。 壁溝 D1 (幅 25～48 cm、深さ 5～11 cm) はカマドを除く壁際を全周する。 掘方 四隅を掘り下げローム土で埋戻している。 カマド 北壁際中央部に位置する。壁を V 字状に掘り込んでおり、煙道は約 50° の角度で直線的に立ち上がる。袖は暗褐色及び灰褐色粘土で構築されており、右袖からは倒立した長胴甕 (22) が確認された。焚口部から燃焼部は暗灰褐色土及び黒色土で埋戻し、火床面としている。

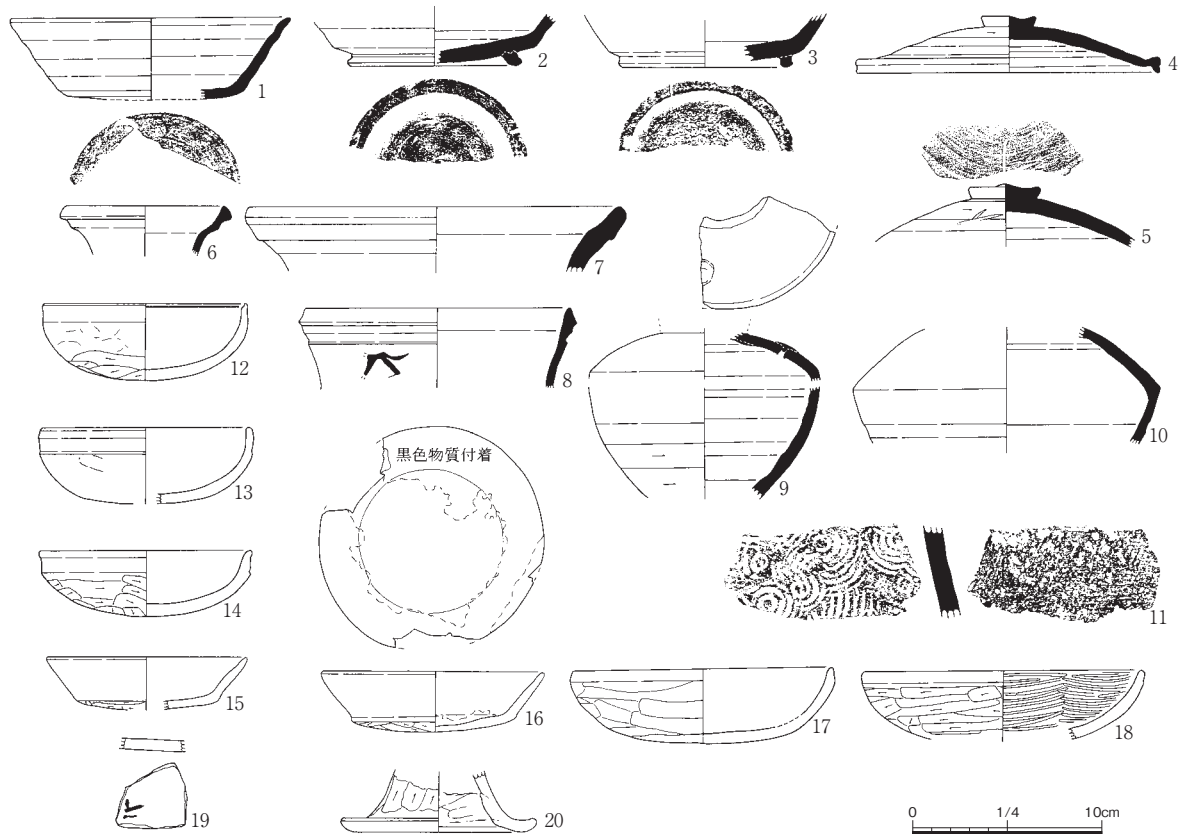


第 12 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI- 1 実測図 (1)



第13図 西刑部西原遺跡3区 SI-1実測図(2)

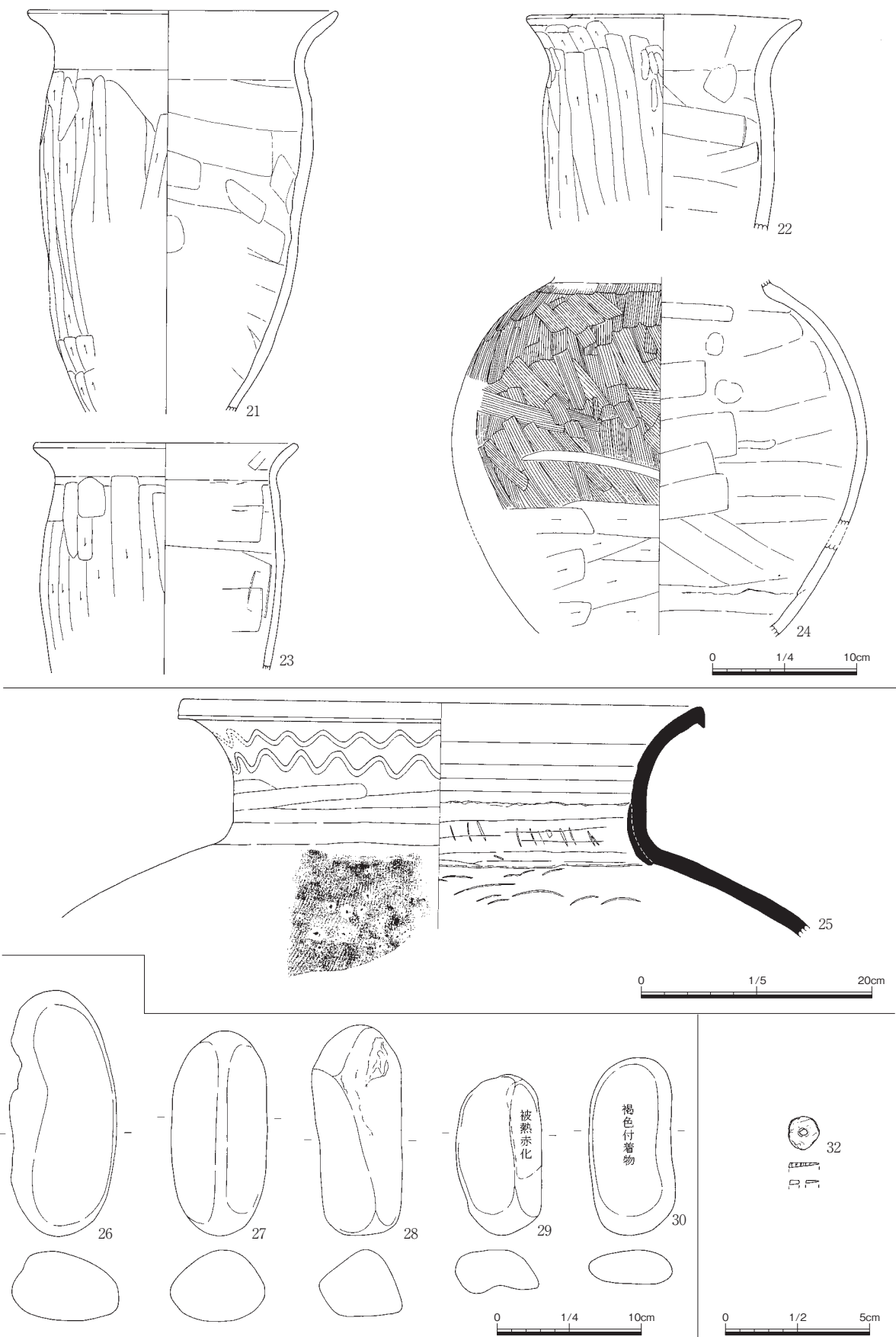
遺物 計35点を図示した。須恵器類は甕・坏・高台付坏の他に瓶類がある。大型の須恵器甕(25)は太一本描きの沈線による粗大な波状文がみられ、頸部内面に帯状の補強を施している。8は大型の須恵器平瓶と考えられる。9は肩部に孔を塞いだ痕跡を残す長頸瓶。東海産か。鉄製品は鑿筋式の鉄鏃(33)と手鎌(34)がある。また、1点のみだが、椀形鍛冶滓の破片(35)が出土している。遺物から奈良時代(8世紀中葉)の建物跡と考えたい。土師器類が主体をなす不掲載遺物は小コンテナ1.3箱、礫は約6.5kgが出土した。図示していないが、白色針状物が混入する土師器甕胴部破片が少量見られた。



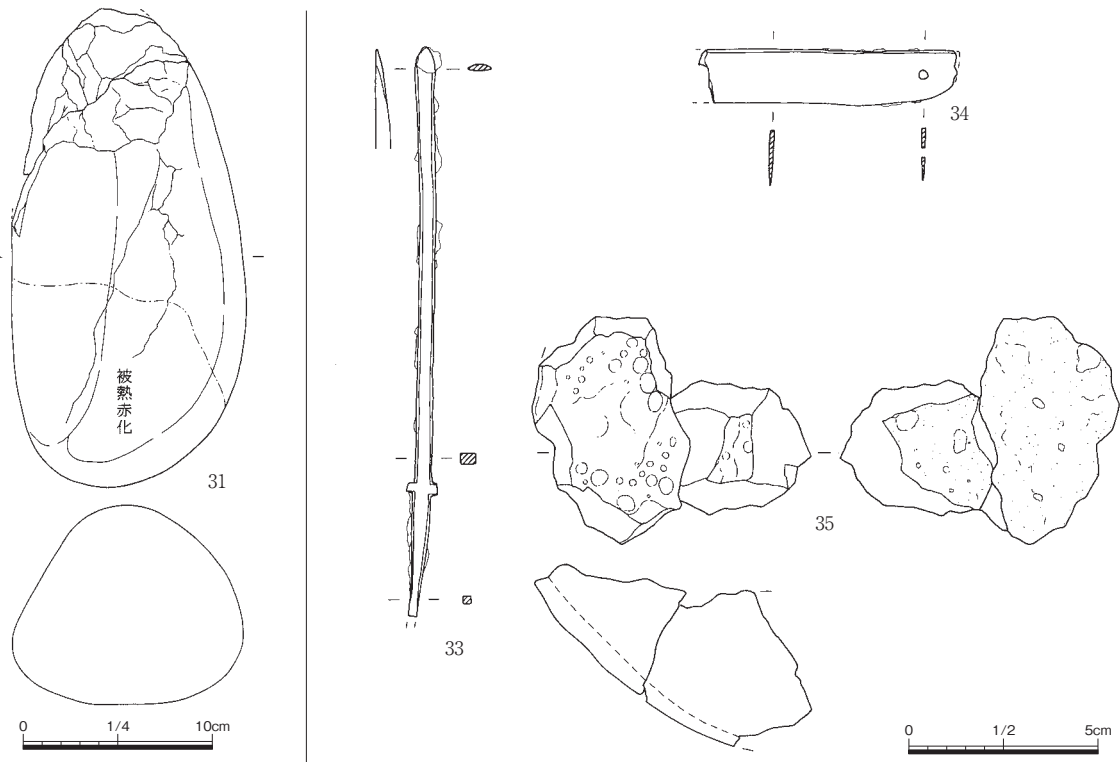
第14図 西刑部西原遺跡3区 SI-1出土遺物(1)

第3表 3区 SI-1出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 坏	口 (14.6) 高 4.3	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのちナデ。2次底部面をもつ。	内：10YR6/4 にぶい黄橙 2.5Y6/3 にぶい黄 外：2.5Y7/3 浅黄 10YR7/4 にぶい黄橙	緻密、白細砂、顆粒状の礫（軽石か） 焼成：やや硬質	No.94 35.9	口縁部～底部 1/3
2	須恵器 高台付 坏	底 (9.0) 高 [2.7]	底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。	内：N5/0 灰 外：(底部高台内) 7.5Y6/1 灰 (体部～高台) 10Y6/1 オリーブ灰	緻密、白細砂、黒砂、礫 焼成：硬質	No.11 28.6	底部 1/2、 体部一部
3	須恵器 高台付 坏	高 [2.8]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。	内：2.5Y7/1 灰白 外：5Y7/1 灰白	やや緻密、白細砂、灰砂、白・灰礫 焼成：やや硬質	No.50 58.7	底部 1/2、 体部一部
4	須恵器 蓋	口 (15.8) 高 3.0 ワミ 2.8	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリのちツマミ貼付。	内外面とも 10YR7/1～6 灰白、にぶい黄橙、明黄褐	やや緻密、黒礫、白灰砂、赤色粒、白炭細砂 焼成：やや硬質	No.12 37.9	天井部～口縁端部 1/5
5	須恵器 蓋	口 [12.6] 高 [3.3] ワミ 3.8	天井部外面回転ヘラケズリのちツマミ貼付け。天井部外面ヘラ記号あり。	内：10YR6/3 にぶい黄橙 外：2.5Y7/3 浅黄 2.5Y4/1 黄炭	やや緻密、白細砂、灰砂、赤色粒 焼成：やや硬質	No.101 36.0	天井部～体部 1/4
6	須恵器 長頸瓶	口 (8.2) 高 [2.6]	内外面ロクロナデ。内外面に自然釉付着。釉のかかりやすい場所に置いたものか。	内外面とも 7.5Y6/1 灰	緻密、白細砂、白礫 焼成：硬質	No.37 7.9	口縁部 1/4
7	須恵器 甕	口 (19.4) 高 [3.5]	内外面ロクロナデ。外面に薄く黒色の自然釉が付着。	内外面とも 5Y6/1 灰	緻密、白・灰細砂、白砂 焼成：硬質	覆土中	口縁部 1/6
8	須恵器 平瓶	口 (13.8) 高 [4.5]	内外面ロクロナデ。口縁部直下に墨書か（文字不明）。口縁部外面に自然釉付着。	内：5Y6/1 灰 外：7.5Y7/1 灰白	緻密、白細砂、黒砂 焼成：硬質	覆土中	口縁部 2/5
9	須恵器 瓶類	高 [8.6] 径 (12.0)	胴部外面下半部回転ヘラケズリ。胴部内面クロロ目顯著。肩部には、外面から孔を穿ったのち粘土で塞いだ痕跡あり。空気抜き穴と考えれば「風船技法」による成形が想定される。肩部に緑黄色の自然釉。東海産か。	内：2.5Y7/1 灰白 外：2.5Y6/1 黄灰	緻密、白細砂、黒砂 焼成：硬質	No.3・48 50.7	胴部破片
10	須恵器 瓶類	高 [6.1]	内外面ロクロナデ。自然釉付着。肩は算盤玉状に明瞭な稜をもつ。	内：2.5Y7/2 灰黄 外：5Y7/1 灰白 2.5Y5/2 暗灰黄	緻密、白・灰細砂 焼成：硬質	覆土中	肩部 1/8
11	須恵器 甕	高 [4.9]	内面同心円状あて具痕。外面は平行叩きが重複するため格子目状に見える。	内：7.5Y5/1 灰 外：N3/0 暗灰	やや緻密、白・灰細砂、白・赤礫 焼成：やや硬質	覆土中	胴部破片



第15図 西刑部西原遺跡3区 SI-1 出土遺物(2)



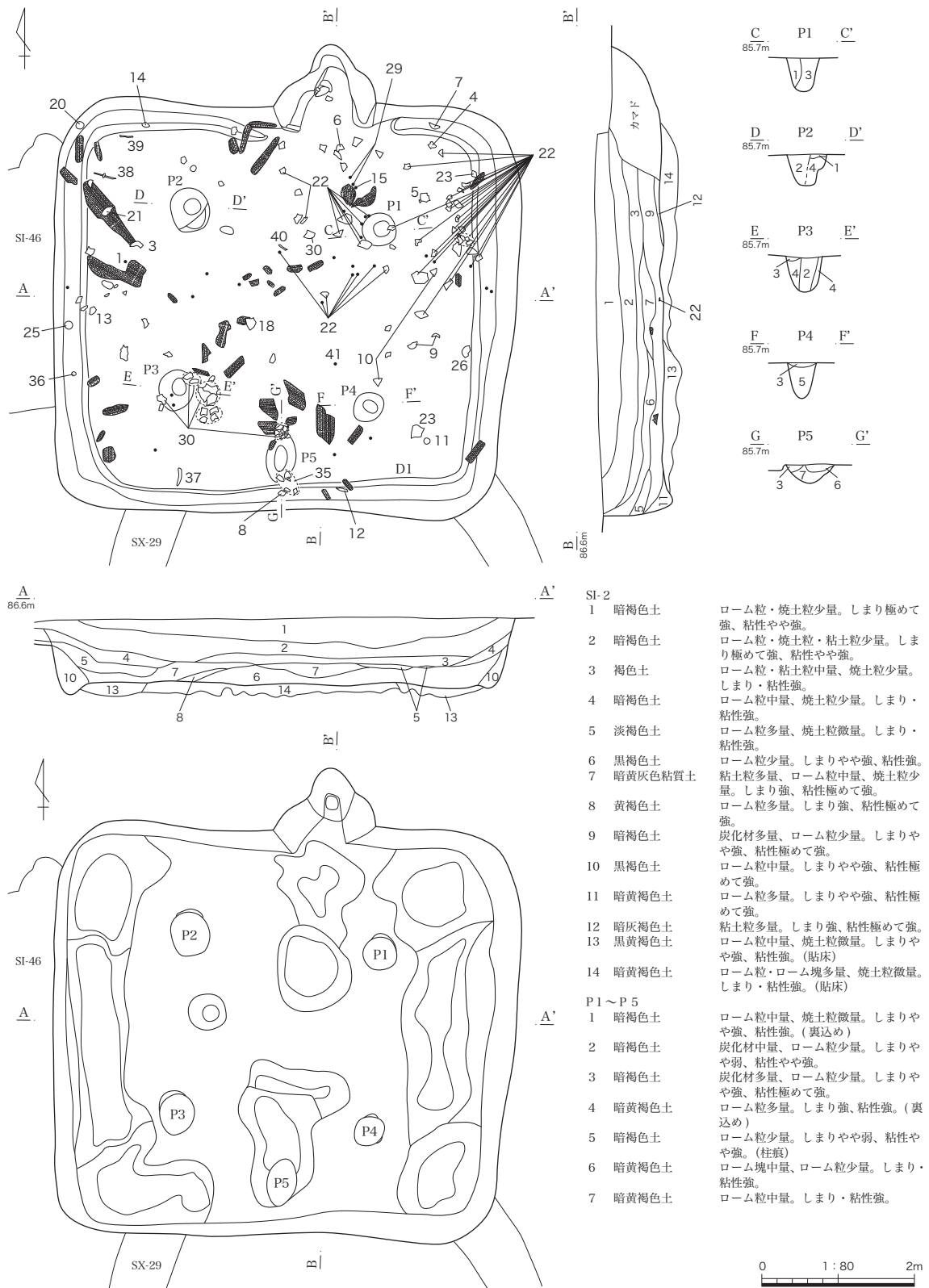
第16図 西刑部西原遺跡3区 SI-1出土遺物(3)

12	土師器 坏	口 10.5 高 4.0	体部内面上半~口縁部外面ヨコナデ。体部外面上半ナデ、下半部ヘラケズリ。内面黒色処理。口縁部内面に沈線あり。畿内産須恵器の模倣坏か。	内：2.5Y2/1 黒 外：10YR5/3 にぶい黄褐	やや緻密、白細砂、赤色粒 焼成：やや軟質	No.118・125 4.3 (No.118)	口縁部~体部 1/2
13	土師器 坏	口 (10.9) 高 3.9	内面ヨコナデ。体部外面調整不明(一部にヘラケズリの痕跡あり)。口縁部外面漆仕上げ。	内：2.5Y2/1 黒 外：2.5YR5/6 明赤褐	やや粗い、白細砂、灰砂、赤色粒 焼成：やや軟質	覆土中	口縁部~体部 2/5
14	土師器 坏	口 11.0 高 3.5	体部内面~口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。口縁部内外面漆仕上げ。	内：10YR6/2 灰黄褐 外：10YR6/3 にぶい黄橙	やや緻密、白・黒・透明細砂、赤色粒少量 焼成：やや軟質	No.143 貯蔵穴	完存
15	土師器 坏	口 (10.3) 高 [2.8]	内面~口縁部外面ヨコナデのち漆仕上げ。体部外面ヘラケズリ。	内外面とも 10YR7/3 にぶい黄橙	やや緻密、白細砂 焼成：やや硬質	P5 29.8	口縁部 1/2、底部 1/4
16	土師器 坏	口 11.4 高 3.3	体部内面~口縁部外面ヨコナデ。体部外面手持ちヘラケズリ。内面(主に口縁部)には黒色物付着(油煙または漆か)。灯明具に転用されたものか。	内：10YR5/2 灰黄褐 外：7.5YR5/3 にぶい褐	やや緻密、白細砂、赤色粒 焼成：やや軟質	No.25 16.3	口縁部 4/5、底部 完存
17	土師器 坏	口 13.6 高 3.9	体部内面~口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内面~口縁部外面漆仕上げ。内面の漆は殆ど落ちてしまったものか。	内外面とも 5YR7/6 橙	やや緻密、赤色粒 焼成：やや軟質	No.14、覆土上面 38.7	口縁部 2/3、底部 完存
18	土師器 坏	口 (14.6) 高 [3.6]	内面ヨコナデのちヘラミガキ。口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。	内：7.5YR6/6 橙 外：10YR3/2 黒褐 7.5YR6/6 橙	やや緻密、白細砂、赤色粒 焼成：硬質	覆土中	口縁部 1/3
19	土師器 坏	—	底部外面の黒色物は墨書か。磨滅が顕著で解読不能。	内外面とも 10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、灰細砂 焼成：やや硬質	覆土中	底部破片
20	土師器 高坏	底 10.2 高 [3.3]	脚裾部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ及びヘラナデ。内面ヘラナデまたはナデ。歪みが大きく雑なつくり。	内外面とも 7.5YR4/3 褐	やや粗い、白・黒細砂、白砂、白礫 焼成：やや硬質	No.55 2.2	高台部 1/2
21	土師器 甕	口 20.9 高 [29.1]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヘラナデのちユビナデ、下位ヘラケズリ。	内：10YR5/4 にぶい黄褐 外：10YR7/6 明黄褐	やや粗い、白・黒細砂、白・黒砂、礫 焼成：やや軟質	No.20・64・103・131・133・135、カマド床直 (No.64)	口縁部~胴部 上半完存、胴下半部 1/3
22	土師器 甕	口 (18.7) 高 [15.4]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。口縁部外面ヘラナデのち胴部~頸部ヘラケズリのち頸部に短いタテヘラナデ。外面の一部は被熱し紅色に変色。	内：10YR5/2 灰黄褐 外：2.5YR5/6 明赤褐	やや粗い、白・黒・灰細砂~礫、赤色粒 焼成：やや軟質	No.133 7.8	口縁部 1/2、胴部 上半完存
23	土師器 甕	口 17.6 高 [16.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面縦方向ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。非常に薄手で丁寧なつくり。	内：7.5YR6/4 にぶい橙 外：7.5YR5/4 にぶい褐	やや粗い、白細砂、灰・黒砂、礫、赤色粒 焼成：やや軟質	No.130・134 12.0 (No.130)	口縁部 4/5、胴部 上半 4/5
24	土師器 甕	高 [24.6]	球胴のハケ甕。胴部内面上半部ヘラナデ及び指頭押圧。下端部ナデ。胴部外面上半ハケ目。胴部外面下半ヘラケズリ。	内外面とも 5YR5/4 にぶい赤褐	やや緻密、白細砂、礫、赤色粒 焼成：やや硬質	No.9・80 床直 (No.80)	胴部 1/5

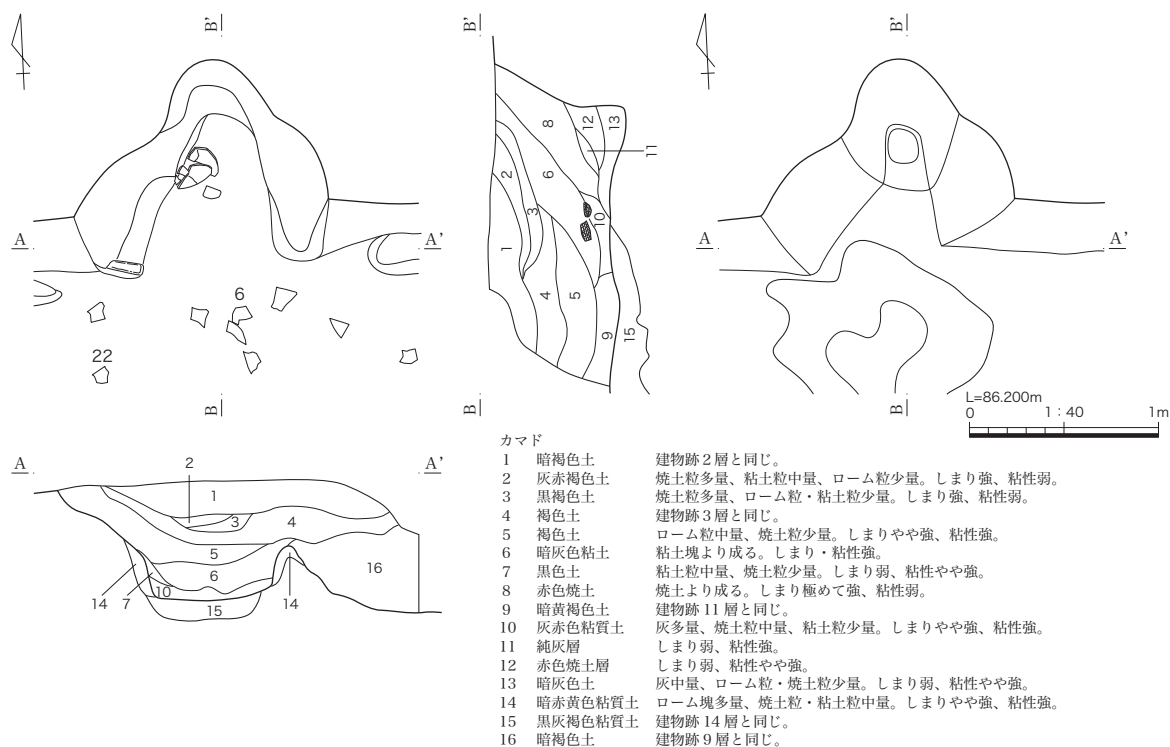
25	須恵器 甕	口高 (44.6) [17.5]	口縁部外面櫛描波状文(2条)。頸部外面横位のナデ。頸部内面ロクロナデのち幅広の粘土帯貼付。胴部外面平行叩き。胴部内面不明瞭な無文あて具痕。頸部内外面黒色の自然釉。肩部外面降灰し黄色く発色。	内:5Y6/1 灰 5Y5/1 灰 外:5Y7/2 灰白	緻密、白細砂、白礫 焼成:硬質	No.79 48.2	口縁部 1/2
26	石器 編物石	長 18.9 幅 7.4 厚 4.8 重 [746.7]	未加工の礫。 平面形:右側縁に挟まれる楕円形 断面形:不整な楕円形	10YR6/4 にぶい黄橙	—	No.116 床直	部欠
27	石器 編物石	長 14 幅 6.5 厚 5.0 重 676.5	未加工の自然礫。 平面形:楕円形 断面形:不整な隅丸三角形	7.5Y6/1 灰	—	No.76 床直	完存
28	石器 編物石	長 14.6 幅 5.7 厚 4.6 重 583.1	未加工の自然礫。 平面形:棒状 断面形:隅丸の不整形	7.5Y6/2 灰オリーブ	—	No.40 床直	完存
29	石器 編物石	長 11.1 幅 5.8 厚 3.0 重 311.1	未加工の自然礫。右側面に僅かに赤みあり。被熱したものか。 平面形:やや不整な楕円形 断面形:不整な楕円形	2.5Y6/2 灰黄	—	No.95 24.3	部分欠損
30	石器 編物石	長 12.3 幅 5.7 厚 2.3 重 299.2	未加工の自然礫。表面に褐色の付着物。若干光沢あり。 平面形:楕円形 断面形:扁平な楕円形	5Y7/1 灰白	—	No.90 50.5	完存
31	石器 編物石	長 26.9 幅 12.1 厚 10.5 重 [4059.6]	全面的に著しく被熱しており、上端部は破損。3片の破片が接合。カマド袖構築材か。 平面形:不整な楕円形 断面形:隅丸三角形	10R4/3 赤褐	—	K141 (カマド内) 8.6	先端部 1/10 程度 欠損
32	石製模 造品 白玉	径 1.0~1.1 厚 [0.2] 孔 0.2 重 [0.2]	平面形は隅丸五角形。切削段階の形状を残す。 側面は僅かに丸みをもつ。側面研磨は粗く疎ら。裏面は大きく剥離欠損したものか。	N4/0 灰	粘版岩	No.51 40.0	部分欠損
33	鉄製品 鉄鉢	長 [15.0] 重 [9.8]	鑿形式の長頸鉢。鉢身断面は片丸で最大幅 5.5 mm。頸部断面は長方形。棘篋被。茎下端部を欠損。	—	鉄製	No.83 5.5	部分欠損
34	鉄製品 手鉢	長 [6.8] 重 [5.6]	端部の一方を欠損。孔は径 2.2 mm の円形。器厚は薄く断面平造り。端部は丸みをもつ。	—	鉄製	No.108 3.4	部分欠損
35	鉄滓	長 [5.9] 幅 [6.3] 厚 [3.9] 重 [124.1]	碗形鍛冶滓。緻密で重量感あり。口縁の一部を除いて、その他は全て破面(破面は7面)。上面中央部に茶褐色の錆化部あり。周囲に気孔の多い部分が付着。下面は灰色の炉壁が 4.0~5.0 mm の厚さで付着。	表:サビ有 5YR4/4 にぶい赤褐 サビ無 7.5Y4/1 灰 裏:サビ無 5Y5/1 灰	磁着度:6	No.81.99 39.8 (No.99)	部分欠損

3区 SI- 2 (遺構:第17・18図、遺物:第19~21図、図版二・七八・七九・一一二・一一四・一一五)

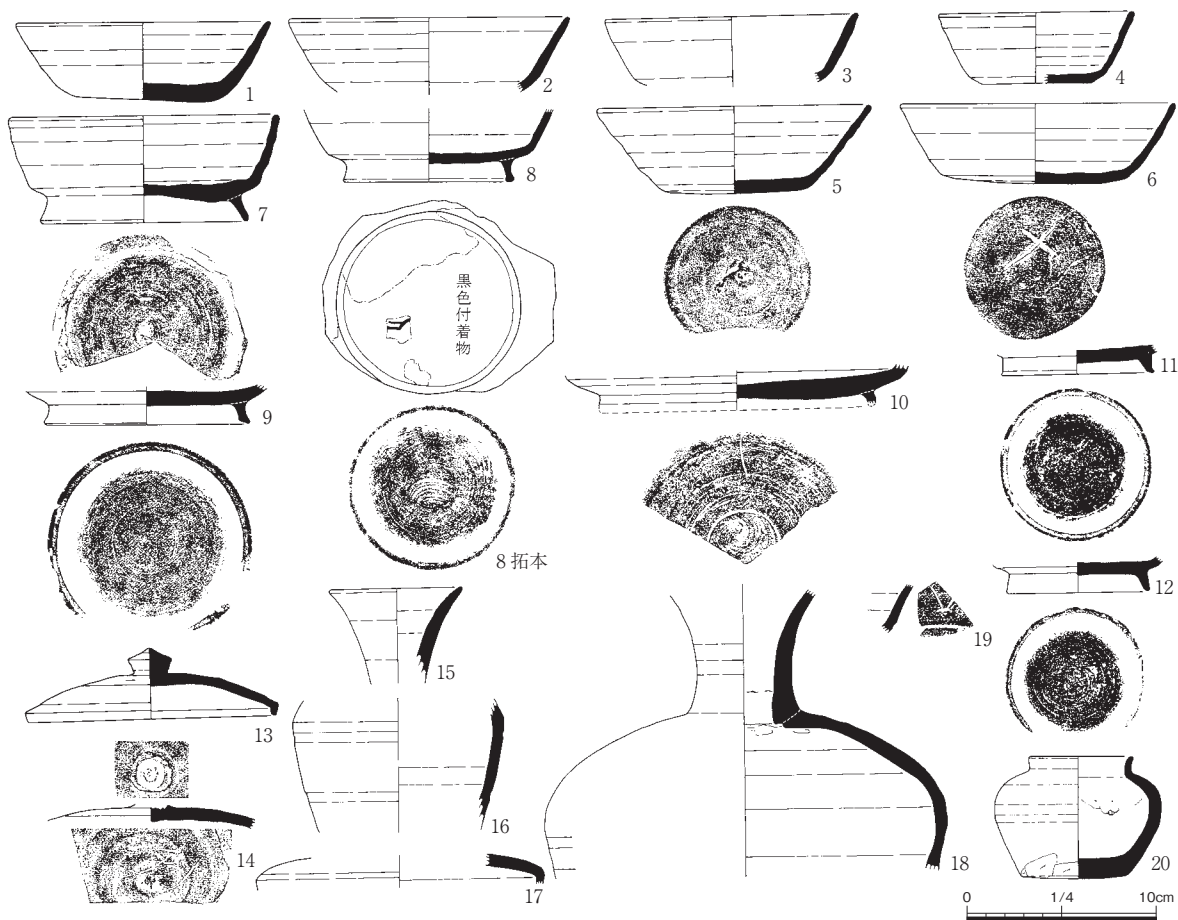
位置 グリッド 86.5-50.5・86.5-51.0・87.0-50.5・87.0-51.0 重複遺構 SI-46、SX-29 より新しい。平面形 隅丸方形 規模 東西 5.99×南北 5.44 m 主軸方向 N-3° - E 覆土 12層に分層、ローム粒子を多く含む暗褐色土・黄褐色土主体で、いずれもしまりが強い。このうち床面直上の9層は炭化材を多量に含むが、焼土の混入は殆ど見られない。自然堆積と考えられる。壁高 確認面から46~90 cm残る。壁面は概ね直線的に立ち上がる。床 概ね平坦だが、ほぼ全面が貼床。硬化部分は確認できなかった。柱穴 主柱穴はP1(径43~43 cm、深さ38 cm)、P2(径57~50 cm、深さ40 cm)、P3(径50~45 cm、深さ35 cm)、P4(径43~36 cm、深さ46 cm)の計4本確認。この内P1~P3は柱痕が残る。入口ピット 南壁際中央部にP5(径59~39 cm、深さ22 cm)あり。貯蔵穴 未確認。壁溝 D1(幅20~30 cm、深さ5~14 cm)はカマド両脇を除き壁際を全周するが、全体的に浅く不明瞭。掘方 全体的に浅く小さな凹凸あり。四隅の掘り込みは10~22 cm、及び入口ピット北部の掘り込みは20 cm。カマド 北壁中央部に位置する。煙道は壁際を凸字状に掘り込んでおり、底面から垂直に立ち上がった後くの字に曲がる。袖部の残りは悪く、少量の構築材(黄褐色粘土)が残るのみである。6層は天井崩落土か。遺物は覆土中から土師器甕破片が少量出土した。遺物 計41点を図示した。須恵器は坏と高台付坏が多い。紡錘車(鉄製・石製)の出土が目立つ。7の底部外面には赤色の顔料(朱墨か?)が付着する。8底面の墨書は褐色付着物のため解読不明。9・11・12の高台付坏底部破片は、破面を打ち欠いて整えた痕跡があり、他用途に転用された可能性がある。6の高台付坏底部外面、14の須恵器蓋内面、19の須恵器坏体部外面にはヘラ記号が見られる。20は小型の短頸壺で内面に黒色付着物あり。23はロクロ成形の大型鉢で被熱顕著。25・26は内外面にヘラ



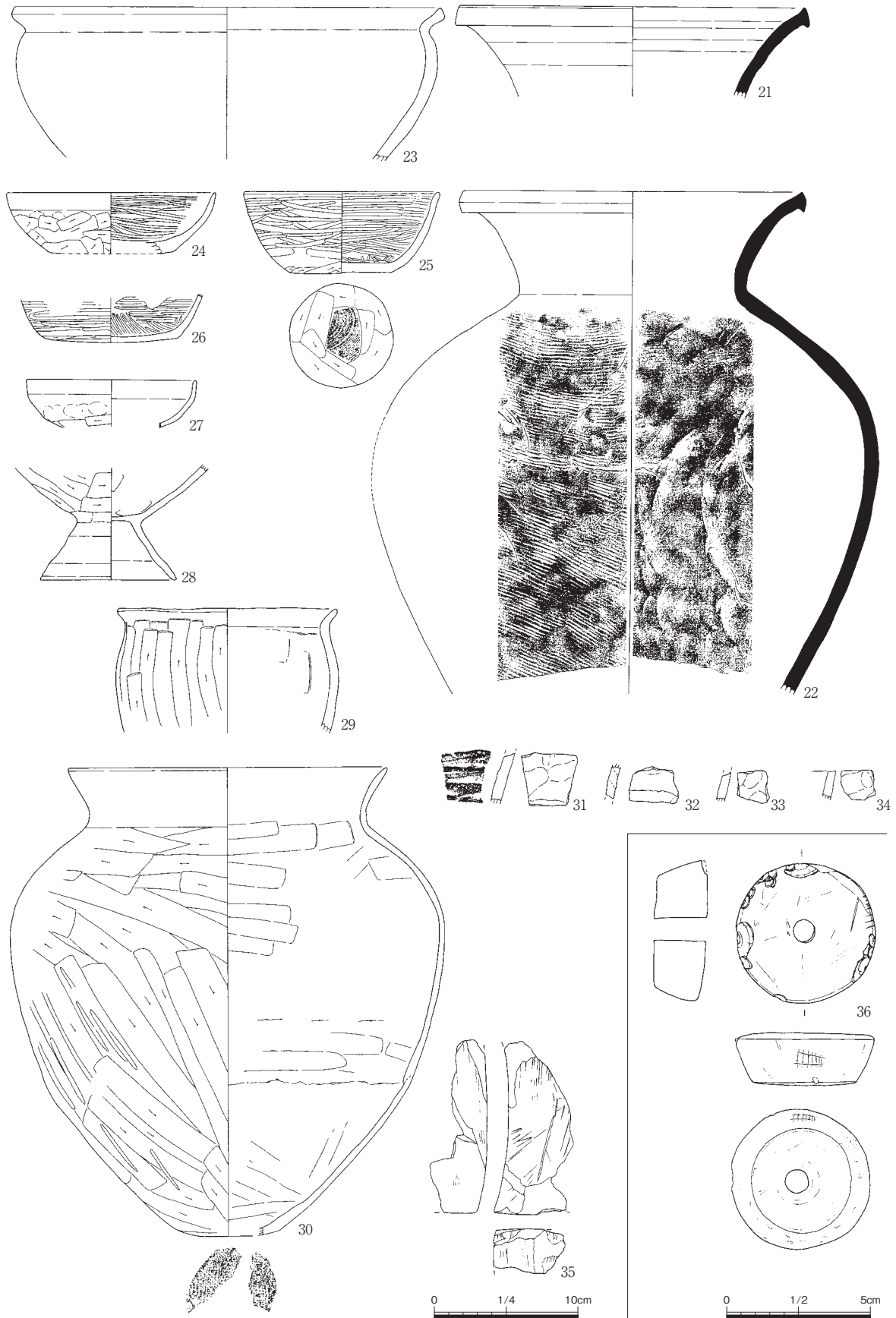
第17図 西刑部西原遺跡3区 SI-2実測図(1)



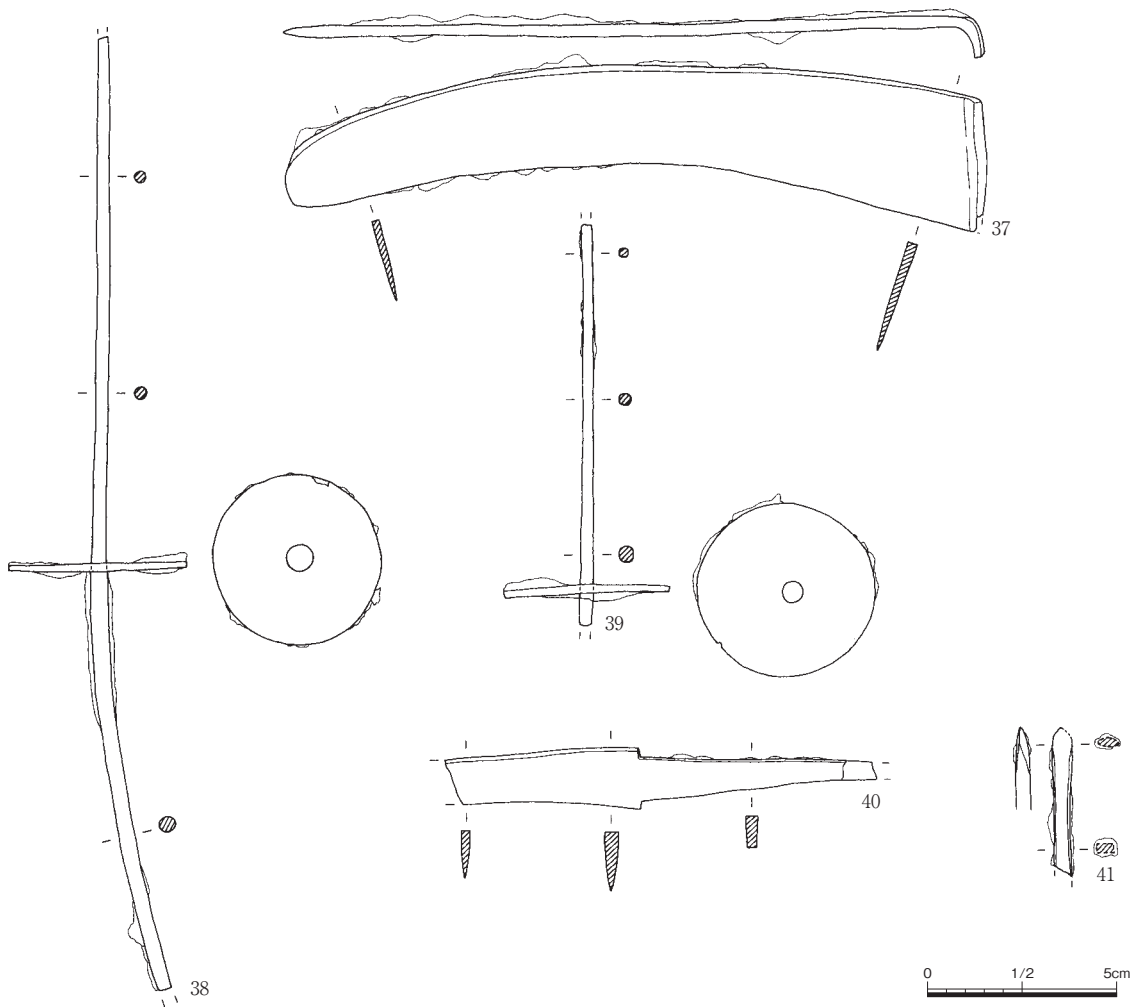
第18図 西刑部西原遺跡3区 SI-2実測図(2)



第19図 西刑部西原遺跡3区 SI-2出土遺物(1)



第20図 西刑部西原遺跡3区 SI-2出土遺物(2)



第21図 西刑部西原遺跡3区 SI-2出土遺物(3)

ミガキを施すロクロ成形の土師器環。27は北武蔵系の土師器環。30はやや異形の武蔵型甕。31～34は白色針状物が混入する土師器片。31は甕、32～34は製塩土器である。36は石製紡錘車で側面に梯子状の線刻あり。鉄製品は鎌・紡錘車・鉄鏃・刀子などがある。38・39は鉄製紡錘車。38は軸の両端部を欠損するが残存長は25.4cmある。39は一方の軸を大きく欠失している。この他不掲載遺物は在地の土師器甕のほか少量の常総型甕や武蔵型甕、須恵器環、須恵器甕などがあるが、礫を除き床面直上の遺物は少ない。不掲載遺物の総量は小コンテナ6箱程度である。遺物から8世紀後葉の建物跡と考えたい。

第4表 3区 SI-2出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器環	口 13.1 底 7.0 高 4.2	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。	内外面とも 5Y6/2 灰オリーブ	緻密、灰・白細砂、灰・白砂 焼成：硬質	No.86 27.3	口縁部 1/3、底部 2/3
2	須恵器環	口 14.5 高 [3.9]	内外面ロクロナデ。	内外面とも 7.5Y6/1 灰	緻密、白細砂、黒砂、赤色粒 焼成：硬質	覆土中	口縁部～体部 2/3
3	須恵器環	口 13.1 高 [3.5]	内外面ロクロナデ。体部内面下端部が屈曲するため、高台付環の可能性あり。	内外面とも 5Y6/1 灰	やや緻密、白・灰・黒細砂～砂 焼成：硬質	No.22 22.0	口縁部～体部 4/5

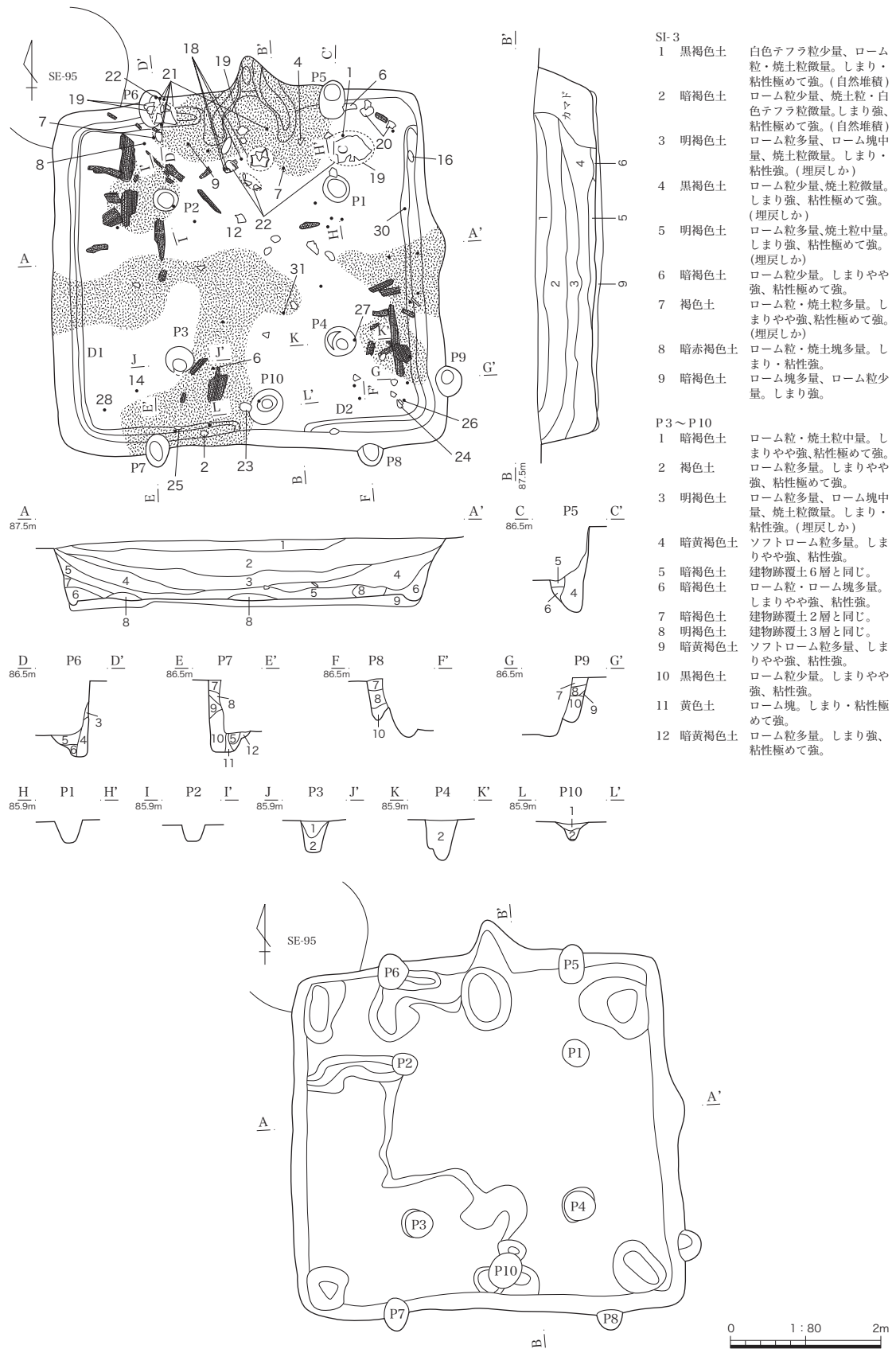
第3章 発見された遺構と遺物

4	須恵器 環	口高 (10.2) 3.7	内外面ロクロナデ。回転ヘラ切りか。口縁部外面に自然釉付着、伏せて重ね焼きした為か。	内外面とも N5/0 灰	緻密、灰・白細砂、白色粒 焼成：やや硬質	No 40 86.4	口縁部 1/6、底部 1/2
5	須恵器 環	口底高 (14.2) 7.4 4.5	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。	内：2.5Y7/3 浅黄 外：2.5Y7/4 浅黄	やや緻密、白・灰・黒細砂、白礫、赤色粒 焼成：やや硬質	No 45 75.8	口縁部 2/5、底部 9/10
6	須恵器 環	口底高 (14.4) 7.4 4.2	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのちヘラ記号あり。2次底部面を有する環。	内外面とも 2.5Y7/3 浅黄	やや緻密、白・黒粗砂、赤色粒 焼成：やや硬質	No 124、カ マド 19.8	口縁部 1/2、底部 完存
7	須恵器 高台付 環	口底高 (14.0) (10.7) 5.6	底部外面ヘラ切りのち高台貼付け。底部外面に赤色付着物があるが、研磨痕跡はないためパレット風を使用したのか。赤色物は高台の剥離面にも付着、接合部のヒビ割れから染み込んだものか、または高台が剥がれたのち使った可能性もあり。	内：7.5Y5/1 灰 外：7.5Y4/1 灰	やや緻密、白・黒粗砂、白礫 焼成：硬質	No 68、カ マド 39.9	口縁部 1/2、底部 3/4、高台 1/8
8	須恵器 高台付 環	底高 8.6 [3.8]	内外面ロクロナデ。底部外面回転糸切りのち外周ヘラケズリのち高台貼付け。底部内面に若干の研磨痕あり。底部外面に墨書あり。器面には破損後炭化物が付着しており文字は不明。	内外面とも 5Y7/2 灰	緻密、黒・灰細砂、灰粗砂 焼成：硬質	No 11 15.0	体部 1/8、 底部完存
9	須恵器 高台付 環	底高 10.5 [2.0]	底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。底部外面に赤色付着物があるが研磨の痕跡はないため、パレット風を使用か。逆位で安定させるため端部を打ち欠いて調整している。	内外面とも 7.5YR5/3 に ぶい褐	緻密、黒・白細砂、灰・白砂 焼成：やや硬質	No 17・20 20.5 (No 17)	底部完存、 高台一部欠 損
10	須恵器 高台付 盤	底高 (14.2) [3.8]	ロクロナデ。底部外面回転糸切りのち周開回転ヘラケズリのち高台貼付け。底部外面ヘラ記号あり。	内外面とも 5Y6/1 灰	やや緻密、黒・白・灰細砂、黒・白砂 焼成：やや硬質	No 14・77 40.7 (No 14)	底部 2/5
11	須恵器 高台付 環 (転 用碗)	底高 8.0 [1.6]	ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付け。底部外面中心部付近に若干の研磨痕あり。	内外面とも N5/0 灰	緻密、灰・白・黒細砂、白砂、白礫 焼成：硬質	No 126 16.3	底部完存
12	須恵器 高台付 環 (転 用碗)	底高 7.4 [1.8]	底部外面ヘラケズリのち高台貼付。底部外面は研磨。底部外面 1/2 ほどの範囲に黒色付着物 (墨か) あり。底部内面の黒色付着物は破面にも見られるため、破損後、2次的に被熱した際のススの可能性もある。	内：7.5Y3/1 オリーブ黒 外：7.5Y4/1 灰	やや緻密、白細砂、白礫 焼成：硬質	No 17 20.5	底部 3/4
13	須恵器 蓋	口高 13.0 3.7 マミ 2.2	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリのちツマミ貼付けのちナデ。ツمامミ宝珠状。	内：5Y6/1 灰 外：5Y7/2 灰白	緻密、白・灰・黒細砂～ 粗砂 焼成：やや硬質	No 7 21.6	口縁部 1/2
14	須恵器 蓋	口高 [1.4]	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリのちツマミ貼付けのちナデ。天井部内面ヘラ記号あり。	内：5Y5/1 灰 外：N5/0 灰	緻密、灰・白細砂、白砂 焼成：硬質	No 26 43.5	天井部 3/4
15	須恵器 瓶類	口高 (6.8) [5.0]	外反する瓶類の口縁部破片。内外面ロクロ仕上げ。外面に黒色の自然釉付着。	内：10YR5/1 褐灰 外：2.5Y4/1 黄灰	緻密、白・黒細砂、白砂 焼成：硬質	No 98 26.8	口縁部 1/2
16	須恵器 瓶類	口径 (11.1)	内外面ロクロナデ。肩の張りはやや弱い。	内：2.5Y3/2 黒褐 外：5Y5/1 灰	緻密、白・灰・黒細砂、黒砂 焼成：硬質	覆土中、焼 土下 床直	胴部～肩部 1/4
17	須恵器 瓶類	口径 (15.1)	内外面ロクロナデ。肩部に自然釉。肩の張りが強い。	内：2.5Y6/2 灰黄 外：2.5Y7/1 灰白	やや粗い、白・黒粗砂、白礫 焼成：硬質	覆土中	肩部 1/6
18	須恵器 長頸瓶	口径高 21.0 [15.0]	内外面ロクロ仕上げ。頸部内面及び肩部には自然釉が付着する。	内外面とも 2.5Y7/1 灰白	緻密、灰・白・黒細砂、黒砂 焼成：硬質	No 9 22.4	頸部 1/4
19	須恵器 環	口径高 [2.6]	体部外面ヘラ記号あり。内外面ロクロナデ。体部外面下半部に沈線状のロクロ目。	内：10Y5/1 灰 外：N5/0 灰	やや緻密、白粗砂、白礫 焼成：硬質	覆土中	体部破片
20	須恵器 短頸壺	口径底高 5.4 8.8 5.7 6.5	ロクロナデ。胴部外面下半部回転ヘラケズリのちナデ。胴部外面下端部手持ちヘラケズリ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。口縁部～肩部 1/2 に梨地状の付着物。漆の可能性あり。内面薄い黒色付着物あり。肩部内面付着物あり。口縁部～肩部にかけ厚く降灰がみられる。	内外面とも 5Y8/1 灰白	緻密、灰・白細砂、白砂、白礫 焼成：硬質	No 25 12.0	完存
21	須恵器 甕	口径高 (23.8) [6.3]	内外面ロクロナデ。口縁端部に黄色の釉。頸部に霜降状の自然釉付着。	内：5Y6/1 灰 外：5Y5/1 灰	緻密、白・灰細砂、白・灰砂 焼成：硬質	No 23 28.0	口縁部 1/3
22	須恵器 甕	口径高 23.5 35.3 [35.0]	口縁部～頸部内外面ロクロナデ。胴部外面平行叩き。胴部内面無文あて具痕 (うっすらと木口状の圧痕残る) 肩部一部に霜降状の自然釉付着。	内：10YR6/1 褐灰 外：2.5Y6/1 黄灰	緻密、白・灰・黒細砂、黒砂 焼成：硬質	No 18・39・41・ 43・46・48・ 51・53・63・ 64・67・69・ 70・75・88・ 90・92・94・ 95・100・104・ 106・107・109 ～111・115 床直 (No 104)	口縁部 5/12、胴部 2/3
23	土師器 大型鉢	口径高 (29.4) [10.4]	頸部から口縁部にかけての字に外反し、口縁端部に平坦面をもつ。内外面ロクロナデ。被熱により全体的に被熱赤化しており、一部外面に黒斑あり。口縁部内面の一部に黒色付着物 (炭化物か) あり。	内：7.5YR7/6 橙 外：5YR6/6 橙	やや緻密、白・灰・黒細砂、白砂 焼成：やや硬質	No 12・42、 カマド 22.2 (No 12)	口縁部～胴 部上半 1/4
24	土師器 環	口径底高 14.3 8.8 [4.2]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヨコヘラミガキ。体部外面指頭押圧のち横位のヘラケズリ。底部外面多方向ヘラケズリ。底部は平底。径は復元したが、歪みが大きく遺存度は低い。	内外面とも 10YR7/3 に ぶい黄橙	やや緻密、灰・白・黒細砂、黒砂 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 1/4、底部 1/6
25	土師器 環	口径底高 13.3 7.0 5.7	内面ミガキのち黒色処理。口縁部～体部内面ロクロナデのちヘラミガキ。口縁部～体部外面ロクロナデのち一部ナデのちヘラミガキ。体部外面下端手持ちヘラケズリ。底部外面回転糸切りのち周辺多方向ヘラケズリ。外面のミガキは、繊細な内面ミガキと較べ幅広く雑。	内：7.5Y2/0 黒 外：10YR6/4 にぶい黄橙	緻密、黒・白細砂、黒・白・灰砂 焼成：やや硬質	No 54 14.5	完存
26	土師器 環	口径高 9.0 [3.3]	内外面ロクロナデ。内面ヘラミガキのち黒色処理。体部外面ヨコヘラミガキ。体部外面下端手持ちヘラケズリ。底部外面多方向ヘラケズリ。	内：2.5Y2/1 黒 外：7.5YR5/6 明褐	やや緻密、白色・灰細砂、黒砂、赤色粒 焼成：やや硬質	No 19 21.0	底部 1/2、 体部 1/2

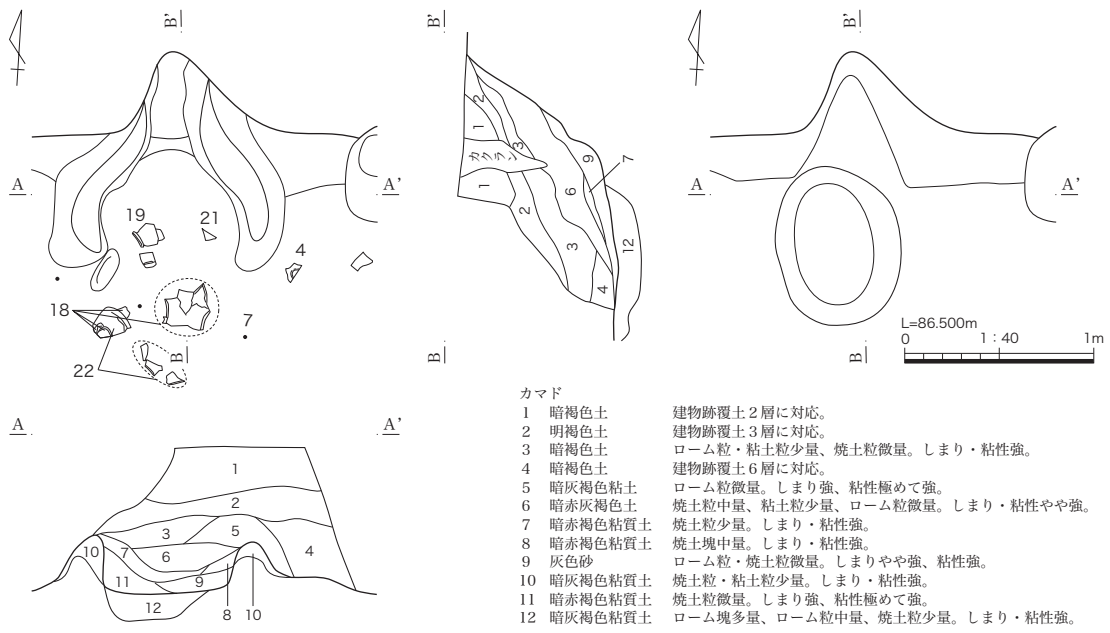
27	土師器 坏	口高 [11.5] [3.2]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面上位指頭押圧、下位ヘラケズリ。器厚は極めて薄い(2.5~3.5mm)。北武蔵系の坏と考えられる。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	やや緻密、灰砂 焼成：やや軟質	覆土中	口縁部 1/4
28	土師器 台付甕	底高 [9.0] [8.0]	脚部外面ヨコナデ。脚部内面ヨコナデ。底部外面ナデ。底部内面ヘラナデのちナデか。脚部内面、底部外面にスス付着。	内：5YR6/6 橙 外：5YR5/8 明赤褐	やや粗い、白・灰細砂、 白砂 焼成：やや軟質	覆土中	底部完存
29	土師器 甕	口高 [14.9] [8.9]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラケズリ。破損したのち著しく被熱した破片が数点確認される。	内：7.5YR6/3 にぶい褐 外：7.5YR6/6 橙	やや緻密、灰・黒・白細 砂、赤色粒、白色粒 焼成：やや硬質	No.96・97 28.8 (No. 97)	口縁部 2/3、胴上 半 2/5
30	土師器 甕	径底高 [29.9] (7.0) 32.4	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面下半部ナデ。上半部ヘラナデ。胴部外面上半ナメまたはヨコヘラケズリ、下半部はナメヘラケズリのちヘラミガキ。底部外面ヘラケズリのち沈線あり。肩部の張るやや特異な器形の武蔵型甕。内面の制作休止痕が明瞭。	内：5YR4/6 赤褐 外：5YR5/6 明赤褐	やや緻密、白・黒細砂、白・ 灰・黒砂 焼成：やや硬質	No.56・ 58・59・ 60・119 3.5 (No. 59)	口縁部～胴 部 1/3、底 部 1/4
31	土師器 製塩土 器か	高 [3.5]	内面ヘラナデ(条痕に近い明瞭な整形痕)。外面ナデ・指頭押圧。被熱の痕跡殆どなし。	内外面とも 10YR7/6 明 黄褐	やや緻密、白・灰黒細砂、 灰砂、赤色粒、少量白色 針状物 焼成：やや硬質	覆土中	胴部破片
32	土師器 製塩土 器	高 [2.3]	内面ナデ。指頭押圧あり。外面ナデ。接合痕残る。被熱度は低い。	内：7.5YR6/4 にぶい橙 外：7.5YR7/6 橙	やや粗い、黒・白・灰細 砂、白砂、赤色粒、白色 針状物 焼成：やや硬質	覆土中	胴部破片
33	土師器 製塩土 器	高 [2.0]	内面ナデ。外面ナデ及び指頭押圧。破片上部は接合部より折損。被熱による変色が顕著。断面はピンク色、内面は部分的に灰白色を呈する。	内：2.5YR6/6 橙 外：2.5YR6/8 橙	やや緻密、白・灰細砂、白・ 黒砂、白色針状物 焼成：やや硬質	覆土中	胴部破片
34	土師器 製塩土 器	高 [2.0]	内面ナデ。外面ナデ、指頭押圧。口縁部端部はヘラケズリにより面取りされ、平坦面を有する。著しく被熱している。	内：5YR6/6 橙 外：7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・黒・灰細 砂、赤色粒、白色針状物 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部破片
35	石製品 砥石	長幅厚重 [12.0] [4.6] [3.1] [157.8]	長軸方向2面に砥面が認められる。正面の擦痕は深く粗いものも多く、左側面は殆ど擦痕が確認できない。	2.5Y5/3 黄褐	凝灰岩質	No.62 6.0	残 1/4
36	石製品 紡錘車	径幅厚重 [4.8] 4.8 1.8 58.0	全面が入念に研磨されており、僅かに擦痕が残るが、風化のため光沢はない。側面には小さな梯子状の線刻あり。載頭円錐形を呈する。	2.5Y6/3 にぶい黄	粘板岩	No.53 17.7	完存
37	鉄製品 鎌	長幅重 [18.5] 3.4 [57.1]	背に緩やかな丸みをもつ曲刃鎌。基部をL字形に曲げる。曲げ幅は1cm弱。刃部断面は平造り。棟は角棟で、最大幅は3.0mm。	—	鉄製	No.61 8.0	ほぼ完存
38	鉄製品 紡錘車	長幅重 [25.2] 4.5 [30.4]	紡錘車4.5cm、厚さ約2.5mm。紡錘車中心部に径約7mmの円形孔あり。残存軸長25.4cm。軸の断面形はほぼ円形。軸径は2.7~4.2mmと下側が太い。	—	鉄製	No.66 7.0	部分欠損
39	鉄製品 紡錘車	長幅重 [10.6] 4.6 [23.6]	紡錘車4.6cm、厚さ2.5mm。孔径5.0~6.0mmで中心から僅かに外れる。残存軸長10.6cm。軸断面形は隅丸方形だが上部は方形に近い。軸径2.8~3.8mmと紡錘車付近が最も太い。	—	鉄製	No.65 7.0	部分欠損
40	鉄製品 刀子	長幅重 [11.4] 1.6 [13.1]	両側の刀子。棟は平坦で最大幅は4.0mm。刃部は平造り。茎の断面形は逆台形。切先及び茎端部を欠損。	—	鉄製	No.32 床直	部分欠損
41	鉄製品 鉄鏃	長厚重 [4.0] [0.4] [2.6]	鑿箭式の長頸鏃。鏃身断面は片丸で最大幅5.0mm。頸部断面は長方形。箆被・茎部は欠損しており形状不明。	—	鉄製	No.81 33.5	部分残存

3区 SI-3 (遺構：第22・23図、遺物：第24・25図、図版三・七九・八〇・一一二・一一三・一一五)

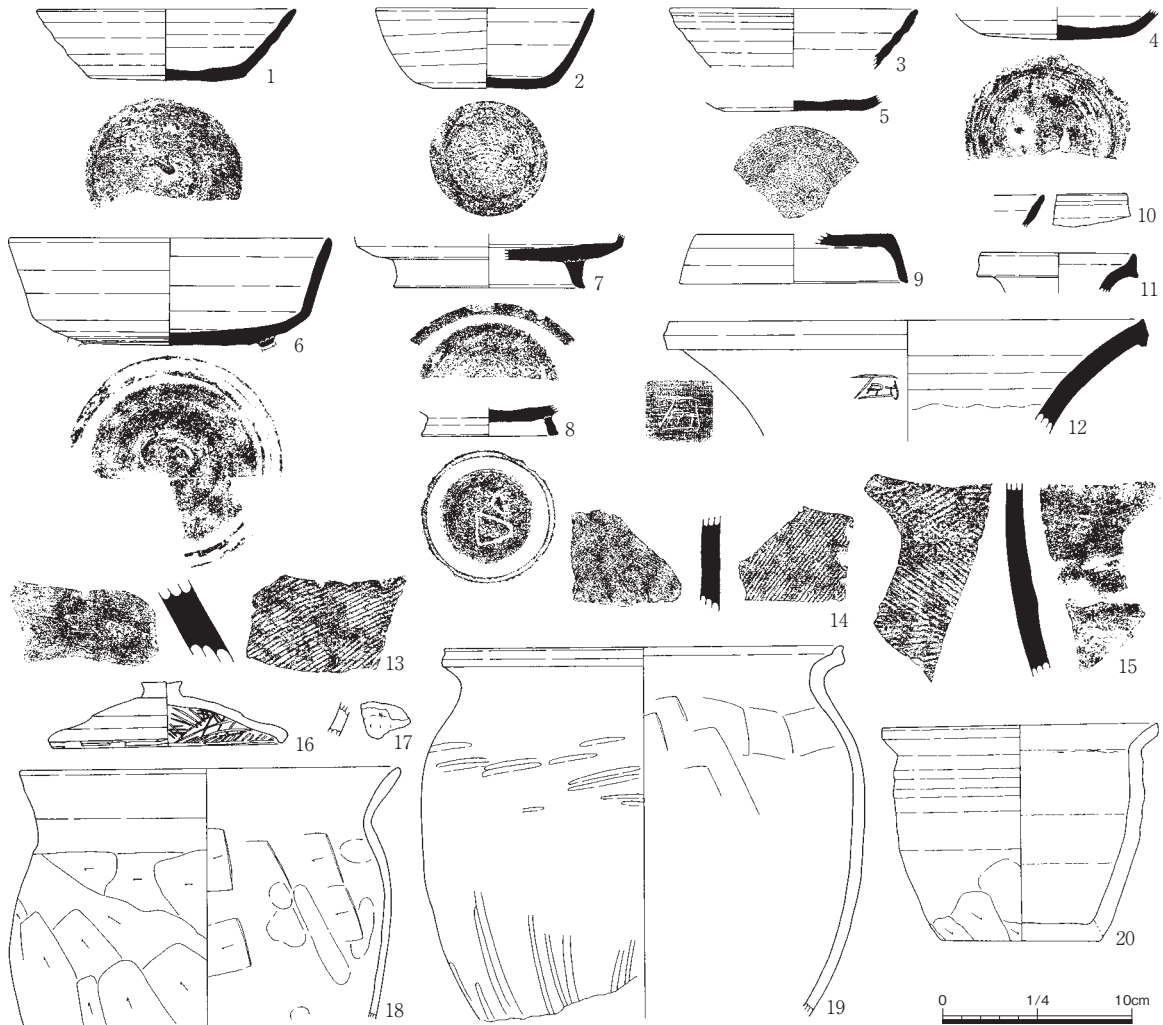
位置 グリッド 87.0-50.5・87.5-50.5 重複遺構 SE-95 より新しい。 平面形 隅丸方形 規模 東西 5.13 × 南北 4.80 m 主軸方向 ほぼ真北 覆土 8層に分層。下層の6~8層は焼土を多量含み、大型の炭化材が混入する。上層は黒褐色土及び明褐色土主体、1・2層は白色テフラを多く含む。 壁 壁高は67~78 cm。 床 ほぼ全面が貼床、硬化面は確認できなかった。若干の凹凸あり。 柱穴 P1 (径35 cm、深さ31 cm)、P2 (径32~28 cm、深さ22 cm)、P3 (径38~32 cm、深さ44 cm)、P4 (径42~39 cm、深さ50 cm) は支柱穴と考えられる。柱痕は確認できなかった。P5 (径51~34 cm、深さ42 cm)、P6 (径49~33 cm、深さ24 cm)、P7 (径44~30 cm、深さ22 cm)、P8 (径32~29 cm、確認面から50 cm)、P9 (径41~35 cm、確認面から60 cm) は壁柱穴と思われる。北壁のP5・P6及び南壁のP7は床面より深いが、P8・P9は壁面途中までの掘り込みである。 入口ピット P10 (径46~41 cm、深さ24 cm) は南壁中央部に位置する。 貯蔵穴 確認できなかった。 壁溝 北東コーナー及び入口ピット周辺を除く壁際に認められる。西壁際をD1 (幅25~40 cm、深さ10 cm)、と東壁際をD2 (幅25~45 cm、深さ6 cm) とした。 掘方 南西部の掘り込みは浅く7~10 cmほど、四隅に土坑状の掘り込みが見られる。 カマド 北壁中央部に位置する。



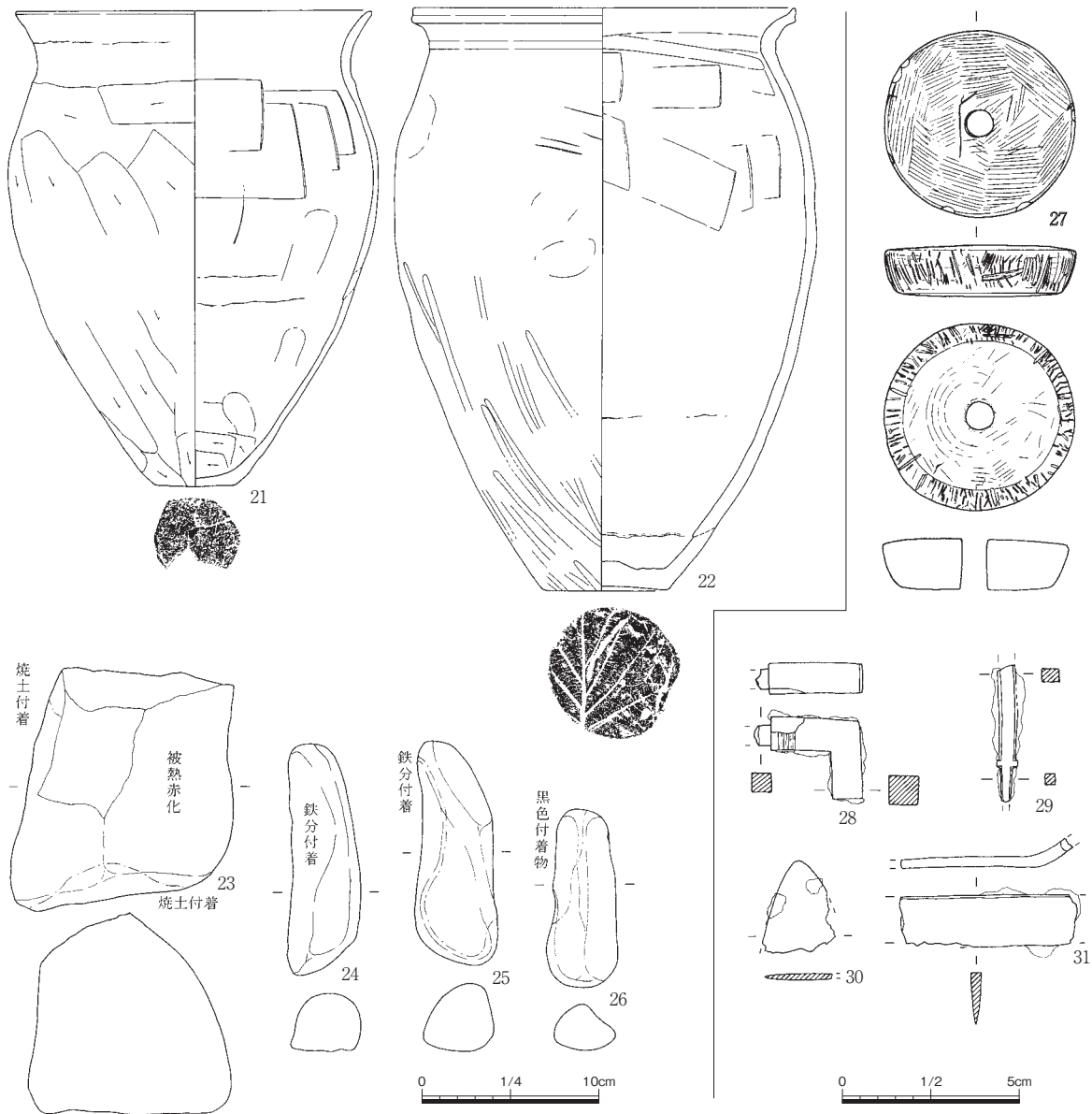
第22図 西刑部西原遺跡3区 SI-3実測図(1)



第23図 西刑部西原遺跡3区 SI-3実測図(2)



第24図 西刑部西原遺跡3区 SI-3出土遺物(1)



第25図 西刑部西原遺跡3区 SI-3出土遺物(2)

煙道は北壁を三角形に掘り込み、50°の角度で直線的に立ち上がる。袖は暗灰褐色粘土を主体に構築している。覆土中の焼土量は比較的少ない。使用期間が短かったためか。遺物計31点を図示した。須恵器坏・高台付坏・須恵器甕のほか、内面にミガキを施した土師器蓋・甕などがある。この他石製紡錘車や、鉄製品(鉄鎌・刀子など)が出土している。8の高台付坏は底部外面に台形のへら記号があり、一部に赤色顔料の付着が見られる。12の須恵器甕は頸部に「厨」に似た焼成前の刻書が見られる。27は扁平な滑石製の石製紡錘車。下面・側面は特に入念に研磨している。28は不明鉄製品だが、鍵の部品の可能性も考えられる。不掲載遺物の総量は小コンテナ7箱、礫は4.1kgである。遺物から奈良時代前葉の建物跡と考えられる。

第5表 3区 SI-3出土遺物観察表

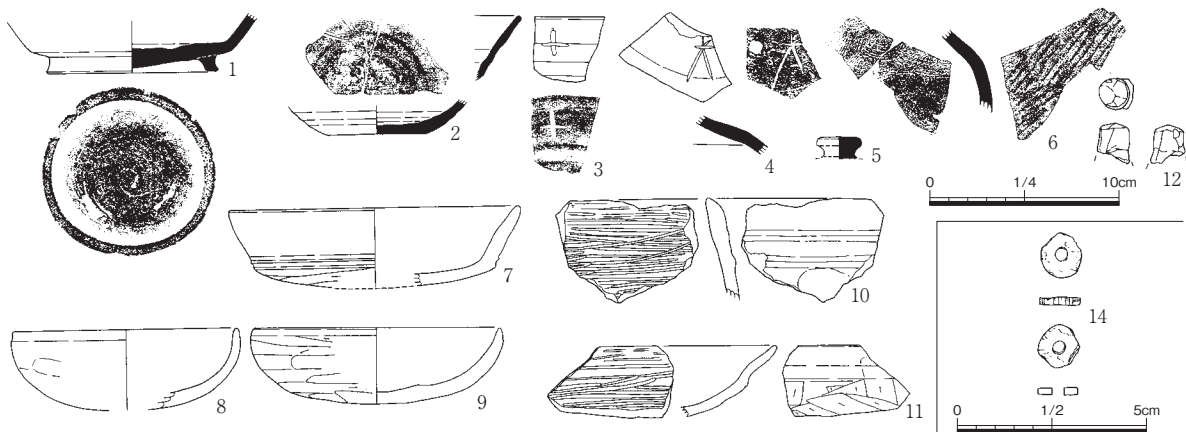
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技 法 ・ 特 徴	色 調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 環	口 (13.4) 底 8.2 高 3.9	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。	内外面とも 10Y5/1 灰	やや緻密、白・灰細砂、白・灰砂、白礫 焼成：硬質	No.8 1.8	口縁部 1/2、底部 3/4
2	須恵器 環	口 11.6 底 5.9 高 4.2	内外面ロクロナデ。底部外面回転系切りのち外周回転ヘラケズリ。2次底部面を有する。	内外面とも 7.5Y4/1 灰	やや緻密、白色粒多量 焼成：やや硬質	No.70 床直	口縁部 3/4、底部 完存
3	須恵器 環	口 (12.8) 高 [3.1]	内外面ロクロナデ。ロクロ目は明瞭だが、特に口縁部外面は沈線状を呈する。	内外面とも 10BG5/1 青	やや緻密、白色粒、白礫 焼成：硬質	覆土中	口縁部～体 部 1/4
4	須恵器 環	底 8.4 高 [1.6]	底部外面回転ヘラケズリ。底部外面に自然釉付着。伏せて焼いたものか。	内：5Y5/1 灰 外：N4/0 灰	緻密、黒・灰・白細砂、黒・白砂 焼成：硬質	No.79 15.6	底部 3/5
5	須恵器 環	底 (7.1) 高 [0.8]	底部内面ロクロナデ。底部外面回転系切りのち外周回転ヘラケズリ。	内：7.5Y5/1 灰 外：5Y5/2 灰オリーブ	緻密、白細砂、黒砂 焼成：硬質	覆土中	底部 1/3
6	須恵器 高台付 環	口 17.0 高 [5.6]	底部外面回転ヘラケズリのち接合沈線のち高台貼付。底部内面中心部は磨滅し平滑。ぐらつきを押さえるため割かれた(折れた)高台の破損面を研磨している。	内外面とも 10Y5/1 黄灰	やや緻密、白・黒粗砂、白・黒礫 焼成：やや硬質	No.68・71 床直 (No.68)	口縁部～底 部 1/2
7	須恵器 高台付 環	底 (9.9) 高 [2.9]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち接合沈線のち高台貼付。	内：5Y5/1 灰 外：N5/0 灰	やや緻密、灰・白細砂、白・黒砂、白礫 焼成：硬質	No.23 51.4	底部 1/4
8	須恵器 高台付 環	底 7.0 高 [1.6]	底部外面に台形状のヘラ記号あり、底部外面には赤色物(朱墨か)が全体的に付着。研磨痕が無いため、パレットとして使用か。底部縁辺は打ち欠いて成形したと思われる。	内外面とも 10YR5/1 褐 灰	やや緻密、白色粒、微砂 粒やや多量、礫少量 焼成：硬質	No.24 1.2	底部完存
9	須恵器 短頸壺 蓋	口 (12.0) 底 (10.2) 高 [2.6]	天井部外面～体部下端回転ヘラケズリ。ツمامミ欠損。体部は僅かに丸みをもち、端部は内削ぎ状を呈する。	内：5Y7/2 灰白 外：2.5Y7/2 灰黄	緻密、灰・白・黒細砂、灰・白砂、赤色粒 焼成：硬質	No.17 65.1	天井部から 端部 1/4
10	須恵器 環	高 [1.8]	内外面ロクロナデ。口縁部は2条の沈線状のロクロ目あり。新羅系土器の可能性あり。	内：7.5Y5/1 灰 外：10G5/1 緑灰	やや緻密、白細砂 焼成：硬質	覆土中	口縁部破片
11	須恵器 長頸壺	口 (8.0) 高 [2.1]	内外面ロクロナデ。外面に薄く自然釉付着。	内：10YR5/1 灰 外：10R5/1 赤灰	やや緻密、白粗砂 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 1/4
12	須恵器 甕	口 (24.8) 高 [5.6]	内外面ロクロナデ。底部内面中心部を中心にスベスベした部分がある。何らかの使用痕(こね鉢状の使い方か)により摩耗したと考えられる。内面に自然釉付着。ヘラ描き「厨」か。ヘラ描きは焼成前のもの。	内外面とも 2.5Y5/1 黄灰	緻密、白・灰細砂 焼成：硬質	No.59 39.0	口縁部 1/5
13	須恵器 甕	高 [4.8] 厚 1.7	外面平行叩き。内面無文あて具痕。	内：2.5Y5/1 黄灰 外：N5/0 灰	緻密、白細砂、白・黒砂 焼成：硬質	覆土中	胴部破片
14	須恵器 甕	高 [4.8] 厚 1.0	外面平行叩き。内面木製のあて具痕(木目がうっすらみえる)。	内：2.5YR6/2 灰黄 外：2.5Y6/1 黄灰	緻密、灰細砂、灰・白砂 焼成：硬質	No.33 67.6	胴部破片
15	須恵器 甕	高 [10.2] 厚 1.2	内面上半部無文あて具痕。輪積痕あり。外面平行叩き。外面自然釉付着。	内：10Y5/1 灰 外：N3/0 暗灰	緻密、白細砂、白礫 焼成：硬質	覆土中	胴部破片
16	土師器 蓋	口 11.9 高 3.4 径 2.1	外面天井部回転ヘラケズリ。外面ツمامミ貼付。外面端部ヘラミガキ。内面ヘラミガキのち黒色処理。	内外面とも 10YR6/4 に ぶい黄橙	やや緻密、白・灰細砂、 黒砂、礫 焼成：やや硬質	No.1 床直	完存
17	土師器 甕	高 [1.8] 口 23.0	外面ヘラケズリ。内面ナデ。	内外面とも 10YR4/3 に ぶい黄褐	粗い、白・透明粗砂、透 明礫、白色針状物 焼成：軟質	覆土中	胴部破片
18	土師器 甕	口 23.0 高 [14.5]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半横位ヘラケズリのち斜位ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ・指頭押圧。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	緻密、白・透明・黒粗砂、 白礫 焼成：やや軟質	No.11・13・ 16 2.8 (No.13)	口縁部～胴 部上半 5/6
19	土師器 甕	口 (20.8) 高 [19.6]	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部つまみ上げ。胴部外面上半平行叩きのちナデ。下半部ナデのち縦方向のヘラミガキ。内面ヘラナデ。	内外面とも 5YR5/6 明赤 褐	粗い、白・透明粗砂、白・ 透明礫 焼成：軟質	No.10・22・ 49・76 床直 (No.10)	口縁部 1/3
20	土師器 小型甕	口 14.3 底 8.4 高 11.5	内外面ロクロ成形。胴部外面下端部一部ロクロナデのちヘラケズリ。底部外面ナデのち網代痕または敷物痕か。	内：7.5YR6/6 橙 外：7.5YR7/6 橙	やや粗い、黒砂、透明・ 白礫、赤色粒 焼成：やや軟質	No.2・5 床直	口縁部 3/4、 底部完存、 胴部 3/4
21	土師器 甕	口 (20.0) 底 4.5 高 26.7	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半横位ヘラケズリ、下半斜位ヘラケズリ。胴部内面上半ヘラナデ、中位ナデ、底部幅の狭いヘラナデ。底部外面一方向ヘラケズリ。ほぼ全面に粘土付着。(カマド構築材と考えられる。)	内：5YR4/4 にぶい赤褐 外：5YR4/6 赤褐 10YR2/2 黒褐	やや緻密、白・黒細砂 焼成：やや硬質	No.18・19・ 21・66・67・ 78 床直 (No.78)	口縁部 1/3、底部 3/4、胴部 完存
22	土師器 甕	口 21.4 底 7.0 高 32.7	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半(平行)叩きのちナデ、下半部疎らなミガキ。胴部内面ヘラナデ一部ナデ。底部外面に木葉痕。	内：5Y6/8 橙 外：5Y4/8 赤褐	やや粗い、白・灰・黒砂、白・ 灰・透明細砂、白・灰礫 焼成：やや硬質	No.10・12・ 15・20 床直 (No.10)	口縁部完 存、底部完 存
23	石器 編物石	長 [13.2] 幅 11.4 厚 [11.2] 重 [2900.0]	未加工の自然礫。全面被熱。部分的に焼土付着。	10R3/1 暗赤灰	—	No.34 15.3	部欠
24	石器 編物石	長 13.1 幅 3.9 厚 3.3 重 220.0	未加工の自然礫。鉄分付着。	10YR6/4 にぶい黄橙	—	No.82 9.5	完存
25	石器 編物石	長 12 幅 4.0 厚 4.0 重 280.3	未加工の自然礫。鉄分付着。	2.5Y6/3 にぶい黄	—	No.73 床直	完存
26	石器 編物石	長 10.0 幅 4.0 厚 2.5 重 133.5	未加工の自然礫。黒色物付着。	10YR6/4 にぶい黄橙	—	No.80 9.5	完存

第3章 発見された遺構と遺物

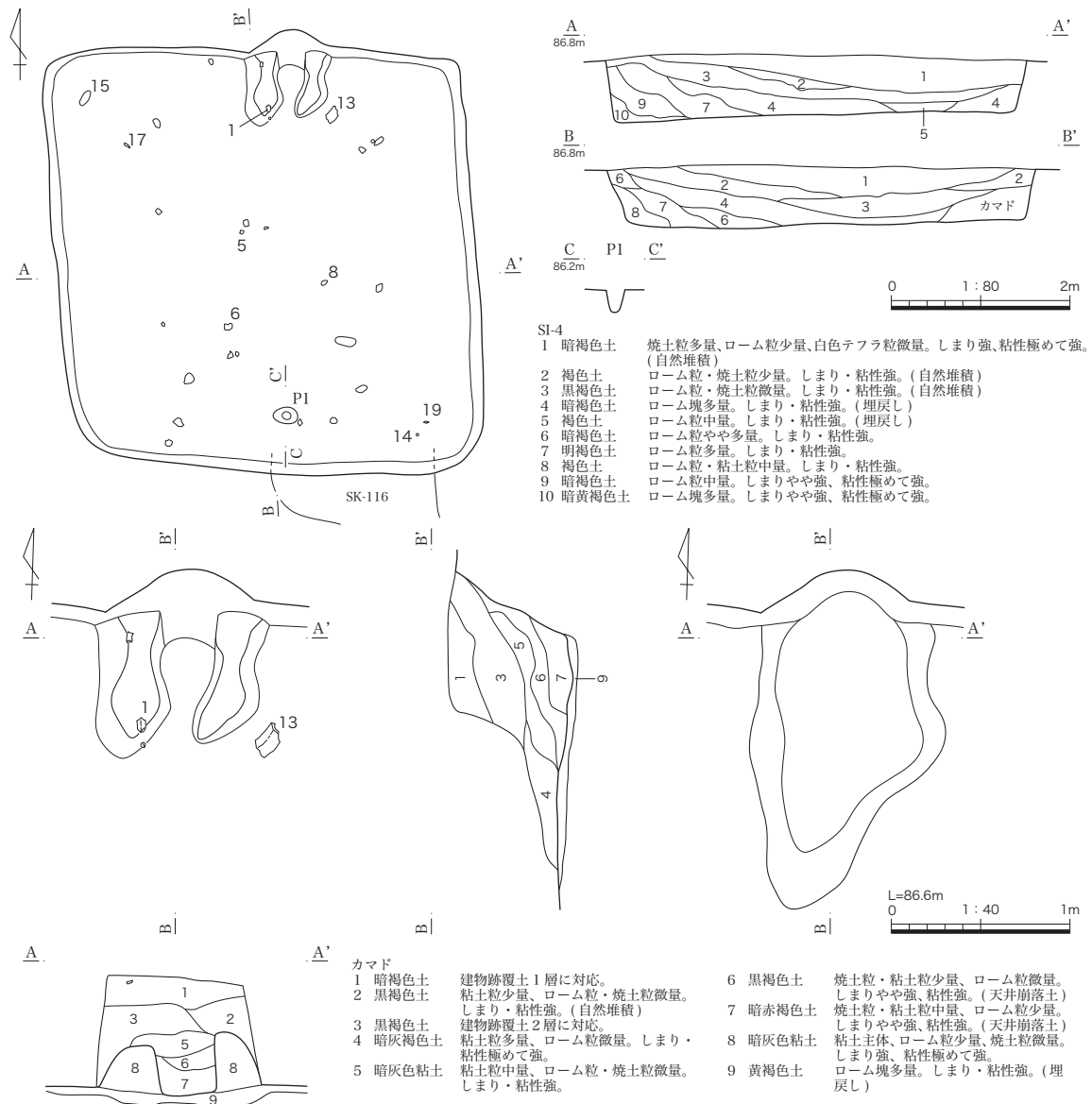
27	石製品 紡錘車	長 5.4 幅 5.3 厚 1.5 孔 0.77~0.79 重 77.3	上面：線状の明瞭な擦痕あり。下面：研磨されるが、線状の擦痕が僅かに残る。孔周辺に同心円状の擦痕あり。側面：水平方向の擦痕残るが、概ね下面と同様平滑に研磨した後、太目の垂直方向の沈線状の削りを加える。断面台形。上面・下面は僅かにレンズ状に膨らむ。側面は僅かに弧状を呈する。	7.5GY1/3 暗緑灰	滑石片岩	No. 75 床直	完存
28	鉄製品 鍵か	長 [3.0] 幅 2.2 重 17.6	残存部の平面形はL字形。左端は段を境に細くなり、その先を欠損。段の部分には薄い有機質を巻いた痕跡あり。断面は全て角の明瞭な正方形を呈する。断面は細い部分で、一辺4.0~5.0mmその他は一辺8.0~9.0mm。	—	鉄製	No. 32 9.7	部分残存
29	鉄製品 鉄鎌	長 [3.9] 幅 0.5 厚 0.4 重 [3.1]	長頸鎌と考えられる。柄と筥被の棘、茎の一部が残る。柄の断面形は長方形だが、茎部は正方形を呈する。鎌身と茎下端部を欠損。	—	鉄製	覆土中	部分残存
30	鉄製品 鉄鎌	長 [2.6] 幅 [2.0] 厚 0.2 重 [2.0]	鎌身の一部のみ残存。やや大型の鎌と考えられる。	—	鉄製	No. 57 41.0	部分残存
31	鉄製品 刀子	長 5.0 幅 1.3 厚 0.3 重 8.3	刀子の破片。折れた（または折った）痕跡あり。背は直線的で、平坦な棟の最大幅は約3.0mm。刃部は平造り。切先・茎部を大きく欠損する。	—	鉄製	No. 28 26.0	部分残存

3区 SI- 4（遺構：第27図、遺物：第26・28図、図版三・八〇・一一二・一一五）

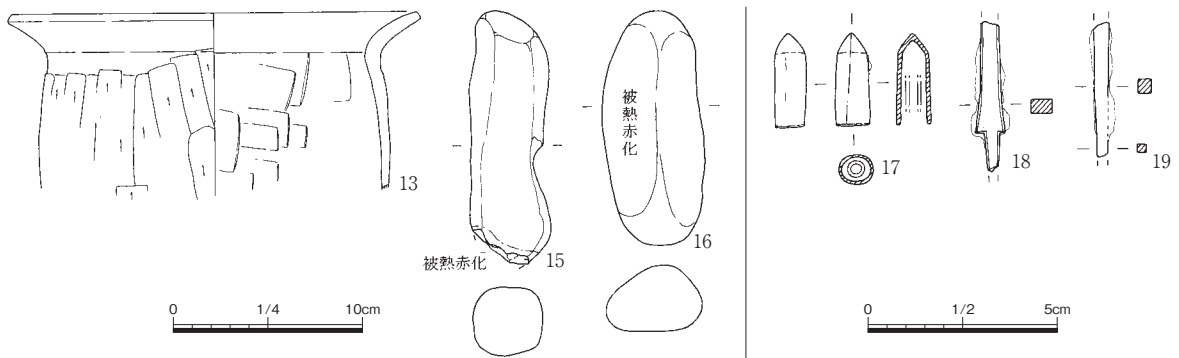
位置 グリッド87.5-51.0 重複遺構 SK-116より古い。平面形 隅丸の正方形(菱形状) 規模 東西4.67×南北4.73m 主軸方向 N-5°-W 覆土 暗褐色土及び褐色土を主体とする10層に分層。10層は壁崩落土か。4・5層は人為埋戻しの可能性あり。1層中には白色テフラを含む。浅間B軽石か。8層から3層まではローム粒や粘土粒を多く含む人為埋戻し。1・2層は自然堆積と考えられる。壁 壁高は50~70cm。東壁が若干崩れるが、遺存状況は概ね良好で直線的に立ち上がる。床 ロームの地山を床面とする。住居南西部にかけやや傾斜するが、概ね平坦。柱穴 確認できなかった。入口ピット 南壁際中央部にP1(径28~18cm、深さ25cm)が見られるが覆土の状況などは確認できなかった。貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。カマド 北壁中央部やや東寄りに位置する。壁の掘り込みは浅い弧状を呈し、煙道は60°で立ち上がる。床面の掘方は極めて浅いが、ローム土で埋戻した上に灰褐色粘土で袖を構築する。袖部内側には天井崩落土5・6層が厚く堆積する。遺物 計19点を図示したが、床面直上の遺物は皆無である。3・4は焼成前のヘラ記号(刻書か)が認められる。このうち「大」字状のヘラ記号はSI-5からも出土する。被熱した礫のうち16はカマド覆土中より出土。支脚の可能性あり。17は先端の尖ったキャップ状を呈する弓管形鉄製品。内部には炭化材が残る。不掲載遺物は武蔵型・常総型の甕小破片や、須恵器甕などを含み、少量の焼成粘土塊も見られる。不掲載遺物の総量は小コンテナ2箱ほど。遺物から8世紀前葉の建物跡と考えたい。



第26図 西刑部西原遺跡3区 SI-4出土遺物(1)



第27図 西刑部西原遺跡3区 SI-4実測図



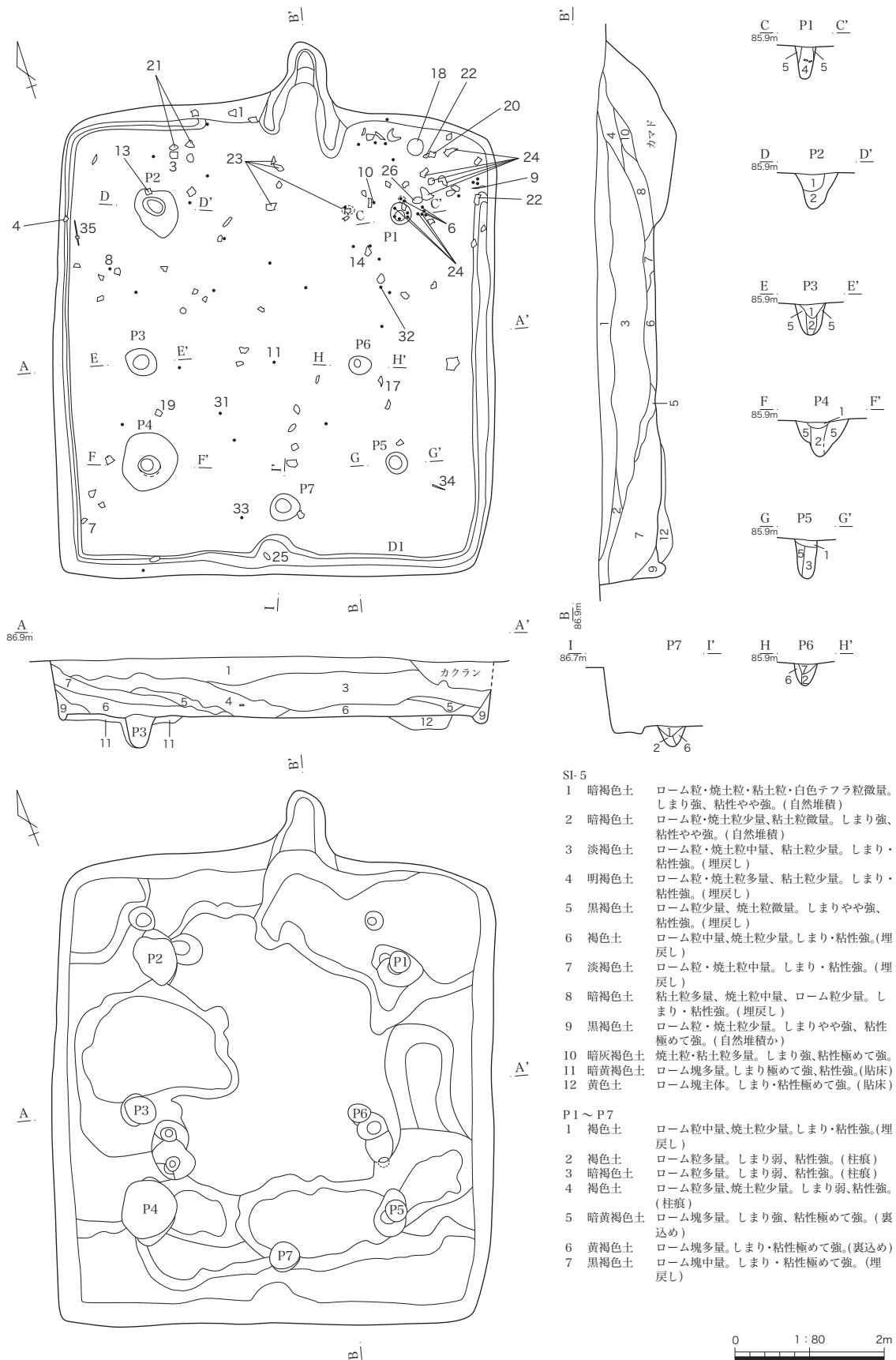
第28図 西刑部西原遺跡3区 SI-4出土遺物(2)

第6表 3区 SI-4 出土遺物観察表

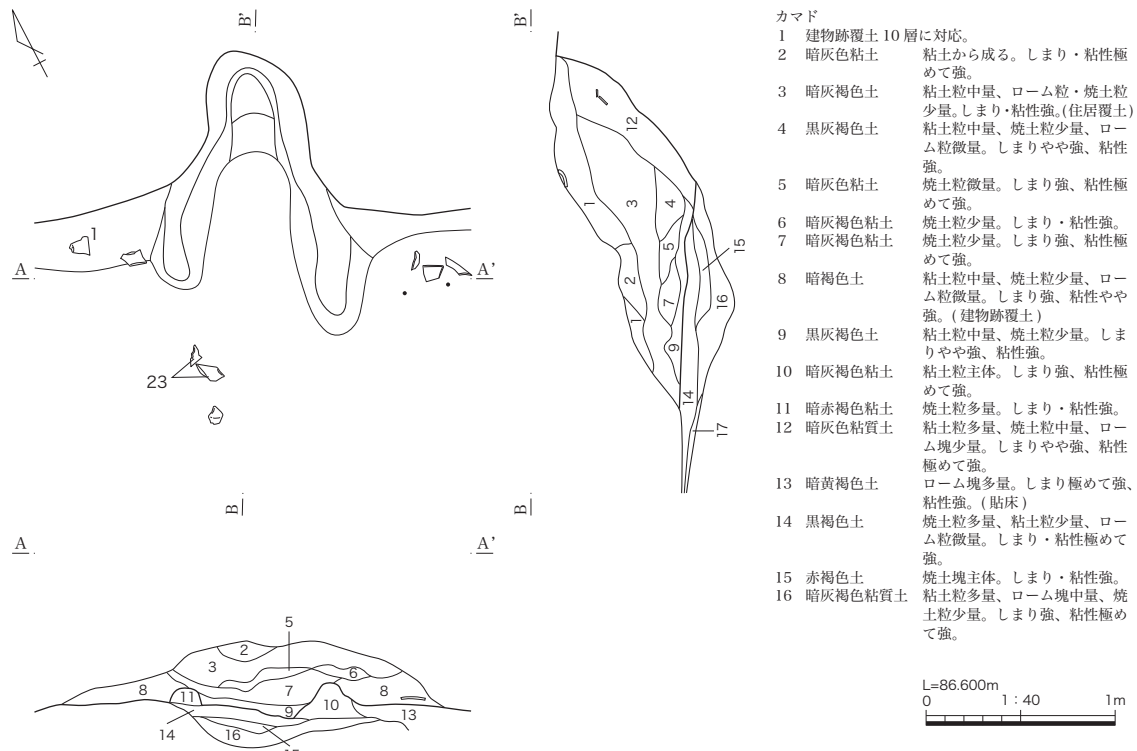
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	須恵器高台付環	底高 8.8 [3.1]	内外面口クロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付け。高台部及び体部下端に降灰。	内外面とも 7.5Y7/2 灰白	やや緻密、白・灰・黒細砂、灰・黒砂、白礫 焼成：硬質	No 8 39.9	底部完存、体部一部
2	須恵器環	底高 5.0 [1.7]	内外面口クロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちスノコ痕か。底部内面製作時のあて具痕あり。	内：5Y4/2 灰オリーブ 外：5Y4/1 灰	緻密、白粗砂 焼成：硬質	覆土中	底部 1/2、体部一部
3	須恵器環	高 [3.4]	内外面口クロナデ。体部外面下端部回転ヘラケズリ。体部側面に十文字のヘラ記号あり。	内：10Y8/1 灰白 外：5Y6/1 灰	緻密、白・灰細砂 焼成：硬質	覆土中	口縁部破片
4	須恵器蓋か	高 [1.8]	内外面口クロナデ。天井部外面回転ヘラケズリのちヘラ記号。	内：5Y3/2 オリーブ黒 外：10Y7/1 灰白	やや粗い、白粗砂、白礫 焼成：硬質	覆土中	天井部破片
5	須恵器蓋	高 [1.1] 穴径 2.3	ツマミ部のみ残存。口クロナデ。	内外面とも 7.5Y8/1 灰白	緻密、白細砂 焼成：硬質	No 18 24.1	ツマミ部破片
6	須恵器甕	高 [4.5]	外面平行叩き。内面細かなうすらした同心円状あて具痕。東海産か。SI-5-18、SI-35-4 と同一個体の可能性大。	内：2.5Y6/3 にぶい黄 外：7.5YR5/3 にぶい褐	緻密、白礫、微砂粒 焼成：硬質	No 5、SI-31 覆土 36.5	肩～胴部破片
7	土師器環	口高 [15.2] 高 [4.2]	体部内面～口縁部外面ヨコナデ。漆仕上げ。体部外面ナデのちヘラケズリ。	内外面とも 10YR8/3 浅黄橙	やや緻密、黒・白細砂、黒砂 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 1/3
8	土師器環	口高 [11.8] 高 [4.2]	体部内面上半～口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラナデか（剥落顕著のため調整不明瞭）。	内：5YR6/6 橙 外：7.5YR5/3 にぶい褐	やや緻密、白・透明細砂、赤色粒 焼成：やや硬質	No 8 39.9	口縁部 1/10、体部 1/5
9	土師器環	口高 [12.8] 高 [4.0]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヨコヘラケズリ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	緻密、白粗砂、赤色粒 焼成：硬質	覆土中	口縁部～底部 1/6
10	土師器鉢か	高 [5.2]	内面ヘラミガキ、黒色仕上げ。口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラナデ。体部外面タール状付着物あり（炊きこぼれた炭化物か）。胎土は裏類と類似する。	内：10YR5/3 にぶい黄褐 外：7.5YR5/3 にぶい褐	やや粗い、灰・黒細砂、灰・黒・白砂、白色粒 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部破片
11	土師器高環	高 [6.0]	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部内面～体部内面ヘラミガキ。体部外面ヘラケズリ。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密、黒・白細砂、黒砂、赤色粒、黒雲母 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 1/2
12	土師器土製品	高 [2.0]	ヘラナデまたはナデ。土師器蓋あるいは土師のツマミ部分か。	内外面とも 5YR7/4 にぶい橙	やや緻密、黒・白・灰細砂、黒・白砂 焼成：やや硬質	覆土中	ツマミ部破片
13	土師器甕	口高 [21.1] 高 [9.4]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面縦方向ヘラケズリ。	内外面とも 7.5YR6/4 にぶい橙	やや粗い、白・灰細砂、灰・黒砂、灰礫 焼成：やや硬質	No 17 21.3	口縁部 1/3
14	石製模造品白玉	径 1.0～1.2 [0.2] 厚 [0.2] 重 [0.3]	平面形：やや不整な円形。孔径約 3.0 mm。断面形：長方形だが、薄く剥がれた可能性あり。側面研磨は疎らで粗雑。一部に切削工程の痕跡を明瞭に残す。	10Y4/1 灰	粘板岩	No 13 62.1	ほぼ完存
15	石器編物石	長幅厚重 [13.5] 4.3 4.1 [324.0]	下端部は強く被熱し破損したものか。平面形：棒状 断面形：隅丸正方形	2.5Y6/4 にぶい黄	—	No 24 27.8	部欠
16	石器編物石	長幅厚重 12.3 5.1 3.5 327.5	全体的に弱く被熱。器面はほのかに赤変している。平面形：長い楕円形 断面形：隅丸三角形	10YR6/4 にぶい黄橙	—	カマド	完存
17	不明鉄製品	長径 2.5 [0.8～0.9] 重 2.2	キャップ状を呈する用途不明鉄製品。板状素材を曲げ筒状にしたのち、切込みを入れ先端部を円錐状にしたものか。側面に僅かに接合痕が見られるが不明瞭。内部には炭化した竹管状の木質が残る。	—	鉄製	No 23 28	完存
18	鉄製品鉄鏃	長幅厚重 [4.0] 0.8 0.4 [4.4]	頸部上半及び基下端部を欠損。頸部の断面は長方形。間は台形間で、表裏面に段差はない。	—	鉄製	覆土中	部分残存
19	鉄製品鉄鏃か	長幅厚重 [3.5] 0.4 [2.1]	上端部・下端部を欠損。下部に行くほど細く、断面形は正方形。鉄鏃茎部と思われるが、釘の可能性もある。	—	鉄製	No 14 59.7	部分残存

3区 SI-5（遺構：第29・30図、遺物：第31・32図、図版三・四・八〇・八一・一一二～一一五）

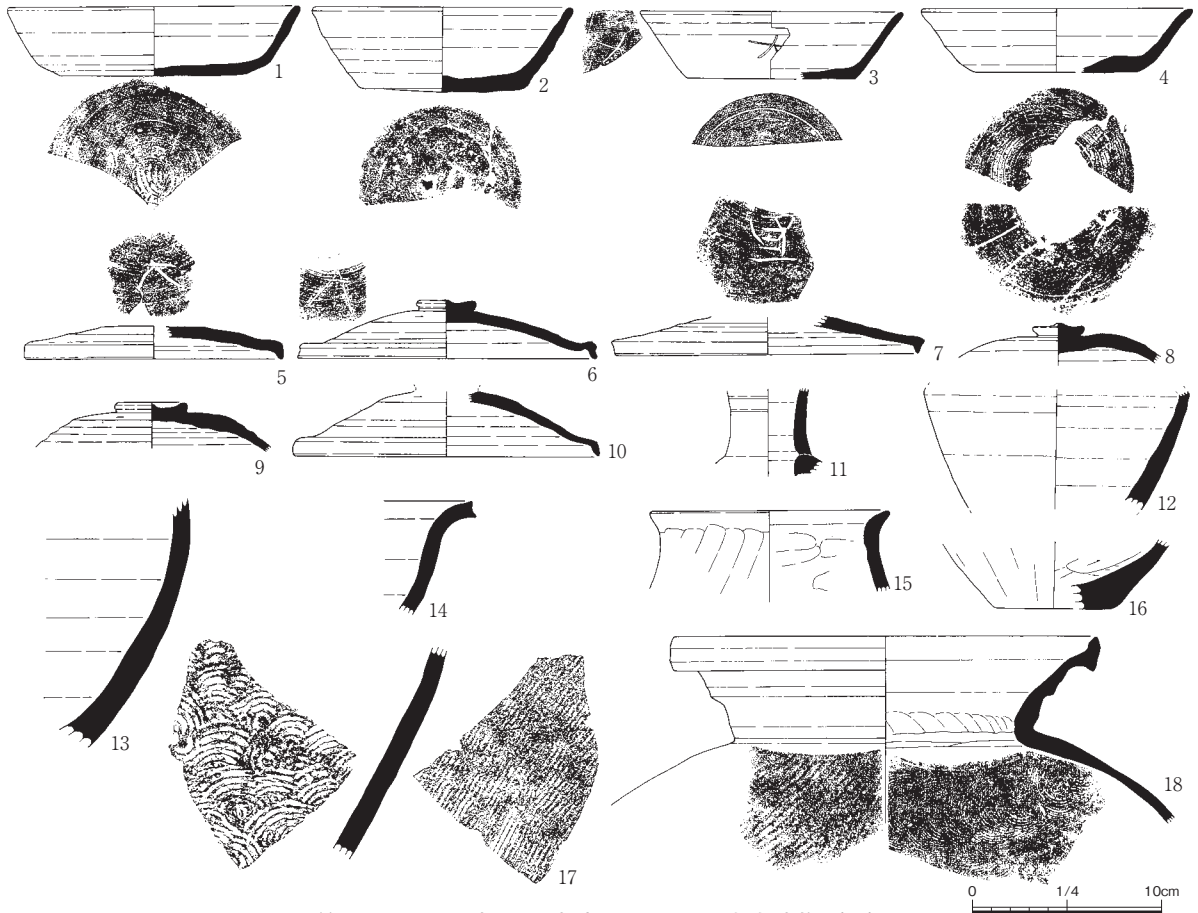
位置 グリッド 88.0-51.0・88.0-51.5・88.5-51.0 重複遺構 無し。平面形 隅丸方形 規模 東西 5.83 × 南北 6.29 m 主軸方向 N -23° - E 覆土 暗褐色土及び黒褐色土主体の 10 層からなる。主に下層（4 層以下）は人為埋戻し、上層（1～3 層）は自然堆積との所見あり。壁 壁は概ね直線的に立ち上がる。壁高は 57～88 cm 残存。床 若干の凹凸をもつが概ね平坦。中央部はローム地山を床面とし、外周は貼床。硬化面は確認できなかった。柱穴 P1（径 29～28 cm、深さ 40 cm）、P2（径 64～54 cm、深さ 46 cm）、P4（径 82～76 cm、深さ 45 cm）P5（径 29～29 cm、深さ 50 cm）は主柱穴か。P3（径 44～36 cm、深さ 41 cm）、P6（径 30～26 cm、深さ 33 cm）は主柱穴の間にあるが、間隔は不揃いである。この内 P1・P3～P5 は柱痕が残っていた。入口ピット P7（径 40～35 cm、深さ 27 cm）は、南壁際から 40 cm 離れる。



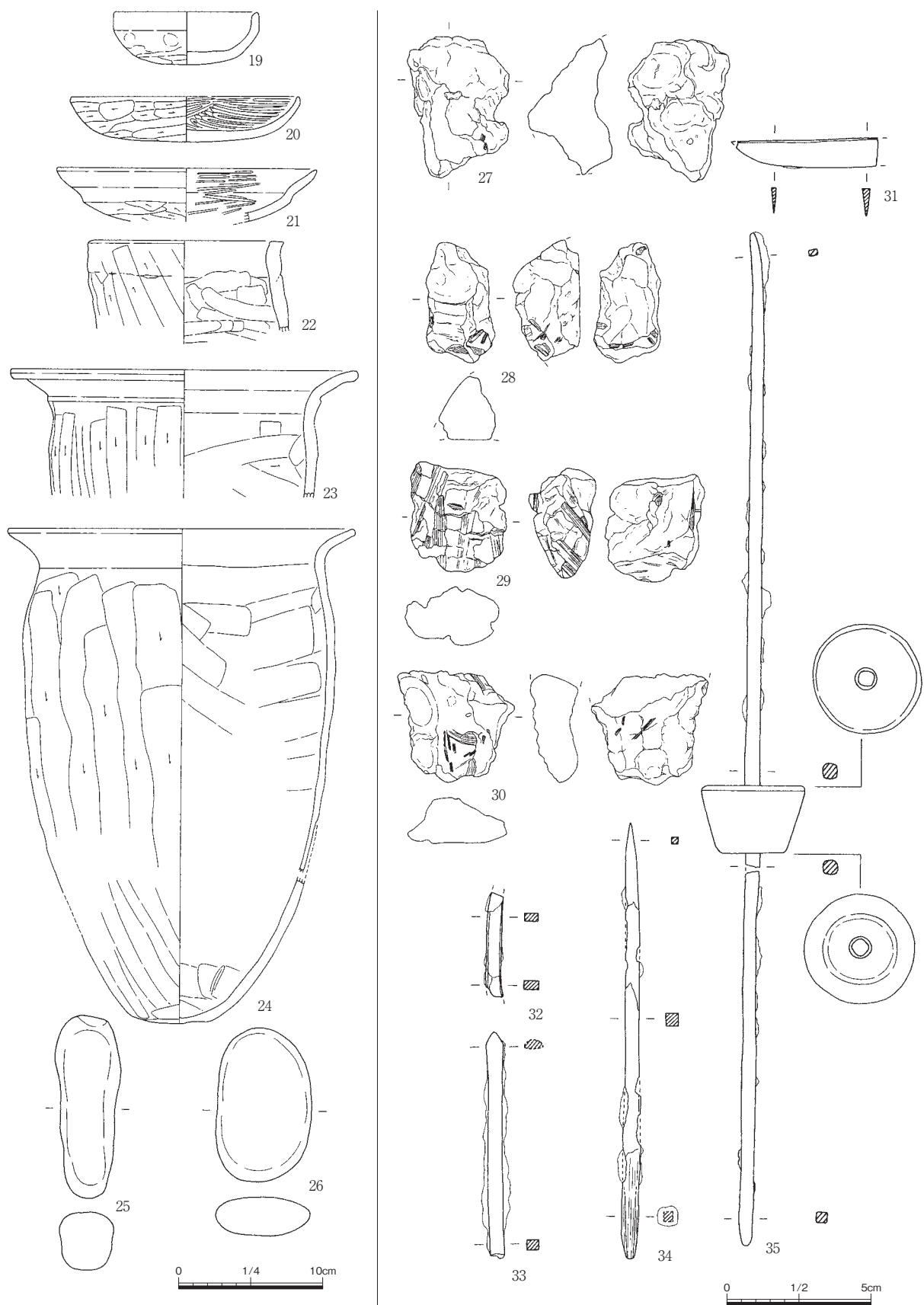
第29図 西刑部西原遺跡3区 SI-5実測図(1)



第30図 西刑部西原遺跡3区 SI-5実測図(2)



第31図 西刑部西原遺跡3区 SI-5出土遺物(1)



第32図 西刑部西原遺跡3区 SI-5出土遺物(2)

貯蔵穴 確認できなかった。壁溝 D1（幅 15～31 cm、深さ 10 cm）は、カマド東側から北東隅およびカマド西側の一部を除いて壁際を巡る。壁溝は南壁中央部で若干突出するが、入口ピットとの関連が想定される。掘方 中央部を掘り残し周囲は土坑状（深さ 10～24 cm）に浅く掘り込み、ローム塊主体の 11・12 層で埋戻している。カマド 北壁中央部に位置する。煙道は壁際を U 字形に掘り込み、やや丸みをもって立ち上がる。袖部は残存不良だが、主に暗灰褐色粘土で構築される。覆土中の焼土は少ないが、14～16 層の貼床中に焼土が多く、作り直した可能性がある。遺物 計 35 点を図示した。覆土中～上層の遺物が多い。須恵器環及び蓋はへら記号をもつものが多い。3・5・6 のへら記号は「大」の字状で、SI- 4 に同様の遺物が見られる。9 のへら描きは「里」か。18 は幅広で厚手の複合口縁をもつ凸帯甕か、胴部は極めて薄い。内面の同心円状あて具痕は浅く細かい。湖西産か。34 は基部に木質が残る。錐か。35 は鉄製軸に石製紡輪が付された完形品の紡錘車。軸上端部は細く、断面は偏平に加工される。そのほか少量の焼成粘土塊が見られる。この他不掲載遺物は小コンテナ 2.5 箱で、礫は 1.3 kg 出土した。図示しなかったが、土師器甕は常総型甕及び下野型祖形の甕を少量含む。遺物から奈良時代中葉の建物跡と考えられる。

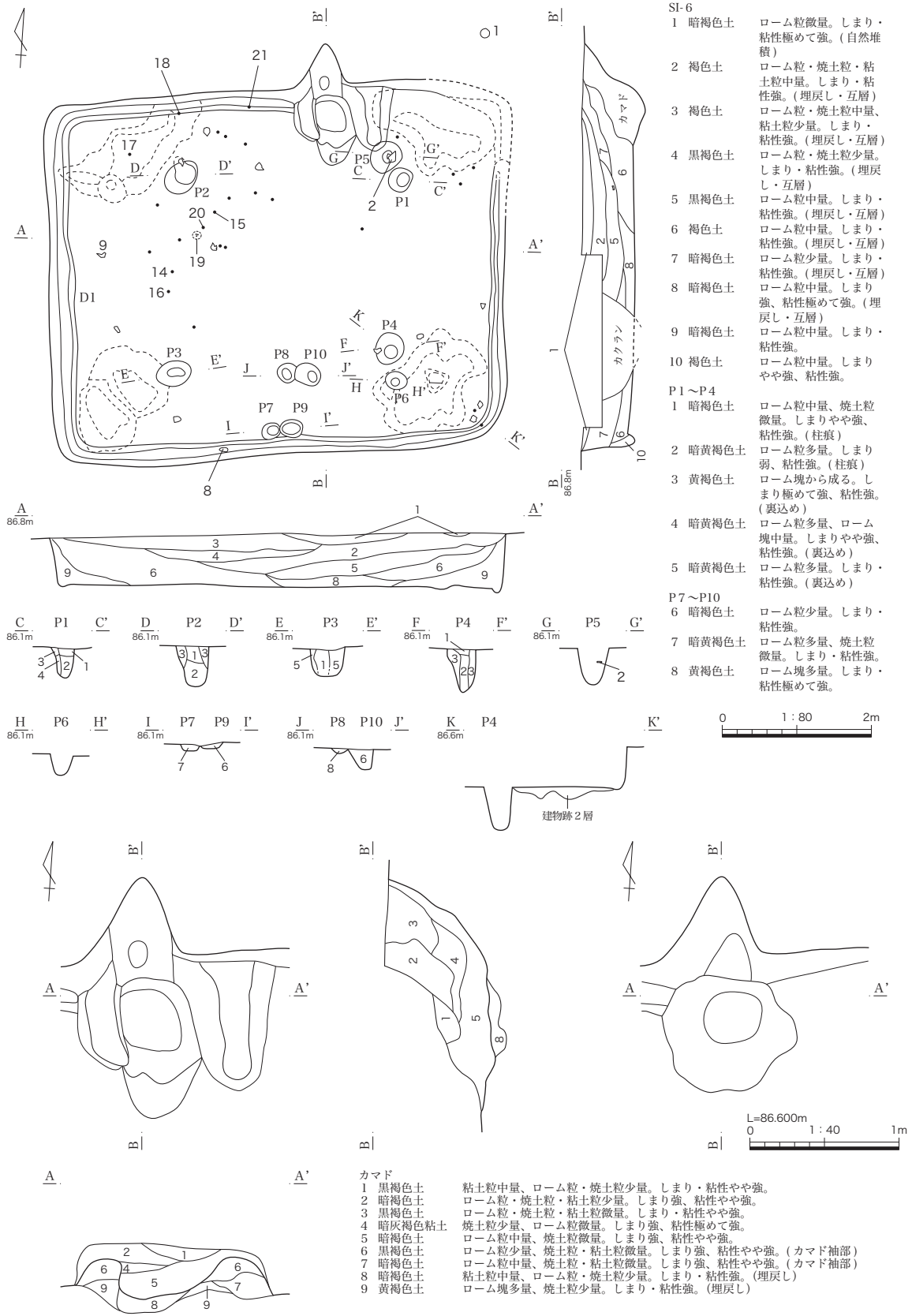
第7表 3区 SI- 5 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器環	口底高 3.6 (15.2 (9.6))	内外面ロクロナデ。底部外面回転系切りのち外周回転ヘラケズリ。	内外面とも 7.5Y8/1 灰白	緻密、黒・白細砂、黒・白粗砂、白礫 焼成：硬質	No. 34 73.3	口縁部～体部 1/6、底部 1/3
2	須恵器環	口底高 4.5 (13.4 (8.4))	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのち軽いナデ。	内外面とも 7.5Y4/1 灰	やや緻密、灰・白細砂、灰・白・黒砂、白礫 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 1/8、底部 3/5
3	須恵器環	口底高 3.5 (13.8 (8.7))	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリ。体部外面へら記号あり「大」か。楕円形に歪むため直径は参考値(最小6.5cm～最大7.4cmの中間のφ6.9cmで復元)。	内：2.5Y7/2 灰黄 外：2.5Y7/1 灰白	緻密、灰細砂、黒砂 焼成：硬質	No. 38 7.8	口縁部 1/8、底部 1/3
4	須恵器環	口底高 3.3 (14.0 (8.5))	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリ。	内：5Y6/1 灰 外：5Y5/1 灰	緻密、灰・白細砂、白砂 焼成：硬質	No. 47、上面 69.1	口縁部 1/10、底部 1/2
5	須恵器蓋	口高 [1.7] (13.3)	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリのちへら記号「大」か。	内：7.5Y5/1 灰 外：5GY5/1 オリーブ灰	やや緻密、灰・白細砂、黒・白砂、白礫 焼成：硬質	ベルト	口縁部～天井部 1/2
6	須恵器蓋	口高 3.3 (15.6 (8.7))	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリのちツمامミ貼付け。天井部外面にへら記号「大」か。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：5Y6/1 灰	緻密、灰・白細砂、黒砂、白礫 焼成：硬質	No. 108・110・111 3.1 (No. 111)	天井部完存、体部～端部 1/2
7	須恵器蓋	口高 2.0 (16.0)	体部外面に焼成前のへら書きあり「里」か。内外面ロクロナデ。	内：7.5Y7/2 灰白 外：7.5Y8/1 灰白	やや緻密、黒・透明・白粗砂 焼成：硬質	No. 81 24.5	口縁部 1/8
8	須恵器蓋	高 2.8 [2.3] (2.0)	内外面ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリのちツمامミ貼付。天井部～体部にかけてへら記号あり。	内外面とも N4/0 灰	緻密、灰・白細砂、白・黒砂 焼成：硬質	No. 79 36.7	端部欠損
9	須恵器蓋	高 3.5 [2.4] (2.4)	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリのちツمامミ貼付。ツمامミはリング状を呈する。	内：5YR4/2 灰褐 外：5YR5/4 にぶい赤褐	やや粗い、白細砂、白粗砂、白・黒礫 焼成：硬質	No. 32 22.9	天井部～体部 2/3
10	須恵器蓋	口高 [3.4] (16.0)	ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリ。ツمامミ欠損。	内：5Y7/2 灰白 外：2.5Y7/1 灰白	緻密、灰・白細砂、灰砂 焼成：硬質	No. 117、北東 0.9	天井部～端部 2/5
11	須恵器長頸瓶	高頸 4.4 [3.7]	内外面ロクロナデ。釉の発色が不良で 1/2 程度が褐色を呈する。	内外面とも 2.5Y7/2 灰黄	緻密、白細砂、灰・黒砂 焼成：硬質	No. 70 71.6	頸部破片
12	須恵器長頸瓶	高径 (14.1) [5.7]	内外面ロクロナデ。破片上端の僅かな屈曲から、肩の張る長頸瓶と思われる。	内：5Y6/2 灰オリーブ 外：5Y5/1 灰	やや緻密、白・灰・黒細砂、白・灰・黒砂 焼成：硬質	覆土中	胴部下半 1/6
13	須恵器甕	高厚 [12.5] 1.5	内外面ロクロナデ。	内：7.5Y7/1 灰白 外：5Y7/1 灰白	やや粗い、灰細砂、白砂 焼成：やや硬質	No. 44、ベルト 76.0	胴部破片
14	須恵器鉢	高 [6.0]	内外面ロクロナデ。内面ロクロナデのち指ナデ。外反する口縁端部に凹みをもつ。	内外面とも 2.5Y6/1 オリーブ灰	やや粗い、白粗砂、白礫 焼成：やや硬質	No. 98 10.8	口縁部破片
15	須恵器小型甕	口高 [4.4] (12.6)	ロクロナデのち胴部外面へらナデ。胴部内面ナデ。胴部外面の一部に黒色の付着物あり。炭化物か。	内：N5/0 灰 外：N7/0 灰	やや粗い、白・透明粗砂 焼成：硬質	覆土中	口縁部 1/6
16	須恵器瓶類か	底高 [3.7] (6.4)	胴部外面縦位の弱いナデ。胴部内面ナデのちへらナデ。底部外面ナデ。胴部下端～底部外面にかけ黒灰色の自然釉付着。	内外面とも 10Y5/1 灰	やや緻密、黒・白細砂、白・黒砂、白礫 焼成：硬質	ベルト	底部 1/3
17	須恵器甕	厚 1.0	外面平行叩き。内面同心円状あて具痕。	内：N4/0 灰 外：N5/0 灰	粗い、白・透明粗砂、白・透明礫、赤色粒 焼成：硬質	No. 27 57.0	胴部破片

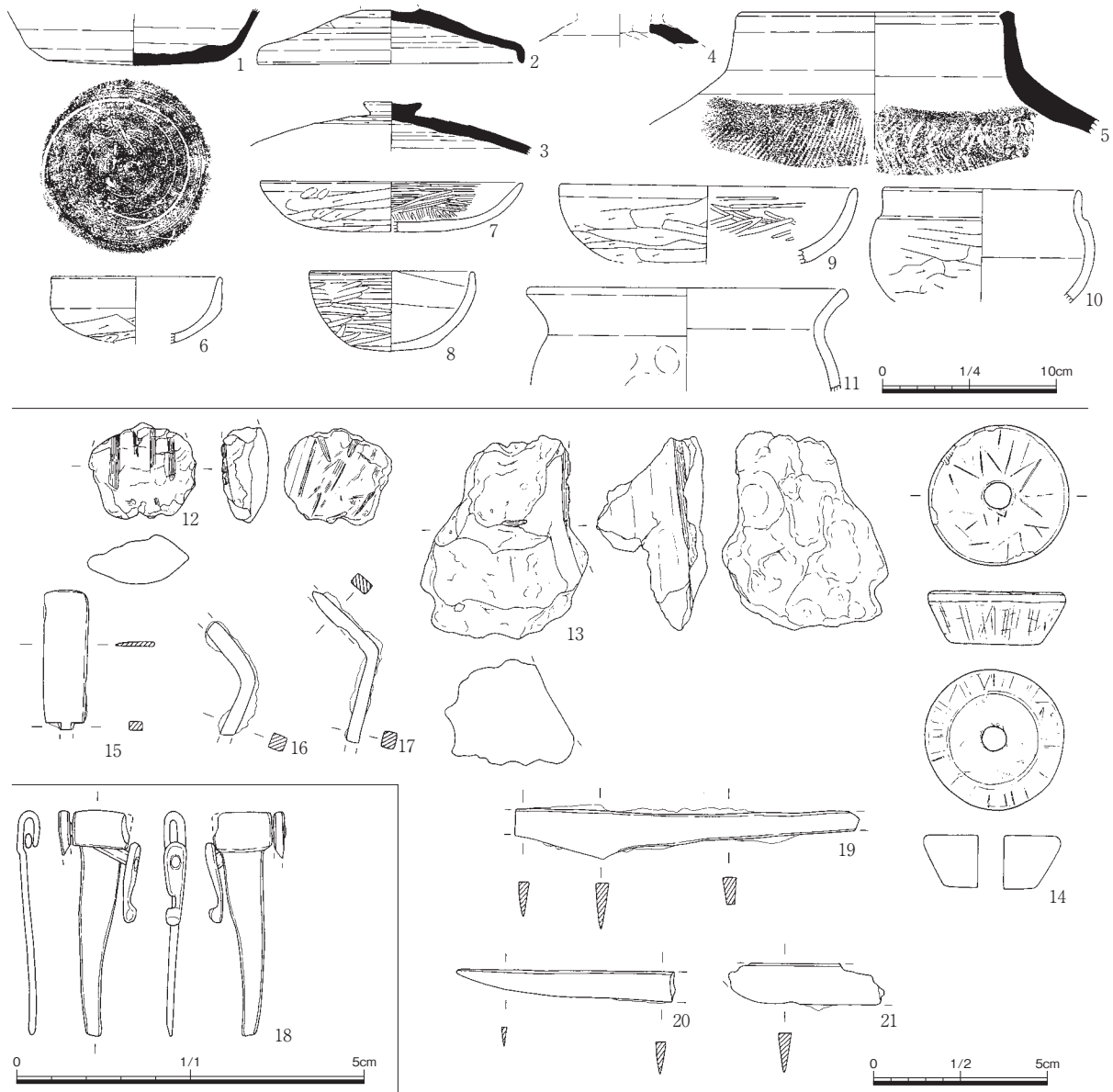
18	須恵器 甕（転 用器台 か）	口 高	22.3 [8.4]	内外面口コナデ。胴部外面平行叩き。胴部内面同心円状あて具痕。あて具の圧痕は浅く均一、非常に繊細で、木口を利用したものと考えられる。頸部内面に柄の圧痕がみられ、柄の長いあて具を使用したものか。この凹凸を平滑にするため頸部内面には強めのナデを施す。口縁～肩部外面にかけ降灰。東海産か。	内：2.5Y7/3 浅黄 外：10YR5/4 にぶい黄褐	緻密、白・灰細砂、白・灰・黒砂、透明礫 焼成：硬質	№103 26.4	口縁部～胴部上端完存
19	土師器 環	口 高	(9.8) 3.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半部指頭押圧及びナデ、下半部ヘラナデ。内面～体部外面上半漆仕上げ。歪みが大きく径は参考値。混入品か。	内：2.5Y8/3 淡黄 外：10YR8/3 浅黄橙	やや緻密、白細砂 焼成：やや硬質	№75 24.9	口縁部～体部1/4
20	土師器 皿か	口 高	(15.7) 3.1	口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。平底化進むが完全な平底ではない。	内：2.5YR5/8 明赤褐 外：2.5YR5/6 明赤褐	やや緻密、白・黒細砂、黒砂、赤色粒 焼成：やや硬質	№115 23.0	口縁部～体部3/4
21	土師器 高環	口 高	(18.0) (3.6)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	内外面とも 2.5YR6/6 橙	やや緻密、白・黒細砂、白・黒粗砂、白礫、赤色粒 焼成：やや硬質	№37・39 10.8	口縁部～体部1/5
22	土師器 甕	口 高	12.7 [6.2]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ナデあるいはヘラナデ。胴部外面斜位のヘラケズリ。全体に歪みが大きく、ヘラケズリ後に口縁部の仕上げのヨコナデを行っていない。口縁部の平坦面はケズリなどの調整時に逆位にした際生じたものか。	内：10YR6/4 にぶい橙 外：5YR6/6 橙	やや緻密、白・灰細砂、灰・白砂、黒雲母、赤色粒、白色粒 焼成：やや硬質	№112・ 116 23.0 (№116)	口縁部 7/12
23	土師器 甕	高	[8.7]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面タテヘラケズリ。	内：5YR6/6 橙 外：7.5YR6/4 にぶい橙	やや粗い、灰・白細砂、黒・透明・白砂、赤色粒 焼成：やや軟質	№64・66・ 97 1.6 (№97)	口縁部 1/5、胴部 上半1/4
24	土師器 甕	口 底 高	23.6 5.2 [34.4]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部上半タテヘラケズリ。胴部下半ヘラケズリのちなメナデ。胴部内面ヘラナデ。底部外面ヘラケズリのちなナデ。	内：7.5YR6/6 橙 外：5YR5/6 明赤褐	やや粗い、白・黒細砂、黒砂、白礫、赤色粒 焼成：やや軟質	№24・25・ 93・94・95・ 106・113・ 114 2.6 (№94)	胴部1/8欠損
25	石器 編物石	長 幅 厚 重	12.6 3.7 4.1 400.0	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸方形	5G4/1 暗緑灰	—	№119 2.9	完存
26	石器 編物石	長 幅 厚 重	10.6 6.5 2.6 257.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	7.5YR7/4 にぶい橙	—	№26 9.9	完存
27	焼成粘 土塊	縦 横 厚 重	4.6 3.3 2.0 [18.6]	裏面2か所に指頭押圧あり。胎土が精錬されていないためか、質量は非常に軽い。表面に破面あり。	5YR7/4 にぶい橙	粗い、砂粒、礫、白色粒、フラごく少量 焼成：軟質	覆土中	部欠
28	焼成粘 土塊	縦 横 厚 重	4.3 2.5 [2.2] [13.8]	裏面は縦、ナナメのナデあり。表面は横位、裏面は縦位のナデ、上下左右4面が破面となっている。	7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・黒・透明細砂、赤色粒 焼成：軟質	覆土中	部欠
29	焼成粘 土塊	縦 横 厚 重	3.8 3.8 14.6	表面右側面にフラの圧痕が多い。目立った破面はみられない。	7.5YR7/4 にぶい橙	粗い、赤色粒 焼成：軟質	覆土中	完存
30	焼成粘 土塊	縦 横 厚 重	3.7 3.4 1.6 [13.5]	左側面に指頭押圧あり。粘土は水浸しに近い状況でつくられたと考えられる。胎土は№27と類似している。上部に破面あり。	5YR6/6 橙	緻密、砂粒少量、白色礫、白色粒、フラ少量 焼成：軟質	覆土中	部欠
31	鉄製品 刀子	長 幅 厚 重	[5.0] 1.0 0.3 [3.3]	刀子切先付近の破片。背は直線的で、平坦な棟の最大幅は約3.0mm。刃部は平造り。	—	鉄製	№73 41.9	部分残存
32	鉄製品 鉄鎌	長 幅 厚 重	[3.6] 0.6 0.3 [2.3]	長頸鎌の頸部破片か。断面長方形で、下部がやや幅広となる。	—	鉄製	№12 76.5	頸部のみ残存
33	鉄製品 鉄鎌	長 幅 厚 重	[7.8] 0.6 0.4 [8.3]	鑿筋式の長頸鎌。鎌身断面は銹化顕著で不明瞭だが片丸式と思われる。最大幅6.0mm。頸部断面は長方形。窪被・茎は欠損している。	—	鉄製	№84 13.4	鎌身・頸部 残存
34	鉄製品 錐	長 幅 厚 重	15.1 0.6 0.6 12.8	ほぼ完形品の錐。先端は鋭く中央部に最大幅をもつ。断面形は概ね正方形。刃部と茎の明瞭な形状差はなく、木質の付着した5.0cmほどの範囲が柄に装着された部分と考えられる。	—	鉄製	№30 29.3	完存
35	鉄製品 紡錘車 (紡輪は 石製)	長 重	35.2 81.8	石製紡錘車の上面径3.8cm、下面径2.2cm、厚さ2.3cm。鉄分が付着し不明瞭だが、側面に浅い切削痕あり。中心部に径8.0mmの円形孔。鉄製軸の断面形は中央部付近では隅丸方形、先端部では長方形、下端部はほぼ正方形。軸径は中央部が最も太く約5.0～6.0mm。	—	軸：鉄製 紡錘車：凝灰岩か	№48 2.4	完存

3区 SI-6 (遺構：第33図、遺物：第34図、図版四・八一・一一二・一一三・一一五)

位置 グリッド 87.5-50.5・88.0-50.0・88.0-50.5 重複遺構 無し。 平面形 隅丸長方形 規模 東西 6.03×南北 4.95 m 主軸方向 N-2° - E 覆土 褐色土及び暗褐色土からなる10層に分層される。ローム粒子を多く含む。2～8層は人為埋戻しの可能性が高い。壁 壁は直線的に立ち上がる。壁高は58～74



第33図 西刑部西原遺跡3区 SI-6実測図



第34図 西刑部西原遺跡3区 SI-6出土遺物

cm残る。床 中央部はローム地山を床面とし、概ね平坦。硬化面は確認できなかった。柱穴 P1（径 32～30 cm、深さ 45 cm）、P2（径 51～39 cm、深さ 57 cm）、P3（径 45～34 cm、深さ 38 cm）、P4（径 42～37 cm、深さ 61 cm）は支柱穴か。柱痕が残るものが多い。P5（径 44～41 cm、深さ 50 cm）、P6（径 29～24 cm、深さ 26 cm）は支柱穴か、P7～P9 は 5～10 cm と浅く用途不明だが、入口施設に関わるものか。やや深い P10（径 35～28 cm、深さ 28 cm）も同様か。貯蔵穴 確認できなかった。壁溝 D1（幅 15～37 cm、深さ 6 cm）が北東隅を除く壁際を巡る。掘方 四隅を土坑状に掘り窪める。カマド 北壁中央部やや東寄りに位置し、壁を V 字状に掘り込む。煙道は丸みをもち、約 50° の角度で立ち上がる。袖はローム土と灰褐色粘土の混合土で構築されるが、残りは悪い。焼土・炭化物など極めて少ない。使用頻度が低かったためか。遺物 計 21 点を図示した。遺物は主に覆土上層から出土し、量も少なく総量はコンテナ 2 箱程

第3章 発見された遺構と遺物

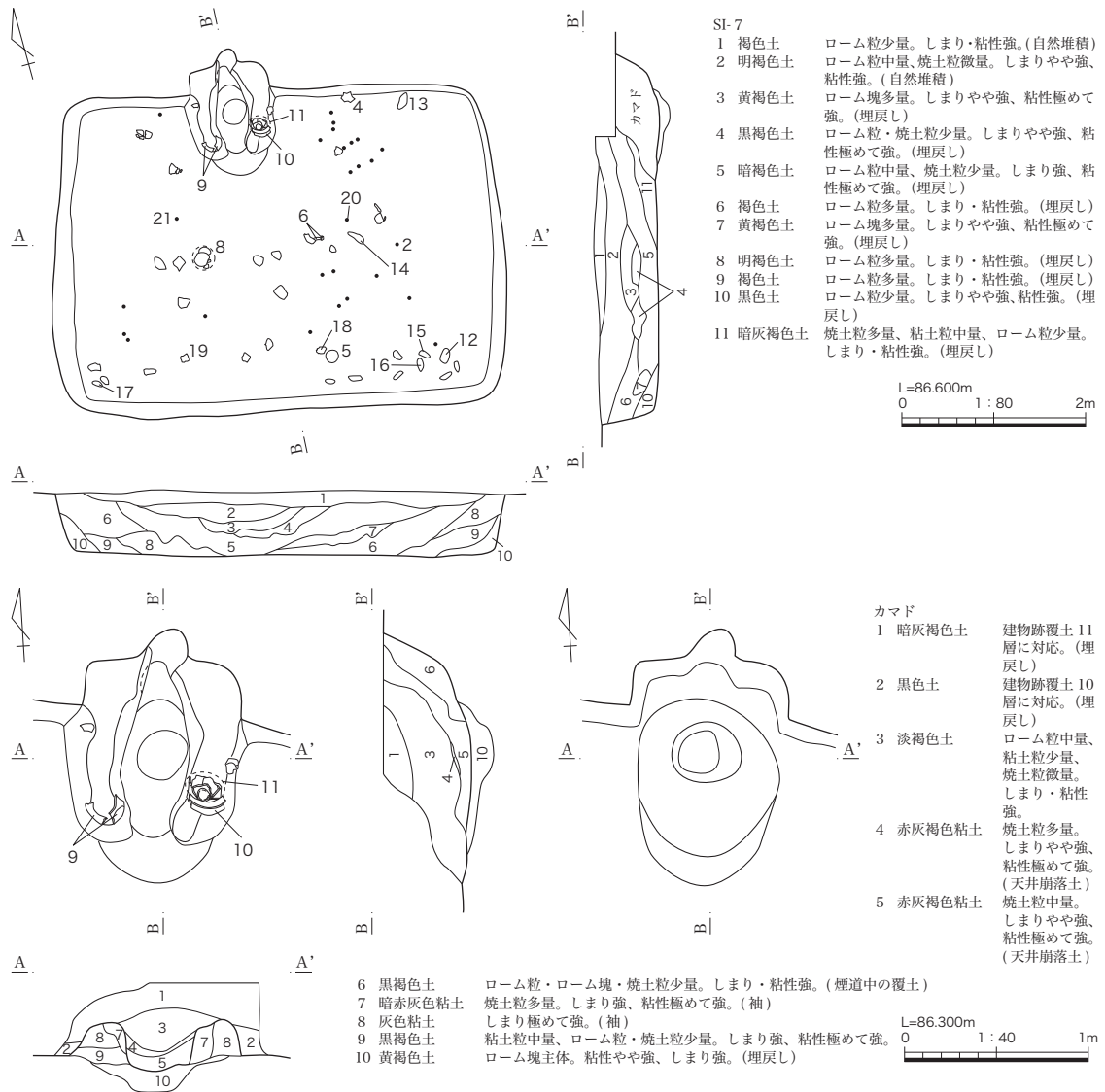
度である。須恵器は坏・蓋の他短頸壺破片がある。6・9・10は混入品か。鉄製品は15の斧箭式の長頸鎌や、19～21の刀子破片がある。18は不明銅製品。長さ3.2cmの小型品だが、蝶番または鉸具に似た構造をもち、非常に精緻な作りである。遺物から奈良時代中葉の建物跡と考えたい。

第8表 3区 SI-6 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	須恵器 坏	底高 10.0 [3.4]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのち回転ヘラケズリ。	内外面とも 2.5Y7/4 浅黄	やや緻密、灰・白細砂、灰・黒砂、灰礫 焼成：硬質	覆土中	体部～底部 1/8
2	須恵器 蓋	口高 (15.0) [3.1]	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリ。	内外面とも N6/0 灰	やや粗い、白細砂～礫 焼成：硬質	No.43 (P5 覆土中)	口縁部 1/4、 天井部～体 部 1/3
3	須恵器 蓋	高 2.9 [2.9] ワミ 3.3	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリのちツマミ貼付。	内：5G5/1 緑灰 外：5GY6/1 オリーブ灰	緻密、白・黒細砂～粗砂 焼成：硬質	覆土中	ツマミ完存、 天井部～体 部一部
4	須恵器 長頸瓶	高 [1.2]	内外面ロクロナデ。破片の上端部下端部ともに接合部から剥離。	内外面とも 2.5Y8/1 灰白	緻密、灰・白・黒細砂、灰砂 焼成：やや硬質	覆土中	頸部破片
5	須恵器 短頸壺	口高 (15.2) [7.1]	口縁部内外面ロクロナデ。胴部外面平行叩き。胴内面あて具痕あり(あて具はあまり類をみないタイプ)。口縁部外面～肩部にかけ降灰。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：2.5Y7/2 灰黄	緻密、黒・白・灰細砂、黒・白・灰砂、白・灰礫、赤色粒 焼成：硬質	覆土中	口縁部 1/12 肩部、 1/6
6	土師器 坏	口高 (9.6) [3.8]	体部内面～口縁部外面ヨコナデ。体部外面斜位のヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR5/4 にぶい褐	緻密、白・透明細砂～粗砂、赤色粒 焼成：硬質	覆土中	口縁部～体 部 1/6
7	土師器 坏	口高 (14.9) [2.9]	赤色系坏。内面ヘラミガキ。口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。平底化は進んでいるが、明確な稜線はみられない。	内外面とも 2.5YR5/8 明赤褐	やや緻密、白・透明・黒細砂、白・黒砂、白色粒 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 1/10、体部 1/4
8	土師器 坏	口底高 9.3 4.5 4.6	内面～口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリのちヘラミガキ、あるいは一部ナデか。底部外面多方向ヘラケズリのちナデ。内外面漆仕上げ。底部は平底に近いが、やや丸みを帯びる。	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR6/6 橙	やや緻密、白・黒細砂～粗砂、赤色粒 焼成：やや軟質	No.6 1.5	ほぼ完存
9	土師器 坏	口高 (16.8) [4.3]	口縁部内面ヨコナデのちヘラミガキ。口縁部外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ。体部外面ヘラケズリ。体部外面上半～内面にかけ漆仕上げ。	内：7.5YR8/4 浅黄橙 外：7.5YR7/6 橙	やや緻密、黒・白細砂、黒・灰砂、赤色粒 焼成：やや硬質	No.9 34.3	口縁部～体 部 1/4
10	土師器 埴	口高 (11.2) [6.5]	口縁部外面～体部内面上半ヨコナデ。体部外面ヨコヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内：7.5YR4/3 褐 外：7.5YR3/1 黒褐	やや緻密、黒・白細砂～粗砂 焼成：やや軟質	覆土中	口縁部 1/6、 体部上半 1/4
11	土師器 甕	口高 (18.0) [5.9]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半部指頭押圧。胴部内面ヘラナデか。外面一部スス付着。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	やや緻密、黒・白細砂、灰・白・黒砂、雲母片、赤色粒少量 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 1/3
12	焼成粘土塊	長幅厚重 [2.5] 3.0 1.4 [6.8]	上半部を欠損。レンズ状の断面。平面形はやや不整な円形。ワラ脱痕あり。	7.5YR7/4 にぶい橙	緻密、微砂粒、ワラ 焼成：軟質	覆土中	部分欠損
13	焼成粘土塊	長幅厚重 [5.6] [4.7] [3.1] [34.9]	平滑な右側面はナデを施したもののか。その他は破面か。ワラ脱痕あり。	5YR6/6 橙	緻密、微量の赤色粒、ワラ 焼成：軟質	覆土中	部欠
14	石製品 紡錘車	長幅厚重 4.0 2.6 1.5 41.1	器面は全面が研磨。上面には鋸歯文、側面の放射状沈線は工具痕か。上面孔周辺には細かな敲打痕あり、使用痕か。下面の孔周辺には放射状の擦痕あり。製作時の工具痕あるいは文様か。断面形は隅丸台形。	10Y3/2 オリーブ黒	結晶片岩	No.5 4.0	完存
15	鉄製品 鉄鎌	長幅厚重 [4.0] 1.2 0.3 [3.5]	方頭斧箭式の長頸鎌か。鎌身部のみ残存。関は直角で、鎌身は薄く、刃部は片側のみ認められる。	—	鉄製	No.2 21.1	鎌身部のみ 残存
16	鉄製品 釘か	長幅厚重 [3.8] [3.4]	上端下端共に欠損する。一辺4mmほどの断面正方形。くの字に曲がっている。	—	鉄製	No.35 48.3	部分残存
17	鉄製品 鉄鎌か	長幅厚重 [5.2] [4.8]	長頸鎌の頸部と考えられる。断面長方形。上部の断面幅6mm、厚さ3mm、くの字に曲がる。	—	鉄製	No.1 33.6	部分残存
18	不明銅 製品	長幅厚重 3.3 1.2 0.3 2.1	鉸具或いは蝶番状の銅製品。断面楕円形の軸棒両端に、細い水滴形状の部品を差し込んでいる。銅板の一端で軸棒を一重に巻いて軸受け部としている。舌状部分は下端部に行くにつれ幅が狭くなる。軸受け部分は潰れ、軸の一端がはみ出している。仏具などの金具とも考えられるが用途は不明。	—	銅製	No.3 7.4	部分欠損
19	鉄製品 刀子	長幅厚重 [10.0] 1.4 [13.4]	関は刃部側にあり、段は持たない。棟は最大幅4mm、茎の断面形は下側が狭い逆台形。切先及び茎端部を欠損する。	—	鉄製	No.4 37.7	部分欠損
20	鉄製品 刀子	長幅厚重 [6.3] [0.9] [3.6]	切先のみ残存。切先は細く尖る。棟は平坦で幅3mm、刃部は平造りである。細身なのは砥ぎ減りしたためか。	—	鉄製	No.37 57.6	部分残存
21	鉄製品 刀子	長幅厚重 [4.5] [1.1] [3.1]	切先付近の破片。切先は欠損。棟は平坦で、幅3.5mmほど。刃部は平造り。	—	鉄製	No.36 57.8	部分残存

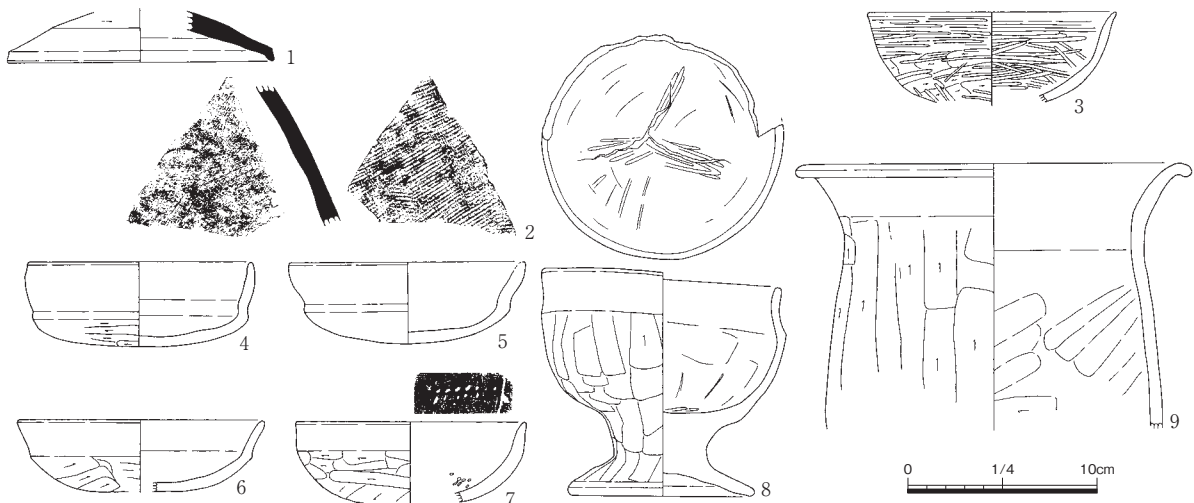
3区 SI-7 (遺構：第35図、遺物：第36・37図、図版四・五・八一・一一三・一一六)

位置 グリッド87.5-50.0・88.0-50.0 重複遺構 無し。平面形 隅丸長方形 規模 東西4.85×南北3.50m 主軸方向 N-12° - E 覆土 11層に分層ローム粒を多く含む。壁 壁高は54～67cm。床 ローム地山を床面とする。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。カマド 北壁西寄りに位置し、壁を凸字形に掘り込む。煙道は始め緩やかだが、その後65°の急角度で立ち上がる。袖は灰色粘土主体で構築される。壁内面は著しく被熱し赤化する。土師器甕(9・10・11)はカマド芯材に使用された土器である。遺物 21点を図示した。覆土中層から上層に遺物が多い。3は内外面にヘラミガキを施す非在地形の土器。8は底部内面に焼成前の補修痕が見られる。カマド袖芯材に使われた10(常総型甕)は早い時期に入ってきた遺物。この他不掲載遺物は小コンテナ1箱分の遺物が確認できる。古墳時代終末期(7世紀前半～中葉)の建物跡と考えられる。



第35図 西刑部西原遺跡3区 SI-7実測図

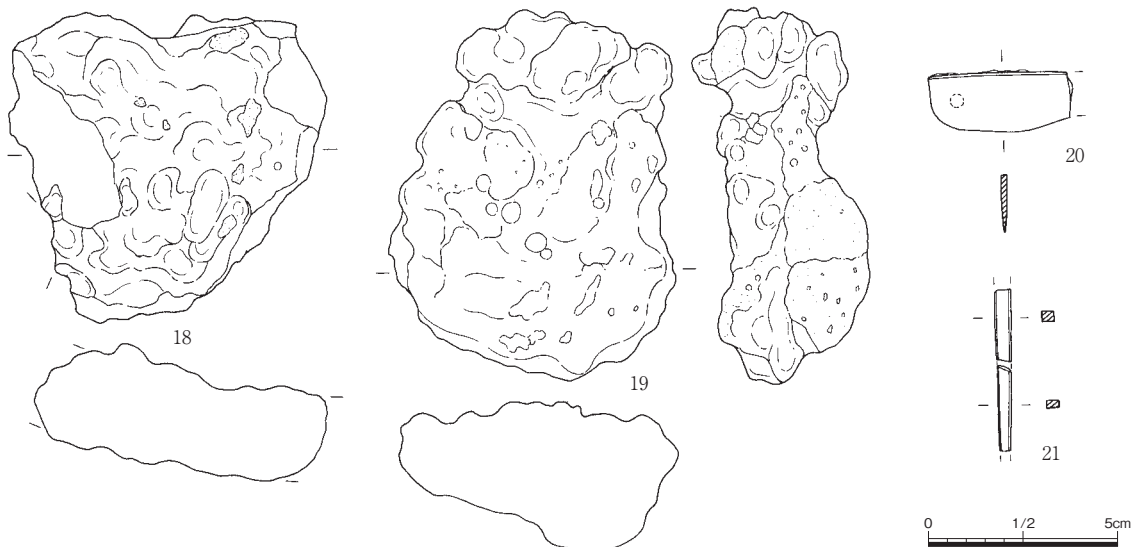
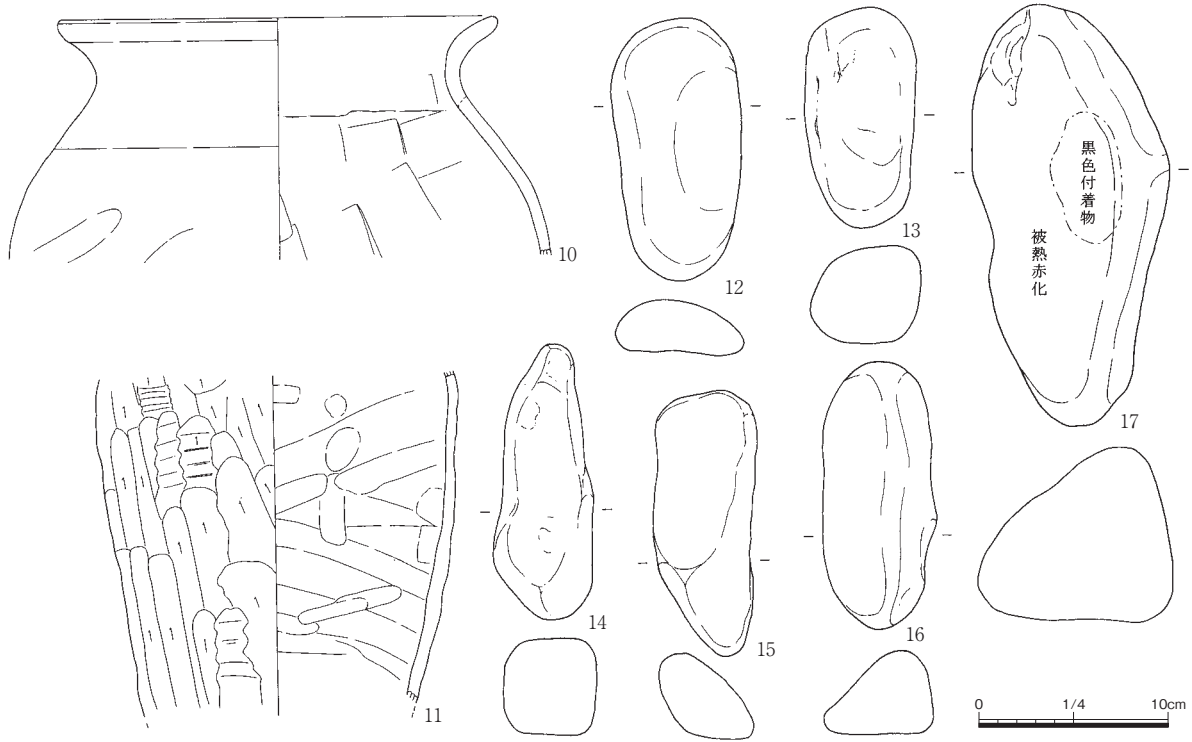
第3章 発見された遺構と遺物



第36図 西刑部西原遺跡3区 SI-7出土遺物(1)

第9表 3区 SI-7出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器蓋	口 (13.8) 高 [2.7]	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリ。混入品。	内: 5Y7/2 灰白 外: 5Y7/1 灰白	やや粗い、砂粒やや多量、礫・白色礫やや少量 焼成: 硬質	覆土中	天井部~端部 1/6 ツマミ欠損
2	須恵器甕	高厚 [8.0] 0.8	外面細かな平行叩き。内面彫りの浅い平行線の彫られたあて具痕(板状の工具か)。胎土から茨城県域の土器と考たい。	内: 5Y7/2 灰白 外: 5Y6/1 灰	やや緻密、白・黒・灰細砂、灰・黒・白・透明砂、雲母片 焼成: やや硬質	No. 17 72.4	胴部破片
3	土師器杯	口 (13.0) 高 [4.7]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリのち内外面ヘラミガキ。体部内面黒色漆仕上げ。他地域の土器と考えられる。	内外面とも 7.5YR7/4 に ぶい橙	やや緻密、白・黒・白細砂、灰・黒砂、黒礫 焼成: やや硬質	覆土中	口縁部 1/4、 体部 2/5
4	土師器杯	口 (11.6) 高 4.4	口縁部外面~内面全面ヨコナデ。体部外面多方向ヘラケズリ。体部外面及び内面上半漆仕上げ。	内: 10Y2/1 黒 外: 10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、白・黒粗砂 焼成: やや硬質	No. 15 床直	口縁部 1/8、 底部 1/3
5	土師器杯	口 (12.2) 高 4.3	内面及び口縁部外面ヨコナデのち漆仕上げ。体部外面及び口縁部内外面は剥落顕著で調整不明。	内: 10YR8/4 浅黄橙 外: 10YR8/3 浅黄橙	やや緻密、白・黒細砂、黒砂 焼成: やや硬質	No. 61 12.4	ほぼ完存
6	土師器杯	口 (12.7) 高 3.8	体部内面~口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。全面に漆仕上げ。	内: 2.5Y2/1 黒 外: 2.5Y6/2 灰黄	緻密、白微細粒 焼成: 硬質	No. 62 5.0	口縁部~体部 1/4
7	土師器杯	口 (11.9) 高 [4.2]	内面~口縁部外面ヨコナデのち漆仕上げ。体部外面ヘラケズリ。体部内面に縄の圧痕か。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・灰・黒細砂、赤色粒 焼成: やや硬質	覆土中	口縁部~体部 1/2
8	土師器台付鉢	口底 12.35 底 9.9 高 12.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部~底部内面ヘラナデ。胴部~脚部外面ヘラケズリ。脚部内外面ヨコナデ。底部内面に乾燥段階のヒビ割れ補修のミガキあり。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	やや粗い、白・黒・灰細砂、白・黒・灰砂、黒・灰礫、白色粒、赤色粒 焼成: やや硬質	No. 51 7.8	口縁部 1/2、 脚部完存
9	土師器甕	口 (21.6) 高 [14.4]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。カマド袖構築材に使用。	内: 5YR6/8 橙 外: 5YR5/8 明赤褐	やや粗い、白・灰・黒・透明粗砂~礫、赤色粒 焼成: やや軟質	No. 68 カマド芯材	胴部上半~ 口縁部 1/2
10	土師器甕	口 (22.7) 高 [12.5]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ。胴部内面ヘラナデ。口縁部のつまみ上げが小さく古手の様相を呈する常総型甕。カマド袖構築材に使用。	内外面とも 7.5YR6/8 橙	やや粗い、白・透明・灰・黒粗砂~礫、雲母片 焼成: 軟質	No. 67・64 カマド 66 10.1 (No. 64)	胴部上半~ 口縁部 1/3
11	土師器甕	高径 [18.6] 19.0	胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヨコまたはナメナデ、一部指頭押圧あり。カマド袖の構築材に転用される。	内: 5YR5/8 明赤褐 外: 5YR6/8 橙	やや粗い、白・灰・透明・黒細砂~礫 焼成: やや軟質	No. 66 20.2	胴部完存、 口縁部、底部欠損
12	石器編物石	長 12.6 幅 3.7 厚 4.1 重 400.0	未加工の自然礫。平面形: 楕円形 断面形: カマボコ形	2.5Y7/3 浅黄	—	No. 22 床直	完存
13	石器編物石	長 10.6 幅 6.5 厚 2.6 重 257.0	全体に被熱赤化、部分的に黒色を呈するススが附着したのか。平面形: 細長い棒状 断面形: 隅丸三角形	10YR4/2 灰黄褐	—	No. 16 65.9	完存
14	石器編物石	長 14.6 幅 5.0 厚 5.1 重 587.0	未加工の自然礫。平面形: 楕円形 断面形: 不整な方形	2.5Y6/1 黄灰	—	No. 59 8.3	完存
15	石器編物石	長 14 幅 5.2 厚 4.2 重 319.0	未加工の自然礫。平面形: バチ状 断面形: 長い楕円形	5YR5/6 明赤褐	—	No. 24 床直	完存
16	石器編物石	長 14.2 幅 5.8 厚 4.3 重 448.0	未加工の自然礫。平面形: 楕円形 断面形: 隅丸三角形	5Y8/2 灰白	—	No. 25 床直	完存



第37図 西刑部西原遺跡3区 SI-7出土遺物(2)

17	石器 支脚か	長 11.7 幅 5.8 厚 5.1 重 518.0	未加工の自然礫。全体に被熱赤化、一部に黒色付着物あり。ススあるいは油煙か。 平面形：撥形 断面形：隅丸方形	2.5GY6/1 オリーブ灰	—	No.45 床直	完存
18	鉄滓	長 [8.2] 幅 [8.2] 厚 [3.0] 重 [206.3]	腕形鍛冶滓。全体的に密度が低く軽い。周囲は一部を残し殆どが破面。上面は錆化部分は少なく、気孔は殆ど見られない。下面は一部に灰色で砂質の炉壁残るが殆どが剥落。右側面は発泡する部分が多い。磁石の反応が弱い箇所が認められる。	表：サビ有 7.5YR4/3 褐 サビ無 10Y4/1 灰 裏：サビ有 10YR5/6 黄褐 サビ無 N4/1 灰	磁着度：6	No.37 42.7	部欠
19	鉄滓	長 [9.7] 幅 [7.3] 厚 [3.8] 重 [270.4]	腕形鍛冶滓。全体的に重く密度が高い。上面は錆化部分が多い。中央部に若干の気孔があるが、いずれも小さく少ない。下面は砂質の炉壁が一部に残るが剥落。上半部は錆化。	表：サビ有 5YR6/8 橙 裏：サビ有 5YR5/8 明赤 サビ無 10Y5/1 灰	磁着度：6	No.30 47.7	ほぼ完存
20	鉄製品 手鎌か	長 [3.9] 幅 1.6 重 [3.2]	刃部中央部は砥ぎ減りしたものか。片一方の孔はX線で僅かに確認できるが不明瞭。木質などは確認できない。厚さ 1.5mmと薄い。混入品か。	—	鉄製	No.48 57.7	部分残存
21	鉄製品 鉄針か	長 [4.1] 幅 [0.4] 重 [1.8]	上端部および下端部を欠損。長頸鎌の茎部あるいは釘とも考えられる。混入品か。	—	鉄製	No.47 48.4	部分残存

3区 SI- 8 (遺構：第38図、遺物：第39・40図、図版五・八一・八二・一一三～一一五)

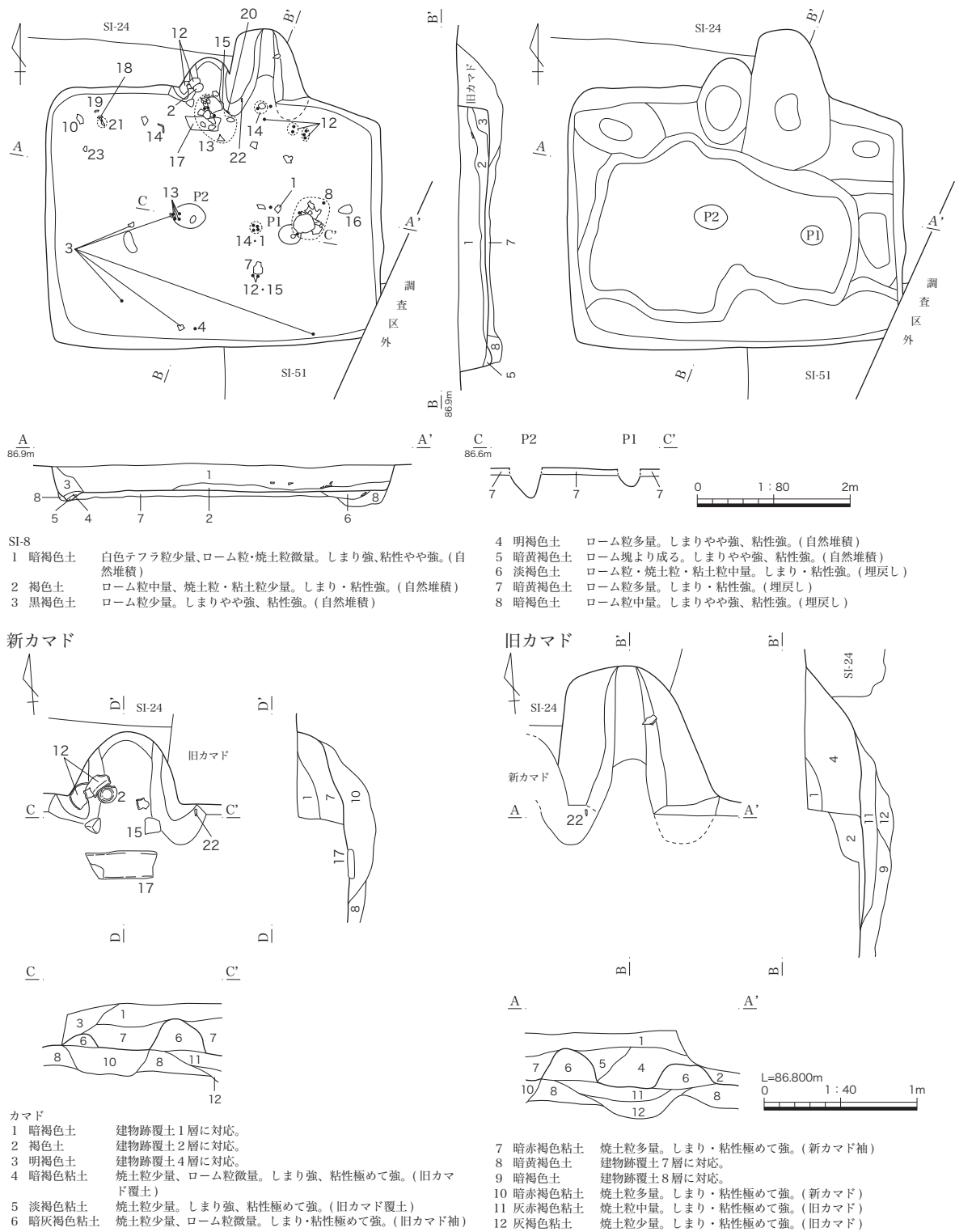
位置 グリッド 89.5-51.5・89.5-52.0 重複遺構 SI-24・SI-51 より新しい。平面形 長方形を呈する。

規模 東西 4.32×南北 3.44 m 主軸方向 ほぼ真北 覆土 1～5層に分層。いずれも自然堆積と考えられる。壁 壁高は 32～39 cmで壁面は直線的に立ち上がる。床 ほぼ全面が貼床。概ね平坦で、硬化部分は確認できなかった。柱穴 P1 (径 28～25 cm、深さ 25 cm)、P2 (径 43～32 cm、深さ 40 cm) の2本があるが、覆土の様子が確認できず不明瞭な点が多い。入口ピット・貯蔵穴 確認できなかった。

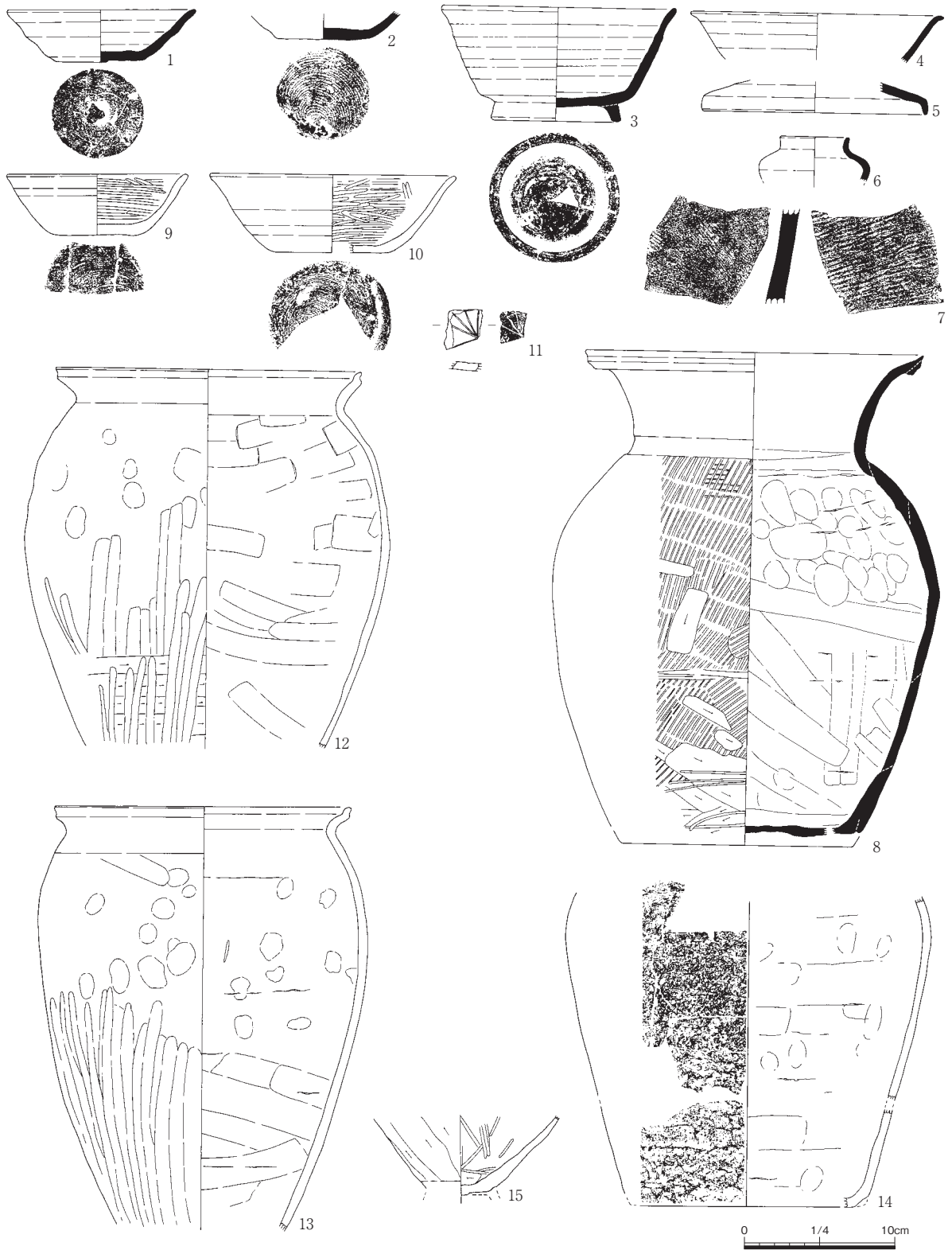
壁溝 西壁際の断面に若干の痕跡が残るが平面では確認できなかった。掘方 平坦な中央部を島状に掘り残し、周縁部は深さ 10～20 cmのやや浅い土坑状を呈する。カマド 新旧2基確認。旧カマドは北壁やや東寄りに位置し、壁をU字形に掘り込む。煙道は残存部では 40° の角度で直線的に立つ。袖は壁面から検出され、暗灰褐色粘土を主体とする。燃焼部は床面を 20 cm掘り下げたのち埋戻している。新カマドは旧カマド西脇に近接し一回り規模が小さい。壁を半円形に掘り込み、煙道はなだらかに傾斜したのち 70° 近い角度で立つ。遺物は 12 の常総型甕、須恵器坏などが出土。カマド前面には芯材と考えられる被熱した凝灰岩製切石が出土。遺物 計 24 点を図示した。須恵器坏・ロクロ整形の土師器・甕類・鉄製品などがある。遺物は覆土上層から中層から多く出土。2 の須恵器坏は床面直上。土師器甕は常総型が多い。この他、不掲載物は土師器甕小破片が主で、200 点弱と非常に少ない。鉄製品は紡錘車 (19) の他、鋳物 (24: 鍋か) などがある。不掲載の礫の重量は 3.7 kg である。須恵器坏の底部比率が小さく、平安時代 (9 世紀中～後葉) の建物跡と考えられる。

第 10 表 3 区 SI- 8 出土遺物観察表

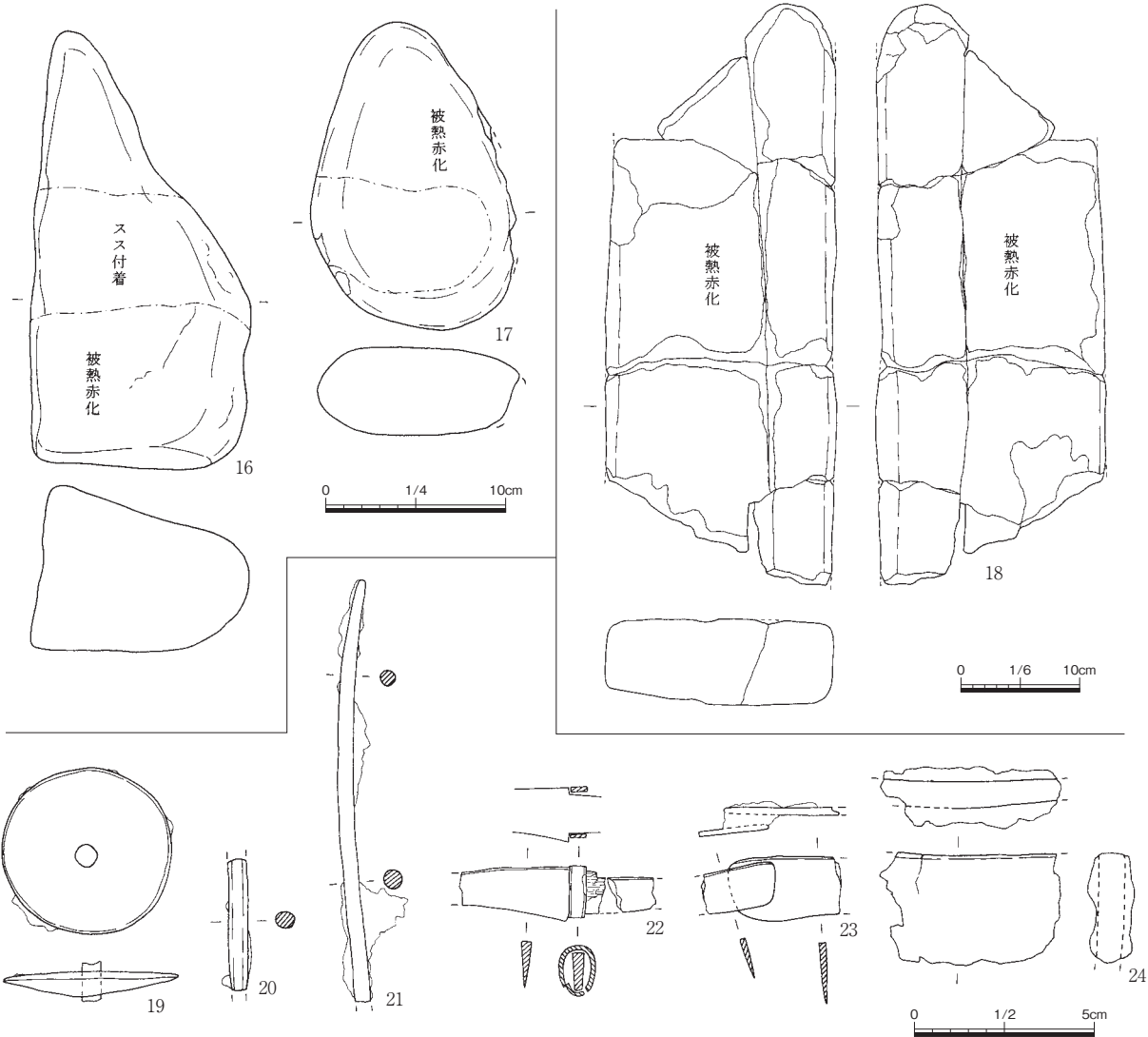
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	須恵器坏	口 12.3 底 6.0 高 3.5	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。器高は低く、2次底部面あり。	内：5Y5/1 灰 外：5Y5/2 灰オリーブ	やや粗い、黒・灰・白細砂、灰・白砂、黒・灰・白礫 焼成：やや硬質	No. 14・17 19.0 (No. 17)	口縁部 2/5、底部 完存
2	須恵器坏	底 6.3 高 [2.0]	ロクロナデ。回転糸切り。外面の一部に黒色の付着物あり。また底部外面に焼土(被熱した粘土か)付着。内面中央部磨減し平滑。	内外面とも 5Y5/1 灰	やや緻密、白・黒・灰細砂、白・黒砂 焼成：やや硬質	K40 床直	底部完存
3	須恵器高台付坏	口 (15.2) 底 8.2 高 7.5	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付けのちナデ。底部内面重ね焼きの痕跡あり。	内外面とも 7.5Y4/1 灰	やや粗い、白・黒粗砂～礫 焼成：やや硬質	No. 8・9・11・25 25.0 (No. 9)	口縁部 1/4、底部 完存
4	須恵器碗	口 (16.4) 高 [3.1]	口縁部はやや外反。内外面ロクロナデ。内面のみ施釉。猿投産か。	内：2.5Y2/1 黒 外：2.5Y7/2 灰黄	緻密、白・黒・灰細砂、黒色粒 焼成：硬質	No. 34 2.7	口縁部～体部 1/5
5	須恵器蓋	口 (14.6) 高 [2.1]	内外面ロクロナデ。	内：17.5Y6/1 灰 外：2.5Y6/1 黄灰	緻密、白・炭細砂 焼成：硬質	No. 36 不明	口縁部～体部 1/8
6	須恵器小型短頸壺	口 (4.5) 径 (7.3) 高 [2.9]	内外面ロクロナデ。頸部～胴部にかけて自然釉付着。	内：2.5Y6/2 灰黄 外：2.5Y6/1 黄灰	やや緻密、灰・黒・白細砂、灰・黒・白砂 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 1/4、胴部 上半 1/6
7	須恵器甕	厚 1.2	内面うすすらとした細かい平行あて具痕。外面平行叩き。	内：7.5Y4/1 灰 外：10YR4/1 褐灰	やや緻密、白・灰細砂、白砂、白礫 焼成：硬質	No. 13 10.5	胴部破片
8	須恵器甕	口 (22.3) 底 (15.6) 高 [31.8]	口縁部内外面ロクロ仕上げ。口縁部外面端部粘土帯の貼付けのちロクロナデ。頸部内面ヘラナデ。胴部内面上半部指頭押圧、下半部ナデ。底部内面指頭押圧・ユビナデ。胴部外面斜位の平行叩き。肩部及び下半部は叩きが重複し、格子目状を呈する。胴部外面下端部ナメまたはヨコヘラケズリ。	内：7.5Y6/1 灰 外：5Y5/1 灰	やや緻密、白砂、小礫 焼成：やや硬質	No. 18 10.4	胴下半 3/4、底部 外面剥落
9	土師器坏	口 (11.7) 底 6.3 高 4.0	内外面ロクロナデ。内面ヘラミガキのち黒色処理。底部外面回転糸切り。	内：10YR8/4 浅黄橙 外：7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・灰・黒細砂、白・黒砂、赤色粒 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 1/6、底部 1/3
10	土師器坏	口 (16.0) 底 7.5 高 5.1	内外面ロクロナデ。内面ヘラミガキのち黒色処理。底部外面回転糸切り。糸切りの際、底部を薄くしすぎたため、糸切りをやり直している。その際生じた段差部分に粘土を貼付け修正している。	内：7.5Y2/1 黒 外：7.5YR6/6 橙	やや緻密、白・黒細砂～粗砂、赤色粒 焼成：やや硬質	No. 4 4.0	口縁部 1/4、底部 2/3
11	土師器坏	厚 0.5	坏底部内面にヘラ描きあり。放射状のミガキを模したもののか。内面黒色処理。外面ヘラケズリ。7世紀代土師器の混入品か。	内：5Y2/1 黒 外：2.5Y7/3 浅黄	やや緻密、白細砂 焼成：やや軟質	覆土中	底部小破片
12	土師器甕	口 20.0 胴 24.1 高 [25.1]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面上半部ナデ及び指頭押圧。胴部外面下半部ヨコヘラケズリのちタテヘラナデのち弱いヘラミガキ。常総型甕。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、灰・白・黒・透明細砂、灰・白砂、雲母片 焼成：やや硬質	No. 12・21・23・K39 7.8 (No. 23)	胴部上半 1/2、胴部 下半 1/6



第38図 西刑部西原遺跡3区 SI-8実測図



第39図 西刑部西原遺跡3区 SI-8出土遺物(1)



第40図 西刑部西原遺跡3区 SI-8出土遺物(2)

13	土師器 甕	口 胴 高	19.4 21.8 [28.1]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面上半指頭押圧。下半部ヘラナデ。胴部外面上半指頭押圧。下半部ヨコヘラケズリのち縦位のナデ。胴部外面うすらと赤化した粘土附着。常総型甕。	内：10YR6/4 にぶい黄橙	やや粗い、白・透明・灰 細砂～礫、雲母片 焼成：やや軟質	№7・28-1・ 28-2、ベルト 7.4 (№28- 2)	口縁部完存、 胴部2/3、 底部欠損
14	土師器 甕	高 底	[20.7] (14.4)	内面ヘラナデ・指頭押圧。胴部外面斜位の平行叩きのち横位の波状沈線か。あるいは叩き具自体に付された(縄紐か)可能性もあるが不明瞭。煮沸具として使用されたためか、外面の剥落が激しく調整不明。常総型甕。	内：10YR5/3 にぶい黄褐 外：7.5YR5/4 にぶい褐	やや粗い、白細砂、透明 砂、白礫 焼成：やや硬質	№6・14・ 29、カマ ド、ベルト 16.9 (№6)	胴部1/5、 底部一部
15	土師器 台付甕	高	[4.7]	内面やや幅広のヨコヘラナデのち細いタテヘラナデ。外面やや強めのヘラナデ。脚部及び裏下端部の接合部には粘土を足して補強。	内外面とも 7.5YR5/4 に ぶい褐	やや緻密、白・灰・黒細 砂、黒・白砂、赤色粒 焼成：やや硬質	№12・SI-51 №4・20 9.5 (№12)	底部3/4
16	石器 焼礫	長 幅 厚 重	24.3 12.1 9.2 3558.7	未加工の自然礫。下半部は強く赤化。中央は黒色を呈する。スズまたはタールが付着したもの。 平面形：不整な五角形 断面形：D字形	2.5YR3/6 暗赤褐	—	№32 23.2	完存
17	石器 焼礫	長 幅 厚 重	17.3 10.1 5.0 1370.1	赤化はやや弱く部分的にスズ附着か。 平面形：水滴形 断面形：楕円形	2.5YR3/6 暗赤褐	—	№35 9.4	
18	切石 (カマド 構築材)	長 幅 厚 重	46.1 19.0 7.1 3144.0	凝灰岩製の切石を用いたカマド構築材(芯材か)。遺物全面が強く熱を受けて赤化しており非常に脆い。	7.5YR7/6 橙	凝灰岩	№30 9.0	部分欠損
19	鉄製品 紡錘車	長 径 重	[1.1] 4.6 [22.5]	紡錘径4.6cm、断面形は下面がレンズ状を呈し、厚さ7.0mm。孔は隅丸方形に近く、径6.0mm前後。残存軸長1.1cm。軸断面形は隅丸方形だが上部は方形に近い。軸径5.0mm前後。	—	鉄製	№2 9.7	紡錘車部分 完存
20	鉄製品 紡錘車	長 重	[3.6] [2.6]	紡錘車軸か。断面形は楕円形。最大径5.5mm。	—	鉄製	№1 6.8	軸一部

第3章 発見された遺構と遺物

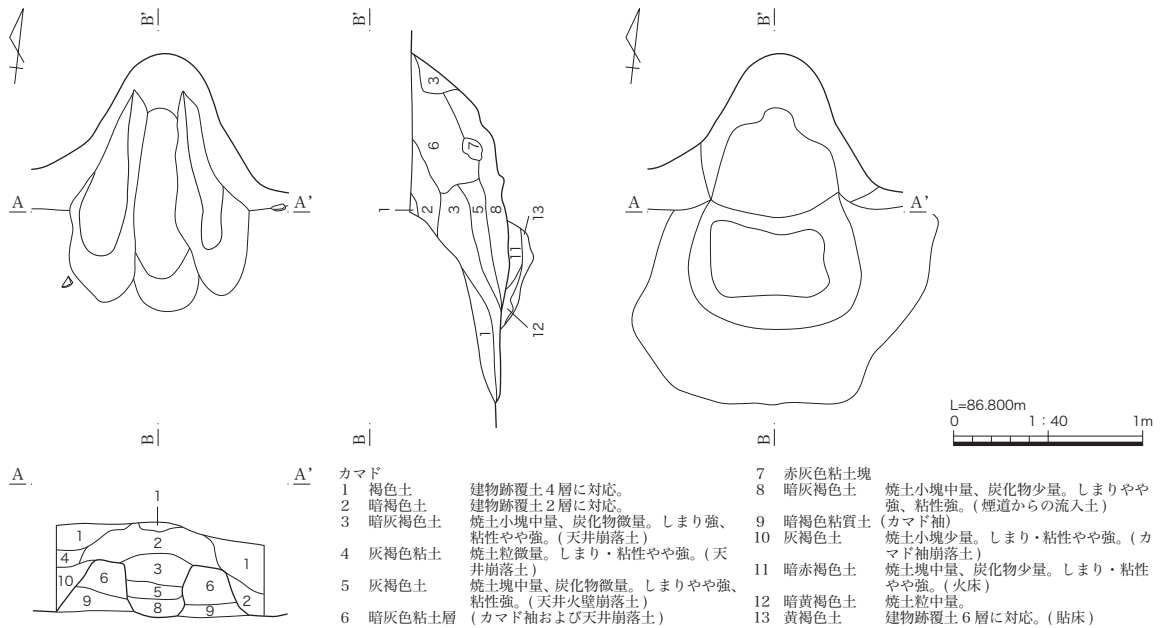
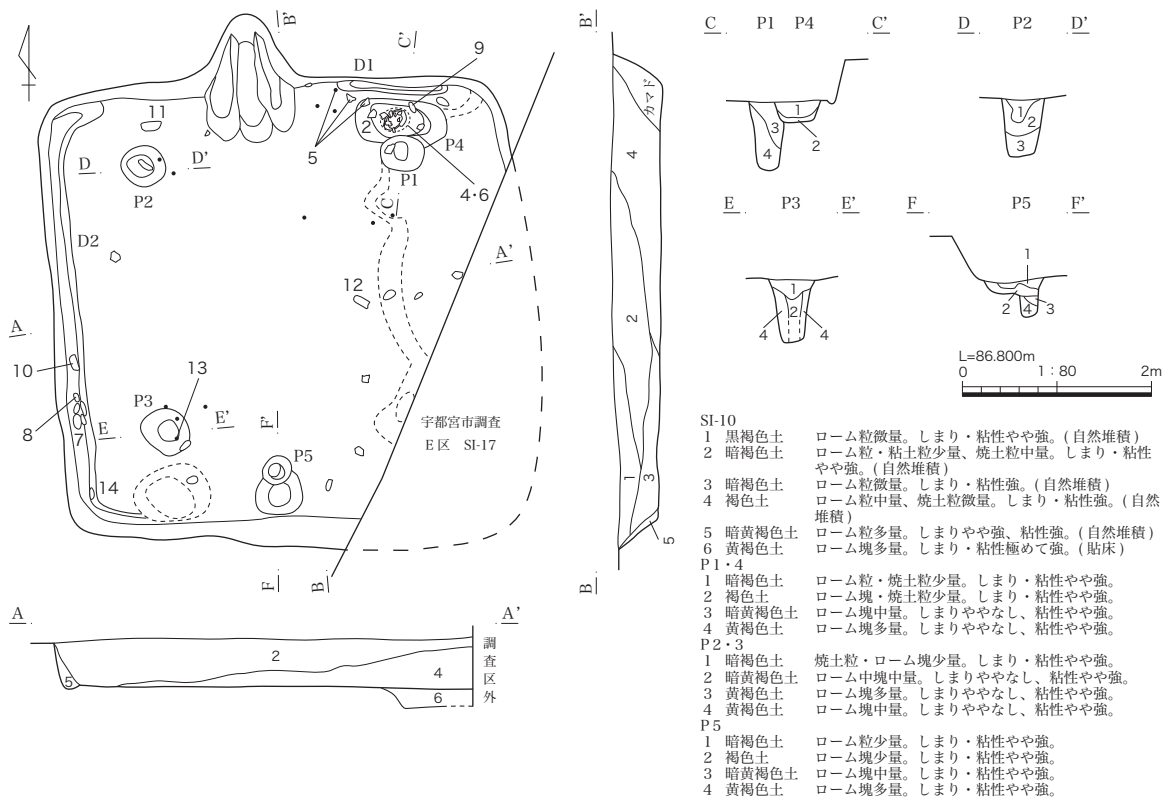
21	鉄製品 紡錘車	長重 [11.7] [12.3]	紡錘車軸か。断面形は円形。最大径 5.5 mm。先端部は細く、上端部と考えられる。	—	鉄製	No 27 40.2	軸一部
22	鉄製品 刀子	長幅重 [5.3] 1.5 [7.3]	両側の刀子。棟は平坦で最大幅は 3.0 mm。刃部は平造り。柄縁の幅 5.0 mm で木質が残る。茎の断面形は逆台形。両端部を欠損。	—	鉄製	No 3 7.1	部分残存
23	鉄製品 手鎌か	長幅重 [3.8] 1.8 [5.4]	折り曲げて廃棄した手鎌が、錆びて癒着したものか。X線では確認できなかった。若干弧状に抉れた刃部は低減りしたためか。	—	鉄製	No 37 21.2	部分残存
24	鉄製品 鋳物 (鍋か)	高厚 [3.1] (0.7~0.8) 重 [41.9]	鋳物の口縁部破片か。小破片で、錆化による歪みもあり、器形の復元は困難だが、平口縁で若干丸みをもって立ち上がるようである。	—	鉄製	No 26 38.6	口縁部破片

3区 SI-10 (遺構：第41図、遺物：第42図、図版五・八二)

位置 グリッド 89.0-51.5・89.5-51.5 重複遺構 無し。 平面形 隅丸正方形。なお住居の南東部は宇都宮市教委調査 E 区 SI-017 として報告済みである。 規模 東西 4.90×南北 4.80 m 主軸方向 N -4° -W 覆土 暗褐色土及び黄褐色土主体の 5 層に分層される。自然堆積。 壁 壁高は 41～51 cm、壁は直線的に立ち上がる。 床 中央部から西部はローム地山を床面とするが、東部に貼床あり。硬化面は確認できなかった。 柱穴 P1 (径 45～37 cm、深さ 70 cm)、P2 (径 45 cm、深さ 64 cm)、P3 (径 51～43 cm、深さ 66 cm) の計 3 本が確認されるが、本来 4 本柱穴であろう。 入口ピット P5 (長軸 62～短軸 50 cm、深さ 42 cm) は南壁中央部壁際にある。南側の浅い掘り込みは抜き取り痕か。 貯蔵穴 P4 (長軸 96～短軸 45 cm、深さ 24 cm) は P1 と接し平面形は隅丸長方形。 壁溝 D1 (幅 20～33 cm、深さ 8 cm) は西壁際に、D2 は (幅 15～20 cm、深さ 8 cm) カマド東側に残るが、掘り込みは浅い。 カマド 北壁位置中央部を隅丸三角形に掘り込むが、掘方の煙道先端は凸字状。 焼成部は方形に掘り窪め埋戻している。 遺物 土師器坏・鉢・甕などがある。遺物は覆土上層に多い。1 はカマド覆土中、4・6 は貯蔵穴中から出土。7・8・14 は西壁際の床面付近から出土。 編物石か。この他不掲載物は土師器類が主で、小コンテナ 1 箱と少ない。古墳時代終末期(7 世紀前葉～中葉)の建物跡と考えられる。

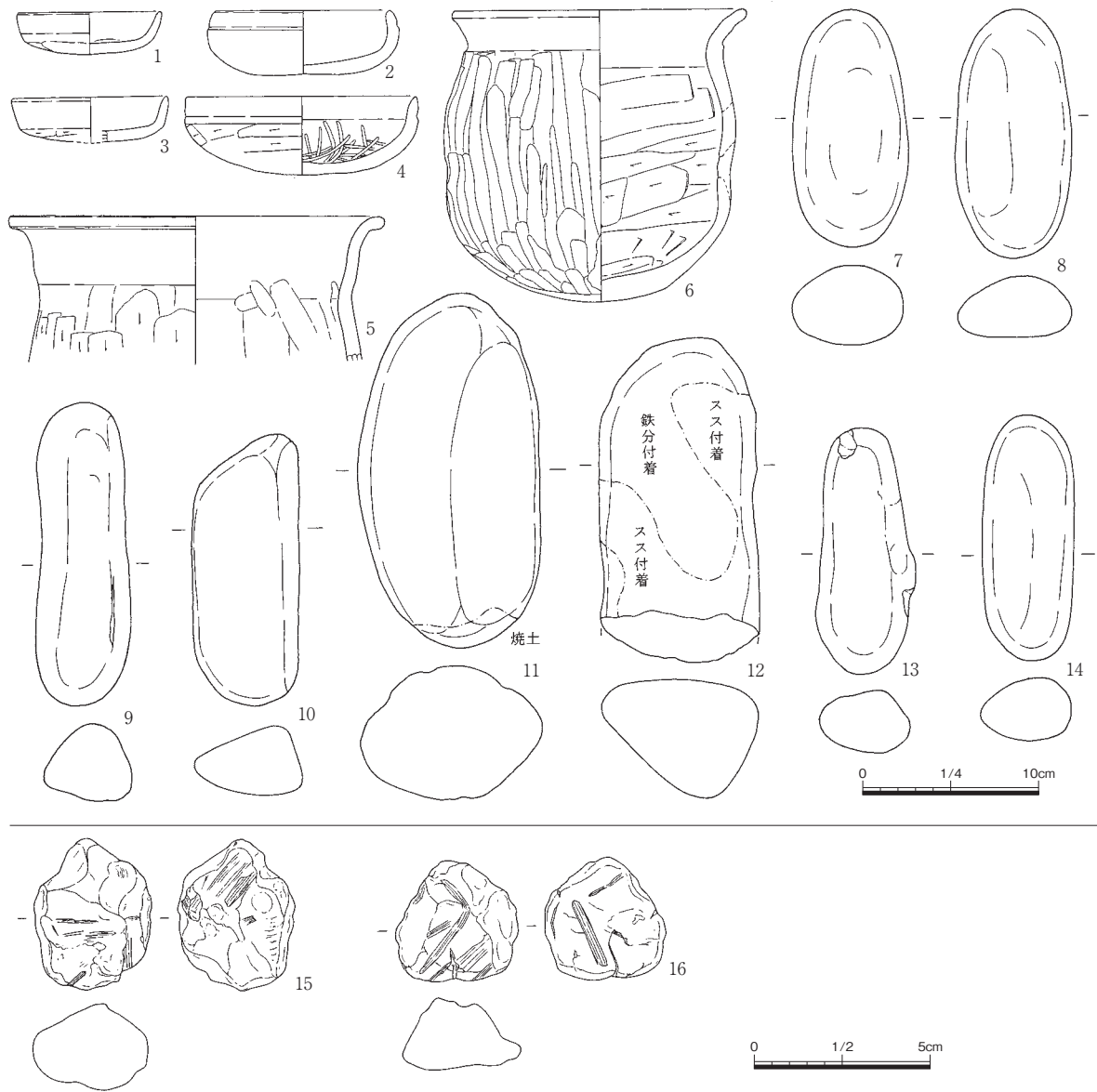
第 11 表 3 区 SI-10 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技 法 ・ 特 徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	土師器 坏	口高 (7.9) 2.3	体部内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラナデか。	内外面とも 2.5Y8/3 淡黄	緻密、黒・白細砂、赤粒 焼成：やや硬質	カマド	口縁部 1/8、 体部 1/2
2	土師器 坏	口高 (10.0) 3.6	口縁部内外面ヨコナデのち漆仕上げ。体部内外面摩耗剥落が著しく調整不明。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・黒粗砂、 赤色粒 焼成：軟質	No 37 (貯蔵穴覆土中層)	口縁部 1/3、 底部ほぼ完 存
3	土師器 坏	口高 (8.7) 2.3	内面磨滅のため調整不明。口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内外面とも 10YR7/4 に ぶい黄橙	緻密、灰・黒・白細砂 焼成：やや硬質	カマド	口縁部 1/8、 体部 1/3
4	土師器 坏	口高 12.8 4.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面疎らな多方向ミガキ。体部外面ヘラケズリ。ほぼ全面漆仕上げ。	内：7.5YR6/4 にぶい橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、灰・白細砂、 黒砂少量、赤色粒 焼成：やや硬質	No 42 (貯蔵穴覆土中層)	ほぼ完存
5	土師器 甕	口高 (20.8) [8.3]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面上半タテヘラナデのちナメナデ。胴部外面ナデのちタテヘラケズリ。胴部外面僅かに炭化物付着。	内外面とも 5YR4/6 赤褐	やや粗い、白・黒・透明・ 灰細砂～礫 焼成：やや硬質	No 13・15・ 16 1.8 (No 15)	口縁部～胴 部上半 1/2
6	土師器 鉢	口高 16.3 16.5	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。底部外面一方向ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデのち中位のみヘラケズリ。胴部、外面に赤化部分及び黒斑あり。甕として使用されたものか。	内：2.5Y7/2 灰黄 外：7.5YR7/4 にぶい橙	緻密、白・灰・黒細砂、白・ 黒・灰砂 焼成：やや硬質	No 42 (貯蔵穴覆土下層)	口縁部 2/3、 体部～底面 4/5
7	石器 編物石	長幅厚重 13.3 6.3 4.5 536.9	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	5Y7/2 灰	—	No 1 1.9	完存
8	石器 編物石	長幅厚重 13.9 6.4 3.4 507.9	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：カマボコ状	2.5Y5/2 暗灰褐	—	No 3 2.0	完存
9	石器 編物石	長幅厚重 17.0 5.4 4.6 551.0	未加工の自然礫。 平面形：長い楕円形 断面形：隅丸三角形	2.5Y7/4 浅黄	—	No 40 貯蔵穴覆土 下層	完存
10	石器 編物石	長幅厚重 15.1 6.1 3.9 575.0	未加工の自然礫。 平面形：隅丸の方形 断面形：隅丸三角形	2.5GY6/1 オリーブ灰	—	No 6 1.8	完存



第41図 西刑部西原遺跡3区 SI-10 実測図

11	石器 被熱礫	長 20.0 幅 10.3 厚 7.4 重 1884.0	未加工の自然礫。下部部に焼土付着。 平面形：楕円形 断面形：不整な楕円形	7.5R6/1 赤灰	—	№.10 床直	完存
12	石器 被熱礫	長 [18.2] 幅 [8.8] 厚 [6.6] 重 [1595.4]	未加工の自然礫。スス及び鉄分付着。 平面形：楕円形 断面形：隅丸三角形	7.5YR6/3 に近い褐	—	№.25 1.6	部残
13	石器 編物石	長 13.9 幅 6.5 厚 3.5 重 418.0	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：不整な楕円形	5PB4/1 暗青灰	—	№.32 南西柱穴覆 土中層	完存

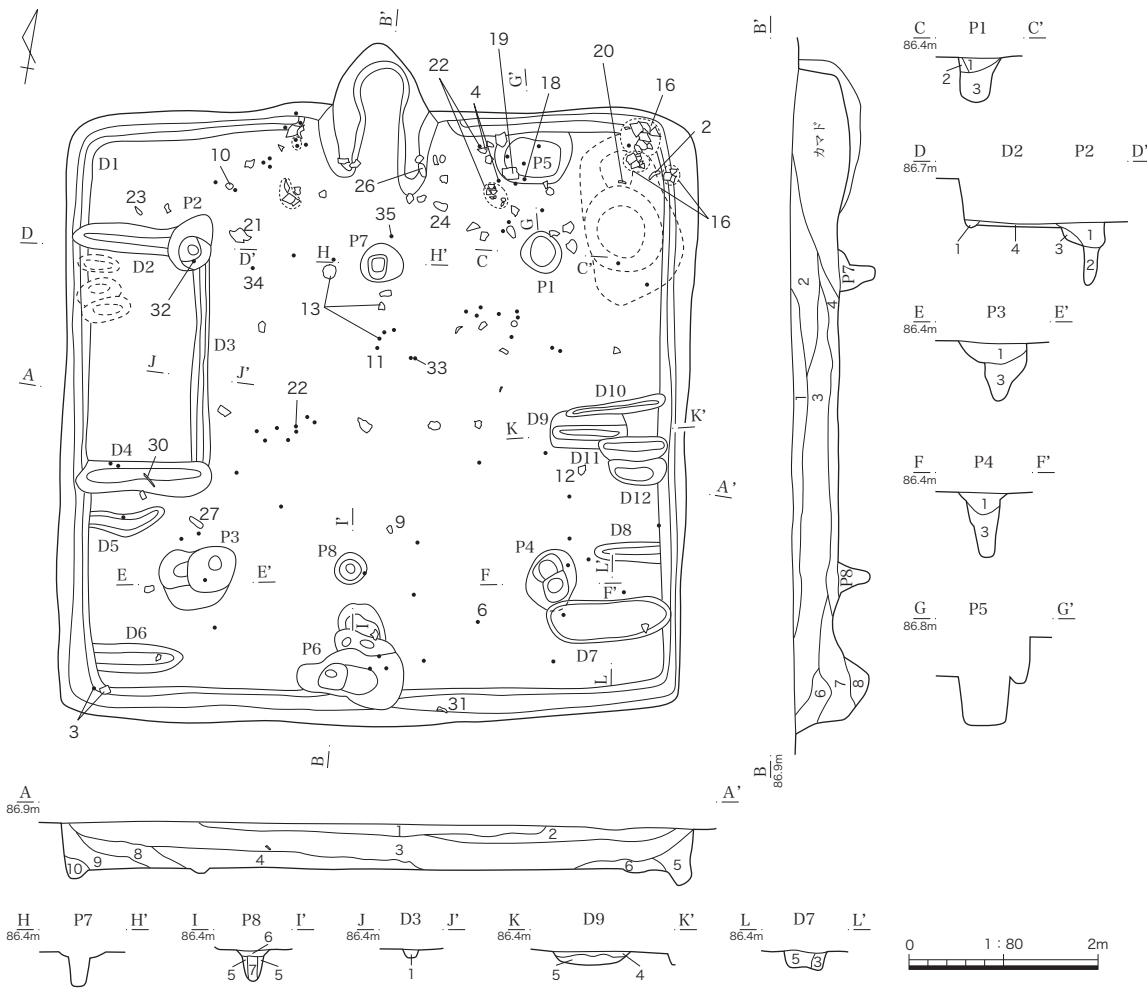


第42図 西刑部西原遺跡3区 SI-10 出土遺物

14	石器 繩物石	長 13.8 幅 5.2 厚 3.5 重 437.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：卵形	10Y7/1 灰白	—	No.35 南西壁溝 6.9	完存
15	焼成粘 土塊	縦 4.3 横 3.1 厚 2.4 重 13.5	磨滅顕著で破面などは不明瞭。ワラ拔痕が目立つ。	7.5YR8/4 浅黄橙	やや緻密、ワラ、赤色粒子、細砂 焼成：やや軟質	覆土中	完存か
16	焼成粘 土塊	長 3.5 幅 3.4 厚 2.0 重 11.1	磨滅顕著で破面など不明瞭。	7.5YR8/2 灰白	やや緻密、微砂、ワラ 焼成：軟質	カマド	完存か

3区 SI-11 (遺構：第43・44図、遺物：第45～47図、図版五・六・八二・八三・一一二・一一三)

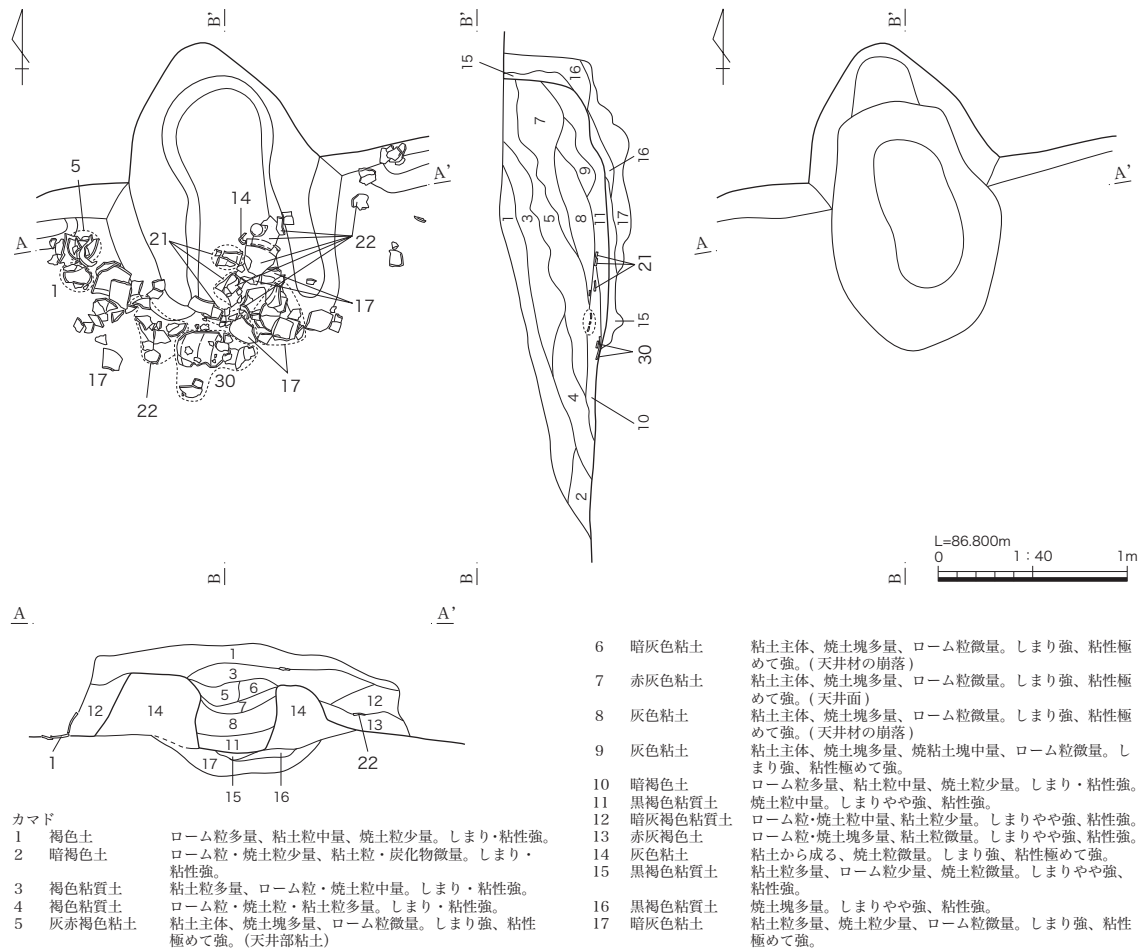
位置 グリッド 90.5-51.0・90.5-51.5・90.0-51.0・90.0-51.5 重複遺構 無し。 平面形 隅丸方形 規模 東西6.53×南北6.44 m 主軸方向 N-9°-W 覆土 自然堆積 壁 壁高28～54 cm 床 北東隅付近を除きローム地山を床面とする。 柱穴 P1 (径44～43 cm、深さ44 cm)、P2 (径60～44 cm、深さ62 cm)、P3 (径77～62 cm、深さ60 cm)、P4 (径65以上～50 cm、深さ67 cm)。 入口ピット P6 (径111～77 cm、深さ30 cm) 貯蔵穴 P5 (長軸80～短軸55 cm、深さ50 cm)。 壁溝 D1 (幅17～39 cm、深さ15～20 cm) は壁際を全周。 間仕切り溝 D2 (幅27～30 cm、深さ7 cm)、D3 (長さ250 cm、幅13～20 cm、深さ14 cm)、D4 (幅31～36 cm、深さ17 cm)、D5 (幅17～25 cm、深さ17 cm)、D6 (長さ



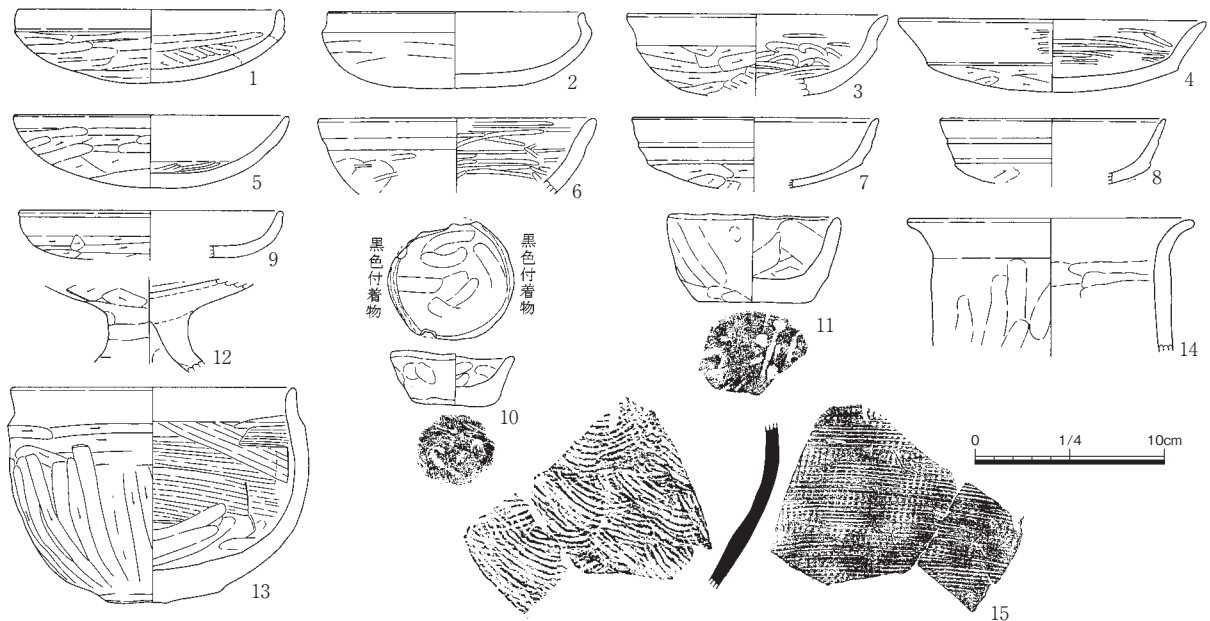
SI-11

- | | | | |
|----------|---------------------------------------|----------|--------------------------------|
| 1 暗黄褐色土 | ローム粒多量、焼土粒中量。しまり・粘性強。(自然堆積) | 3 黄色土 | ローム塊より成る。しまりやや強、粘性極めて強。 |
| 2 褐色土 | 焼土粒多量、ローム粒・粘土粒少量。しまり・粘性強。(自然堆積) | 4 黄褐色土 | ローム塊多量。しまり強、粘性極めて強。 |
| 3 暗褐色土 | 焼土粒中量、ローム粒少量、粘土粒微量。しまり・粘性強。(自然堆積) | P6・P8 | |
| 4 褐色土 | ローム粒多量、焼土粒中量、粘土粒微量。しまり強、粘性極めて強。(自然堆積) | 1 暗灰褐色土 | 粘土粒多量、焼土粒中量、ローム粒微量。しまりやや強、粘性強。 |
| 5 黒褐色土 | ローム粒・焼土粒少量。しまりやや強、粘性極めて強。(自然堆積) | 2 黒灰褐色土 | 焼土粒・粘土粒中量、ローム粒少量。しまりやや強、粘性強。 |
| 6 褐色土 | ローム粒・焼土粒少量。しまり・粘性強。(自然堆積) | 3 暗灰褐色土 | 粘土粒多量、焼土粒中量、ローム粒微量。しまりやや強、粘性強。 |
| 7 暗褐色土 | 焼土粒中量、ローム粒・粘土粒少量。しまり強、粘性極めて強。(自然堆積) | 4 暗褐色土 | ローム粒・焼土粒・粘土粒少量。しまりやや強、粘性強。 |
| 8 褐色土 | ローム粒中量、焼土粒少量。しまり強、粘性極めて強。(自然堆積) | 5 暗黄褐色土 | ローム粒多量。しまり弱、粘性極めて強。 |
| 9 暗褐色土 | ローム粒少量、焼土粒微量。しまりやや強、粘性極めて強。(自然堆積) | 6 黒褐色土 | ローム粒・焼土粒微量。しまり・粘性強。 |
| 10 黒褐色土 | ローム粒・焼土粒少量。しまりやや強、粘性極めて強。(自然堆積) | 7 黒褐色土 | ローム粒少量。しまり・粘性強。 |
| P1～P4、D2 | | D3・D7・D9 | |
| 1 黒褐色土 | ローム粒・焼土粒少量。しまりやや強、粘性極めて強。(自然堆積) | 1 黒褐色土 | ローム塊中量。しまり・粘性強。 |
| 2 暗黄褐色土 | ローム粒多量。しまり弱、粘性極めて強。 | 2 黄褐色土 | ローム塊より成る。しまり・粘性極めて強。 |
| | | 3 暗黄褐色土 | ローム粒多量。しまり・粘性強。 |
| | | 4 暗黄褐色土 | ローム塊多量。しまり強、粘性極めて強。 |
| | | 5 黄褐色土 | ローム塊より成る。しまり・粘性極めて強。 |

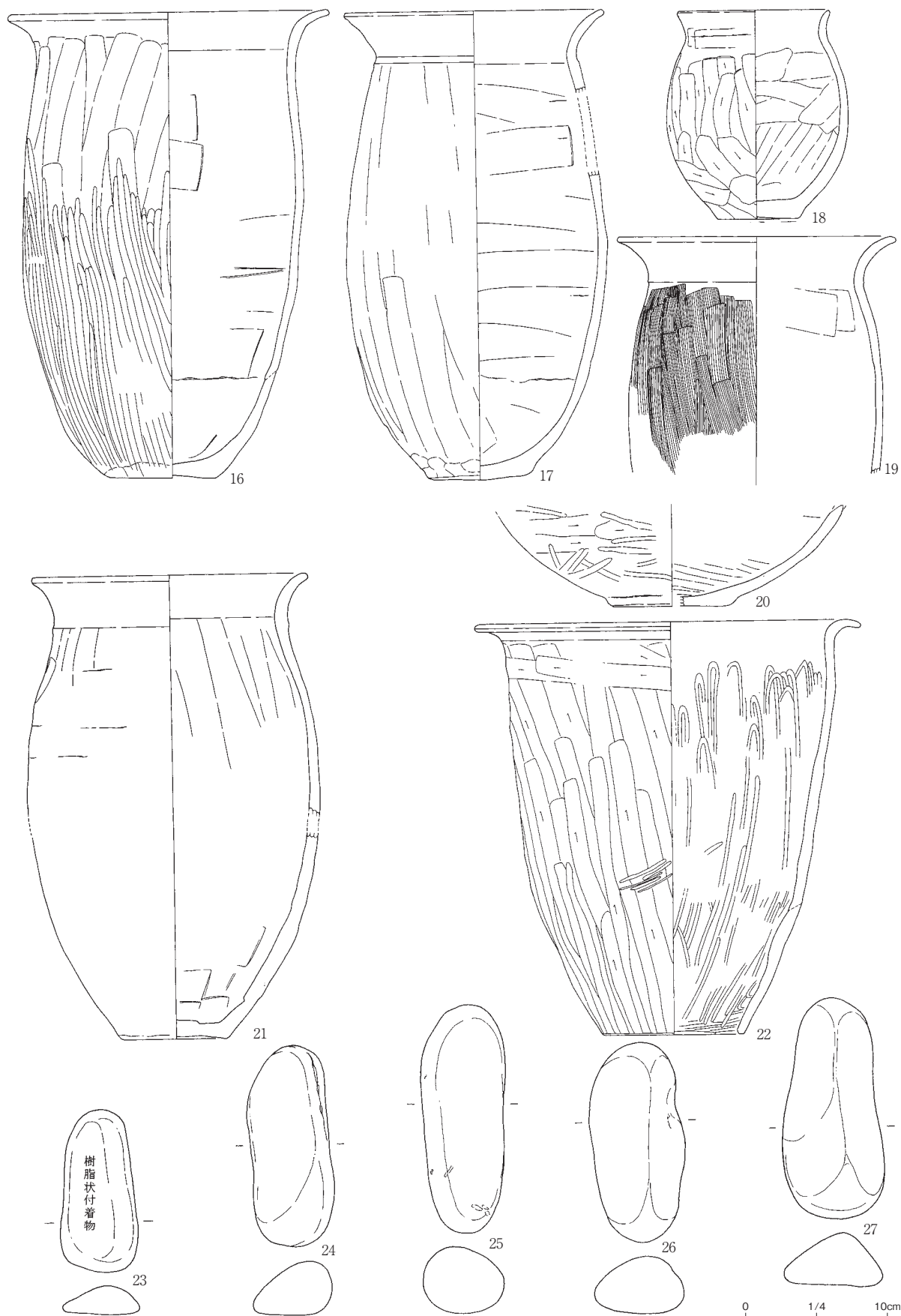
第43図 西刑部西原遺跡3区 SI-11実測図(1)



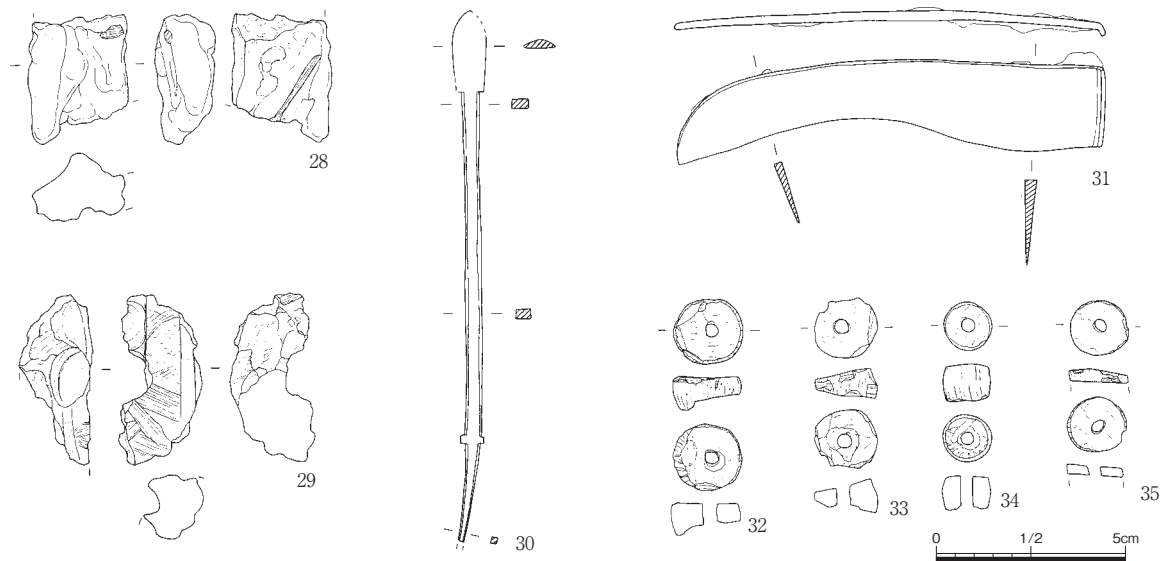
第44図 西刑部西原遺跡3区 SI-11 実測図(2)



第45図 西刑部西原遺跡3区 SI-11 出土遺物(1)



第46図 西刑部西原遺跡3区 SI-11 出土遺物(2)



第47図 西刑部西原遺跡3区 SI-11 出土遺物(3)

92 cm、幅 25 ~ 32 cm、深さ 11 cm)、D7 (長さ 129 cm、幅 43 ~ 45 cm、深さ 17 cm)、D8 (長さ 68 cm、幅 15 ~ 21 cm、深さ 5 cm) D9 (長さ 130 cm、幅 35 ~ 88 cm、深さ 15 cm)。掘方 北東隅に深さ 20 cmほどの浅い土坑状の掘り込みあり。カマド 北壁中央を三角形に掘り込む。掘方の底面は凸字状。袖部は灰色粘土で構築。燃烧部及び煙道部にかけて、黒褐色粘質土で埋戻す。遺物 土師器坏・鉢・甕・甔の他、焼成粘土塊、鉄鏃・鎌などの鉄製品、白玉などが出土。1・4・5の土師器坏、16・17・19~22の土師器甕・甔はいずれも床面直上の出土。7・8は体部外面に明瞭な稜線をもつ北武蔵系の坏。10・11は手捏ね土器。不掲載遺物は小コンテナ6箱分。不掲載礫の総重量は1.8 kg。古墳時代後期末葉の建物跡と考えられる。

第12表 3区 SI-11 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床直(cm)	残存
1	土師器坏	口 13.7 高 3.8	内面ヨコナデのち丁寧なヘラナデ。口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリのちやや強いナデ。	内：2.5Y4/2 暗灰黄 外：2.5Y5/3 黄褐	やや粗い、黒・透明・白 粗砂 焼成：やや軟質	No 148 床直	口縁部 3/4、底部 ほぼ完存
2	土師器坏	口 (13.3) 高 3.9	内面~口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヨコヘラケズリ。内外面漆仕上げ。器面の磨減顕著。	内外面とも 10YR8/4 浅黄橙	やや粗い、白細砂 焼成：やや軟質	No 81 32.4	口縁部~体部 4/5
3	土師器坏	口 14.0 高 [4.3]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ。体部外面ヘラケズリ。内面~体部外面漆仕上げ。	内：7.5YR5/4 にぶい褐 外：7.5YR6/6 橙	やや緻密、白細砂、赤色粒 焼成：やや軟質	No 38・39 39.9 (No 39)	口縁部~体部 1/3
4	土師器坏	口 16.1 高 3.8	内面ヘラミガキのち黒色処理。口縁部外面ヨコナデのちヘラミガキ。体部外面ヘラケズリのち強いナデあるいはヘラミガキか。	内：7.5YR7/4 にぶい橙 外：10YR7/6 明黄褐	やや緻密、黒・白・灰細砂、灰・透明砂、白色粒 焼成：やや硬質	No 110・138 床直 (No 138)	口縁部 2/5、体部 3/4
5	土師器坏	口 14.6 高 3.9	口縁部外面~内面ヨコナデ。内面底部付近にまばらなヘラミガキ。体部外面ヘラケズリのち上半部は丁寧なナデ、下半部はナデ。内面~体部外面上半漆仕上げ。	内：7.5YR7/4 にぶい橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	やや粗い、炭細砂、赤色粒 焼成：やや軟質	No 166 床直	口縁部~体部 2/3
6	土師器坏	口 (14.3) 高 [4.0]	口縁部内外面ヨコナデ。内面ややまばらなヘラミガキ。体部外面ヘラケズリのちヘラミガキ。全面漆仕上げ。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：7.5YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、白細砂~粗砂 焼成：やや軟質	No 16 30.6	口縁部~体部 上半 1/3
7	土師器坏	口 (12.8) 高 [3.7]	内面ヨコナデ。口縁部外面2段の稜線あり。体部外面ヨコヘラケズリのち底部~方向ヘラケズリ。北武蔵系の坏か。	内：2.5Y4/1 黄灰 外：2.5Y3/3 暗オリーブ褐	やや緻密、白・灰・黒・透明細砂、灰砂、白色粒 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部~体部 1/3
8	土師器坏	口 (12.0) 高 [3.4]	内面磨減顕著だがヨコナデか。口縁部外面明瞭な2段の稜あり。体部外面ヘラケズリか。北武蔵系の坏か。小破片のため口径は参考値。	内外面とも 10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、白・灰・黒・透明細砂、黒・灰砂 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部~体部 1/8
9	土師器坏	口 (13.6) 高 2.5	口縁部内外面ロクロナデ。体部外面ナデ。体部外面ヨコヘラケズリ。口縁部沈線風の調整。	内外面とも 5YR6/6 橙	緻密、白細砂、礫、赤色粒 焼成：やや軟質	No 3 38.9	口縁部~体部 1/5
10	土師器手捏ね土器	口 6.5 高 2.9	内面ユビナデ。外面指頭押圧ナデ。底部外面僅かにワラの圧痕か。口縁部端部に黒褐色の付着物(漆か)あり。	内：7.5YR6/4 にぶい橙 外：2.5Y3/2 黒褐	やや粗い、黒細砂、赤色粒 焼成：やや軟質	No 48 33.6	ほぼ完存

11	土師器 手捏ね 土器	口底高 (9.9) 6.0 4.6	内面ヘラナデ。外面ナデ及び指頭押圧。底部外面ナデおよびワラの圧痕か。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密、灰・白細砂、赤色粒 焼成：やや硬質	№ 99 16.4	口縁部 1/4、底部 1/2
12	土師器 高環	高径 [4.5] 4.1	環部内面ナデ。環部外面ヘラケズリ。脚部内面ヨコナデのち指頭押圧。脚部外面ナデ。	内：2.5Y3/2 黒褐 外：10YR5/2 灰黄褐	やや緻密、白細砂、赤色粒 焼成：やや軟質	№ 125 34.6	脚部 2/3、 底部一部
13	土師器 鉢	口底高 14.7 6.6 11.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ハケ目調整のち底部内面ナデ。体部外面上半ヨコヘラケズリ以下タテヘラケズリ。底部外面ナデ。	内：5Y2/1 黒 外：10YR7/3 にぶい黄橙	やや緻密、黒細砂、赤色粒 焼成：やや軟質	№ 112・ 126・129 11.8 (№ 112)	口縁部～体 部 1/3、底 部完存
14	土師器 甕	口高 15.3 [7.2]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヨコヘラナデ。胴部外面タテヘラナデ。小型の甕。被熱痕跡。黒斑あり。やや歪む。	内外面とも 2.5Y7/4 浅黄	粗い、白・黒・透明・灰 粗砂～礫 焼成：軟質	K8 10.9	口縁部 1/4、胴部 上半 3/4
15	須恵器 甕	高 [8.9]	内面同心円状あて具痕。外面格子叩き。	内：5GY6/1 オリーブ灰 外：N2/6 黒	やや粗い、白・透明・黒 細砂～粗砂 焼成：硬質	覆土中	胴部破片
16	土師器 甕	口底高 22.2 7.6 32.7	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半部タテヘラナデ。胴部外面下半部タテヘラミガキ。下端部ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面黒斑部分が多い。	内：10YR5/2 灰黄褐 外：10YR6/3 にぶい黄褐	やや粗い、白・透明・灰・ 黒粗砂～礫 焼成：やや軟質	№ 82・105・ 114、覆土 床直 (№ 82)	ほぼ完存
17	土師器 長胴甕	口底高 18.3 7.4～7.8 33.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリのちナデか（被熱顕著で不明瞭）。外面下端部はナデ。胴部内面ヘラナデ。底部外面多方向ヘラケズリ。部分的に焼土付着。	内外面とも 7.5YR4/6 に ぶい橙	やや粗い、白・灰・黒細 砂、白礫 焼成：やや軟質	№ 150・ 155・158・ 169・171 床直 (№ 169・171)	ほぼ完存
18	土師器 甕	口底高 10.6 5.8 14.7	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半タテヘラケズリ、下半部ナメヘラケズリ。胴部～底部内面ヘラナデ。底部外面ヘラケズリのちヘラナデか。外面一部黒色物付着。内面は全体的に赤化。	内：5YR6/6 橙 外：5YR7/8 橙	やや緻密、白・透明・黒 細砂～礫、赤色粒 焼成：やや軟質	№ 145 30.9	口縁部 3/4、底部 完存
19	土師器 甕	口高 (19.2) [16.8]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面タテ位のハケ目。一部被熱による赤化及び炭化物付着。	内：5YR6/6 橙 外：7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・黒・灰細砂、 黒・灰砂、透明礫、白色粒 焼成：やや硬質	№ 146・166 床直 (№ 146)	口縁部～胴 部 1/4
20	土師器 甕	底高 (8.1) [7.0]	胴部外面ヨコヘラケズリのちヘラミガキ。底部外面窪みあり。木葉痕または敷物痕か。胴部内面ヘラナデ。胴下半部被熱赤化。	内：10YR7/6 明黄褐 外：5YR5/8 明黄褐	やや緻密、白・透明・灰 粗砂、白礫 焼成：やや硬質	№ 80	底部 2/5、 胴部下半 1/3
21	土師器 甕	口底高 (19.1) [37.7] 7.4	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面タテヘラナデ。胴部外面タテヘラケズリ。器面は磨滅著しく調整不明瞭。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや粗い、白・灰・黒細砂、 黒・灰・白砂、白・黒礫、 赤色粒 焼成：やや硬質	№ 62・156・ 157・158・ 168・170・ 172 床直 (№ 157・168・ 170・172)	口縁部 1/2、 胴下半部完 存
22	土師器 甕	口底高 27.0 (10.0) 29.1	単口の甕。口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面入念なタテヘラミガキ。口縁部外面ヨコヘラケズリ。胴部外面タテヘラケズリのち下半部やや細かいナデ。底部ヘラケズリにより穿孔。全体的に摩滅・風化が進む。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	粗い、灰・黒砂、赤色粒 焼成：軟質	№ 82・114・ 117・140・ 146・153・ 161・163・ 173・174・ K1・K4・ K141 床直 (№ 140)	口縁部 4/5、底部 1/2
23	石器 編物石	長幅厚重 11.3 5.3 2.0 188.0	全体的に褐色付着物（漆か）あり。 平面形：撥形 断面形：カマボコ状	5Y4/2 灰オリーブ	—	№ 45 6.4	完存
24	石器 編物石	長幅厚重 14.1 5.5 3.7 421.1	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：水滴形	7.5Y7/1 灰白	—	№ 65 37	完存
25	石器 編物石	長幅厚重 16.2 5.6 4.7 644.8	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	2.5Y7/1 灰白	—	覆土中	完存
26	石器 編物石	長幅厚重 14 6.4 4.0 574.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：隅丸三角形	7.5YR7/2 明褐灰	—	№ 108 39.5	完存
27	石器 編物石	長幅厚重 15.5 7.0 3.8 528.5	未加工の自然礫。 平面形：緩やかな楕円形 断面形：隅丸三角形	2.5Y5/2 暗灰黄	—	№ 27 29.5	完存
28	焼成粘 土塊	長幅厚重 2.8 2.5 1.6 7.4	右側面に指頭による窪みあり。器表面には部分的にワラ圧痕がみられる。砂質で軽い（密度の低い）胎土を使用している。	7.5YR7/4 にぶい橙	緻密、微砂粒、赤色粒 焼成：軟質	覆土中	部分欠損
29	焼成粘 土塊	長幅厚重 4.5 1.4 1.8 8.1	左側面はナデ及び指頭押圧が主。一部に繊維圧痕あり。混入物は少なく、比較的良好な胎土を使用。左側面にはワラ状の圧痕多数あり。一部指頭の押圧が残る。	7.5YR7/4 にぶい橙	緻密、微砂粒 焼成：軟質	覆土中	完存か
30	鉄製品 鉄鎌	長幅重 [14.0] 0.9 [6.7]	長頸鎌。鎌身は柳葉式の片丸造りで関は直角、厚さ 2.5 mm。頸部断面は長方形で、幅 4.0～5.0 mm。棘筵被。茎は下端部を欠損。	—	鉄製	№ 2 35.5	茎下端部の み欠損
31	鉄製品 鎌	長幅重 11.3 2.3 22.1	背は全体的に緩やかな丸みをもち、先端部で丸みを増す。刃部は平造りで大きく低ぎ減りする。基部は浅くくの字に曲がる。曲げ幅 3.0 mm。棟は角棟、最大幅 3.0 mm。	—	鉄製	№ 1 床直	完存
32	石製模 造品 白玉	径厚孔 1.7～1.8 0.47～0.87 0.33～0.36 2.8	表面は未加工。裏面孔周辺に小さな剥離。大きな段差あり。突出した部分にのみ若干の研磨を施す。側面縦位または斜位の粗い研磨により丸みを帯びる。孔の内面に段差あり。	5Y5/1 灰	粘板岩	№ 40 20.1	完存

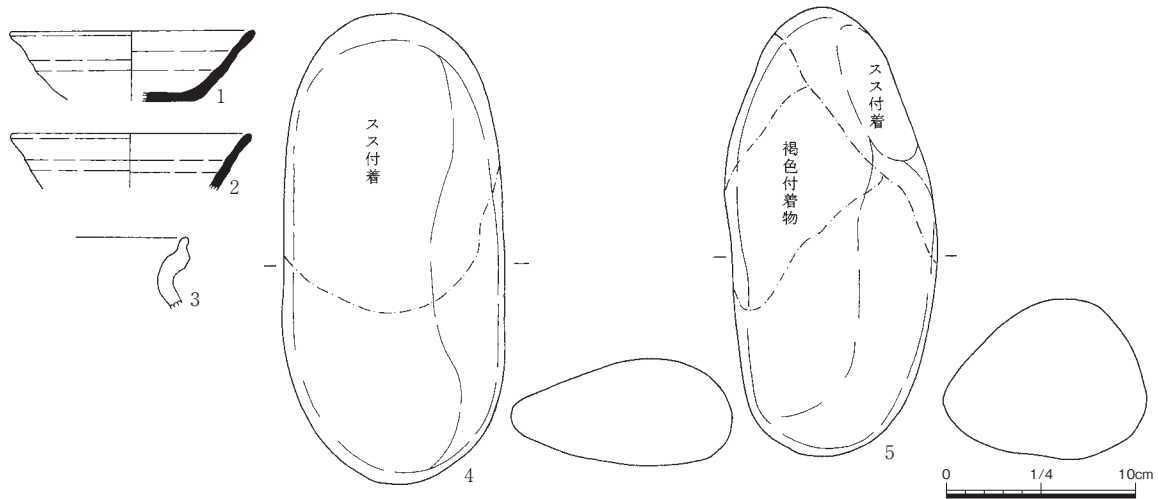
第3章 発見された遺構と遺物

33	石製模造品 白玉	径 1.4~1.6 厚 0.25~0.75 孔 0.34~0.35 重 2.0	表面は劈開面より剥離。裏面はキメの細かい研磨。孔周辺に大きな剥離。側面は粗い研磨を施すが、切削痕を残す。側面はやや丸みを帯びる。	5Y5/1 灰	粘板岩	No. 44 20.0	完存
34	石製模造品 白玉	径 1.5 厚 0.82~0.95 孔 0.33~0.37 重 2.5	表面研磨。裏面は一部に研磨あり、側面と似た粗い刻み目あり。側面は粗い研磨により丸みをもつ。孔片面から穿孔したものか。	5Y6/2 灰オリーブ	滑石	No. 41 床直	完存
35	石製模造品 白玉	径 2.8~2.5 厚 0.25~0.31 孔 0.28~0.3 重 0.9	表面は劈開面（自然面・節離面か）を一部残す。裏面は加工、剥離したものと考えられる。側面は粗い研磨を施すが切削痕残る。若干丸みを帯びる。	5Y5/1 灰	粘板岩	No. 42 36.2	完存

3区 SI-12（遺構：第49図、遺物：第48図、図版六・八三）

位置 グリッド 90.0-51.5・90.0-52.0・90.5-51.5・90.5-52.0 重複遺構 SK-45 より新しい。 平面形 隅丸方形 規模 東西 3.74 m以上 × 南北 3.40 m 主軸方向 N-9° - E 覆土 いずれも自然堆積か。

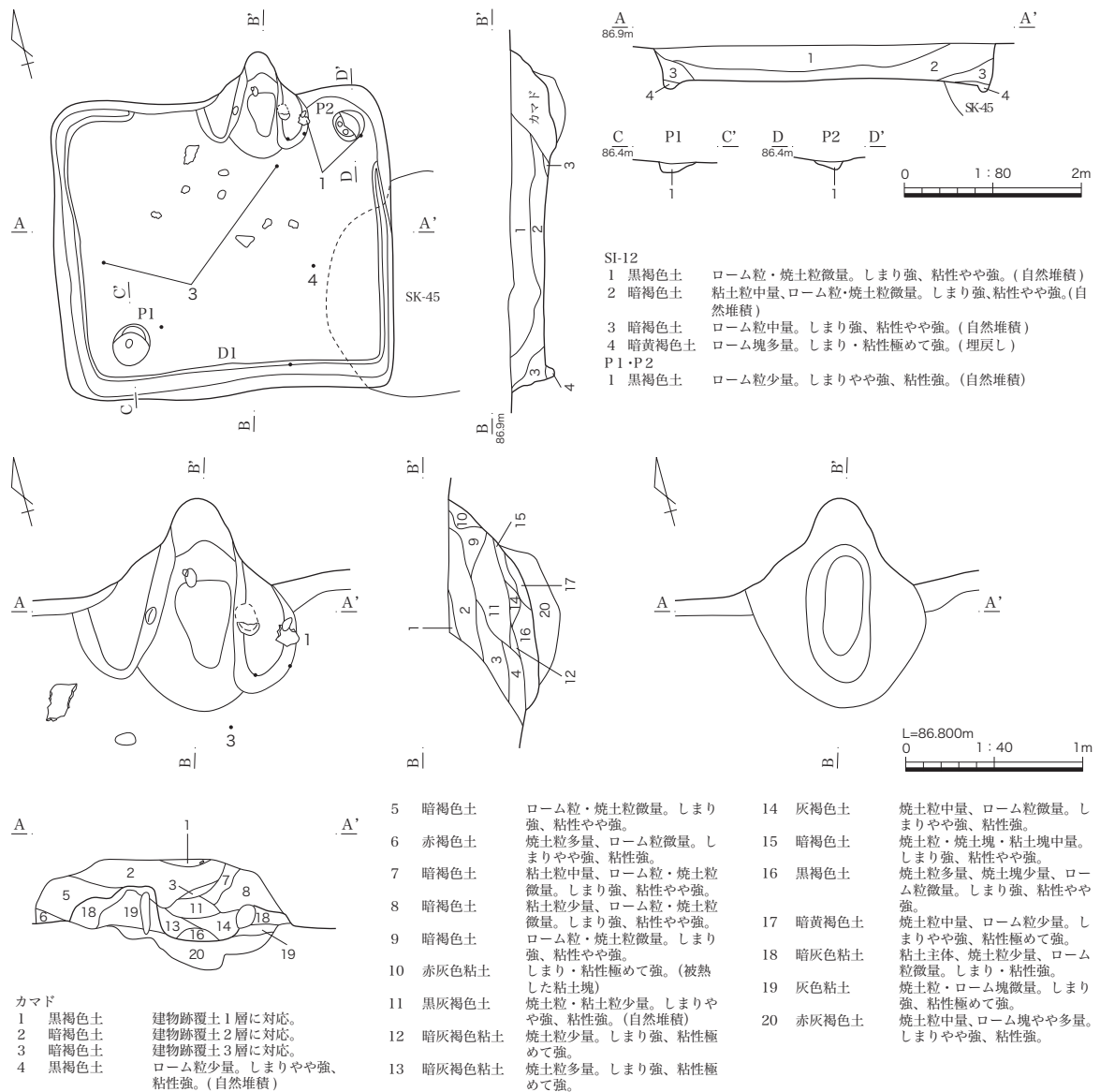
壁 壁高は 36 ~ 43 cm残存。 床 ローム地山。若干の凹凸があるが概ね平坦。 柱穴・入口ピット・貯蔵穴 確認できなかった。 ピット P1（径 49 ~ 42 cm、深さ 18 cm）、P2（径 35 ~ 35 cm、深さ 9 cm）はいずれも浅く性格不明。 壁溝 D1（幅 5 ~ 17 cm、深さ 8 cm）は壁際 3/4 の範囲に確認。 カマド 北壁中央やや東寄り、張りの弱い凸字形に掘り込む。煙道の立ち上がりは 50°。袖出土礫は芯材か。 遺物 1 は床直出土の須恵器環。4・5 は支脚かカマド芯材の礫か。不掲載遺物は礫主体（重量 6.3 kg）。その他遺物は甕胴部破片が主で、小コンテナ箱 1/3 程度。平安時代中葉の建物跡と考えられる。



第48図 西刑部西原遺跡3区 SI-12 出土遺物

第13表 3区 SI-12 出土遺物観察表

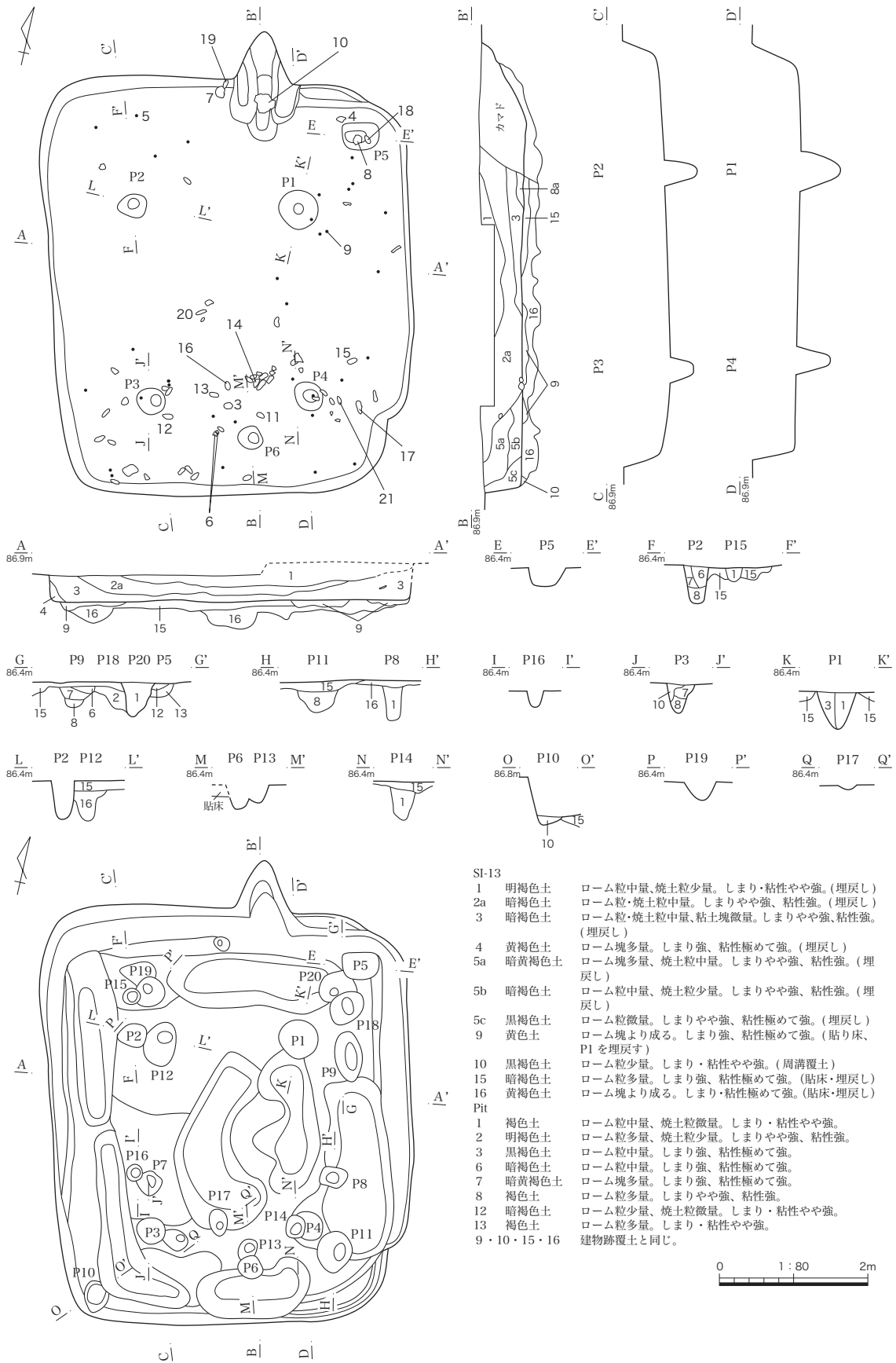
掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	須恵器環	口 12.5 底 (6.8) 高 3.7	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのちナデ。益子産（滝ノ入・倉見沢窯）。	内外面とも 7.5Y4/1 灰	やや粗い、白粗砂～礫 焼成：やや硬質	No. 6・10・K18、カマド床直 (No. 6)	口縁部 1/2、底部 1/3
3	須恵器環	口 (12.3) 高 [2.6]	内外面ロクロナデ。	内外面とも 7.5Y5/1 灰	やや緻密、白細砂～礫 焼成：硬質	No. 1、カマド 35.2	口縁部 1/6
3	土師器甕	高 [3.1]	口縁部内外面ヨコナデ。口縁端部ツマミ上げ。常総型甕の口縁部破片。	内外面とも 5YR4/4 に近い赤褐	粗い、白・透明粗砂～礫、赤色粒、雲母片 焼成：やや硬質	No. 5 床上	口縁部破片
4	石器編物石	長 24.8 幅 11.6 厚 5.7 重 2419.0	表面上部黒色付着物（スス）あり。平面形：楕円形 断面形：不整な楕円形	7.5Y1/3 オリーブ黒	—	No. 19 23.1	完存
5	石器編物石	長 23.4 幅 10.7 厚 8.4 重 2890.0	スス及び褐色付着物（漆か）あり。平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸三角形	10R3/3 明赤褐	—	No. 20 22.7	完存



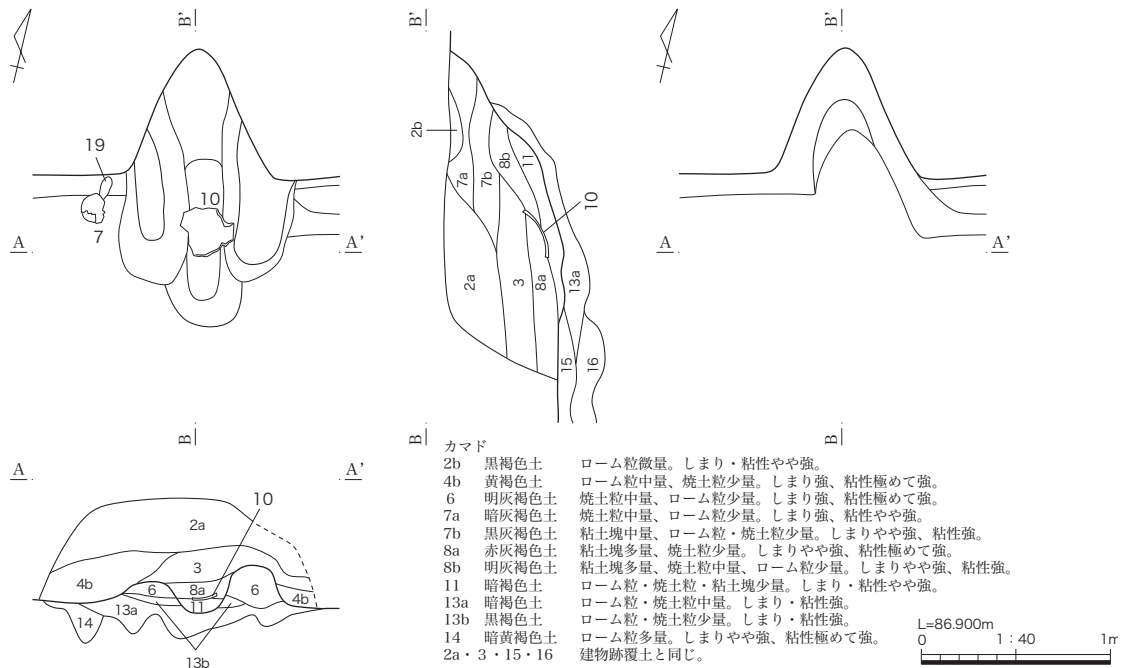
第49図 西刑部西原遺跡3区 SI-12 実測図

3区SI-13 (遺構：第50・51図、遺物：第52・53図、図版六・八三)

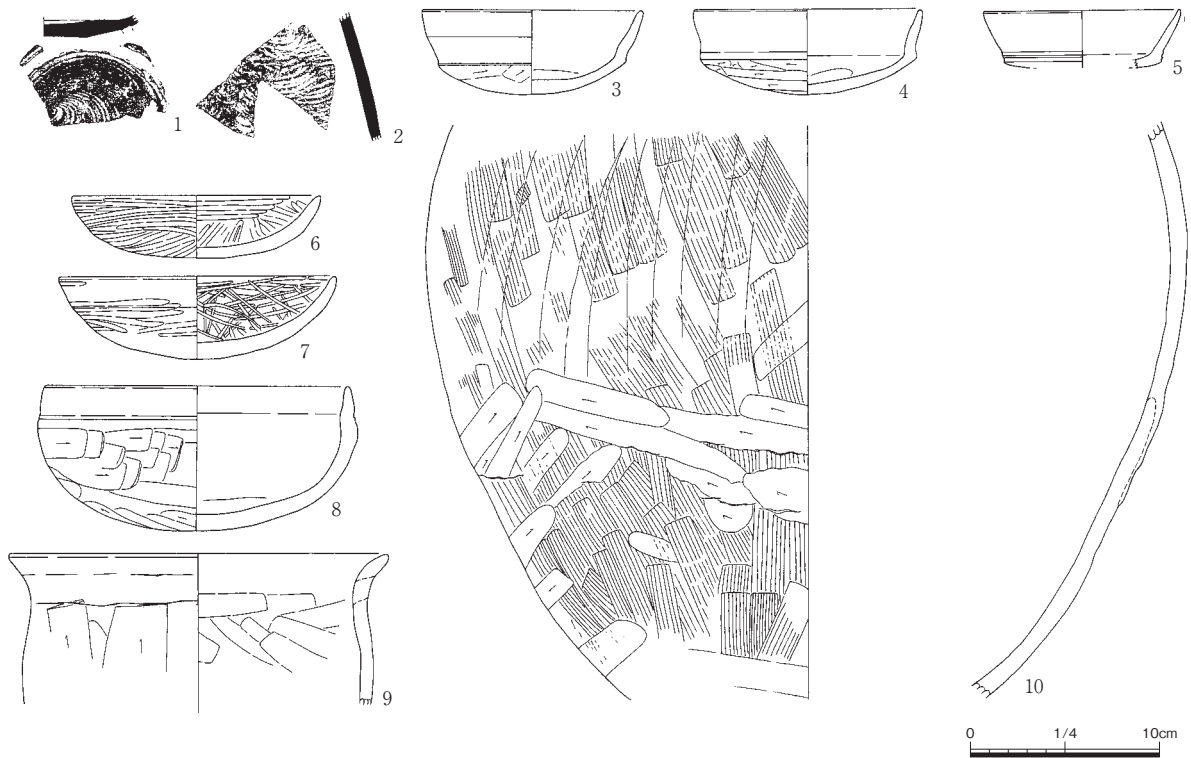
位置 グリッド91.0-51.5・90.5-51.5 重複関係 同一建物内で複数回(3時期か)の建替えあり。平面形 東部に若干の張出しをもつ隅丸長方形。東西4.8×南北5.54m。主軸方向 N-16°-E 覆土 暗褐色土主体とし、人為埋戻しと考えられる。壁 壁高35～56cm。床 概ね平坦で硬化面は未確認。全面が貼床。柱穴 主柱穴はP1(径54～42cm、深さ49cm)、P2(径40～32cm、深さ51cm)、P3(径40～29cm、深さ37cm)、P4(径42～23cm、深さ45cm)である。以下床下から確認されたピットは、P7(径34～30cm、深さ14cm)、P8(径40～35cm、深さ55cm)、P9(径67～39cm、深さ34cm)、P10(深さ13cm)、P11(径58～42cm、深さ41cm)、P12(径60～32cm、深さ41cm)、P14(径57～29cm、深さ43cm)、P15(径23cm、深さ19cm)。P16(径22cm、深さ13cm)、P18(径71～52cm、深さ47cm)、P19(径42～33cm、深さ24cm)、P20(径50～40cm、深さ43cm)がある。位置的にはP7・P8・P15・P18が対応する可能性が高いが、その他のピットの対応関係は明確に把握できなかった。入口ピット P6(径



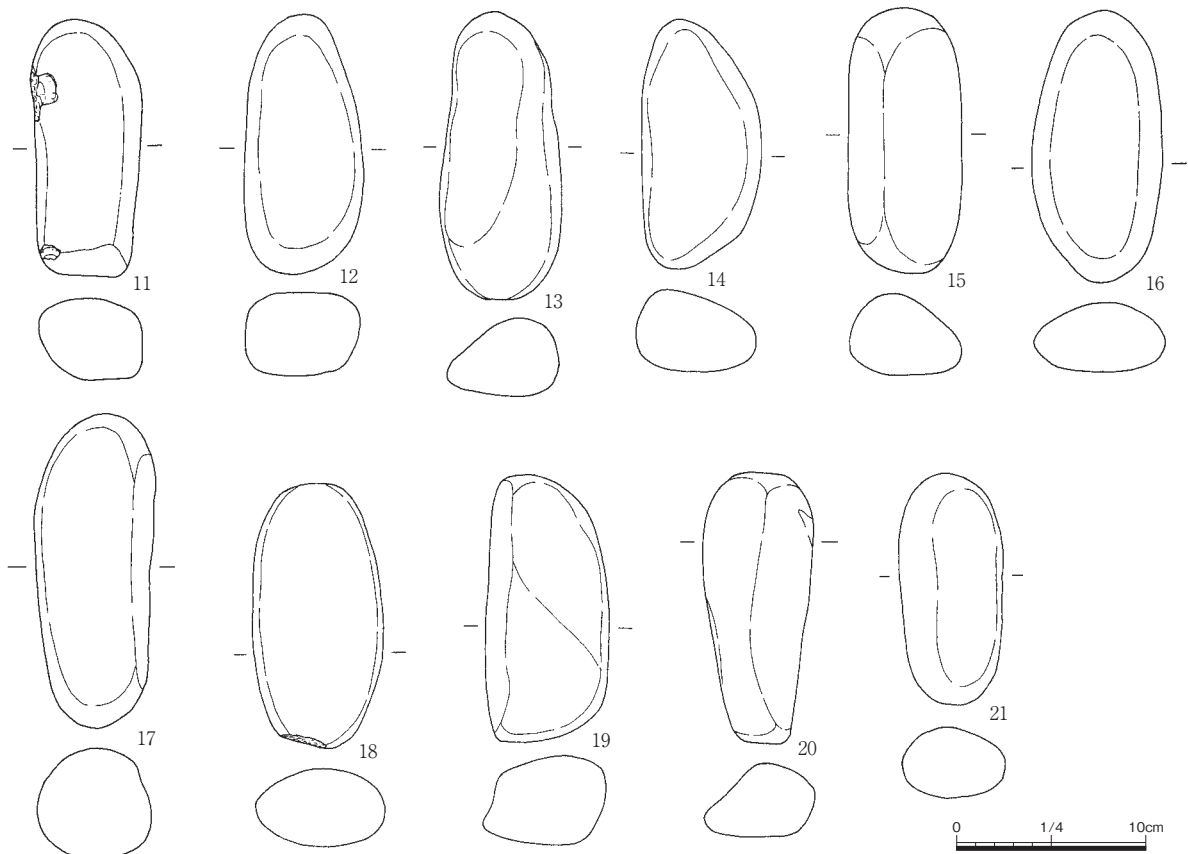
第50図 西刑部西原遺跡3区 SI-13実測図(1)



第51図 西刑部西原遺跡3区 SI-13 実測図(2)



第52図 西刑部西原遺跡3区 SI-13 出土遺物(1)



第53図 西刑部西原遺跡3区 SI-13 出土遺物(2)

第14表 3区 SI-13 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 高台付 坏	高 [0.9]	底部外面回転糸切りのち周開回転ヘラケズリ。高台貼付けのちロクロナデ。高台部剥落。接合沈線あり。混入品。	内：2.5Y6/2 灰黄 外：5Y7/2 灰白	緻密、黒細砂、白砂 焼成：硬質	覆土中	底部 1/3
2	須恵器 甕	厚 0.3	内面同心円状あて具痕。外面平行叩きのちカキ目あるが、外面自然釉付着のため不明瞭。	内：10Y5/1 灰 外：10Y4/2 オリーブ灰	緻密、白礫、シミ状の黒色粒、白色粒 焼成：硬質	覆土中	胴部破片
3	土師器 坏	口 11.4 高 4.4	内面全面及び口縁部外面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。内面及び口縁部外面上半漆仕上げ。体部外面磨滅顕著。	内：10YR8/2 灰白 外：7.5YR8/1 灰白	やや粗い、細砂、微量の黒色粒、石英粒 焼成：やや軟質	No. 73 9.8	完存
4	土師器 坏	口 (11.8) 高 4.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。内面及び口縁部外面漆仕上げ。	内：7.5Y8/2 灰白 外：2.5Y7/2 灰黄	やや緻密、白・黒粗砂 焼成：やや軟質	No. 53、覆土中 5.2	口縁部 1/3、体部～底部 1/2
5	土師器 坏	口 (10.4) 高 [2.8]	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部外面下端部沈線状。体部(底部)外面多方向ヘラケズリ。内面及び口縁部外面漆仕上げ。	内外面とも 10YR7/4 に ぶい黄褐	やや緻密、黒粗砂、赤色粒 焼成：軟質	No. 55・58 9.9 (No. 58)	口縁部 1/4、体部～底部 1/2
6	土師器 坏	口 (12.9) 高 3.3	内面全面ヘラミガキ。口縁部外面ヨコナデのちヘラミガキ。体部外面～底部外面ヘラケズリのち全面ヘラミガキ。口縁部内外面に僅かに黒～暗褐色の部分あり。漆仕上げか。	内外面とも 5YR5/4 に ぶい赤褐	やや緻密、白細砂、赤色粒、雲母細片 焼成：やや軟質	No. 62 52.5	口縁部 1/3、体部～底部 1/2
7	土師器 坏	口 14.4 高 4.4	内面やや細めの不定方向ヘラミガキ。口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ(又はヘラナデか)のちやや疎らなヘラミガキ。器面全面が黒色を呈する。底部外面使用による磨滅が顕著。	内：10Y3/1 オリーブ黒 外：7.5Y3/1 オリーブ黒	やや緻密、白礫、微砂粒、白色粒、赤色粒、極めて微量の白色針状物 焼成：やや硬質	No. 80 床直	口縁部～底部 1/3
8	土師器 埴	口 (15.8) 高 7.7	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部外面横方向ヘラケズリ。底部外面一方向ヘラケズリ。	内：7.5YR7/6 橙 外：10YR8/4 浅黄橙	やや緻密、赤色粒、微量の石英粒・白色粒 焼成：やや軟質	No. 81 9.4	口縁部～体部 1/3、底部完存

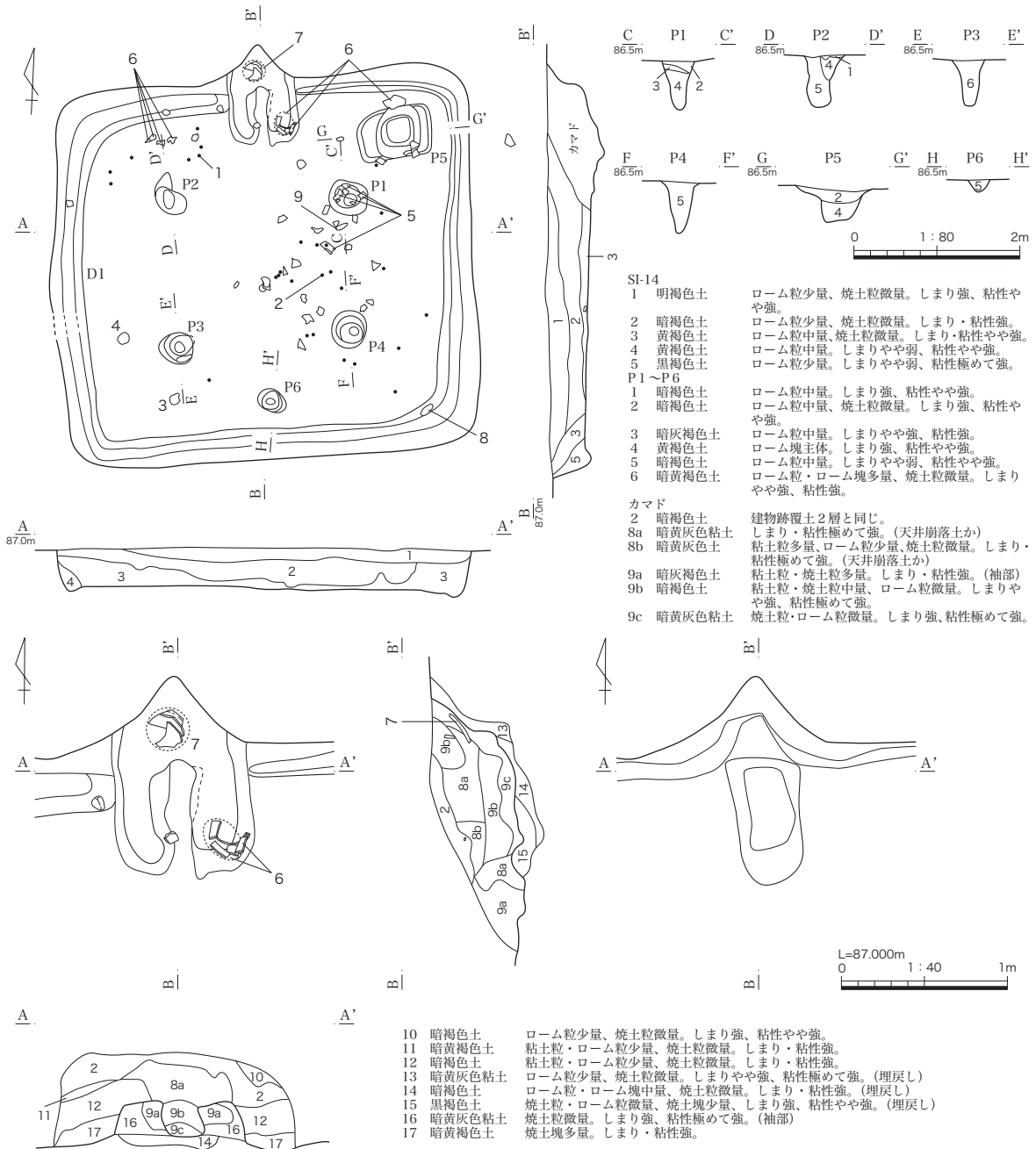
9	土師器 甕	口高 (19.8) [9.4]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテ位ヘラケズリ。胴部内面ナデ及びヘラナデ。口縁部に明瞭な輪積痕を残す。	内：7.5YR6/6 橙 外：2.5Y5/3 黄褐	粗い、粗砂～礫、白色粒、赤色粒 焼成：軟質	No. 78 24.2	口縁部～胴部上半 1/4
10	土師器 甕	径高 (40.0) [30.5]	内面摩耗のため調整不明。胴部外面縦位及び斜位のハケ調整のうち中位はヘラケズリ及びヘラナデ、上半部は非常に弱いタテヘラナデ。器面（特に内面）は被熱著しく磨滅している。	内外面とも 5YR6/4 に近い橙	やや粗い、軽石風の白礫、白色粒、石英粒、黒色ガラス質粒、細砂粒 焼成：やや軟質	K1 1.3	胴部 1/4
11	石器 編物石	長 13.4 幅 5.5 厚 4.2 重 502.2	左側縁及び下端部破面に剥離痕あるいは敲打痕あり。 平面形：棒状 断面形：不整な方形	2.5Y7/2 灰黄	—	No. 64 26.4	完存
12	石器 編物石	長 13.5 幅 6.0 厚 4.3 重 530.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：隅丸方形	2.5Y8/3 淡黄	—	No. 2 32.9	完存
13	石器 編物石	長 15 幅 5.9 厚 4.0 重 597.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：隅丸三角形	5Y7/2 灰白	—	No. 10 8.1	完存
14	石器 編物石	長 12.8 幅 6.3 厚 4.0 重 553.0	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：不整な楕円形	10Y6/1 灰	—	No. 69 床直	完存
15	石器 編物石	長 13.8 幅 5.9 厚 4.2 重 576.7	未加工の自然礫。 平面形：撥形 断面形：不整な方形	2.5Y7/1 灰白	—	No. 44 床直	部残
16	石器 編物石	長 14.2 幅 6.9 厚 3.5 重 538.2	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	10YR5/1 褐灰	—	No. 66 1.6	完存
17	石器 編物石	長 16.4 幅 6.0 厚 5.7 重 915.7	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：不整な円形	2.5Y6/3 に近い黄	—	No. 42 0.6	完存
18	石器 編物石	長 15 幅 6.7 厚 4.0 重 568.0	上端部、下端部破面に剥離痕、あるいは敲打痕あり。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	5GY7/1 明オリープ灰	—	No. 82 10.2	完存
19	石器 編物石	長 14.0 幅 6.5 厚 4.6 重 695.5	未加工の自然礫。 平面形：隅丸長方形 断面形：隅丸長方形	7.5Y7/2 灰白	—	No. 85 6.7	完存
20	石器 編物石	長 14.2 幅 5.8 厚 3.8 重 485.0	未加工の自然礫。表面黒色の付着物あり。 平面形：楕円形 断面形：隅丸三角形	7.5Y5/2 灰オリープ	—	No. 24 27.2	完存
21	石器 編物石	長 12.2 幅 5.4 厚 3.8 重 389.7	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	2.5Y6/3 に近い黄	—	No. 41 床直	完存

35～31 cm、深さ 32 cm) は床面から確認。P13 (径 53～27 cm、深さ 33 cm)、P17 (径 36～18 cm、深さ 6 cm) は張床下から確認された旧時期の入口ピットか。貯蔵穴 P5 (長軸 53×短軸 33 cm、深さ 19 cm) は北東コーナーにある。壁溝 南東コーナー付近の床下から一部確認されたが、浅く不明瞭。掘方 壁際を土坑状に掘り込む。20～30 cmの深さをもつ。カマド 北壁中央部やや東寄りの壁をV字形に掘り込む。煙道の立ち上がりは 40° である。袖などには明灰褐色粘土を使用する。燃烧部は焼土粒子を多く含む 13a 層で埋戻される。10 は極めて強く被熱した大型の土師器甕破片。カマド芯材に転用されたものか。遺物 計 21 点を図示した。土師器環・埴・甕・多量の礫・編物石などで、その殆どが覆土上層から中層にかけ出土した。床面直上の土器は 7 の土師器環のみである。不掲載遺物の総量は小コンテナ 1 箱弱。礫の重量は 15 kg と本調査区内で最も多い。1 は混入品か。遺物から古墳時代終末期 (7 世紀後半) の住居跡と考えたい。

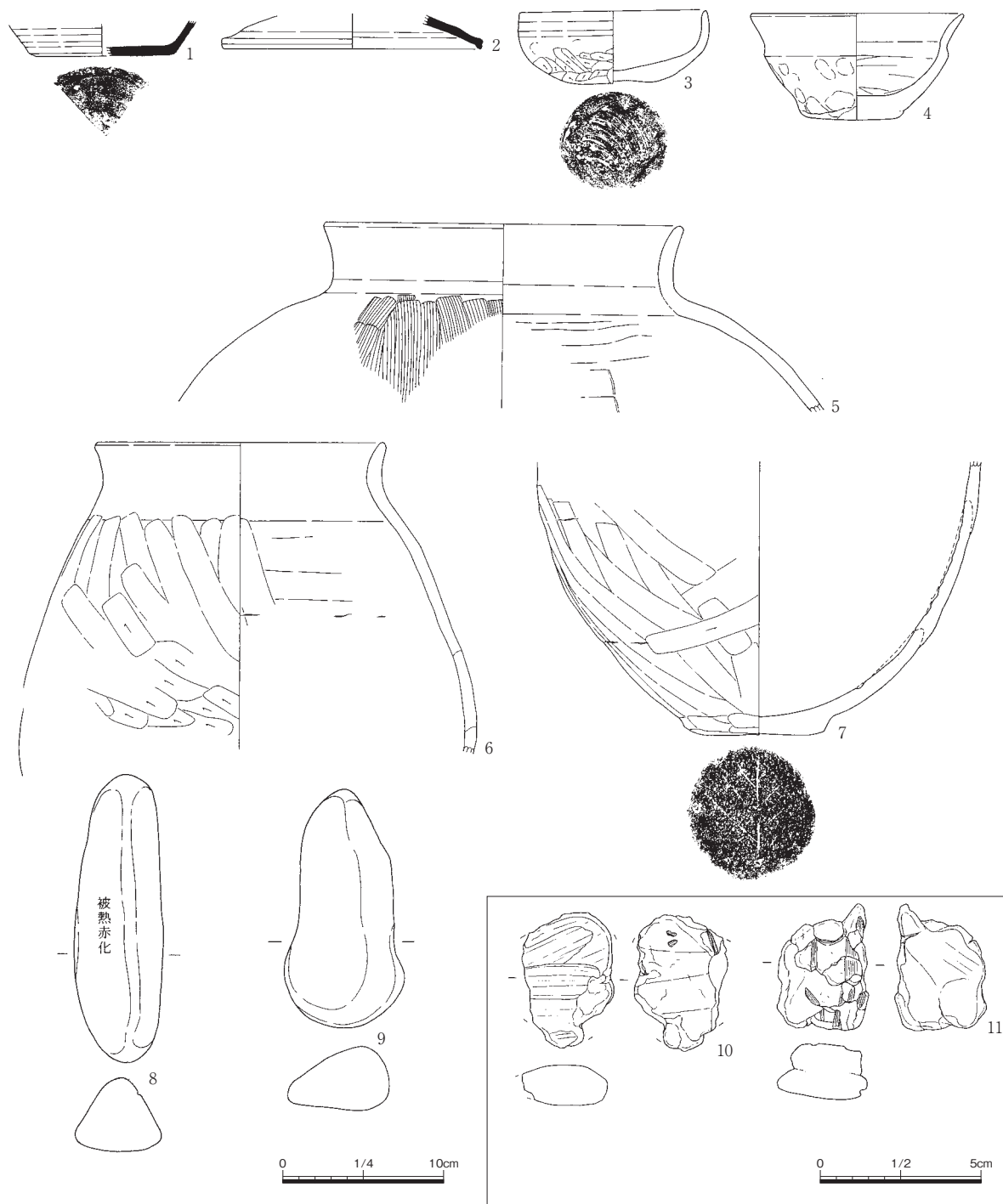
3区 SI-14 (遺構：第 54 図、遺物：第 55 図、図版七・八三)

位置 グリッド 91.5-52.0・91.5-51.5 重複遺構 無し。平面形 隅丸方形 規模 東西 4.98×南北 4.59 m 主軸方向 N -3.5° -W 覆土 自然堆積 壁 壁高 42～53 cm 床 やや細かな凹凸を有する。柱

穴 P1 (径 60 ~ 54 cm、深さ 59 cm)、P2 (径 50 ~ 27 cm、深さ 59 cm)、P3 (径 40 cm、深さ 55 cm)、P4 (径 42 cm、深さ 62 cm)。 入口ピット P6 (径 31 ~ 27 cm、深さ 15 cm) 貯蔵穴 P5 (長軸 89 × 短軸 62 cm、深さ 45 cm)。 壁溝 D1 (幅 20 ~ 38 cm、深さ 4 ~ 8 cm)、はカマドを除く建物跡壁際を巡る。 カマド 北壁中央部を裾の広がる山形に掘り込む。煙道は垂直に立ち上がった後、くの字に傾斜する。 遺物 須恵器 器 杯・蓋類、土師器 杯・甕、編物石などが出土。3・4・6・8が床面直上。3の土師器 杯は底部外面に静止糸切りがみられる。不掲載遺物は小コンテナ約 1/2 箱で、礫の総重量は 3.2 kg である。遺物から古墳時代終末期の建物跡と考えられる。



第 54 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-14 実測図



第55図 西刑部西原遺跡3区 SI-14 出土遺物

第15表 3区 SI-14 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 環	底 (8.0) 高 [2.0]	ロクロナデ。体部外面下端回転ヘラケズリ。底部外面回転ヘラ切りのち周辺回転ヘラケズリ。混入品。	内外面とも 5Y5/1 灰	緻密、白細砂、白色粒や や多量、黒色粒少量 焼成：硬質	No.18 25.9	底部 1/5 体 部一部
2	須恵器 蓋	口 (15.8) 高 [2.0]	ロクロナデ。口縁端部に明瞭な沈線あり。混入品。	内外面とも 5B4/1 暗青灰	緻密、白細砂 焼成：硬質	No.26 30.3	口縁部 1/8
3	土師器 環	口 11.3 底 6.0~6.5 高 4.5	口縁部外面～内面全面ヨコナデ。体部外面上半ナデ・指頭押圧。下半部ヘラケズリ。底部外面静止糸切りのち底面周辺部ヘラケズリ。内外面ほぼ全面に漆仕上げ。	内外面とも 7.5Y6/ 橙	やや緻密、細砂、白色粒、 赤色粒、赤礫 焼成：やや軟質	No.49 床直	口縁部一 部欠損
4	土師器 塊	口 13.2 底 5.8~6.4 高 6.6	口縁部外面内面全面及びヨコナデ。底部内面ヘラナデ。体部外面指頭押圧・ユビナデ。底部外面無調整。	内：10YR7/6 明黄褐 外：10YR8/4 浅黄橙	粗い、白・透明・灰粗砂 ～礫、黒色粒 焼成：やや軟質	No.50 床直	口縁部 1/2、 底部完存、 胴部 3/4
5	土師器 ハケ調整 甕	口 (22.0) 高 [11.3]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテハケ目。胴部内面横方向のヘラナデ。大型の甕。胴部最大径 40 cm以上。	内：7.5Y2/1 黒 外：10YR6/4 にぶい黄橙	やや粗い、砂粒・白色粒 やや多量、石英粒微量、 白色針状物微量 焼成：やや軟質	No.40・59・ 61・62 2.8 (No.40)	口縁部 1/4、胴部 上半 1/10
6	土師器 甕	口(16.5~17.6) 高 [18.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半部ナメヘラケズリのちタテヘラナデ。外面下半部は斜位のケズリまたは斜位のナデか。内面横位のヘラナデ。側面の約 50%に赤変か所が認められる。	内：10YR6/6 明黄褐 外：7.5YR6/6 橙	やや粗い、白礫、砂礫少 量、長石粒、石英粒 焼成：軟質	No.48・52・ 68・71・73 床直 (No.52・ 68・71・73)	口縁部～胴 部 2/3
7	土師器 甕	径 27.6 底 8.7 高 [17.0]	内面剥落顕著で調整不明。胴部外面ヘラケズリのちナメヘラナデ。輪積み休止痕ヘラケズリで成形。下部ヘラナデ。外面ほぼ全面にスス付着。一部に炭化物付着。	内：5YR6/8 橙 外：5YR6/6 橙	やや緻密、白・灰・黒細砂、 灰・黒砂、白色粒、灰色 粒、赤色粒 焼成：やや硬質	No.72 24.0	胴下半部 2/3、底部 完存
8	石器 編物石	長 17.8 幅 5.4 厚 4.4 重 552.0	未加工の自然礫。表面を中心に被熱赤化。 平面形：棒状 断面形：隅丸三角形	10YR6/4 にぶい黄橙	—	No.33 床直	完存
9	石器 編物石	長 14.5 幅 6.4 厚 3.9 重 534.0	未加工の自然礫。 平面形：撥形 断面形：隅丸三角形	2.5Y6/2 灰黄	—	No.56 4.4	完存
10	焼成粘 土塊	長 4.2 幅 [2.7] 厚 1.3 重 10.2	表面ナデ。裏面僅かなワラ圧痕。比較的良質な粘土を素材とする。両側縁は折損したと考えられる。表面・裏面ともレンズ状に丸みをもつ。	5YR7/6 橙	やや粗い、赤色粒、小砂 粒、ワラ 焼成：軟質	覆土中	一部欠損
11	焼成粘 土塊	長 3.8 幅 2.7 厚 1.7 重 10.6	表面・側面にワラ圧痕多い。裏面ナデか。胎土は混入物が多いためか軽い。	10YR8/4 浅黄橙	粗い、赤色粒、白色粒、 砂粒、ワラ 焼成：軟質	覆土中	一部欠損か

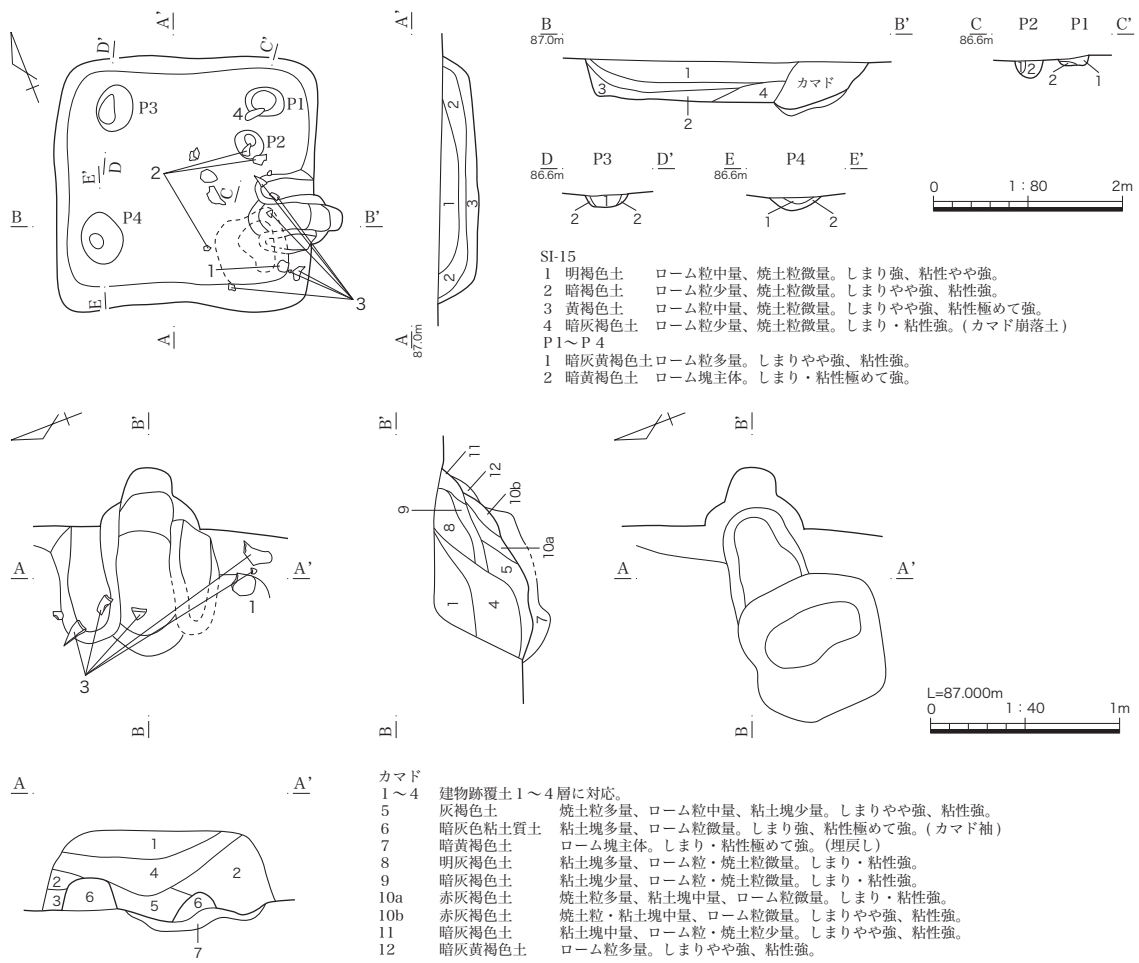
3区 SI-15 (遺構：第56図、遺物：第57図、図版七)

位置 グリッド 91.5-51.5 重複遺構 無し。 平面形 隅丸正方形 規模 一辺 2.8 m 主軸方向 N -110.5° - E 覆土 自然堆積か。 壁 壁高 26～42 cm、北部がやや浅い。 床 細かな凹凸多いが概ね平坦。 柱穴・入口ピット・貯蔵穴 未確認。 P1 (径 40～29 cm、深さ 9 cm)、P2 (径 30 cm、深さ 18 cm)、P3 (径 47～38 cm、深さ 12 cm)、P4 (径 54～43 cm、深さ 12 cm) は掘り込みも浅く床下掘方の可能性もある。

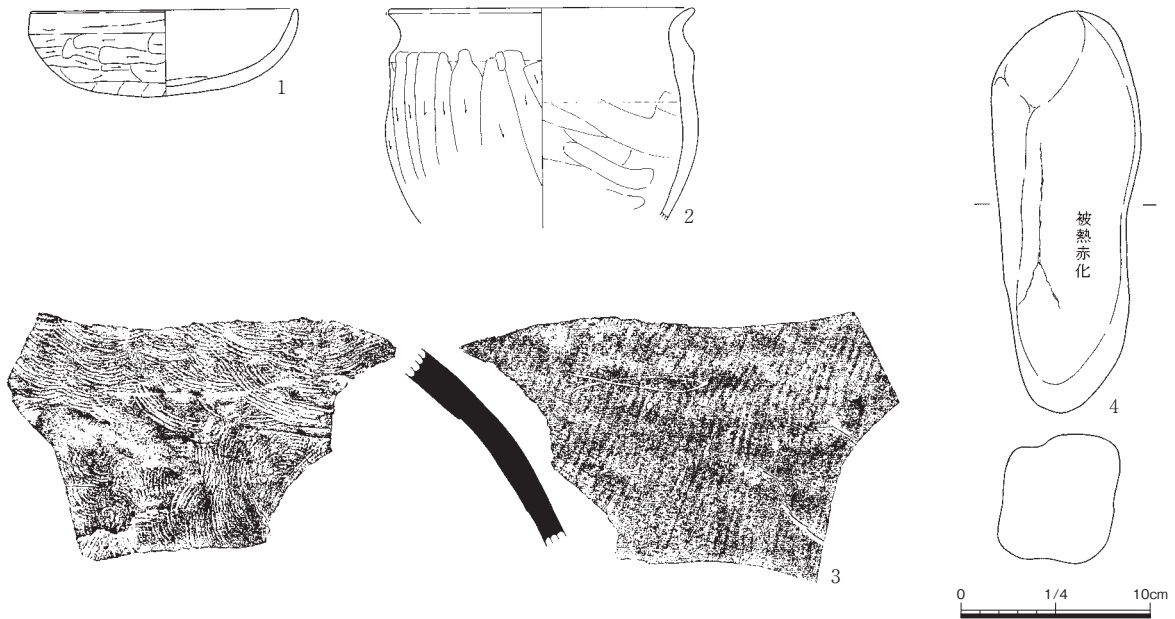
壁溝・掘方 未確認。 カマド 東壁中央部やや南寄りを凸字状に掘り込む。煙道の立ち上がりは約 50°。火床面は浅く掘り込み、ローム土で埋戻している。袖は灰色粘土主体。 遺物 土師器環・甕類、須恵器甕、編物石などが覆土中より出土。3の須恵器甕胴部には焼成前のヘラ描きが認められる。床面直上遺物はない。不掲載遺物は土師器小破片主体で、小コンテナ箱 1/3 程度。礫の重量は 3.0 kg。古墳時代終末期の建物跡か。

第16表 3区 SI-15 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 環	口 13.7~14.6 高 4.6	内面全面及び口縁部外面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。底部外面ヘラケズリのちナデ。口縁部内外面及び体部上半一部に漆残る。口縁部歪み大。	内：5YR6/6 橙 外：5YR7/8 橙	やや緻密、白礫、微砂粒、 白色粒、赤色粒 焼成：やや硬質	No.15 8.6	口縁部～体 部 3/4
2	土師器 甕	口 (15.9) 高 [11.3]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ナメヘラナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部上半一部に黒斑及び僅かな赤変がみられる。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	やや緻密、白・灰細砂 焼成：やや硬質	No.2・3・14 5.4 (No.14)	口縁部 1/3、胴部 上半 1/2
3	須恵器 甕	厚 [12.0]	内面目の細かい同心円状あて具痕。外面平行叩きのちナデ。外面に焼成前のヘラ描きあるが浅く不明瞭。	内：10Y5/1 灰 外：N4/0 灰	緻密、白細砂 焼成：硬質	No.4・5・6・ 9・10・13 5.4 (No.13)	肩部破片
4	石器 編物石	長 21.2 幅 6.7 厚 6.8 重 1670.1	被熱による赤化部分が多い。 平面形：棒状 断面形：隅丸方形	2.5YR4/8 赤褐	—	No.1 33.3	完存



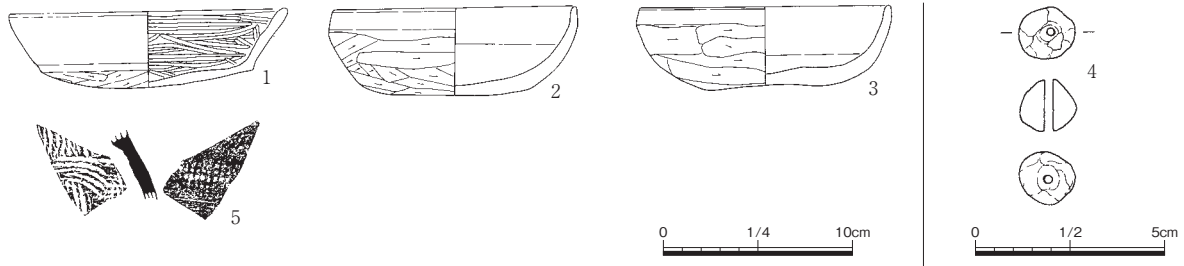
第56図 西刑部西原遺跡3区 SI-15 実測図



第57図 西刑部西原遺跡3区 SI-15 出土遺物

3区 SI-16 (遺構：第59図、遺物：第58図、図版七・八・八三・八四)

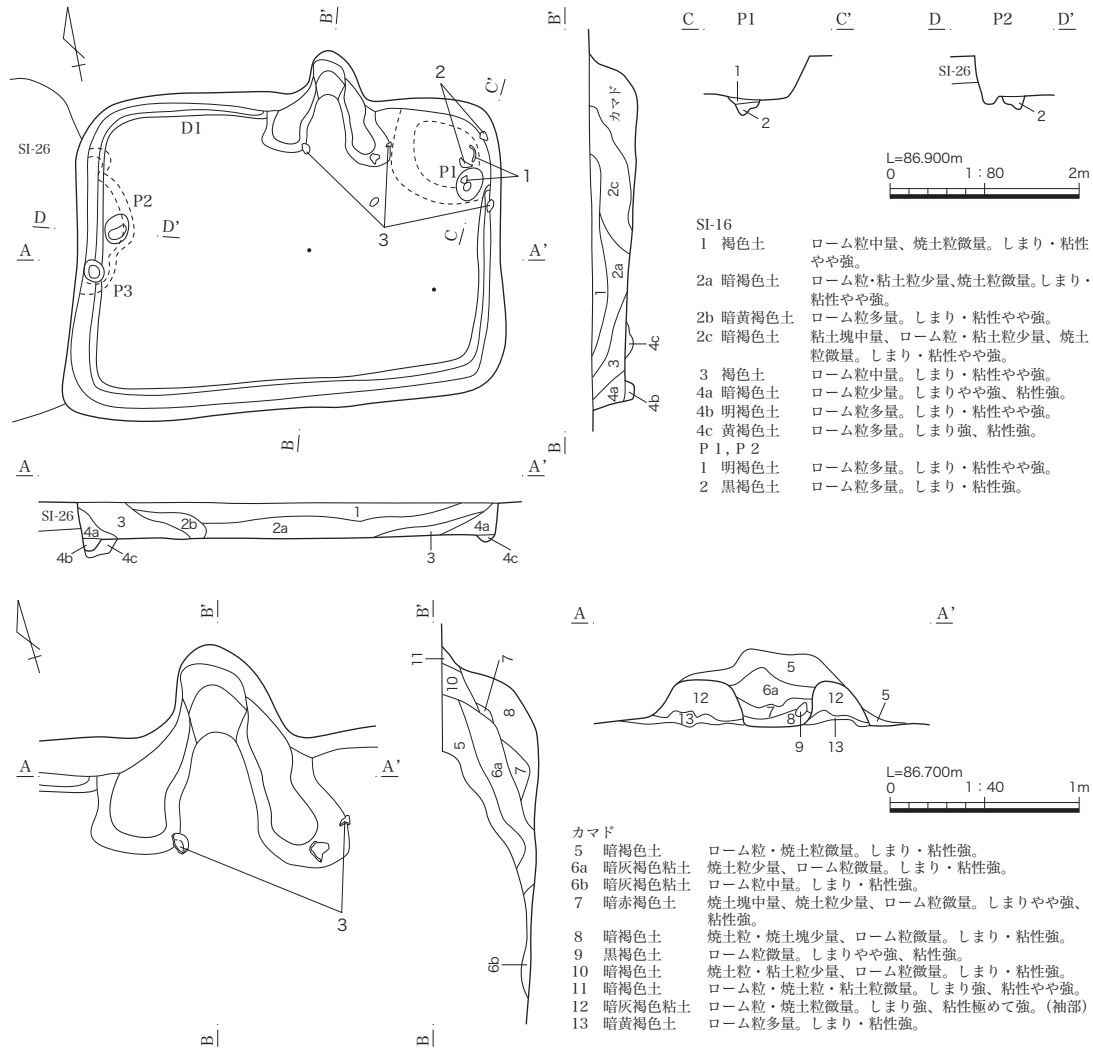
位置 グリッド 90.50-51.0 重複遺構 古墳時代終末期の住居跡 SI-26 より新しい。 平面形 隅丸長方形
 規模 東西 4.5× 南北 3.4 m 主軸方向 N -12° - E 覆土 褐色土及び暗褐色土主体の自然堆積と考えられる。 壁 壁高 33～46 cm 床 ローム面を地山としほぼ平坦。硬化面は未確認。 柱穴・入口ピット・貯蔵穴 確認できなかった。 ピット P1 (径 36～26 cm、深さ 16 cm)、P2 (径 33～25 cm、深さ 14 cm)。P3があるが、柱穴かどうかは不明瞭。 壁溝 D1 (幅 18～22 cm、深さ 5 cm) は北東コーナーを除き壁際に掘られる。 掘方 北東隅に深さ 15 cmほどの浅い掘り込みあり。 カマド 北壁中央部やや東寄りに作られる。煙道部はやや不整なU字状に掘り込み、立ち上がりの角度は 73° である。ローム地山を火床面とし、焼土の量はやや少ない。遺物はカマド床面から3の土師器杯が出土する。 遺物 覆土中から土師器杯・甕類を中心に少量が出土、うち5点を図示した。1は床面直上出土の土師器杯。外反口縁で、内面は入念なヘラミガキのち黒色処理を施している。4は漆仕上げの土玉である。不掲載遺物は土師器杯・甕類を中心に小コンテナ箱 2/5 程度、礫は 300g である。奈良時代前葉 (8世紀前葉) の建物跡か。



第58図 西刑部西原遺跡3区 SI-16 出土遺物

第17表 3区 SI-16 出土遺物観察表

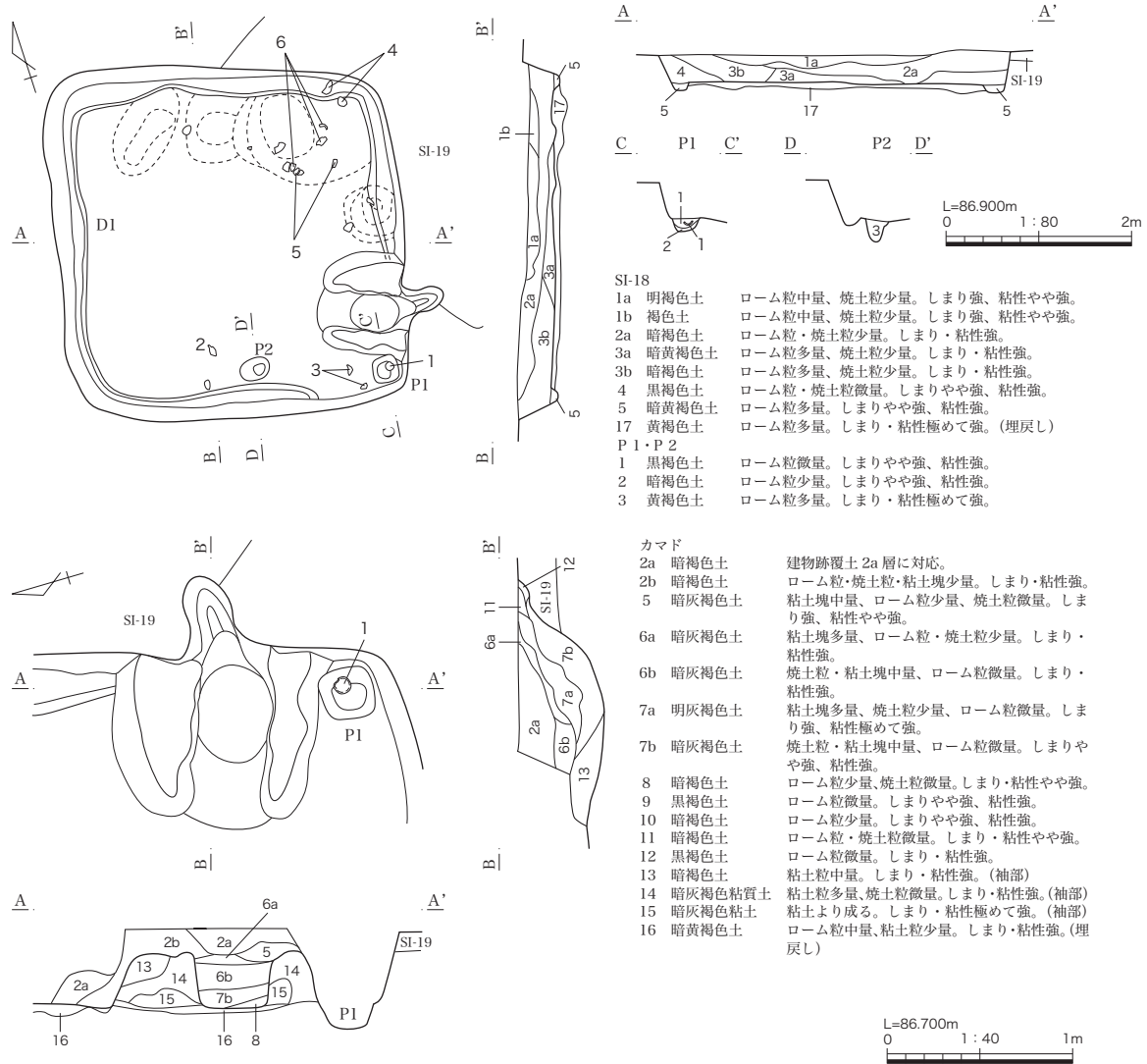
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	土師器杯	口 14.3 高 4.0	口縁部外面ヨコナデ。内面ヘラミガキのち黒色処理。体部外面ヘラケズリ。	内外面とも 10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、白・灰細砂、白・黒砂 焼成：やや硬質	No. 3 床直	ほぼ完存
2	土師器杯	口 12.8 高 4.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。平底に近い。	内外面とも 10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、白・黒細砂、赤粒、黒砂 焼成：やや硬質	No. 4・6 4.5 (No. 4)	ほぼ完存
3	土師器杯	口 13.0 高 4.2	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面～底部外面ヘラケズリ。体部～底部内面ヘラナデか。	内：10YR5/3 にぶい黄褐色 外：7.5YR7/6 橙	やや緻密、赤粒 焼成：やや硬質	No. 7・カマド No. 9・カマド No. 10 床直	ほぼ完存
4	土製品土玉	径 1.5 厚 1.4 孔 0.2～0.25 重 1.9	不整な球状を呈する土製玉。器面はヘラナデ整形のち漆仕上げ。孔径は 2.0～2.5 mm、ほぼ円形で裏面から刺突する。	2.5Y5/1 黄灰	やや緻密、白細砂 焼成：やや軟質	北側表探	完存
5	須恵器甕	高 [3.7] 厚 1.0	内面同心円状あて具痕。外面格子叩き。カキ目あり。混入品か。	内：7.5Y5/1 灰 外：7.5Y4/1 灰	緻密、白細砂 焼成：硬質	覆土中	胴部破片



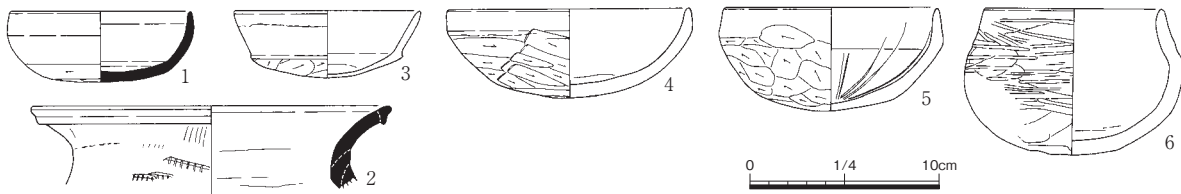
第59図 西刑部西原遺跡3区 SI-16 実測図

3区 SI-18 (遺構：第60図、遺物：第61図、図版八・八四)

位置 グリッド 90.0-51.0・89.5-51.0 重複遺構 古墳時代終末期のSI-19より新しい。平面形 隅丸方形 規模 一辺約3.7m 主軸方向 N-114°-E 覆土 自然堆積 壁 壁高は30~40cm残存。床 全面貼床で概ね平坦。ピット P2(径32~23cm、深さ24cm)は入口ピットか。貯蔵穴 P1(一辺27cm、深さ13cm)。覆土中から1の須恵器坏出土。壁溝 D1(幅10~23cm、深さ5cm)は南壁東部を除き壁際を巡る。掘方 北壁際を中心に深さ10cm前後の土坑状の掘り込みあり。カマド 東壁の南東コーナー付近に位置し、煙道をU字状に掘り込む。袖は灰褐色粘土で構築する。遺物 5・6は床面直上出土。不掲載遺物は小コンテナ1/3程度と少ない。古墳時代終末期の建物跡と考えたい。



第 60 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-18 実測図



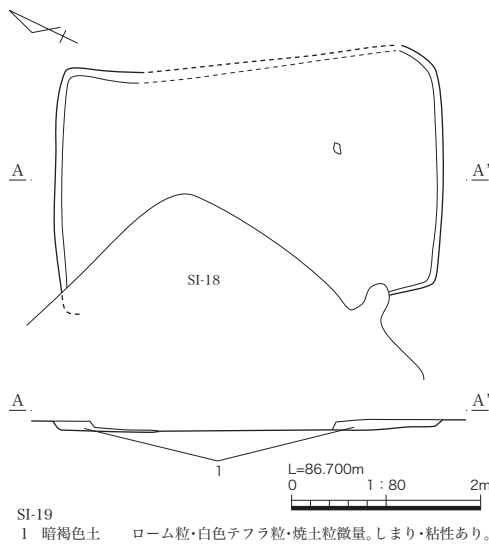
第 61 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-18 出土遺物

第18表 3区 SI-18 出土遺物観察表

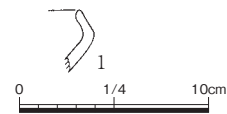
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 環	口 9.4 高 3.7	内外面ロクロナデ。体部外面下端～底部外面回転ヘラケズリ。	内：2.5Y7/2 灰黄 外：2.5Y7/1 灰白	やや緻密、細砂粒、灰白礫、白色粒 焼成：やや硬質	No.14 89.1	口縁部一部 欠損
2	須恵器 甕	口 (18.4) 高 [4.4]	口縁部～頸部ロクロナデ。頸部はタテカキ目のちヨコナデ。深い平行叩きの一部が見られる。頸部内面の接合痕明瞭。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：10YR6/1 褐灰	やや緻密、白・灰細砂、白・黒砂、灰礫 焼成：やや硬質	No.11 16.4	口縁部 1/6
3	土師器 環	口 9.6 高 3.5	口縁部外面及び内面全面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。内面全面及び口縁部外面漆仕上げ。	内外面とも 7.5YR8/4 浅黄橙	緻密、細砂粒、赤色粒 焼成：やや軟質	No.8・9 4.0 (No.8)	ほぼ完存
4	土師器 環	口 12.6 高 4.6	口縁部外面及び内面全面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。底部内面ナデ。口縁部内外面及び体部一部漆仕上げ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	緻密、微砂粒、赤色粒 焼成：やや軟質	No.5・6 5.1 (No.6)	完存
5	土師器 環	口 11.2 高 5.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面～底部内面ナデ。体部外面～底部外面ヘラケズリ。内面には焼成前の放射状の沈線あり。口縁部外面の一部に漆残る。	内外面とも 7.5YR8/4 浅黄橙	やや緻密、灰砂、赤色粒 焼成：やや硬質	No.2・15・16 床直 (No.15)	口縁部 2/3
6	土師器 鉢	口 (9.2) 底 11.5 高 7.7	内面全面ヨコナデ。口縁部外面ヨコナデのちナナメヘラミガキ。体部外面ヨコヘラケズリのちヨコヘラミガキ。内面全面及び体部上半漆仕上げ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・灰・黒細砂、黒砂、赤色粒 焼成：やや硬質	No.2～4 床直 (No.3・4)	口縁部 1/4

3区 SI-19 (遺構：第62図、遺物：第63図)

位置 グリッド 90.0-51.0・89.5-51.0 重複遺構 古墳時代終末期の建物跡 SI-18 に切られる。平面形不整な隅丸長方形 規模 東西 2.5×南北 4.1 m 主軸方向 N-26° -W 覆土 暗褐色土 1層からなる。自然堆積か。壁 壁高 6～10 cm 床 概ね平坦で貼床無し。硬化面は未確認。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝・カマド・掘方 確認できなかった。遺物 在地産土師器甕の胴部破片や環破片が少量出土。図示可能な1点を掲載した。不掲載遺物の総量は小コンテナ箱 1/3 程度、礫 0.6 kg である。遺物から古墳時代後期～終末期の建物跡と考えられるが、柱痕なども見られず、不明瞭な点も多い。



第62図 西刑部西原遺跡3区 SI-19 実測図



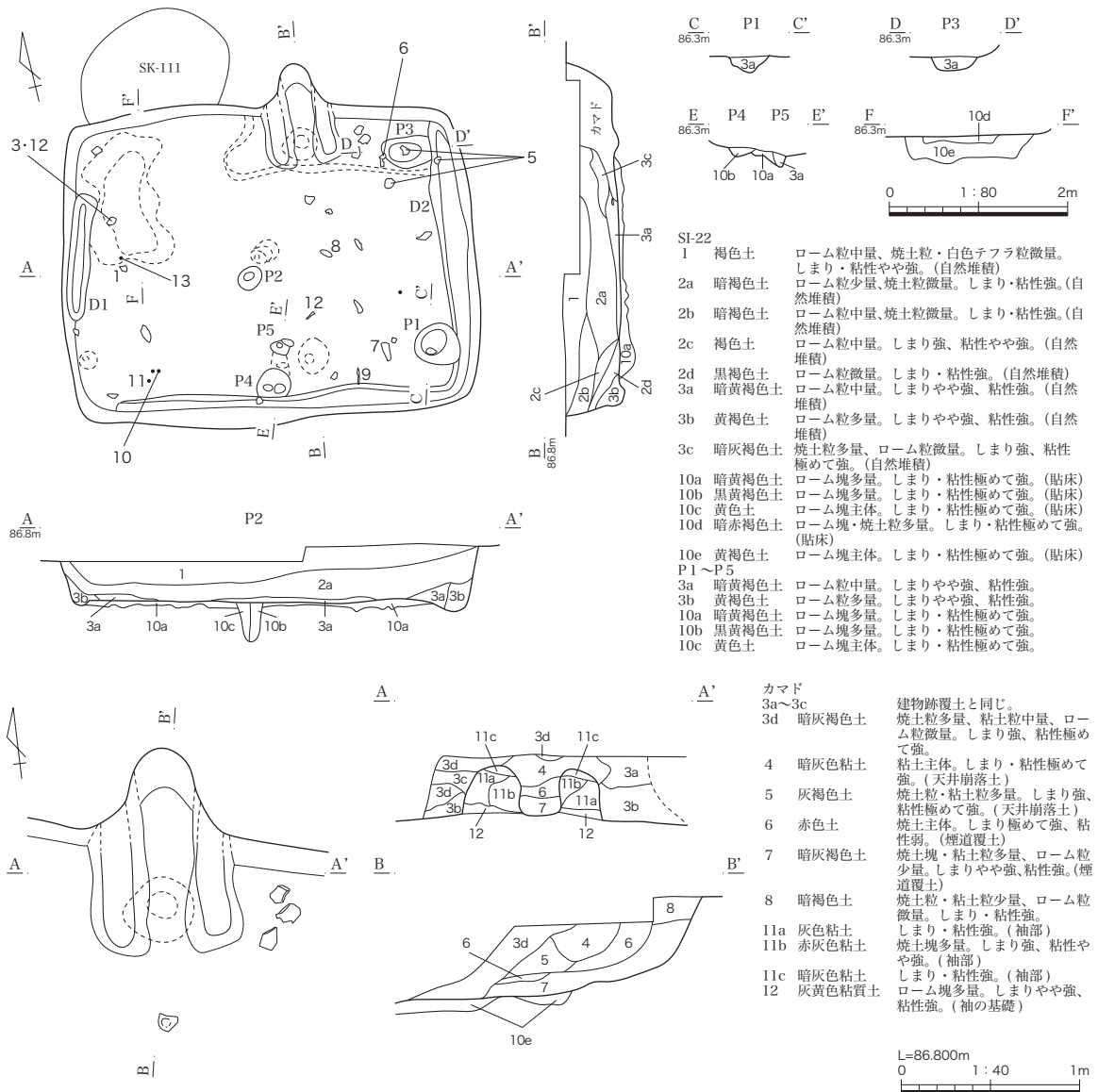
第63図 西刑部西原遺跡3区 SI-19 出土遺物

第19表 3区 SI-19 出土遺物観察表

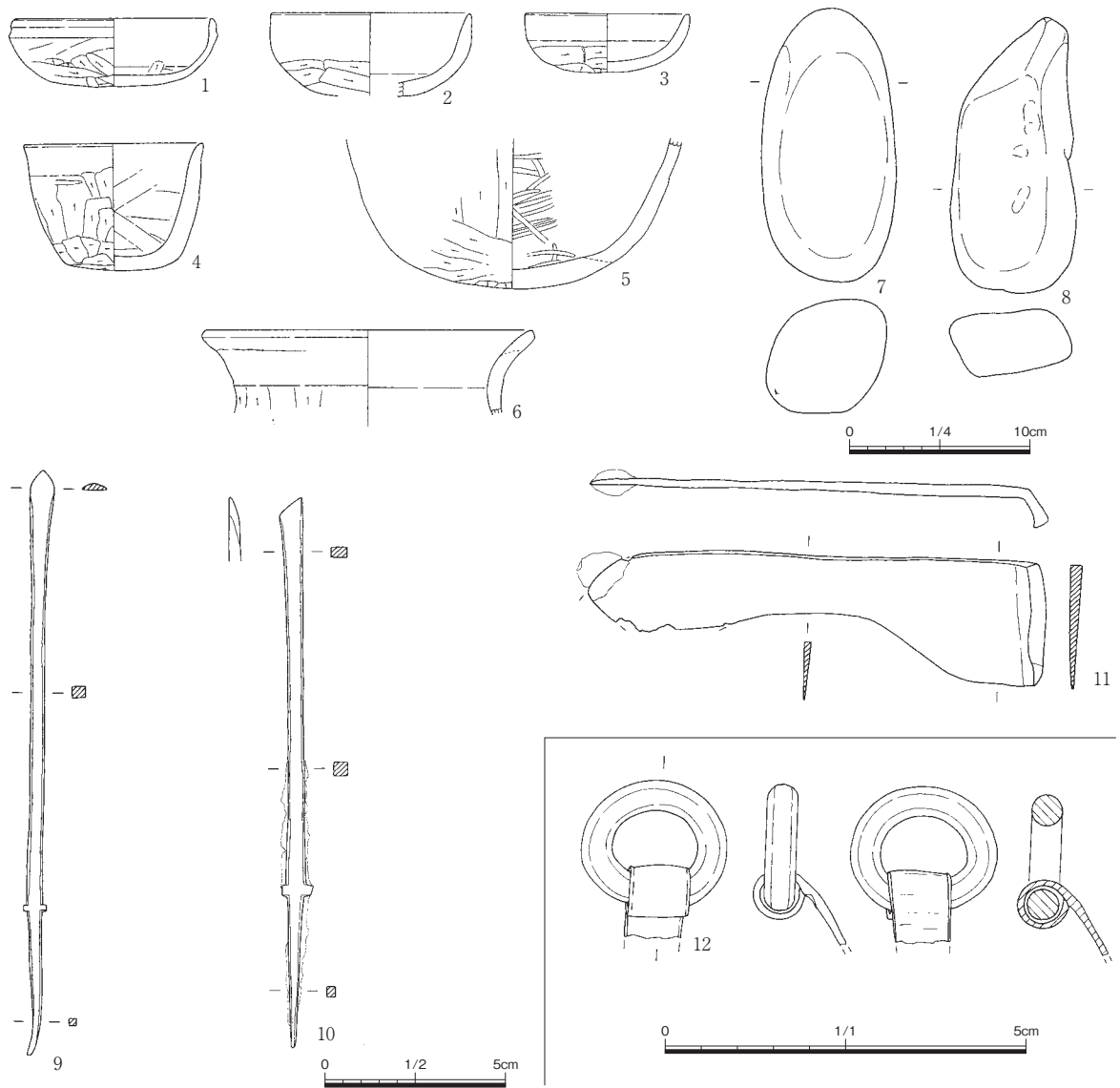
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 環	高 1.7	口縁部内外面ヨコナデの漆仕上げ。体部外面ヘラケズリ。	内：7.5YR6/6 橙 外：7.5YR7/6 橙	やや緻密、透明・白・灰・黒細砂～粗砂、赤色粒 焼成：軟質	覆土中	口縁部破片

3区 SI-22 (遺構：第64図、遺物：第65図、図版八・九・一一二・一一三・一一五)

位置 グリッド 89.5-51.0・89.5-51.5・90.0-51.0・90.0-51.5 重複遺構 SK-111 より新しい。平面形 隅丸長方形 規模 東西 4.60×南北 3.65 m 主軸方向 N-12° - E 覆土 自然堆積 壁 壁高は 41～68 cm。床 ほぼ全面が貼床で、若干の凹凸あり。硬化面は未確認。ピット P1 (径 48 cm、深さ 15 cm)、P2 (径 26 cm、深さ 42 cm) があるが、柱穴かは不明。入口ピット P4 (径 37～32 cm以上、深さ 11 cm)、P5 (径 21～16 cm、深さ 15 cm)。貯蔵穴 P3 (長軸 54×短軸 34 cm、深さ 26 cm) 壁溝 D1 (幅 21～25 cm、深さ 12 cm)、D2 (幅 27～38 cm、深さ 5 cm)。掘方 全体に小さな凹凸あり。北西部に土坑状の掘り込みあり。カマド 北壁中央部をU字状に掘り込む。煙道の立ち上がりは 65°。焼土が多く、長期間使用されたものか。遺物 土師器・甕類の他、金属製品が多い。9・10 はほぼ完形の鉄鏃。12 は銀付足金物である。環部は胴地銀張、脚部は銀製で、先端部を欠損している。いずれも床面付近から出土した。不掲載土器の総量は小コンテナ箱 1/3、礫重量は 1.6 kg。古墳時代終末期の住居跡としたい。



第64図 西刑部西原遺跡3区 SI-22 実測図



第 65 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-22 出土遺物

第 20 表 3 区 SI-22 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	土師器 環	口 (11.0) 高 3.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、下半部～底部外面ヘラケズリ。内面全面及び口縁部外面漆仕上げ。	内：5YR5/6 明赤褐 外：7.5YR4/4 褐	やや緻密、灰砂 焼成：やや硬質	№32 6.2	口縁部～底部 1/5
2	土師器 環	口 (10.8) 高 [4.5]	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部内面ナデ。体部外面ヨコヘラケズリ。底部外面一方向ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。胴部～底部外面磨減が顕著。	内：2.5Y8/4 浅黄橙 外：2.5Y7/3 浅黄	やや緻密、白・黒・灰・透明粗砂 焼成：やや軟質	覆土中	口縁部～底部 2/5
3	土師器 環	口 9.0 高 3.2	口縁部内外面ヨコナデ。底部～体部内面ナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。磨減し不明瞭だが、漆仕上げか。	内：10YR7/4 にぶい黄褐 外：7.5YR8/3 浅黄橙	やや緻密、黒細砂、赤粒 焼成：やや軟質	№2 3.6	口縁部～底部 2/3
4	土師器 小型鉢	口 [11.8] 高 7.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部内面ナデ。体部外面タテヘラケズリ後下端部ヨコヘラケズリ。底部外面多方向ヘラケズリ。	内：2.5Y6/2 灰黄 外：2.5Y6/3 にぶい黄	やや緻密、白・黒・灰・透明粗砂 焼成：やや軟質	覆土中	口縁部一部、底部完存
5	土師器 鉢	高 [8.3]	底部～体部内面雑なヘラナデのちヘラミガキ。体部外面タテヘラケズリのち体部下端ヨコヘラケズリ。底部外面一方向ヘラケズリ。内面一部に漆痕跡あり。	内：10YR6/3 にぶい黄褐 外：10YR7/4 にぶい黄褐	やや緻密、白細砂、赤粒 焼成：やや軟質	№7・8・9 床直(№8)	底部ほぼ完存、体部下 1/4
6	土師器 甕	口 18.0 高 (4.6)	口縁部内外面ヨコナデ、外面に接合痕顕著。胴部外面ヘラケズリのちナデ。口縁端部は平坦でやや外削ぎ状。	内：5YR4/4 にぶい赤褐 外：7.5YR3/2 黒褐	やや緻密、白砂、雲母片 焼成：やや硬質	№6 床直	口縁部 1/4

第3章 発見された遺構と遺物

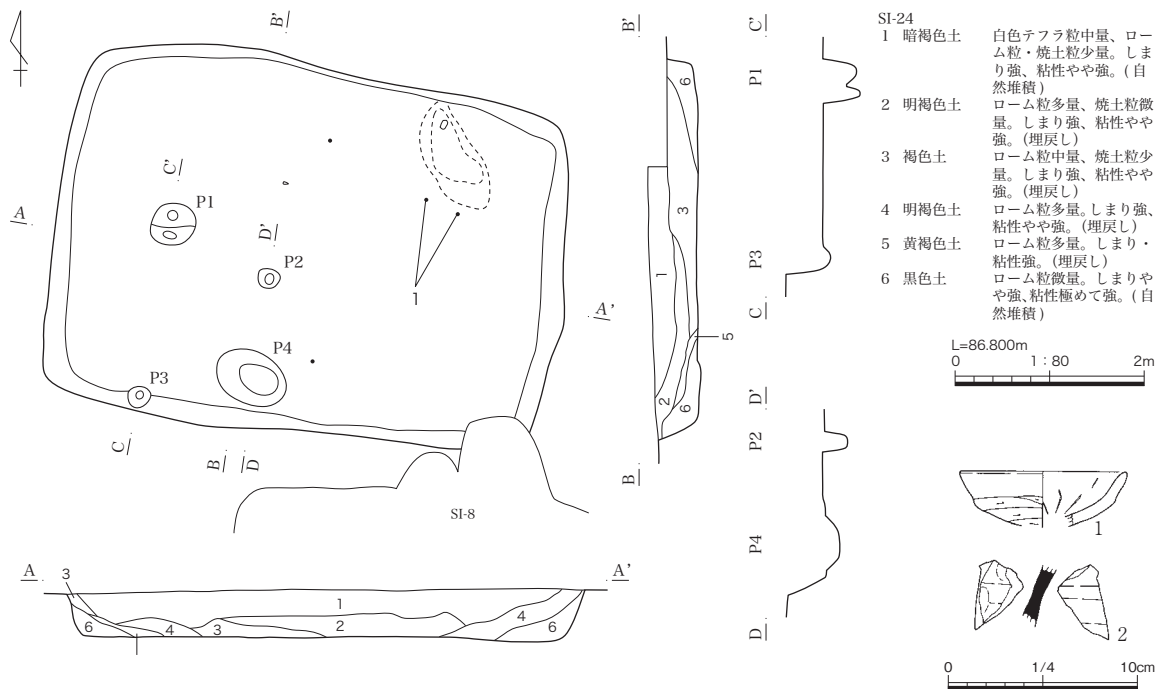
7	石器 編物石	長 14.9 幅 6.5 厚 6.3 重 882.6	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：不整な卵形	2.5Y7/4 浅黄	—	No.13 3.4	完存
8	石器 編物石	長 14.1 幅 5.5 厚 3.7 重 421.1	未加工の自然礫。 平面形：不整形 断面形：不整な隅丸長方形	5Y6/2 灰オリーブ	—	No.28 1.4	完存
9	鉄製品 鉄鏃	長 16.1 重 9.8	鑿箭式の長頭鏃。鏃身は幅 6.5 mm、厚さ 1.8 mm の片丸造り。頸部断面は正方形に近い。棘窪被。	—	鉄製	No.23 1.1	完存
10	鉄製品 鉄鏃	長 15.1 重 11.2	片刃箭式の長頭鏃。鏃身最大幅 6 mm。頸部断面は正方形方形で一辺 4.0 mm ほど。棘窪被。	—	鉄製	No.18・19 床直	完存
11	鉄製品 鎌	長 12.5 幅 3.4 重 29.7	直刃の鎌。刃部は平造り、中央部が大きく抉れるが砥ぎ減りしたものか。棟は角造りで最大幅は 3.2 mm。端部は 1.0 cm ほどの幅で、くの字に折り曲げる。	—	鉄製	No.2 3.6	先端部一部欠損
12	銀製品 刀装具 (鏃付足金物)	長 [2.0] 幅 2.2 厚 0.8 重 [6.3]	鞘口金具の下端部に付した佩用金具。鏃は銅地銀張、長径 2.0 cm、短径推定 1.7 cm の楕円形。材の太さは約 4.0 mm。銀製の舌部は下端部を大きく欠損する。幅 8.0 mm 前後、厚さ 1.0～1.5 mm の帯状材を用いる。丸めた際の接地部を広くするため、端部を斜めに面取りしたものと考える。接着は蝋付けによるものか。	—	銅・銀	No.25 床直	舌端部欠損

3区 SI-24 (遺構・遺物：第66図、図版九・八四)

位置 グリッド 90.0-51.5・90.0-52.0・89.5-51.5・89.5-52.0 重複遺構 平安時代の建物跡 SI-8 より古い。

平面形 隅丸長方形 規模 東西 5.3×南北 4.0 m 主軸方向 N-10° - E 覆土 自然堆積 壁 壁高 38～52 cm 床 ローム地山を床面とし、ほぼ平坦。ピット P1 (径 46 cm、深さ 39 cm)、P2 (径 22 cm、深さ 26 cm)、P3 (径 23 cm、深さ 8 cm)、P4 (径 77～54 cm、深さ 17 cm) は覆土などの情報が無く性格不明。

貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 北東隅付近に深さ 20 cm 弱の掘り込みあり。カマド 確認できなかった。遺物 図示可能な遺物は 2 点のみである。1 は覆土上層から出土した小型の土師器環。2 の須恵器瓶類は混入品か。不掲載遺物は土師器甕類の胴部破片が主で、小コンテナ箱 2/5 ほど。カマドをもたない時期の建物とも思われるが、遺物から古墳時代終末期の建物跡としたい。



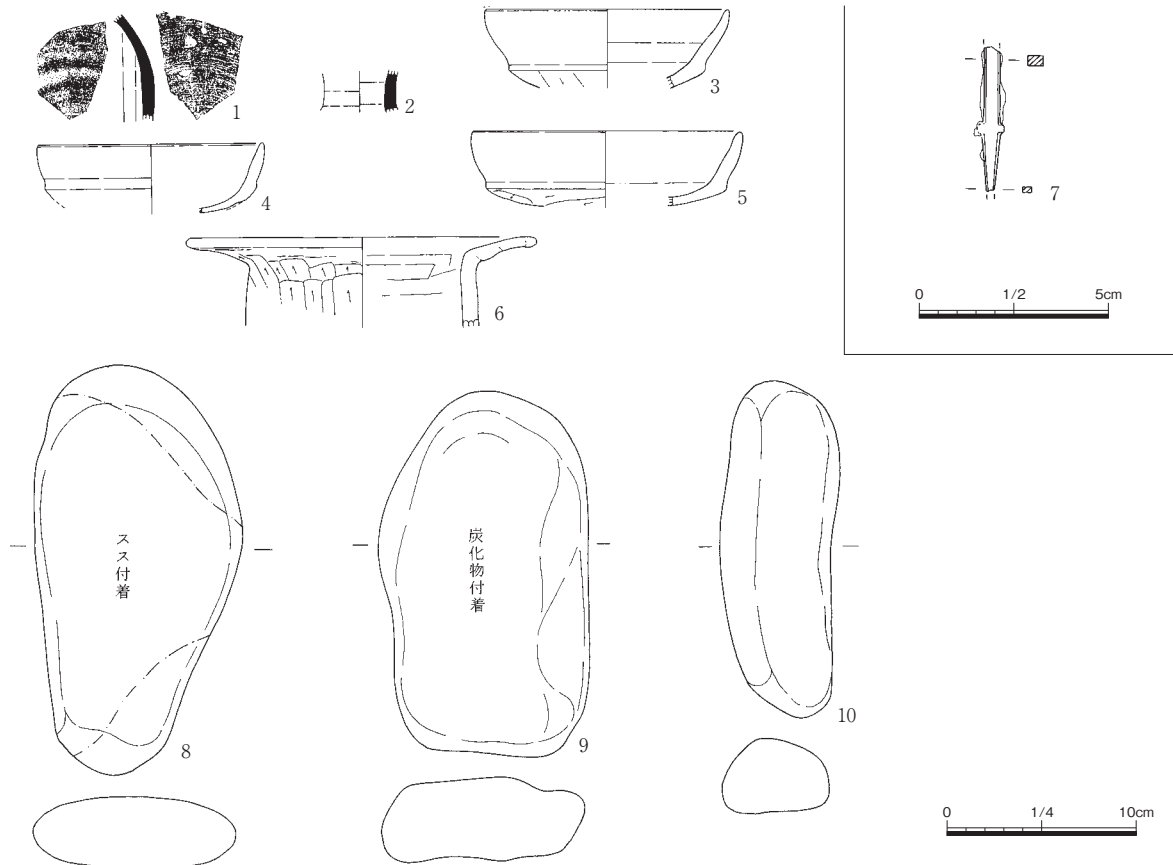
第66図 西刑部西原遺跡3区 SI-24 実測図・出土遺物

第21表 3区 SI-24 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 環	口 8.6 高 [2.8]	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。内外面黒色処理あるいは漆仕上げか。内面に放射状沈線あり。ヘラミガキを模したものか。	内外面とも 2.5GY2/1 黒	やや緻密、白・透明細砂～粗砂 焼成：やや硬質	No.4 44.7	口縁部 3/4、体部 ～底部 1/3
2	須恵器 瓶類	高 [2.9]	内外面ロクロナデ。	内：5Y7/1 灰白 外：5Y7/2 灰	緻密、白・灰細砂 焼成：硬質	覆土中	頸部破片

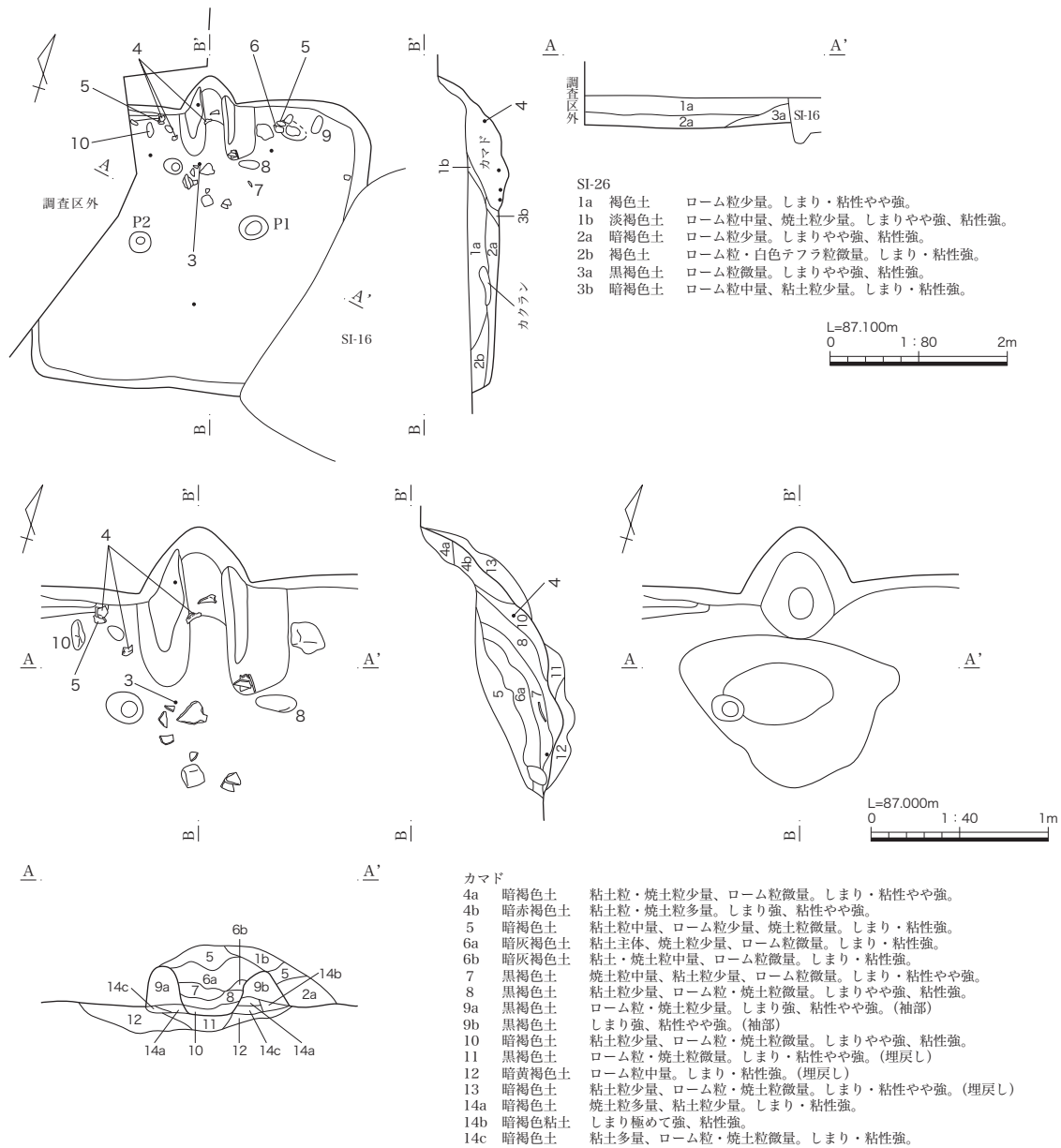
3区 SI-26 (遺構：第68図、遺物：第67図、図版九)

位置 グリッド 90.0-51.0 重複遺構 奈良時代前葉の建物跡 SI-16 より古い。平面形 隅丸方形 規模 東西約 3.9×南北 3.3 m 主軸方向 N-13° -W 覆土 自然堆積 壁 壁高は 19～38 cm 残る。床 概ね平坦。貼床・硬化面・柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。カマド 北壁中央部に位置し、壁を三角形に掘り込む。煙道部に厚く焼土が堆積する。遺物 計 10 点を図示した。3～5 は床面直上から出土した土師器環で、径が小さくミガキが少ない。7 は棘篋被の鉄鏃破片。8・9 は被熱しており、カマド構築材か支脚の可能性もある。1・2 の須恵器類は混入品と考えられる。不掲載遺物の総量は土器類は小コンテナ箱 1/3 程度。礫の重量は 3.2 kg である。遺物から古墳時代終末期（7 世紀後半）の建物跡と考えたい。



第67図 西刑部西原遺跡3区 SI-26 出土遺物

第3章 発見された遺構と遺物



第 68 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-26 実測図

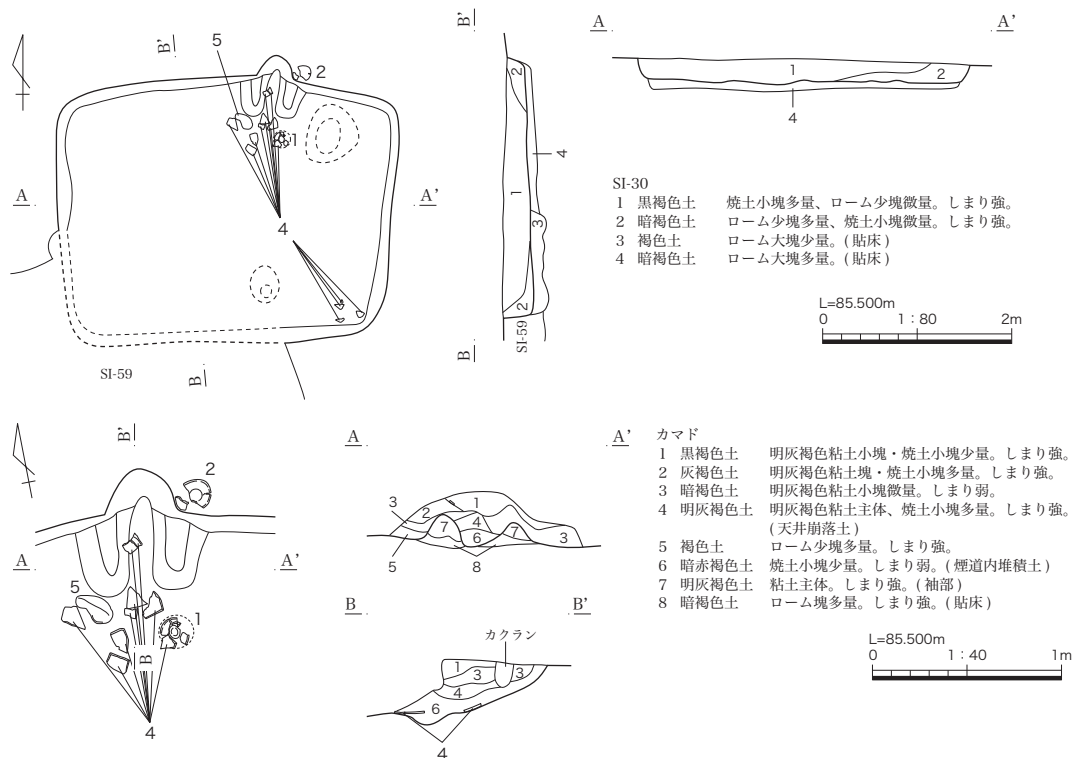
第 22 表 3 区 SI-26 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置・床上 (cm)	残存
1	須恵器横瓶	高 [5.6]	内外面ロクロナデのち外面カキ目。外面にモミ圧痕あり。混入品か。	内：2.5Y8/1 灰白 外：2.5Y5/1 黄灰	緻密、灰細砂 焼成：やや硬質	覆土中	胴部破片
2	須恵器横瓶	高 [2.0]	内面ロクロナデ。混入品か。	内：5Y6/1 灰 外：2.5Y5/1 黄灰	緻密、灰細砂 焼成：硬質	覆土中	頸部 1/3
3	土師器杯	口 (13) 高 [4.2]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。	内：5YR7/6 橙 外：5YR7/8 橙	やや緻密、白・灰・黒細砂～粗砂 焼成：やや軟質	No 17 床直	口縁部～体部 1/3
4	土師器杯	口 12.0 高 [3.7]	口縁部内外面ヨコナデ。内面及び底部外面剥落著しく調整不明。	内：10YR8/4 浅黄橙 外：5YR7/6 橙	やや粗い、黒細砂 焼成：軟質	No 14・25・26 床直	口縁部 2/3
5	土師器杯	口 (14.0) 高 [3.9]	口縁部内外面ヨコナデ。底部内面磨滅著しく不明瞭だがナデか。体部外面ヘラケズリ。	内外面とも 2.5Y8/2 灰白	やや粗い、黒・白・透明細砂～粗砂、赤粒 焼成：やや軟質	No 3・31 床直	口縁部～体部 1/3

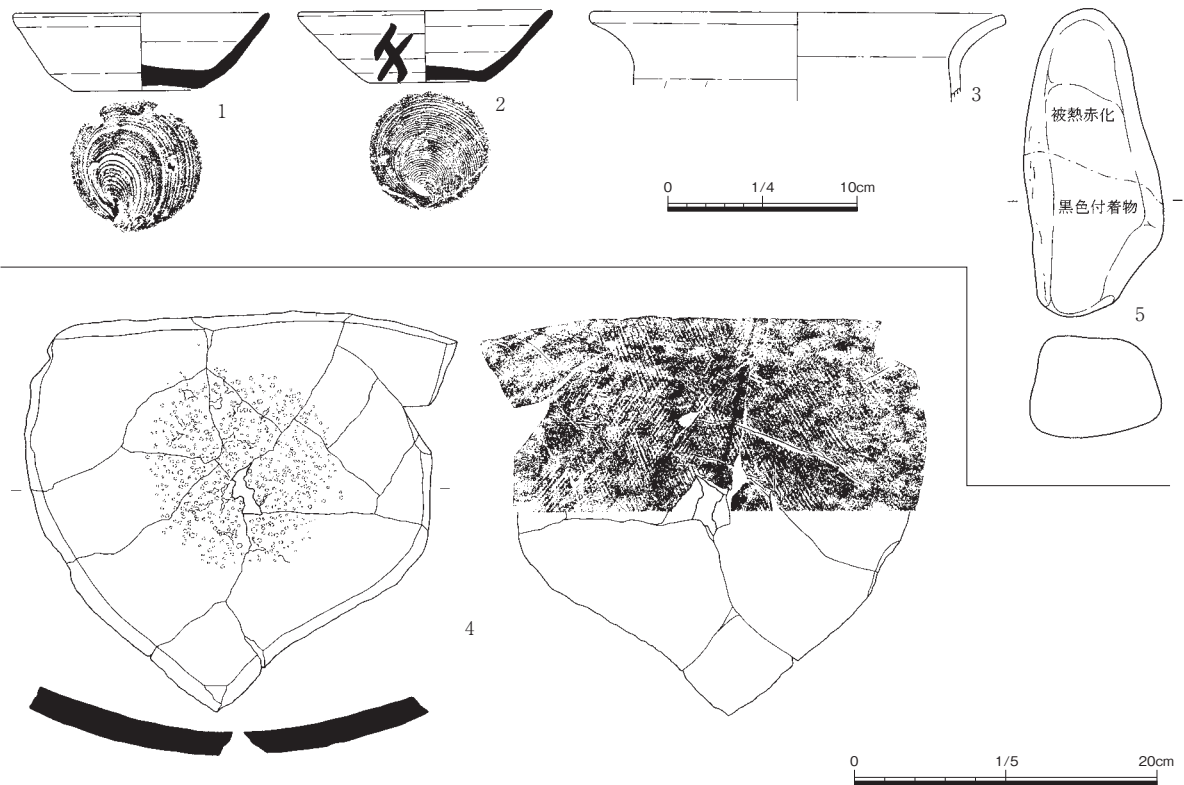
6	土師器 甕	口高 [18.4] [4.7]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。	内：7.5YR6/6 橙 外：10YR6/4 にぶい橙	やや粗い、黒・白細砂、黒・灰砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.2 1.5	口縁部 1/4
7	鉄製品 鉄鏃	長幅重 [3.8] 0.7 [2.1]	長頸鏃の破片。頸部断面形は長方形で、幅 4.0 mm、厚さ 3.0 mm。筈被幅 7.0 mm。	—	鉄製	No.1 28.0	鏃身・茎先端部欠損
8	石器 編物石	長幅厚重 16.4 11.1 3.8 1180.4	未加工の自然礫。表面に付着物（ススカ）あり。 平面形：不整な楕円形 断面形：不整な楕円形	10YR5/3 にぶい黄褐	—	No.21 床直	完存
9	石器 編物石	長幅厚重 19.5 10.8 4.5 1525.6	未加工の自然礫。表面に炭化物付着。 平面形：不整な長方形 断面形：不整な楕円形	7.5YR5/1 褐灰	—	No.5 床直	完存
10	石器 編物石	長幅厚重 17.7 5.7 3.9 635.9	未加工の自然礫。 平面形：棒状 断面形：不整な隅丸方形	10YR5/1 褐灰	—	No.24 床直	完存

3区 SI-30 (遺構：第 69 図、遺物：第 70 図、図版一〇・八四)

位置 グリッド 89.0-46.5 重複遺構 古墳時代終末期の建物跡 SI-59 より新しい。 平面形 隅丸長方形
規模 東西 3.55×南北 2.8 m 主軸方向 N -1.5° - E 覆土 自然堆積 壁 壁高 14～20 cm 床 ほぼ
全面貼床だが概ね平坦。硬化面は未確認。 柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。 掘方
部分的に土坑状の浅い掘り込み（深さ 10cm 弱）あり。 カマド 北壁中央部やや東寄りに位置する。壁
を半円形に掘り込む。煙道の立ち上がりは緩やか。小型のカマドだが、多量の焼土が確認された。 遺物
主にカマド前面から出土。1 は床面直上の須恵器環。内面に黒色物が付着し、灯明具の可能性あり。2 は墨
書の見られる須恵器環。カマド煙道脇から出土しているが、本住居に伴う可能性があると考え掲載した。4
は須恵器甕破片を石皿または台石状に再利用したものか。不掲載遺物は小コンテナ箱 1/3 程度。礫は未確認
である。遺物から平安時代（9 世紀後半）の建物跡と考えたい。



第 69 図 西刑部西原遺跡 3区 SI-30 実測図



第70図 西刑部西原遺跡3区 SI-30 出土遺物

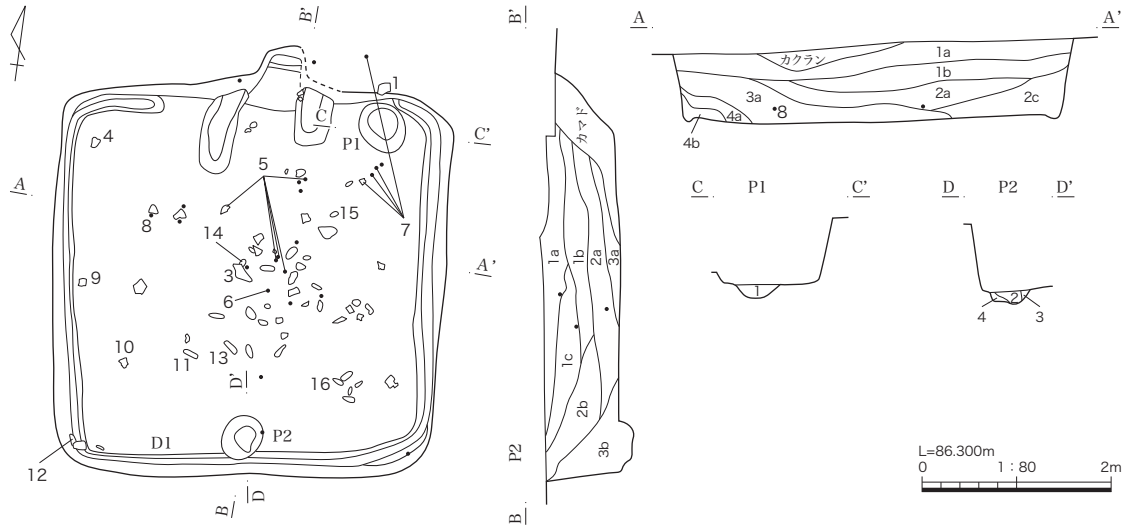
第23表 3区 SI-30 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 坏(灯 明具)	口 (13.6) 底 6.9 高 4.2	内外面ロクロナデ。底部外面回転系切り。内面タール状の付着物あり。大芝原B窯段階。	内：2.5Y6/3 にぶい黄 外：2.5Y6/2 灰黄	やや緻密、灰細砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.4 床直	口縁部～体部1/4、底部完存
2	須恵器 坏	口 13.3 底 6.0 高 3.7	内外面ロクロナデ。底部外面回転系切り。体部外面の墨書は「千」か。	内外面とも 5Y6/1 灰	やや緻密、黒・白細砂 焼成：硬質	No.9 2.6	口縁部3/4、底部完存
3	土師器 甕	口 (22.0) 高 [4.7]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデか。	内：10YR3/1 黒褐 外：7.5YR5/3 にぶい褐	やや粗い、白砂、雲母、 白細砂 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部1/5
4	須恵器 甕(転 用台石)	長 [27.0] 幅 [27.5] 厚 1.6	大型の須恵器甕破片内面を台石として転用したものか。中央部の径15cmほどの範囲に敲打痕あり。中央部の打撃により最終的に破損し廃棄されたものか。	内：N5 灰 外：7.5Y6/1 灰	緻密、白細砂、白礫 焼成：硬質	No.1～3・ 5・6・8 床直	胴部破片
5	石器 編物石 か	長 16.4 幅 7.1 厚 5.2 重 868.6	上半部は赤化。下半部は黒色の付着物あり。支脚か。平面形：不整形 断面形：隅丸台形	2.5YR5/4 にぶい赤褐	—	No.7 床直	完存

3区 SI-31 (遺構：第71図、遺物：第72図、図版一〇・八四)

位置 グリッド87.5-49.5・88.0-49.5 重複遺構 無し。平面形 隅丸正方形 規模 東西4.08×南北4.13m 主軸方向 N-6°-W 覆土 自然堆積 壁 壁高63～87cm 床 ローム地山を床面とする。柱穴 確認できなかった。入口ピット P2(径47～41cm、深さ16cm)は南壁際中央にある。貯蔵穴 P1(長軸58～短軸49cm、深さ16cm)は北東コーナーに位置する。壁溝 D1(幅15～34cm、深さ10cm)はカマド両側を除く壁際を全周する。カマド 北壁中央部を方形に掘り込む。煙道部には途中段をもち、急角度で立ち上がる。袖は明灰褐色粘土で構築する。遺物 主に中・上層から出土。このうち1は壁際上の確認面から出土したが本住居に伴う可能性があるものとして掲載した。須恵器は底部外面外周をヘラケズ

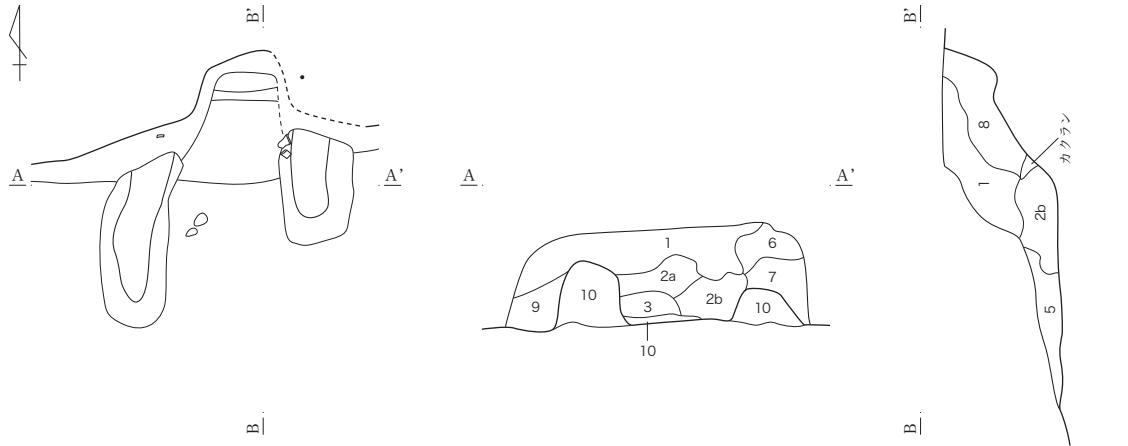
りした坏（5）や、高坏脚部破片（6）などがある。7は床面直上出土の土師器坏。底部外面に乾燥時のヒビ割れを補修した痕跡がある。不掲載土器は土師器甕・坏類が主体で小コンテナ2箱程度、礫が多く、総重量12kg出土している。遺物から奈良時代中頃（8世紀中葉）の建物跡と考えたい。



SI-31

- 1a 暗褐色土 ローム粒少量、焼土粒微量。しまり極めて強、粘性強。
- 1b 明褐色土 ローム粒・焼土粒少量。しまり極めて強、粘性強。
- 1c 褐色土 ローム粒・焼土粒少量。しまり極めて強、粘性強。
- 2a 暗褐色土 ローム粒少量、焼土粒微量、暗灰色土塊斑状に含む。しまり極めて強、粘性強。
- 2b 褐色土 焼土粒少量、ローム粒微量、暗灰色土塊斑状に含む。しまり極めて強、粘性強。
- 2c 黒褐色土 ローム粒少量、焼土粒微量、暗灰色土塊斑状に含む。しまり極めて強、粘性強。

- 3a 明褐色土 ローム粒多量、焼土粒微量、暗灰色土多量。しまり強、粘性極めて強。
- 3b 褐色土 ローム粒中量、焼土粒微量、暗灰色土多量。しまり強、粘性極めて強。
- 4a 黒褐色土 ローム粒微量。しまりやや強、粘性極めて強。
- 4b 暗黄褐色土 ローム塊多量。しまり強、粘性極めて強。（壁崩落土か）
- P1・P2
- 1 暗褐色土 ローム小塊多量、焼土小塊少量。しまり強、粘性強。
- 2 暗褐色土 ローム小塊多量。しまり弱、粘性強。
- 3 褐色土 ローム塊多量。しまり弱、粘性強。
- 4 黒褐色土 ローム小塊少量。しまり弱、粘性強。（周溝埋土）

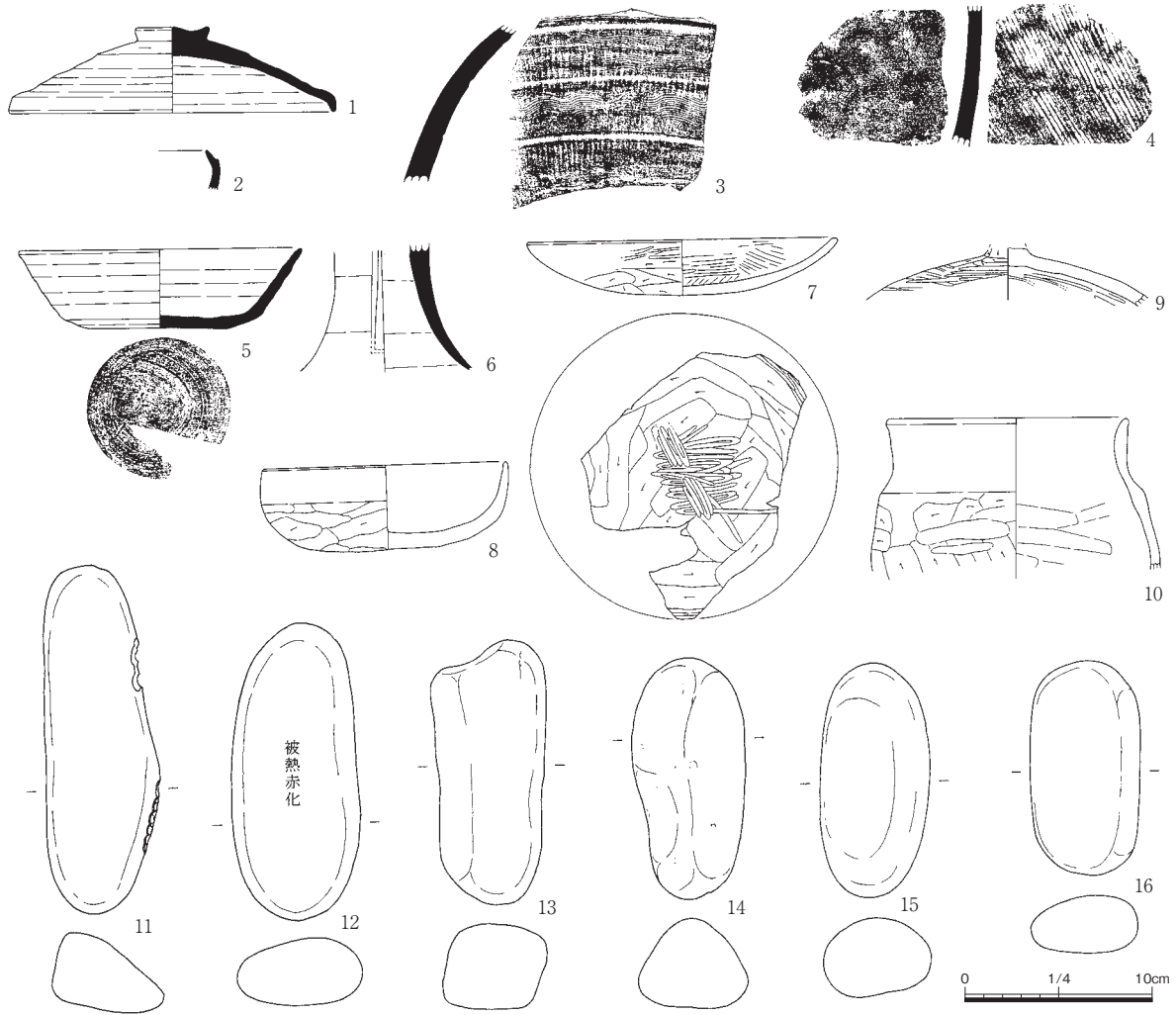


カマド

- 1 暗褐色土 明灰褐色粘土塊少量。しまり・粘性強。（攪乱か）
- 2a 明灰褐色土 明灰褐色粘土主体。しまり・粘性強。（天井崩落土）
- 2b 灰褐色土 焼土塊・明灰褐色粘土塊多量、灰少量混入。しまり・粘性強。（天井崩落土）
- 3 灰褐色土 焼土塊多量、灰多く混入。しまり弱、粘性強。（煙道内流入土）
- 4 暗灰色土 灰主体。しまり弱、粘性強。（煙道内流入土）

- 5 暗褐色土 焼土小塊・明灰褐色粘土小塊少量。しまり強・粘性強。
- 6 褐色土 灰褐色粘土塊・焼土小塊多量。しまり・粘性強。
- 7 暗褐色土 灰褐色粘土小塊少量、焼土小塊微量。しまり・粘性強。
- 8 暗赤褐色土 焼土塊・明灰褐色粘土塊多量。しまり・粘性強。（煙道内流入土）
- 9 褐色土 ローム塊多量。しまり・粘性強。（埋戻しか）
- 10 明灰褐色土 粘土主体。しまり・粘性強。（袖）

第71図 西刑部西原遺跡3区 SI-31 実測図



第72図 西刑部西原遺跡3区 SI-31 出土遺物

第24表 3区 SI-31 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器蓋	口 17.2 高 4.6	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリのちツマミ貼付。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：7.5Y6/1 灰	やや緻密、白・灰細砂焼成：やや硬質	No 21 床直	口縁部 1/2
2	須恵器坏	高 [2.1]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ロクロナデ。	内：5Y6/2 灰オリーブ 外：5Y6/1 灰	やや緻密、白・灰細砂、灰・黒・白砂、白粒焼成：やや硬質	No 10 5.0	口縁部破片
3	須恵器甕	高 [9.5] 厚 1.2	内外面ロクロナデ。頸部外面平行叩きのち沈線及び櫛描波状文。	内：N5/1 灰 外：N6/1 灰	緻密、白細砂焼成：硬質	No 61 17.8	頸部破片
4	須恵器甕	厚 0.8	内面無文あて具痕。外面平行叩き。	内：7.5Y5/1 灰 外：7.5Y4/1 灰	やや粗い、白・黒細砂～礫焼成：硬質	No 1 60.7	胴部破片
5	須恵器坏	口 (14.8) 底 8.0 高 4.3	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのちナデ。	内：10BG4/1 暗青灰 外：10Y4/1 灰	緻密、白細砂、白砂、白礫焼成：硬質	No 24・65・66・69 10.4 (No 66)	口縁部 3/8、底部 4/5
6	須恵器高坏か	高 [6.8] 径 5.0	内外面ロクロナデ。脚部は三方透。	内：7.5Y7/2 灰白 外：5Y7/2 灰白	緻密、白・灰・黒細砂、黒・白砂焼成：やや硬質	No 47 10.2	脚部 1/4

7	土師器 坏	口 (16.4) 高 3.0	口縁部内面の全面及び口縁部外面ヘラミガキ。体部～底部外面ヘラケズリ。底部外面中央部粘土貼付のちヘラミガキ、焼成前ヒビ補修の痕跡か。	内：2.5YR5/6 明赤褐 外：2.5YR4/8 赤褐	やや緻密、白・灰細砂、赤粒 焼成：やや軟質	№ 18・19・20・22 床直 (№ 22)	口縁部 1/8、体部～底部 7/8
8	土師器 坏	口 (13.0) 高 4.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。体部内面ヨコナデ。全体に薄く褐色を帯びる。漆仕上げか。	内：10YR7/1 灰白 外：10YR6/4 にぶい黄橙	やや緻密、白細砂、赤粒 焼成：やや硬質	№ 53 20.7	口縁部～体部 1/5
9	土師器 蓋	高 [3.1]	天井部ツマミ貼付のちツマミ基部及び天井部外面ヘラケズリのちヘラミガキ。内面ヨコナデのちヘラミガキ。	内外面とも 7.5YR7/4 にぶい橙	やや緻密、黒・白細砂、赤粒 焼成：やや硬質	№ 3 46.4	ツマミ欠損 体部 1/4
10	土師器 甕	口 (13.6) 高 [8.2]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ナナム及びヨコヘラケズリのちナデ。	内：2.5GY2/1 黒 外：5YR6/6 橙	やや緻密、白・透明・灰細砂～礫 焼成：やや軟質	№ 4 36.2	口縁部～胴部上半 1/4
11	石器 編物石	長 [18.3] 幅 6.0 厚 4.0 重 [531.0]	右下側縁に敲打状の剥離あり。 平面形：長い楕円形 断面形：隅丸三角形	2.5Y8/4 淡黄	—	№ 5 51.9	部欠
12	石器 編物石	長 15.8 幅 6.7 厚 3.6 重 619.0	未加工の自然礫。全面被熱し赤化している。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	10YR6/4 にぶい黄橙	—	№ 7 4.1	完存
13	石器 編物石	長 14.0 幅 5.3 厚 4.4 重 601.3	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸三角形	2.5Y7/1 灰	—	№ 58 19.3	完存
14	石器 編物石	長 13.0 幅 6.0 厚 4.7 重 461.1	未加工の自然礫。 平面形：不整な隅丸長方形 断面形：隅丸方形	5Y7/1 灰白	—	№ 62 14.9	完存
15	石器 編物石	長 12.4 幅 5.8 厚 3.9 重 383.8	未加工の自然礫。 平面形：隅丸長方形 断面形：楕円形	2.5Y6/1 黄灰	—	№ 74 36.7	完存
16	石器 編物石	長 11.4 幅 5.9 厚 3.1 重 332.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	2.5Y7/3 浅黄	—	№ 29 46.8	完存

3区 SI-32 (遺構：第73図、遺物：第74図、図版一〇・八四)

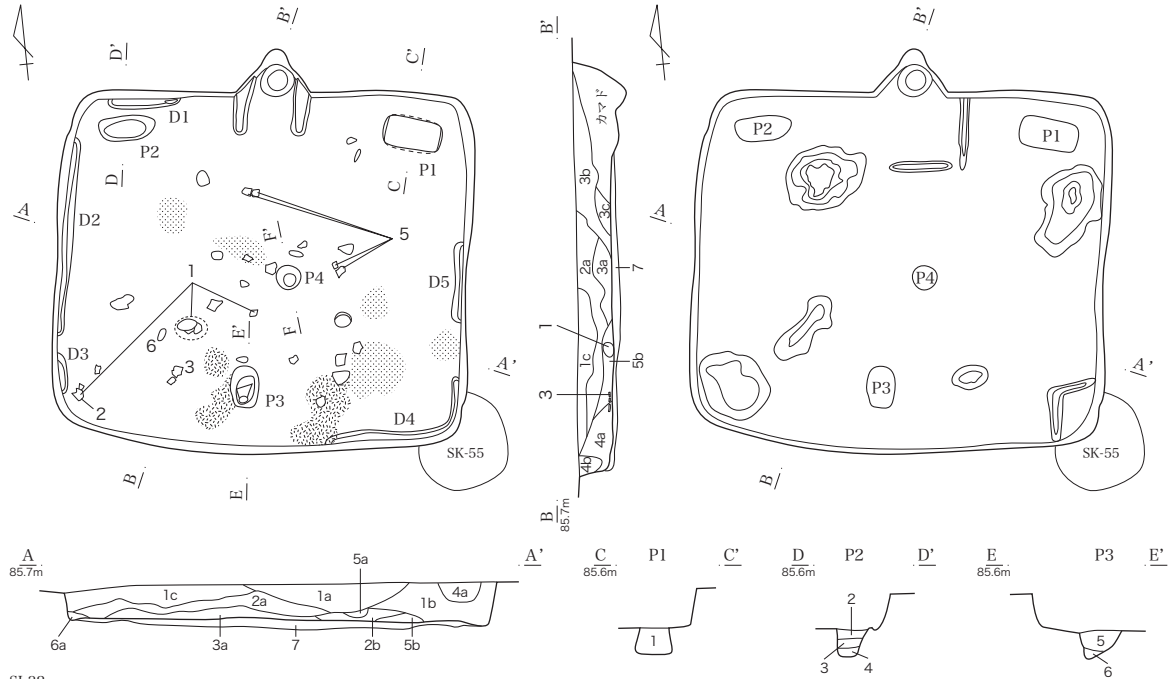
位置 グリッド 90.0-45.0 重複遺構 時期不明土坑のSK-55より新しい。平面形 隅丸長方形 規模 東西 4.34×南北 3.82 m 主軸方向 N-9° - E 覆土 自然堆積 壁 壁高 26～41 cm 床 ローム地山を床面とする。一部貼床あり。ピット P2 (長軸 58～短軸 26 cm、深さ 28 cm)、P4 (径 26 cm、深さ 14 cm) は用途不明。入口ピット P3 (径 44～30 cm、深さ 28 cm) は南壁からやや離れる。貯蔵穴 P1 (長軸 61～短軸 32 cm、深さ 36 cm) はオーバーハングする。壁溝 D1～D5 が途切れながら壁際を巡る。幅は 20 cm前後、深さ 2～5 cmと浅い。掘方 極めて浅い土坑状の掘り込みをもつ。カマド 北壁中央部を隅丸三角形状に掘り込む。煙道は丸みをもち急角度で立ち上がる。遺物 小型でやや器高が高い坏 (1～3) などが出土した。不掲載遺物は小コンテナ 1/3 箱、礫は 300 g である。古墳時代終末期 (7世紀前半) の建物跡か。

第25表 3区 SI-32 出土遺物観察表

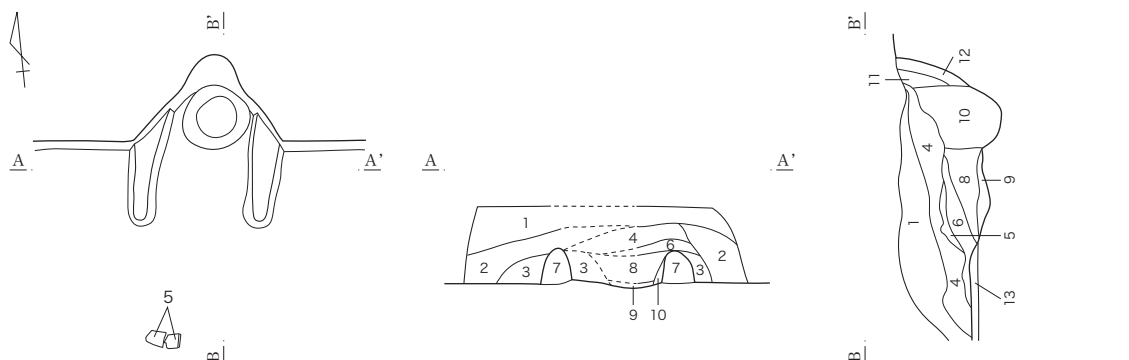
掲載番号	器種	法量 (cm)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床直 (cm)	残存
1	土師器 坏	口 12.2 高 5.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半部はナデ、下半部はヘラケズリか。内外面漆仕上げ。	内：10YR6/4 にぶい黄橙 外：2.5Y7/4 浅黄	やや粗い、黒・白・灰砂、白・透明細砂、赤粒 焼成：やや硬質	№ 6・8・11・南東 床直	ほぼ完存
2	土師器 坏	口 13.6 高 5.2	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ナデのちミガキのち黒色処理か。胴部外面ヘラケズリ。口縁部内面は剥離顕著。体部～底部外面は摩擦顕著。	内：10YR3/1 黒褐 外：10YR3/2 黒褐	やや緻密、白細砂～粗砂、赤粒 焼成：やや軟質	№ 11 4.8	口縁部 2/3、底部完存
3	土師器 坏	口 13.6 高 4.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内面ナデ。口縁部外面～内面全面漆仕上げ。	内：7.5YR7/4 にぶい橙 外：7.5YR7/6 橙	やや緻密、黒・白砂、白細砂、赤粒 焼成：やや硬質	№ 9、ベルト、 覆土、南西 1.8	口縁部～底部 1/6
4	土師器 高坏	口 (15.0) 高 [3.5]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヨコまたはナナムヘラケズリのちタテヘラケズリ。体部内面ヘラミガキ。	内：10YR8/4 浅黄橙 外：7.5YR8/3 浅黄橙	やや緻密、黒細砂、赤粒 焼成：硬質	カマド、南東 床直	口縁部～体部 1/4、脚部欠損
5	土師器 甕	口 (17.0) 底 (5.2) 高 (29.5)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ、下半部に明瞭な接合痕あり。胴部外面ヘラナデ、下端部ヨコヘラケズリ。	内：2.5YR3/6 明赤褐 外：2.5YR2/1 赤黒	粗い、白・灰・黒・透明粗砂～礫、雲母片 焼成：軟質	№ 3 3.4	口縁部 1/3、底部 1/2、胴部 1/4

第3章 発見された遺構と遺物

6	石器 編物石	長 12.4 幅 6.3 厚 4.9 重 453.0	未加工の自然礫。 平面形：不整な三角形 断面形：隅丸三角形	2.5Y5/3 淡黄		No.14 1.8	完存
---	-----------	-------------------------------------	-------------------------------------	------------	--	--------------	----

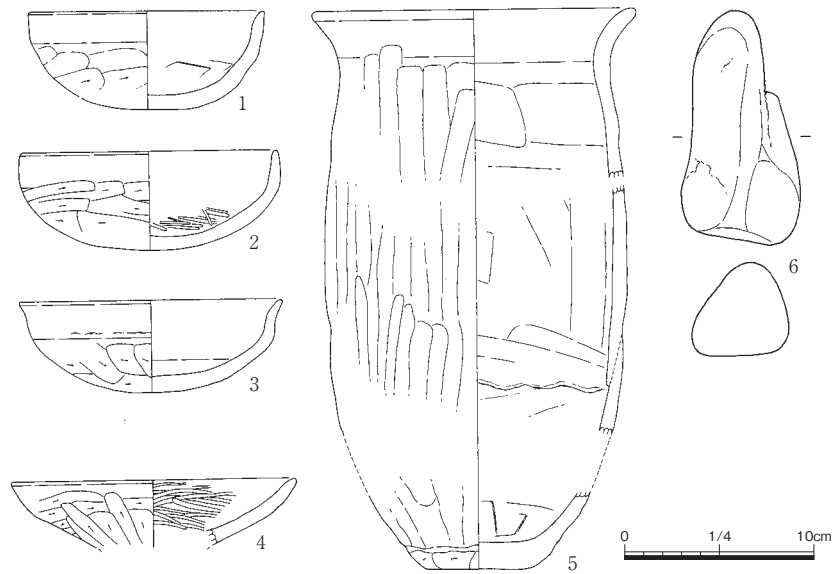


- SI-32
- | | | | |
|----------|-------------------------------|----------|---------------------------------|
| 1a 明褐色土 | ローム粒多量、焼土粒少量。しまりやや強、粘性強。(埋戻し) | 5a 灰褐色粘土 | 粘土塊主体。しまり強、粘性極めて強。 |
| 1b 暗褐色土 | ローム粒少量。しまりやや強、粘性強。 | 5b 黄褐色土 | ローム塊多量。しまり強、粘性極めて強。 |
| 1c 黒褐色土 | ローム粒中量。しまりやや強、粘性強。 | 6a 黄褐色土 | ローム塊主体。しまりやや強、粘性極めて強。 |
| 2a 黒褐色土 | ローム粒少量。しまりやや強、粘性強。 | 7 黄褐色土 | ローム塊主体。しまりやや強、粘性強。(貼床) |
| 2b 暗褐色土 | ローム粒中量。しまりやや強、粘性強。 | P1~P4 | |
| 3a 褐色土 | ローム粒中量。しまりやや強、粘性強。 | 1 黄褐色土 | ローム大塊中量、ローム小塊少量。しまり・粘性やや強。(埋戻し) |
| 3b 暗褐色土 | ローム粒中量。しまりやや強、粘性強。 | 2 暗褐色土 | ローム粒少量。しまり・粘性やや強。 |
| 3c 暗灰褐色土 | 粘土粒多量、ローム粒少量。しまりやや強、粘性強。 | 3 暗黄褐色土 | しまり・粘性やや強。 |
| 4a 褐色土 | ローム粒少量。しまり・粘性やや強。 | 4 黄褐色土 | ローム塊中量。しまり・粘性やや強。 |
| 4b 黒褐色土 | ローム粒微量。しまり・粘性やや強。 | 5 暗黄褐色土 | ローム中塊少量。しまりやや弱、粘性やや強。 |
| | | 6 暗黄褐色土 | ローム塊少量。しまり・粘性やや強。 |
- 0 1:80 2m



- カマド
- | | | | |
|---------|----------------------|----------|---------------------------|
| 1 褐色土 | 建物跡覆土 1a 層と同じ。 | 9 灰黒色土 | 焼土中量。しまり強、粘性やや強。(火床) |
| 2 暗褐色土 | 建物跡覆土 1b 層と同じ。 | 10 暗褐色土 | しまり・粘性やや強。(煙突の抜き跡か) |
| 3 灰色粘土 | しまり強、粘性やや弱。(カマド袖の崩れ) | 11 灰赤褐色土 | 焼土塊中量。しまり強、粘性やや弱。(煙突の裏込め) |
| 4 灰褐色粘土 | しまり強、粘性やや弱。(天井崩落土か) | 12 灰色粘土 | しまりやや弱、粘性強。(煙突の裏込め) |
| 5 灰赤褐色土 | 焼土塊少量。しまり強、粘性やや弱。 | 13 黄褐色土 | 建物跡覆土 7 層と同じ。 |
| 6 灰褐色土 | 焼土塊少量。しまりやや強、粘性やや弱。 | | |
| 7 灰色粘土 | しまり強、粘性弱。(袖部) | | |
| 8 灰赤褐色土 | 焼土塊少量。しまり強、粘性やや弱。 | | |
- 0 1:40 1m

第 73 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-32 実測図



第74図 西刑部西原遺跡3区 SI-32 出土遺物

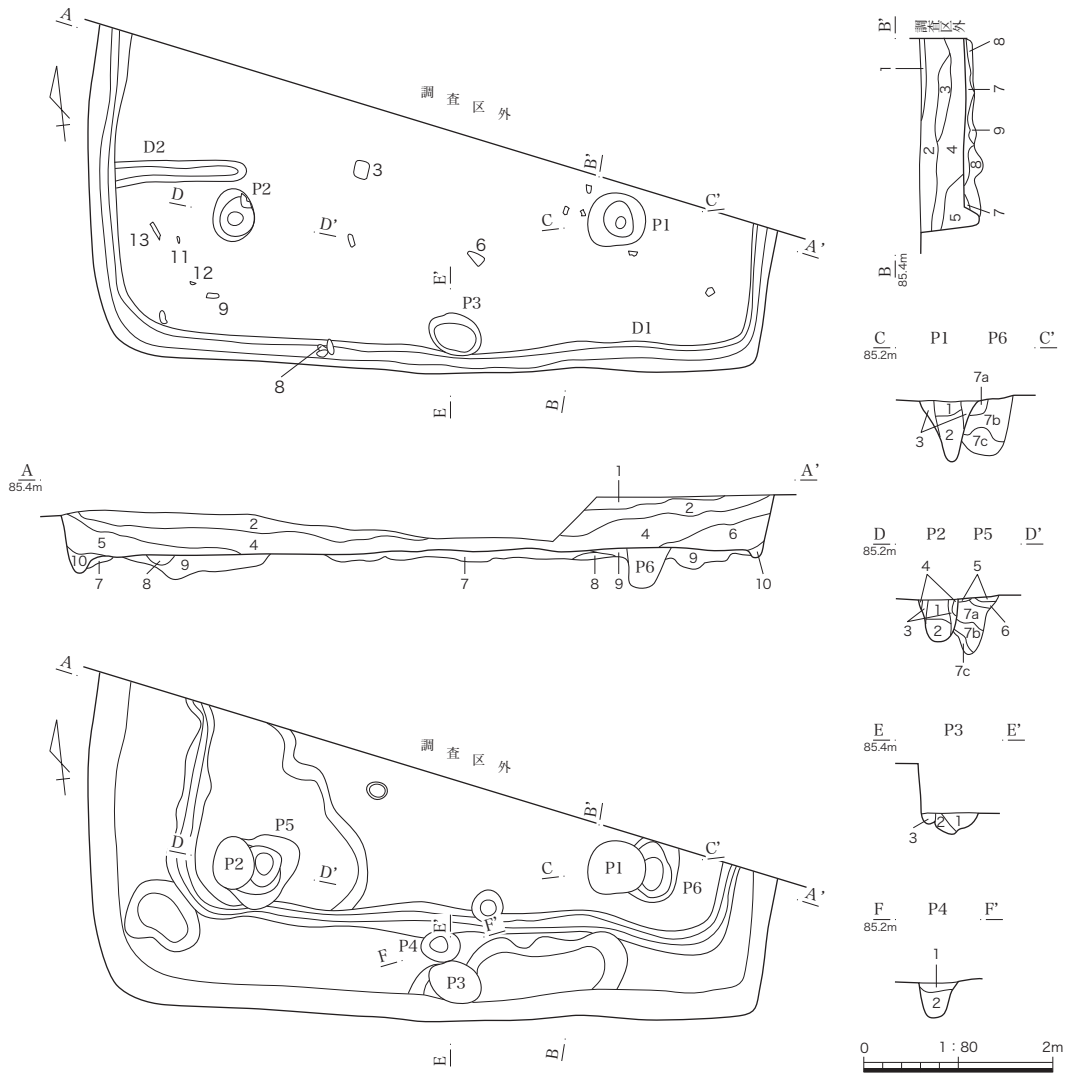
3区 SI-33 (遺構：第75図、遺物：第76図、図版——・——二・——三・——五)

位置 グリッド 88.5-47.5・89.0-47.5・88.5-48.0・89.0-48.0 重複遺構 重複遺構は無いが、床面を精査した結果、建替えを確認。平面形 全形は不明だが隅丸方形か。規模 新建物：東西7.15 m × 南北3.26 m以上。旧建物：東西約6 m × 南北2.2 m以上。主軸方向 不明 覆土 自然堆積か。壁 壁高は42～57 cm残る。床 若干の凹凸あり。新建物：柱穴 P1 (径60 cm、深さ59 cm)、P2 (径54～43 cm、深さ43 cm) は柱痕を確認。入口ピット P3 (径53～42 cm、深さ22 cm) は南壁際より確認。P4 (径41～32 cm、深さ36 cm) も入口ピット関連の掘り込みか。貯蔵穴 未確認。壁溝 D1 (20～25 cm、深さは10～17 cm) は残存部壁際の全域に確認。間仕切り溝 東西軸のD2 (幅22～27 cm、深さ7 cm) がある。旧建物：柱穴 P5 (長軸82～短軸60 cm以上、深さ60 cm)、P6 (径45～65 cm、深さ59 cm)。壁溝 幅20～38 cm、深さ8～20 cm。残存部の壁際すべてに確認。掘方 新建物は南壁に、旧建物は南西コーナーに不整形の掘り込みあり。深さは最深部で20 cm前後。カマド 確認できなかった。遺物 須

第26表 3区 SI-33 出土遺物観察表

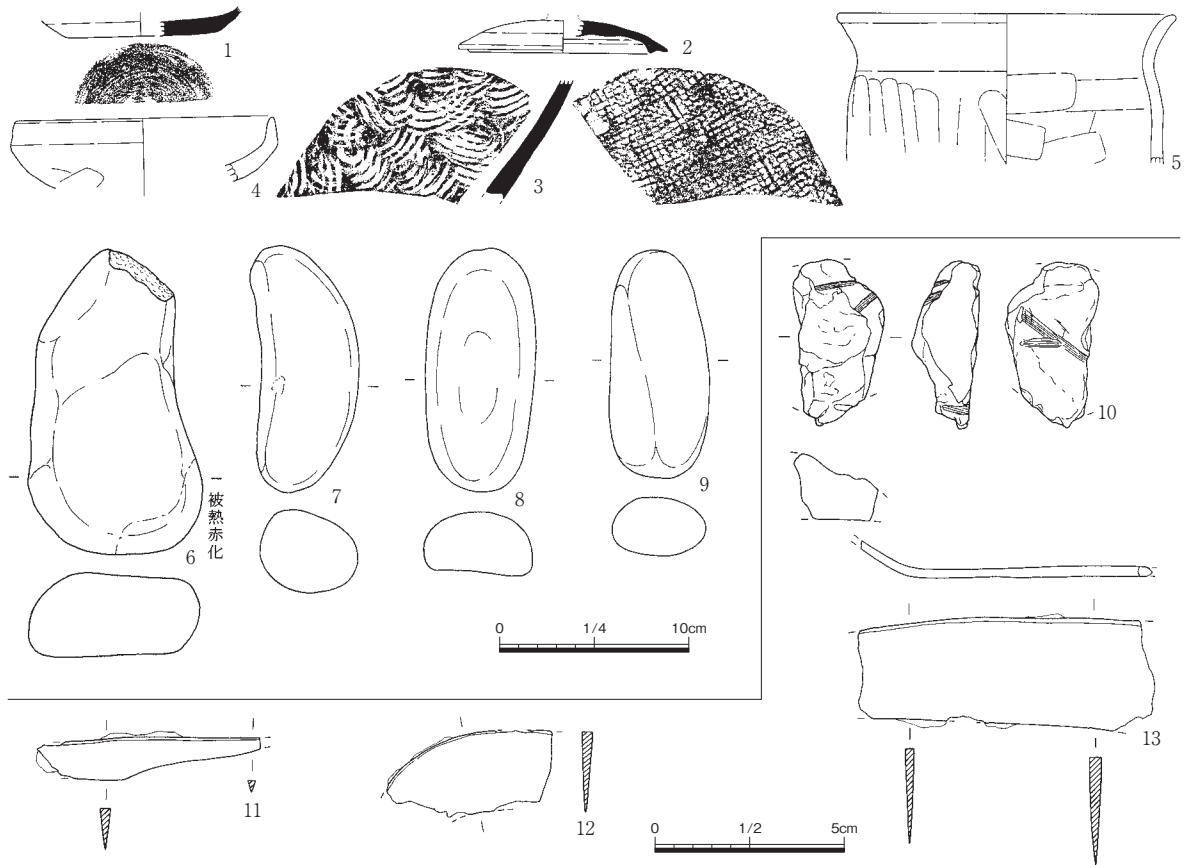
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 坏	底 (8.0) 高 (1.2)	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち外周ナデか。混入品。	内：2.5Y8/1 灰白 外：10YR7/1 灰白	緻密、灰・白細砂 焼成：硬質	南西埋土中	底部 2/5
2	須恵器 蓋	口 (11.0) 高 [1.6]	内外面ロクロナデ。天井部外面自然釉が厚く付着し、調整不明。内面も薄く釉付着。焼成時に隙間から自然釉が入り込んだためか。	内：10Y6/1 灰 外：7.5Y5/2 灰オリーブ	緻密、灰・白細砂、黒・白砂 焼成：硬質	南西埋土中	体部 1/4、 ツマミ欠損
3	須恵器 甕	高 [6.5] 厚 1.0	内面同心円状あて具痕。外面格子叩き。	内外面とも 2.5Y8/2 灰白	やや緻密、白・灰細砂、 灰砂 焼成：やや硬質	No.17 1.4	胴部破片
4	土師器 坏	口 (13.4) 高 [3.3]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面摩擦のため不明瞭だがヘラケズリか。	内：10YR8/3 浅黄橙 外：2.5YR8/2 灰白	やや緻密、黒・白細砂、 黒砂、赤・白粒 焼成：やや硬質	貼床中、南 西埋土中	口縁部～体 部 1/4
5	土師器 甕	口 (18) 高 [7.8]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラナデ、一部ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。外面一部に黒斑あり。	内：7.5Y3/3 暗褐 外：7.5YR6/6 橙	やや粗い、白・黒細砂、雲 母片、白粒、礫の混入多い 焼成：やや軟質	南東埋土中	口縁部～胴 部 1/8
6	石器 編物石 か	長 [16.0] 幅 9.1 厚 4.4 重 [1009.0]	下端側面赤化。上端側面敲打痕か。 平面形：不整な撥形 断面形：不整な長方形	10YR7/4 に近い黄褐	—	No.6 1.4	部欠

恵器蓋・甕、土師器環・甕、編物石、焼成粘土塊、鉄製品などが出土。この他不掲載の土器類は土師器環・甕類の小破片を主体とし、小コンテナ 1/2 箱が出土。礫は 4.5 kg である。床面直上の遺物は殆どないが、時期的には古墳時代終末期（7世紀前半）の建物跡と考えたい。



SI-33		
1	黒色土	焼土小塊少量、ローム小塊微量。しまり強。
2	暗褐色土	ローム小塊多量、焼土小塊少量。しまり強。
3	褐色土	ローム塊多量、焼土小塊少量。しまり強。
4	黒褐色土	焼土小塊多量、ローム小塊少量。しまり強。
5	暗褐色土	ローム小塊多量、焼土小塊少量。しまり弱。
6	黒褐色土	焼土小塊・炭化物小塊多量、ローム小塊少量。しまり弱。
7	褐色土	ローム塊主体。しまり特に強。(貼床)
8	黄褐色土	ローム小塊少量。しまり強。(貼床)
9	黒褐色土	ローム小塊少量。しまり強。(貼床)
10	暗褐色土	ローム小塊多量。しまり弱。
P1, P2, P5, P6		
1	黒褐色土	ローム小塊多量、焼土小塊微量。しまり弱、粘性強。(柱痕)
2	暗褐色土	ローム塊多量。しまり弱、粘性強。(柱痕)
3		
3	褐色土	ローム塊主体。しまり強。(裏込め)
4	黒褐色土	ローム小塊少量。しまり強、粘性強。(裏込め)
5	褐色土	ローム大塊主体。しまり特に強。(貼床)
6	黒褐色土	ローム小塊多量。しまり弱、粘性強。
7a	明黄褐色土	ローム大塊主体。しまり弱、粘性強。(埋戻し)
7b	褐色土	ローム塊主体。しまり弱、粘性強。(埋戻し)
7c	黄褐色土	ローム大塊主体。しまり弱、粘性強。(埋戻し)
P3		
1	暗褐色土	ローム塊多量。しまり弱、粘性強。
2	黒褐色土	ローム塊少量。しまり強。
3	暗褐色土	ローム小塊多量。しまり弱、粘性強。(周溝)
P4		
1	暗褐色土	ローム大塊多量。しまり弱、粘性強。(埋戻し)
2	黒褐色土	ローム塊多量。しまり弱、粘性強。(埋戻し)

第75図 西刑部西原遺跡3区 SI-33 実測図

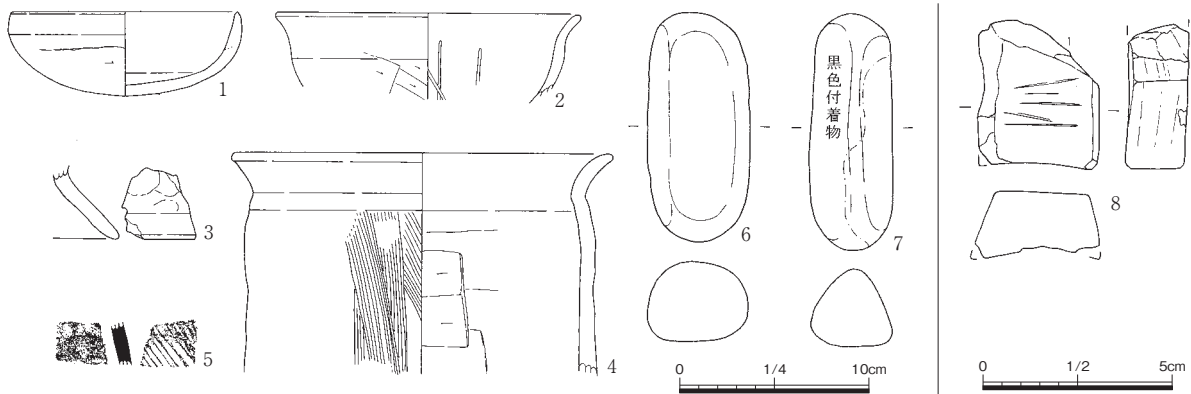


第76図 西刑部西原遺跡3区 SI-33 出土遺物

7	石器 編物石	長 13.0 幅 5.1 厚 4.4 重 413.6	未加工の自然礫。 平面形：三日月形 断面形：楕円形	5Y7/1 灰白	—	埋土中	完存
8	石器 編物石	長 12.9 幅 5.7 厚 3.4 重 342.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：カマボコ形	2.5Y7/3 浅黄	—	No. 10 2.7	完存
9	石器 編物石	長 12.0 幅 5.1 厚 3.1 重 325.7	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：不整な楕円形	7.5Y7/1 灰白	—	No. 12 4.7	完存
10	焼成粘 土塊	長 4.4 幅 2.2 厚 1.8 重 9.3	ワラの拔痕が目立つ。やや多量の赤色粒子を含む。	5YR8/4 淡橙	粗い、赤粒、白粒、砂粒、 ワラ 焼成：軟質	南東埋土中	破片か
11	鉄製品 刀子	長 [5.8] 幅 1.1 重 [3.8]	背に隈はなく直線的。棟幅 2.5 mm、刃部側の隈はなだらか。平造り。	—	鉄製	No. 15 3.3	刃部及び茎部 端部欠損
12	鉄製品 鎌	長 [4.5] 幅 2.1 重 [7.6]	曲刃鎌先端部付近の破片。刃部が僅かに残る。平造り。	—	鉄製	No. 14 20.2	先端部付近 残存
13	鉄製品 直刀か	長 [7.9] 幅 2.9 重 [27.6]	切っ先に近い破片か。背は僅かに弧状を呈するが、棟幅 3.6 mmとやや厚手。角棟で平造り。	—	鉄製	No. 16 22.3	部分残存

3区 SI-34 (遺構：第78図、遺物：第77図、図版一一)

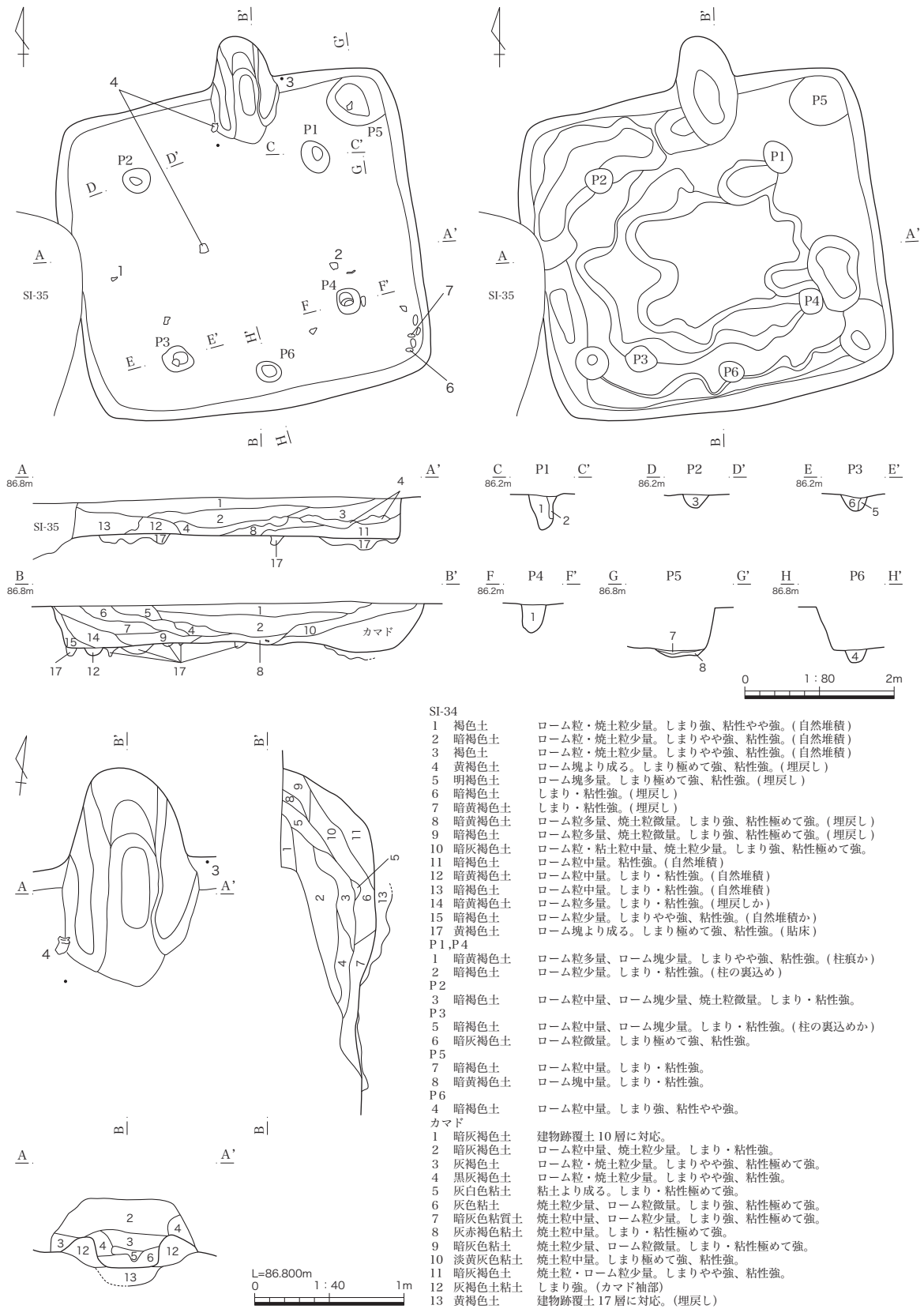
位置 グリッド 88.0-50.0・88.5-50.0・88.5-50.5・88.0-50.5 重複遺構 奈良時代前葉の建物跡 SI-35 より古い。平面形 隅丸正方形 規模 東西 4.66×南北 4.33 m 主軸方向 N -8° -W 覆土 下層は人為埋戻し、上層は自然堆積か。壁 壁高 51～60 cm 床 貼床あり。部分的に凹凸あり。柱穴 P1 (径 46～34 cm、深さ 47 cm)、P2 (径 36～32 cm、深さ 16 cm)、P3 (径 42～35 cm、深さ 21 cm)、P4 (径 33 cm、深さ 40 cm)。入口ピット P6 (径 34～27 cm、深さ 19 cm)。貯蔵穴 P5 (長軸 74～短軸 67 cm、深さ 10 cm)。壁溝 確認できなかった。掘方 中央部を掘り残し、南～西部にかけ不整な土坑状の掘り込みをもつ。深さ 20 cm前後と浅い。カマド 北壁中央部やや東寄りにあり、壁をU字状に掘り込む。煙道の立ち上がりは約 57°である。遺物 土師器坏・ハケ調整甕、編物石などがあるが、床面直上の遺物は殆ど無い。不掲載土器は小コンテナ 1箱弱、礫は 1.5 kg。建物の時期は古墳時代後期末葉(6世紀末)と考えたい。



第77図 西刑部西原遺跡3区 SI-34 出土遺物

第27表 3区 SI-34 出土遺物観察表

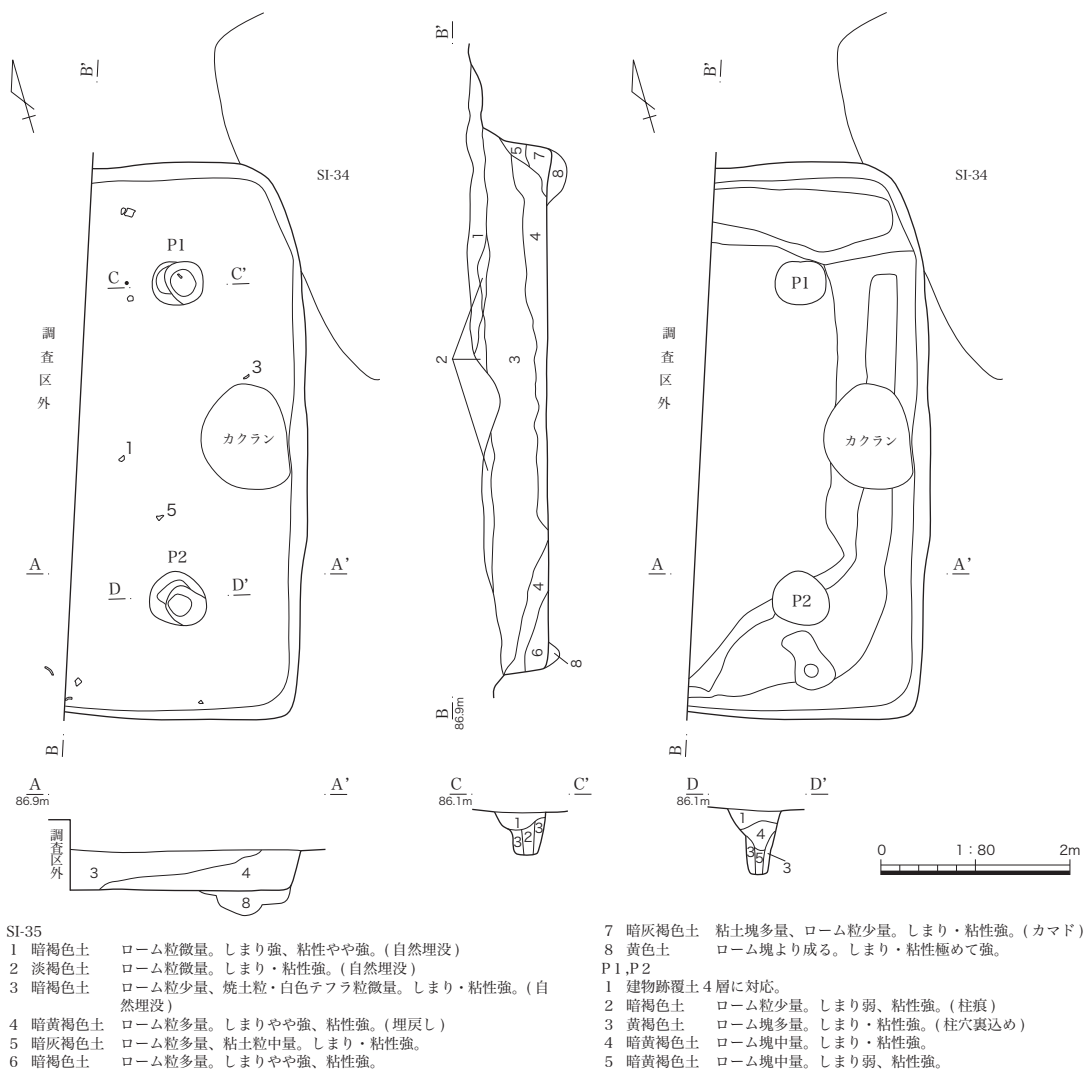
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 坏	口 (11.8) 高 4.4	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部～底部外面磨滅のため不明瞭だがヘラケズリか。内面のみ漆残る。	内：10YR6/4 にぶい黄橙 外：7.5YR7/6 橙	緻密、白・透明・黒細砂～礫、赤粒 焼成：やや軟質	No. 3 35.4	口縁部～底部 1/6
2	土師器 坏	口 (8.0) 高 [4.7]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデのちミガキ。体部外面ナメヘラケズリ。内外面黒色仕上げ。	内外面とも 5Y2/1 黒	やや緻密、白細砂 焼成：やや硬質	No. 14 6.9	口縁部～体部 1/8
3	土師器 台付甕	高 [2.6]	脚部内外面ヨコナデのちナデ。指頭押圧。	内外面とも 10YR7/4 にぶい黄橙	緻密、灰・白細砂～礫、赤粒 焼成：やや軟質	No. 2 74.3	脚部破片
4	土師器 甕	口 20.0 高 [11.5]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ハケ目。ハケ目は胴部上半では全周していない。	内：10YR6/2 灰黄褐 外：7.5YR6/4 にぶい橙	やや緻密、灰・黒砂、灰・黒礫 焼成：やや硬質	No. 16・17 21.4	口縁部～胴部 1/4
5	須恵器 甕	高 [2.2]	内面無文あて具痕。外面平行叩き。	内：5Y5/1 灰 外：5Y6/1 灰	やや緻密、白細砂、白礫 焼成：やや硬質	覆土中	胴部破片
6	石器 編物石	長 [16.0] 幅 9.1 厚 4.4 重 444.5	未加工の自然礫。平面形：楕円形 断面形：楕円形	5Y7/1 灰白	—	No. 12 5.8	完存
7	石器 編物石	長 12.4 幅 4.3 厚 3.9 重 358.6	未加工の自然礫。斑点状に黒色付着物あり。平面形：長い楕円形 断面形：隅丸三角形	10YR7/1 灰白	—	No. 10 4.8	完存
8	石製品 砥石	長 [3.5] 幅 [3.2] 厚 [1.6] 重 [25.9]	砥面は計5面。右側面上部は破面に砥面を再生したものか。器面は風化が顕著なため擦痕など不明瞭。平面形：長方形か 断面形：不整な台形	5Y8/1 灰白	凝灰岩	覆土中	部残



第 78 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-34 実測図

3区 SI-35 (遺構：第79図、遺物：第80図、図版一一)

位置 グリッド 88.0-50.0 重複遺構 古墳時代後期末葉の建物跡 SI-34 より新しい。 平面形 西半部が調査区外のため不明だが、隅丸方形または長方形か。 規模 東西 2.4 m以上 × 南北 5.9 m 主軸方向 N -16° - E (推定値) 覆土 自然堆積だが下層の一部に人為埋戻しの可能性あり。 壁 壁高は 43 ~ 74 cm残る。 床 中央部はローム地山を床面とし、その他は貼床。 柱穴 P1 (径 52 ~ 45 cm、深さ 45 cm)、P2 (径 60 ~ 53 cm、深さ 67 cm) は主柱穴である。上半部の崩れは抜取痕か。 遺物 図示可能な遺物が極めて少なく、須恵器環・蓋 (ツマミ部)・甕、土師器環などである。床面直上の遺物は確認できなかった。不掲載の土器類は小コンテナ 1/2 箱分、礫は確認できなかった。遺物から奈良時代前葉の建物跡と考えたい。



第79図 西刑部西原遺跡3区 SI-35 実測図

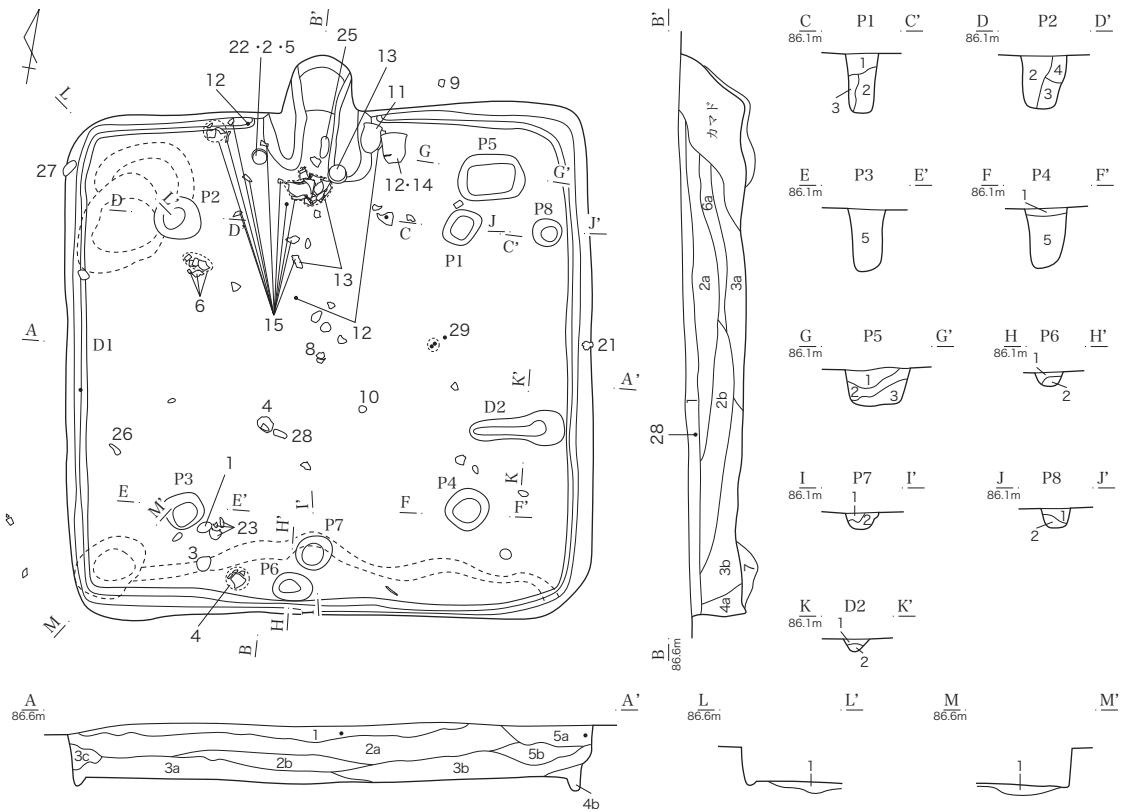


第80図 西刑部西原遺跡3区 SI-35 出土遺物

第28表 3区 SI-35 出土遺物観察表

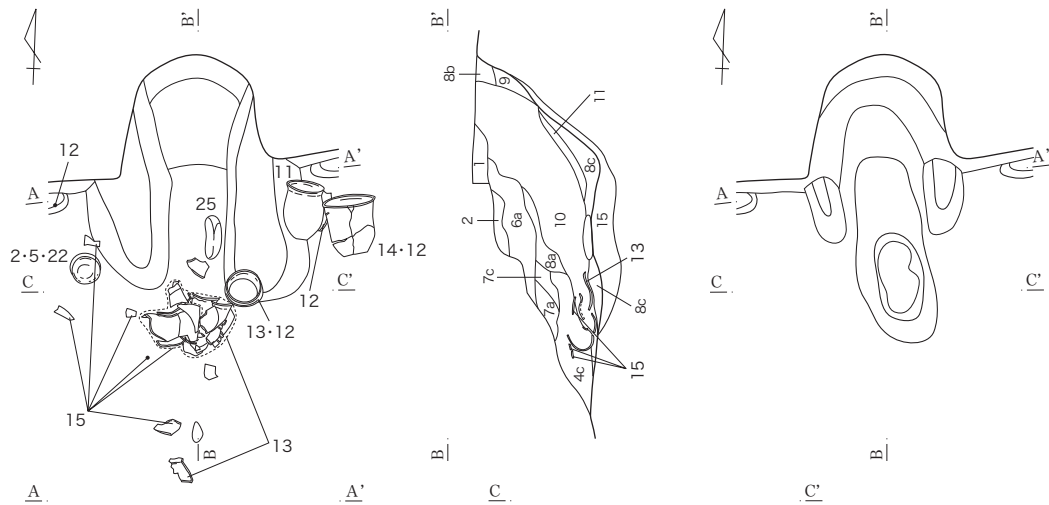
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置 床上 (cm)	残存
1	須恵器 坏	口 (13.6) 底 (7.0) 高 4.7	内外面ロクロナデ。底部外面磨減のため調整不明。二次底部面をもつ。	内：2.5Y6/2 灰黄 外：2.5Y7/2 灰黄	緻密、白・灰・透明・黒 細砂～粗砂 焼成：やや軟質	No.5 17.8	口縁部 1/4、底部 1/3
2	須恵器 蓋	高 [1.3] 径ミ 3.5	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリのちツマミ貼付。	内：5Y6/1 灰 外：5Y6/2 灰オリーブ	緻密、白・灰細砂 焼成：硬質	No.4 69.5	ツマミ完存
3	須恵器 蓋	高 [1.2] 径ミ 2.9	内外面ロクロナデ。3区 SI-4-6、同 SI-5-18 と同一個体か。	内：10BG4/1 暗青灰 外：10Y5/1 灰	緻密、白細砂 焼成：硬質	覆土中	ツマミ破片
4	須恵器 甕	高 [4.0]	内面細かな同心円状あて具痕。外面平行叩き。湖西産か。	内：10YR6/1 褐灰 外：2.5Y6/1 黄灰	緻密、白・黒細砂 焼成：硬質	No.1 44.1	胴部破片
5	土師器 坏	口 (15.0) 高 [2.4]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ。体部外面ヘラケズリ。	内：2.5YR5/6 明赤褐 外：2.5YR4/6 赤褐	緻密、白・黒細砂～粗砂 焼成：硬質	覆土中	口縁部～体部 1/7

3区 SI-36 (遺構：第81・82図、遺物：第83～85図、図版一一・一二・八四・八五・一一五・一一六)
 位置 グリッド 87.0-50.0・87.0-50.5・87.5-50.0・87.5-50.5 重複遺構 無し。平面形 隅丸方形 規模 東西 5.43×南北 5.28 m 主軸方向 N -10° -W 覆土 自然堆積と考えられる。壁 壁高 35～67 cm 床 一部貼床あるが、大部分はローム地山。概ね平坦で、硬化面は見られない。柱穴 P1 (径 43～37 cm、深さ 61 cm)、P2 (径 49～44 cm、深さ 54 cm)、P3 (径 43～39 cm、深さ 65 cm)、P4 (径 46 cm、深さ 61 cm) は支柱穴。P8 (径 29～28 cm、深さ 20 cm) の用途は不明。入口ピット P6 (径 41～30 cm、深さ 14 cm)・P7 (径 38～35 cm、深さ 17 cm) は同時期のものか。貯蔵穴 P5 (長軸 70～短軸 46 cm、深さ 39 cm) はほぼ長方形を呈し、北東隅に位置する。壁溝 D1 (幅 13～35 cm、深さ約 10 cm) は壁際を全周する。間仕切り溝 D2 (幅 20～37 cm、深さ 15 cm) は東壁際から東西方向に掘られる。掘方 北西コーナー及び、南壁際を若干深く掘り窪める。深さは 15～20 cmほどと浅く、ローム塊を多量含む。暗褐色土で埋戻している。カマド 北壁中央部に位置し、壁をU字状に掘り込んでいる。煙道は約 50° で立ち上がる。袖部はローム地山を掘り残し、その上に灰褐色粘土を貼付け構築している。燃烧部内から出土した礫 (25) は被熱しており支脚と考えられる。カマド内及びその周辺からは甕・甑類が多く出土した。13の土師器甕と15の土師器甑はカマド燃烧部から折り重なるように出土した。この他カマド東側には11の土師器甕と、14の土師器甑が並ぶように出土しており、この場所に遺棄されたものと考えられる。12はカマド右袖部から出土しており、カマド芯材として利用されたものか。遺物 土器はこの他に土師器坏類、手握ね土器、高坏などがある。1～5までの土師器坏はいずれも床面付近から出土しており遺存度も高い。8の高坏は破面を打ち欠いており、他の用途に転用した可能性がある。石器は支脚 (25)・編物石 (26～28)、鉄製品は柄先金具の付いた刀子 (29) が出土している。この他に鉄滓 (30) がある。不掲載遺物 (土器類) は小コンテナ2箱分で、礫の総重量は 3.1 kgである。遺物から古墳時代後期後葉の建物跡と考えたい。



SI-36		P1~P4		P7	
1	褐色土 ローム粒・焼土粒微量。しまり強、粘性極めて強。	1	暗褐色土 ローム塊多量。しまり強、粘性強。	1	暗褐色土 ローム塊多量。しまり弱、粘性強。
2a	暗褐色土 ローム粒・焼土粒少量。しまりやや強、粘性強。	2	黒褐色土 ローム塊多量。しまり弱、粘性強。(柱痕)	2	黄褐色土 ローム塊主体。しまり弱、粘性強。
2b	褐色土 ローム粒中量、焼土粒少量。しまりやや強、粘性強。	3	褐色土 ローム大塊主体。しまりやや弱、粘性強。(裏込め)	P8	
3a	明褐色土 ローム粒多量。しまりやや強、粘性極めて強。	4	明褐色土 ローム大塊主体。しまりやや弱、粘性強。(裏込め)	1	暗褐色土 ローム小塊多量。しまり強、粘性強。
3b	褐色土 ローム粒多量、焼土粒少量。しまりやや強、粘性極めて強。	5	褐色土 ローム大塊主体。しまりやや弱、粘性強。	2	黒褐色土 ローム小塊微量。しまり強、粘性強。
3c	黒褐色土 しまりやや強、粘性極めて強。	P5		D2	
4a	黒褐色土 ローム粒微量。しまりやや強、粘性極めて強。	1	暗褐色土 ローム小塊多量。しまり弱、粘性強。	1	暗褐色土 ローム塊多量。しまり弱、粘性強。
4b	黄褐色土 ローム塊多量。しまりやや強、粘性極めて強。	2	黒褐色土 ローム小塊少量。しまり弱、粘性強。	2	黄褐色土 ローム塊主体。しまり弱、粘性強。
5a	褐色土 ローム粒中量、焼土粒微量。しまりやや強、粘性強。(攪乱か)	3	褐色土 ローム塊多量。しまり強、粘性強。	L-L' M-M'	
5b	暗褐色土 ローム粒・粘土粒少量。しまりやや強、粘性強。(攪乱か)	P6		1	暗褐色土 ローム塊多量。しまり強、粘性強。(貼床)
6a	暗灰褐色土 粘土粒・焼土粒多量。しまり強、粘性極めて強。	1	暗褐色土 ローム塊少量。しまり弱、粘性あり。		
7	暗褐色土 ローム塊主体。しまり強、粘性強。(貼床)	2	褐色土 ローム塊多量。しまり弱、粘性強。		

第81図 西刑部西原遺跡3区 SI-36 実測図(1)



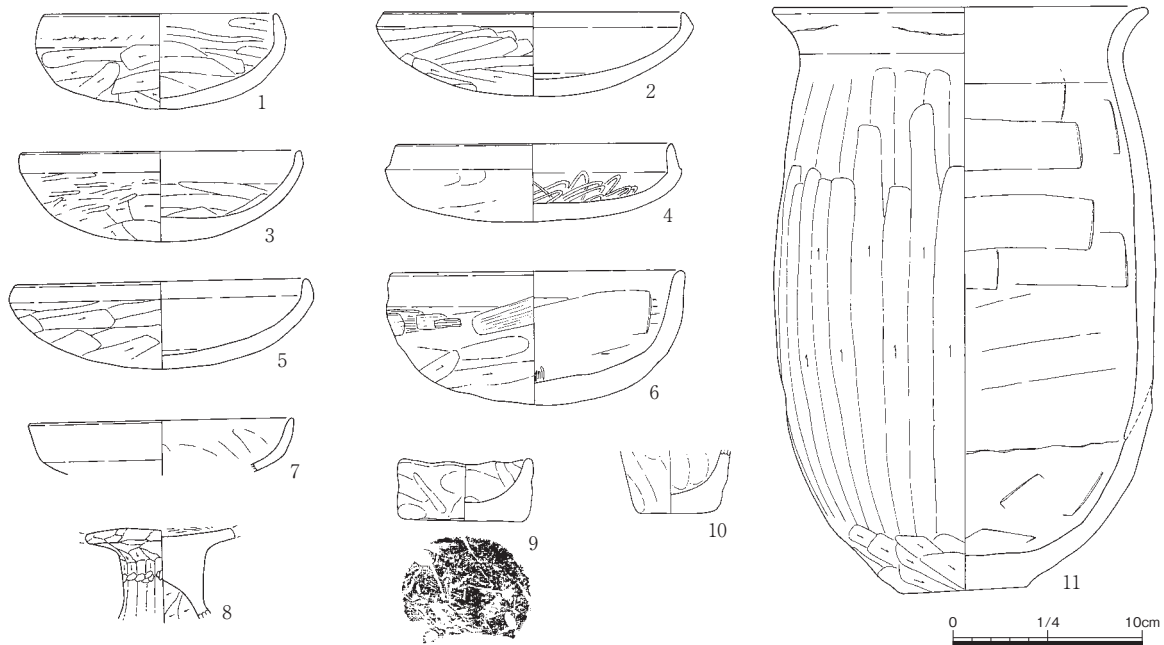
カマド

- 1・2・3a・6a 建物跡覆土に対応。
- 4c 黒褐色土 焼土粒中量、ローム粒微量。しまりやや強、粘性極めて強。
- 6b 黒灰褐色土 粘土粒・焼土粒多量。しまり強、粘性極めて強。(天井崩落土)
- 7a 暗灰褐色土 粘土塊多量、焼土粒中量。しまり・粘性極めて強。(天井崩落土)
- 7b 暗灰色粘土 粘土塊主体。しまり・粘性極めて強。(袖部)
- 7c 暗灰色粘土 粘土塊主体。しまり強、粘性極めて強。(天井崩落土)
- 8a 暗灰色粘土 粘土塊主体、焼土粒少量。しまり強、粘性極めて強。(天井崩落土)
- 8b 暗灰色粘土 粘土塊主体。焼土粒少量。しまり・粘性極めて強。(煙道の構築材)

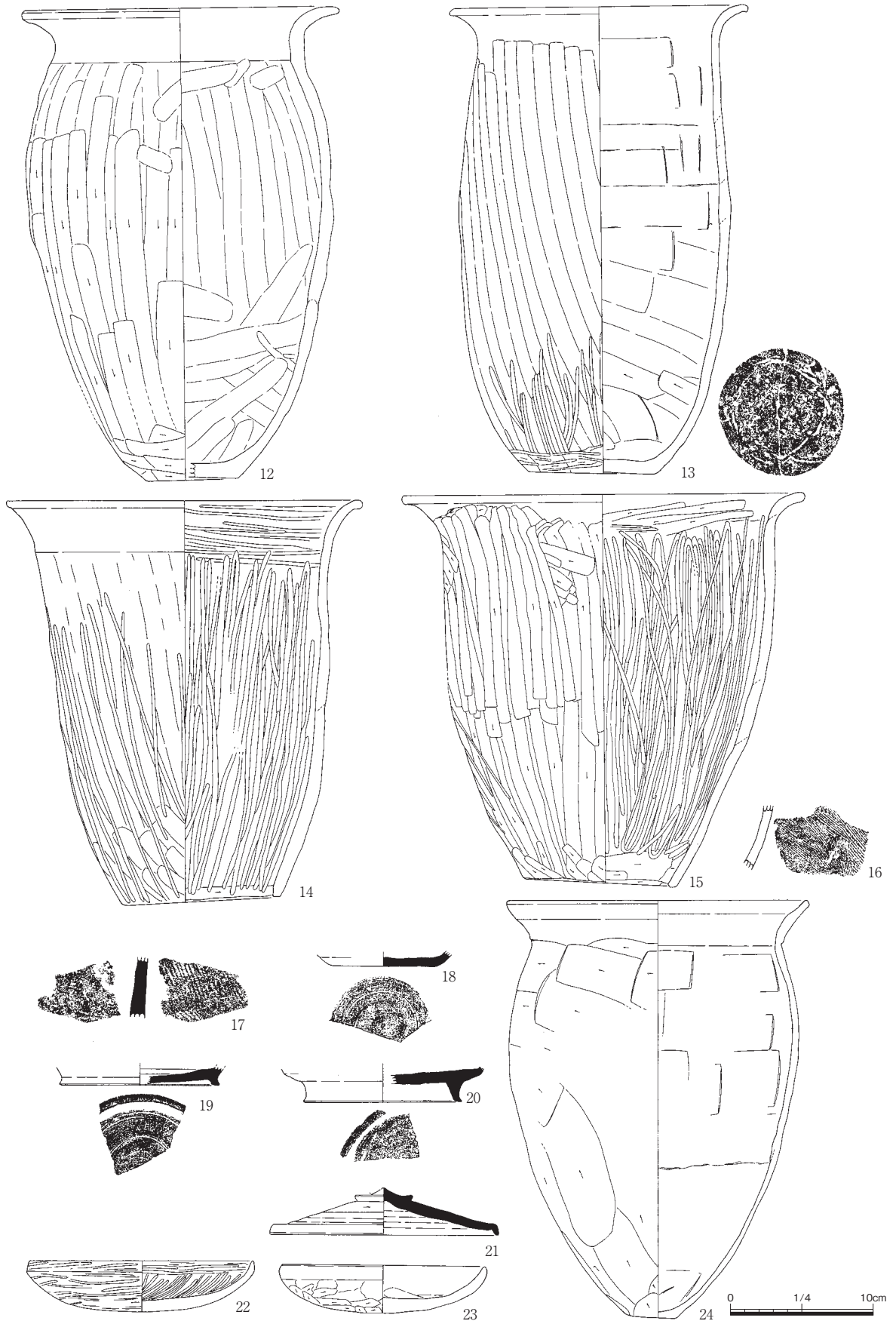
- 8c 暗灰色粘土 粘土塊主体。しまり強、粘性極めて強。(煙道の構築材)
- 9 暗褐色粘質土 焼土粒少量、粘土塊微量。しまりやや強、粘性強。(煙道の構築材)
- 10 暗灰色粘質土 粘土塊・焼土粒多量、焼土塊中量。しまり・粘性強。
- 11 赤灰色粘質土 焼土主体。(煙道内覆土)
- 12 黒褐色土 焼土小塊少量。しまり・粘性強。
- 13a 灰褐色粘土主体 しまり特に強い、粘性極めて強。(袖部)
- 13b 灰褐色粘土 灰褐色粘土塊多量。しまり強、粘性極めて強。
- 13c 灰褐色粘土 灰褐色粘土塊主体。しまり強、粘性極めて強。(袖部)
- 14 黒褐色土 焼土小塊・灰褐色粘土小塊多量。しまり・粘性強。(袖部)
- 15 暗赤褐色土 焼土塊多量、灰多く混入。しまり・粘性弱。(埋戻し)

L=86.600m
0 1:40 1m

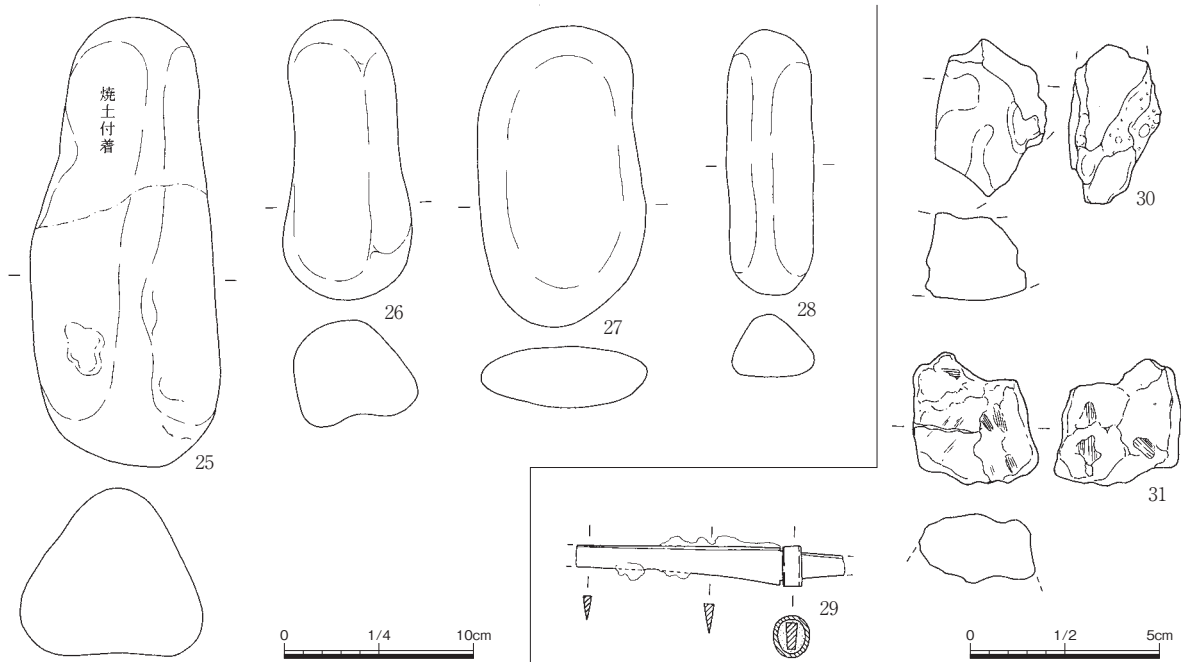
第82図 西刑部西原遺跡3区 SI-36 実測図(2)



第83図 西刑部西原遺跡3区 SI-36 出土遺物(1)



第84図 西刑部西原遺跡3区 SI-36 出土遺物(2)



第85図 西刑部西原遺跡3区 SI-36 出土遺物(3)

第29表 3区 SI-36 出土遺物観察表

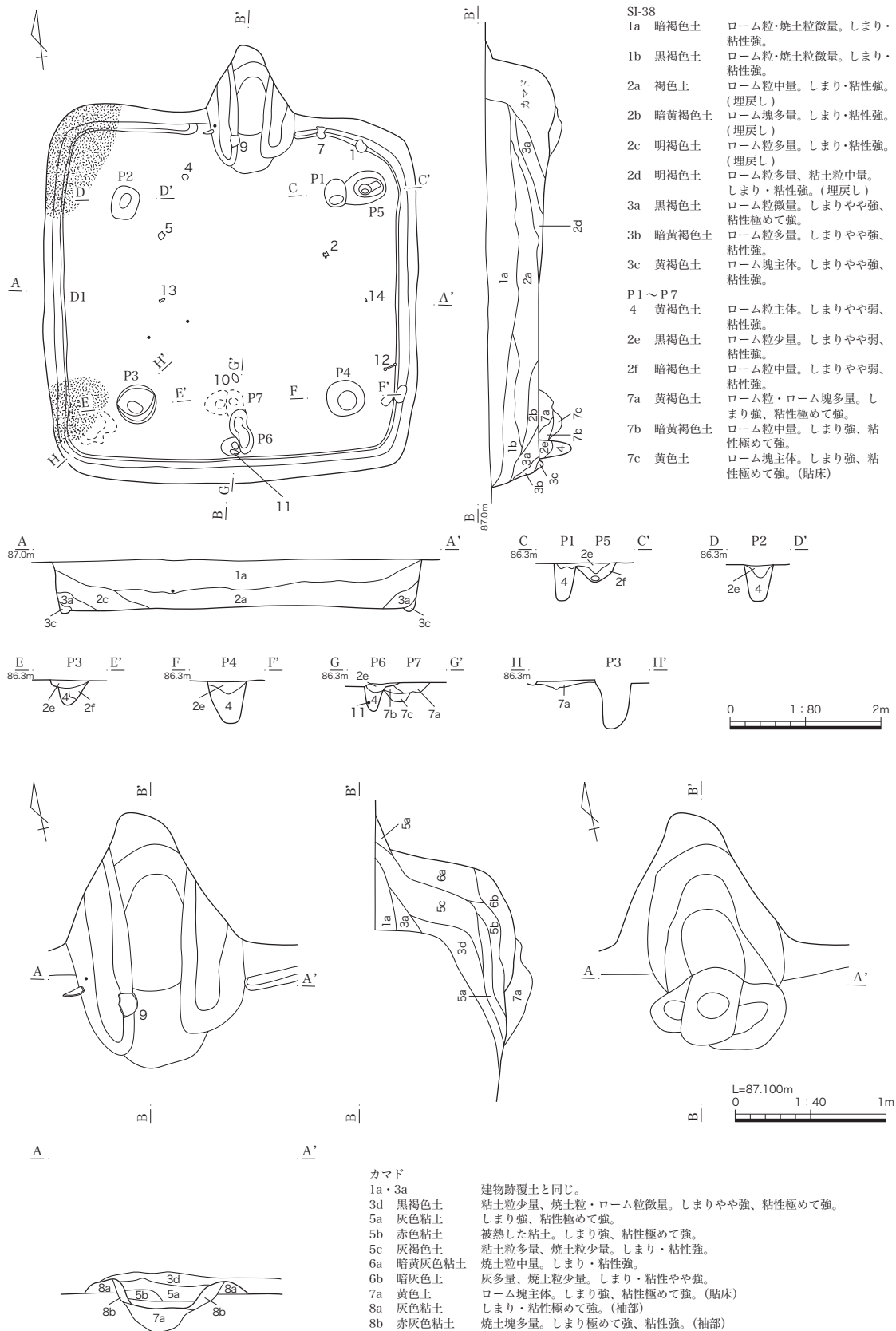
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 坏	口 12.2 高 5.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヨコナデのち明瞭なヘラナデ。胴部外面ヘラケズリのち一部ヘラナデ。口縁部にナナメの爪圧痕が巡る。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：7.5YR7/6 橙	やや緻密、灰・白細砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.2 2.2	完存
2	土師器 坏	口 15.5 高 4.5	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。底部外面使用による磨滅顕著。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：7.5YR7/2 にぶい黄橙	やや緻密、灰粗砂 焼成：軟質	No.57 2.6	完存
3	土師器 坏	口 14.5 高 4.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面～底部明瞭なヘラナデ。胴部外面～底部ヘラケズリのちヘラミガキ。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：7.5YR7/4 にぶい橙	やや緻密、黒細砂、赤粒、黒礫 焼成：やや硬質	No.1 2.7	ほぼ完存
4	土師器 坏	口 14.4 高 4.1	体部外面上半部ナデか。体部外面下半部及び底部外面ヘラケズリか。口縁部外面～体部内面ヨコナデ。体部内面疎らなヘラミガキ。内外面漆仕上げ。	内外面とも 7.5YR7/4 にぶい橙	やや緻密、黒・灰・白細砂、黒・灰・白・赤粒 焼成：やや硬質	No.49・50 床直 (No.50)	口縁部～体部3/5
5	土師器 坏	口 15.2 高 4.6	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。底部外面使用による磨滅顕著。	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR6/6 橙	緻密、黒・白細砂 焼成：軟質	No.58 0.3	完存
6	土師器 坏	口 15.8 高 7.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半部ハケ目状ヘラナデ、下半部ヘラケズリ及びナデ。体部内面ヘラナデ。底部内面欠損部(破面)に沿ってヘラミガキあり、焼成前のヒビ補修痕か。	内：10YR6/4 にぶい黄橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、白・灰・黒粗砂～礫、赤粒 焼成：軟質	No.9・10 床直 (No.10)	ほぼ完存
7	土師器 坏	口 (13.6) 高 [2.8]	口縁部内外面ヨコナデか。体部外面調整不明。体部内面ヘラナデ。全体的に器厚は薄手。北武蔵系の坏か。	内：10YR8/4 浅黄橙 外：10YR8/3 浅黄褐	やや緻密、黒・灰・白細砂、赤粒子 焼成：やや硬質、	覆土上面	口縁部1/12
8	土師器 高坏	高 [4.7]	坏部は破面を打ち欠き整えている。坏底部内面ヘラミガキのち黒色処理。坏部外面はヘラナデ。脚部側面は圧痕が全周する。圧痕は棒状工具による。脚部内面ヘラケズリのちヘラナデ。	内：1.5N5/1 黒 外：2.5Y8/3 淡黄	やや緻密、灰細砂、雲母片、赤粒 焼成：やや硬質	No.45 10.3	坏部底面の一部、脚部完存
9	土師器 手捏ね 土器	口 6.6 底 6.5 高 3.3	内面指ナデ、モミ圧痕あり。外面指ナデ及び指頭押圧。底部外面ナデか。	内外面とも 6/6 橙	やや緻密、灰細砂、赤粒 焼成：やや軟質	No.32 57.1	口縁部1/4、底部完存
10	土師器 手捏ね 土器	底 4.0 高 [3.5]	口縁部～体部内外面ナデ。底部外面ナデ。	内外面とも 5YR6/6 橙	粗い、白・黒・灰粗砂～礫、赤粒 焼成：軟質	No.23 55.6	体部～底部ほぼ完存、口縁部に欠損
11	土師器 甕	口 20.0 底 6.3 高 31.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面上半部ヘラナデのち下半部ヘラケズリ。底部外面磨滅のため調整不明。胴部外面中位に焼土(粘土か)若干付着。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：10YR7/6 明黄褐	やや粗い、白・黒・灰粗砂～礫 焼成：やや軟質	No.60 6.3	ほぼ完存
12	土師器 甕	口 21.3 底 6.0～6.3 高 33.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリのち上半部ナデ、下半部ナナメあるいはヨコヘラケズリ。胴部内面上半部タテヘラナデのち下半部ナナメあるいは横方向ナデ。胴部外面一部に炭化物付着(ススカ)。	内：7.5YR8/4 浅黄橙 外：7.5YR7/6 橙	やや粗い、白・灰細砂、灰・白・黒礫、赤・白粒 焼成：やや硬質	No.13・47・59・62・66・67、カマド床直	ほぼ完存

第3章 発見された遺構と遺物

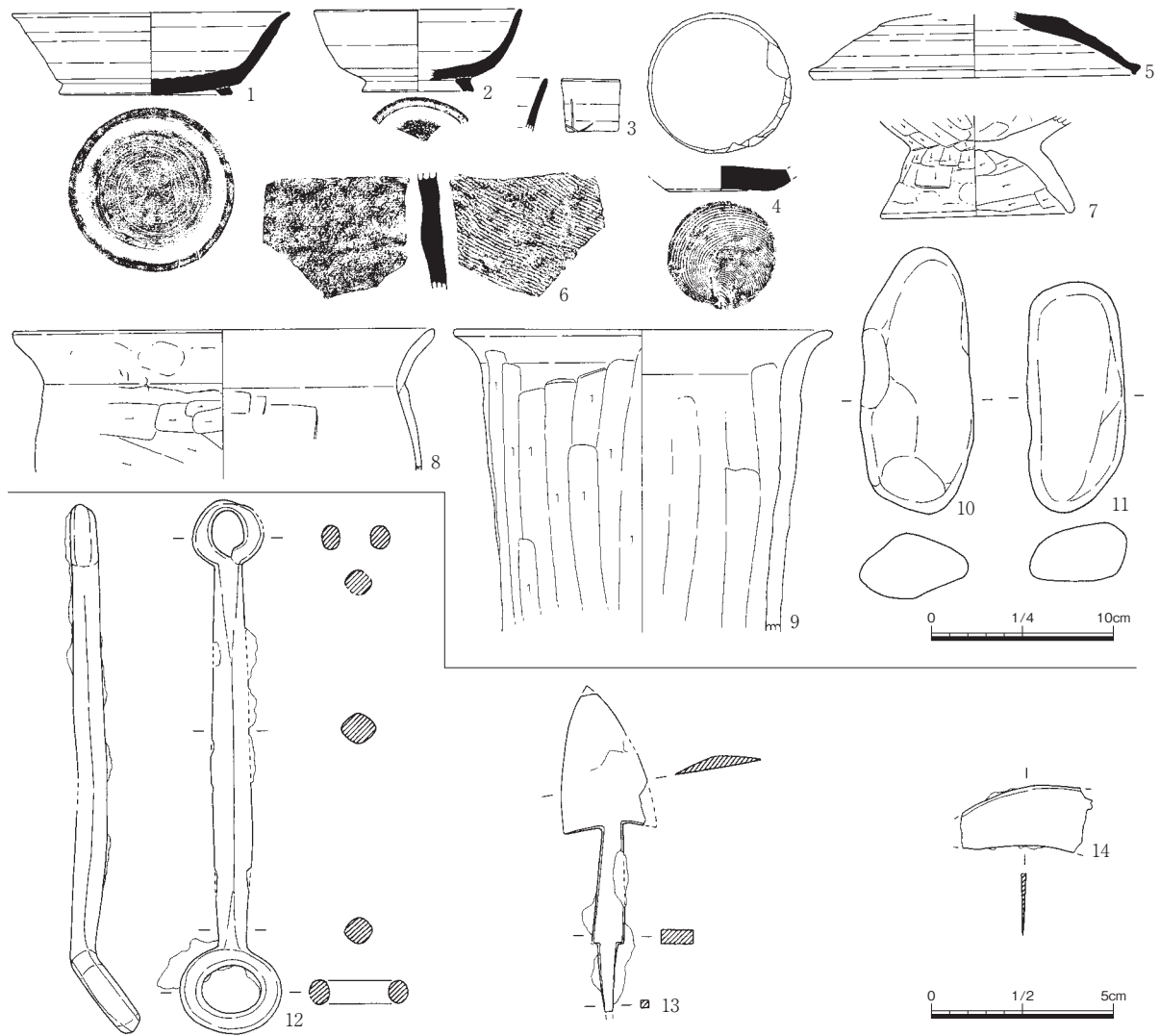
13	土師器 甕	口底高 20.6 9.0 32.7	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半ヘラナデ、下半部ヘラケズリのちヘラミガキ。底部外面ナデのち円形状の沈線または圧痕か。胴部外面焼土付着。	内：7.5YR6/6 橙 外：7.5YR6/8 橙	やや粗い、白・灰粗砂～礫、赤粒 焼成：軟質	No.4・64 7.5 (No.64)	ほぼ完存
14	土師器 甗	口底高 24.4 11.0 28.3	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部内面ヨコヘラミガキ。胴部内面下端部ヨコヘラケズリのちタテヘラミガキ。胴部外面上半部ヘラナデ、下半部ヘラケズリのちヘラミガキ。孔はヘラケズリによる穿孔。	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR7/4 にぶい橙	やや緻密、白・黒細砂、白・灰・黒砂、白礫、白粒 焼成：やや硬質	No.59 1.6	ほぼ完存
15	土師器 甗	口底高 28.3 10.5 27.6	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半部は下方向、下半部は上方向からのヘラケズリ、下端部ナメヘラケズリ。頸部内面一部にナメヘラケズリ。胴部内面下端部ヘラケズリのち、全面にやや雑なタテヘラミガキ。孔はヘラケズリにて穿孔。	内：5YR6/6 橙 外：5YR6/8 橙	やや緻密、灰細砂、赤粒 焼成：やや軟質	No.11・12・14～16・51～55・63 3.0 (No.63)	ほぼ完存
16	土師器 甕	厚高 [4.3]	内面ヘラナデ。外面ハケ目。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	やや粗い、白・灰・黒粗砂～礫 焼成：軟質	覆土上面	胴部破片
17	須恵器 甕	高厚 [4.4] 1.1	内面無文あて具痕。外面擬格子叩き。	内：5Y8/1 灰白 外：N4/0 灰	やや緻密、白・灰細砂、白・黒砂、白礫 焼成：やや硬質	覆土上面	胴部破片
18	須恵器 環	底高 [7.0] [1.2]	内面ロクロナデ。外面回転ヘラケズリ。	内外面とも 10Y5/1 灰	やや緻密、白・灰・黒細砂、白・黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	覆土上面	底部 1/2
19	須恵器 高台付 環	高底 [1.3] [10.8]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付け。高台剥離部に接合沈線あり。	内：7.5Y6/1 灰 外：2.5Y6/1 黄灰	やや緻密、灰・白・黒細砂、灰・白砂、赤粒 焼成：硬質	覆土上面	底部 1/5
20	須恵器 高台付 環	底高 (10.8) [2.4]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付け。断面から接合沈線を確認。	内外面とも 2.5Y5/1 黄灰	やや緻密、灰・白・黒砂、白・灰・黒細砂、白礫 焼成：硬質	覆土上面	底部 1/6
21	須恵器 蓋	口高 (15.8) (3.3) ワミ 3.8	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリのちツマミ貼付。歪み著しく、法量は復元値。	内：10Y5/1 灰 外：5Y5/1 灰	緻密、白細砂、白砂 焼成：硬質	No.36 56.5	天井部～体部 1/4
22	土師器 環	口高 15.4 3.6	口縁部内外面ヨコナデのちヨコヘラミガキ、体部内面放射状ヘラミガキ。外面ヘラケズリのちヨコヘラミガキ。内外面漆仕上げ。	内：10YR7/3 にぶい黄橙 外：7.5YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、白・黒・灰細砂、白・黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.56 3.7	ほぼ完存
23	土師器 環	口高 14.1 3.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部内面ヘラナデ。体部外面上半部ヘラナデ及び指頭押圧、下半部ヘラケズリ。	内：10YR7/3 にぶい黄橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、黒・灰・白細砂、黒・白砂・赤粒 焼成：やや硬質	No.48 6.3	口縁部～体部 3/5
24	土師器 甕	口底高 23.0 3.3 29.3	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナメヘラケズリ。底部外面一方向ヘラケズリ。外面にスス及び多量の粘土が付着するため調整の単位不明瞭。	内：2.5YR4/6 赤褐 外：5YR4/3 にぶい赤褐	やや緻密、白・灰・黒細砂 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 1/2、胴部 2/3
25	石器 支脚か	長幅厚重 23.5 9.5 8.8 269.8	未加工の自然礫。上半部に焼土付着。支脚か。平面形：楕円形 断面形：楕円形	10YR2/4 灰黄褐	—	No.65 床直	完存
26	石器 編物石	長幅厚重 14.7 6.4 5.5 700.0	未加工の自然礫。平面形：楕円形 断面形：不整な隅丸台形	2.5Y5/3 黄褐	—	No.4 33.8	ほぼ完存
27	石器 編物石	長幅厚重 15.8 0.7 3.1 664.0	未加工の自然礫。平面形：不整な楕円形 断面形：楕円形	2.5Y6/1 黄褐	—	No.33 42.6	完存
28	石器 編物石	長幅厚重 14.0 3.6 4.0 322.0	未加工の自然礫。平面形：楕円形 断面形：隅丸三角形	2.5Y6/3 にぶい黄	—	No.38 48.6	完存
29	鉄製品 刀子	長幅厚重 [7.1] 1.1 1.0 [6.3]	関は両関。刃部は平造りで、中央は低ぎ減りしたものか。角棟で棟幅は 2.5 mm。柄縁の幅は 4.7 mm、断面形は上下に長い楕円形を呈し、内部に木質が残る。	—	鉄製	No.43 38.5	先端部及び茎端部を欠損
30	鉄滓	長幅厚重 [4.2] [2.9] [2.2] [30.6]	腕形鍛冶滓の破片。破面 4 面。緻密で重い。上面はなめらかで気孔無し。右上部にサビ。下面は気孔多い。炉壁の付着なし。	表：サビ有 7.5YR5/6 明褐 裏：サビ有 7.5YR5/6 明褐 サビ無 10Y4/1 灰	磁着度：3	覆土中	部欠
31	焼成粘 土塊	長幅厚重 3.4 3.0 1.8 11.8	ワラなどの混入物あり。裏面全面が破面と考えられる。	5YR5/6 明赤褐	粗い、白細砂～粗砂、透明礫、赤粒 焼成：軟質	覆土中	部分欠損

3区 SI-38 (遺構：第 86 図、遺物：第 87 図、図版一二・八五・八六・一一二・一一五)

位置 グリッド 92.0-52.0 重複遺構 無し。 平面形 隅丸正方形 規模 東西 4.88×南北 4.96 m 主軸方向 N -5.5° - E 覆土 覆土下層は埋戻し、上層は自然堆積か。 壁 壁高は 63～75 cm 残存。 床 ROOM 地山を床面とし、概ね平坦である。硬化面は確認できない。 柱穴 P1 (径 37～29 cm、深さ 49 cm)、P2 (径 45～35 cm、深さ 46 cm)、P3 (径 51～60 cm、深さ 61 cm)、P4 (径約 48 cm、深さ 55 cm) は主柱



第86図 西刑部西原遺跡3区 SI-38 実測図



第 87 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-38 出土遺物

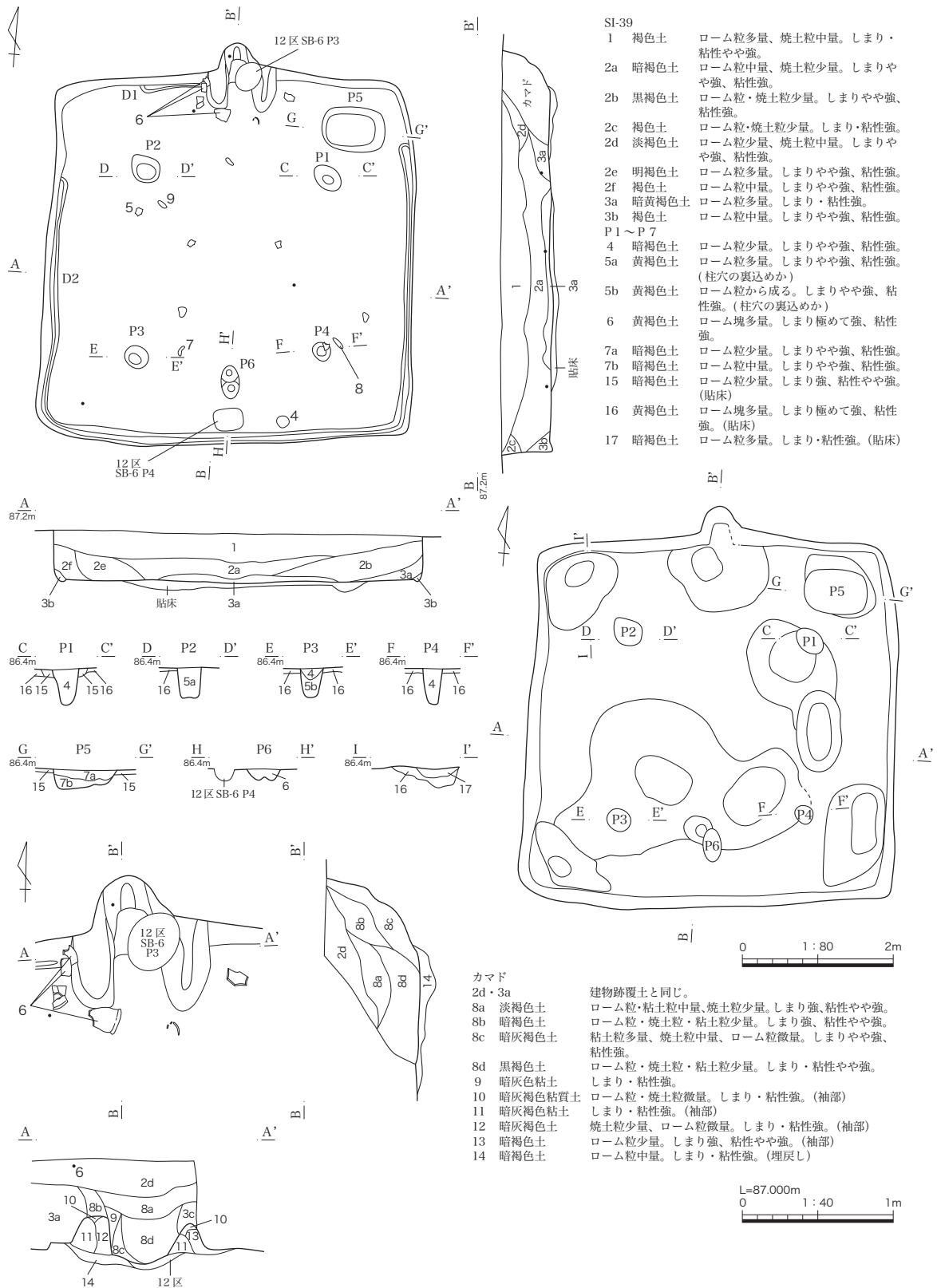
穴か。柱痕は確認できなかった。 入口ピット P6 (径 57 ~ 23 cm、深さ 36 cm)、P7 (径 49 ~ 32 cm、深さ 25 cm) は位置的に入口関連の痕跡と思われる。 貯蔵穴 P5 (径 52 ~ 43 cm、深さ 25 cm) は P1 に近接する。 壁溝 D1 (幅 7 ~ 13 cm、深さ cm) は壁際を全周する。 掘方 南西隅に浅い掘り込みあり。ローム塊主体の 7a 層で埋戻している。 カマド 北壁中央部を、先端の丸い三角形に掘り込んでいる。煙道は 77° と急角度で立ち上がる。また焼土も煙道部に多く認められる。燃焼部は不定形に掘り込み 7a 層で埋戻す。袖は灰色粘土を使用する。9 の土師器甕はカマド芯材に転用されたものか。 遺物 殆どが覆土中から出土し、床面付近の遺物は礫と編物石のみである。土器類は須恵器坏・高台付坏・蓋、土師器甕・台付甕、石器類は編物石、鉄製品は鎌・鍬・引手がある。3 は坏体部側面にヘラ記号が見られる。4 は須恵器坏底部破片の縁辺を打ち欠いている。8 は薄手の武蔵型甕。12 の引手は柄と壺が一体となる、いわゆる一本引手である。不掲載土器類の総量は小コンテナ 1 箱弱、礫の重量は約 5.2 kg である。遺物から奈良時代前葉の建物跡と考えられる。

第30表 3区 SI-38 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器高台付環	口 15.0 底 9.2 高 4.5	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。内面縁部に褐色付着物あり。	内外面とも 2.5Y7/4 浅黄	やや緻密、白・灰細砂～礫 焼成：やや硬質	No.11 10.9	口縁部1/2、底部完存
2	須恵器高台付環	口 (11.2) 底 (6.0) 高 4.5	口縁部内外面ロクロナデ。体部外面下端回転ヘラケズリ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。内面は赤褐色。外面は全面降灰。伏せて焼かれたものか。	内：7.5YR6/4 にぶい橙 外：7.5YR6/1 灰	緻密、灰・黒・白細砂 焼成：硬質	No.12 53.1	口縁部1/10、体部～底部1/4
3	須恵器環	高 [3.0] 長 14.5	内外面ロクロナデ。体部外面ヘラ記号あり。	内外面とも 10YR8/4 浅黄橙	緻密、白細砂 焼成：硬質	覆土中	口縁部破片
4	須恵器環	底 6.0 高 [1.4]	底部内面ロクロナデ。底部外面回転糸切り。破面一部を打ち欠いて整えている。パレットなどの転用品か。	内外面とも 2.5Y5/1 黄灰	緻密、灰・白細砂 焼成：硬質	No.6 71.3	底部のみ完存
5	須恵器蓋	口 (18.0) 高 [3.5]	天井部外面回転ヘラケズリ。内外面ロクロナデ。	内外面とも 5Y6/1 灰	緻密、白細砂、白礫 焼成：硬質	No.5 70.7	口縁部～体部1/6
6	須恵器甕	高 [6.5]	内面ナデのち無文であ具痕。外面平行叩き。	内：7.5YR6/1 灰 外：10YR6/1 灰	やや粗い、白・灰粗砂～礫、雲母片 焼成：硬質	覆土中	胴部破片
7	土師器台付甕	底 10.4 高 [5.6]	底部内面ナデ。胴部外面下端ヘラケズリ。脚部内外面下端弱いヨコナデ。脚部外面指頭押圧のちナデのちタテヘラケズリ。脚部内面ヘラケズリ。	内外面とも 10YR5/2 灰黄褐	粗い、白・灰、黒粗砂～礫 焼成：硬質	No.10 8.9	底部～脚部ほぼ完存
8	土師器甕	口 (17.0) 高 [8.6]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラケズリ。	内：5YR6/6 橙 外：5YR6/8 橙	やや緻密、白細砂～粗砂 焼成：軟質	覆土中	口縁部～胴部1/8
9	土師器甕	口 (20.4) 高 [17.1]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面タテヘラナデ。特に外面は磨滅風化が著しく調整は不明瞭。	内外面とも 10YR8/4 浅黄橙	やや緻密、灰・黒・白細砂、白・灰砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.18 15.6	口縁部一部～胴部上半1/4
10	石器編物石	長 14.5 幅 6.1 厚 3.6 重 427.7	未加工の自然礫。平面形：楕円形 断面形：不整なレンズ状	10YR7/3 にぶい黄橙	—	No.17 3.0	完存
11	石器編物石	長 12.8 幅 5.3 厚 3.3 重 334.1	未加工の自然礫。平面形：不整な隅丸長方形 断面形：不整な楕円形	N4/1 灰	—	No.18 15.6	完存
12	鉄製品轡(引手)	長 14.7 幅 2.8 厚 0.9 重 44.2	柄と壺が一体となる一本引手。端環の外径は約2cm、上端のみ細く、磨り減ったためか。柄の断面形は中央部では菱形に近く稜を有する。最大幅約1.1cm、厚さ8.0mm。壺は径2.6～2.8cmの楕円形を呈し、柄に対しくの字に屈曲する。	—	鉄製	No.1 4.8	引手部分完存
13	鉄製品鉄鎌	長 [8.8] 幅 2.4 重 [16.2]	鎌身に比べ頸部が短い短頸鎌。鎌身は片丸造りで、脇挟をもつ三角形を呈する。寛被は台形間で、最大幅9mmほどの断面長方形。茎下端部を欠損。	—	鉄製	No.3 60.3	茎下端部欠損
14	鉄製品鎌か	長 [3.5] 幅 [1.8] 重 [3.9]	曲刃鎌の先端部破片か。刃部は平造り。棟は平坦で、棟幅1.8ミリと薄い。	—	鉄製	No.15 5.5	先端部のみ残存

3区 SI-39 (遺構：第88図、遺物：第89図、図版一二・八六)

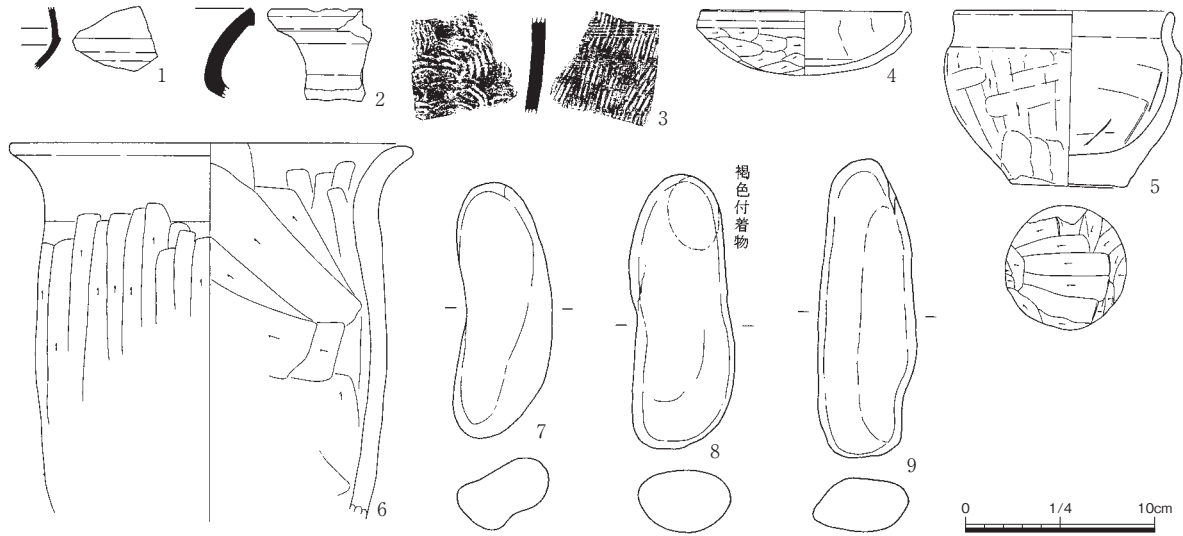
位置 グリッド 92.5-52.5 重複遺構 12区 SB-6 (時期不明) より新しい。 平面形 隅丸方形 規模 東西 4.82× 南北 4.87 m 主軸方向 N -3.5° - E 覆土 7層に分層される。自然堆積と考えられる。 壁 壁高は 56～69 cm 残る。 床 中央部及び四隅に貼床あり。概ね平坦で硬化面は確認できなかった。 柱穴 P1 (径 41～28 cm、深さ 47 cm)、P2 (径 44～35 cm、深さ 40 cm)、P3 (径 31～29 cm、深さ 37 cm)、P4 (径 26～24 cm、深さ 38 cm) は主柱穴。柱痕は未確認。 入口ピット P6 (径 46～24 cm、深さ 15 cm) は浅く平面楕円形を呈する。 貯蔵穴 P5 (長軸 82～短軸 59 cm、深さ 24 cm) は建物跡北東隅に位置する。 壁溝 北西隅・カマド東側から北東隅を除く壁際を巡る。D1 (幅 10～15 cm、深さ 5 cm)、D2 (幅 10～24 cm、深さ 2～5 cm) 共に幅は狭く浅い。 掘方 四隅に土坑状の掘り込みをもつ。深さは 20～30 cm で、16・17 層で埋戻している。中央部の掘り込みは浅く不整形。 カマド 北壁中央部を台形状に浅く掘り込み煙道としている。焼土は全体的に少ないが煙道部に集中する。 遺物 土器類は須恵器環・高環・甕が、土師器は環・小型甕・甕などが出土。この他編物石 3点を図示した。4の土師器環は床面付近の出土。口径が小さくミガキをもたない。不掲載土器類は小コンテナ 1箱弱、礫の総重量は 2.2 kg である。遺物から古墳時代終末期 (7世紀前半) の建物跡と思われる。



- SI-39
- | | | |
|-------|-------|-------------------------------|
| 1 | 褐色土 | ローム粒多量、焼土粒中量。しまり・粘性やや強。 |
| 2a | 暗褐色土 | ローム粒中量、焼土粒少量。しまりやや強、粘性強。 |
| 2b | 黒褐色土 | ローム粒・焼土粒少量。しまりやや強、粘性強。 |
| 2c | 褐色土 | ローム粒・焼土粒少量。しまり・粘性強。 |
| 2d | 淡褐色土 | ローム粒少量、焼土粒中量。しまりやや強、粘性強。 |
| 2e | 明褐色土 | ローム粒多量。しまりやや強、粘性強。 |
| 2f | 褐色土 | ローム粒中量。しまりやや強、粘性強。 |
| 3a | 暗黄褐色土 | ローム粒多量。しまり・粘性強。 |
| 3b | 褐色土 | ローム粒中量。しまりやや強、粘性強。 |
| P1~P7 | | |
| 4 | 暗褐色土 | ローム粒少量。しまりやや強、粘性強。 |
| 5a | 黄褐色土 | ローム粒多量。しまりやや強、粘性強。(柱穴の裏込めか) |
| 5b | 黄褐色土 | ローム粒から成る。しまりやや強、粘性強。(柱穴の裏込めか) |
| 6 | 黄褐色土 | ローム塊多量。しまり極めて強、粘性強。 |
| 7a | 暗褐色土 | ローム粒少量。しまりやや強、粘性強。 |
| 7b | 暗褐色土 | ローム粒中量。しまりやや強、粘性強。 |
| 15 | 暗褐色土 | ローム粒少量。しまり強、粘性やや強。(貼床) |
| 16 | 黄褐色土 | ローム塊多量。しまり極めて強、粘性強。(貼床) |
| 17 | 暗褐色土 | ローム粒多量。しまり・粘性強。(貼床) |

- カマド
- | | |
|-------|---|
| 2d・3a | 建物跡覆土と同じ。 |
| 8a | 淡褐色土
ローム粒・粘土粒中量、焼土粒少量。しまり強、粘性やや強。 |
| 8b | 暗褐色土
ローム粒・焼土粒・粘土粒少量。しまり強、粘性やや強。 |
| 8c | 暗灰褐色土
粘土粒多量、焼土粒中量、ローム粒微量。しまりやや強、粘性強。 |
| 8d | 黒褐色土
ローム粒・焼土粒・粘土粒少量。しまり・粘性やや強。 |
| 9 | 暗灰色粘土
しまり・粘性強。 |
| 10 | 暗灰褐色粘質土
ローム粒・焼土粒微量。しまり・粘性強。(袖部) |
| 11 | 暗灰褐色粘質土
しまり・粘性強。(袖部) |
| 12 | 暗灰褐色土
焼土粒少量、ローム粒微量。しまり・粘性強。(袖部) |
| 13 | 暗褐色土
ローム粒少量。しまり強、粘性やや強。(袖部) |
| 14 | 暗褐色土
ローム粒中量。しまり・粘性強。(埋戻し) |

第88図 西刑部西原遺跡3区 SI-39実測図



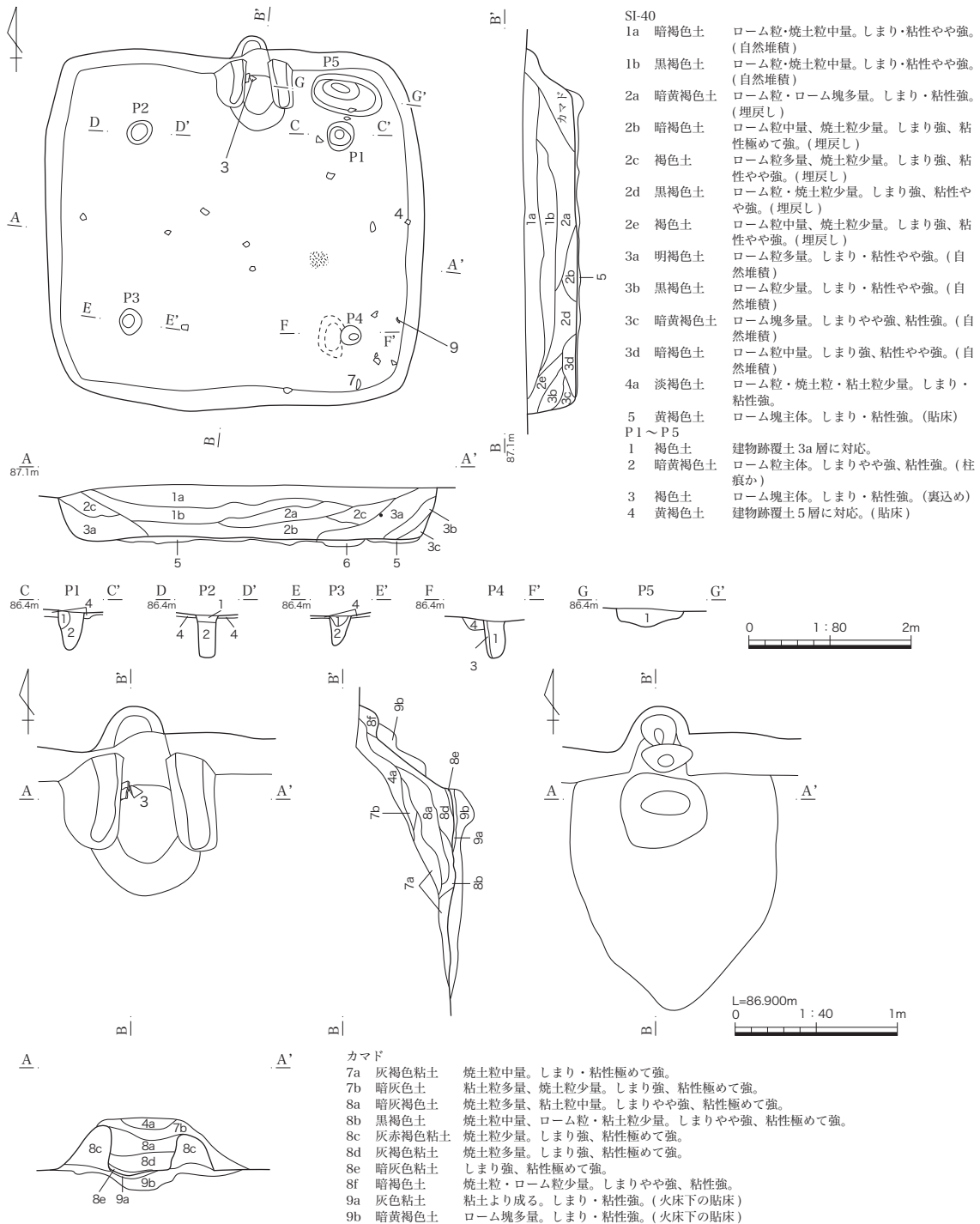
第 89 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-39 出土遺物

第 31 表 3 区 SI-39 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技 法 ・ 特 徴	色 調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	須恵器 高杯	高 [3.3]	ロクロナデ。口縁部外面自然釉付着。薄手で焼成良好。東海産か。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：2.5Y7/1 灰白	緻密、白・灰・黒細砂 焼成：硬質	覆土中	坏部破片
2	須恵器 甕	厚 0.9 高 [9.8]	口縁部内外面ロクロナデ。口縁端部は肥厚。	内：7.5Y5/1 灰 外：7.5Y6/1 灰	緻密、白・黒灰粗砂～礫 焼成：硬質	上面	口縁部破片
3	須恵器 甕	高 [5.2] 厚 0.6~0.7	内面同心円状あて具痕。外面平行叩き。	内：7.5Y8/1 灰白 外：5Y6/1 灰	緻密、黒細砂、白砂 焼成：硬質	覆土中	胴部破片
4	土師器 坏	口 10.7 高 3.4	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。	内：7.5YR6/6 橙 外：5YR6/6 橙	やや粗い、黒・灰・白細砂、灰砂 焼成：やや硬質	No. 18 3.6	完存
5	土師器 小型甕	口 (11.4) 底 6.5 高 9.3	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラナデ。底部外面ヘラケズリ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、灰・黒・白細砂、黒・白砂、赤粒 焼成：やや硬質	上面	口縁部～体部 1/3、底部完存
6	土師器 甕	口 (21.0) 高 [19.8]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面タテヘラナデのち強めのナメヘラナデ。胴部外面タテヘラケズリ。	内：7.5YR6/8 橙 外：5YR6/8 橙	やや粗い、白・灰・黒細砂～礫、赤粒 焼成：やや軟質	カマド	口縁部～胴部 1/3
7	石器 編物石	長 12.8 幅 4.5 厚 3.1 重 307.0	未加工の自然礫。平面形：不整な楕円形 断面形：不整形	10Y7/1 灰白	—	No. 2 床直	完存
8	石器 編物石	長 14.3 幅 5.0 厚 3.3 重 413.0	未加工の自然礫。一部に褐色の付着物あり。平面形：長い楕円形 断面形：楕円形	2.5Y7/3 浅黄	—	No. 13 15.1	完存
9	石器 編物石	長 15.6 幅 5.2 厚 2.8 重 367.0	未加工の自然礫。平面形：不整な棒状 断面形：隅丸の菱形	5GY8/1 灰白	—	No. 5 2.4	完存

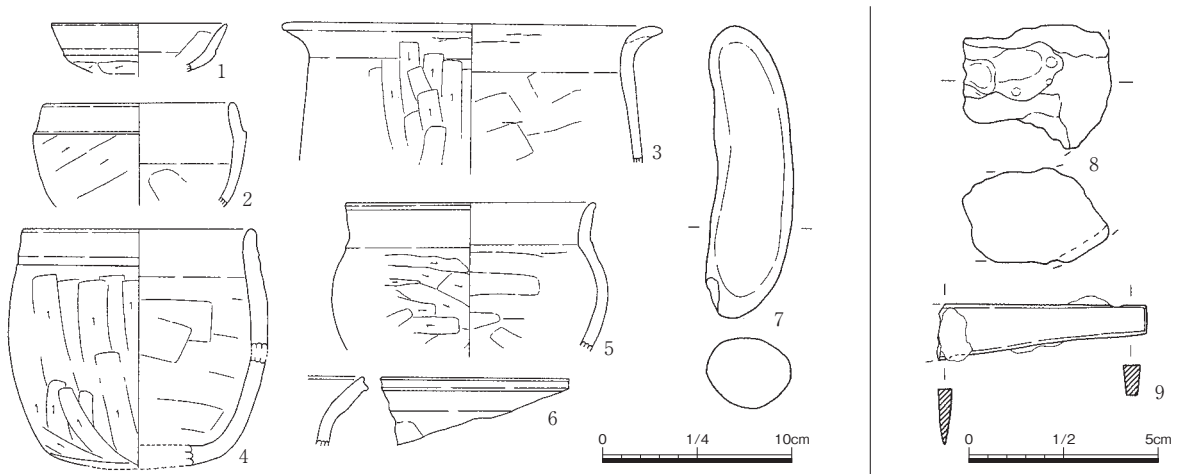
3区 SI-40 (遺構：第90図、遺物：第91図、図版一二・一三・一一五・一一六)

位置 グリッド 92.5-52.5 重複遺構 12区 SB-6 (時期不明) より新しい。平面形 隅丸方形 規模 東西 4.82×南北 4.87 m 主軸方向 N -3.5° - E 覆土 覆土下層は人為埋戻しの可能性がある。壁 壁高は 56 ~ 69 cm残る。床 ほぼ全面的に薄く貼床あり。柱穴 P1 (径 41 ~ 28 cm、深さ 47 cm)、P2 (径 44 ~ 35 cm、深さ 40 cm)、P3 (径 31 ~ 29 cm、深さ 37 cm)、P4 (径 26 ~ 24 cm、深さ 38 cm) は主柱穴。



第90図 西刑部西原遺跡3区 SI-40 実測図

このうち P4 には柱痕が見られる。 入口ピット・壁溝 未確認。 貯蔵穴 P5 (長軸 84 ~ 短軸 44 cm、深さ 22 cm) は北東コーナーに位置する。 掘方カマド 北壁中央部に位置し、壁面を小さく半円形に掘り込む。煙道は上半部で段をもつ。床面は浅く広く掘り込み、ローム塊を多量に含む 9a・9b 層で埋戻している。遺物 土師器は坏・鉢・甕が出土。石器は編物石、鉄製品は刀子、その他鉄滓が見られる。不掲載遺物のうち土器類は殆どが土師器甕・坏類で、小コンテナ 1 箱弱、礫は約 600 g 出土した。遺物から古墳時代終末期 (7 世紀前半) の建物跡と考えられる。



第 91 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-40 出土遺物

第 32 表 3 区 SI-40 出土遺物観察表

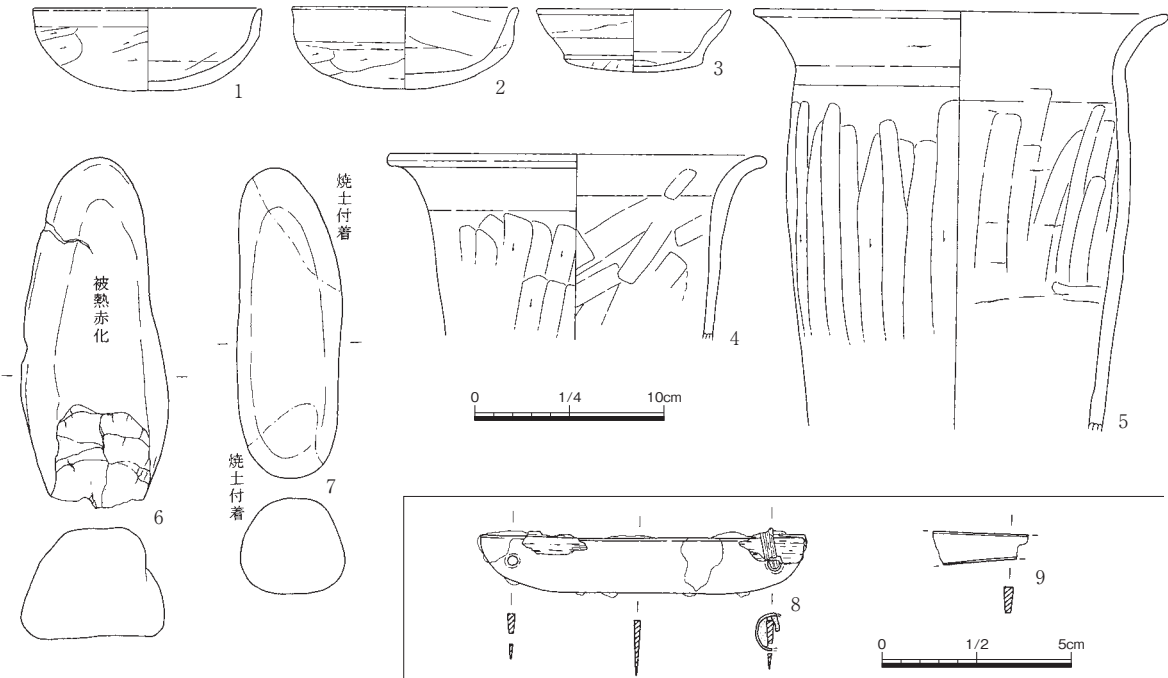
掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	土師器 坏	口 (9.1) 高 [2.6]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内面ナデ。漆仕上げ。	内: 10YR6/2 灰黄橙 外: 10YR7/2 にぶい黄橙	やや緻密、黒・白細砂、黒・灰砂赤粒 焼成: やや硬質	覆土中	口縁部~体部 1/4
2	土師器 鉢	口 (9.8) 高 [5.4]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ナメヘラケズリか。	内外面とも 2.5Y7/1 灰白	やや緻密、黒・白・灰細砂、黒・白砂 焼成: やや硬質	覆土中	口縁部~体部 1/4
3	土師器 甕	口 (20.0) 高 [7.8]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面タテヘラケズリ。	内: 7.5YR7/6 橙 外: 10YR6/4 にぶい黄橙	やや粗い、黒・灰・透明・白粗砂~礫 焼成: 軟質	No. 20 9.3	口縁部~胴部上半 1/6
4	土師器 甕か	口 15.7 高 [13.4]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。底部外面ヘラケズリ。胴部~底部内面ヘラナデ。	内: 2.5Y7/3 浅黄 外: 10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、黒・灰・白細砂、黒砂、赤粒 焼成: やや硬質	No. 15 38.7	口縁部 1/6、 底部 1/5
5	土師器 鉢	口 (14.0) 高 [7.8]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヨコまたはナメヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。	内: 10YR8/4 浅黄橙 外: 10YR8/6 黄橙	緻密、黒・灰・白細砂~粗砂、赤粒 焼成: やや軟質	覆土中	口縁部~胴部上半 1/6
6	土師器 甕	口 (26.0) 高 [3.7]	口縁部内外面ヨコナデ。	内: 5YR6/6 橙 外: 5YR6/4 にぶい橙	やや緻密、白・透明・黒細砂、白・黒砂、白・赤粒 焼成: やや硬質	覆土中	口縁部 1/8
7	石器 編物石	長 15.0 幅 4.4 厚 3.7 重 347.0	未加工の自然礫。 平面形: 曲がった棒状 断面形: 不整な楕円形	2.5Y7/2 灰黄	-	No. 8 27.2	完存
8	鉄滓	長 [3.2] 幅 [3.9] 厚 [2.5] 重 [30.1]	碗形鍛冶滓か。上面は気孔 1 か所、錆化あり。下面は気孔 1 か所あり。下面の一部には砂粒の混入した炉底の粘土が付着。	表: サビ有 5YR6/4 にぶい橙 サビ無 5Y5/1 灰裏: サビ有 10YR5/4 にぶい黄褐	磁着度: 5	覆土中	部分残存
9	鉄製品 刀子	長 [5.5] 幅 [1.5] 重 [13.7]	刃部が僅かに残る刀子破片。棟幅は 4.8 mm と茎端部が最も広い。関は浅く、刃部側にのみ認められる。	-	鉄製	No. 12 17.4	刃部一部、 茎完存

3区 SI-41 (遺構：第93図、遺物：第92図、図版一三・八六・一一三)

位置 グリッド 92.0-52.5 重複遺構 3区 SI-42、12区 SI-3 と重複し、いずれより古い。 平面形 隅丸長方形 規模 東西 5.05 m以上 × 南北 3.55 m 主軸方向 N - 1° - E (推定値) 覆土 人為埋戻しと考えられる。 壁 壁高 43 ~ 56 cm 床 概ね平坦で全面が貼床。硬化面なし。 柱穴 確認できなかった。

入口ピット P2 (径 53 ~ 50 cm、深さ 24 cm) 貯蔵穴 P1 (長軸 57 × 短軸 46 cm、深さ 27 cm) はカマド西側に位置する。 壁溝 確認できなかった。 掘方 全面的に不整形な掘り込みをもつ。最深部で 30 cm。

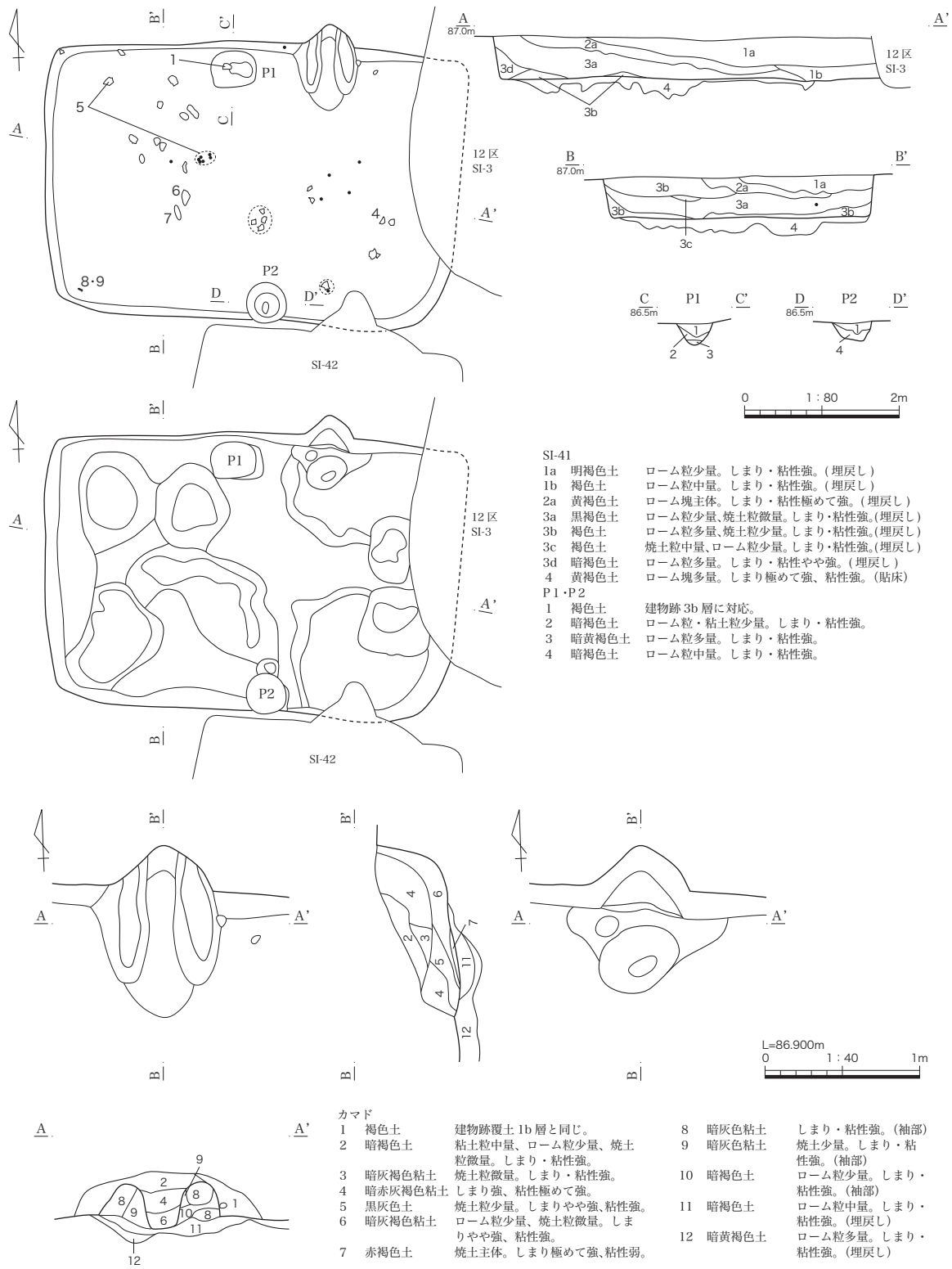
カマド 北壁中央部やや東寄りに位置する。壁際を三角形に掘り込む。煙道は短く約 80° で直線的に立ち上がる。床下は皿状に掘り込み暗褐色土 (11 層) で埋戻している。火床面は強く被熱している。 遺物 出土遺物は少なく、土師器坏・甕の他、編物石、鉄製品を図示した。床面直上遺物は 1 の土師器坏と 5 の土師器甕がある。手鎌 (8) は完形品。背には木製の持ち手と、それを括り付ける紐が残っている。6・7 は編物石としたが、被熱しており他の用途に用いられた可能性もある。不掲載遺物のうち土器類は殆どが土師器甕・坏類の小破片で、小コンテナ 1/3 弱、礫は約 4 kg 出土した。遺物から古墳時代終末期 (7 世紀前半 ~ 中葉) の建物跡と考えられる。



第92図 西刑部西原遺跡3区 SI-41 出土遺物

第33表 3区 SI-41 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	土師器坏	口 (11.8) 高 4.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部~底部外面ヘラケズリか。口縁部内外面一部暗褐色を呈する。漆仕上げか。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密、白・透明・灰細砂、白・灰砂、白・赤粒 焼成：やや硬質	No. 5 床直	体部~底部 1/2
2	土師器坏	口 11.7 高 4.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面磨滅のため不明瞭だが、ヘラケズリか。	内外面とも 10YR8/4 浅黄橙	やや緻密、白・灰粗砂 焼成：軟質	覆土中	口縁部~体部 5/6
3	土師器坏	口 (10.0) 底 7.3 高 3.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部~底部外面ヘラケズリ。	内：7.5YR7/6 橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、白・透明・黒細砂~礫、赤粒 焼成：硬質	覆土中	口縁部 1/2、底部 完存
4	土師器甕	口 (19.6) 高 [9.8]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ナメヘラナデ。胴部外面タテヘラケズリ。外面の一部黒斑あり。	内：10YR5/4 にぶい黄橙 外：10YR6/4 にぶい黄橙	やや粗い、白・黒・灰細砂~粗砂 焼成：硬質	No. 2、南西、北東、南東 44.5	口縁部~胴部 上半 1/4



第93図 西刑部西原遺跡3区 SI-41 実測図

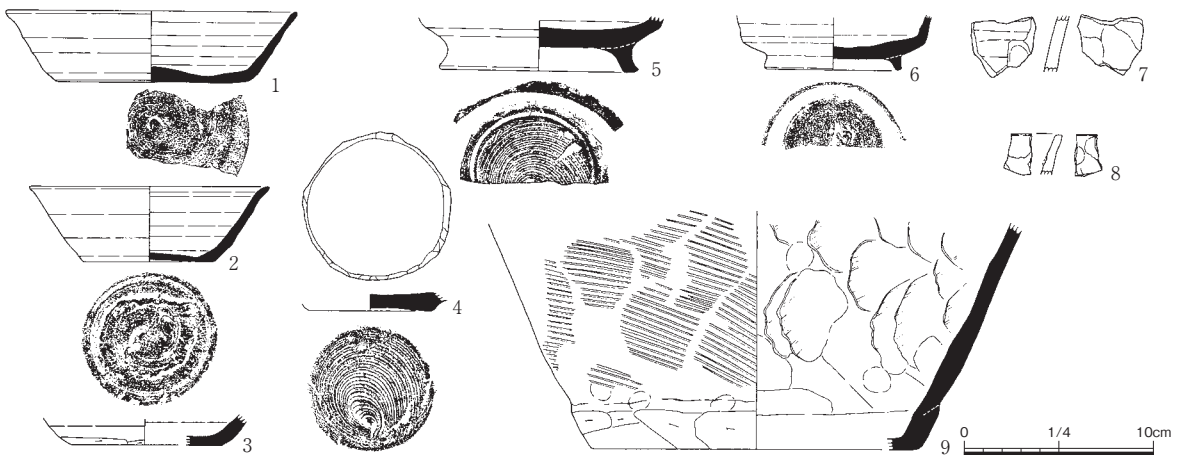
第3章 発見された遺構と遺物

5	土師器 甕	口高 (21.7) [22.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面タテヘラケズリ。外面部部分的に焼土附着。黒斑あり。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	やや粗い、灰・黒・白細砂～礫 焼成：やや軟質	No.3・27・ 覆土中 床直	口縁部 1/3、胴部 上半1/2
6	石器 編物石	長幅厚重 [33.2] 6.9 5.8 [1052.0]	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸の台形	10YR5/4 にぶい黄褐	—	No. 16 8.9	完存
7	石器 編物石	長幅厚重 16.2 5.5 5.1 750.0	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：不整な円形	5GY6/1 オリーブ灰	—	No. 14 7.6	完存
8	石器 手鎌	長幅厚重 8.4 1.45 [0.7] 7.7	木質の残る手鎌。背の両面を幅7mmほどの薄い木材で挟んだのち、孔に紐（蔓状の繊維か）を通し固定する。木材は孔の位置にあわせ、四角い切り込みを入れる。背はまっすぐで、棟幅は1.8mm。孔径2.5mm。	—	鉄製・木質・繊維質	No. 10 1.6	鎌部完存
9	鉄製品 刀子	長幅重 [2.4] [1.2] [2.2]	茎部分の破片。角棟で、棟幅は2.5mm。断面形は台形。	—	鉄製	No. 10 1.6	部分残存

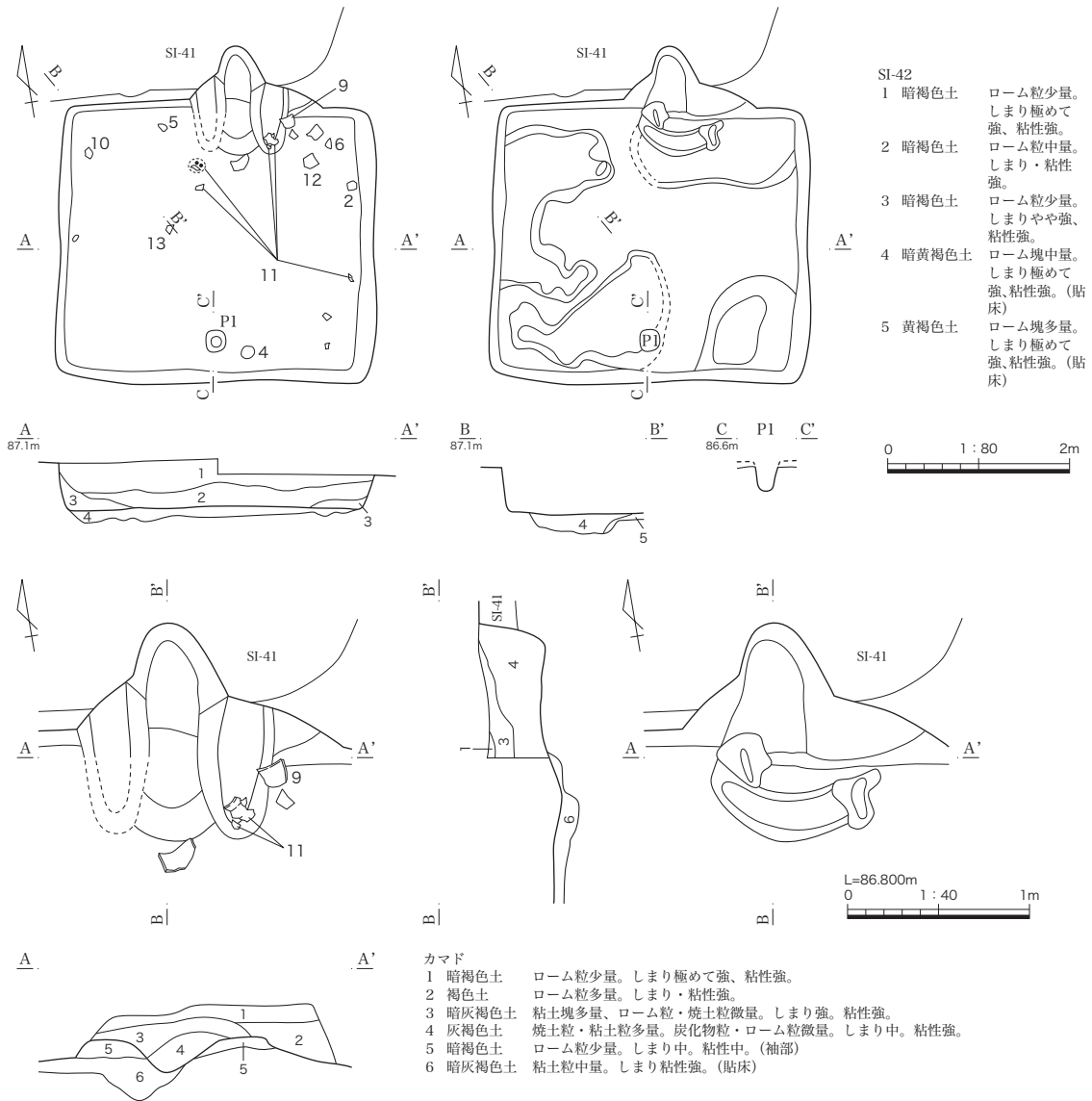
3区 SI-42（遺構：第95図、遺物：第94・96図、図版一三・八六）

位置 グリッド 92.0-52.5 重複遺構 古墳時代終末期の建物跡 SI-41 より新しい。 平面形 東西が僅かに長い隅丸長方形。 規模 東西 3.40×南北 3.10 m 主軸方向 N -9.5° - E 覆土 暗褐色土主体の3層からなり、自然堆積と考えられる。 壁 壁高は 45～51 cm 残存。 床 概ね平坦で、全面的に貼床あり。

柱穴 確認できなかった。 入口ピット P1（径 24～21 cm、深さ 25 cm）は南壁中央部の壁際から 25 cm 離れて位置する。 貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。 掘方 建物跡西部及び南東隅、カマド前から北東隅にかけ不整な掘り込みが認められる。深さ 20 cm 暗黄褐色土で埋戻す。 カマド 北壁中央部僅かに東寄りに位置する。煙道は途中で段を有し約 80° の角度で立ち上がる。覆土は焼土を多量含む。 遺物 土器類は須恵器杯・高台付杯・甕、土師器は製塩土器、甕などがある。女瓦破片も 2 点出土する。このうち 5・9・11 は床面付近の遺物である。4 は破片縁辺を打ち欠き整えている。転用品と考えたい。製塩土器（8）の口縁端部は平坦面をもつ。不掲載の土器類は小コンテナ 1/3 箱、礫の総重量は 200 g と少量である。遺物から奈良時代後葉の建物跡と考えられる。



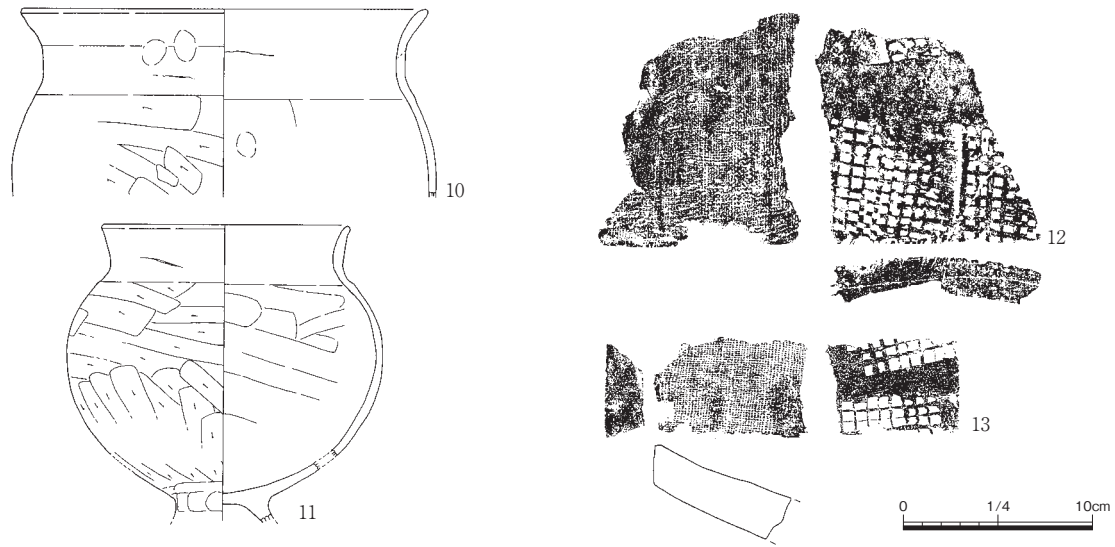
第94図 西刑部西原遺跡3区 SI-42 出土遺物（1）



第95図 西刑部西原遺跡3区 SI-42 実測図

第34表 3区 SI-42 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 坏	口 (15.1) 底 10.0 高 3.8	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切り。	内外面とも 5Y6/2 灰オリーブ	やや緻密、灰・白・黒細砂、白・黒砂 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 1/8、底部 1/6
2	須恵器 坏	口 12.5 底 7.0 高 4.0	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切り。	内外面とも 5Y6/1 灰	やや緻密、白・灰細砂、黒・灰・白砂・灰色礫 焼成：やや硬質	Na.5 13.7	口縁部 1/2、底部 完存
3	須恵器 坏	底高 [11.0] (8.0)	内外面ロクロナデ。体部外面下端ヘラケズリ。底部外面弱いヘラケズリ。	内：2.5Y6/3 にぶい黄 外：2.5Y7/2 灰黄	緻密、白・灰・透明細砂 ～粗砂 焼成：硬質	覆土中	底部 1/4、 体部一部
4	須恵器 坏	底高 6.6 [1.0]	底部外面回転系切り。破面の縁辺を打欠き円形に整えたものか。	内外面とも 5Y6/1 灰	やや緻密、白・黒・灰細砂、黒・灰・白砂 焼成：やや硬質	Na.4 29.0	底部完存
5	須恵器 高台付 坏	底高 (10.4) [3.1]	内外面ロクロナデ。底部回転系切りのち高台貼付。	内：5Y6/2 灰オリーブ 外：10Y6/1 灰	やや緻密、白・灰・黒細砂、白・灰・黒砂 焼成：やや硬質	Na.2 0.8	底部 3/5、 体部一部
6	須恵器 高台付 坏	高 [2.9]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのち高台貼付のちナデ。	内外面とも N4/0 灰	やや緻密、白細砂～粗砂 焼成：硬質	Na.6 29.5	体部下端～ 底部 1/2



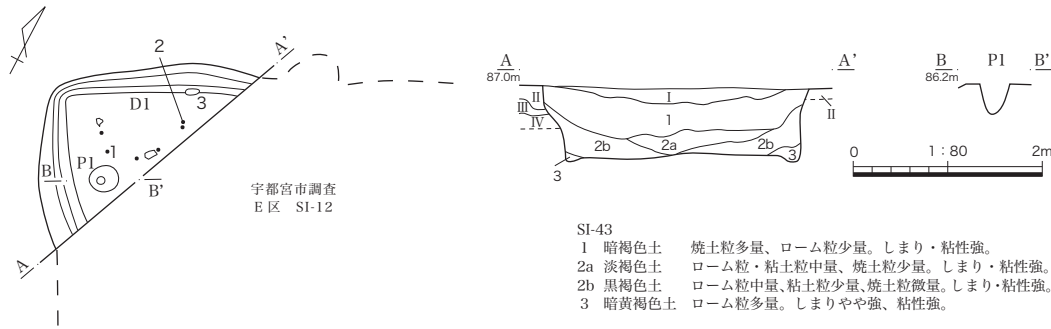
第96図 西刑部西原遺跡3区 SI-42 出土遺物 (2)

7	製塩土器	厚 0.5~0.7	内面横方向のナデ。外面指頭押圧およびナデ。やや外傾気味に立ち上がる。	内外面とも 7.5YR6/3 にぶい褐	やや緻密、黒色ガラス質粒子、白色粒子、白色針状物 焼成：やや軟質	覆土中	胴部破片
8	製塩土器	高 0.4~0.6	内面ヨコナデか。外面指頭押圧およびナデ。やや外斜し立ち上がる。口縁端部に平坦面あり。	内外面とも 7.5YR6/3 にぶい褐	やや緻密、白色粒子、灰色微砂、白色針状物 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部破片
9	須恵器甕	底高 [12.7]	胴部内面無文に近い平行あて具痕か。下端部はナデ。胴部外面平行叩き、下端部は指頭押圧及びヨコのヘラケズリ。底部外面砂目か。	内：5Y6/1 灰 外：7.5Y6/1 灰	やや緻密、白・黒・灰細砂、黒・灰・白・透明砂 焼成：やや硬質	No.9 0.9	胴下端部 1/4、底部欠損
10	土師器甕	口高 [21.1] [10.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナメヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。	7.5YR6/6 橙	やや緻密、白・黒細砂～粗砂、赤粒 焼成：軟質	No.1 5.2	口縁部一部、胴部上半 1/8
11	土師器台付甕	口高 [12.8] [15.7]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラケズリ。脚部接合部外面ナデおよび指頭押圧。脚部内面ヨコナデか。胴部内面下半～底部にかけ剥落顕著で調整不明瞭。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密、灰・白・黒細砂・白・黒砂 焼成：やや硬質	No.3、12 区SI-4 No.3・12 1.6	口縁部 3/4、胴部ほぼ完存、脚部欠損
12	女瓦	長幅厚重 [19.4] [14.7] 1.8 [57.0]	凸面：格子叩き 凹面：布目痕	2.5Y8/2 灰白	粗い、白・灰粗砂～礫 焼成：硬質	No.7、覆土中 9.8	部分残存
13	女瓦	長幅厚重 [7.8] [5.2] 2.1 [145.0]	凸面：格子叩き 凹面：布目痕	7.5Y5/1 灰	粗い、白・黒・透明粗砂～礫 焼成：硬質	No.6 5.9	部分残存

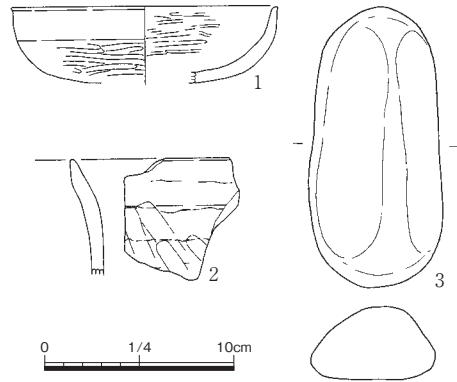
3区 SI-43 (遺構：第97図、遺物：第98図、図版一三)

位置 グリッド 90.0-52.0 重複遺構 無し。 平面形 大部分は宇都宮調査E区 SI-12 として調査報告済み。

規模 東西 5.4×南北 5.6 m 主軸方向 N-28° -W 覆土 計5層に分層、自然堆積と考えられる。
壁 壁高は 45～58 cm残る。 床 薄い貼床あり。 柱穴 4本柱穴である。P1は掘方の可能性あり。
貯蔵穴 北東隅にあり。 壁溝 D1 (幅 16～39 cm、深さ 7 cm) は宇都宮調査では北壁のカマド東側部分と東壁には壁溝はみられない。 カマド 北壁中央部に位置する。 遺物 殆どが覆土中から出土し、床面直上の遺物は皆無である。図示した遺物は土器類は土師器坏・鉢、石器類は編物石がある。不掲載遺物は、土器類は小コンテナ箱 1/5 弱、礫の重量は約 200 g である。遺物から古墳時代終末期 (7世紀中葉) の建物跡と考えられる。



第 97 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-43 実測図



第 98 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-43 出土遺物

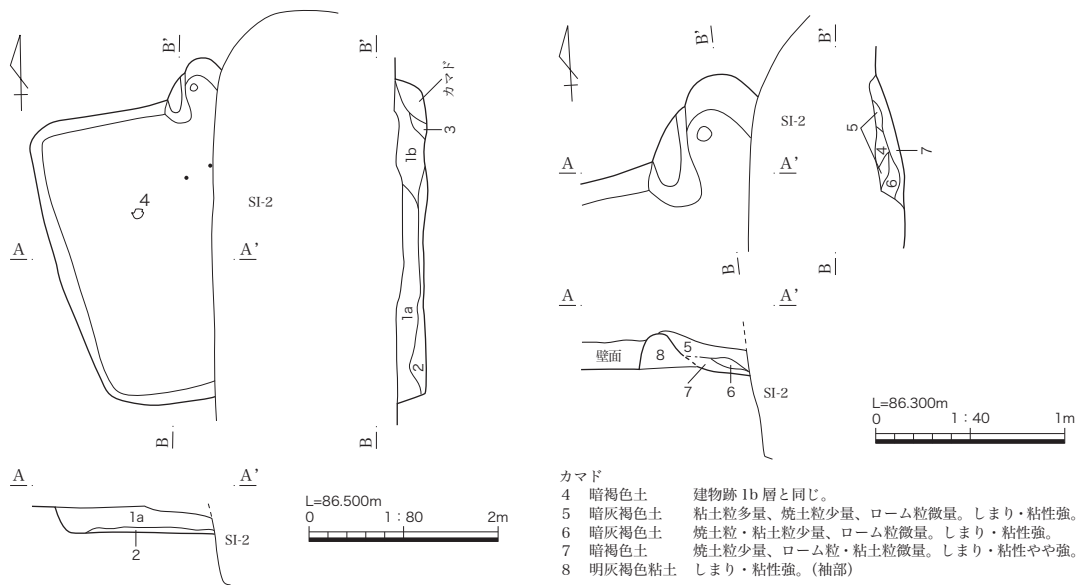
第 35 表 3 区 SI-43 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	土師器 環	口 (14) 高 4.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリのちヘラミガキ。体部内面ヘラミガキ。口縁部内外面漆仕上げ。	内：7.5YR5/4 にぶい褐 外：10YR5/3 にぶい黄褐	やや緻密、透明・白・黒 細砂～粗砂 焼成：軟質	No. 3 14.5	口縁部～体部 1/5
2	土師器 鉢	高 [6.0]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナメヘラケズリ。接合痕顕著。体部内面ヘラナデか。	内：10YR5/2 灰黄褐 外：10YR5/3 にぶい黄褐	やや粗い、白・黒・透明 細砂～粗砂 焼成：やや軟質	No. 6 32.5	口縁部～体部破片
3	石器 編物石	長 14.6 幅 6.6 厚 3.8 重 622.1	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：隅丸三角形	5Y6/1 灰	—	No. 7 7.3	完存

3区 SI-46 (遺構：第 99 図、遺物：第 100 図、図版一三・八六)

位置 グリッド 86.5-50.5・87.0-50.5 重複遺構 奈良時代の竪穴建物跡 SI-2 より古い。平面形 東半分を SI-2 に壊され詳細は不明。規模 東西 2.2 m 以上 × 南北 3.15 m 主軸方向 不明 覆土 暗褐色土主体の 3 層からなる。自然堆積。壁 壁高やや斜めに立ち、30 cm 残存。床 ローム地山を床面とする若干の凹凸あり。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。カマド 北壁に位置し、半部を欠失する。壁面を半円形に掘り込む煙道の立ち上がりは緩やかである。遺物 殆どが覆土中の遺物で、床面直上の遺物は皆無である。土器類は土師器環・手捏ね土器・高環・甕、瓦破片など 6 点を図示した。不掲載遺物は土師器甕胴部破片及び環小破片が主で、小コンテナ 1/2 箱、礫の総重量は 2.2 kg である。遺物から古墳時代終末期 (7 世紀前半) の建物跡と思われる。

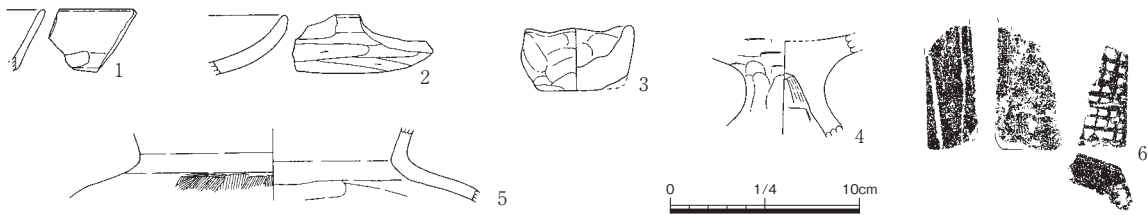
第3章 発見された遺構と遺物



SI-46
 1a 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少量。しまり・粘性やや強。
 1b 暗褐色土 粘土粒中量、ローム粒・焼土粒少量。しまり・粘性やや強。
 2 褐色土 ローム粒中量、焼土粒微量。しまりやや強、粘性強。
 3 灰褐色土 粘土塊多量。しまり・粘性強。

カマド
 4 暗褐色土 建物跡 1b 層と同じ。
 5 暗灰褐色土 粘土粒多量、焼土粒少量、ローム粒微量。しまり・粘性強。
 6 暗灰褐色土 焼土粒・粘土粒少量、ローム粒微量。しまり・粘性強。
 7 暗褐色土 焼土粒少量、ローム粒・粘土粒微量。しまり・粘性やや強。
 8 明灰褐色粘土 しまり・粘性強。(袖部)

第 99 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-46 実測図



第 100 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-46 出土遺物

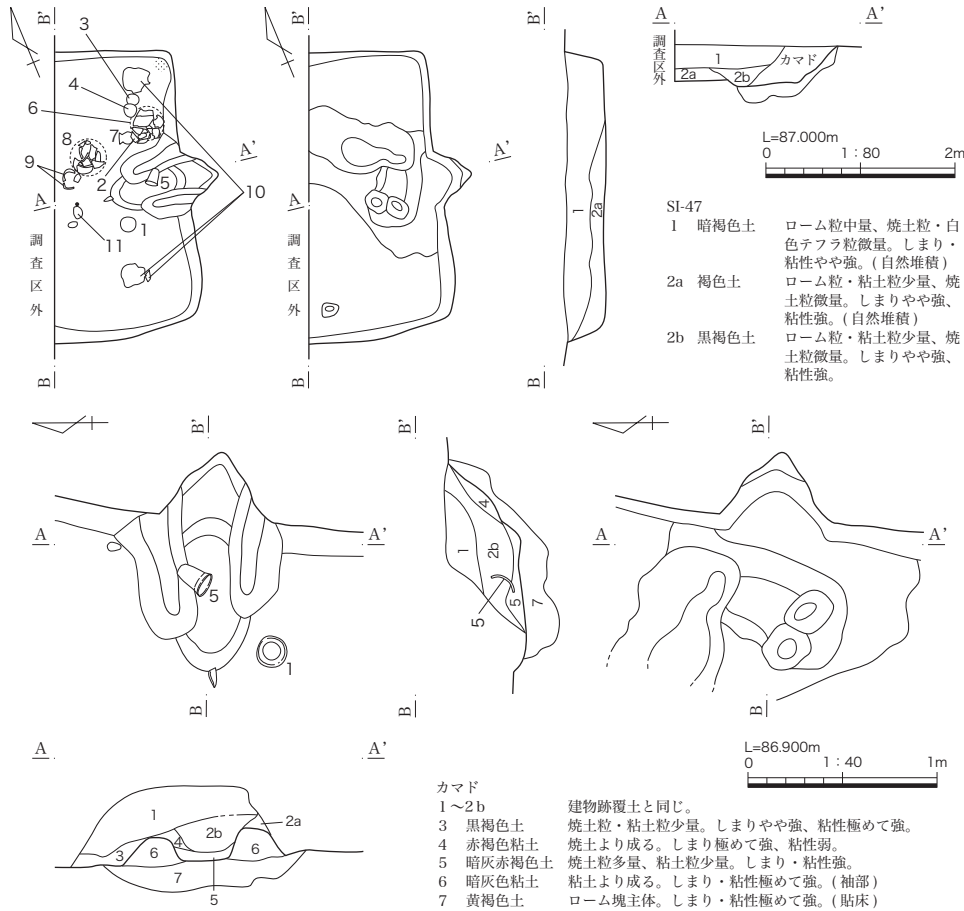
第 36 表 3 区 SI-46 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 環	高 [3.1]	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部外面下端部ナデ。漆仕上げ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・黒細砂、黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 1/8
2	土師器 環	高 [3.1]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。	内外面とも 10YR8/3 浅黄	やや緻密、白・黒・灰細砂、黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部破片
3	土師器 手捏ね 土器	口底 (5.4) 底 (4.5) 高 3.3	内外面指頭押圧のちナデ。底部外面ナデ。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密、白・黒細砂、黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 1/4、 底部 1/2
4	土師器 高環	高 [5.1]	脚部外面ヘラナデのちナデ。脚部内面ハケ目のちヘラナデ。環内面の調整不明。	内：10YR7/3 にぶい黄橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、白・灰・黒・細砂、黒・灰砂 焼成：やや硬質	No.1 不明	脚部破片
5	土師器 甕	高頸 (14.0)	球胴甕。口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ナデ。胴部外面ハケ目。	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR6/4 にぶい橙	やや緻密、灰・黒・白細砂、灰・白・黒砂、黒礫、赤粒 焼成：やや硬質	覆土中	頸部 1/6
6	女瓦	長幅 [7.0] 厚 1.8 重 [50.3]	凸面：格子叩き 凹面：布目痕 側面：ヘラナデ 混入品か。	7.5YR8/4 浅黄橙	やや粗い、灰・黒砂、白・灰・黒細砂、赤粒少 焼成：やや硬質	覆土中	部分残存

3区 SI-47 (遺構：第101図、遺物：第102図、図版一三・一四・八六・八七)

位置 グリッド 91.0-51.0・91.0-51.5 重複遺構 無し。平面形 西半部は調査区外のため不明だが方形もしくは長方形か。規模 東西 1.65 m以上 × 南北 3.1 m 主軸方向 不明 覆土 自然堆積 壁 壁高は約 40 cm残る。床 貼床なし。若干の凹凸あり。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。

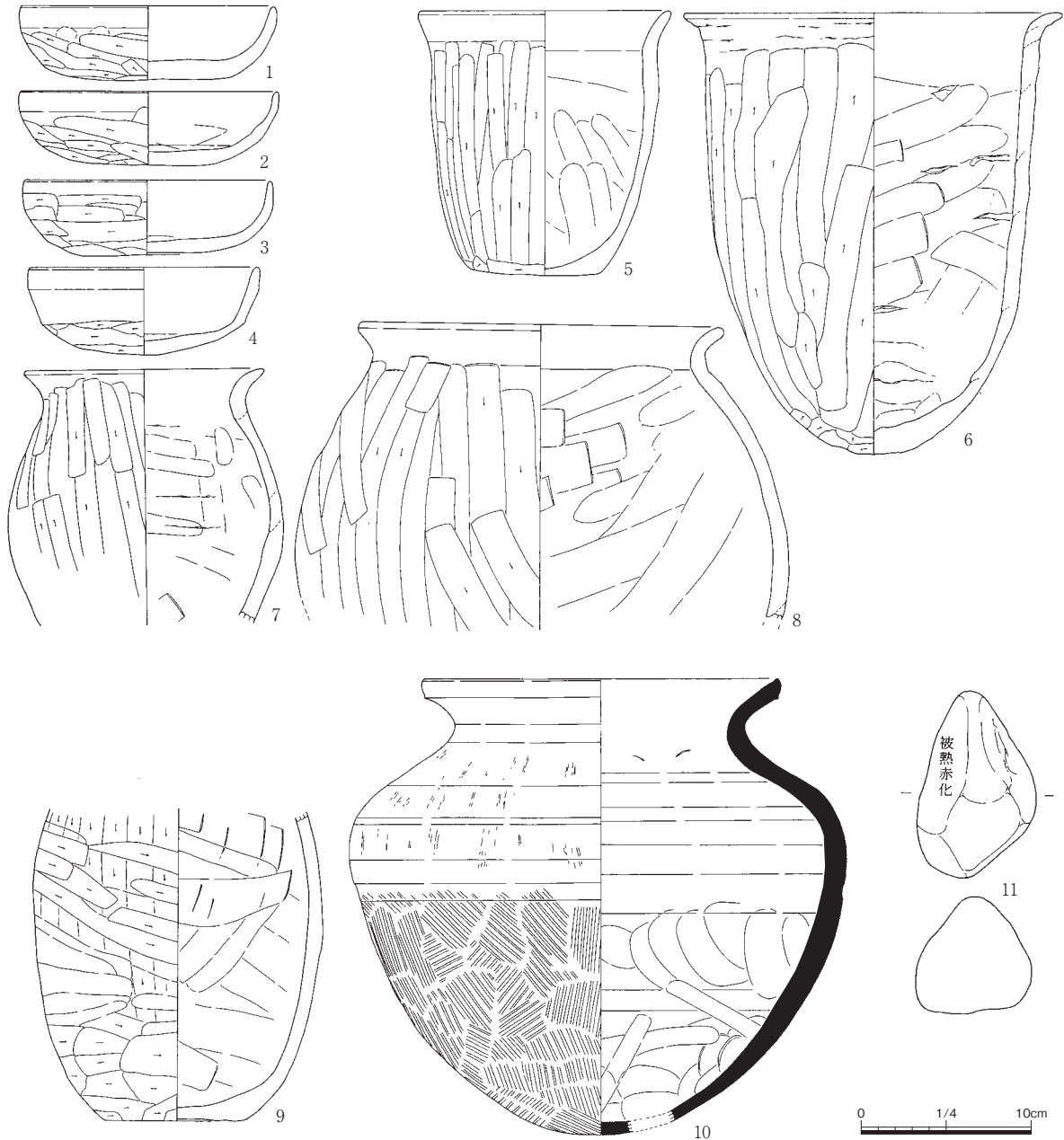
カマド 東壁中央部の壁面を三角形に掘り込む。小型の土師器甕(5)が出土。遺物 土師器坏・甕、須恵器甕、編物石がある。カマド西側の覆土下層中に土師器坏(2・3・4)、土師器甕(6・7)が集中する。不掲載の土器類は小コンテナ箱 1/2 弱、礫は約 400 g。古墳時代終末期の建物跡と考えられる。



第101図 西刑部西原遺跡3区 SI-47 実測図

第37表 3区 SI-47 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置	残存
1	土師器 坏	口 14.8 高 4.4	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。内面及び口縁部外面漆仕上げ。	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR8/6 浅黄橙	やや緻密、白細砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.7 5.5	ほぼ完存
2	土師器 坏	口 14.8 高 4.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面ヘラケズリ。口縁部内面～体部内面漆仕上げ。	内外面とも 10YR7/3 に ぶい黄橙	やや緻密、白・黒細砂～ 粗砂 焼成：やや硬質	No.14 5.2	口縁部一部 欠損
3	土師器 坏	口 14.4 高 4.5	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。全面漆仕上げ。	内：10YR8/2 灰白 外：10YR7/6 明黄褐	緻密、白細砂 焼成：やや硬質	No.11 5.2	ほぼ完存
4	土師器 坏	口 13.2 高 5.1	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。全面漆仕上げ。	内：10YR8/3 浅黄橙 外：10YR6/4 にぶい黄褐	やや粗い、白・黒細砂～ 粗砂 焼成：やや軟質	No.12 5.1	ほぼ完存
5	土師器 甕	口 14.6 底 7.6 高 15.5	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデのち一部ナデ(ナデは補修痕か)。胴部外面タテヘラケズリのち下端部ヨコヘラケズリ。底部外面ヘラケズリのちナデ。外面の黒斑はススカ。部分的に被熱した粘土付着。	内外面とも 7.5YR6/4 に ぶい橙	やや緻密、白・灰・黒砂、 白・灰・黒細砂、赤・白 粒 焼成：やや硬質	カマドNo. 16 7.0	完存

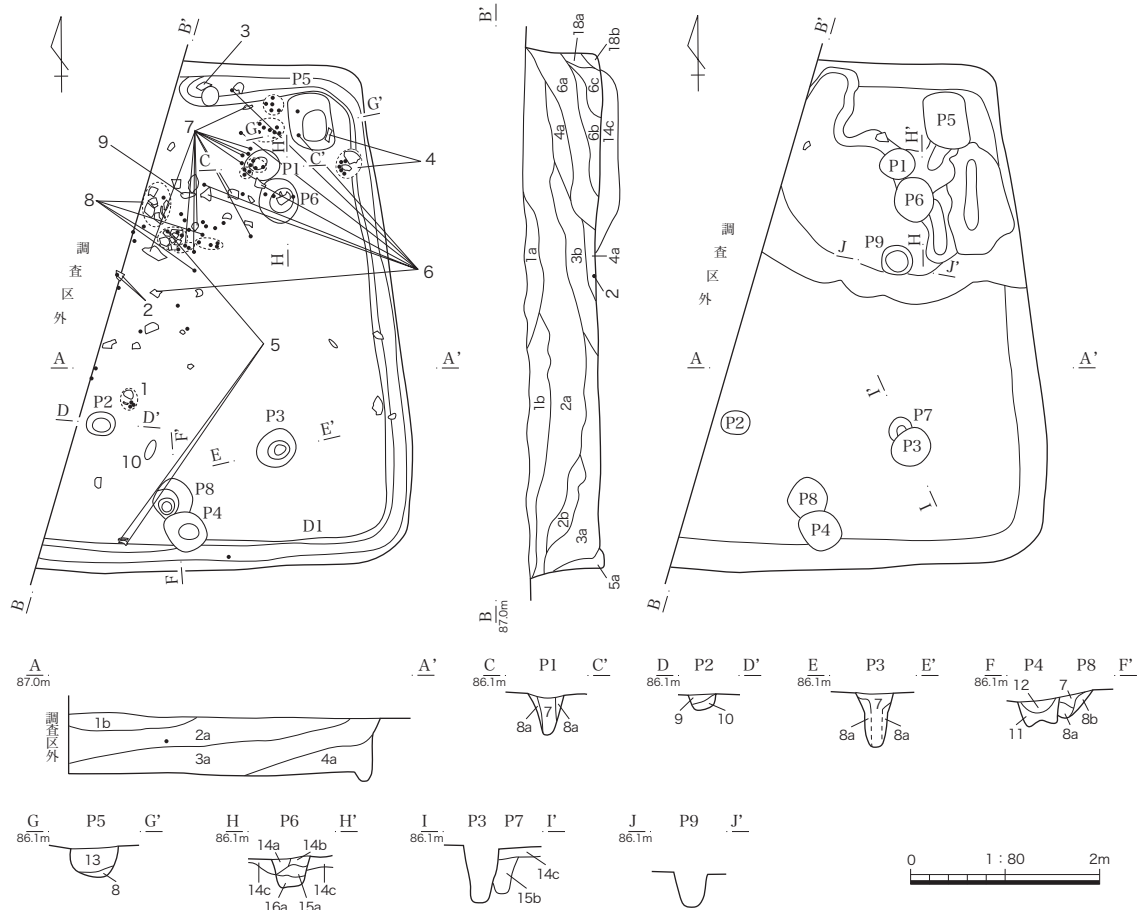


第102図 西刑部西原遺跡3区 SI-47 出土遺物

6	土師器 甕	口 高	22.2 26.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面 タテヘラケズリ。底部外面多方向ヘラケズリ。外面一 部に粘土付着。	内：2.5Y7/4 浅黄 外：2.5Y6/3 にぶい黄	やや粗い、白・灰・透明 粗砂、白・灰・透明礫・赤・ 黒粒 焼成：やや軟質	No.13 5.2	ほぼ完存
7	土師器 甕	口 高	(13.8) [15]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴 部内面タテヘラナデのちヨコ・タテ方向のナデ。外面 に黒斑、被熱による赤変あり。部分的に粘土付着。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：5YR6/6 橙	やや粗い、灰・黒、白砂、 黒・白細砂 焼成：やや硬質	No.15 5.7	口縁部～胴 部 1/2
8	土師器 甕	口 高	21.0 [17.1]	口縁部内外面ヨコナデ。外面タテヘラケズリ、内面ナ メヘラナデ。球胴の甕。頸部内面～胴上半部黒色付 着物あり。コゲか。	内：7.5YR7/4 にぶい橙 外：10YR7/6 明黄褐	やや緻密、白・灰・黒細砂、 黒・白・灰砂、灰・黒礫、 赤粒 焼成：やや硬質	No.8 5.5	胴上半部ほ ぼ完存
9	土師器 甕	底 高	8.2 [18.3]	胴部外面タテヘラケズリのち下半部ヨコヘラケズリ、 一部ヘラナデ。胴部内面ヘラナデ。底部内面が僅かに 黒褐色を呈する。底部外面多方向ヘラケズリ。	内：10YR5/4 にぶい黄褐 外：10YR6/4 にぶい黄橙	やや緻密、灰・白黒砂、灰・ 白・黒細砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.9 5.6	胴部下半部 ほぼ完存、 底部 1/2
10	須恵器 甕	口 高	20.8 26.8	胴部外面～底部外面平行叩きのち、口縁部～胴部中位 にかいクロクロナデ。胴部内面無文あて具痕のち口縁部 ～胴部中位クロクロナデ。胴下半部内面～底部内面一部 クロクロナデのちナデ。	内：2.5YG4/1 暗オリー ブ 外：N3/0 暗灰	やや緻密、白・黒・灰細 砂～礫（白色礫極めて多 量） 焼成：硬質	No.10 5.3	口縁部一部 欠損
11	石器 支脚か	長 幅 厚 重	10.9 6.8 6.8 608.5	全面強く被熱赤化。 平面形：不整形 断面形：隅丸三角形	5YR4/6 赤褐	—	No.4 4.2	完存

3区 SI-50 (遺構：第103図、遺物：第104図、図版一四・八七)

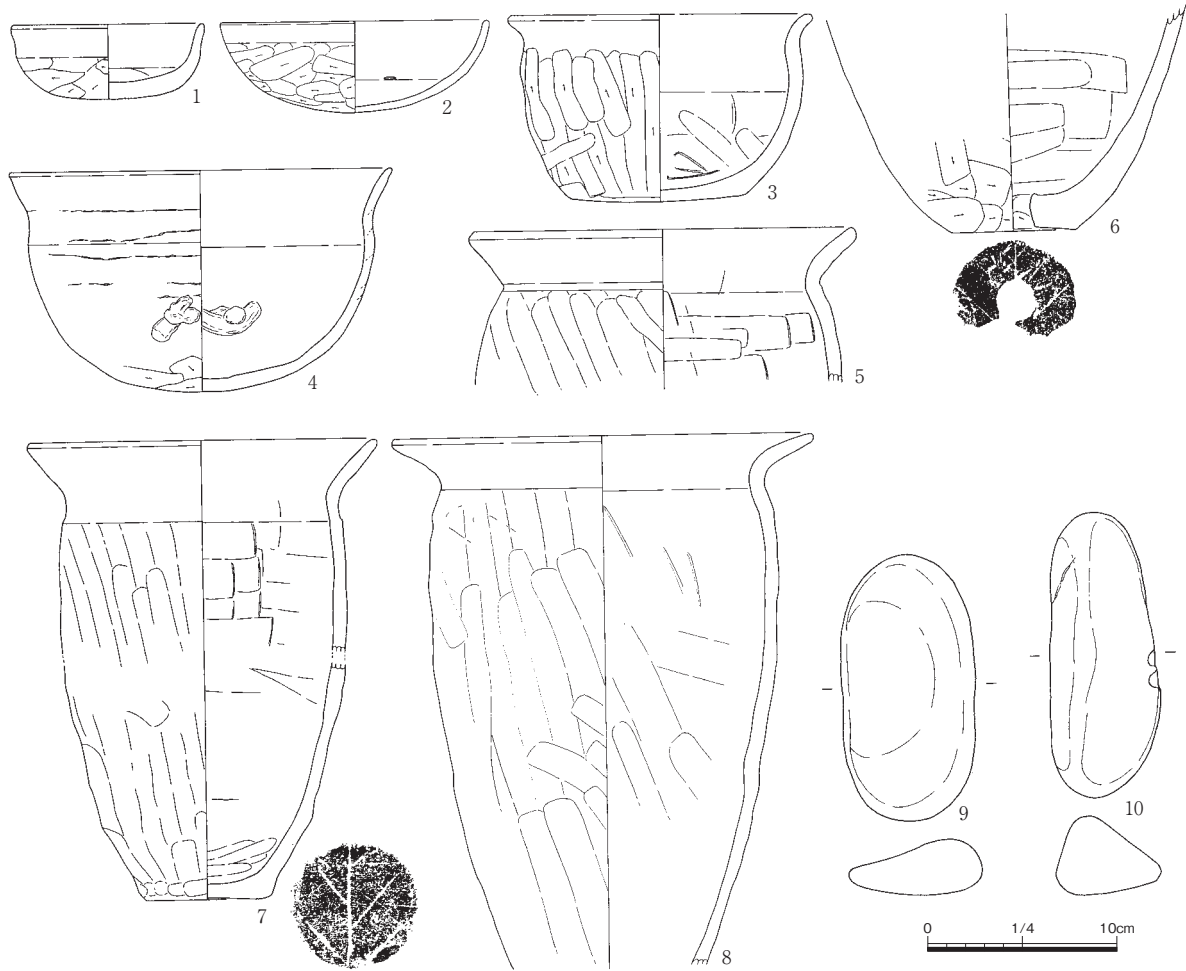
位置 グリッド 88.5-50.0・88.5-50.5 重複遺構 無し。 平面形 西半部が調査区外だが方形もしくは長方形か。 規模 東西 3.49 m以上×南北 5.32 m 主軸方向 不明 覆土 自然堆積か。 壁 壁高 56～74 cm 床 北半部に貼床あり。 柱穴 P1 (径 38～32 cm、深さ 39 cm)、P6 (径 46～41 cm、深さ 27 cm)、P3 (径 40 cm、深さ 56 cm)、P7 (径 24 cm、深さ 48 cm) は主柱穴か。P7 と P3 の重複は拡張の痕跡か。 入口ピット P4 (径 41 cm、深さ 27 cm)、と P8 (径 40 cm、深さ 24 cm) は重複し P4 が新しい。 貯蔵穴 P5 (長軸 60×短軸 46 cm、深さ 28 cm) は北東隅に位置。P2 (径 30～24 cm、深さ 13 cm) は浅く用途不明。P9 (径 32 cm、深さ 35 cm) は床下から確認。 壁溝 D1 (幅 16～43 cm、深さ 11 cm) 掘方 北東隅を不整土坑状に掘り込む。 遺物 土師器坏・鉢・甕・甑、編物石がある。4の土師器大型鉢は薄手で砂粒を多く含む。強く被熱しており煮沸具の可能性がある。1～3は床面付近の出土遺物。不掲載の土器類は小コンテナ 1.5 箱、礫 2.6 kg。古墳時代終末期 (7世紀中葉から後葉) の建物跡と考えられる。



SI-50

1b 褐色土	ローム粒中量、焼土粒微量。しまり・粘性強。	8a 暗黄褐色土	ローム粒多量、ローム塊中量。しまりやや強、粘性強。
2a 暗褐色土	ローム粒少量、焼土粒微量。しまり・粘性強。	8b 黄褐色土	ローム粒・ローム塊多量。しまり・粘性強。(裏込め)
2b 暗黄褐色土	ローム粒多量。しまり・粘性強。	9 黄褐色土	ローム粒中量。しまり・粘性強。
3a 褐色土	ローム粒中量、焼土粒微量。しまりやや強、粘性強。	10 黄褐色土	ローム粒中量、ローム塊少量。しまり・粘性強。
3b 黒褐色土	ローム粒少量、焼土粒微量。しまりやや強、粘性強。	11 黄褐色土	ロームから成る。しまり極めて強、粘性強。
4a 暗黄褐色土	ローム粒多量。しまりやや強、粘性強。	12 暗褐色土	ローム粒中量。しまりあまりない、粘性強。
5a 暗褐色土	ローム粒少量。しまりやや強、粘性強。	13 暗黄褐色土	ローム粒中量、ローム塊少量、焼土粒微量。しまりやや強、粘性強。
6a 淡褐色土	粘土粒中量、ローム粒・焼土粒少量。しまりやや強、粘性強。		
6b 暗灰褐色粘質土	粘土塊多量、焼土粒中量。しまり・粘性強。(カマド構築土)	14a 褐色土	ソフトローム塊主体。しまり・粘性極めて強。
6c 暗灰色粘土	焼土粒多量。しまり強、粘性極めて強。(カマド構築土)	14b 明褐色土	ローム塊多量。しまり・粘性極めて強。
18a 赤灰色粘土	焼けた粘土塊。しまり極めて強、粘性強。(カマド構築土)	14c 黄色土	ローム塊主体。しまり粘性極めて強。(貼床)
18b 灰色粘土	しまり・粘性極めて強。(カマド構築土)	15a 黒褐色土	ローム粒・粘土塊少量。しまりやや強、粘性強。
Pit		15b 淡褐色土	ローム粒多量。しまり・粘性強。
7 暗黄褐色土	ローム粒中量。しまりやや強、粘性強。	16a 黄色土	ローム塊主体。しまり・粘性極めて強。

第103図 西刑部西原遺跡3区 SI-50 実測図



第104図 西刑部西原遺跡3区 SI-50 出土遺物

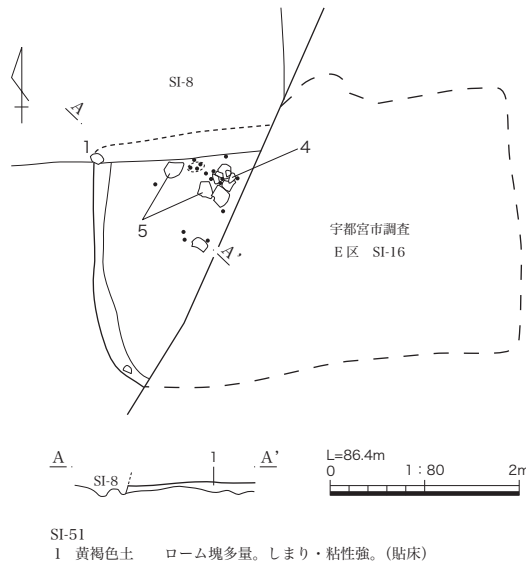
第38表 3区 SI-50 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置	残存
1	土師器 杯	口 10.0 高 3.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ナデのちヘラケズリ。内外面漆仕上げか。	内外面とも 2.5Y5/1 黄灰	緻密、白・黒細砂 焼成：やや硬質	No.44 1.8	口縁部一部 欠損
2	土師器 杯	口 (13.8) 高 4.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。体部内面モミ圧痕。内外面漆仕上げ。	内外面とも 10YR8/3 浅黄橙	やや緻密、黒・灰・白細砂、黒砂 焼成：やや硬質	No.60・68 2.0	口縁部～体部 1/4
3	土師器 鉢	口 (15.7) 底 9.2 高 9.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部～底部内面ヘラナデ。底部外面多方向ヘラケズリ。内面黒色処理。内外面一部に褐色の付着物あり。口縁部～体部 1/4 ほどが被熱し、弾けるように割れたものか。	内：7.5YR7/6 橙 外：10YR6/2 灰黄褐	やや緻密、白・灰・黒細砂、黒・灰砂、赤粒少量 焼成：やや硬質	No.1 2.9	口縁部 3/4、底部 完存
4	土師器 鉢	口 (20.0) 高 11.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。口縁部外面から胴部上半にかけ接合痕顕著。底部外面ヘラケズリ。体部にナデによる両面からの補修痕あり。極めて強く被熱し器面の剥離及び赤化顕著。非常に脆い。	内：10YR6/3 にぶい黄橙 外：2.5YR7/6 橙	粗い、灰・黒・白細砂～礫、灰・黒・白・赤粒 焼成：軟質	No.7・66 床直 (No.66)	口縁部 1/3、底部 1/2
5	土師器 甕	口 (20.0) 高 [8.2]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラナデ。	内：5YR6/6 橙 外：5YR5/8 明赤褐	やや粗い、白・黒・灰粗砂～礫、赤粒、雲母片多量 焼成：やや軟質	No.24・ 48・61 6.8 (No.24)	口縁部～胴部 1/3
6	土師器 甕	底 (6.6) 高 [12.4] 孔 2.0	胴部外面ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。底部外面木葉痕のちナデ。孔は内外面両面からヘラケズリにより穿孔。	内外面とも 5YR5/6 明赤褐	粗い、白・灰・黒粗砂～礫 焼成：軟質	No.2・6・ 9・14・20・ 21・39 6.3 (No.21)	底部 5/8
7	土師器 甕	口 (18.3) 底 6.2 高 (24.4)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラナデ、下端部指頭押圧か。胴部内面上半部ヘラナデ。底部内面ナデ。底部外面木葉痕。胴部外面炭化物多量付着。底部は赤化。小型の甕。	内：5YR5/4 にぶい赤褐 外：7.5YR6/4 にぶい橙	やや粗い、白・灰・黒砂、白礫、白・黒・灰細砂 焼成：やや硬質	No.3・10・ 11・12・ 19・35・ 36・37 4.5 (No.35)	胴部 1/4

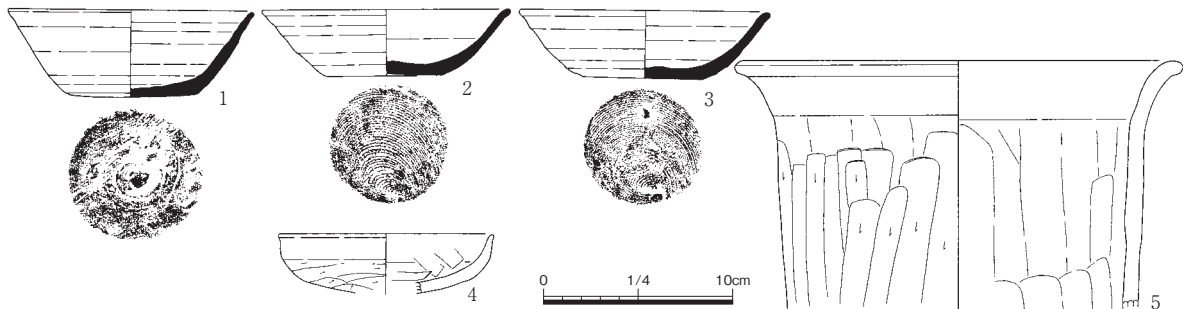
8	土師器 甕	口 高	(21.8) [28.2]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面帯状の黒色部分あり。ススが付着したものか。	内外面とも 5YR5/8 明赤褐	やや粗い、黒・白砂、白・灰・黒細砂、白・灰礫、雲母 焼成：やや硬質	No. 64・71・72・74 床直 (No. 64)	口縁部 1/8、胴部 2/5、底部欠損
9	石器 編物石	長 幅 厚 重	13.9 7.1 2.8 421.5	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：水滴状	5Y5/4 オリーブ	—	No. 50 1.6	完存
10	石器 編物石	長 幅 厚 重	14.9 5.6 4.1 434.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：隅丸三角形	5Y4/1 灰	—	No. 49 7.7	完存

3区 SI-51 (遺構：第 105 図、遺物：第 106 図、図版一四・八七)

位置 グリッド 89.5-52.0・89.5-51.5 重複遺構 平安時代の竪穴建物跡 3区 SI-8 より古い。 平面形 東西軸の長方形。西半部は宇都宮市教委調査報告済み。 規模 東西 4.56×南北 3.6 m 主軸方向 N - 8° -W 覆土 図示できなかったが黒色土が堆積。 壁 20 cm弱 床 概ね平坦。 柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 未確認。 掘方 宇都宮調査区では土坑状の掘り込みあり。ローム塊を含む 1 層で埋戻す。 カマド 宇都宮市教委参照。 遺物 殆どが覆土上面からの出土である。遺物は須恵器坏・土師器坏・甕を図示した。須恵器坏 3 点 (1~3) は平安時代の建物跡 3区 SI- 8 からの混入品であろうか。このため 4・5 の土師器類から時期は古墳時代終末期 (7 世紀中葉) の建物跡と考えられる。



第 105 図 西刑部西原遺跡 3区 SI-51 実測図



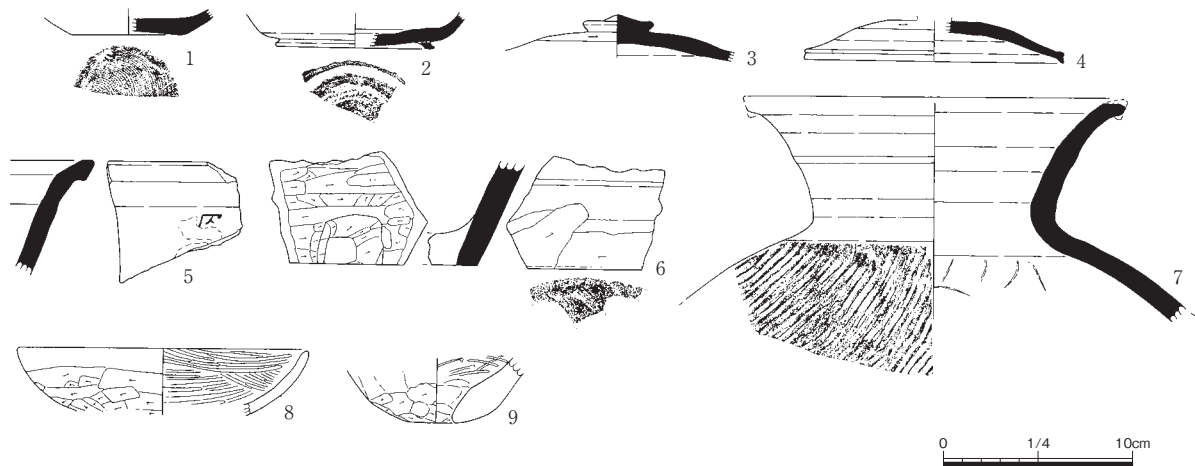
第 106 図 西刑部西原遺跡 3区 SI-51 出土遺物

第39表 3区 SI-51 出土遺物観察表

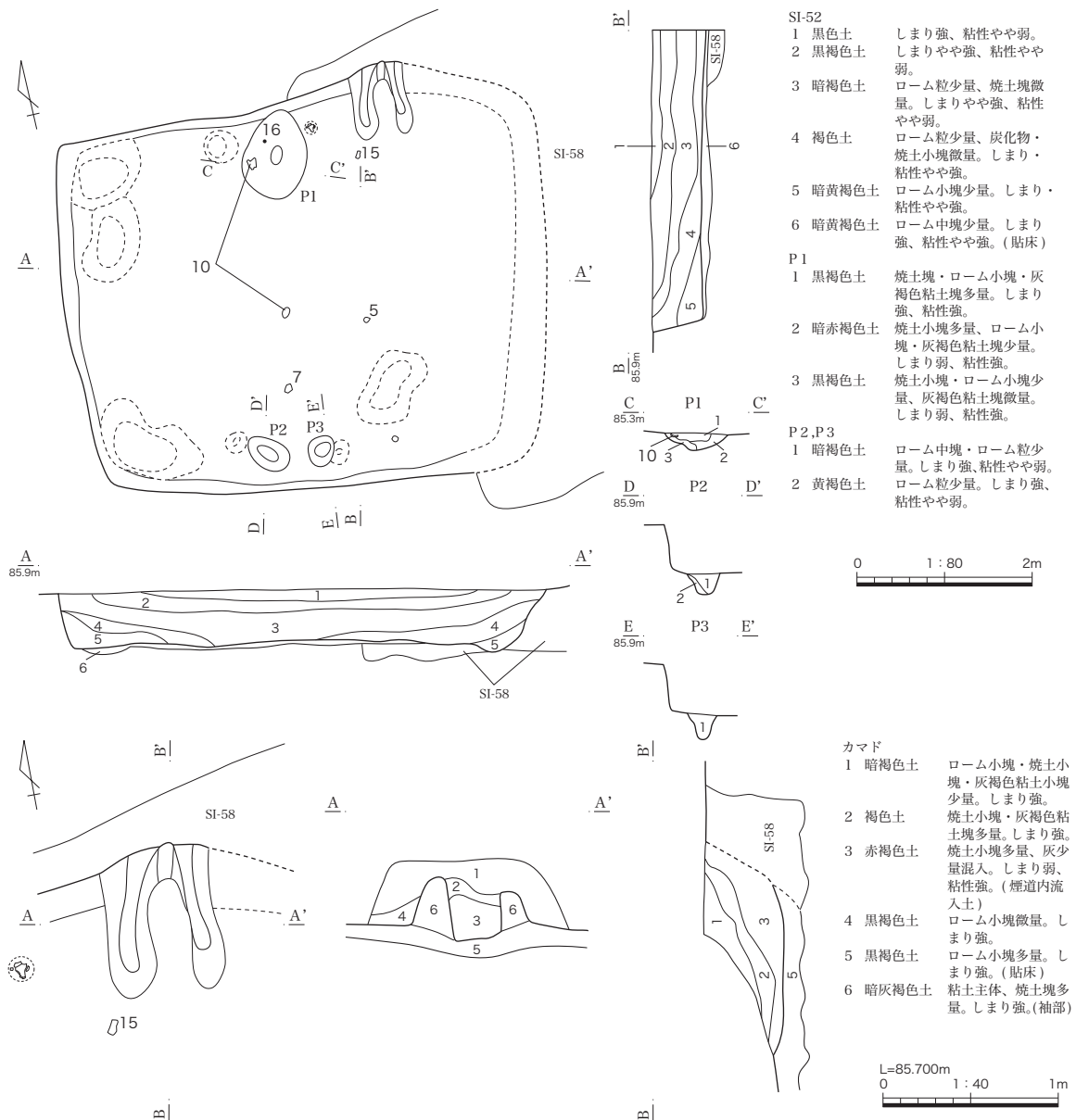
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 坏	口 12.6 底 7.0 高 4.6	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのちナデ。口縁端部内面は平滑でスベスベしている。底部外面、渦巻状の接合痕あり。体部下黒色付着物あり。	内：5YR4/2 灰褐 外：5YR4/3 にぶい赤褐	緻密、白・灰細砂～礫 焼成：硬質	No.1 29.5	ほぼ完存
2	須恵器 坏	口 12.9 底 6.3 高 3.6	内外面ロクロナデ。底部外面回転系切り。全体的に橙色を呈する。	内：7.5Y6/1 灰 外：7.5Y7/1 灰白	やや緻密、白・黒・灰粗砂 焼成：やや硬質	No.25 35.5	ほぼ完存
3	須恵器 坏	口 12.9 底 6.2 高 3.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。底部回転系切り。口縁部内面上端部に輪積痕あり。内面にうすく褐色の付着物あり。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・灰・黒細砂～礫 焼成：やや軟質	No.21 42	ほぼ完存
4	土師器 坏	口 (11.2) 高 [2.9]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密、白・透明・黒細砂～粗砂 焼成：やや軟質	No.8 32.4	口縁部～底部 1/3
5	土師器 甕	口 (23.4) 高 [13.2]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面タテヘラケズリ。体部内面タテヘラナデ。外面に少量の粘土付着。	内：5YR4/8 明赤褐 外：5YR5/6 明赤褐	やや粗い、透明・白・灰粗砂～礫、赤粒 焼成：やや軟質	No.3・10 8.4 (No.3)	胴部上半 1/2

3区 SI-52 (遺構：第108図、遺物：第107・109図、図版一四・一五・八七・一一三)

位置 グリッド 90.0-45.5 重複遺構 古墳時代終末期の建物跡 SI-58 より新しい。平面形 カマド部分を頂点とする不整な五角形状。規模 東西 5.6×南北 4.7 m以上 主軸方向 N - 8° - E 覆土 自然堆積 壁 壁高は 62 cm残る。床 全面に薄い貼床あり。柱穴 確認できなかった。入口ピット P3 (径 34～31 cm、深さ 28 cm) 貯蔵穴 P1 (長軸 95～短軸 76 cm、深さ 20 cm) は貯蔵穴と考えたが、焼土を含むことから旧カマド掘方の可能性もある。不明ピット P2 (径 52～33 cm、深さ 21 cm) 壁溝 確認できなかった。掘方 住居の四隅に極めて浅い掘り込みあり。ローム中塊を含む暗褐色土で埋戻す。カマド 北壁の東寄りに位置する。壁の掘り込みは極めて浅いが、煙道を頂点に浅く広い三角形状に掘削した可能性もある。煙道の立ち上りは 60°。床下はローム小塊を含む 5 層で埋戻している。遺物 殆どが破片で、覆土中層から上層にかけ出土。須恵器は坏・蓋・甕・甎があり、土師器は坏・甕・甎などがある。その他鉄製品 (釘)、石製紡錘車などがある。床面直上の遺物は確認できなかったが、10 の土師器武蔵型甕は床面より 7 cm上から出土する。5 の須恵器 (甎) 口縁部には墨書が見られるが文字は不明である。不掲載の土器類は小コンテナ 2 箱分、礫は確認できなかった。奈良時代 (8 世紀代前半) の建物跡と考えたい。



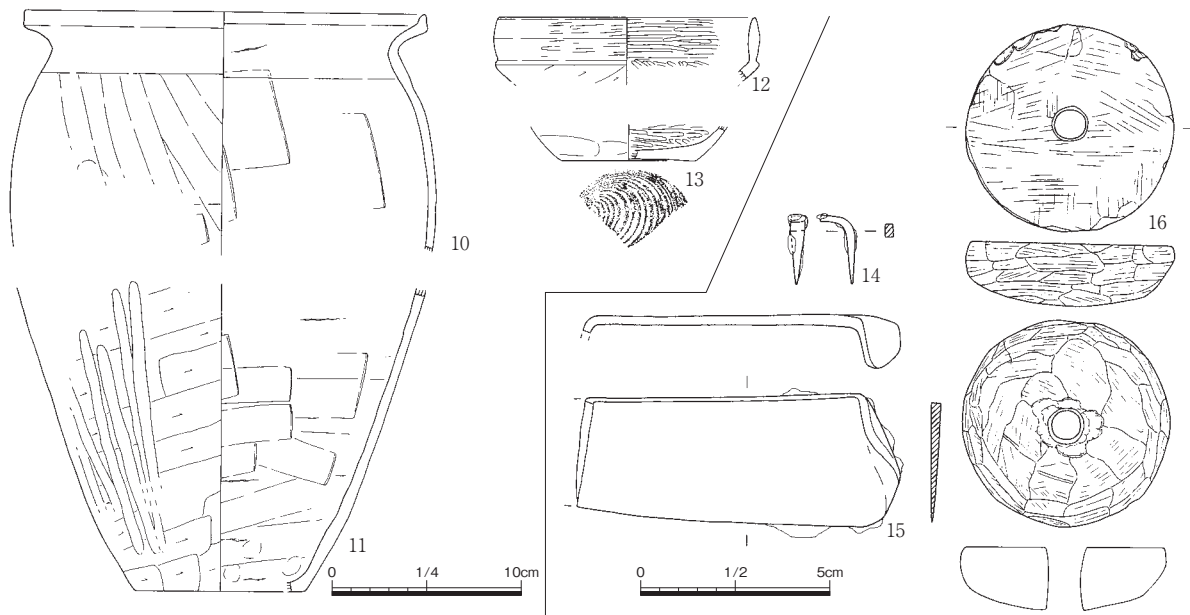
第107図 西刑部西原遺跡3区 SI-52 出土遺物 (1)



第108図 西刑部西原遺跡3区 SI-52 実測図

第40表 3区 SI-52 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 坏	底 (5.8) 高 [1.4]	体部内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	内外面とも 5Y6/2 灰オリーブ	やや緻密、黒・白細砂、黒灰砂、白礫多量 焼成：やや硬質	南西	底部 1/2
2	須恵器 高台付 坏	底 8.2 高 [2.0]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。高台端部が突出する。益子産か。	内：2.5Y5/2 暗灰黄 外：5Y7/1 灰白	やや緻密、白・灰細砂、白灰砂、白礫 焼成：やや硬質	北東	底部 1/4
3	須恵器 蓋	高 [2.3] ワミ 3.7	天井部外面回転ヘラケズリのちツマミ貼付。天井部からツマミの一部に降灰がみられる。益子産か。	内：2.5Y5/1 黄灰 外：5Y6/1 灰	やや緻密、灰・黒・白細砂、灰・黒砂、白粒 焼成：やや硬質	南西	ツマミ完存、 体部 1/4
4	須恵器 蓋	口 (13.5) 高 [2.1]	天井部外面回転ヘラケズリのちツマミ貼付。端部外面に濃緑色の自然釉、内面に降灰。益子産か。	内：2.5Y4/1 黄灰 外：2.5Y6/1 黄灰	やや緻密、灰・白細砂、灰・黒・白砂、白礫 焼成：やや硬質	北西、ベルト	体部 1/4、 口縁部 1/8
5	須恵器 甌か	高 [6.0]	口縁部内外面ロクロナデ。口縁部外面に黒色付着物あり。墨書と考えられるが、文字は不明。	内外面とも 5Y7/1 灰白	やや緻密、白・黒細砂、黒・白砂 焼成：硬質	№22 2.3	口縁部破片、 底部 1/8
6	須恵器 甌	厚 0.1	胴部外面ロクロナデのち下端部ヘラケズリ。胴部内面ロクロナデのち下端部～底部にかけヘラケズリにて穿孔。底部外面ヘラケズリのちナデか。三義産。	内外面とも 5YR7/1 灰白	やや緻密、白・黒細砂、黒・白砂 焼成：硬質	覆土中	底部 1/6



第109図 西刑部西原遺跡3区 SI-52 出土遺物 (2)

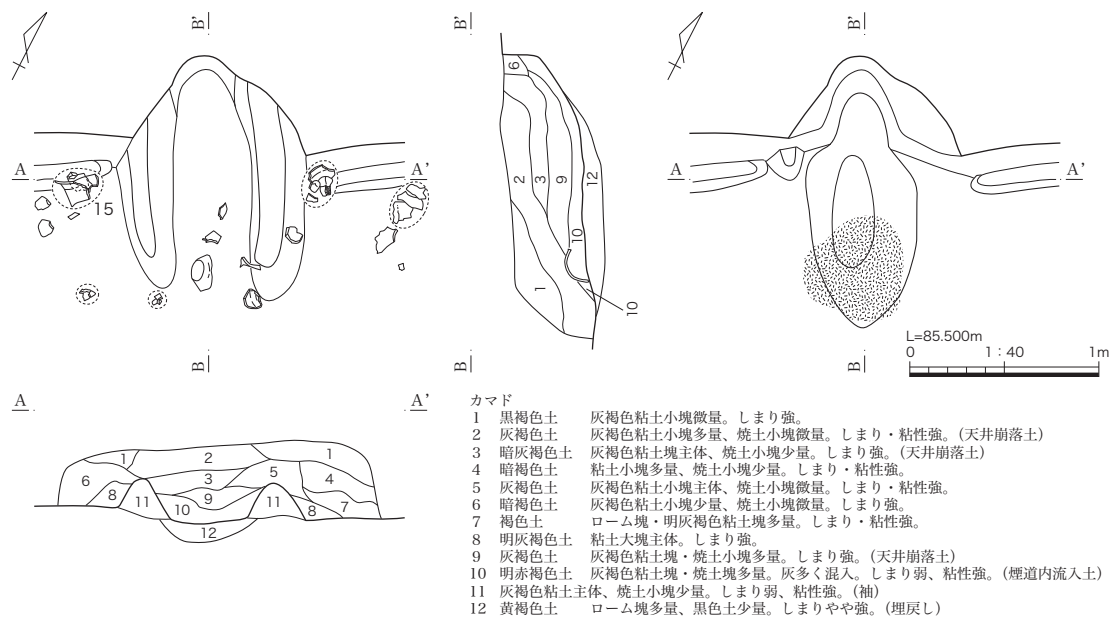
7	須恵器 甕	口高 (20.0) [11.5]	口縁部内外面ロクロナデ。胴部内面無文あて具痕。胴部外面平行叩き。	内：2.5GY4/1 暗オリーブ灰 外：2.5GY5/1 オリーブ灰	やや粗い、白・灰粗砂～礫 焼成：硬質	No.4、南西 7.1	頸部～肩部 1/6
8	土師器 環	口高 (15.0) [3.5]	口縁部内面～体部内面ヘラミガキ。口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。口縁部内面褐色付着物あり。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：5YR5/6 明赤褐	やや緻密、白・灰細砂～粗砂、赤粒 焼成：軟質	SI-58・上 面	口縁部～体 部 1/4
9	土師器 甕	孔高 (2.0) [3.5]	胴部内面下端部ヘラナデのちヘラミガキ。底部ヘラケズリにより穿孔のちナデ成形。胴部外面下端部ヘラナデか。底部外面ヘラケズリ。	内：5Y2/1 黒 外：10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、灰・白・黒細砂、黒・白砂 焼成：やや硬質	覆土中	底部完存
10	土師器 甕	口高 (21.0) [12.5]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラナデ及び指頭押圧。胴部内面ヘラナデ。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	やや緻密、灰・白・黒・透明細砂、灰・白砂、雲母片 焼成：やや硬質	No.8、貯蔵 穴、北西 7.2	口縁部～胴 部 1/6
11	土師器 甕	底高 (9.0) [16.0]	胴部外面ナメヘラケズリのち疎らなタテヘラミガキ。胴部内面ヘラナデ及び指頭押圧。底部外面ヘラケズリ。内面黒色を呈する。炭化物が付着したものか。	内外面とも 7.5YR6/4 にぶい橙	やや緻密、灰・白砂、白・黒細砂、赤粒、雲母片 焼成：やや硬質	南西、南東、 B-B'	底部～胴部 1/4
12	土師器 環	口高 (13.4) [3.3]	口縁部内外面ヨコナデのちヘラミガキ。体部外面ヘラケズリ。体部内面ヘラミガキ。内外面黒色処理。混入品か。	内外面 2.5Y4/2 暗灰黄	やや緻密、灰・白・透明細砂、黒・白砂 焼成：やや硬質	南東	口縁部 1/8
13	土師器 環	底高 (7.0) [1.6]	内外面ロクロナデ。内面ヘラミガキのち黒色処理。体部外面下端部ナデか。底部外面回転糸切り。	内：2.5Y2/1 黒 外：10YR5/3 にぶい黄橙	やや緻密、白・透明細砂～粗砂 焼成：やや硬質	北西	底部 1/3
14	鉄製品 釘か	長幅重 [1.9] 0.3 0.5	短い、頭がくの字に曲がるため釘と考えた。断面形は長方形で、最大幅 3.2mm、厚さ 2.0mm。	—	鉄製	北西部埋土 中	完存
15	鉄製品 鎌	長幅重 [8.5] 3.5 [38.7]	折れ曲がり先端を欠損しているが、残存部の背はほぼ直線的。棟は平坦で、幅 2.5mm。基部は一端を斜めに折り曲げている。折り幅は 1.2cm。刃部は平造り。	—	鉄製	No.7 3.3	先端部欠損
16	土製紡 錘車	長幅厚重 5.4 5.5 1.7 55.6	上面はほぼ平坦。側面は水平方向のヘラケズリにより、2～3段の稜を有する。下面はレンズ状に丸みを帯び褐色付着物(漆か)あり。孔は両面から穿たれる。孔径 8.3～8.8mm。	内外面とも 5Y7/1 灰白	やや緻密、白・灰・透明細砂、白礫 焼成：やや硬質	No.5	完存

3区 SI-53 (遺構：第110～112図、遺物：第113・114図、図版一五・八七・八八・一一五)

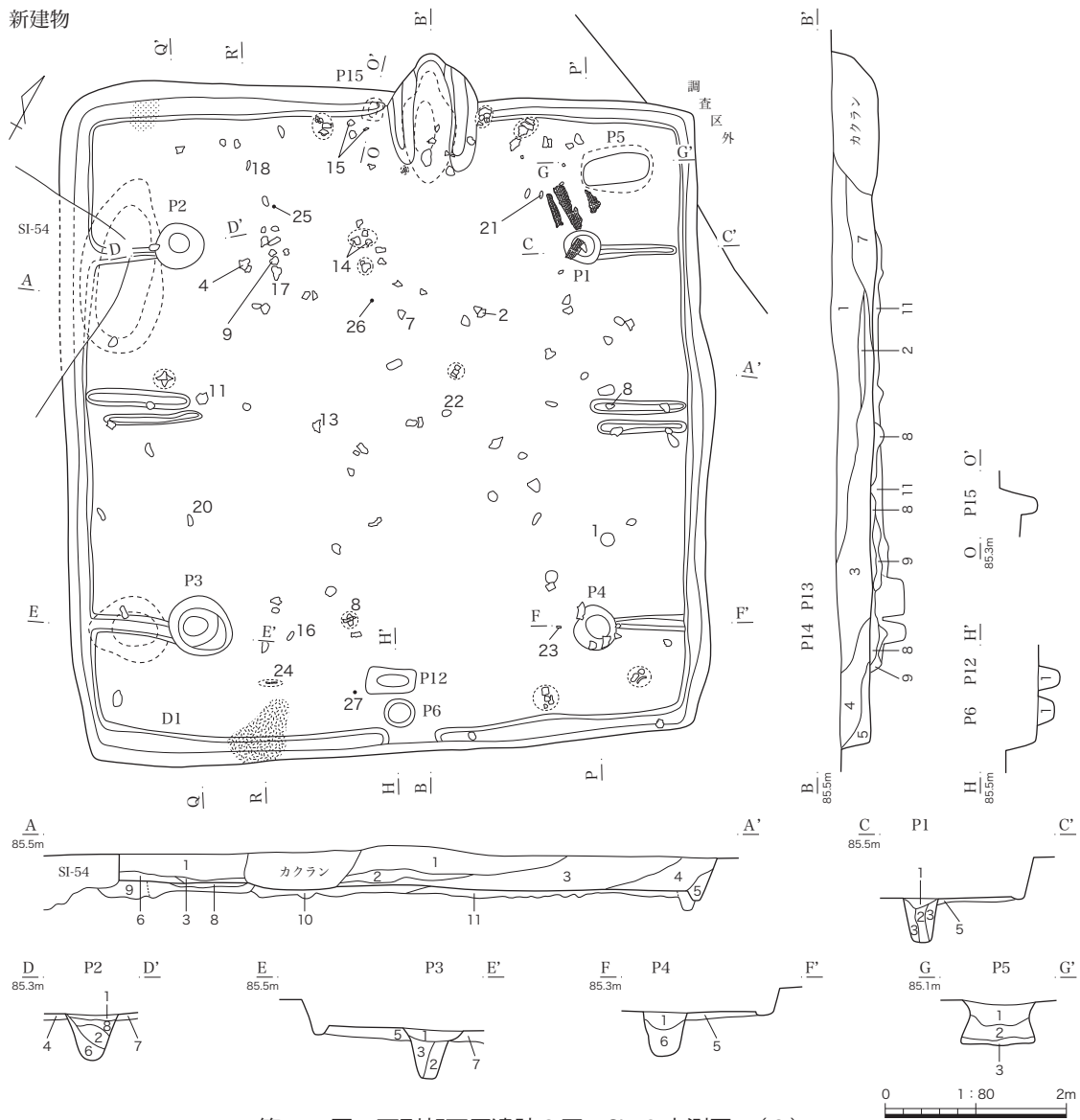
位置 グリッド 89.5-46.5・89.0-46.5・89.5-46.0 重複遺構・建替え 平安時代の建物跡 SI-54 より古い。

2時期以上の建替えを確認。 新建物：平面形 正方形 規模 東西7.18×南北6.9～7.6m 主軸方向 N-60°-W(新旧共通) 覆土 自然堆積 壁 壁高32～43cmほど(新旧共通) 床 貼床あり。概ね平坦。

柱穴 P1(径40cm、深さ48cm)、P2(径55～48cm、深さ49cm)、P3(径71～65cm、深さ46cm)、P4(径51～47cm、深さ42cm)は主柱穴。 入口ピット P6(径32cm、深さ17cm)、P12(径53～27cm、深さ25cm)は規模・形態は異なるが覆土は共通。 貯蔵穴 P5(長軸78～短軸52cm、深さ46cm)はオーバーハングする。 壁溝 幅15～30cm、深さ15cmで南壁際で途切れるがほぼ壁際を全周する。P15(径23cm、深さ18cm)がカマド西に近接するが用途は不明。 掘方 西壁際に土坑状の掘り込みあり。 カマド 北壁中央やや東寄りに位置する。煙道は火床面から緩やかに立ち上がったのち垂直に立つ。火床面は極めて良く焼けている。 旧建物：平面形 規模 東西6.0×南北5.6m。 覆土 貼床が残るのみ。 柱穴 P7(径32cm、深さ58cm)、P8(径55～49cm、深さ51cm)、P9(径63～54cm、深さ54cm)、P10(径42～38cm、深さ56cm)。 入口ピット P11(径38cm、深さ32cm)、P13(径45～28cm、深さ23cm)、P14(径54～25cm、深さ24cm)のうち、P13・14は規模が類似する。 貯蔵穴 確認できず。 壁溝 幅20cm、深さ5～10cmで南壁際で途切れるがほぼ壁際を全周。 掘方 南西部及び北東隅部に楕円土坑状の掘り込みあり。 カマド 北壁際中央部に楕円形の窪みあり。カマドの痕跡か。 遺物 新建物と旧建物の遺物は区別出来なかった。遺物は建物全面に散在しているが床面直上の遺物は礫(編物石)が多い。須恵器は坏・瓶類・甕があり、土師器は坏・高坏・手捏ね土器・甕・甑などがある。この他編物石、焼成粘土塊、鉄製品、玉類などがある。床面直上または床面付近の遺物は1の須恵器坏、8・9の土師器坏、15の土師器甕などがある。鑿子状鉄製品(24)が出土している。不掲載の土器類は小コンテナ5箱分と多く、礫の総量は4.2kgである。古墳時代終末期の建物跡と考えたい。



第110図 西刑部西原遺跡3区 SI-53 実測図 (1)

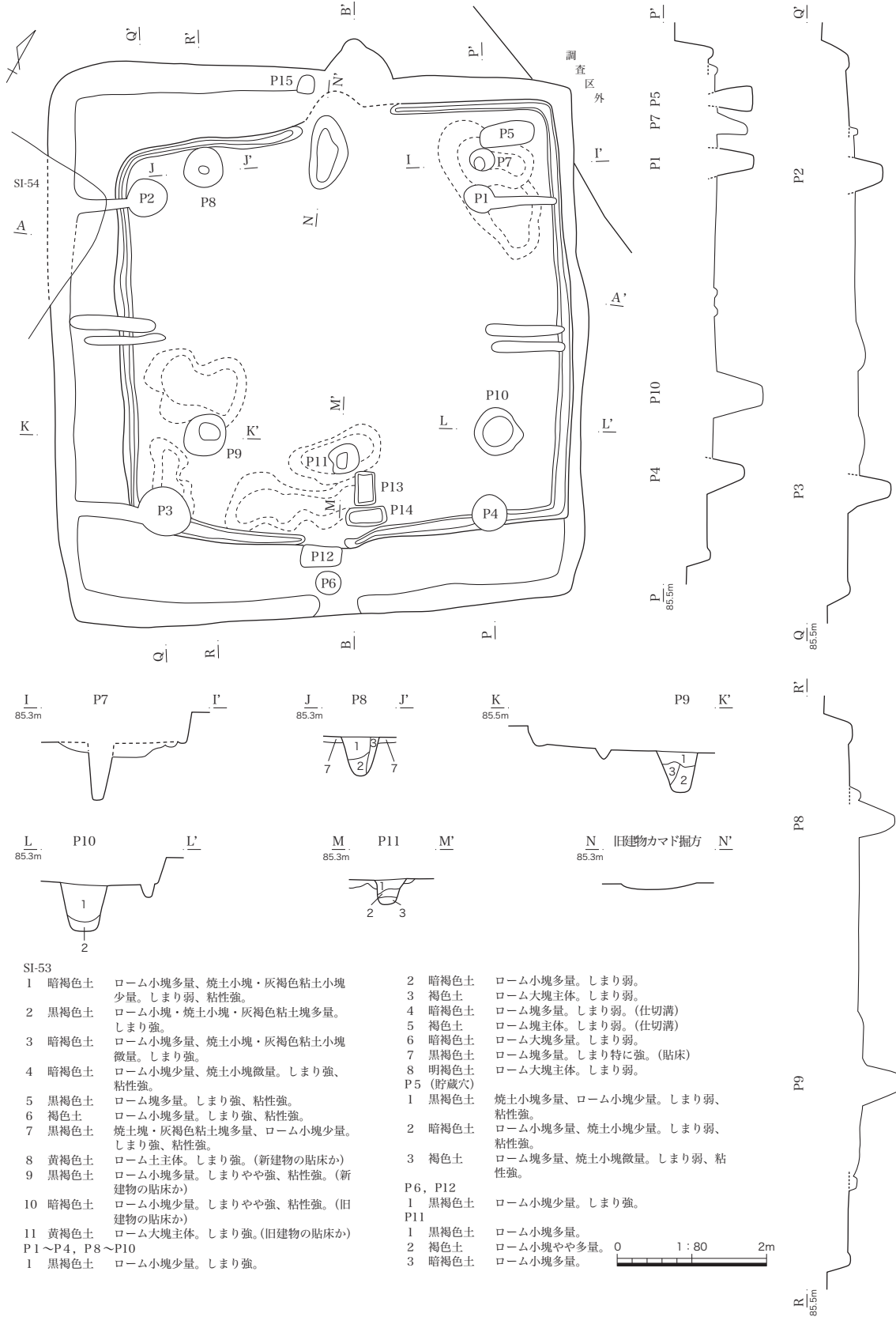


第111図 西刑部西原遺跡3区 SI-53 実測図 (2)

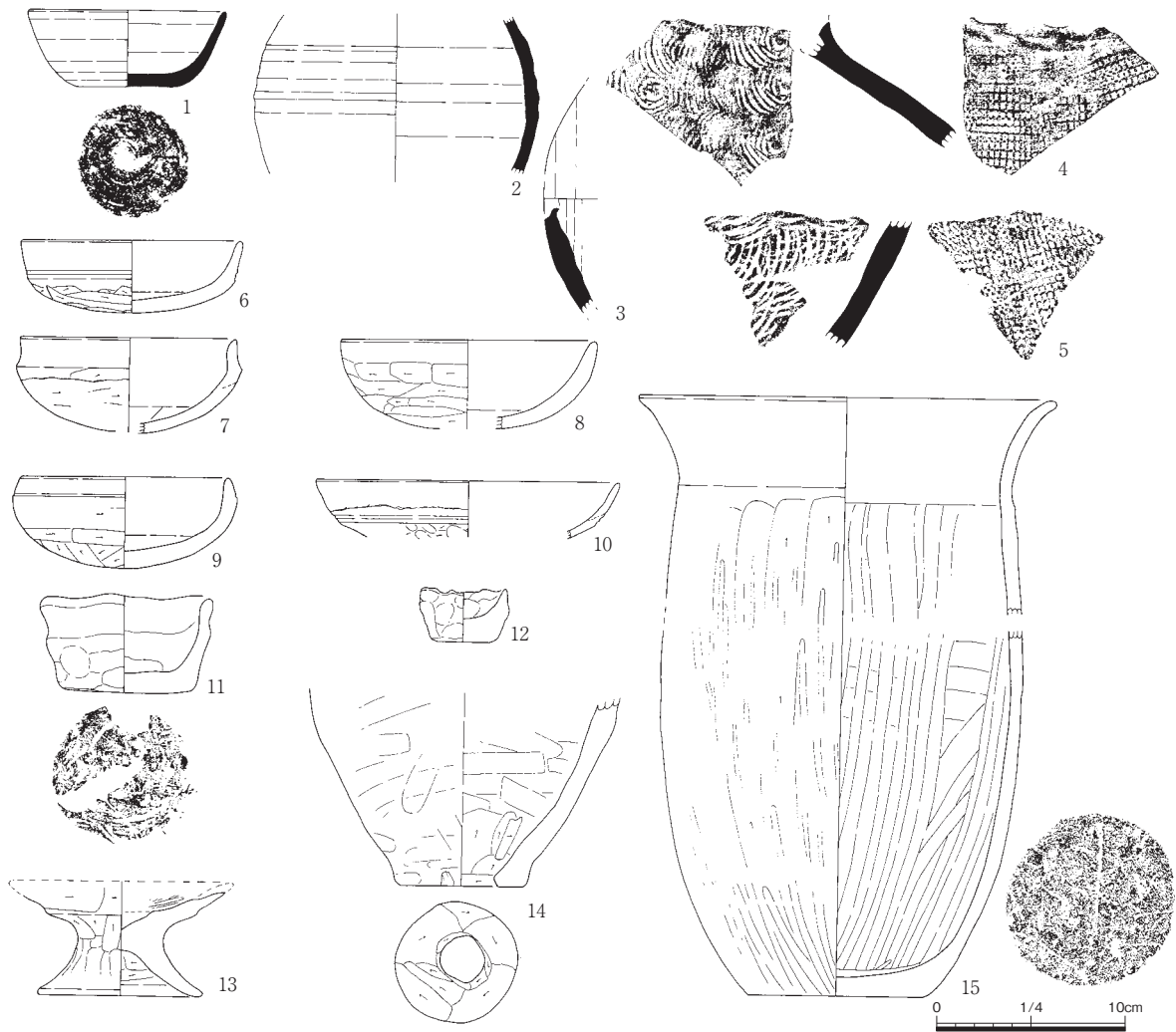
第41表 3区 SI-53 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 坏	口 (6.1) 高 4.2	内外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面薄く自然釉付着。外面は降灰。歪みが大きく、口径は補正して実測したため復元値。	内外面とも 2.5GY3/1 オリーブ灰	やや緻密、白粗砂～礫 焼成：硬質	No. 6 0.7	ほぼ完存
2	須恵器 瓶類	径 (15.1) 高 [8.3]	内外面ロクロナデ。外面自然釉付着。猿投産か。	内外面とも 7.5Y7/1 灰白	緻密、灰・白細砂、灰・黒砂 焼成：硬質	No. 19 床直	胴部中位 1/5
3	須恵器 プラスチック瓶	厚 1.2	内外面ロクロナデ。外面回転ヘラケズリ。外面自然釉付着。絞り切り閉塞。湖西産か。	内：2.5Y7/2 灰黄 外：2.5Y7/1 灰白	緻密、白・黒粗砂 焼成：硬質	南西	胴部破片
4	須恵器 甕	厚 1.2	内面同心円状あて具痕。外面格子叩き。	内外面とも N5/0 灰	やや粗い、白・黒粗砂～礫 焼成：やや軟質	No. 40 床直	胴部～頸部 破片
5	須恵器 甕	厚 1.3	内面同心円状あて具痕。外面格子叩き。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：2.5Y7/2 灰黄	やや緻密、白・灰粗砂、赤粒 焼成：やや軟質	覆土中	胴部破片
6	土師器 坏	口 516.0 高 3.8	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。口縁下端部沈線状。底部内面ヘラナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、黒・灰砂、灰・黒・白細砂、赤粒 焼成：やや硬質	No. 18 床直	口縁部 1/4 ～体～底部 1/2
7	土師器 坏	口 (11.2) 高 [5.1]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面磨滅し不明瞭だがヘラケズリか。内外面漆仕上げ。	内：10YR6/3 にぶい黄橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	やや粗い、白・透明細砂～粗砂 焼成：やや軟質	No. 23・33 2.2 (No. 23)	口縁部 1/2、体部 ～底部 3/4

旧建物

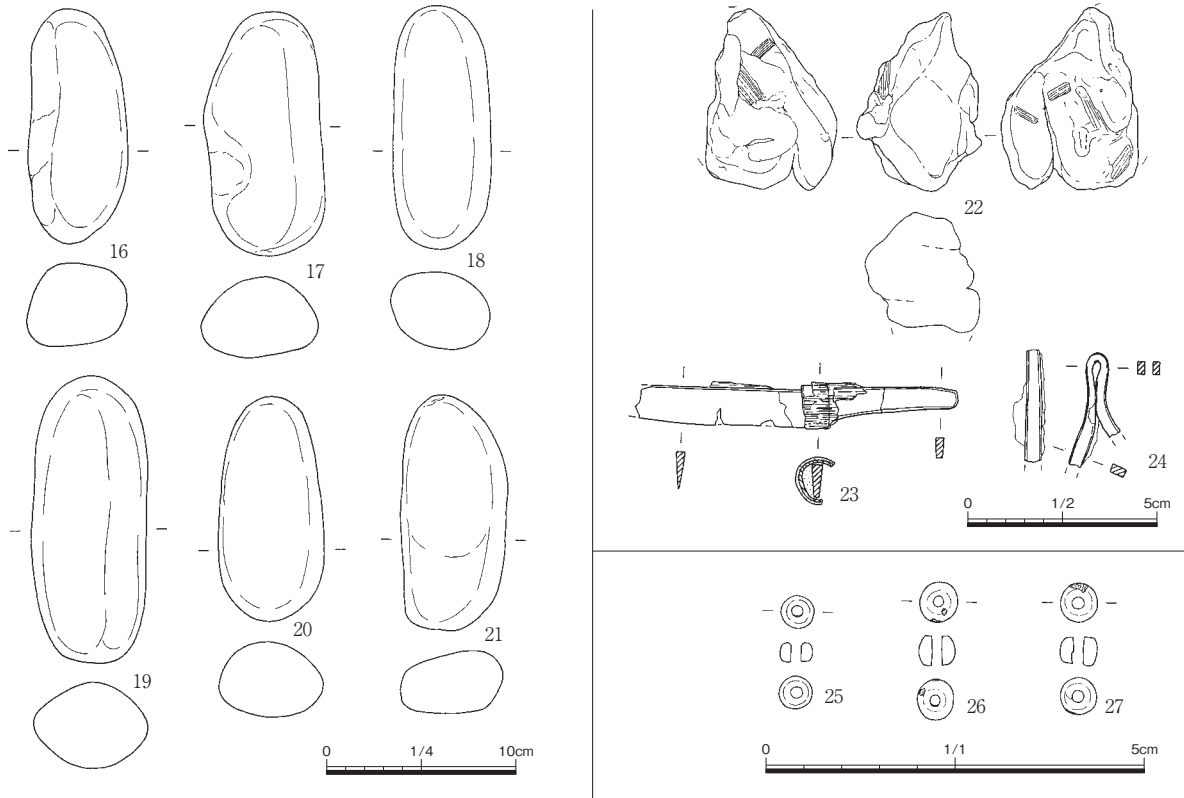


第112図 西刑部西原遺跡3区 SI-53実測図 (3)



第113図 西刑部西原遺跡3区 SI-53 出土遺物 (1)

8	土師器 环	口 13.4 高 12.9	口縁部外面~体部内面ヨコナデ。体部外面~底部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内：7.5Y7/6 橙 外：7.5Y8/6 浅黄橙	緻密、灰細砂、赤粒 焼成：やや軟質	No.5・45、 東 床直 (No.5)	口縁部 1/2、体~ 底部 2/3
9	土師器 环	口 (11.4) 高 4.8	口縁部外面~体部内面ヨコナデ。体部~底部外面ヘラケズリ。底部内面ナデ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	緻密、白細砂、赤粗砂 焼成：やや軟質	No.34・43、西、 西埋土中 1.7	口縁部 1/3、体部 ~底部 4/5
10	土師器 环	口 (16.0) 高 [3.0]	口縁部~体部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリの ちナデ。薄手の土器。非在地系の土器か。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	緻密、白細砂 焼成：やや軟質	西	口縁部~体 部 1/5
11	土師器 手捏ね 土器	口 8.4~9.3 底 7.3~7.6 高 5.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面指頭押圧。体部外面 指頭押圧のちナデ。底部外面植物圧痕あり、ワラカ。 口縁は楕円形に歪む。	内外面とも 10YR8/3 浅 黄橙	やや緻密、透明細砂 焼成：やや軟質	No.42 床直	ほぼ完存
12	土師器 手捏ね 土器	口 4.6 底 3.4 高 2.9	外面指頭押圧。内面ナデ。底部外面ナデ。口縁部は凸 凹多く、小さく波打つ。	内外面とも N5/0 灰	やや粗い、白・灰粗砂 焼成：軟質	南西、南、 西	ほぼ完存
13	土師器 高环	底 (8.3) 高 [6.0]	口縁部外面ヨコヘラケズリ。体部外面タテヘラケズリ。 体部内面ヘラミガキのち黒色処理。脚部外面タテヘラ ナデのち端部内外面ヨコナデ。脚部内面上半部ヘラケ ズリ。	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR6/6 橙	やや緻密、白・灰細砂~ 礫、赤粒 焼成：やや硬質	西埋土中	脚部 1/2、 环部 1/3
14	土師器 甌	底 6.5 高 [10.2] 口 2.4	胴部外面ナデか。胴部内面ヘラナデのち下半部~底部 にかけヘラケズリ穿孔。底部外面多方向ヘラケズリ及 びナデか。	内：5YR6/8 橙 外：5YR7/8 橙	やや緻密、白・灰・透明 細砂~粗砂 焼成：やや軟質	No.27、西、 東 1.8	胴下半部 1/3、底部 完存
15	土師器 甕	口 (21.7) 底 9.2 高 [32.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリのち タテヘラミガキ。胴部内面タテヘラナデ。底部外面木 葉痕。胴部外面上半部赤変。一部黒斑あり。全面的に 赤化した粘土付着のため調整不明瞭。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：5YR6/6 橙	やや緻密、灰・黒・白細 砂、黒・灰・白砂、白礫、 雲母 焼成：やや硬質	No.75 床直	口縁部 1/10、胴部 1/4、底部 完存
16	石器 編物石	長 12.3 幅 5.3 厚 4.3 重 359.0	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：不整な隅丸方形	2.5Y8/2 灰白	-	No.66 11.1	完存



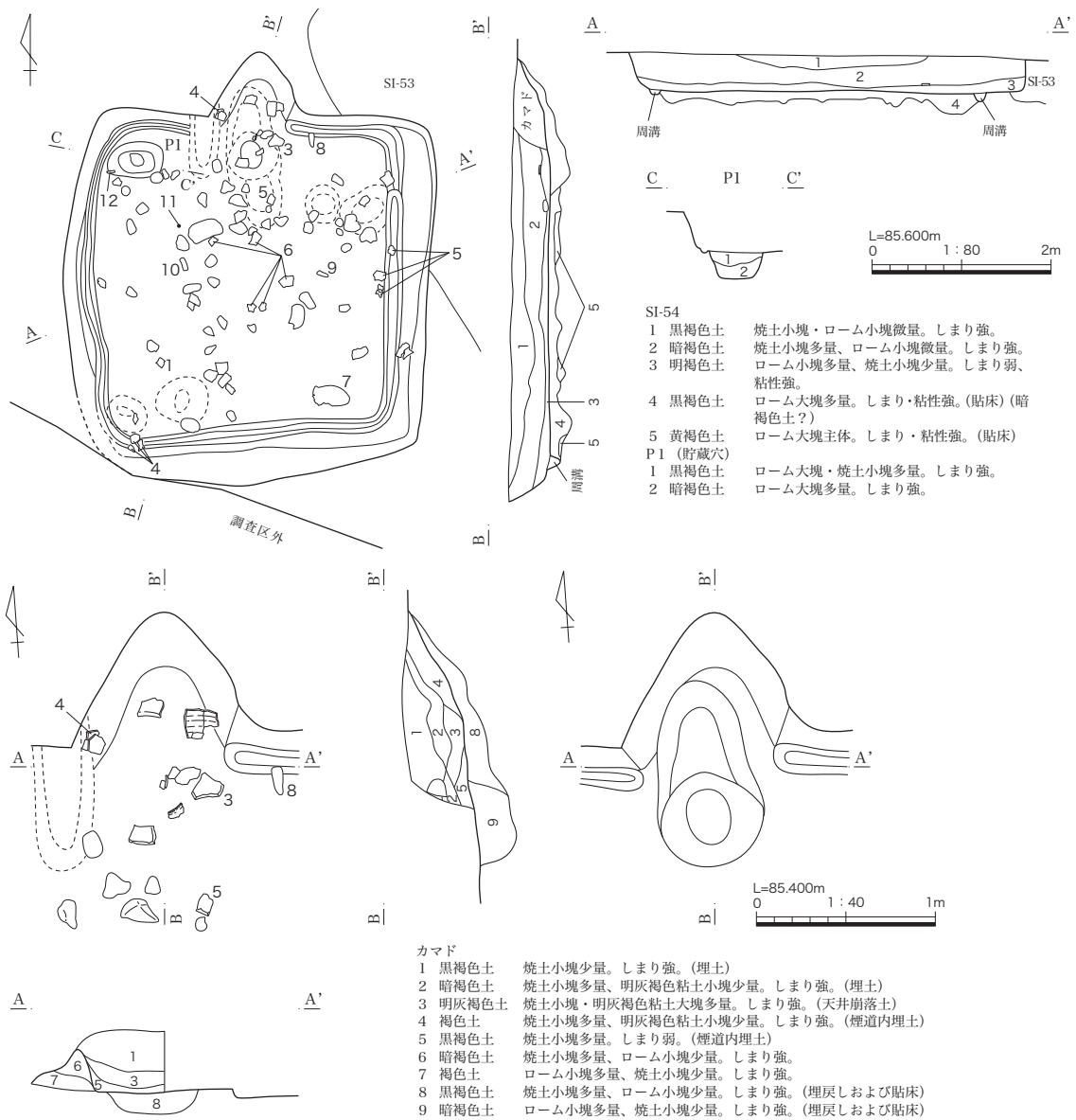
第114図 西刑部西原遺跡3区 SI-53 出土遺物 (2)

17	石器 編物石	長 幅 厚 重	12.9 6.1 4.2 516.0	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸半円形	5Y6/1 灰	—	No. 71 床直	完存
18	石器 編物石	長 幅 厚 重	12.8 5.2 4.0 633.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	2.5Y6/1 黄灰	—	No. 73 0.7	完存
19	石器 編物石	長 幅 厚 重	15.1 6.0 4.5 455.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：隅丸の菱形	10Y7/1 灰白	—	No. 68 床直	完存
20	石器 編物石	長 幅 厚 重	11.9 5.5 3.9 425.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：卵形	2.5Y5/3 黄褐	—	No. 59 床直	完存
21	石器 編物石	長 幅 厚 重	12.5 5.4 3.3 315.0	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：不整な隅丸方形	2.5Y7/6 明黄褐	—	No. 62 3.0	完存
22	焼成粘 土塊	長 幅 厚 重	4.7 [3.6] [3.0] [22.9]	ワラ若干混入。胎土はきめ細かくマーブル状。破面あり。	7.5YR7/4 にぶい橙	粗い、灰細砂 焼成：軟質	埋土中	部分残存
23	鉄製品 刀子	長 幅 重	[8.4] 1.3 [6.6]	刃部側に浅い関をもつ。背は概ね直線的で、棟は平坦。棟幅は約 2.0 mm。刃部は平造りで、柄縁金具は長径 1.3 cm 幅 7.0 mm の断面円形を呈し、内部に木質が残る。柄縁を覆う薄い樹皮状の付着物は鞘と思われる。	—	鉄製	No. 47 不明	鋒欠損
24	鐮子状 鉄製品	長 幅 重	[3.1] [1.5] [1.7]	頭部を環状に曲げ、頸部で一度接した後、肩部はなだらかに開く。脚部は大きく欠損する。側面は頭部から脚部にかけて徐々に幅が広がる。素材の断面は長方形。	—	鉄製	No. 14 不明	部分残存
25	石製品 丸玉	長 幅 厚 重	0.88 0.87 0.53 0.63	26・27 と比較して硬めの石材を使用。上下面に擦痕を残す。表面孔の周囲には幅 1.0 mm 弱の凹みあり、磨滅(使用)痕か。平面形は円形。側面は丸みを帯びる。孔径 2.4 ~ 2.7 mm。	10YR2/1 黒	蛇紋岩	No. 74 床直	完存
26	石製品 丸玉	長 幅 厚 重	1.03 0.97 0.8 0.87	全面的に人念に研磨。両面穿孔。孔内面には光沢ある長軸方向の擦痕あり。平面形は楕円形。側面は丸みを帯びる。孔径 2.8 mm。	10YR5/4 にぶい黄褐	結晶片岩	No. 24 4.0	完存
27	石製品 丸玉	長 幅 厚 重	0.97 0.98 0.75 1.0	全面的に人念に研磨。両面穿孔。孔内面には光沢ある長軸方向の擦痕あり。平面形は円形。側面は丸みを帯びる。孔径 2.7 ~ 3.0 mm。	10YR3/1 黒滑	結晶片岩	No. 46 0.7	完存

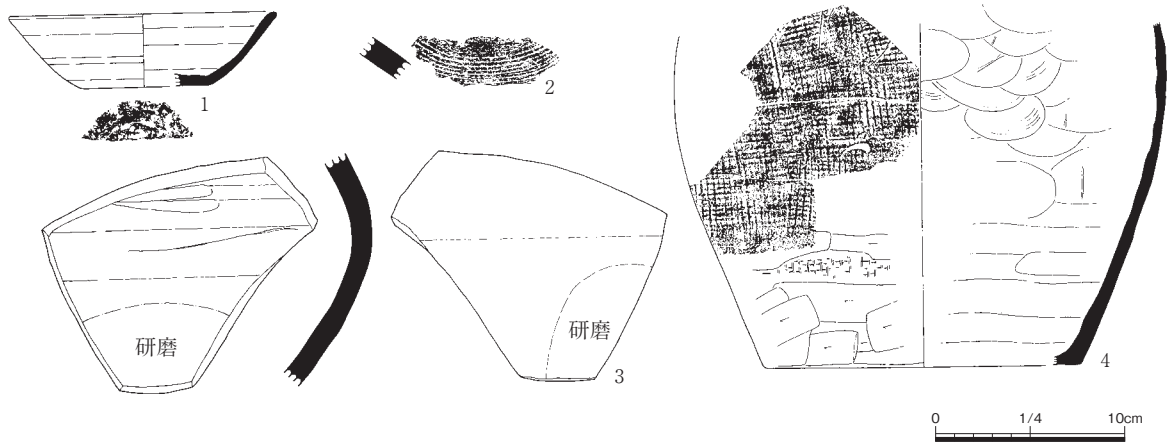
3区 SI-54 (遺構：第115図、遺物：第116・117図、図版一五・一六・八八・一一三)

位置 グリッド 89.5-46.0・89.5-46.5・89.0-46.0・89.0-46.5 重複遺構 古墳時代終末期の建物跡 SI-53 より新しい。 平面形 西壁が丸みをもつ隅丸正方形。 規模 東西 4.30×南北 4.11 m 主軸方向 N - 1° - E 覆土 自然堆積 壁 壁高は 42～46 cm 床 全面貼床 柱穴・入口ピット 確認できなかった。

貯蔵穴 P1 (径 62～40 cm、深さ 30 cm) は北西コーナーから確認。 壁溝 北壁・西壁は壁際に掘られるが、南側及び東側の周溝は壁際から 20～30 cm 離れている。 掘方 南西隅及び北東部に土坑状の掘り込みをもち、ローム塊主体の覆土で埋戻す。 カマド 北壁中央部に位置し、壁を三角形状に掘り込む。袖の粘土は残っておらず、持ち去られた可能性がある。 遺物 礫が多量に出土したが、殆どが自然礫。須恵器は坏・甕・甑、土師器は武蔵型甕がある。この他土製紡錘車 (11)、鉄製品の鋤先 (12) が出土した。床面



第115図 西刑部西原遺跡3区 SI-54 実測図

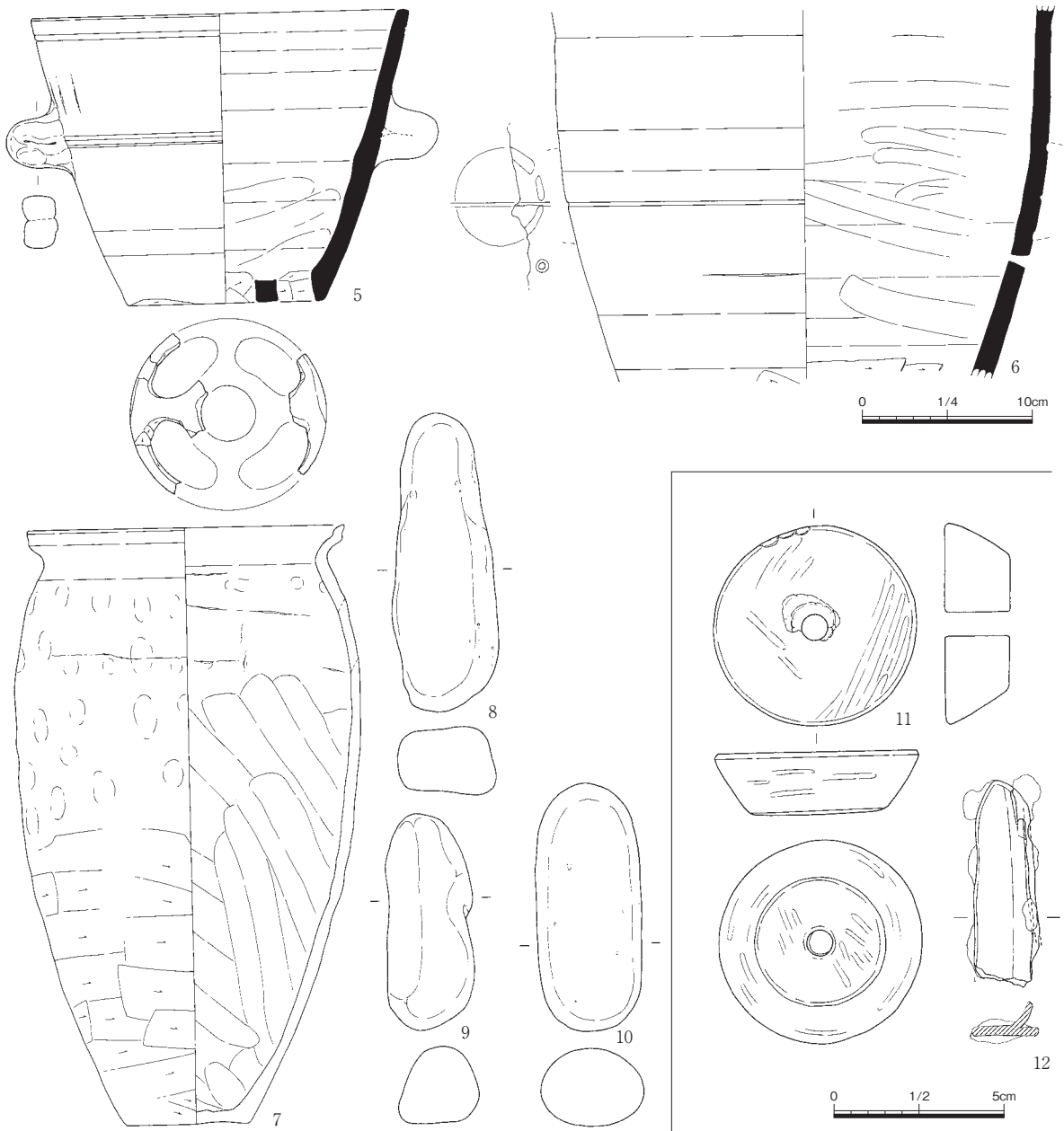


第116図 西刑部西原遺跡3区 SI-54 出土遺物 (1)

直上及び床面付近の遺物は1・3・4・7である。6の須恵器甕は大型品で、把手が剥落した痕跡（貼付位置を示した沈線）が残る。不掲載の土器類は小コンテナ1箱分、礫は2kg出土した。平安時代（9世紀中葉）の建物跡と考えたい。

第42表 3区 SI-54 出土遺物観察表

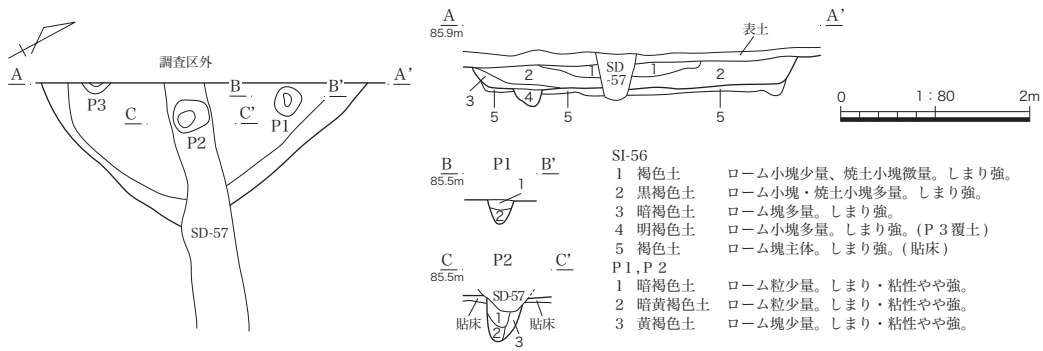
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 坏	口 (13.8) 底 (6.7) 高 3.8	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのちナデか。滝ノ入・倉見沢窯産。	内外面とも 5YR5/6 明赤褐	やや粗い、白・灰粗砂～礫、赤粒 焼成：やや軟質	No.16 0.9	口縁部～体部1/5、底部1/3
2	須恵器 瓶類	厚 1.2	内面ナデ。外面カキ目。	内外面とも N4/0 灰	やや緻密、白・透明粗砂 焼成：硬質	南東	肩部破片
3	須恵器 甕	厚 1.1 高 [11.0]	ロクロナデ。内外面の下端部に研磨痕あり。砥石として転用したものか。外面自然釉付着。	内：N6/0 灰 外：2.5GY8/1 灰白	やや緻密、白・黒・灰粗砂 焼成：硬質	No.8 0.8	胴部破片
4	須恵器 甕	胴 (26.0) 底 (16.7) 高 [18.0]	胴部内面無文あて具痕(木口状工具か)のち下端部ナデ。胴部上半部格子叩きのち下半部ヘラケズリ。底部外面ナデか。	内：10YR3/2 黒褐 外：10YR3/1 黒褐	やや粗い、白・灰・黒・透明細砂～礫、赤粒 焼成：やや硬質	No.30・31 0.6	胴部下半2/5
5	須恵器 甕	口 (21.8) 底 (11.4) 高 17.1	内外面ロクロナデ。口縁部外面横位沈線（半截竹管か）胴部中位2条の沈線のち把手貼付。胴部外面下端回転ヘラケズリ。胴部内面下半部ナメナデ。底部外面ナデのちヘラケズリによる穿孔。底部は5孔。	内：2.5GY5/1 オリーブ灰 外：7.5GY5/1 緑灰	やや粗い、白・透明・灰粗砂～礫 焼成：やや硬質	No.5・6・10・13・14 0.6	口縁部1/8、胴部下半～底部1/2
6	須恵器 甕	高 [21.7]	内外面ロクロナデ。胴部中位の横位沈線上に径5cmほどの破線状の沈線を施す。把手貼付部の痕跡と思われる。補修孔は表面から穿孔。胴部内面下端部のヘラケズリは底部穿孔に伴うものか。	内：7.5Y 灰 外：5Y6/1 灰	緻密、白・透明粗砂～礫 焼成：硬質	No.11・12・19 床直	胴部1/4
7	土師器 甕	口 (18.2) 底 7.2 高 35.5	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半指頭押圧及びびナデのち下半部ヘラケズリ。胴部内面上半部指頭押圧及びびナデ。底部外面調整不明。外面に多量の粘土付着。	内外面とも 7.5YR4/6 褐	やや緻密、白・灰細砂、白・灰砂 焼成：やや硬質	No.1 床直	口縁部2/5、胴部1/3、底部2/3
8	石器 編物石	長 17.5 幅 5.8 厚 4.0 重 712.0	未加工の自然礫。 平面形：不整な撥形 断面形：隅丸方形	7.5Y5/2 灰オリーブ	—	No.24 25.2	完存
9	石器 編物石	長 12.6 幅 4.8 厚 4.5 重 432.0	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸台形	10YR6/4 にぶい黄橙	—	No.27 7.9	完存
10	石器 編物石	長 14.5 幅 6.0 厚 4.6 重 617.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	7.5Y6/2 灰オリーブ	—	No.22 3.4	完存
11	土製 紡錘車	径 5.9 径 3.9 厚 1.78～1.88 孔 0.78 重 71.1	やや扁平な断面形をもつ。上面の孔周辺の剥離は使用痕か。上下面は多方向、側面は水平方向のヘラミガキを施すが、磨滅が著しく不明瞭な部分が多い。	2.5Y7/3 浅黄	緻密、白・黒・透明細砂 焼成：硬質	No.29 0.9	完存
12	鉄製品 鋤先	長 [6.0] 幅 [1.9] 厚 [1.1] 重 [15.8]	U字形または凸字形を呈する鋤先の耳部破片。上部は隅丸の三角形を呈する。耳部内側のV字に切り込んだ溝部は、錆化のためか一方が大きく捲れ上がる。	—	鉄製	No.18 41.5	耳部一部残存



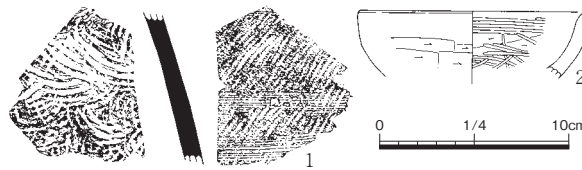
第117図 西刑部西原遺跡3区 SI-54 出土遺物 (2)

3区 SI-56 (遺構：第118図、遺物：第119図、図版一六)

位置 グリッド 90.0-44.5・90.0-45.0 重複遺構 奈良時代の溝跡 SD-57 より古い。平面形 不明だが方形若しくは長方形。規模 東西 1.68 m以上 × 南北 2.66 m以上 主軸方向 不明 覆土 自然堆積と考えられる。壁 壁高 20～24 cm 床 全面が貼床。硬化面は確認できない。柱穴 P1(径 30 cm、深さ 27 cm)、P2(径 32～23 cm、深さ 35 cm)、P3(径約 27 cm、深さ 17 cm) があるが用途は不明。入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。カマド 確認できなかった。遺物 非常に少なく殆どが小破片。床面直上の遺物は皆無である。須恵器甕破片(1)は擬格子叩きのちカキ目を施す。不掲載遺物は土器類は小コンテナ 1/5 箱弱、礫の総重量は 200g である。古墳時代終末期(7世紀代)の建物跡と思われる。



第 118 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-56 実測図

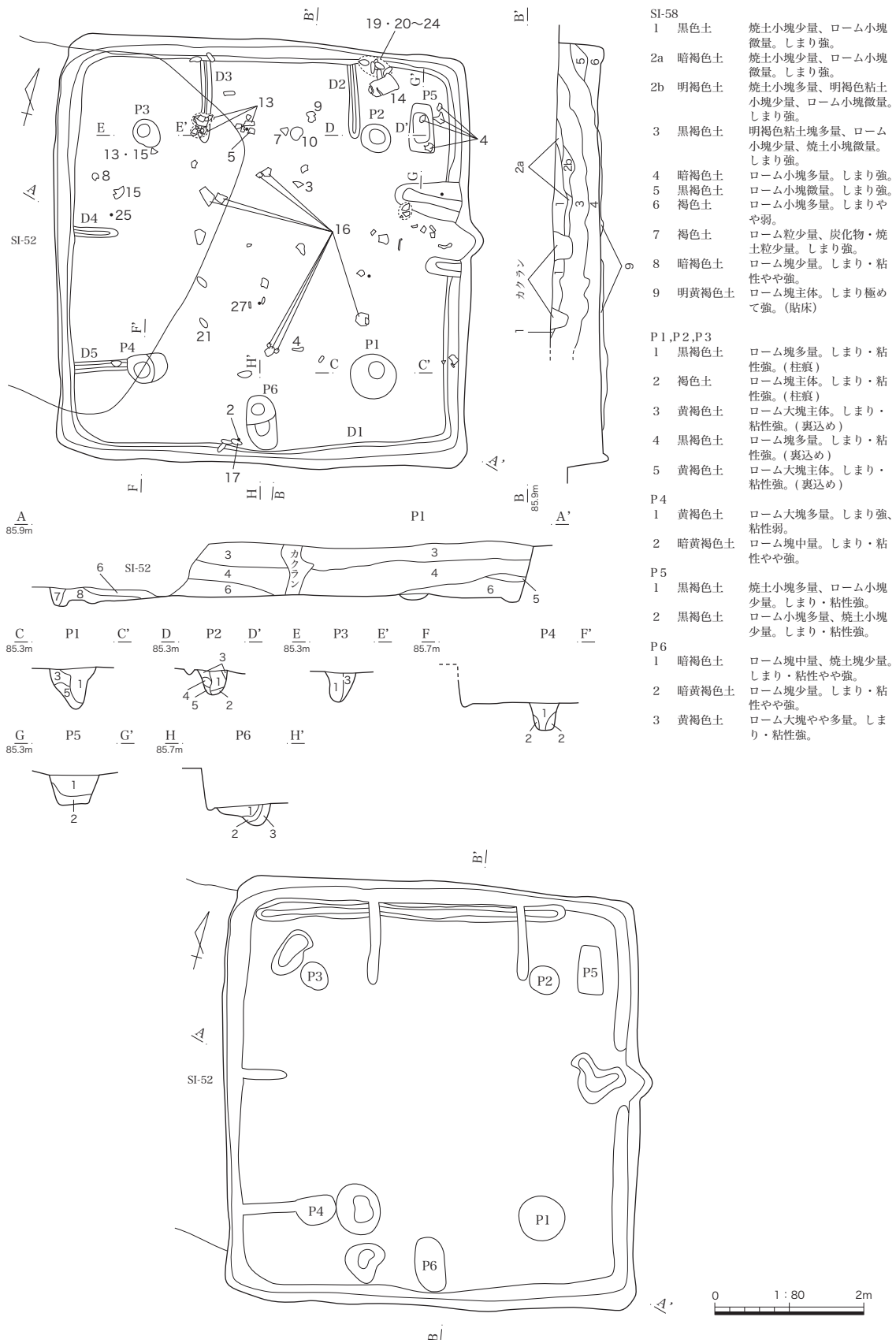


第 119 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-56 出土遺物

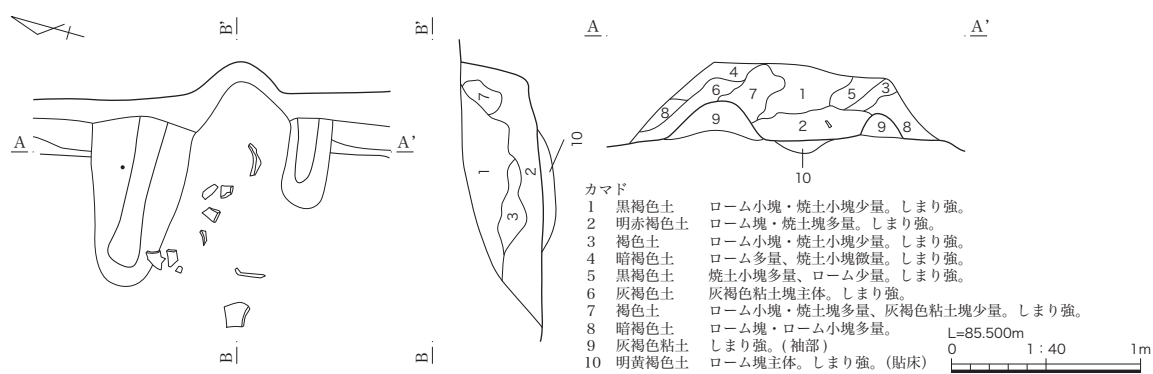
第 43 表 3 区 SI-56 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技 法 ・ 特 徴	色 調	胎土・焼成・素材	出土位置	残存
1	須恵器 甕	厚 0.9	内面同心円状あて具痕。外面擬格子叩きのちカキ目。	内：7.5Y7/1 灰白 外：10YR6/1 灰	やや緻密、白・灰・黒細砂、 灰・黒・白砂、黒・白礫 焼成：硬質	北東埋土中	胴部破片
2	土師器 環	口 (11.7) 高 [3.5]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヨコヘラケズリ。体部内面ヘラケズリのち疎らなヘラミガキ。内面漆仕上げ。	内外面とも 10YR7/4 に ぶい黄橙	やや緻密、灰・白・黒細 砂、黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	南東埋土中	口縁部 1/7

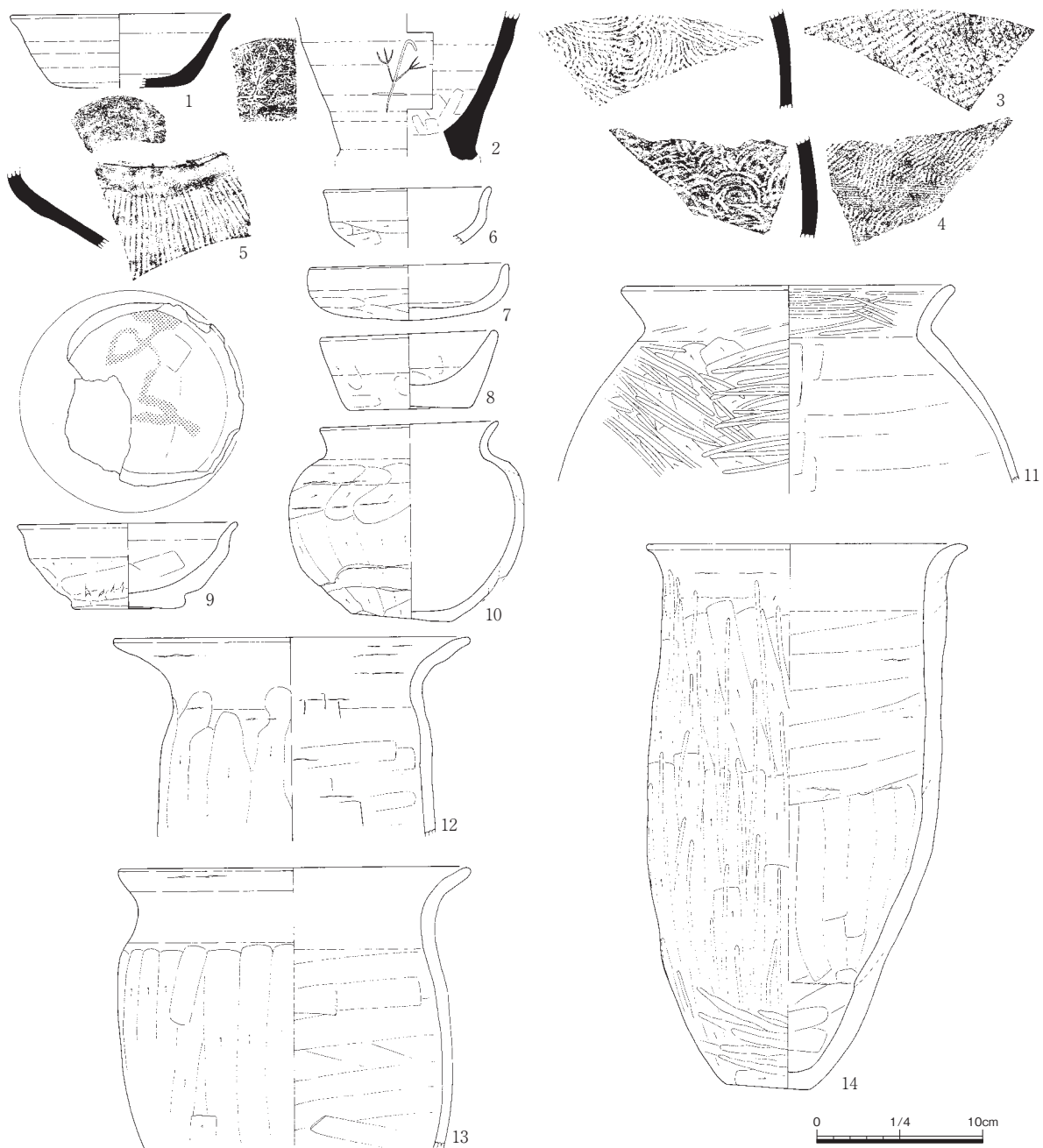
3区 SI-58 (遺構：第 120・121 図、遺物：第 122・123 図、図版一四・一六・一七・八八・一一二・一一五)
 位置 グリッド 90.0-45.5 重複遺構 平安時代の建物跡 SI-52 より古い。平面形 隅丸正方形 規模 東西 5.53×南北 5.60 m 主軸方向 N -15° -W 覆土 自然堆積か。壁 壁高 58～69 cm 床 やや細かな凹凸があり、中央部に貼床が見られる。柱穴 P1 (径 60 cm、深さ 54 cm)、P2 (径 38 cm、深さ 34 cm)、P3 (径 36 cm、深さ 29 cm)、P4 (径 54～38 cm、深さ 29 cm) は支柱穴と考えられる。入口ピット P6 (径 71～40 cm、深さ 27 cm) は南壁中央部に位置する。貯蔵穴 P5 (長軸 64×短軸 34 cm、深さ 36 cm) は北東隅に位置する。壁溝 D1 (幅 17～50 cm、深さ 7 cm) は壁際を全周する。間仕切り溝 D2 (幅 11～14 cm、深さ 6 cm)、D3 (幅約 13 cm、深さ 7 cm)、D4 (幅約 12 cm、深さ 3 cm)、D5 (幅約 14 cm、深さ 5 cm) は北壁及び西壁に接する。掘方 部分的に土坑状の掘り込みあるが平坦。カマド 東壁中央部やや北寄りに位置し、壁面を三角形に掘り込む。煙道は急角度で立つ。焼土が多量堆積し、長期間の使用が伺える。遺物 覆土中層から上層に多い。掲載した遺物は須恵器環・捏鉢・甕、土師器環・粗製環・甕、編物石、焼成粘土塊、金銅製耳環、鉄鏃などがある。掲載物は床面付近の遺物が多い。2 は胴部外面に解説不明のヘラ描きのある須恵器捏鉢。漢字の「木」を逆にしたような形状で、文字或いは鳥の脚を表現したものだろうか。9 は底部に削りを施さない粗製環。内面は墨書風の文様が見られるが、褐色の樹脂状(漆か)の塗料を用いたものか。14・15 の大型ハケ甕は非在地系の土器か。不掲載遺物は小コンテナ 2 箱、礫は 6.6 kg 出土した。遺物から古墳時代終末期(7世紀前半から中葉)の建物跡と考えられる。



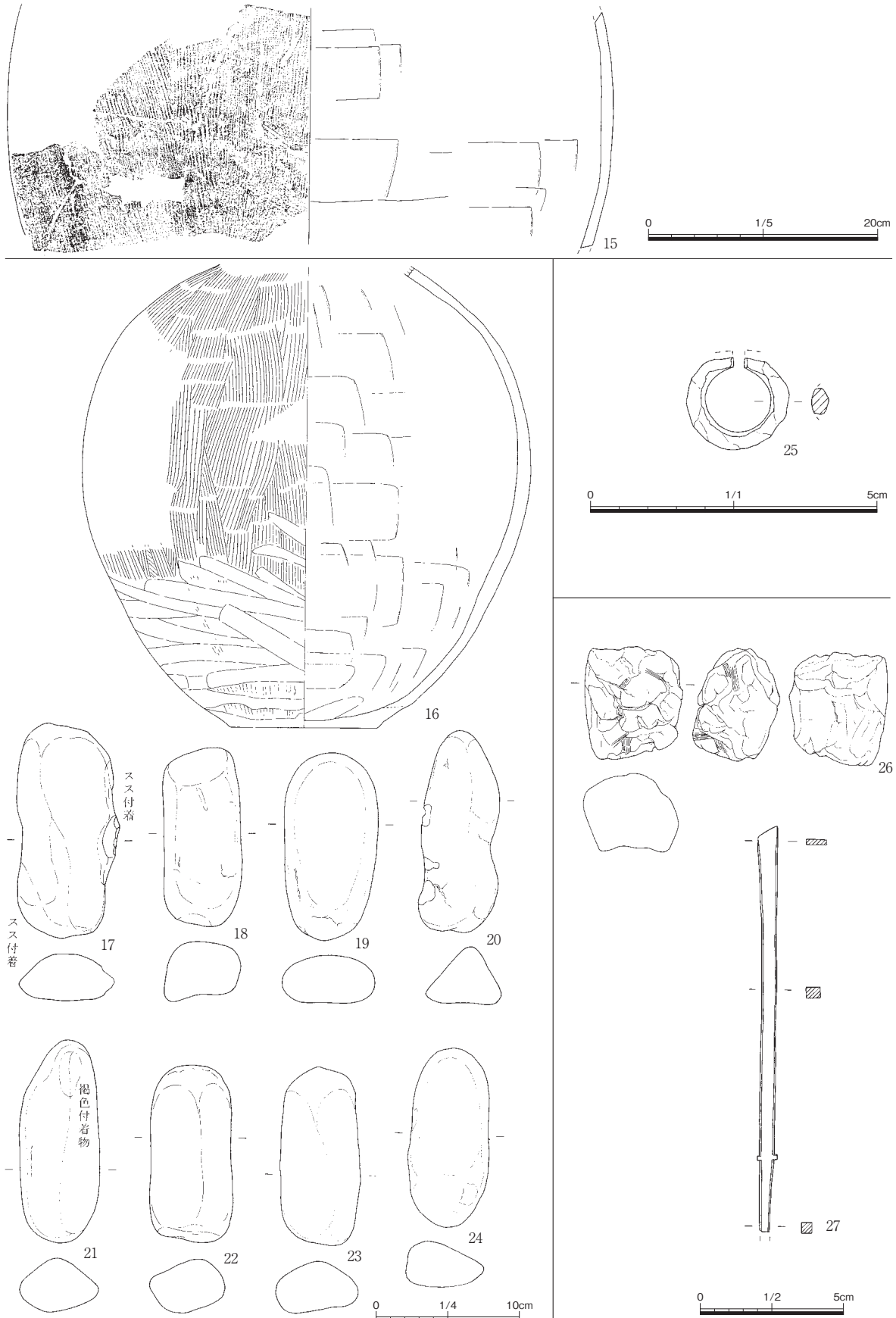
第120図 西刑部西原遺跡3区 SI-58 実測図 (1)



第121図 西刑部西原遺跡3区 SI-58 実測図 (2)



第122図 西刑部西原遺跡3区 SI-58 出土遺物 (1)



第123図 西刑部西原遺跡3区 SI-58 出土遺物 (2)

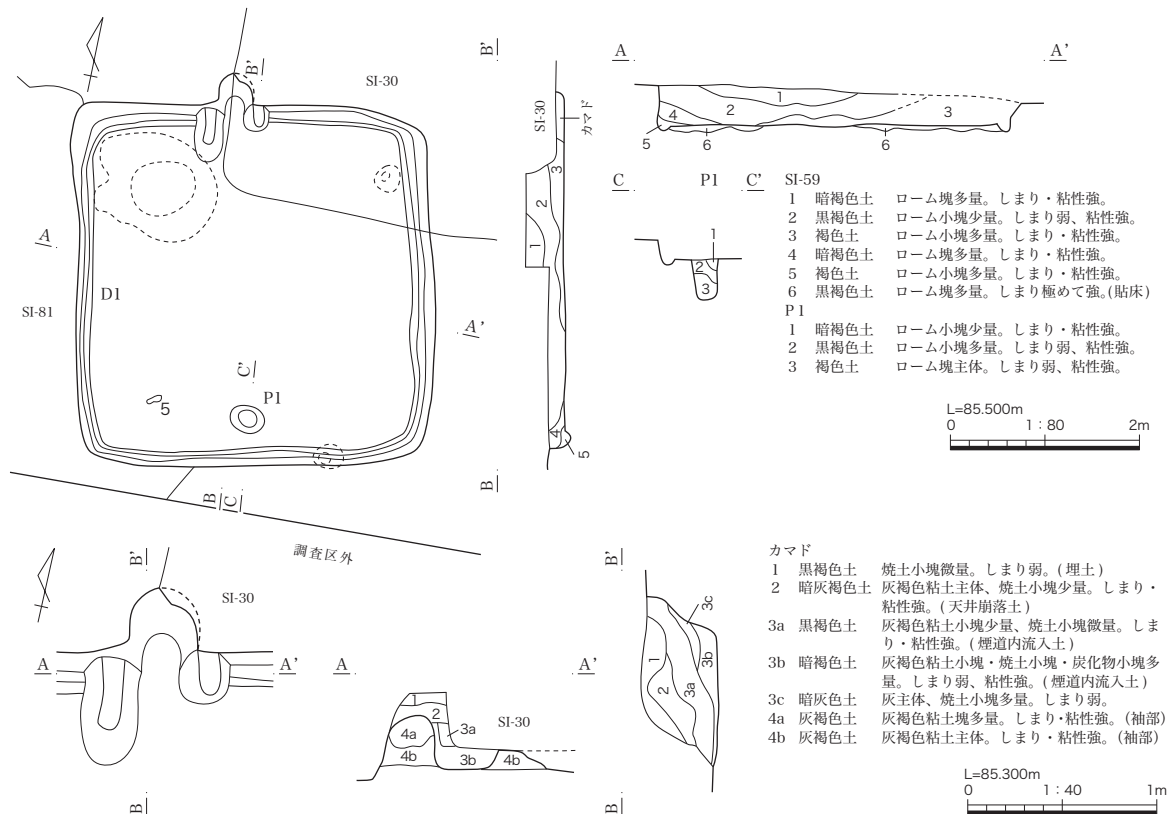
第44表 3区 SI-58 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技 法 ・ 特 徴	色 調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 坏	口 (13.0) 底 (8.0) 高 4.4	内外面口コナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデか。混入品。	内外面とも 10Y2/1 黒	やや粗い、白・灰細砂～礫 焼成：やや硬質	南東	胴部～底部 1/3
2	須恵器 捏鉢か	高 [8.4]	口コナ仕上げ。体部外面中央部にヘラ記号あり(解説不明)。底部内面ナデ。外面一部に緑色の自然釉付着。	内：10YR6/2 灰黄褐 外：2.5Y7/1 灰白	やや緻密、白・灰・黒砂、白・灰細砂、白礫 焼成：やや硬質	No.2 4.8	胴部下半 1/2
3	須恵器 甕	厚 0.8	内面同心円状あて具痕。外面格子叩き。内外面薄く自然釉付着。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：2.5Y5/1 灰	やや緻密、灰・白・黒砂、白・灰細砂 焼成：硬質	No.42 4.4	胴部破片
4	須恵器 甕	厚 0.9	内面同心円状あて具痕。外面擬格子叩き、横位のカキ目。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：2.5Y7/1 灰白	緻密、黒・灰・白細砂、灰・白・黒砂 焼成：硬質	No.6 52.9	胴部破片
5	須恵器 甕	厚 0.9	頸部内外面ナデ。胴部外面平行叩き。胴部内面ヘラナデ及び同心円状あて具痕。	内：5Y6/1 灰 外：5Y7/1 灰	緻密、白・灰細砂～礫 焼成：硬質	No.57 45.8	胴部～頸部 破片
6	土師器 坏	口 (9.8) 高 [3.4]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内外面とも 10YR7/3 に ぶい黄橙	やや緻密、白・灰細砂、白・黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	北西、北東	口縁部～体 部 1/3
7	土師器 坏	口 (11.8) 高 3.2	口縁部内外面黒色処理。口縁部内外面ヨコナデか。体部外面ヘラケズリか。器面磨減顕著で調整不明瞭。	内：7.5Y4/1 灰 外：7.5Y5/1 灰	やや緻密、白細砂、灰粗砂 焼成：やや硬質	No.40 3.3	口縁部 1/4、底部 1/3
8	土師器 粗製坏	口 10.3 底 7.0 高 4.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ及び指頭押圧。底部外面ナデ。口縁部～底部内面にかけ研磨されたようにスベスベしている。	内：2.5Y6/2 灰黄 外：2.5Y7/3 浅黄	やや緻密、黒白細砂、黒・灰・白砂 焼成：やや硬質	No.3 8.2	口縁部 1/4、底部 完存
9	土師器 粗製坏	口 (13.2) 底 6.8 高 5.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデのち漆描き文字か(解説不能)。体部外面ナデ。底部外面ナデ。	内：10YR7/3 にぶい黄橙 外：10YR8/4 浅黄橙	やや緻密、白・灰細砂 焼成：やや硬質	No.38 10.6	口縁部 1/8、底部 3/4
10	土師器 小型坏	口 12.5 高 12.0	内面剥落の為調整不明。(被熱によるものか) 外面上半部はナメのちヨコヘラケズリ、下半部はタテヘラケズリ。胴下半部～底部にかけ黒斑あり、ススなどが付着したものか。甕として使用された可能性あり。	内外面とも 10YR8/4 浅 黄橙	やや緻密、灰・白細砂、灰・白・黒細砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.39 2.1	ほぼ完存
11	土師器 甕	口 (19.4) 底 6.0 高 [12.1]	口縁部外面ヨコナデ。口縁部内面ヨコナデのちヘラミガキ。胴部外面ヘラケズリのちヘラミガキ。胴部内面ヘラナデ。全面橙色を呈する球胴の甕。被熱痕なし。	内外面とも 5YR6/8 橙	やや緻密、白・灰・黒細砂、白・黒・灰砂、赤粒 焼成：やや軟質	カマド	口縁部 1/4
12	土師器 甕	口 21.0 高 [12.2]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面僅かに焼土(カマド材)付着。	内外面とも 10YR6/4 に ぶい黄橙	やや緻密、灰・黒・白砂、白・黒細砂 焼成：やや硬質	No.33・34・ 35、北東 24.1 (No. 34)	胴部上半 3/4
13	土師器 甕	口 21.0 高 [17.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリのち一部ヘラナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面黒斑及び被熱による赤化部分あり。	内：7.5YR2/1 黒 外：7.5YR6/6 橙	やや粗い、白・透明・灰・黒細砂～礫 焼成：やや軟質	No.51・52・ 54 4.3 (No.51)	口縁部 3/4、口縁 部破片 7片
14	土師器 甕	口 19.2 底 5.6 高 32.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリのちヘラミガキ。胴部内面上半ヨコヘラナデ。胴部内面下半タテヘラナデ。底部外縁ヘラケズリのちナデ。側面のうちタテ 1/2 ほどが赤化。	内：10YR7/6 明赤褐 外：7.5YR6/6 橙	やや粗い、白・透明細砂、白・灰・黒粗砂～礫 焼成：やや軟質	No.39 0.5	ほぼ完存
15	土師器 甕	口 (52.4) 高 [20.1]	内面ヘラナデ。外面ハケ目。	内：2.5Y7/3 浅黄 外：10YR5/4 にぶい黄橙	やや粗い、白・黒細砂～礫、赤粒 焼成：やや硬質	No.49・51 4.3 (No. 51)	胴部中位 1/5
16	土師器 甕	高 [32.2] 径 (31.0)	内面ヘラナデ。外面タテハケ目のち下半部ヨコヘラナデ。底部外面多方向のヘラケズリのちナデ。外面に若干ススが付着するが被熱は弱い。	内：10YR5/3 にぶい黄橙 外：10YR7/6 明黄褐	やや粗い、透明・白細砂、白粗砂、赤粒、白礫 焼成：やや硬質	No.5・20・43 1.4 (No.5)	胴部下半 1/2、上半 1/8、底部 1/3
17	石器 編物石	長 15.7 幅 [6.6] 厚 3.2 重 [419.0]	部分的黒色付着物あり。ススカ。右側面に剥離痕あり。平面形：隅丸長方形 断面形：不整なレンズ状	2.5Y8/2 灰白	—	No.8 5.8	部欠
18	石器 編物石	長 12.25 幅 5.3 厚 4.1 重 471.2	未加工の自然礫。平面形：隅丸長方形 断面形：不整な隅丸長方形	10Y5/1 灰	—	No.37 3.5	完存
19	石器 編物石	長 13.2 幅 6.4 厚 3.4 重 442.3	未加工の自然礫。平面形：楕円形 断面形：楕円形	2.5Y7/2 灰黄	—	No.37 3.5	完存
20	石器 編物石	長 14.5 幅 5.4 厚 4.0 重 383.1	未加工の自然礫。平面形：不整形 断面形：隅丸三角形	5Y7/3 浅黄	—	No.37 3.5	ほぼ完存
21	石器 編物石	長 14.0 幅 5.5 厚 4.1 重 451.0	未加工の自然礫。平面形：楕円形 断面形：隅丸菱形	2.5Y7/1 灰白	—	No.11 床直	完存
22	石器 編物石	長 12.2 幅 5.5 厚 3.6 重 433.2	未加工の自然礫。平面形：隅丸長方形 断面形：隅丸長方形	5Y7/2 灰白	—	No.37 3.5	完存
23	石器 編物石	長 12.2 幅 5.4 厚 3.4 重 377.3	未加工の自然礫。平面形：不整な隅丸長方形 断面形：不整な隅丸長方形	7.5Y5/1 灰	—	No.37 3.5	完存

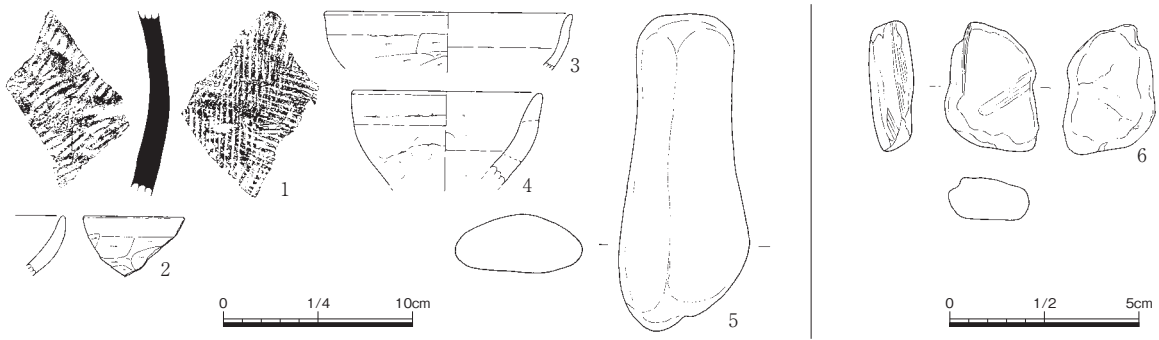
24	石器 編物石	長 幅 厚 重	12.5 5.3 3.2 323.9	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：不整な楕円形	10Y7/1 灰白	—	No.37 3.5	完存
25	金銅製 品 耳環	縦径 横径 重	[1.7] [1.6] [3.4]	内側面及び端部の一部を残し、その他は大きく剥落。 平面形はほぼ円形を呈したのか。残存部から断面形は縦長の可能性がある。内側面には僅かに金箔が残る。	—	銅・金箔	No.1 9.6	部分欠損
26	焼成粘 土塊	長 幅 厚 重	[3.8] [2.6] [3.4] 19.0	破面の一部にフラの脱痕がみられる。胎土は環類に較べ軟質で、軽い。遺存部から観察すると厚さ2.6～3.4mmほどの板状を呈した可能性がある。	5YR8/4 淡橙	やや緻密、白・赤微粒砂 焼成：軟質	南東	
27	鉄製品 鉄鏃	長 幅 重	[14.3] 7.0 [12.6]	片刃箭式の長頸鏃。鏃身最大幅7.0mm。頸部断面は長方形で、幅5.0mm、厚さ4.0mmほど。棘籠被。茎の下端部は欠損。	—	鉄製	No.16・南 東部覆土 55.5	

3区 SI-59 (遺構：第124図、遺物：第125図、図版一七)

位置 グリッド 89.0-46.5 重複遺構 古墳時代後期の建物跡 SI-81 より新しく平安時代の建物跡 SI-30 より古い。 平面形 隅丸方形 規模 東西 3.72×南北 3.84 m以上 主軸方向 N-12.5° -W 覆土 自然堆積 壁 壁高は 20～46 cm残る。 床 北西部に明瞭な貼床あり。 柱穴 確認できなかった。 入口ピット P1 (径 34～30 cm、深さ 43 cm) は南壁際中央部から 20 cm離れる。 貯蔵穴 確認できなかった。 壁溝 D1 (幅 14～25 cm、深さ 5～10 cm) 掘方 北西隅付近に土坑状の掘り込みあり。ローム塊多量含む6層で埋戻す。 カマド 北壁中央やや西寄りの壁面をU字形に掘り込む。構築材は灰褐色粘土を使用する。 遺物 非常に少なく殆どが小破片。床面直上の遺物は皆無である。須恵器甕破片(1)、土師器坏(2・3)・粗製坏(4)などがあり、この他編物石、焼成粘土塊を図示した。不掲載の土器類は小コンテナ 1/3 箱弱である。遺物が少なく不明な点も多いが、古墳時代終末期の建物跡と思われる。



第124図 西刑部西原遺跡3区 SI-59 実測図



第125図 西刑部西原遺跡3区 SI-59 出土遺物

第45表 3区 SI-59 出土遺物観察表

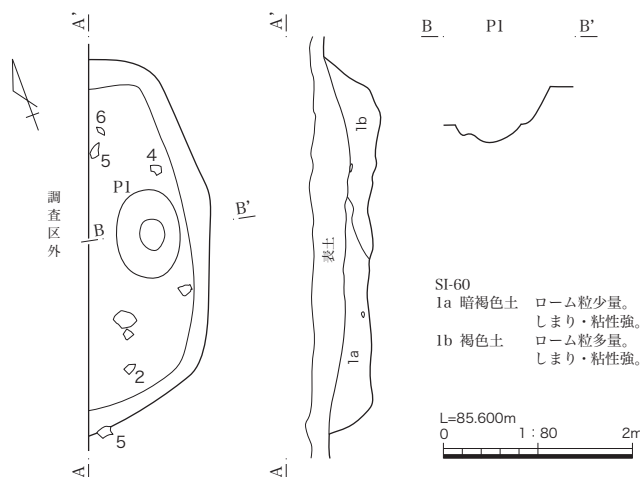
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器甕	厚 1.2	内面平行あて具痕。外面平行叩き。	内：5Y4/1 灰 外：N4/0 灰	やや緻密、白・灰・黒細砂・焼成：やや硬質	埋土中	胴部破片
2	土師器環	口高 [13.8] 高 [3.0]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヨコヘラケズリ。口縁部外面及び内面漆仕上げ。	内外面とも 10YR8/4 浅黄橙	やや緻密、黒・白・灰細砂・焼成：やや硬質	南	口縁部 1/8
3	土師器環	口高 [12.8] 高 [3.1]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内外面とも 10YR7/3 にぶい黄橙	やや緻密、灰・白細砂・焼成：やや硬質	南西	口縁部 1/6
4	土師器粗製環	口高 [9.8] 高 [5.0]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面指頭押圧あるいはナデか（風化のため不明瞭）。外面接合痕が顕著。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・黒・細砂・灰・黒砂、灰礫・焼成：やや硬質	北西	口縁部～体部 1/4
5	石器編物石	長 16.6 幅 6.7 厚 3.0 重 492.2	未加工の自然礫。平面形：隅丸の撥形。断面形：不整な楕円形	5Y6/1 灰	—	No. 1 7.2	完存
6	焼成粘土塊	長 3.2 幅 2.4 厚 1.1 重 6.4	器面は風化が顕著で部分的にワラの技痕がみられる。平面不整形で偏平。	10YR8/4 浅黄橙	やや緻密	埋土中	部分残存か（磨滅のため不明瞭）

3区 SI-60（遺構：第126図、遺物：第127図、図版一七・八九）

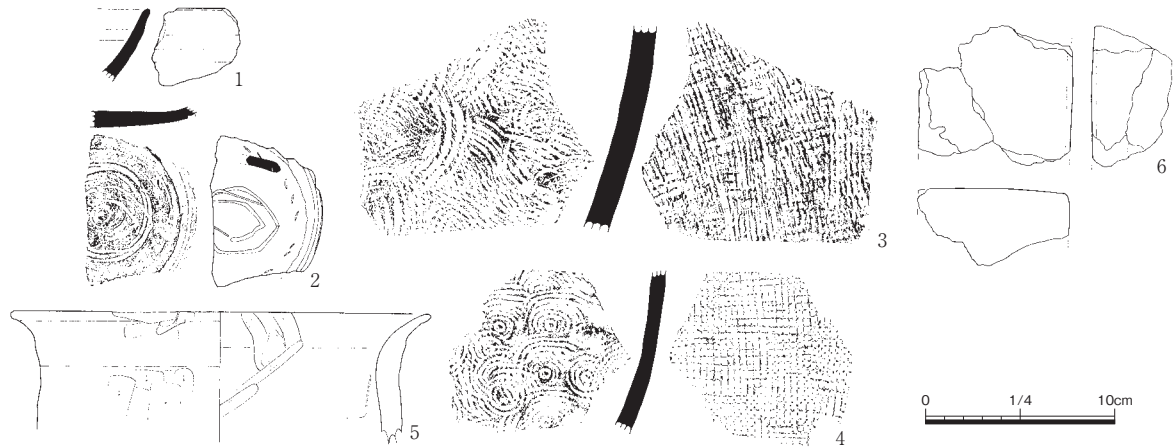
位置 グリッド 84.5-49.0 重複遺構 無し。 平面形 各辺が弧状を呈する隅丸の方形または長方形か。

規模 東西 1.38 m以上 × 南北 3.39 m以上 主軸方向 不明 覆土 自然堆積か。 壁 壁高 12～37 cm

床 やや凹凸が多い。貼床は確認できなかった。 柱穴・入口ピット・貯蔵穴 確認できなかった。 ピット P1（径 92～67 cm、深さ 17 cm）は東壁際にあるが性格不明。 壁溝 確認できなかった。 掘方 やや凹凸を有する。 カマド 調査範囲では確認できなかったが、6はカマド芯材と思われる、調査区外にカマドが存在した可能性が高い。 遺物 建物全面に散在しているが床面直上の遺物は皆無である。須恵器環・高台付環・甕、土師器は甕が出土した。2は高台付環の底部破片だが、底部外面に墨書（文字不明）と渦巻状のヘラ記号が見られる。5は口縁部内外面に粘土の貼付及びナデを施す。乾燥時のヒビ割れ補修の痕跡と考えられる。不掲載の土器類は小コンテナ 1/5 箱分と少ない。遺物から奈良時代中葉の建物跡と考えたい。



第126図 西刑部西原遺跡3区 SI-60 実測図



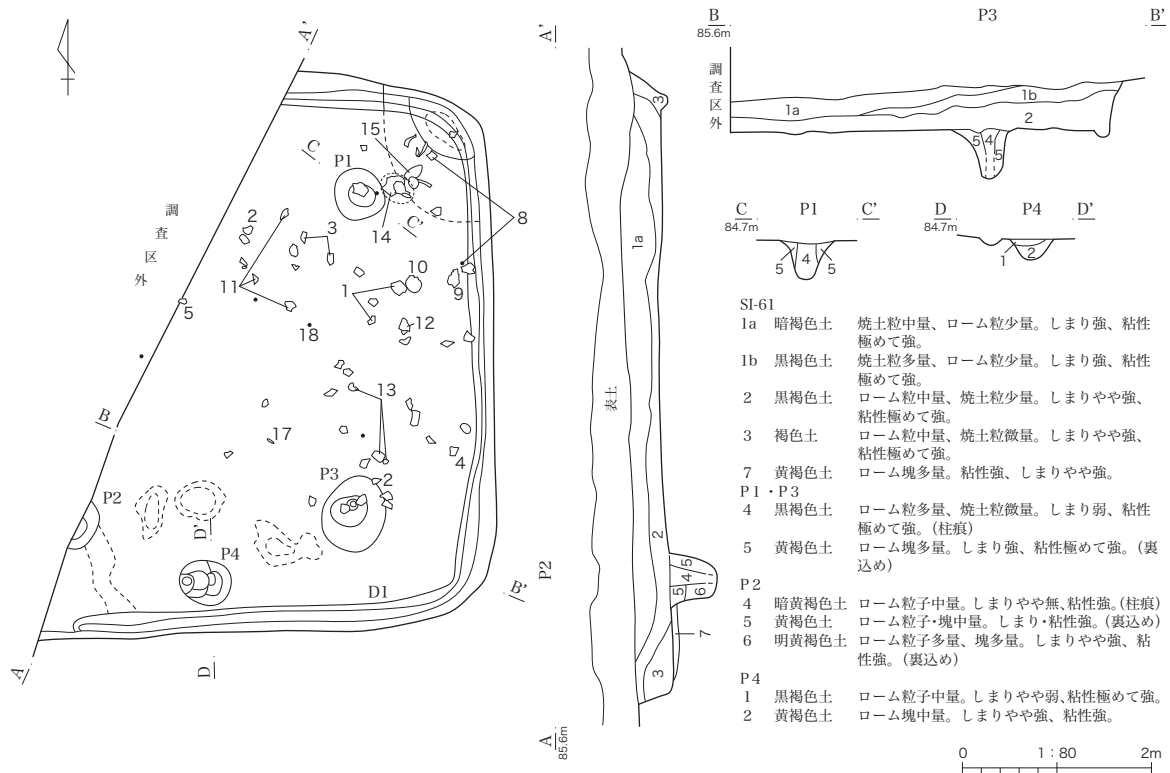
第 127 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-60 実測図・出土遺物

第 46 表 3 区 SI-60 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	須恵器 坏	高 [6.3]	内外面クロコナデ。口縁部内外面に僅かに自然釉付着。	内外面とも 2.5Y5/1 黄灰	やや緻密、白・灰細砂、灰・黒・白砂 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部破片
2	須恵器 高台付 坏	高 [1.0]	底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付、爪状圧痕あり。また底部外面には雑な渦巻き状のヘラ記号及び黒色の付着物（墨書か）も認められる。	内外面とも 5Y7/1 灰白	やや緻密、白・灰細砂、黒・白砂、白礫 焼成：やや硬質	No.2 7.4	底部 2/5
3	須恵器 甕	厚 1.3	外面格子叩き。内面同心円状あて具痕。混入品か。	内：10YR5/1 褐灰 外：5Y6/1 灰	やや緻密、黒・白細砂、黒砂、灰礫 焼成：硬質	No.1 24.4	胴部破片
4	須恵器 甕	厚 0.9	外面格子叩き。内面同心円状あて具痕。混入品か。	内：7.5Y4/1 灰 外：N4/0 灰	緻密、白・灰細砂、黒砂 焼成：硬質	No.6 12.3	胴部破片
5	土師器 甕	口 (21.6) 高 [6.3]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。口縁部内外面のヒビ補修のため薄く粘土を貼付けたのちナデを施す。	内外面とも 7.5YR7/4 に ぶい橙	やや緻密、白・灰・黒細砂、灰・黒・白砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.7 30.6	胴部上半 1/6
6	切石(カ マド構 築材か)	長 (7.4) 幅 8.0 厚 4.2 重 (108.0)	被熱のためか風化が進みノミ痕など不明瞭。 平面形：全形不明 断面形：方形か	10YR8/6 黄橙	凝灰岩	No.8 7.6	部残

3区 SI-61 (遺構：第 128 図、遺物：第 129 図、図版一七・八九・一一六)

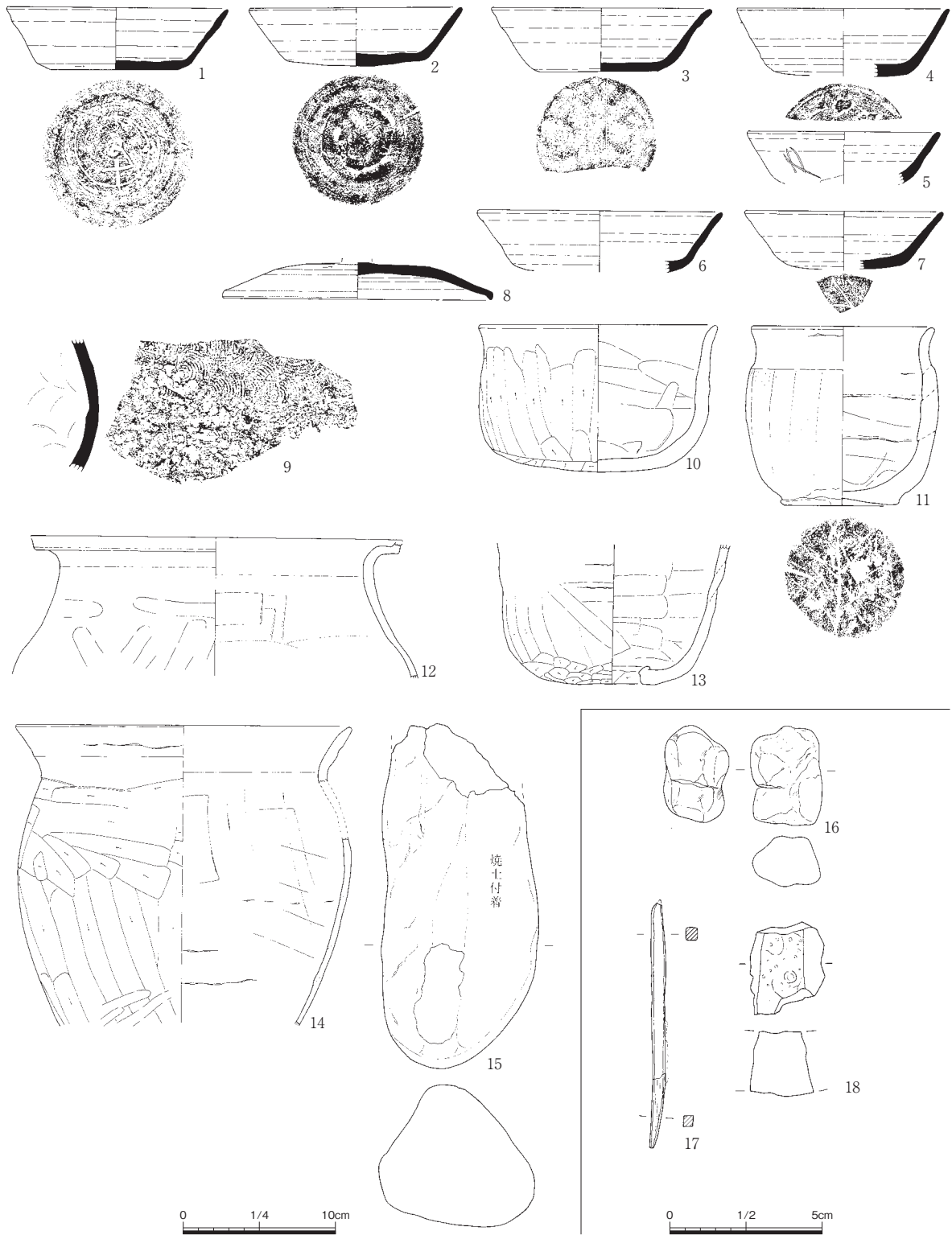
位置 グリッド 84.0-49.0・84.5-49.0 重複遺構 無し。 平面形 残存部から隅丸方形若しくは長方形と想定される。 規模 東西 3.54 m 以上 × 南北 5.92 m 主軸方向 不明 覆土 暗褐色土及び黒色土主体の自然堆積か。 壁 壁高 33.0 ~ 54.0 cm 残存する。 床 部分的に貼床あり。 柱穴 P1 (径 56 ~ 52 cm、深さ 37 cm)、P2 (径 56 cm 以上、深さ約 50 cm)、P3 (径 80 ~ 66 cm、深さ 53 cm) は主柱穴か。 入口ピット P4 (径 54 ~ 47 cm、深さ 23 cm) は南壁際に位置する。 貯蔵穴 確認できなかった。 壁溝 D1 (幅 19 ~ 37 cm、深さ 9 cm) は南壁の調査区際で途切れる。 掘方 北東隅及び南部壁際付近に浅い掘り込みあり。 ローム塊多量含む 7 層で埋戻す。 カマド 被熱礫 (15) や若干の焼土があることから調査区外に存在すると思われる。 遺物 覆土中層から上層の遺物が多い。計 18 点を図示した。須恵器の坏が多く、その他蓋・甕がある。土師器は鉢・甕・甔などがあり、その他被熱礫、焼成粘土塊、鉄製品、鉄滓などがある。床面直上の遺物は 3 の須恵器坏、10 の被熱した土師器鉢のみである。1 と 3 の須恵器坏底部にはヘラ記号もしくはヘラ描きがみられる。11 はハケ目調整の小型甕。12 は常総型の甕である。17 は釘又は錐状の鉄製品である。不掲載遺物は土器類は小コンテナ 1 箱強。礫は約 2.5 kg 出土した。遺物から奈良時代中葉の建物跡と考えられる。



第128図 西刑部西原遺跡3区 SI-61 実測図

第47表 3区 SI-61 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 環	口 14.6 底 8.3 高 4.1	内外面ロクロナデ。体部外面下端回転ヘラケズリ。底部外面回転ヘラケズリのちヘラ記号。	内外面とも 2.5Y6/1 黄灰	やや緻密、白・透明細砂～粗砂、白礫、雲母 焼成：硬質	№ 20・54 29.2(№ 20)	ほぼ完存 (口縁部一部欠損)
2	須恵器 環	口 (14.0) 底 8.6 高 3.8	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのちナデ。体部外面一文字のヘラ記号か。	内外面とも 7.5Y5/1 灰	やや緻密、白・黒細砂～礫 焼成：硬質	№ 12・36 20.9(№ 36)	口縁部 1/8、底部 完存
3	須恵器 環	口 14.1 底 7.6 高 4.3	内外面ロクロナデ。底部内面中央磨減し平滑。底部外面多方向ヘラケズリのちナデのちヘラ記号(一文字)あり。	内：7.5YR5/3 にぶい褐 外：7.5YR5/4 にぶい褐	やや緻密、白・灰細砂～礫 焼成：硬質	№ 10・51 床直(№ 51)	口縁部～底部 3/4
4	須恵器 環	口 (13.8) 底 8.5 高 4.4	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。	内外面とも 7.5YR6/4 にぶい橙	やや緻密、白・灰・黒細砂～粗砂、白・灰礫 焼成：硬質	№ 24 30.4	口縁部 1/3、底部 1/4
5	須恵器 環	口 (13.0) 底 (7.5) 高 [3.3]	内外面ロクロナデ。体部外面ヘラ記号あり。体部外面下端ヘラナデか。歪みが大きく復元値は参考程度。	内外面とも 5Y5/1 灰	やや緻密、白・灰細砂、白・灰砂、白礫 焼成：やや硬質	№ 46 10.8	口縁部～体部 1/3
6	須恵器 環	口 15.8 底 10.2 高 [4.0]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリか。	内外面とも 7.5Y8/1 灰白	やや緻密、灰・白・黒細砂、黒砂、灰・黒礫 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部～体部 3/5
7	須恵器 環	口 (12.9) 底 (7.2) 高 [3.8]	ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデのちヘラ記号。	内外面とも N4/0 灰	やや粗い、白細砂、白粗砂、白礫 焼成：硬質	覆土中	口縁部～底部 1/6
8	須恵器 蓋	口 (17.6) 高 [2.3]	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリのちツマミ貼付。ツマミ欠損を平に打ち欠き皿として転用したものか。天井部内面は研磨されスベスベ。	内外面とも 2.5Y6/1 黄灰	やや緻密、白・灰・黒細砂～礫 焼成：硬質	№ 2・58 11.6(№ 58)	口縁部～体部 2/5
9	須恵器 甕	厚 0.8	外面同心円叩き。内面無文であて具痕。外面は風化著しく剥落部分が多い。	内外面とも 7.5Y6/2 灰オリーブ	やや緻密、雲母、灰・黒・白細砂 焼成：やや硬質	№ 56 34.8	胴部破片
10	土師器 鉢	口 15.6 底 12.0～12.7 高 9.7	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。底部外面不定方向ヘラケズリ。胎土は甕と同じく多量の砂粒を含む。若干被熱している。	内：2.5GY2/1 黒 外：5YR4/6 明赤褐	やや粗い、白・灰・透明細砂～礫 焼成：やや軟質	№ 55 床直	ほぼ完存
11	土師器 甕	口 (12.0) 底 7.5 高 11.7	口縁部外面～胴部内面上半ヨコナデ。胴部外面ハケ目。胴部～底部内面ヘラナデ。底部外面木葉痕。被熱顕著。	内：10YR4/2 灰黄褐 外：7.5YR5/4 にぶい褐	粗い、透明・白・黒・灰細砂～礫、雲母、石英 焼成：硬質	№ 9・18・22 18.8	口縁部～胴部 1/2、底部 完存
12	土師器 甕	口 (24.0) 高 [8.3]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半ナデもしくはヘラナデ。胴部内面ヘラナデ。頸部に焼土付着。	内外面とも 5YR5/6 明赤褐	やや粗い、白・灰・黒・透明細砂～礫、雲母 焼成：やや硬質	№ 18 30.4	口縁部～胴部 上半 1/4

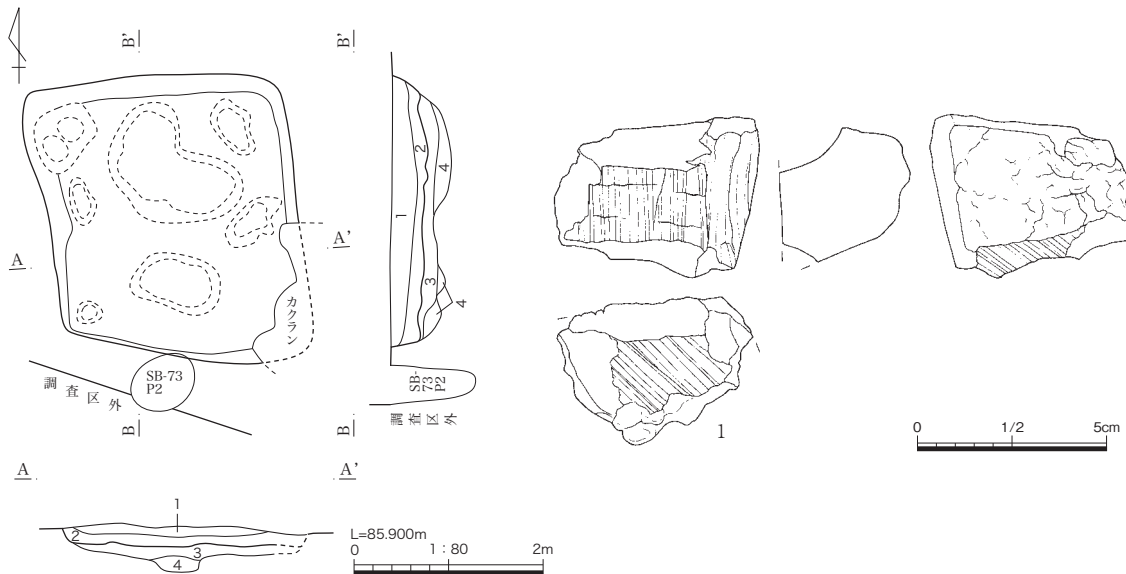


第 129 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-61 出土遺物

13	土師器 甕	高 [9.2]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面タテヘラケズリのち不定方向のナデ。底部外面多方向ヘラケズリのち外面から穿孔。	内：10YR5/2 灰黄褐 外：7.5YR6/6 橙	やや緻密、白・灰・透明・黒細砂、灰・白砂、白礫、赤粒 焼成：やや硬質	No. 30・35 31 (No. 35)	底部完存、 胴部一部
14	土師器 甕	口高 [21.6 19.7]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラケズリのち一部ナメヘラナデ。口縁部内面黒斑あり、炭化物が付着したものか。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密、灰・黒・白細砂、黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	No. 7 30.5	口縁部 5/6、胴部 1/3
15	石器 支脚か	長 [22.6] 幅 10.1 厚 9.3 重 [2599.0]	被熱のためヒビ・欠損部がみられる。全面的に焼土付着。カマドの支柱またはカマドの構築材か。 平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸三角形	10YR5/2 灰黄褐	—	No. 14	部欠
16	焼成粘土塊	長 3.3 幅 1.7 厚 2.2 重 6.7	きめ細かい粘土を手で丸めたものか。ワラ少量混入。	7.5YR8/4 浅黄橙	粗い、赤粒 焼成：軟質	覆土中	部分残存か (磨滅のため不明瞭)
17	鉄製品 釘か	長 [7.9] 厚 0.4 重 5.4	先端はやや斜め。上部の断面は一辺 3.5 ~ 4 mm のほぼ正方形。下端部は 2.5 cm の範囲で木質残る。錐の可能性もある。	—	鉄製	No. 41 3.8	ほぼ完存
18	鉄滓	長 [2.7] 幅 [2.3] 厚 [2.1] 重 [25.9]	周囲 4 面すべてが破面。上面は若干のサビ、緻密。細かい気孔多数あり。下面はやや多量の気孔あり。全面にサビあり、一部に炉壁付着。	表：サビ有 7.5YR6/8 橙 サビ無 5Y5/1 灰 裏：サビ有 7.5YR4/4 褐	磁着度：5	No. 21 28.6	部欠

3区 SI-71 (遺構・遺物：第130図、図版一七・八九)

位置 グリッド 89.5-45.5 重複遺構 奈良時代の掘立柱建物跡 SB-73 より新しい。 平面形 歪んだ隅丸方形 規模 東西 2.57×南北 3.03 m 主軸方向 N-10° -W 覆土 自然堆積 壁 壁高は約 18 ~ 40 cm 残る。 床 やや凹凸あり、全面が貼床。 柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。 掘方 底面は不整形な土坑状の掘り込みが多数あり。ローム塊を多量含む 4 層で埋戻している。 カマド 確認できなかった。 遺物 遺物はほぼ皆無で、図示可能な遺物は 1 点のみである。1 は一見焼成粘土塊にも見えるが、器面にワラの圧痕が極めて多い点、全面的に赤化が顕著である点など、若干趣を異にする。また一部溶融するか所も見られることから、炉壁の破片とも考えられる。本建物の帰属時期は SB-73 との切り合いから奈良時代以降と考えられるが、詳細は不明である。



- SI-71
 1 暗褐色土 ローム粒少量。しまりやや強、粘性やや弱。
 2 褐色土 ローム小塊少量。しまり・粘性やや強。
 3 暗黄褐色土 ローム中塊やや少量。しまりやや弱、粘性やや強。(貼床か)
 4 黄褐色土 ローム塊中量。しまりやや弱、粘性やや強。(貼床か)

第130図 西刑部西原遺跡3区 SI-71 実測図・出土遺物

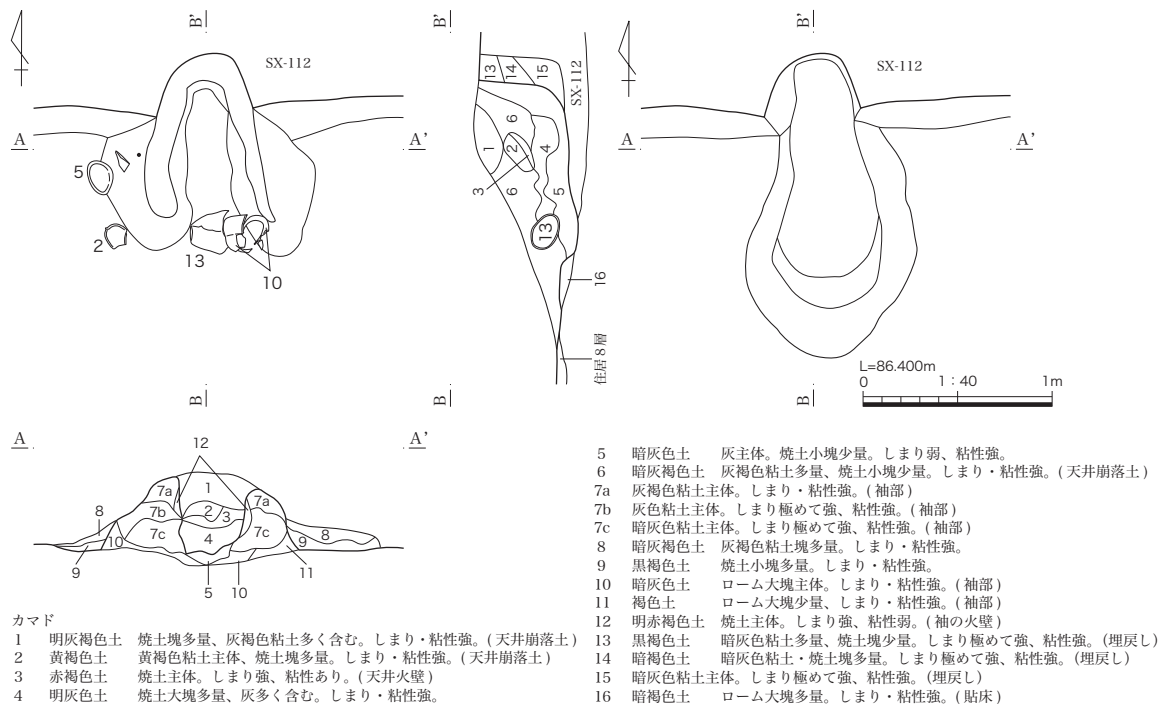
第48表 3区 SI-71 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置	残存
1	焼成粘土塊	高 4.2 幅 5.3 厚 3.4 重 48.4	胎土は坯類に似たキメ細かい粘土を使用。全体に2次的に被熱・赤化した可能性が高い。特に裏面の被熱は顕著で一部溶融している。表、右側面、裏面にワラ圧痕あり。炉壁あるいは窯体の一部か。	5YR4/8 赤褐	やや粗い、黒・灰・白・透明粗砂 焼成：やや硬質	ベルト	部分残存

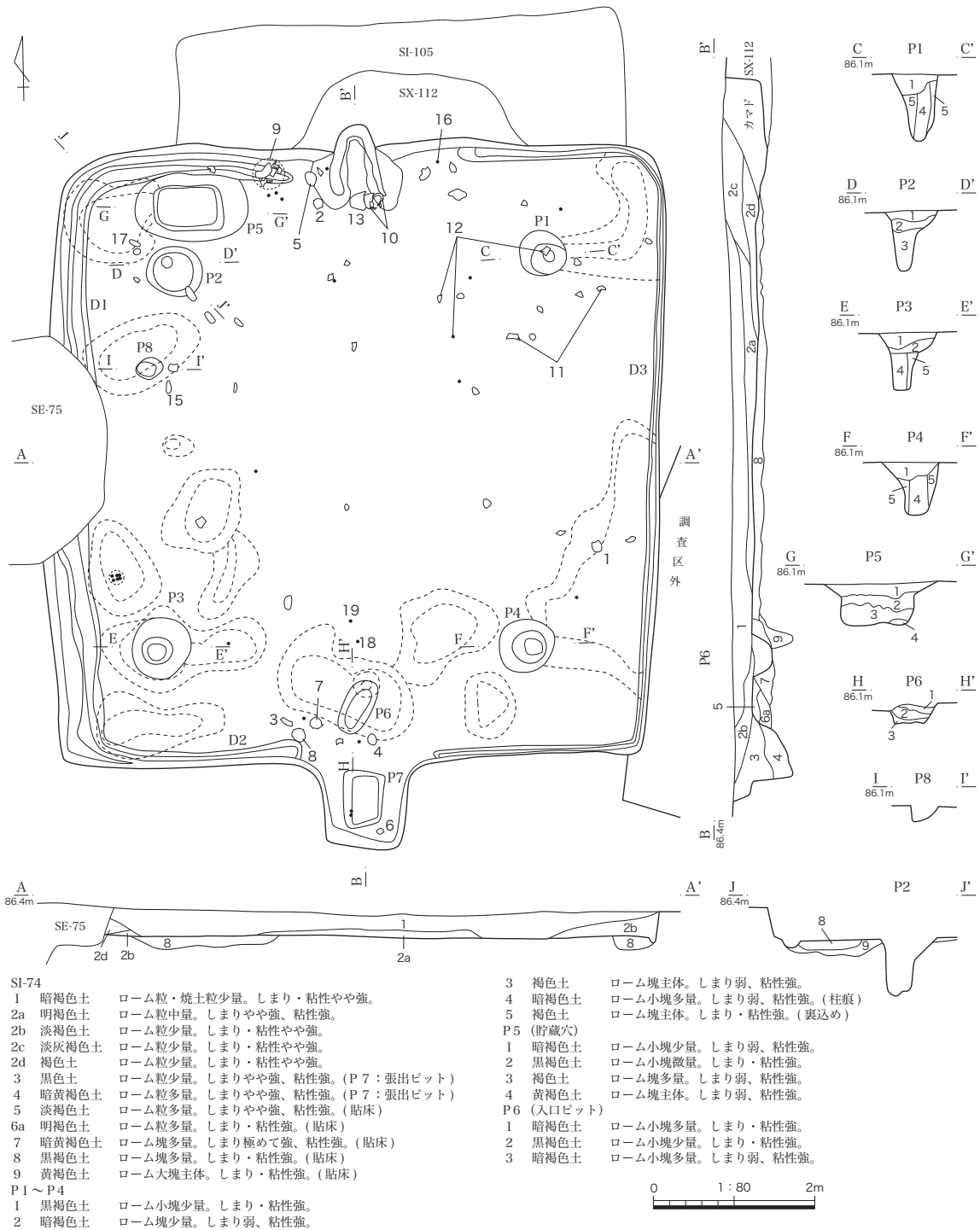
3区 SI-74 (遺構：第131・132図、遺物：第133図、図版一八・八九・九〇)

位置 グリッド 86.0-51.5・86.5-51.5 重複遺構 時期不明の SI-105・SX-112 より新しく、奈良時代中葉の井戸 SE-75 より古い。平面形 隅丸方形 規模 東西 7.51×南北 8.90 m 主軸方向 N-3° - E 覆土 自然堆積 壁 壁高 26～38 cm 床 貼床部分多いが、概ね平坦である。柱穴 P1 (径 59～54 cm、深さ 83 cm)、P2 (径 68～60 cm、深さ 74 cm)、P3 (径 76～71 cm、深さ 71 cm)、P4 (径 70 cm、深さ 65 cm)。入口ピット P6 (径 69～36 cm、深さ 24 cm) 貯蔵穴 P5 (長軸 137×短軸 82 cm、深さ 51 cm)。

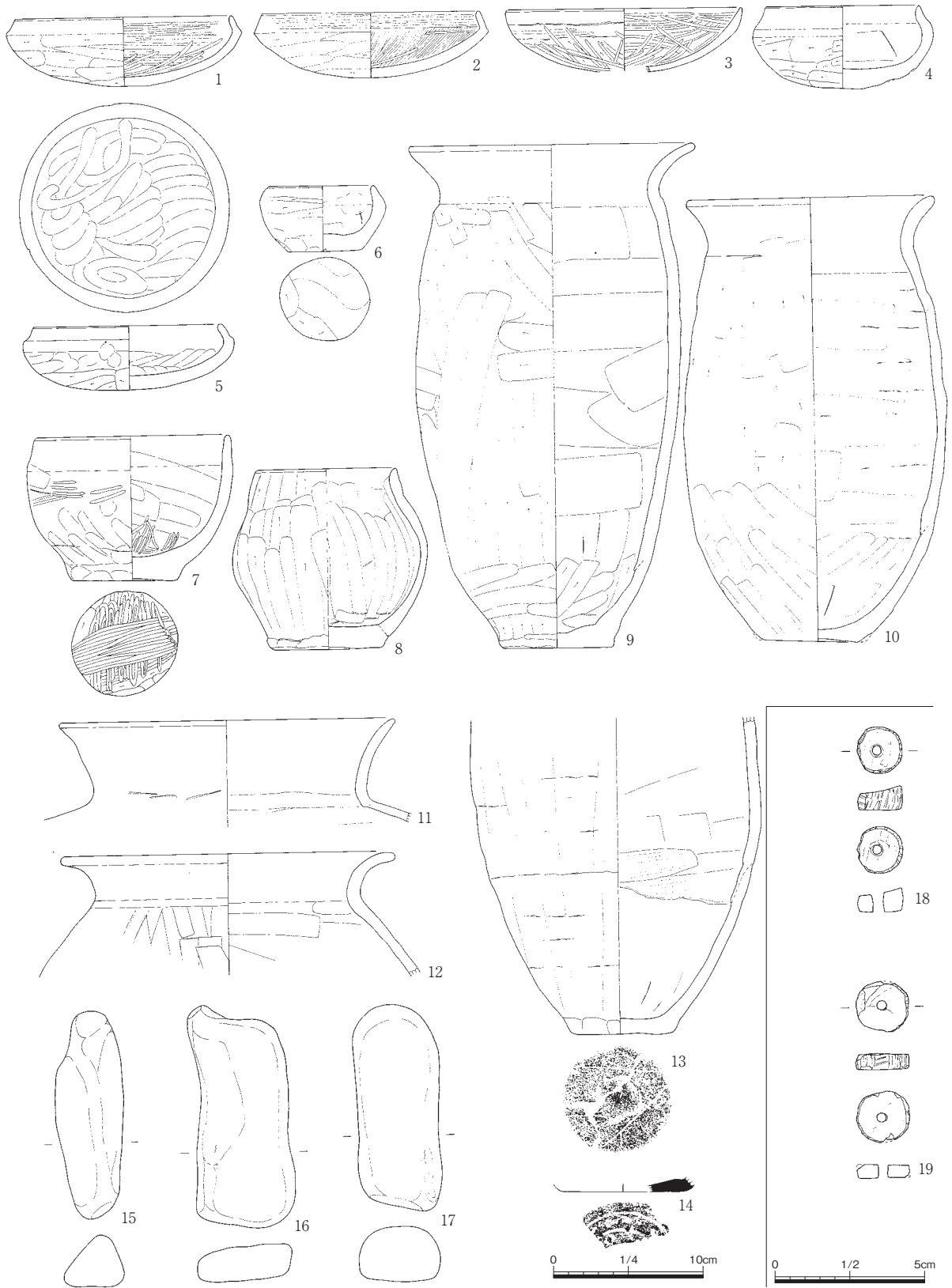
張出ピット 南壁を 1 m 四方の方形に拡張し、中央部に P7 (長軸 72×短軸 50 cm、深さ 50 cm) を掘り込む。P8 (径 33～27 cm、深さ 19 cm) は用途不明のピット。壁溝 D1 (幅 37～49 cm、深さ 7～10 cm)、D2 (幅 7～19 cm、深さ 14 cm) が壁際に巡る。掘方 壁際、特に南部から西部にかけ、不整な土坑状の掘り込み多数あり。概ね浅く、最深部で 20 cm 弱。カマド 北壁中央部を U 字形に掘り込む。煙道は奥壁を埋戻しており、ほぼ垂直に立ち上がる。構築材は灰褐色粘土を主体とする。遺物 計 19 点を図示した。土師器坏 (1～6) が多く、内外面にミガキを施すものが多い。5 の内面には螺旋状のユビナデが顕著である。7 の土師器鉢は底部内外面に焼成前のヘラミガキあり。ヒビの補修跡か。床面直上又は床面に近い遺物は 3・4・6・12 である。この他土師器甕、編物石、粘板岩製の白玉などがある。不掲載の土器類は小コンテナ 1.5 箱分。礫は約 12.5 kg 出土した。遺物から、古墳時代後期後葉 (TK43 段階) の建物跡と考えられる。



第131図 西刑部西原遺跡3区 SI-74 実測図 (1)



第132図 西刑部西原遺跡3区 SI-74実測図(2)



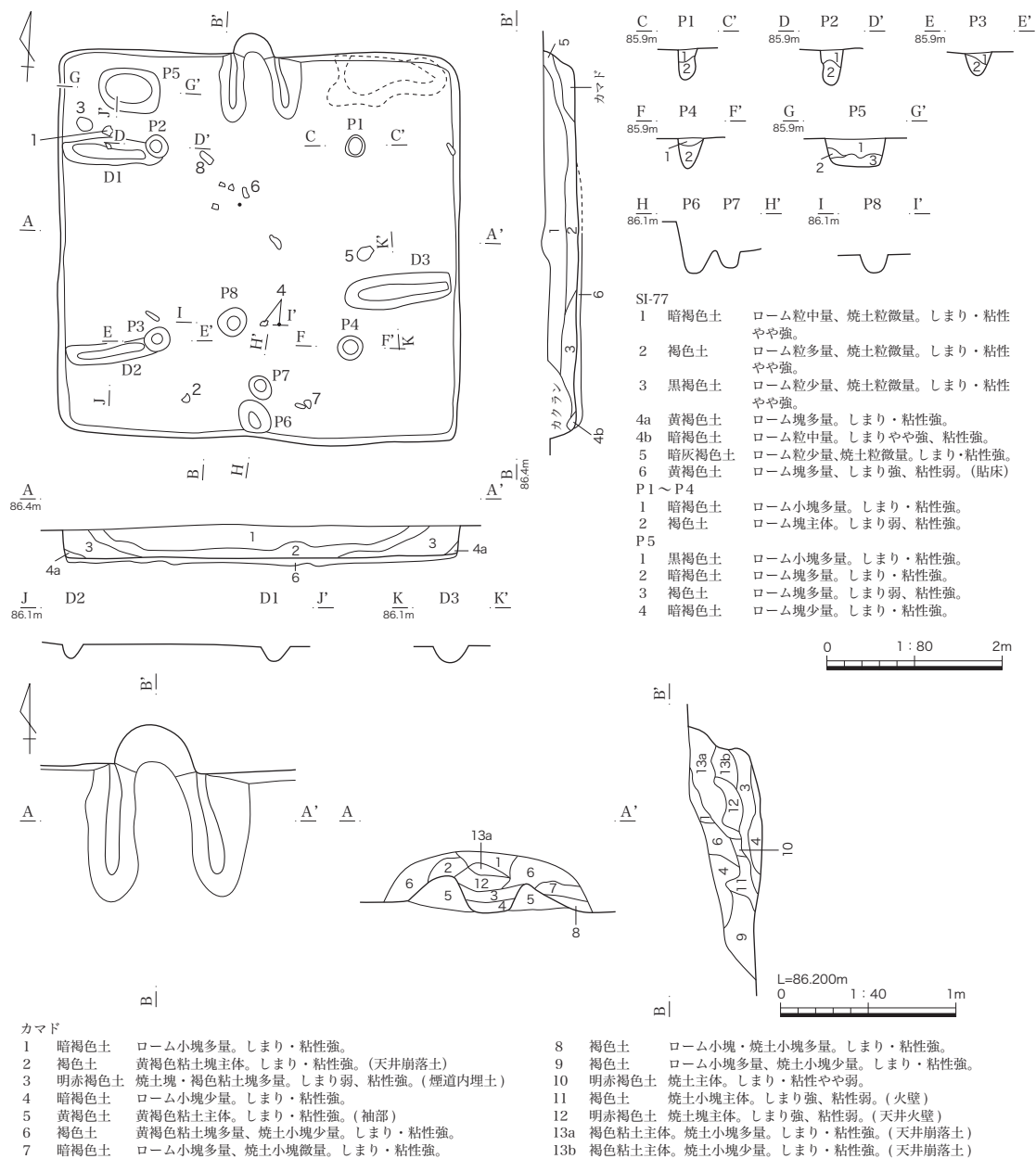
第 133 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-74 出土遺物

第49表 3区 SI-74 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技 法 ・ 特 徴	色 調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	土師器 杯	口 14.2 高 4.5	口縁部外面～体部内面上半ヨコナデ。内面やや疎らなヘラミガキ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内：10YR7/3 にぶい黄橙 外：2.5Y7/3 浅黄	やや緻密、白・灰・黒細砂、灰・白砂、白礫少量 焼成：やや硬質	№.30 11.7	口縁部 1/2
2	土師器 杯	口 (14.4) 高 4.4	口縁部内外面ヨコナデのちヘラミガキ。体部内面放射状のヘラミガキ。体部外面ヘラケズリのち上半部ヘラナデ。	内：7.5YR7/6 橙 外：10YR6/4 にぶい黄橙	やや粗い、白・灰・透明・黒細砂～礫 焼成：やや硬質	№.57 17.8	口縁部 1/2、底部 3/4
3	土師器 杯	口 (15.4) 高 [4.2]	口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリのちヘラミガキ。口縁部～体部内面疎らなヘラミガキのち黒色処理。	内外面とも 7.5YR5/2 灰褐	やや緻密、灰・白・黒細砂、灰・黒・白砂、白粒 焼成：やや硬質	№.27 1.3	口縁部～体部 5/12
4	土師器 杯	口 10.2 高 5.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内面ヘラナデ。	内外面とも 2.5Y7/4 浅黄	やや粗い、白・黒・灰細砂～礫 焼成：やや軟質	№.59 床直	口縁部 1/3、底部 完存
5	土師器 杯	口 13.4 高 4.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面、上半部指押ナデのち下半部ヘラケズリ。体部内面全面にらせん状の指ナデ。口縁部内外面僅かに漆残る。	内：10YR7/2 にぶい黄橙 外：10YR6/3 にぶい黄橙	緻密、黒・透明・白・灰細砂、白礫、赤粒、雲母片 焼成：硬質	№.54 6.6	完存
6	土師器 杯	口 7.2 底 4.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半ヨコナデ、下半部ナデ及び指頭押圧。体部内面ヘラナデ及び指頭押圧。底部外面ナデのち縁辺一部ヘラケズリ。	内外面とも 7.5YR7/4 にぶい橙	やや粗い、白・灰細砂～粗砂、赤粒 焼成：軟質	№.60 床直	口縁部 1/2、底部 完存
7	土師器 鉢	口 12.7 底 7.0 高 9.7	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面上半ヘラナデ、下半部～底部ヘラミガキ。胴部外面上半部ナデ、指頭押圧。下半部ヘラナデ及びナデ。底部外面ヘラケズリのち縦横の入念なヘラミガキ（ヒビの補修痕か）。	内：5YR7/6 橙 外：10YR8/4 浅黄橙	やや緻密、白・透明・黒細砂～粗砂、赤粒 焼成：軟質	№.25 4.9	完存
8	土師器 鉢	口 9.2 底 7.4 高 12.1	口縁部内面ヨコナデか。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラケズリ。底部外面ヘラケズリのちナデか。外面の黒色付着物はススカ。	内：2.5Y4/1 黄灰 外：2.5Y6/2 灰黄	やや緻密、白細砂～粗砂、赤粒 焼成：やや軟質	№.26 3.5	ほぼ完存
9	土師器 甕	口 18.6 底 8.0 高 33.6	口縁部内外面ヨコナデ。胴部～底部内面ヘラナデ。下半部ヘラナデ後ヘラケズリ。胴部～底部外面ヘラケズリ。下半部ヘラケズリのちナデ。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	やや緻密、灰・白・透明砂、灰・白・黒細砂、白粒 焼成：やや硬質	№.1 5.6	ほぼ完存
10	土師器 甕	口 16.2 底 6.4 高 29.7	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。輪積痕あり。接合痕の処理はやや雑でナデ痕が残る。底部外面ヘラケズリ。胴部外面タテヘラケズリのち下半部ナメヘラナデ。外面被熱のため剥落部分多い。粘土付着。	内：5YR6/6 橙 外：7.5YR6/6 橙	やや緻密、黒・灰・白砂、白・黒・灰細砂、白・灰礫 焼成：やや硬質	№.62 9.3	口縁部 3/4、胴部～底部ほぼ完存
11	土師器 甕	口 (22.0) 高 [7.2]	球胴の甕。口縁部内外面ヨコナデ。頸部内面接合痕あり。胴部内面上半ヘラナデ。頸部外面ヘラケズリ、またはヘラナデか（磨滅のため不明瞭）。	内：7.5YR6/6 橙 外：7.5YR7/6 橙	やや粗い、白・灰・黒細砂～礫、赤粒 焼成：軟質	№.37・41・45 7.3 (№.37)	口縁部～胴部 1/2
12	土師器 甕	口 (22.0) 高 [8.2]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面タテハケ目。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや粗い、白・黒・灰・透明細砂～礫 焼成：やや軟質	№.36・44・49 床直 (№.36)	口縁部～肩部 1/2
13	土師器 甕	底 7.0 高 [21.1]	胴部内外面ヘラナデ。底部外面木葉痕。内面の積上げ休止痕が顕著、下半部は被熱のため赤化している。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：10YR5/4 にぶい黄褐	粗い、白・灰・黒・透明細砂～礫、赤粒 焼成：軟質	№.63 9.1	底部 完存
14	須恵器 杯	底 (8.0) 高 [0.7]	ロクロ仕上げ。底部外面回転ヘラ切り。	内外面とも 5Y6/1 灰	やや粗い、白・透明・灰細砂～粗砂 焼成：硬質	覆土中	底部 1/4
15	石器 編物石	長 13.8 幅 4.0 厚 3.5 重 298.0	未加工の自然礫。 平面形：隅丸長方形 断面形：隅丸台形	5Y7/2 灰白	—	№.15 12.2	ほぼ完存
16	石器 編物石	長 14.8 幅 6.3 厚 2.45 重 462.0	未加工の自然礫。 平面形：不整な隅丸長方形 断面形：隅丸長方形	2.5Y6/2 灰黄	—	№.64 1.6	ほぼ完存
17	石器 編物石	長 [13.2] 幅 5.4 厚 3.8 重 [523.0]	未加工の自然礫。 平面形：棒状 断面形：隅丸三角形	7.5Y5/1 灰	—	№.13 6.1	部欠
18	石製模 造品 白玉	長 1.5 幅 1.5 厚 0.5 重 2.2	側面の3か所に切削痕残る。又側面を弧状にするため研磨を上下2段（一部3段か）に分けている。下面は原礫面か。僅かに研磨痕がある。上面にも研磨を施すが、厚みは一定していない。孔は両面穿孔の可能性あり。	表：7.5Y4/1 灰 裏：2.5Y7/3 浅黄	粘板岩	№.22 4.2	ほぼ完存
19	石製模 造品 白玉	長 1.6 幅 1.8 厚 0.5 重 1.9	側面1か所に切削痕あり、側面研磨は1回で終えており直線的。左上部を研磨痕とすれば上面の剥離痕は破損したと思われる。下面は風化した原礫面（あるいは節離面か）。若干の研磨痕が確認できる。	表：10Y4/1 灰 裏：5Y7/3 浅黄	粘板岩	№.21 18.6	ほぼ完存

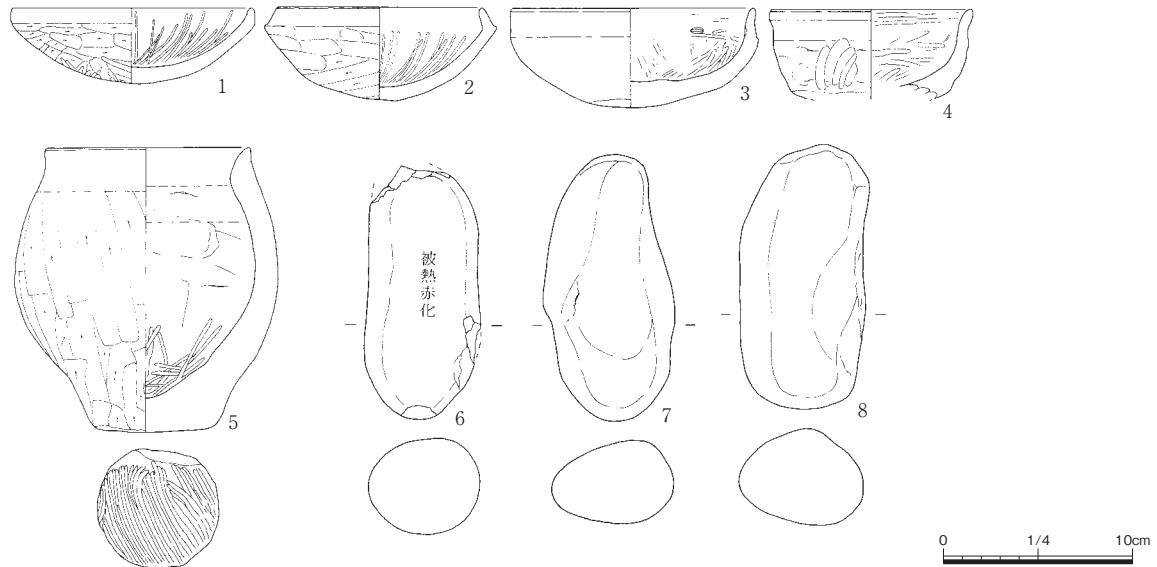
3区 SI-77 (遺構：第134図、遺物：第135図、図版一八・九〇)

位置 グリッド 86.0-53.0・85.5-53.0・85.5-53.5 重複遺構 無し。 平面形 隅丸正方形 規模 東西 4.46 × 南北 4.45 m 主軸方向 N-3° -W 覆土 自然堆積 壁 壁高 34～38 cm 床 全面的に薄い貼床あり。硬化面は未確認。 柱穴 P1 (径 25～21 cm、深さ 36 cm)、P2 (径 25 cm、深さ 36 cm)、P3 (径 28 cm、深さ 30 cm)、P4 (径 28 cm、深さ 37 cm)。 入口ピット P6 (径 43～32 cm、深さ 19 cm)、P7 (径 30～24 cm、深さ 17 cm) は南壁中央部に位置し南北に列ぶ。 貯蔵穴 P5 (長軸 84×短軸 49 cm、深さ 31 cm) は北西隅に位置する。 ピット P8 (径約 30 cm、深さ 21 cm) の用途は不明。 壁溝 確認できなかった。 間仕切り溝 D1 (幅 20～31 cm、深さ 10 cm)、D2 (幅 19～23 cm、深さ 10 cm)、D3 (幅 26～39 cm、



第134図 西刑部西原遺跡3区 SI-77 実測図

深さ 18 cm) はいずれも東西軸。カマド 北壁中央部を半円形に掘り込む。煙道は中位で段を有し、立ち上がる。袖及び天井部は黄褐色粘土で構築される。遺物 遺物量は少なめで、覆土中層から上層にかけ出土した。土師器は器高がやや高く、内面をヘラミガキするもの(1~3)が多い。4は平底の坏か。体部下端に焼成前の補修跡(強いナデ)がある。5の小型甕は底部内面及び底部外面に焼成前のヘラミガキあり。乾燥時のヒビ補修の痕跡と考えられる。その他編物石が出土した。不掲載の土器類は小コンテナ 1/5 箱弱。礫は 2.2 kg 出土した。遺物から本建物は古墳時代後期前葉~中葉に位置づけられ、本調査区では最も古手の建物である。



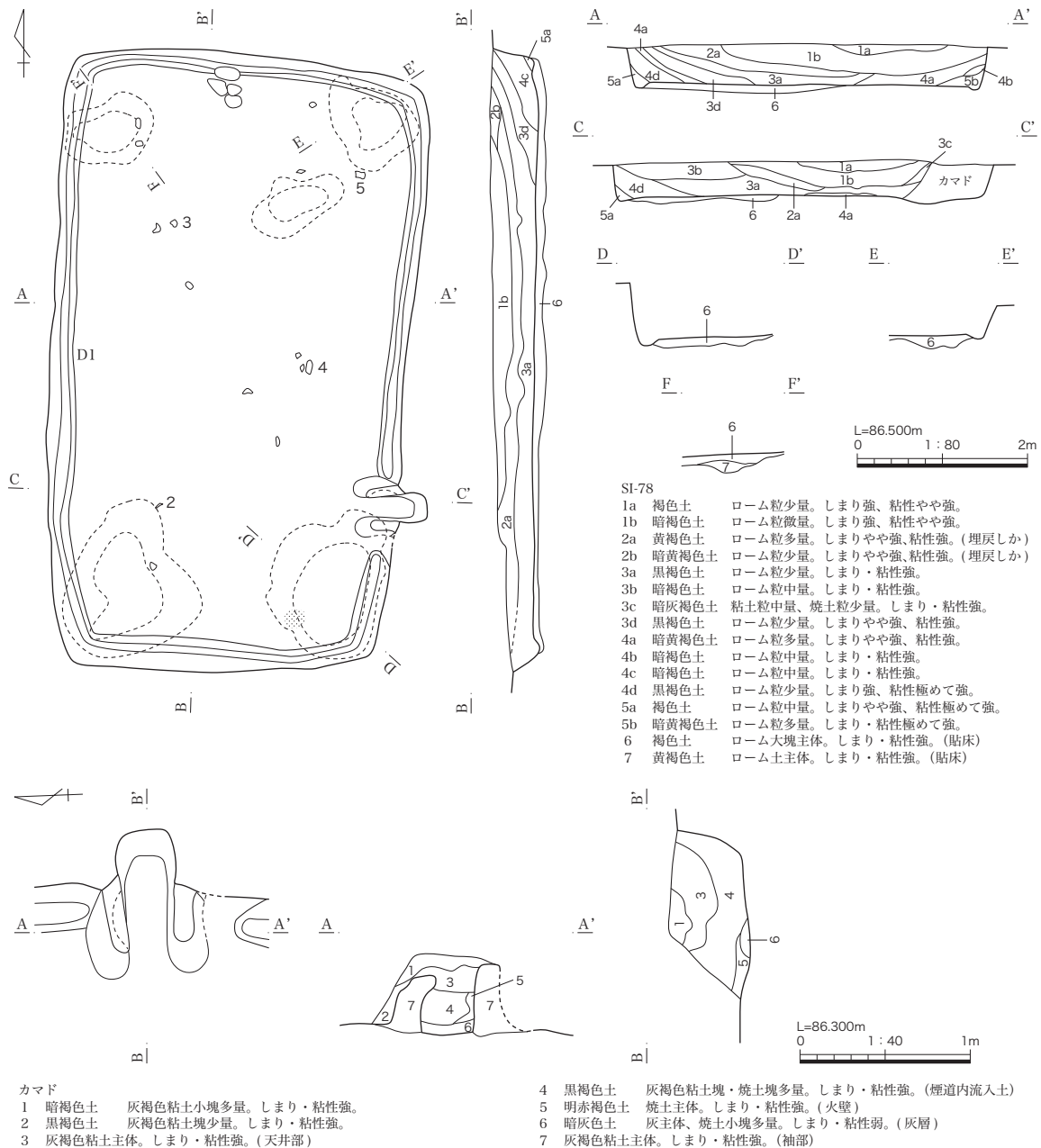
第 135 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-77 出土遺物

第 50 表 3 区 SI-77 出土遺物観察表

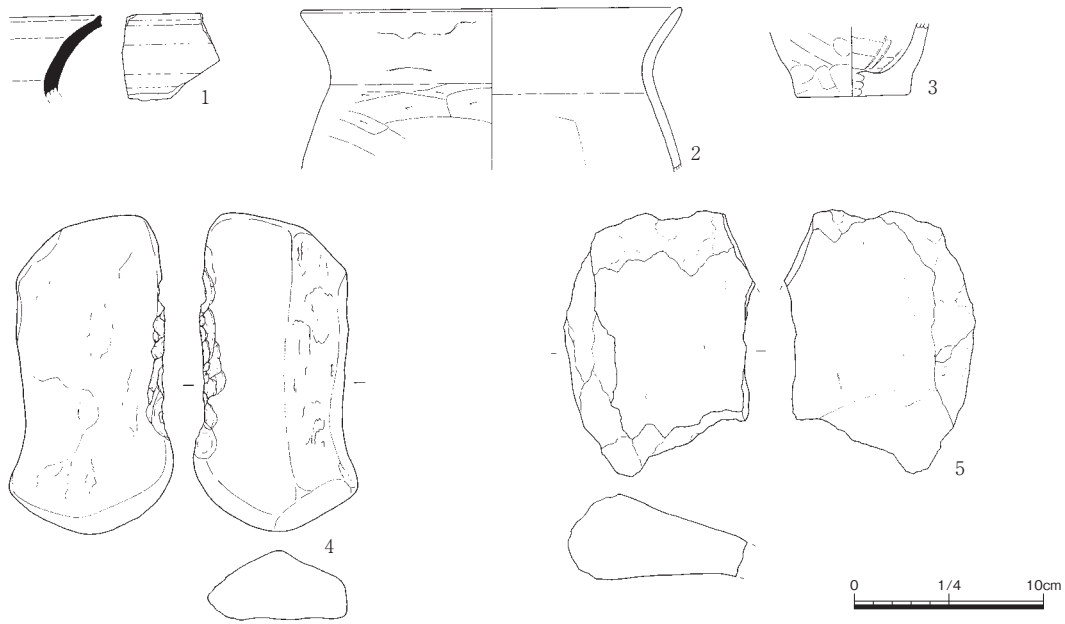
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 坏	口 12.5 高 4.0	口縁部外面~体部内面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリのち底部外面ヘラミガキ。体部内面疎らな放射状ヘラミガキ。内外面漆仕上げ。	内: 5YR6/8 橙 外: 7.5Y6/6 橙	やや緻密、白・黒・灰細砂、黒砂、白粒 焼成: やや硬質	No. 9 11.5	口縁部~体部 2/5
2	土師器 坏	口 10.4 高 4.9	口縁部外面~体部内面ヨコナデ。体部内面疎らな放射状ヘラミガキ。体部外面上端部ナデ。下半部ヘラケズリのちヘラナデ。内外面漆仕上げ。	内: 10YR7/4 にぶい黄橙 外: 7.5YR7/6 橙	やや緻密、黒・白細砂、赤粒 焼成: やや硬質	No. 7 6.1	口縁部~体部 1/2
3	土師器 坏	口 12.8 高 5.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面やや雑なヘラミガキ。体部外面剥落著しく調整不明。口縁部内面モミ圧痕 1 か所あり。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密、白・黒・灰細砂、灰・黒砂、灰・黒礫、赤粒 焼成: やや硬質	No. 8 0.8	ほぼ完存、口縁部一部欠損
4	土師器 粗製坏	口 (10.4) 高 [4.7]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ及び指頭押圧。体部~底部内面ヘラナデのちやや雑なヘラミガキ。体部外面にヘラナデによる焼成前のヒビ補修痕あり。	内: 10YR7/6 明黄褐 外: 7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・黒細砂、黒砂 焼成: やや軟質	No. 2・3 0.3 (No. 2)	口縁部~体部 2/3
5	土師器 小型甕	口 10.7 高 15.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリのち部分的にヘラミガキ。胴部内面ヘラナデのち底部付近ヘラミガキ(ヒビ補修のためか)。底部外面ヘラケズリのちヘラミガキ。	内: 7.5YR7/6 橙 外: 7.5YR8/4 浅黄橙	やや緻密、白・黒・灰細砂、黒・灰砂、赤粒 焼成: やや硬質	No. 1 21.5	ほぼ完存
6	石器 編物石	長 13.3 幅 5.9 厚 5.1 重 595.0	全面被熱のため赤化しているまた部分的に剥離ヒビなどがみられ非常に脆い。 平面形: 楕円形 断面形: 不整な円形	5GY5/1 オリーブ灰	-	No. 17 床直	部欠
7	石器 編物石	長 13.7 幅 6.5 厚 5.0 重 779.0	未加工の自然礫。 平面形: 不整な隅丸長方形 断面形: 不整な楕円形	2.5GY5/1 オリーブ灰	-	No. 5 床直	ほぼ完存
8	石器 編物石	長 14.1 幅 6.4 厚 4.4 重 599.0	未加工の自然礫。 平面形: 不整な楕円形 断面形: 不整な楕円形	2.5YR6/3 にぶい橙	-	No. 10 0.9	完存

3区 SI-78 (遺構：第136図、遺物：第137図、図版一八・九〇)

位置 グリッド86.0-53.5 重複遺構 無し。 平面形 南北に長い隅丸長方形 規模 東西4.38×南北7.28m 主軸方向 N-93.5° - E 覆土 一部に人為埋戻しの可能性あり。 壁 壁高24～44cm 床 細かな凹凸あるが概ね平坦。 貼床あり。 柱穴・入口ピット・貯蔵穴 確認できなかった。 壁溝 D1 (幅18～42cm、深さ9cm) は壁際を全周する。 掘方 四隅に土坑状の掘り込みをもつ。 カマド (位置・規模・遺残) 東壁際南寄りに位置し、壁を方形に掘り込む。規模の割に焼土が多量残る。 遺物 土器類が極めて少ない。図示した遺物は須恵器甕(1)、土師器武蔵型甕(2)、小型の土師器手捏ね土器(3)、この他石器類がある。砥石(5)は多孔質安山岩製で、荒砥と考えられる。不掲載の土器類は小コンテナ1/6箱弱。礫は多く約16.5kg出土した。奈良時代以降の建物の可能性が高いが、遺物量が少なく正確な時期は不明である。



第136図 西刑部西原遺跡3区 SI-78 実測図



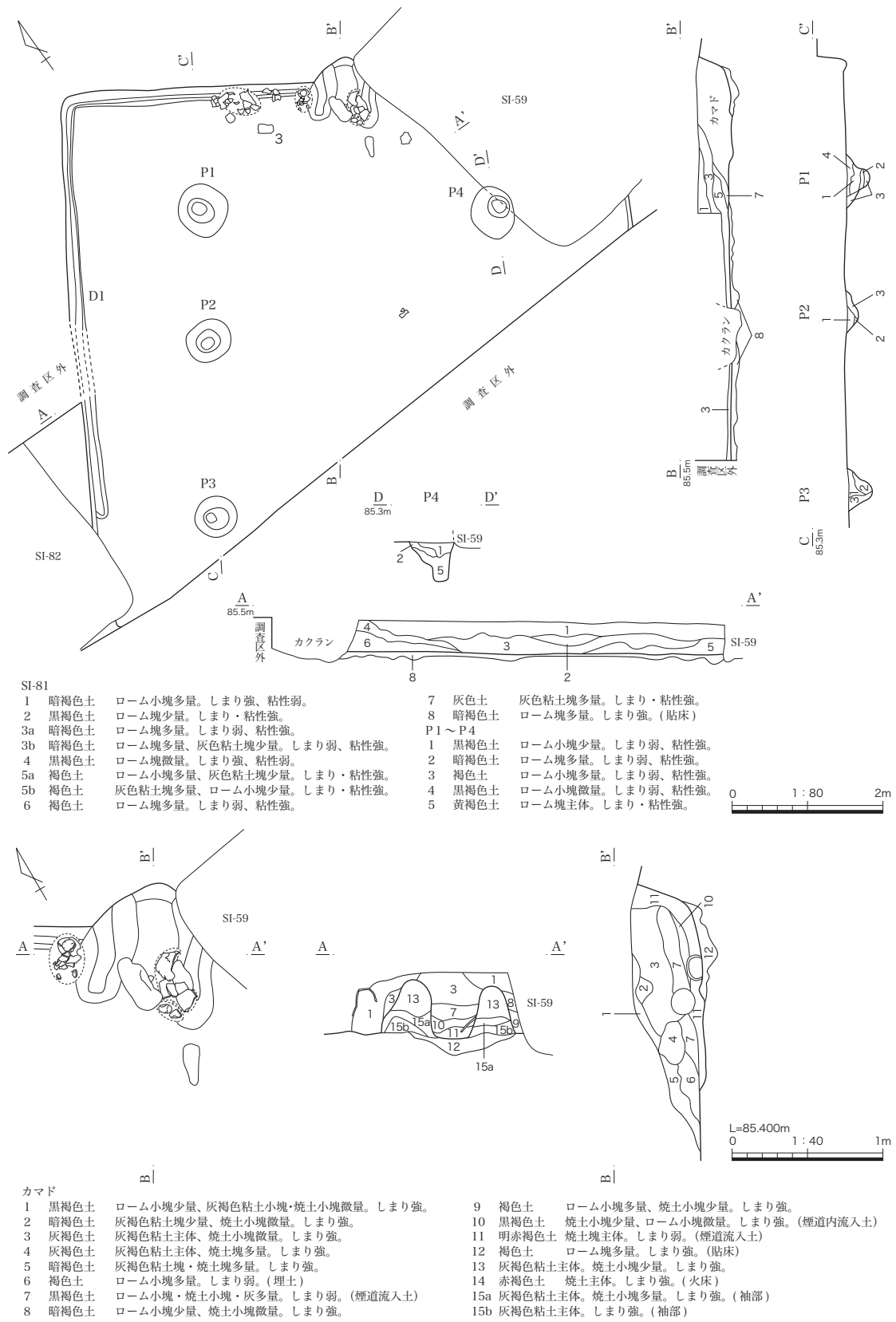
第137図 西刑部西原遺跡3区 SI-78 出土遺物

第51表 3区 SI-78 出土遺物観察表

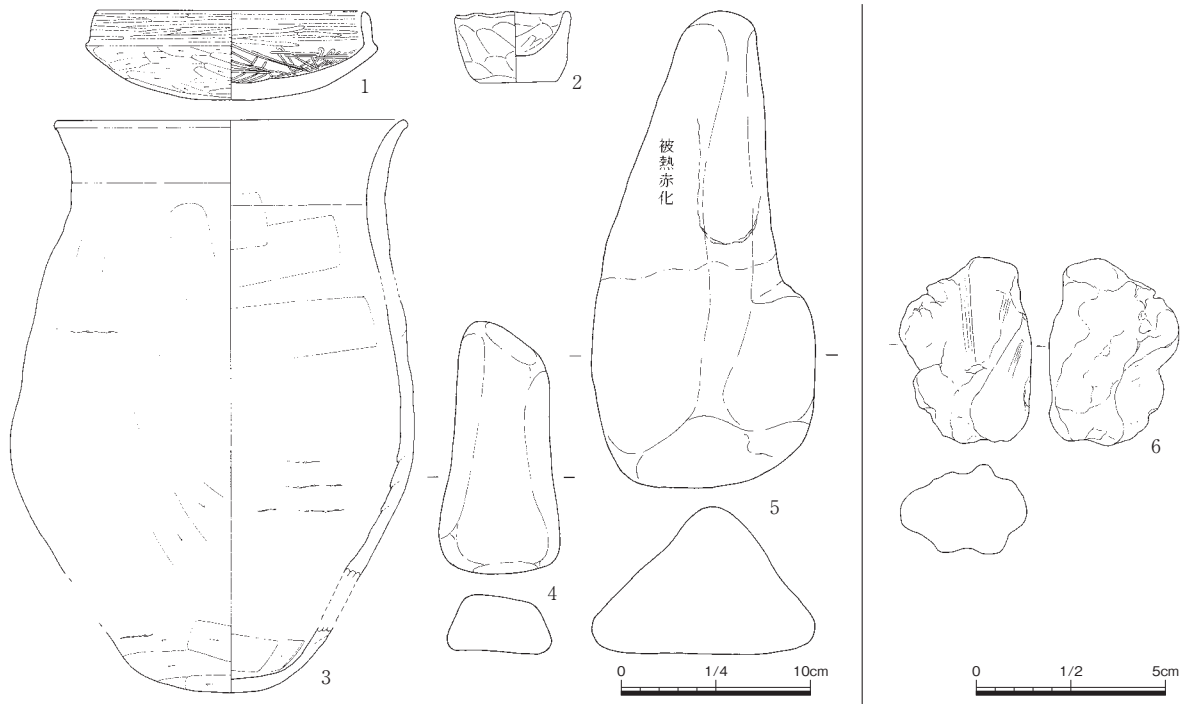
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 甕	口 (17.0) 厚 0.7 高 [4.7]	内外面ロクロナデ。	内：N6/O 灰 外：N5/O 灰	やや緻密、白・灰・黒細砂、黒砂 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部破片
2	土師器 甕	口 (19.8) 高 [8.9]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヨコヘラズリのちヘラナデか。胴部内面ヘラナデか。	内外面とも 7.5Y6/6 橙	やや緻密、白・黒・灰細砂 焼成：やや硬質	No. 2 27.8	口縁部～胴部上半 1/5
3	土師器 手捏ね土器	底 (5.8) 高 [3.8]	体部外面指頭押圧及びびナデ。体部内面丁寧なヘラナデ。底部外面ナデ。	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR8/4 浅黄橙	やや緻密、黒・白細砂、黒・白砂 焼成：やや硬質	No. 11 29.5	体部下半～底部 1/2
4	石器 編物石	長 [16.4] 幅 7.3 厚 3.8 重 [743.0]	一側縁を両面から打ち欠いている。 平面形：不整なバチ形 断面形：隅丸の五角形	10YR7/1 灰白	—	No. 7 3.9	部欠
5	石器 砥石	長 [13.0] 幅 [9.3] 厚 [4.4] 重 [474.0]	表裏面に滑らかな砥面をもち側面の砥面は凹凸が残る。磨滅しているため研磨の方向は不明。 平面形：不整形 断面形：不整形	N4/O 灰	—	No. 8 1.7	部欠

3区 SI-81 (遺構：第138図、遺物：第139図、図版一九・九〇)

位置 グリッド 88.5-46.0・89.0-46.0・88.5-46.5・89.0-46.5 重複遺構 古墳時代終末期の SI-59、奈良時代の SI-82 より古い。平面形 方形と思われる。規模 東西 7.46×南北 7.2 m以上 主軸方向 N -30° -E (推定) 覆土 自然堆積 壁 壁高 30～35 cm 床 部分的に薄い貼床あり。硬化面は未確認。柱穴 P1 (径約 70 cm、深さ 30 cm)、P2 (径 61～50 cm、深さ 13 cm)、P3 (径 56 cm、深さ 30 cm)、P4 (径 72～56 cm、深さ 52 cm)。P2 は浅く、柱穴でない可能性あり。入口ピット・貯蔵穴 確認できなかったが、調査区外に存在する可能性あり。壁溝 D1 (幅 11～21 cm、深さ 8 cm) は西壁及び北壁西側に確認。掘方 底面の細かな凹凸を埋戻す。カマド 北壁中央部を三角形に掘り込む。袖及び炉体は灰褐色粘土で構築。遺物 カマド周辺及び内部を中心に出土。土師器坏・手捏ね土器・甕、その他未加工礫が多い。1の土師器坏のヘラミガキは内面及び口縁部外面に及ぶ。5はカマド内から出土した支脚か。3は在地産の土師器甕、胴部下に最大径をもち左右に大きく歪む。6は焼成粘土塊。不掲載の土器類は小コンテナ1箱弱、礫は約 18 kg 出土。遺物から古墳時代後期後葉 (TK43 期) の建物跡と考えられる。



第138図 西刑部西原遺跡3区 SI-81 実測図



第139図 西刑部西原遺跡3区 SI-81 出土遺物

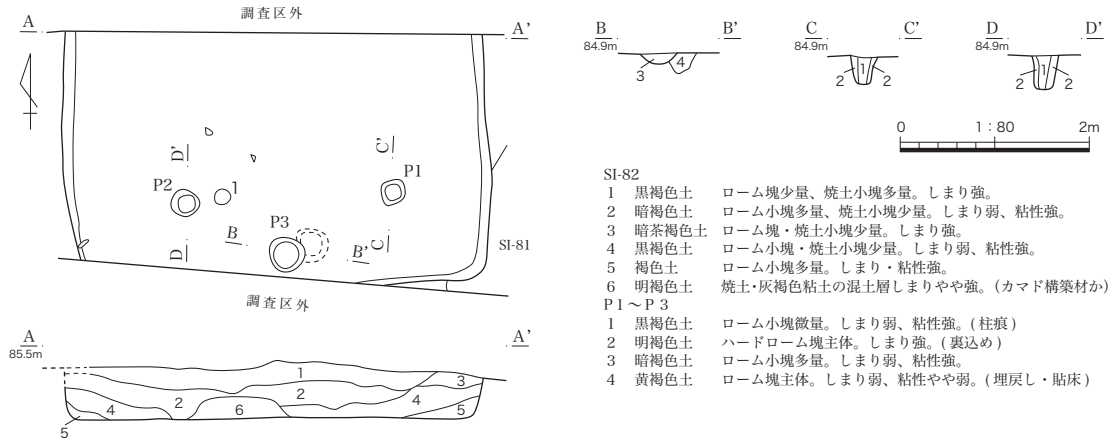
第52表 3区 SI-81 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 罎	口 13.9 高 4.7	口縁部内外面ヨコナデのちヨコヘラミガキ。体部内面不定方向のヘラミガキ。体部外面ヘラケズリ。口縁部内外面の一部に漆痕跡あり。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密、灰・透明・黒・白細砂、白・黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	No. 5 5.3	口縁部 2/3、体部～底部ほぼ 完存
2	土師器 手捏ね 土器	口 (5.6) 高 3.7	外面指頭押圧及びナデ。内面ヘラナデ及び指頭押圧。底部外面ナデ。粘土付着。	内：10YR6/3 にぶい黄橙 外：10YR7/3 にぶい黄橙	やや緻密、白・黒細砂 焼成：硬質	No. 16 5.5	口縁部～体 部 2/5
3	土師器 甕	口 18.0 高 (30.2)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面上半部タテヘラナデか。下半部ナメまたはヨコヘラケズリか。底部外面一方ヘラケズリ。全面的に磨滅著しく調整不明瞭。胴上半部の黒斑は焼成時のものか。	内：10YR7/6 明黄褐色 外：10YR8/6 黄橙	やや緻密、白・灰・黒砂、白・灰・黒細砂、灰礫 焼成：やや硬質	No. 2 4.6	口縁部 5/6、底部 完存
4	石器 編物石	長 13.0 幅 5.5 厚 3.1 重 435.0	未加工の自然礫。 平面形：バチ形 断面形：台形	N6/0 灰	—	No. 8 床直	完存
5	石器 編物石	長 25 幅 11.8 厚 7.9 重 2362.0	未加工の自然礫。支脚か。上半部は被熱赤化している。 平面形：バチ形 断面形：隅丸三角形	7.5YR6/2 灰褐	—	No. 11 4.3	完存
6	焼成粘 土塊	長 4.9 幅 3.3 厚 2.3 重 22.1	僅かに繊維質の脱痕がみられる。胎土は軽くキメ細かで罎の胎土に類似する。	7.5YR7/3 にぶい黄橙	やや緻密	No. 9 3.4	部分残存

3区 SI-82 (遺構：第140図、遺物：第141図、図版一九・九〇)

位置 グリッド 89.0-46.0 重複遺構 古墳時代後期の建物跡 SI-81 より新しい。 平面形 北半部が調査区外だが、隅丸方形か又は長方形か。 規模 東西 4.43× 南北 2.64 m以上 主軸方向 ほぼ真北 (推定値)
覆土 自然堆積 壁 壁高 30～39 cm 床 ローム面を床とする。概ね平坦で硬化面は未確認。 柱穴 P1 (径 30～26 cm、深さ 27 cm)、P2 (径 30 cm、深さ 36 cm) は 4本柱穴のうちの2本か。 入口ピット P3 (径 39～36 cm、深さ 10 cm) は南壁際中央部に位置。 貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。 カマド 調査区

外に位置するか。遺物 極めて少ない。図示した遺物は須恵器蓋・甕破片、土師器環・常総型甕の4点のみ。1は床面直上の須恵器蓋でリング状のツマミが付く。不掲載の土器類は小コンテナ 1/5 箱弱。遺物量が少なく正確な時期は不明瞭だが、遺物から奈良時代前葉の建物と考えられる。



第140図 西刑部西原遺跡3区 SI-82 実測図



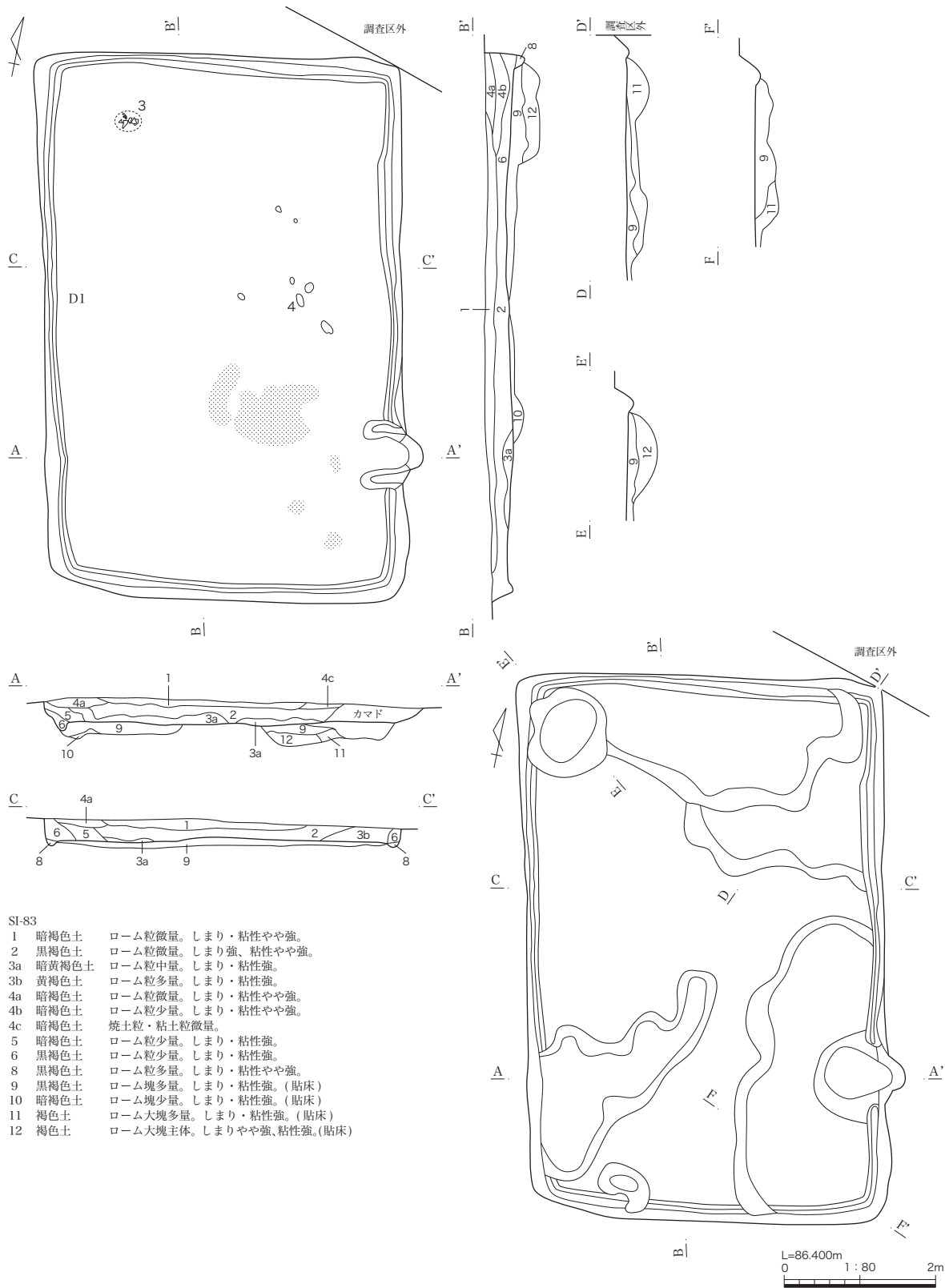
第141図 西刑部西原遺跡3区 SI-82 出土遺物

第53表 3区 SI-82 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器蓋	口 16.1 高 3.0 穴径 3.9	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリのちツマミ貼付。	内：5Y7/1 灰白 外：5Y7/2 灰白	やや緻密、白・灰・黒細砂、白砂 焼成：やや硬質	No.1 床直	ほぼ完存
2	須恵器甕	厚 0.8	外面格子叩き。内面同心円状あて具痕。	内：5Y6/1 灰白 外：5Y4/1 灰白	やや緻密、白・灰・黒細砂、白・灰砂、白粒 焼成：やや硬質	南東	胴部破片
3	土師器環	口 14.6 高 [3.7]	口縁部～体部内面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。底部内面ナデ。内外面漆仕上げ。	内：10YR6/4 にぶい黄橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、白・灰細砂、赤粒 焼成：やや硬質	南東	口縁部 1/3、体部～底部 3/5
4	土師器甕	口 (20.8) 高 [4.1]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラナデか。胴部内面ヘラナデ。常総型の甕。	内：5YR5/4 にぶい赤褐 外：5YR4/3 にぶい赤褐	やや緻密、白・灰・黒細砂、白・黒砂 焼成：やや硬質	覆土中	胴部上半 1/6

3区 SI-83 (遺構：第142・143図、遺物：第144図、図版一九・二〇)

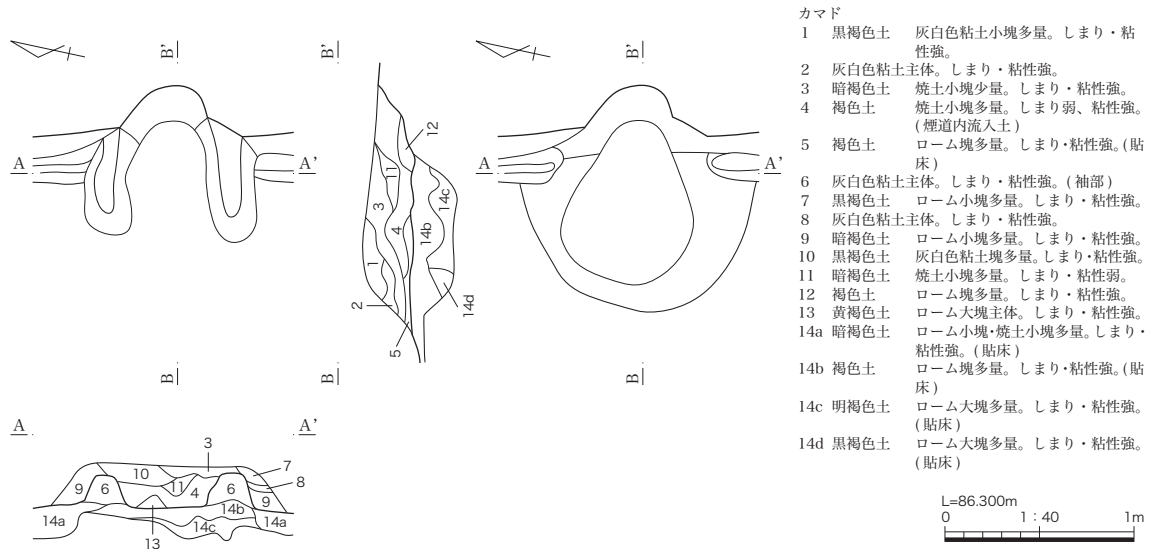
位置 グリッド 86.0-54.0・86.5-54.0 重複遺構 無し。平面形 南北に長い隅丸長方形 規模 東西 4.93 × 南北 7.22 m 主軸方向 N -79.5° - E 覆土 自然堆積 壁 壁高 20～38 cm 床 全面的に薄い貼床あり。柱穴・入口ピット・貯蔵穴 確認できなかった。壁溝 D1 (幅 14～36 cm、深さ 13 cm) 掘方 壁際を中心に不整形な掘り込みあり。深さは 20～30 cm で、ローム塊と黒色土の混土で埋戻す。カマド 東壁際南寄りに位置する。壁を半円形に浅く掘り込む。燃焼部から煙道にかけ厚く焼土が堆積する。遺物 極めて少ない。図示した遺物は土師器環・甕及び編物石の計 4 点。2 は混入品の可能性が高い。不掲載遺物は土器類は小コンテナ箱 1/6 弱。礫は 3.1 kg である。遺物が極めて少なく明確にはできないが、1・3 の遺物から古墳時代終末期の建物跡と考えたい。



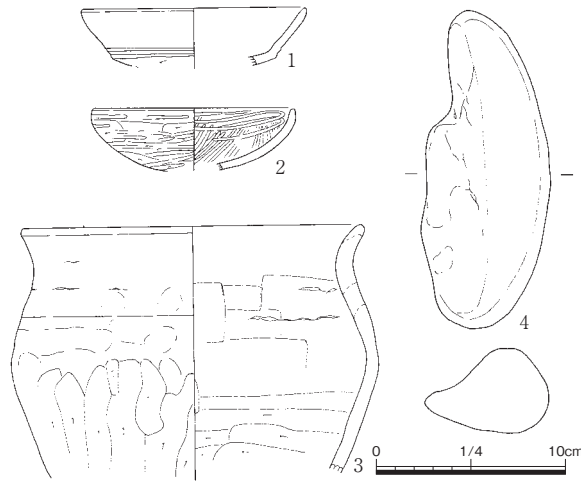
- SI-83
- | | | |
|----|-------|-------------------------|
| 1 | 暗褐色土 | ローム粒微量。しまり・粘性やや強。 |
| 2 | 黒褐色土 | ローム粒微量。しまり強、粘性やや強。 |
| 3a | 暗黄褐色土 | ローム粒中量。しまり・粘性強。 |
| 3b | 黄褐色土 | ローム粒多量。しまり・粘性強。 |
| 4a | 暗褐色土 | ローム粒微量。しまり・粘性やや強。 |
| 4b | 暗褐色土 | ローム粒少量。しまり・粘性やや強。 |
| 4c | 暗褐色土 | 焼土粒・粘土粒微量。 |
| 5 | 暗褐色土 | ローム粒少量。しまり・粘性強。 |
| 6 | 黒褐色土 | ローム粒少量。しまり・粘性強。 |
| 8 | 黒褐色土 | ローム粒多量。しまり・粘性やや強。 |
| 9 | 黒褐色土 | ローム塊多量。しまり・粘性強。(貼床) |
| 10 | 暗褐色土 | ローム塊少量。しまり・粘性強。(貼床) |
| 11 | 褐色土 | ローム大塊多量。しまり・粘性強。(貼床) |
| 12 | 褐色土 | ローム大塊主体。しまりやや強、粘性強。(貼床) |

第142図 西刑部西原遺跡3区 SI-83実測図(1)

第3章 発見された遺構と遺物



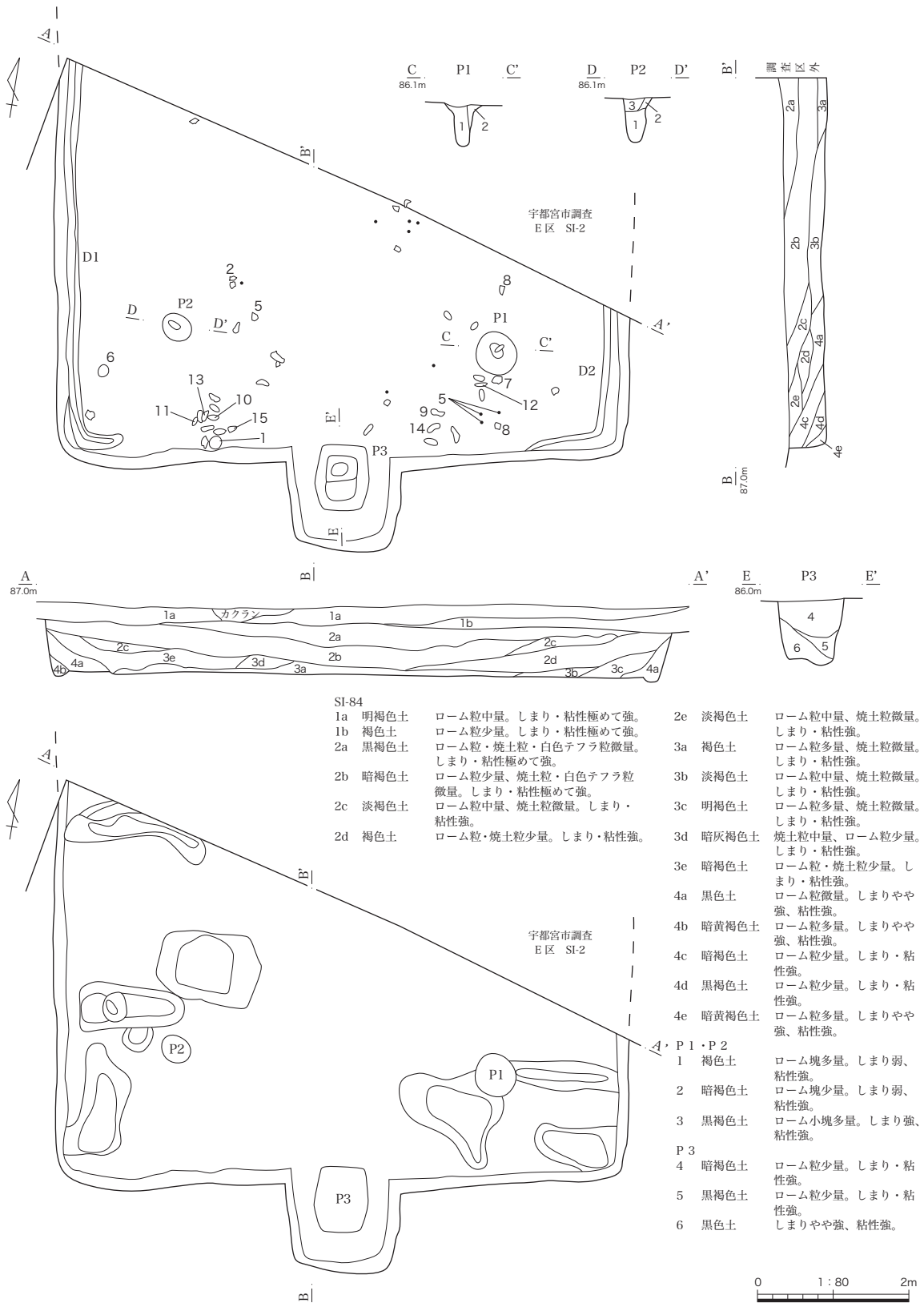
第143図 西刑部西原遺跡3区 SI-83 実測図



第144図 西刑部西原遺跡3区 SI-83 出土遺物

第54表 3区 SI-83 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 環	口 (11.5) 高 [3.0]	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。漆仕上げか。	内：10YR7/3 にぶい黄橙 外：10YR8/4 浅黄橙	やや緻密、黒粗砂	覆土中	口縁部 1/6
2	土師器 環	口 (10.8) 高 [3.3]	口縁部内外面ヨコナデ。内面ヘラミガキ。体部～底部外面ヘラケズリのちヘラミガキ。	内外面とも 5YR5/8 明赤褐	やや緻密、白・黒・灰細砂～礫 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部～体部 1/4
3	土師器 甕	口 (18.0) 高 [13.2]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面上半部ヘラナデ、下半部ヨコヘラケズリ。胴部外面上半指頭押圧及びナデ、下半部タテヘラケズリ。	内：5YR5/6 明赤褐 外：5YR6/6 橙	粗い、灰・白・黒・赤粒細砂～粗砂、白・赤粒礫 焼成：やや硬質	No.1 1.3	口縁部～胴部上半 1/4
4	石器 編物石	長 16.6 幅 6.4 厚 4.4 重 584.0	未加工の自然礫。 平面形：不整形 断面形：不整形	5Y6/1 灰	—	No.7 8.2	ほぼ完存



第145図 西刑部西原遺跡3区 SI-84 実測図



第146図 西刑部西原遺跡3区 SI-84 出土遺物

3区 SI-84 (遺構：第145図、遺物：第146図、図版二〇・九〇)

位置 グリッド 86.5-52.0・86.5-52.5・87.0-52.0・87.0-52.5 重複遺構 無し。平面形 ほぼ正方形 (北半部は宇都宮市調査E区 SI-2 として報告済み) 規模 東西 7.55×南北 7.4 m 主軸方向 N-9° - W
 覆土 自然堆積 壁 壁高 42～60 cm 床 貼床は殆ど認められない。硬化面は確認できなかった。柱穴 P1 (径 58～54 cm、深さ 50 cm)、P2 (径 42～35 cm、深さ 57 cm)。入口ピット 確認できなかった。
 張出ピット 南壁を幅 1.5m×長さ 1.3 m の方形に拡張し、中央部に P3 (長軸 86×短軸 70 cm、深さ 85 cm) を掘り込む。壁溝 D1 (幅 18～32 cm、深さ 6 cm)、D2 (幅 25～43 cm、深さ 5 cm)。カマド (宇都宮調査区で北壁から新旧 2 基確認)。遺物 計 15 点を図示。土師器坏 (1～4) のうち、2 は口縁部が長く内面にミガキを施す。栗罎系の土器か。3・4 は内外面にヘラミガキを施す。5 は口縁部内面および、胴部外面には細かなヘラミガキをもつ。器形は甕に似るが、胎土は坏類と同様である。このほか編物石が壁際を中心にまとまって出土。床面付近の遺物は編物石以外はほぼ皆無。不掲載の土器類は小コンテナ 1 箱分、礫は 8.4 kg 出土。遺物から古墳時代後期後葉 (TK43 段階) の建物跡と考えられる。

第55表 3区 SI-84 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	土師器坏	口 13.1 高 5.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面疎らな放射状のヘラミガキ。体部外面ヘラケズリのちヨコヘラミガキ。	内：7.5YR6/4 にぶい橙 外：7.5YR5/3 にぶい褐	やや緻密、黒・白・透明 細砂、黒・白砂、赤粒 焼成：やや硬質	No. 21 34.4	ほぼ完存
2	土師器坏	口 13.7 高 5.5	口縁部外面ヨコナデ。口縁部内面～体部内面ヘラミガキのち黒色処理。体部外面ヘラナデ。	内外面とも 5YR5/8 明赤褐	やや緻密、灰・白・黒細砂、白・黒砂 焼成：やや硬質	No. 20 10.0	口縁部 1/4、 体部～底部 1/3
3	土師器坏	口 (13.8) 高 [4.1]	口縁部外面ヨコナデのちヘラミガキ。体部外面ヘラナデ。口縁部～体部内面ヨコヘラミガキのち屈曲部に鋸歯状のヘラミガキのち黒色処理。	内：2.5Y 2/1 黒 外：10YR8/6 黄橙	緻密、灰・白砂 焼成：やや硬質	No. 2 35.6	口縁部～底部 1/4

4	土師器 坏	口 高	(15) [3.6]	口縁部内外面ヨコナデのちミガキ。内外面黒色処理。口縁部は外反し、体部との境に段を有する。	内外面とも 5YR5/6 明赤褐	緻密、白・灰細砂～粗砂 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 1/3
5	土師器 小型甕 (鉢か)	口 高	(14.6) 11.6	口縁部～胴部外面タテヘラケズリ一部ナデか。底部外面多方向ヘラケズリ。口縁部内面ヘラケズリのちヘラナデあるいはヘラミガキ。胴部～底部内面ヘラケズリのち光沢あるヘラナデ。胎土はキメ細かく塊、坏類と同じ。	内外面とも 10YR7/4 に ぶい黄橙	緻密、黒・白細砂、赤礫 焼成：硬質	No. 3・4・ 5・19 11.9 (No 19)	口縁部～体 部 1/4、底 部完存
6	土師器 鉢か	口 高	13.2 7.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ状工具による強めのナデあるいはヘラケズリ。体部内面太く疎らな放射状のヘラミガキ。底部内面に焼成前ヒビ補修のヘラミガキあり。内外面漆仕上げ。	内外面とも 10YR7/4 に ぶい黄橙	やや緻密、黒・白細砂、黒・ 白砂、赤粒 焼成：やや硬質	No. 25 30.2	完存
7	土師器 手捏ね 土器	口 底 高	(10.6) 5.0 5.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面指頭押圧及びナデ。底部外面ナデ。敷物圧痕か。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや粗い、白・黒細砂、 白礫、赤粒 焼成：軟質	No. 56 35.0	口縁部 1/4。 底部完存
8	須恵器 甕	—	—	内面同心円あて具痕。外面格子叩きのちカキ目。	内外面とも 5Y6/1 灰	やや緻密、灰・白・黒細 砂、白砂 焼成：やや硬質	No. 7 44.2	胴部破片
9	石器 編物石	長 幅 厚 重	14.3 6.0 4.2 590.0	未加工の自然礫。表面のみ赤褐を呈する。被熱したものか。 平面形：不整な隅丸長方形 断面形：不整な隅丸長方形	10R4/4 赤褐	—	No. 34 13.7	完存
10	石器 編物石	長 幅 厚 重	14.1 5.5 3.6 420.0	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸三角形	10YR6/4 にぶい黄橙	—	No. 42 8.0	完存
11	石器 編物石	長 幅 厚 重	13.6 5.8 3.6 520.0	未加工の自然礫。 平面形：隅丸の撥形 断面形：不整な隅丸方形	2.5YR7/1 明赤灰	—	No. 46 不明	完存
12	石器 編物石	長 幅 厚 重	16.8 6.0 4.2 571.5	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：不整な隅丸方形	5Y7/3 浅黄	ホルンフェルスか。	No. 31 4.3	ほぼ完存
13	石器 編物石	長 幅 厚 重	14.4 6.3 3.4 534.0	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：不整な楕円形	2.5Y6/1 黄灰	—	No. 48 不明	完存
14	石器 編物石	長 幅 厚 重	15.4 6.2 3.1 558.0	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸のくさび形	2.5Y7/2 灰黄	—	No. 35 7.0	完存
15	石器 編物石	長 幅 厚 重	12.2 5.5 4.6 531.0	上端部、下端部の剥離は敲打痕か。 平面形：隅丸方形 断面形：不整な半円形	10YR6/1 褐灰	—	No. 43 4.9	ほぼ完存

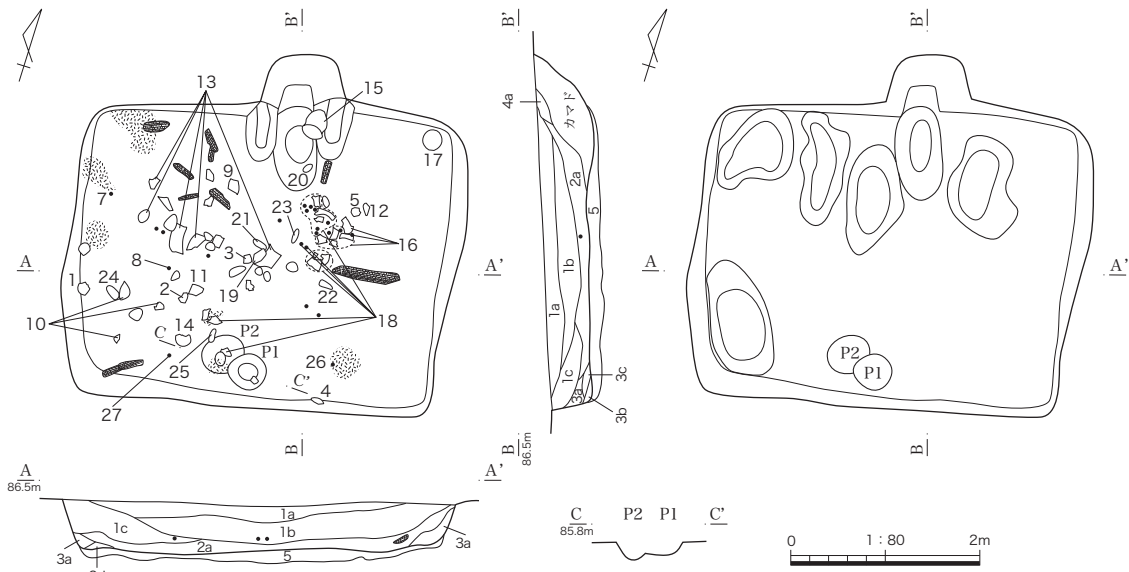
3区 SI-85 (遺構：第 147 図、遺物：第 148～150 図、図版二〇・九〇・九一)

位置 グリッド 86.0-52.0・86.5-52.0 重複遺構 無し。 平面形 やや不整な隅丸長方形 規模 東西 4.09 × 南北 3.76 m 主軸方向 N -9° - W 覆土 自然堆積か。暗褐色土主体の 9 層に分層される。2a 層中から焼土・炭化材が集中して出土。 壁 壁高 40～53 cm 床 ほぼ全面が貼床。若干の凹凸を有する。 柱穴 確認できなかった。 入口ピット P1 (径 38 cm、深さ 14 cm)、P2 (径 42 cm、深さ 20 cm) は入口関連の痕跡か。 貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。 掘方 底面に土坑状の掘り込み及び若干の凹凸を有し、ローム大塊を多量含む 5 層で埋戻している。 カマド 北壁中央部に位置し、壁を隅丸の台形状に掘り込む。煙道の立ち上がりは緩やかで、燃烧部から煙道にかけ焼土が多く残る。完形の土師器甕 (15) が出土する。 遺物 平面的には中央部に集中し、覆土上層からの出土量が多い。掲載遺物をみると、須恵器は坏 (1～5)、高台付盤 (6)、高坏 (7)、鉄鉢型土器 (9) 短頸壺 (8・10)、大型甕 (11・13) が、土師器は武蔵型甕 (15・

第 56 表 3区 SI-85 出土遺物観察表

掲載 番号	器種	法量(cm/g)	技 法 ・ 特 徴	色 調	胎土・素材・焼成	出土位置・ 床上 (cm)	残存
1	須恵器 坏	口 高	(15.6) 4.8	口縁部～体部内外面クロコナデ。底部外面回転系切りのち外周手持ちヘラケズリ。	内：5Y7/2 灰白 外：7.5Y6/1 灰	やや緻密、黒・白細砂、黒・ 白砂 焼成：やや硬質	No. 21 37.9 口縁部 1/4、底部 4/5
2	須恵器 坏	底 高	6.6 [1.1]	体部外面クロコナデ。底部外面回転系切りのちヘラ記号。ヘラ記号は光沢を帯びる。ある程度乾燥が進んだのち記されたものか。	内外面とも 7.5Y6/1 灰	やや緻密、白・灰・黒細 砂、白・黒砂、白粒 焼成：やや硬質	No. 13 40.7 底部 3/4

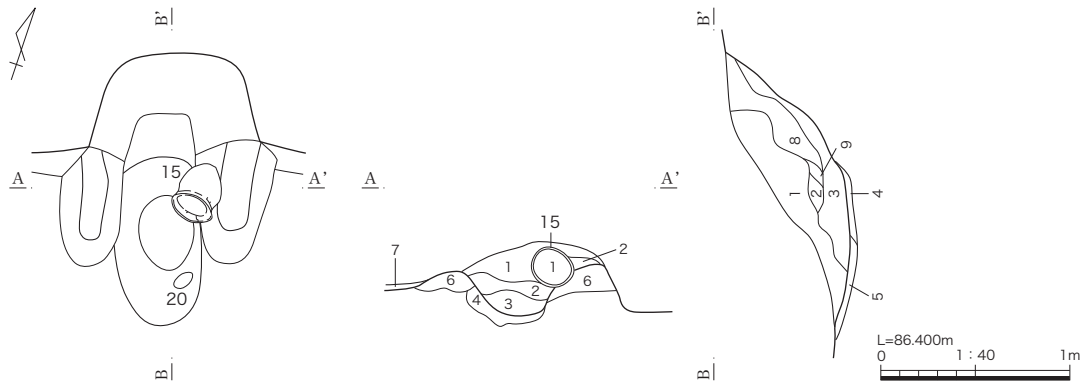
第3章 発見された遺構と遺物



SI-85

- 1a 暗褐色土 ローム粒・焼土粒微量。しまり強、粘性やや強。
- 1b 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少量。しまり強、粘性やや強。
- 1c 褐色土 ローム粒中量、焼土粒少量。しまり強、粘性やや強。
- 2a 淡褐色土 炭粒多量、ローム粒・焼土粒中量。しまり・粘性強。
- 3a 黒褐色土 ローム粒少量。しまりやや強、粘性強。

- 3b 暗黄褐色土 ローム粒多量。しまりやや強、粘性強。
- 3c 暗赤褐色土 焼土粒多量、ローム粒中量。しまり・粘性強。
- 3d 黄褐色土 ローム粒多量。しまり・粘性強。
- 4a 暗灰褐色土 粘土粒多量、焼土粒中量。しまり・粘性強。
- 5 暗褐色土 ローム大塊多量。しまり・粘性強。(貼床)

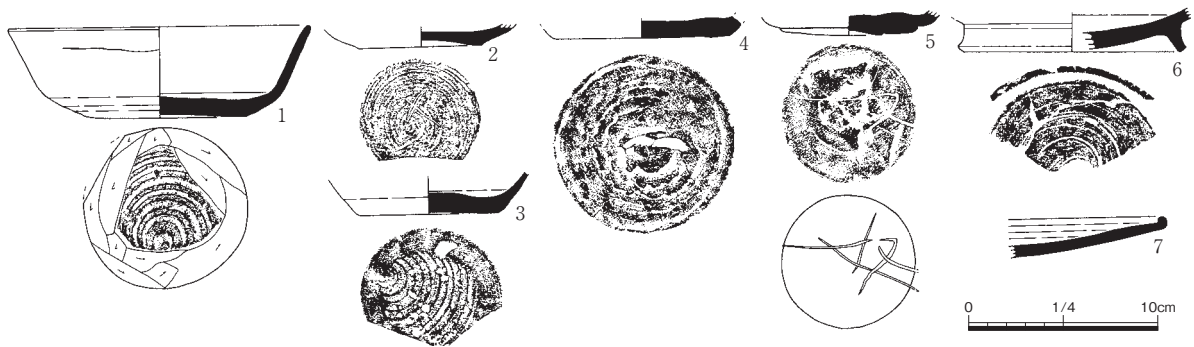


カマド

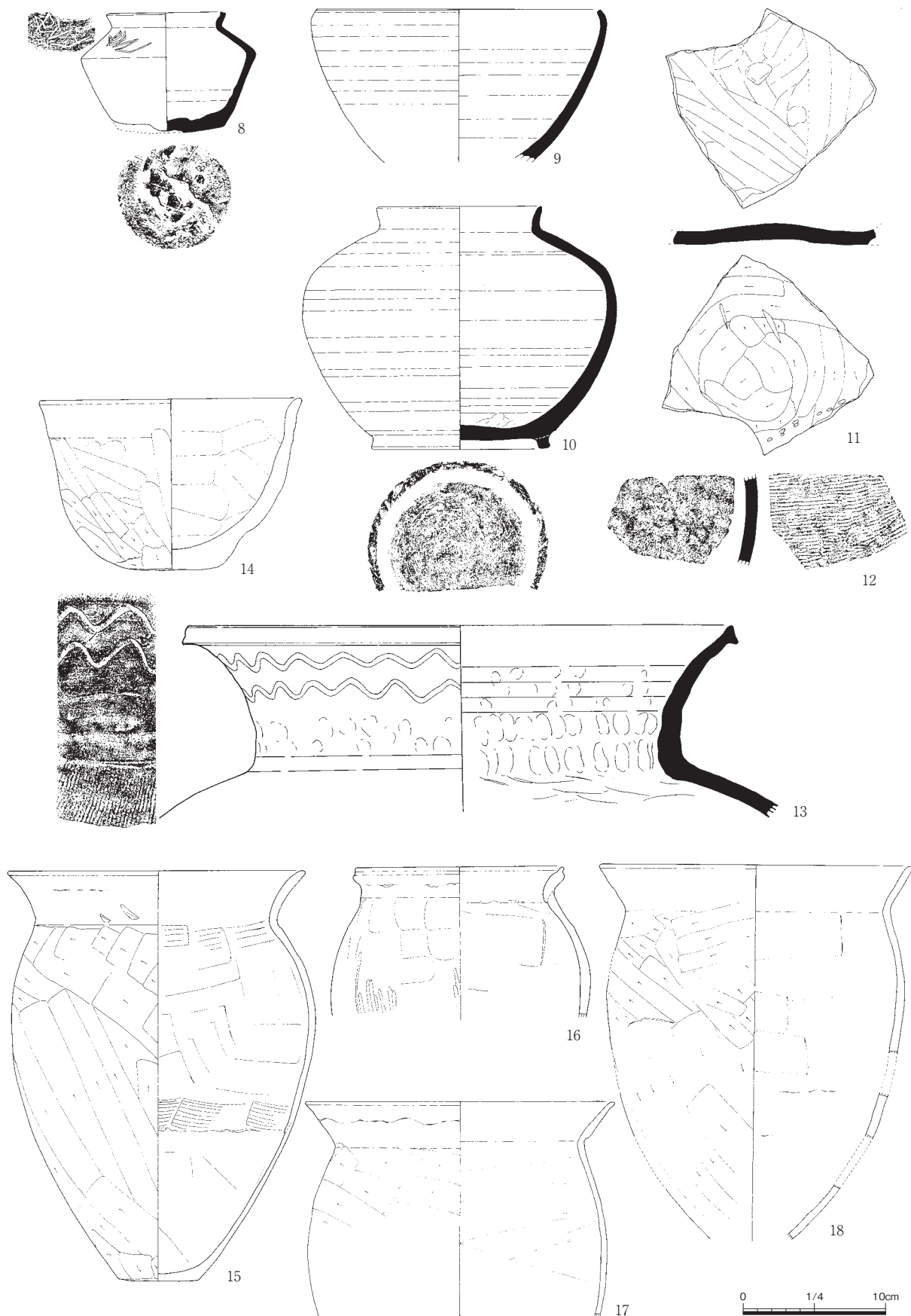
- 1 黒褐色土 ローム小塊多量、焼土小塊少量。しまり強。
- 2 灰褐色土 灰褐色粘土塊・焼土小塊多量。しまり弱。(天井崩落土)
- 3 暗褐色土 焼土小塊多量。しまり強。(煙道内流入土)
- 4 暗灰色粘土 焼土小塊多量。しまり強。(火床、暗灰色粘土)

- 5 暗褐色土 焼土小塊少量。しまり・粘性強。(貼床)
- 6 灰褐色粘土 しまり・粘性強。(袖部)
- 7 暗褐色土 ローム塊多量。しまり・粘性強。
- 8 暗灰褐色土 灰褐色粘土塊・焼土小塊多量。しまり・粘性強。(天井崩落土)
- 9 赤褐色焼土主体 しまり強、粘性弱。(火壁)

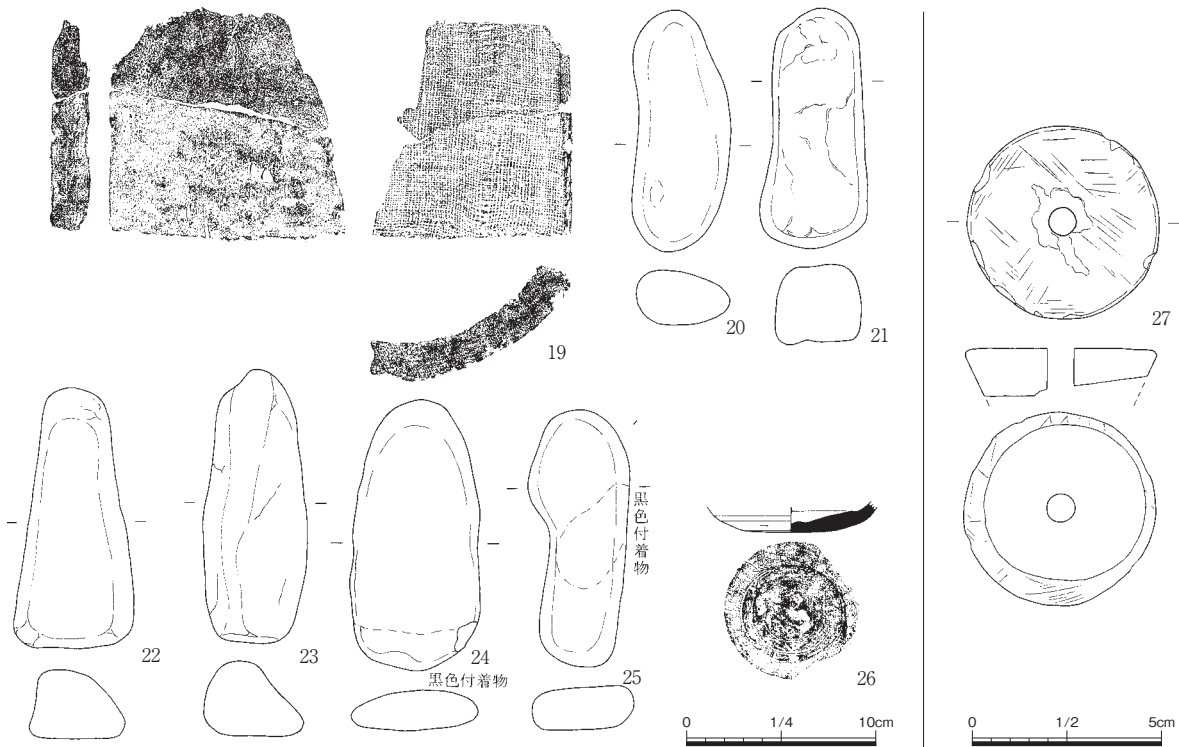
第147図 西刑部西原遺跡3区 SI-85 実測図



第148図 西刑部西原遺跡3区 SI-85 出土遺物 (1)



第149図 西刑部西原遺跡3区 SI-85 出土遺物 (2)



第150図 西刑部西原遺跡3区 SI-85 出土遺物 (3)

17・18)を中心に、常総型甕(16)が少量認められる。この他男瓦破片(19)、編物石(20～25)、石製紡錘車(27)がある。このうち2・3は底部外面にヘラ記号をもつが、3は文字の可能性もある。4は底部周縁を調整しており、パレットなどに転用した可能性がある。8は肩部に文字風のヘラ描きがあるが、解読は不能。11は底部外面に縄圧痕がある。13は頸部に太めの粗大な波状文が見られる特徴的な甕である。19の男瓦はSE-76の出土遺物と遺構間接合が確認された。27は結晶片岩製の紡錘車破片。不掲載の土器類は小コンテナ2箱分。礫の重量は15.8kgに及ぶ。遺物から奈良時代後葉(8世紀後葉)の建物跡と考えられる。

3	須恵器 坏	口 底 高	(10.4) (7.4) [1.9]	内外面ロクロナデ。底部外面回転系切りのち外周回転ヘラケズリ。	内：2.5Y8/1 灰白 外：2.5Y8/2 灰白	緻密、白・灰・黒細砂、 灰色砂、黒色砂 焼成：やや硬質	No.55 11.8	底部3/4、 体部一部
4	須恵器 坏(転 用破か)	口 底	9.5 [1.0]	底部外面回転ヘラ切りのちヘラ記号か。黒褐色の付着物あり。底部内面はやや平滑に研磨される。側縁を打ち欠き丁寧に調整している。硯あるいはパレットなどに転用したものか。	内外面 2.5Y6/2 灰黄	緻密、白・灰・黒細砂、灰・ 白砂 焼成：硬質	No.36 3.7	底部完存
5	須恵器 坏	底 高	7.1 [1.2]	底部外面回転ヘラ切りのち若干のナデ。底部内面ロクロナデ。底部外面ヘラ記号あり。底部のヘラ切りは極めて雑で、切り残しによる段差が残る。	内外面とも 5Y6/1 灰	やや緻密、灰・白砂、白 細砂 焼成：やや硬質	No.3 25.2	底部破片
6	須恵器 高台付 盤	底 高	(12.0) [2.2]	底部内面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。	内：5Y7/1 灰白 外：5Y7/2 灰白	やや緻密、白・灰・黒細 砂、灰色砂 焼成：やや硬質	ベルト	底部1/4
7	須恵器 高坏	口 高	(22.6) [1.7]	内外面ロクロナデ。	内：5Y6/2 灰オリーブ 外：7.5Y6/1 灰	やや緻密、白・灰・黒細 砂、灰・白砂 焼成：やや硬質	No.22 30.9	口縁部破片
8	須恵器 小型短 頸壺	口 底 高	7.8 (7.4) 8.4	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面焼成前ヘラ記号。同部内外面ロクロナデ。底部外面に大きな段差あり。雑な回転ヘラ切りで大きく凹んだ部分に貼付けた粘土がさらに剥落したためか。歪みが著しい。	内：N4/0 灰 外：10Y5/1 灰	やや緻密、白・灰・黒細 砂、灰色砂、白礫、白粒 焼成：やや硬質	No.62 18.6	完存
9	須恵器 鉄鉢型 土器	口 胴 高	(19.6) (20.7) [10.7]	内外面ロクロナデ。口縁端部で小さく内湾する。	内：7.5Y4/1 灰外 外：7.5Y5/1 灰	やや粗い、白・透明細砂 ～礫 焼成：硬質	No.33 10	胴部1/4、 口縁部一部
10	須恵器 短頸壺	口 胴 底 高	(11.4) (22.1) (12.4) (21.8)	内外面ロクロナデ。胴部外面下半部回転ヘラケズリのちロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。底部内面一方向ナデあり。焼成前の補修痕と考えられる。	内：7.5Y5/1 灰外 外：7.5Y6/1 灰	やや粗い、白・灰・黒細 砂～礫 焼成：硬質	No.16・ 18・19 9.5 (No. 19)	口縁部 1/4、底部 3/4、胴部 1/2
11	須恵器 甕	厚	1.0	底部内面指ナデ、指頭押圧、自然袖付着。底部外面ヘラケズリ、中央部はやや窪む。縄(1段L)の側面の圧痕がみられる。甕の底部と考えられるが器形は不明。	内：2.5Y6/2 灰黄 外：2.5Y6/1 黄灰	緻密、白・灰・黒細砂、黒・ 灰砂 焼成：硬質	No.12 22	底部破片

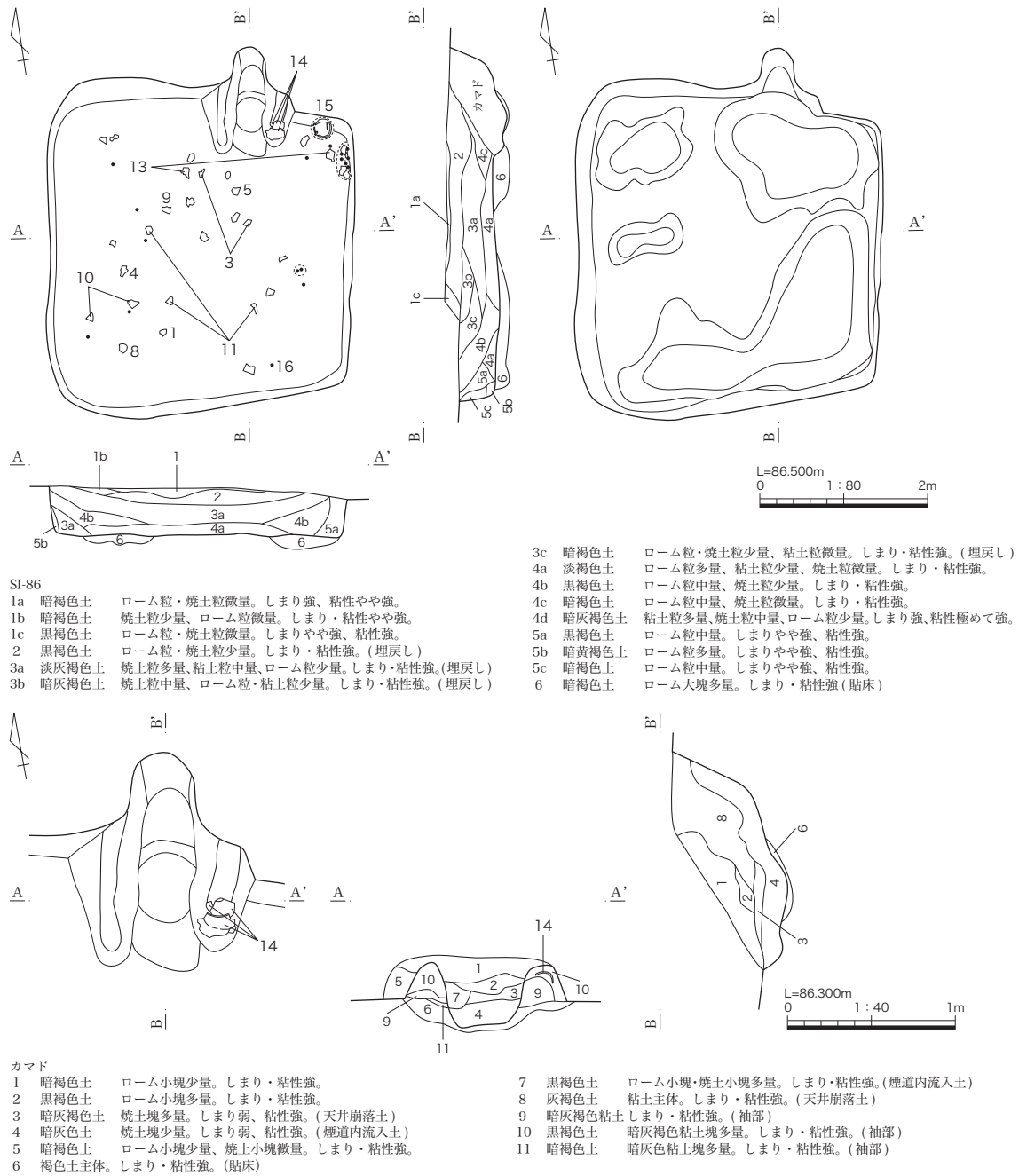
12	須恵器 甕	厚 0.8	内面無文あて具痕。外面平行叩き。	内外面とも N5/6 灰	やや緻密、白・灰砂、白・灰細砂、白礫 焼成：やや硬質	No. 2 24.1	胴部破片
13	須恵器 甕	口 47.4 高 [16.6]	口縁部内外面口クロナデ。口縁部外面幅広の二条の波状文。胴部内面無文叩き。頸部内面指頭圧痕。口縁部内面及び肩部外面に降灰。	内：5Y5/1 灰 外：7.5Y3/1 オリーブ黒	やや緻密、白・灰色細砂、白・黒・灰色砂、白礫 焼成：硬質	No. 23・49・59 4.6 (No. 49)	口縁部 1/2
14	土師器 鉢	口 (18.0) 底 7.0 高 12.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面下半部ヘラケズリ、上半部ナデ。底部外面ヘラケズリのちヘラナデ。歪みが大い。砂粒の混入が多く胎土は裏と同様だが被熱はしていない。	内外面とも 10YR7/4 に ぶい黄橙	やや緻密、白・灰・黒細砂、 白色砂、黒色砂、白粒 焼成：やや硬質	No. 14 7.3	口縁部 7/12、体部 ～底部 5/6
15	土師器 甕	口 21.0 底 5.1 高 28.7	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面上半部ヨコ又はナメヘラケズリ、下半部ナメヘラケズリ。底部外面一方向ヘラケズリ。胴部外面にほぼ全面にコゲ付着。内面底部のみ黒色付着物。	内：5YR6/8 橙 外：5YR5/6 明赤褐	やや緻密、白・透明・灰・ 黒細砂～粗砂 焼成：軟質	No. 19 9.5	ほぼ完存
16	土師器 甕	口 14.4 高 [10.6]	口縁部内外面ヨコナデ。端部をつまみ上げる。胴部内面ヘラナデ。胴部外面上半部ナデあるいはヘラナデのち粗いたテヘラミガキ。肩部一部に粘土付着。	内：7.5YR4/3 褐 外：7.5YR4/4 褐	粗い、白・透明・灰細砂 ～粗砂、赤粒、灰礫、雲 母片 焼成：やや軟質	No. 3・21・ 35 20.8 (No. 35)	口縁部～胴 部上半部完 存
17	土師器 甕	口 21.6 高 [15.2]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面ナメヘラケズリ。胴部外面中位に多量の粘土が付着し、調整不明瞭。	内：5YR6/6 橙 外：5YR6/6 橙	やや緻密、透明・白・灰・ 細砂、赤色粒礫、白礫 焼成：やや軟質	No. 1 床直	口縁部～胴 部下半部 2/5
18	土師器 甕	口 21.6 高 [26.3]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部内面ヘラケズリ。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密、白・灰色・黒 細砂、黒・白・灰色砂、 白雲母か 焼成：やや硬質	No. 8・10・ 42・46 5.8 (No. 42)	口縁部完存、 胴部 2/5 底 部欠損
19	男瓦	長 [12.5] 幅 [7.2] 厚 2.4 重 [246.0]	凹面：布目痕 凸面：格子叩き 3区 SE-76-2 と遺構外接合。	5YR7/6 橙	やや緻密、白・透明細砂、 白・灰粗砂～礫 焼成：硬質	No. 50 8.5	部分残存
20	石器 編物石	長 12.5 幅 4.9 厚 2.8 重 264.2	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：卵形	10YR7/1 灰白	—	No. 48 22.4	完存
21	石器 編物石	長 12.5 幅 4.6 厚 4.0 重 455.6	未加工の自然礫。 平面形：隅丸の撥形 断面形：隅丸方形	5Y5/1 灰	—	No. 51 5.2	完存
22	石器 編物石	長 13.6 幅 5.1 厚 3.7 重 450.2	未加工の自然礫。 平面形：隅丸の撥形 断面形：不整な隅丸台形	7.5Y7/2 灰白	—	No. 40 14.8	完存
23	石器 編物石	長 14.3 幅 5.2 厚 4.0 重 457.3	未加工の自然礫。 平面形：不整な長方形 断面形：隅丸三角形	5Y7/2 灰白	—	No. 44 9.5	完存
24	石器 編物石	長 14.1 幅 6.6 厚 2.1 重 319.9	未加工の自然礫。下端部表面のみ黒色付着物あり。ススカ。 平面形：隅丸の楕円形 断面形：隅丸のレンズ状	5Y7/1 灰白	—	No. 20 26.4	完存
25	石器 編物石	長 13.5 幅 5.3 厚 2.2 重 316.0	未加工の自然礫。中央部に黒色付着物あり。ススカ。 平面形：不整な長方形 断面形：隅丸長方形	2.5Y6/1 黄灰	—	No. 9 12.4	完存
26	須恵器 坏か	高 5.5	口クロ仕上げ。底部外面回転ヘラケズリ。やや古手の混入遺物か。	内：7.5Y5/1 灰 外：2.5GY5/1 オリーブ 灰	緻密、白・灰・黒細砂、黒・ 灰砂 焼成：硬質	No. 37 床直	底部完存
27	石製品 紡錘車	径 5.1 厚 [1.7] 重 [40.6]	上面概ね平坦。上面の擦痕は明瞭。側面に鋸歯文風の擦痕(沈線か)は浅く、線刻かどうかは不明瞭。孔径 6.8～7.2 mm。	内外面とも 10GY4/1 暗 緑灰	結晶片岩	No. 15 33.8	下半部欠損、 1/2 程度か

3区 SI-86 (遺構：第151図、遺物：第152・153図、図版二〇・二一・九一・九二・一一三)

位置 グリッド 86.0-52.0 重複遺構 古墳時代後期後葉のSI-87より新しい。平面形 不整な隅丸台形状
規模 東西3.54×南北3.2～4.1m 主軸方向 N-10° - E 覆土 覆土中位に人為的な埋戻しが認められる。壁 壁高50～61cm残る。床 若干の凹凸あり。中央部を残し、周縁部は広く貼床となる。
柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 底面には不整形の土坑状掘り込みあり、ローム塊を多量含む第6層で埋戻している。カマド 北壁中央部やや東寄りに位置し、壁面を凸字状に掘り込む。煙道からの流入土には焼土を多量含む。14はカマド芯材に転用されたものか。遺物 須恵器は坏(1・4～9)・瓶類(10)・甕(2・3・11)が、土師器は坏(12)・甕(13～15)があり、他に鉄製品の鎌(16)が出土する。4・7の底部外面にはヘラ記号が見られる。8の底部外面外周には繊維質の圧痕あり。15の胴部内面には粘土を撫でつける。焼成前の補修跡か。16の鎌は完形品で、基部を直角に折り曲げる。不掲載の土器類は小コンテナ2箱弱、礫は約700g出土。遺物から奈良時代後葉の建物跡と考えられる。

第57表 3区 SI-86 出土遺物観察表

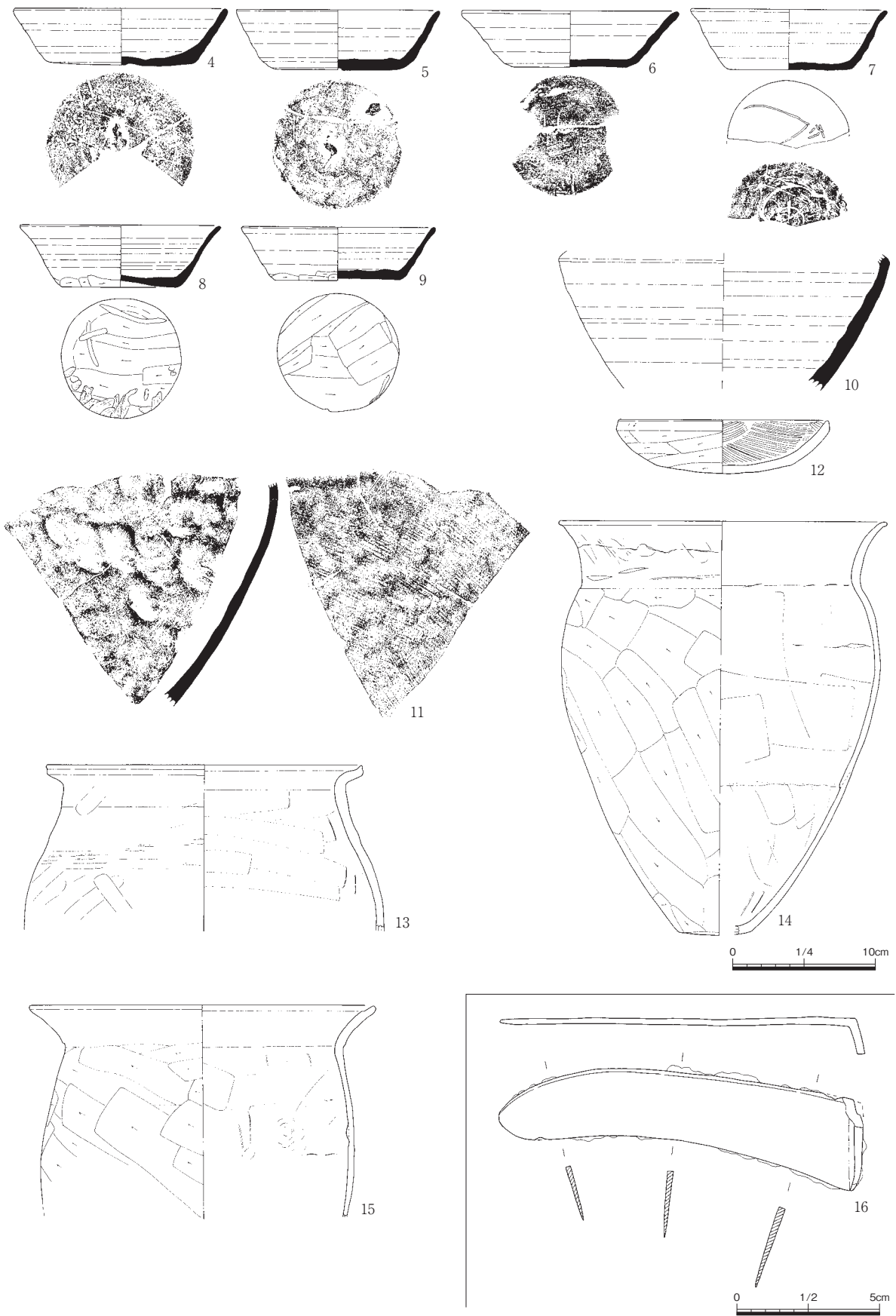
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置	残存
1	須恵器 坏	底高 [7.0] [1.7]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデのちヘラ記号。スノコ状の圧痕あり。	内外面とも 5Y7/1 灰白	やや緻密、灰・黒・白細砂、灰・黒砂、黒礫少々 焼成：やや硬質	No.19 16.5	底部1/2
2	須恵器 甕	厚 0.9	口縁部に平行して太めの沈線、以下8条1組の櫛描波状文を施す。	内：5Y4/1 灰 外：10Y2/1 黒	やや粗い、白粗砂～礫 焼成：硬質	覆土中	口縁部破片
3	須恵器 甕	厚 1.0	内面無文あて具のちナデ。外面平行タタキ。外面一部に灰色の自然釉。	内：10YR5/3 にぶい黄橙 外：2.5Y5/2 暗灰黄	やや粗い、白・灰粗砂～礫 焼成：硬質	No.14・26 21.2 (No.14・26)	胴部破片
4	須恵器 坏	口底高 (14.6) 10.3 3.9	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデのちヘラ記号。	内外面とも 10YR6/4 にぶい黄橙	やや粗い、白・灰細砂～礫 焼成：やや軟質	No.18 23.6	口縁部1/8、 底部3/4
5	須恵器 坏	口底高 14.0 9.3 4.2	内外面ロクロナデ。底部ヘラ切りのちナデ。	内外面とも 5Y6/1 灰	やや緻密、白・灰細砂、灰・白砂、白礫 焼成：やや硬質	No.28 57.0	口縁部1/3
6	須恵器 坏	口底高 15.0 7.9 4.1	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデおよび縄圧痕あり。やや歪みがあり、補正した測定値で表示。	内外面とも 2.5Y7/2 灰黄	やや緻密、白・灰・黒細砂～礫、赤粒 焼成：やや硬質	覆土中	ほぼ完存
7	須恵器 坏	口底高 (13.6) 8.4 4.2	口縁部～体部内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちヘラ記号。	内：5Y5/1 灰 外：5Y4/2 オリーブ灰	やや緻密、灰・白粗砂～礫 焼成：硬質	覆土中	口縁部1/8、 底部1/2
8	須恵器 坏	口底高 14.0 8.4 4.3	内外面ロクロナデ。体部外面下端部手持ちヘラケズリ。底部外面回転ヘラ切りのち一方ヘラケズリ。底部外面ワラあるいは木質の圧痕あり。焼け歪みが著しいため補正して実測。体部外面一部に自然釉付着。	内：10YR6/1 褐灰 外：5Y5/1 灰	やや緻密、灰・白・黒砂、白粒 焼成：やや硬質	No.20 6.9	口縁部3/4、 体部～底部 ほぼ完存
9	須恵器 坏	口底高 13.5 8.6 3.7	内外面ロクロナデ。底面ヘラケズリ。歪みが大きいため、補正して実測。	内外面とも 5Y5/1 灰	やや緻密、灰・白・黒細砂、灰・白・黒砂、黒礫 焼成：やや硬質	No.32 37.4	口縁部1/2、 底部完存
10	須恵器 瓶類	口高 (22.0) [9.6]	内外面ロクロナデ。胴部外面下半部回転ヘラケズリ。肩部外面には黄色の降灰。胴部外面には黒褐色の自然釉が付着。	内：N5/0 灰 外：N3/0 暗灰	やや粗い、白粗砂～礫 焼成：硬質	No.36・38 45.0 (No.38)	口縁部1/5
11	須恵器 甕	厚 0.9	外面平行タタキ。内面無文あて具痕。破片下端部沈線ヘラミガキ風斜位のヘラナデ。	内外面とも 7.5YR5/3 にぶい褐	やや緻密、白・灰・黒細砂、白・灰砂、白礫 焼成：やや硬質	No.25・34・35 2.0 (No.35)	胴部破片
12	土師器 坏	口高 (14.8) 3.7	口縁部外面ヨコナデ。口縁部～体部内面ヘラナデのちミガキ。体部外面ヘラケズリ。	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR6/6 橙	やや緻密、白・黒細砂～粗砂、赤粒礫 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部1/2、 底部3/4
13	土師器 甕	口高 (22.0) [11.5]	常総型甕。口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラナデのち平行叩き。胴部内外面黒斑あり。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	やや粗い、白・灰細砂～礫 焼成：やや軟質	No.7・13 20.8 (No.13)	口縁部1/4
14	土師器 甕	口底 22.5) 5.0～5.5	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデのち胴部中位のみハケ目風のナデ。胴部外面ヘラケズリ。底部外面ヘラケズリ。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	やや緻密、白・黒・灰細砂、白・灰砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.40・41、 K 1.6	胴部1/4
15	土師器 甕	口高 24.0 [15.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。内面中位に粘土粒を貼りし周囲にナデを施す。補修跡か。胴部外面斜めのヘラケズリ。外面スス付着。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密、灰・白・黒細砂、灰・白・黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.21 床直	胴部上半完 存
16	鉄製品 鎌	長幅重 12.8 3.4 39.3	背が緩やかな丸みをもつ完形の鎌。基部はくの字に折り曲げる。曲げ幅は1.2cmほど。刃部断面は平造り。棟は角棟で、最大幅は2.6mm。	—	鉄製	No.5 3.5	完存



第151図 西刑部西原遺跡3区 SI-86 実測図



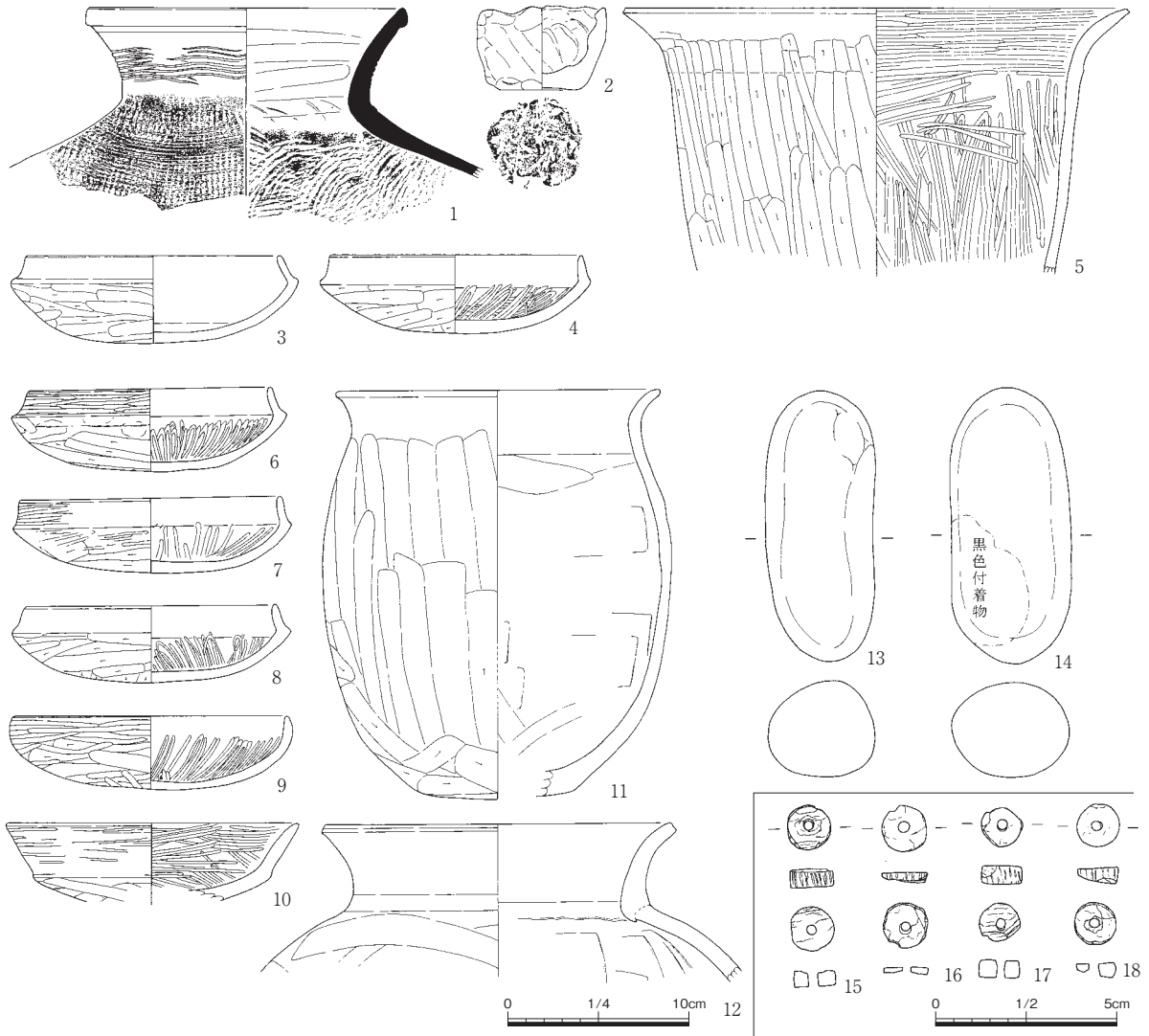
第152図 西刑部西原遺跡3区 SI-86 出土遺物 (1)



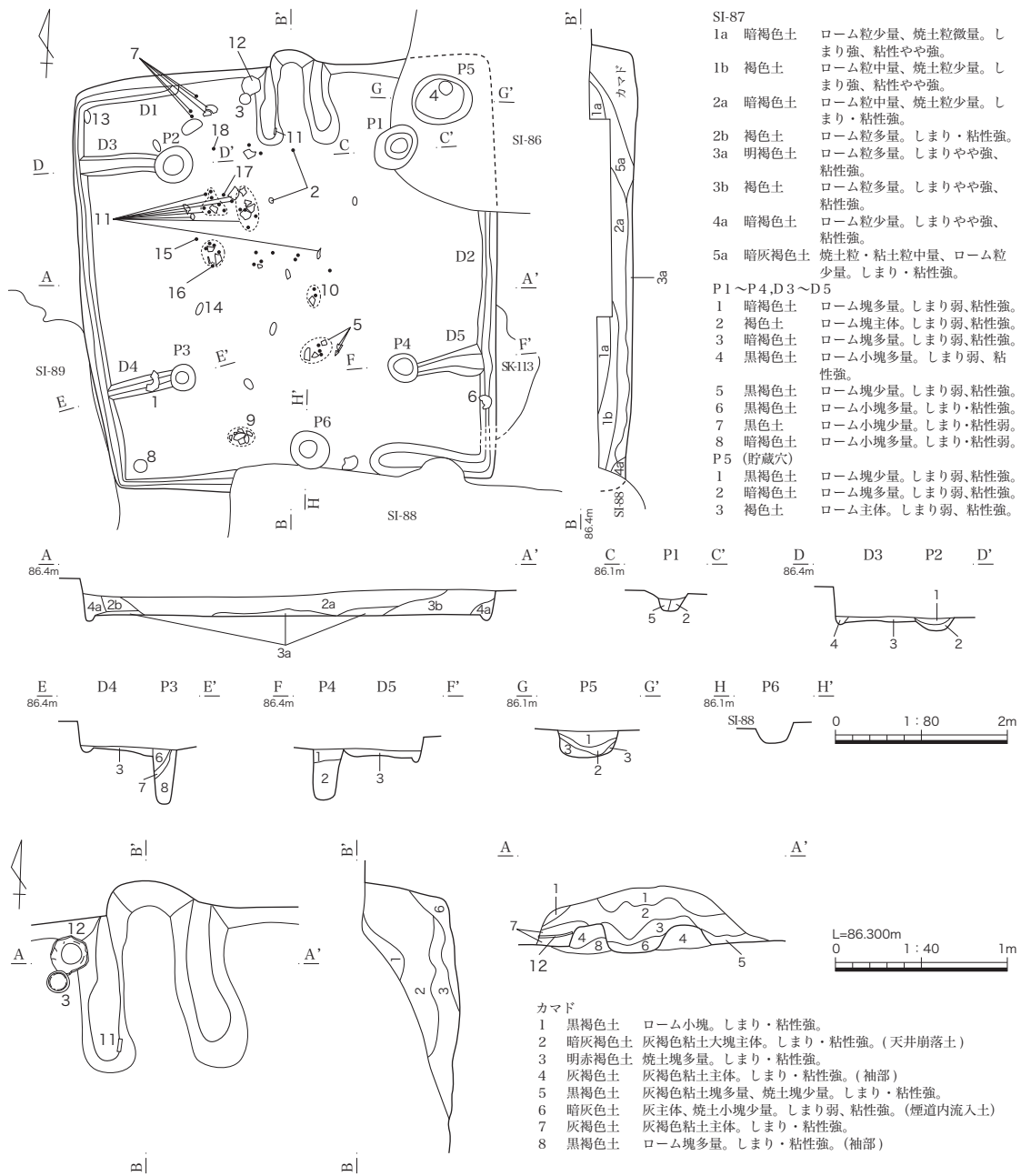
第153図 西刑部西原遺跡3区 SI-86 出土遺物 (2)

3区 SI-87 (遺構：第155図、遺物：第154図、図版二〇・二一・九二)

位置 グリッド 86.0-51.5・85.5-52.0・86.0-52.0 重複遺構 奈良時代の建物跡 SI-86・88 より古い。平面形 やや不整な正方形 規模 東西 4.79×南北 4.95 m 主軸方向 N -6.5° -W 覆土 自然堆積 壁 壁高 30～56 cm 床 概ね平坦で、ローム面を床面とする。柱穴 P1 (径 58～45 cm、深さ 13 cm)、P2 (径 44～40 cm、深さ 15 cm)、P3 (径 31 cm、深さ 63 cm)、P4 (径 40～32 cm、深さ 58 cm) は支柱穴か。入口ピット P6 (径 46～43 cm、深さ 22 cm) は南壁際中央部にある。貯蔵穴 P5 (長軸 70×短軸 57 cm、深さ 31 cm) は楕円形。壁溝 D1 (幅 11～26 cm、深さ 9 cm)、D2 (幅 17～39 cm、深さ 8 cm) を壁際に確認。間仕切り溝 D3 (幅 21～22 cm、深さ 9 cm)、D4 (幅 16～20 cm、深さ 9 cm)、D5 (幅 14～36 cm、深さ 8 cm)。カマド 北壁際中央部の壁際を半円形に掘り込む。袖部及び天井部は灰褐色粘土で構築。遺物 覆土上層からの出土が多い。掲載遺物は床面付近の遺物が多く、須恵器甕、土師器杯・手捏ね土器・甕・甌、この他編物石、白玉がある。1の須恵器甕は波状文の振幅が非常に小さい。15～18の石製模造品は粘板岩製で、側面の研磨は粗雑。不掲載の土器類は小コンテナ箱 4/5 ほど、礫の重量は 2.3 kg。遺物から古墳時代後期後葉の建物跡と考えられる。



第154図 西刑部西原遺跡3区 SI-87 出土遺物



第155図 西刑部西原遺跡3区 SI-87 実測図

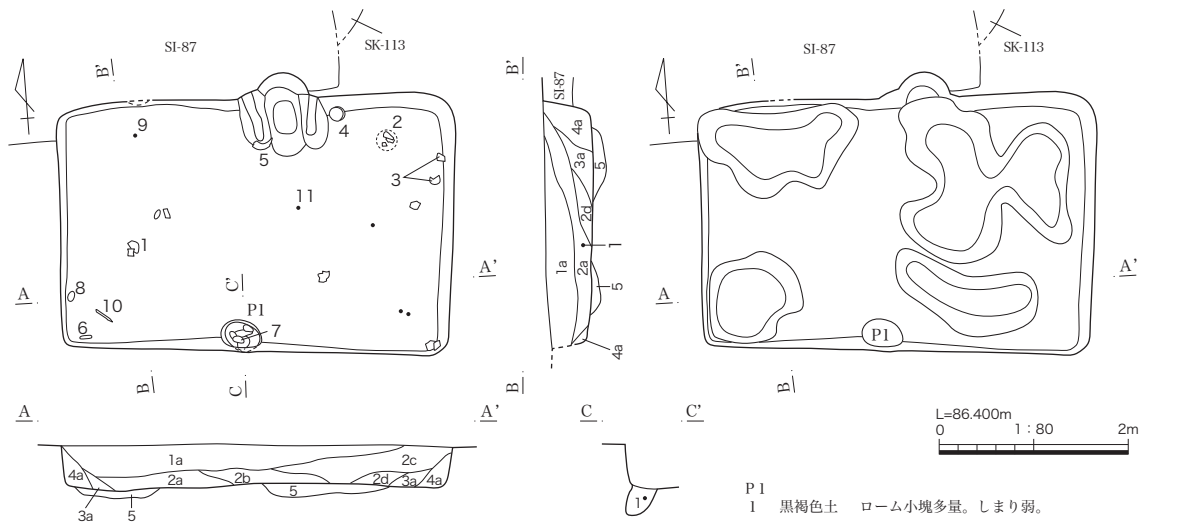
第58表 3区 SI-87 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 甕	口 (17.0) 高 [9.4]	口縁部内外面口コナデ。胴部内面同心円あて具痕。頸部外面波状文。胴部外面平行叩きのちカキ目。	内：7.5Y6/1 灰 外：7.5Y4/1 灰	やや緻密、白粗砂～礫 焼成：硬質	No.17 33.2	口縁部 1/2
2	土師器 手捏ね 土器	口 6.4 底 4.1 高 4.6	口縁部外面～体部外面弱い指ナデ。口縁部内面～体部内面強い指ナデによる明瞭な整形痕。底部外面ナデあるいは繊維の圧痕か。	内：7.5YR6/6 橙 外：10YR7/6 明黄褐	粗い、白・透明・黒細砂～粗砂 焼成：やや軟質	No.9・28 床直 (No.9)	ほぼ完存 (口縁部一部欠損)
3	土師器 坏	口 13.8 高 4.9	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリのちヘラナデ。漆仕上げ。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：10YR6/4 にぶい黄橙	やや粗い、白・透明・灰細砂～礫、赤粒 焼成：硬質	No.43 1.8	完存
4	土師器 坏	口 13.7 高 4.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヨコヘラケズリ。体部内面斜め放射状のヘラミガキ。内外面漆仕上げあるいは黒色処理か。	内：2.5Y2/1 黒 外：2.5Y3/1 黒褐	やや粗い、灰・白粗砂～礫 焼成：硬質	No.45 2.1	完存
5	土師器 甕	口 (28.0) 高 [14.6]	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部内面ヨコヘラミガキ。胴部内面ヘラナデのちタテヘラミガキ。胴部外面タテヘラケズリ。	内：2.5Y8/4 淡黄 外：10YR6/4 にぶい黄橙	緻密、白細砂 焼成：硬質	No.26・32 2.0	口縁部 1/4
6	土師器 坏	口 (13.0) 高 4.6	口縁部外面密なヘラミガキ。体部外面ヘラケズリのち下半部光沢を帯びたヘラケズリ。口縁部～体部内面ヨコナデのち細かな放射状ヘラミガキ。内外面漆仕上げ。	内：2.5Y3/1 黒褐 外：2.5Y2/1 黒	緻密、白・灰細砂～礫 焼成：硬質	No.22 3.1	ほぼ完存
7	土師器 坏	口 (14.1) 高 4.1	口縁部外面密なヘラミガキ。体部外面ヘラケズリのち上半部のみヘラミガキか。口縁部内面ヨコナデ。体部内面疎らな放射状のヘラミガキ。内外面漆仕上げ。	内外面とも 7.5YR7/4 にぶい橙	やや緻密、白・黒・灰細砂、白・黒砂、黒雲母か、赤粒 焼成：やや硬質	No.24・25・44 床直 (No.44)	口縁部～体部 2/5
8	土師器 坏	口 13.4 高 4.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面斜め放射状のヘラミガキ。体部外面ヘラケズリ。漆仕上げ。口縁部端部の剥落顕著。使用によるものか。	内：7.5YR7/6 橙 外：10YR5/3 にぶい黄褐	やや緻密、白細砂、白粗砂、白・灰礫 焼成：やや硬質	No.18 2.9	完存
9	土師器 坏	口 15.0 高 4.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデのち放射状のヘラミガキ。体部外面ヘラケズリのちヘラナデ又はヘラミガキ。内外面漆仕上げ。	内：2.5Y2/1 黒 外：10YR4/3 にぶい黄橙	やや緻密、灰・白細砂～粗砂、灰礫 焼成：硬質	No.19 床直	口縁部 3/4、底部 5/6
10	土師器 坏	口 (15.8) 高 [4.3]	口縁部外面ヨコナデのちヘラミガキ。体部外面ヘラナデか。口縁部～体部内面ヘラミガキのち黒色処理。	内：N2/0 黒 外：10YR7/6 明黄褐	やや緻密、灰・黒・白細砂、白砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.10・31 床直 (No.10)	口縁部 1/6
11	土師器 甕	口 17.5 底 8.6 高 22.5	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラケズリのちヘラナデ。胴部外面下端ナメあるいはヨコヘラケズリ。底部外面ヘラケズリのちナデ。胴部外面下半部は被熱による赤化や剥落がみられる。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：7.5YR6/6 橙	やや粗い、白・灰・黒・透明粗砂～礫 焼成：やや軟質	No.4・5・6・7・8・29・46、 覆土 床直 (No.7.8)	口縁部 3/4、底部 1/7
12	土師器 甕	口 19.0 高 [8.5]	球胴甕。口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラあるいはハケによるナデか。器面に明褐色の彩色あり。器台として転用された可能性あり。	内：5YR5/6 明赤褐 外：5YR5/8 明赤褐	やや緻密、白・黒・透明・灰細砂～粗砂 焼成：硬質	No.42 2.8	口縁部 1/4
13	石器 編物石	長 14.7 幅 5.9 厚 5.2 重 669.0	未加工の自然礫。平面形：楕円形 断面形：不整な楕円形	10YR7/6 明黄褐	—	No.2 床直	ほぼ完存
14	石器 編物石	長 15.1 幅 6.6 厚 5.2 重 782.0	未加工の自然礫。部分的に黒色味を帯びる。ススカ。平面形：楕円形 断面形：楕円形	10YR5/2 灰黄褐	—	No.15 24.6	完存
15	石製模造品 白玉	径 1.2 厚 0.4 重 1.0	上面は穿孔際の剥離あり。側面は切削痕あり。疎らで雑な研磨。下面は大きく剥離。孔 0.28～0.3mm。	10Y4/1 灰	粘板岩	No.13 床直	ほぼ完存
16	石製模造品 白玉	径 1.2 厚 0.4 重 0.5	上面は剥離面。側面は切削痕あり。粗い研磨。下面は一部に原礫面を残す。穿孔際の剥離あり。孔 0.28～0.35mm。	10Y4/1 灰	粘板岩	No.41 3.9	ほぼ完存
17	石製模造品 白玉	径 1.1 厚 0.5 重 0.7	上面は大きく剥離するが、一部平滑、研磨したものか。側面は切削痕および剥離面を残す。研磨は粗いが2段に及ぶ。下面は原礫面を残す。孔 0.26～0.27mm。	10Y4/1 灰	粘板岩	No.12 床直	ほぼ完存
18	石製模造品 白玉	径 1.2 厚 0.4 重 0.7	上面は大きく剥離するが、一部平滑、研磨したものか。側面は粗い疎らな研磨を施す。下面は原礫面または剥離面か。孔 0.27～0.29mm。	N4/0 灰	粘板岩	No.11 床直	ほぼ完存

3区 SI-88 (遺構：第156図、遺物：第157・158図、図版二〇・二一・九二・九三・一一二)

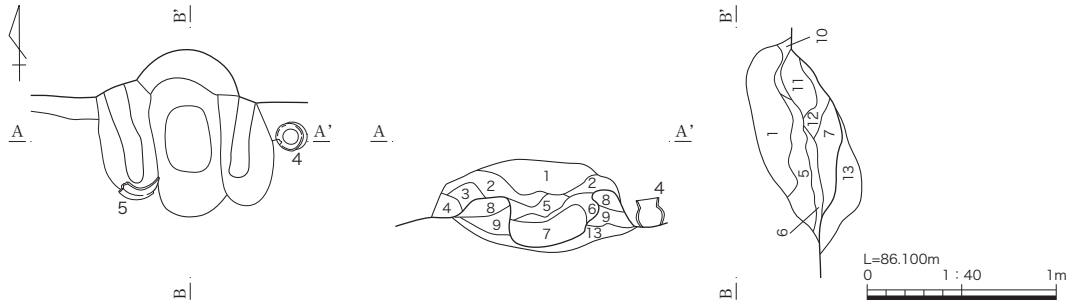
位置 グリッド 85.5-52.0 重複遺構 古墳時代後期の建物跡 SI-87 より新しい。 平面形 隅丸長方形 規模 東西 4.11×南北 2.95 m 主軸方向 N -4° - E 覆土 自然堆積 壁 壁高 36～46 cm 床 部分的に貼床あり。 柱穴 確認できなかった。 入口ピット P1 (径 43～31 cm、深さ 31 cm) は南壁際中央部にある。 貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。 掘方 中央部は平坦だが、周囲を不整な土坑状に掘り込む。

カマド 北壁中央部を半円形に掘る。燃焼部には焼土・灰が残る。袖左側から小型甕 (4) が出土した。 遺物 計 11 点を図示した。9 は用途不明の鉄製品。先端は片刃箭状で一眼鉄鏃に似るが、篋被がなく、基部を環状に加工している点が大きく異なる。11 は結晶片岩製の紡錘車。雲母片を含み橙色に近い色調を呈する。 不掲載の土器類は小コンテナ 1.3 箱分。礫の重量は 1.2 kg。遺物から奈良時代後葉の建物跡と考えられる。



SI-88

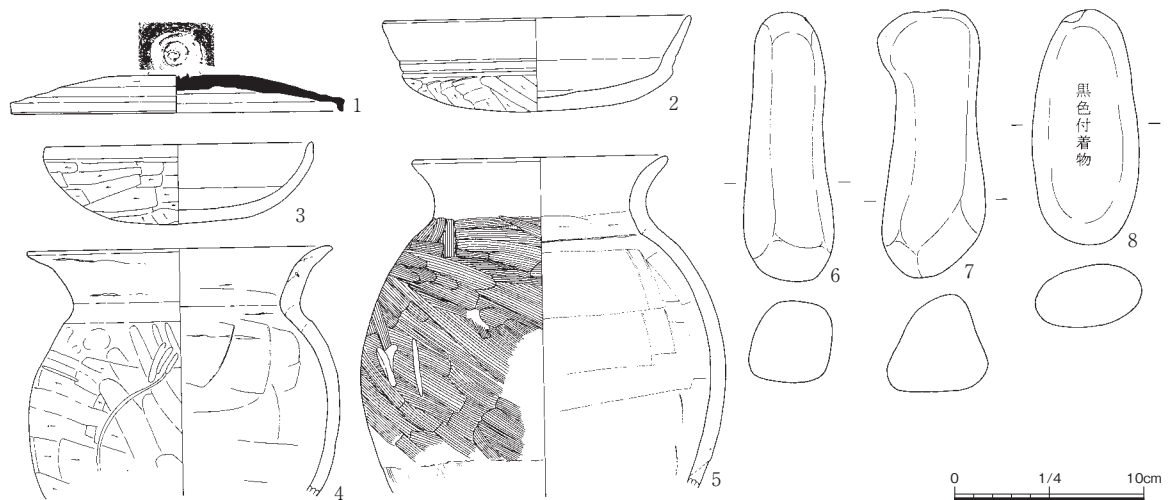
- | | | | | | |
|---------|--------------------|---------|--------------------|---------|----------------------|
| 1a 褐色土 | ローム粒中量。しまり・粘性やや強。 | 2c 暗褐色土 | ローム粒中量。しまりやや強、粘性強。 | 4a 暗褐色土 | ローム粒中量。しまりやや強、粘性強。 |
| 2a 暗褐色土 | ローム粒少量。しまりやや強、粘性強。 | 2d 黒褐色土 | ローム粒少量。しまり・粘性強。 | 5 暗褐色土 | ローム大塊多量。しまり・粘性強。(貼床) |
| 2b 褐色土 | ローム粒中量。しまりやや強、粘性強。 | 3a 褐色土 | ローム粒中量。しまり・粘性強。 | | |



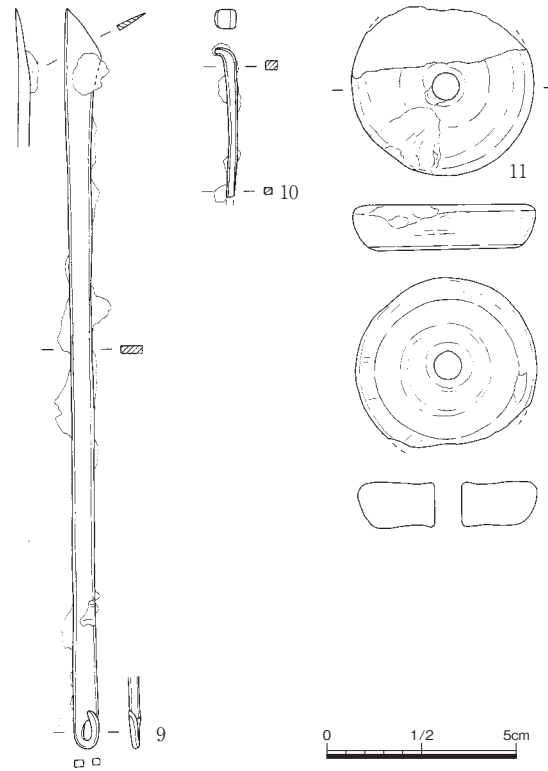
カマド

- | | | | |
|---------|---------------------------------|---------|-----------------------|
| 1 黒褐色土 | ローム小塊少量、焼土小塊微量。しまり・粘性強。 | 8 暗灰色粘土 | しまり・粘性強。(袖部) |
| 2 暗褐色土 | ローム小塊・焼土小塊多量。しまり・粘性強。 | 9 暗灰色粘土 | 焼土少量。しまり・粘性強。(袖部) |
| 3 暗灰褐色土 | 焼土小塊・灰褐色粘土塊多量。しまり・粘性強。 | 10 褐色土 | ローム小塊多量、焼土小塊少量。しまり強。 |
| 4 暗褐色土 | ローム小塊多量。しまり・粘性強。 | 11 黒褐色土 | ローム小塊・焼土小塊少量。しまり強。 |
| 5 灰褐色土 | 灰褐色粘土塊多量、焼土小塊微量。しまり・粘性強。(天井崩落土) | 12 暗褐色土 | ローム小塊・焼土小塊多量。しまり弱。 |
| 6 赤褐色土 | 焼土塊多量。しまり・粘性強。 | 13 黒褐色土 | ローム塊多量。しまり強、粘性あり。(貼床) |
| 7 暗灰色土 | ローム小塊・焼土塊多量、灰混入。しまり弱、粘性強。 | | |

第156図 西刑部西原遺跡3区 SI-88 実測図



第157図 西刑部西原遺跡3区 SI-88 出土遺物 (1)



第158図 西刑部西原遺跡3区 SI-88 出土遺物 (2)

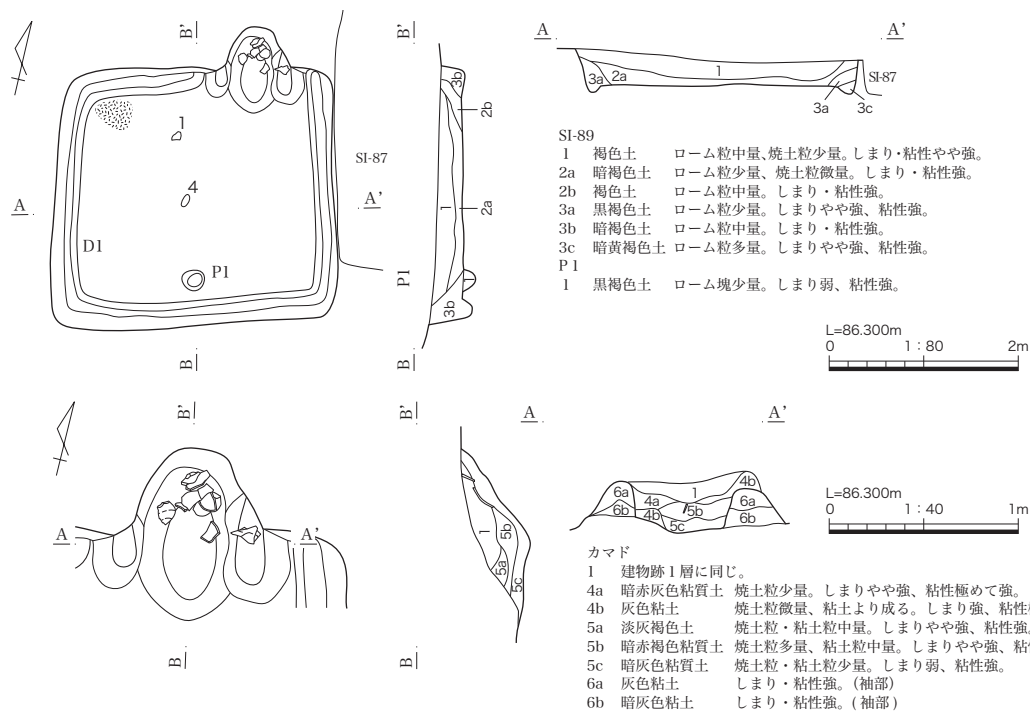
第59表 3区 SI-88 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器蓋	口 17.2 底 [2.0]	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリ。ツマミ部に螺旋状の深い接合沈線あり。混入品。	内：7.5Y5/1 灰 外：7.5Y6/1 灰	やや緻密、白・灰細砂、白・灰・黒砂 焼成：やや硬質	No.15 4.8	天井部 1/4
2	土師器坏	口 (16.0) 高 4.8	口縁部外面～内部内面ヨコナデ。底部内面ナデか。体部～底部外面ヘラケズリ。漆仕上げ。	内：5YR5/8 明赤褐 外：5YR6/6 橙	やや緻密、灰・黒細砂・赤粒 焼成：やや硬質	No.4 1.7	口縁部 1/2、底部 完存
3	土師器坏	口 (13.8) 高 4.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内：10YR8/4 浅黄橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	緻密、白粗砂 焼成：やや硬質	No.1 0.3	口縁部 3/4、底部 完存
4	土師器甕	口 16.0 高 13.2	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヨコヘラケズリのち上半部ナデ一部ヘラミガキか。胴部外面は被熱し黄褐色を呈する。一部粘土付着。胴部下半内面は赤変し剥落著しい。	内：5YR5/8 明赤褐 外：5YR6/6 橙	やや粗い、白・透明細砂～粗砂、白礫 焼成：やや硬質	No.5 床直	胴上半部 完存
5	土師器甕	口 (13.4) 高 [16.7]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面上半部ナメハケ目、下半部タテハケ目。胴部外面中位には黒斑。部分的に被熱した粘土付着。頸部断面ヨコヘラケズリ。	内外面とも 10YR7/6 明黄褐	やや粗い、白・灰粗砂～礫、赤粒 焼成：やや硬質	No.22、カマド 0.2	口縁部 1/16、胴部 1/2
6	石器編物石	長 14.2 幅 4.4 厚 4.4 重 434.0	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸正方形	2.5Y7/2 灰黄	—	No.119.4	完存
7	石器編物石	長 13.8 幅 5.2 厚 5.0 重 460.9	未加工の自然礫。 平面形：不整形 断面形：隅丸三角形	10YR6/6 明黄褐	—	No.18 17.8	完存
8	石器編物石	長 12.3 幅 5.6 厚 3.3 重 323.2	未加工の自然礫。全面に黒色付着物あり。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	10YR6/2 灰黄褐	—	No.17 床直	完存
9	不明鉄製品	長 19.6 幅 1.0 厚 3.1 重 16.4	完形品。先端部は片刃箭状で、刃部の断面は平造り。頸部は非常に長く直線的で、断面形は幅 6.0mm厚さ 2.5mmほどの長方形。基部は一端を細く加工したのち丸めている。紐などを通したのか。	—	鉄製	No.10 2.6	完存
10	鉄製品釘	長 4.0 幅 0.5 重 [1.6]	頂部をL字に折り曲げ、5mm四方の平坦面を作り出している。断面形は上部は長方形、下部は正方形。	—	鉄製	No.6 床直	端部欠損

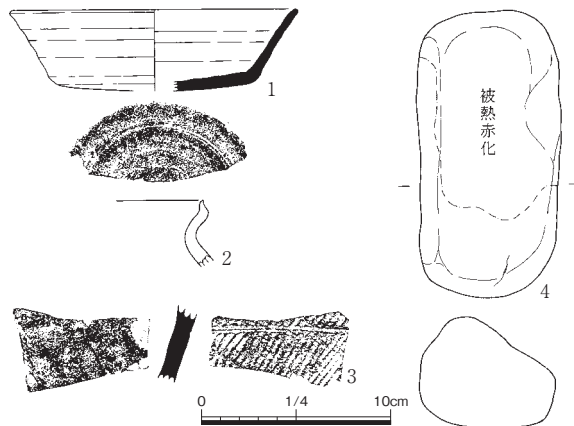
11	石製品 紡錘車	径 4.7 厚 1.2 孔 0.72~0.71 重 [38.5]	器面は磨滅風化が進む。鉄分付着のため研磨痕など不 明瞭。上面、下面ともに孔の周囲が浅くリング状に凹む。 上面に破損部を再度研磨し修復した痕跡あり。 平面形：円形、断面形：丸みを帯びた台形	内外面とも 10YR6/6 明 黄褐	結晶片岩	No.12 4.2	4/5 部欠
----	------------	---	--	-----------------------	------	--------------	--------

3区 SI-89 (遺構：第159図、遺物：第160図、図版二一・二二)

位置 グリッド 85.5-51.5・85.5-52.0・86.0-51.5 重複遺構 無し。 平面形 不整な隅丸方形 規模 東西 2.9×南北 3.10 m 主軸方向 N -12° -W 覆土 自然堆積 壁 壁高は 21~40 cm残る。 床 ロー
ム地山を床面とし、概ね平坦。 柱穴 確認できなかった。 入口ピット P1 (径 23 cm、深さ 15 cm) 貯
蔵穴 確認できなかった。 壁溝 D1 (幅 20~30 cm、深さ 11 cm) カマド 北壁際東寄りに位置。 遺
物 殆どが小破片が主体。1は床面直上出土の須恵器杯である。不掲載の土器類は小コンテナ箱 1/3 弱ほど
出土した。遺物から奈良時代前葉 (8世紀前葉) の建物跡と考えられる。



第159図 西刑部西原遺跡3区 SI-89 実測図



第160図 西刑部西原遺跡3区 SI-89 出土遺物

第60表 3区 SI-89 出土遺物観察表

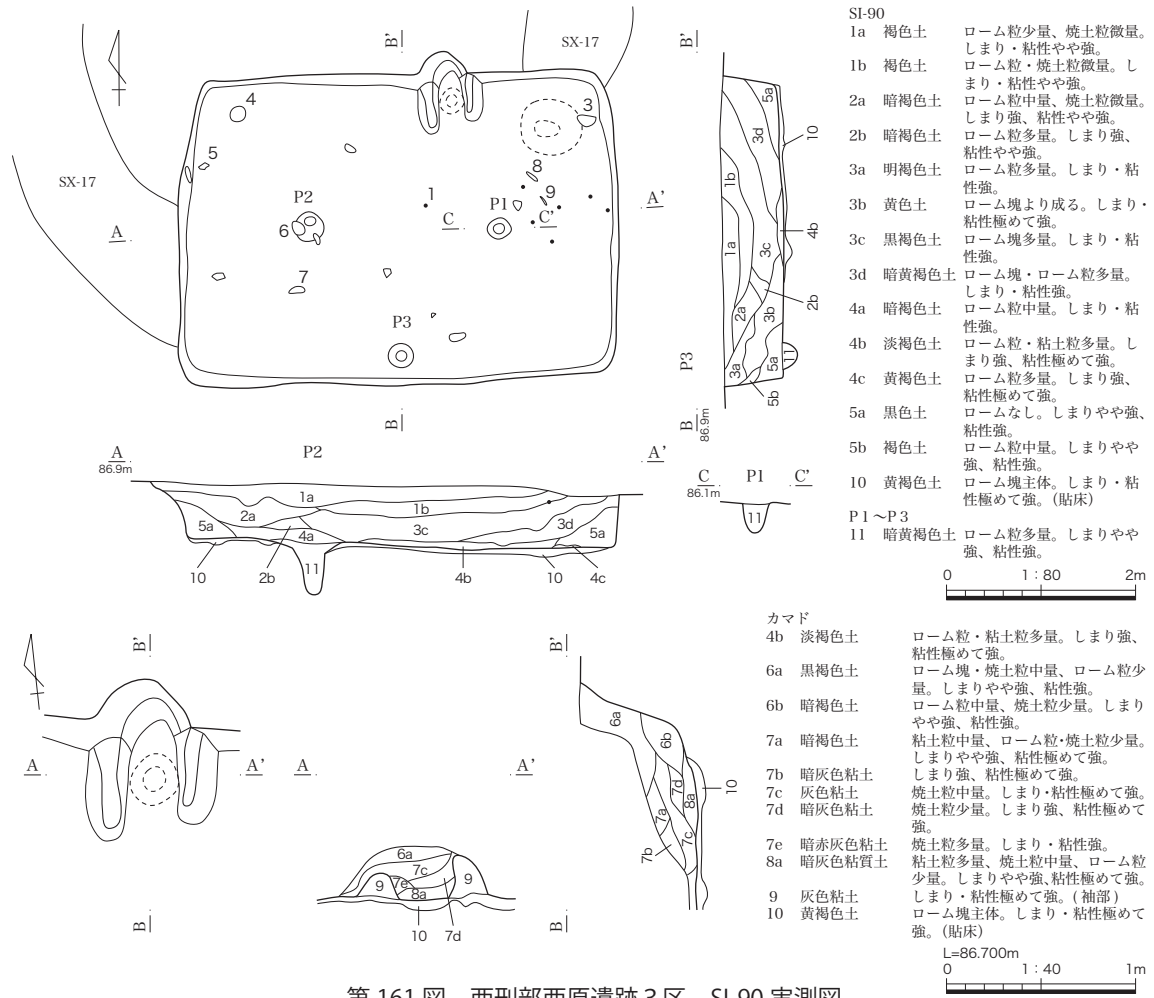
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 坏	口底高 [14.8] 10.2 [4.3]	内外面口ロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。	内：10YR5/1 褐灰 外：10YR5/2 灰黄褐	やや緻密、白・灰・黒細砂、白・黒砂、白礫 焼成：硬質	No.1 床直	口縁部 1/8、底部 2/5
2	土師器 甕	高 [2.4]	常総型甕の口縁部破片。口縁部内外面ヨコナデ。口縁部端部をつまみ上げている。	内：7.5YR6/6 橙 外：7.5YR6/4 にぶい黄橙	やや粗い、白・灰砂、白・灰・透明細砂、雲母片 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 1/12
3	須恵器 甕	高厚 [4.2] 1.2	内面無文あて具痕のちナデ。外面擬格子叩きのち横位沈線。	内：5Y5/1 灰 外：5Y6/1 灰	やや緻密、灰・黒細砂、白・灰砂、白粒 焼成：やや硬質	覆土中	胴部破片
4	石器 編物石 か	長幅厚重 15.0 7.1 5.6 974.0	未加工の自然礫。上半部は僅かに赤化、被熱したものが。平面形：隅丸長方形 断面形：不整な隅丸方形	2.5Y6/3 にぶい黄	—	No.2 17.1	完存

3区 SI-90 (遺構：第161図、遺物：第162図、図版二二・一一五)

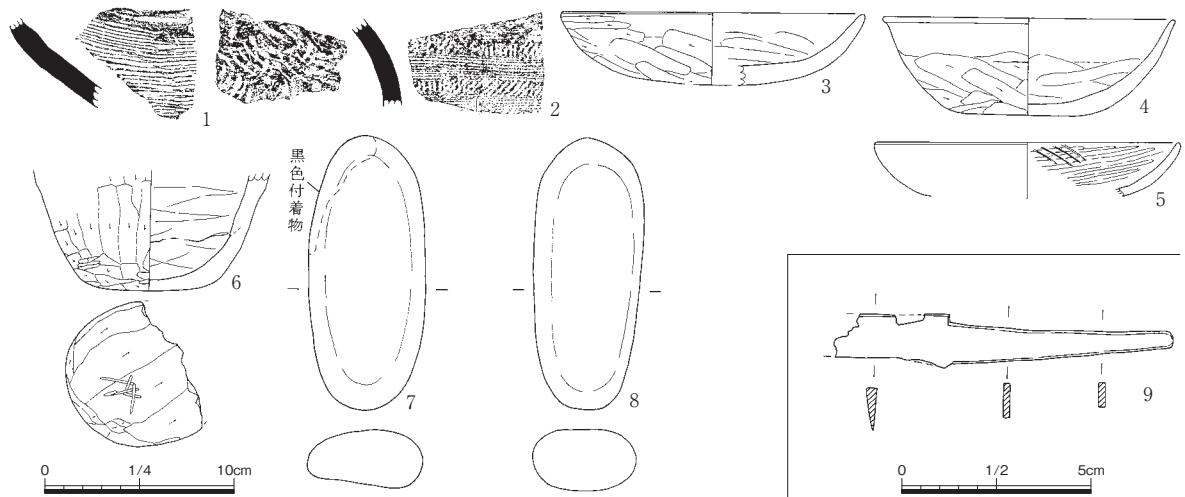
位置 グリッド 89.0-50.5・89.5-50.5・89.0-51.0・89.5-51.0 重複遺構 古墳時代終末期の円形周溝遺構 SX-17 より新しい。平面形 東西軸の長方形 規模 東西 4.58×南北 3.51 m 主軸方向 N -2.5° - E 覆土 自然堆積 壁 壁高は 56～63 cm 残る。床 全面的に薄い貼床があるが、概ね平坦。柱穴 P1 (径 25 cm、深さ 32 cm)、P2 (径 30 cm、深さ 48 cm) があるが柱痕は未確認。入口ピット P3 (径 26 cm、深さ 14 cm) は南壁際中央部にある。貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 北東隅に若干の掘り込みがあるが概ね平坦。ローム塊主体の 10 層で埋戻す。カマド 北壁中央部やや東寄りに位置し、壁面を半円形に掘り込む。構築材は灰色粘土を主体とする。遺物 中央部の 1～2 層中から礫と共に出土。須恵器甕(1・2)、土師器坏(3～5)・甕(6)、石器は編物石(7・8)、鉄製品は刀子(9)が出土している。4の土師器坏は平底化が進むが、完全ではない。6は底部外面には焼成前のヘラ描きが見られる。一見刻書とも思えるが判読できない。このうち床面付近の遺物は 3・6 である。不掲載の土器類は小コンテナ約 1/2 箱、礫の重量は 1.6 kg である。坏類の特徴から古墳時代終末期(7世紀後半)の建物跡と考えられる。

第61表 3区 SI-90 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 甕	厚 1.0	内面剥落顕著なため調整不明。外面平行叩き。	内外面とも 2.5Y5/1 黄灰	やや緻密、白・黒細砂、白・黒砂、白雲母 焼成：やや硬質	No.13 86.0	胴部破片
2	須恵器 甕	厚 1.0	外面擬格子叩きのちカキ目。内面同心円あて具痕。外面オリブ色の自然釉付着。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：2.5Y7/1 灰白	やや緻密、灰・白・黒細砂、灰・白砂、白礫 焼成：やや硬質	覆土中	胴部破片
3	土師器 坏	口高 [16.0] 3.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデのちナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。	内：7.5Y7/6 橙 外：7.5YR8/3 浅黄橙	やや緻密、白・灰細砂～粗砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.1 3.2	口縁部～底部 1/2
4	土師器 坏	口高 15.4 5.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。口縁部～体部外面上半漆仕上げ。底部外面多方向ヘラケズリ。極めて平坦に近いが僅かに丸みを帯びる。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：7.5YR8/6 浅黄橙	やや緻密、灰細砂～粗砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.11 12.2	口縁部一部 欠損
5	土師器 坏	口高 [15.8] [2.8]	外面磨滅のため調整不明。内面ヘラミガキ。赤色盤状坏。	内：5YR6/8 橙 外：7.5YR6/8 橙	やや緻密、黒・白細砂、黒・透明砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.3 33.9	口縁部 1/6
6	土師器 甕	底高 7.0 [6.7]	胴部外面タテヘラケズリ。底部外面一方向ヘラケズリ。底部外面ヘラ記号または刻書か(文字不明)。	内外面とも 5YR4/8 赤褐	やや緻密、灰・白・黒砂、白細砂、白粒 焼成：やや硬質	No.5 1.3	底部 3/4、 胴部一部
7	石器 編物石	長幅厚重 14.3 6.0 3.0 458.7	未加工の自然礫。平面形：楕円形 断面形：歪んだ楕円形	7.5Y6/1 灰	—	No.7 22.3	完存
8	石器 編物石	長幅厚重 14.2 5.5 3.2 408.3	未加工の自然礫。平面形：楕円形 断面形：楕円形	10YR7/4 にぶい黄橙	—	No.20 6.3	完存
9	鉄製品 刀子	長幅厚重 [9.0] 1.5 8.1	両側の刀子。刃部側の間は鈍角で緩やか。刃部は平造りで砥ぎ減りしたものが。棟は角棟で、幅は 2.5 mm。茎の断面形は長方形。	—	鉄製	No.23 24.6	刃部先端部 欠損



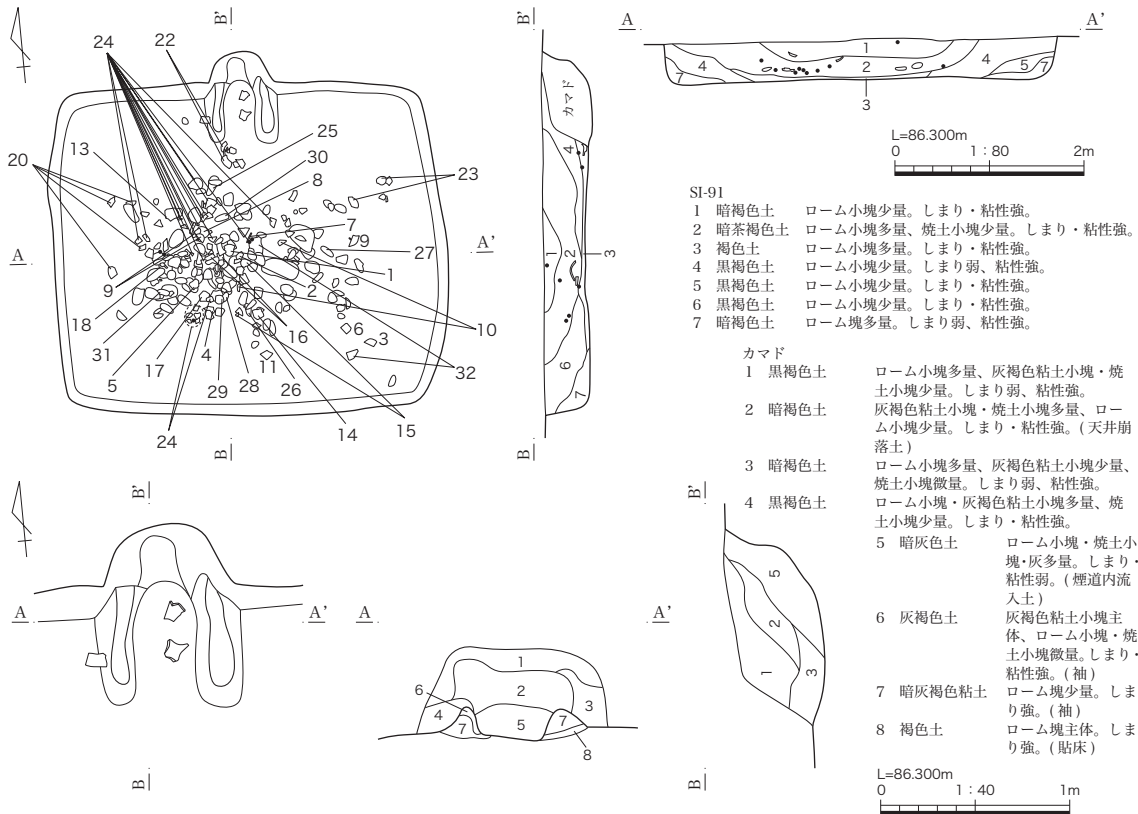
第 161 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-90 実測図



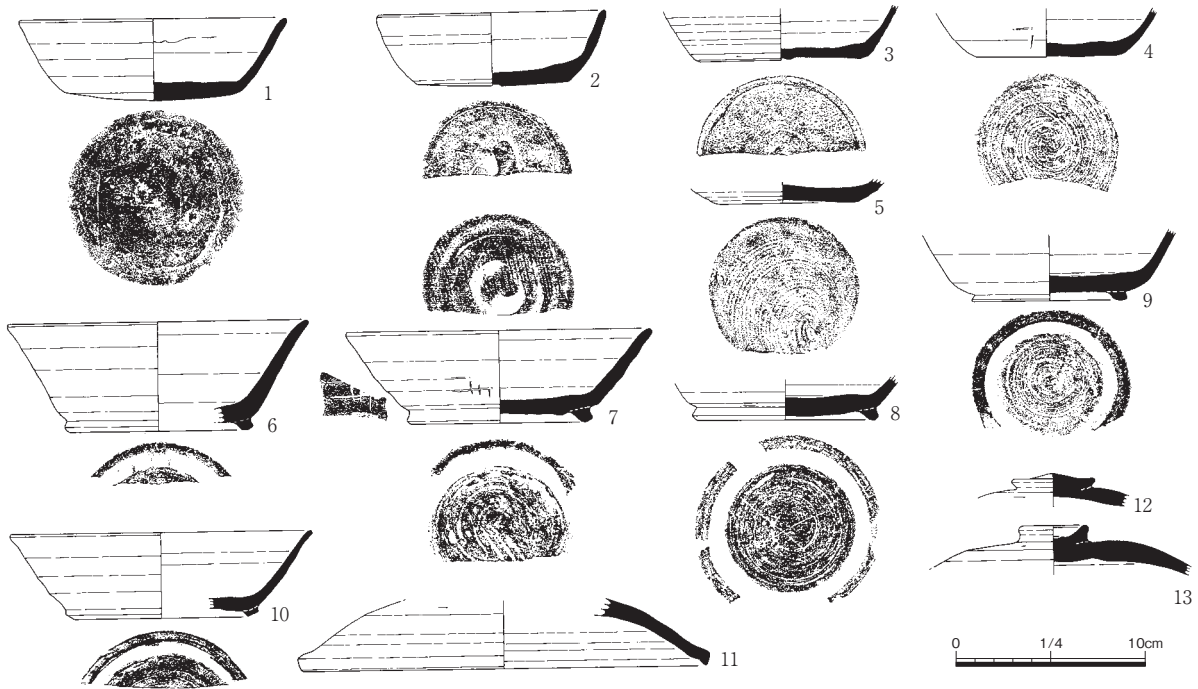
第 162 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-90 出土遺物

3区 SI-91 (遺構：第163図、遺物：第164～66図、図版二二・九三・九四)

位置 グリッド 87.0-50.0・87.5-50.0 重複遺構 無し。平面形 やや東辺が弧状に張り出す隅丸長方形
 規模 東西 4.11×南北 3.87 m 主軸方向 N-4° - E 覆土 自然堆積 壁 壁高は 43～47 cm残る。
 床 ローム地山を床面とする。若干の凹凸残るが概ね平坦である。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝
 確認できなかった。カマド 北壁中央部を隅丸の台形状に掘り込む。煙道は垂直に立ち上がったのち緩やかに立つ。燃焼部から煙道にかけ多量の焼土が堆積している。構築材は灰褐色粘土を使用。遺物 平面的
 には中央部に集中し、層位は2層中からの出土量が多い。計32点を図示した。図示した遺物は須恵器は坏
 (1～5)・高台付坏(6～10)・蓋(11～13)・甕(14)・瓶類(15・19)・大型鉢(16)・甕(17・18・
 32)、土師器類は坏(20・21)・甕(22～24)、石器は編物石(25～30)、被熱礫(31)などがある。この
 うち体部外面にヘラ記号をもつ須恵器坏類は4・7がある。7の体部下端の梯子状のヘラ記号はSI-2出土の
 石製紡錘車側面の線刻に類似するものか。8の底部外面には「×」字状のヘラ描きが見られる。14は平底の甕。
 口縁部を欠損するがその他はほぼ完存。また、肩部及び口縁部に褐色の付着物が見られる。16は体部外面の
 下端部に赤色付着物あり。18は頸部接合部の剥離面に研磨痕がある。砥石に転用されたものか。不掲載の土
 器類は小コンテナ約1箱、礫の重量は6kg。坏類の特徴から奈良時代前葉期(8世紀前葉)の建物跡と考え
 られる。



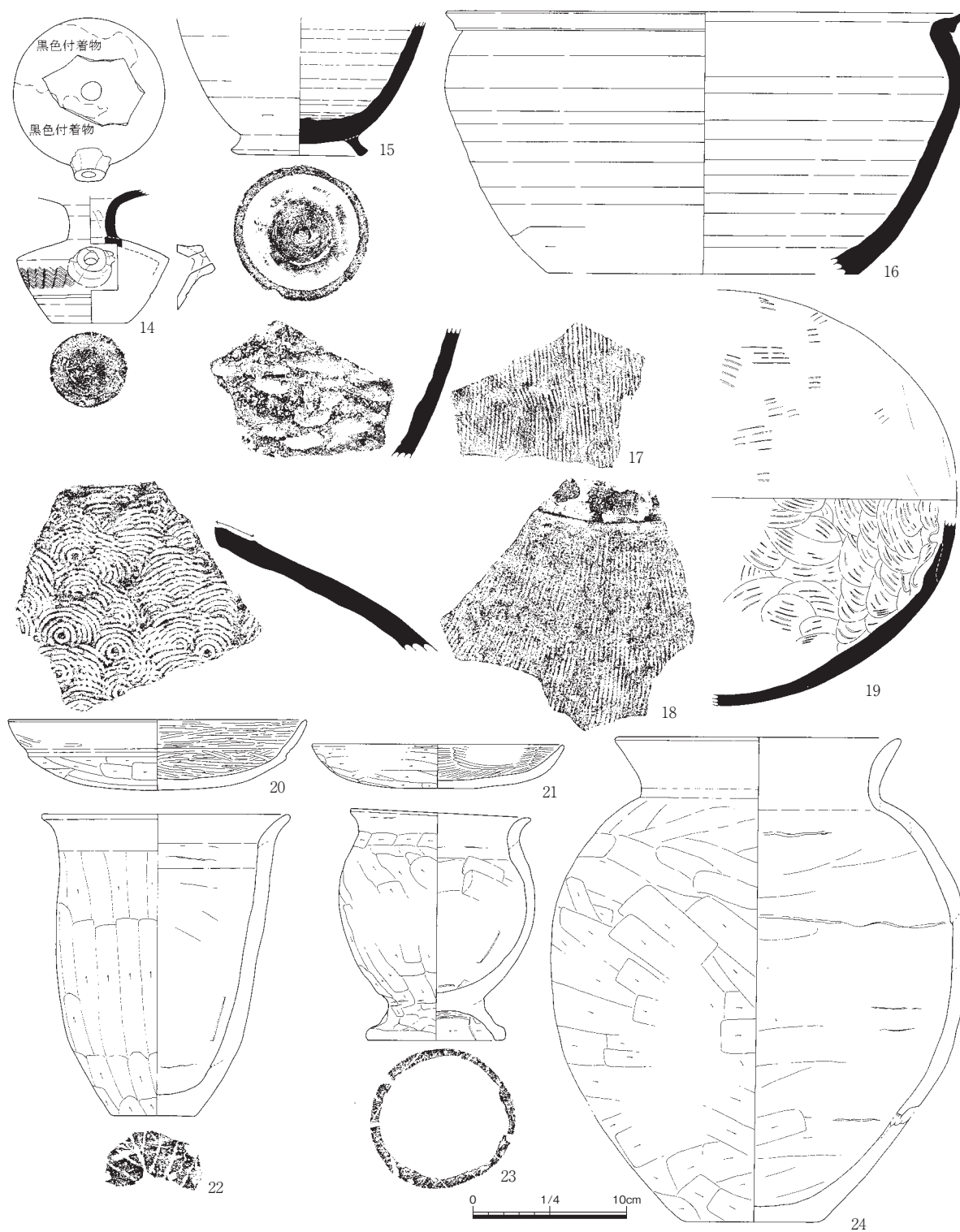
第163図 西刑部西原遺跡3区 SI-91 実測図



第164図 西刑部西原遺跡3区 SI-91 出土遺物 (1)

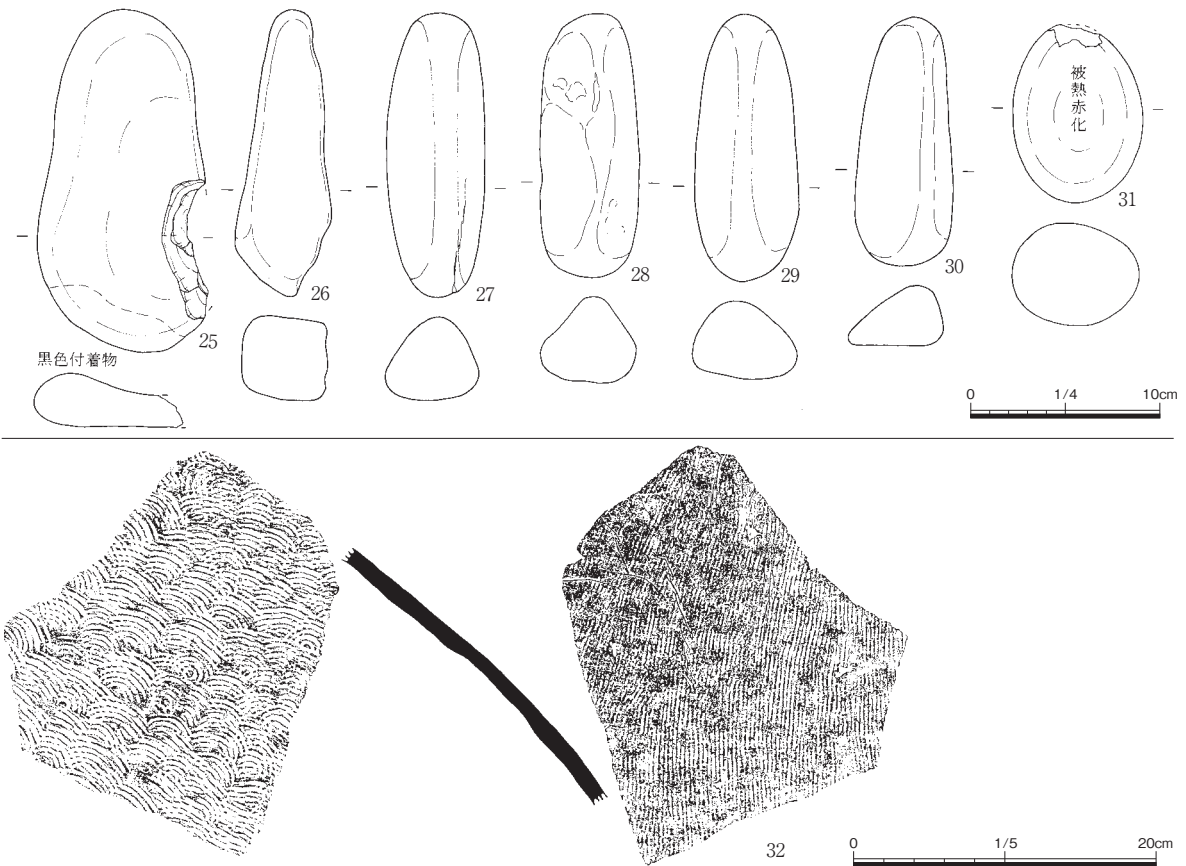
第62表 3区 SI-91 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 坏	口 (13.8) 底 9.0 高 4.3	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。口縁部～体部外面の一部タール状の付着物あり。底部内面は摩耗し、スペースベシしている。灯明具としたものか。	内：2.5Y5/1 黄灰 外：2.5Y6/1 黄灰	やや緻密、灰・白・黒細砂、黒・白砂 焼成：やや硬質	No.122 21.4	口縁部 1/4、底部 完存
2	須恵器 坏	口 (11.8) 底 8.0 高 3.8	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。	内：5Y7/1 灰白 外：5Y6/1 灰	やや緻密、白・透明・黒粗砂～礫 焼成：硬質	No.196 9.3	口縁部 1/3、底部 1/2
3	須恵器 坏	底 [9.0] 高 (3.2)	内外面ロクロナデ。体部下端部回転ヘラケズリ。底部外面回転ヘラ切りのち回転ヘラケズリ。端部(外周)に稜あり。歪み著しい。底部外面～体部にかけて降灰。	内：5Y6/1 灰 外：5Y5/1 灰	やや緻密、白・黒・灰細砂、白・灰・黒砂 焼成：やや硬質	No.9 30.9	体部下半部 1/3
4	須恵器 坏	底 [2.6] 高 7.6	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリ。体部外面ヘラ記号あり。	内外面とも 7.5Y5/1 灰	やや緻密、白・灰・黒砂、白・灰細砂、白礫 焼成：やや硬質	No.62 16.4	底部 3/4
5	須恵器 坏	底 7.8 高 [1.3]	内外面ロクロナデ。底部外面回転糸切りのち外周ヘラケズリか(磨減顕著なため不明瞭)。	内：2.5Y7/4 浅黄 外：2.5Y7/3 浅黄	やや緻密、灰・白・黒砂、灰・白砂、灰礫 焼成：やや硬質	No.21 40.6	底部 4/5
6	須恵器 高台付 坏	口 (15.5) 底 9.4 高 5.8	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。器高が高い。体部に褐色の火禿あり。	内：5Y6/2 灰オリーブ 外：10YR6/4 にぶい黄橙	やや緻密、灰・白・黒砂、白細砂、白礫 焼成：やや硬質	No.7 20.7	口縁部 1/6、底部 1/4
7	須恵器 高台付 坏	口 (15.1) 底 9.0 高 4.9	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。底部内面スノコ状の圧痕あり。体部外面梯子状のヘラ記号あり。	内外面とも 5Y6/2 灰オリーブ	やや緻密、白・灰細砂、白・亜広・灰・黒砂、白礫 焼成：やや硬質	No.125 23.7	底部 1/4
8	須恵器 高台付 坏	底 9.6 高 [2.6]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。のち「×」字状のヘラ記号あり。	内外面とも 5Y7/1 灰白	やや緻密、灰・黒・白砂、灰・白細砂 焼成：やや硬質	No.115・ 179、北東、 北西 19.3 (No.179)	底部 3/4
9	須恵器 高台付 坏	底 8.0 高 [3.7]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。	内外面とも 5Y6/2 灰オリーブ	やや緻密、白・灰・黒細砂、灰・白砂、白礫 焼成：やや硬質	No.113・ 133 27.6 (No.133)	底部完存
10	須恵器 高台付 坏	口 (14.2) 底 (9.2) 高 4.5	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。高台は内面が接地。胎土はキメ細かく焼成良好。	内：10YR5/2 灰黄橙 外：2.5Y5/2 暗灰黄	緻密、灰・白・黒細砂、白粒 焼成：やや硬質	No.137・ 146 20.6 (No.146)	口縁部 1/6、底部 1/3
11	須恵器 蓋	口 (22.6) 高 [3.1]	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリ。	内外面とも 5Y6/2 灰オリーブ	やや緻密、灰・黒・白細砂、灰・白・黒砂、灰礫 焼成：やや硬質	No.140 33.3	口縁部～体部 1/12
12	須恵器 蓋	高 [1.8] 径 4.5	ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリのちツمام貼付。	内外面とも 5Y7/2 灰白	やや緻密、白・黒細砂、白・灰砂、白礫 焼成：やや硬質	北西	ツمام部ほ ぼ完存
13	須恵器 蓋	高 [2.6] 径 3.8	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリのちツمام貼付。ツمامはリング状。	内：2.5Y7/3 浅黄 外：2.5Y5/1 黄灰	やや緻密、黒・白・透明細砂、黒・灰・白砂 焼成：やや硬質	No.106 27.4	ツمام・天 井部完存、 口縁部欠損



第165図 西刑部西原遺跡3区 SI-91 出土遺物 (2)

第3章 発見された遺構と遺物



第166図 西刑部西原遺跡3区 SI-91 出土遺物 (3)

14	須恵器 甕	径 9.7 底 5.0 高 [8.6]	全面ロクロナデ。体部外面上半は横位沈線による区画内に波状文を施す。体部下半部及び底部外面回転ヘラケズリのちナデ。体部は肩が張り平底。高台は付かない。注ぎ口は肩部の稜線上に穿孔後、粘土紐を貼付し作出する。肩部及び口縁部に褐色付着物(漆か)あり。	内外面とも 2.5Y6/1 黄灰	白・灰細砂、灰砂、白粒 焼成：やや硬質	No.143 6.1	口縁部欠損
15	須恵器 瓶類	底 8.6 高 [9.1]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。胴部外面下端部回転ヘラケズリ。底部を含む外面はほぼ全面に黒色の自然釉付着。一部黄色の降灰あり。	内：5Y5/1 灰 外：5Y4/1 灰	やや緻密、白・灰・黒粗砂～礫 焼成：硬質	No.145・150 3.9 (No.150)	胴部下半部 1/4
16	須恵器 鉢	口 (33.4) 底 (20.2) 高 [17.1]	内外面ロクロナデ。胴部外面下端部回転ヘラケズリ。底部外面回転ヘラケズリ。胴部外面下端部に赤色の付着物(朱か)あり。益子産か。	内外面とも 7.5Y6/1 灰	やや緻密、白・灰細砂、灰・白砂、白・灰礫、赤粒砂 焼成：やや硬質	No.65 15.2	口縁部～体部 1/4、底部一部
17	須恵器 甕	厚 1.2	内面無文あて具痕。外面擬格子叩き。	内：5Y7/2 灰白 外：7.5Y4/1 灰	やや緻密、白・黒砂、白細砂、黒・白礫 焼成：やや硬質	No.63 17.0	胴部破片
18	須恵器 甕	厚 1.4	内面同心円状のあて具痕、外面平行叩き。外面に若干の降灰あり。補強帯の剥離面に研磨痕あり。砥石として再利用したものか。	内：N4/0 灰 外：7.5Y5/1 灰	やや緻密、白・黒細砂、黒・灰・白砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.68 12.4	胴部破片
19	須恵器 横瓶	径 [27.4]	胴部内面同心円あて具痕。胴部外面平行叩きのちナデ。開口部を若干絞ったのち閉塞している。	内：N7/0 灰 外：2.5GY8/1 灰白	やや緻密、白・黒粗砂～礫 焼成：硬質	No.147 13.7	胴部破片
20	土師器 杯	口 18.8 高 4.6	口縁部内外面ヨコナデ。内面ほぼ全面ヘラミガキ。口縁部外面僅かなヘラミガキ。体部～底部外面ヘラケズリ。	内：5YR6/6 橙 外：5YR6/8 橙	やや緻密。黒・灰・白細砂、白・黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.15・16・61・104 14.1 (No.61)	口縁部～体部 2/3
21	土師器 杯	口 (16.2) 高 2.8	口縁部内外面ヨコナデ。内面ヘラナデのちヘラミガキ。体部～底部、外面ヘラケズリ。赤色盤状杯。	内外面とも 2.5YR5/8 明赤褐	やや緻密、白・黒細砂、白・黒砂、赤細粒 焼成：やや硬質	北東	口縁部一部、体部～底部 2/5
22	土師器 甕	口 15.9 底 5.4 高 19.7	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面タテヘラケズリ。底部外面木葉痕。側面一部弱く被熱。	内：5YR6/8 橙 外：5YR6/6 橙	粗い、白・透明・黒・灰礫、赤粒 焼成：やや硬質	No.11、北西、北東 5.3	口縁部 2/3、底部 1/2
23	土師器 台付甕	口 (11.5) 底 9.0 高 15.0	口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面ナデのちヨコヘラケズリ。胴部外面ナメヘラケズリ。脚部接合部ヘラナデ。脚部外面～端部指頭押圧及びナデ。脚部内面ヘラケズリのちヘラナデ。接地面に木葉痕あり。側面一部赤化。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密、黒・灰・白砂、灰・黒・白細砂 焼成：やや硬質	No.1・132・197	口縁部 1/2、底部 完存

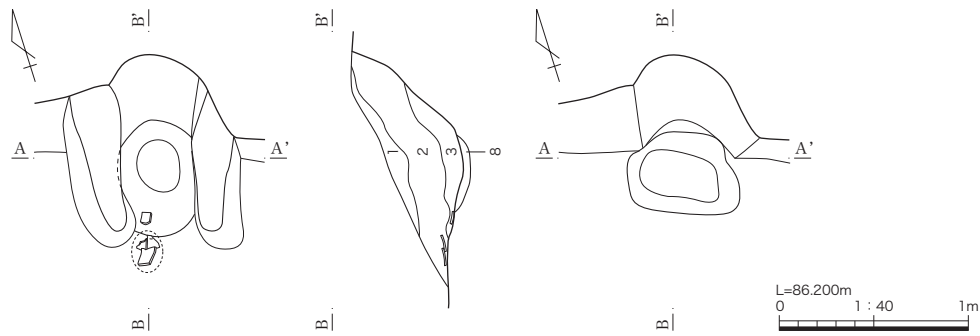
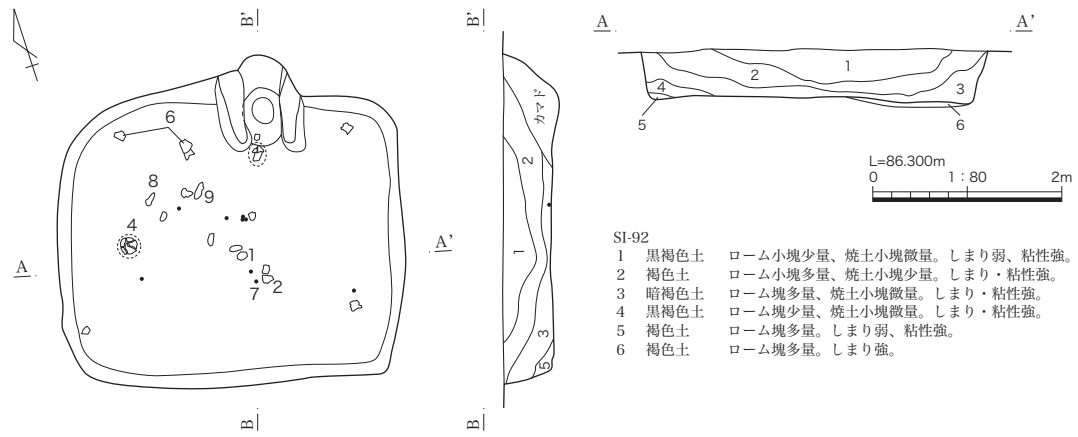
24	土師器 甕	口 胴 底 高	(18.6) 27.2 8.9 31.6	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ、内面の接合部ヨコヘラケズリ。胴部上半ヘラナデの下半部ヨコ又はナナメヘラケズリ。底部外面一方向ヘラケズリ。内面の接合痕明瞭。被熱していない。	内外面とも 10YR7/4 に ぶい黄橙	やや粗い、灰・透明・白・ 黒粗砂～礫 焼成：軟質	No.3・4・5 ・25・27・70・ 71・103・ 109・112・ 114・116・ 117・126・ 128・170・ 179 6.5 (No.170)	口縁部 2/3、底部 完存
25	石器 編物石	長 幅 厚 重	17.7 7.9 2.0 608.0	右側面は裏面から打ち欠いている。 平面形：不整な楕円形 断面形：不整形	5Y6/2 灰オリーブ	—	No.78 床直	ほぼ完存
26	石器 編物石	長 幅 厚 重	15.8 4.5 4.3 457.0	未加工の自然礫。 平面形：不整なバチ形 断面形：正方形	2.5Y6/3 にぶい黄	—	No.195 1.7	ほぼ完存
27	石器 編物石	長 幅 厚 重	15.0 5.0 4.4 497.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：隅丸三角形	5Y5/1 灰	—	No.134 11.0	完存
28	石器 編物石	長 幅 厚 重	13.9 5.0 4.4 406.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：隅丸三角形	5Y6/1 灰	—	No.82 17.0	完存
29	石器 編物石	長 幅 厚 重	13.9 5.4 4.1 423.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：隅丸三角形	9.5Y7/1 灰白	—	No.118 23.0	ほぼ完存
30	石器 編物石	長 幅 厚 重	13.0 5.0 3.2 283.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：隅丸三角形	5Y7/1 灰白	—	No.118 23.0	完存
31	石器 被熱礫	長 幅 厚 重	9.2 6.7 5.5 401.0	未加工の自然礫。全面被熱して赤化。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	5YR6/4 にぶい橙	—	No.24 22.6	完存
32	須恵器 甕	厚	1.1	内面同心円状あて具痕。外面平行叩き。	内：2.5Y5/1 黄灰 外：N5/0 灰	やや緻密、黒・灰・白砂、 白細砂、灰礫、赤粒 焼成：やや硬質	No.151 11.4	肩部破片

3区 SI-92 (遺構：第167図、遺物：第168図、図版二三・九四)

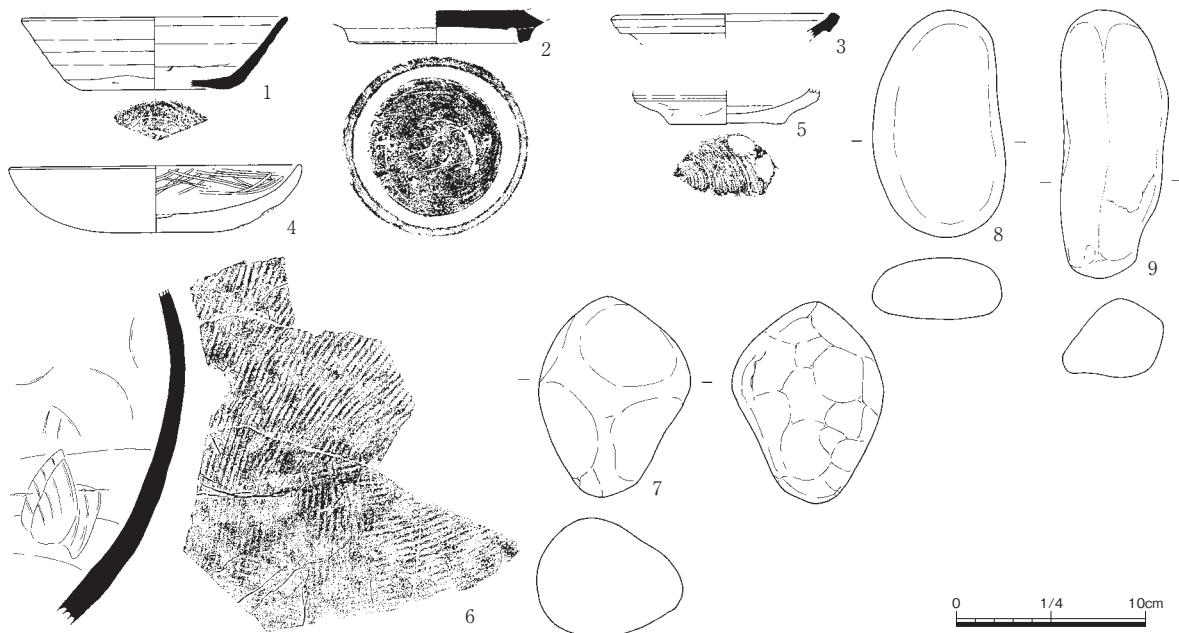
位置 グリッド 86.5-50.0 重複遺構 無し。 平面形 不整な長方形。南東隅以外丸みを帯びる。 規模 東西 3.62×南北 3.49 m 主軸方向 N -20° - E 覆土 自然堆積と考えられる。 壁 壁高は 50～57 cmほど。 床 未確認。 柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。 カマド 北壁中央部やや東寄りに位置する。壁面を半円形に掘り込む。煙道は約 50° の角度で立ち上がる。 遺物 平面的には中央部に集中し、3層中からの出土量が多く、床面付近の遺物は殆どない。図示した遺物は須恵器は坏(1)・高台付坏(2)・瓶類(3)・甕(6)、土師器は坏(4・5)、編物石(8・9)などがある。2の高台付坏は底部外面にヘラ記号がある。破片側縁部を打ち欠き整えており、パレットなどに転用されたものか。7は多孔質安山岩製。器面は磨滅し不明瞭だが、砥石の可能性もある。不掲載土器の総量は小コンテナ箱 1/2、礫重量は 1.8 kg。遺物から奈良時代前葉の建物跡と考えたい。

第63表 3区 SI-92 出土遺物観察表

掲載 番号	器種	法量(cm/g)	技 法 ・ 特 徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・ 床上 (cm)	残存	
1	須恵器 坏	口 底 高	(13.8) (7.8) 3.8	内外面ロクロナデ。体部外面下端部及び底部外面回転ヘラケズリ。	内外面とも 2.5Y6/1 黄灰	やや緻密、灰・白細砂、白・ 灰・黒砂 焼成：やや硬質	No.15 47.1	口縁部～底 部 1/6
2	須恵器 高台付 坏	底 高	9.6 1.8	体部外面下端部回転ヘラケズリ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付のちヘラ記号。底部内面中央部は磨滅のため平滑。底部の破片側縁部を外面から打ち欠き整形している。転用碗か。	内外面とも N4/0 灰	やや緻密、白・灰粗砂～ 礫 焼成：硬質	No.17 25.3	底部完存
3	須恵器 瓶類	口 高	(11.2) [1.5]	内外面ロクロナデ。複合口縁の薄手の瓶類。	内：5Y7/1 灰白 外：5Y8/1 灰白	やや緻密、灰・白・黒細 砂、白砂 焼成：やや硬質	北東	口縁部 1/7
4	土師器 坏	口 高	15.1 3.5	外面磨滅のため調整不明瞭。ヨコヘラケズリか。口縁部～体部内面ヘラミガキ。	内外面とも 5YR5/8 明赤 褐	やや緻密、灰・白・黒細砂、 黒・白砂、赤粒、黒雲母 焼成：やや硬質	No.3 13.0	ほぼ完存



第 167 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-92 実測図

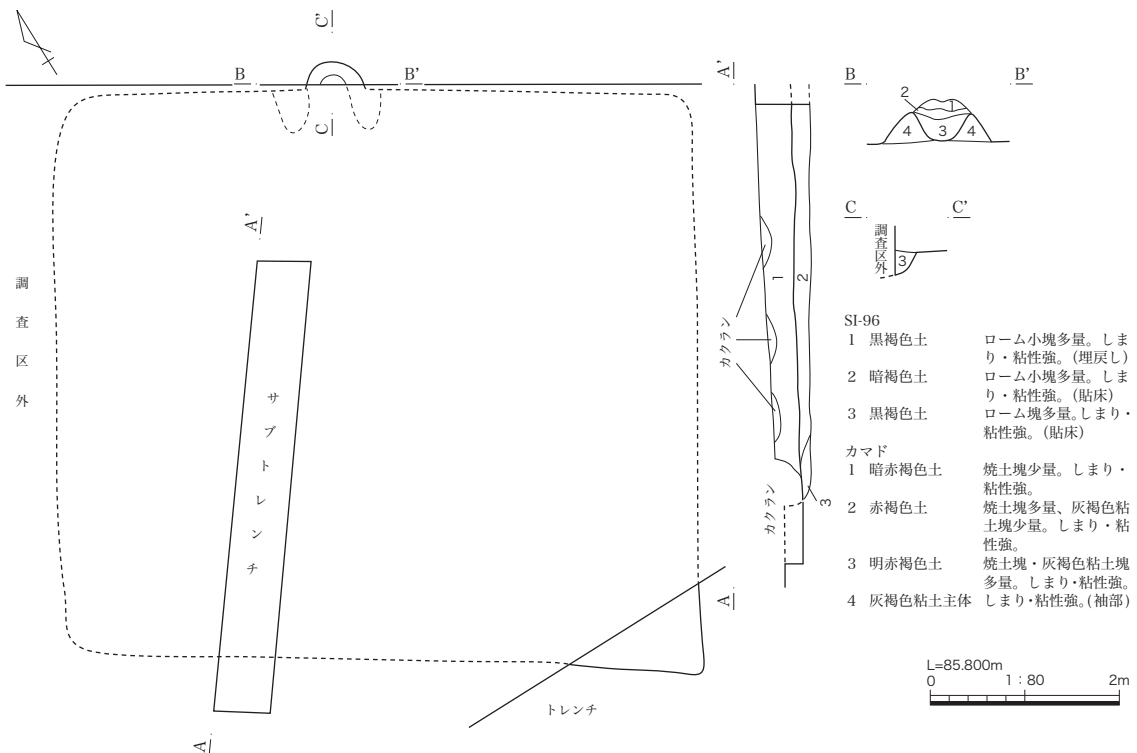


第 168 図 西刑部西原遺跡 3 区 SI-92 出土遺物

5	土師器 坏か	底高 [1.9]	口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部外面指頭押圧及びナデ。底部外面回転糸切り。	内：2.5Y5/2 暗灰黄 外：2.5Y6/2 灰黄	やや緻密、黒・灰・白細砂、黒・白砂、赤粒 焼成：やや硬質	北西	底部 1/3
6	須恵器 甕	厚 [1.2]	胴部内面ナデのち無文あて具痕。外面平行叩き。	内外面とも 5Y6/2 灰オリーブ	やや粗い、白・黒粗砂～礫 焼成：硬質	No.9・10、 北西 43.6	胴部破片
7	石器 砥石か	長 10.3 幅 7.3 厚 6.1 重 600.0	磨石風に使用したのか。ほぼ全面に複数の砥面を有するが器面は磨滅著しく、擦痕などは不明瞭。	2.5Y5/2 暗灰黄	多孔質安山岩	No.18 24.1	ほぼ完存
8	石器 編物石	長 11.9 幅 6.8 厚 3.2 重 403.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	5Y7/1 灰白	—	No.5 21.0	完存
9	石器 編物石	長 14.1 幅 5.5 厚 0.4 重 439.0	全体的に薄く赤みを帯びるが被熱かは不明。 平面形：不整形 断面形：不整な隅丸方形	2.5Y7/3 浅黄	—	No.8 37.7	完存

3区 SI-96 (遺構：第169図)

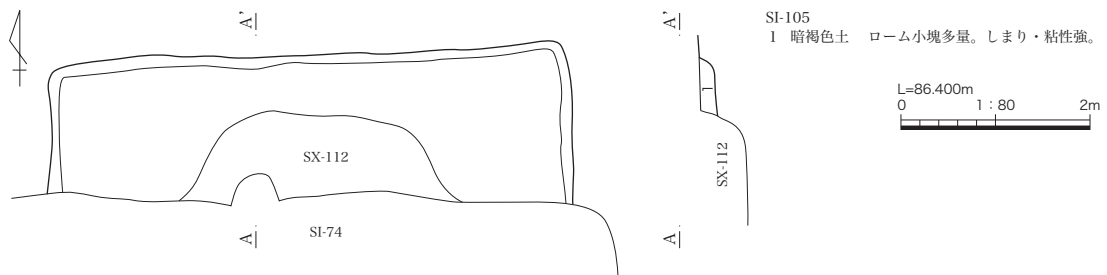
位置 グリッド 89.5-44.5・89.5-45.0・90.0-45.0・90.0-44.5 重複遺構 無し。平面形 やや東西に長い長方形か(カマド煙道部の位置と南東隅の状況から判断)。規模 東西 6.3×南北 6.7 m(いずれも推定値)
 主軸方向 N -30° - E (推定値) 覆土 トレンチ断面から判断すると、黒褐色土主体の1層からなる自然堆積と考えられる。壁 壁高は22～37 cm残る。床 貼床があるがその範囲は不明。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 トレンチ内では概ね平坦。カマド 北壁中央部近辺に位置すると想定した。覆土中に焼土を多く含み、構築材は灰褐色粘土を使用する。遺物 出土遺物は確認できなかった。時期 時期は不明であるが、遺構の規模など勘案して古墳時代の建物跡の可能性はある。



第169図 西刑部西原遺跡3区 SI-96 実測図

3区 SI-105 (遺構：第170図)

位置 グリッド 86.5-51.5 重複遺構 古墳時代終末期の建物跡 SI-74、時期不明の SX-112 と重複し、本住居跡が最も古い。 平面形 隅丸方形 規模 東西 5.48×南北 1.68 m以上 主軸方向 N -2° -W(推定値)
覆土 暗褐色土からなる1層で自然堆積か人為埋戻しかは判断できなかった。 壁 壁高 16～18 cm 床
ローム地山を床面とする。硬化面は確認されなかった。 柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。
掘方 概ね平坦。 カマド 北壁には確認できなかった。東壁に存在していた可能性もある。 遺物
確認できなかった。 時期 明確な時期は判定できないが、古墳時代後期以前の建物と想定される。

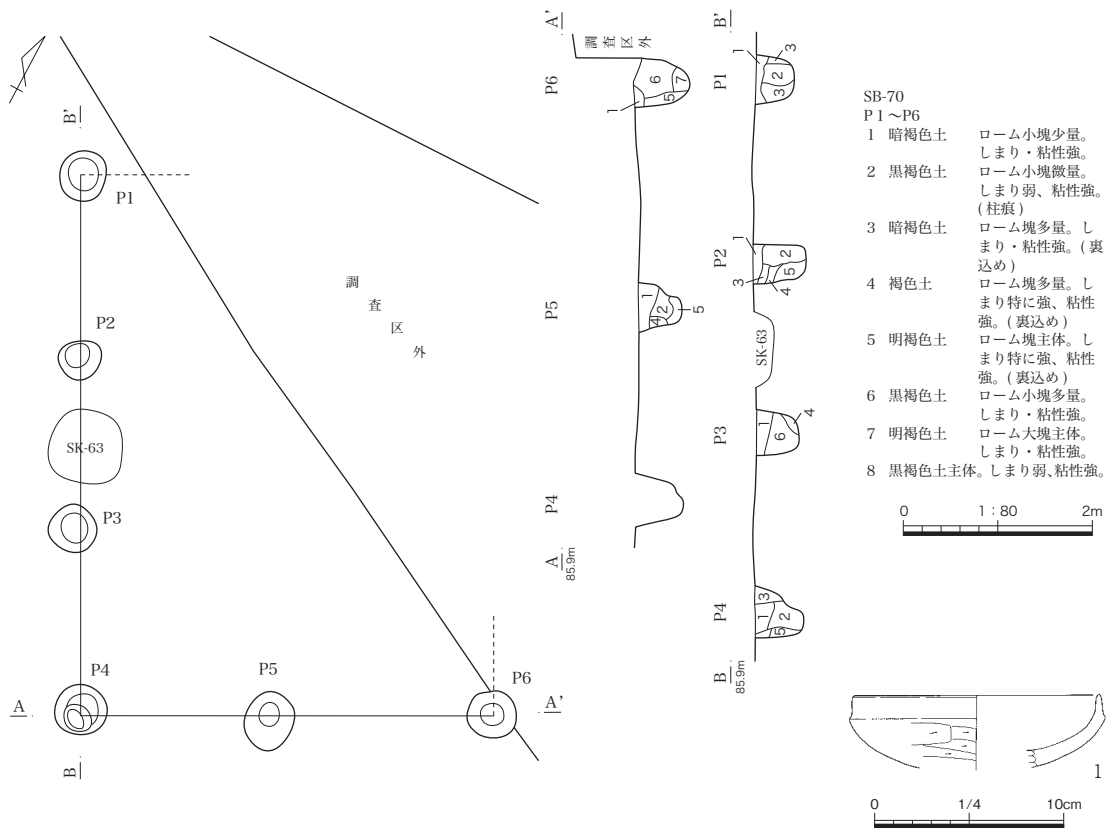


第170図 西刑部西原遺跡3区 SI-105 実測図

2. 掘立柱建物跡

3区 SB-70 (遺構・遺物：第171図、図版二三)

位置 グリッド 89.0-47.0・89.0-47.5 重複遺構 SK-63が遺構範囲にあるが、重複関係は不明。 平面形・規模 北東部は調査区外となり、全形は不明だが、桁行3間×梁行2間の南北棟の側柱式建物と考えられる。桁行総長5.65m、梁行総長4.36m。 柱間 桁行の柱間寸法は南から2m+1.8m+2m、梁行は東から2.4m+2m。 主軸方向 N-28°-W 柱穴 P1(径52~48cmの円形、深さ41cm)、P2(径46~40cmの円形、深さ56cm)、P3(径51cmの円形、深さ46cm)、P4(径55~52cmの円形、深さ51cm)、P5(径61~52cmの楕円形、深さ46cm)、P6(径51~49cmの円形、深さ49cm)がある。P1・P2・P4の断面から柱痕が確認された。掘方は概ね不整な円形を呈するものが多い。 遺物 柱穴番号は不明だが、覆土中から古墳時代後期の土師器坏破片が出土しているのみで、明確な帰属時期は不明である。



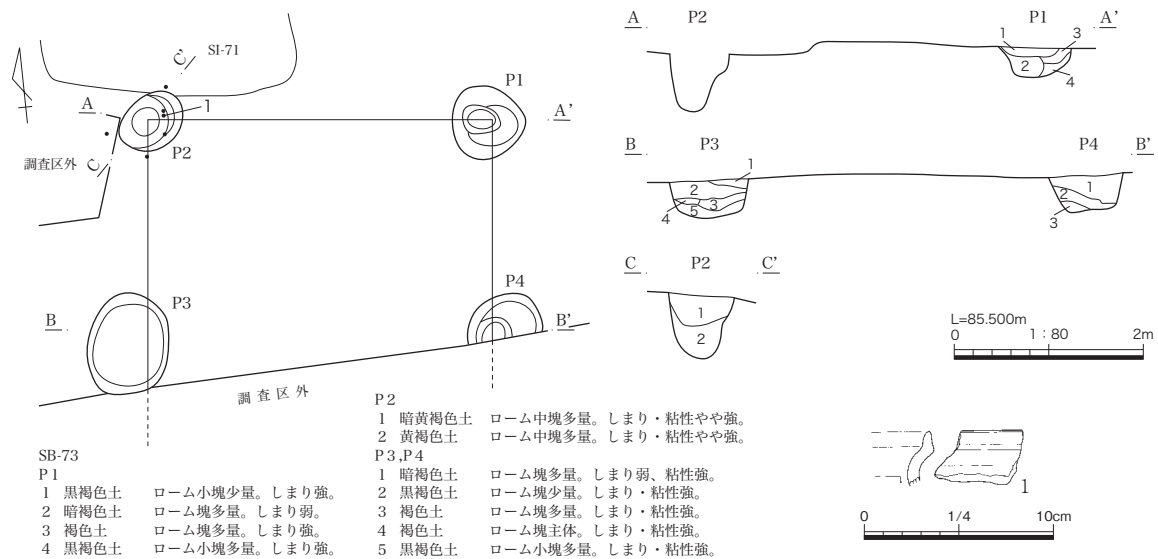
第171図 西刑部西原遺跡3区 SB-70 実測図・出土遺物

第64表 3区 SB-70 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器坏	口 [12.8] 高 [3.8]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。内面及び外面口縁部漆仕上げ。	内：5Y6/6 橙 外：5YR7/8 橙	やや緻密、白・灰・透明粗砂～礫、赤粒 焼成：硬質	埋土中	口縁部 1/3、 底部 1/4

3区 SB-73 (遺構・遺物：第172図、図版二三)

位置 グリッド 89.5-45.5 重複遺構 時期不明の竪穴建物跡 SI-71 より古い。 平面形・規模 桁行2間以上×梁行1間の南北棟の側柱式建物と考えられる。桁行総長 2.30 m以上、梁行総長 3.60 m。柱間 桁行の柱間寸法は約 2.3 m、梁行の柱間寸法は 3.6 mである。 主軸方向 N -7° - W 柱穴 P1 (径約 78 cmの円形、深さ 32 cm)、P2 (径 71 ~ 56 cmの楕円形、深さ 67 cm)、P3 (径 106 ~ 86 cmの楕円形、深さ 40 cm)、P4 (長径 80 cm以上の楕円形、深さ 39 cm) とともに柱痕は確認できなかった。 遺物 P2 覆土中から土師器常総型甕の口縁部破片が出土した。



第172図 西刑部西原遺跡3区 SB-73 実測図・出土遺物

第65表 3区 SB-73 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器甕	高 [2.5]	口縁部内外面ヨコナデ。端部をつまみ上げる。常総甕。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや粗い、白・灰・黒砂、白細砂、白雲母 焼成：やや硬質	P2	口縁部破片

3区 SB-100 (遺構：第173・174図、図版二三・二四)

位置 グリッド 86.0-53.0・86.5-53.0・86.5-53.5 重複遺構 重複遺構は無いが西に SB-101 が近接する。

平面形・規模 桁行5間×梁行2間の南北棟の側柱式建物。桁行総長 11.20 m、梁行総長 5.20 mである。

柱間 桁行の柱間寸法は平均約 2.8 m、梁行の柱間寸法は 2.6 mである。 主軸方向 N -83° - E 柱穴

P1 (長軸残 65×短軸 62 cmの隅丸方形、深さ 73 cm)、P2 (長軸 130×短軸 64 cmの隅丸方形、深さ 63 cm)、

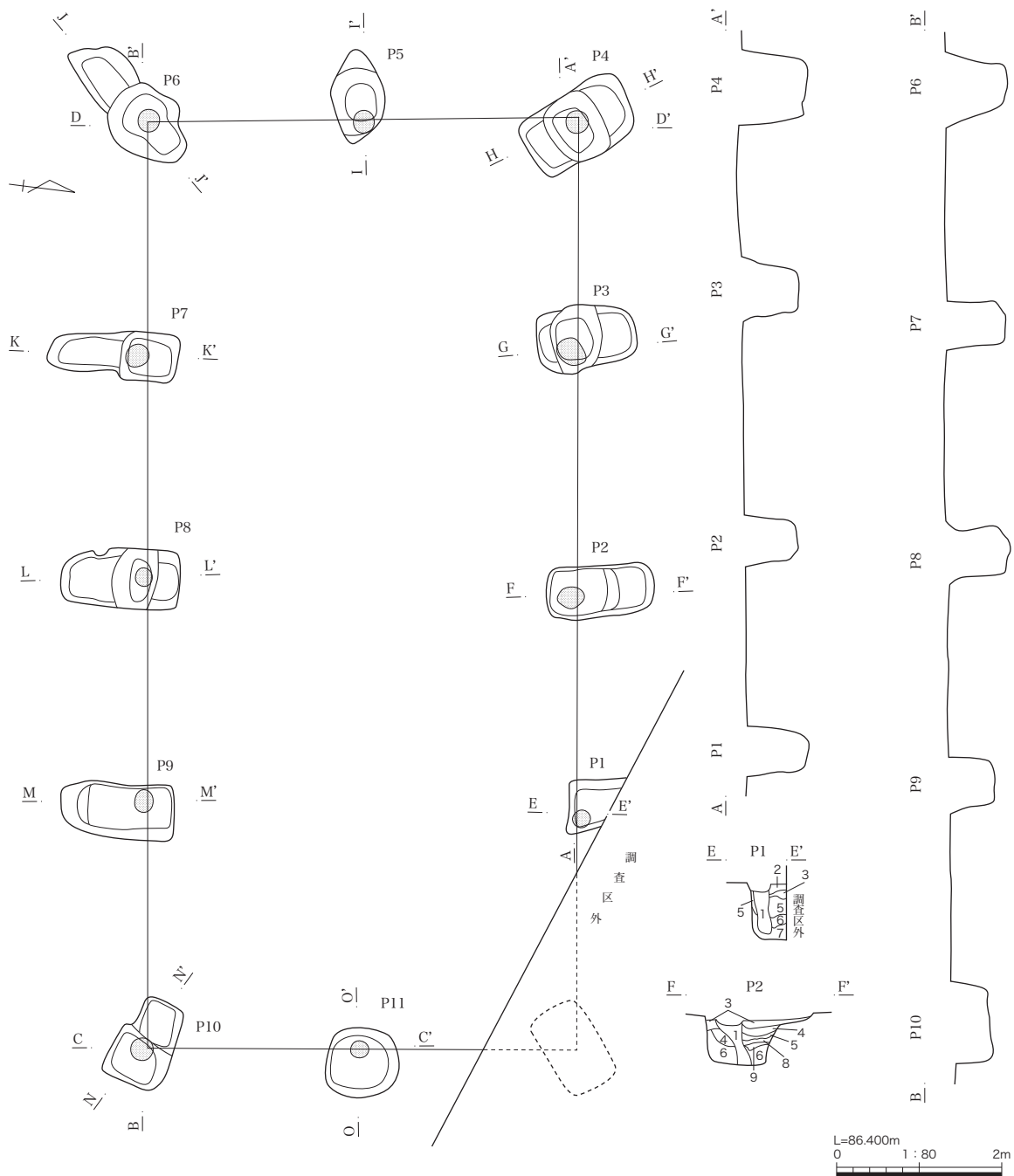
P3 (長軸 119×短軸 80 cmの隅丸方形、深さ 70 cm)、P4 (長軸 138×短軸 83 cmの隅丸方形、深さ 80 cm)、

P5 (径 112 ~ 65 cmの楕円形、深さ 72 cm)、P6 (長軸 184×短軸 84 cmの不整な楕円形、深さ 70 cm)、P7 (長

軸 160×短軸 59 cmの隅丸方形、深さ 72 cm)、P8 (長軸 142×短軸 72 cmの隅丸長方形、深さ 74 cm)、P9 (長

軸 136×短軸 65 cmの隅丸長方形、深さ 52 cm)、P10 (長軸 120×短軸 71 cmの隅丸方形、深さ 45 cm)、P11 (径

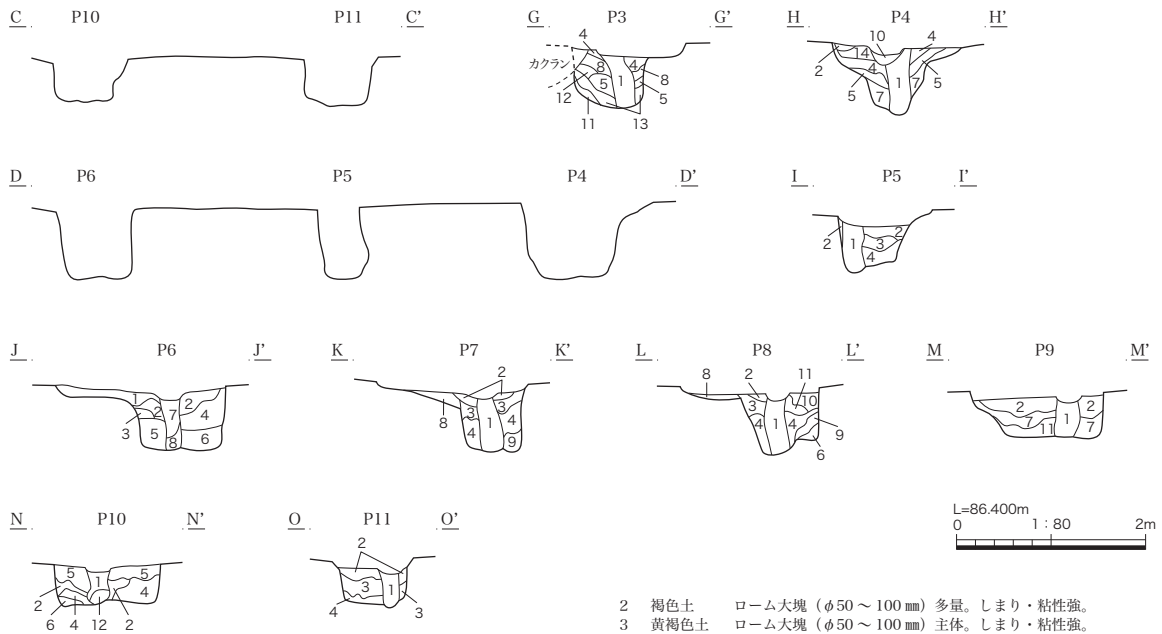
89 ~ 83 cmの円形、深さ 53 cm) の計 11 本からなる。北東隅柱のみが調査区外となるため、断定できないが、



第173図 西刑部西原遺跡3区 SB-100実測図 (1)

確認された全ての掘方からは柱痕が確認された。断面観察などから柱の直径は20cm弱のものが多い。遺物
 遺物は極めて少なく、P2覆土中(掘方か柱痕かは確認できなかった)から須恵器甕胴部破片が1点のみ出
 土したが、時期の判別は難しい。ただし、西に近接するSB-101とは規模・形態とも類似することから、時期
 的に近い可能性が大きい。

第3章 発見された遺構と遺物



SB-100
P1～P4

- | | | |
|----|-------|----------------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | ローム小塊 (φ5～10mm) 多量。しまり弱、粘性強。(柱痕) |
| 2 | 黒褐色土 | ローム塊 (φ10mm) 少量。しまり・粘性強。 |
| 3 | 暗褐色土 | ローム塊 (φ10～30mm) 多量。しまり・粘性強。 |
| 4 | 褐色土 | ローム塊 (φ30mm) 多量。しまり・粘性強。 |
| 5 | 黒褐色土 | ローム塊 (φ10～20mm) 少量。しまり・粘性強。 |
| 6 | 黄褐色土 | ローム大塊 (φ30～50mm) 主体。しまり・粘性強。 |
| 7 | 暗褐色土 | ローム塊 (φ30～50mm) 多量。しまり・粘性強。 |
| 8 | 褐色土 | ローム塊 (φ10～20mm) 多量。しまり・粘性強。 |
| 9 | 黒褐色土 | 黒褐色土主体。しまり・粘性強。 |
| 10 | 暗褐色土 | ローム小塊 (φ2～5mm) 多量。しまり・粘性強。 |
| 11 | 黒褐色土 | 黒褐色土主体。しまり・粘性強。 |
| 12 | 黄褐色土 | ローム塊 (φ30～50mm) 主体。しまり・粘性強。 |
| 13 | 明黄褐色土 | ローム大塊 (φ50～100mm) 主体。しまり・粘性強。 |
| 14 | 黄褐色土 | ローム大塊 (φ50～100mm) 主体。しまり・粘性強。 |

P5

- | | | |
|---|------|----------------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | ローム塊 (φ10～20mm) 多量。しまり弱、粘性弱。(柱痕) |
| 2 | 暗褐色土 | ローム塊 (φ5～10mm) 多量。しまり・粘性強。(裏込め) |
| 3 | 褐色土 | ローム塊 (φ20～50mm) 多量。しまり・粘性強。 |
| 4 | 黒褐色土 | ローム小塊 (φ2～3mm) 少量。しまり・粘性強。 |

P6

- | | | |
|---|------|---|
| 1 | 黒褐色土 | ローム小塊 (φ2～3mm)・ローム塊 (φ10～30mm) 多量。しまり・粘性強。(裏込め) |
|---|------|---|

- | | | |
|---|-------|----------------------------------|
| 2 | 褐色土 | ローム大塊 (φ50～100mm) 多量。しまり・粘性強。 |
| 3 | 黄褐色土 | ローム大塊 (φ50～100mm) 主体。しまり・粘性強。 |
| 4 | 暗褐色土 | ローム塊 (φ10～30mm) 多量。しまり・粘性強。 |
| 5 | 明黄褐色土 | ローム大塊 (φ50～100mm) 主体。しまり・粘性強。 |
| 6 | 黄褐色土 | ローム大塊 (φ100～150mm) 主体。しまり・粘性強。 |
| 7 | 黒褐色土 | ローム塊 (φ10mm) 少量。しまり弱、粘性強。(柱痕) |
| 8 | 褐色土 | ローム塊 (φ30～50mm) 多量。しまり弱、粘性強。(柱痕) |
- P7～P10
- | | | |
|----|-------|--|
| 1 | 黒褐色土 | ローム小塊 (φ5mm) 多量、ローム大塊 (φ50mm) 少量。しまり弱、粘性強。(柱痕) |
| 2 | 褐色土 | ローム大塊 (φ50mm) 多量。しまり・粘性強。 |
| 3 | 暗褐色土 | ローム大塊 (φ50mm) 少量。しまり・粘性強。 |
| 4 | 黒褐色土 | ローム小塊 (φ5～10mm) 少量。しまり・粘性強。 |
| 5 | 黒褐色土 | ローム塊 (φ30～50mm) 多量。しまり・粘性強。 |
| 6 | 褐色土 | ローム塊 (φ10～30mm) 多量。しまり・粘性強。 |
| 7 | 黄褐色土 | ローム大塊 (φ100mm) 主体。しまり・粘性強。 |
| 8 | 暗褐色土 | ローム塊 (φ30～50mm) 少量。しまり・粘性強。 |
| 9 | 黄褐色土 | ローム大塊 (φ50～100mm) 主体。しまり・粘性強。 |
| 10 | 褐色土 | ローム塊 (φ5～10mm) 多量。しまり・粘性強。 |
| 11 | 明黄褐色土 | ローム塊 (φ30～50mm) 主体。しまり・粘性強。 |
| 12 | 褐色土 | ローム小塊 (φ5～10mm) 多量。しまり弱、粘性強。(柱痕) |
- P11
- | | | |
|---|------|----------------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | ローム小塊 (φ2～10mm) 少量。しまり弱、粘性強。(柱痕) |
| 2 | 黒褐色土 | ローム小塊 (φ2～10mm) 多量。しまり・粘性強。 |
| 3 | 暗褐色土 | ローム塊 (φ10～20mm) 多量。しまり・粘性強。 |
| 4 | 黄褐色土 | ローム大塊 (φ30～100mm) 主体。しまり・粘性強。 |

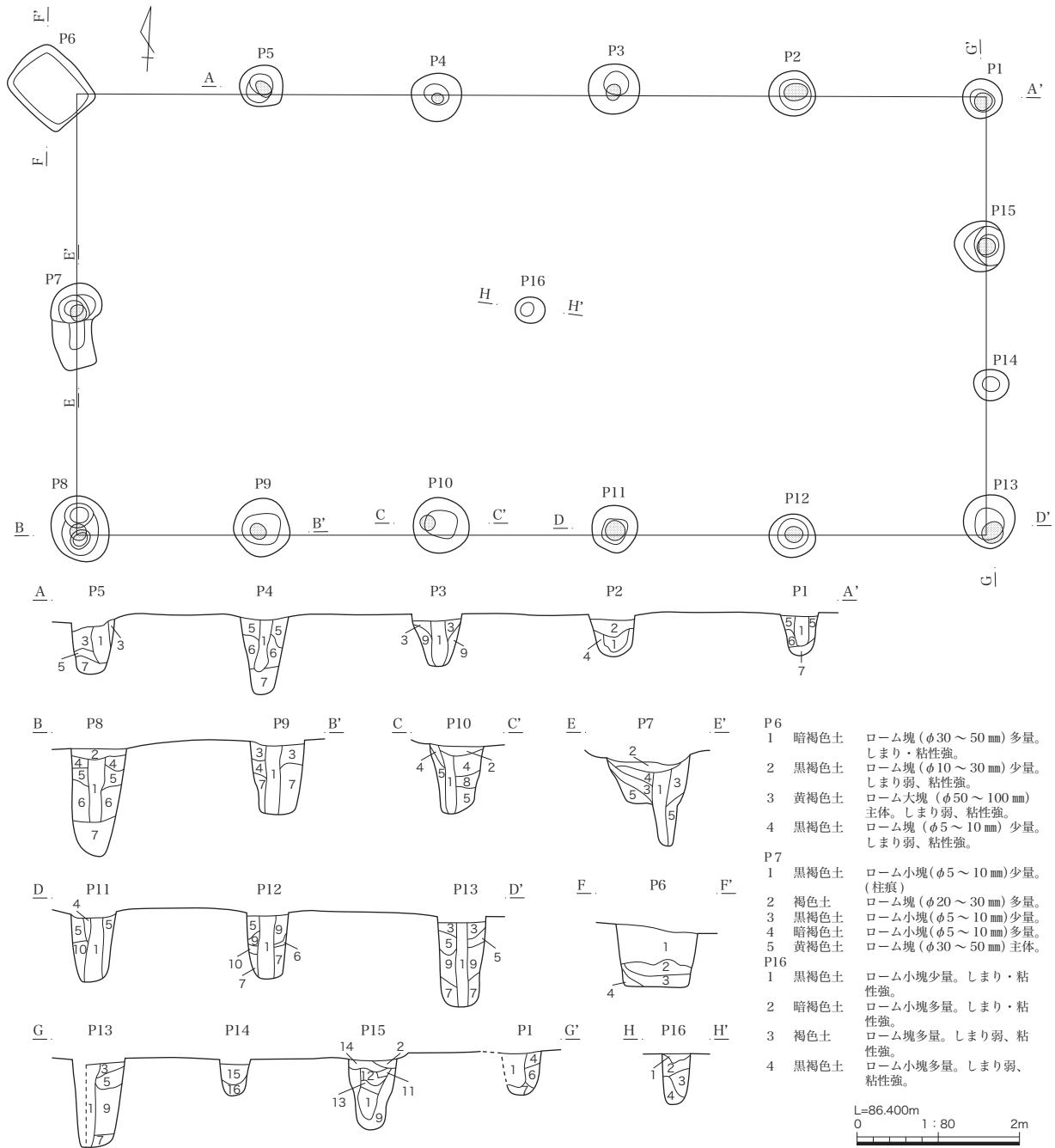
第174図 西刑部西原遺跡3区 SB-100 実測図 (2)

3区 SB-101 (遺構・遺物：第175図、図版二四)

位置 グリッド 86.0-52.5・86.5-52.5・86.5-53.0 重複遺構 重複遺構は無いが、東にSB-100が近接する。

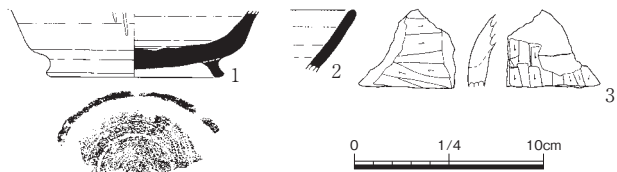
平面形・規模 桁行5間×梁行2間の東西棟側柱式建物。桁行総長11.2m、梁行総長5.40mである。

柱間 桁行の柱間寸法は東から2.4m+2.2m+2.2m+2.2m+2.4m、梁行の柱間寸法は西側は2.6m、東側は1.8mである。 主軸方向 N-86°-E 柱穴 P1 (径44cmの円形、深さ52cm)、P2 (径56cmの円形、深さ50cm)、P3 (径62cmの円形、深さ64cm)、P4 (径62cmの円形、深さ96cm)、P5 (径72cmの円形、深さ64cm)、P6 (長軸96×短軸78cmの長方形、深さ74cm)、P7 (長軸104×短軸64cmの不整長方形、深さ112cm)、P8 (径84～70cmの楕円形、深さ132cm)、P9 (径70cmの円形、深さ92cm)、P10 (径68cmの円形、深さ84cm)、P11 (径56cmの円形、深さ84cm)、P12 (径56cmの円形、深さ83cm)、P13 (径64cmの円形、深さ110cm)、P14 (径44cmの円形、深さ46cm)、P15 (径62cmの円形、深さ90cm) の計15本の柱痕が確認される。ただし、東妻柱列のP7は棟持柱と考えられるが、西妻柱列は2本の柱(P14・P15)を使用しており、同一建物内でも若干の構造の違いが見られる。このうちP6・P14以外の柱穴からは



SB-101
P1~P5, P8~P15

- 1 黒褐色土 ローム塊(φ10mm)・ローム大塊(φ50mm)少量。しまり弱、粘性強。(柱痕)
- 2 暗褐色土 ローム小塊(φ5mm)多量。しまり・粘性強。
- 3 黒褐色土 ローム小塊(φ5mm)少量。しまり・粘性強。
- 4 暗褐色土 ローム塊(φ20~30mm)多量。しまり・粘性強。
- 5 黄褐色土 ローム大塊(φ20~50mm)多量。しまり・粘性強。
- 6 褐色土 ローム塊(φ10~20mm)多量。しまり・粘性強。
- 7 暗褐色土 ローム大塊(φ20~50mm)少量。しまり・粘性強。
- 8 黒褐色土 ローム塊(φ10~20mm)少量。しまり・粘性強。
- 9 黒褐色土 ローム塊(φ10~20mm)少量。しまり・粘性強。
- 10 明黄褐色土 ローム大塊(φ30~50mm)主体。しまり・粘性強。
- 11 暗褐色土 ローム小塊(φ5~10mm)少量。しまり・粘性強。
- 12 褐色土 ローム小塊(φ5~10mm)多量。しまり弱、粘性強。(柱痕)
- 13 黒褐色土 ローム小塊(φ5~10mm)少量。しまり弱、粘性強。(柱痕)
- 14 褐色土 ローム塊(φ10mm)多量。しまり・粘性強。
- 15 暗褐色土 ローム小塊(φ2~5mm)多量。しまり・粘性強。
- 16 黒褐色土 ローム小塊(φ2~5mm)少量。しまり・粘性強。



第175図 西刑部西原遺跡3区 SB-101 実測図・出土遺物

第66表 3区 SB-101 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技 法 ・ 特 徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	須恵器高台付坏	底高 (9.0) [3.5]	内外面ロクロナデ。	内：2.5GY7/1 明オリブ灰 外：2.5GY8/1 灰白	緻密、白・黒粗砂 焼成：硬質	上面	底部 1/2
2	須恵器坏	厚 0.5	内外面ロクロナデ。	内：2.5GY6/1 オリブ灰 外：N5/0 灰	やや緻密、白粗砂 焼成：硬質	上面	口縁部破片
3	土師器甎	厚 1.0	内外面ヘラミガキ。	内：7.5YR6/6 橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、灰・黒細砂～ 礫、赤粒 焼成：硬質	P6	胴部破片

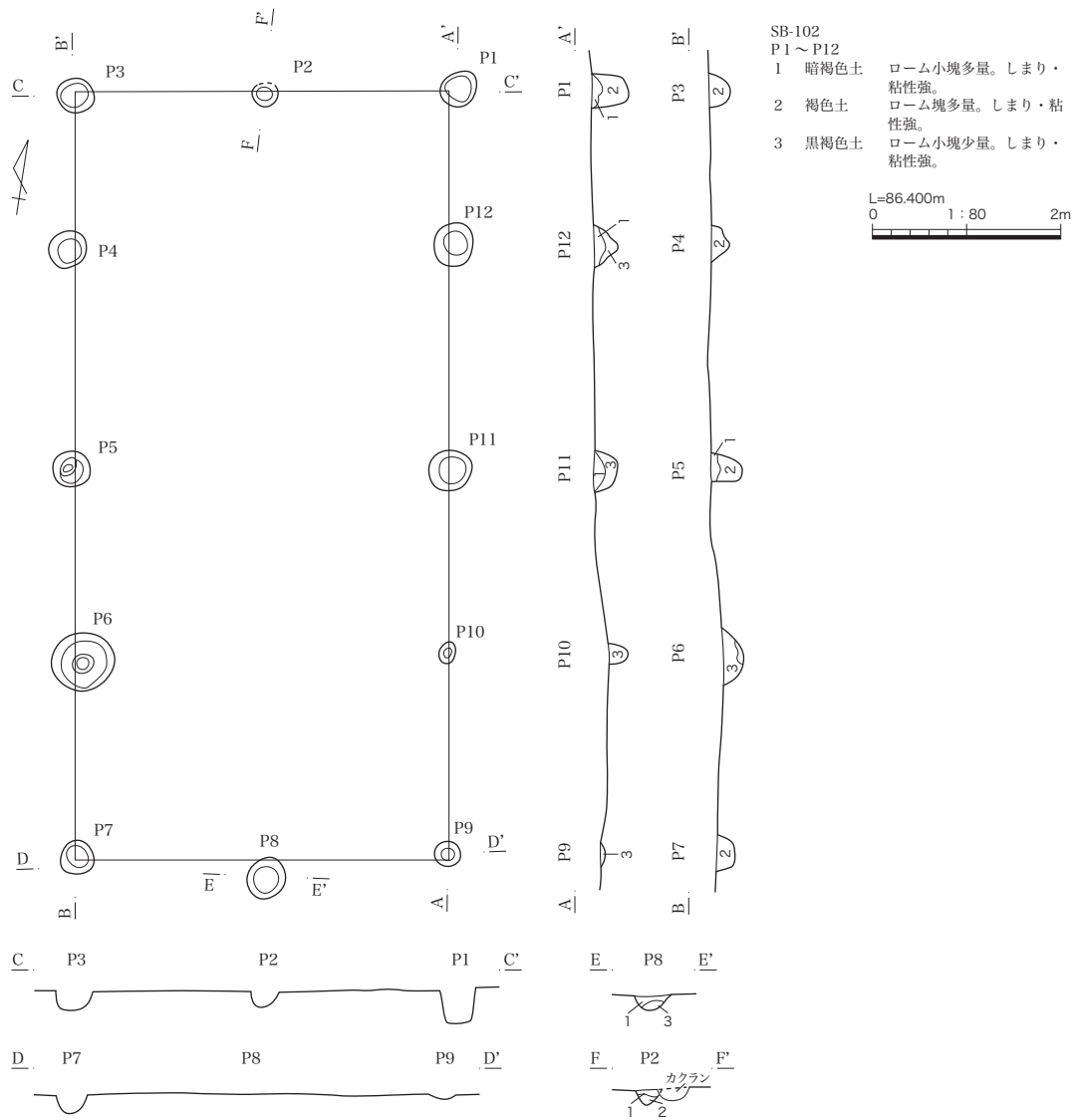
柱痕が確認されており、その直径は 14～20 cm である。また、P6 は他の柱穴と違い、長方形の大型の掘方をもつ。断面図から柱痕は確認できなかったが、東隅の壁際に柱を設置した可能性がある。遺物 須恵器高台付坏（1）、須恵器坏（2）は柱穴は特定できないが、覆土上層から出土したものである。土師器甎（3）は P6 覆土中から出土した。出土位置が明確でないため特定できないが、須恵器類から判断すると、奈良時代の建物跡の可能性が高い。

3区 SB-102（遺構：第176図、図版二四）

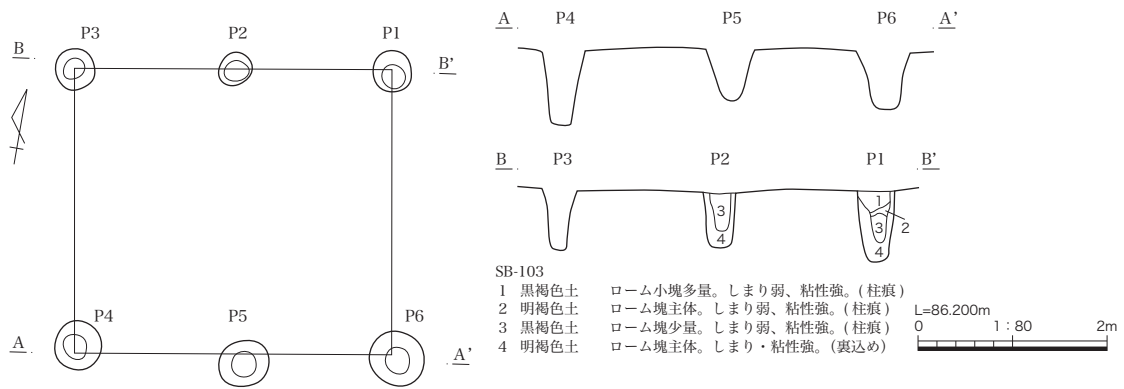
位置 グリッド 85.5-52.0・85.5-52.5・86.0-52.0・86.0-52.5 重複遺構 重複遺構は無いが北部に SB-101 が近接する。平面形・規模 桁行4間×梁行2間の南北棟の側柱式建物で、桁行総長 8.10 m、梁行総長 3.87 m である。柱間 桁行の柱間寸法間は南から 2.1 m + 2.0 m + 2.4 m + 1.6 m と一定していない。梁行の柱間寸法間は約 1.95 m である。主軸方向 N - 8° - W 柱穴 P1（径 38 cm の円形、深さ 39 cm）、P2（径 28 cm の円形、深さ 16 cm）、P3（径 39～36 cm の円形、深さ 22 cm）、P4（径 40 cm の円形、深さ 18 cm）、P5（径 40 cm の円形、深さ 33 cm）、P6（径 67 cm の円形、深さ 20 cm）、P7（径 37 cm の円形、深さ 20 cm）、P8（径 43～40 cm の円形、深さ 15 cm）、P9（径 28 cm の円形、深さ 5 cm）、P10（径 22～17 cm の楕円形、深さ 19 cm）、P11（径 45 cm の円形、深さ 25 cm）、P12（径 46～41 cm の楕円形、深さ 25 cm）の計 12 本が確認された。確認面からの掘り込みは浅く、断面図及び平面図からも柱痕は確認できなかった。遺物 遺物は出土しなかったが、近接する掘立柱建物跡 SB-101 との位置関係から、同時期に存在していた可能性が高い。

3区 SB-103（遺構：第177図、図版二四）

位置 グリッド 85.5-53.5・85.5-54.0・86.0-53.5 重複遺構 重複遺構は無いが、北約 8m に SB-100 が位置する。平面形・規模 桁行2間×梁行1間の東西棟側柱式建物で、桁行総長 2.94 m、梁行総長 3.32 m 間尺 桁行の柱間寸法は約 1.7 m、梁行の柱間寸法は約 3 m である。主軸方向 N - 10° - W 柱穴 P1（径 43～36 cm の楕円形、深さ 75 cm）、P2（径 35 cm の円形、深さ 57 cm）、P3（径約 43 cm の円形、深さ 62 cm）、P4（径約 51 cm の円形、深さ 61 cm）、P5（径約 50 cm の円形、深さ 57 cm）、P6（径約 57 cm の円形、深さ 81 cm）の計 6 本が確認された。このうち P1・P2 は断面から柱痕が確認されており、径は 16～20 cm の太さと考えられる。遺物 確認できなかったが、周辺の掘立柱建物跡と時期的に近いものと考えられる。



第176図 西刑部西原遺跡3区 SB-102 実測図



第177図 西刑部西原遺跡3区 SB-103 実測図

3区 SB-106 (遺構・遺物：第178図、図版二五)

位置 グリッド 89.0-50.0・89.0-51.0・88.5-51.0・88.5-50.5 重複遺構 P- 8・14・16～18・26が遺構範囲にあるが重複関係は不明。南にSB-114が近接する。 平面形・規模 桁行4間×梁行2間の南北棟の側柱式建物(身舎)の西側に桁行4間の庇を付したもののか。桁行総長7.83m、梁行総長6.08m(このうち身舎は4.7m)。 柱間 桁行の柱間寸法は平均1.95m(身舎・庇共通)。梁行の柱間寸法は2.35m、庇と身舎の柱間は約1.4mである。 主軸方向 N-22°-W 柱穴 P1(径70～53cmの楕円形、深さ54cm)、P2(径約45cmの円形、深さ40cm)、P3(径約50cmの円形、深さ77cm)、P4(径47～41cmの楕円形、深さ52cm)、P5(径約42cmの円形、深さ61cm)、P6(径49cmの円形、深さ46cm)、P7(径約45cmの円形、深さ62cm)、P8(径48～42cmの楕円形、深さ17cm)、P9(径約43cmの円形、深さ73cm)、P10(径40～33cmの楕円形、深さ18cm)、P11(径37～29cmの楕円形、深さ27cm)、P12(径29cmの円形、深さ29cm)、P13(径約32cmの円形、深さ22cm)、P14(径40～35cmの円形、深さ20cm)、P15(径37～35cmの円形、深さ22cm)、P16(径47～残45cmの円形、深さ24cm)、P17(径38～37cmの円形、深さ32cm)の計17本があるが、身舎の北東隅柱および西妻柱列棟持柱について柱穴(掘方)を確認できなかった。相対的に見ると身舎の柱穴はやや規模が大きく、P1・P2・P5・P7～P9の断面から柱痕が確認された。これに対して庇の柱穴は規模が小さく、明確な柱痕をもつものも確認できなかった。

またP15・16はP1に切られているため別遺構(ピット)の可能性もある。またP17は土層が観察できず不明瞭だが本遺構に伴う可能性もある。

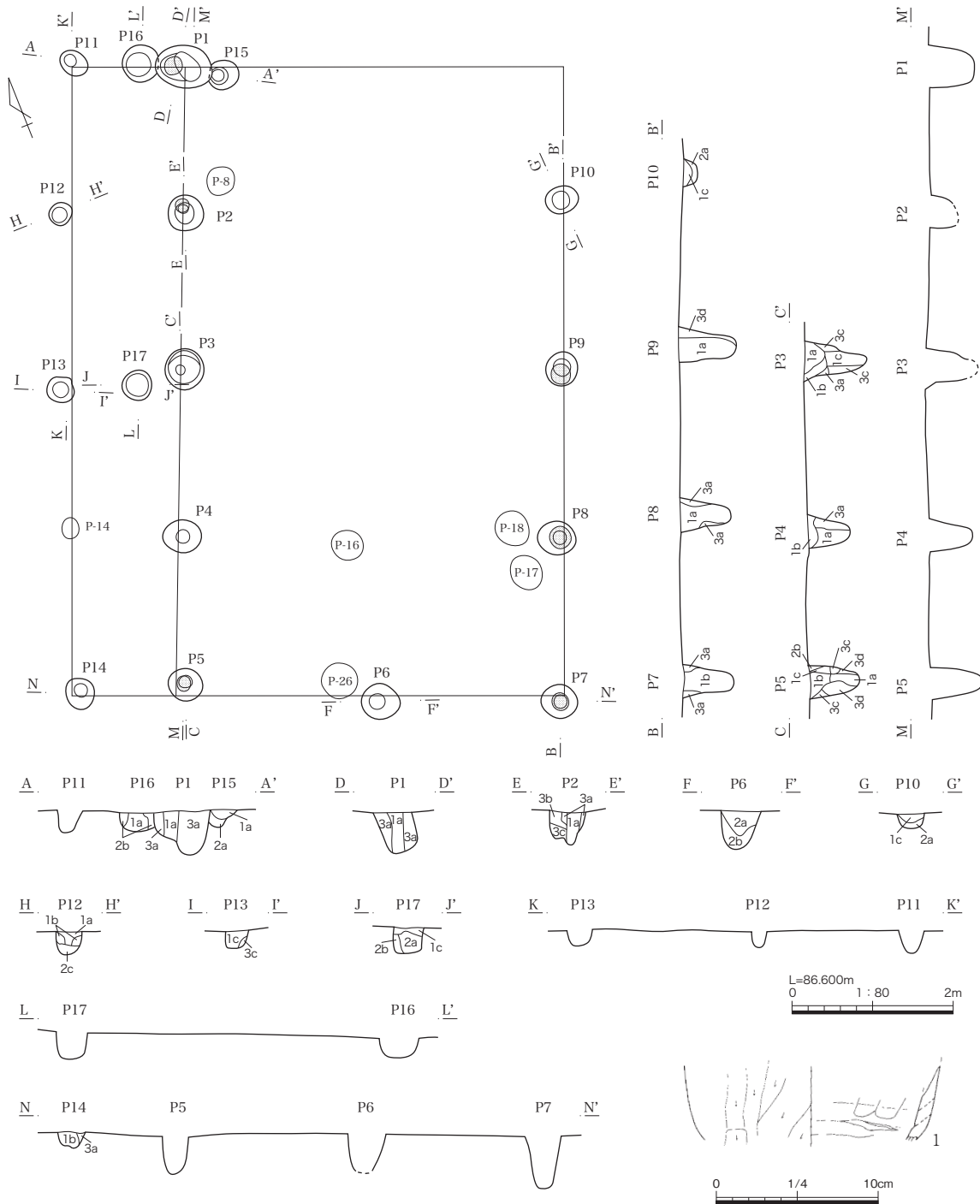
遺物 出土遺物は覆土中から土師器鉢胴部破片1点が確認されたのみである。古墳時代後期～終末期の遺物だが、本遺構に確実に伴うものかは不明である。

第67表 3区 SB-106 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器鉢か	高 [4.8]	胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラケズリ。	内：7.5YR5/6 明褐 外：7.5YR7/6 橙	緻密、白細砂、赤粒 焼成：硬質	覆土中	体部破片

3区 SB-114 (遺構：第179図、図版二四)

位置 グリッド 88.5-51.0・88.5-50.5・88.0-50.5・88.0-51.0 重複遺構 P-34・35・39・46・47・50が遺構範囲にあるが、掘方との重複関係にあるものはなく不明。北にSB-106が近接する。 平面形・規模 桁行5間×梁行2間の南北棟の柱式建物と考えた。桁行総長13.5m、梁行総長3.07m。 柱間 桁行の柱間寸法は南から2.9m+2m+2.9m+2.7m+3mで、断面D列とE列の間のみ短い。梁行の柱間寸法は約1.5mである。 主軸方向 N-17°-E 柱穴 P1(径約44cmの円形、深さ53cm)、P2(径53～43cmの楕円形、深さ56cm)、P3(径43～34cmの楕円形、深さ53cm)、P4(径49cmの円形、深さ42cm)、P5(径46～39cmの楕円形、深さ26cm)、P6(径48cmの円形、深さ63cm)、P7(径48cmの円形、深さ42cm)、P8(径50～40cmの楕円形、深さ45cm)、P9(径45～42cmの不整形円形、深さ47cm)、P10(径38cmの円形、深さ45cm)、P11(径53～41cmの楕円形、深さ34cm)、P12(径54～47cmの楕円形、深さ43cm)、P13(径43cmの円形、深さ45cm)、P14(径40～35cmの楕円形、深さ30cm)、P15(径41～35cmの楕円形、深さ41cm)、P16(径約39cmの円形、深さ23cm)、P17(径38～33cmの楕円形、深さ25cm)、



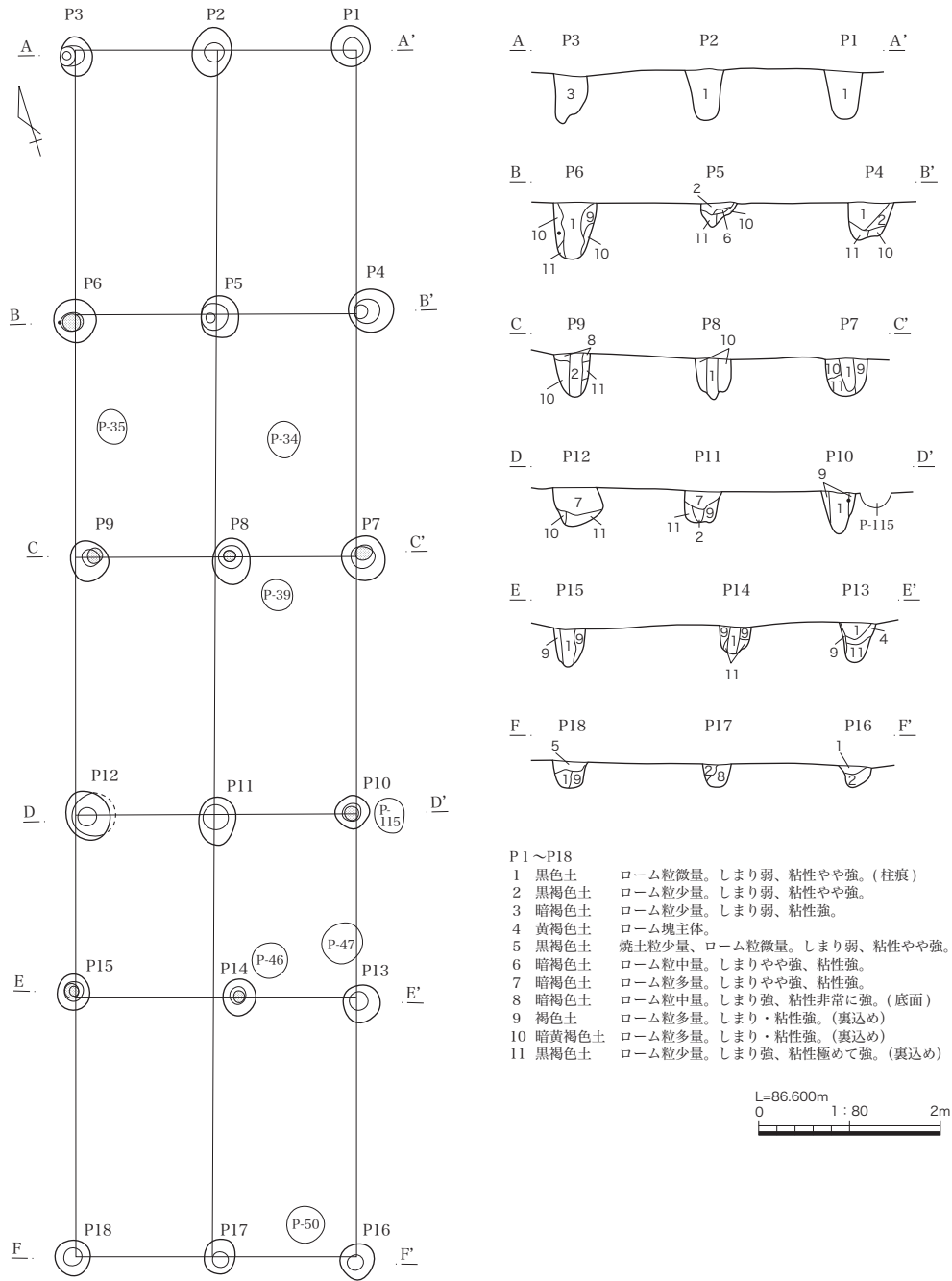
SB-106					
1a	黒色土	ローム粒微量。しまり弱、粘性やや強。(柱痕)	2c	暗褐色土	ローム粒中量。しまり強、粘性極めて強。(底面埋戻し)
1b	黒褐色土	ローム粒少量。しまり弱、粘性やや強。	3a	褐色土	ローム粒多量。しまり・粘性強。(裏込め)
1c	暗褐色土	ローム粒少量。しまり弱、粘性強。	3b	暗褐色土	ローム粒中量。しまり・粘性強。(裏込め)
2a	暗褐色土	ローム粒中量。しまりやや強、粘性強。	3c	暗黄褐色土	ローム粒多量。しまり・粘性強。(裏込め)
2b	暗褐色土	ローム粒多量。しまりやや強、粘性強。	3d	黒褐色土	ローム粒少量。しまり強、粘性極めて強。(裏込め)

第178図 西刑部西原遺跡3区 SB-106 実測図・出土遺物

P18（径約 38 cmの円形、深さ 28 cm）がある。

このうち、P6～P10・P14・P15の計6本から柱痕が確認された。P16～18の柱穴は他と較べやや浅めである。断面から想定される柱の太さは13～20cmほどである。遺物 遺物は確認されなかったため本建物の明確な時期は不明である。北に位置するSB-106とは重複はしていないが、若干主軸方向が違う点、双方が近接し過ぎている点など、若干の時期差をもつ可能性もある。

備考 桁行の柱間寸法に極端な差異がある。これについてはP1からP12を「桁行3間×梁行2間の南北棟総柱式建物」とし、P13からP18を「桁行1間×梁行2間の側柱式建物」の2つに分割するという解釈も成り立つものと考えられる。

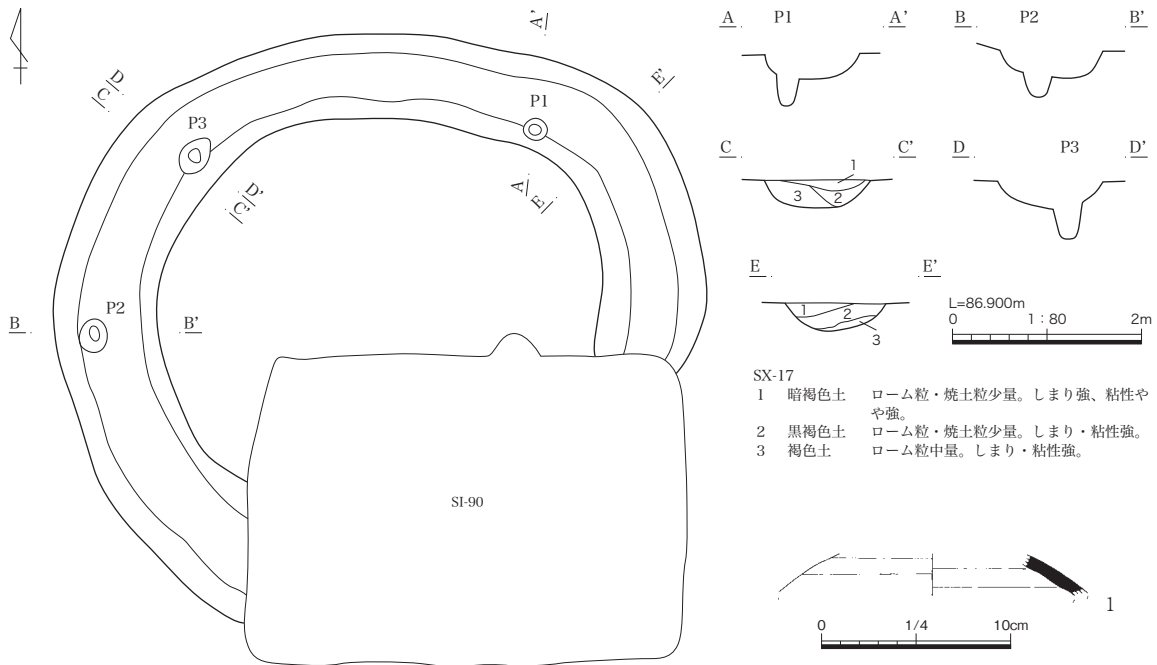


第179図 西刑部西原遺跡3区 SB-114 実測図

3. 円形周溝遺構

3区 SX-17 (遺構・遺物：第180図、図版二五)

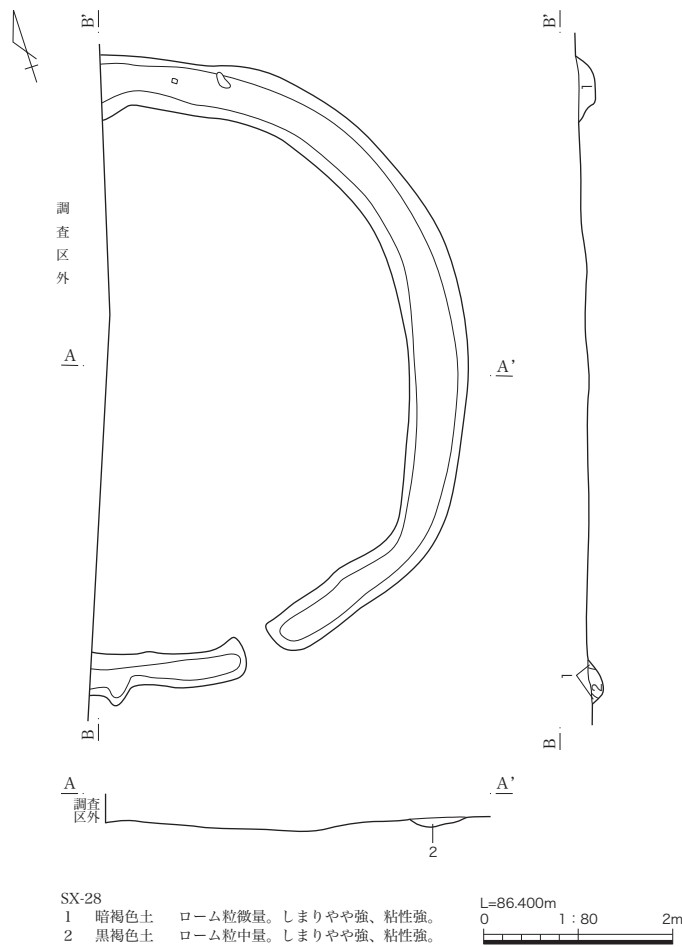
位置 グリッド 89.5-50.5・89.5-51.0 重複遺構 古墳時代終末期の竪穴建物跡 SI-90 より古い。 規模・平面形 長径：外 6.98 m：内 4.8 m、短径：外推定 6.3 m：内推定 4.2 m、上幅 86～116 cmの不整な楕円形。 覆土 自然堆積 壁・断面形 壁高は 23～31 cm、断面形はカマボコ状。 底面 概ね平坦。 ピット P1 (径 22 cm、深さ 25 cm)、P2 (径 30～42 cm、深さ 18 cm)。 P3 (径 30～37 cm、深さ 29 cm) の計 3本が確認されたが柱痕は確認できなかった。 遺物 覆土中から 1 の須恵器長頸瓶肩部の破片が出土したが、混入品の可能性あり。 竪穴建物跡の時期及び切り合いから判断すると古墳時代後期の可能性が高い。



第180図 西刑部西原遺跡3区 SX-17実測図・出土遺物

第68表 3区 SX-17出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	須恵器長頸瓶	高 [2.2] 径 (16.2)	内外面ロクロナデ。肩部外面回転ヘラケズリカ。	内外面とも 7.5Y6/1 灰	やや緻密、灰・白・黒細砂、灰・白砂、白礫 焼成：やや硬質	覆土中	肩部 1/6



3区 SX-28 (遺構・遺物：第181図、図版二五)

位置 グリッド 86.0-50.0・86.5-50.0 重複遺構 無し。規模・平面形 長径：外 6.8：内 5.6 m、短径：外 3.8 m以上の円形を呈すると思われるが、西半部が調査区外の為不明瞭。溝の上幅は 0.38～0.64 mと南部が狭い。覆土 自然堆積と考えられる。

壁・断面形 壁高は深さ 6～20 cm残るのみである。南部は極めて浅いが、周溝が途切れる部分は確認面の高さに起因するものと考えたい。底面 底面は概ね平坦で、ピットなどは確認できなかった。遺物 確認された遺物は極めて少なく、床面直上の遺物もない。覆土中から土師器坏小破片 1点が出土したのみである。土器は古墳時代終末期の特徴をもつ。

第181図 西刑部西原遺跡3区 SX-28 実測図・出土遺物

第69表 3区 SX-28 出土遺物観察表

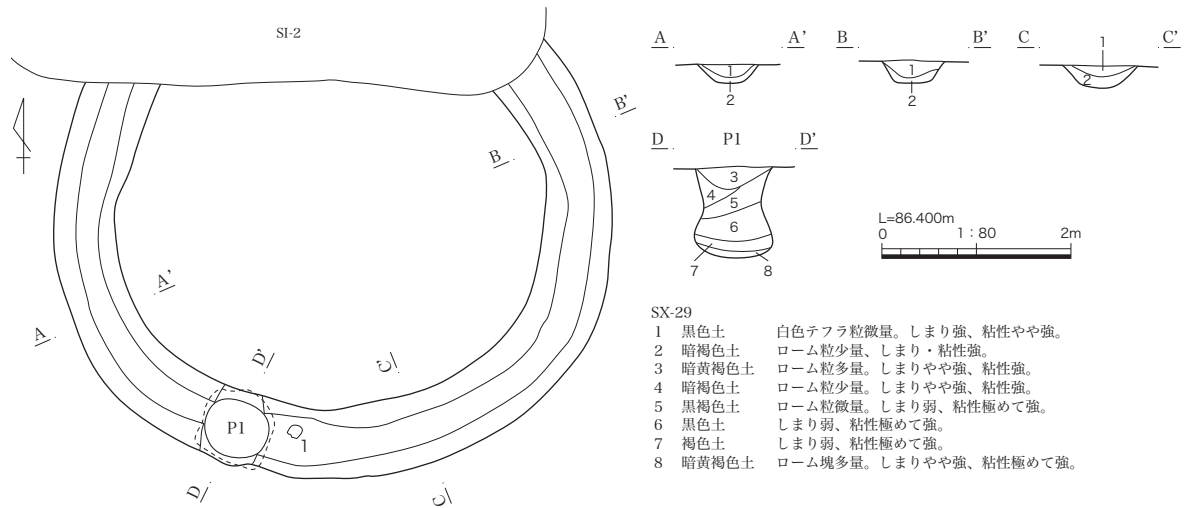
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器坏	口 [16.1] 高 [1.9]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内：10YR7/2 にぶい黄橙 外：10YR3/1 黒褐	やや緻密、白・黒細砂、透明・灰・白砂 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 1/10

SX-29 (遺構：第182図、遺物：第183図、図版二五)

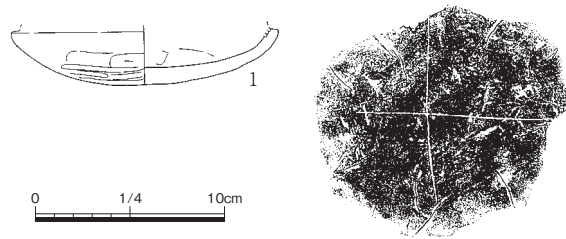
位置 グリッド 86.5-50.5・86.5-51.0 重複遺構 北部を奈良時代の竪穴建物跡 SI-2 に切られる。規模・平面形 長径：外約 5.84 m：内 4.42 mの円形を呈するものか。覆土 黒色土及び暗褐色土主体の2層からなる自然堆積と考えられる。壁・断面形 壁高は 20～24 cmほどで、断面形は逆台形を呈する。底面 概ね平坦。ピット 南部にある P1 (1辺 70 cm四方、底面からの深さ 74 cm) は柱痕などは確認できなかった。遺物 南部の床面付近から古墳時代後期末～終末期の土師器坏が出土、本遺構に伴うものと考えられる。

第70表 3区 SX-29 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器坏	高 [3.0]	体部内面ヘラナデのちナデか。体部外面ヘラケズリのちヘラナデ及びヘラミガキ。底部外面焼成前の線刻あり。	内外面とも 10YR5/4 にぶい黄褐	やや緻密、白・灰黒細砂、黒・白砂、雲母 焼成：やや硬質	No.1 9.6	口縁部欠損、体部～底部 4/5

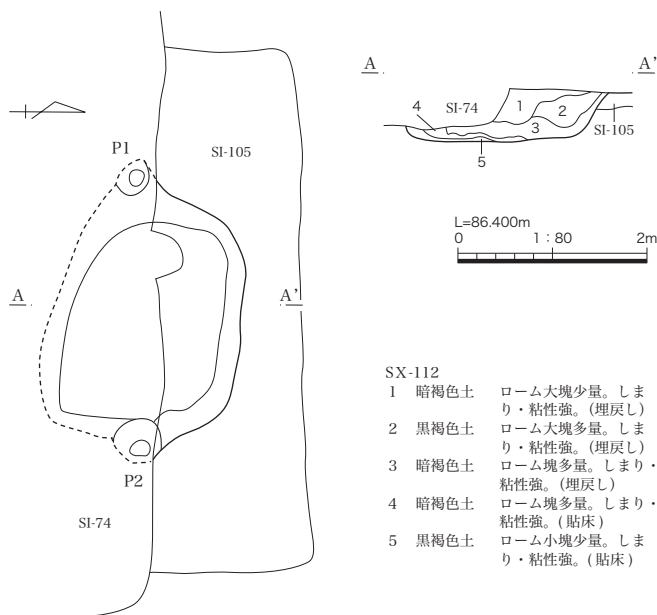


第182図 西刑部西原遺跡3区 SX-29 実測図



第183図 西刑部西原遺跡3区 SX-29 出土遺物

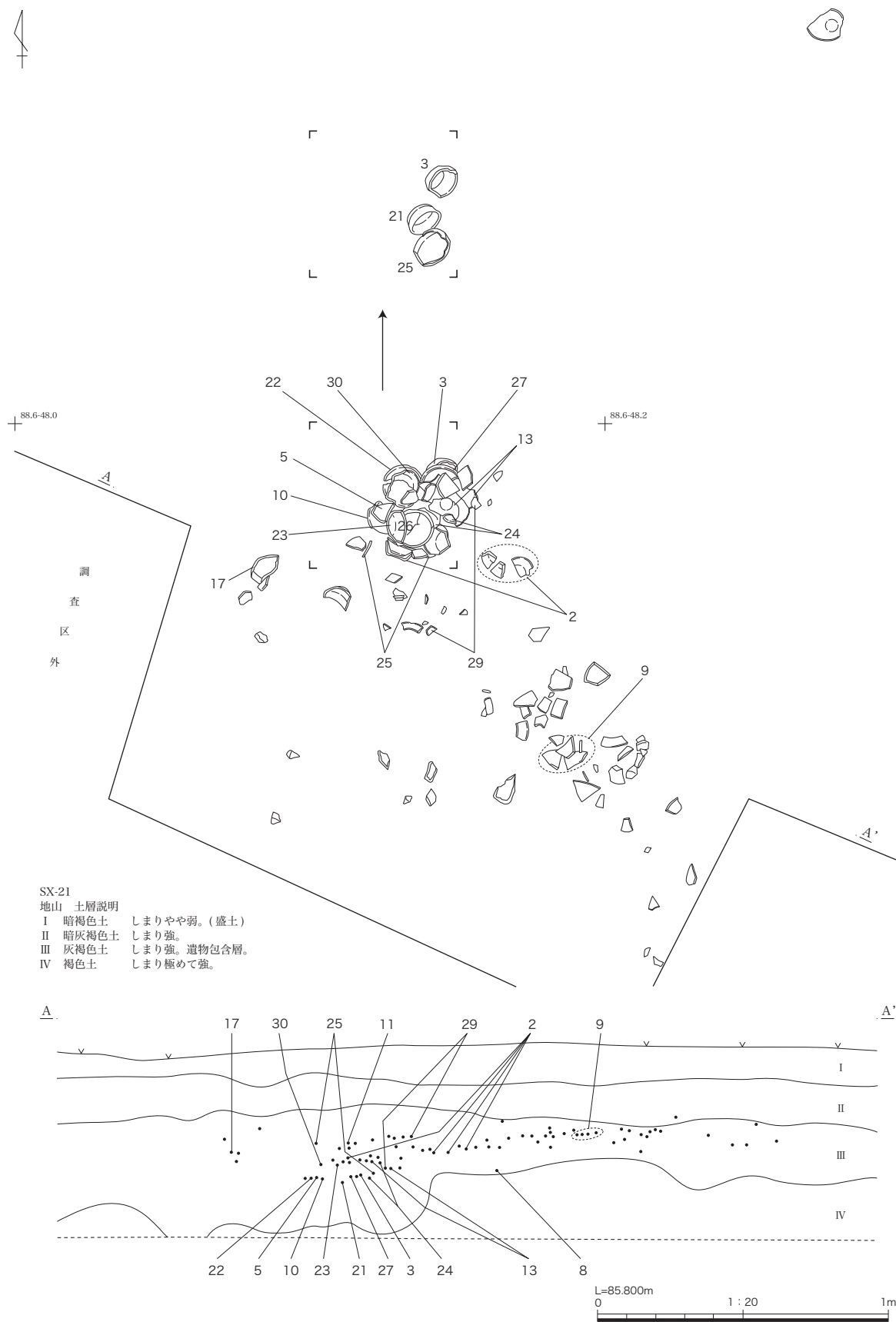
4. 性格不明遺構



第184図 西刑部西原遺跡3区 SX-112 実測図

3区 SX-112 (遺構：第184図)

位置 グリッド 86.5-51.5 重複遺構 古墳時代終末期の建物跡 SI-74 より古く、時期不明の建物跡 SI-105 より新しい。規模・平面形 長径 3.14×短径 2.07 m の不整な隅丸長方形。覆土 人為埋戻しか。壁・断面形 壁高は 58 cm 残る。底面 ローム面を床面とし、概ね平坦 ピット P1 (径 30 ~ 40 cm、深さ 34 cm)、P2 (径約 52 cm、深さ 12 cm) の 2 本を確認。遺物 確認できなかった。備考 形状は中世の方形竪穴遺構に似るが、SI-74 より古いため、古墳時代後期頃の建物跡と考えたい。



第185図 西刑部西原遺跡3区 SX-21 実測図



第186図 西刑部西原遺跡3区 SX-21 出土遺物

3区 SX-21 (遺構：第185図、遺物：第186図、図版二五・九四・九五)

位置 グリッド 88.5-48.0 重複遺構 無し。 規模・出土状況 3区表土除去中に検出された遺物集中地点で、南北約 3.5 m、東西約 2.3 mの広がりをもつが、明確な平面プランやピットなどは確認できなかった。

覆土 遺物は地表から約 25 cm下の暗灰褐色土中にあり、遺物包含層は 20 cm前後の厚さに及ぶ。 遺物 出土遺物は殆どが土師器の小型平底坏(粗製坏)で、大部分が口径 10～12 cmの間に収まる。形態を大まかに分類すると、比較的底径の広いもの(1～5)、底径の小さいもの(6～20)、丸底気味のもの(21～22)などがある。この他 24～26 はやや大型の粗製坏だが、いずれも内面にはヘラミガキによる乾燥段階でのヒビ割れ補修跡が見られる。この他 27～29 のような、集落で通常使用される模倣坏も含まれる。また、厚手の小型鉢(30・31)や、土師器甕(32)、甑(33・34)、須恵器甕破片(35・36)などが少量出土している。37 は円面硯の脚部小破片である。混入品と考えられるが希少な資料であるため掲載した。また本遺物は3区遺構外出土遺物(6)と同一個体と考えられる。 出土状況 これら主体となる土師器粗製坏類は、出土状況図にもあるように数枚を上向きに重ねて一か所に遺棄した状況も認められる。すべての遺物がこのように置かれたとは断定できないが、これら遺物が後世において攪乱され散在した可能性が高いと思われる。祭祀的な意味合いの強い遺構と考えたい。不掲載遺物は小コンテナ1箱強あり、その殆どが粗製坏で占められている。遺物から本遺構は古墳時代後期末葉に帰属するものと考えられる。

第71表 3区 SX-21 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技 法 ・ 特 徴	色 調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	土師器粗製坏	口 (9.8) 底 7.0 高 4.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデのちヘラミガキ。体部外面ナデ。底部外面ナデ。内外面漆仕上げ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、白細砂、黒・白砂 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 1/2、 底部完存
2	土師器粗製坏	口 10.2 高 4.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデのちナデ。体部外面ナデ。底部外面ナデ。内面一部に黒斑あり。	内：7.5YR7/8 黄橙 外：7.5YR7/6 橙	やや緻密、黒・白細砂、灰色・黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.3・18 床直 (No.3)	口縁部 2/3、 体部～底部一部欠損
3	土師器粗製坏	口 (10.0) 高 4.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面指頭押圧及びナデ。底部外面ナデ。口縁部内外面 1/4 ほどに黒斑あり。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや粗い、灰色・黒・白・赤粒細砂～粗砂 焼成：軟質	No.77 17.7	口縁部 1/2、 底部完存
4	土師器粗製坏	口 10.5 底 8.0 高 4.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面指頭押圧のちナデ。底部外面ナデ。	内：7.5YR7/6 橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、白・灰・黒細砂、白砂、赤粒 焼成：やや硬質	覆土中	ほぼ完存
5	土師器粗製坏	口 11.0 底 7.0 高 5.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデのちナデ。体部外面ナデ及び指頭押圧。底部外面ナデ。歪みは大きい丁寧なつくり。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、黒粗砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.16 -7.3	ほぼ完存
6	土師器粗製坏	口 9.2 底 4.6 高 4.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面指頭押圧及びナデ。底部外面ナデ。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・黒細砂、黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	覆土中	ほぼ完存
7	土師器粗製坏	口 10.5 底 5.8 高 4.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面指頭押圧のちナデ。底部外面ナデ。内面黒色処理か。	内：5YR7/4 にぶい橙 外：5YR7/6 橙	やや緻密、白・黒細砂、黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 3/4、 底部完存
8	土師器粗製坏	口 10.4 底 4.2 高 4.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデのちナデ。体部外面指頭押圧のちナデ。底部外面ナデ。(一部敷物圧痕か)。歪みが非常に大きく、つくりは雑。	内：7.5YR7/4 にぶい橙 外：7.5YR8/6 浅黄橙	やや緻密、黒・白・細砂～粗砂・赤粒 焼成：やや軟質	No.1 19.4	口縁部 3/8、 底部完存
9	土師器粗製坏	口 (12.0) 高 4.6 底 7.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデのち縦位の深めの強いナデ(亀裂などの補修痕か)。内面ヘラナデ。底部外面ナデ及び敷物状の圧痕か。	内：5YR6/6 橙 外：5YR5/4 にぶい赤褐	やや緻密、黒・白・赤細砂 焼成：やや硬質	No.58 3.0	口縁部破片、 底部完存
10	土師器粗製坏	口 10.7 底 4.8 高 5.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデのちナデ。体部外面指頭圧痕及びナデ。底部外面ナデ。雑なつくり。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密、白・灰色・黒細砂、白砂・赤粒 焼成：やや軟質	No.26 2.7	口縁部 5/8
11	土師器粗製坏	口 9.8 底 4.3 高 5.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面指頭圧痕のちナデ。底部外面ナデ。歪みの大きい土器。胎土はきめ細かい。	内外面とも 7.5YR 橙	緻密、黒細砂～粗砂、赤色細砂～粗砂 焼成：やや軟質	No.17、西 34.2	ほぼ完存
12	土師器粗製坏	口 (10.8) 底 5.0 高 4.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。外面体部指頭圧痕及ナデ。底部外面ナデ。	内外面とも 7.5YR7/4 にぶい橙	やや緻密、白・黒細砂、黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 1/2、 底部完存
13	土師器粗製坏	口 (11.8) 高 4.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデのち一部ミガキ。体部外面指頭押圧及びナデ。底部外面ナデ。内面黒色処理。	内：7.5YR2/1 黒 外：7.5YR6/6 橙	やや粗い、白・黒細砂～粗砂、赤粒 焼成：やや軟質	No.3・8・ 10・13 床直	口縁部 3/8、 底部完存
14	土師器粗製坏	口 12.0 底 6.0 高 5.6	口縁部内外面弱いヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面指頭押圧のちナデ。底部外面ナデ。口縁部外面一部ヒビ割れを補修したナデが明瞭に残る。	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR8/6 浅黄橙	やや緻密、白・黒細砂、赤粒 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 1/2、 底部完存

第3章 発見された遺構と遺物

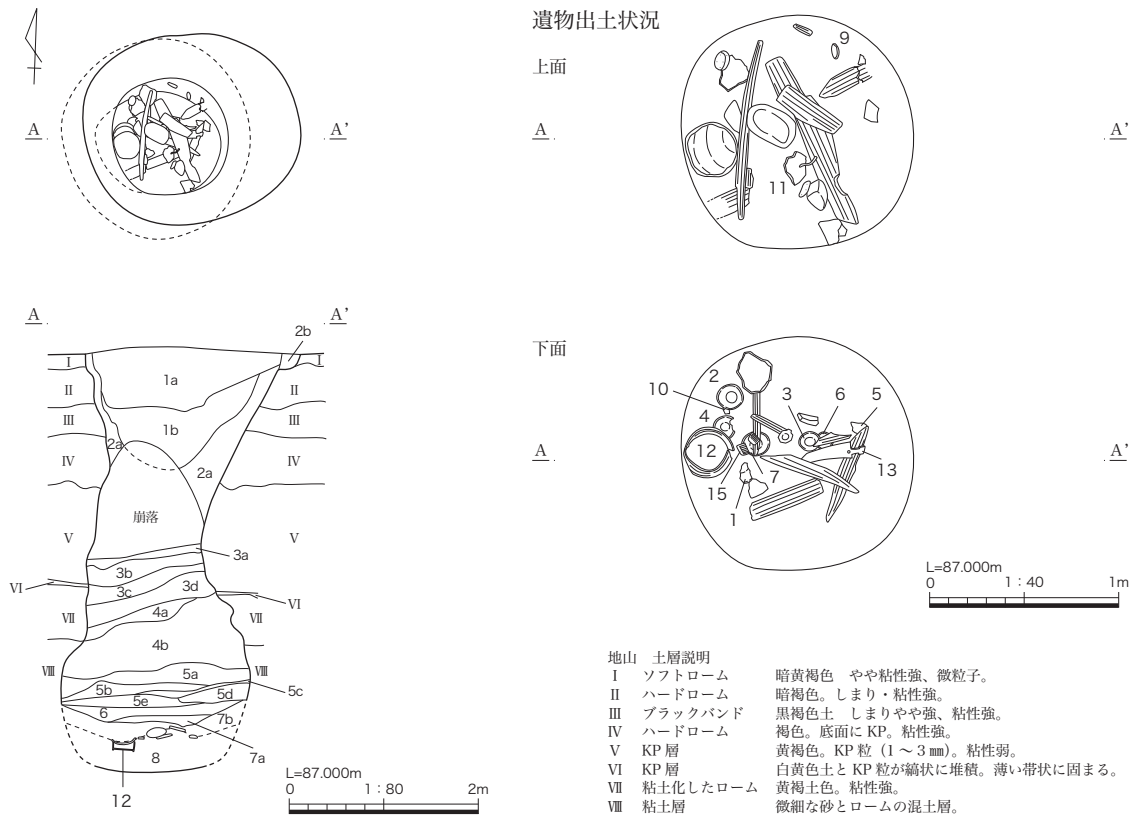
15	土師器 粗製坏	口 底 高	9.2 4.0 5.2	口縁部外面ヨコナデ。口縁部～体部内面ヘラナデ。体部外面指頭押圧及びナデ。底部外面ナデ。内面黒色処理。口縁部外面接合痕顕著。内面は外面より丁寧な仕上げ。	内：7.6YR6/6 橙 外：7.6YR7/6 橙	やや緻密、透明・白・灰色・赤細砂～礫 焼成：やや軟質	覆土中	口縁部1/4、 底部完存、 体部4/5
16	土師器 粗製坏	口 底 高	10.1 5.4 5.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ナデ。口縁～体部内面黒色処理か。底部外面ナデ。口縁部やや歪む。	内：10YR7/6 明黄褐 外：10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、白・黒細砂、 黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	覆土中	ほぼ完存
17	土師器 粗製坏	口 高 底	(10.8) 6.0 5.5	口縁部内外面弱いナデか。体部外面ナデ及び指頭押圧。体部～底部内面ハケ目調整のち黒色処理か。底部外面ナデ。	内：5Y2/1 黒 外：7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・灰細砂 焼成：やや硬質	No.31 1.1	口縁部1/8、 底部完存、 体部1/3
18	土師器 粗製坏	口 底 高	11.3 5.6 5.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面指頭押圧のちナデ。底部外面ヘラナデか。一部植物(ワラカ)圧痕あり。全体的に歪む。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、黒・白細砂、 透明・黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	覆土中	ほぼ完存
19	土師器 粗製坏	口 底 高	13.0 4.7 6.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面指頭圧痕及びナデ。口縁部接合痕。つくりは簡素で歪みが大きい。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・灰色粗砂 焼成：やや硬質	覆土中	ほぼ完存
20	土師器 粗製坏	口 底 高	12.1 5.0 4.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面指頭押圧及びナデ。底部外面ナデ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・黒細砂、灰・ 黒・白砂、赤粒 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部1/2、 底部完存
21	土師器 粗製坏	口 高	9.1 4.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ後ヘラミガキ。体部外面指頭圧痕のちナデ。底部外面ナデ。内外面漆仕上げ。ヘラミガキは雑で不定期方向に施す。ヒビ割れを補うための可能性あり。	内外面とも 5YR7/6 橙	やや緻密、白・黒・灰色 細砂、灰色砂、黒砂 焼成：やや軟質	No.76 15.2	ほぼ完存
22	土師器 粗製坏	口 高	9.8 4.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面指頭押圧及びナデ。底部外面ナデ。体部外面～内面黒色処理。	内：7.5YR4/1 褐灰 外：7.5YR7/4 にぶい橙	やや緻密、白・黒粗砂、 砂赤粒 焼成：やや軟質	No.14 床直	ほぼ完存
23	土師器 坏	口 高	12.4 4.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキのち黒色処理。体部外面ヘラケズリ。内面漆仕上げ。	内：7.5YR8/6 浅黄橙 外：10YR5/2 灰黄褐	やや緻密、白粗砂～礫、 赤粒 焼成：やや硬質	No.15 1.2	口縁部3/4、 底部3/4
24	土師器 坏	口 高	12.5 4.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部～底部外面ナデ及び指頭押圧。内面に僅かな黒色の付着物あり。底部内面にはヒビ補修のヘラミガキが見られる。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、黒・白細砂、 黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.22 14.3	口縁部2/3
25	土師器 坏	口 底 高	(12.6) 7.0 4.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ナデ及び指頭圧痕。底部外面ナデ。底部内面は乾燥時のヒビ補修のヘラミガキあり。	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR8/6 浅黄橙	やや粗い、黒粗砂・赤粒 焼成：やや軟質	No.24・75 床直	口縁部1/2、 底部完存
26	土師器 坏	口 底 高	13.9 5.8 5.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部画面ナデのち指頭押圧。底部外面ナデ。内面黒色処理か。底部内面焼成前のヒビ割れを補修したミガキあり。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	緻密、白色細砂 焼成：硬質	No.21 8.6	完存
27	土師器 坏	口 高	14.0 4.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面ヘラケズリ内外面漆仕上げ。通常品と同じつくり。	内：7.5YR7/6 橙 外：2.5YR5/8 明赤褐	緻密、白色細砂、赤粒礫 焼成：やや硬質	No.11 床直	完存
28	土師器 坏	口 高	(14.8) 5.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラケズリのちナデか。内外面漆仕上げ。通常品と同じつくり。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・黒細砂、 白砂、赤粒 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部1/4、 体部～底部 2/5
29	土師器 坏	口 高	15.6 4.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面指頭押圧のちナデのちヘラケズリ。口縁部外面～内面は漆仕上げか。通常品と同じつくり。	内外面とも 2.5YR5/6 明 赤褐	やや粗い、黒・白・灰色 粗砂～礫 焼成：やや硬質	No.10 床直	口縁部3/4、 底部完存
30	土師器 小型鉢	口 底 高	9.7 4.7 7.4	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラナデ。底部外面ナデ。内面黒色処理。	内：7.5YR2/1 黒 外：2.5YR8/6 浅黄橙	緻密、灰色細砂、黒礫、 赤粒 焼成：軟質	No.13、表 採、西 床直	ほぼ完存
31	土師器 小型鉢	口 底 高	8.3 5.9 7.0	口縁部内外面ヨコナデ。頸部内面ヘラケズリ。体部内面ヘラナデのち放射状の雑なヘラケズリのちヘラミガキ。底部外面ナデのちヘラケズリ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、黒・白細砂、 黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	覆土中	完存
32	土師器 甕	口 高	(13.6) [6.8]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ナデか。口縁部～胴部一部に黒斑あり。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや粗い、赤粒、白・灰 色細砂～礫 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部1/6、 口縁～胴部 1/6
33	土師器 甕	高	[5.7]	胴部外面タテヘラケズリのち下端部ナメヘラケズリ。胴部内面ナメヘラケズリのちヘラミガキ。孔はヘラケズリ。	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR8/6 橙	やや粗い、灰色・黒・赤 粗砂～礫 焼成：軟質	覆土中	胴部～底部 破片
34	土師器 甕	口 高	(18.0) [6.1]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面タテ位の軽いナデ。胴部外面ナメ及びタテのナデ。	内：7.6YR6/6 橙 外：7.6YR7/6 橙	やや粗い、白・黒・赤粗 砂～礫 焼成：硬質	覆土中	口縁部2/5
35	須恵器 甕	底	[5.8]	胴部内面同心円あて具痕。胴部外面格子叩きのちカキ目痕。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや粗い、白・黒粗砂～ 礫 焼成：硬質	覆土中	胴部破片
36	須恵器 甕	底	[8.0]	胴部内面同心円あて具痕。胴部外面格子目。	内：5YR6/6 橙 外：5YR7/6 橙	やや緻密、黒細砂 焼成：硬質	覆土中	胴部破片
37	須恵器 円面硯	厚	[5.5]	透脚の陶硯。方形と考えられる透かしの一部とタテ位(ややナメ)沈線の一部が残る。外面には霜降り状の自然釉が若干付着。3区遺構外No.6 と同一個体。	内外面とも 7.5YR4/2 灰 褐	やや緻密、白・灰細砂 焼成：硬質	覆土中	脚部破片

5. 井戸

3区 SE-23 (遺構：第187図、遺物：第188・189図、図版二六・九五～九七)

位置 グリッド 92.0-52.0 重複遺構 無し。 規模・形態 開口部は長径 2.24～短径 2.0 mの楕円形を呈する素掘の井戸。中央部で細く括れた後、オーバーハングし底部に至る。 壁高 確認面から 4.43 m 底面 白色粘土層 (Ⅷ層) 中まで掘り込む。 覆土 概ね自然堆積と考えられるが、壁面からの崩落土も随所に確認される。底面付近の 7a 層及び 7b 層から土師器・須恵器などの土器類と共に多くの自然遺物が出土した。

遺物 1～7は墨書が見られる坏類。1の底部外面の墨書は薄く不明瞭だが「来」の可能性が高い。2～6は体部及び底部外面に「来」の墨書が確認できる。7の体部外面には3文字の墨書が確認できる。8・9の高台付坏のうち、8の底部外面墨書は薄く判読不能。10は唯一確認された土師器甕破片。12～15は木製品。12はヒノキ製の曲物(桶)。円筒形に曲げた側板は樺皮紐で綴じており、嵌め込んだ底板は側面から木釘で打ち付けて固定している。直径は 20 cm弱、高さ 10.5 cm。13はアカガシ製の居木である。4枚居木の右端



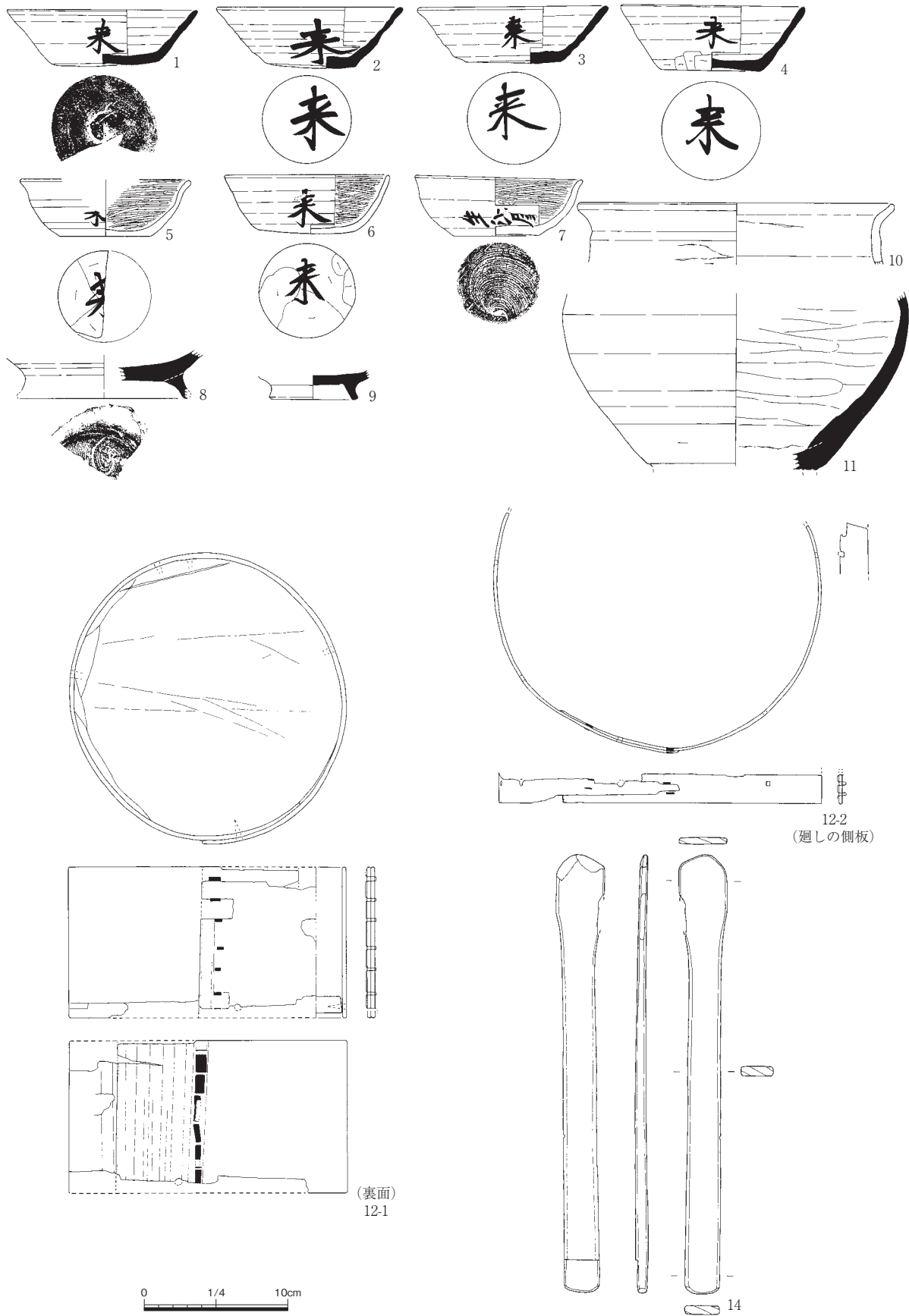
地山	土層説明	色	特徴
I	ソフトローム	暗黄褐色	やや粘性強、微粒子。
II	ハードローム	暗褐色	しまり・粘性強。
III	ブラックバンド	黒褐色土	しまりやや強、粘性強。
IV	ハードローム	褐色	底面に KP。粘性強。
V	KP 層	黄褐色	KP 粒 (1～3mm)、粘性弱。
VI	KP 層	白黄色土と KP 粒	が縞状に堆積。薄い帯状に固まる。
VII	粘土化したローム	黄褐色土	粘性強。
VIII	粘土層		微細な砂とロームの混土層。

SE-23	土層説明	色	特徴
1a	ローム粒・白色テフラ粒・焼土粒微量。しまり・粘性強。(SI 覆土に似る)	暗褐色土	
1b	ローム粒少量、白色テフラ粒・KP 粒・焼土粒微量。しまり・粘性強。(SI 覆土に似る)	褐色土	
2a	ローム粒多量、KP 粒少量。しまり・粘性強。	明褐色土	
2b	ローム粒中量。しまり・粘性強。	明褐色土	
3a	ローム粒中量。しまりやや強、粘性極めて強。	黒色土	
3b	ローム塊・KP 塊主体。しまりやや強、粘性強。	黄色土	
3c	ローム塊・KP 塊多量。しまりやや強、粘性強。	黄褐色土	
3d	ローム粒中量、焼土粒微量。しまりやや強、粘性極めて強。	黒色土	
4a	ローム塊主体。KP 塊少量。しまり・粘性弱。(崩落著しい)	黄褐色土	
4b	ローム塊多量。しまりやや強、粘性弱。(堆積粗い)	黄色土	

5a	黒色土	ローム塊多量。しまりやや強、粘性極めて強。
5b	黄褐色土	KP 塊主体。ローム塊多量。しまり・粘性やや強。(酸化した KP 壁面の崩落)
5c	褐色土	ローム粒中量。しまり・粘性やや強。
5d	淡褐色土	ローム粒・粘土塊多量。しまり・粘性やや強。
5e	褐色土	ローム粒多量。しまりやや強、粘性強。
6	暗灰色土	砂多量。しまりやや強、粘性強。
7a	暗褐色土	しまりやや強、粘性強。
7b	黒褐色土	しまりやや強、粘性強。
8	灰色砂	灰色砂多量。しまりやや強、粘性強。(遺物は 7b 層の下、8 層中間に多い)

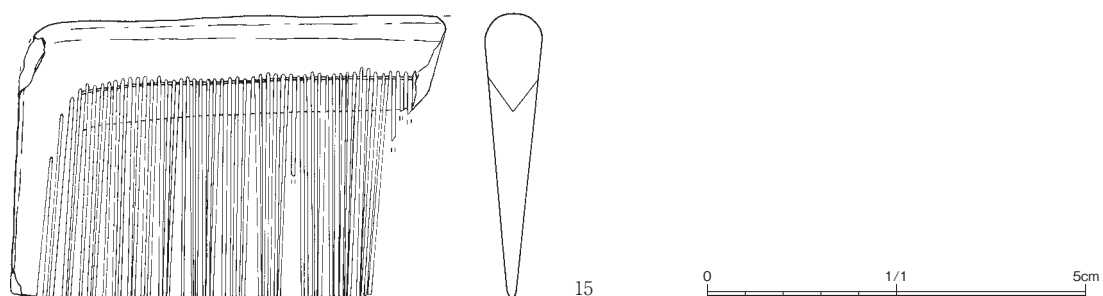
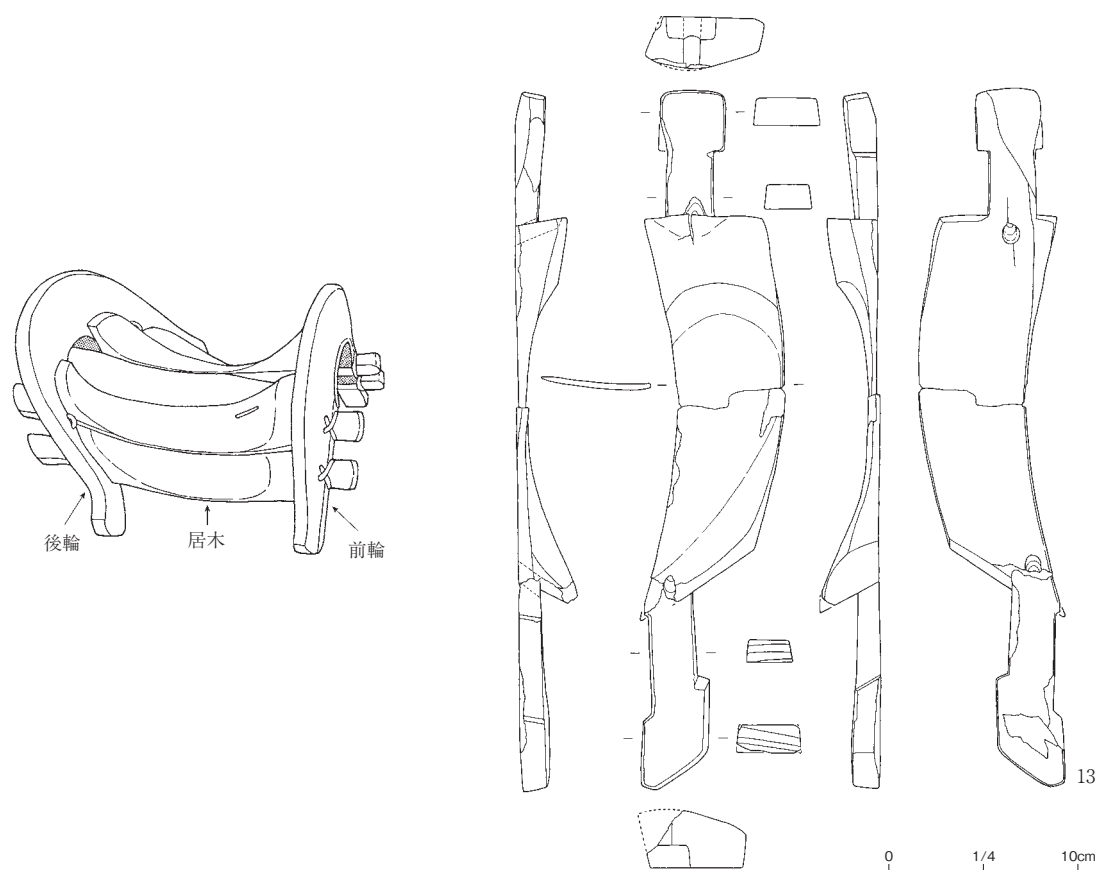
※4a,4b に VII と V が落下 5a～e は VII の崩落土大量混入。

第187図 西刑部西原遺跡3区 SE-23 実測図



0 1/4 10cm

第188図 西刑部西原遺跡3区 SE-23 出土遺物(1)



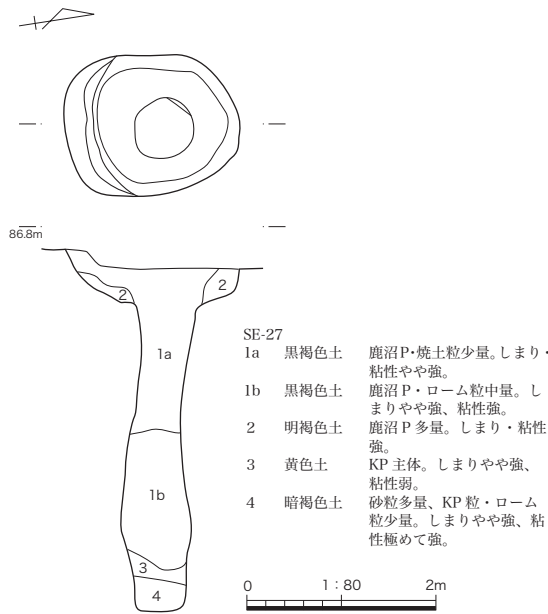
第189図 西刑部西原遺跡3区 SE-23 出土遺物(2)

の1枚で、ほぼ完存している。前後に張り出した居木先は立体的に加工され、付け根には装着用の孔を穿つ。座面は曲面に削られ、中央部の厚さは5mm弱である。前後の居木先および右側面には黒色の漆が残っている。15はイスノキ製の横櫛、平面長方形を呈し、中央部より折損。櫛歯は約0.5mm間隔で挽き出される。14はヒノキ製の不明木製品。板状の木材の先端部を楕円形に加工する。基部には段差があり、何らかの部材と組み合わせて使用したことが想定される。土器類から本遺構は9世紀中葉の井戸と考えられる。なお本遺構の自然遺物および動植物遺存体については第5章で記載している。

第3章 発見された遺構と遺物

第72表 3区 SE-23 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技 法 ・ 特 徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 環	口 (13.0) 底 7.3 高 4.0	底部内面～体部外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切り・軽いナデ。体部外面のみに墨書「来」あり。かなり薄く判別はやや困難。体部及び底部外面の一部に僅かに鉄サビ付着。	内外面とも 7.5Y5/1 灰	やや粗い、白色粒やや少量、白礫少量、黒色（炭化物もしくは粘土）粒焼成：硬質	№ 31、底面 床直	口縁部 1/4、底部 3/4
2	須恵器 環	口 12.6 底 6.2 高 4.3	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。体部及び底部外面に墨書「来」あり。体部外面には鉄分付着。全体的にやや歪む。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：2.5Y5/1 黄灰	粗い、砂粒やや多量、白礫やや少量 焼成：やや硬質	№ 24 床直	完存
3	須恵器 環	口 12.8 底 6.5 高 3.9	底部内面～体部外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのち弱いナデ。体部及び底部外面に墨書「来」あり。体部外面鉄分付着。二次底部面あり。	内：7.5Y5/1 灰 外：5Y5/1 灰	やや緻密、白色砂粒やや多量、白礫少量 焼成：やや硬質	№ 27 床直	完存
4	須恵器 環	口 12.6 底 6.9 高 4.6	底部内面～体部外面ロクロナデ。体部外面下端(手もち)ヘラケズリ。底部外面(一方向)ヘラケズリ(ヘラ切り)。体部及び底部外面に墨書「来」あり。外面に鉄分付着(井戸出土のため)。内面漆付着か。あるいは鉄分か。新治産。	内：7.5YR5/4 にぶい褐 外：10YR6/4 にぶい黄橙	やや緻密、白粒砂粒及び黒色粒（炭化物あるいは粘土状のもの）少量 焼成：やや硬質	№ 25 床直	口縁部 3/4、底部 完存、体部 3/4
5	土師器 環	口 (11.4) 底 (6.4) 高 4.0	底部内面～体部外面ロクロナデ。内面ヘラミガキのち黒色処理。底部外面ロクロナデのち手持ちヘラケズリ(多方向)。体部及び底部外面に墨書「来」。内面のヘラミガキは底部を密に一方向施したのち体部を磨く。井戸から出土したためか内面の黒色処理は光沢を残す。	内：N2/0 黒 外：10YR6/4 にぶい黄橙	やや緻密、砂粒少量、黒色ガラス質粒微量 焼成：やや硬質	№ 29 床直	口縁部一 部、底部 2/5、体部 1/3
6	土師器 環	口 11.1 底 6.6 高 4.1	底部内面～体部外面ロクロナデ。底部外面一方向ヘラ切りのち多方向ヘラケズリ。内面ヘラミガキのち黒色処理。底部内面ヘラミガキは密に一方向。体部及び底部外面に墨書「来」あり。井戸内出土のためか、内外面に鉄分付着。内面のミガキは光沢を帯び、いぶされた瓦のようである。	内：5Y3/1 オリーブ黒 外：5YR6/6 橙	やや粗い、砂粒やや少量、礫少量 焼成：やや軟質	№ 28 床直	口縁部一 部 欠損
7	土師器 環	口 11.4 底 5.7 高 4.2	底部内面～体部外面ロクロナデ。内面ヘラミガキのち黒色処理。底部のヘラミガキは一度一方向に密に施したのち斜行するように再度磨いている。底部外面回転糸切り。体部外面に「生□(氏か) □(屋か)」の墨書あり。文字部分は剥落および鉄分の付着により不鮮明な部分が多い。体部外面上半部は鉄分が多く沈着する。	内：2.5GY2/1 黒 外：2.5YR5/6 明赤褐	やや緻密、砂粒やや少量、礫少量 焼成：やや硬質	№ 30 床直	口縁部一 部 欠損
8	須恵器 高台付 環	高 [3.0]	内外面ロクロナデ。底部回転糸切りのち高台貼付。底部外面墨書あり(文字不明)。	内：5Y6/1 灰 外：2.5Y6/3 にぶい黄	やや緻密、白・灰細砂～粗砂 焼成：硬質	覆土中	底部～脚部 1/4
9	須恵器 高台付 環	胎 6.2	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのち高台貼付。体部下端～上を欠損するが、この部分の周辺を意図的に打ち欠いたようにみえる。ただし、硯などの転用の痕跡無し。本遺構出土遺物中、唯一墨書のない土器。	内：7.5Y6/1 灰 外：5YR6/3 にぶい赤褐	やや粗い、白色砂粒多量、雲母片やや多量 焼成：硬質	№ 3 床直	口縁部欠 損、底部ほ ぼ完存、体 部一部
10	土師器 甕	口 [22.0] 高 [4.2]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部上半ヘラケズリか。	内：10YR3/4 暗褐 外：5YR4/4 にぶい赤褐	やや緻密、白・灰細砂～粗砂 焼成：やや硬質	№ 38 1.2	口縁部破片
11	須恵器 短頸壺	高 [12.3]	胴部外面ロクロナデ。胴部内面ヘラナデ。体部外面調整不明、高台貼付のための接合沈線あり。	内：N7/0 灰 外：N5/0 灰	やや粗い、白・灰・黒細砂～礫 焼成：硬質	№ 2 1.2	口縁部破片
12	木製品 曲物	径 18.8-20.2 高 10.5 壁厚 1.2	全形が窺える曲げ物。厚さ 2～3mm の側板は円筒形に曲げ、樺皮紐で綴じる。樺皮紐は 1 列で、7 段階綴じ。上端部と下端部の止め方(内綴じか外綴じか)は不明。側板内面には曲げ易くするため縦位の掛引き線を施す。外面の掛引きは樺皮紐を通す際の目印か。楕円形の底板は底面から 3.0mm ほど浮いた状態で嵌め込まれる。木釘は 1 本のみ残るが、側面に 4 か所の釘跡あり。12-2 は「廻しの側板」で、上端または下端部に付属していた可能性が高い。	—	ヒノキ	№ 41	部分欠損
13	木製品 居木	長 37.0 幅 6.1 厚 [3.1]	鞍の座面にあたる居木。本来 4 枚あるうちの 1 枚で、最も右側の居木と考えられる。座面は曲面的に削っており、最も薄い中央部の厚さは 5.0mm 弱。前後に突出する居木先は、それぞれ前輪・後輪の切り込みに組み合わせ立体的に加工する。居木先の付け根には正面及び裏面から紐通し用の孔(径約 1.0cm)が穿たれ、両先端部には黒漆が塗られる。右側面一部にも漆が残る。	—	アカガシ	№ 16	完存
14	不明 木製品	長 30.8 幅 3.4 厚 0.9	薄い板状の木材を素材とし、先端部を楕円形状に加工する。緩やかにくびれ部の幅は 2.3cm。基部は若干丸みをもち、さらに直線的な段が付く。基部の幅約 2.5cm である。側面は隅丸の長方形を呈する。	—	ヒノキ	底面一括	部分残存か
15	木製品 櫛	長 [5.6] 幅 [3.7] 厚 0.8	平面長方形を呈する横櫛。背は極めて緩やかな弧状を呈しており、断面形は僅かに稜をもつが概ね半円形を呈する。肩部は若干丸みをもち、側縁部はやや開きながら直線的に延びる。櫛歯を挽く範囲を示す「切り通し線」は表裏両面に見られ、概ね背の形状に平行して罫書している。歯は計 49 本が残存しており、約 0.5mm 間隔で、両面から極めて精緻に挽き出している。15-2 は櫛の残り半分。乾燥してしまっただが、櫛歯の本数は 55 本確認できる。	—	イスノキ	№ 14・23	1/2

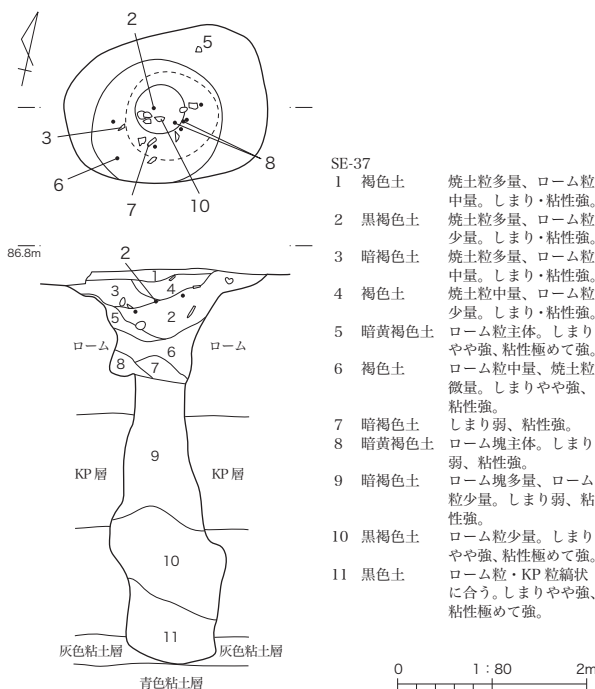


第190図 西刑部西原遺跡3区 SE-27 実測図

3区 SE-27 (遺構：第190図、図版二六)

位置 グリッド 88.0-51.0 重複遺構 重複遺構はないが、奈良時代の井戸 SE-37 と近接する。

規模・形態 有段の井戸。開口部は長軸 1.80 m、短軸 1.48 mの楕円形を呈し、深さは 54 cm。井筒部は径 47 ~ 75 cmの断面円筒形で、下半部に最大径をもつ。壁高 確認面からの深さ 3.8 m。底面 粘土化したローム層まで掘り込む。底面は平坦。覆土 底面付近は壁面(地山のローム土・鹿沼土) から崩落した混入土が多く自然堆積と考えられるが、その後堆積した黒色土(1a・1b層)は極めて短期間で埋没した可能性が高く人為埋戻しの可能性もある。開口部の鹿沼軽石を多量含む2層は井戸側を設置した際の裏込め土の可能性が有る。遺物 覆土中から殆ど遺物が確認できなかったため明確な時期は不明である。



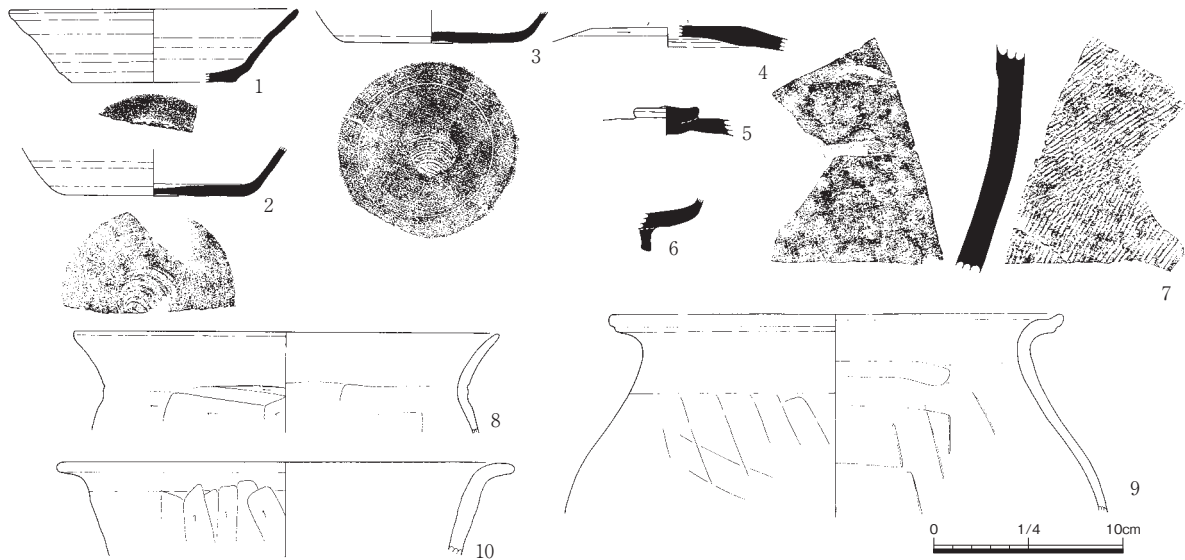
第191図 西刑部西原遺跡3区 SE-37 実測図

3区 SE-37 (遺構：第191図、遺物：第192図、図版二六)

位置 グリッド 87.5-50.5 重複遺構 重複遺構はないが、時期不明の井戸 SE-27 と近接する。

規模・形態 有段の井戸。開口部は長軸 2.11 ~ 短軸 1.57 mの不整な隅丸長方形で、深さ約 20 cmである。井筒部は径 50 ~ 110 cm。断面形は不整な円筒形で、下半部に最大径をもつ。

壁高 確認面からの深さ 4.14 m。底面 灰色粘土層まで掘り込む。底面はレンズ状を呈する。覆土 井筒部(9~11層)は短期間で堆積したものか。出土遺物も殆ど確認できない。これに対し上面の土層は不整合面を境にレンズ状に堆積し、遺物を多く含む。遺物 主に開口部付近の3~4層中から出土し、計9点を図示した。須恵器坏(1~3)・蓋(4・5)・高台付盤(6)・甕(7)のほか土師器甕(8・9)・甌(10)がある。遺物から奈良時代(8世紀中葉)の井戸と考えられる。



第 192 図 西刑部西原遺跡 3 区 SE-37 出土遺物

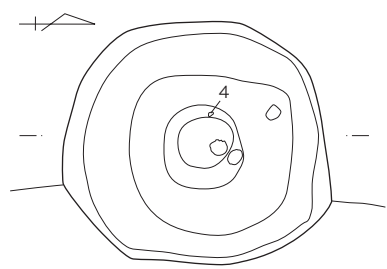
第 73 表 3 区 SE-37 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	須恵器 環	口 (15.0) 底 (8.6) 高 4.9	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切り。	内外面とも 5Y6/1 灰	やや緻密、灰・白・黒細砂、灰・白砂 焼成：やや硬質	上層	口縁部～体部 1/6
2	須恵器 環	底 9.0 高 [2.7]	内外面ロクロナデ。底部回転系切りのち外周回転ヘラケズリ。	内外面とも 5Y6/2 灰オリーブ	やや緻密、白・黒細砂、灰・白砂、白粒 焼成：やや硬質	No. 18 36.9	底部 1/2
3	須恵器 環	底 9.2 高 [1.7]	内外面ロクロナデ。底部外面回転系切りのち外周回転ヘラケズリ。	内：2.5Y8/1 灰白 外：5Y8/1 灰白	やや緻密、灰・白・黒細砂、白、黒砂 焼成：やや硬質	No. 21 36.2	体部 1/8、 底部完存
4	須恵器 蓋	高 [1.9]	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリのちツマミ貼付。	内：2.5Y7/1 灰白 外：5Y7/1 灰白	やや緻密、灰・白細砂、灰・白砂、白礫 焼成：やや硬質	6b 層	天井部破片、ツマミ欠損
5	須恵器 蓋	高 穴 [2.6] [3.2]	天井部回転ヘラケズリのちツマミ貼付。天井部内面指頭押圧。	内：2.5Y7/2 灰黄 外：2.5Y6/2 灰黄	やや緻密、白・灰砂、白・灰細砂、白礫少量 焼成：やや硬質	No. 11 40.2	ツマミ完存、天井部一部
6	須恵器 高台付 盤	底 (15.8) 高 [2.6]	内外面ロクロナデ。高台貼付。	内外面とも 5Y5/1 灰	やや緻密、白・灰細砂 焼成：やや硬質	No. 19 37.4	底部 1/6
7	須恵器 甕	厚 1.5	外面平行叩き。内面ヘラナデのち無文あて具痕。	内：5Y6/1 灰 外：7.5Y5/1 灰	やや緻密、白・灰細砂、白砂、白礫 焼成：やや硬質	No. 9 40.0	胴部破片
8	土師器 甕	口 (17.7) 高 [4.9]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヨコヘラケズリ。	内：5YR6/6 橙 外：7.5YR6/6 橙	やや緻密、白・灰・黒細砂・白砂、赤粒 焼成：やや硬質	No. 6 40.0	胴上半部～ 口縁部 1/6
9	土師器 甕	口 (23.6) 高 [10.4]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ナデ。頸部内面強めのヘラナデ。胴部中位(破片下端部)黒色付着物。ススカ。	内：10YR7/6 明黄褐 外：7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・透明・灰砂、白・灰・黒細砂、白雲母、赤粒少量 焼成：やや硬質	6b 層	口縁部～胴部上半 1/4
10	土師器 甕	口 (23.4) 高 [4.4]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ。外面黒斑あり。	内外面とも 2.5YR5/6 明赤褐	やや緻密、黒・白・灰細砂、白・黒砂、黒色ガラス質粒子 焼成：やや硬質	No. 16 38.0	胴上半部～ 口縁部 1/6

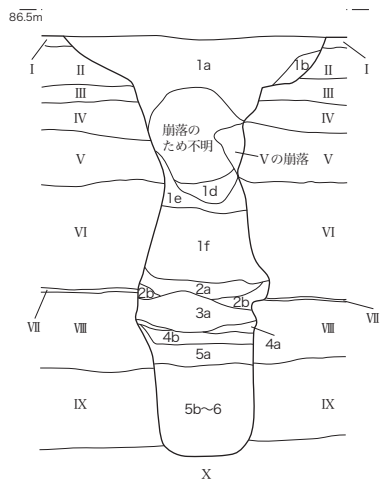
3 区 SE-75 (遺構・遺物：第 193 図、図版二七・九七・一一三)

位置 グリッド 86.5-51.5 重複遺構 SI-74 より新しい。 規模・形態 有段の井戸。開口部は長軸 2.80×短軸 2.50 m 以上の隅丸長方形を呈し、深さ約 56 cm。井筒部は径 80～100 cm の断面円筒形で、下半部は崩落したものか。 壁高 確認面からの深さ 4.8 m。 底面 礫層(地山の X 層)まで掘り込む。底面は平坦。

覆土 井筒部は厚めの土層と薄い土層が混在するが、自然堆積と考えられる。開口部はローム塊を多量含



SI-74

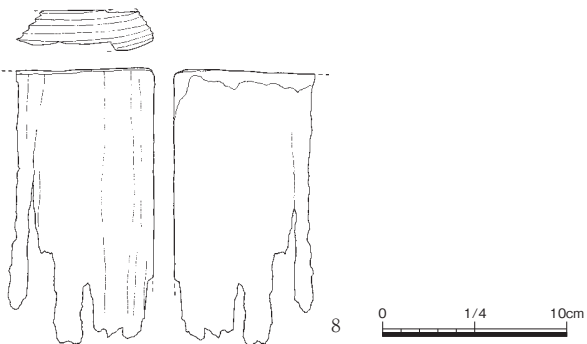
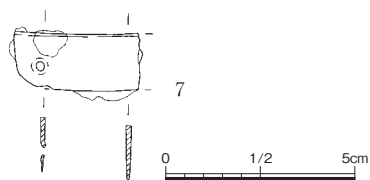
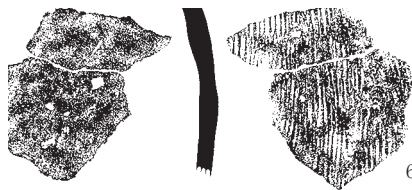
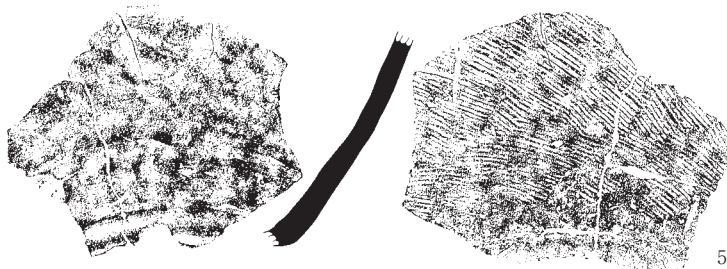
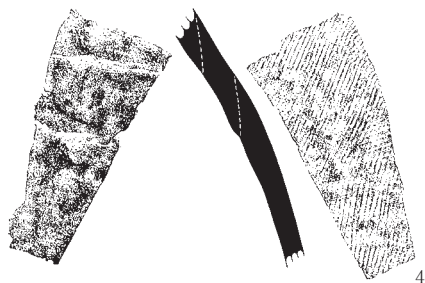
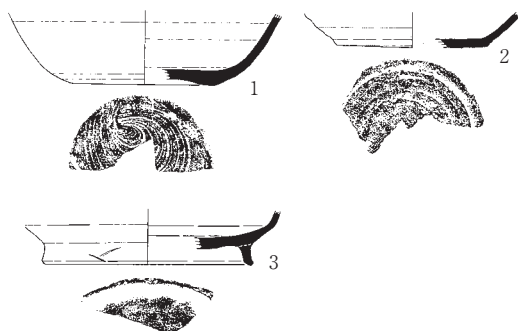
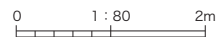


SE-75

- 1a 暗褐色土 大礫 (φ10 cm以上) 中量、ローム粒微量。しまり・粘性強。
- 1b 褐色土 ローム粒中量、KP粒少量。しまり・粘性強。
- 1d 褐色土 ローム粒多量。しまり・粘性強。
- 1e 黒褐色土 記載無し
- 1f 暗褐色土 記載無し
- 2a 褐色土 ソフトローム粒多量。粘性強。
- 2b 淡黄色土 ハードローム粒多量。しまり・粘性強。
- 3a 黒褐色土 ブラックバンド粒多量。しまり・粘性強。
- 4a 褐色土 ローム粒多量。粘性強。
- 4b 暗褐色土 ローム塊少量。KP含む。
- 5a 黄褐色土 KP粒子 (φ1~5 mm) やや多量。しまり弱。
- 5b 黄褐色土 KP縮状に混入。しまりやや強。
- 5d 黒灰色土 ローム塊少量。
- 6 黄土色 粘土化したローム。微粒子。しまり弱、粘性強。

地山 土層説明

- I ソフトローム 黒褐色。粘性やや強、微粒子。
- II ハードローム 明褐色。しまり・粘性強。
- III ハードローム 暗褐色。しまり・粘性強。
- IV ブラックバンド 黒褐色。しまりやや強、粘性強。
- V ハードローム 褐色。底面にKP。粘性強。
- VI 黄褐色土 KP粒 (1~3 mm)。粘性弱。
- VII 白黄色土 KPが縮状に堆積。薄い帯状に固まる。
- VIII 粘土化したローム 黄褐色土。粘性強。
- IX 暗灰色土 砂層。小礫含む。
- X 礫層



第193図 西刑部西原遺跡3区 SE-75 実測図・出土遺物

第3章 発見された遺構と遺物

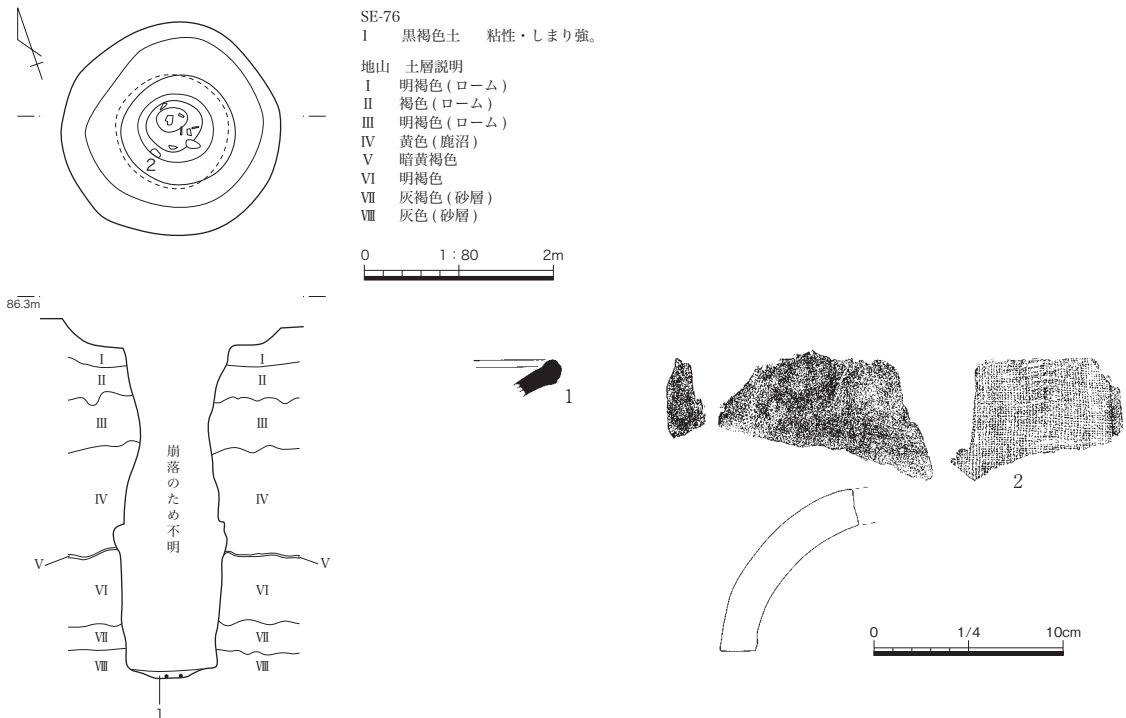
む人為埋戻しの可能性がある。遺物 須恵器坏（1・2）・高台付坏（3）・甕（4～6）、手鎌（7）の他、木材や自然遺物が出土した。遺物から奈良時代中葉の井戸と考えたい。種子などの自然遺物については第5章で記載している。

第74表 3区 SE-75 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器坏	底高 (7.3) [3.8]	内外面ロクロナデ。底部外面回転系切り。	内外面とも 2.5Y5/2 暗灰黄	やや緻密、白・黒細砂、黒・白砂 焼成：やや硬質	東側	底部～体部 1/2
2	須恵器坏	底高 18.0 [1.9]	体部内面ロクロナデ。体部外面回転ヘラ切り。	内外面とも 10Y5/1 灰	やや緻密、白・灰黒細砂、白・灰砂、白・赤粒 焼成：やや硬質	上層	底部 3/8、体部一部
3	須恵器高台付坏	底高 (10.8) [2.8]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。底部内面研磨されてスペースベシしている。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密、灰・白・黒細砂、白・黒砂 焼成：やや硬質	上層	底部 1/6
4	須恵器甕	高厚 [14.5] 1.6	内面無文あて具痕。外面平行叩き。内面に明瞭な接合痕あり。	内外面ともに 7.5Y5/1 灰	やや緻密、白・黒・灰細砂、灰・白砂、白礫 焼成：やや硬質	No.2 1.7	胴部破片
5	須恵器甕	厚高 9.0-13.0 [13.0]	胴部内面無文あて具痕、下端部指頭押圧及びナデ。胴部外面斜位の平行叩き。底部外面磨滅のため調整不明。	内：7.5Y5/1 灰 外：10YR4/1 褐灰	やや粗い、白・灰粗砂・雲母片 焼成：硬質	上層	胴部破片
6	須恵器甕	高 [9.5]	内面無文あて具痕。外面平行叩き。	内：2.5Y5/1 黄灰 外：10YR5/1 褐灰	やや緻密、白・灰細砂、白・灰砂、白礫、白雲母か 焼成：やや硬質	上層	胴部破片
7	鉄製品手鎌	長幅重 [3.2] 1.5 [2.9]	一端を残す手鎌破片。背は極めて緩やかに弧状に挟れる。孔の周辺は片面（裏面）から穿ったためか、若干盛り上がる。平造りで、棟幅 1.5 mm。	—	鉄製	覆土上層	部分残存
8	不明木製品	長幅厚 [14.0] [7.3] [2.2]	板目材の端部破片。工具跡は認められない。	—	樹種同定は未実施だが、針葉樹の可能性あり。	覆土中	部分残存

3区 SE-76（遺構・遺物：第194図、図版二七・九八）

位置 グリッド 85.5-53.0 重複遺構 重複遺構は無いが、古墳時代後期の建物跡 SI-77 と近接する。規模・形態 有段の井戸。開口部は直径約 2.3 m の円形を呈する。深さは 20 ～ 28 cm。井筒部は上径 110 cm、中央



第194図 西刑部西原遺跡3区 SE-76 実測図・出土遺物

部で75cmとやや窄まり、以下直径1mほどの筒状を呈し底面に至る。壁高 確認面からの深さは4.40m。

底面 皿状を呈し、砂層に達している。覆土 大部分が土層断面の記録前に崩落してしまったため、底面付近の黒褐色土(1層)が確認できたのみである。遺物 黒褐色土中の出土遺物は須恵器甕口縁部破片(1)と男瓦(2)の計2点のみである。なお男瓦は3区SI-85出土遺物(19)と遺構間接合が確認されている。遺物から井戸の帰属時期は奈良時代と考えられる。

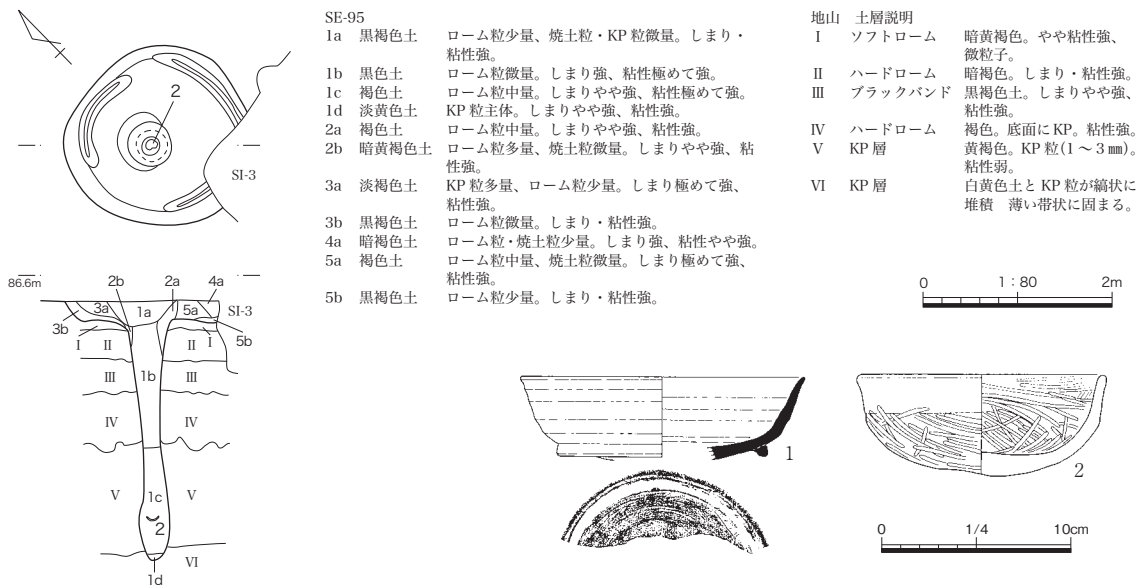
第75表 3区 SE-76 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器甕	厚 1.1	内外面ロクロナデ。	内:5Y8/1 灰白 外:5Y8/1 灰白	緻密、白細砂 焼成:硬質	覆土中	口縁部破片
2	男瓦	長 [10.2] 幅 [6.4] 厚 1.9 重 [169.0]	凹面が布目痕。凸面がナデ。3区SI-85-19と遺物間接合。	7.5YR5/4 にぶい褐	粗い、白・灰・黒細砂～礫 焼成:硬質	No.1 0.2	部分残存

3区 SE-95 (遺構・遺物: 第195図、図版二七・九八)

位置 グリッド87.5-50.5 重複遺構 8世紀後葉の建物跡SI-3より古い。規模・形態 有段の井戸。開口部は直径1.84mの不整な円形状を呈する。深さ約20cm。また底面の壁際には溝状の掘り込みが部分的に見られる。井筒部は上面径40cm、中央部で20cmと細く、下部はやや紡錘状に膨らみ、直径30cmほどである。

壁高 確認面からの深さは2.76m。底面 鹿沼軽石層まで掘り込む。平坦面はない。覆土 井筒部には黒色土及び褐色土からなる均質な土が厚く堆積するが、廃絶後短期間に埋没したと考えられる。開口部はローム粒・鹿沼軽石粒を含む覆土(3a~5b層)が認められ、井戸側の裏込め土の可能性もある。遺物 遺物は下層(1C層)中から僅かに出土する。1の須恵器高台付坏は高台が低く底部が突出する湖西産の須恵器に似るが、やや胎土が粗い感がある。2の土師器坏は歪みが多く、内外面が入念にヘラミガキされる。遺物から8世紀前葉の井戸と考えたい。



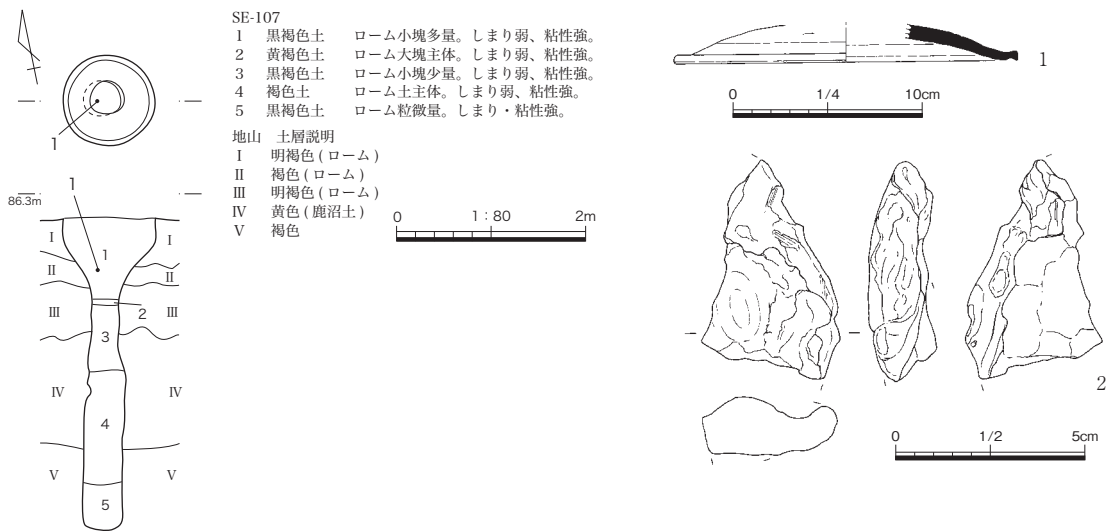
第195図 西刑部西原遺跡3区 SE-95 実測図・出土遺物

第76表 3区 SE-95 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器高台付環	口 (14.9) 底 11.0 高 [4.4]	内外面ロクロナデ。体部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。出尻タイプの高台付環。体部内面及び口縁部外面に黒色物付着(タールか)。湖西産か。	内：5Y7/2 灰白 外：5Y6/2 灰オリーブ	緻密、黒・灰・白細砂、黒・灰砂 焼成：硬質	No.1 26.0	口縁部 1/3、底部 4/5
2	土師器環	口 12.7 高 5.3	口縁部内外面ヨコナデ。内面はやや丁寧なミガキ。外面は部分的に雑な箇所のミガキ。非常に歪みが大きく、器厚もバラツキが多い。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・黒細砂、赤粒、黒砂、微砂粒、赤色粒子(粘土中の混入物か) 焼成：やや硬質	No.3 40.2	口縁部～体部 1/3

3区 SE-107 (遺構・遺物：第196図、図版二七)

位置 グリッド 86.0-52.5 重複遺構 重複遺構は無いが、SB-102 と近接する。 規模・形態 有段の井戸。開口部は漏斗状を呈し直径約 96 cm と小さく、井筒部直上までの深さは約 70 cm である。井筒部の上面は直径約 27cm と狭く、その後若干広がり底部まで円筒形に掘られる。最大径は約 42 cm である。 壁高 確認面からの深さ約 3.26 m。 底面 鹿沼軽石層下の褐色ローム層まで掘り込む。底面は皿状を呈する。 覆土 底面付近は黒褐色土(5層)が堆積する。3・4層はしまりが弱く、極めて短期間で埋没した可能性が高い。開口部の1層はローム小塊を多量含む土で、人為埋戻しの可能性がある。 遺物 覆土中からの遺物は極めて少なく、図示可能な遺物は2点のみである。1の須恵器蓋は1層中から出土した。2の焼成粘土塊は出土層位は不明である。遺物から本遺構は奈良時代の井戸と考えたい。

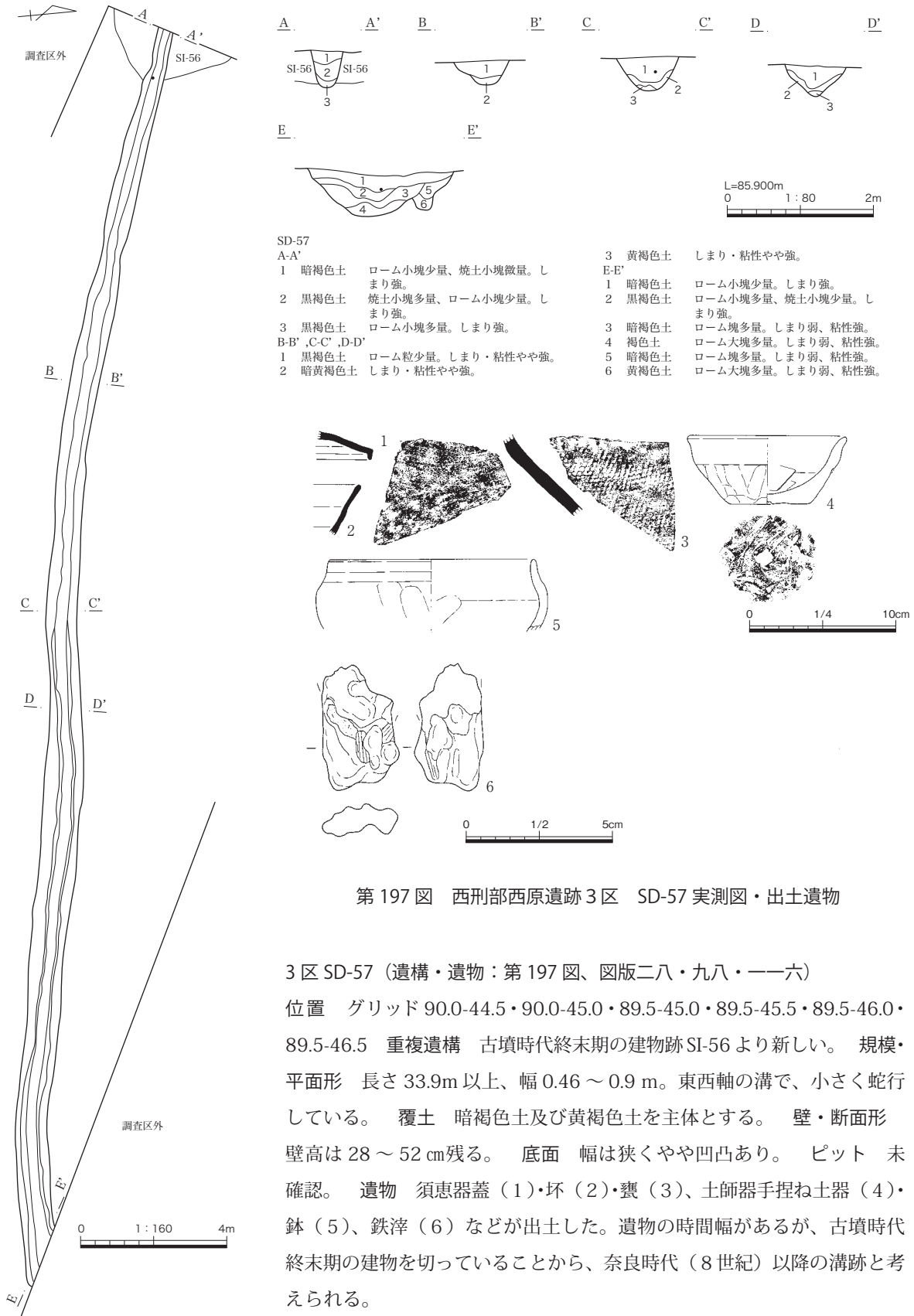


第196図 西刑部西原遺跡3区 SE-107 実測図・出土遺物

第77表 3区 SE-107 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器蓋	口 (17.8) 高 [2.0]	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリ。	内：N5/0 灰 外：5Y6/1 灰	やや緻密、灰・白・黒細砂、白・黒砂、白礫 焼成：やや硬質	No.1 不明	体部 1/4
2	焼成粘土塊	長 5.2 幅 3.5 厚 1.5 重 16.2	植物質などの混入物はごく少量。胎土は土師器に使われるものと同様。左側面及び下面、裏面は破面となっている。	5YR7/4 にぶい橙	粗い、白細砂、赤粒 焼成：軟質	覆土中	部分欠損

6. 溝



第197図 西刑部西原遺跡3区 SD-57 実測図・出土遺物

3区SD-57（遺構・遺物：第197図、図版二八・九八・一一六）

位置 グリッド 90.0-44.5・90.0-45.0・89.5-45.0・89.5-45.5・89.5-46.0・89.5-46.5 重複遺構 古墳時代終末期の建物跡SI-56より新しい。規模・平面形 長さ33.9m以上、幅0.46～0.9m。東西軸の溝で、小さく蛇行している。覆土 暗褐色土及び黄褐色土を主体とする。壁・断面形 壁高は28～52cm残る。底面 幅は狭くやや凹凸あり。ピット 未確認。遺物 須恵器蓋(1)・坏(2)・甕(3)、土師器手捏ね土器(4)・鉢(5)、鉄滓(6)などが出土した。遺物の時間幅があるが、古墳時代終末期の建物を切っていることから、奈良時代(8世紀)以降の溝跡と考えられる。

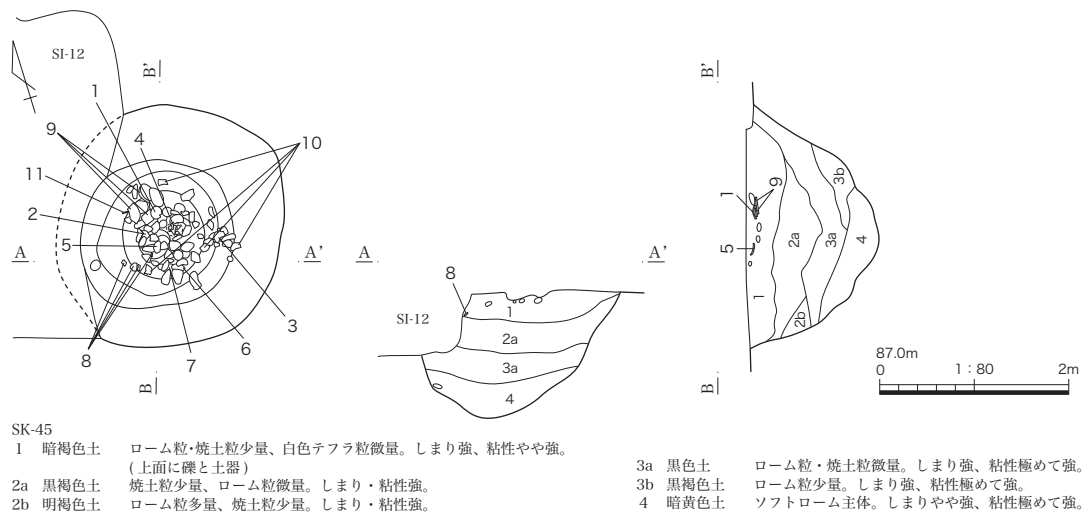
第78表 3区 SD-57 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器蓋	高 [2.0]	内外面ロクロナデ。	内：N4/0 灰 外：5GY5/1 オリーブ灰	やや緻密、白粗砂 焼成：硬質	東埋土中	口縁部破片
2	須恵器坏	口高 [12.0] [3.6]	内外面ロクロナデ。	内：10G5/1 緑茶	やや緻密、白粗砂 焼成：硬質	東埋土中	口縁部～体部 1/8
3	須恵器甕	高 [6.7]	頸部内面無文あて具痕。頸部外面格子叩き。	内外面とも 5Y6/1 灰	やや緻密、灰・白・黒細砂、白・灰砂、白礫 焼成：やや硬質	西埋土中	頸部破片
4	土師器手捏ね土器	口高 (10.5) 4.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面指頭押圧及びナデ。底部外面ナデあるいはヘラナデ。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密、灰・白細砂、白・黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	東埋土中	口縁部 1/4、底部完存
5	土師器鉢	口底 (14.0) [5.0]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデか。体部外面ヘラズリか。口縁部内面～外面にかけ黒色付着物あり。	内：10YR6/4 にぶい黄橙 外：10YR4/1 褐灰	やや緻密、白・黒砂、白・黒粗砂 焼成：やや硬質	西埋土中	口縁部 1/8
6	鉄滓	長幅厚重 [4.3] [2.5] [0.9] [15.4]	鍛冶滓（流動滓）。長軸の上端部を欠損する。表裏面ともに器面は滑らか。表面中央部に銹化部がみられ、木炭の技痕も認められる。	表裏ともサビ有 7.5YR4/3 褐	磁着度：5	東埋土中	部欠

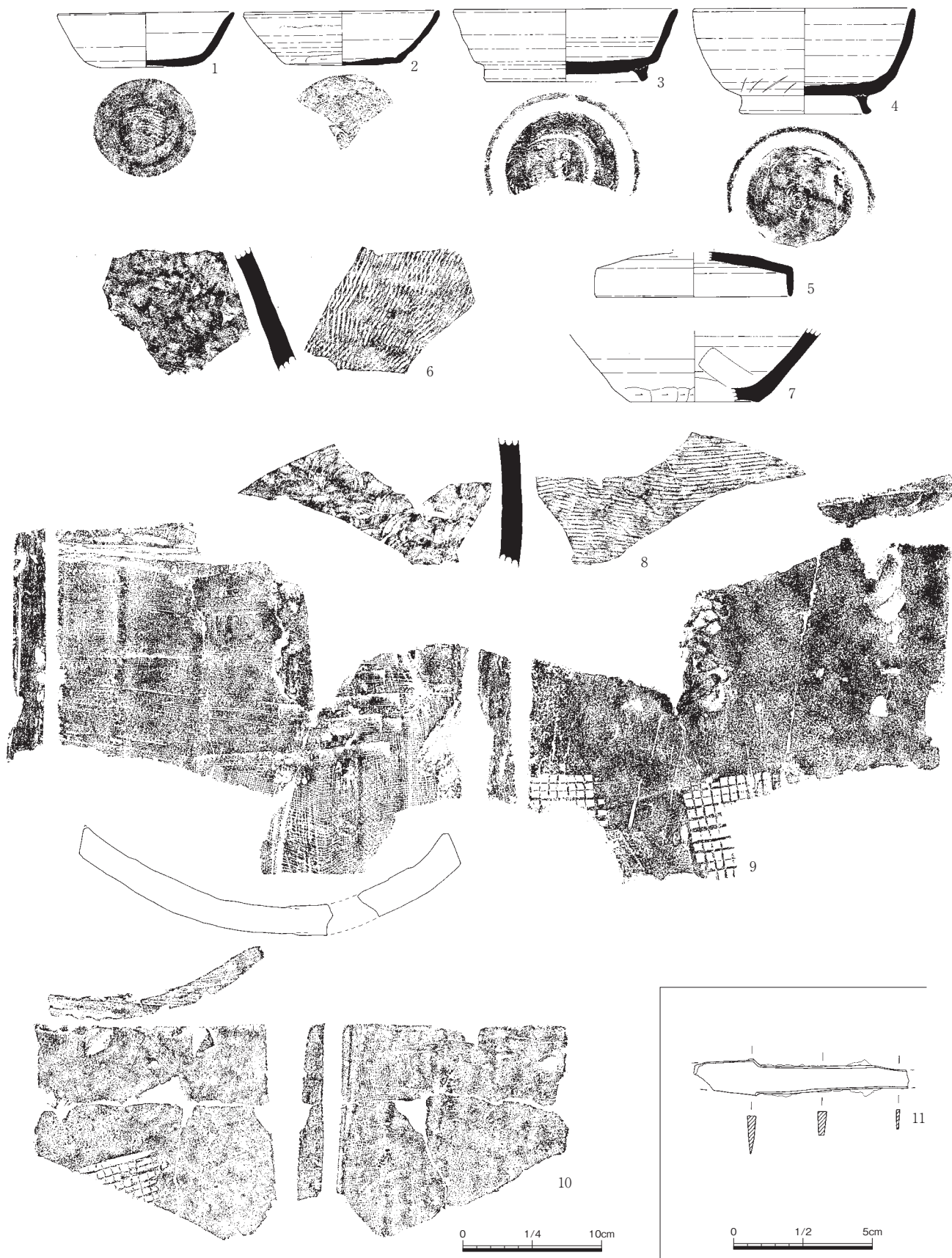
7. 円形有段遺構

SK-45（遺構：第198図、遺物：第199図、図版二八・九八・一一五）

位置 グリッド 52.0-90.0・52.0-90.5 重複遺構 平安時代の竪穴建物跡 SI-12 より古い。規模・平面形 東西推定 2.36 m、南北 2.56 m の不整な円形。壁・断面形 壁面はやや凹凸を有する。底面は緩やかに傾斜し小穴に至る。壁高 深さは土坑底面までは 1.08 ～ 1.16 m、小穴底面まで 1.4 m である。床 土坑底面の直径は 1.4 ～ 1.6 m の不整な円形を呈し、小穴は径約 1.2 m、深さ約 20 cm である。底面は鹿沼軽石層に及んでいる。覆土 6 層に分層、断面観察から自然堆積と考えられるが、1 層下面の遺物は廃棄されたものと思われる。遺物 主に 1 層中から集中して出土した。須恵器坏（1・2）・高台付坏（3・4）・短頸壺蓋（5）・甕（6～8）、瓦（9・10）、鉄製品（刀子：11）などがある。4 の高台付坏には体部外面下端にヘラ記号が見られる。9 の平瓦は制作時の凹み或いは亀裂に粘土を補充した跡が顕著に残る。型押文の番号は国分寺 231 と思われる。10 の型押文の番号は国分寺 369 か。遺物から 8 世紀中葉の遺構と考えたい。東約 35m の宇都宮調査 E 区にはほぼ同時期の円形有段遺構 SK-17 が位置する。



第198図 西刑部西原遺跡3区 SK-45 実測図



第199図 西刑部西原遺跡3区 SK-45 出土遺物

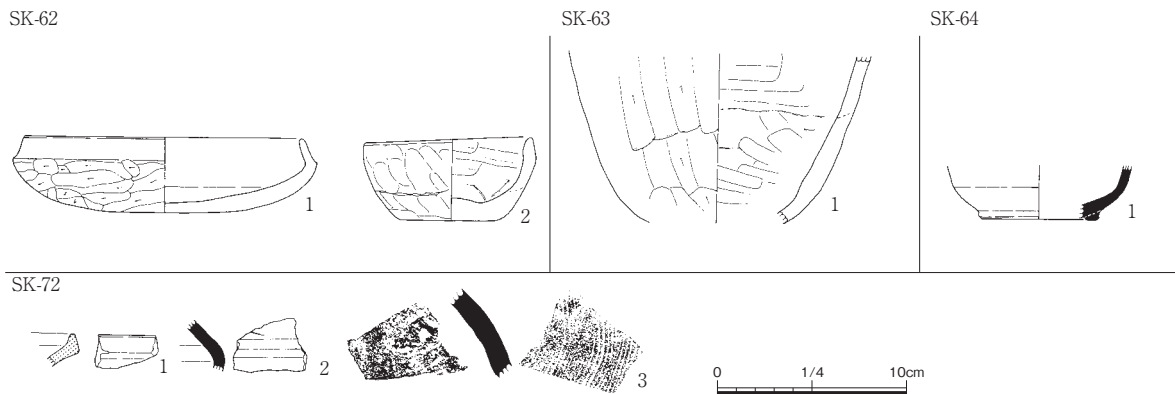
第79表 3区 SK-45 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 環	口 12.4 底 6.9 高 3.9	内外面ロクロナデ。底部外面回転糸切りのち外周回転ヘラケズリ。	内外面とも 5Y5/1 灰	やや緻密、白・灰細砂、白・灰・黒砂、白粒 焼成：やや硬質	No 8 1層	ほぼ完存
2	須恵器 環	口 (13.8) 底 (8.4) 高 3.9	口縁部～体部内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。体部下端手もちヘラケズリ。	内外面とも 5Y6/1 灰	やや緻密、灰・透明・黒・白細砂、灰・黒灰礫 焼成：やや硬質	No 20 2a層	口縁部～底部 1/6
3	須恵器 高台付 環	口 (15.8) 底 (11.0) 高 5.2	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのち高台貼付、爪先状圧痕あり。口縁部磨減痕。口縁内面研磨痕。底部内面研磨痕。高台端部磨減痕。	内：2.5Y6/2 灰黄 外：2.5Y7/1 灰白	やや緻密、白細砂～礫 焼成：硬質	No 17 1層	口縁部 1/4、底部 2/3
4	須恵器 高台付 環	口 (15.6) 底 8.6 高 7.5	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのち高台貼付。体部外面下端部にヘラ記号あり。接合沈線僅か認められる。口縁部磨減痕。口縁内面研磨痕か。底部内面研磨痕か。高台端部磨減痕。	内：5GY5/1 緑灰 外：5GY4/1 暗緑灰	やや緻密、白・灰細砂～礫 焼成：硬質	No 16 1層	口縁部 3/8、底部 3/4
5	須恵器 短頸壺 蓋	口 13.0 高 [3.3]	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリのちツマミ貼付のちナデ。ツマミ欠損。	内外面とも 5Y5/1 灰	やや緻密、灰・白細砂、灰・白・黒砂、灰礫 焼成：やや硬質	No 15 1層	口縁部 1/3
6	須恵器 甕	高 [8.9]	胴部内面無文あて具痕。胴部外面平行叩き。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：5Y6/1 灰	やや緻密、白・灰細砂、白・灰・黒砂、白礫 焼成：やや硬質	No 9 1層	胴部破片
7	須恵器 甕	底 (9.3) 高 [5.3]	内外面ロクロナデ。胴部外面下端部手もちヘラケズリ。底部外面ナデ。残存少なく若干歪みあり。	内外面とも 5Y7/1 灰白	やや緻密、灰・白・黒細砂、灰・黒砂 焼成：硬質	No 10 1層	底部～胴部 下端 1/5
8	須恵器 甕	高 [9.0]	胴部内面同心円あて具痕。胴部外面平行叩き。	内外面とも 5Y6/1 灰	やや緻密、白・灰細砂、黒・灰砂 焼成：硬質	No 2・3・14・19 2a層 (No 19)	胴部破片
9	女瓦	長幅 [26.0] 厚 2.1 重 [1631.0]	凸面：格子叩き。 凹面：布目痕のちヘラナデ。側面はヘラナデ。	2.5Y5/1 灰	やや緻密、白・灰・黒細砂、白・黒砂、黒礫 焼成：やや硬質	No 1・12・13 1層 (No 13)	約 1/2
10	女瓦	長幅 [17.2] 厚 [15.4] 重 2.0 [625.0]	凸面：格子叩き。 凹面：布目痕。側面はヘラナデ。	5YR6/6 橙	やや緻密、黒・灰・細砂、白・灰・黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	No 4・5・6・18 1層 (No 18)	部分残存
11	鉄製品 刀子	長 [7.7] 重 [9.4]	両関の刀子。刃部は僅かに錆をもつものか、棟幅は約3.0mm。茎は端部を欠損し、断面は逆台形を呈する。	—	鉄製品	No 7 2a層	刃部欠損

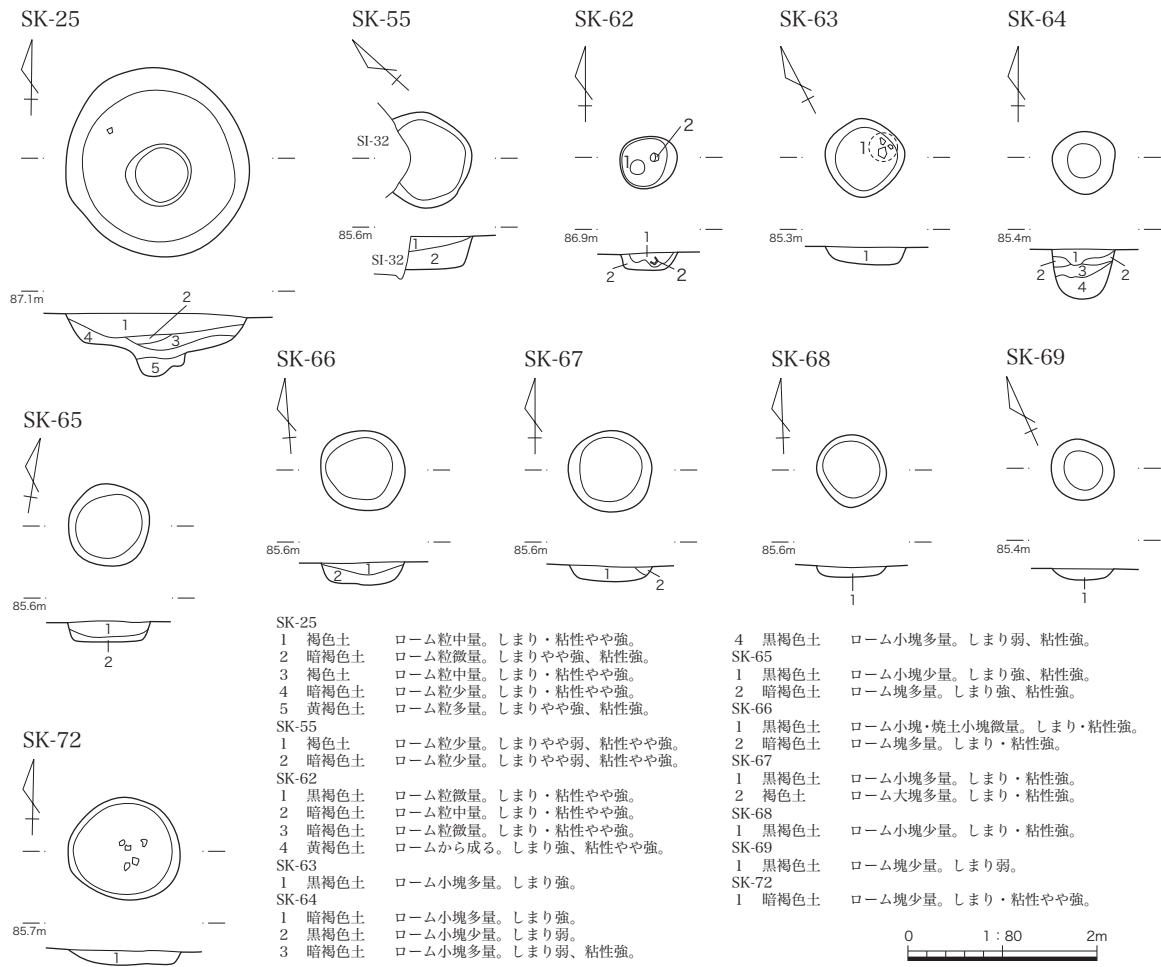
8. 土坑

本調査区からは計 20 基の土坑が確認された。土坑は遺物の出土量が少ないため明確な時期を確定できないものが多い。ただし建物跡などとの切り合いから、ある程度の時間幅を想定できるものもある。

ここでは遺構個別の事実記載は行わないが、出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容などを表にまとめ掲載した。このうち、特徴的な遺構・遺物については補足説明を行うこととしたい。



第 200 図 西刑部西原遺跡 3 区 SK-62～64・72 出土遺物



第201図 西刑部西原遺跡3区 土坑実測図(1)

第80表 3区 土坑計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
SK-25	92.0-51.5 92.0-52.0	円形	2.02	1.90	0.67	
SK-55	90.0-45.0	円形	(0.99)	(0.92)	0.36	SI-32と重複
SK-62	90.0-52.0	円形	0.61	0.54	0.19	
SK-63	89.0-47.0	円形	0.84	0.83	0.18	SB-70と重複
SK-64	89.0-47.5	円形	0.66	0.65	0.54	
SK-65	89.5-46.5	円形	0.87	0.85	0.22	
SK-66	89.5-46.5	円形	0.87	0.84	0.25	
SK-67	89.5-46.5	円形	0.86	0.84	0.18	
SK-68	89.5-46.5	円形	0.77	0.73	0.12	
SK-69	89.0-47.0	円形	0.67	0.63	0.11	
SK-72	89.5-45.5	円形	1.16	1.08	0.15	
SK-93	86.5-50.5	円形	1.11	0.95	0.36	
SK-94	87.5-50.0	隅丸方形	1.54	1.40	0.28	
SK-99	87.0-51.0 87.5-51.0	楕円形	1.27	1.11	0.17	
SK-108	87.5-50.5	円形	1.82	1.61	0.46	
SK-109	87.5-50.5 87.5-51.0	—	0.96	0.89	0.07	
SK-110	87.5-50.5	—	2.14	0.94	0.55	
SK-111	90.0-51.5	円形	1.65	(1.10)	0.64	
SK-113	86.0-52.0 85.5-52.0	不明	(1.57)	(1.10)	(0.48)	
SK-116	87.5-51.0	—	2.15	1.17	0.05	SI-4と重複

第3章 発見された遺構と遺物

第81表 3区 SK-62 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 杯	口 14.5 高 4.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内外面とも 7.5YR6/4 に ぶい橙	やや緻密、白・黒細砂、白・ 黒砂、白・赤粒 焼成：やや硬質	No.1 不明	ほぼ完存
2	土師器 杯	口 8.5 底 5.5 高 4.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ及び指頭押圧。底部外面ナデ。	内：7.5YR7/6 橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、黒・白・灰細 砂、黒・灰砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.2 不明	完存

第82表 3区 SK-63 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 甌	高 [9.0]	胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラケズリ。	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR6/3 にぶい褐	緻密、白細砂・白粗砂・ 白礫・赤粒 焼成：硬質	No.1 0.7	胴下半部 1/4

第83表 3区 SK-64 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 高台付 杯	底 6.0 高 [2.9]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。	内外面とも 5Y6/1 灰	やや粗い、白粗砂 焼成：硬質	覆土中	底部～体部 下半 1/6

第84表 3区 SK-72 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	灰釉陶 器か 瓶類	高 [1.7]	ロクロ仕上げ。内面の釉は緑色で厚いが外面はあまりみられない。	内外面とも 2.5Y7/1 灰白	やや緻密、灰・白・黒細 砂焼成：やや硬質	埋土中	口縁部破片
2	須恵器 短頸壺	高 [1.5]	内外面ロクロナデ。	内外面とも 5Y5/1 灰	やや緻密、灰・白・黒細 砂、白・黒・灰砂 焼成：やや硬質	埋土中	肩部破片
3	須恵器 提瓶		内面無文あて具痕。外面カキ目。	内：5Y4/1 灰 外：N2/0 黒	やや緻密、白・灰・黒細 砂、灰・白・黒砂 焼成：硬質	埋土中	胴部破片

第85表 3区 SK-99 出土遺物観察表

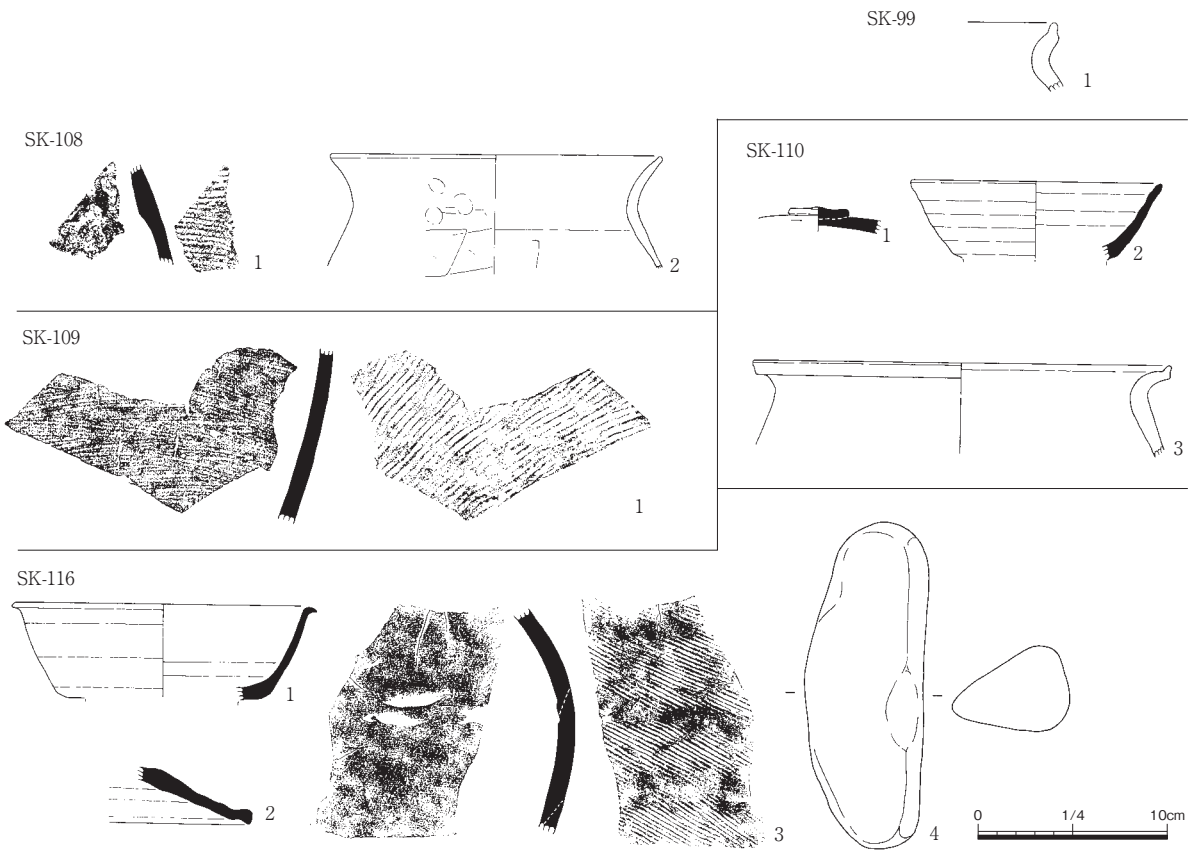
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 甕	高 [3.4]	口縁部ツマミ上げ。その他磨滅のため調整不明。	内外面とも 7.5YR5/6 明 褐	やや粗い、灰・白・黒粗 砂～礫 焼成：やや軟質	覆土中	口縁部 1/10

第86表 3区 SK-108 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 甕	厚 0.9	胴部内面無文あて具痕か。胴部外面擬格子叩き。	内：7.5YR7/3 にぶい橙 外：10YR7/2 にぶい黄橙	やや緻密、灰・白砂、灰・ 白細砂 焼成：やや軟質	覆土中	胴部破片
2	土師器 甕	口 (17.3) 高 [5.0]	口縁部内外面ヨコナデ及び指頭押圧。胴部内面上半部ヘラナデ。胴部外面上半部ヘラケズリ。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密、灰・白細砂、黒・ 灰砂、雲母 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部～胴 部上半部 1/8

第87表 3区 SK-109 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 甕	厚 0.7	胴部内面細かい同心円状あて具痕のちヘラナデ(ハケ目) 胴部外面平行叩き。外面に褐色の自然釉付着。	内：2.5Y7/3 浅黄 外：7.5YR5/3 にぶい褐	やや緻密、白・灰細砂、白・ 灰砂、灰・白礫 焼成：やや硬質	覆土中	胴部破片



第 203 図 西刑部西原遺跡 3 区 SK-99・108～110・116 出土遺物

第 88 表 3 区 SK-110 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技 法 ・ 特 徴	色 調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	須恵器蓋	高 [1.3] 穴 (3.6)	天井部内面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリ後ツمامミ貼付。	内：2.5Y7/1 灰白 外：2.5Y6/1 黄灰	やや緻密、白・灰・黒細砂、白砂 焼成：やや硬質	覆土中	ツمامミ 2/3
2	須恵器坏	口 (13.1) 高 [4.1]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリ。高台貼付用の接合沈線あり。	内：5Y6/1 灰 外：10Y6/1 灰	やや緻密、白・灰細砂、白砂 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部～体部 1/7
3	土師器甕	口 (21.8) 高 [4.8]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面磨滅のため調整不明。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや粗い、白・灰砂、白・灰・黒細砂・白礫、白雲母 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部～胴上半部 1/6

第 89 表 3 区 SK-116 出土遺物観察表

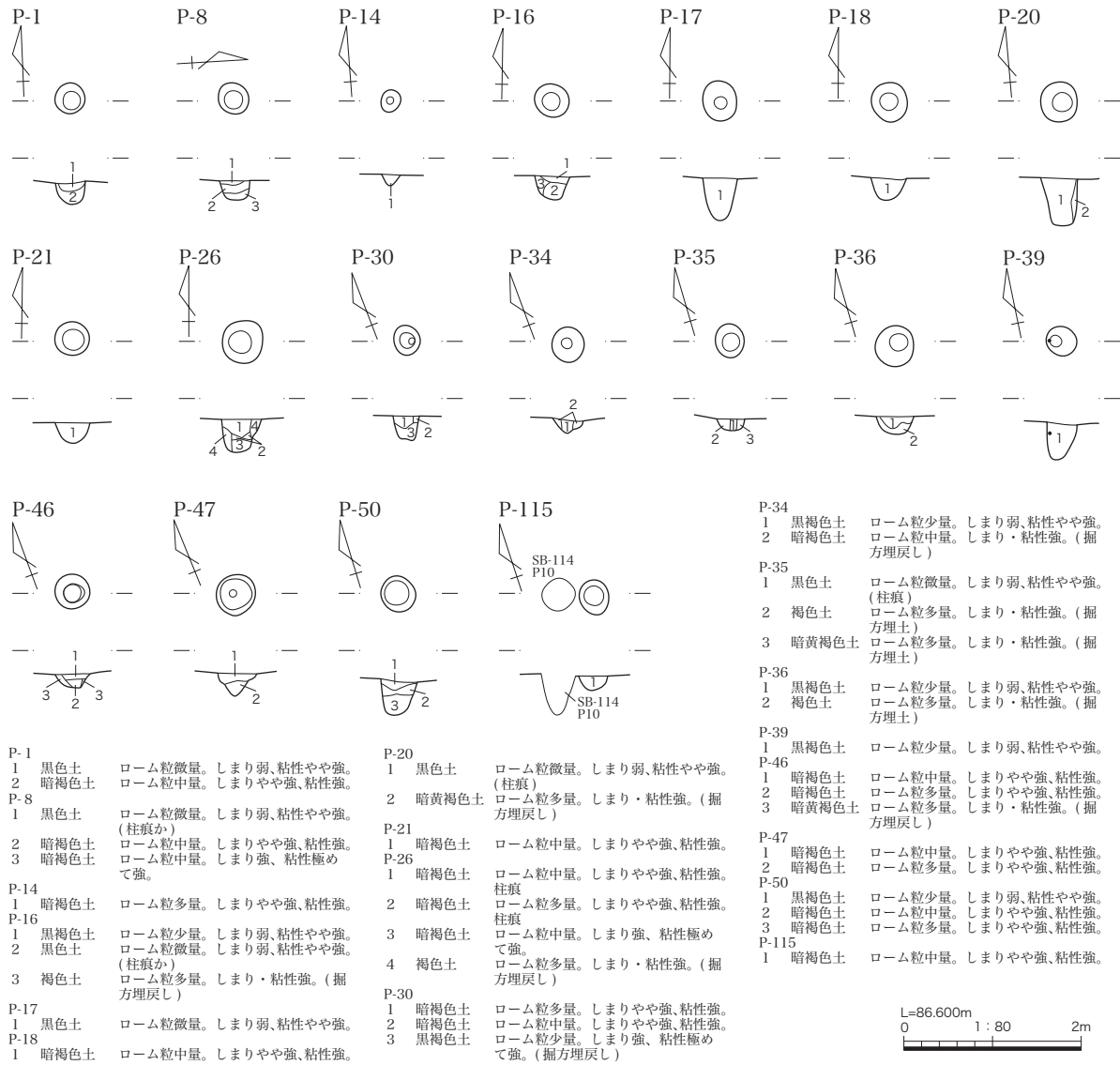
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技 法 ・ 特 徴	色 調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	須恵器高台付坏	口 (15.5) 高 [4.9]	内外面ロクロナデ。口縁部端部が突出する。	内外面とも 5Y5/1 灰	やや緻密、黒細砂、白砂、白礫 焼成：やや硬質	No.6 6.4	口縁部 1/3
2	須恵器蓋	口 (16.0)	内外面ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ。	内：N6/0 灰 外：2.5GY5/1 オリーブ灰	緻密、白粗砂、白礫 焼成：硬質	No.4 0.9	口縁部 1/12
3	須恵器甕	高 [11.8] 底 0.9	内面（彫りの浅い同心円状）あて具痕。外面平行叩き。	内：N6/0 灰 外：7.5Y5/1 灰	やや緻密、白礫、砂粒、黒色粒 焼成：硬質	No.1 7.7	胴部破片
4	石器編物石	長 17.3 幅 6.3 厚 4.5 重 660.0	全面的に著しく被熱しており、上端部は破損。3片の破片が接合。カマド袖構築材と考えられる。全面的に著しく被熱しており、上端部は破損。3片の破片が接合。カマド袖構築材と考えられる。 平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸三角形	7.5Y7/1 灰白	—	K141 (カマド内) 8.6	先端部 1/10 程度欠損

9.ピット

本調査区から確認されたピット（小穴）は計18基である。土坑と同様、遺物の出土量が少ないため明確な時期を確定できないものが殆どであるが、他遺構との切り合いから、ある程度の時間幅を想定できるものもある。

ここでは土坑と同様に個別の事実記載は行わず、出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容などを表にまとめ掲載した。

ピットはその殆どが3区中央部やや北側の掘立柱建物跡SB-106及び114近辺から確認されており、グリッドではX=88.0～89.0、Y=50.5～51.0の間に大多数が集中している。覆土は、単層で自然堆積と考えられるもの、レンズ状の堆積を示すもの、或いは掘立柱建物跡の柱穴同様に柱痕をもつものなど多様である。



第204図 西刑部西原遺跡3区 ピット実測図

第90表 3区 ピット計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
P-1	89.0-51.0	円形	0.35	0.34	0.24	
P-8	89.0-51.0	円形	0.37	0.33	0.21	
P-14	88.5-50.5	楕円形	0.25	0.22	0.13	
P-16	88.5-51.0	円形	0.38	0.37	0.27	
P-17	88.5-51.0	楕円形	0.45	0.38	0.48	
P-18	88.5-51.0	円形	0.45	0.40	0.24	
P-20	88.5-51.0	楕円形	0.45	0.41	0.53	
P-21	88.5-51.0	円形	0.38	0.38	0.22	
P-26	88.5-51.0	楕円形	0.47	0.44	0.38	
P-30	88.5-50.5	楕円形	0.34	0.31	0.28	
P-34	88.5-51.0	楕円形	0.39	0.35	0.15	
P-35	88.5-50.5	楕円形	0.39	0.34	0.13	
P-36	88.5-50.5	楕円形	0.46	0.42	—	
P-39	88.0-51.0	円形	0.35	0.35	0.40	
P-46	88.0-50.5	円形	0.40	0.39	0.15	
P-47	88.0-51.0	円形	0.45	0.45	0.26	
P-50	88.0-50.5	円形	0.40	0.38	0.39	
P-115	88.0-51.0	円形	0.40	0.32	0.17	

10. 遺構外出土の遺物

明確な遺構に伴わない出土遺物をまとめた。大多数はグリッド位置などの記載があるが、中には明確な出土位置が判別できないものも含まれる。遺物は計 22 点を図示し、詳細は遺物観察表に記載した。このうち特徴のある遺物について追記することとしたい。

第91表 3区 遺構外出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 杯	口 (13.8) 底 7.4 高 [4.0]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切り。	内外面とも 7.5Y4/1 灰	やや緻密、白・赤粒粗砂 ～礫 焼成：硬質	38.5-51.5 表採	口縁部 1/3、底部 1/2
2	須恵器 杯	底 6.6 高 [2.0]	内外面ロクロナデ。底部外面回転系切り。	内外面とも 5Y6/1 灰	やや緻密、白・黒細砂、白・ 黒砂 焼成：やや硬質	88.5-51 上 面	体部一部
3	須恵器 高台付 杯	底 (12.8) 高 [4.0]	ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。高台部～体部外面に薄く自然釉付着。	内外面とも 2.5Y6/1 黄灰	やや緻密、白・黒細砂、白・ 灰・黒砂 焼成：やや硬質	89-51.5 上 面	底部 1/5
4	須恵器 高台付 杯	底 (8.1) 高 [4.3]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。	内：2.5Y5/2 暗灰黄 外：2.5Y3/1 黒褐	やや緻密、白粗砂～礫 焼成：硬質	88-49.5 上 面	底部 1/4
5	須恵器 高台付 杯	径 [10.4] 高 [3.1]	内外面ロクロ仕上げ。底部外面回転ヘラ切りのち回転ヘラケズリのち高台貼付。高台接合部接合沈線あり。底部外面磨滅顕著。転用碗か。	内外面とも N5/0 灰	やや緻密、白粗砂 焼成：硬質	84.5-49 上 面 SI-60、 61	底部 1/2
6	須恵器 円面碗	厚 0.4	透脚の陶碗。方形と考えられる透かしの一部とタテ位(ややナメ)沈線の一部が残る。外面には霜降り状の自然釉が若干付着。3区 SX-21-37 と同一個体。	内：10YR3/2 黒褐 外：7.5YR3/3 暗褐	緻密、白・透明粗砂、白 細砂 焼成：硬質	89-48	脚部破片
7	須恵器 横瓶	径 (16.4)	内外面ロクロナデ。胴部外面上端部回転ヘラケズリか。蓋部分は接合部より剥離。口縁部(頸部より上)は欠損するが、底部内面に釉が付着している。このため頸部径の復元が可能となった。球状の形態を有する。	内外面とも 2.5Y7/2 灰黄	やや緻密、白・灰・黒細 砂 焼成：やや硬質	89.5-46.5、 89.5-46 上 面	胴部 1/8
8	須恵器 埴瓶	径 [19.2] 高 [4.0]	内面無文あて具痕。外面カキ目。	内外面とも N4/0 灰	やや粗い、白粗砂 焼成：硬質	No.5 89.5-45.5	胴部 1/5
9	須恵器 鉢	口 (23.6) 高 8.4	輪積(紐づくり)痕あり。内外面ロクロナデ。頸部は小さくくびれる。口縁部下端は平坦で内削ぎ状を呈する。	内外面とも 10Y4/1 灰	やや緻密、白・灰粗砂～ 礫 焼成：硬質	試掘トレン チ 85.5 杭 列	口縁部 1/4
10	須恵器 甕	底 (18.0) 高 [10.6]	内外面ロクロ目。底部外面ヘラナデ。輪積痕あり。	内：7.5Y6/1 灰 外：5Y6/2 灰オリーブ	粗い、白・灰粗砂～礫 焼成：硬質	85.5-52.5 表採	底部 1/4
11	須恵器 甕	高 [4.7]	内面調整不明。外面同心円あて具痕。	内：2.5Y6/3 にぶい黄 外：2.5Y5/2 暗灰黄	やや緻密、透明・黒・白 細砂 焼成：やや硬質	89-47.5 上 面	胴部破片
12	須恵器 鉢	高 [5.7]	内外面ロクロナデ。	内：7.5Y5/1 灰 外：7.5Y4/1 灰	やや粗い、白・灰粗砂～ 礫 焼成：硬質	89-50.5 上 面	口縁部～胴 部破片
13	須恵器 甕	底 (12.0) 高 [4.8]	内外面ロクロナデ。胴部外面下端部回転ヘラケズリ。底部外面回転ヘラケズリのちヘラケズリにより穿孔。	内：10Y5/1 灰 外：7.5Y5/1 灰	やや緻密、灰・白砂、灰・ 白・黒細砂 焼成：やや硬質	89.5-46.5	底部 1/6



第205図 西刑部西原遺跡3区 遺構外出土遺物

第3章 発見された遺構と遺物

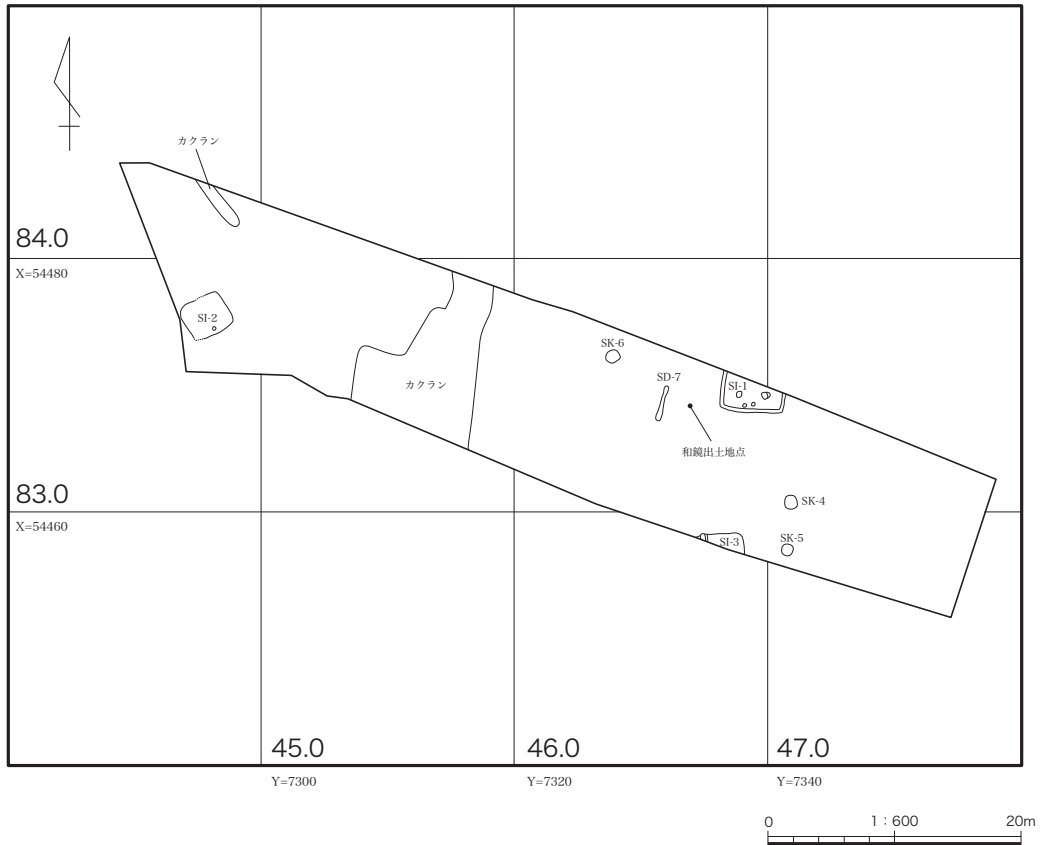
14	須恵器 瓶類	高 [5.9]	内面口クロナデ。胴部外面上半口クロナデ。胴部外面下半回転ヘラケズリ。底部がやや厚いためフラスコ瓶の可能性あり。湖西産か。	内外面とも 2.5Y7/2 灰黄	緻密、黒細砂 焼成：硬質	89.5-46.5 上面、 89.5-47 上 面	胴下半部 1/4
15	土師器 坏	口底高 [13.8] [9.0] [3.5]	体部外面～内面全面カキ目状のヨコナデ。底部外面多方向ヘラケズリ。	内外面とも 7.5YR8/6 浅黄橙	緻密、赤粒 焼成：硬質	88.5-51 上 面	口縁部一部、 体部～底部 1/4
16	土師器 器種不明	径高 [4.8] [3.5]	内外面ヘラナデか。径 6.5 mm ほどの竹管状工具で左ナメ上方から刺突。内面はやや突出するが未貫通。口縁部付近の破片か。胎土のキメは細かく、鉢または甌の可能性あり。	内外面とも 7.5YR5/4 に ぶい褐	やや緻密、白細砂 焼成：やや軟質	89.5-45.5	口縁部一部
17	土師器 手捏ね 土器	口底高 5.7 5.0 2.7	内外面指頭押圧痕のちナデ。底部外面ナデか。	内外面 5YR6/6 橙	やや緻密、白・黒細砂、 赤粒 焼成：やや硬質	89-51.5	口縁部 3/4
18	女瓦	長幅厚重 [8.7] [8.2] 2.1 [229.0]	凸面が格子叩き。凹面が布目痕。	7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・灰・黒細 砂、灰・黒砂 焼成：やや硬質	覆土中	部分残存
19	女瓦	長幅厚重 [5.7] [4.9] 1.9 [65.0]	凸面がヘラナデ。凹面が布目痕。	10YR6/4 にぶい黄橙	粗い、白・灰・黒粗砂～ 礫 焼成：やや軟質	88.5-48 上 面	部分残存
20	石器 砥石	長幅厚重 5.9 4.9 4.7 162.0	中央部付近で折損したものか。計 5 面の砥面が認められる。 平面形：長方形か 断面形：方形か	2.5Y8/2 灰白	凝灰岩	No. 1	半存
21	石製品 白玉	長幅厚厚孔 1.1 1.1 0.31 0.31-0.33	表面は側縁～中央部にかけ逆放射状のケズリを施す。裏面は未加工。孔は裏面から穿孔したものか。側面の研磨は僅かに残るが極めて浅く不明瞭。	7.5Y5/1 灰	粘板岩	87.5-51、 SI-4 東側	ほぼ完存
22	土製 模造品 (鏡形)	長幅厚重 [2.4] [3.8] [1.9] 10.2	ハンバーグ状に全体をナデ成形したのち鈕をつまみ出している。鈕は長軸方向に細長く、中央の孔は左右両方向から穿孔される。半分のみ残存。平面形は楕円形か。	7.5YR7/4 にぶい褐	やや緻密、白細砂 焼成：やや軟質	89.5-47.0	約 1/2

須恵器類は、坏（1・2）、高台付坏（3～5）、円面硯（6）、瓶類（7・8・14）、鉢（9・12）、甕類（10・11）、甌（13）などがある。6は3区SX-21で出土した円面硯脚部と同一個体の可能性が高い。7は須恵器フラスコ瓶。底部内面に付着する自然釉から頸部の位置が判明し、図上復元が可能となった。1は多孔式の須恵器甌、本調査区ではSI-54から同様の甌が出土している。14は湖西産の瓶類。胴部下端には回転ヘラケズリが見られる。フラスコ瓶の可能性もある。16は器種不明の土師器口縁部破片。外面から棒状工具で深く押圧するが、貫通していない。18・19は女瓦の小破片。本調査区ではSK-45の他SI-42・45から瓦が少量出土する。21は粘板岩製の白玉。上面には深い放射状の削り痕が顕著である。22は本遺跡で唯一出土した鏡形の土製模造品。中央部で破損するが、おおよその形は推定できる。鈕は縦長で一体成形。両側から穿孔している。

近接する立野遺跡5区SI-08及び遺構外から計5点が出土しており、これらは古墳時代後期に位置付けられている。立野遺跡例は平面円形を呈し、鈕の形状がやや短い。また孔は片面からの穿孔が多いなど、若干の相違点が見られる。

第4節 4区の遺構と遺物

本調査区は遺跡西部に位置する。西の低地に向かい緩やかに傾斜しており、遺構密度の低い区域となっている。調査された遺構は、竪穴建物跡3棟、溝1条、土坑3基が確認されたのみである。本調査区の北西には宇都宮調査区が位置するが、こちらの遺構密度もやや疎らである。



第206図 西刑部西原遺跡4区 全体図 (S=1/600)

1. 竪穴建物跡

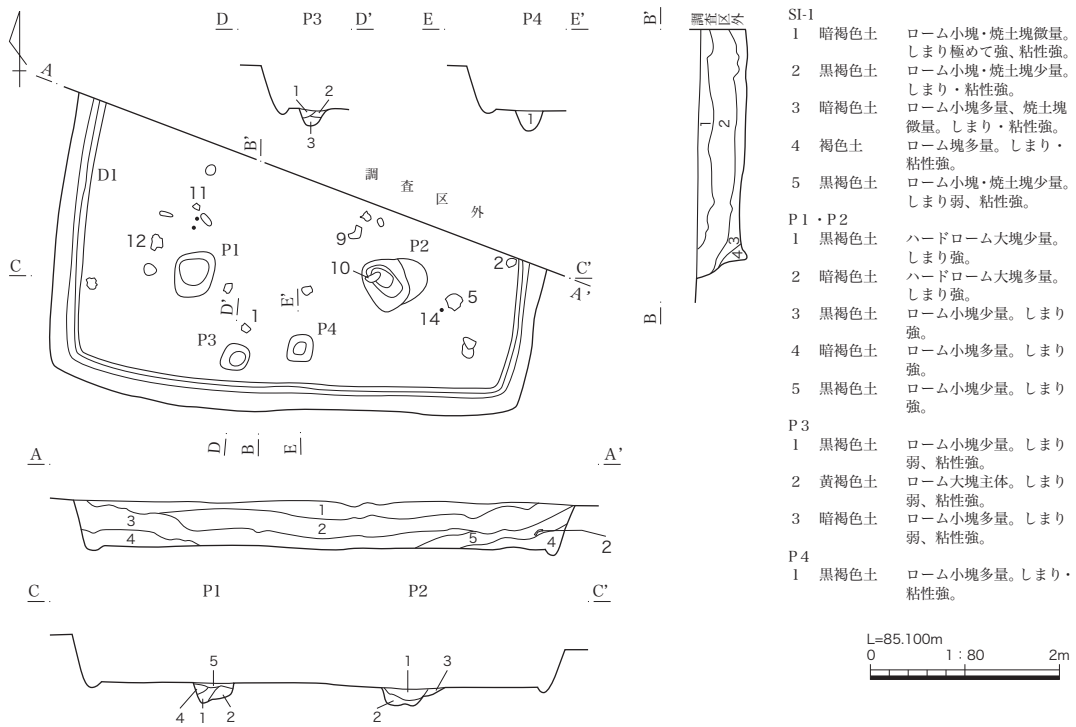
4区 SI-1 (遺構：第207図、遺物：第208・209図、図版二九・九九)

位置 グリッド 83.0-46.5・83.0-47.0・83.5-46.5 重複遺構 無し。平面形 方形もしくは長方形(北半部は調査区外) 規模 東西 5.04×南北 3.0 m以上 主軸方向 N-6.5° -E (推定値) 覆土 暗褐色土・黒褐色土主体の4層からなる。自然堆積。壁 42.0～50.9 cm残る。床 ローム地山を床面とする。概ね平坦。

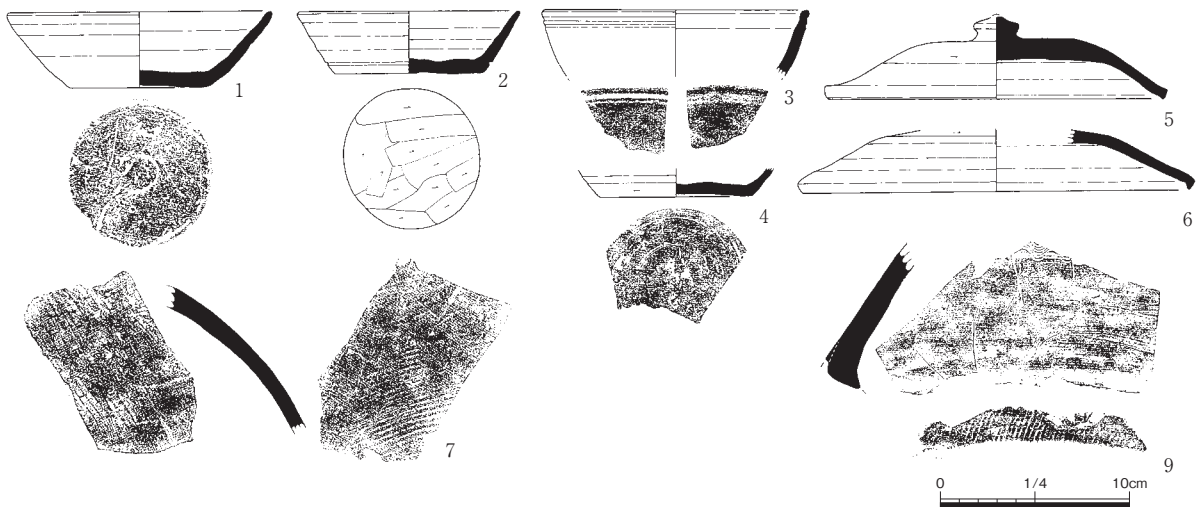
柱穴 P1 (径 48～40 cm、深さ 48 cm)、P2 (径 68～56 cm、深さ 48 cm) はいずれも浅く、柱痕は残っていない。入口ピット P3 (径約 30 cm、深さ 22 cm)、P4 (一辺 28 cm、深さ 18 cm) 共に南壁際に位置する。

壁溝 D1 (幅 20～32 cm、深さ 56 cm) 南半部では壁際を全周する。カマド 調査区外に存在する可能性が大きい。遺物 須恵器坏 (1～4)、須恵器蓋 (5・6)、甕 (7～12)、土師器甕 (13)、基石 (14)

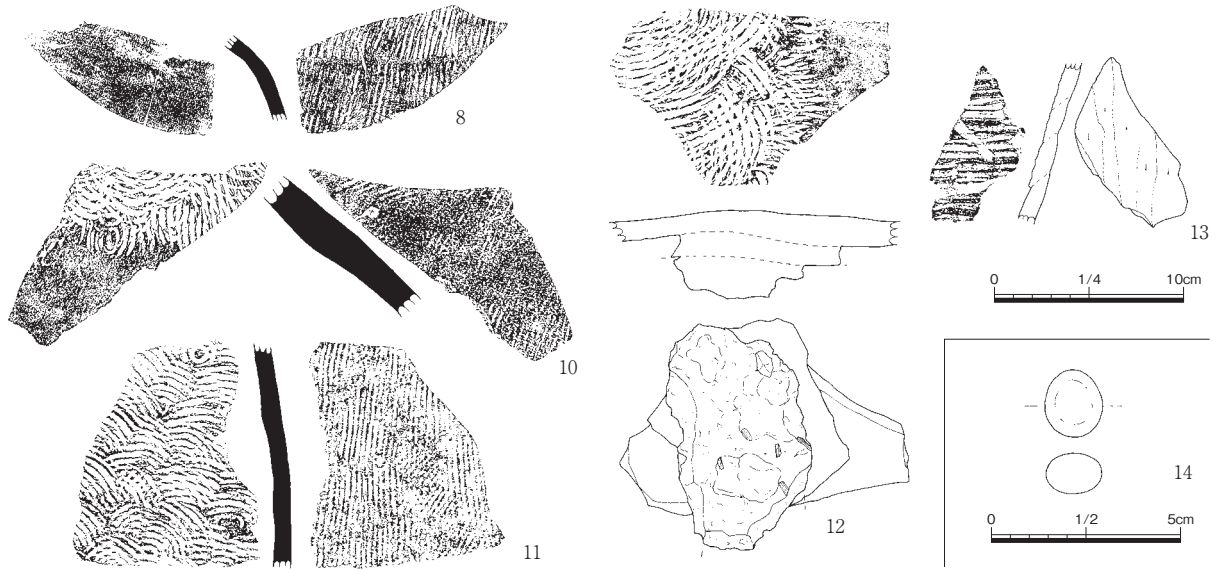
などがある。1の須恵器杯の底部外面にはヘラ記号が見られる。3は内面に凹線、外面には2条の沈線が見られる。新羅系土器の可能性が高い。9は甕頸部の接合剥離面に研磨痕がある。細かな凹凸をヤスリ或いは砥石として再利用したものか。不掲載遺物のうち、土器類は少コンテナ1箱弱。礫は5.9kgほど出土している。遺物から奈良時代後葉（8世紀後葉）の建物跡と考えられる。



第207図 西刑部西原遺跡4区 SI-1実測図



第208図 西刑部西原遺跡4区 SI-1出土遺物(1)



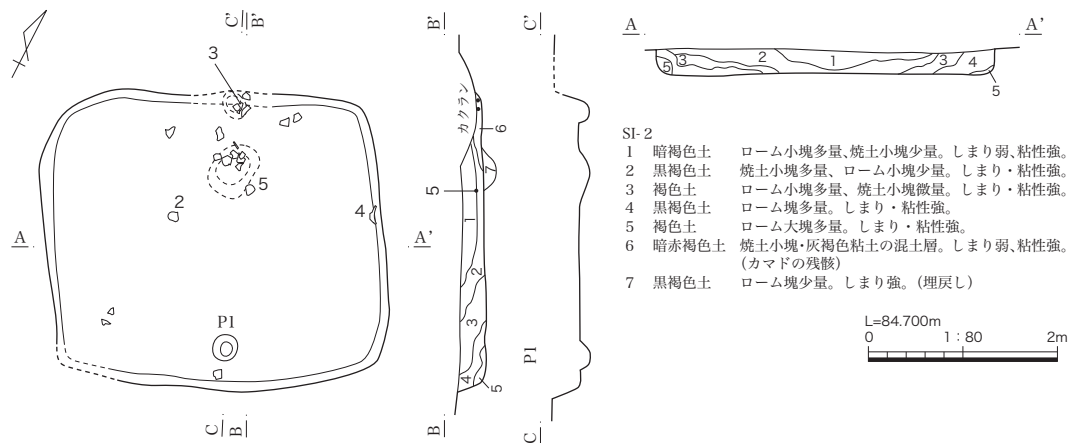
第209図 西刑部西原遺跡4区 SI-1出土遺物(2)

第92表 4区 SI-1出土遺物観察表

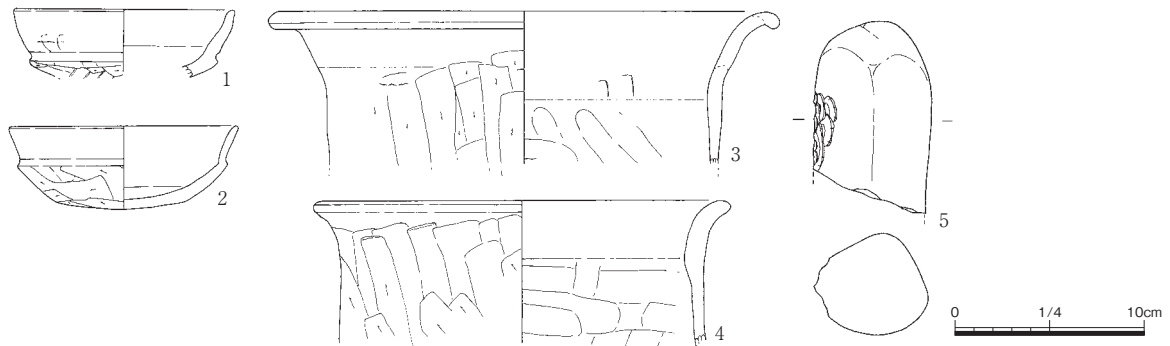
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 坏	口 (13.7) 底 7.3 高 4.0	内外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。ヘラ記号あり。	内外面とも 2.5Y8/2 灰白	やや緻密、灰・白細砂、灰・黒粗砂、赤粒 焼成：やや硬質	No. 11、南 西 14.1	口縁部 1/8、 底部完存
2	須恵器 坏	口 (11.4) 底 7.8 高 3.3	内外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切りのち多方向ヘラケズリ。	内：5Y6/1 灰 外：5Y7/1 灰白	やや緻密、白・黒細砂～ 砂、黒礫 焼成：硬質	No. 22 15.0	口縁部 1/4、 底部完存
3	須恵器 碗	口 (13.8) 高 (3.4)	内外面ロクロナデ。口縁部外面直下に二条の沈線あり。口縁部内面浅い凹線あり。外面一部黒色の自然釉付着。新羅系土器か。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：2.5Y6/2 灰黄	やや緻密、白・灰細砂、白・ 灰粗砂 焼成：軟質	南西	口縁部破片
4	須恵器 坏	底 7.8 高 [2.0]	内外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切りのち回転ヘラケズリか。体部下端回転ヘラケズリ。	内外面とも N5/0 灰	やや緻密、白・灰・黒粗 砂、白・灰・黒礫 焼成：硬質	南西	底部 2/3
5	須恵器 蓋	口 17.6 高 4.3 ツマミ 2.4	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリのちツマミ貼付。ツマミは宝珠形を呈する。	内外面とも 5Y6/1 灰	やや緻密、白・黒・灰細 砂、白砂、白・黒礫 焼成：硬質	No. 19、南 東 11.1	口縁部 5/6
6	須恵器 蓋	口 (20.4) 高 [3.2]	内外面ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリのちナデ。重ね焼きの痕跡あり。	内：5G4/1 暗緑灰 外：5G5/1 緑灰	やや緻密、白・灰細砂、白・ 灰礫 焼成：やや硬質	南東、南西	口縁部～体 部 1/2、ツ マミ欠損
7	須恵器 甕	厚 1.0	内面ロクロナデのち平行あて具痕。外面平行叩き。	内外面とも 2.5YR6/1 黄 灰	やや緻密、白・黒粗砂 焼成：硬質	南東	肩部～胴部 破片
8	須恵器 甕	厚 0.8	内面無文あて具痕。外面平行叩きのち浅い横位の沈線。	内：2.5Y6/2 灰黄 外：5Y6/1 灰	やや粗い、白・黒細砂、白・ 黒粗砂 焼成：硬質	南西	肩部～胴部 破片
9	須恵器 甕	口 (37.0) 高 [7.8]	口縁部内外面ロクロナデ。口縁部に6条以上の波状文。接合面剥離面の平行叩き圧痕をヤスリ(砥石)として転用したものか。平滑である。	内：N6/0 灰 外：N4/0 灰	やや緻密、白細砂、白・ 黒粗砂、白礫 焼成：硬質	No. 15 21.7	口縁部～頸 部 1/8
10	須恵器 甕	厚 2.0	内面同心円状のあて具痕。外面擬格子叩き。	内：2.5Y7/1 灰白 外：2.5Y5/1 黄灰	やや粗い、白・黒粗砂、 白礫 焼成：硬質	No. 16 27.5	肩部～胴部 破片
11	須恵器 甕	厚 1.5	内面同心円状あて具痕。外面平行叩き。	内：7.5Y5/1 灰 外：N5/0 灰	やや緻密、白・灰細砂、白・ 灰・黒砂、白礫、赤・白粒 焼成：硬質	No. 2 8.7	胴部破片
12	須恵器 甕	厚 4.6	須恵器甕内面同心円叩き。外面平行叩き。焼台が付着したまま流通した須恵器甕の破片と考えられる。	内外面とも 5Y7/1 灰白	やや緻密、白細砂、灰・黒・ 白砂、白礫 焼成：硬質	No. 7 14.9	底部破片
13	土師器 甕	厚 0.9	内面目の粗い条痕風のハケ目。外面タテヘラケズリ。	内外面とも 5YR5/6 明赤 褐	やや粗い、白・灰・黒粗 砂、黒・白・灰礫、赤粒 焼成：やや軟質	南西	胴部破片
14	石製品 碇石か	長 1.3 幅 1.5 厚 1.1 重 3.6	平面形、断面形とも楕円形の自然礫。	5Y8/1 灰白	石英	No. 18 5.4	完存

4区 SI- 2 (遺構：第 210 図、遺物：第 211 図、図版二九・九九)

位置 グリッド 83.5-44.5 重複遺構 無し。 平面形 北東隅が丸みをもつ方形。 規模 東西 3.47× 南北 3.11 m 主軸方向 N -35° -W 覆土 自然堆積か。 壁 壁高は 20.4 ~ 28.7 cm 残る。 床 ローム地山を床面とし、概ね平坦。 柱穴 確認できなかった。 入口ピット P1 (径約 28 cm、深さ 9 cm) は南壁際中央部に位置。 貯蔵穴 未確認。 カマド 北壁中央やや東寄りに位置するが、攪乱により痕跡を残すのみである。 遺物 少ないが床面付近の遺物を中心に図示した。小型の土師器坏・甕、編物石破片などがある。3の甕はカマド跡から出土する。不掲載遺物は土器類が小コンテナ約 1/5 箱出土した。遺物から古墳時代終末期の建物跡と考えられる。



第 210 図 西刑部西原遺跡 4 区 SI- 2 実測図



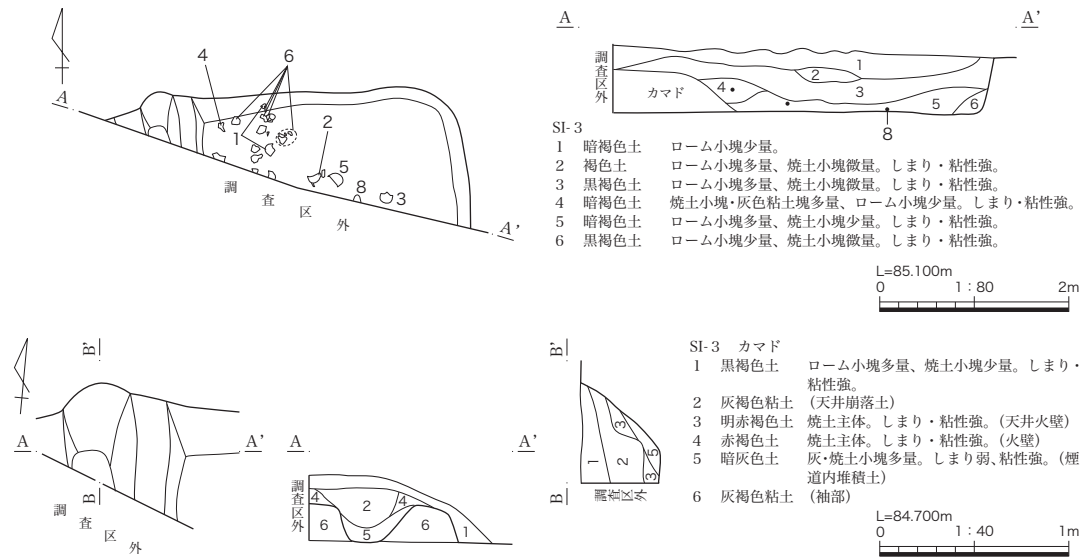
第 211 図 西刑部西原遺跡 4 区 SI- 2 出土遺物

第 93 表 4 区 SI- 2 出土遺物観察表

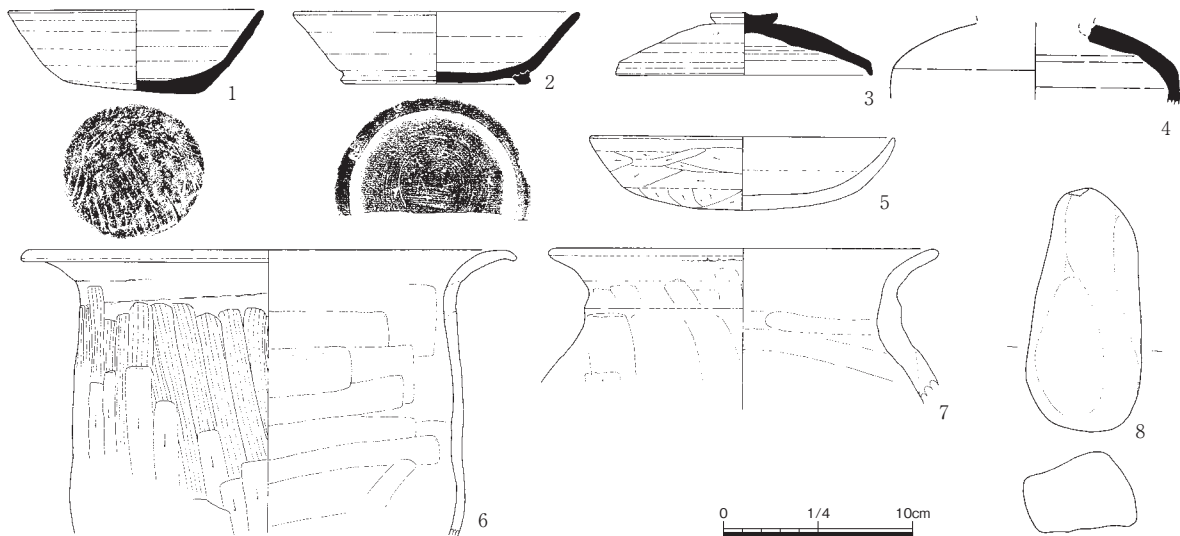
掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	土師器 坏	口 (11.3) 高 [3.6]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラナデのちヘラケズリ。	内外面とも 10YR7/4 に ぶい黄橙	やや緻密、黒・白砂 焼成：やや硬質	北西	口縁部 1/5
2	土師器 坏	口 (11.8) 高 4.4	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。 口縁部一部黒斑あり。口縁部外面～体部内面漆仕上げ。	内：10YR8/4 浅黄橙 外：7.5YR7/6 橙	やや緻密、黒細砂、黒礫、 赤粒 焼成：硬質	No. 3、北西 2.1	口縁部 3/8、底部 3/4
3	土師器 甕	口 (25.6) 高 [8.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ及びバナメナデ。胴部外面タテヘラケズリ。	内外面とも 5YR6/8 橙	やや粗い、灰・透明・黒 粗砂～礫 焼成：やや硬質	No. 13、北 東 2.2	口縁部～胴 部 1/4
4	土師器 甕	口 (21.0) 高 [7.7]	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部～胴部外面タテヘラナデのちバナメヘラケズリ。胴部内面ヘラナデあるいはナデか。口縁部直下～胴部は黒色を呈する (ススカ)。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：7.5YR7/6 橙	やや緻密、灰・黒・白砂、 灰・黒礫 焼成：やや硬質	No. 17 3.0	口縁部～胴 部 1/4
5	石器 編物石	長 [9.4] 幅 6.1 厚 5.2 重 [440.4]	左側面には両面からの剥離が施される。 平面形：楕円形か 断面形：不整な隅丸三角形	2.5Y7/2 灰黄	—	No. 4 1.8	部欠

4区 SI-3 (遺構：第212図、遺物：第213図、図版二九・九九)

位置 グリッド82.5-46.5 重複遺構 無し。平面形 隅丸方形か。規模 東西残3.35m以上×南北1.3m以上。覆土 自然堆積 壁 壁高は最深部で58.5cm。床 概ね平坦で貼床無し。柱穴・貯蔵穴 未確認。カマド 北壁に位置し壁際を半円形に浅く掘り込む。遺物 覆土下層からの出土が多い。1・2の底部外面にはスノコ状の圧痕あり。3の須恵器蓋はリング状のツマミをもつ。須恵器瓶類(4)は肩部がやや丸みを帯びる。土師器は坏・甕などがある。6は上半部をハケ成形した後、下半部にヘラケズリを施している。不掲載遺物は土器が小コンテナ約1/5箱出土した。遺物から奈良時代前葉(8世紀前葉)の建物跡と考えたい。



第212図 西刑部西原遺跡4区 SI-3実測図



第213図 西刑部西原遺跡4区 SI-3出土遺物

第94表 4区 SI-3 出土遺物観察表

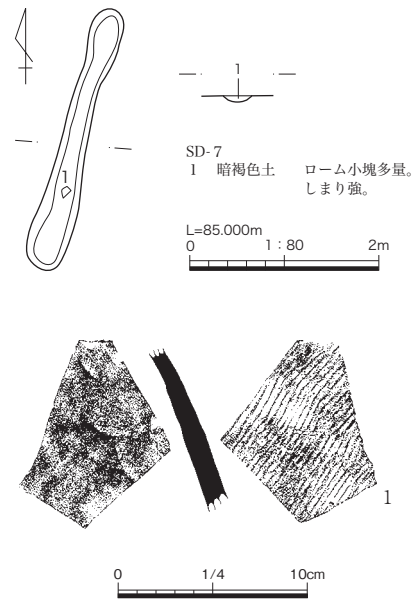
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 環	口 13.2 底 7.4 高 4.4	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちハケ目あるいはスノコ状の圧痕。器面は一部赤化しており二次的に被熱した可能性大。非常に脆い。	内：2.5Y7/2 灰黄 外：5Y6/1 灰	やや緻密、灰・黒砂、灰・白細砂、白礫 焼成：やや軟質	No.10・14 2.8	口縁部～体部2/3、底部完存
2	須恵器 高台付 環	口 (14.8) 底 9.5 高 3.9	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。底部外面中央部スノコ状の圧痕あり。高台部断面から接合沈線確認。内面は使用のため平滑。	内：10Y6/1 灰 外：10Y5/1 灰	やや緻密、白・灰細砂、白・灰粗砂、白礫 焼成：硬質	No.5 0.9	口縁部1/2、底部2/3
3	須恵器 蓋	口 (13.3) 高 3.3	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリのちツマミ貼付。天井部外面は分厚い降灰が認められる。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：7.5Y5/1 灰	やや緻密、白細砂、白・黒・灰砂 焼成：やや硬質	No.1 6.1	口縁部～体部1/2
4	須恵器 瓶類	高径 [4.1] (15.2)	肩部外面自然釉付着。内外面ロクロナデ。	内：2.5Y7/2 灰黄 外：5Y6/1 灰	やや緻密、灰・黒・白細砂 焼成：硬質	No.16 20.5	肩部破片、頸部一部
5	土師器 環	口 15.8 高 3.9	口縁端部は著しく磨滅している。口縁部内外面～体部内面ヨコナデ。口縁部外面～体部外面ヘラケズリ。内面及び口縁部外面漆仕上げ。	内外面とも 10YR8/2 灰白	やや緻密、黒・白細砂 焼成：やや硬質	No.3 13.3	口縁部～底部1/2
6	土師器 甕	口 (25.0) 高 [15.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ目調整のち下半部タテヘラケズリ。胴部内面ハケ目状のヘラナデ。外面の黒斑は焼成時のものか。内面の黒斑は炭化物か。	内：7.5YR7/6 橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	粗い、白・灰・黒粗砂～礫 焼成：やや硬質	No.13・15 ・17・北東 9.4	口縁部～胴部1/2
7	土師器 甕	口 (20.0) 高 [8.2]	口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面に弱いナメナデ。胴部外面ヘラケズリのちナデ。胴部内面ヘラナデ。球胴の甕。	内外面とも 10YR8/4 浅黄橙	やや緻密、灰・黒・白砂、黒・白細砂、赤粒 焼成：やや硬質	北東	口縁部～胴部1/6
8	石器 編物石	長 12.6 幅 6.1 厚 4.5 重 462.0	全体的に弱く被熱赤化している。平面形：不整な楕円形 断面形：不整な長方形	10YR5/3 にぶい黄褐	—	No.2 床直	ほぼ完存

2. 溝

4区 SD-7 (遺構・遺物：第214図、図版二九)

位置 グリッド 83.0-46.5・83.5-46.5 重複
遺構 無し。平面形 南北軸の溝状。規模 長さ2.85m、幅36～47cm 主軸方向

N-16° -E 壁 深さは最深部で12～13cm。床は概ね平坦。覆土 ローム塊を多く含む単層で、自然堆積か人為埋戻しかは判別不能である。遺物 遺物は図示した1点のみが出土した。1の須恵器甕は外面に平行叩きがあり、僅かに自然釉が付着する。内面には無文のあて具痕が残る。遺構の時期は明確には出来ないが、遺物は奈良時代～平安時代に属するものと考えられる。



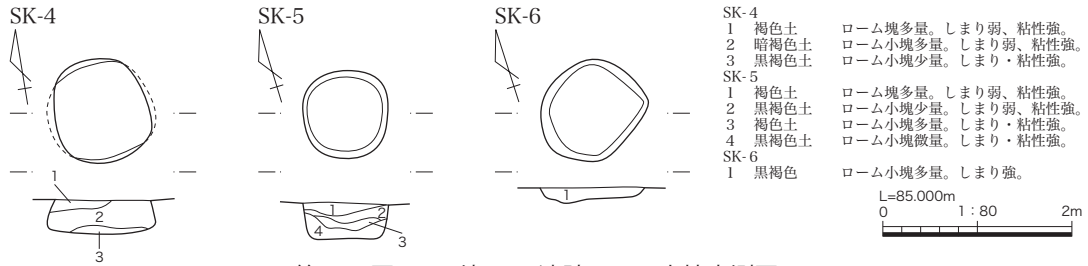
第214図 西刑部西原遺跡4区 SD-7実測図・出土遺物

第95表 4区 SD-7 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 甕	厚 1.1	内面無文あて具痕。外面平行叩き。外面には黒色の自然釉が薄く付着する。	内：N4/0 灰 外：N3/0 暗灰	やや粗い、白・灰粗砂～礫 焼成：硬質	No.1 6.2	胴部破片

3. 土坑

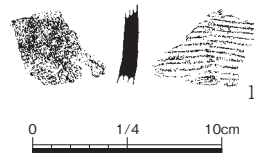
土坑は計3基確認された。遺物量が少なく帰属時期を明確に出来ないが、概ね集落の時期に近いと考える。詳細は個別に記載せず第96表に示した。平面形は不整な円形及び楕円形を呈し、断面形は皿状・筒状・オーバーハングする。覆土はいずれもローム塊を多量含むが、レンズ状堆積のSK-5は自然堆積と考えられる。



第215図 西刑部西原遺跡4区 土坑実測図

第96表 4区 土坑計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
SK-4	83.0-47.0	楕円形	1.12	0.98	0.37	
SK-5	82.5-47.0	円形	0.93	0.9	0.39	
SK-6	83.5-46.0	楕円形	1.15	1.03	0.15	



第216図 西刑部西原遺跡4区 SK-4出土遺物

第97表 4区 SK-4出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	須恵器 甕	厚 0.8	内面ナデあるいは無文あて具痕。外面平行叩き。	内：7.5Y4/1 灰 外：N4/O 灰	やや緻密、白・透明・灰 粗砂～礫 焼成：硬質	覆土中	胴部破片

4. 遺構外の出土遺物 遺物：第217図、図版二九・一一六・一一七

4区調査区北部中央やや東寄りの遺構確認作業中に鏡面を上に向けた状態で出土した。周辺を入念に精査したが、遺構の平面プランや伴件遺物は確認出来なかった。本遺跡では和鏡以外の中世の遺物・遺構は確認できず、単独の出土といえる。ローム面まで掘り込まれない墓坑が存在した可能性もあるが、詳細は不明である。遺物は完形品で、直径11.5cm、縁厚9mm、紐部分の厚さは7.5mm、最も薄い無文部の厚さは1～1.5mm、断面カマボコ状の界圈及び蝶・雀の陽刻部分はやや厚く2～2.5mmである。向かい合う雀は躍動的なのに対し、蝶は画一的で動きに乏しい。蝶は一見全て判で押したようだが、一匹ずつ微妙に異なる。雀・蝶は先端が丸みをもつ棒状またはヘラ状工具で表現されたと考えられる。鏡面の緑錆が無い部分は平滑で、色調は鉛色に近い。鏡面を研磨した後施した錫メッキが残存しているためか、13世紀前半から中葉の鏡の特徴をもつ。

第98表 4区 遺構外出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	銅製品 和鏡 (群蝶双雀鏡)	径 11.5 厚 0.9 重 236.0	緑錆のため全体的に緑色を帯びるが鏡面は鉛色を帯び僅かに光沢を残す。紐は花紋座紐で、孔は錆のため目詰まりする。紐の周りは向かい合う2匹の雀と4匹の蝶が見られ、更に界圈との間に10匹、外区に13匹の蝶を配している。鎌倉時代の遺物。	鏡面：7.5GY3/1 暗緑灰	青銅か	遺構確認面	完存

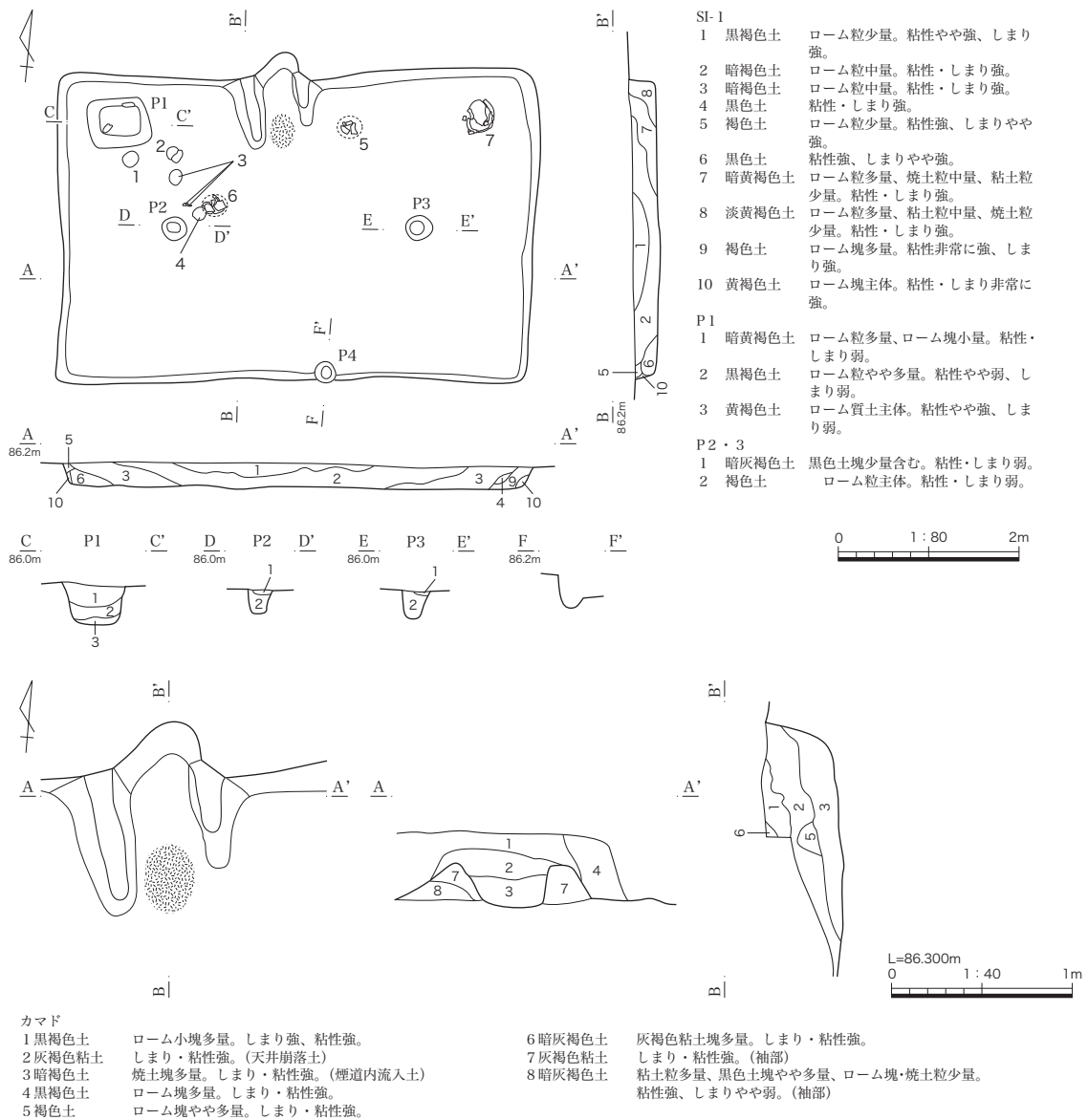


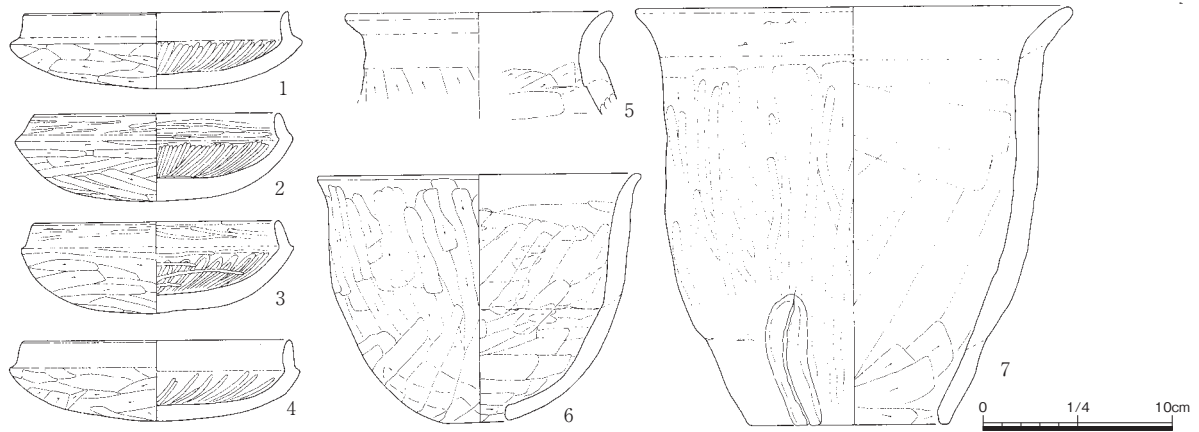
第 217 図 西刑部西原遺跡 4 区 遺構外出土 群蝶双雀鏡

1. 竪穴建物跡

5区 SI-1 (遺構：第219図、遺物：第220図、図版三一・九九)

位置 グリッド 85.0-52.5・85.5-52.5 重複遺構 無し。 平面形 東西軸の長方形 規模 東西 5.2×南北 3.4 m 主軸方向 N -5.5° -W 覆土 自然堆積 壁 17.8～30.8 cm 床 ローム面を床面とする。概ね平坦。 柱穴 P2 (径 27 cm、深さ 27 cm)、P3 (径約 30 cm、深さ 30 cm) の2本が確認される。柱痕は未確認。 入口ピット 南壁中央部に位置する。 貯蔵穴 P1 (長軸 67×短軸 54 cm、深さ 44 cm) は不整な長方形を呈する。 カマド 北壁中央部を不整なU字状に掘り込む。 焼土には厚く焼土が堆積する。 遺物 いずれも床面付近から土師器杯 (1～4)・甕 (5)・甔 (6・7) が出土した。土師器杯は内面に放射状のミガキが施され器高がやや高い。7の甔は底部から生じた縦の亀裂に粘土を貼付け補修している。不掲載の土器類は土師器杯・甕類が主体で、小コンテナ約 1/5 箱である。遺物から古墳時代後期後葉の建物跡と考えられる。





第220図 西刑部西原遺跡5区 SI-1出土遺物

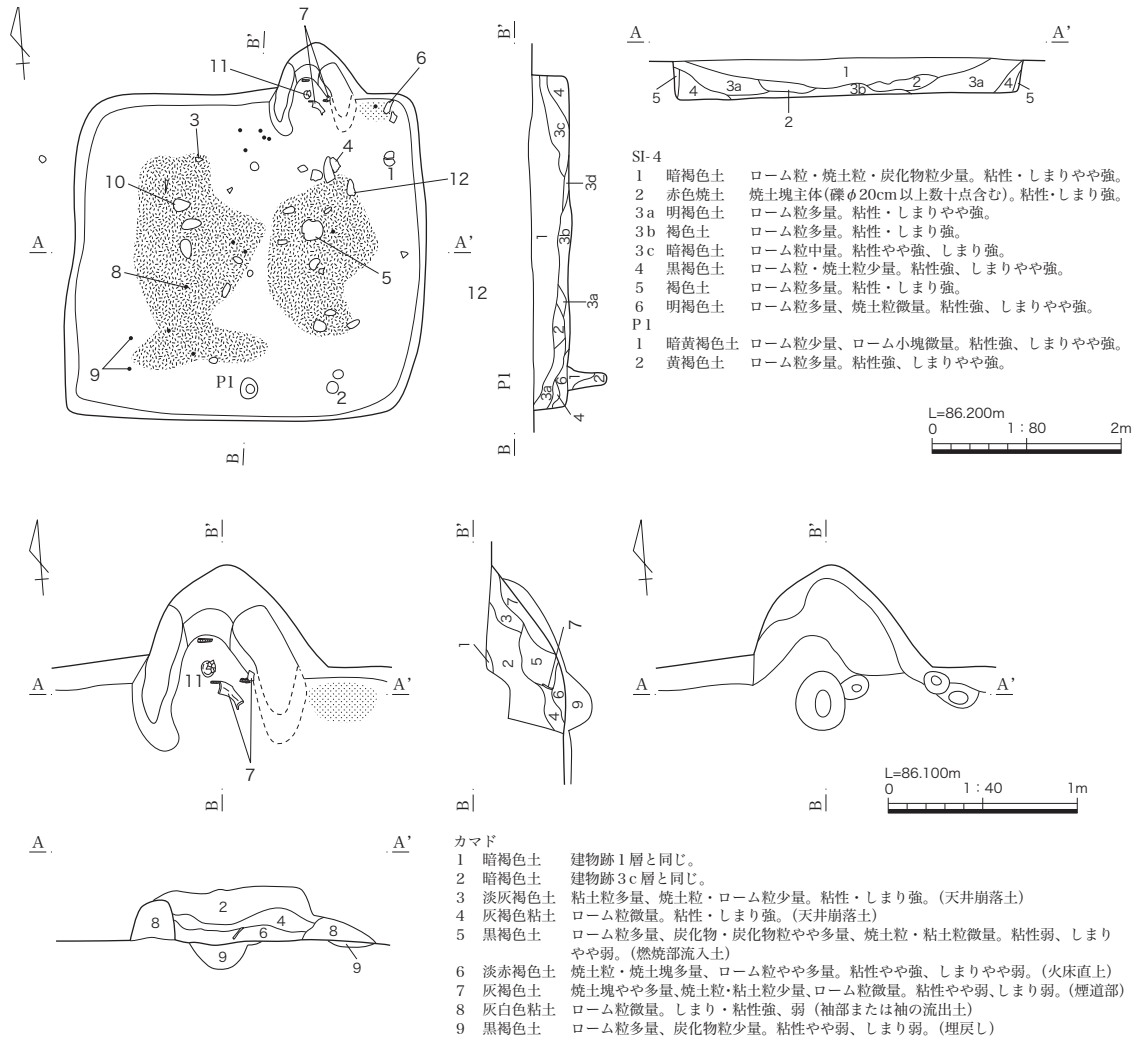
第99表 5区 SI-1出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 杯	口 (13.8) 高 4.0 径 (15.3)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面放射状ヘラミガキ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げか。	内：5YR4/6 赤褐 外：7.5YR3/1 黒褐	やや粗い、白粗砂、赤・黒粒 焼成：やや軟質	No.2 1.3	口縁部 1/2、底部 完存
2	土師器 杯	口 12.8 高 4.7	口縁部内外面ヨコナデのちヘラミガキ。体部外面幅狭の深いヘラミガキ。体部内面放射状ヘラミガキ。全面漆仕上げ。	内：7.5YR6/6 橙 外：7.5YR7/6 橙	やや粗い、白・灰・黒細砂～粗砂 焼成：やや硬質	No.4 2.5	ほぼ完存
3	土師器 杯	口 12.6 高 5.0 径 14.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデのちヘラミガキ。体部外面ヘラケズリ。一部黒斑あり。	内：5YR6/6 橙 外：7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・黒細砂、黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.5・6 1.0 (No.5)	口縁部～体 部 1/2
4	土師器 杯	口 (13.9) 高 4.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面放射状のミガキ。体部外面上半部指頭押圧。下半部ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・黒・灰砂砂、灰・白・黒砂 焼成：やや硬質	No.7 2.2	口縁部～体 部 1/2
5	土師器 甕	口 13.7 高 [5.5]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面上半部ヘラケズリのちヘラナデ。胴部外面斜めヘラケズリ。歪みが大きく粗雑なつくり。外面一部に粘土(カマド構築材)付着。	内外面とも 10YR7/4 に ぶい黄橙	やや粗い、灰・白・黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.2 1.3	口縁部～胴 部 1/2
6	土師器 甕	口 16.8 高 13.0 孔 3.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ(ナデケズリか)のちナメヘラナデ。胴部内面ヨコヘラナデのち上半部ナメヘラナデ。孔は単孔でヘラケズリにより穿孔。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密、黒粗砂、赤粒 焼成：硬質	No.8 3.5	完存
7	土師器 甕	口 21.6 底 10.5 高 22.0 径 23.0	単孔の甕。胴部外面タテヘラケズリのち太目のヘラミガキ。胴部内面ナメヘラナデのち上半部ヨコヘラナデ、下半部ヘラケズリ。孔はヘラケズリにより穿孔。外面の黒斑は焼成時のものか。下部部に焼成前の亀裂の補修痕がみられる。	内外面とも 7.5YR6/8 橙	やや緻密、白・灰粗砂 焼成：やや軟質	No.1 4.2	口縁部ほぼ 完存、底部 1/2

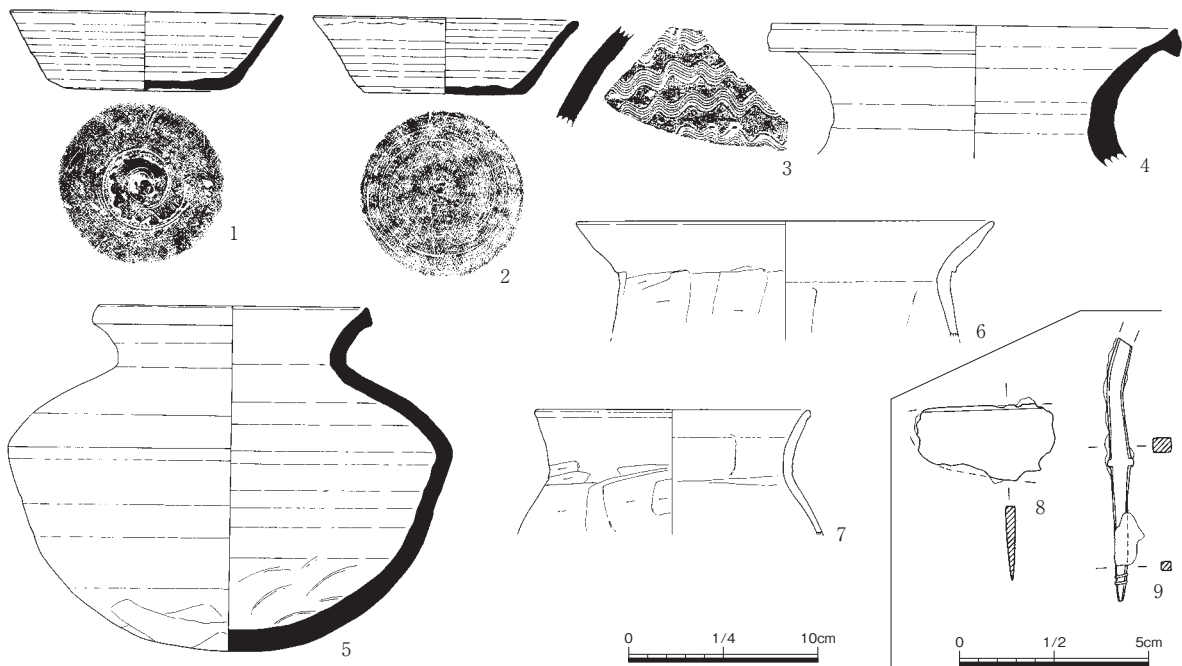
5区 SI-4 (遺構：第221図、遺物：第222・223図、図版三一・九九・一一二・一一三)

位置 グリッド 84.5-51.0 重複関係 無し。 平面形 隅丸方形、特に北西・南東隅が丸みをもつ。 規模 東西 3.72×南北 3.45 m 主軸方向 N-7.5° - E 覆土 埋没途中で、焼土及び多量の礫が廃棄された様子が見える。 壁 壁高 29～41 cm 床 ローム地山を床面とし、概ね平坦である。 入口ピット P1 (径 22～18 cm、深さ 41 cm) は南壁際中央部に位置する。 貯蔵穴 確認できなかった。 カマド 北壁東寄りに位置する。煙道は奥壁をV字状に掘り込み、約37°と緩やかに立ち上がる。袖は灰褐色粘土で構築されるが、残りは良くない。火床面から煙道部にかけ焼土が堆積し、7の土師器甕、10の支脚が出土した。

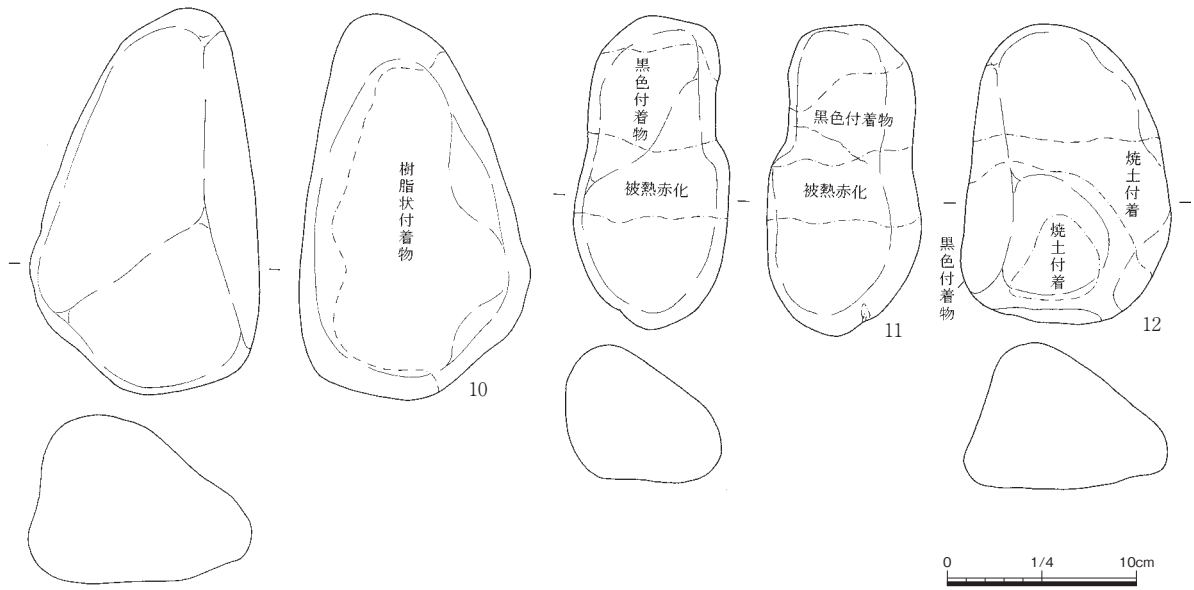
遺物 須恵器類が比較的多い。1・2は床面直上の須恵器杯。底部外面はいずれも回転ヘラ切りである。3～5は須恵器甕、5は焼け歪みが大きく、底部外面に焼台が付着する。この他土師器甕(6・7)、手鎌(8)、鉄鎌(9)、被熱礫(10～12)がある。不掲載の土器類は土師器杯・甕類が主体で、小コンテナ約1/5箱弱である。礫の重量は24.2 kgに及ぶ。遺物から奈良時代後葉の建物跡と考えられる。



第221図 西刑部西原遺跡5区 SI-4実測図



第222図 西刑部西原遺跡5区 SI-4出土遺物(1)



第223図 西刑部西原遺跡5区 SI-4出土遺物(2)

第100表 5区 SI-4出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 坏	口 14.2 底 8.4 高 4.2	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。	内：10Y5/1 灰 外：N6/0 灰	やや緻密、白粗砂、白礫 焼成：硬質	№9 床直	口縁部～体部3/4、底部完存
2	須恵器 坏	口 13.8 高 4.0 径 14.0	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちヘラケズリ。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：2.5Y7/1 灰白	やや緻密、白・透明・灰粗砂、 灰礫、雲母片 焼成：やや硬質	№10 床直	口縁部～体部3/4、底部完存
3	須恵器 甕	厚 1.0	内面ナデ。外面描波状文。	内外面とも N4/0 灰	やや緻密、白・灰粗砂、 白礫 焼成：硬質	№4 12.5	胴部破片
4	須恵器 甕	口 (21.2) 高 [7.3]	内外面ロクロナデ。口縁部内面オリブ色の自然釉。外面の釉は剥落している。	内：5Y7/2 灰白 外：5Y7/1 灰白	やや緻密、白・灰・黒細砂 ～砂、白・灰礫 焼成：硬質	№22 8.0	口縁部 1/4
5	須恵器 甕	口 (13.8) 高 (18.2) 径 (23.3)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。底部内面無文あて具痕。口縁部内面及び底部内面及び肩部に分厚く降灰がみられる。底部外面には焼き台(須恵器坏か)附着。焼け歪みが大きい。	内外面とも N6/0 灰	粗い、白・灰礫 焼成：硬質	№27 4.2	口縁部 1/3、胴部 ～底部完存
6	土師器 甕	口 (21.8) 高 [6.2]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヨコヘラケズリ。	内外面とも 5YR5/6 明赤 褐	やや緻密、白・灰・透明 細砂、透明粗砂 焼成：やや硬質	№6 0.8	口縁部～胴部 1/4
7	土師器 甕	口 (14.3) 高 [6.5]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヨコヘラケズリ。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密、白・黒・透明 細砂 焼成：やや硬質	№49・50 2.3 (№ 50)	口縁部～胴部 1/2
8	鉄製品 手鎌か	長 [3.4] 幅 1.4 厚 0.2 重 [4.7]	刀の断面は平造り。棟は角棟で棟幅約2.0mm。孔は確認できないため刀子の可能性もある。	—	鉄製	№3 29.3	部分残存
9	鉄製品 鉄鏃	長 6.9 幅 0.5 厚 0.3 重 4.9	棘笠被の長頸鏃。頸部の断面形は長方形。茎には繊維を巻付けた痕跡あり。	—	鉄製	№1・2 14.1 (№1)	頸部～茎部 残存
10	石器 編物石	長 24.9 幅 14.9 厚 11.1 重 504.1	表面に褐色附着物(漆か)。未加工の自然礫。平面形：不整形 断面形：隅丸三角形	5GY7/1 明オリブ灰	—	№8 17.7	完存
11	石器 編物石	長 16.2 幅 8.0 厚 7.2 重 1367.0	上半部は帯状にタール状物質附着。下半部は被熱により部分的に赤化。平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸三角形	10YR7/6 明黄褐	—	№52、カ マド -6.6 (№ 52)	ほぼ完存
12	石器 編物石	長 14.7 幅 10.8 厚 7.9 重 237.0	未加工の自然礫。焼土およびタール状物質附着。支脚か。平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸三角形	10YR7/4 にぶい黄橙	—	№23 5.0	ほぼ完存

第3章 発見された遺構と遺物

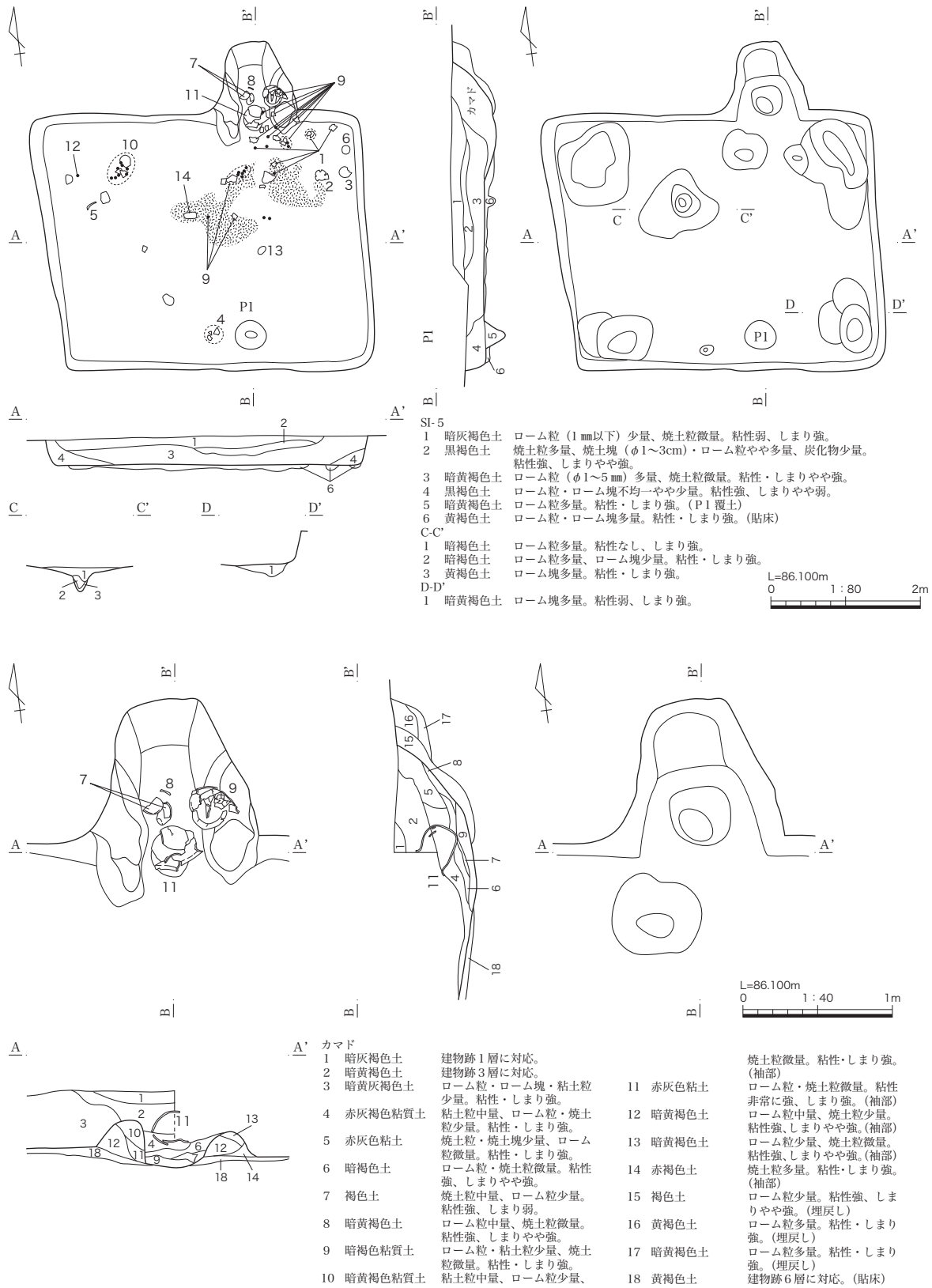
5区 SI-5 (遺構：第224図、遺物：第225・226図、図版三一・三二・九九・一〇〇・一一三)

位置 グリッド 84.0-50.5 平面形 隅丸長方形 規模 東西 4.21×南北 3.42 m 主軸方向 N-6.5° - E
 覆土 自然堆積 壁 27～38 cm 床 概ね平坦。全面的に貼床あり。 入口ピット P1(径 40～39 cm、
 深さ 25 cm)は南壁際に位置する。 掘方 四隅に土坑状の掘り込みあり。ローム塊主体の覆土で埋戻される。

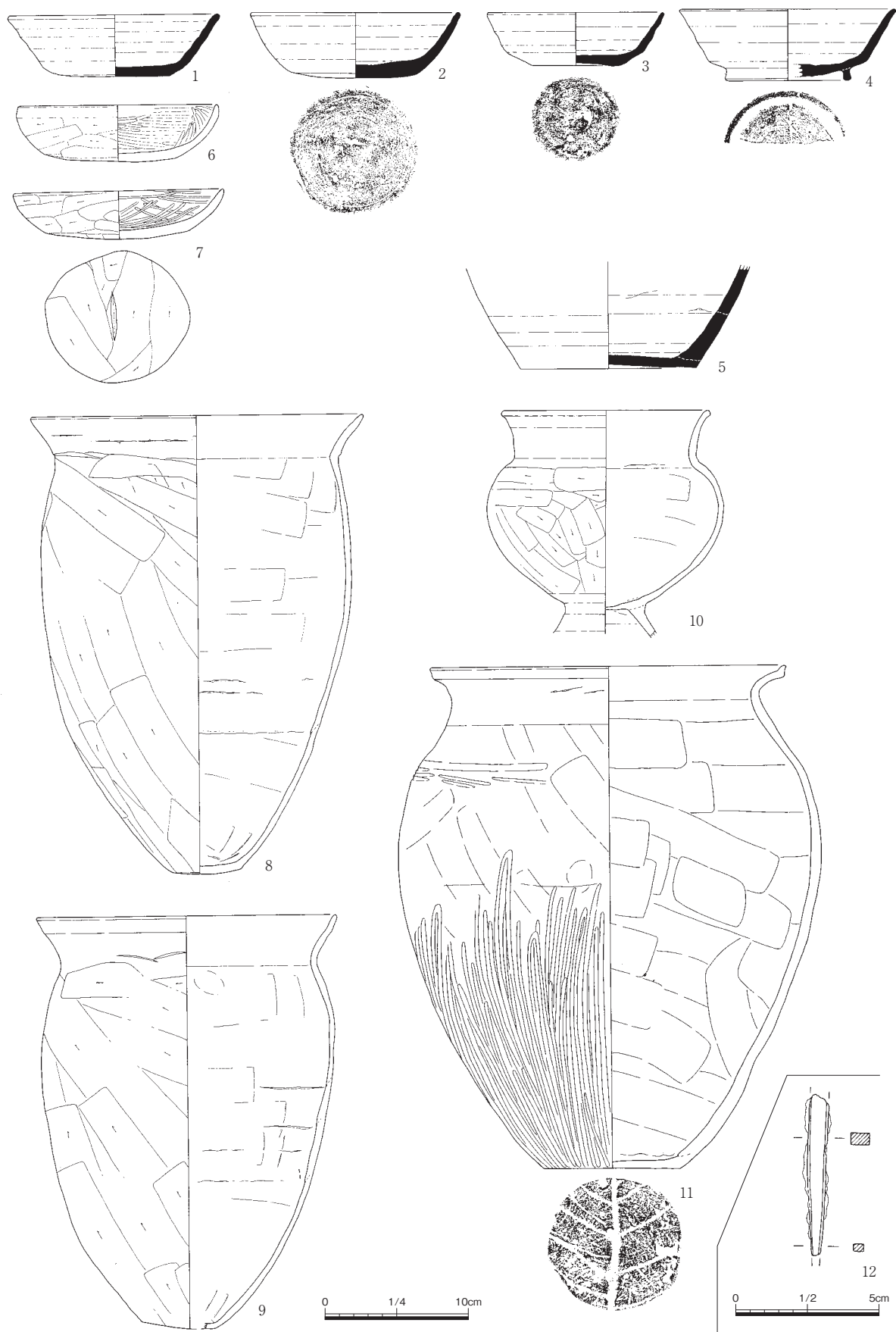
カマド 北壁東寄りに位置し、壁際を台形状に掘り込む。燃焼部から土師器坏(7)・甕(9・11)が出土する。 遺物 中層から上層に遺物(特に礫)が多い。図示した遺物は床面付近の出土で、須恵器坏類(1～4)・瓶類(5)、土師器坏(6・7)、土師器甕類(8～11)、鉄製品(12)、礫(13・14)がある。土師器甕は武蔵型(8・10)、常総型(11)が多い。不掲載の土器は土師器甕類が主体で、少量の坏類がこれに続き、その総量は小コンテナ約1/4箱である。礫の重量は18.8 kgに及ぶ。遺物から奈良時代中葉の建物跡と考えられる。

第101表 5区 SI-5 出土遺物観察表

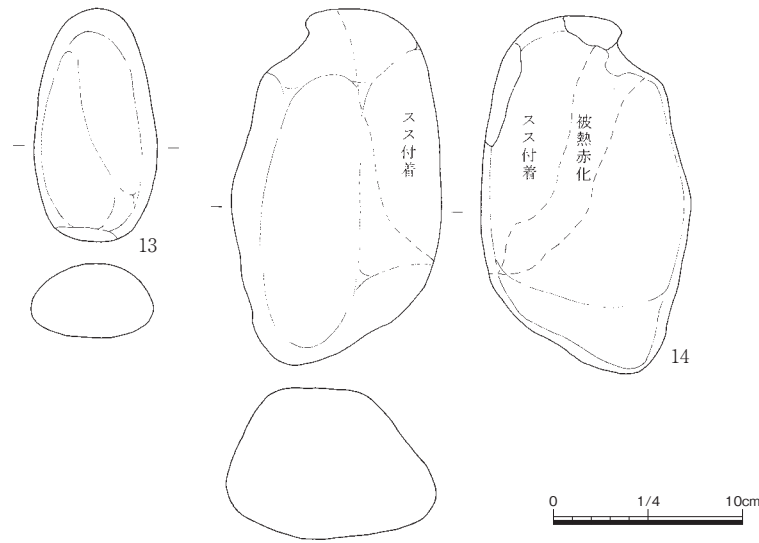
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器坏	口 14.6 底 7.6 高 4.3 径 14.8	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。全体に赤みを帯びる。	内：10YR7/6 明黄褐 外：10YR6/4 にぶい黄橙	やや粗い、白・灰粗砂～礫 焼成：やや硬質	No.21・22・32・33・38 12.3 (No.33)	口縁部 3/4、底部 完存
2	須恵器坏	口 14.3 底 8.5 高 4.6	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリ。外面黒褐色の付着物。ススあるいは漆か。	内外面とも 7.5Y7/1 灰白	緻密、白細砂、黒礫 焼成：硬質	No.34 床直	ほぼ完存
3	須恵器坏	口 12.0 底 5.9 高 3.7 径 12.4	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。底部内面及び体部内面磨滅のため平滑である。	内：10Y4/1 灰 外：7.5R4/3 にぶい赤褐	やや緻密、白粗砂～礫 焼成：硬質	No.35 床直	口縁部～体部 3/4、底部 完存
4	須恵器高台付坏	口 (14.8) (8.6) 高 5.0	内外面ロクロナデ。底面回転ヘラケズリのち高台貼付け。底部外面ヘラ記号あり。	内外面とも 7.5Y5/1 灰	やや緻密、白・灰・黒細砂、白・黒砂 焼成：硬質	No.9 16.4	口縁部 1/4、底部 1/3
5	須恵器瓶類	高厚 [7.3] 12.4	内外面ロクロナデ。底面静止ヘラ切りのち不定方向のナデ。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：2.5Y5/1 黄灰	やや緻密、白・黒細砂～砂、白・黒礫 焼成：硬質	No.5 30.4	底部～胴部 下半 1/2
6	須恵器坏	口 13.8 高 3.9	内面ヘラミガキ。口縁部外面ヨコナデ。	内外面とも 5YR6/8 橙	緻密、白・灰微砂粒、赤粒礫 焼成：硬質	No.36 床直	ほぼ完存
7	土師器坏	口 14.3 高 3.3	内面ナデのちヘラミガキ。体部～底部外面ヘラケズリ。中央部の溝状の線傷は砥石として転用したものか。底部は平底に近い。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、灰・黒細砂、白・黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.43・44 11.5 (No.44)	ほぼ完存
8	土師器甕	口 22.8 底 4.8 高 32.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面下半部ナメヘラケズリのち上半部ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。下半部に明瞭な接合休止痕あり。底部外面一方向ヘラケズリ。胴部外面粘土及びスス付着。	内外面とも 2.5YR4/8 赤褐	やや緻密、白・灰・黒細砂 焼成：やや軟質	No.40 不明	胴部 3/4、口縁部 完存、底部 完存
9	土師器甕	口 20.6 高 28.8 底 [5.0] 径 20.8	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラケズリ。胴部外面下半部少量スス付着。部分的に粘土付着。	内：7.5YR6/6 橙 外：2.5YR5/6 明赤褐	やや緻密、白・灰・黒細砂 焼成：やや軟質	No.11・13・15・17・19・20・27・28・30・31・39・40 0.8 (No.39)	口縁部 7/8、底部～胴部 1/2
10	土師器台付甕	口 (14.0) 高 [15.3] 胴 16.3	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面下半部はナメ、上半部はヨコヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。脚部内外面ヨコナデ。胴部外面炭化物付着。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密、白・灰・黒細砂 焼成：やや硬質	No.3 床直	口縁部 2/5、胴部 2/3、脚部 2/3
11	土師器甕	口 24.0 底 9.4 高 35.1 径 29.2	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラナデのち下半部タテヘラミガキ。肩部に2～3段の沈線状タタキ目あり。胴部内面ヘラナデ。底部外面木葉痕。外面の黒斑は被熱によりススが付着したものか。	内：2.5Y3/1 黒褐 外：5Y2/1 黒	やや粗い、白・透明・灰細砂、白礫、雲母片 焼成：やや硬質	No.41 7.0	ほぼ完存
12	鉄製品鉄鏝か	長 5.6 幅 0.8 厚 0.3 重 5.2	断面形は長方形。筥被は確認できないため釘の可能性もあるが木質などは残っていない。	—	鉄製	No.37 10.4	部分残存
13	石器編物石	長 12.2 幅 6.4 厚 3.8 重 496.4	未加工の自然礫。平面形：楕円形 断面形：楕円形	2.5Y6/2 灰黄	—	No.26 床直	完存
14	石器編物石	長 17.9 幅 [10.9] 厚 7.9 重 [2213.8]	被熱のためか一部赤化し黒色付着物もみられる。未加工の自然礫。平面形：不整形 断面形：隅丸台形	2.5Y7/3 浅黄	—	No.29 5.0	部欠



第224図 西刑部西原遺跡5区 SI-5実測図



第225図 西刑部西原遺跡5区 SI-5出土遺物 (1)



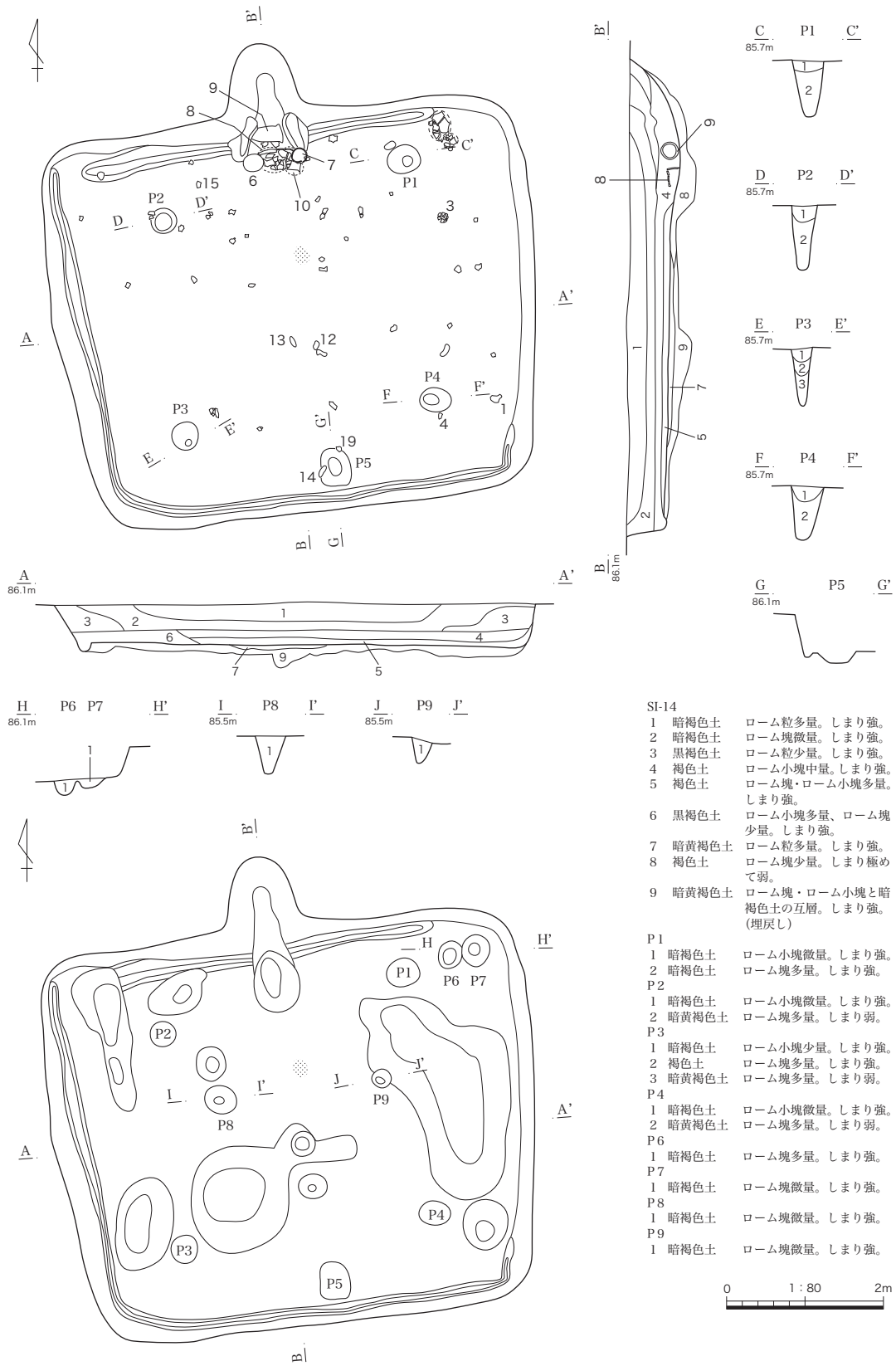
第226図 西刑部西原遺跡5区 SI-5出土遺物 (2)

5区 SI-14 (遺構：第227・228図、遺物：第229・230図、図版三二・一〇〇)

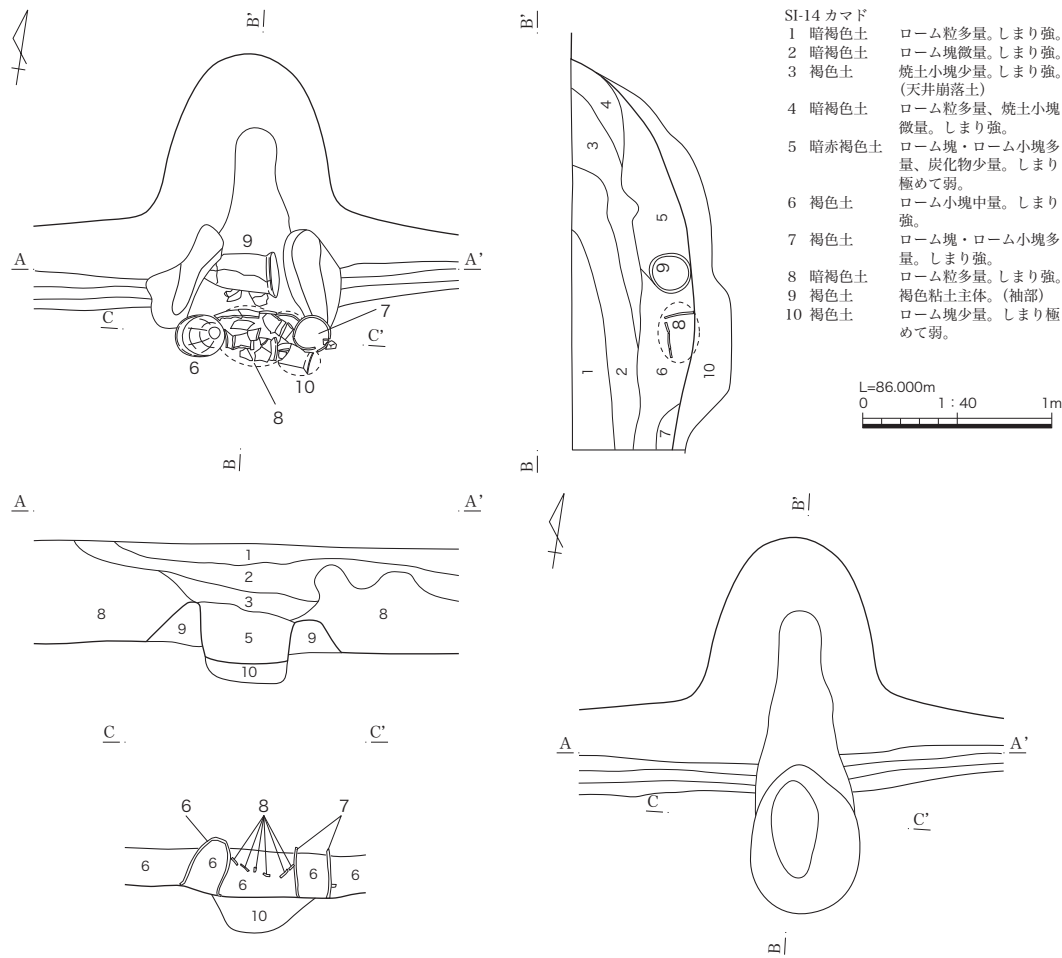
位置 グリッド 84.5-53.0 重複関係 無し。 平面形 正方形 規模 東西 6.1×南北 5.1 m 主軸方向 N-6° -W 覆土 自然堆積 壁 44～51 cm 床 概ね平坦。全面的に貼床。 柱穴 P1(径 42～36 cm、深さ 71 cm)、P2(径 33 cm、深さ 81 cm)、P3(径約 36 cm、深さ 74 cm)、P4(径 40～32 cm、深さ 67 cm)。いずれも深いが柱痕は見られない。 入口ピット P5(径 52～37 cm、深さ 62 cm) ピット P6(径 35～30 cm、深さ 18 cm)、P7(径 40～35 cm、深さ 12 cm)、P8(径 42～35 cm、深さ 48 cm)、P9(径 25 cm、深さ 31 cm) は用途不明。 壁溝 幅 18～22 cm、深さ 13 cm。北西隅と東壁を除く壁際に巡る。 掘方 浅く不整な土坑状掘り込みをもつ。 カマド 北壁中央を深くU字形に掘る。6・7は逆位に置かれた長胴甕。8は焚き口部にブリッジ状に渡したもののか。 遺物 床面付近の遺物を多く図示した。土師器環(1～5)の他は土師器甕(6～10)が多い。11は凝灰岩の砥石。12～14は編物石か。須恵器類は混入品と思われる。不掲載の土器は小コンテナ約2箱で、礫の重量は4.9 kgである。遺物から奈良時代中葉の建物跡と考えられる。

第102表 5区 SI-14出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器環	口 13.8 高 4.4	内面～口縁部外面ヨコナデのち漆仕上げ。体部外面ヘラケズリ。内面に部分的に黒色付着物あり。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、微砂粒、赤色粒 焼成：やや軟質	No.46 2.8	口縁部 1/4、体部 3/5
2	土師器環	口 (13.2) 高 3.7	体部内面中位～口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内面～口縁部外面漆仕上げ。口縁部外傾。	内：10YR7/3 にふい黄橙 外：10YR7/6 明黄褐	やや緻密、微砂粒、赤色粒少量 焼成：やや軟質	カマド 床直	口縁部～体部 1/3
3	土師器環	口 (12.5) 高 4.1	体部内面～口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内外面タール状の付着物少量あり。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、赤礫・微砂粒、赤色粒 焼成：やや軟質	No.42 5.4	口縁部 2/5、体部 3/5
4	土師器環	口 (10.8) 高 [3.0]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内面調整不明。口縁部外面～体部内面漆仕上げ。口縁部僅かに内湾する。	内：10YR7/2 にふい黄橙 外：10YR7/3 にふい黄橙	やや緻密、灰細砂 焼成：やや硬質	No.5 1.5	口縁部～体部 1/2
5	土師器環	口 (14.6) 高 3.3	体部内面中位～口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリか。(剥離顕著で不明瞭)。体部内面～口縁部外面漆仕上げ。	内：7.5YR7/4 にふい黄橙 外：7.5YR7/6 橙	緻密、細砂粒、白色粒少量 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部～体部 3/4
6	土師器甕	口 20.5 底 5.5 高 29.3	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。下端部ナメヘラケズリ。胴部内面ナデのち一部ヘラナデ。底部外面ヘラケズリのちナデ。胴部中位の積上休止部分で大きく歪む。接合部に薄く帯状の補強をした後沈線状のナデを半周施すがこの部分から折損する。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、黒細砂、白・黒砂、白・黒礫 焼成：やや硬質	No.32 4.3	胴部一部欠損
7	土師器甕	口 21.5 高 [25.7]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面縦位のヘラケズリ。胴部内面下半部ユビナデのちヘラナデ。内面上半部ヨコナデ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・灰・黒細砂、白・灰砂、雲母 焼成：やや硬質	No.34 床直	口縁部～胴部上半 2/3 残存。底部欠損

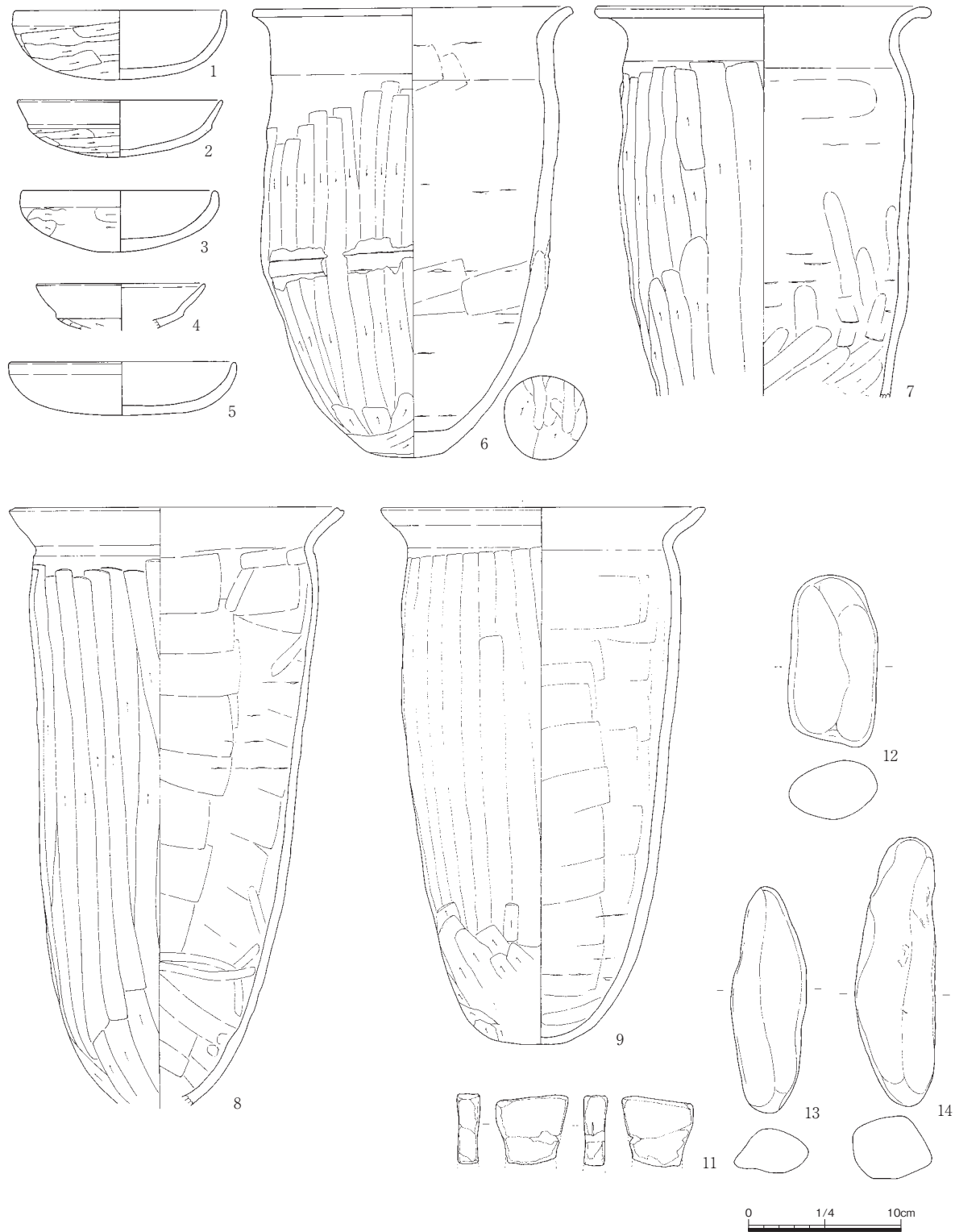


第227図 西刑部西原遺跡5区 SI-14実測図 (1)



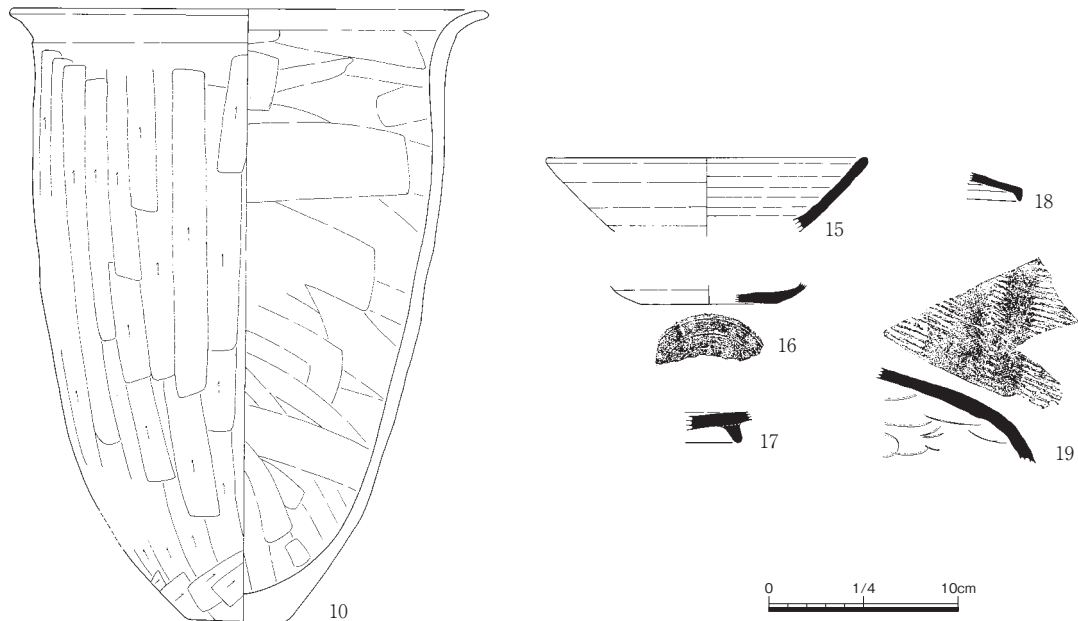
第 228 図 西刑部西原遺跡 5 区 SI-14 実測図 (2)

8	土師器 甕	口 高	21.2 [38.8]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテ方向ヘラケズリ。胴部内面ヨコまたはナメヘラナデ。長胴化の進んだ甕。カマド構築材に転用か。被熱した粘土附着。	内外面とも 10YR7/6 明黄橙	やや緻密、白・灰細砂、白砂、礫 焼成：やや硬質	No. 32・34 床直	底部欠損
9	土師器 甕	口 高	20.9 35.9	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。下端部ナメヘラケズリ。底部外面ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。底部内面ナデ。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・灰細砂、灰砂 焼成：やや硬質	No. 33・37・38 床直 (No. 37)	底部一部欠損
10	土師器 甕	口 底 高	24.6 5.4 32.4	口縁部内外面ロクロナデ。胴部外面タテ・下端部ナメヘラケズリ。胴部内面下半部ナデ (布目か)。上半部ヘラナデ。底部外面ヘラケズリ (一方複数回)。カマド構築材に転用か。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：10YR7/6 明黄褐	やや緻密、白・灰細砂、白・黒砂、灰礫 焼成：やや硬質	No. 37 床直	口縁部及び胴部下半部一部欠損
11	石製品 砥石	長 幅 厚 重	(4.4) 4.6 1.4 40.0	砥面は長軸方向に 4 面認められる。両側面には短軸方向の擦痕が若干認められる。長軸方向に若干擦痕がみられるが明瞭ではない。仕上げ砥と考えられる。	2.5Y8/2 灰白	凝灰岩	覆土中	中央部から欠損
12	石器 編物石	長 幅 厚 重	11.0 6.0 4.0 350.0	未加工の自然礫。平面形：不整な隅丸方形 断面形：楕円形	10Y6/2 灰黄褐	—	No. 44 2.3	完存
13	石器 編物石	長 幅 厚 重	14.9 5.0 2.9 291.3	未加工の自然礫。平面形：不整な楕円形 断面形：不整形	5Y7/1 灰白	—	No. 43 2.2	完存
14	石器 編物石	長 幅 厚 重	17.5 5.3 4.0 559.3	未加工の自然礫。平面形：不整な長楕円形 断面形：不整な台形	5Y6/1 灰	—	No. 47 10.3	完存
15	須恵器 坏	口 高	(6.6) [3.9]	内外面ロクロナデ。内面にタール状の附着物微量あり。混入品か。	内：5Y7/2 灰白 外：5Y5/1 灰白	緻密、砂粒、白色粒 焼成：やや硬質	No. 30 1.5	口縁部～体部 1/6
16	須恵器 坏	底 高	7.0 [1.0]	底部外面回転ヘラケズリ。混入品か。	内外面とも 5Y7/1 灰白	緻密、砂粒、黒色粒、白色粒、礫 焼成：やや硬質	覆土中	底部 1/4
17	須恵器 高台付 盤	高	[1.6]	底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。内面に僅かに朱附着。転用碗か。混入品か。	内外面とも 5Y7/1 灰白	緻密、白・灰・黒細砂、灰礫 焼成：やや硬質	覆土中	底部 1/6



第 229 図 西刑部西原遺跡 5 区 SI-14 出土遺物 (1)

18	須恵器蓋	高 [1.5]	内外面ロクロナデ。混入品か。	内外面とも 5Y7/1 灰白	緻密、白・灰細砂、黒砂 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部一部
19	須恵器甕	高 [4.9] 厚 0.8	外面平行叩き。僅かに自然釉かかる。内面無文あて具痕あり。混入品か。	内：5Y5/1 灰 外：N5/0 灰	緻密、白・灰細砂、白砂、 白色粒 焼成：硬質	No. 1 1.4	肩部破片



第230図 西刑部西原遺跡5区 SI-14 出土遺物 (2)

2. 掘立柱建物跡

5区 SB-19 (遺構：第231図、図版三二)

位置 グリッド85.0-51.0 重複遺構 SK-10との重複関係は不明。西2.5mにSB-21が近接する。 平面形・規模 桁行3間×梁行1間の東西棟側柱式建物。桁行総長6.4m、梁行総長1.92m。 柱間 桁行の柱間寸法は北側柱列と南側柱列でばらつきが大きい。 主軸方向 N-88.5° - E 柱穴 P1(径50～46cmの円形、深さ31cm)、P2(径48～47cmの円形、深さ56cm)、P3(径39～38cmの円形、深さ59cm)、P4(径55～50cmの円形、深さ45cm)、P5(径29～27cmの円形、深さ19cm)、P6(径30～29cmの円形、深さ17cm)、P7(径50～46cmの円形、深さ36cm)、P8(径37～34cmの円形、深さ35cm)の計8本が確認された。いずれも柱痕は残っていない。南側柱列の掘方は北側柱列に比べ、規模も小さく浅い。 遺物・時期 遺物は確認されなかったため、明確な帰属時期は不明である。

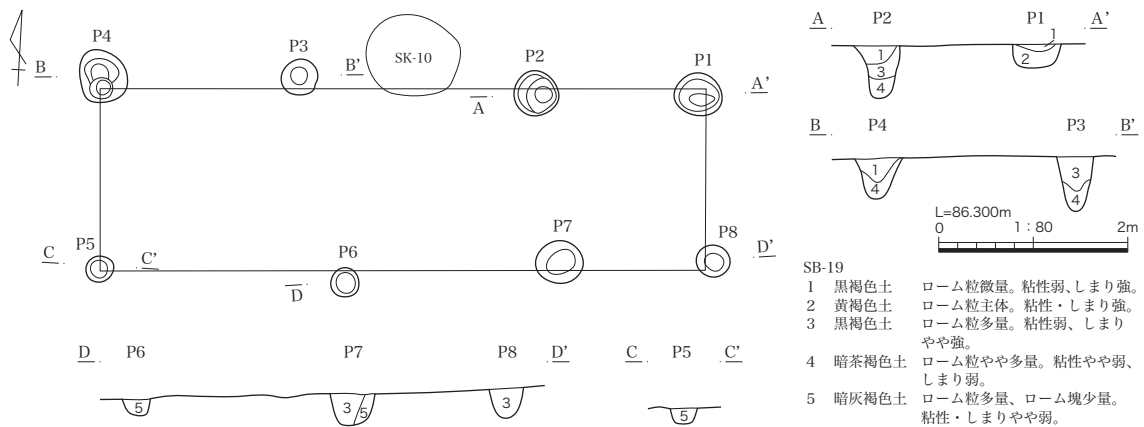
5区 SB-21 (遺構：第232図、図版三二)

位置 グリッド85.0-50.5 重複遺構 P-13との切り合いは不明。東2.5mにSB-22が近接する。 平面形・規模 桁行2間×梁行1間の側東西棟側柱式建物。桁行総長3.6m、梁行総長2.08m。 柱間 桁行の柱間寸法は東から2m+1.8m、梁行の柱間寸法は2.08mである。 主軸方向 N-83.5° - E 柱穴 P1(径53～44cmの楕円形、深さ52cm)、P2(径45～40cmの円形、深さ42cm)、P3(径55～52cmの円形、深さ39cm)、P4(径30～25cmの円形、深さ23cm)、P5(径約29cmの円形、深さ36cm)、P6(径45～35cmの楕円形、深さ19cm)の計6本を確認。P2・P3は柱痕が残る可能性もあるが不明瞭である。 遺物・時期 遺物は確認されず、明確な帰属時期は不明である。

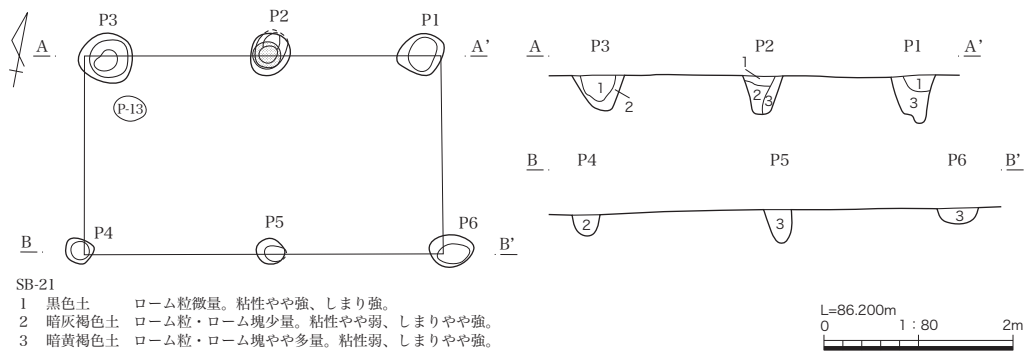
5区 SB-22 (遺構：第233図、図版三三)

位置 グリッド 84.5-51.0・84.5-50.5 重複遺構 重複遺構は無いが、北部約2mにSB-19・21が近接する。

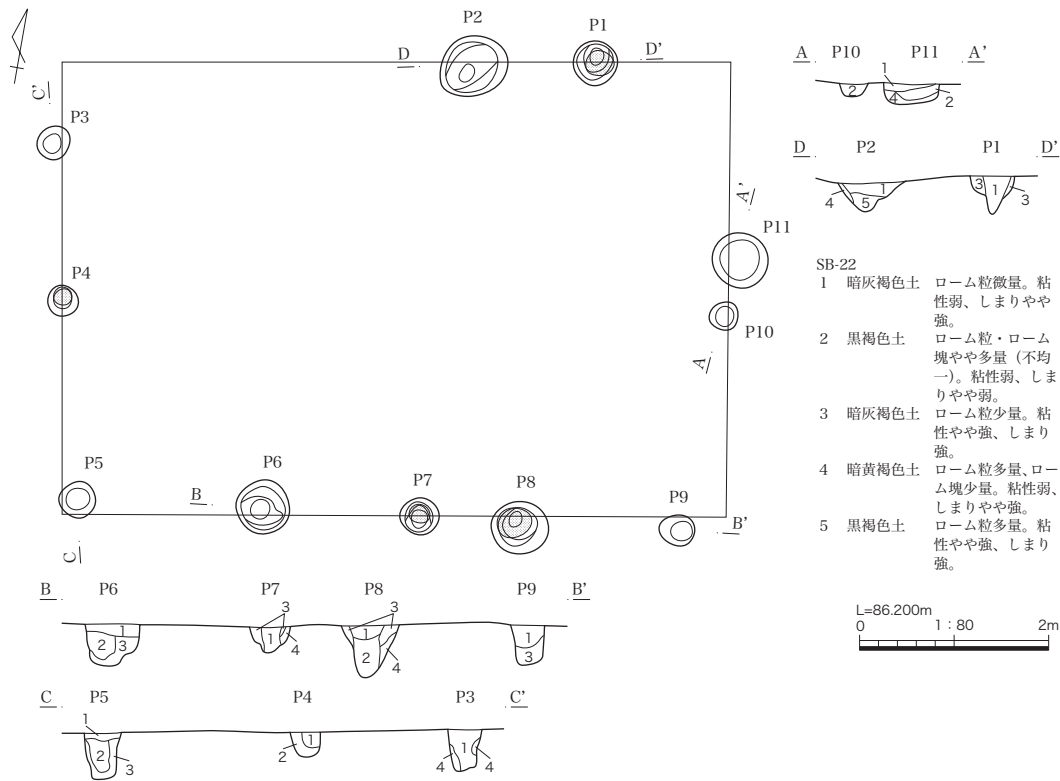
平面形・規模 桁行4間×梁行2間の東西棟側柱式建物。桁行総長7m、梁行総長4.8m。柱間 桁行の柱間寸法は一定していないが、梁行の柱間寸法は2.1～2.5mほどである。主軸方向 N-83.5°-W
 柱穴 P1(径47cmの円形、深さ40cm)、P2(径70～65cmの円形、深さ29cm)、P3(径35cmの円形、深さ45cm)、P4(径32cmの円形、深さ26cm)、P5(径40cmの円形、深さ48cm)、P6(径57cmの円形、深さ44cm)、P7(径40cmの円形、深さ26cm)、P8(径59～55cmの円形、深さ55cm)、P9(径37～32cmの円形、深さ43cm)、P10(径30cmの円形、深さ13cm)、P11(径59cmの円形、深さ22cm)の計11基を確認した。柱間間隔が不定な部分も多いが、柱痕の見られる掘方(P1・4・7・8)もあることから建物の可能性があると考え掲載した。遺物・時期 遺物は確認できず、時期は不明である。



第231図 西刑部西原遺跡5区 SB-19 実測図



第232図 西刑部西原遺跡5区 SB-21 実測図



第 233 図 西刑部西原遺跡 5 区 SB-22 実測図

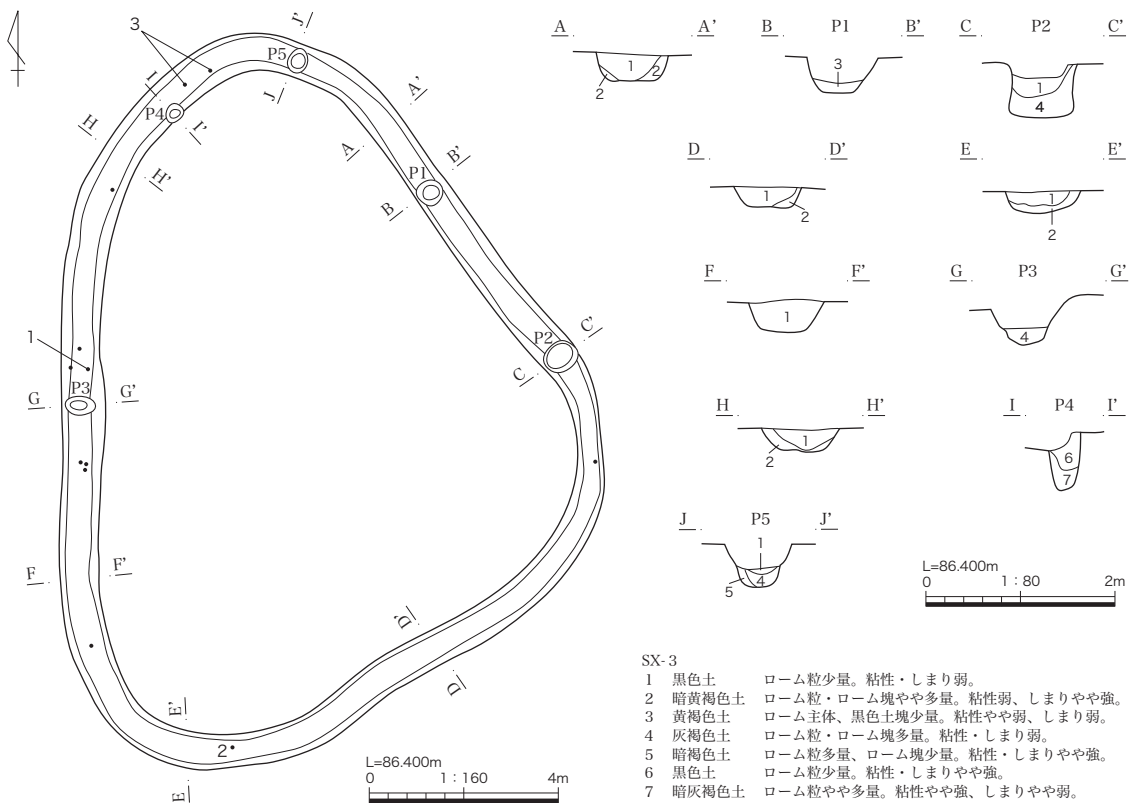
3. 円形周溝遺構

5 区 SX- 3 (遺構：第 234 図、遺物：第 235 図、図版三三)

位置 グリッド 85.0-52.0・85.0-51.5・84.5-51.5・84.5-52.0 重複遺構 周溝内に SK-26～28 があるが、重複関係は不明。規模・平面形 長径：外 15.6m：内 14.0m、短径：外 11.2m：内 9.8m の不整な隅丸三角形。溝の上幅 48～88 cm。覆土 自然堆積 壁・断面形 壁高は 20～38 cm 残る。断面は逆台形。底面概ね平坦。ピット P1 (径 52 cm、深さ 24 cm)、P2 (径 60～72 cm、深さ 40 cm)、P3 (径 40～60 cm、深さ 18 cm)、P4 (径約 20 cm、深さ 42 cm)、P5 (径 40～65 cm、深さ 20 cm) があるが、柱痕は未確認。遺物 図示した遺物は、須恵器甕破片 (1)、土師器杯 (2・3) とともに床面から浮いた状態で出土した。不掲載遺物は土師器杯・甕類の小破片 20 点弱である。遺物から古墳時代後期後葉の遺構と考えられる。

4. 土坑

本調査区からは計 20 基の土坑が確認された。土坑は遺物の出土量が少なく、他遺構との重複も殆ど無いため、時期不明なものが多い。ここでは出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容などを表にまとめ掲載し、若干の補足説明を行う。土坑を形態別にみると、平面形は 1 群：不整な円形又は楕円形を呈するものと、2 群：方形のものがある。1 群は径 70～90 cm と比較的小型の土坑 (SK-10・16・23～31) と、1 m を越えるもの (SK- 2・8・13・15・17・18) がある。断面形は浅い皿状もしくは逆台形状で、自然堆積か。2 群の土坑 (SK- 6・7) はやや大形で、底面に傾斜が見られる。覆土は自然堆積か。遺物は概して少なく、土師器片を少量含む土坑が散見される程度である。このうち SK- 8 からは製塩土器破片が 1 点出土した。



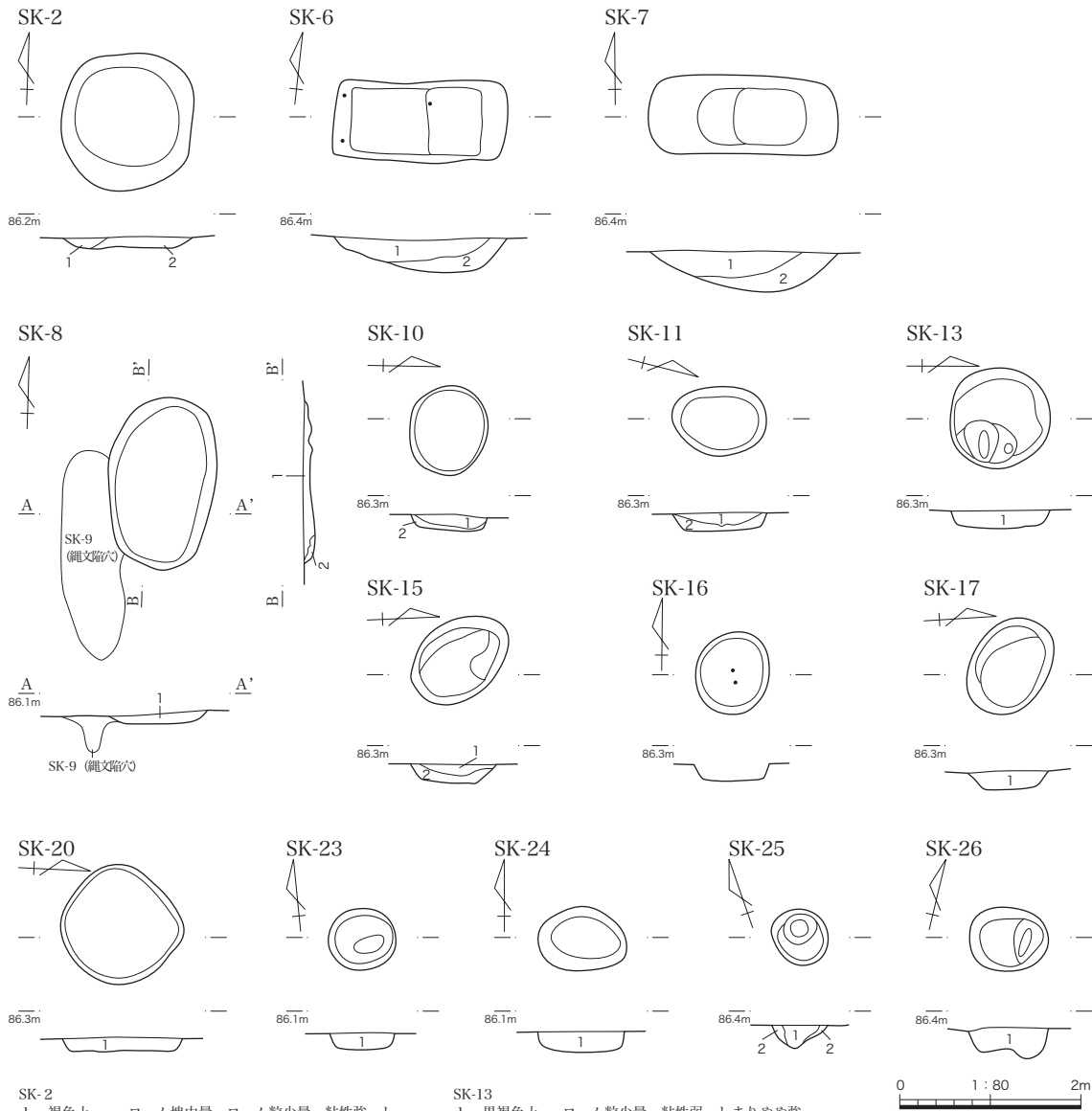
第234図 西刑部西原遺跡5区 SX-3実測図



第235図 西刑部西原遺跡5区 SX-3出土遺物

第103表 5区 SX-3出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 甕	厚 1.3	外面平行叩き。内面ナデ。外面薄く自然釉付着。	内：5Y6/1 灰 外：N5/0 灰	やや緻密、白・灰・黒細砂、白・黒砂、白礫 焼成：硬質	No 7 18.7	胴部破片
2	土師器 環	口 (12.4) 高 [4.5]	口縁部内外面ヨコナデのちへラミガキ。体部内面へラナデのちへラミガキか。体部外面へラケズリのちへラミガキ(剥落顕著で不明瞭)。内外面漆仕上げ。	内：10YR6/2 灰黄褐 外：10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、白・黒細砂～砂、白礫 焼成：やや硬質	No 11 13.0	体部～底部 1/2、口縁部 1/3
3	土師器 環	口 (9.4) 高 [4.7]	内外面口縁部ヨコナデ。体部内面へラミガキ。体部外面へラケズリ。内面黒色処理。	内外面とも 7.5YR7/4 にぶい橙	やや緻密、白・灰・黒砂、白・黒細砂、赤粒 焼成：やや硬質	No 1 7.0	口縁部 1/6、 体部 1/2

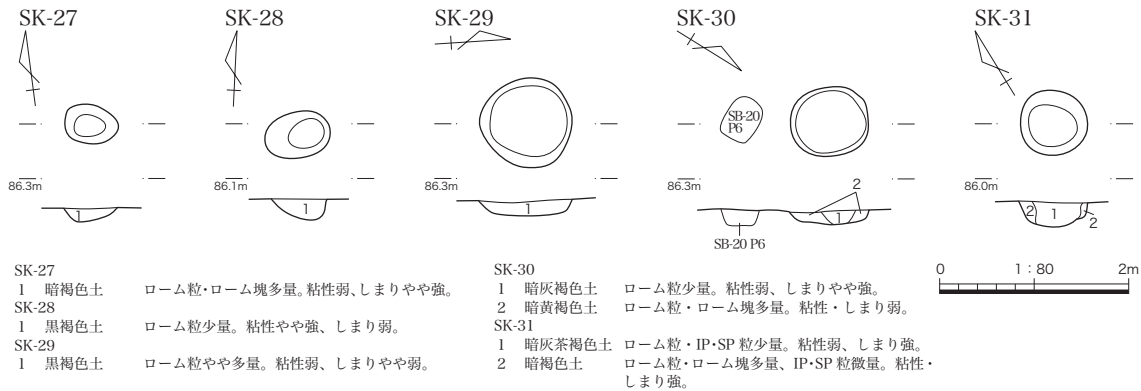


- SK-2
 1 褐色土 ローム塊中量、ローム粒少量。粘性強、しまりやや強。
 2 暗褐色土 ローム粒中量、焼土粒少量。粘性・しまりやや強。
- SK-6
 1 褐色土 ローム粒少量。粘性・しまり強。
 2 暗褐色土 ローム塊少量。粘性やや強、しまり弱。
- SK-7
 1 黄褐色土 KP粒主体。粘性・しまりやや強。
 2 暗褐色土 ローム塊中量。粘性強、しまり弱。
- SK-8
 1 暗褐色土 ローム粒少量。粘性強、しまりやや強。
 2 褐色土 ローム粒中量。粘性強、しまりやや強。
- SK-10
 1 黒褐色土 ローム粒微量。粘性やや強、しまり強。
 2 暗褐色土 ローム粒・ローム塊多量。粘性やや強、しまり弱。
- SK-11
 1 黒褐色土 ローム粒少量、ローム塊やや少量。粘性・しまり弱。
 2 暗褐色土 ローム粒・ローム塊やや多量。粘性・しまりやや弱。

- SK-13
 1 黒褐色土 ローム粒少量。粘性弱、しまりやや強。
- SK-15
 1 黒褐色土 ローム粒微量。粘性・しまりやや強。
 2 暗茶褐色土 ローム粒やや多量、ローム塊少量。粘性やや弱、しまりやや強。
- SK-17
 1 黒褐色土 ローム粒やや多量。粘性弱、しまり強。
- SK-20
 1 黒褐色土 褐色粒少量、ローム粒やや少量。粘性弱、しまりやや強。
- SK-23
 1 暗灰褐色土 ローム粒少量。粘性やや強、しまり弱。
- SK-24
 1 暗黄褐色土 ローム粒少量。粘性やや強、しまりやや弱。
- SK-25
 1 暗灰褐色土 ローム粒微量。粘性・しまり強。
 2 暗褐色土 ローム粒多量。粘性・しまり弱。
- SK-26
 1 暗灰褐色土 ローム粒微量。粘性・しまり強。

第236図 西刑部西原遺跡5区 土坑実測図(1)

第3章 発見された遺構と遺物



第 237 図 西刑部西原遺跡 5 区 土坑実測図 (2)

第 104 表 5 区 土坑計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
SK-2	85.0-52.5	円形	1.51	1.42	0.12	
SK-6	85.5-52 85.0-52	隅丸方形	1.88	0.91	0.36	
SK-7	84.0-51.5 84.0-52.0	隅丸方形	2.07	0.87	0.45	
SK-8	85.0-50.0	楕円形	1.91	1.18	0.11	縄文時代陥穴 SK-9 と重複
SK-10	85.0-51.0	円形	0.99	0.84	0.19	SB-19 と重複
SK-11	85.0-51.0	楕円形	1.04	0.78	0.19	
SK-13	85.5-51.0	円形	1.11	1.08	0.22	
SK-15	85.5-51.0 85.0-51.0	楕円形	1.17	0.84	0.22	
SK-16	85.0-51.0	円形	0.92	0.8	0.19	
SK-17	85.0-51.0	楕円形	1.12	0.85	0.21	
SK-20	85.0-50.5 85.0-51.0	円形	1.35	1.32	0.16	
SK-23	83.5-52.0	円形	0.73	0.68	0.19	
SK-24	83.5-52.0	楕円形	0.95	0.71	0.22	
SK-25	85.0-51.5	円形	0.64	0.59	0.26	
SK-26	85.0-51.5	楕円形	0.87	0.71	0.34	
SK-27	85.0-52.0	楕円形	0.56	0.41	0.14	
SK-28	84.0-52.0	楕円形	0.7	0.49	0.22	
SK-29	85.5-51.0	円形	0.97	0.95	0.16	
SK-30	85.0-50.5	円形	0.82	0.8	0.15	
SK-31	84.0-52.0	円形	0.7	0.7	0.25	



第 238 図 西刑部西原遺跡 5 区 SK- 8 出土遺物

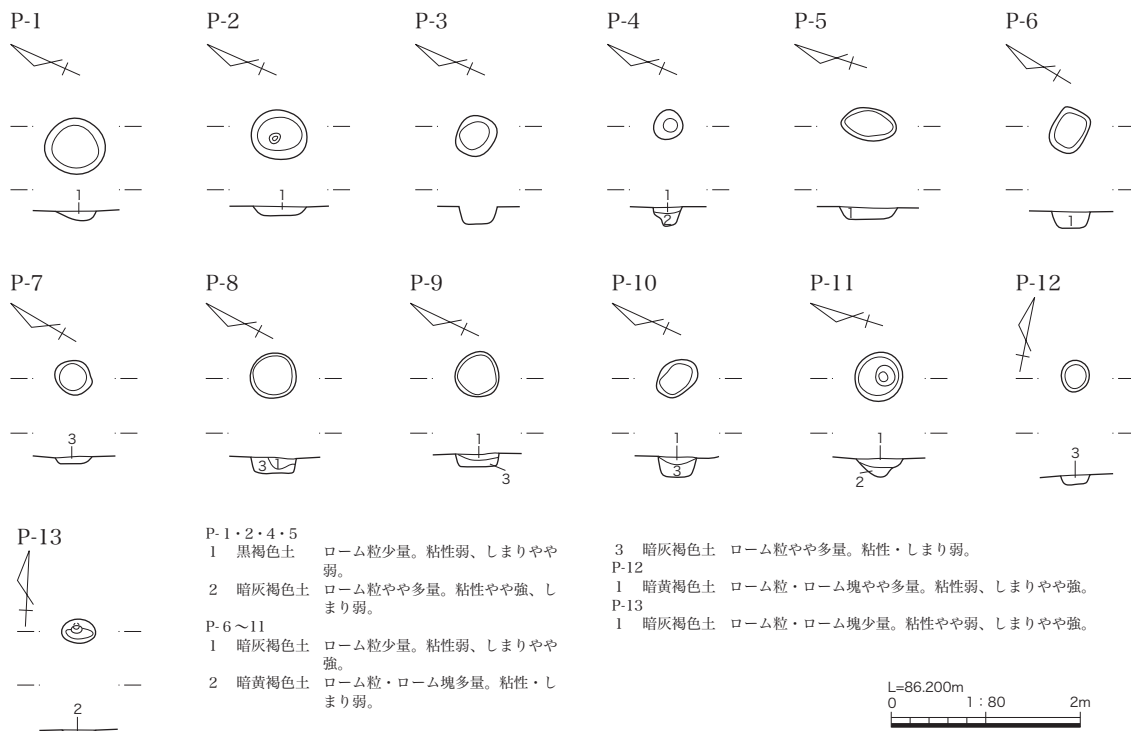
第 105 表 5 区 SK- 8 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	土師器 製塩土器	厚 0.8	内外面ナデか、上下とも接合部より折損。二次的な被熱により赤化している。	内：7.5YR7/6 橙 外：10YR6/4 にぶい黄橙	白粒、白礫、石英、白色針状物 焼成：やや不良	覆土中	胴部破片

5.ピット

本調査区から確認されたピット（小穴）は計13基である。土坑と同様、遺物の出土量が少なく時期不明なものが殆どである。また他遺構との明確な切り合いを確認できた遺構は無かった。

ここでは土坑と同様に個別の事実記載は行わず、出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容を表にまとめ掲載した。ピットはその殆どが5区北西部の掘立柱建物跡SB-19～22近辺から確認されている。覆土は、単層で自然堆積と考えられるもの、レンズ状の堆積を示すものが殆どで、柱痕などの明確な人為埋戻しを示すものは確認できなかった。



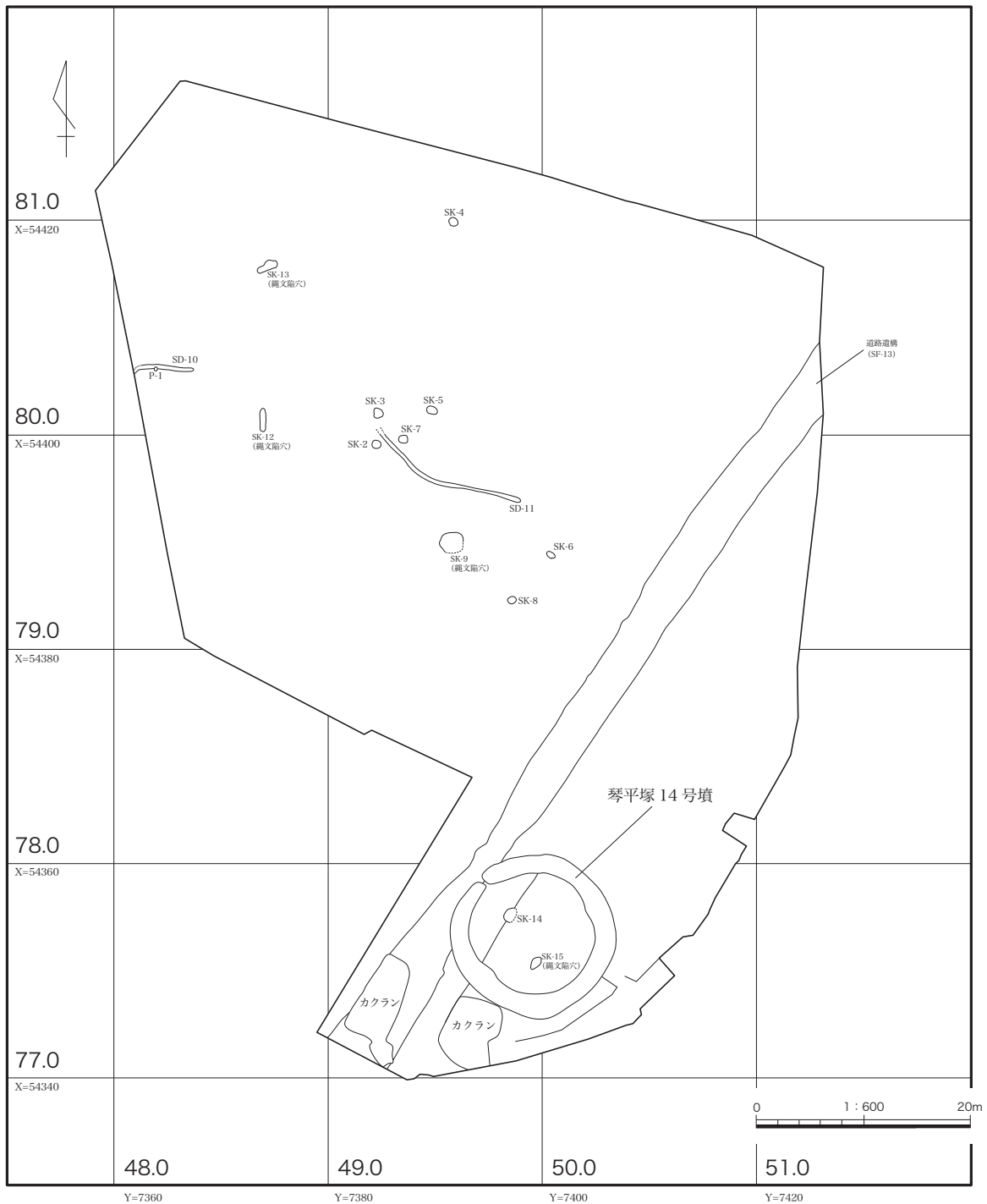
第239図 西刑部西原遺跡5区 ピット実測図

第106表 5区 ピット計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
P-1	85.0-50.5	円形	0.63	0.6	0.1	
P-2	85.0-50.5	円形	0.58	0.52	0.11	
P-3	85.0-50.5	楕円形	0.46	0.42	0.19	
P-4	85.5-50.5	円形	0.32	0.3	0.2	
P-5	85.5-50.5	楕円形	0.58	0.35	0.12	
P-6	85.0-50.5	楕円形	0.49	0.4	0.17	
P-7	85.0-50.5	楕円形	0.48	0.48	0.07	
P-8	85.5-50.5	円形	0.48	0.5	0.17	
P-9	85.5-50.5 85.0-50.5	円形	0.48	0.47	0.14	
P-10	85.0-50.5	楕円形	0.44	0.37	0.21	
P-11	85.0-50.5	円形	0.53	0.5	0.2	
P-12	85.0-50.5	円形	0.35	0.3	0.1	
P-13	85.0-50.5	楕円形	0.35	0.26	0.06	

第6節 6区の遺構と遺物

本調査区では溝2条、土坑8基、ピット1基が確認されたのみである。位置的には琴平塚古墳群の北端部にあたり、集落域からは外れている。なお全体図に記載された縄文時代の土坑、円墳（琴平塚14号墳）、道路状遺構はすでに報告済みであり、本節では記載していない。



第240図 西刑部西原遺跡6区 全体図 (S=1/600)

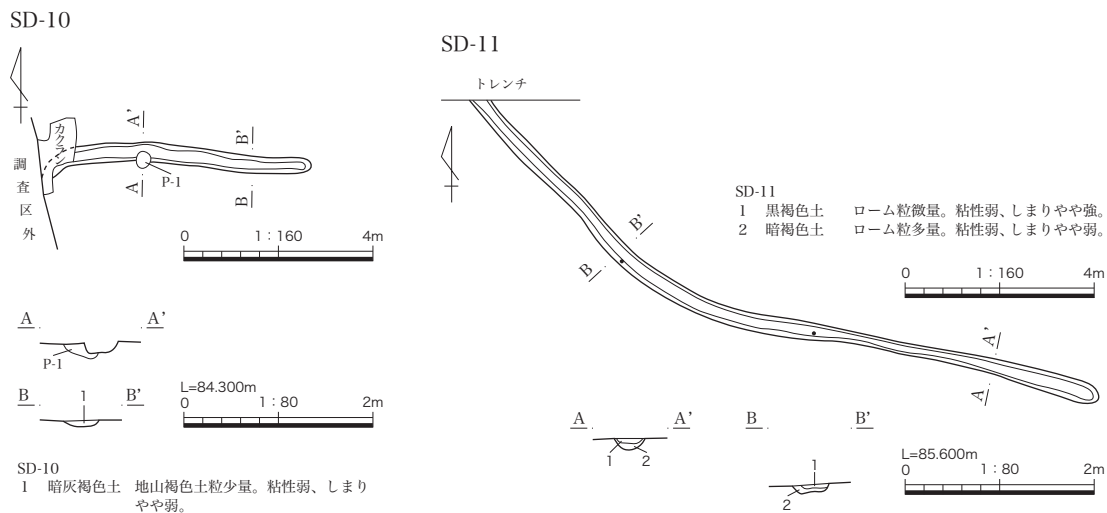
1. 溝

SD-10（遺構：第241図、図版三四）

位置 グリッド 80.0-48.0 規模・平面形 長さ 5.80 m以上、最大幅 0.44m。東西軸の溝だが、調査区壁際で南に曲がる。 覆土 地山と同じ褐色土粒を含む1層のみが堆積する。自然堆積か。 壁・断面形 壁高は浅く 10～15 cmほど。断面形は逆台形状である。 底面 概ね平坦であるが、西側に向かって緩やかに傾斜している。 遺物 覆土中から遺物は確認されなかったため、明確な帰属時期は不明である。

SD-11（遺構：第241図、図版三四）

位置 グリッド 79.5-49.0・79.5-49.5・80.0-49.0 規模・平面形 長さ 14.8 m以上、最大幅 0.46 m。北西から南東方向に主軸をもち、若干のカーブを有する。 覆土 ローム粒子を含む黒褐色土及び暗褐色土を主体とし、自然堆積と考えられる。 壁・断面形 確認面からの壁高は 8～15 cmと浅い。 底面 概ね平坦である。 遺物 覆土中から遺物は確認されなかったため、明確な帰属時期は不明である。 備考 西約 18 mに位置する時期不明の溝 SD-10 と規模・形態が類似することから同一の溝の可能性もある。



第241図 西刑部西原遺跡6区 SD-10・11実測図

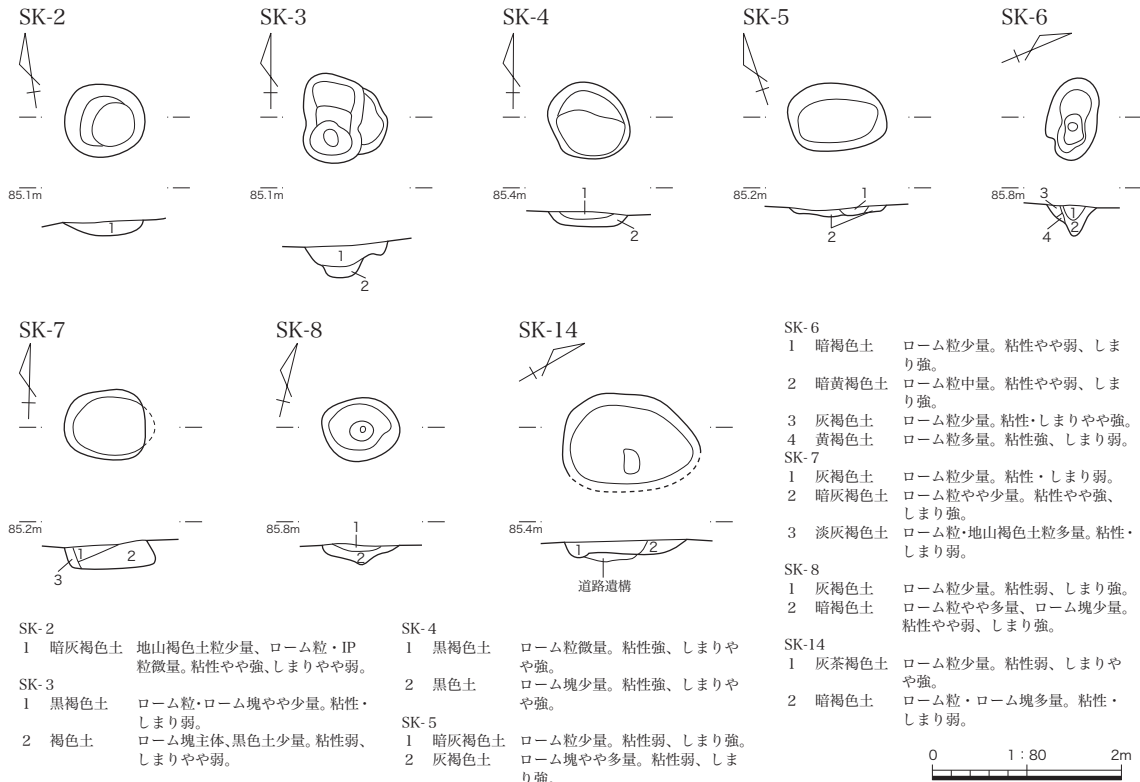
2. 土坑

本調査区からは計8基の土坑が確認された。遺物の出土量が極めて少ないため明確な時期を確定できないものが多い。ただし時期判別可能な遺構との切り合いから、ある程度の時期を想定できるものもある。

第107表 6区 土坑計測表

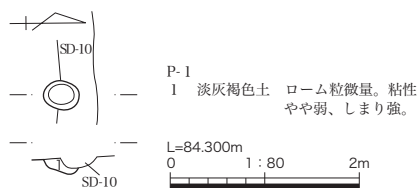
遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
SK-2	79.5-49.0	円形	0.83	0.77	0.16	
SK-3	80.0-49.0	不明	0.93	0.85	0.34	
SK-4	80.5-49.5 81.0-49.5	円形	0.83	0.81	0.16	
SK-5	80.0-49.0 80.0-49.5	楕円形	1.0	0.72	0.07	
SK-6	79.0-50.0	楕円形	0.88	0.53	0.33	
SK-7	79.5-49.0	円形	0.84	0.73	0.25	
SK-8	79.0-49.5	円形	0.83	0.68	0.21	
SK-14	77.5-49.5	楕円形	1.43	(1.04)	0.15	

ここでは個別の記載は行わず、出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容を表にまとめた。土坑を形態別にみると、平面形は不整な円形または楕円形を呈する。断面形はSK-7が一部オーバーハングする以外は、皿状か逆台形状を呈するものが多い。壁は概ね浅めである。この他底面に小ピットをもつ土坑(SK-3・6・8)があるが、用途は不明である。多くが径80～90cm台(SK-2～8)に収まり、1mを越えるものはSK-14のみである。覆土はその多くが自然堆積と考えられる。SK-14は道路遺構の上面から掘り込んでいることから古代以降の土坑と考えられるが、遺物は礫が一点出土したのみで正確な時期は不明である。



第242図 西刑部西原遺跡6区 土坑実測図

3.ピット



第243図 西刑部西原遺跡6区 P-1実測図

6区においても他の調査区同様、個別の事実記載は行わず、出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容などを表にまとめ掲載した。

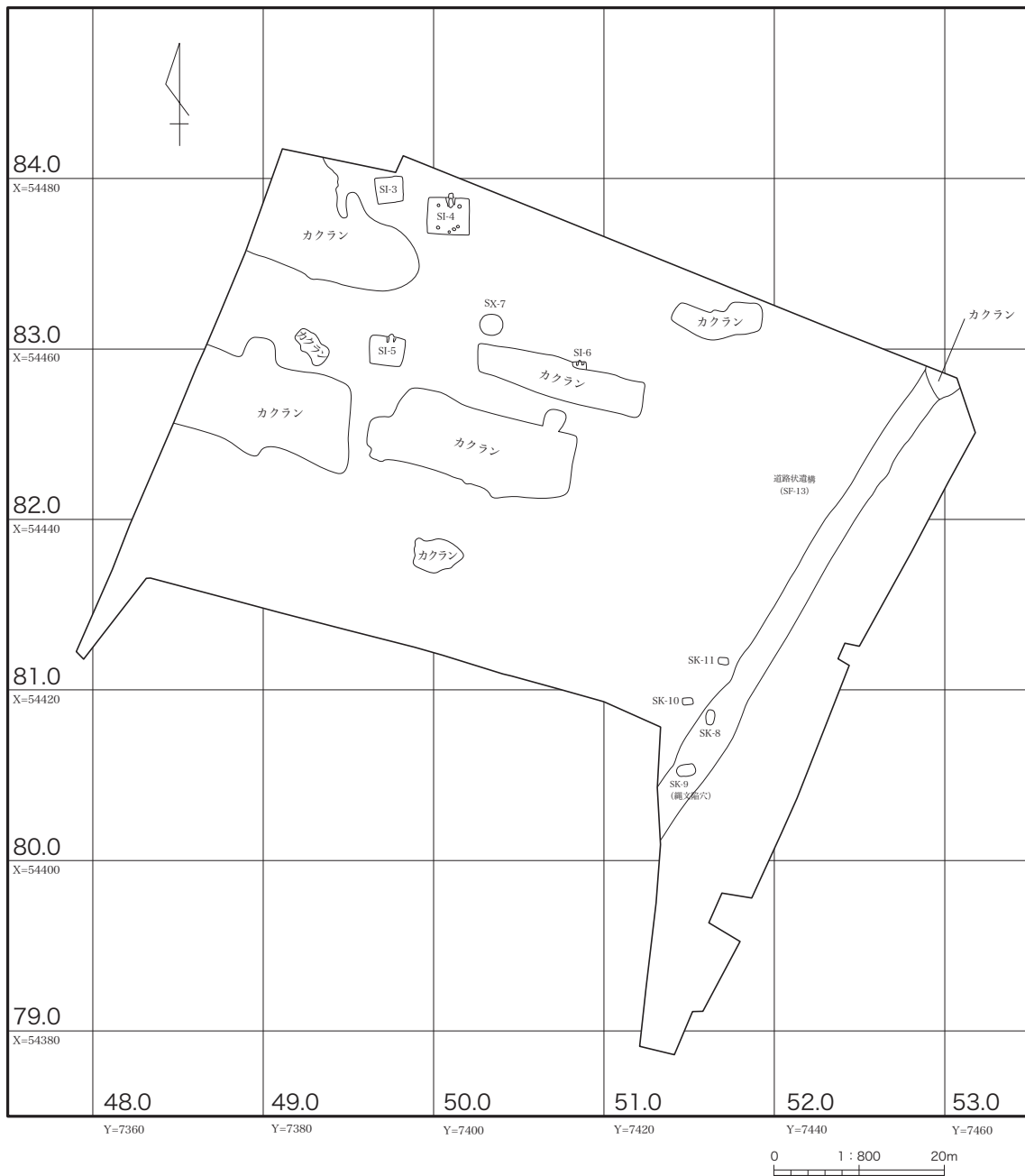
本調査区でピットとして調査した遺構はP-1の1基のみである。他遺構との切り合いを見ると、時期不明のSD-10の中央部を掘り込んでいるが、遺物が無いため明確な時期は確定できない。

第108表 6区 ピット計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
P-1	80.0-478.0	円形	0.37	0.30	残0.15	

第7節 7区の遺構と遺物

先述した調査6区の北部に位置する。竪穴建物跡4棟、円形有段遺構1基、土坑3基が調査されたのみで、遺構分布は疎らである。但し総長20m強ある大規模な攪乱が数か所にわたり存在しており、これにより、若干の遺構が削平されてしまった可能性もある。また本調査区は、西刑部西原遺跡の居住域の南限となっている。全体図には縄文時代の土坑や、道路状遺構が記されているが、既に報告済みであり、本節では特に詳細には記載していない。



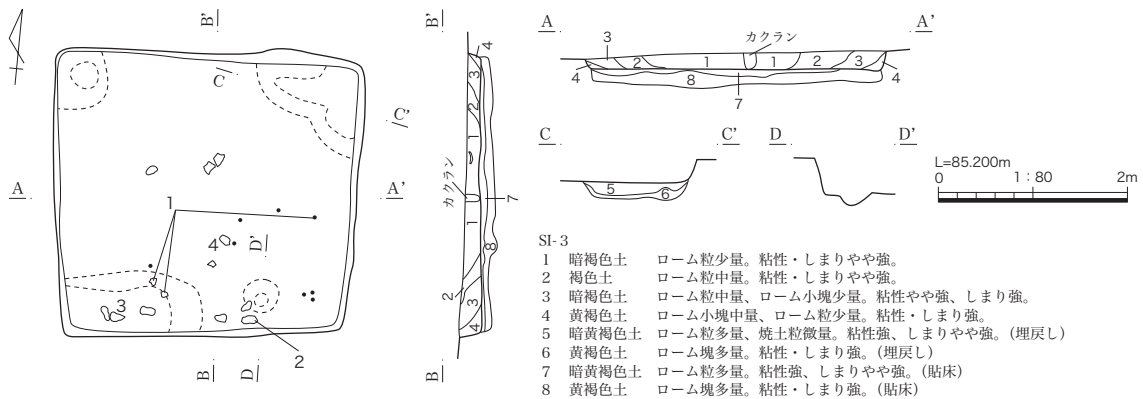
第244図 西刑部西原遺跡7区 全体図 (S=1/800)

1. 竪穴建物跡

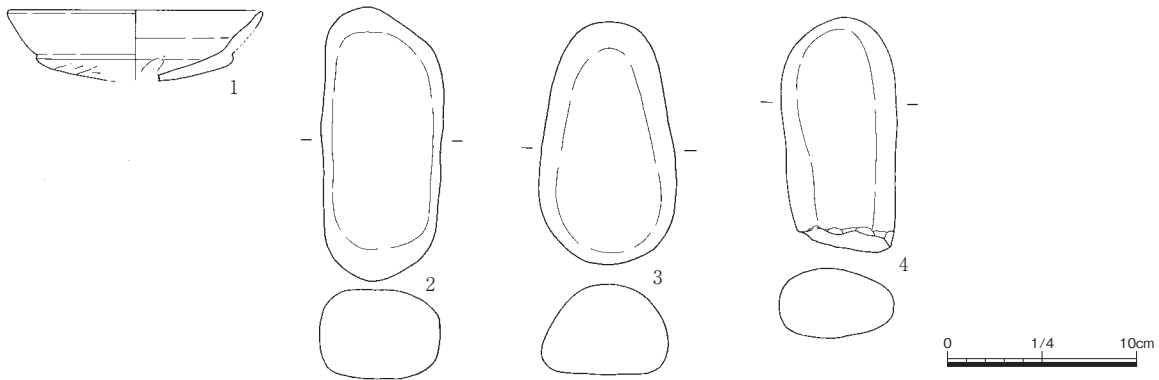
7区 SI- 3 (遺構：第 245 図、遺物：第 246 図、図版三六)

位置 グリッド 84-49.5・83.5-49.5 平面形 隅丸方形 規模 東西 3.0～3.3×南北 3.0 m 主軸方向 N-3°-W 覆土 自然堆積 壁 壁高 9.0～23.6 cm 残。床 全面貼床で若干の凹凸あり。掘方 南東隅以外のコーナーには土坑状の掘り込みあり。ローム土で埋戻す。柱穴・カマド 確認できなかった。

遺物 礫が多く、南東部から出土した。図示可能な土器は土師器環(1)のみで、その他は編物石(2～4)である。不掲載の土器は常総型甕や土師器環類の小破片 20 点弱、礫の総量は 1.9 kg である。明確な時期は確定できないが、建物跡が小形である点と常総型甕が出土することから奈良時代の建物跡の可能性がある。



第 245 図 西刑部西原遺跡 7 区 SI- 3 実測図



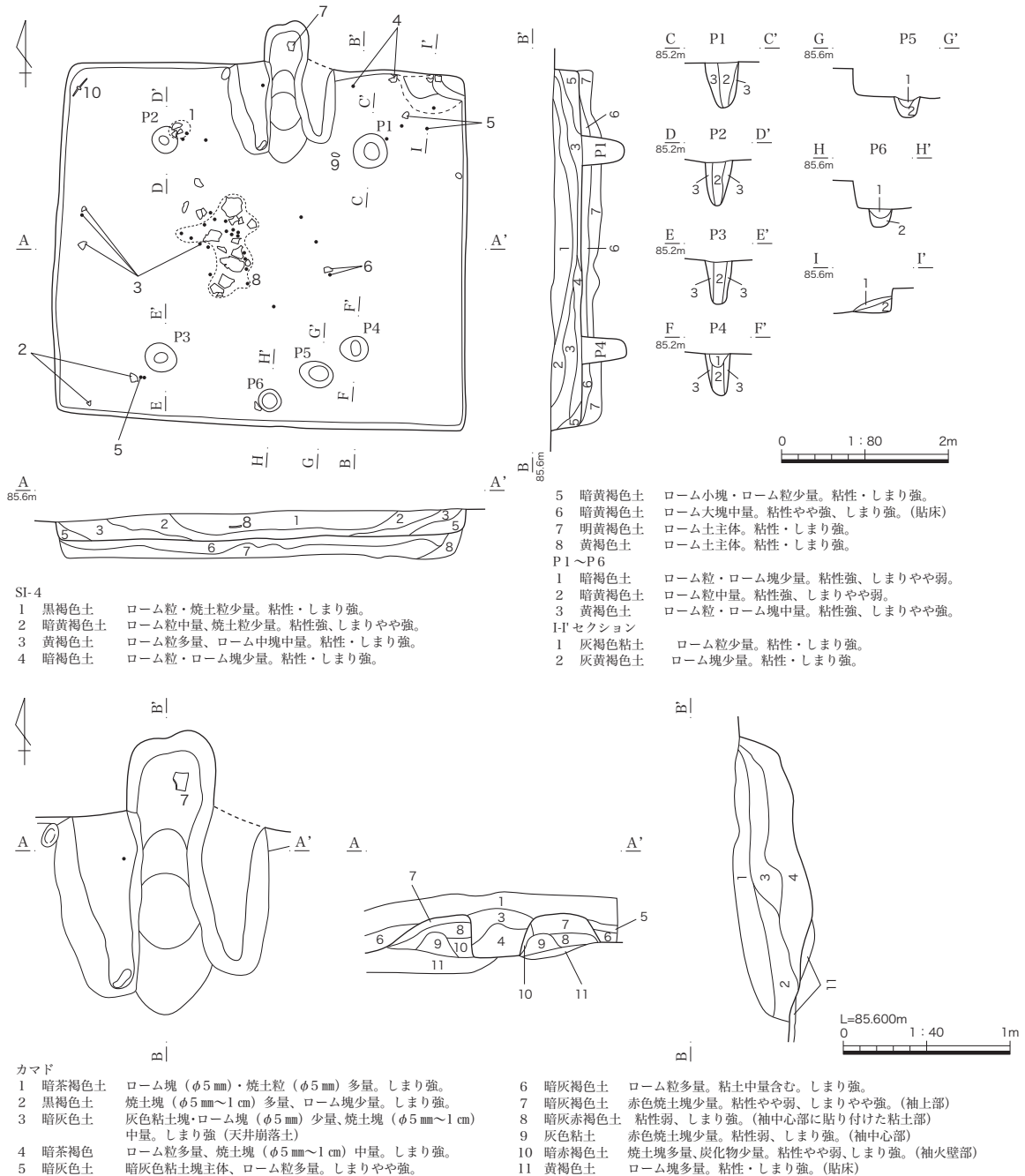
第 246 図 西刑部西原遺跡 7 区 SI- 3 出土遺物

第 109 表 7 区 SI- 3 出土遺物観察表

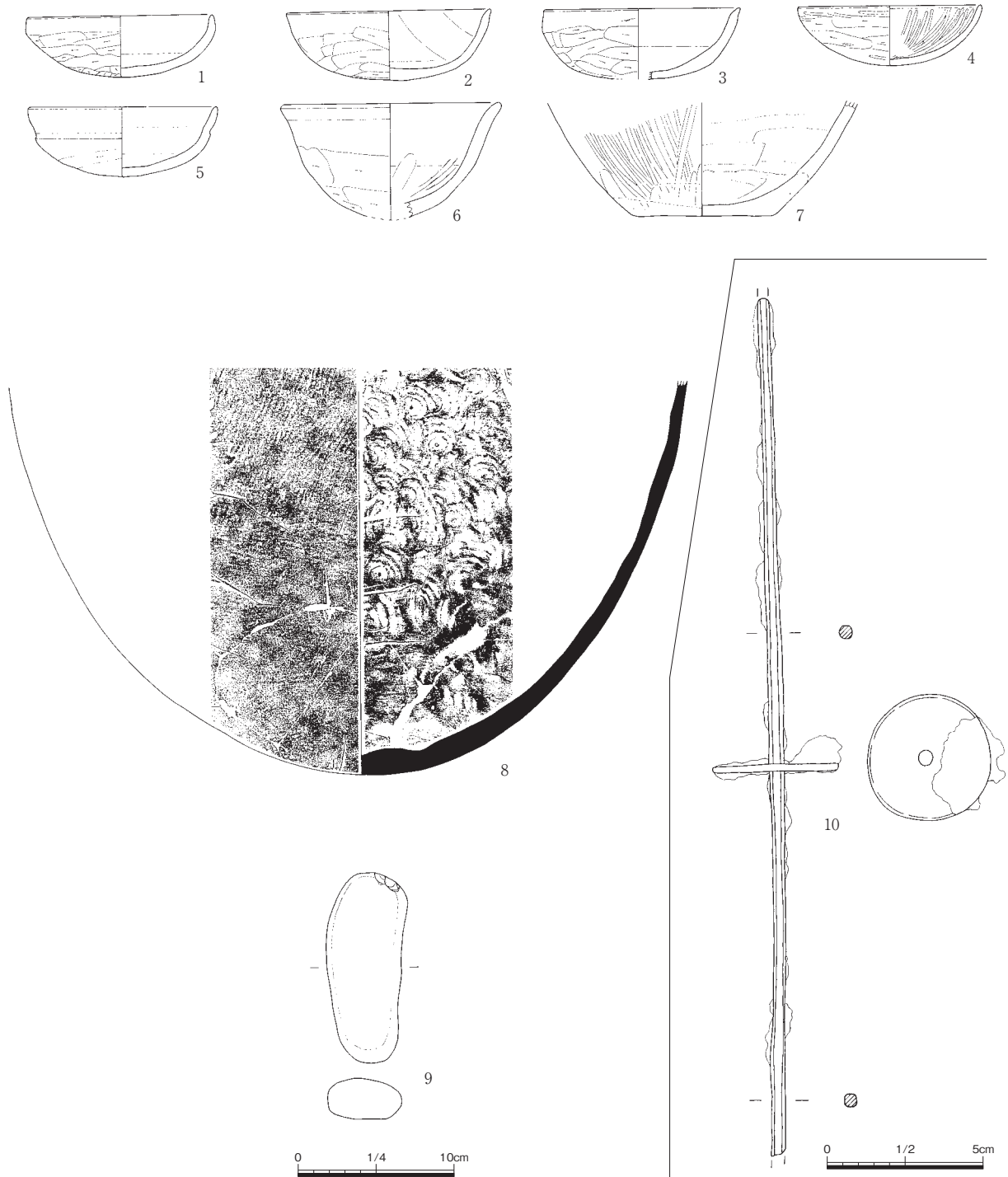
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	土師器環	口 13.4 高 3.9 径 23.6	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内面ナデ。口縁部外面～内面全面漆仕上げ。	内：2.5Y3/1 黒褐 外：2.5Y8/3 淡黄	やや緻密、白・黒・透明細砂 焼成：やや軟質	No.10・17、 南東、北東 6.8 (No.17)	口縁部～体部 1/2
2	石器 編物石	長 14.5 幅 6.4 厚 4.7 重 772.2	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸長方形	5Y7/1 灰白	—	No.4 2.8	完存
3	石器 編物石	長 12.7 幅 6.6 厚 4.8 重 589.3	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：カマボコ形	2.5Y7/1 灰白	—	No.2 床直	完存
4	石器 編物石	長 [12.3] 幅 6.0 厚 4.0 重 [471.5]	下端部側面には連続した剥離が施されている。 平面形：楕円形か 断面形：楕円形	2.5Y7/2 灰黄	—	No.6 4.4	部欠

7区 SI-4 (遺構：第247図、遺物：第248図、図版三六・一〇一・一一四)

位置 グリッド 83.5-49.5・83.5-50 平面形 東西軸の長方形 規模 東西 4.85×南北 4.30 m 主軸方向 N-1.5° - E 覆土 自然堆積 壁 15.4～37.0 cm 床 全面が貼床 柱穴 P1 (径 40 cm、深さ 54 cm)、P2 (径 30 cm、深さ 52 cm)、P3 (径約 36 cm、深さ 50 cm)、P4 (径 34～30 cm、深さ 50 cm) は主柱穴か。すべての断面に柱痕が確認できた。P5 (径 39～30 cm、深さ 19 cm) の用途は不明。入口ピット P6 (径 27 cm、深さ 21 cm) で、南壁際中央部に位置する。掘方 北東隅を若干深めに掘る他、全体的に凹凸あり。カマド 北壁中央部やや東寄りの壁際をU字状に掘り込む。灰色粘土で構築され、燃烧部は浅く楕円形に



第247図 西刑部西原遺跡7区 SI-4実測図



第248図 西刑部西原遺跡7区 SI-4出土遺物

掘り込む。遺物 図示した遺物は土師器坏類（1～5）、土師器鉢（6）、常総型甕の底部（7）、須恵器甕の大形破片（8）の他編物石、鉄製紡錘車がある。坏類は漆仕上げが多いが、4は赤色系の坏で内面を入念に磨く。10は床面直上の遺物。両端部を欠損するが軸残存長は27.4cmあり、軸断面は部分的に円形に整えている。紡錘車の断面は板状を呈する。不掲載遺物は在地系及び常総型の土師器甕・坏類が小コンテナ1/5箱、礫の重量は1.9kgである。遺物から古墳時代終末期（7世紀後半）の建物跡と考えられる。

第110表 7区 SI- 4 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 環	口 11.6 高 4.0	口縁部内面～体部内面ヨコナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。体部内面ナデ。内外面漆仕上げ。	内外面とも 10YR8/3 浅黄橙	緻密、黒・白・透明細砂 焼成：やや硬質	No.10 4.5	ほぼ完存
2	土師器 環	口 12.8 高 4.5	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。口縁部外面～内面全面漆仕上げ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、黒・灰細砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.4・5 5.8 (No.5)	口縁部～体部 1/2
3	土師器 環	口 (12.8) 高 [4.5]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。	内外面とも 10YR6/3 に ぶい黄橙	やや緻密、白・黒細砂、 白・灰砂 焼成：やや硬質	No.2・3・7 5.7 (No.7)	口縁部～体部 5/12
4	土師器 環	口 (11.5) 高 3.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面放射状ヘラミガキ。体部外面磨滅のため不明瞭だがヘラケズリのちヘラミガキか。赤色系の環。	内外面とも 5YR6/8 橙	やや緻密、黒・灰・白細砂 焼成：やや硬質	No.16・17 3.1 (No.17)	口縁部～体部 1/3
5	土師器 環	口 11.9 高 4.4	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリか。口縁部外面～内面全面漆仕上げ。	内：2.5Y3/1 黒褐 外：2.5Y8/2 灰白	やや緻密、白・灰細砂粒 焼成：やや軟質	No.5・18・ 20、北西 3.0 (No.20)	口縁部～体部 7/8
6	土師器 鉢	口 (13.6) 高 [8.5]	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。体部内面ヘラナデ及びナデ。一部放射状のヘラ描きか。内面黒色処理。	内：10Y2/1 黒 外：7.5YR5/4 にぶい褐	やや粗い、白・灰粗砂～ 礫 焼成：やや硬質	No.5・12 0.8 (No.12)	口縁部～体部 1/4
7	土師器 甕	高 7.2 底 (9.0)	胴部外面タテヘラミガキのち下端部ヨコヘラナデ。胴部～底部内面ヘラナデ。底部外面ヘラケズリのちヘラミガキ。	内：7.5YR5/4 にぶい褐 外：7.5YR6/6 橙	やや緻密、白・透明粗砂粒、白礫、雲母 焼成：やや硬質	No.1 床直	胴下半部 1/4、底部 1/2
8	須恵器 甕	高 [25.0] 径 [41.6]	胴部内面同心円状あて具痕。下半部～底部内面ナデ。胴部外面平行叩き。胴下半部～底部外面ナデ。底部外面使用のため若干の剥落あり。	内外面とも 5Y5/1 灰	やや緻密、白・灰細砂 焼成：硬質	No.29 9.7	胴部下半～底部 4/5
9	石器 編物石	長 12.1 幅 4.8 厚 2.6 重 243.6	端部若干の剥離は意図的なものか不明。平面形：不整な楕円形 断面形：不整な楕円形	2.5Y7/2 灰黄	—	No.23 20.5	ほぼ完存
10	鉄製品 紡錘車	長 [27.4] 径 4.0 厚 0.5 重 [32.1]	紡輪は円形で断面板状。中央部に径 0.5 mm の円孔あり。軸は径 4.0 mm ほどで上端がやや細い。断面形上部は不整な円形。下部は正方形に近い。	—	鉄製	No.1 床直	部分欠損

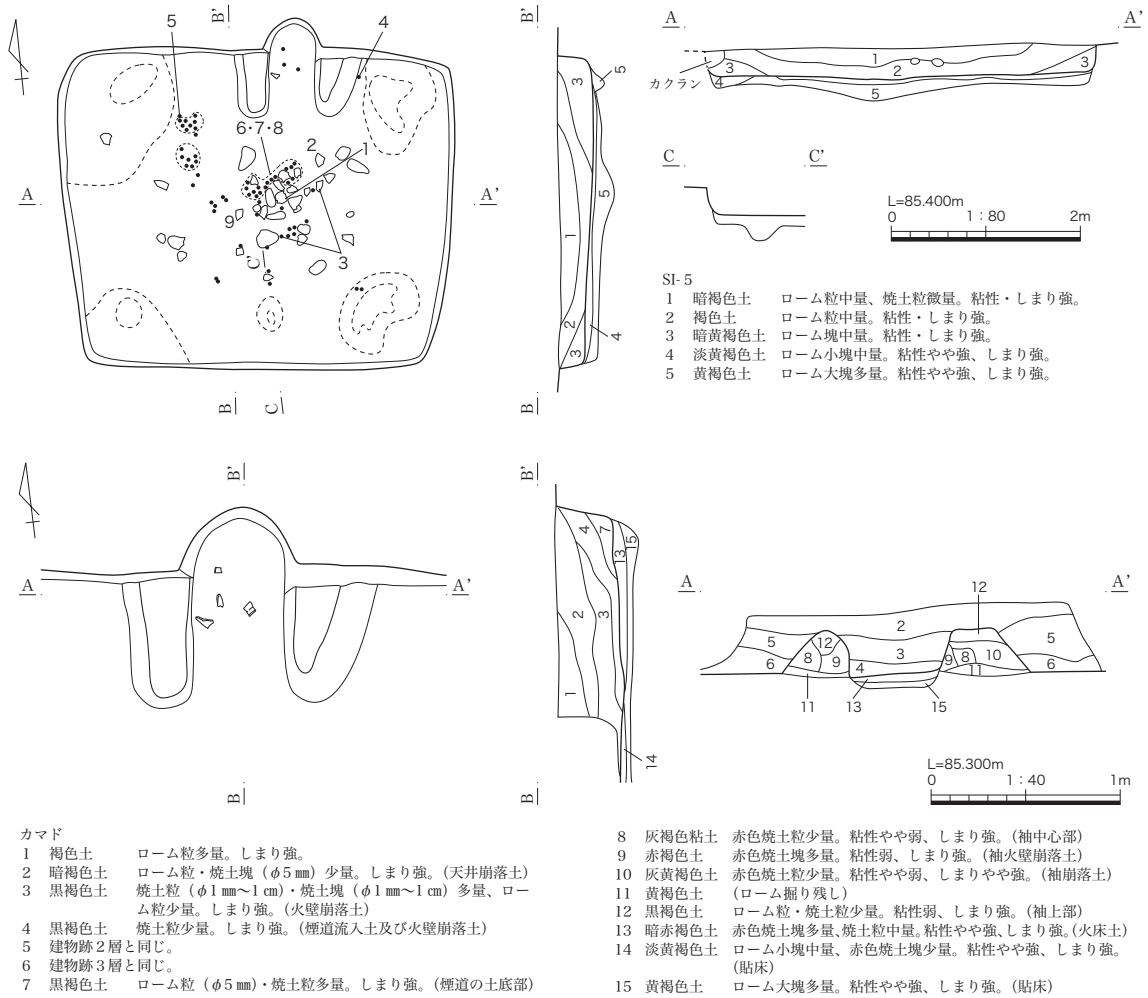
7区 SI- 5 (遺構：第249図、遺物：第250図、図版三六・一〇一)

位置 グリッド 83-49.5・82.5-49.5 平面形 隅丸方形 規模 東西 3.6～4.2 m × 南北 3.38 m 主軸方向 N -4.5° - E 覆土 自然堆積 壁 17～34.8 cm 床 全面が貼床で概ね平坦。柱穴・壁溝 未確認。

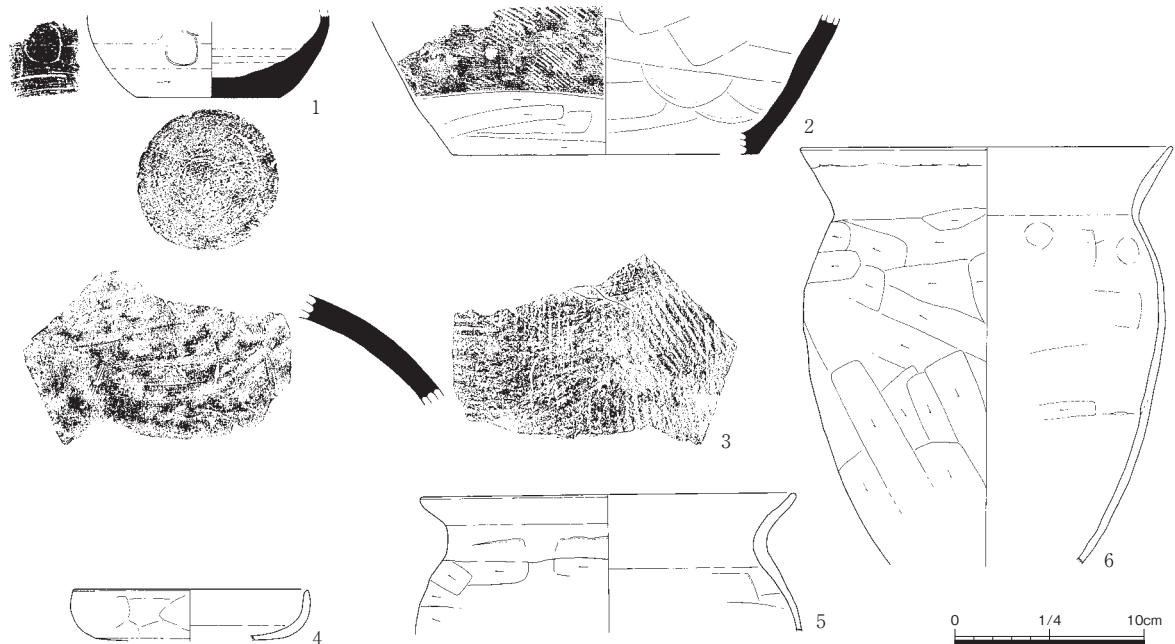
掘方 四隅を土坑状に掘り、ローム塊主体の4・5層で埋戻す。カマド 北壁を半円形に掘り込む。煙道は80°の急角度で立つ。遺物 覆土上層から多く出土。1は須恵器瓶類か。胴部外面には円形のヘラ描きが、底部外面にはヘラ記号がある。須恵器甕類の内面あて具は無文化化している。土師器甕は武蔵型甕が多い。

第111表 7区 SI- 5 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 瓶か	底 7.2 高 [4.1] 径 13.0	内外面ロクロナデ。胴部外面ロクロナデのち下端部回転ヘラケズリ。楕円形のヘラ描きあり。底部外面回転ヘラケズリのち「×」字状のヘラ記号あり。	内：2.5GY4/1 暗オリーブ灰 外：N4/0 灰	粗い、白粗砂～礫 焼成：硬質	No.39 15.2	胴部下端～底部完存
2	須恵器 甕	口 [24.4] 高 [7.2] 底 [16.0]	内面無文あて具痕のちナデ。外面平行叩きのち下端部ヘラケズリ。底部外面多方向ヘラケズリ。内外面一部に黒色物付着。	内：10Y6/1 灰 外：10Y5/1 灰	やや緻密、白・黒細砂 焼成：硬質	No.41 1.7	底部～胴部 1/8
3	須恵器 甕	厚 1.2	内面無文あて具痕のちナデ。外面平行叩き。	内外面とも N4/0 灰	やや粗い、白細砂、白・灰礫 焼成：硬質	No.37・40 12.8 (No.40)	胴部破片
4	土師器 環	口 (12.1) 高 [2.7]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリのちナデか。体部～底部内面ナデ。底部外面多方向ヘラケズリ。平底化が進む。	内外面とも 5YR5/6 明赤褐	やや緻密、灰・白・黒細砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.50 33.8	口縁部 1/7
5	土師器 甕	口 19.4 高 [7.3]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。	内外面とも 7.5YR6/4 に ぶい橙	やや緻密、白・灰・黒細砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.49・55 1.2 (No.49)	口縁部 4/5
6	土師器 甕	口 19.4 高 [22.1]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ及び指頭押圧。胴部外面タテヘラケズリ及びナメヘラケズリ。	内外面とも 5YR5/8 明赤褐	やや緻密、白・灰細砂、灰礫 焼成：軟質	No.49 1.2	口縁部 7/8
7	土師器 甕	口 (19.8) 高 [27.2]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半部ナメまたはヨコヘラケズリ。下半部タテヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。	内：5YR5/8 明赤褐 外：5YR5/6 明赤褐	やや緻密、灰・黒・白細砂、黒・灰砂、灰礫 焼成：やや硬質	No.49 1.2	口縁部 1/12
8	土師器 甕	口 20.8 高 [22.8]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。輪積休止痕あり。胴部外面中位ナメヘラケズリ。下半部タテヘラケズリ。	内：5YR5/8 明赤褐 外：5YR6/6 橙	やや緻密、白・透明・灰細砂 焼成：やや軟質	No.46・47・ 49、北東 -9.0 (No.47)	口縁部 3/4
9	女瓦	長 [8.7] 幅 2.1 厚 [8.2] 重 228.7	凸面正格子叩き。凹面布目痕。桶巻き。	内：2.5Y6/3 にぶい黄 外：2.5Y7/4 浅黄	粗い、白・灰粗砂～礫 焼成：やや軟質	No.42 1.3	部分残存

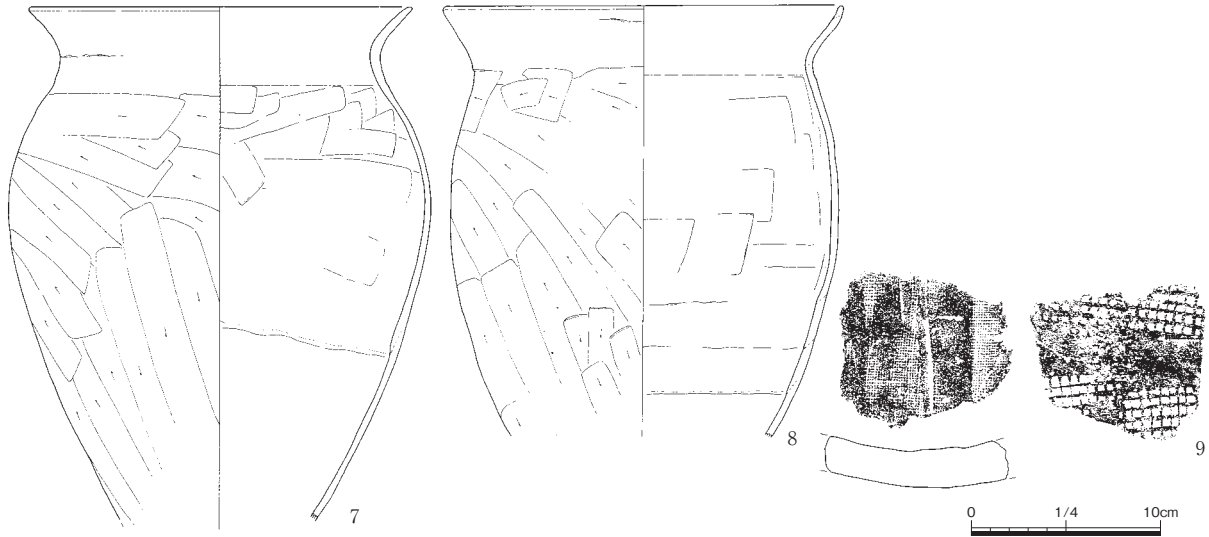


第 249 図 西刑部西原遺跡 7 区 SI-5 実測図



第 250 図 西刑部西原遺跡 7 区 SI-5 出土遺物 (1)

また床面付近から女瓦破片（9）が出土している。不掲載の土器類は小コンテナ箱 1/3 程度、礫は計測できなかった。遺物から奈良時代中葉（8世紀中葉の）建物跡と考えられる。

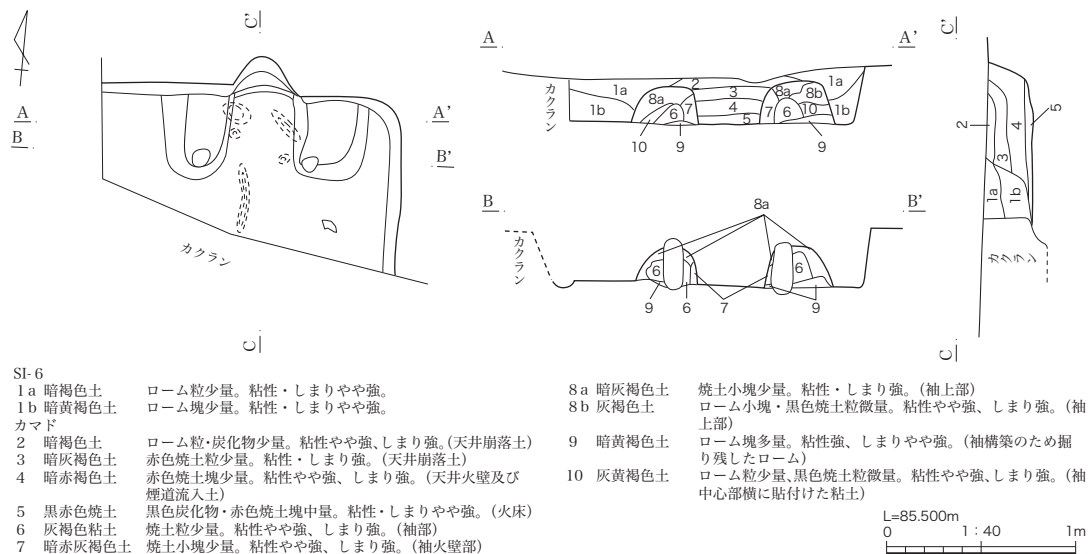


第251図 西刑部西原遺跡7区 SI- 5出土遺物（2）

7区 SI- 6（遺構：第252図、図版三七）

位置 グリッド 82.5-50.5 平面形 方形か。南部及び西部を広く攪乱され全形は不明。 規模 東西 1.56 m以上 × 南北 0.9 m以上 主軸方向 N -2° - W(推定値) 覆土 自然堆積か。 壁 16 ~ 30 cm 床 確認できる範囲では概ね平坦。床面からは柱穴などの掘り込みは確認できなかった。 掘方 確認できなかった。

カマド 北壁を山形に掘り込む。煙道は 67° の角度で立ち上がる。両袖は礫を立て芯材にし、灰褐色粘土を貼付け構築する。 遺物 図示できなかったが、常総型襖の胴部破片が数点出土することから、奈良時代（8世紀代）の建物跡の可能性が高い。

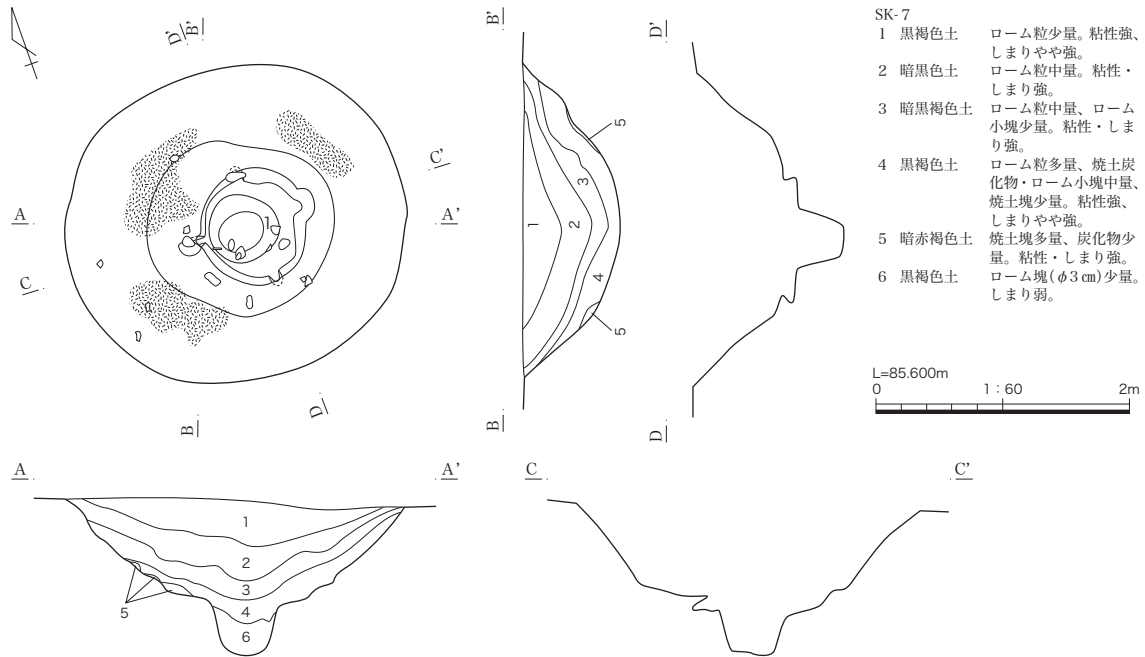


第252図 西刑部西原遺跡7区 SI- 6実測図

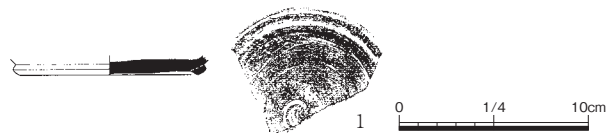
2. 円形有段遺構

7区 SX- 7 (遺構：第 253 図、遺物：第 254 図、図版三七)

位置 グリッド 83.0-50.0 規模・平面形 東西 2.67 m、南北 2.46 m の楕円形を呈する。覆土 6 層に分層。自然堆積と考えられるが、壁側面には焼土 (5 層) が認められる。上層で出土した礫は投棄された可能性が高い。壁・断面形 壁面は僅かな凹凸をもち、底面は緩やかに傾斜する。壁高 土坑底面までは 0.75 ~ 0.85 m、小穴底面まで 1.2 m ある。床 土坑底面は径 1.35 ~ 1.5 m の不整な円形を呈する。底面には径約 90 cm、深さ 15 cm の穴を掘り、その側壁に幅 10 cm、奥行き 15 cm の直交する 2 対のピットを掘り込む。小穴は更にその底面にあり、規模は径約 50 cm、深さ約 35 cm である。底面は鹿沼軽石層に及んでいる。遺物 時期判別可能な遺物は、覆土中から出土した 1 の高台付坏底部破片のみである。遺物から 8 世紀中葉の遺構と考えたい。また同時期と考えられる円形有段遺構は北方約 150m の 3 区 SK-45、さらに調査区外ではあるが、宇都宮調査 E 区 SK-17 がある。この他遺物は出土していないが 330m 北の 13 区 SX-94 も円形有段遺構である。



第 253 図 西刑部西原遺跡 7 区 SX- 7 実測図



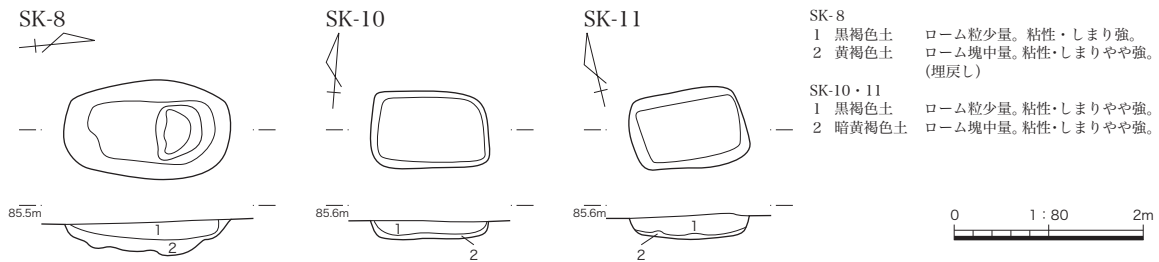
第 254 図 西刑部西原遺跡 7 区 SX- 7 出土遺物

第 112 表 7 区 SX- 7 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	須恵器 高台付 坏	高 [1.1] 厚 9.3	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。内面中央部磨滅している。	内外面ともに 5Y6/2 灰オリーブ	やや緻密、白・灰・黒細砂、灰・白砂 焼成：硬質	No 20 20.1	底部 1/4

3. 土坑

土坑は計3基確認された。いずれも長方形土坑だが、SK-10・11は他遺構との重複や出土遺物も無く、時期不明である。これに対し、SK-8は道路状遺構(SF-13)底面から確認されたため、古代以前の土坑と考えられる。SK-8は、北壁際の遺構底面が一段深く掘り下げられている特徴をもつ。この掘り込みはローム塊を多量含む2層で埋戻されている。これと似た遺構が琴平塚古墳群から土壙墓として報告されている。また今回報告する8区SK-1も類似する特徴をもつ土壙墓と考えたい。SK-8をこれらの土壙墓と比較すると琴平塚古墳群最小の4号土壙墓(長軸2.14m、最大幅1.1m、深さ0.38m)より更に小型の土壙墓といえる。



第255図 西刑部西原遺跡7区 土坑実測図

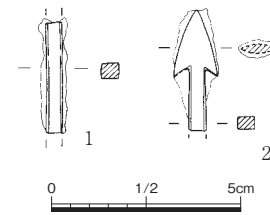
第113表 7区 土坑計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
SK-8	80.5-51.5	楕円形	1.74	1.05	0.36	
SK-10	80.5-51.0 80.5-51.5	隅丸長方形	1.22	0.82	0.19	
SK-11	81.0-51.5	隅丸長方形	1.2	0.86	0.26	

4. 道路状遺構

7区SF-13(遺物:第256図、図版一一二)

SF-13については、すでに東谷・中島地区遺跡群3 推定東山道関連地区(栃木県埋蔵文化財調査報告第274集 平成15年度)で報告済みであるため、ここでは詳細は省略する。路面底面付近から出土した遺物が前出報告書で掲載から漏れていたため、ここで取り上げることとしたい。1は長頸鎌の頸部破片と思われる。断面長方形で幅約5mm、厚さは約3mmである。2は腸挟長三角形鎌の鎌身部の破片である。錆化が進み不明瞭だが鎌身は両丸造りか。



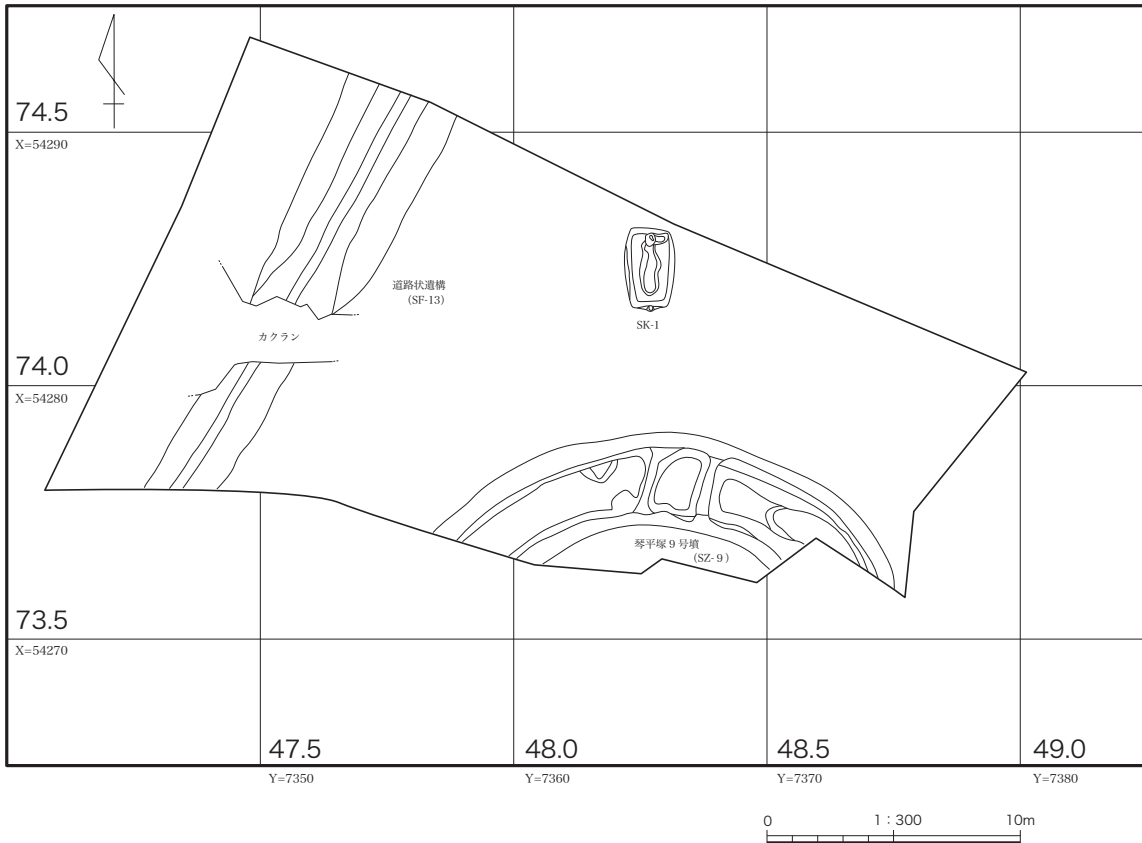
第256図 西刑部西原遺跡7区 SF-13 出土遺物

第114表 7区 SF-13 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	鉄製品 鉄鎌	長 [3.0] 幅 0.5 厚 0.3 重 [2.4]	長頸鎌の頸部破片。断面は長方形。	—	鉄製	No.1 0.5	頸部一部
2	鉄製品 鉄鎌	長 3.3 幅 1.1 厚 0.3 重 2.8	腸挟長三角形鎌。鎌身は両面造りか。頸部の断面形は長方形。	—	鉄製	No.2 1.0	鎌身部～頸部一部

第8節 8区の遺構と遺物

本区では土坑1基、琴平塚9号墳、道路状遺構が確認された。

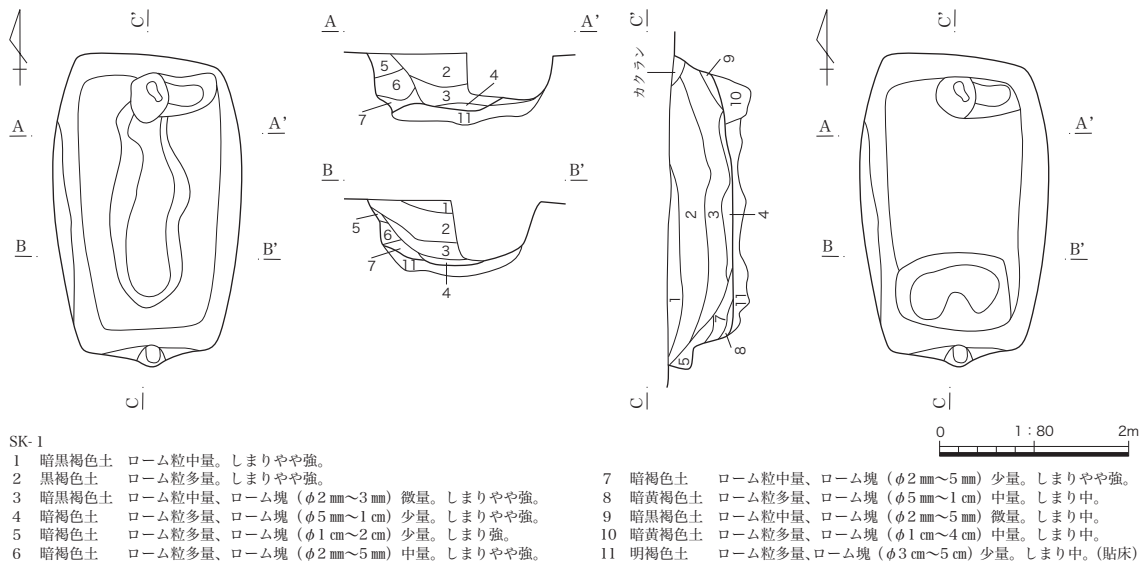


第257図 西刑部西原遺跡8区 全体図 (1/300)

1. 土坑

8区 SK- 1 (遺構：第258図、図版三九)

位置 グリッド 74.0-48.0。9号墳の北5mに位置する。 **規模・平面形** 東西3.29×南北1.96mの南北軸の長方形。 **壁・断面形** 壁高は40～50cm残る。床 貼床上に中央部に長さ1.7m、幅0.7mの溝状の浅い凹みをもつ。 **掘方** 底面はやや凹凸を有し、南北の壁際にピット状の掘り込みをもつ。ローム土を多量含む11層で埋戻している。掘方の最深部は65cmである。 **覆土** 断面観察から壁際の1～4層と、中央部の5～7層に分けられる。1～4層はややレンズ状に堆積し、5～7層は版築状に埋戻されている。 **遺物** 出土遺物は確認されなかった。 **備考** 本遺構は調査時は土壇墓としたが、中央部の凹みは木棺の痕跡と考えられ、また壁際の版築状の覆土は裏込めと考えられることから、木棺が設置されていた可能性が高い。時期は古墳時代後期のものか。



第258図 西刑部西原遺跡8区 SK-1実測図

第115表 8区 SK-1計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
SK-1	74.0-48.0	隅丸長方形	3.29	1.96	0.69	

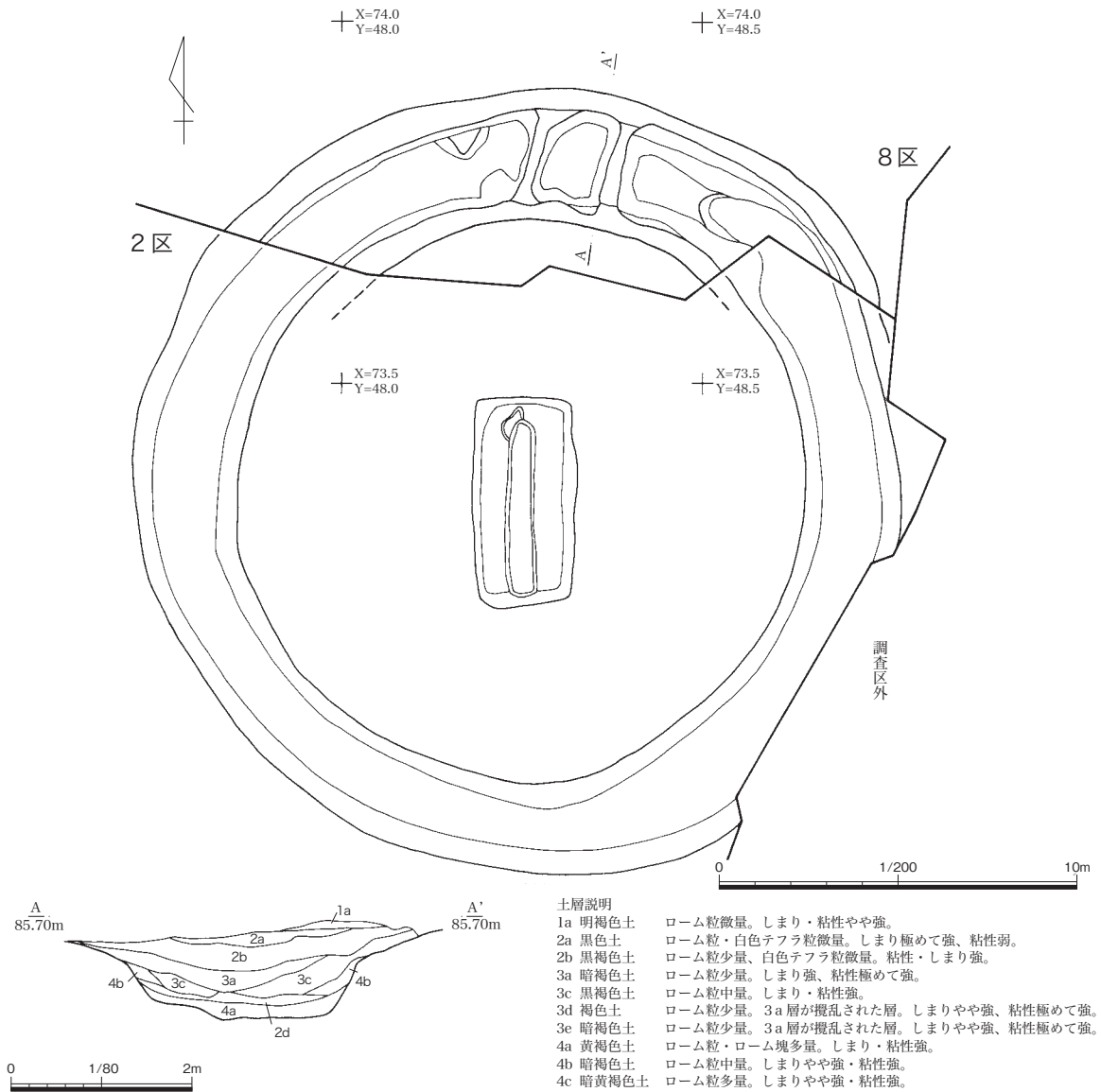
2. 古墳

琴平塚9号墳 (遺構：第259図)

琴平塚古墳群は主に平成11年度に発掘調査、平成16年度に報告書が刊行されている。この中で、琴平塚9号墳の周溝北端部に若干の未調査部分があったが、今回はこれを補足し報告するものである。

琴平塚古墳群は琴平塚1号墳を主墳とする前方後円墳3基(1・3・5号墳)と、円墳11基(13号墳は周溝一部のみで不明瞭)からなる後期の群集墳である。墳丘は主に1号墳・2号墳に良好に認められるが、その他は削平され僅かに残るか、流失してしまったものが多い。これら古墳の埋葬施設は1.旧地表下にローム塊を基礎として築かれる構造(4号・6号・8号・10号・12号・14号墳)2.旧地表から掘削された掘方をもつ構造(7号・9号・11号墳)3.横穴式石室(2号・3号・5号墳)があり、その内訳は割竹型木棺、箱形木棺、箱形石棺、土壙墓、小石室、埴輪棺、側壁挟込土坑、横溝を有する土坑など多様である。出土遺物は土器(須恵器甕・坏・甕、土師器坏・甕)、埴輪(形象埴輪:武人形・女子形・馬形、円筒埴輪)、馬具(主に9号墳:内彎楕円形鏡板付轡、辻金具、帯金具、鉸具)、武器(鉄刀、刀子、鉄鏃)がある。以上報告書を要約したが、詳細は調査報告書(中村:2004)を参照されたい。

本墳は円墳で中央部に粘土槨をもち、馬具類や鉄鏃などが出土した。周溝内からは土師器坏、円筒埴輪が出土し、時期的には6世紀中葉と位置付けられた。今回、周溝北端部の調査により規模が確定した。前回報告では周溝外縁は東西20.95mだったが、南北はやや長く、22.1mある。北部の周溝上面幅は3.7~4.0mと、前回報告の数値(2.8m)よりやや幅広である。また、北部中央の周溝底面には周溝と直交するブリッジ状の高まりをもつことが判明した。図面では2条あるが、西側は若干の高まりをもつ程度で不明瞭であるのに対し、東側は高まりが大きく、下幅約90cm、周溝底面との標高差は20cmある。ブリッジ部を挟んだ両脇部分の標高差はほぼ無い。周溝断面は側面に段をもつ逆台形で、確認面からの深さは90cm前後である。底面付近の4層はローム土を埋戻したと思われる。なお、南側調査区の墳丘盛土は今回調査区では確認できなかった。



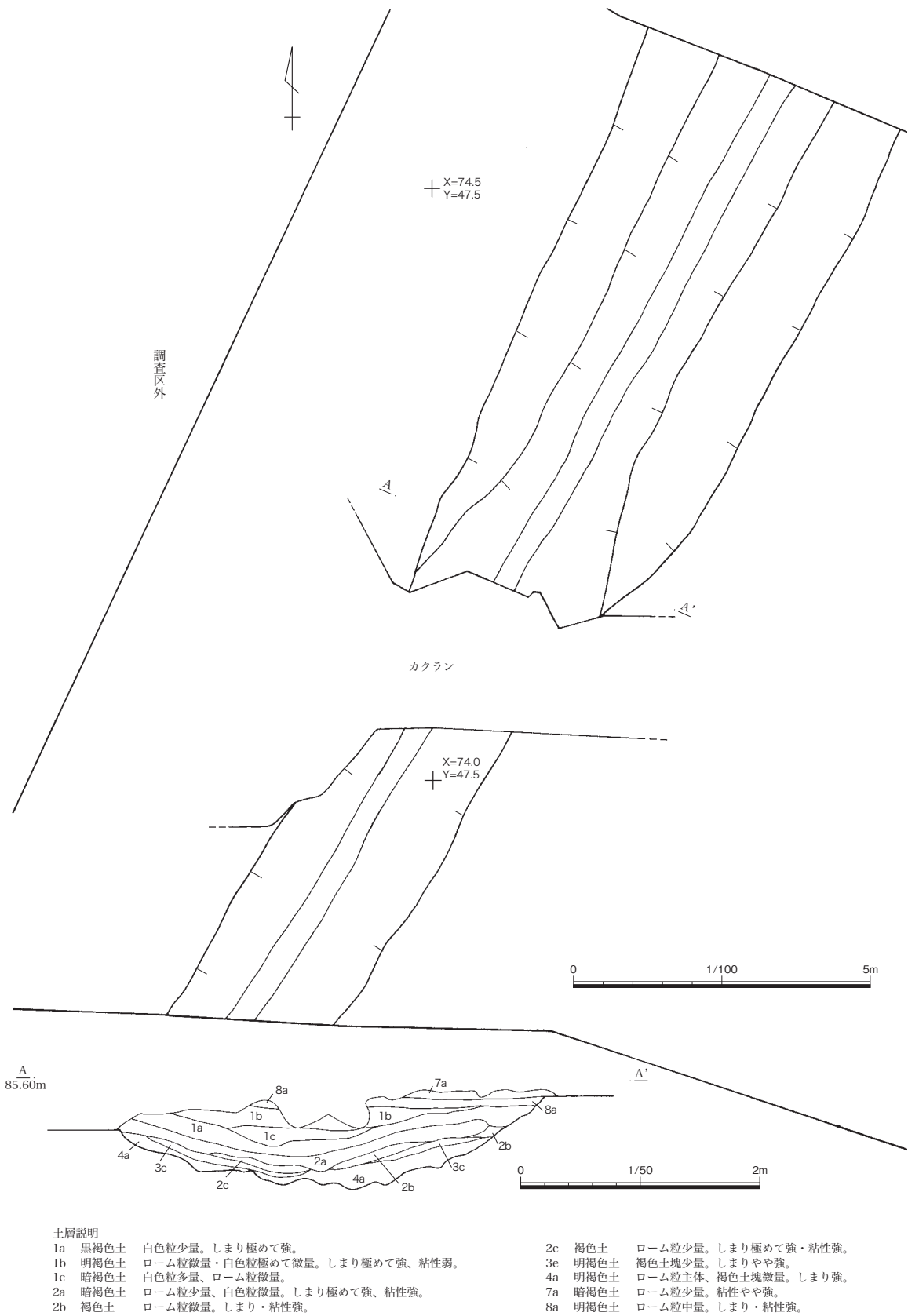
第259図 西刑部西原遺跡8区 琴平塚9号墳実測図

3. 道路状遺構

8区 SF-13 (遺構：第260・261図、遺物：第262図、図版三九、一一二)

道路状遺構は、東谷・中島地区遺跡群において南西方向から北東方向に確認された。その範囲は権現山遺跡 SG 1区、杉村遺跡 SG 1区、磯岡北遺跡 SG 3区・14区・6区・11区、西刑部西原遺跡 2区・6区・7区 の4遺跡に跨り、総延長 1.5 kmにおよぶ長大な遺構である。

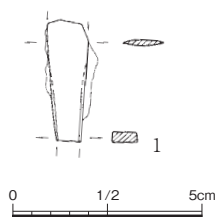
このうち権現山遺跡、杉村遺跡、磯岡北遺跡の各地区においては平行する2条の溝状遺構が確認されている。溝状遺構は若干蛇行しながらも直線的に作られており、これらは道路遺構の側溝であることが推定されている。側溝間の芯々距離は 10～14 mと一定でなく、低地部分で幅が狭くなる傾向が指摘されている。また側溝は大きく2回の作り替えが確認されている。なお、側溝以外の路体構造としては磯岡北遺跡 SG11区 の低地落ち際で、波板状の凹凸痕跡が確認されている。



第260図 西刑部西原遺跡8区 SF-13 実測図(1) 路面の掘り込み状況



第 261 図 西刑部西原遺跡 8 区 SF-13 実測図 (2) 路床の掘方の状況



第262図 西刑部西原遺跡8区 SF-13 出土遺物

第116表 8区 SF-13 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量 (cm)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置	残存
1	鉄製品 鉄鏃	長 [3.2] 幅 [0.7] 厚 0.2 重 [2.4]	鑿箭式の長頸鏃破片と考えられる。鏃身は両丸造りでやや薄手。	—	鉄製	4層	部分残存

磯岡北遺跡より1段高い台地上に位置する西刑部西原遺跡では、それまでの側溝を備えた道路ではなく切り通し状の道路遺構が確認された。この溝状遺構は古墳時代後期の琴平塚古墳群の墳丘を迂回しながら直線的に敷設されている。この道路状遺構は、本遺跡内を470 mにわたり縦断する長大な遺構で、平成11年度には2区が、平成12年度に6・7区の道路状遺構が調査され、平成15年度には報告書が刊行されている。

今回の報告分は未調査であった8区の状況を示すものである。8区の道路状遺構は、北部の(2区)D区、南部の(2区)C区に挟まれた範囲で1条が、長さ18 mにわたり確認されたものである。

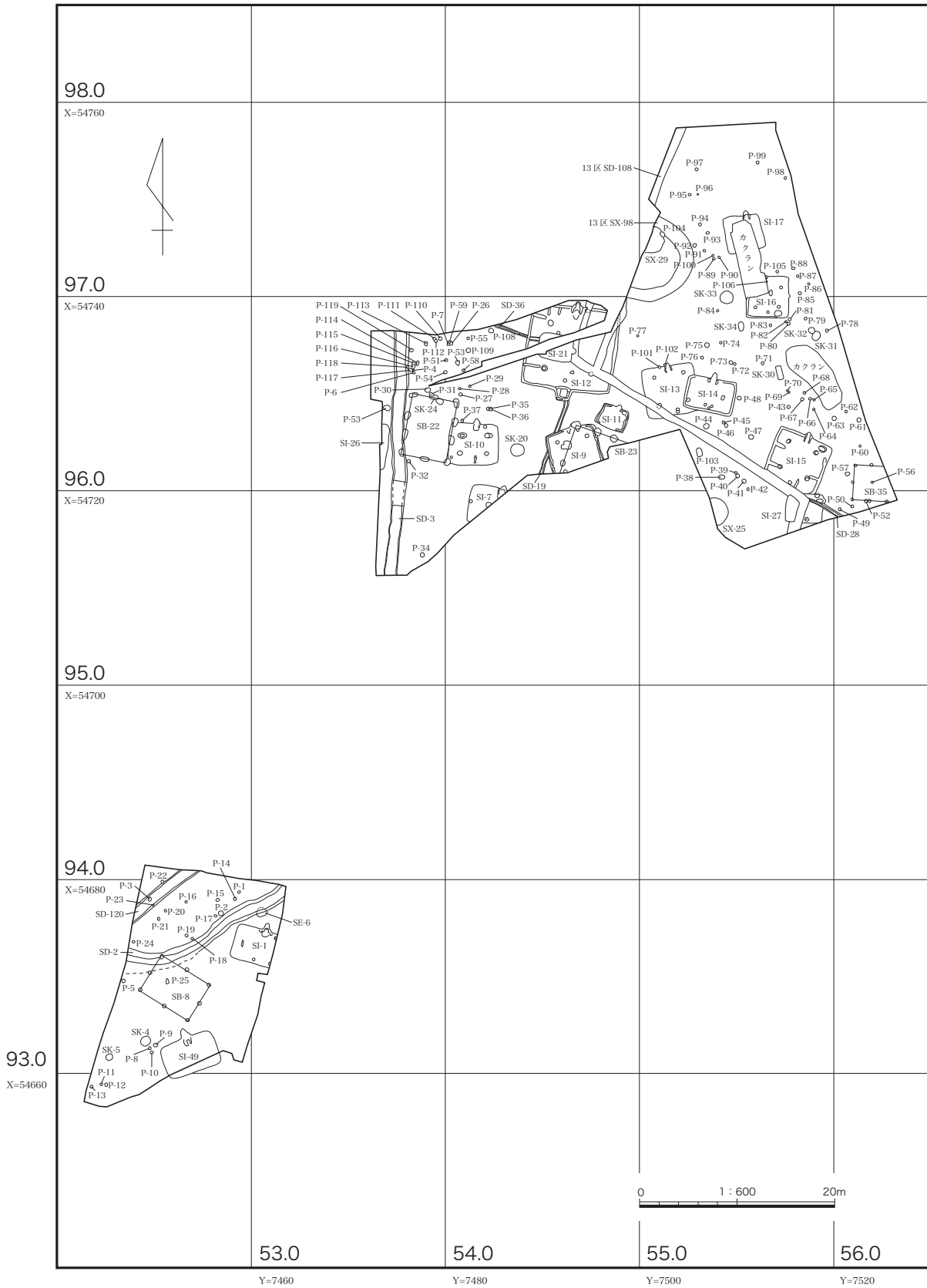
立地 西刑部西原遺跡が立地する台地の中央部。西側から低地が入り込む場所にあたる。重複関係 前回調査のC区では琴平塚6号墳との重複が認められ、古墳より新しいことが確認されている。主軸方向 N-30° -E 路面・路盤 路床が確認された。路床は中央部を中心に不規則なピット状の掘り込みが多数検出された。土層断面は、遺構中央部で(Aライン)確認した。

路面 断面形状・規模 路面の平面的な広がり是不明だが、断面観察では良好に遺存する。セクション図採取断面で確認したところ、路面幅は3.2 m以上、確認面からの深さは0.20～0.56 mである。また路面までの断面形は逆台形状を呈している。覆土 3e層および4a層が路盤を構成する土層でこの上面が路面となる。これより上層の1a～1c、2a～2c、7a、8a層は覆土と考えられる。

路床 平面形状・規模 路床は残りが良く、規模は幅0.8～1.3 m、確認面からの深さは0.7～0.8 mで、ローム層を掘り込んで路床面を形成している。断面は皿状または船底状で、硬化部分は認められない。凹凸痕跡 路床中央部を中心に細かく不規則なピット状の凹凸が確認される。ピットの形状は楕円形が多く、長軸0.3～0.5 m前後、深さ0.1 m前後のものが多い。中には0.7～0.8 mのほどの大形の掘り込みや、溝状を呈するものもある。南側のC区および北側のD区に見られるような、主軸方向に直交する波板状の痕跡は本調査区では確認できなかった。覆土は4a層としたローム土主体の層で硬く埋戻されている。

出土遺物 極めて少ないが、路床覆土中から鉄鏃破片が出土した。1は鑿箭式の長頸鏃の鏃身部の破片と考えられる。頸部の断面形は長方形。鏃身の断面形は両丸造りである。今回の出土遺物から時期の判別は難しいが、報告書(藤田2003)によると本遺構の時期は8世紀後葉以降に位置付けられている。

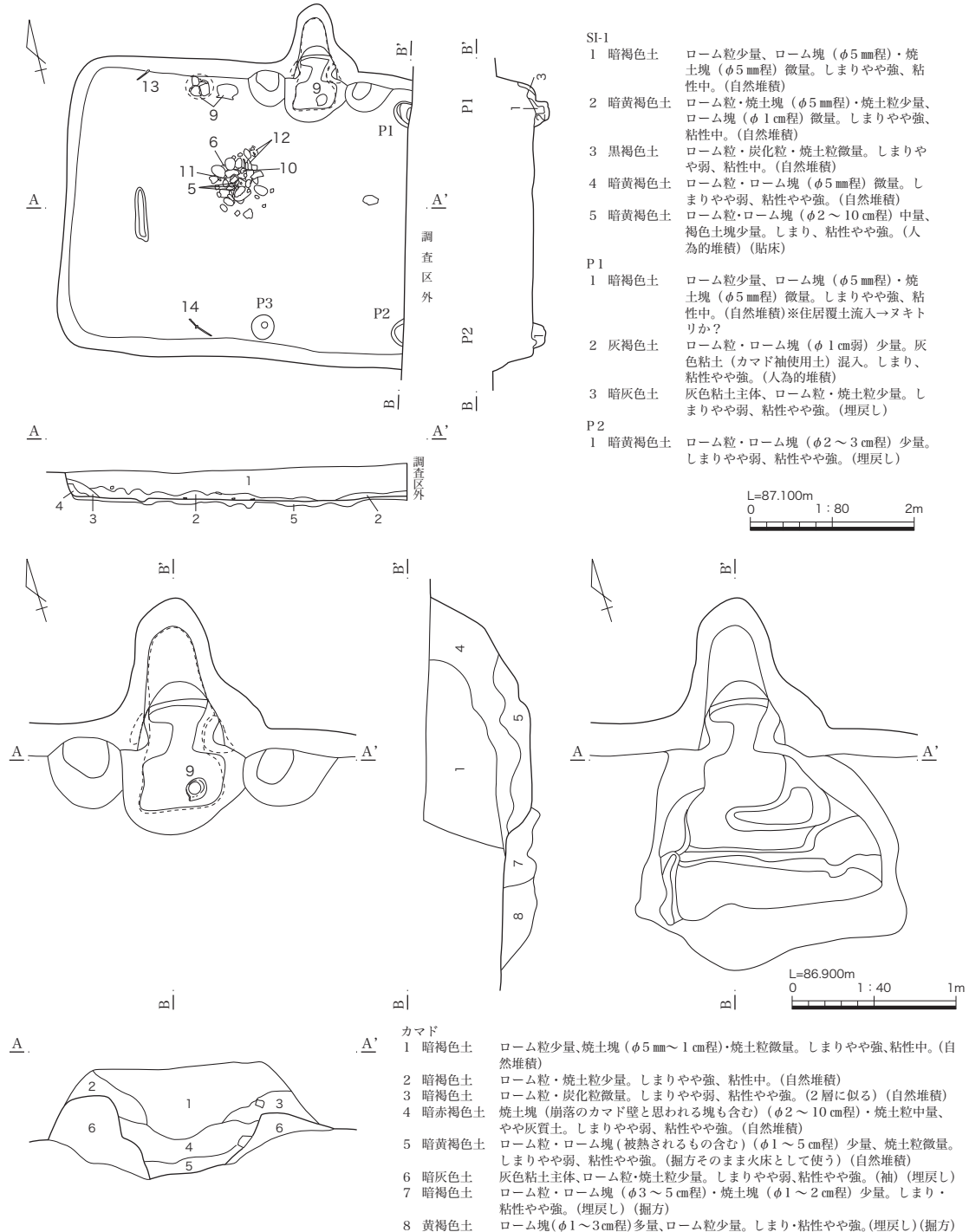
第9節 9区の遺構と遺物



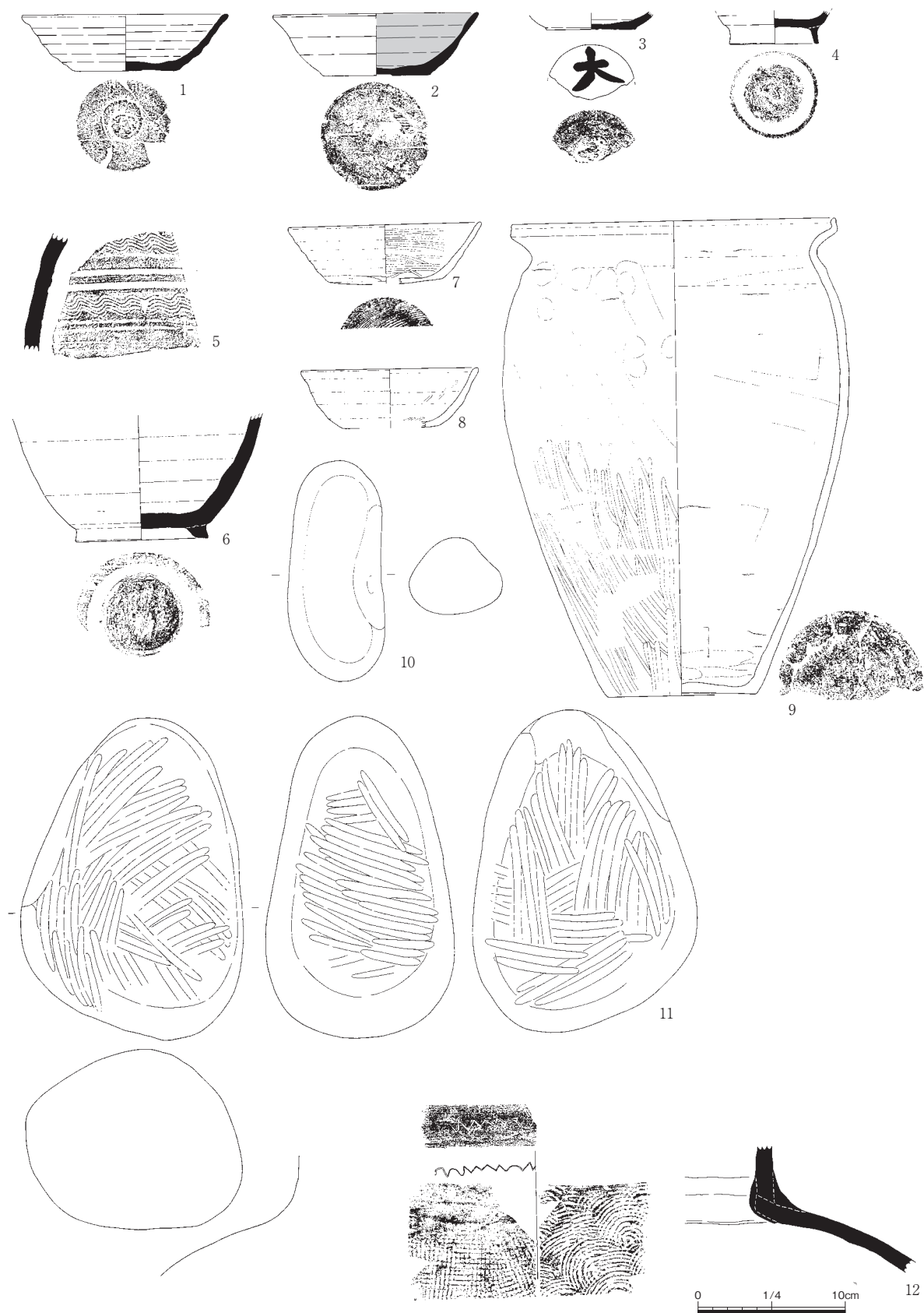
第 263 図 西刑部西原遺跡 9 区 全体図 (S=1/600)

本調査区は竪穴建物跡 15 棟（古墳時代 11 棟、平安時代 4 棟）、掘立柱建物跡 4 棟、性格不明遺構 2 基、井戸 1 本、溝 6 条、土坑 10 基、ピット 118 基が確認された。

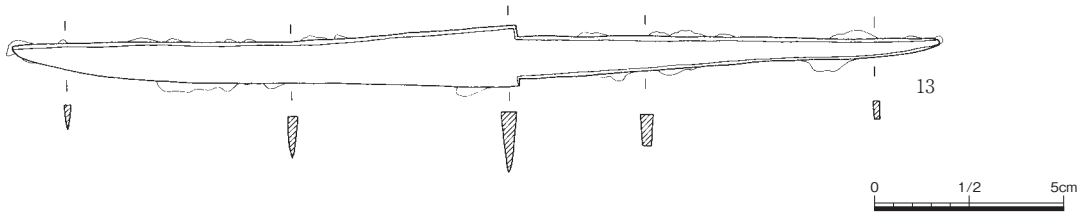
1. 竪穴建物跡



第 264 図 西刑部西原遺跡 9 区 SI- 1 実測図



第265図 西刑部西原遺跡9区 SI-1出土遺物(1)



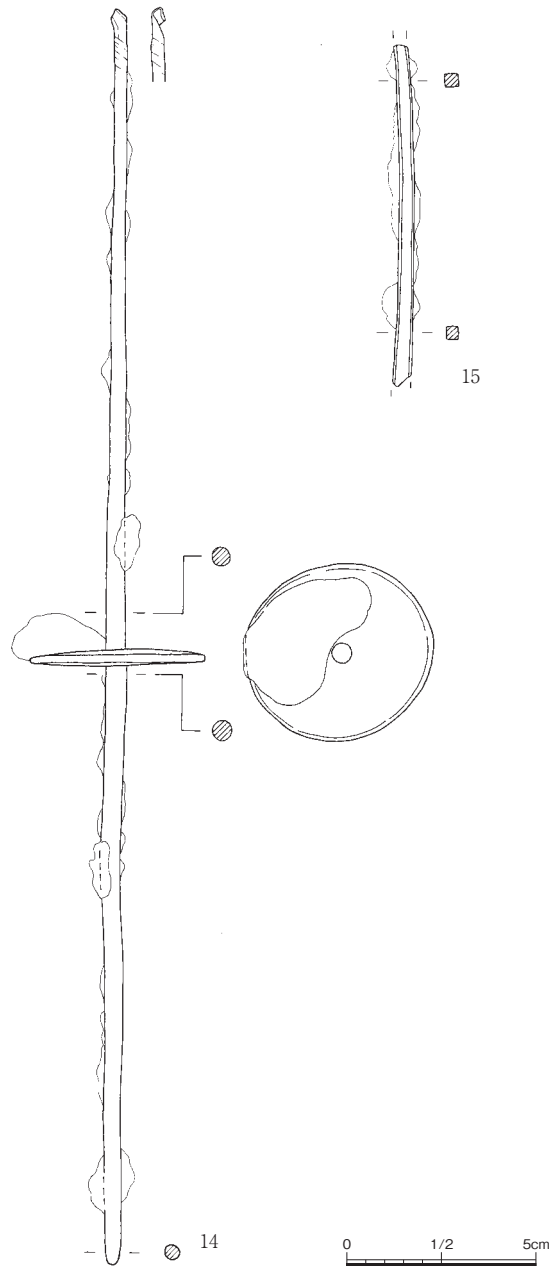
第266図 西刑部西原遺跡9区 SI-1出土遺物(2)

9区SI-1(遺構:第264図、遺物:第265
~267図、図版四一・一〇一・一一二・
一一四・一一五)

位置 グリッド53.0-93.0・53.0-93.5 重複
遺構 無し。平面形 東西軸の隅丸長方形

規模 東西4.1m以上×南北3.6m 主軸
方向 N-17.5°-E 覆土 自然堆積 壁
壁高30~50cm 床 全面貼床だが、概ね平
坦。硬化面は未確認。柱穴 P2(径28cm
以上、深さ17cm)があるが掘方の可能性あり。

入口ピット P3(径約30cm、深さ21cm)
南壁際に位置する。貯蔵穴 P1(径30cm
以上、深さ19cm)はカマド東に近接する。
周囲に堤防状の掘り残しあり。壁溝・間仕
切り溝 確認できなかった。掘方 南西部
及び北東部に若干の浅い凹凸を確認。カマ
ド 北壁を長いU字形に掘り込む。煙道は約
60°で立ち上がる。カマド前面は浅く広い掘
方あり。遺物 平面的には中央部から遺物
が多く出土。須恵器坏・高台付坏・瓶類・甕、
土師器坏・甕、刀子、鉄製紡錘車が出土。3
の坏底部外面には墨書「大」あり。4は高台
部が高い。9は床面直上出土の常総型甕。底
部外面に砂目痕跡あり。13は完形品の刀子。
本遺跡中最も大形で、全長24.2cmある。14
は完形品の紡錘車。軸上端部を叩き延ばし、
螺旋状に加工している。不掲載の土器類は小
コンテナ1/3程度、礫は600gほどが出土。
遺物から平安時代(9世紀前葉)の建物跡と
考えたい。



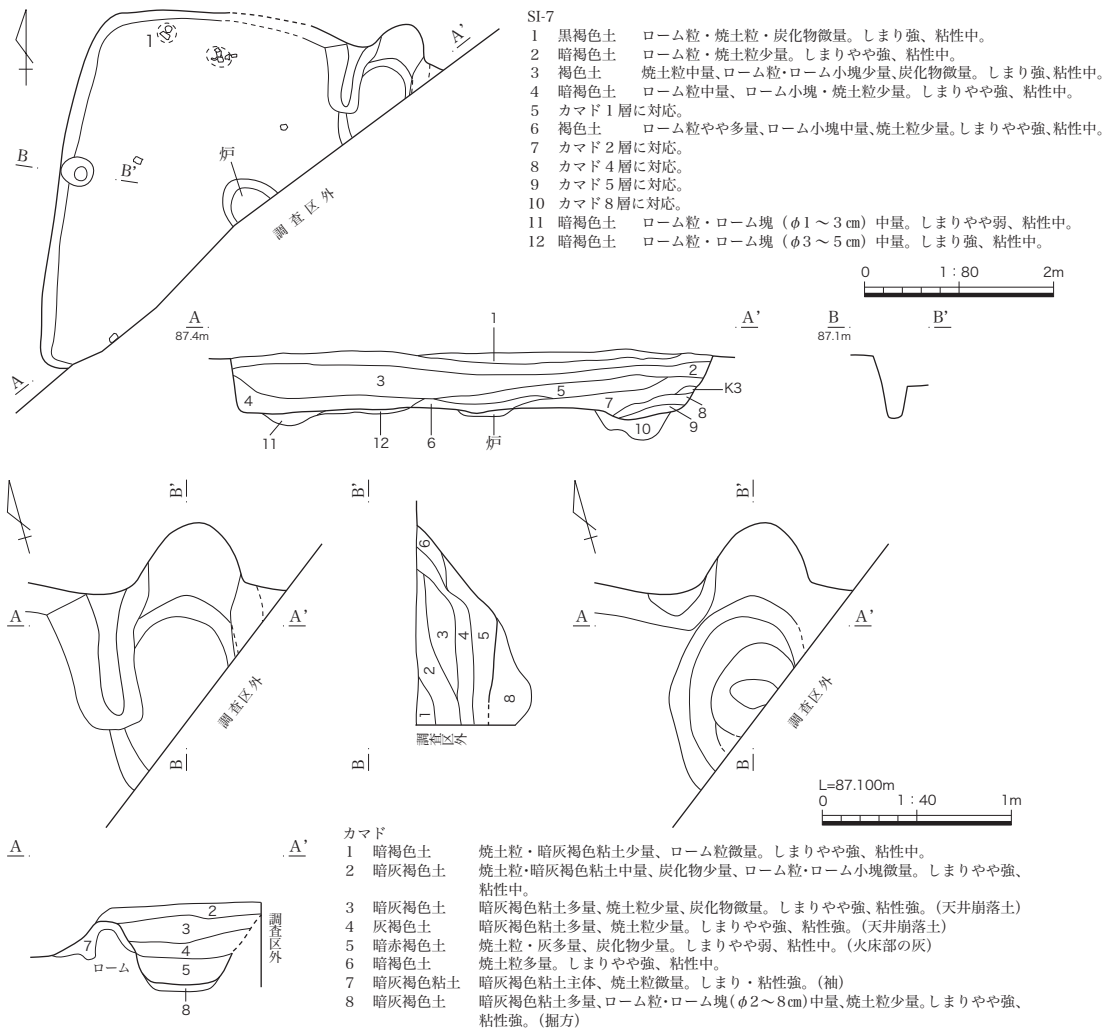
第267図 西刑部西原遺跡9区 SI-1出土遺物(3)

第117表 9区 SI-1 出土遺物観察表

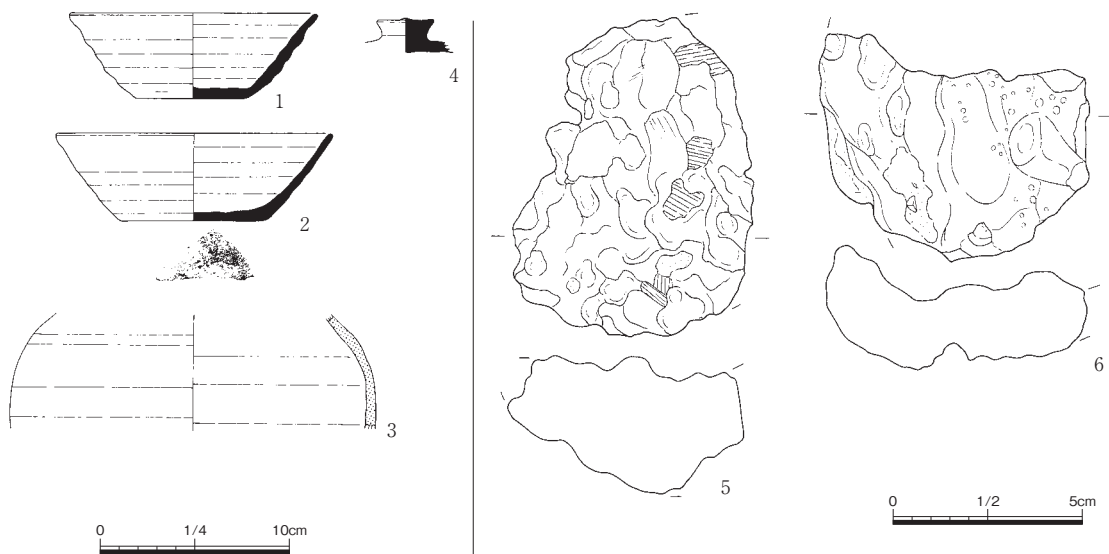
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技 法 ・ 特 徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	須恵器 環	口 [13.8] 高 3.8 底 7.1	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。	内外面とも 2.5YR6/8 橙	やや粗い、白・灰粗砂～礫 焼成：やや硬質	不明	口縁部 1/4、底部 7/8
2	須恵器 環	口 13.6 高 4.2 底 7.3	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。敷物圧痕か。内面黒色付着物あり。漆か。益子産。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	緻密、白細砂、白・灰礫 焼成：軟質	No.59 15.6	口縁部～体 部 3/4、底 部完存
3	須恵器 環	高 [1.2] 底 (6.0)	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。墨書「大」か。益子産。	内：7.5YR6/6 橙 外：5YR6/6 橙	やや緻密、灰・白砂、灰・白・黒細砂 焼成：やや硬質	覆土中	底部 1/2
4	須恵器 高台付 環	高 [2.1] 底 6.0	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのち高台貼付。益子産。	内：7.5Y5/1 灰 外：2.5YR4/2 灰赤	やや緻密、白・灰・粗砂～礫 焼成：硬質	覆土中	底部完存、 体部一部
5	須恵器 甕	厚 1.0	内外面ロクロナデ。頸部外面横位沈線及び波状文がある。内外面に若干の降灰あり。	内：7.5Y4/1 灰 外：10Y6/1 灰	やや緻密、灰・白・黒細砂、白・灰砂 焼成：硬質	No.41 4.5	頸部破片
6	須恵器 瓶類	高 [8.5] 底 9.0	内外面ロクロナデ。胴部外面下半部回転ヘラケズリ。底部外面ナデか。高台は幅広く接合沈線あり。回転ヘラズリの上端に平織の布圧痕がみられる。	内：5Y6/1 灰 外：5Y5/1 灰	粗い、灰・白・黒粗砂～礫 焼成：硬質	No.40 床直	胴部下半～ 底部 1/2
7	土師器 環	口 (12.8) 高 4.0 底 [7.6]	内外面ロクロナデ。内面ヘラミガキ。体部外面下端部手持ちヘラケズリ。底部外面静止糸切りか。	内：5YR5/6 明赤褐 外：7.5YR5/6 明褐	やや緻密、白・黒細砂 焼成：やや硬質	カマド	口縁部 1/4、底部 1/4
8	土師器 環	口 (11.8) 高 4.0	内外面ロクロナデ。内面ヘラミガキと考えられるが磨減顕著で不明瞭。黒色仕上げ。	内：10Y2/1 黒 外：10YR6/4 にぶい黄橙	やや緻密、白・黒細砂 焼成：やや硬質	不明	口縁部 2/5、底部 1/4
9	土師器 甕	口 (21.6) 高 (32.2) 底 (10.0)	胴部外面上半指頭押圧及びナデ。外面下半部ヨコヘラケズリのちタテヘラミガキ。底部外面木葉痕及び砂目痕か。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	やや緻密、白・灰・黒砂、灰礫、白雲母 焼成：やや硬質	No.3・4・ 54 床直 (No.3)	口縁部～底 部 1/2
10	石器 編物石	長 14.8 幅 6.3 厚 5.1 重 653.0	未加工の自然礫。全面に褐色の付着物あり。 平面形：楕円形 断面形：不整な隅丸三角形	2.5Y7/3 浅黄	—	No.35 4.7	完存
11	石器 砥石	長 21.8 幅 14.8 厚 12.0 重 4.973	表裏左右側面、下面の計5か所の砥面あり。擦痕は明瞭、幅広くである。荒砥か。 平面形：不整な楕円形 断面形：不整な隅丸方形	2.5Y6/3 にぶい黄	多孔質安山岩か	No.50 床直	完存
12	須恵器 甕	高 [8.7] 径 [5.1] 厚 1.0	内面同心円状あて具痕。外面格子目叩き。頸部内外面補強帯貼付のちロクロナデ。頸部外面タテハケ目のちナデのち一本描きの浅い稚拙な波状文。肩部に緑白色の降灰あり。	内：N4/0 灰 外：N7/0 灰	やや粗い、白粗砂粒、白礫 焼成：硬質	No.6・7 6.0 (No.7)	頸部 1/5
13	鉄製品 刀子	長 24.2 幅 1.6 厚 0.5 重 28.0	背は角棟で若干反りをもつ。棟幅は約6.0mmと厚い。刃部は中央部を僅かに低減りにしたものか。茎は長く断面は逆台形または長方形。	—	鉄製	No.2 12.5	完存
14	鉄製品 紡錘車	長 31.6 径 4.9 厚 0.6 重 35.4	完形の紡錘車。紡輪は歪んだ円形。断面はレンズ状。中央部に径5.0mmの円孔あり。軸断面は径5.0mmの円形、上端部を薄く延ばし、らせん状に丸める。また周囲に繊維質が付着。糸か。軸下端部は丸みをもつ。	—	鉄製	No.1 7.4	完存
15	鉄製品 鉄鏝	長 [9.0] 径 0.4 重 [7.3]	紡錘車の軸部破片と考えられるが断面形は一辺5.0mmほどの方形に近い。	—	鉄製	覆土中	部分残存

9区 SI-7 (遺構：第268図、遺物：第269図、図版四一・一〇一・一一六)

位置 グリッド54.0-95.5・54.0-96.0 重複遺構 無し。東西軸の長方形か。規模 東西3.3m以上×南北3.8m 主軸方向 N-10° - E 覆土 自然堆積と考えられる。壁 壁高35～55cm 床 部分的に薄い貼床あり。硬化面は見られない。柱穴 P1 (径35～28cm、深さ34cm)は西壁際中央部にある。入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 小さな凹凸があるが、10～12層で埋戻す。カマド 北壁際をU字状に掘り込む。燃焼部には灰・焼土が厚く堆積する。燃焼部底面は深く楕円形の掘方をもつ。炉 建物跡ほぼ中央に位置する。推定径50cmほどの楕円形を呈し、底面は良く焼けている。遺物 遺物は殆どが中層～上層からの出土である。須恵器環(1・2)・蓋(4)、灰釉陶器(3)がある。鉄滓(5・6：坩形鍛冶滓)が出土。灰釉陶器は本遺跡中から計3点が確認されたのみである。不掲載土器は土師器甕類(常総型、武蔵型)の破片が多く、総量は小コンテナ1/4程度と少ない。遺物から9世紀中葉の建物跡と考えられる。



第268図 西刑部西原遺跡9区 SI-7実測図



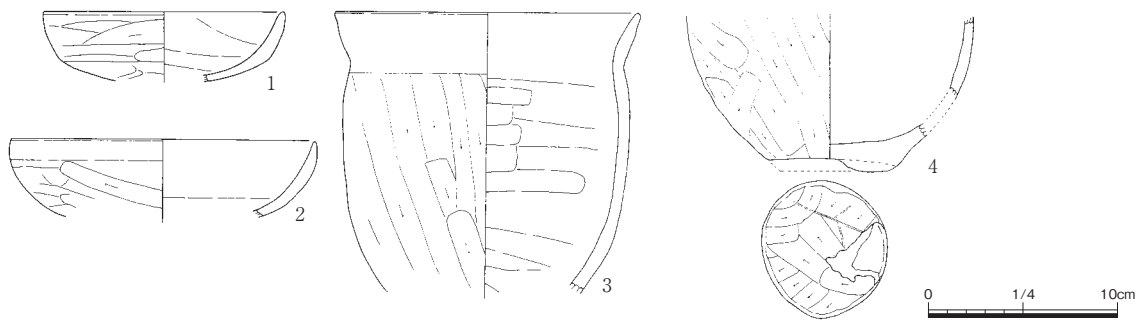
第269図 西刑部西原遺跡9区 SI-7出土遺物

第118表 9区 SI-7 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 環	口 (12.8) 底 (5.8) 高 4.5	内外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラケズリ。底部外面磨滅のため不明。	内外面とも 2.5Y6/2 灰黄	やや粗い、白・透明粗砂、雲母片 焼成：硬質	No.3 0.9	口縁部～体部1/3、底部完存
2	須恵器 環	口 (14.8) 底 (7.5) 高 4.6	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。	内外面とも 5Y6/1 灰	やや緻密、白粗砂 焼成：硬質	覆土中	口縁部～底部1/8
3	灰釉陶 器瓶類	高 [6.3]	内外面ロクロナデ。肩は丸みを帯びる。外面施釉。猿投産か。	内：2.5Y5/2 暗灰黄 外：2.5Y7/1 灰白 釉：7.5Y2/4 灰オリーブ	やや緻密、白・黒細砂～砂 焼成：やや硬質	覆土中	肩部1/6
4	須恵器 蓋	高 [1.8] 穴径 3.0	ロクロナデ。宝珠形のツمامミ部。	内外面とも 5Y7/1 灰白	やや緻密、白・黒細砂、白・黒砂 焼成：やや硬質	覆土中	ツمامミ部完存
5	鉄滓	長 [8.3] 幅 [6.1] 厚 [3.5] 重 [170.2]	椀形鍛冶滓か。比較的緻密で重い。左側縁部は残存部が多いがその他は破面となっている。上面は気孔が多い。凹んだ部分には木炭痕がみられる。下面は中央部付近の凹部に銹化を確認。炉壁は剥がれたためか殆ど残っていない。	表：サビ有 5YR4/3 にぶい赤褐 サビ無 5Y5/1 灰 裏：サビ有 5YR4/3 にぶい赤褐	磁着度：4	覆土中	部欠
6	鉄滓	長 [5.1] 幅 [6.9] 厚 [1.9] 重 [85.7]	椀形鍛冶滓。左側縁の一部を残し他は破面。破面は4面。上面は左半部の銹化が進む。右半部は発砲のため隆起し若干気孔が目立つ。下面は白色礫を含む炉壁が付着している凹部は炭の脱痕がみられる。	表：サビ有 7.5YR4/4 褐 サビ無 7.5Y5/1 灰 裏：サビ有 7.5YR5/6 明褐 サビ無 7.5Y5/1 灰	磁着度：3	覆土中	部欠

9区 SI-9 (遺構：第271図、遺物：第270図、図版四一・四六・一〇一)

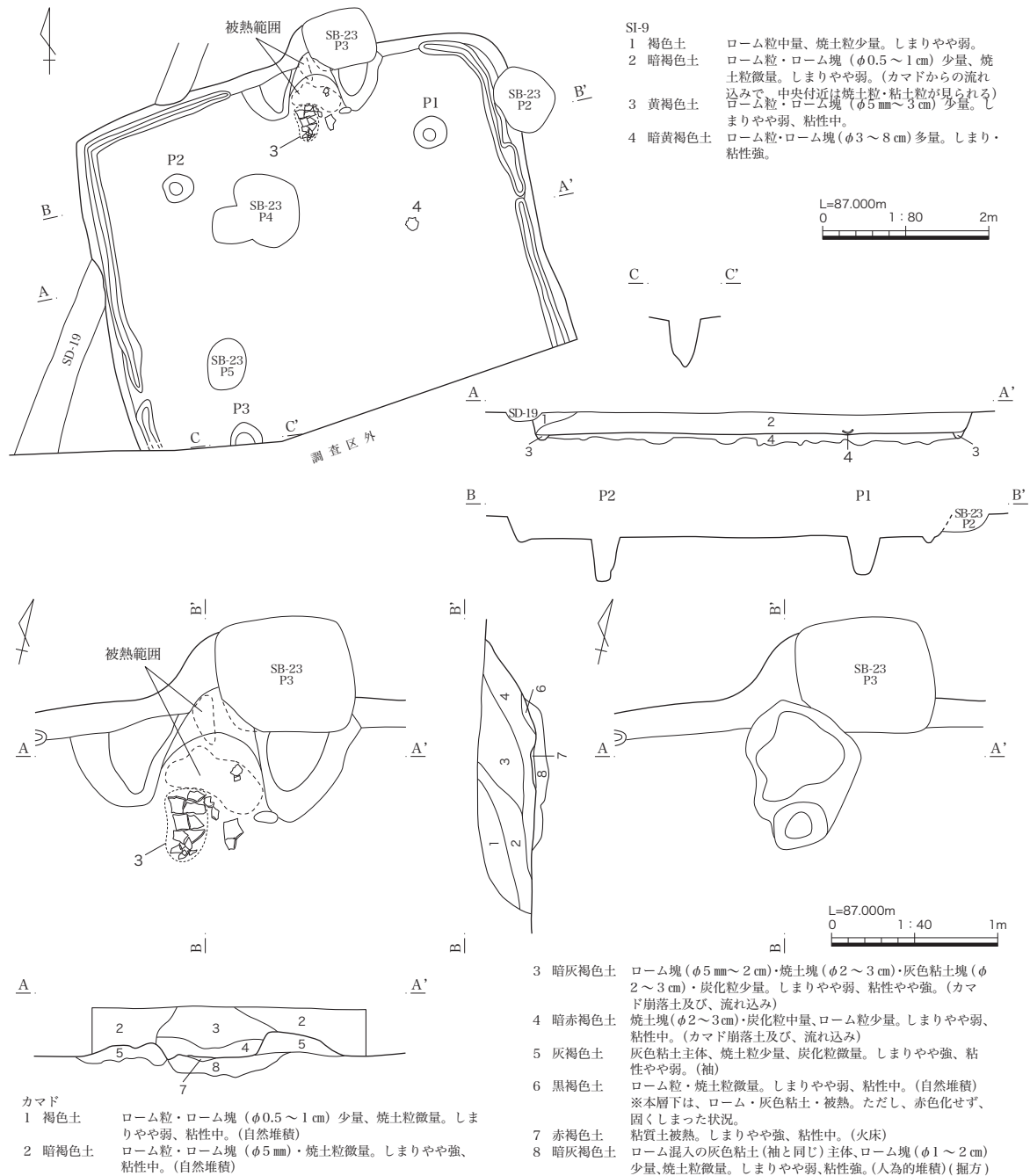
位置 グリッド54.5-96.0 重複遺構 時期不明のSB-23より古い。平面形 隅丸方形か。規模 東西5.3×南北4.3m以上 主軸方向 N-14°-W 覆土 3層からなる自然堆積。壁 壁高24～27cm 床 全面が薄い貼床。概ね平坦である。柱穴 P1(径38cm、深さ45cm)、P2(径35cm、深さ53cm)、P3(径38cm以上、深さ57cm)の3本を確認。入口ピット・貯蔵穴 確認されなかった。壁溝 若干途切れるが、カマド両脇の一部を除きほぼ壁際を全周するようである。規模は幅11～21cm、深さ4～8cmである。掘方 全面的に小さな凹凸あるのみ。カマド 北壁中央部やや東寄りに位置する。壁を浅く半円形に掘り込む。床面から3の土師器甕が出土した。遺物 床面付近の遺物は3・4の甕のみで、他は覆土中の出土。4の底部外面は、焼成前に補修した粘土が、使用中に剥がれ落ちた可能性がある。底部補修の一例として興味深い。古墳時代終末期(7世紀代)の建物跡と考えられる。



第270図 西刑部西原遺跡9区 SI-9 出土遺物

第119表 9区 SI-9 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 環	口 (12.4) 高 [3.6]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。口縁部外面～体部内面ヘラケズリのちヘラナデ。体部内面ヘラナデ。内外面漆仕上げ。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：10YR8/4 浅黄橙	緻密、白細砂、赤色粒 焼成：やや硬質	南覆土	口縁部～底部1/4
2	土師器 環	口 (15.8) 高 [4.0]	底部内面～口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	緻密、赤色粒 焼成：やや軟質	北覆土	口縁部1/8、体部1/5



第271図 西刑部西原遺跡9区 SI-9実測図

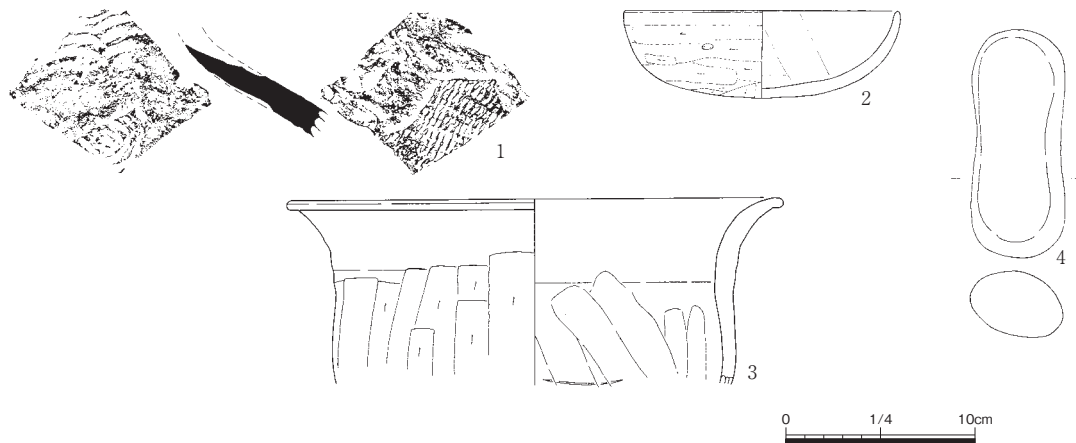
3	土師器 甕	口 (15.8) 高 [14.6]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面丹念なヨコナデ。	内: 7.5YR8/6 浅黄橙 外: 7.5YR7/6 橙	やや粗い、白・灰・黒粗砂～礫 焼成: やや硬質	カマドNo.1 1.3	口縁部～胴部上半1/3
4	土師器 甕	底 (6.2) 高 [8.3]	胴部外面タテヘラケズリのちナメナデ。内面剥落顯著なため調整不明。底部外面木葉痕のち多方向ヘラケズリのち粘土貼付。最初に作った底部 (多方向ヘラケズリ) が不安定なため、粘土を貼り底部を作り直したが、乾燥が進行しており十分に接着せず、焼成後 (あるいは焼成中) 剥がれたものと考えたい。	内: 5YR7/6 橙 外: 10YR7/6 明黄褐	やや緻密、白・灰細砂、白・灰・黒砂、赤色粒 焼成: やや硬質	No.7、SI-10 北区、南区 床直 (No.7)	胴下半部 4/5、底部 完存

9区 SI-10 (遺構：第273図、遺物：第272図、図版四二・一〇一)

位置 グリッド54.0-96.0 重複遺構 西壁際で奈良時代のSB-22と重複し、これより古い。平面形 東西軸の隅丸長方形。規模 東西5.0×南北4.4m 主軸方向 N-4° - E 覆土 自然堆積と考えられる。

壁 壁高25～32cm残る。床 全面的に浅い貼床。若干の凹凸あり。柱穴 P1(径80～47cm、深さ40cm)、P2(径90～56cm、深さ47cm)は形状から判断して柱を抜き取った可能性あり。P3(径53～45cm、深さ44cm)、P4(径約40cm、深さ45cm)は柱痕など確認できなかった。入口ピット P5(径18cm、深さ26cm)、P6(径29～25cm、深さ25cm)、P7(径20cm、深さ20cm)の3本が縦列して確認されたが、この他P8(径24cm、深さ27cm)は本遺構に伴うものか不明瞭。貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。

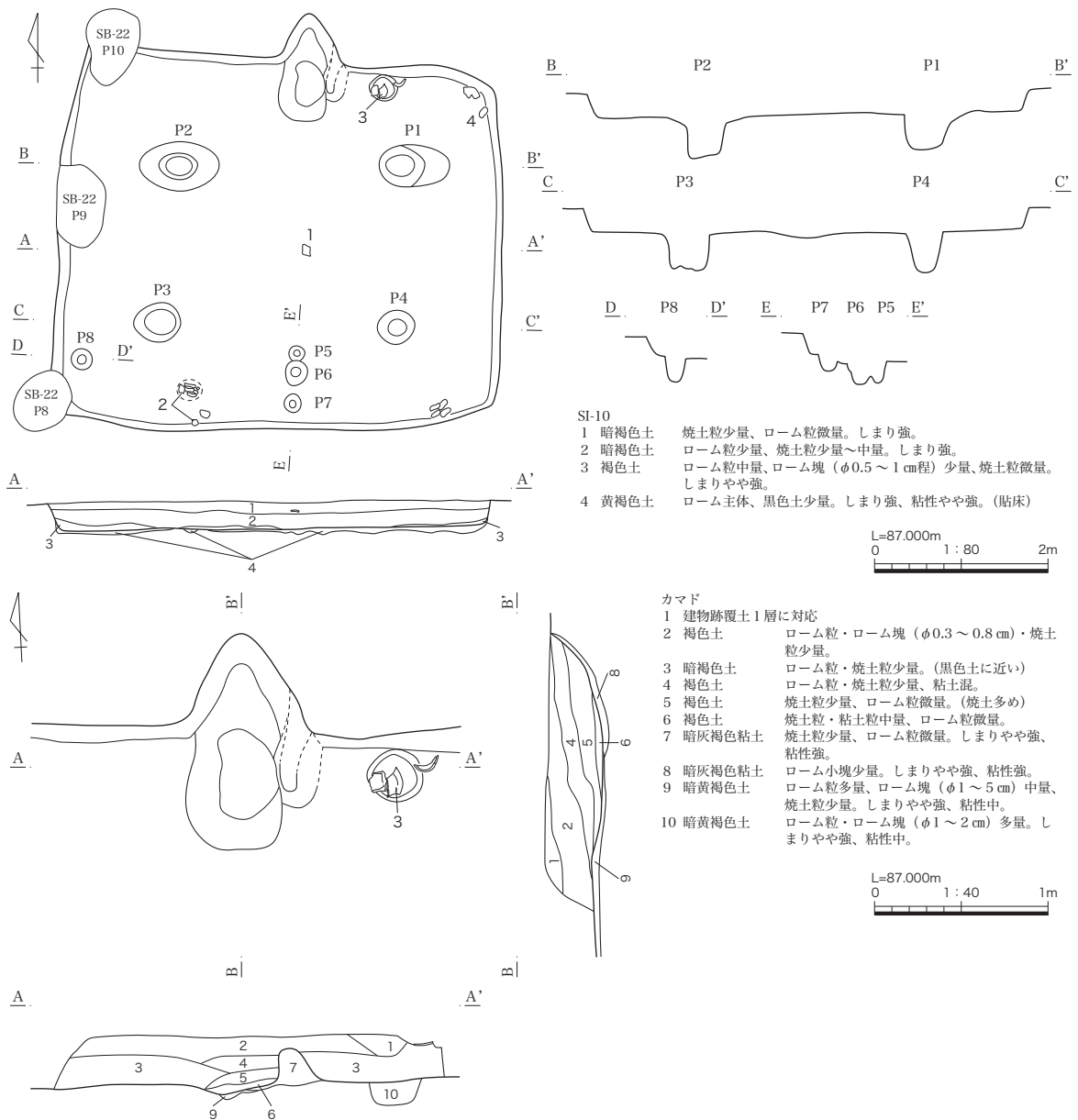
掘方 細かな凹凸があるが土坑状の掘り込みなどは確認されなかった。カマド 北壁中央部やや東寄りに位置し、壁面をV字形に掘り込む。煙道の立ち上がりは約50°である。燃烧部の掘り込みは浅く、被熱度は弱い。遺物 遺物は須恵器甕破片、土師器坏・甕、編物石を図示した。2～4は床面付近の遺物である。1は覆土中の土師器坏だが、体部側にモミ圧痕が見られる。不掲載遺物は土師器甕胴部破片が小コンテナ箱1/3程度である。遺物から古墳時代終末期(7世紀代)の建物跡と考えたい。



第272図 西刑部西原遺跡9区 SI-10出土遺物

第120表 9区 SI-10出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器甕	高 [7.5] 厚 1.2	内面同心円状あて具痕。外面格子叩き。	内：7.5YR7/6 橙 外：5Y7/2 灰白	やや粗い、白・灰粗砂～礫 焼成：やや硬質	No.13 19.5	胴部破片
2	土師器坏	口 (14.4) 高 4.6 径 (14.6)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。口縁部外面～内面全面漆仕上げ。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	緻密、赤粒 焼成：やや軟質	No.11・12 0.8 (No.12)	口縁部 1/2、底部 3/4
3	土師器甕	口 (25.6) 高 [9.8] 径 (26.0)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面タテヘラケズリ。破片下端部は被熱して赤化する。	内：10YR6/4 にぶい黄橙 外：10YR5/3 にぶい黄橙	やや粗い、白・黒・灰粗砂～礫、赤粒 焼成：硬質	No.2 床直	口縁部～胴部 1/3
4	石器編物石	長 12.0 幅 4.8 厚 3.6 重 340.0	未加工の自然礫。平面形：楕円形 断面形：楕円形	N6/0 灰	—	No.4 床直	完存



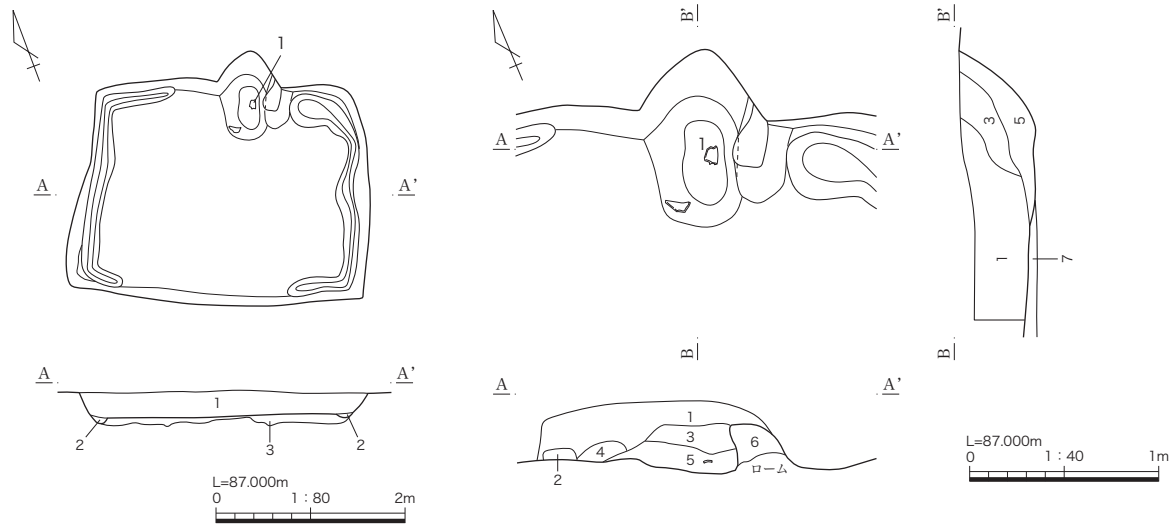
第273図 西刑部西原遺跡9区 SI-10 実測図

SI-11 (遺構：第274図、遺物：第275図、図版四二)

位置 グリッド 54.5-96.0 重複遺構 無し。 平面形 東西軸の長方形 規模 東西 3.1×南北 2.3 m 主軸方向 N -25° - E 覆土 自然堆積 壁 壁高 20～26 cm 床 全面が貼床でやや凹凸が多い。硬化面は未確認。 柱穴・入口ピット・貯蔵穴 確認できなかった。 壁溝 西壁際をD1(幅 11～35 cm、深さ 6 cm)、東壁際をD2(幅 13～21 cm、深さ 7 cm)とした。南壁中央部および北壁のカマド西側には確認できなかった。

掘方 土坑状の掘方はないが、細かな凹凸をもつ。ローム土を多量含む黄褐色土(3層)で埋戻す。 カマド 北壁中央部やや東に位置し、壁面を半円形若しくは三角形状に掘り込む。袖残りは悪く、僅かに右袖の一部が残る。 遺物 床面直上の遺物はなく、図示可能な遺物は1の土師器甕小破片のみである。不掲載土器は土師器甕胴部破片主体で小コンテナ箱 1/4程度である。遺物は古墳時代後期～終末期のものが多く、建物が小形である点など奈良時代以降の建物の可能性も捨てきれない。

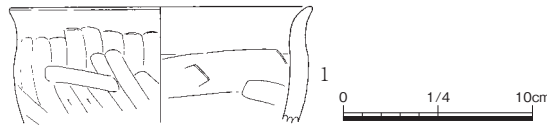
第3章 発見された遺構と遺物



SI-11

- | | | | |
|---------------|---|---------|---|
| 1 暗褐色土 | ローム粒・焼土粒・灰色粘土粒少量。しまりやや弱、粘性中。(自然堆積) | 4 暗灰色土 | 灰色粘土主体、炭化粒・焼土粒少量。やや灰質土。しまりやや弱、粘性中。(袖構築層6層に似る) |
| 2 黒褐色土 | ローム粒・ローム塊(φ3~5cm)・黒色土少量。しまりやや弱、粘性中。 | 5 暗赤褐色土 | 焼土塊(φ1~5cm程)中量、炭化物微量。しまりやや強、粘性中。(本層下被熱カ所有。ただし、赤色化の部分は少なく、固くしまった状態)(崩落に伴う自然堆積) |
| 3 黄褐色土 | ローム主体、黒色土少量。しまり・粘性強。 | 6 暗灰色土 | ローム粒・焼土粒・炭化粒微量。しまりやや強、粘性中。(袖) |
| カマド | | 7 暗褐色土 | ローム粒・ローム塊(φ2~3cm程)・黒色土塊(φ2~3cm程)少量。カマド前南西部しまり強(部分的にやや強)、粘性やや強。(貼床) |
| 1 建物跡覆土1層に対応。 | | | |
| 2 黄褐色土 | ローム塊(φ10cm程)主体。しまり・粘性やや強。 | | |
| 3 暗灰色土 | 灰色粘土主体、焼土塊(φ1~3cm程)少量。やや灰質土。しまりやや強、粘性やや弱。(自然堆積) | | |

第274図 西刑部西原遺跡9区 SI-11 実測図



第275図 西刑部西原遺跡9区 SI-11 出土遺物

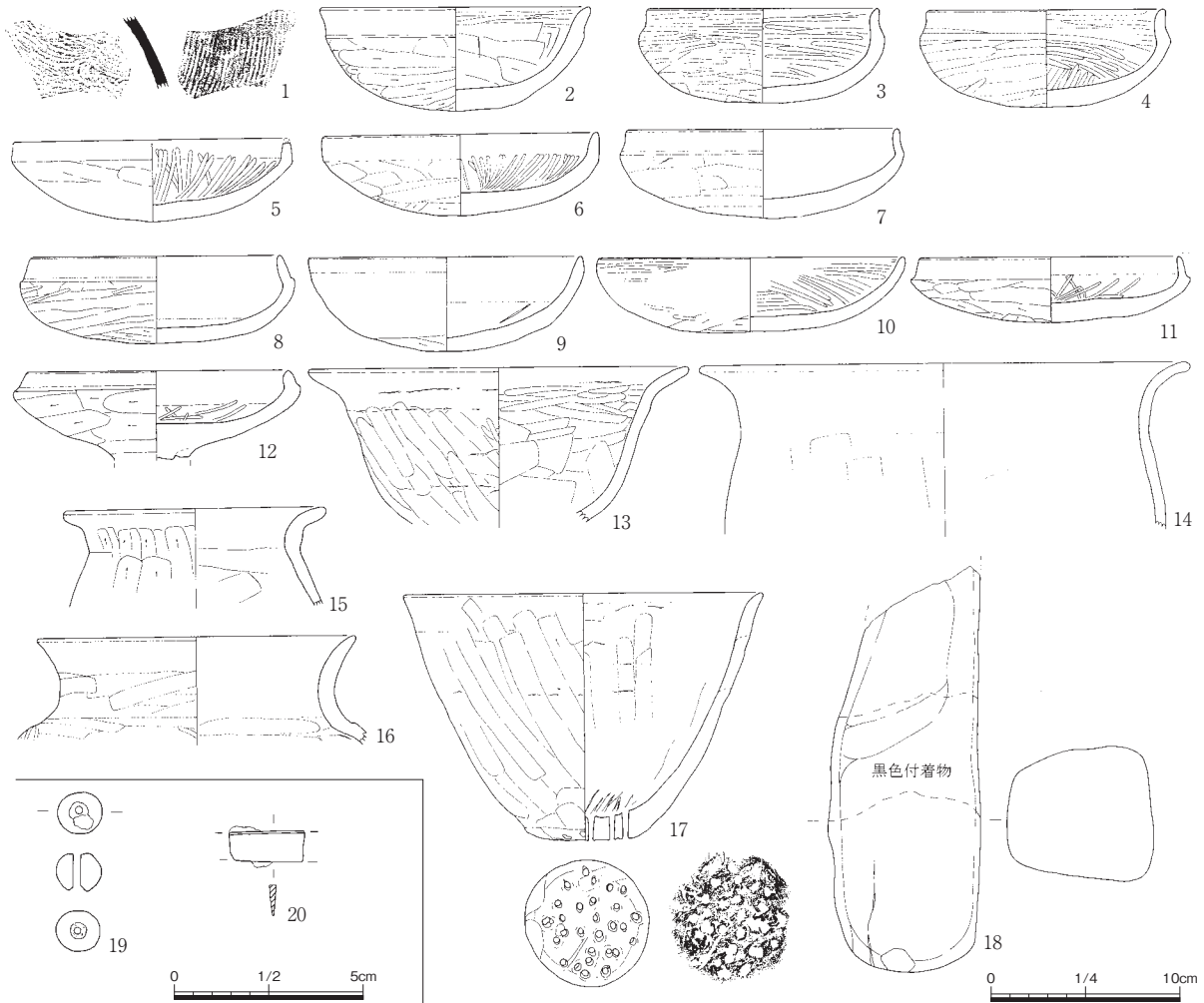
第121表 9区 SI-11 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 甗	口 (15.7) 高 [6.2]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面ヘラケズリのちヘラナデ。胴部外面粘土・焼土少量付着。	内外面とも 2.5YR5/6 明赤褐	やや粗い、白・黒・灰砂、灰・白礫 焼成：やや硬質	カマド№2 5.5	口縁部～胴 上半1/7

9区 SI-12 (遺構：第277・278図、遺物：第276図、図版四二・四三・一〇一・一〇二)

位置 グリッド 54.5-96.5・54.5-96.0 重複遺構 SI-21、SD-36 と重複し、本建物が最も古い。平面形 やや東西に長い方形 規模 東西9.4×南北8.78m 主軸方向 N-9° -E 覆土 自然堆積 壁高 約50cm 床 薄い貼床あり。概ね平坦。柱穴 P1(径61~53cm、深さ58cm)、P2(径60cm、深さ52cm)、P3(径41cm、深さ55cm)。北東の柱は調査区外か。入口ピット P5(径35cm、深さ16cm)は張出ピットの北部に位置する。貯蔵穴 P4(長軸推定50×短軸30cm、深さ38cm)はカマド東部に近接する。張出ピット 南壁中央部を幅1.9m、長さ1.0mに亘り台形状に広げ、中央部にP6(長軸86×短軸70cm、深さ60cm)を掘る。P7(径33cm、深さ60cm)、P8(径35~30cm、深さ19cm)は用途不明のピット。壁溝 D1(幅18~40cm、深さ6cm)は入口ピットを含むすべての壁際を巡る。間仕切り溝 D2(幅18~24cm、深さ10cm)、D3(幅17~23cm、深さ7cm)、D4(幅26~37cm、深さ12cm)、D5(幅35

～40 cm、深さ16 cm)、D6(幅21～24 cm、深さ18 cm)の計5本確認。掘方 平坦に掘り、第8層で埋戻す。カマド 北壁中央部を凸字状に掘り込み。煙道はほぼ垂直に立つ。燃烧部は溝状の掘方をもつ。遺物 入口ピット及びカマド周辺に遺物が多い。図示した遺物は須恵器甕(1)、土師器坏(2～11)、高坏(12)、鉢(13)、甕(14～16)、甑(17)、土玉(19)、刀子(20)、編物石(18)がある。6・9・12・14はカマド周辺から、2～5・7・8の坏類は入口ピット付近から出土している。不掲載遺物は土師器坏・甕類の小破片が主で、小コンテナ2箱程度。遺物から古墳時代後期後葉(TK43段階)の建物跡と考えたい。



第276図 西刑部西原遺跡9区 SI-12 出土遺物

第122表 9区 SI-12 出土遺物観察表

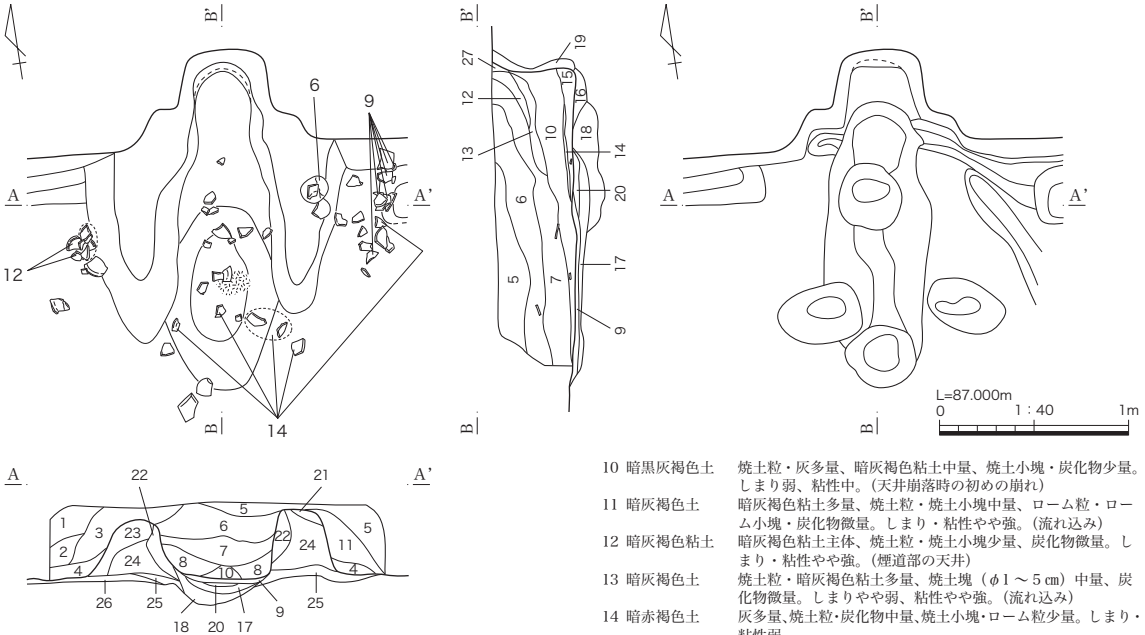
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	須恵器甕	厚 0.5	内面同心円あて具痕。外面平行叩きのちカキ目。	内：2.5Y7/1 灰白 外：5Y6/1 灰	やや緻密、灰・白・黒細砂、黒・白砂 焼成：やや硬質	ピット入口	胴部破片
2	土師器坏	口 12.0 高 5.5 径 12.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデのち一部ヘラケズリ。口縁部内面は強いナデあるいはヘラミガキ。内外面漆仕上げ。体部外面ヘラケズリ。	内：10YR5/2 灰黄褐 外：5YR7/6 橙	やや緻密、白粗砂～礫 焼成：やや硬質	No.5・18・19・20 床直 (No.5)	ほぼ完存
3	土師器坏	口 12.0 高 5.0 径 12.9	口縁部内外面ヨコナデのちヘラミガキ。体部内面ヘラナデのちヘラミガキ。体部外面ヘラケズリのちヘラミガキ。口縁部内外面一部に黒色付着物(漆か)。	内：7.5YR7/6 橙 外：5YR6/6 橙	やや粗い、灰・白粗砂～礫、赤粒 焼成：やや軟質	No.4・17 1.5 (No.4)	ほぼ完存
4	土師器坏	口 12.3 高 5.1 径 13.4	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部内面ミガキ風の強いナデ。体部内面ヘラミガキ。体部外面ヘラケズリのちヘラナデ。口縁部および底部外面漆仕上げ。	内：5YR6/8 橙 外：5YR6/6 橙	緻密、灰礫、赤粒 焼成：やや硬質	No.21 39.7	ほぼ完存



第 277 図 西刑部西原遺跡 9 区 SI-12 実測図 (1)

- SI-12
- 1 暗褐色土 ローム粒中量、焼土粒微量。しまりやや弱、粘性中。
 - 2 褐色土 ローム粒やや多量、ローム小塊・焼土粒微量。しまりやや強、粘性中。
 - 3 暗褐色土 ローム粒中量、ローム塊(φ1cm)・焼土粒微量。しまりやや強、粘性中。
 - 4 暗褐色土 ローム粒少量、ローム小塊・焼土粒微量。しまりやや弱、粘性中。
 - 5 暗黄褐色土 ローム粒多量、ローム塊(φ1~3cm)少量、炭化物微量。しまり弱、粘性やや強。
 - 6 黒褐色土 ローム粒やや多量、ローム塊(φ1~3cm)少量。しまりやや弱、粘性中。
 - 7 暗黄褐色土 ローム粒中量、ローム塊(φ1~2cm)微量。しまりやや弱、粘性やや強。
 - 8 暗黄褐色土 ローム塊(φ3~4cm)多量、ローム粒少量。しまり強、粘性中。(貼床)
- P1
- 1 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ1~3cm)少量。しまりやや弱、粘性中。

- 2 暗黄褐色土 ローム主体、黒褐色土少量。しまり・粘性やや強。
- P4
- 1 暗灰褐色土 焼土粒中量、焼土小塊・炭化物少量。しまり弱、粘性やや強。
 - 2 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物中量、焼土小塊少量。しまり・粘性やや強。
 - 3 暗灰褐色土 ローム粒中量、焼土粒・炭化物少量、ローム塊(φ1~2cm)微量。しまりやや弱・粘性やや強。
 - 4 暗黄褐色土 ローム粒多量、ローム塊(φ1~2cm)少量、焼土粒微量。しまりやや弱・粘性やや強。
- P7
- 1 黒褐色土 ローム粒・ローム塊(φ1~2cm)少量。しまり弱、粘性中。
- D2,3,4,5
- 1 黒褐色土 ローム塊(φ1~2cm)中量、ローム粒少量。しまり弱、粘性中。
 - 2 暗黄褐色土 ローム粒多量、ローム小塊少量。しまりやや弱、粘性やや強。
 - 3 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ1~3cm)多量。しまりやや弱、粘性中。
 - 4 黄褐色土 ローム主体。しまりやや弱、粘性やや強。



- カマド
- 1 暗褐色土 ローム粒少量、ローム小塊・焼土粒微量。しまりやや弱、粘性中。(流れ込み、自然堆積)
 - 2 暗褐色土 ローム粒・焼土粒中量、ローム小塊少量。しまりやや弱、粘性中。(流れ込み、自然堆積)
 - 3 暗褐色土 暗灰褐色粘土多量、ローム粒・ローム小塊・焼土粒少量。しまり・粘性やや強。(袖の崩れ)
 - 4 暗灰褐色粘土 暗灰褐色粘土主体、焼土粒少量、ローム粒・炭化物微量。しまりやや弱、粘性やや強。(袖の崩れ)
 - 5 暗灰褐色土 暗灰褐色粘土多量、焼土粒・焼土塊(φ1cm)少量、ローム粒微量。しまり・粘性やや強。(流れ込み)
 - 6 暗灰褐色粘土 焼土粒多量、焼土塊(φ1cm)少量、ローム小塊・炭化物微量。しまり強、粘性やや強。(天井)
 - 7 暗灰褐色土 焼土粒・暗灰褐色粘土中量、ローム粒・ローム小塊・焼土小塊・炭化物微量。しまり・粘性やや強。(天井崩れ)
 - 8 灰褐色土 暗灰褐色粘土多量、焼土粒少量、焼土塊(φ1cm)微量。しまりやや弱、粘性やや強。(壁、天井の崩れ、流れ込み)
 - 9 暗灰褐色土 暗灰褐色粘土多量、焼土粒・焼土塊(φ1~2cm)少量。しまりやや弱、粘性やや強。(火床部掘方)

- 10 暗黒灰褐色土 焼土粒・灰多量、暗灰褐色粘土中量、焼土小塊・炭化物少量。しまり弱、粘性中。(天井崩落時の最初の崩れ)
- 11 暗灰褐色土 暗灰褐色粘土多量、焼土粒・焼土小塊中量、ローム粒・ローム小塊・炭化物微量。しまり・粘性やや強。(流れ込み)
- 12 暗灰褐色粘土 暗灰褐色粘土主体、焼土粒・焼土小塊少量、炭化物微量。しまり・粘性やや強。(煙道部の天井)
- 13 暗灰褐色土 焼土粒・暗灰褐色粘土多量、焼土塊(φ1~5cm)中量、炭化物微量。しまりやや弱、粘性やや強。(流れ込み)
- 14 暗赤褐色土 灰多量、焼土粒・炭化物中量、焼土小塊・ローム粒少量。しまり・粘性弱。
- 15 暗灰褐色粘土 焼土粒中量、焼土小塊・ローム粒少量。しまり弱・粘性中。
- 16 暗黄褐色土 ローム粒多量、焼土粒少量。しまり弱・粘性中。
- 17 暗赤褐色土 焼土粒・焼土塊(φ1cm)・炭化物多量、灰少量。しまりやや強、粘性弱。
- 18 暗灰褐色土 焼土粒・焼土塊(φ1cm)・ローム粒中量、ローム塊(φ2~5cm)少量。炭化物微量。しまりやや強、粘性弱。
- 19 暗褐色土 焼土粒・焼土塊(φ1cm)・ローム粒少量。しまりやや強、粘性中。
- 20 暗黄褐色土 ローム粒多量、ローム塊(φ3~8cm)少量(良くしまっている)少量、焼土粒微量。しまり強、粘性やや強。
- 21 暗灰褐色土 焼土粒少量、焼土小塊・炭化物微量。しまり・粘性やや強。(くずれ)
- 22 暗赤褐色土 赤褐色焼土主体。しまり・粘性やや強。(焼けた面)
- 23 暗灰褐色粘土 ローム粒・焼土粒微量。しまり・粘性やや強。(カマド構築材)
- 24 暗灰褐色粘土 しまり・粘性強。(カマドの主体)
- 25 暗灰褐色粘土 ローム粒少量、焼土粒微量。しまり・粘性やや強。(カマド下の粘土)
- 26 黄褐色土 ローム主体、暗褐色土・暗灰褐色粘土少量。しまり強、粘性中。(貼床)
- 27 暗灰褐色土 ローム粒多量、ローム塊(φ1cm)・焼土粒微量。しまりやや強、粘性中。

第278図 西刑部西原遺跡9区 SI-12実測図(2)

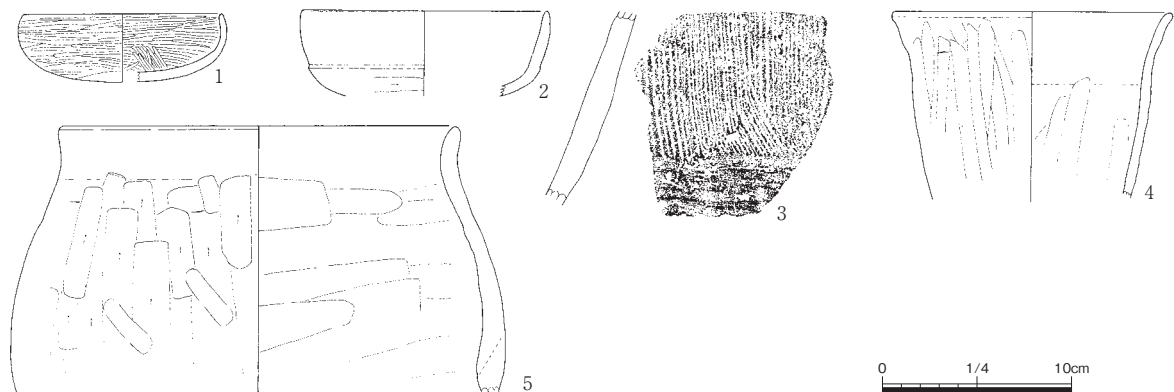
5	土師器 環	口(14.2) 高[4.3] 径14.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面放射状ヘラミガキ。体部外面ヘラナデか。内外面漆仕上げ。口縁部が全周におよび欠損。使用痕か。	内:10YR7/3 にぶい黄橙 外:2.5Y7/4 浅黄	やや緻密、黒・灰・白細砂、黒・白砂、黒礫 焼成:やや軟質	№15 11.5	口縁部欠損
6	土師器 環	口14.3 高4.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面放射状ヘラミガキ。体部外面ヘラケズリのち上半部ヘラナデ。口縁部内外面漆仕上げ。	内外面とも10YR7/3 にぶい黄橙	やや緻密、白・灰細砂、灰・黒・白砂、黒礫 焼成:やや軟質	カマド№36 床直	ほぼ完存
7	土師器 環	口(14.2) 高4.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデか。体部外面ヘラケズリ。	内:7.5YR7/6 橙 外:7.5YR8/4 浅黄橙	緻密、白細砂、赤粒 焼成:やや硬質	№11 1.6	口縁部1/4、 底部完存
8	土師器 環	口12.9 高4.6 径14.4	口縁部外面~体部内面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ヨコヘラナデのち一部ヘラミガキ。底部外面一方ヘラケズリ。漆仕上げ。	内:5YR6/6 橙 外:5YR6/8 橙	緻密、赤粒 焼成:やや硬質	№19 20.0	口縁部一部 欠損
9	土師器 環	口14.2 高5.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面磨滅のため調整不明。底部外面ヘラケズリ。	内:5YR7/6 橙 外:7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・灰・黒細砂、赤粒 焼成:やや軟質	№93・94・ 96・97 床直(№93)	ほぼ完存

第3章 発見された遺構と遺物

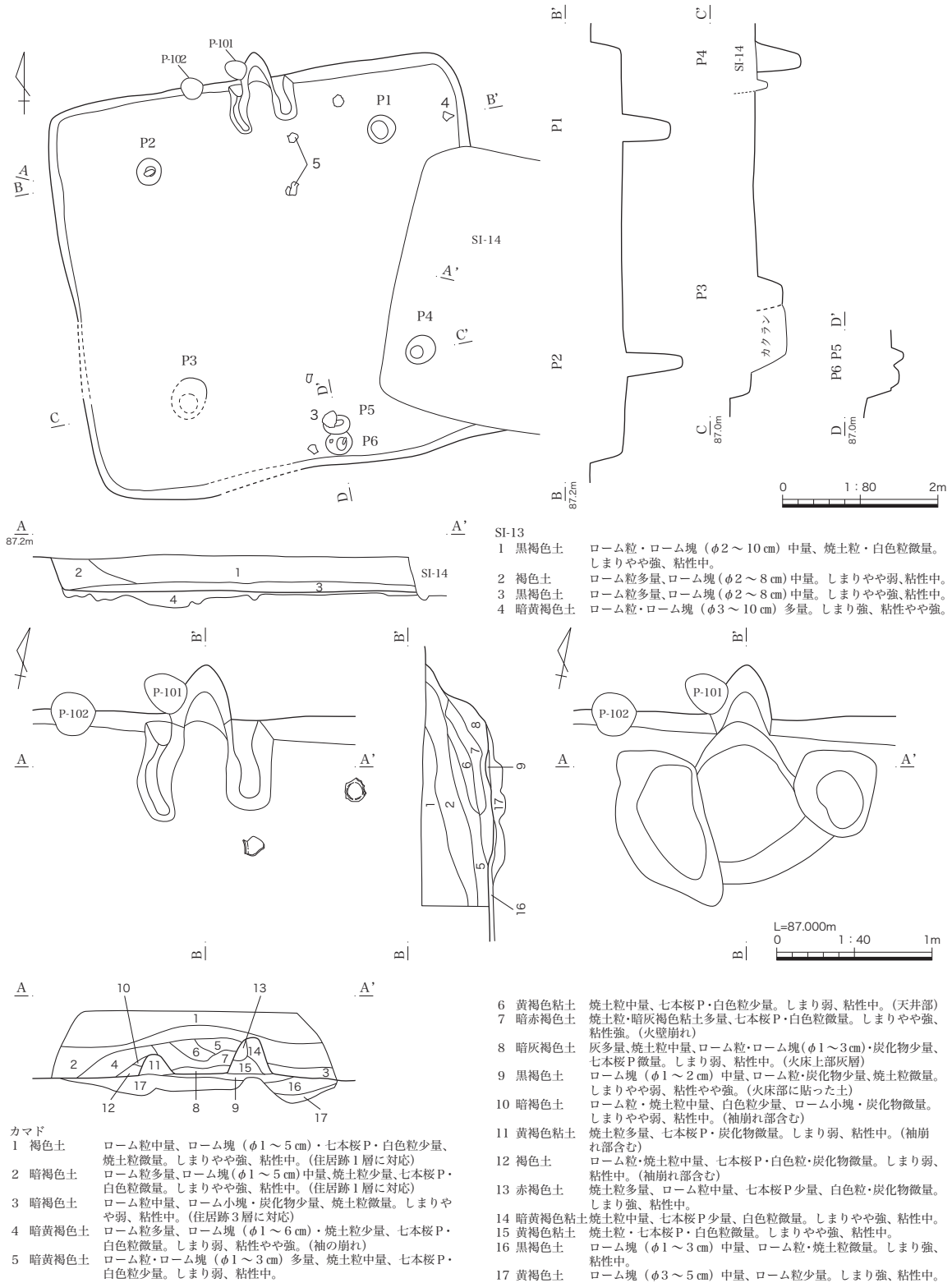
10	土師器 坏	口 高	16.0 3.9	口縁部内外面ヨコナデのちへラミガキ。体部内面へラミガキ。体部外面磨滅のため不明瞭だがへラケズリのちへラミガキか。内外面漆仕上げ。	内：10YR3/1 黒褐 外：10YR5/3 黄褐	やや粗い、白・灰粗砂～礫 焼成：やや軟質	No.10 床直	口縁部 1/2、底部 完存
11	土師器 坏	口 高	13.6 3.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面疎らな放射状へラミガキ。体部外面へラケズリのち上半部へラナデ。口縁部外面～内面漆仕上げ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・黒・灰細砂～砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.61 15.9	口縁部～体 部 2/3
12	土師器 高坏	口 高	13.5 [4.7]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面雑な多方向へラミガキ。体部外面へラケズリ。脚部との接合部はナデか。	内：7.5YR6/3 にぶい褐 外：10YR6/3 にぶい黄橙	やや緻密、黒・灰・白砂、白・黒・灰細砂、赤粒 焼成：やや軟質	K26 床直	坏部 2/3、 脚部欠損
13	土師器 鉢	口 残	(19.7) [8.2]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面一部へラケズリのちへラナデ。胴部外面へラケズリのちナメへラナデ。内外面漆仕上げ。	内：7.5YR7/4 にぶい橙 外：7.5YR7/3 にぶい橙	やや緻密、黒・白灰砂、白・灰細砂、黒・白礫、赤粒 焼成：やや硬質	No.6 床直	口縁部～体 部 1/3
14	土師器 甕	口 高	(25.2) [8.3]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテへラケズリか。胴部内面へラナデか。いずれも磨滅著しく不明瞭。	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR7/8 黄橙	やや緻密、白・灰・黒細砂～砂 焼成：やや硬質	No.64・ K31・K33・ K39・K44・ K46・K63 3.1 (No.64)	口縁部 1/3、胴部 上半 1/2
15	須恵器 甕	口 高	(13.4) [5.2]	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部～胴部上半タテへラケズリ。胴部内面ヨコのへラナデ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや粗い、黒・灰・透明細砂～粗砂 焼成：硬質	覆土中	胴部上半一 部
16	土師器 甕	口 高	16.6 [5.6]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面へラナデ。胴部外面へラナデのち一部へラミガキか。器台として再利用したと考える。	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR6/6 橙	やや緻密、黒・白・透明細砂～砂、黒・白礫、赤粒 焼成：やや硬質	No.8・9 床直 (No.8)	口縁部～頸 部ほぼ完存
17	土師器 甕	口 高 底	(18.8) [13.0] 6.5	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面疎らなタテへラナデ。胴部外面へラナデ。底部内面一方向の雑な沈線状の調整のち内面から円形の棒状工具で穿孔。底部外面ナデ。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密、白・灰・黒細砂～砂、赤粒 焼成：やや硬質	No.23、79 1.4 (No. 79)	口縁部 1/6、底部 完存
18	石器 編物石	長 幅 厚 重	[19.6] 8.0 7.1 [1777.0]	表面中央部に帯状に黒色物付着（ススカ）。 平面形：隅丸長方形 断面形：隅丸方形	10YR6/4 にぶい黄橙	—	No.7 床直	部欠
19	土製品 土玉	孔 径 厚	0.2 1.1 1.0	球状の粘土塊に穿孔。表裏面とも孔の周辺は剥離・磨滅している。黒色処理または漆仕上げか。	5YR2/1 黒褐	黒微粒砂 焼成：やや硬質	K51 床直	ほぼ完存
20	鉄製品 刀子	長 幅 厚 重	2.0 1.3 0.2 1.6	平造りで棟幅は 2.0 mm ほど。切先・関の形状は不明。	—	鉄製品	No.52 11.9	部分残存

9区 SI-13 (遺構：第 280 図、遺物：第 279 図、図版四三)

位置 グリッド 55.0-96.0・55.0-96.5 重複遺構 SI-14、P-101・102 と重複し、本遺構が最も古い。平面形 隅丸方形 規模 東西 5.4×南北 5.2 m 主軸方向 N-9°-W 覆土 自然堆積と考えられる。壁 壁高 29～42 cm 床 全面的に貼床。概ね平坦である。柱穴 P1 (径 36 cm、深さ 62 cm)、P2 (径 34～31 cm、深さ 72 cm)、P3 (推定径 45～50 cm、深さ 33 cm)、P4 (径 40～35 cm、深さ 56 cm) の 4 本主柱。入口ピット P5 (径 34～28 cm、深さ 16 cm)、P6 (径 34 cm、深さ 10 cm) に 2 基が縦に並ぶ。貯蔵穴・壁溝 確認されなかった。掘方 若干の凹凸をもつ。カマド 北壁中央部に位置し、壁を船首状に掘り込む。煙道は途中で段をもち立ち上がる。燃焼部床下は浅い皿状の掘方が確認された。本体は黄褐色粘土で構築される。遺物 1 は内外面に入念な磨きを施す小形の坏。4 は胴下半部を欠損するが、床面付近から



第 279 図 西刑部西原遺跡 9 区 SI-13 出土遺物



第280図 西刑部西原遺跡9区 SI-13 実測図

第3章 発見された遺構と遺物

出土した小型の甎である。不掲載遺物は土師器環甕類の小破片が小コンテナ箱 1/4 程度、不掲載の礫も 100 g と極めて少ない。遺物から古墳時代終末期（7世紀前半から中葉）の建物跡と考えられる。

第 123 表 9 区 SI-13 出土遺物観察表

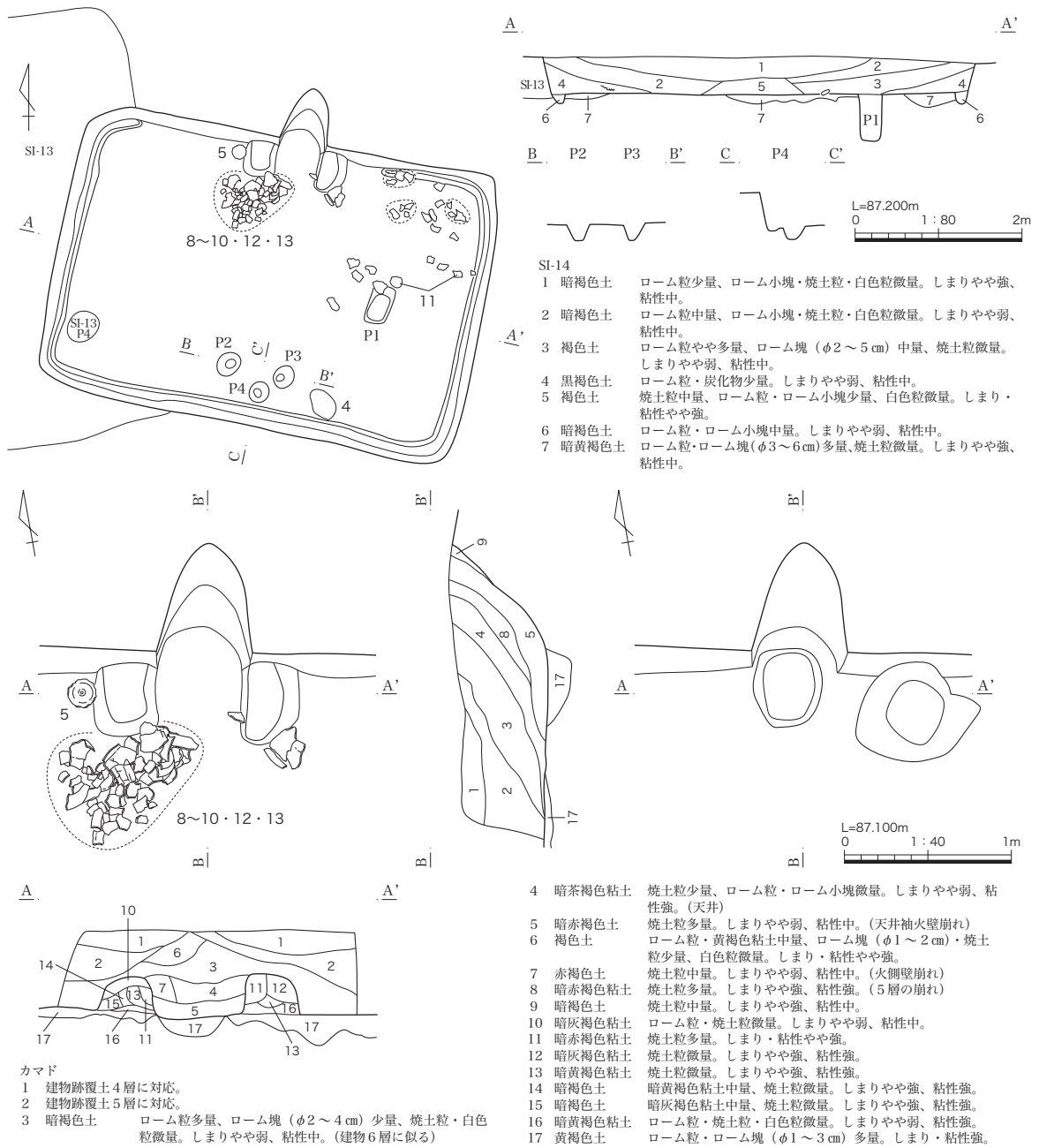
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	土師器環	口 (10.2) 高 [3.6]	口縁部外面ヨコナデのちヘラミガキ。体部外面ヨコヘラケズリのちヘラミガキ。口縁部～体部内面ヘラミガキ。	内外面とも 5YR6/8 橙	緻密、白粗砂～礫、赤粒 焼成：やや硬質	南	口縁部～体部 1/2
2	土師器環	口 (12.8) 残 [4.5]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。混入品。	内：7.5YR7/4 にぶい橙 外：7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・黒・灰細砂、黒砂、赤粒 焼成：やや硬質	南	口縁部～体部 1/4
3	土師器甕	長 10.8 幅 0.8	胴部外面タテハケ目調整のち下端部ヨコヘラケズリ。全体的に被熱赤化している。内面調整不明。	内：5YR8/4 淡橙 外：5YR5/6 明赤褐	やや粗い、白・黒粗砂～礫 焼成：やや硬質	No.6 0.6	胴部破片
4	土師器甎	口 (14.5) 高 [9.8]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ナデ。胴部外面ヘラナデ。	内外面とも 10YR7/6 明赤褐	やや緻密、灰・黒砂、灰・白・黒細砂 焼成：やや硬質	No.4 2.0	口縁部～胴部 1/6
5	土師器甕	口 (20.6) 高 [14.2] 径 (25.6)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面ヘラケズリ。外面大きな黒斑あり。	内：7.5YR2/1 黒 外：7.5Y6/6 橙	粗い、白・灰・黒粗砂～礫、赤粒 焼成：やや軟質	No.2・3 2.2 (No.3)	口縁部～胴部上半 2/5

9 区 SI-14 (遺構：第 281 図、遺物：第 282 図、図版四三・一〇二)

位置 グリッド 55.0-96.0・55.0-96.5 重複遺構 SI-13 と重複しこれより新しい。平面形 東西軸の隅丸長方形 規模 東西 5.1×南北 3.5 m 主軸方向 N -11° - E 覆土 自然堆積 壁 壁高 36～44 cm 床 一部貼床あるが、概ね平坦。ピット P1 (径 46～27 cm、深さ 56 cm) はこれに対応するピットがなく用途不明瞭。入口ピット P2 (径 31 cm、深さ 19 cm)、P3 (径 27 cm、深さ 21 cm)、P4 (径 25 cm、深さ 16 cm) の 3 基を確認。貯蔵穴 確認できなかった。壁溝 カマドを除く壁際を全周する。D1 (幅 15～20 cm、深さ 14 cm)。掘方 底面に浅い凹凸をもつ。カマド 北壁中央部を船首状に掘り込む。煙道は約 50° で立ち上がる。遺物 主にカマド前面から出土した。掲載物は須恵器環(1)・鉢か(2)・蓋(3・4)・大形の高環(5)、土師器甕(6・7 混入品)か。武蔵型の土師器甕(8～13)は 11 の台付甕を除き、カマド前面の床面直上から出土している。不掲載遺物は小コンテナ箱 1/3 で、殆どが武蔵型甕の小破片で、少量の須恵器環蓋破片が混入する。奈良時代後葉の建物跡と考えられる。

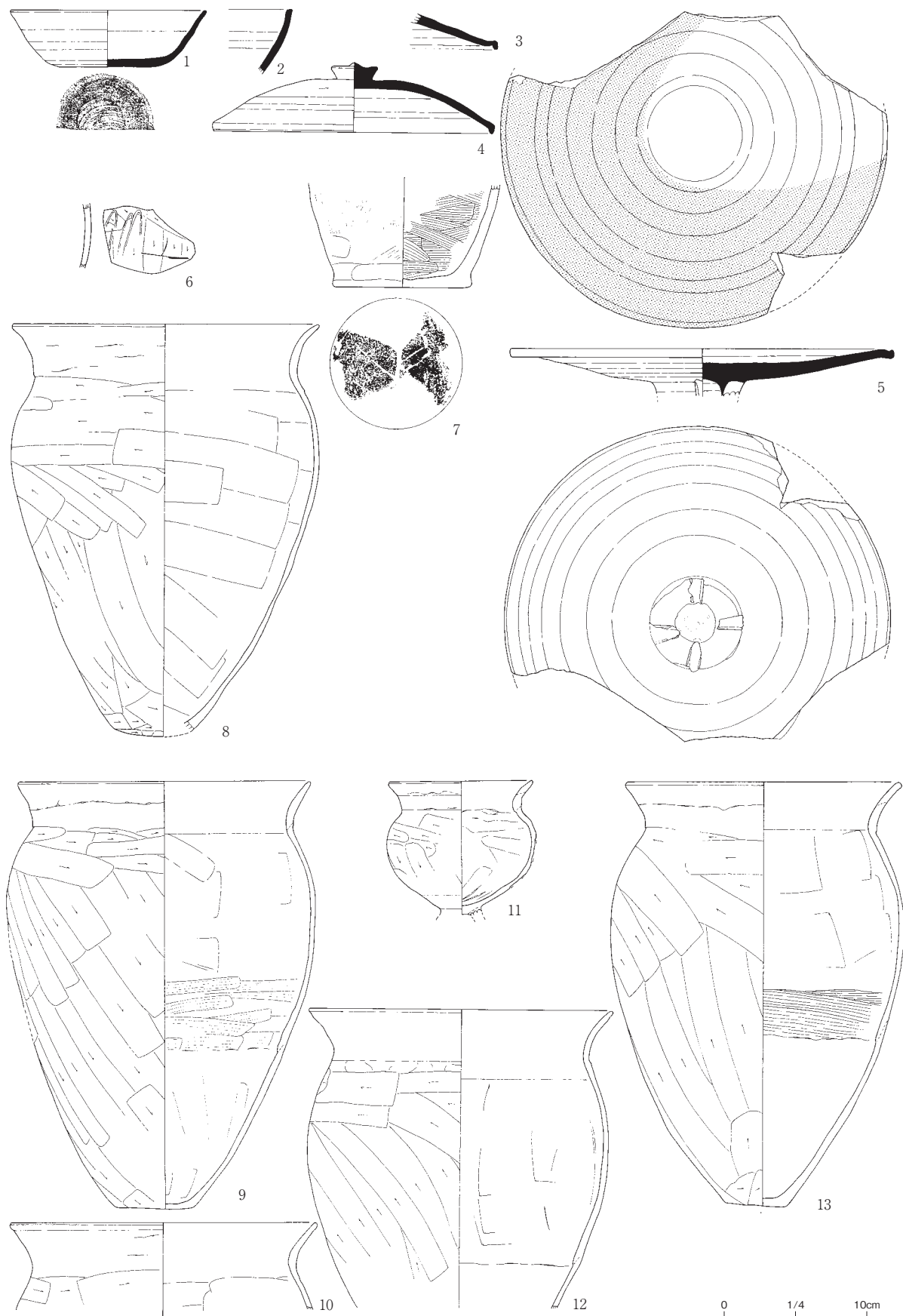
第 124 表 9 区 SI-14 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	須恵器環	口 (13.4) 底 6.7 高 3.9	ロクロナデのち底部外面外周を回転ヘラケズリ。底部外面回転糸切りのち周縁部回転ヘラケズリ。	内外面とも 5Y6/2 灰オリーブ	やや緻密、白粗砂 焼成：硬質	南半	口縁部 3/8、 底部 1/2
2	須恵器鉢か	高 [6.4]	銅境横俵の須恵器か。内外面ロクロナデ。丸みをもって立ち上がる。口縁部は平坦面をもつ。	内外面とも 5Y5/1 灰	やや緻密、白粗砂～礫、 黒色のシミ状粒 焼成：硬質	北	口縁部 1/10
3	須恵器蓋	高 [2.3]	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリ。	内外面とも 2.5Y5/1 黄灰	やや緻密、白・灰細砂 焼成：硬質	A-A' ベルト	口縁部破片
4	須恵器蓋	口 (19.2) 高 [4.9] ツ 3.3	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリのちツツミ貼付。ツツミは宝珠状。	内：5Y5/1 灰 外：5Y4/1 灰	やや緻密、白・黒粗砂、 白礫 焼成：硬質	No.5、南半 ピット一括 6.1	口縁部 1/8、 天井部完存、 底部 1/4
5	須恵器高環	口 26.6 高 [3.5]	環部ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリ。脚部貼り付けのち内外面ロクロナデ。脚部の透かしは長方形状。先に縦の切り込みを入れた。内部を削り取っている。	内外面とも N6/0 灰	やや緻密、白・灰細砂、白・ 灰・黒砂、白・灰礫 焼成：やや硬質	No.1 8.3	口縁部 1/2、 体部 2/3、 胴部欠損
6	土師器小型甕	高 [4.4]	胴部外面タテヘラケズリのちナメヘラケズリ。内面調整磨滅のため不明。胴部外面の黒色線は墨書と考えられるが、文字か絵画かは不明。	内：10YR8/4 浅黄橙 外：7.5YR6/6 橙	やや緻密、透明細砂、赤 色粒 焼成：軟質	A-A' ベルト	胴部破片
7	土師器甕	底 9.2 高 [7.6]	胴部外面タテハケ目。下端部ナデ(指ナデ)。胴部～底部内面ヨコまたはナメのハケ目。底部外面木葉痕。	内：5YR4/3 にぶい赤褐 外：5YR2/1 黒褐	粗い、白・灰・透明粗砂～礫 焼成：軟質	北区、 SI-13 No.4	底部～胴下 半部 1/2
8	土師器甕	口 21.0 底 (5.4) 高 28.8	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面下半部タテ・胴部中位ナメ・胴部上位ヨコヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。底部外面多方向ヘラケズリ。口縁部及び胴部外面の一部に黒色物(ススカ)付着。	内：5YR6/8 橙 外：5YR5/6 明赤褐	やや緻密、白・灰・黒細砂 焼成：やや軟質	No.4、北、 カマド 床直	胴上半部ほ ぼ完存



第 281 図 西刑部西原遺跡9区 SI-14 実測図

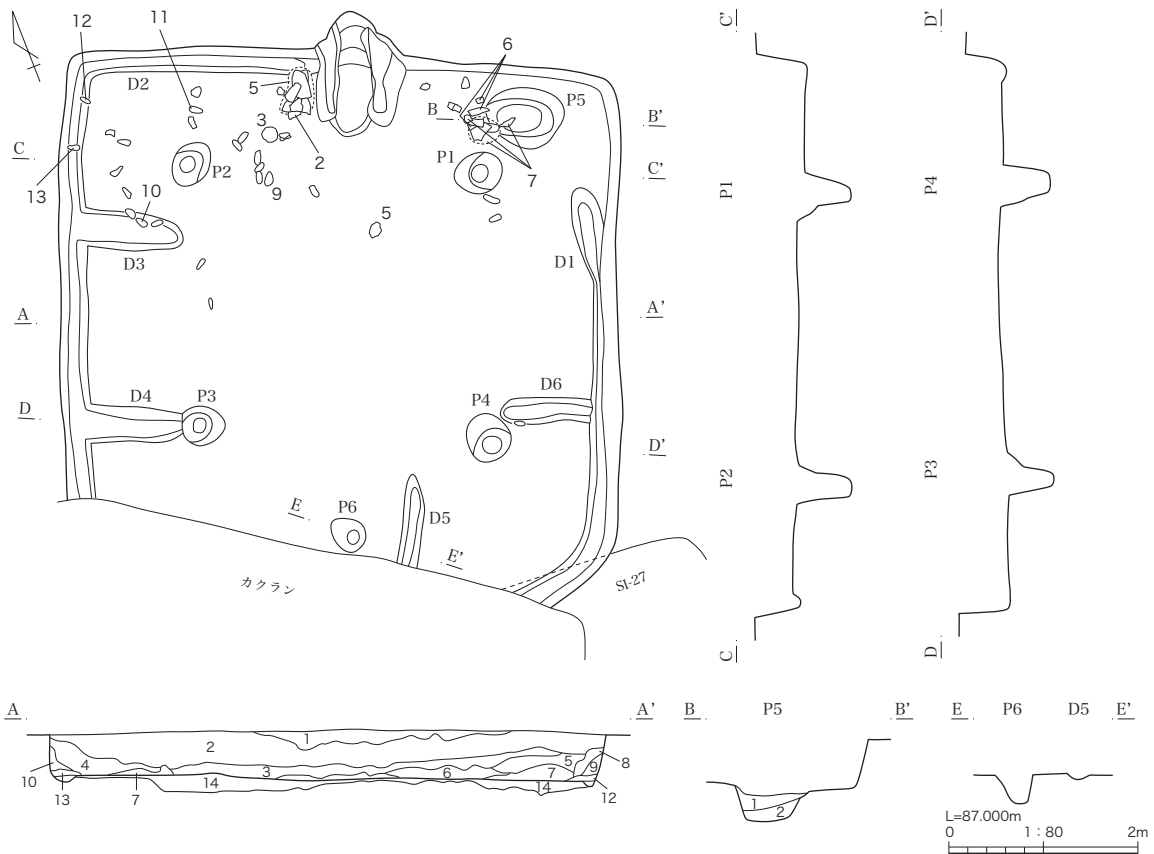
9	土師器 甕	口 20.0 底 5.5 高 30.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナナメヘラケズリ。胴部上端はヨコヘラケズリ。底部外面一方向ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。内面接合部付近ハケ調整。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密、白・灰・黒細砂～砂、灰礫 焼成：やや硬質	No.4 床直	口縁部 1/12、底部 完存
10	土師器 甕	口 21.1 高 [5.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半部ヨコヘラケズリ。胴部内面ヨコヘラナデ。	内外面とも 5YR5/8 明赤褐	やや緻密、白・灰・黒細砂～砂、雲母 焼成：やや硬質	No.4 床直	口縁部～胴 部 2/3
11	土師器 小型台 付甕	口 (10.0) 高 [9.4]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半はナナメヘラケズリ、下半部はタテヘラケズリ。脚部貼付のち内外面ヨコナデ。胴部外面被熱のため剥落・赤変が顕著。器面に炭化物付着。	内：5YR5/6 明赤褐 外：5YR4/6 赤褐	やや粗い、白・灰細砂～粗砂 焼成：やや軟質	No.21・22 18.3	口縁部～胴 部 1/3、脚 部欠損
12	土師器 甕	口 21.1 高 [21.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半ヨコヘラケズリ。下半部ナナメヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面中～下位若干の粘土付着。部分的に黒色物(ススカ)付着。	内：2.5YR5/6 明赤褐 外：5YR5/6 明赤褐	やや緻密、白・灰細砂 焼成：やや軟質	No.4 床直	口縁部～胴 部上半完存
13	土師器 甕	口 19.0 底 4.2 高 29.8	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナナメヘラケズリ。胴部外面上端部はヨコヘラケズリ。底部外面一方向ヘラケズリ。下半部の被熱は顕著。内外面に若干の剥離あり。胴部外面炭化物及び粘土付着。	内：5YR5/6 明赤褐 外：5YR5/8 明赤褐	やや緻密、白・灰・黒細砂 焼成：やや軟質	No.4 床直	口縁部 1/2、底部 完存、胴部 中位 2/3



第282図 西刑部西原遺跡9区 SI-14 出土遺物

9区 SI-15 (遺構：第283・284図、遺物：第285図、図版四三・一〇二・一〇三)

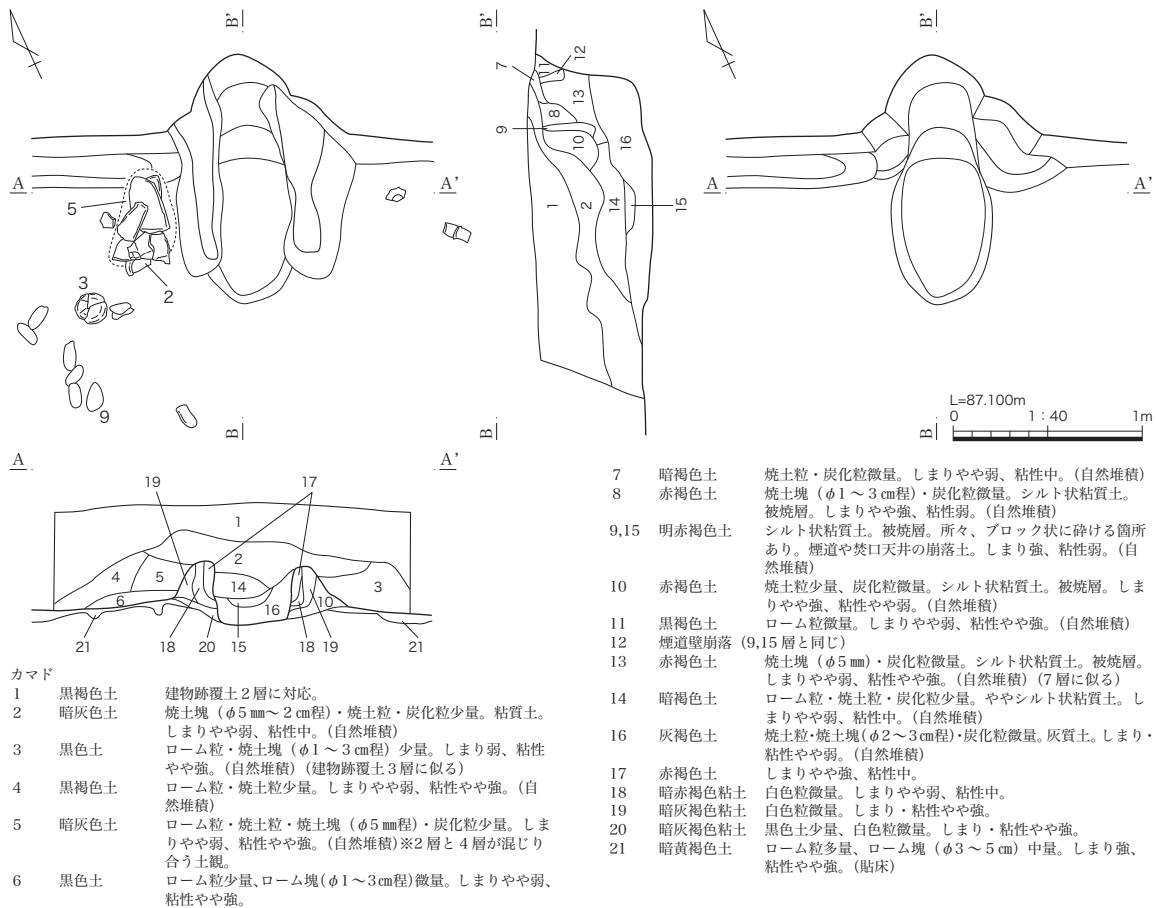
位置 グリッド 55.5-96・55.5-95.5 重複遺構 SI-27、SD-28 に切られる。 平面形 南東隅が特に丸みをもつ不整な方形。 規模 東西 5.9×南北 5.6 m以上 主軸方向 N-22° - E 覆土 自然堆積 壁 壁高 43～53 cm 床 ほぼ全面が貼床。 柱穴 P1 (径 51～43 cm、深さ 58 cm)、P2 (径 52～40 cm、深さ 60 cm)、P3 (径 45 cm、深さ 50 cm)、P4 (径 50～45 cm、深さ 53 cm) の4本主柱。 入口ピット P6 (径 40～33 cm、深さ 31 cm) は南壁際に位置する。 貯蔵穴 P5 (長軸 82×短軸 64 cm、深さ 41 cm) は長方形を呈し北東隅に位置する。 壁溝 D1 (幅 14～21 cm、深さ 5.3 cm) は東壁際、D2 (幅 21～25 cm、深さ 8 cm) は西壁から北壁西半部に見られる。 間仕切り溝 D3 (長さ 110 cm、幅 30～41 cm、深さ 12 cm)、D4 (長さ 102 cm、幅 32～38 cm、深さ 9 cm)、D5 (長さ 108 cm、幅 17～21 cm、深さ 5 cm)、は壁際から東西軸で掘られるが、D6 (長さ 100 cm、幅 23～28 cm、深さ 10 cm) のみ南北軸である。 掘方 細かな凹凸をもつ。ローム塊を含む 14 層で埋戻している。 カマド 北壁中央部に位置し、壁面を凸字状に掘り込む。



SI-15		P5	
1 暗黄褐色土	ローム粒中量、ローム塊 (φ5 mm程) 微量。しまりやや弱、粘性中。(自然堆積)	1 黒褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ5 mm～3 cm程)・焼土粒 (φ1 cm程) 少量。しまりやや弱、粘性中。(自然堆積)
2 暗褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ5 mm程) 微量。しまりやや弱、粘性中。(自然堆積)	2 暗褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ5 mm程) 少量。しまりやや弱、粘性やや強。(自然堆積)
3 黒褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ1～3 cm程) 微量。やや粘質土。しまりやや弱、粘性やや強。(自然堆積)		
4 褐色土	ローム粒少量、ローム塊 (φ1～3 cm程) 微量。しまりやや弱、粘性中。(自然堆積)		
5 暗黄褐色土	ローム粒中量。しまりやや弱・粘性中。(自然堆積)		
6 暗褐色土	ローム粒微量。しまりやや弱、粘性中。(自然堆積)		
7 暗黄褐色土	ローム粒中量、ローム塊 (φ1～3 cm程)・焼土粒微量。しまりやや弱、粘性中。(自然堆積)		
8 黒色土	ローム粒微量。しまりやや弱、粘性やや強。(自然堆積)		
9 茶褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ1～3 cm程) 少量。しまりやや弱、粘性やや強。(自然堆積)		
10 暗褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ1～3 cm程) 少量。しまりやや弱、粘性やや強。(自然堆積)		
11 暗黄褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ1～3 cm程) 中量。しまり・粘性やや強。(自然堆積)		
12 暗褐色土	ローム粒少量、ローム塊 (φ1 cm程) 微量。しまりやや弱・粘性中。(自然堆積)		
13 黒褐色土	ローム粒少量、ローム塊 (φ1 cm程) 微量。しまりやや弱・粘性やや強。(自然堆積)		
14 暗褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ5 mm～15 cm程) 少量を、黒色土に混入。しまり・粘性やや強。(人為的)		

第283図 西刑部西原遺跡9区 SI-15実測図(1)

遺物 遺物はカマド前面及び貯蔵穴付近から多く出土する。掲載遺物は土師器環（1～3）・鉢（4）・甕（5～7）で、このうち2・3・5はカマド西側の床面付近の遺物である。7は胴下半部を欠損するハケ調整甕。貯蔵穴付近から出土した。編物石はカマド西側から北西隅にかけて多く出土している。不掲載の土器類は殆どが土師器環甕類の小破片で、小コンテナ3/5箱程度。礫は6.4kg出土した。遺物から古墳時代終末期（7世紀前半～中葉）の建物跡と考えられる。



第284図 西刑部西原遺跡9区 SI-15 実測図（2）

第125表 9区 SI-15 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器環	口 12.8-13.7 高 4.4	体部内面～口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヨコヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内：10YR5/4 にぶい黄橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	緻密、白細砂 焼成：硬質	貯蔵穴	ほぼ完存
2	土師器環	口 11.8 高 4.7	体部内面～口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ一部指頭押圧。内外面漆仕上げ。	内外面とも 10YR8/4 浅黄橙	緻密、白微粒 焼成：硬質	No. 17 2.1	口縁部1/2、体部～底部2/3
3	土師器環	口 11.5 高 4.0	内面～口縁部外面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。内面黒色処理か。漆仕上げ。	内外面とも 10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、白・灰細砂、白・灰・黒砂、赤色粒少量 焼成：やや硬質	No. 13 1.1	完存
4	土師器鉢	口 13.2 高 9.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部内面ヘラナデ。体部外面タテヘラケズリ。底部外面磨滅のため不明瞭。内面黒色処理か。体部外面～内面にかけ部分的に漆残る。全体的に磨滅・風化。	内：10YR5/2 灰黄褐 外：10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、白・灰・黒細砂～砂 焼成：やや硬質	No. 10 床直	口縁部1/2、体部2/3
5	土師器甕	口 18.0 高 [24.7]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面下半部ナメヘラナデ、上半部ヨコヘラナデ。全体的に被熱顕著。上半部は黒色付着物(炭か)が多い。	内外面とも 2.5YR4/6 赤褐	やや粗い、白・黒細砂～礫 焼成：軟質	No. 11 0.6	胴部上半部～中半部4/5
6	土師器甕	底 高 (6.6) [24.1]	胴部外面タテの幅の狭いタテヘラケズリ。下端部ナメの強いヘラナデ。胴部内面ヨコヘラナデ。一部指ナデ残る。底部外面ヘラケズリのち周辺ナデ。	内：10YR4/1 褐灰 外：7.5YR6/4 にぶい橙	やや粗い、白・灰粗砂～礫 焼成：やや軟質	No. 1・3・5・7、覆土中 10.6 (No. 7)	胴部～底部1/2

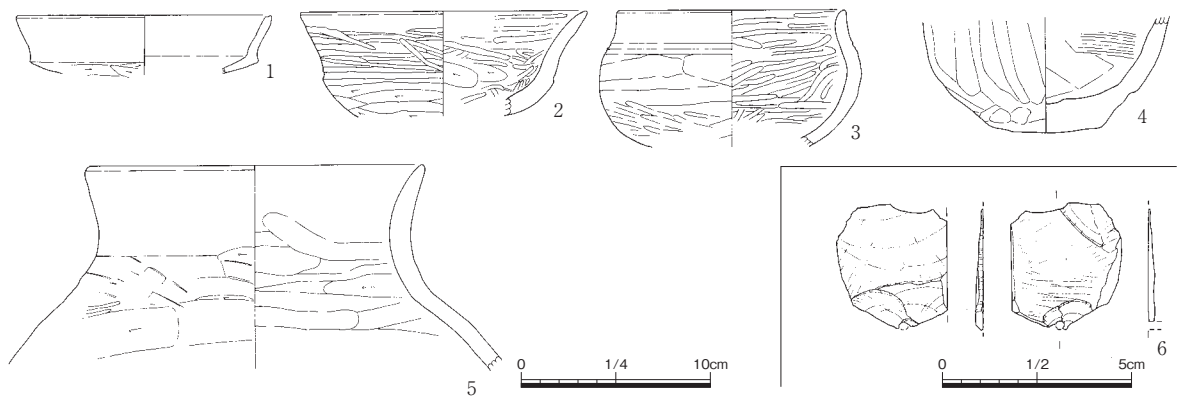
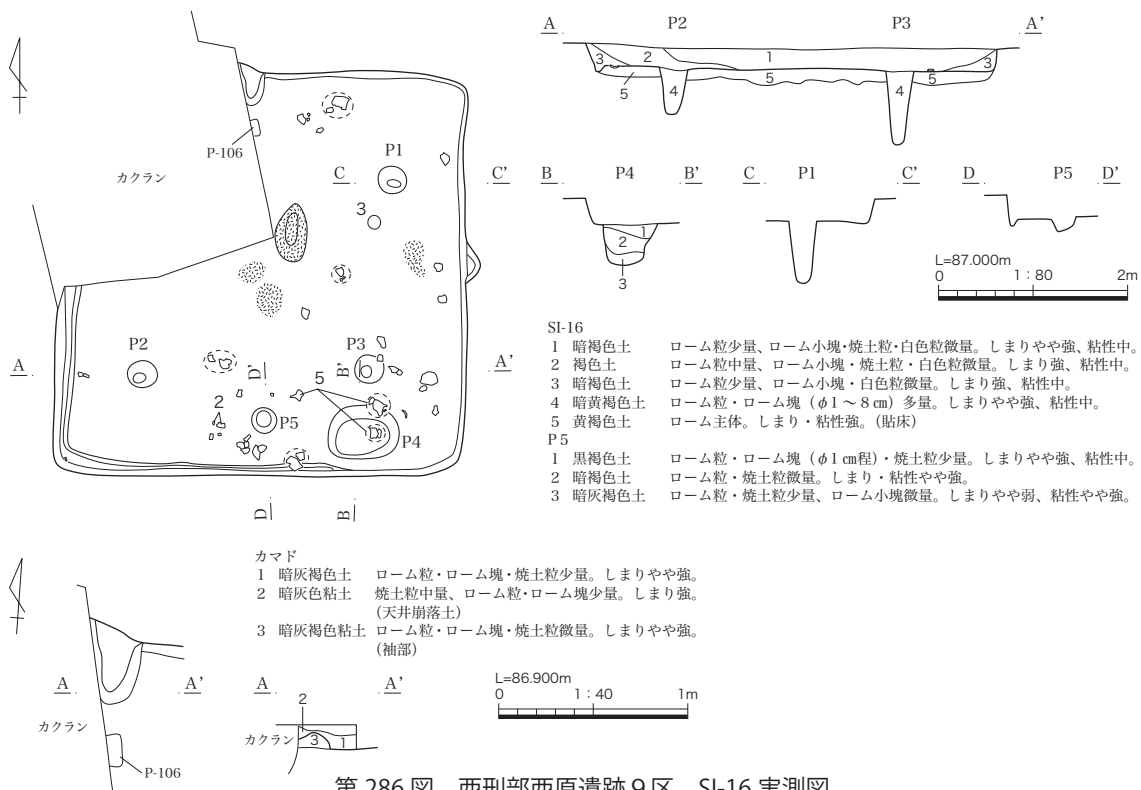


第 285 図 西刑部西原遺跡 9 区 SI-15 出土遺物

7	土師器 甕	口高 (20.2) [15.2]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテハケ目調整。胴部内面ヨコヘラナデ。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	やや粗い、白・灰粗砂～礫 焼成：やや軟質	No. 1・2・4、 覆土中 9.7 (No. 4)	口縁部 1/2
8	須恵器 瓶類	高 6.3	内外面ロクロナデ。胴部内面一部指頭押圧残る。混入品。	内：2.5Y6/2 灰黄 外：5Y5/1 灰	やや緻密、黒細砂～礫、 白粗砂、黒色カビ状粒 焼成：硬質	覆土中	胴下端部 1/4
9	石器 編物石	長 13.3 幅 [6.0] 厚 2.7 重 [341.0]	側縁の一部を打ち欠いている。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	5Y6/2 灰オリーブ	—	No. 24 1.8	部欠
10	石器 編物石	長 12.6 幅 [6.1] 厚 2.6 重 [331.0]	一側縁中央部を表裏両面から打ち欠いている。 平面形：不整形 断面形：不整形	5GY7/1 明オリーブ灰	—	No. 36 9.9	部欠
11	石器 編物石	長 12.2 幅 [6.0] 厚 3.7 重 [407.0]	左側縁部のみ裏面から数回剥離したのち敲打を施す。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	2.5Y8/3 淡黄	—	No. 30 3.4	部欠
12	石器 編物石	長 12.5 幅 5.3 厚 2.8 重 255.0	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	10YR5/3 にぶい黄橙	—	No. 40 2.8	ほぼ完存
13	石器 編物石	長 11.5 幅 4.7 厚 2.2 重 248.0	未加工の自然礫。 平面形：不整な長方形 断面形：隅丸長方形	2.5GY5/1 オリーブ灰	—	No. 32 9.6	ほぼ完存

9区 SI-16 (遺構：第286図、遺物：第287図、図版四四・一〇三)

位置 グリッド 55.5-96.5・55.5-97.0 重複遺構 P-106 に切られる。平面形 北西隅が攪乱されるが、ほぼ正方形か。規模 東西 4.3×南北 4.25 m 主軸方向 ほぼ真北 覆土 自然堆積 壁 壁高 22～27 cm 床 全面が貼床だが、概ね平坦。柱穴 P1 (径約 30 cm、深さ 67 cm)、P2 (径 30 cm、深さ 52 cm)、P3 (径 32 cm、深さ 78 cm) の 3 本が残る。入口ピット P5 (径 26 cm、深さ 15 cm) は南壁際中央部にあり。貯蔵穴 P4 (長軸 74～短軸 56 cm、深さ 45 cm) は南東隅にあり、隅丸方形に近い。壁溝 D1 (幅 5～16 cm、深さ 6.3 cm) は極めて浅く、西壁～南壁 3/4 の範囲で壁際を巡る。掘方 底面に若干の凹凸あり、ローム土主体の 5 層で埋戻す。カマド 北壁中央部やや西寄りに、袖の一部が残るのみで全形は不明。中央部には楕円形の浅い皿状の凹みあり。焼土が見られ、炉の可能性が高い。遺物 比較的南部に集中する。また覆土中には大形の自然礫もふくまれていた。2 は内外面を入念に磨く土師器坯、3 は床面直上出土の土



師器鉢。4・5は土師器甕、6は粘板岩製の剥片。石製模造品の破片か。不掲載の土器類はすべて土師器片で、小コンテナ箱約1/5と少ない。古墳時代後期前葉の建物か。

第126表 9区 SI-16 出土遺物観察表

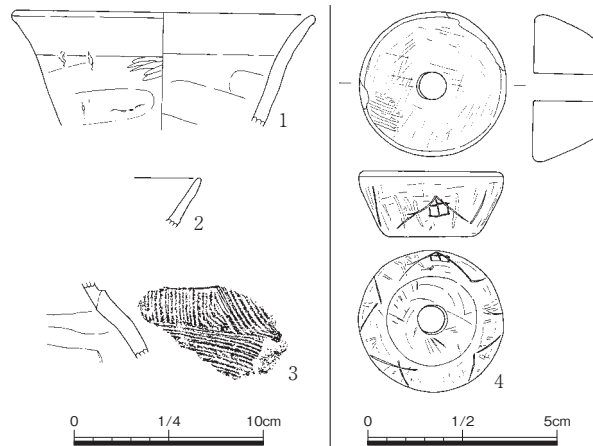
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	土師器 坏	口 (13.2) 高 [2.8]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。外面に黒色の付着物あり。炭化物か。混入品か。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	やや緻密、白細砂 焼成：やや硬質	北、南	口縁部～体部 1/6
2	土師器 坏	口 14.8 高 [5.5]	体部内面ヘラミガキ。口縁部内外面ヨコナデのちヘラミガキ。体部外面ヨコヘラケズリ。ミガキ太くやや雑で不定方向。内外面漆仕上げ。	内：5YR6/8 橙 外：5YR7/8 橙	緻密、白細砂 焼成：やや硬質	No.10、南、北、貯蔵穴、カマド 6.2	口縁部～体部 3/4
3	土師器 鉢	口 11.6 高 [7.2]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラナデのち雑なヘラミガキ。体部内面不定方向のヘラミガキ。内外面漆仕上げ。器面の磨滅風化が著しく調整不明瞭。	内：5YR6/8 橙 外：5YR6/6 橙	やや緻密、白細砂、赤色粒 焼成：やや硬質	No.1 床直	底部 2/3 欠損
4	土師器 小型甕	底 5.8 高 6.0	胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。底部外面ナデか。器面の磨滅著しく調整は不明瞭。被熱のため赤化し脆い。	内外面とも 5YR6/8 橙	緻密、白細砂、赤色粒 焼成：やや軟質	貯蔵穴	胴部下半～底部完存
5	土師器 甕	口 17.5 高 [10.4]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヨコヘラケズリのちヘラナデのちヘラミガキ。胴部内面ヘラナデ。外面は特に風化（磨滅）顕著で不明瞭。	内：7.5YR6/6 橙 外：7.5YR6/4 にぶい橙	やや緻密、白・灰・黒細砂～砂、赤色粒 焼成：やや硬質	No.17・18・19、北、南 床直 (No.19)	口縁部 1/3
6	石製模 造品 石板	長 [3.3] 幅 [2.9] 厚 [0.2] 重 [2.4]	粘板岩製の石製模造品。薄く剥がれた剥片のため全形は不明。孔（約直径2mm）が貫通しており、側面は直線的。表面は多方向からの擦痕、側面は短軸方向に擦痕がみられる。	10Y4/1 灰	粘板岩	不明	部残

9区 SI-17（遺構：第289図、遺物：第288図、図版四四・一〇三）

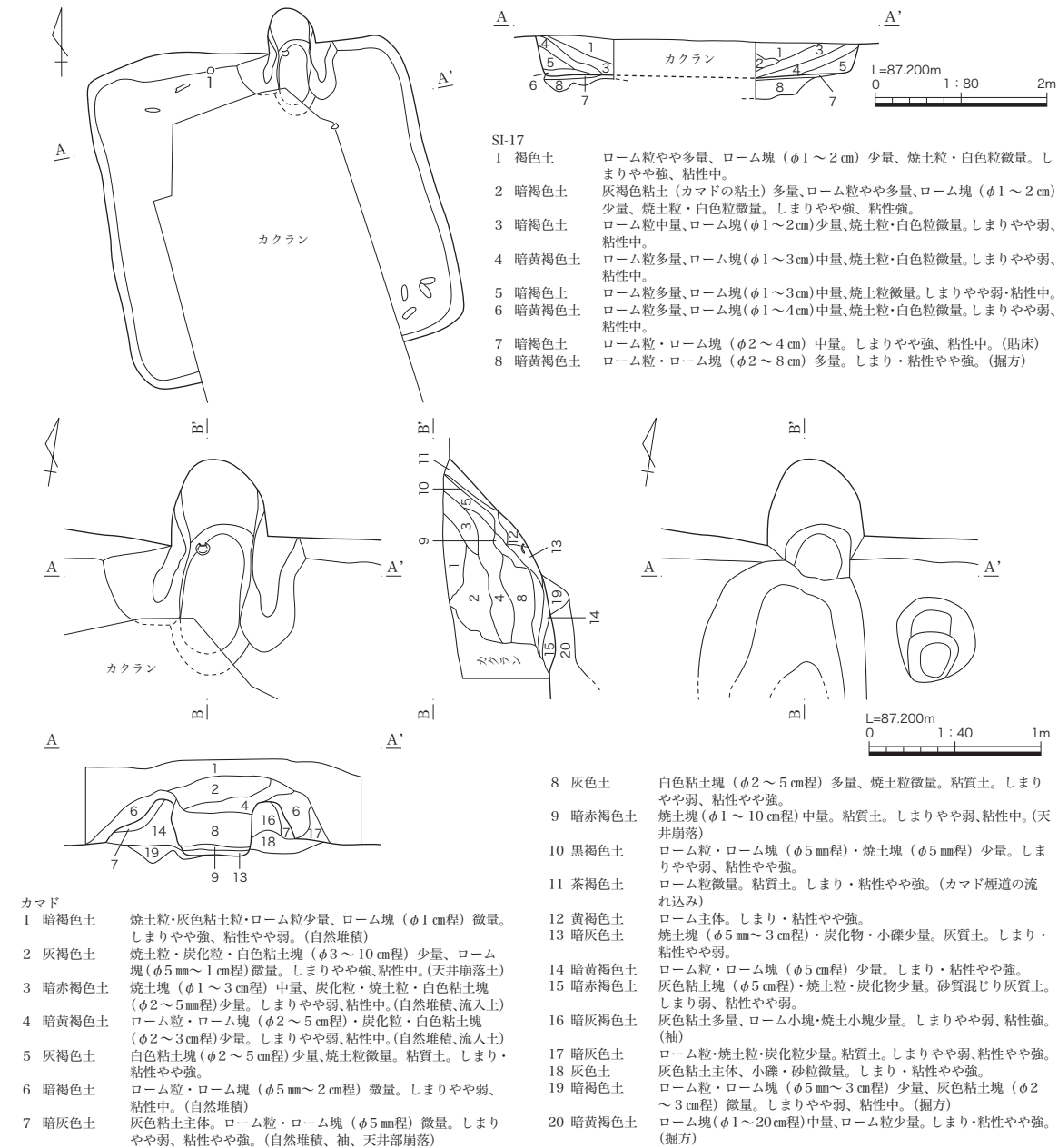
位置 グリッド 55.0-97.0・55.5-97.0 重複遺構 無し。 平面形 隅丸方形。中央部を大きく攪乱される。

規模 東西 3.8×南北 3.7 m 主軸方向 N-10° -W 覆土 レンズ状堆積が見られるため、自然堆積か。

壁 壁高 22～48cm 床 全面が貼床。若干の凹凸あり。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 全体的にやや凹凸を有し、最も深い場所で 20 cm 弱埋戻す。カマド 北壁やや東寄りの壁際を U 字形に掘り込む。煙道は約 43° で立ち上がる。袖及び天井は暗灰褐色粘土で構築している。火床面の焼土の堆積はやや薄い。遺物 土器類は非常に少なく、覆土中から土師器片が少量出土した他は石製紡錘車が出土したのみである。また図示しなかったが、建物跡北西部及び南東隅には編物石が出土している。1は小形の甑か。口縁部は外反し、胴部内外面はナデ成形。2は漆仕上げの土師器坏口縁部破片。3は胴の張るハケ調整の甕破片。4は完形の滑石製紡錘車。器面は入念に磨かれ光沢をもつが、擦痕も多く残る。側面には雑な鋸歯文が見られ、一部に文字状の線刻もあるが不明瞭である。不掲載の土器は小コンテナ箱 1/6 と少ない。帰属時期を推定できる遺物が少ないが、古墳時代後期の建物の可能性がある。



第288図 西刑部西原遺跡9区 SI-17 出土遺物



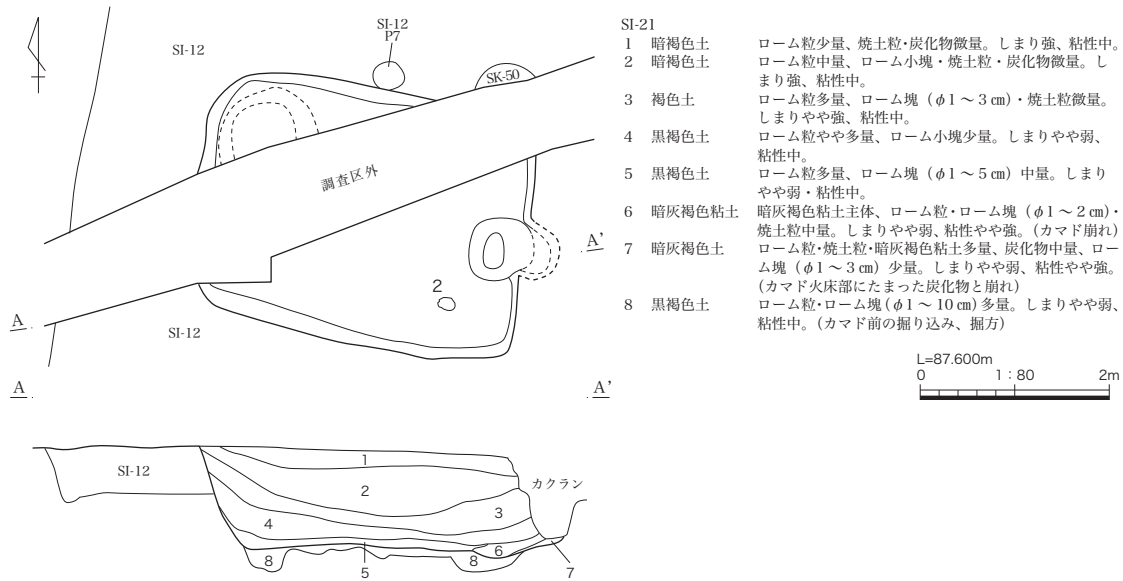
第 289 図 西刑部西原遺跡 9 区 SI-17 実測図

第 127 表 9 区 SI-17 出土遺物観察表

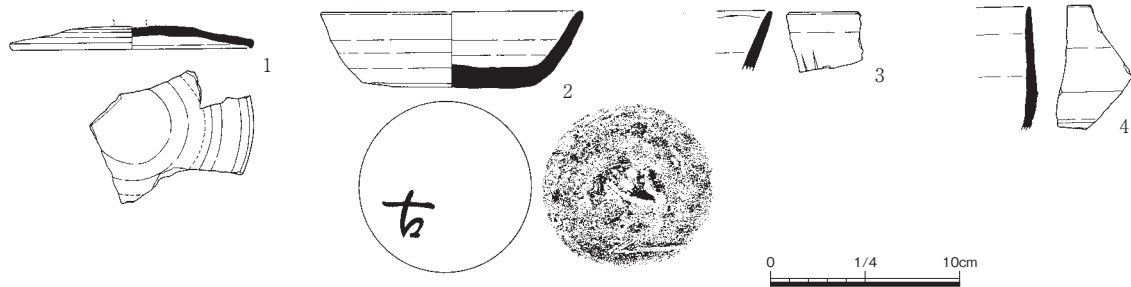
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成・石材	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 甌	口 [15.5] 高 [5.9]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面軽いナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部内面黒色味を帯びる。歪みが大きく、残存率も低いため復元径は参考値。	内：10YR8/3 浅黄橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、白・灰・黒細砂、灰・黒砂、赤色粒少量 焼成：やや硬質	南区	口縁部 1/4
2	土師器 坏	高 [2.3]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内：2.5Y2/1 黒 外：10YR8/4 浅黄橙	やや緻密、白細砂 焼成：やや硬質	南区	口縁部破片
3	土師器 甕	高 [4.8]	頸部外面ヨコナデ。胴部外面ハケ目。胴部内面ヘラナデ。被熱顕著。断面は紅色に赤変。球胴の甕か。	内：5YR5/6 明赤褐 外：5YR4/6 赤褐	やや粗い、白・灰・黒粗砂～礫 焼成：やや硬質	南区	頸部破片
4	石製品 紡錘車	長 3.8 厚 1.7 孔 0.7 重 40.6	全面を研磨し光沢を帯びるがノミ痕、擦痕が多く残る。側面に雑な鋸歯文及び、文字状の線刻あるが解読不明。	5Y3/1 オリーブ黒	滑石	No.3 6.0	完存

9区 SI-21 (遺構：第290図、遺物：第291図、図版四四・一〇三)

位置 グリッド 54.5-96.5 重複遺構 SI-12の中央部を掘り込み、これより新しい。平面形 隅丸長方形
規模 東西3.5×南北2.7m 主軸方向 N-12°-E 覆土 壁 壁高98～108cmと深い。床 貼床あり。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 土坑状の掘り込みが部分的に見られる。最深部は22cm、ローム粒主体の覆土で埋戻す。カマド 東壁中央部やや南寄りの壁際を半円形に掘り込む。但しカマド両袖は欠損しており、持ち去られた可能性が高い。遺物 遺物は少ないが、須恵器類を中心に図示した。1は小形の須恵器蓋。2の須恵器坏底部外面には墨書「古」あり。3は側面にヘラ記号あり。不掲載遺物は土器類が小コンテナ箱1/6。奈良～平安時代の建物跡と考えられる。



第290図 西刑部西原遺跡9区 SI-21 実測図



第291図 西刑部西原遺跡9区 SI-21 出土遺物

第128表 9区 SI-21 出土遺物観察表

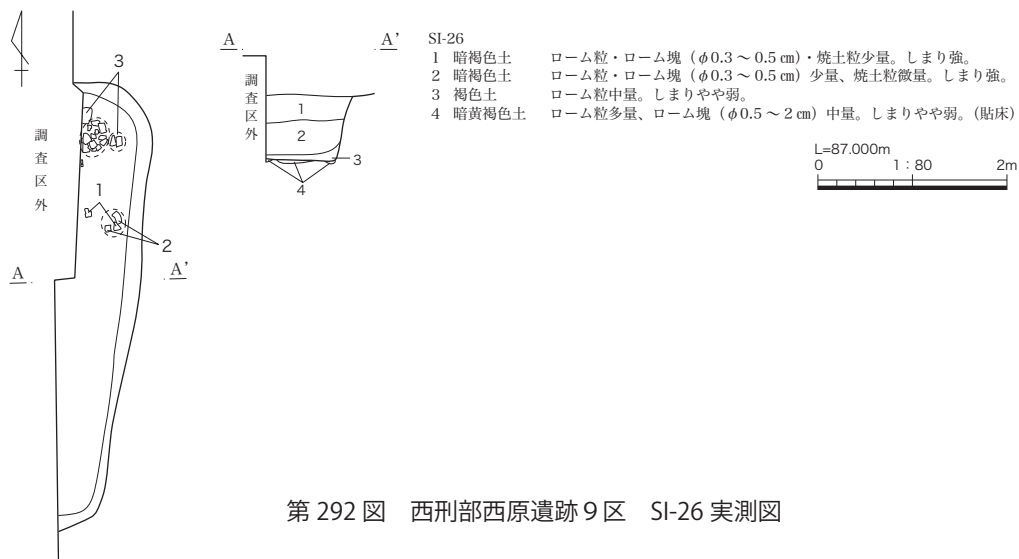
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器蓋(転用碗)	口 12.6 高 [1.2]	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリ。ツマミ部渦状の接合沈線あり。ツマミ部欠損するが、径は小さい。内面を硯に転用している。	内：2.5Y5/3 黄褐 外：2.5Y4/1 黄灰	やや粗い、白・灰細砂～粗砂 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部1/8、 体部1/4
2	須恵器坏	口 13.6 高 4.1 底 9.1	内外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。墨書「古」か。	2.5Y7/3 浅黄	やや粗い、白・灰粗砂～礫	No.24 5.2	口縁部1/2、 底部完存
3	須恵器鉢か	高 [0.5]	内外面ロクロナデ。口縁部内面に接合痕あり。外面にヘラ記号あり。	内外面とも 5Y6/1 灰	やや緻密、白・灰・黒細砂、黒・灰砂 焼成：やや硬質	西	口縁部破片
4	須恵器鉢か	高 [0.6]	金属器(銅碗)模倣の須恵器。内外面ロクロナデ。幅広い口縁部下端に明確な稜をもつ。	内：N5/0 灰 外：5Y5/1 灰	やや緻密、灰・白細砂、灰・白・黒砂 焼成：やや硬質	P1	口縁部～体部破片

9区 SI-26 (遺構：第292図、遺物：第293図、図版四四・四五・一〇三)

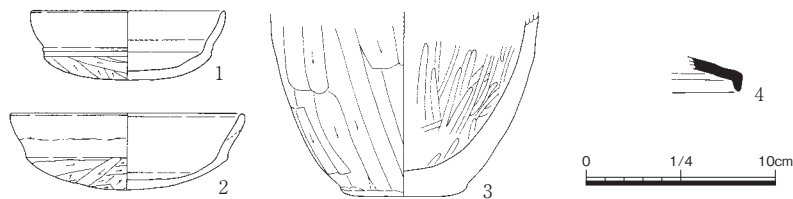
位置 グリッド 53.5-96.0 重複遺構 無し。 平面形 大部分が調査区外だが、隅丸方形或いは長方形か。

規模 東西0.9m以上×南北4.7m 主軸方向 N-12°-E (東壁のみで計測) 覆土 暗褐色土主体の3層からなり、自然堆積と考えられる。 壁 壁高60~73cm 床 極めて薄い貼床あり。概ね平坦である。

柱穴・入口ピット・貯蔵穴・カマド 確認できなかったが、調査区外に存在する可能性が高い。 掘方 底面に細かな凹凸あり、ローム粒を含む4層で埋戻す。 遺物 平面的には北東コーナー付近から多く出土し、このうち床面直上の遺物を中心に図示した。1・2は1/2程度の遺存度だが、径が小さく口縁部が幅広な特徴をもつ。3の土師器甕は口縁部を欠損するが、胴部から底部が残る。内面に磨きを施している。不掲載遺物は小コンテナ約1/2箱である。古墳時代終末期の建物跡と考えられる。



第292図 西刑部西原遺跡9区 SI-26 実測図



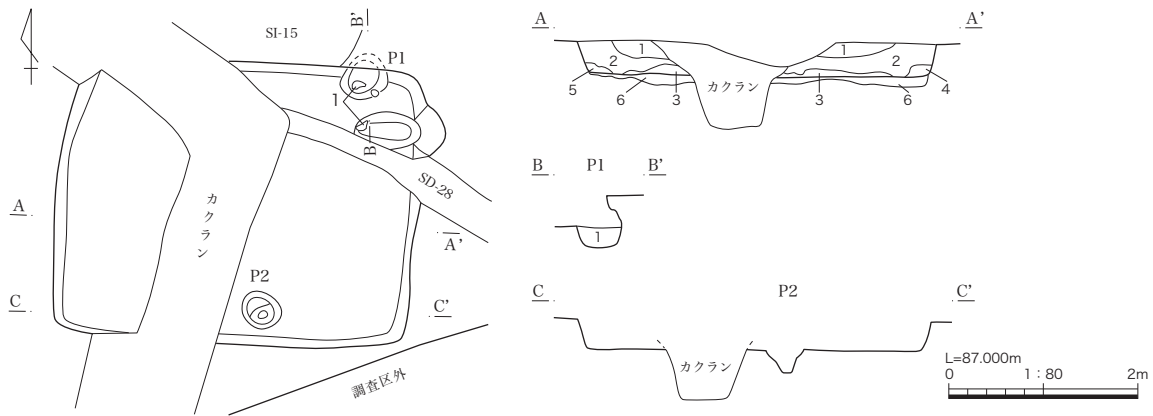
第293図 西刑部西原遺跡9区 SI-26 出土遺物

第129表 9区 SI-26 出土遺物観察表

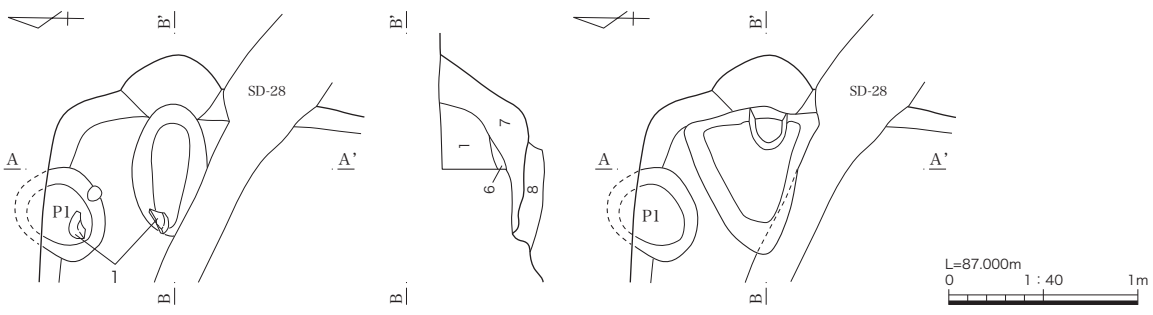
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 杯	口 (10.0) 高 3.6	内面~口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内：2.5Y3/1 黒褐 外：2.5Y4/1 黄灰	緻密、白・灰細砂 焼成：やや硬質	No.5・6 床直 (No.5・6)	口縁部~底部 1/2
2	土師器 杯	口 (12.2) 高 4.0	口縁部内外面ヨコナデ。接合痕あり。体部外面ヘラケズリ。底部内面ナデ。内外面漆仕上げ。	内：7.5YR6/6 橙 外：5YR6/8 橙	緻密、細砂、白色粒 焼成：やや硬質	No.5 床直	口縁部~体部 1/2
3	土師器 甕	底高 (6.6) [9.7]	胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヘラミガキ。底部外面一方向ヘラケズリ。内面黒色を呈する。	内：10YR4/1 褐灰 外：10YR5/1 褐灰	緻密、白微細粒 焼成：硬質	No.1・3 2.8 (No.1・3)	胴下半部 3/5
4	須恵器 蓋	高 1.5	内外面ロクロナデ。混入品。	内：2.5Y5/2 暗灰黄 外：2.5Y7/4 浅黄	やや緻密、白細砂 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部~天井破片

9区 SI-27 (遺構：第294図、遺物：第295図、図版四五・一〇三)

位置 グリッド 55.5-95.5 重複遺構 古墳時代終末期の建物跡 SI-15 より新しい。 平面形 隅丸長方形
 規模 東西 3.8×南北 2.8 m 主軸方向 N-3° - E 覆土 暗褐色土主体の4層に分層。自然堆積と考えられる。 壁 壁高 33～35 cm 床 全面が貼床。 柱穴 確認できなかった。その他ピットは P2 (径 42～36 cm、深さ 25 cm)。 貯蔵穴 P1 (長軸 50～短軸 47 cm、深さ 22 cm) は北壁東部の壁際に位置する。平面形は不整形を呈し、北壁はオーバーハングする。 壁溝 確認できなかった。 掘方 細かな凹凸を有し、ローム土を多量含む6層で埋戻す。 カマド 東壁北部に位置し、壁面を半円形に掘り込む。袖などの粘土は殆ど見られず、持ち去られたものか。 遺物 主にカマド周辺から出土する。1・2は平底気味の土師器坏で、口縁部付近までヘラケズリを施す。3は筒形土製品、6は板状の不明鉄製品。4の須恵器坏と5の灰釉陶器は混入品か。床面直上の遺物は1のみ。不掲載の遺物は小コンテナ箱 1/5 弱と少ない。遺物から古墳時代終末期 (7世紀後半) の建物跡と考えられる。

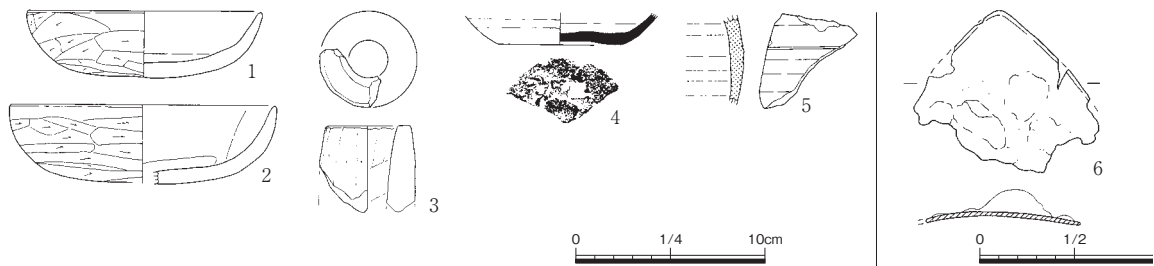


- SI-27
- | | | | |
|---------|--|---------|---|
| 1 暗褐色土 | ローム粒少量、焼土塊 (φ5 mm程) 微量。しまりやや強、粘性中。(自然堆積) | 4 暗黄褐色土 | ローム粒少量。しまりやや弱、粘性中。(自然堆積) |
| 2 暗褐色土 | ローム粒少量、ローム塊 (φ1～3 cm程) 微量。しまりやや弱、粘性中。(自然堆積) | 5 暗黄褐色土 | ローム粒少量、ローム塊 (φ1 cm程) 微量。しまりやや弱、粘性やや強。(自然堆積) |
| 3 暗黄褐色土 | ローム塊 (φ2～5 cm程) 少量、ローム粒・焼土粒・焼土塊 (φ1 cm程) 微量。しまり・粘性やや強。(自然堆積) | 6 暗褐色土 | ローム粒・ローム塊 (φ5 mm～10 cm程)・黒褐色土塊 (φ1～5 cm程) 少量。しまり・粘性やや強。(人為的堆積) (貼床) |



- カマド
- | | | | |
|---|-------------|---------|---|
| 1 | 建物跡覆土2層に対応。 | 3 暗褐色土 | ローム粒・ローム塊 (φ5 mm程)・焼土塊 (φ5 mm程) 微量。しまりやや弱、粘性中。(自然堆積) |
| 2 | 建物跡覆土3層に対応。 | 4 黒褐色土 | ローム粒・ローム塊 (φ5 mm程) 微量。しまりやや弱、粘性やや強。(自然堆積、2層に似る) |
| 3 | | 5 暗黄褐色土 | ローム粒・ローム塊 (φ2～5 cm程)・灰色粘土塊 (φ2 cm程)・焼土粒・焼土塊 (φ5 mm～1 cm程) 少量。しまりやや弱、粘性中。(袖のなごり) |
| 4 | | 6 暗褐色土 | ローム粒・ローム塊 (φ1 cm程)・焼土粒・焼土塊 (φ5 mm～1 cm程) 少量。しまりやや弱、粘性中。 |
| 5 | | 7 暗赤褐色土 | ローム粒・ローム塊 (φ1 cm程)・焼土粒・焼土塊 (φ5 mm～1 cm程) 中量。しまりやや弱、粘性中。 |
| 6 | | 8 暗黄褐色土 | ローム粒・ローム塊 (φ5 mm～10 cm程) 少量、焼土粒・焼土塊 (φ2～10 cm程) 微量。しまりやや弱、粘性中。(人為的堆積) (掘方) |

第294図 西刑部西原遺跡9区 SI-27 実測図



第295図 西刑部西原遺跡9区 SI-27 出土遺物

第130表 9区 SI-27 出土遺物観察表

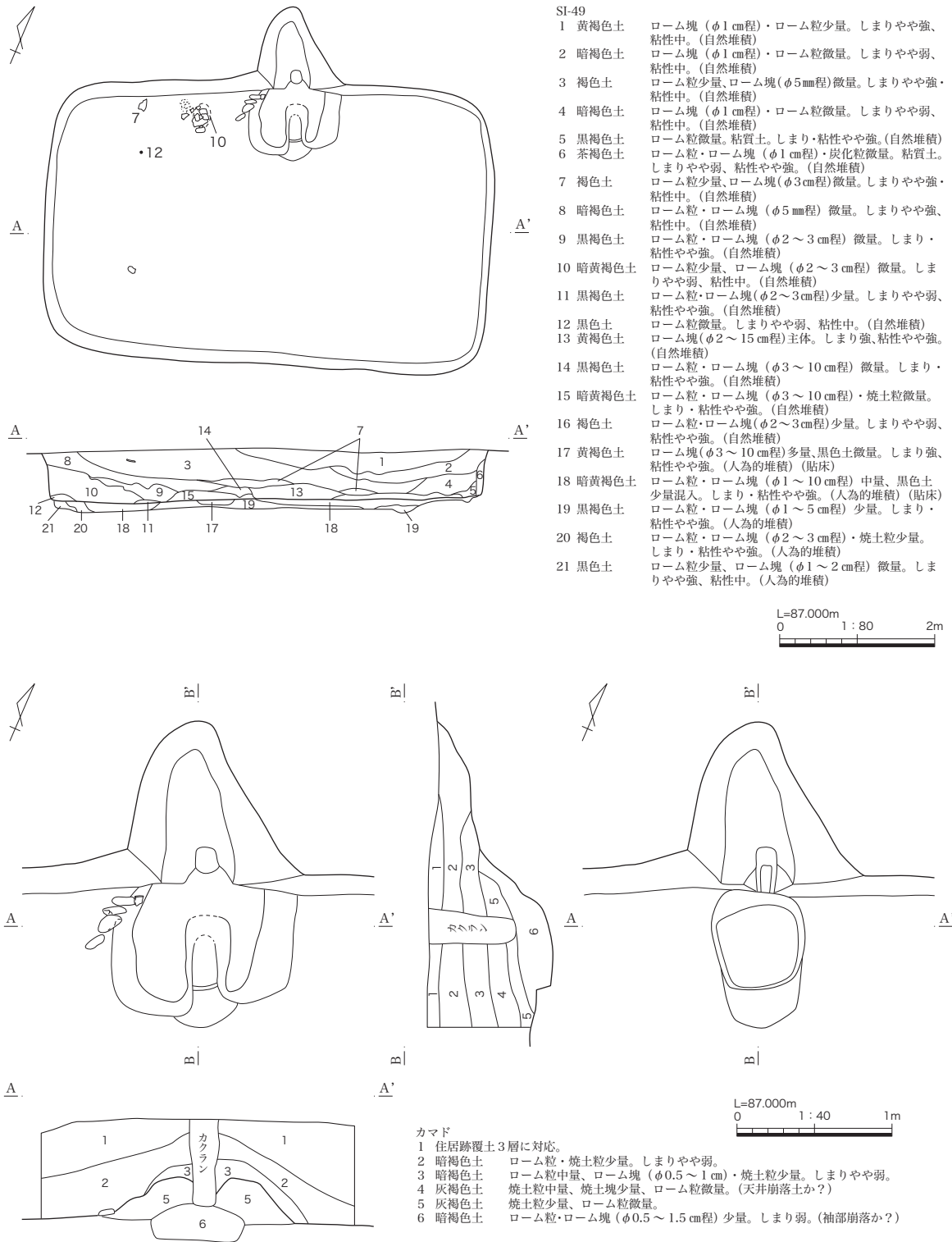
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 坏	口 (12.3-13.0) 高 3.4	口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。歪みが大きく口縁部は若干波打つ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・灰細砂 焼成：やや硬質	No.1・2 床直 (No.2)	ほぼ完存
2	土師器 坏	口 (13.8) 高 4.1	口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部外面及び底部外面ヘラケズリ。内外面に僅かに漆仕上げの痕跡あり。	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR8/6 浅黄橙	緻密、白細砂、白礫、白色粒 焼成：やや硬質	カマド内	口縁部 1/5
3	筒形土 製品	径 (5.0) 厚 1.5 孔 2.0	外面タテヘラケズリ。上端部ナデ。内面ヘラナデ。	内：10YR6/3 にぶい黄橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	やや粗い、白・黒粗砂～礫、赤色粒 焼成：やや軟質	覆土中	部分残存
4	須恵器 坏	底 (7.0) 高 [1.7]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切り。混入品。	内：N5/0 灰 外：N4/0 灰	やや粗い、白・灰細砂 焼成：硬質	覆土中	底部 1/4、 体部一部
5	灰釉陶 器瓶類	高 [4.6]	内外面ロクロナデ。外面に施釉。ハケ塗りの痕はみられない。混入品。猿投産の原始灰釉か。	内：5Y6/1 灰 外：5Y5/2 灰オリーブ	やや緻密、白細砂 焼成：やや硬質	カマド	胴部破片
6	不明鉄 製品	長 [4.2] 幅 [4.0] 厚 0.1 重 [4.5]	平面形は不明だが、一端は隅丸の三角形状を呈する。全体に湾曲している。	—	鉄製品	一括	部分残存

9区 SI-49 (遺構：第296図、遺物：第297図、図版四五・一〇三・一一五)

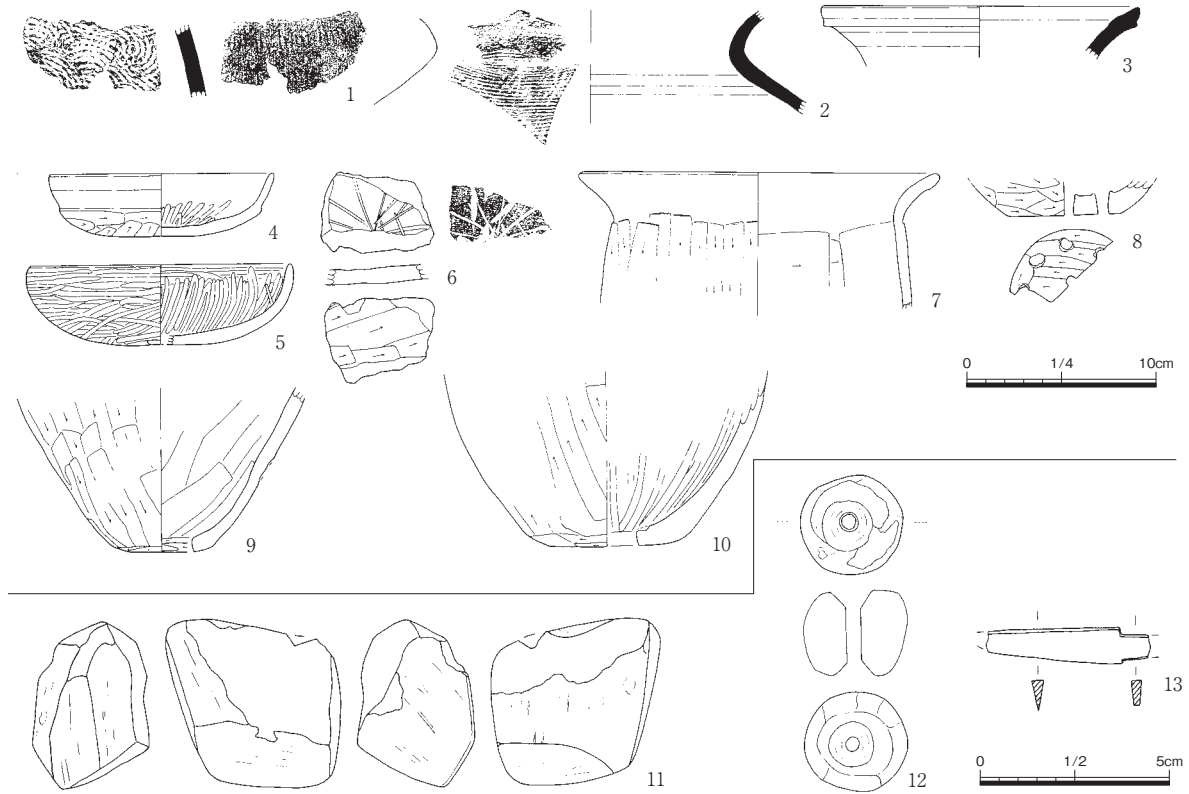
位置 グリッド 52.5-93・52.5-92.5 重複遺構 無し。平面形 隅丸長方形 規模 東西 5.6×南北 3.6 m 主軸方向 N-21° -W 覆土 自然堆積と考えられる。壁 壁高は 49～61 cm 残る。床 全面が貼床で概ね平坦である。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 部分的に凹凸を有するが明瞭な掘り込みはない。カマド 北壁中央部に位置する。煙道は浅く船首状に掘るが、燃烧部は小さな凸字状である。袖は灰褐色(粘土)で構築される。燃烧部の掘り込みは深い。遺物 平面的にはカマド西側に多いが、床面直上の遺物は極めて少ない。図示した遺物は須恵器甕(1～3)、土師器坏(4～6)、甕(7)、甔(8～10)、のほか凝灰岩製の砥石(11)、土玉(12)、刀子(13)がある。甔は9・10のように単孔のものと、8のように小孔を多数穿つものがある。床面近くで出土した遺物は5の土師器坏のみである。不掲載の土器類は小コンテナ箱約 1/5 である。遺物から平安時代の建物の可能性がある。

第131表 9区 SI-49 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 甕	厚 0.8	外面平行叩き。内面同心円状あて具痕。	内：10YR3/1 黒褐 外：N5/0 灰	やや粗い、白礫 焼成：やや硬質	南	頸部 1/5
2	須恵器 甕	高 [5.6]	外面平行叩きのちカキ目。内面同心円状あて具痕及びナデ。	内外面とも 7.5Y5/1 赤灰	やや粗い、白粗砂～礫 焼成：硬質	No.3、南、 北 45.5	頸部破片
3	須恵器 甕	口 (16.6) 高 [2.7]	口縁部内面に発泡気味の自然釉付着。	内：2.5Y7/4 浅黄 外：N6/0 灰	やや緻密、白細砂、黒粗砂 焼成：硬質	覆土中	口縁部 1/12
4	土師器 坏	口 13.6 高 3.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面放射状ヘラミガキ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	やや緻密、白細砂～粗砂 焼成：やや軟質	覆土中	口縁部 1/2、 体部～底部 3/4



第296図 西刑部西原遺跡9区 SI-49 実測図



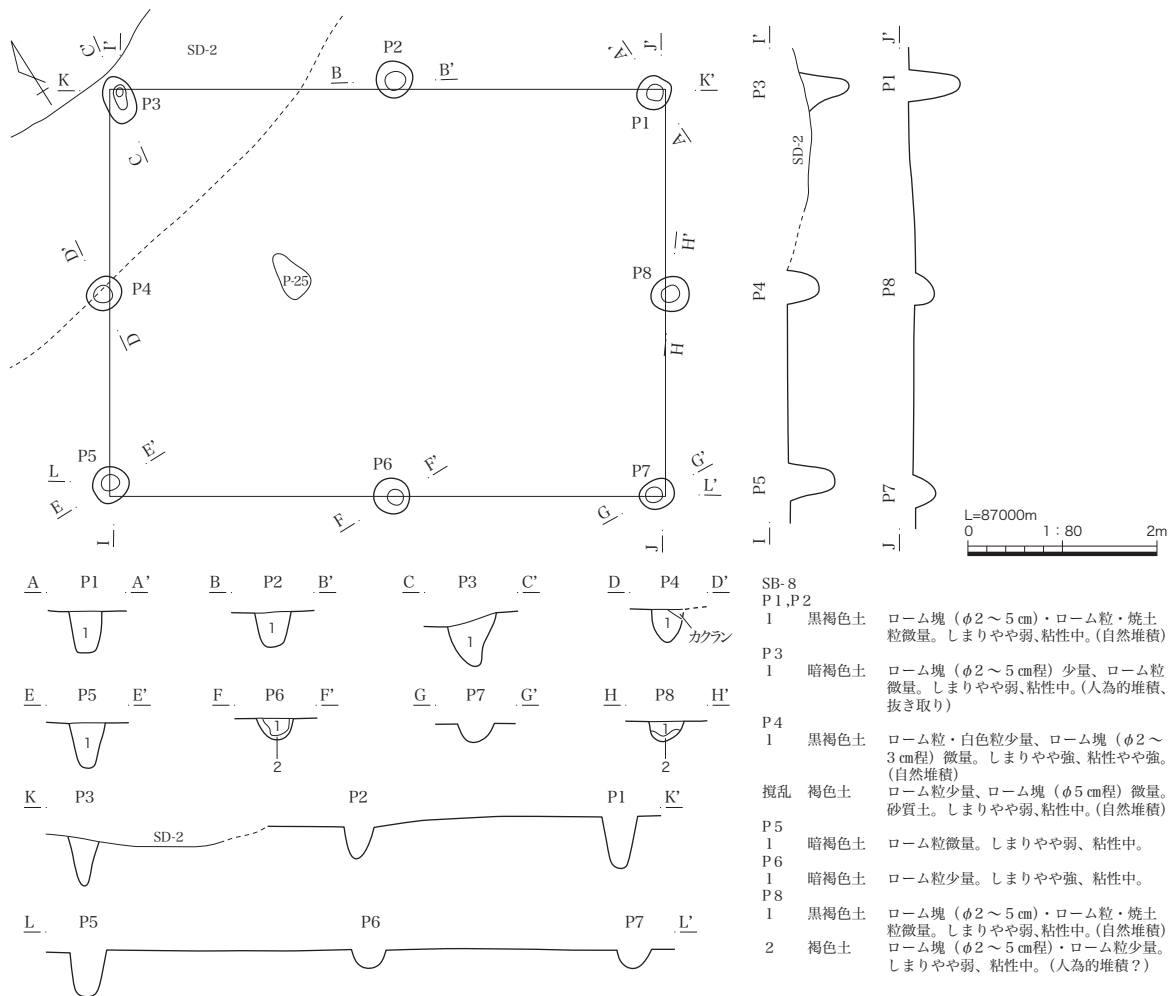
第 297 図 西刑部西原遺跡 9 区 SI-49 出土遺物

5	土師器 環	口高 4.2 (13.6)	口縁部内面ヨコナデのちヨコヘラミガキ。体部内面太めのヘラミガキ。体部外面ヘラケズリのち不定放射状のヘラミガキ。内外面漆仕上げ。	内：7.5YR6/6 橙 外：7.5YR7/6 橙	緻密、白・赤細砂 焼成：やや硬質	カマドNo 13 5.2	口縁部 1/3、 底部 1/2
6	土師器 環か	縦横厚 3.8 5.9 0.8	底部内面ヘラナデのち沈線（放射状ミガキを意図したものか）。底部外面一方向ヘラケズリ。一部に黒色付着物あり。漆か。	内：10YR5/2 灰黄褐 外：10YR4/1 褐灰	緻密、白細砂、赤色粒 焼成：硬質	南	底部破片
7	土師器 甕	口高 [17.4] [7.4]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヨコヘラナデ。外面に若干の付着物あり。漆か。口縁部周辺に赤変か所あり。	内：5YR5/6 明赤褐 外：7.5YR6/6 橙	やや粗い、白・灰・透明細砂～礫 焼成：やや硬質	No 2 41.0	口縁部 1/4
8	土師器 甕	高 [1.9]	胴部外面ヨコヘラケズリ。胴部及び底部内面ヘラナデ。底部外面一方向ヘラナデのち外面から穿孔。丸棒状の工具を使用。	内：7.5YR6/6 橙 外：5YR6/6 橙	やや緻密、白・黒細砂、赤色粒 焼成：やや硬質	カマド	胴部～底部破片
9	土師器 甕	底高 (5.2) [9.6]	胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面タテヘラナデ。底部外面中央部に向けヘラケズリ。孔はヘラケズリのちナデ。外面黒斑あり。	内：2.5Y4/1 黄灰 外：10YR7/3 にぶい黄橙	やや粗い、白・灰細砂、白礫 焼成：やや硬質	北東、ベルト、覆土中	胴部下半～ 底部 1/2
10	土師器 甕	底高孔 2.3 (6.4) [9.2]	胴部外面タテヘラケズリ。胴部～底部内面疎らで太めのヘラミガキあり。底部外面不定方向ヘラケズリ。孔はヘラケズリで穿孔したのちナデ。	内：2.5Y2/1 黒 外：2.5Y4/1 黄灰	緻密、白礫、白色粒 焼成：硬質	No 5 49.6	底部完存、 胴下半部 3/4
11	石器 砥石	長幅厚重 [4.1] [4.2] [2.7] [57.4]	中央が研ぎ減りし折損した砥石を再利用したものか。計 8 面の砥面がみられる。平面形：不整形 断面形：不整形	7.5Y8/1 灰白	凝灰岩	覆土中	部欠
12	土製品 土玉	幅厚重 2.6 2.3 14.4	ナデ整形。孔は焼成前に上面から穿孔。上面及び下面の孔の周囲は漏斗状に磨滅している。焼成後漆仕上げ。平面形：円形 断面形：やや不整な円形	10YR3/1 黒褐	やや緻密、白細砂 焼成：やや硬質	No 1 33.5	ほぼ完存
13	鉄製品 刀子	長幅厚重 [4.2] [1.0] [0.3] [3.9]	背は直線的。角棟で棟幅は 0.8 mm。刀部断面は平造り。茎断面は逆台形。	—	鉄製	北西部	切先、茎端部欠損

2. 掘立柱建物跡

9区 SB- 8 (遺構：第 298 図、図版四五)

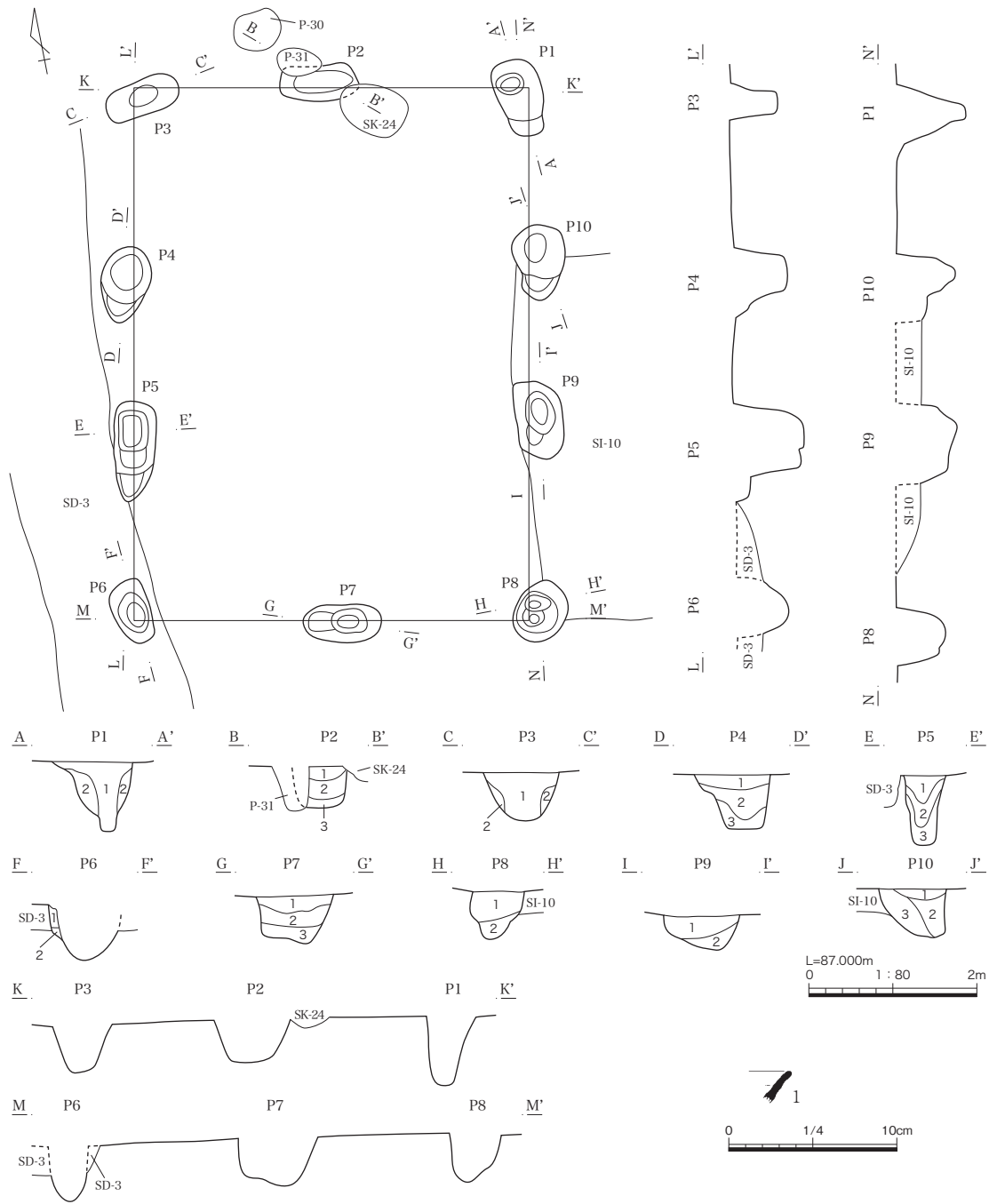
位置 グリッド 52.0-93.0・52.5-93.5・52.0-93.5・52.0-93.0 重複遺構 P-25 との重複は不明。SD- 2 より古い。 平面形・規模 桁行3間×梁行2間の東西棟側柱式建物。桁行総長 5.88 m、梁行総長 4.3 m
柱間 桁行の柱間寸法は平均 2.94 m、梁行の柱間寸法は平均 2.15 mである。 主軸方向 N -46° -W
柱穴 P1 (径 35 cmの円形、深さ 44 cm)、P2 (径 38 cmの円形、深さ 37 cm)、P3 (径 50～31 cmの楕円形、深さ推定 62 cm)、P4 (径 39～35 cmの円形、深さ 35 cm)、P5 (径 39 cmの円形、深さ 48 cm)、P6 (径約 40 cmの円形、深さ 22 cm)、P7 (径 37～30 cmの楕円形、深さ 20 cm)、P8 (径 40～37 cmの円形、深さ 23 cm) の計 8本を確認した。明瞭な柱痕を確認できる掘方は無かったが、P6 に僅かにその痕跡が窺える。 備考 出土遺物は無いが、SD- 2 (奈良時代中葉～後葉) より古い。



第 298 図 西刑部西原遺跡 9区 SB- 8実測図

9区 SB-22 (遺構：第 299 図、遺物：第 299 図、図版四五)

位置 グリッド 96.0-53.5・96.0-54.0 重複遺構 SD- 3、SI-10、SK-24、P-31 平面形・規模 桁行3間



SB-22

P1, P3, P6

- 1 暗褐色土 ローム粒微量。しまり強。
- 2 褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ0.5~1cm) 少量。しまり強。

P2

- 1 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊 (φ0.3~0.5cm程) 微量。しまり強。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒多量、ローム塊 (φ0.5~1cm程) 中量。しまり中。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒中量、ローム塊 (φ0.5~1cm程) 少量。しまりやや強。

P4

- 1 褐色土 ローム塊 (φ0.5~1cm) 少量、ローム粒微量。
- 2 褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ0.5~1cm) 中量。
- 3 褐色土 ローム粒多量、ローム塊 (φ0.5~1cm) やや多量。

P5

- 1 褐色土 ローム粒少量。しまりやや弱。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒多量。しまりやや弱。

- 3 黄褐色土 ハードローム主体。しまり強。

P7 (P4に類似)

- 1 暗褐色土 ローム塊 (φ0.5~1cm) 少量、ローム粒微量。しまり強。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ0.5~2cm) 中量。しまりやや強。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒多量、ローム塊 (φ0.5~2cm) 少量。しまりやや弱。

P8

- 1 暗褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ0.3~0.5cm) 少量。しまり強。
- 2 褐色土 ローム粒中量、ローム塊 (φ0.5~2cm) 少量。しまりやや強。

P9 (P10の2,3層に類似)

- 1 暗褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ0.5~1cm) 少量。しまりやや強。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒多量、ローム塊 (φ1~2cm) 中量。しまりやや強。

P10

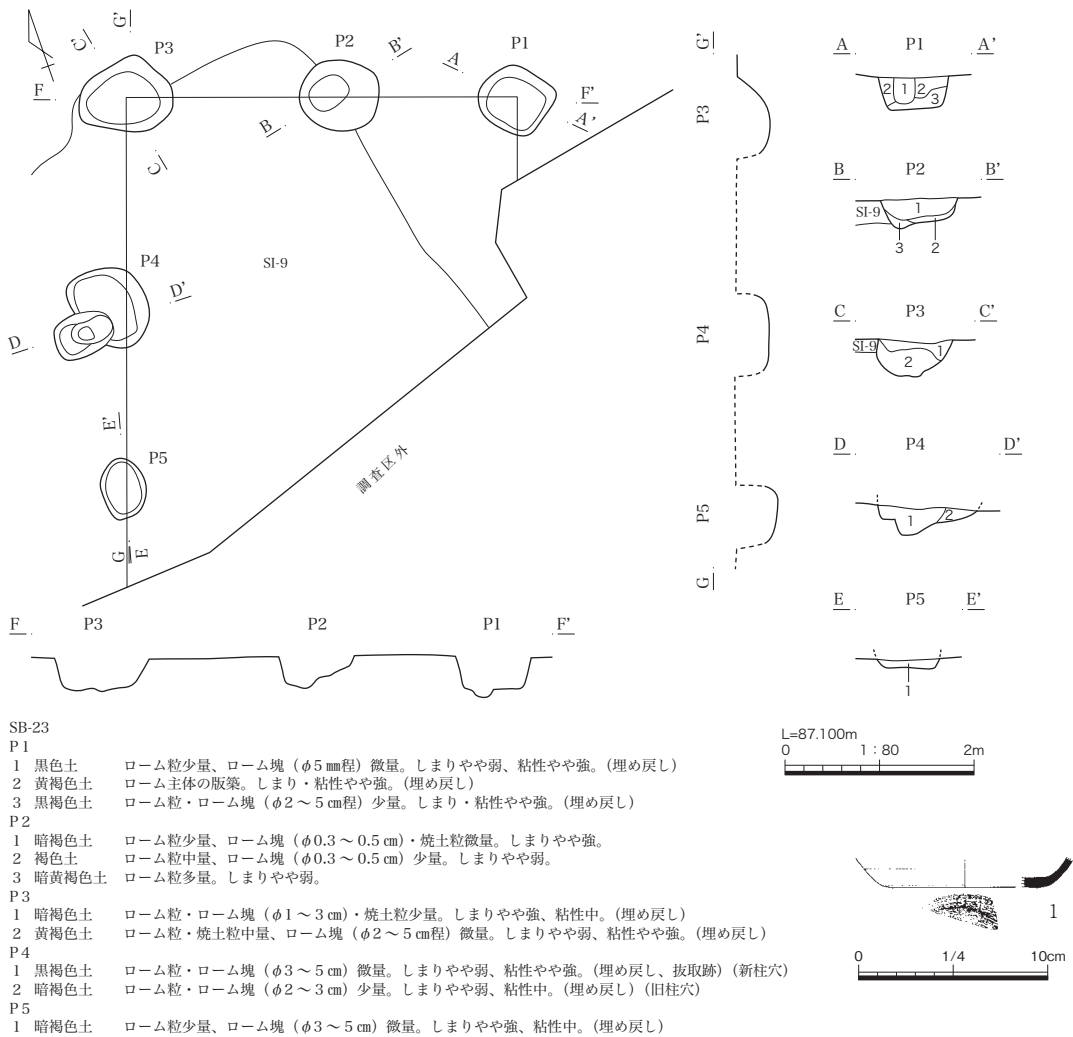
- 1 暗褐色土 ローム粒微量。しまり強。
- 2 褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ0.5~1cm) 少量。しまりやや強。
- 3 褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ0.5~2cm) 中量。しまりやや強。

第299図 西刑部西原遺跡9区 SB-22実測図・出土遺物

× 梁行2間の南北棟側柱式建物。桁行総長 6.36 m、梁行総長 4.7 m 柱間 桁行の柱間寸法は南から約 2.36 m + 2 m + 2 m、梁行の柱間寸法は平均 2.35 mである。 主軸方向 N -11° - E 柱穴 P1 (径 93 ~ 40 cmの楕円形、深さ 82 cm)、P2 (径 92 ~ 43 cmの楕円形、深さ 50 cm)、P3 (径 90 ~ 40 cmの楕円形、深さ 57 cm)、P4 (径 92 ~ 50 cmの楕円形、深さ 65 cm)、P5 (径 119 ~ 48 cmの楕円形、深さ 83 cm)、P6 (径 77 ~ 44 cmの楕円形、深さ 35 cm)、P7 (径 92 ~ 45 cmの楕円形、深さ 57 cm)、P8 (径 74 ~ 60 cmの楕円形、深さ 57 cm)、P9 (径 96 ~ 55 cmの楕円形、深さ 41 cm)、P10 (径 91 ~ 45 cmの楕円形、深さ 59 cm) の計 10本の掘方を確認した。平面形は楕円形を呈するものが殆どである。断面から柱痕を確認できたものは P1 のみで柱の直径は 20 cm前後と推定される。 遺物 確認された遺物は土師器・須恵器小破片の4点のみである、1は P3 の覆土中から出土した須恵器坏口縁部破片で、奈良時代と考えられる。

第 132 表 9区 SB-22 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器坏	高 [1.8]	内外面明瞭なロクロ目。	内外面とも 5Y5/1 灰	やや粗い、粗砂、白礫、白色粒 焼成：やや軟質	P3 覆土中	口縁部一部



第 300 図 西刑部西原遺跡9区 SB-23 実測図・出土遺物

9区 SB-23 (遺構・遺物：第300図、図版四六)

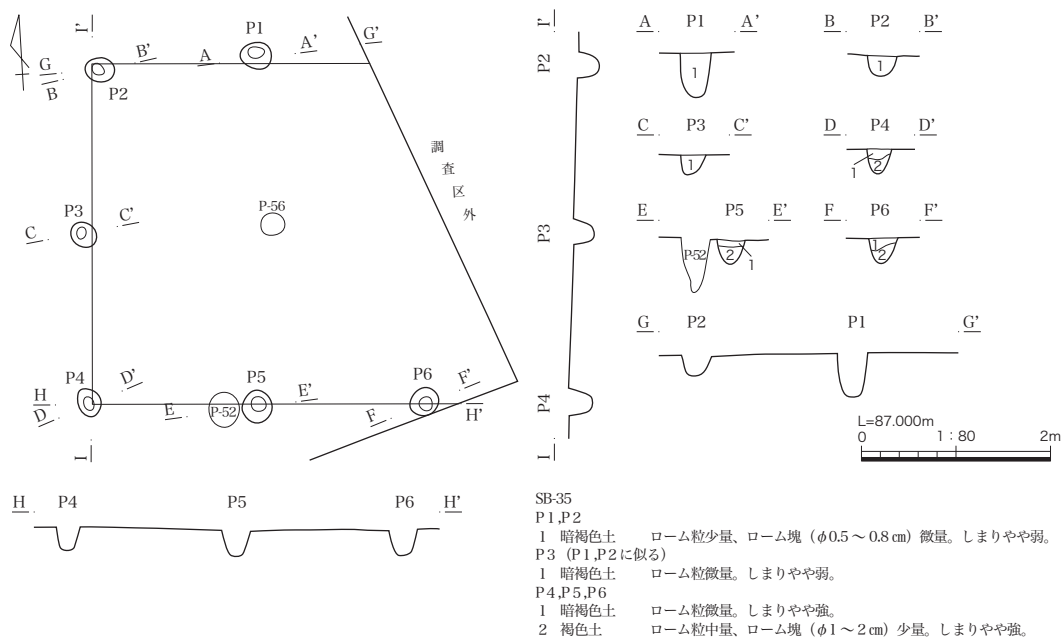
位置 グリッド 96.0-54.5 重複遺構 古墳時代終末期の建物跡 SI-9より新しい。 平面形・規模 建物南東部が調査区外のため全形は不明だが、桁行2間以上×梁行2間の南北棟側柱式建物と推定する。桁行総長5.2m以上、梁行総長4.2m 柱間 桁行の柱間寸法は北から2.2m+2.0m、梁行の柱間寸法は西から2.2m+2.0mである。 主軸方向 N-19° - E 柱穴 P1 (長軸73×短軸67cmの隅丸方形、深さ36cm)、P2 (径82~75cmの不整形円形、深さ32cm)、P3 (径98~80cmの不整形、深さ38cm)、P4 (径92~73cmの不整形、深さ残31cm)、P5 (径64~45cmの楕円形、深さ残10cm) の計5本を確認。このうち柱痕が確認できたのはP1のみで、推定される柱の直径は20cm前後である。 遺物 遺物はP3の覆土中から須恵器坏底部の小破片が出土。帰属時期は奈良時代と考えられる。

第133表 9区 SB-23 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器坏	底高 [7.5] [1.7]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリ。二次底面まで回転ヘラケズリが及ぶ。	内外面とも N4/O 灰	やや粗い、粗砂、白色粒 焼成：硬質	P3 覆土中	底部 1/6

9区 SB-35 (遺構：第301図、図版四六)

位置 グリッド 96.0-56.0・95.5-56.0 重複遺構 無し。 平面形・規模 桁行2間以上×梁行2間の東西棟側柱式建物。桁行総長4m以上、梁行総長3.6m 柱間 桁行の柱間寸法は平均約1.8m、梁行の柱間寸法も1.8mである。 主軸方向 N-86° - W 柱穴 P1 (径32cmの円形、深さ47cm)、P2 (径30~25cmの楕円形、深さ22cm)、P3 (径28~24cmの楕円形、深さ21cm)、P4 (径31~25cmの楕円形、深さ27cm)、P5 (径35~32cmの円形、深さ27cm)、P6 (径約29cmの円形、深さ27cm) の計6本を確認。掘方の規模は小さく、柱痕は確認できなかった。 遺物 遺物は確認できず明確な帰属時期は不明である。

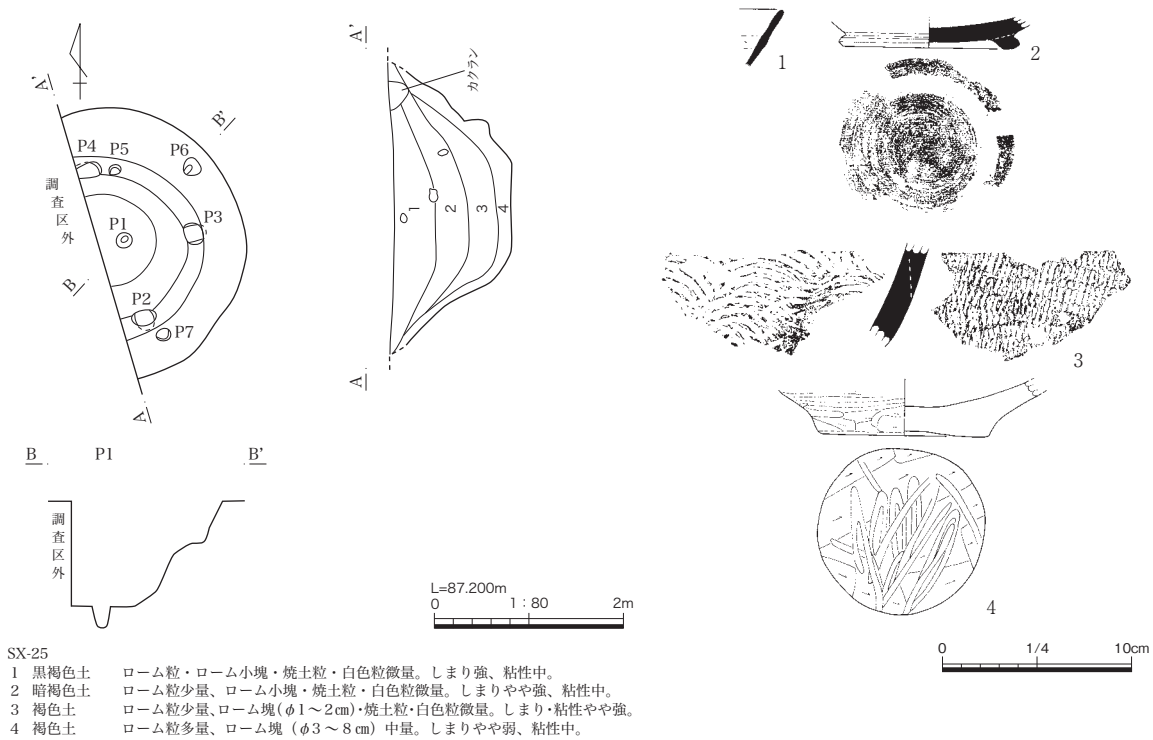


第301図 西刑部西原遺跡9区 SB-35 実測図

3. 性格不明遺構

9区 SX-25 (遺構・遺物：第302図、図版四六)

位置 グリッド 95.5-55.0 規模・平面形 東半部は調査区外のため全形は不明だが、東西 1.4 m以上、南北 2.83 mの円形を呈するものと思われる。覆土 4層に分層。自然堆積と考えられる。壁・断面形 壁面は僅かな凹凸を有する。底面確認面から深さ約 55 cmと約 1 mの位置に緩やかな段をもつ。この2段目の壁面には4か所のピットを掘り込む。このピットが未調査部の西壁際にあるとすれば、7区 SX-7 に掘られた「直交する2対のピット」と類似した状況が想定される。壁高 土坑底面までは 1.24 m、小穴底面までは 1.46 mある。床 土坑底面は径約 0.95 mの不整な円形を呈する。底面には径約 20 cm、深さ 22 cmの穴を掘る。遺物 図示した遺物は須恵器杯・高台付杯・甕、土師器甕などがある。不掲載遺物は土師器片9点のみである。1・2から8世紀中葉の遺構と考えたい。前述した7区 SX-7 とは時期や土坑の形状が類似するが、底面のピットが小さい点、底面が KP 層まで達していないなどの相違点がある。



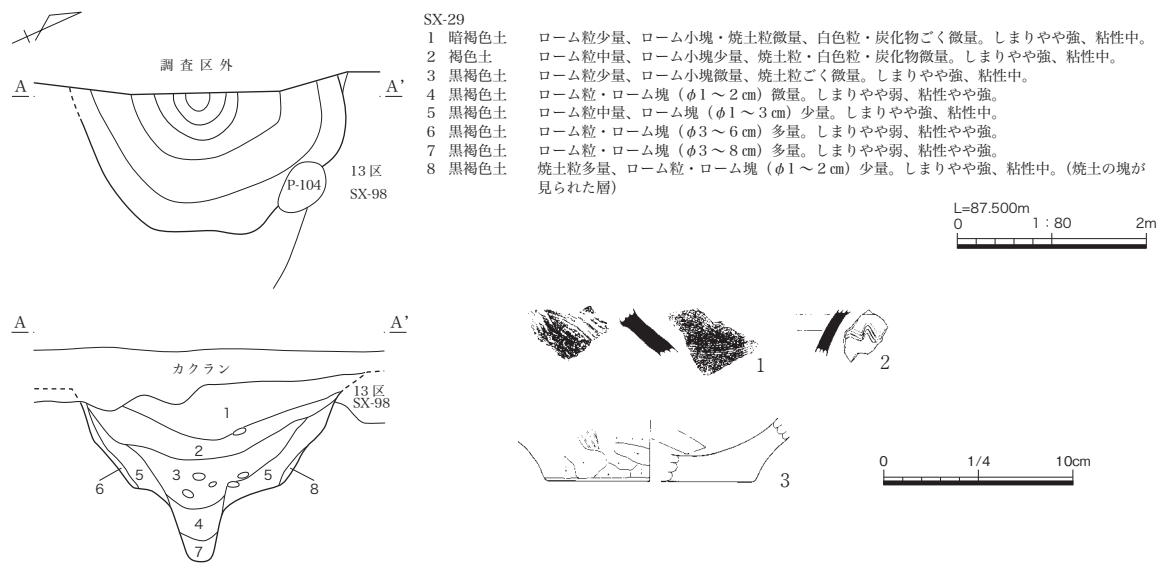
第302図 西刑部西原遺跡9区 SX-25 実測図・出土遺物

第134表 9区 SX-25 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器杯	高 [3.4]	内外面ロクロナデ。	内：N5/0 灰 外：5Y5/1 灰	やや緻密、粗砂、白色粒 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部破片
2	須恵器高台付杯	底 (8.8) 高 [1.5] 胎 (8.9)	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。高台接合部沈線風。	内：5Y7/1 灰白 外：5Y7/2 灰白	やや粗い、粗砂～礫、白色粒 焼成：やや硬質	覆土中	底部 4/5、 高台 1/2
3	須恵器甕	厚 1.0	外面格子叩き。内面同心円状あて具痕。	内：7.5YR5/6 明褐 外：2.5Y5/1 黄灰	やや緻密、白・灰・透明 粗砂 焼成：硬質	覆土中	胴部破片
4	土師器甕	底 8.8 高 [3.0]	胴部外面下端部ナメヘラケズリのちナメヘラミガキ。底部外面一方向ヘラケズリのちやや粗いヘラミガキ。球胴の甕か。内面風化剥落顕著で調整不明。	内：10YR7/3 にぶい黄橙 外：10YR5/3 にぶい黄橙	やや粗い、白・灰粗砂～礫 焼成：やや硬質	覆土中	底部完存、 胴部一部

9区 SX-29 (遺構・遺物：第303図、図版四六)

位置 グリッド 97.0-55.0 重複関係 SX-98より新しく、P-104より古い。 規模・平面形 西半部が調査区外のため全形は不明だが、一辺約2.7mの隅丸方形と考えられる。 覆土 7層に分層。自然堆積と考えられるが、壁側面には焼土(8層)が認められる。3層で出土した礫は投棄された可能性が高い。 壁・断面形 壁面は深さ60cmで段を有し、底面は緩やかに傾斜する。 壁高 土坑底面までは1.05～1.25m、小穴底面まで1.84mある。 床 土坑底面は一辺約1.4mの不整な方形を呈する。底面には径約50cm、深さ約60cmの断面逆台形のピットを掘る。 遺物 出土遺物は礫の他、土師器小破片が30点弱出土したのみである。遺物は古墳時代後期のものが多い。 備考 遺構の性格は不明である。覆土の堆積状況や遺構の形状は有段の井戸に類似するが、円形有段遺構にも類似している。



第303図 西刑部西原遺跡9区 SX-29 実測図・出土遺物

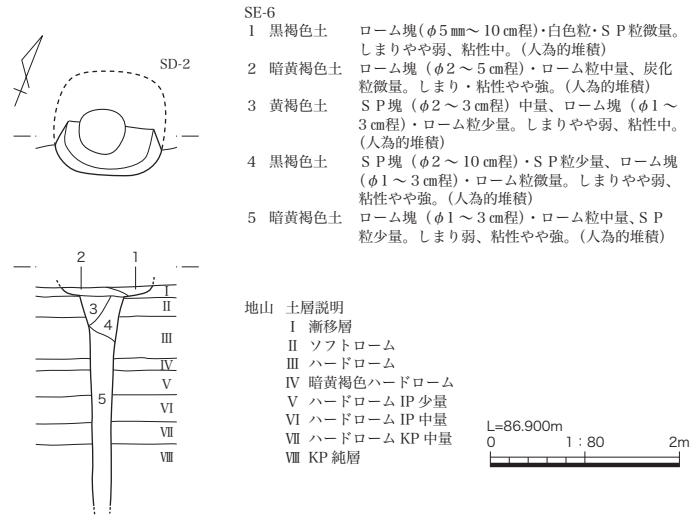
第135表 9区 SX-29 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 甕	高 [3.2]	内面同心円状あて具か。外面カキ目あり。	内：5GY4/1 暗オリーブ灰 外：2.5GY5/1 オリーブ灰	やや粗い、細砂～粗砂、白色粒 焼成：硬質	覆土中	頸部破片
2	須恵器 甕	厚 0.6	内外面ロクロナデ。波状文は4本一組で上下の振幅は狭い。	内：7.5Y7/1 灰白 外：7.5Y6/1 灰	やや緻密、白・黒細砂 焼成：やや硬質	覆土中	頸部破片
3	土師器 甕	底高 [3.2] (11.0)	胴部下端外面タテヘラケズリ。一部タテハケ目あり。底部外面一方向ヘラケズリ。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや粗い、白・灰粗砂～礫 焼成：やや硬質	覆土中	底部 1/3

4. 井戸

9区 SE- 6 (遺構：第304図、図版四六・四七)

位置 グリッド93.5-53.0 重複遺構 奈良時代の溝跡SD- 2より古い。規模・形態 有段の井戸。開口部は北部を欠失するが、一辺1.12mほどの隅丸方形を呈したものと考えられる。深さは10cm弱しか残っていない。井筒部は上面径44cmで、筒状に直線的に掘られる。確認面からの深さは2.4m以上あるが、調査の都合上底面までは確認できなかった。覆土 自然堆積と考えられる。遺物 時期を確定できる遺物は確認できなかったが、SD- 2との重複関係から奈良時代以前の井戸と考えられる。

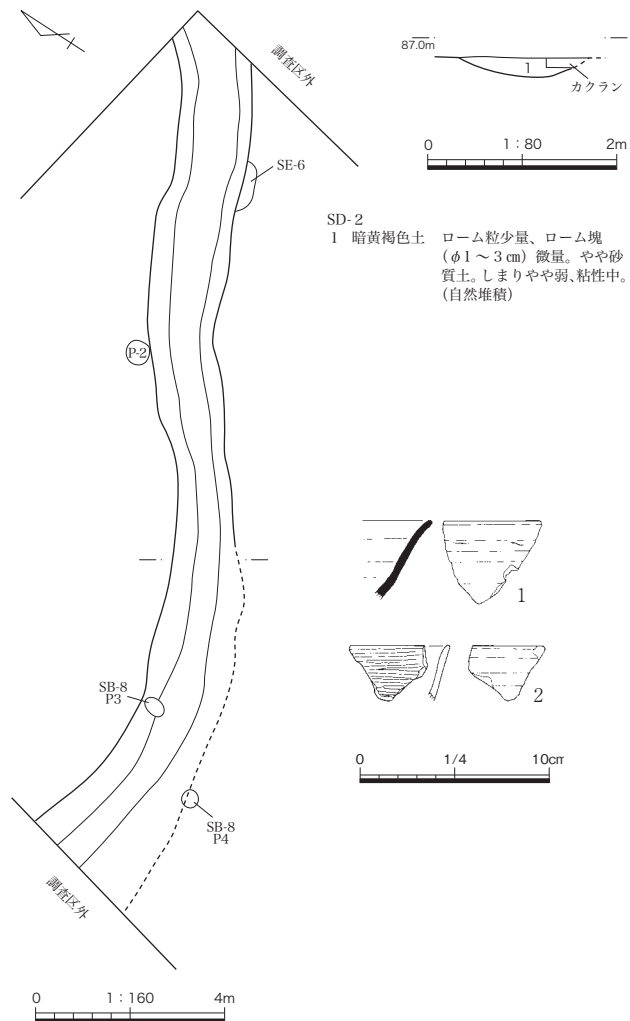


第304図 西刑部西原遺跡9区 SE- 6実測図

5. 溝

9区 SD- 2 (遺構・遺物：第305図、図版四七)

位置 グリッド53.0-93.5・52.5-93.5・52.0-93.5 重複遺構 SE- 6、SB- 8と重複し、いずれより新しい。規模・形態 長さ16.6m、幅1.08~2.7m。幅が一定せず、やや蛇行気味である。壁・断面形 壁高22cm、断面形は逆台形及び皿状を呈する。底面 細かな凹凸を多数有するが概ね平坦である。覆土 自然堆積と考えられる。遺物 覆土中から土師器坏・甕や須恵器坏小破片が数点出土。1は須恵器坏口縁部破片。2は内面が磨かれ、黒色処理されたロクロ土師器坏。遺物から推定される時期は、奈良時代中葉から後葉と考えられる。



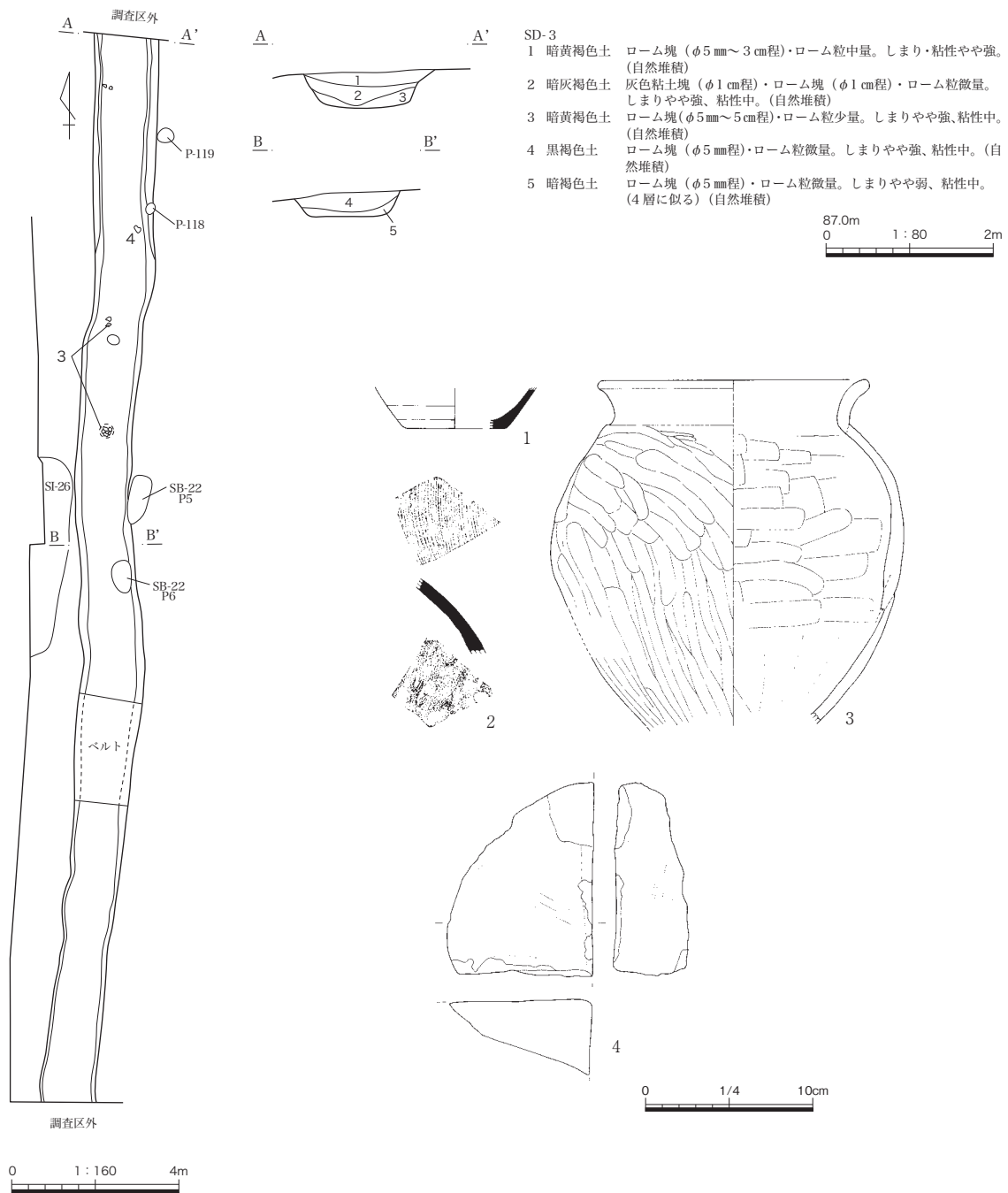
第305図 西刑部西原遺跡9区 SD- 2実測図・出土遺物

第136表 9区 SD- 2 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 坏	口 (16.0) 高 [4.1]	内外面ロクロナデ。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや緻密、白・灰・黒細砂～砂、赤色粒 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部～体部 1/8
2	土師器 坏	口 (11.0) 高 [2.8]	内外面ロクロナデ。内面へラミガキのち黒色処理。	内外面とも 5YR5/4 にぶ い褐	やや緻密、白・灰・黒細砂 焼成：やや硬質	ベルト東側	口縁部 1/10

9区 SD- 3 (遺構・遺物：第306図、図版四七・一〇三)

位置 グリッド 53.0-93.5・53.5-95.5・53.5-96.0・53.5-96.5 重複遺構 SB-22、P-118 と重複する。 規模・形態 長さ 25.5 m以上、幅 1.24 ～ 1.54 m。 壁・断面形 壁高は最深部で 56 cm、断面形は逆台形を呈する。



第306図 西刑部西原遺跡9区 SD- 3実測図・出土遺物

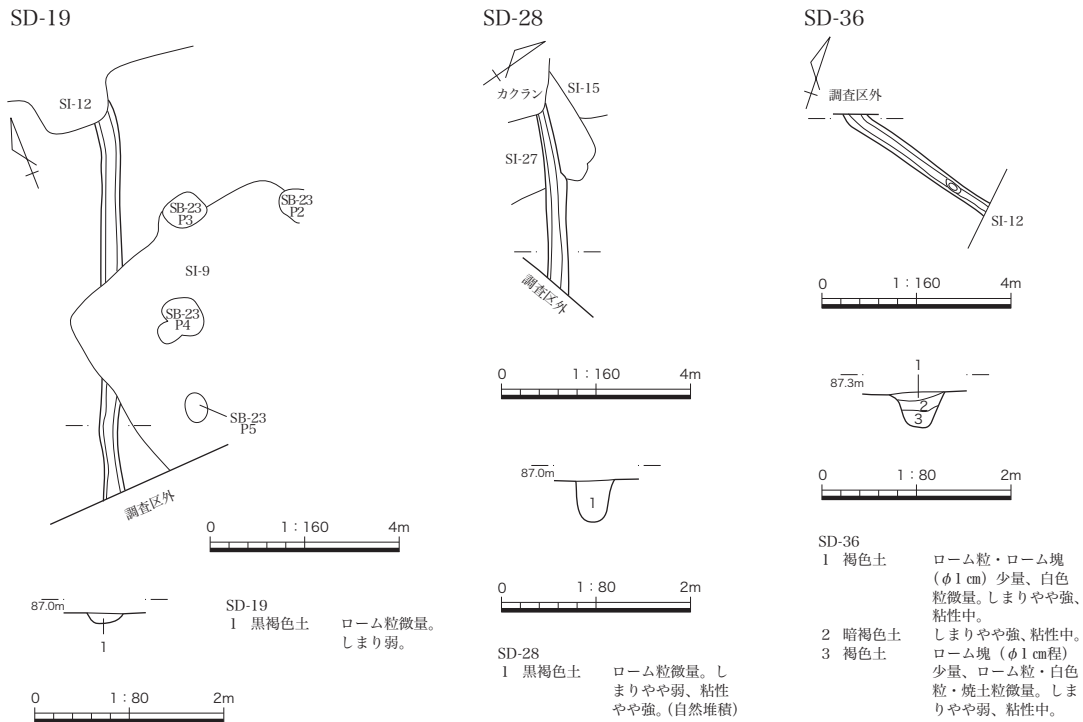
底面 若干の小穴があるが、概ね平坦である。 覆土 暗黄褐色土及び暗褐色土主体の土層で、自然堆積と考えられる。 遺物 図示した土器は、須恵器坏（1）・横瓶（2）、土師器甕（3）、砂岩製の砥石（4）などである。不掲載土器は、土師器坏・甕・甌が主体。その他手捏ね土器、須恵器甕破片が1点ずつで総量は小コンテナ箱1/2程度。古墳時代終末期（7世紀前葉から中葉）の溝跡と考えたい。

第137表 9区 SD-3出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器坏	底(6.0)	内外面ロクロナデ。底部外面回転糸切り。混入品か。	内外面とも5Y5/1灰	やや緻密、白・黒微砂粒 焼成：硬質	覆土北部	底部1/5、 体部下半 1/4
2	須恵器横瓶	厚0.6	体部外面カキ目。体部内面極めて細かい同心円叩き。	内：5Y6/1灰 外：5Y7/2灰白	やや緻密、白・黒粗砂 焼成：硬質	覆土北部	胴部一部
3	土師器甕	口(15.6) 高[20.4]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半ナメ・下半部タテヘラナデ。胴部内面上半部ヨコ、下半部タテヘラナデ。内面黒色を呈する。炭化物が付着したものか。	内：N2/0黒 外：7.5YR7/6橙	やや粗い、白・灰粗砂～ 礫 焼成：やや硬質	覆土中	底部欠損
4	石器砥石	長[11.7] 幅[8.4] 厚[4.5] 重[392.0]	2面の砥面を確認。擦痕は殆ど残っていない。 平面形：楕円形 断面形：不整な隅丸三角形	10YR7/6明黄褐	砂岩	No.8	部欠

9区 SD-19 (遺構：第307図)

位置 グリッド 54.5-96.0・54.5-96.5 重複遺構 SI-9・12より古い。 規模・形態 長さ5.9m以上、幅0.34m。南北軸の溝。 壁・断面形 壁高は最深部で14cm、断面形は逆台形もしくは皿状を呈する。 底面 若干の凹凸がある。 覆土 黒褐色土主体の土層で、自然堆積と考えられる。 遺物 出土しなかったため明確な時期は不明だが、竪穴建物との切り合いから古墳時代後期以前の可能性がある。



第307図 西刑部西原遺跡9区 SD-19・28・36実測図

9区 SD-28 (遺構：第307図、図版四七)

位置 グリッド 55.5-95.5 重複遺構 古墳時代終末期の建物跡 SI-27 より新しい。規模・形態 長さ 3.75 m以上、最大幅 0.35 mの南北軸の溝。壁・断面形 壁高は最深部で 42 cmと深く、断面形は U字形を呈する。

底面 若干の凹凸がある。覆土 黒褐色土主体の 1層で、自然堆積と考えられる。遺物 出土しなかったため明確な時期は不明だが、竪穴建物との切り合いから古墳時代後期以降の溝跡と考えられる。

9区 SD-36 (遺構：第307図、図版四七)

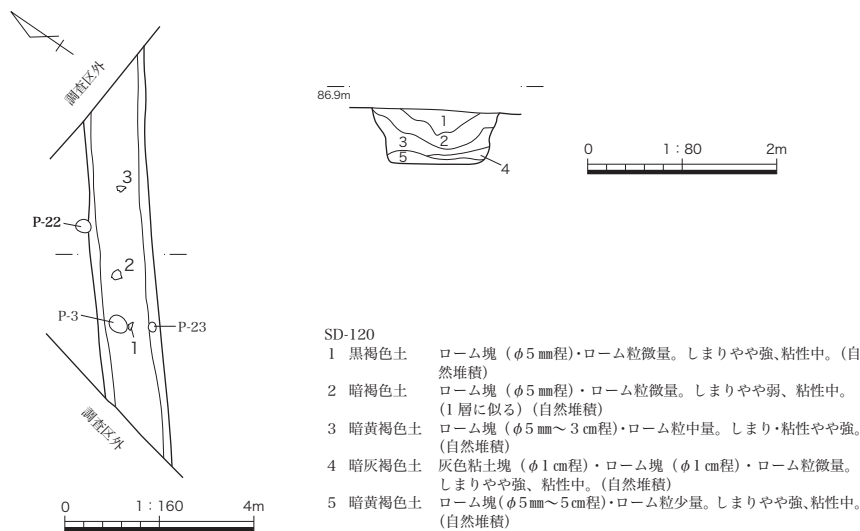
位置 グリッド 54.0-96.5 重複遺構 古墳時代後期の建物跡 SI-12 より古い。規模・形態 長さ 3.6 m、最大幅 0.3 m 壁・断面形 壁高約 40 cmとしっかりした掘方をもつ。底面 若干の凹凸を有する。覆土

暗褐色土主体の 2層からなり自然堆積と考えられる。遺物 殆ど出土しなかったため明確な時期は不明だが、竪穴建物との切り合いから古墳時代後期以前の可能性がある。

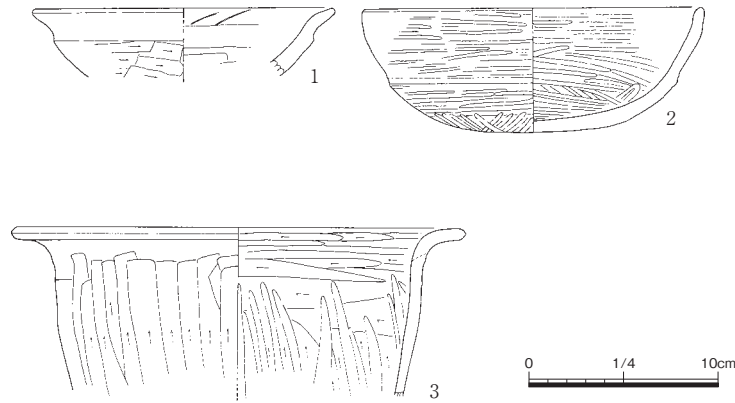
SD-120 (遺構：第308図、遺物：第309図、図版四七・一〇三)

位置 グリッド 52.0-93.5・52.5-93.5・52.5-94.0 重複遺構 P-3・22 より古い。規模・形態 東西残 8.6 m、最大幅 1.3 m 壁・断面形 壁高最深部で 59 cm、断面形は逆台形。底面 若干の凹凸がある。

覆土 5層に細分され、自然堆積と考えられる。遺物 3点を図示した。1は床面付近から出土した高坏。内面は漆仕上げである。2は大形の土師器坏。内外面を入念に磨いている。3は土師器甕。内面をヘラケズリ成形した後、太いタテのヘラミガキを施している。不掲載遺物は土師器坏・甕などが主体で小コンテナ箱 1/3弱。古墳時代終末期(7世紀前葉から中葉)の溝跡と考えたい。備考 9区北部で確認された SD-3と規模・断面形などが類似しており、同一遺構の可能性あり。



第308図 西刑部西原遺跡9区 SD-120 実測図



第 309 図 西刑部西原遺跡 9 区 SD-120 出土遺物

第 138 表 9 区 SD-120 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	土師器 高環	口 (15.6) 高 [3.6]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内面漆仕上げ。	内：5YR6/6 橙 外：5YR3/1 黒褐	やや粗い、灰・黒粗砂～礫 焼成：やや硬質	No. 1 3.0	口縁部～体部 1/4
2	土師器 環	口 (17.6) 高 6.6	内外面全面に入念なヘラミガキ。口縁部内面僅かにヨコナデ痕残る。外面は広範囲に黒斑がみられる。	内：10YR6/3 にふい黄橙 外：10YR4/2 灰黄褐	緻密、透明・白細砂、白礫、赤色粒 焼成：硬質	No. 2 28.5	口縁部 1/8、 底部完存
3	土師器 甑	口 (23.4) 高 [9.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。口縁部内面ヨコヘラケズリのちヨコナデ。胴部内面タテヘラケズリのち太いタテヘラミガキ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・灰・黒細砂、灰・黒砂 焼成：やや硬質	No. 3 28.7	口縁部～胴部 1/6

6. 土坑

本調査区からは計 10 基の土坑が確認された。本調査区の土坑は遺物の出土量が極めて少ないため明確な時期を確定できないものが多い。ただし他遺構との切り合いから、ある程度の時間幅を推定できるものがある。

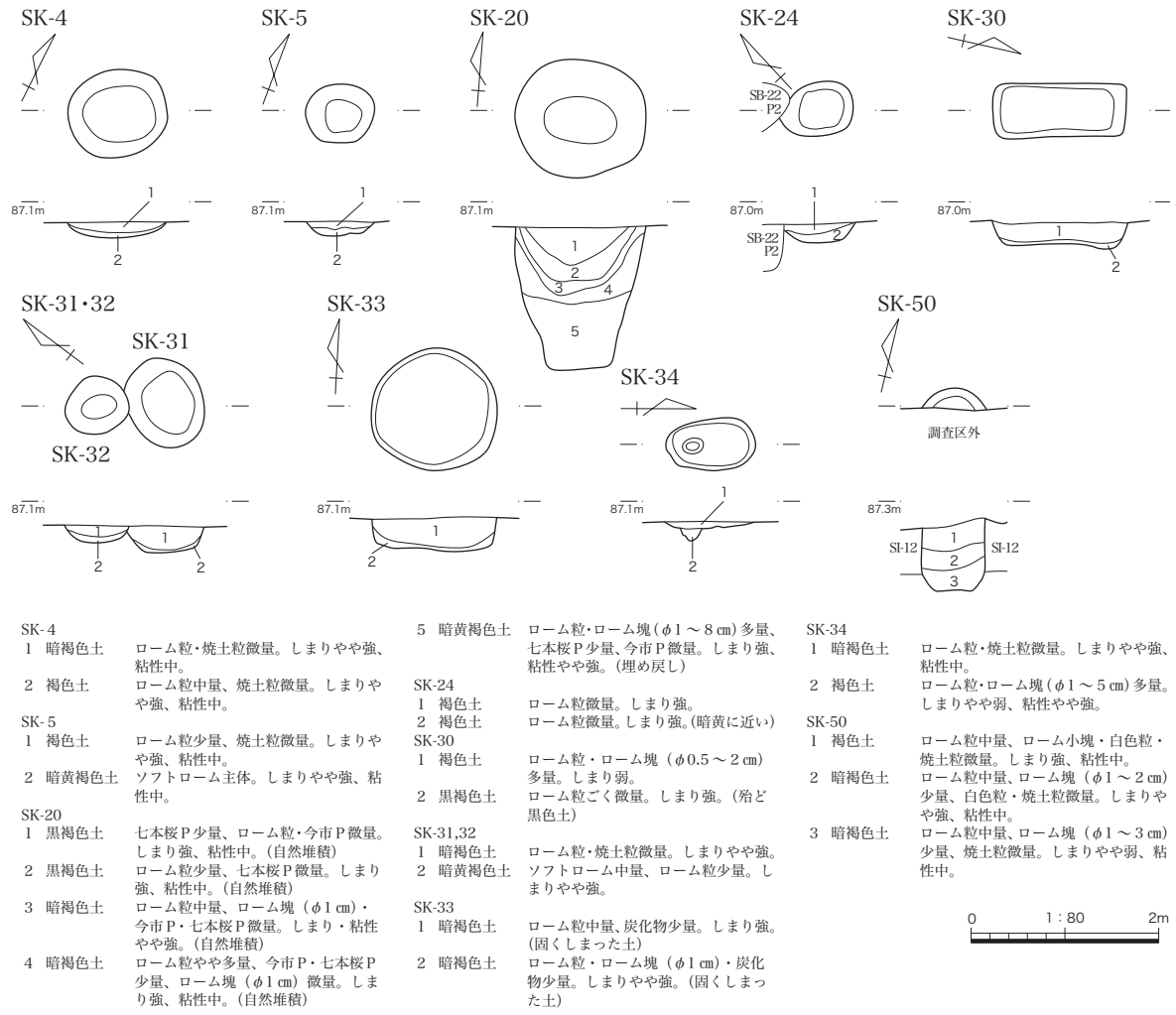
ここでは遺構個別の事実記載は行わず、出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容などを表にまとめ掲載した。特徴的な遺構については補足説明を行うこととしたい。土坑を概観すると、平面形は円形又は楕円形を呈し、比較的浅めのものが多い。このうち径 1m 以下の土坑は 5 基 (SK- 5・24・31・32・34)、1m を越えるものは 2 基 (SK- 4・33) である。覆土は、埋戻しか自然堆積かは明確にできないが、明らかな人為埋戻しは確認できなかった。時期的には古墳時代から平安時代のものが多いと考えられる。

SK-20 は円筒形土坑としているもので、約 1.5 m の深さを有する。SK-50 は古墳時代後期の建物跡を掘り込む。掘立柱建物の柱穴にも見える。SK-30 は近現代の土坑の可能性が高い。

第 139 表 9 区 土坑計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
SK-4	52.0-93.0	不整な楕円形	1.04	0.95	0.17	
SK-5	52.0-93.0	不整な円形	0.72	0.63	0.15	
SK-20	54.0-96.0	楕円形	1.4	1.28	1.52	
SK-24	53.5-96.0	不整な楕円形	0.79	0.57	0.2	
SK-30	55.5-96.5	長方形	1.4	0.57	0.29	
SK-31	55.5-96.5	楕円形	0.93	(0.80)	0.27	SK-32 より古い
SK-32	55.5-96.5	不整な円形	0.68	0.62	0.19	SK-31 より新しい
SK-33	55.0-96.5 55.0-97.0	円形	1.31	1.3	0.36	

SK-34	55.0-96.5 55.5-96.5	楕円形	0.94	0.53	0.2	
SK-50	54.5-96.5	—	(0.67)	(0.22)	0.77	



- | | | |
|--|---|--|
| <p>SK-4
1 暗褐色土 ローム粒・焼土粒微量。しまりやや強、粘性中。
2 褐色土 ローム粒中量、焼土粒微量。しまりやや強、粘性中。</p> <p>SK-5
1 褐色土 ローム粒少量、焼土粒微量。しまりやや強、粘性中。
2 暗黄褐色土 ソフトローム主体。しまりやや強、粘性中。</p> <p>SK-20
1 黒褐色土 七本桜P少量、ローム粒・今市P微量。しまり強、粘性中。(自然堆積)
2 黒褐色土 ローム粒少量、七本桜P微量。しまり強、粘性中。(自然堆積)
3 暗褐色土 ローム粒中量、ローム塊(φ1cm)・今市P・七本桜P微量。しまり・粘性やや強。(自然堆積)
4 暗褐色土 ローム粒やや多量、今市P・七本桜P少量、ローム塊(φ1cm)微量。しまり強、粘性中。(自然堆積)</p> | <p>5 暗黄褐色土 ローム粒・ローム塊(φ1~8cm)多量、七本桜P少量、今市P微量。しまり強、粘性やや強。(埋め戻し)</p> <p>SK-24
1 褐色土 ローム粒微量。しまり強。
2 褐色土 ローム粒微量。しまり強。(暗黄に近い)</p> <p>SK-30
1 褐色土 ローム粒・ローム塊(φ0.5~2cm)多量。しまり弱。
2 黒褐色土 ローム粒ごく微量。しまり強。(殆ど黒色土)</p> <p>SK-31,32
1 暗褐色土 ローム粒・焼土粒微量。しまりやや強。
2 暗黄褐色土 ソフトローム中量、ローム粒少量。しまりやや強。</p> <p>SK-33
1 暗褐色土 ローム粒中量、炭化物少量。しまり強。(固くしまった土)
2 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(φ1cm)・炭化物少量。しまりやや強。(固くしまった土)</p> | <p>SK-34
1 暗褐色土 ローム粒・焼土粒微量。しまりやや強、粘性中。
2 褐色土 ローム粒・ローム塊(φ1~5cm)多量。しまりやや弱、粘性やや強。</p> <p>SK-50
1 褐色土 ローム粒中量、ローム小塊・白色粒・焼土粒微量。しまり強、粘性中。
2 暗褐色土 ローム粒中量、ローム塊(φ1~2cm)少量、白色粒・焼土粒微量。しまりやや強、粘性中。
3 暗褐色土 ローム粒中量、ローム塊(φ1~3cm)少量、焼土粒微量。しまりやや弱、粘性中。</p> |
|--|---|--|

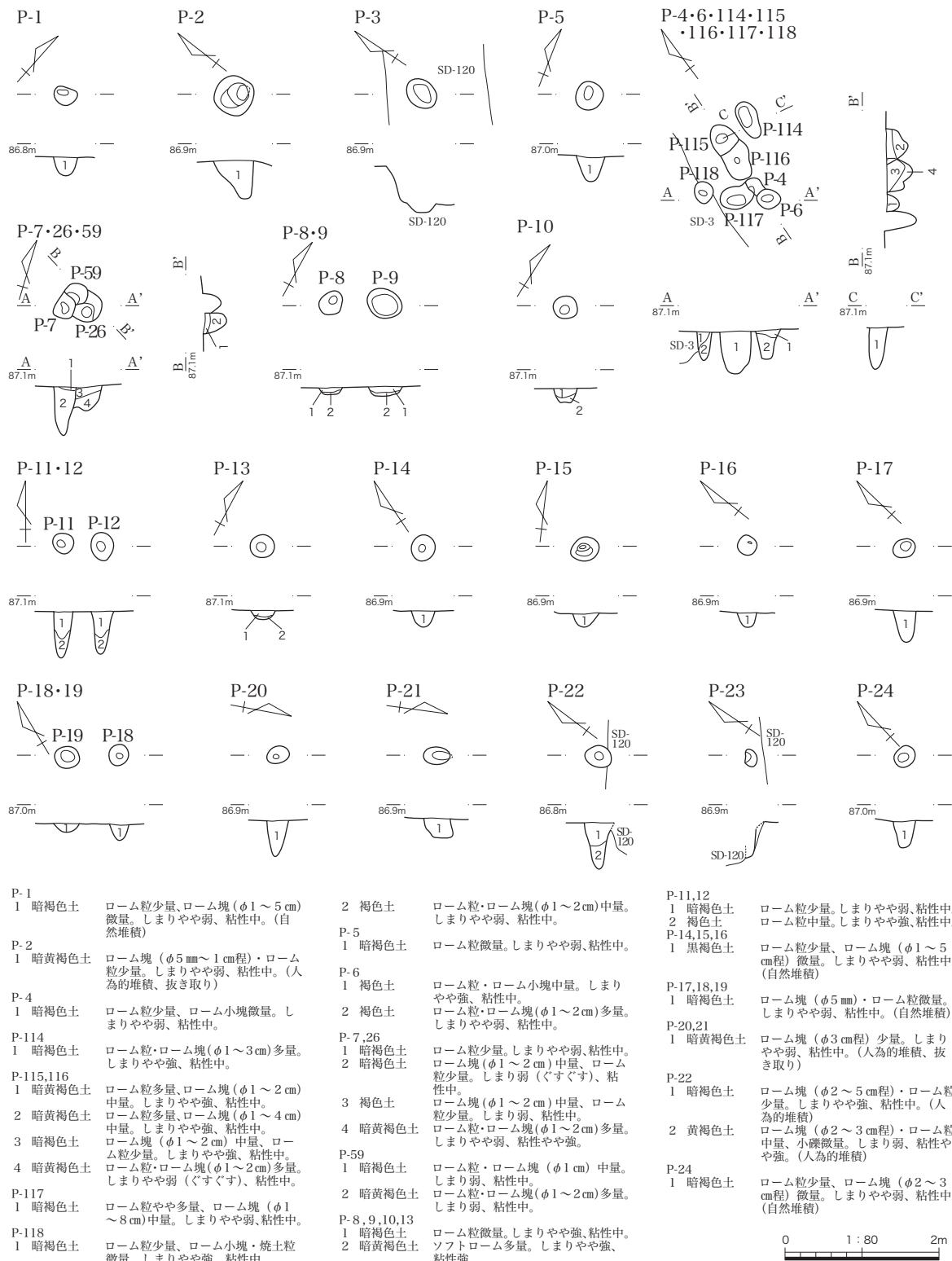
第310図 西刑部西原遺跡9区 土坑実測図

7. ピット

本調査区から確認されたピット(小穴)は計118基である。土坑と同様、遺物の出土量が少ないため明確な時期を確定できないものが殆どであるが、他遺構との切り合いから、ある程度の時間幅を推定できるものもある。ここでは土坑と同様に個別の事実記載は行わず、出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容などを表にまとめて掲載した。

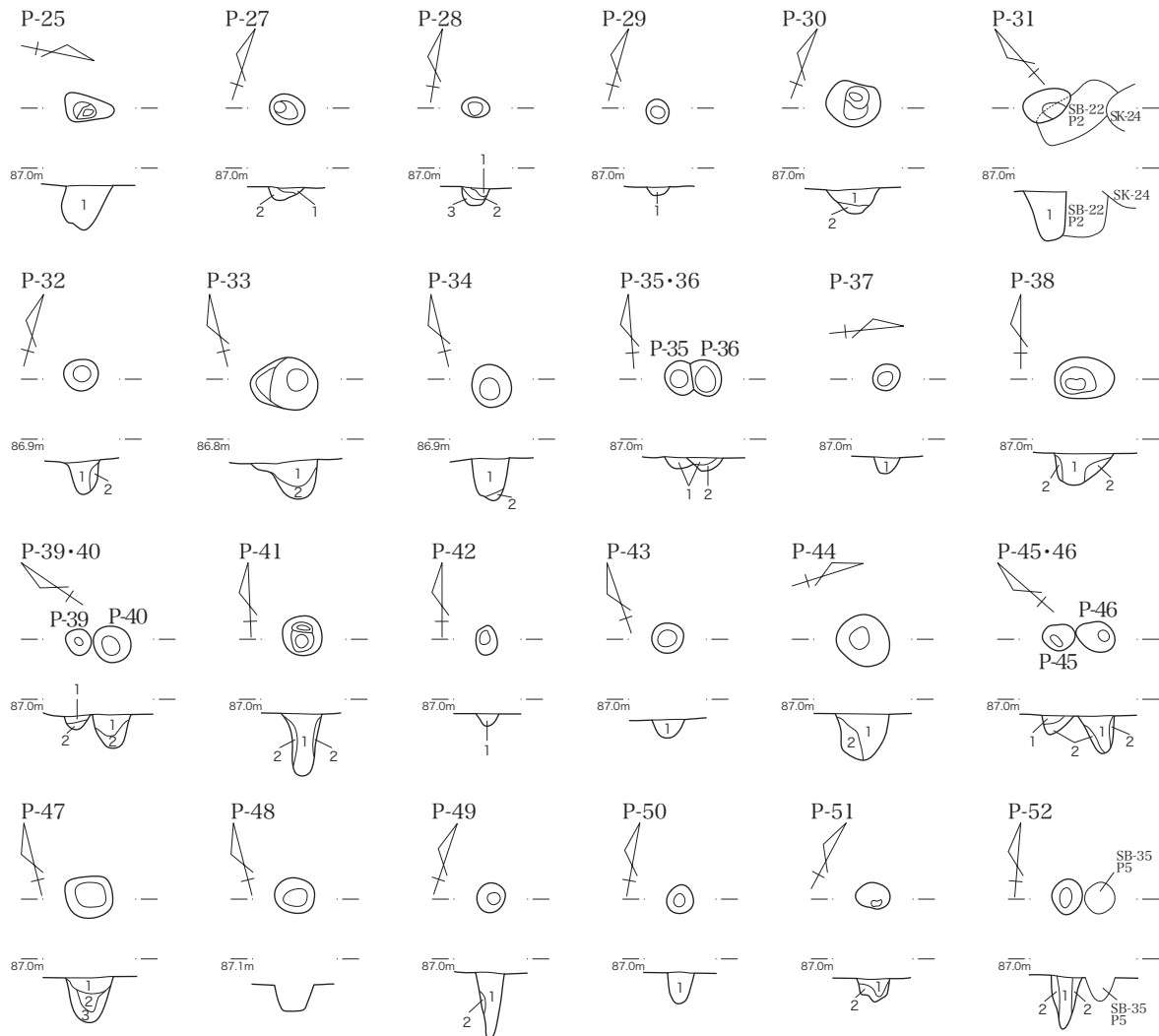
本調査区では、ピットは全体的に確認されているが、敢えて言えば、9区北部の東半部付近が最も集中している区域といえる。グリッドではX=96.0以北、Y=55.0以東の範囲である。覆土は、単層で自然堆積と考えられるもの、レンズ状の堆積を示すもの、或いは掘立柱建物跡の柱穴同様に柱痕をもつものなど多様である。

遺物が出土したピットはP-29のみである。1はロクロ成形の土師器坏で、体部内面はヘラミガキのち黒色処理されている。奈良時代の遺物と考えられる。



- | | | | | | |
|---|---|---|--|---|--|
| <p>P-1
1 暗褐色土</p> <p>P-2
1 暗黄褐色土</p> <p>P-4
1 暗褐色土</p> <p>P-114
1 暗褐色土</p> <p>P-115,116
1 暗黄褐色土
2 暗黄褐色土
3 暗褐色土
4 暗黄褐色土</p> <p>P-117
1 暗褐色土</p> <p>P-118
1 暗褐色土</p> | <p>ローム粒少量、ローム塊(φ1~5cm)微量。しまりやや弱、粘性中。(自然堆積)</p> <p>ローム塊(φ5mm~1cm程)・ローム粒少量。しまりやや弱、粘性中。(人為的堆積、抜き取り)</p> <p>ローム粒少量、ローム小塊微量。しまりやや弱、粘性中。</p> <p>ローム粒多量、ローム塊(φ1~2cm)中量。しまりやや強、粘性中。</p> <p>ローム粒多量、ローム塊(φ1~4cm)中量。しまりやや強、粘性中。</p> <p>ローム塊(φ1~2cm)中量、ローム粒少量。しまりやや強、粘性中。</p> <p>ローム粒・ローム塊(φ1~2cm)多量。しまりやや弱(ぐずぐず)、粘性中。</p> <p>ローム粒やや多量、ローム塊(φ1~8cm)中量。しまりやや弱、粘性中。</p> <p>ローム粒少量、ローム小塊・焼土粒微量。しまりやや強、粘性中。</p> | <p>2 褐色土</p> <p>P-5
1 暗褐色土</p> <p>P-6
1 褐色土
2 褐色土</p> <p>P-7,26
1 暗褐色土
2 暗褐色土</p> <p>3 褐色土</p> <p>4 暗黄褐色土</p> <p>P-59
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土</p> <p>P-8,9,10,13
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土</p> | <p>ローム粒・ローム塊(φ1~2cm)中量。しまりやや弱、粘性中。</p> <p>ローム粒微量。しまりやや弱、粘性中。</p> <p>ローム粒・ローム小塊中量。しまりやや強、粘性中。</p> <p>ローム粒・ローム塊(φ1~2cm)多量。しまりやや弱、粘性中。</p> <p>ローム粒少量。しまりやや弱、粘性中。</p> <p>ローム塊(φ1~2cm)中量、ローム粒少量。しまり弱(ぐずぐず)、粘性中。</p> <p>ローム塊(φ1~2cm)中量、ローム粒少量。しまり弱、粘性中。</p> <p>ローム塊(φ1~2cm)多量、ローム粒少量。しまりやや弱、粘性やや強。</p> <p>ローム粒・ローム塊(φ1cm)中量。しまり弱、粘性中。</p> <p>ローム粒・ローム塊(φ1~2cm)多量。しまり弱、粘性中。</p> <p>ローム粒微量。しまりやや強、粘性中。</p> <p>ソフトローム多量。しまりやや強、粘性強。</p> | <p>P-11,12
1 暗褐色土
2 褐色土</p> <p>P-14,15,16
1 黒褐色土</p> <p>P-17,18,19
1 暗褐色土</p> <p>P-20,21
1 暗黄褐色土</p> <p>P-22
1 暗褐色土
2 黄褐色土</p> <p>P-24
1 暗褐色土</p> | <p>ローム粒少量。しまりやや弱、粘性中。ローム粒中量。しまりやや強、粘性中。</p> <p>ローム粒少量、ローム塊(φ1~5cm程)微量。しまりやや弱、粘性中。(自然堆積)</p> <p>ローム塊(φ5mm)・ローム粒微量。しまりやや弱、粘性中。(自然堆積)</p> <p>ローム塊(φ3cm程)少量。しまりやや弱、粘性中。(人為的堆積、抜き取り)</p> <p>ローム塊(φ2~5cm程)・ローム粒少量。しまりやや強、粘性中。(人為的堆積)</p> <p>ローム塊(φ2~3cm程)・ローム粒中量、小礫微量。しまり弱、粘性やや強。(人為的堆積)</p> <p>ローム粒少量、ローム塊(φ2~3cm程)微量。しまりやや弱、粘性中。(自然堆積)</p> |
|---|---|---|--|---|--|

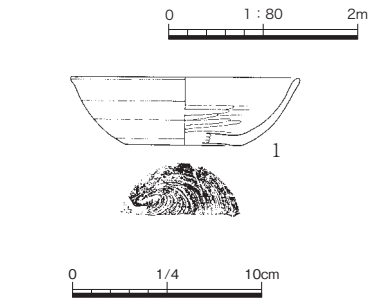
第311図 西刑部西原遺跡9区 ピット実測図(1)



- P-25
1 暗黄褐色土
- P-27
1 黒褐色土
2 暗褐色土
- P-28
1 暗黄褐色土
2 黒褐色土
3 暗褐色土
- P-29
1 暗褐色土
- P-30,33
1 暗褐色土
2 褐色土
- P-31
1 暗黄褐色土
- P-32
1 褐色土
2 暗黄褐色土
- P-34
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
- P-35
1 褐色土
- P-36
1 暗褐色土
2 褐色土
- P-37
1 暗褐色土
- P-38
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
- P-39
1 暗褐色土
- P-40
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
- P-41
1 暗褐色土
2 褐色土
- P-42
1 暗褐色土
- P-43
1 褐色土
- P-44
1 暗褐色土
2 褐色土
- P-45
1 褐色土
2 暗黄褐色土
- P-46
1 褐色土
2 暗黄褐色土
- P-47
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
- P-48
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
- P-49
1 暗褐色土
- P-50
1 暗褐色土
- P-51
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
- P-52
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土

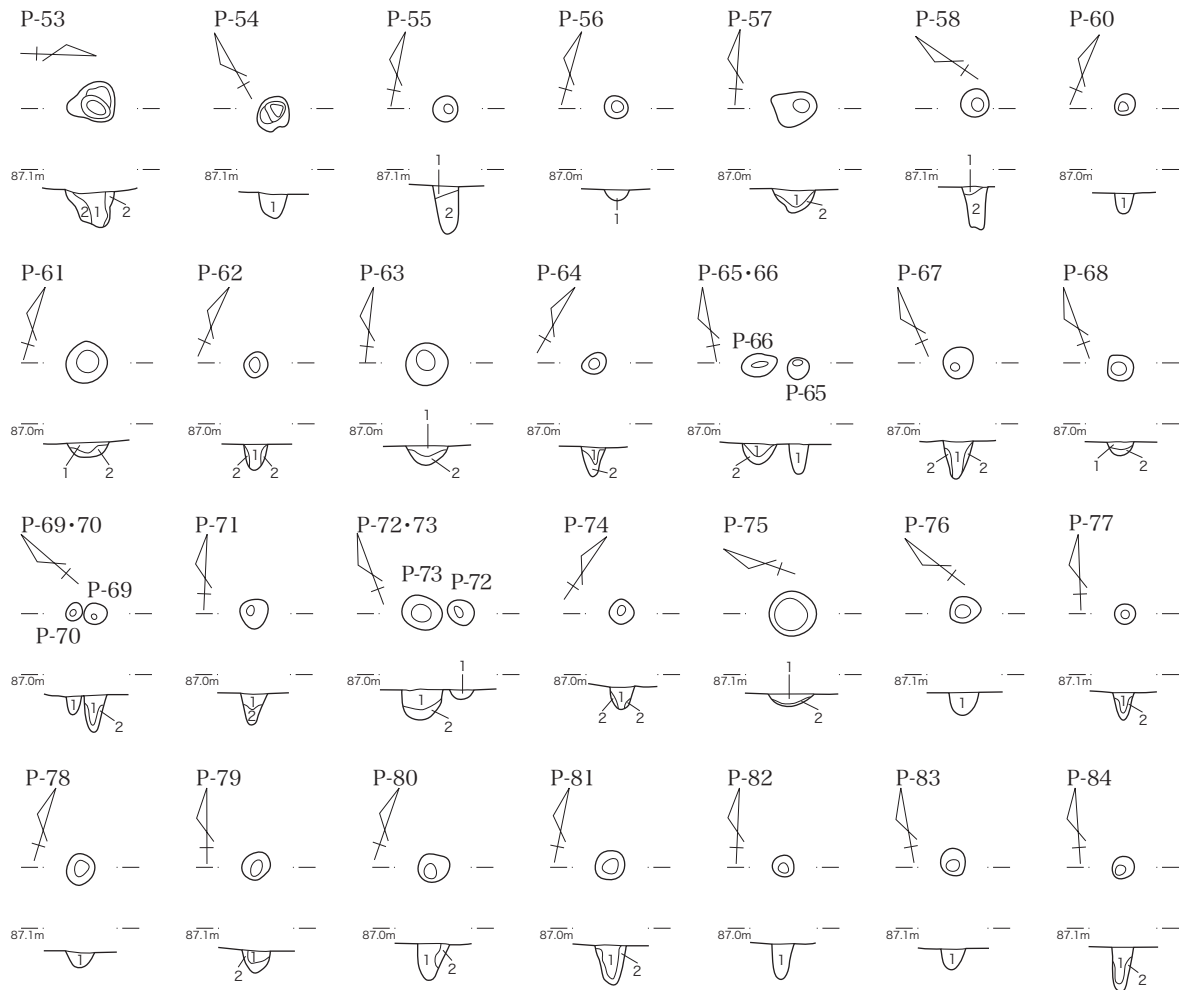
- P-25
1 暗黄褐色土
- P-27
1 黒褐色土
2 暗褐色土
- P-28
1 暗黄褐色土
2 黒褐色土
3 暗褐色土
- P-29
1 暗褐色土
- P-30,33
1 暗褐色土
2 褐色土
- P-31
1 暗黄褐色土
- P-32
1 褐色土
2 暗黄褐色土
- P-34
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
- P-35
1 褐色土
- P-36
1 暗褐色土
2 褐色土
- P-37
1 暗褐色土
- P-38
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
- P-39
1 暗褐色土
- P-40
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
- P-41
1 暗褐色土
2 褐色土
- P-42
1 暗褐色土
- P-43
1 褐色土
- P-44
1 暗褐色土
2 褐色土
- P-45
1 褐色土
2 暗黄褐色土
- P-46
1 褐色土
2 暗黄褐色土
- P-47
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
- P-48
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
- P-49
1 暗褐色土
- P-50
1 暗褐色土
- P-51
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
- P-52
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土

- P-25
1 暗黄褐色土
- P-27
1 黒褐色土
2 暗褐色土
- P-28
1 暗黄褐色土
2 黒褐色土
3 暗褐色土
- P-29
1 暗褐色土
- P-30,33
1 暗褐色土
2 褐色土
- P-31
1 暗黄褐色土
- P-32
1 褐色土
2 暗黄褐色土
- P-34
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
- P-35
1 褐色土
- P-36
1 暗褐色土
2 褐色土
- P-37
1 暗褐色土
- P-38
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
- P-39
1 暗褐色土
- P-40
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
- P-41
1 暗褐色土
2 褐色土
- P-42
1 暗褐色土
- P-43
1 褐色土
- P-44
1 暗褐色土
2 褐色土
- P-45
1 褐色土
2 暗黄褐色土
- P-46
1 褐色土
2 暗黄褐色土
- P-47
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
- P-48
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
- P-49
1 暗褐色土
- P-50
1 暗褐色土
- P-51
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
- P-52
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土

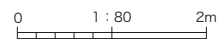


第312図 西刑部西原遺跡9区
P-29 出土遺物

第313図 西刑部西原遺跡9区 ピット実測図(2)



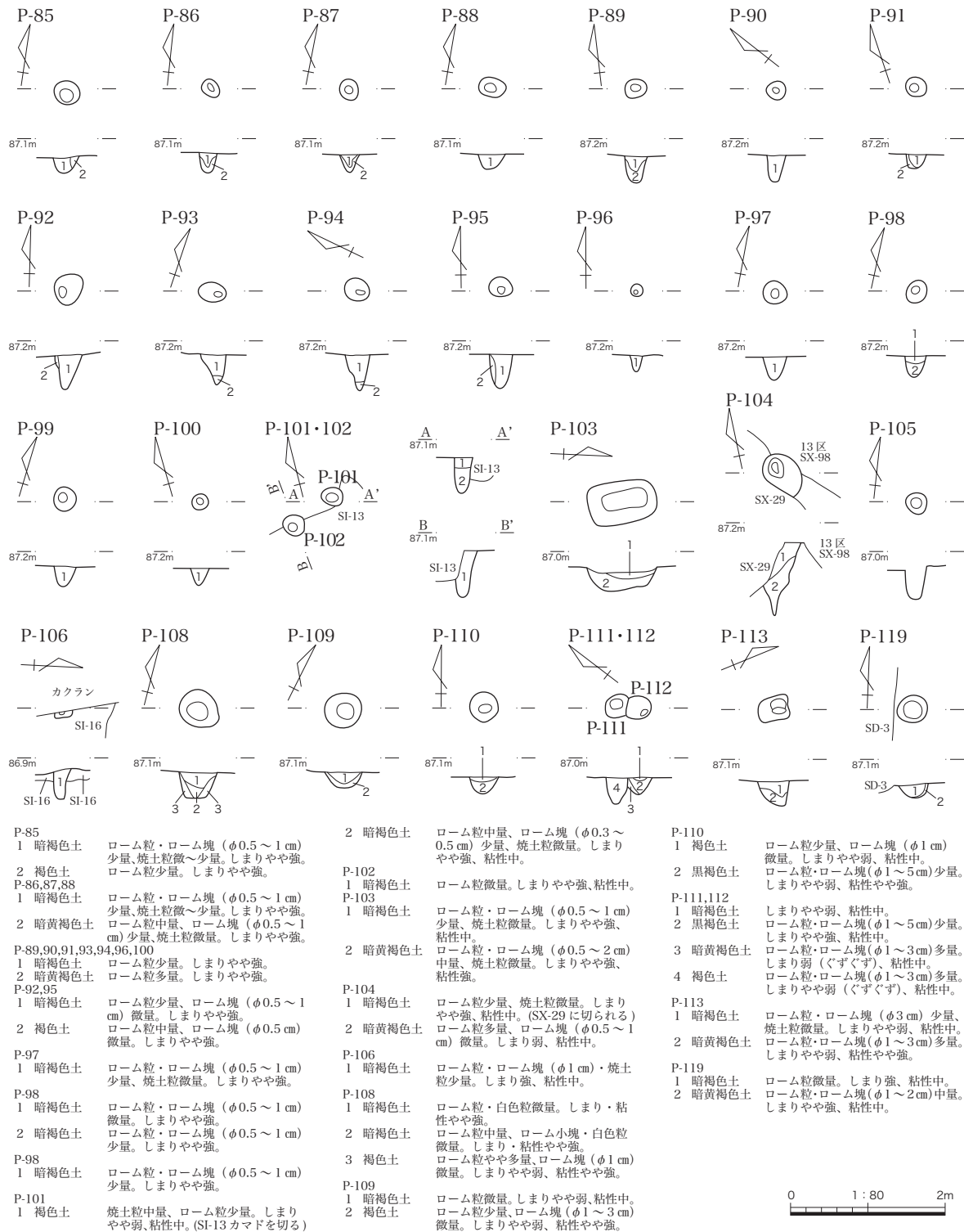
- P-53
1 黒褐色土
2 暗黄褐色土
- P-54
1 黒褐色土
- P-55,58
1 黒褐色土
2 黒褐色土
- P-56
1 暗褐色土
- P-57,61,63
1 暗褐色土
2 褐色土
- P-57,61,63
1 暗褐色土
2 褐色土
- P-60,70
1 褐色土
- P-62,64,65,67,68
1 暗褐色土
2 褐色土
- P-66
1 暗褐色土
2 暗褐色土
- P-69
1 黒褐色土
2 暗褐色土
- P-71
1 暗褐色土
- P-72
1 褐色土
2 暗黄褐色土
- P-73
1 暗褐色土
2 褐色土
- P-74
1 黒褐色土
2 褐色土
- P-75,76
1 暗褐色土
2 褐色土
- P-77
1 暗褐色土
2 暗褐色土
- P-78
1 褐色土
- P-79
1 暗褐色土
2 褐色土
- P-80,82,83
1 暗褐色土
2 暗褐色土
- P-81
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
- P-84
1 暗褐色土
2 褐色土



第314図 西刑部西原遺跡9区 ピット実測図(3)

第140表 9区 P-29 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 坏	口 (11.8) 底 [6.2] 高 3.5	口クロ仕上げ。内面やや疎らなヘラミガキ。内外面黒色処理。底部外面回転糸切り。	内: 5Y2/1 黒 外: 5Y3/1 オリーブ黒	やや緻密、白細砂～粗砂 焼成: やや硬質	覆土中	口縁部 1/10、底部 2/5



第315図 西刑部西原遺跡9区 ピット実測図(4)

第141表 9区 ピット計測表

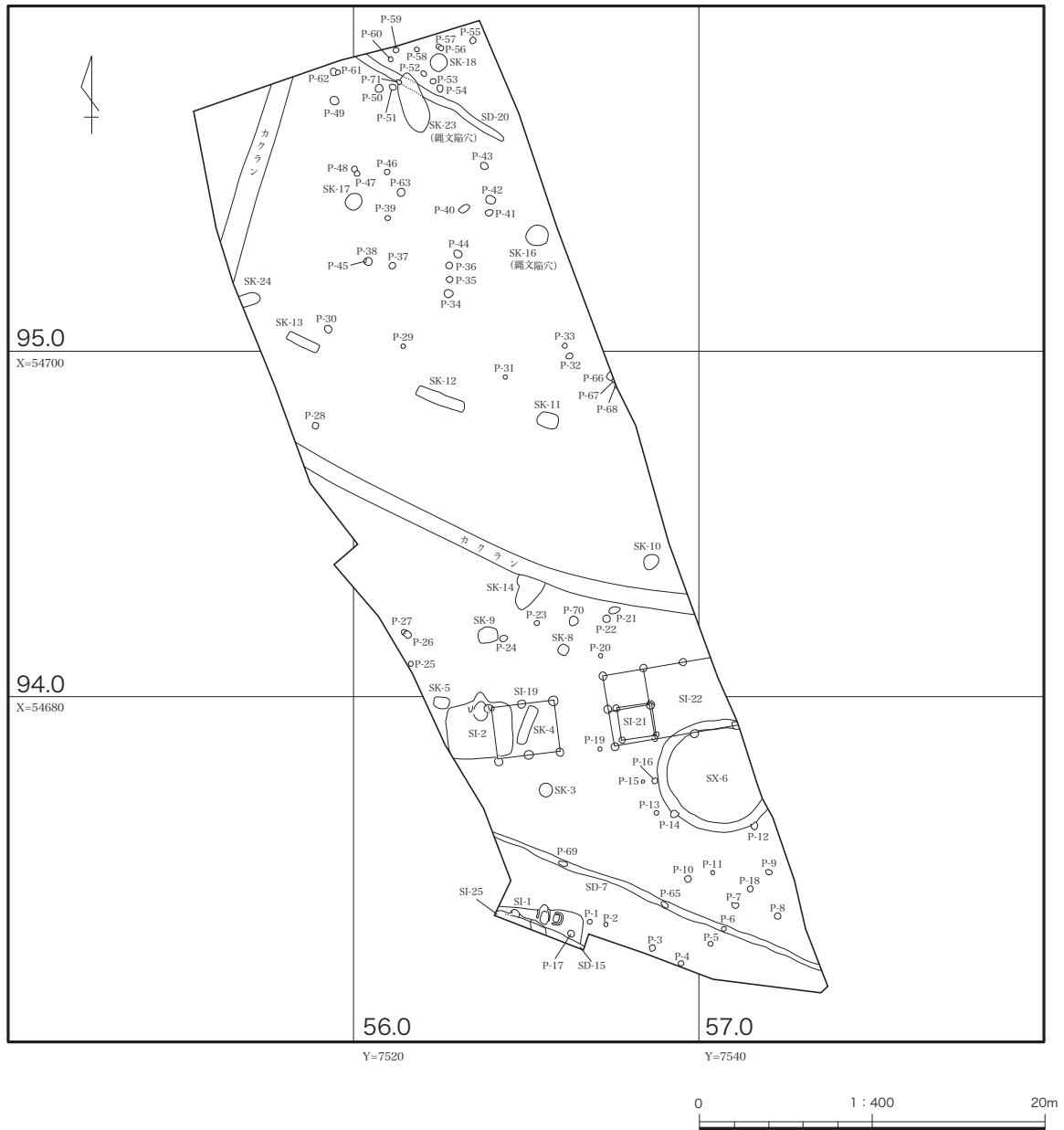
遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
P-1	52.5-93.5	—	0.29	0.25	0.24	
P-2	52.5-93.5	円形	0.5	0.5	0.5	
P-3	52.0-93.5	楕円形	0.42	0.34	0.12	
P-4	53.5-96.5	—	0.23	0.18	0.16	P-6・117と重複
P-5	52.0-93.0	円形	0.38	0.35	0.31	
P-6	53.5-96.5	円形	0.32	0.26	0.39	P-4と重複
P-7	54.0-96.5	—	0.34	0.26	0.64	P-26・59と重複
P-8	52.0-93.0	—	0.34	0.29	0.1	
P-9	52.5-93.0	—	0.46	0.39	0.12	
P-10	52.0-93.0	—	0.32	0.3	0.19	
P-11	52.0-92.5	円形	0.27	0.26	0.6	
P-12	52.0-92.5	円形	0.36	0.29	0.55	
P-13	52.0-92.5	円形	0.31	0.3	0.12	
P-14	52.5-93.5	円形	0.33	0.31	0.21	
P-15	52.5-93.5	円形	0.37	0.36	0.17	
P-16	52.5-93.5	円形	0.25	0.24	0.19	
P-17	52.5-93.5	円形	0.3	0.25	0.42	
P-18	52.5-93.5	円形	0.26	0.25	0.2	
P-19	52.5-93.5	円形	0.34	0.3	0.11	
P-20	52.5-93.5	楕円形	0.3	0.23	0.46	
P-21	52.0-93.5	楕円形	0.34	0.23	0.25	
P-22	52.5-94.0	楕円形	0.35	0.26	0.51	SD-120と重複
P-23	52.0-93.5	—	(0.24)	(0.15)	(0.38)	SD-120と重複
P-24	52.0-93.5	円形	0.29	0.25	0.34	
P-25	52.5-93.0	—	0.53	0.3	0.48	
P-26	54.0-96.5	—	0.4	0.31	0.31	P-7・59と重複
P-27	54.0-96.0	円形	0.37	0.32	0.14	
P-28	54.0-96.0	円形	0.29	0.21	0.19	
P-29	54.0-96.0	円形	0.26	0.25	0.09	
P-30	53.5-96.5 53.5-96.0	—	0.57	0.46	0.26	
P-31	53.5-96.0	—	0.48	0.34	0.53	SB-22と重複
P-32	53.5-96.0	円形	0.37	0.35	0.35	
P-33	53.5-96.0	楕円形	0.71	0.55	0.42	
P-34	53.5-95.5	円形	0.47	0.43	0.45	
P-35	54.0-96.0	円形	0.36	0.27	0.12	P-36と重複
P-36	54.0-96.0	円形	0.41	0.31	0.16	P-35と重複
P-37	54.0-96.0	円形	0.28	0.28	0.17	
P-38	55.0-96.0	楕円形	0.64	0.45	0.34	
P-39	55.0-96.0	円形	0.29	0.28	0.15	
P-40	55.5-96.0	円形	0.42	0.4	0.36	
P-41	55.5-96.0	円形	0.42	0.41	0.56	
P-42	55.5-95.5	楕円形	0.31	0.24	0.13	
P-43	55.5-96.0	円形	0.34	0.33	0.2	
P-44	55.0-96.0	楕円形	0.57	0.54	0.5	
P-45	55.0-96.0	楕円形	0.31	0.3	0.21	
P-46	55.0-96.0	—	0.4	0.32	0.4	
P-47	55.5-96.0	—	0.49	0.45	0.48	
P-48	55.5-96.0	円形	0.42	0.39	0.3	
P-49	56.0-95.5	円形	0.32	0.3	0.7	
P-50	56.0-95.5	円形	0.31	0.29	0.35	
P-51	54.0-96.5	楕円形	0.36	0.27	0.24	
P-52	56.0-95.5	円形	0.38	0.33	0.55	
P-53	54.0-96.5	—	0.52	0.43	0.37	
P-54	54.0-96.5	—	0.39	0.33	0.27	
P-55	54.0-96.5	円形	0.27	0.26	0.51	
P-56	56.0-96.0	円形	0.25	0.25	0.12	
P-57	56.0-96.0	—	0.47	0.4	0.23	
P-58	54.0-96.5	円形	0.3	0.29	0.46	
P-59	54.0-96.5	—	0.3	0.27	0.29	P-7・26と重複
P-60	56.0-96.0	円形	0.23	0.21	0.22	
P-61	56.0-96.0	円形	0.44	0.43	0.15	
P-62	56.0-96.0	楕円形	0.28	0.25	0.27	
P-63	55.5-96.0 56.0-96.0	円形	0.45	0.44	0.21	
P-64	55.5-96.0	楕円形	0.27	0.2	0.32	
P-65	55.5-96.0	円形	0.23	0.23	0.32	
P-66	55.5-96.0	楕円形	0.37	0.24	0.23	
P-67	55.5-96.0	円形	0.35	0.32	0.39	
P-68	55.5-96.0 55.5-96.5	円形	0.31	0.29	0.15	

第3章 遺跡の環境

P-69	55.5-96.5	円形	0.25	0.23	0.40	
P-70	55.5-96.5	円形	0.21	0.16	0.20	
P-71	55.5-96.5	円形	0.31	0.29	0.33	
P-72	55.0-96.5	円形	0.28	0.26	0.10	
P-73	55.5-96.5	楕円形	0.43	0.35	0.32	
P-74	55.5-96.5	楕円形	0.27	0.26	0.24	
P-75	55.0-96.5	円形	0.49	0.49	0.15	
P-76	55.5-96.5	円形	0.33	0.29	0.25	
P-77	54.5-96.5	円形	0.21	0.21	0.3	
P-78	55.5-96.5	円形	0.34	0.3	0.15	
P-79	55.5-96.5	円形	0.3	0.3	0.23	
P-80	55.5-96.5	円形	0.33	0.3	0.4	
P-81	55.5-96.5	円形	0.32	0.31	0.41	
P-82	55.5-96.5	円形	0.22	0.22	0.38	
P-83	55.5-96.5	円形	0.3	0.27	0.21	
P-84	55.0-96.5	円形	0.23	0.23	0.46	
P-85	55.5-96.5	円形	0.33	0.3	0.2	
P-86	55.5-97.0	楕円形	0.26	0.2	0.27	
P-87	55.5-97.0	円形	0.27	0.25	0.22	
P-88	55.5-97.0	楕円形	0.35	0.26	0.19	
P-89	55.0-97.0	円形	0.29	0.25	0.34	
P-90	55.0-97.0	円形	0.24	0.24	0.35	
P-91	55.0-97.0	円形	0.25	0.25	0.18	
P-92	55.0-97.0	楕円形	0.39	0.35	0.45	
P-93	55.0-97.0	楕円形	0.35	0.25	0.38	
P-94	55.0-97.0	円形	0.32	0.3	0.47	
P-95	55.0-97.0 55.0-97.5	楕円形	0.3	0.27	0.44	
P-96	55.0-97.0 55.0-97.5	円形	0.16	0.15	0.21	
P-97	55.0-97.5	円形	0.3	0.3	0.31	
P-98	55.5-97.5	円形	0.29	0.26	0.27	
P-99	55.5-97.5	円形	0.31	0.21	0.26	
P-100	55.0-97.0	円形	0.21	0.21	0.23	
P-101	55.0-96.5	楕円形	0.28	0.24	0.46	SI-13 と重複
P-102	55.0-96.5	円形	0.27	0.27	0.6	SI-13 と重複
P-103	55.0-96.0	楕円形	0.87	0.56	0.24	
P-104	55.0-97.0	楕円形	0.62	0.41	0.95	SX-29 と重複
P-105	55.5-97.0	円形	0.29	0.25	0.38	
P-106	55.5-97.0	—	(0.18)	(0.08)	0.38	SI-16 と重複
P-108	54.0-96.5	楕円形	0.53	0.47	0.33	
P-109	54.0-96.5	円形	0.47	0.46	0.2	
P-110	53.5-96.5	円形	0.4	0.37	0.22	
P-111	53.5-96.5	円形	0.35	0.29	0.35	P-112 と重複
P-112	53.5-96.5	円形	0.35	0.3	0.22	P-111 と重複
P-113	53.5-96.5	—	0.46	0.4	0.32	
P-114	53.5-96.5	楕円形	0.48	0.26	0.54	
P-115	53.5-96.5	—	0.37	0.33	0.33	P-116 と重複
P-116	53.5-96.5	—	0.43	0.36	0.29	P-115 と重複
P-117	53.5-96.5	—	0.39	0.3	0.55	P-4 と重複
P-118	53.5-96.5	円形	0.26	0.25	0.37	SD-3 と重複
P-119	53.5-96.5	円形	0.4	0.35	0.17	

第10節 10区の遺構と遺物

本調査区は遺跡北東部に位置し、台地状の平坦面にあたる。北は9区北部と、南は14区とそれぞれ境を接する。遺構は、南部は建物が多いのに対し、北部は土坑・ピットなどが多い。遺構の総数は、竪穴建物跡3棟、掘立柱建物跡3棟、円形周溝遺構1基、溝3条、土坑13基、ピット70基が確認された。

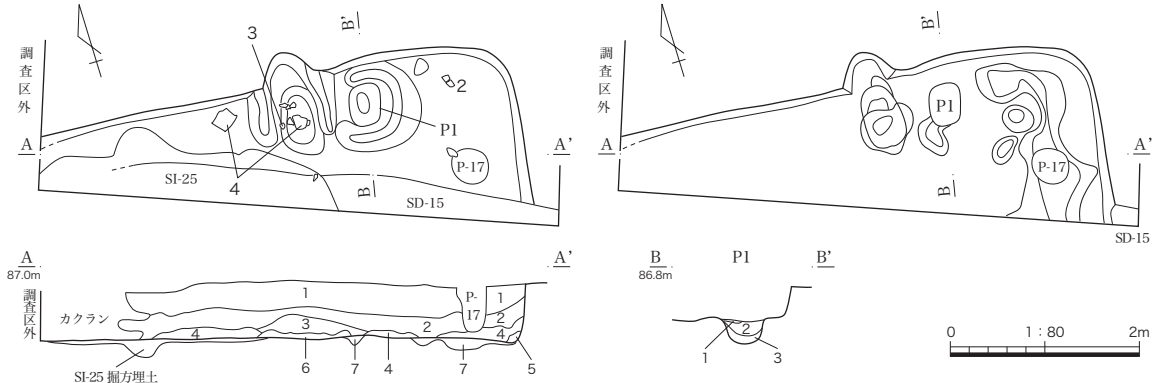


第316図 西刑部西原遺跡10区 全体図 (S=1/400)

1. 竪穴建物跡

10区 SI-1 (遺構：第317図、遺物：第318図、図版五〇・一〇四)

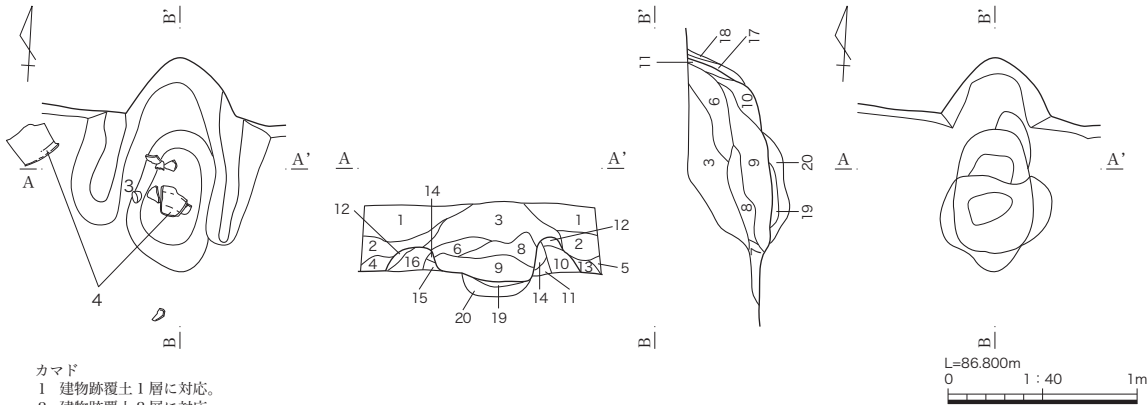
位置 グリッド 93.0-56.0・93.0-56.5 重複遺構 SI-25より新しく、P-17より古い。 平面形 隅丸方形か。 規模 東西5.0m以上×南北1.8m以上 主軸方向 N -6° -W 覆土 自然堆積か。暗褐色土及び黒褐色土を主体とする。 壁 壁高31～62cm 床 部分的に貼床で、やや凹凸あり。 柱穴・入口ピット・壁溝 確認できなかった。 貯蔵穴 P1(長軸45～短軸32cm、深さ25cm)は南北軸の隅丸長方形で、周



SI-1

- 1 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊(φ5mm～3cm程)微量。しまりやや強、粘性中。
- 2 黒褐色土 ローム粒少量、ローム塊(φ5mm～5cm)微量。しまりやや弱、粘性やや強。
- 3 黒灰褐色土 灰色粘土塊(φ1cm程)・ローム粒少量、ローム塊(φ5mm～3cm程)・焼土塊(φ5mm程)微量。しまりやや弱、粘性中。
- 4 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊(φ5mm～1cm程)微量。やや砂質。しまりやや弱、粘性中。
- 5 黒褐色土 ローム塊(φ5mm～3cm程)・ローム粒少量。しまりやや弱、粘性中。

- 6 黒灰色土 焼土塊(φ5mm程)少量、砂粒微量。灰質土。しまり弱、粘性中。
 - 7 黄褐色土 ローム主体、暗褐色土微量。建物外側に向かうにつれ、暗褐色土混入量若干増加する。しまり強、粘性やや強。
- P1
- 1 暗灰色土 ローム塊(φ5mm～1cm)・焼土塊(φ5mm～1cm)・暗灰色粘土塊(φ5mm～1cm)・ローム粒中量。しまりやや強、粘性中。
 - 2 暗褐色土 ローム塊(φ5mm～2cm)・ローム粒中量、炭化塊(φ1cm程)・暗灰色粘土塊(φ5mm程)少量。しまりやや弱、粘性中。
 - 3 暗黄褐色土 ローム主体、褐色土混入。しまりやや弱、粘性やや強。



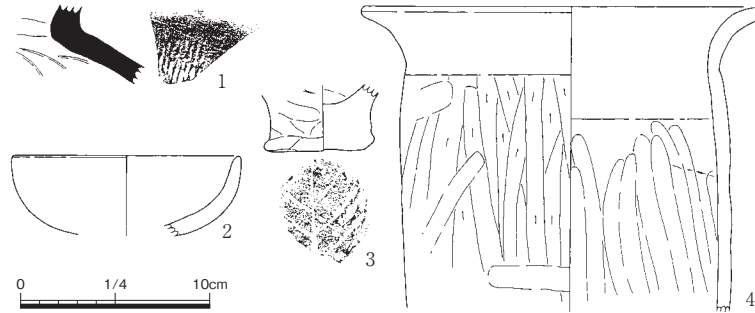
カマド

- 1 建物跡覆土1層に対応。
- 2 建物跡覆土2層に対応。
- 3 黒灰色土 ローム塊(φ5mm程)・焼土塊(φ5mm程)・炭化粒・ローム粒微量、灰色粘土混じり黒色土中に混入。しまり・粘性やや強。
- 4 暗灰褐色土 ローム塊(φ5mm～5cm程)・ローム粒少量、焼土粒微量。褐色土混じり灰色粘土。しまりやや弱、粘性やや強。
- 5 黄褐色土 灰褐色粘土塊(φ5mm～2cm程)・ローム粒・砂粒少量。褐色土混じりローム。しまりやや弱、粘性やや強。
- 6 赤灰色土 焼土塊(φ5mm～3cm程)・焼土粒中量、ローム粒微量。灰混じり粘土。しまりやや弱、粘性やや強。
- 7 建物跡覆土6層に対応。
- 8 暗赤灰色土 焼土塊(φ5mm～2cm程)・灰色粘土塊(φ1～3cm程)少量、ローム粒・炭化粒微量、灰質土。しまりやや弱、粘性やや強。
- 9 暗赤褐色土 焼土塊(φ5mm程)少量、炭化粒微量。灰質土。しまりやや弱、粘性強。
- 10 暗灰色土 焼土塊(φ5mm程)・ローム塊(φ5mm程)・ローム粒微量、灰質土に混入。しまり弱、粘性やや弱。
- 11 灰色土 焼土塊(φ1cm程)・ローム塊(φ1～3cm程)微量。いずれのブロックも火床にみられる淡赤色(焼土塊)及び、水分の抜けた引き締まった状態(ローム塊)。灰色粘土少量混入、カマドに貼られたものか。しまりやや弱、粘性やや強。

- 12 暗灰色土 ローム塊(φ1～3cm程)・焼土塊(φ1cm程)微量。褐色土混じり灰色粘土に混入。しまり・粘性やや強。
- 13 暗黄褐色土 ローム塊(φ3～5cm程)中量、ローム粒少量、褐色土混じり灰色粘土に混入。しまり・粘性やや強。
- 14 赤灰色土 焼土塊(φ5mm～1cm程)・炭化塊(φ5mm程)微量、灰色粘土に混入。しまり・粘性やや弱。被熱により赤色化強い。
- 15 灰褐色土 17層に同じ。しまり・粘性やや強。被熱による赤色化弱い。
- 16 灰色土 灰色粘土主体、ローム粒・炭化粒微量。しまり・粘性やや強。
- 17 暗灰色土 ローム塊(φ1～3cm程)少量、灰色粘土に混入。ローム塊は、やや被熱を受けひきしまる。しまりやや弱、粘性やや強。
- 18 黒灰色土 ローム塊(φ5mm～1cm程)・焼土塊(φ5mm程)微量、黒色土・炭化粒混じり暗灰色粘土に混入。しまりやや弱、粘性やや強。
- 19 暗赤褐色土 焼土塊(φ1～3cm程)・被熱ローム塊(φ1～3cm程)・焼土粒多量。しまりやや弱、粘性中。
- 20 暗褐色土 焼土塊(φ1～3cm程)・被熱ローム塊(φ1～3cm程)・焼土粒中量、ローム粒微量。しまり・粘性やや弱。(掘方)

第317図 西刑部西原遺跡10区 SI-1実測図

囲に堤防状の掘り残しあり。掘方 底面に凹凸あり、7層で埋戻す。カマド 北壁を半円形に掘り込む。煙道は約65°で立ち上がる。袖は灰色粘土を主体に構築する。燃烧部の底面付近から在地産の長胴甕(4)が出土した。遺物 4点を図示した。1は須恵器甕破片。2の土師器坏は磨滅が顕著で調整不明。3は土師器の手捏ね土器か。底部外面の木の葉痕跡が極めて明瞭である。不掲載遺物は在地産土師器甕や土師器坏小破片が主体で、小コンテナ箱1/8弱と少ない。古墳時代終末期(7世紀後半)の建物跡と考えられる。



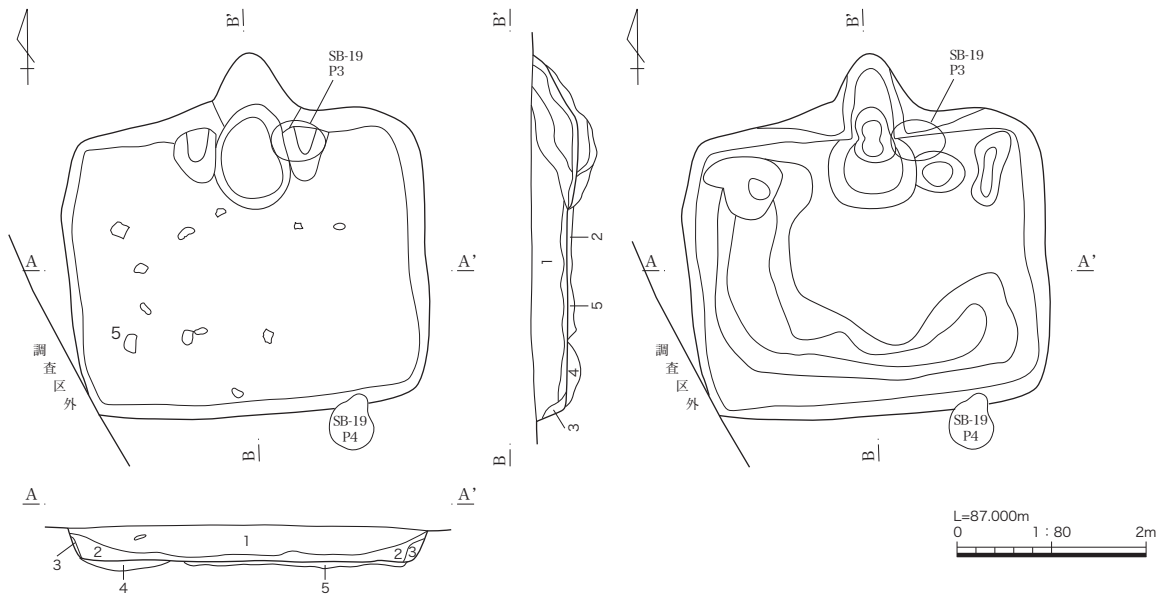
第318図 西刑部西原遺跡10区 SI-1出土遺物

第142表 10区 SI-1出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・焼成・素材	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器甕	高 [3.7] 厚 1.2	頸部内外面ナデ。胴部内面無文あて具痕。胴部外面平行叩き。	内:5Y4/1 灰 外:5Y6/1 灰	やや粗い、白粒粗砂~礫 焼成:硬質	北西	頸部破片
2	土師器坏	口 (11.8) 高 [4.2]	内外面剥落顕著で調整不明。	内外面とも 2.5Y4/1 黄灰	粗い、白粗砂 焼成:やや硬質	No.7 1.1	口縁部~体部 1/2
3	土師器手捏ね土器	底 4.5 高 [3.5]	体部外面指頭押圧及びナデ。内面ヘラナデ。底部外面明瞭な木葉痕。	内外面とも 2.5Y8/3 淡黄	やや緻密、白・黒細砂 焼成:やや硬質	No.3 5.1	底部 3/5
4	土師器甕	口 (22.0) 高 [16.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面タテユビナデか。胴部外面タテヘラケズリのちナデ。外面一部に焼土附着。	内:10YR7/4 にぶい黄橙 外:10YR6/4 にぶい黄橙	やや粗い、白・灰細砂~礫 焼成:やや軟質	No.1・4 3.9 (No.1)	口縁部~胴部 上半 1/4

10区 SI-2 (遺構:第319図、遺物:第320図、図版五〇・一〇四)

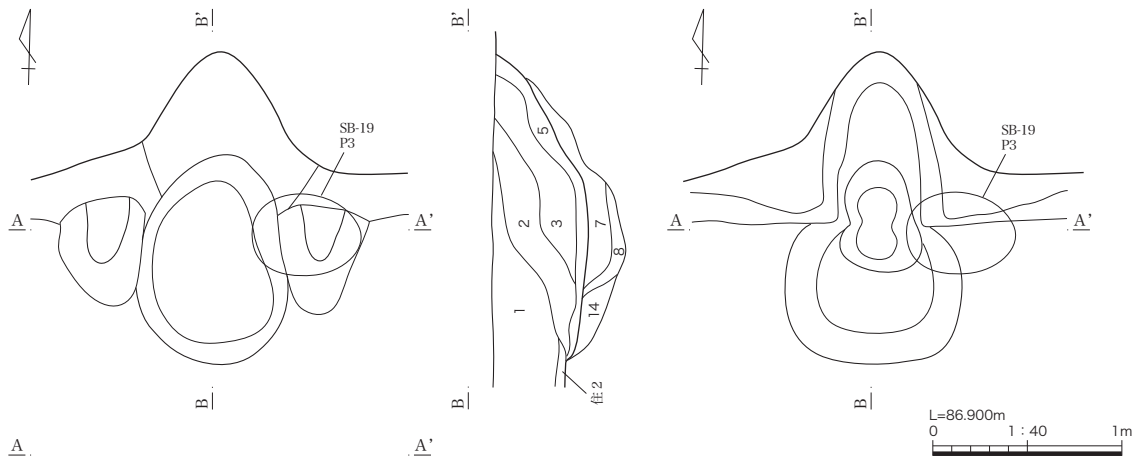
位置 グリッド 93.5-56.0 重複遺構 SB-19 と重複し本遺構が新しい。平面形 隅丸方形を呈する。規模 東西 3.7×南北 3.1 m 主軸方向 N -4.5° -W 覆土 自然堆積と考えられる。壁 壁高 27~37 cm 床 全面的に薄い貼床が見られる。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 建物跡の四隅及び南西部にかけて浅い掘り込みをもち、ローム土主体の5層で埋戻している。カマド 北壁中央部に位置する。壁をU字状に深く掘り込み、袖は暗灰褐色の粘土で構築する。燃烧部から煙道にかけ掘り込みをもち、7・8・14層で埋戻している。遺物 床面直上の遺物は皆無で殆どが覆土中の遺物である。計5点を図示した。1は須恵器坏。2・3は須恵器甕の口縁部・胴部の破片。4は小形の甕で台付甕の可能性もある。5は多孔質安山岩製の砥石で、6面すべてに明瞭な使用痕が見られる。不掲載の土師器は坏小破片や、武蔵型・常総型の甕小破片が多く、須恵器は坏・蓋小片が計3点のみである。総量は小コンテナ箱1/10程度と極めて少ない。奈良時代前葉の建物跡と考えられる。



SI-2

- 1 暗褐色土 ローム粒微～少量、焼土粒微量(ほぼ黒色土)。しまり強、粘性中。
- 2 褐色土 ローム粒少～中量、焼土粒・ローム塊(φ0.5～1cm)微量。しまりやや強、粘性中。

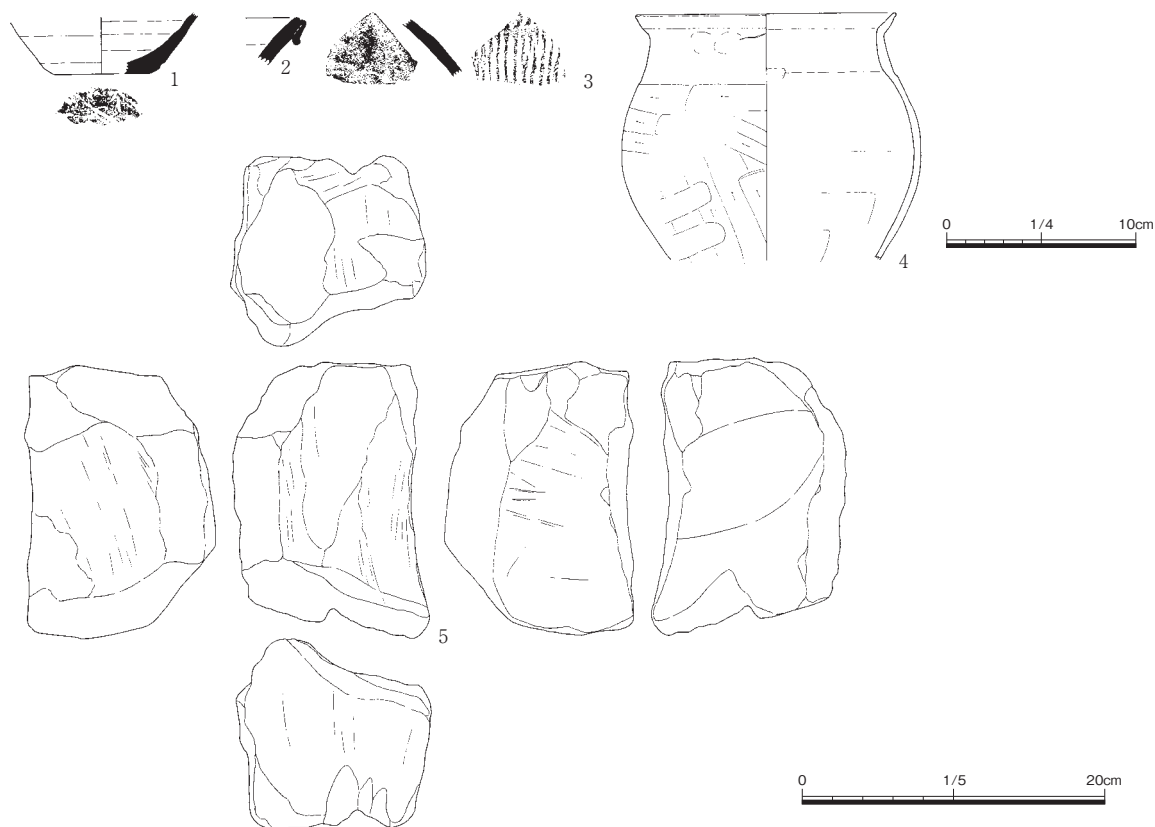
- 3 暗黄褐色土 ローム粒・ローム塊主体。しまりやや強、粘性強。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒多量、ローム塊(φ1～2cm程)少量。しまりやや弱、粘性中。(貼床)
- 5 暗黄褐色土 ローム粒中量、ローム塊(φ1～3cm程)少量。しまりやや強、粘性中。(貼床)



カマド

- 1 建物跡覆土1層に対応。
- 2 暗褐色土 焼土粒少量、ローム粒・焼土塊(φ0.3～0.5cm程)微量。しまり強、粘性中。(1層より焼土粒が多い)
- 3 灰褐色土 焼土粒少量、ローム粒微量。しまり強。
- 4 褐色土 ローム粒中量、ローム塊(φ0.5～2cm)少量、焼土粒微量。しまりやや強。(建物跡覆土2層と同じ?)
- 5 灰褐色土 焼土粒中量、ローム粒・焼土塊(φ0.3～0.5cm程)少量。しまり強。
- 6 灰褐色土 ローム粒中量、焼土粒・ローム塊(φ0.5～1cm程)少量。しまりやや強、粘性中。
- 7 灰褐色土 焼土粒微量。しまりやや強、粘性強。(カマド底部の火床を形成する)
- 8 暗灰褐色土 焼土粒少量、ローム粒・焼土塊(φ1～1.5cm程)・ローム小塊微量。しまり強、粘性やや強。
- 9 暗灰褐色土 ローム粒・焼土粒微量。しまり・粘性強。(袖)
- 10 暗黄褐色土 ローム粒多量、暗褐色土・ローム塊(φ1～2cm)中量、焼土粒微量。しまり・粘性やや強。
- 13 黄褐色土 ローム主体、暗灰褐色土少量。しまり強、粘性中。
- 14 暗灰褐色土 暗灰褐色土中量、ローム粒・ローム塊(φ0.5～1cm)少量。しまり・粘性やや強。

第319図 西刑部西原遺跡10区 SI-2実測図



第320図 西刑部西原遺跡10区 SI-2出土遺物

第143表 10区 SI-2出土遺物観察表

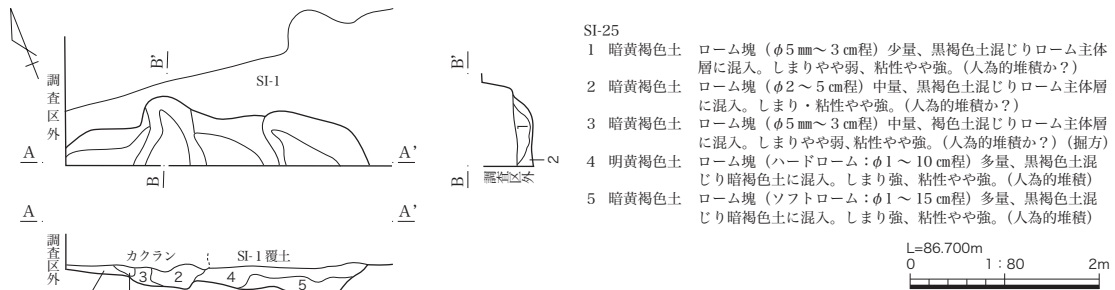
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 坏	底 [3.0] 高 (5.0)	内外面ロクロナデ。底部外面多方向手持ちヘラケズリ。	内外面ともに N5/0 灰	緻密、白粗砂～礫 焼成：硬質	カマド中	口縁部～底部 1/4
2	須恵器 甕	高 [2.6] 厚 0.7	内外面ロクロナデ。口縁部折り返し。	内：5Y4/1 灰 外：10YR3/2 黒褐	やや粗い、白・透明粗砂～礫 焼成：やや硬質	北東	口縁部破片
3	須恵器 甕	高 [3.0] 底 0.5	内面ナデ。外面平行叩き。	内：N5/0 灰 外：N7/0 灰白	やや緻密、白粗砂 焼成：硬質	南東	胴部破片
4	土師器 甕	口 (13.6) 高 [13.1]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半はヨコまたはナメヘラケズリ。下半部はタテヘラケズリ。胴部外面炭化物付着。	内外面とも 5YR5/6 明赤褐	緻密、白細砂 焼成：やや軟質	カマド中	胴部 1/3、 口縁部 1/4
5	石製品 砥石	長 16.7 幅 11.6 厚 12.5 重 1974.8	砥面は6面あるが風化が著しく研磨痕(擦痕)は極めて不明瞭。	7.5Y5/1 灰	多孔質岩山岩か	No.4 9.0	完存

10区 SI-25 (遺構：第321図)

位置 グリッド 93.0-56.0・93.0-56.5 重複遺構 古墳時代終末期の SI-1 調査時に底面から確認された住居。

平面形 大部分が調査区外のため不明。 規模 東西 3.5 m以上 × 南北 0.6 m以上 主軸方向 不明 覆土 自然堆積と考えられる。 壁 壁高 15～34 cm残存。 床 やや凹凸がある。硬化面など未確認。 柱穴・

入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。 掘方 北西隅に浅い土坑状の掘方あり。 カマド 北壁をU字状に掘り込んだ状況のみ確認。焼土などの覆土は残っていない。 遺物 切り合いから、古墳時代終末期以前の建物であることは判明しているが、遺物は確認されず、詳細な時期は不明である。



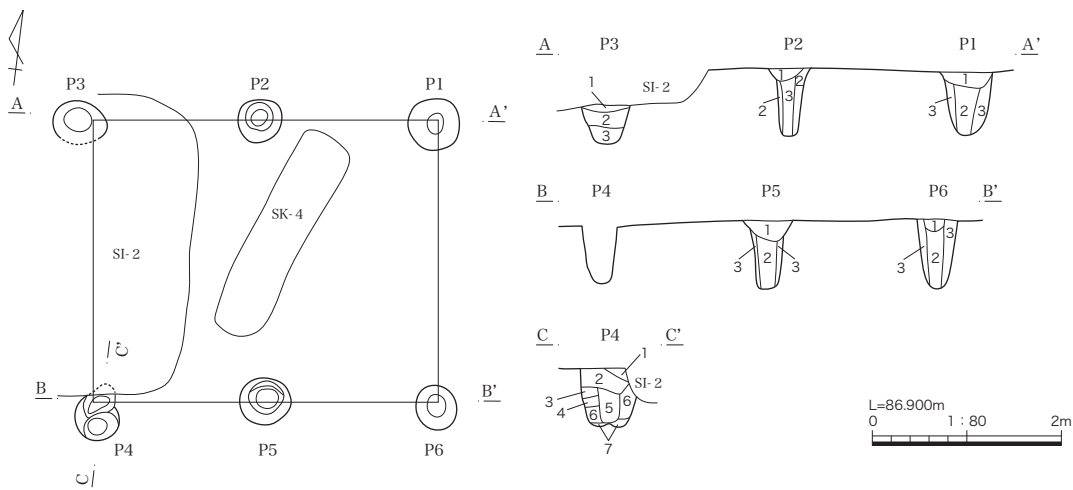
- SI-25
- 1 暗黄褐色土 ローム塊 (φ5mm~3cm程) 少量、黒褐色土混じりローム主体層に混入。しまりやや弱、粘性やや強。(人為的堆積か?)
 - 2 暗黄褐色土 ローム塊 (φ2~5cm程) 中量、黒褐色土混じりローム主体層に混入。しまり・粘性やや強。(人為的堆積か?)
 - 3 暗黄褐色土 ローム塊 (φ5mm~3cm程) 中量、褐色土混じりローム主体層に混入。しまりやや弱、粘性やや強。(人為的堆積か?) (掘方)
 - 4 明黄褐色土 ローム塊 (ハードローム: φ1~10cm程) 多量、黒褐色土混じり暗褐色土に混入。しまり強、粘性やや強。(人為的堆積)
 - 5 暗黄褐色土 ローム塊 (ソフトローム: φ1~15cm程) 多量、黒褐色土混じり暗褐色土に混入。しまり強、粘性やや強。(人為的堆積)

第321図 西刑部西原遺跡10区 SI-25 実測図

2. 掘立柱建物跡

10区 SB-19 (遺構: 第322図、図版五〇)

位置 グリッド 93.5-56.5・93.5-56.0 重複遺構 SI-2、SK-4 との重複は不明。SI-2 (7世紀末~8世紀初) より古いと考えられる。 平面形・規模 桁行2間×梁行1間の東西軸側柱式建物。桁行総長3.64m、梁



SB-19
P1, P2, P5, P6

- 1 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊 (φ1cm) 微量。しまりやや強、粘性中。
- 2 褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ2~4cm程) 中量。しまりやや弱、粘性中。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ2~3cm) 多量。しまりやや強、粘性中。

P3

- 1 暗黄褐色土 ローム粒多量、暗灰褐色土・ローム塊 (φ1~2cm) 中量、焼土粒微量。しまり・粘性やや強。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒多量、ローム塊 (φ0.5~1cm) 中量。しまり・粘性やや強。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒多量、ローム塊 (φ1.5~5cm) 中量。しまり・粘性やや強。

P4

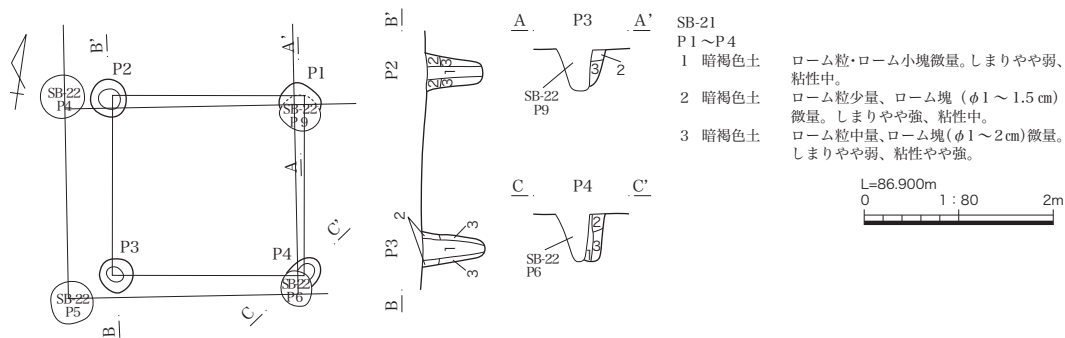
- 1 黒褐色土 ローム粒少量、ローム塊 (φ5mm~1cm程) 微量。しまり弱、粘性中。
- 2 暗褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ5mm~1cm程) 少量。しまりやや強、粘性中。
- 3 暗黄褐色土 ローム塊 (φ5mm~3cm程) 中量、ローム粒微量。しまりやや強、粘性中。
- 4 暗褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ5mm~1cm程) 少量。粘質土。しまり・粘性やや強。
- 5 黒褐色土 ローム粒・ローム塊 (φ1cm程) 微量。しまりやや弱、粘性中。
- 6 暗褐色土 ローム塊 (φ5mm~5cm程) 中量、ローム粒微量。粘質土。しまり・粘性やや強。
- 7 黒褐色土 ローム塊 (φ1~3cm程) 少量。しまりやや強・粘性中。

第322図 西刑部西原遺跡10区 SB-19 実測図

行総長 2.95 m。 柱間 桁行の柱間寸法は約 1.8 m、梁行の柱間寸法は 2.95 mである。 主軸方向 N -82° -E 柱穴 P1 (径約 55 cmの円形、深さ 67 cm)、P2 (径 45 cmの円形、深さ 73 cm)、P3 (径 54 ~ 49 cmの楕円形、深さ 71 cm)、P4 (径 45 cmの円形、深さ 73 cm)、P5 (径 58 ~ 51 cmの円形、深さ 80 cm)、P6 (径 59 ~ 46 cmの楕円形、深さ 61 cm) の計 6 本を確認。このうち P3 と P4 を除くピットから柱痕が確認できた。断面から柱の太さは 12 ~ 20 cm程度と推定される。 遺物 出土遺物は確認できなかった。

10区 SB-21 (遺構：第 323 図、図版五一)

位置 グリッド 93.5-56.5 重複遺構 SB-22 より古い。 平面形・規模 桁行 1 間 × 梁行 1 間の東西棟あるいは南北棟側柱式建物、桁行総長 1.99 m、梁行総長 1.88 m。 柱間 左に同じ。 主軸方向 N - 6° - W 柱穴 P1 (推定径 43 cm前後の円形、深さ 40 cm)、P2 (径約 40 cmの円形、深さ 58 cm)、P3 (径約 36 cmの円形、深さ 64 cm)、P4 (推定径 32 cmの楕円形、深さ 50 cm) の計 4 本を確認した。P2 及び P3 から柱痕が確認され、柱の径は 10 ~ 20 cm前後と推定される。 遺物 時期判別可能な遺物は確認できなかった。

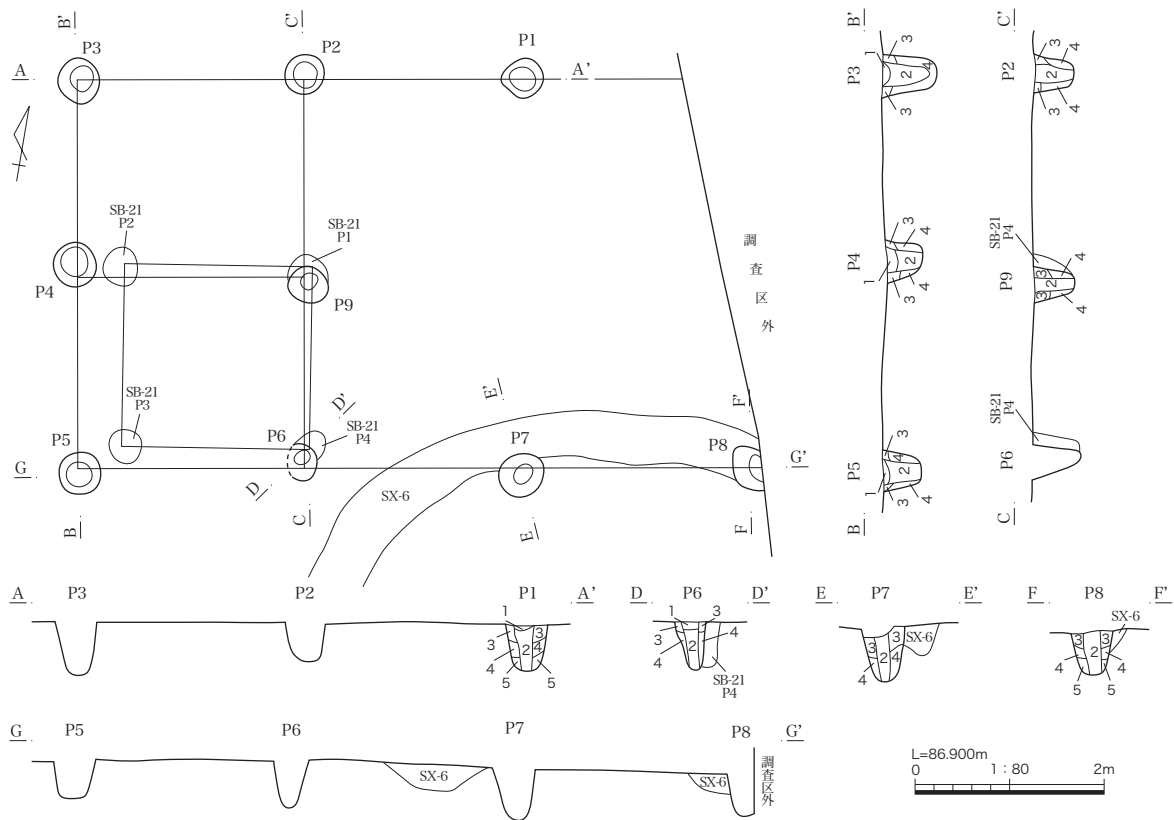


第 323 図 西刑部西原遺跡 10 区 SB-21 実測図

10区 SB-22 (遺構：第 324 図、図版五一)

位置 グリッド 94.0-56.5・93.5-56.5・93.5-57.0 重複遺構 SB-21 及び円形周溝遺構 SX- 6 より新しい。

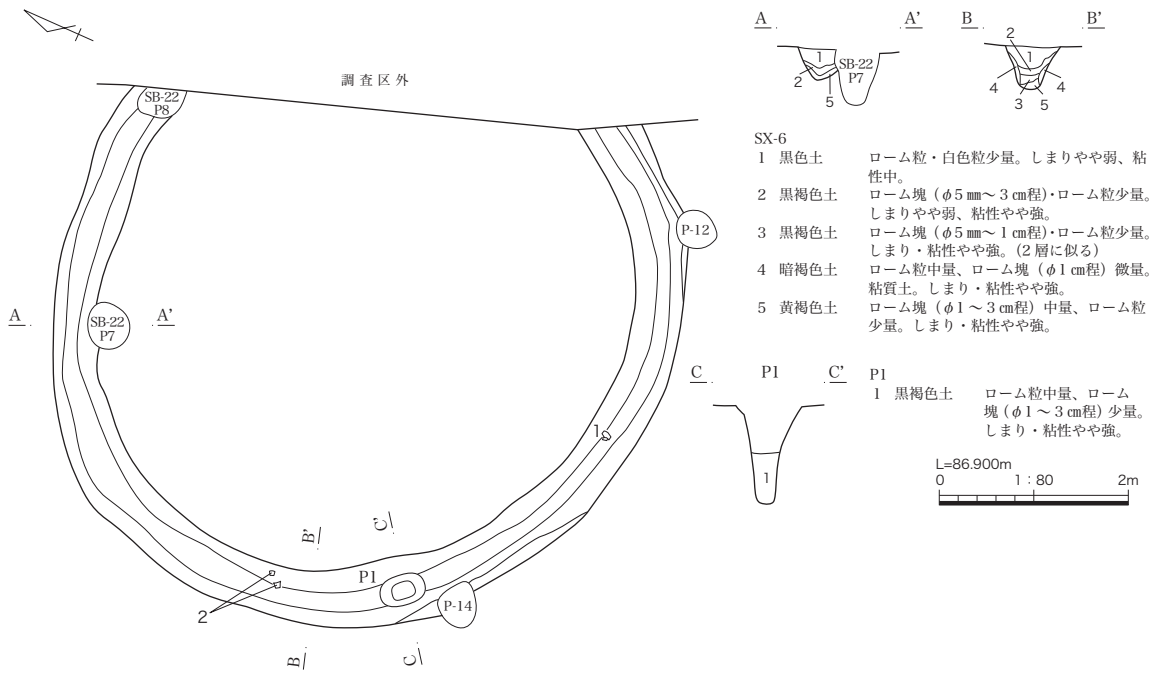
平面形・規模 桁行 3 間以上 × 梁行 2 間の東西棟側柱式建物。桁行総長 7.2 m、梁行総長 4.1 m 柱間 桁行の柱間寸法は平均 2.4 m、梁行の柱間寸法は 2.05 mである。 主軸方向 N -81.0° -E 柱穴 P1 (径 45 ~ 42 cmの円形、深さ 48 cm)、P2 (径 41 cmの円形、深さ 45 cm)、P3 (径 47 cmの円形、深さ 57 cm)、P4 (径 46 cmの円形、深さ 37 cm)、P5 (径 44 cmの円形、深さ 41 cm)、P6 (径 37 ~ 30 cmの楕円形、深さ 51 cm)、P7 (径 47 cmの円形、深さ 60 cm)、P8 (長軸残 42 × 短軸残 36 cmの隅丸方形、深さ 45 cm)、P9 (径 44 ~ 37 cmの円形、深さ 42 cm) の計 9 本の柱穴を確認した。掘方の規模は大きくないが、柱痕が残るものが多い。柱痕は細いもので約 10 cm、太いもので 20 cm程度と推定される。 遺物 時期判別可能な遺物は出土しておらず、詳細な時期は不明である。



- SB-22
P1~P9
- | | | | |
|--------|----------------------------|--------|--|
| 1 暗褐色土 | ローム粒少量、ローム小塊微量。しまりやや強、粘性中。 | 4 暗褐色土 | ローム小塊(φ0.5~1.5cm)多量、ローム粒中量。しまりやや強、粘性中。 |
| 2 黒褐色土 | ローム粒微量。しまりやや弱、粘性中。 | 5 暗褐色土 | ローム粒中量。しまりやや強、粘性中。 |
| 3 暗褐色土 | ローム粒微量。しまりやや弱、粘性中。 | | |

第324図 西刑部西原遺跡10区 SB-22実測図

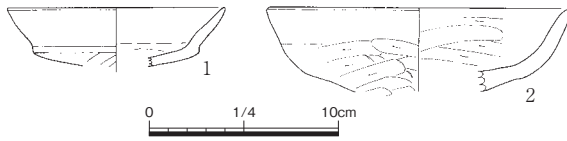
3. 円形周溝遺構



- SX-6
- | | |
|--------|--|
| 1 黒色土 | ローム粒・白色粒少量。しまりやや弱、粘性中。 |
| 2 黒褐色土 | ローム塊(φ5mm~3cm程)・ローム粒少量。しまりやや弱、粘性やや強。 |
| 3 黒褐色土 | ローム塊(φ5mm~1cm程)・ローム粒少量。しまり・粘性やや強。(2層に似る) |
| 4 暗褐色土 | ローム粒中量、ローム塊(φ1cm程)微量。粘質土。しまり・粘性やや強。 |
| 5 黄褐色土 | ローム塊(φ1~3cm程)中量、ローム粒少量。しまり・粘性やや強。 |

- P1
- | | |
|--------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色土 | ローム粒中量、ローム塊(φ1~3cm程)少量。しまり・粘性やや強。 |
|--------|-----------------------------------|

第325図 西刑部西原遺跡10区 SX-6実測図



第326図 西刑部西原遺跡10区 SX-6出土遺物

10区 SX-6 (遺構:第325図、遺物:第326図、図版五一)

位置 グリッド 93.5-56.5・93.5-57.0 重複遺構 SB-22、P-12・14 と重複し、いずれより古い。

規模・平面形 長径:外 6.92m:内 5.72m、短径:外 6.48m:内 5.4m の不整な円形を呈する。溝の上幅 0.48～0.72 m。覆土 黒褐色

土及び暗褐色土主体の自然堆積と考えられる。壁・断面形 壁高 34～46 cm 底面 細かな凹凸あり。南西部に小穴 (P1) あり。ピット P1 (長軸 52～短軸 30 cm、底面からの深さ 54 cm) は隅丸長方形を呈する。

遺物 図示した遺物は2点のみで、いずれも覆土上層から出土した。不掲載遺物は土師器坏及び甕の小破片が数点出土した。古墳時代終末期の遺構と考えたい。

第144表 10区 SX-6出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	土師器坏	口 (11.2) 高 [3.1]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内面ナデ。内面および口縁部外面漆仕上げ。	内外面とも 10YR8/4 浅黄橙	緻密、白微粒 焼成:やや硬質	No.1 36.8	口縁部～体部 1/4
2	土師器坏	口 (15.4) 高 [4.4]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリのちヘラナデ。体部外面ヘラケズリ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	緻密、白細砂、赤粒 焼成:硬質	No.2・3 36.3 (No.3)	体部 1/4

4. 溝

10区 SD-7 (遺構:第327図、図版五一)

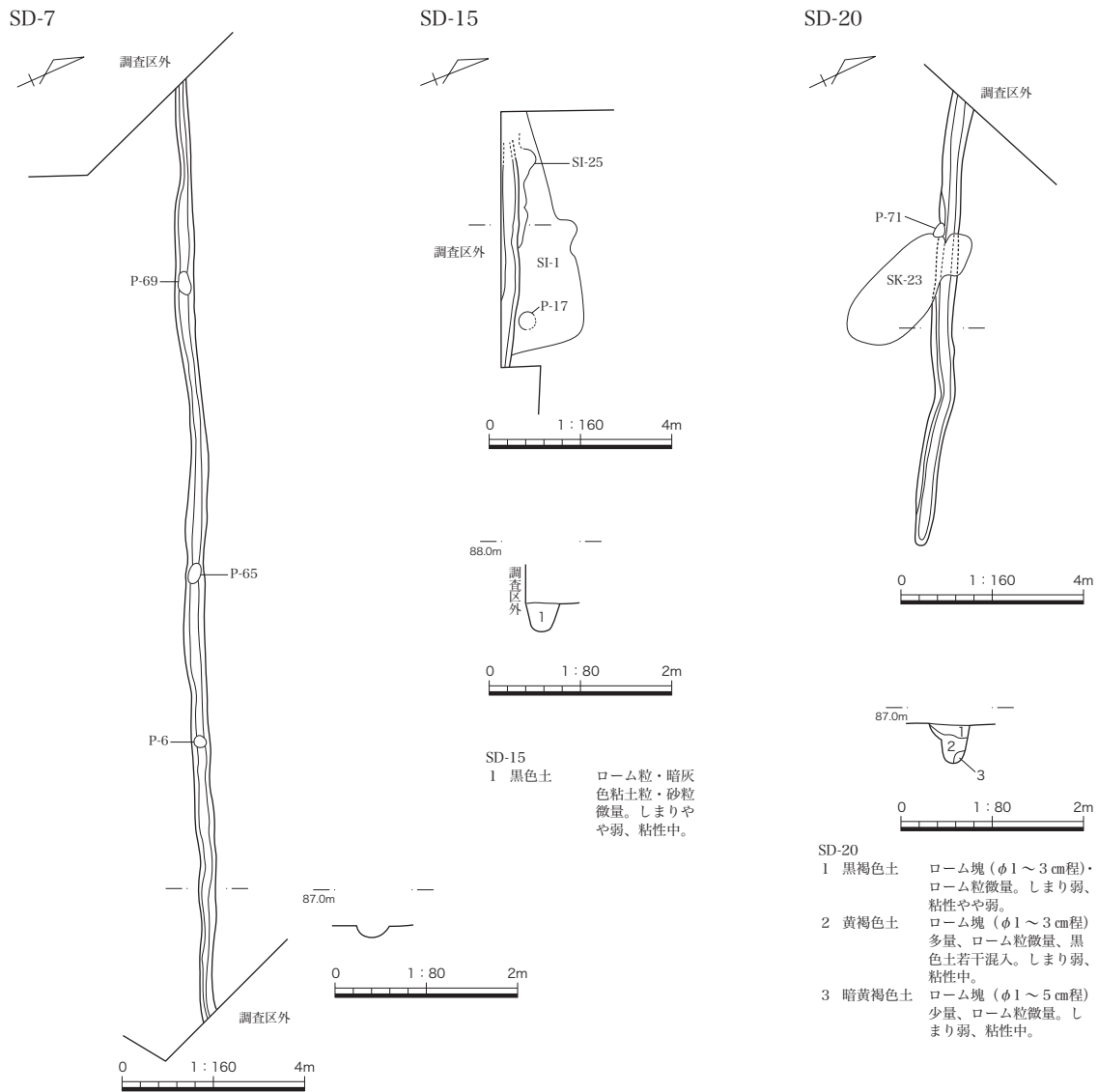
位置 グリッド 93.0-56.0・93.0-56.5・93.0-57.0 重複遺構 P-6・65・69 と重複し、いずれより古い。

規模・形態 長さ 20.5m 以上、上幅 0.28～0.41 m。僅かに蛇行するが、ほぼ直線的に掘られる。覆土 自然堆積と考えられる。壁・断面形 壁高は 28～45 cm、断面形はカマボコ形で、部分的に逆台形を呈する。底面 若干の凹凸があるが、概ね平坦である。覆土 暗褐色土主体の土層で、自然堆積と考えられる。

遺物 遺物は確認できなかったため正確な時期は不明であるが、覆土にしまりが無く、近現代の溝の可能性はある。備考 南 4 m に SD-15 が平行しており、本遺構との関連が窺える。

10区 SD-15 (遺構:第327図、図版五一)

位置 グリッド 93.0-56.0・93.0-56.5 重複遺構 古墳時代終末期の竪穴建物跡 SI-1・25 と重複し、いずれより古い。規模・形態 長さ 4.5 m 以上、幅 36 cm。壁・断面形 壁高は最深部で 31 cm、断面形は逆台形を呈する。底面 若干の小穴があるが、概ね平坦である。覆土 ローム粒および灰褐色粘土粒を含む黒色土主体の土層で、自然堆積と考えられる。遺物 遺物は確認できなかったが、重複関係から古墳時代終末期 (7世紀前葉から中葉) 以降の溝跡と考えられる。備考 北 4 m に SD-7 が平行しており、本遺構との関連が窺える。

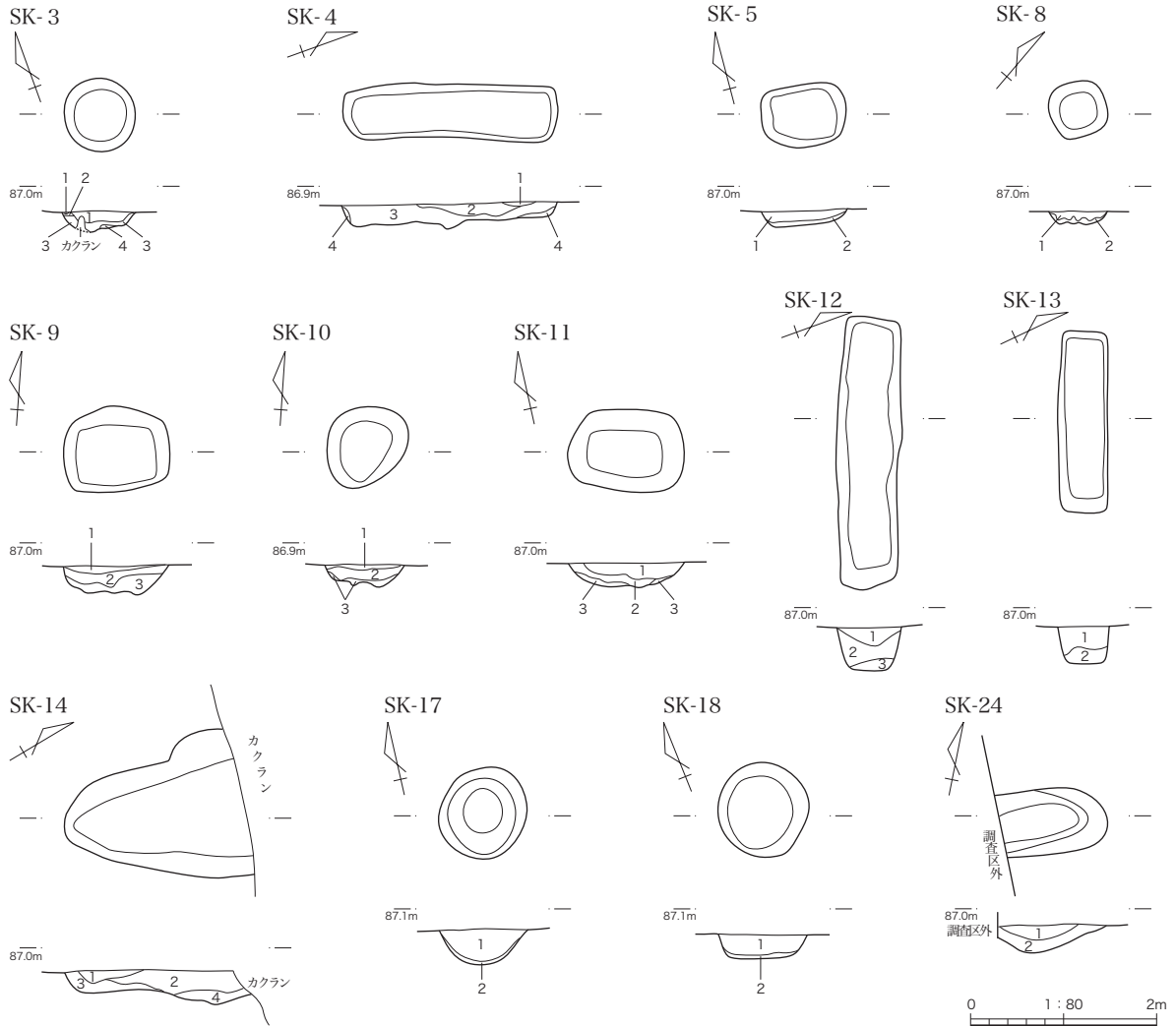


第 327 図 西刑部西原遺跡 10 区 SD- 7・15・20 実測図

10 区 SD-20 (遺構：第 327 図、図版五二)

位置 グリッド 95.5-56.0 重複遺構 縄文時代の陥穴 SK-23 より新しく、P-71 より古い。規模・形態 長さ 9.81m 以上、幅 0.44 m。壁・断面形 壁高は最深部で 41 cm、断面形は U 字状逆を呈する。底面 若干の凹凸がある。覆土 黒褐色土・黄褐色土及び暗黄褐色土からなり、自然堆積と考えられる。遺物 確認できなかった。備考 正確な帰属時期は不明だが、前述した SD- 7 及び SD-15 と規模・形態・方向などが類似しており、同時期に存在していた可能性がある。

5. 土坑



- | | | | |
|---|---|--|--|
| <p>SK-3</p> <p>1 黒色土
2 暗褐色土
3 黒褐色土
4 黄褐色土</p> <p>SK-4</p> <p>1 黒褐色土
2 暗褐色土
3 黒色土
4 褐色土</p> <p>SK-5</p> <p>1 黒色土
2 暗黄褐色土</p> <p>SK-8</p> <p>1 暗褐色土</p> | <p>ローム塊(φ5mm~1cm程)・ローム粒微量。しまり弱、粘性中。</p> <p>ローム粒微量。しまりやや弱、粘性中。</p> <p>ローム塊(φ5mm~3cm程)・ローム粒微量。しまり・粘性やや強。</p> <p>ローム塊(φ5mm~1cm程)多量。しまり・粘性やや強。</p> <p>ローム粒微量。しまりやや弱、粘性中。</p> <p>ローム塊(φ5mm~3cm程)・褐色土塊(φ5mm~3cm程)・ローム粒少量。しまりやや弱、粘性中。</p> <p>ローム粒・灰色粘土粒微量。やや粘質土。しまりやや弱、粘性やや強。</p> <p>ローム塊(φ5mm~1cm程)少量。しまりやや弱、粘性中。</p> <p>ローム粒少量、炭化粒・焼土粒微量。しまりやや弱、粘性中。</p> <p>ローム塊(φ5mm~2cm程)・ローム粒多量。しまりやや弱、粘性中。</p> <p>ローム粒・焼土粒微量。しまりやや強、粘性中。</p> | <p>SK-9</p> <p>1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
3 黄褐色土
2 暗黄褐色土</p> <p>SK-10</p> <p>1 褐色土
2 褐色土
3 褐色土</p> <p>SK-11</p> <p>1 暗褐色土
2 褐色土
3 褐色土</p> <p>SK-12</p> <p>1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 黒褐色土</p> <p>SK-13</p> <p>1 暗褐色土
2 暗褐色土</p> <p>SK-14</p> <p>1 暗褐色土
2 褐色土
3 暗黄褐色土
4 黄褐色土</p> <p>SK-17,18</p> <p>1 黒褐色土
2 暗褐色土</p> <p>SK-24</p> <p>1 黒褐色土
2 暗黄褐色土</p> | <p>ローム粒・焼土粒微量。しまりやや強、粘性中。</p> <p>ローム粒中量、ローム塊(φ1~2cm)少量。しまりやや強、粘性中。</p> <p>ソフトローム主体。黒色土混入。ローム粒中量、ローム塊(φ1~2cm)少量。しまりやや強、粘性中。</p> <p>ローム粒ごく微量。しまり強、粘性中。</p> <p>ローム粒微量。しまり強、粘性中。</p> <p>ローム塊(φ0.5~2cm)少量。しまりやや強、粘性中。</p> <p>炭化物少量、ローム粒・焼土粒微量。しまり強、粘性中。</p> <p>ローム粒・炭化物少量、焼土粒微量。しまり強、粘性中。</p> <p>ローム粒中量、ローム塊(φ1~2cm)少量、焼土粒微量。しまり強、粘性中。</p> <p>ローム粒・ローム塊(φ0.5~2cm)少量。しまり・粘性弱。</p> <p>ローム粒・ローム塊(φ0.5~2cm)中量。しまり・粘性弱。</p> <p>ローム粒・ローム塊(φ0.5~1cm)微量。しまりやや弱、粘性中。</p> <p>ローム粒・ローム塊(φ0.5~2cm)中量。しまり・粘性弱。</p> <p>ローム粒・ローム塊(φ1~5cm)少量。しまりやや強、粘性中。</p> <p>ローム粒・ローム塊(φ1~3cm)少量。しまりやや強、粘性中。</p> <p>ローム粒・ローム塊(φ1~3cm)少量。しまりやや強、粘性中。</p> <p>ローム粒・ローム塊(φ1~3cm)中量。しまりやや強、粘性中。</p> <p>ローム粒・ローム塊(φ0.5~1cm)・白色粒少量、焼土粒微量。しまり強、粘性中。</p> <p>ローム粒・ローム塊(φ0.5~2cm)少量、焼土粒・白色粒微量。しまり強、粘性中。</p> <p>ローム粒・焼土粒・今市P微量。しまりやや強、粘性中。</p> <p>ローム粒多量、ローム塊(φ1~2cm)中量、今市P微量。しまり・粘性やや強。</p> |
|---|---|--|--|

第328図 西刑部西原遺跡10区 土坑実測図

本調査区からは計13基の土坑が確認されたが、他の調査区同様遺物の出土量が極めて少ないため明確な時期は確定できない。ただし他遺構との切り合いから、ある程度の時間幅を推定できるものもある。ここでは

遺構個別の事実記載は行わず、表にまとめて掲載し、特徴的な遺構については補足説明を行う。土坑を概観すると、平面形は円形又は楕円形を呈し、比較的浅めのものが多い。このうち径 1m 以下の土坑は 5 基 (SK- 3・8・10・17・18)、1m 以上は 2 基 (SK-14・24) である。覆土は、人為埋戻しか自然堆積かは明確にできないが、明らかな人為埋戻しは確認できなかった。時期は古墳時代から平安時代が多いと考えられる。この他長方形の土坑があり、幅広で小型のもの (SK- 5・9・11) と、長く幅の狭いもの (SK- 4・12・13) に分類できる。後者は覆土にしまりがなく、中世以降 (近現代) の土坑の可能性が高い。

第 145 表 10 区 土坑計測表

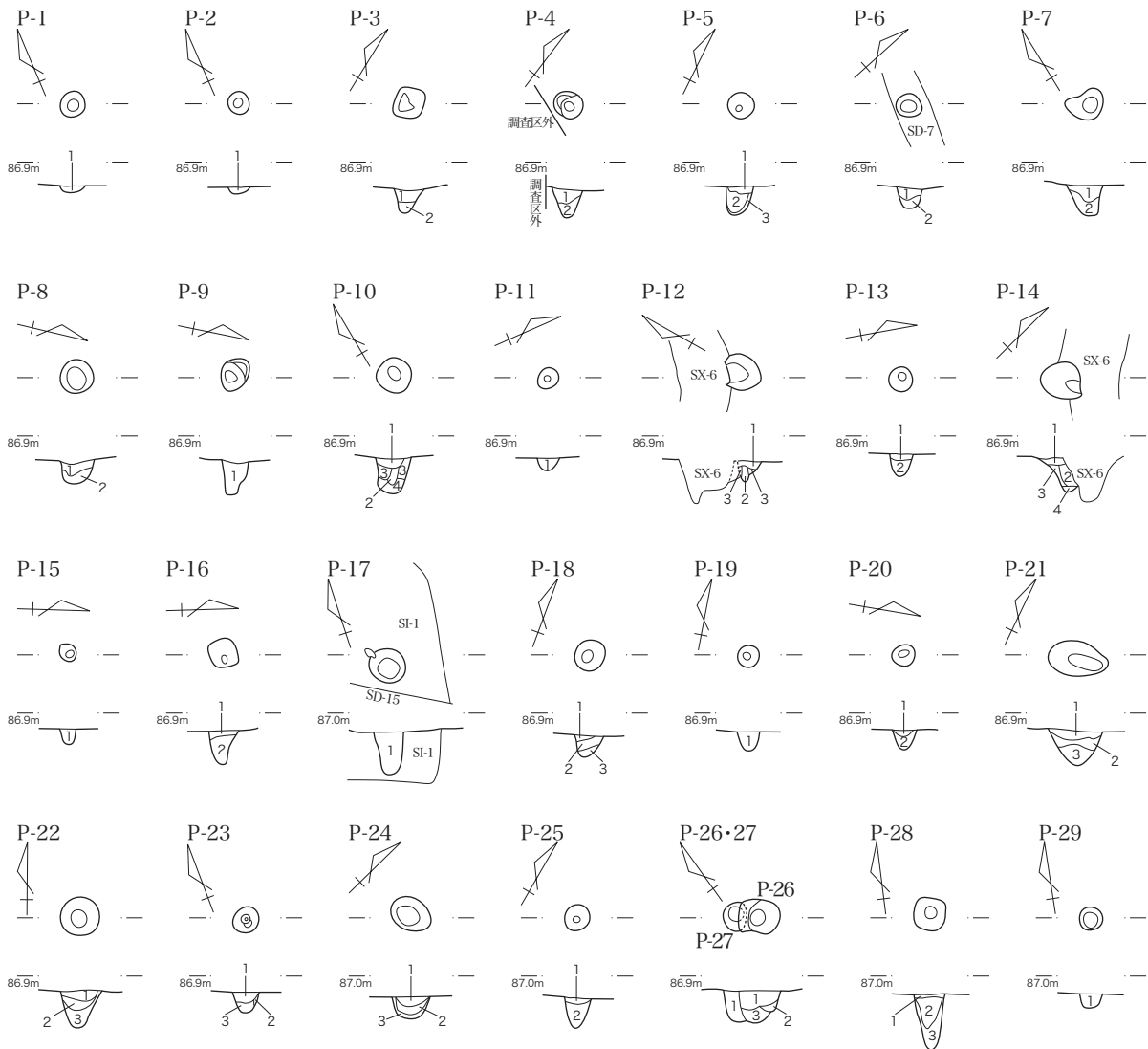
遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
SK-3	93.5-56.5	円形	0.8	0.76	0.24	
SK-4	93.5-56.5 93.5-56.0	方形	2.34	0.56	0.23	中世以降の長方形坑と考えられる
SK-5	93.5-56.0	円形	0.91	0.69	0.16	やや不整な長方形
SK-8	94.0-56.5	円形	0.67	0.66	0.14	隅丸方形に近い
SK-9	94.0-56.0	隅丸長方形	1.15	0.93	0.31	
SK-10	94.0-56.5 94.0-57.0	円形	0.96	0.81	0.24	不整な円形 底面には小さな凹凸が見られる
SK-11	94.5-56.5	隅丸長方形	1.25	0.85	0.25	
SK-12	94.5-56.0	方形	2.9	0.65	0.46	中世以降の長方形土坑と考えられる
SK-13	95.0-55.5	方形	1.95	0.52	0.4	
SK-14	94.0-56.5 94.0-56.0	—	(1.94)	1.61	0.36	土坑北端部は、攪乱により破壊されている
SK-17	95.0-55.5 95.0-56.0	円形	1.0	0.9	0.41	
SK-18	95.5-56.0	円形	1.02	0.96	0.25	
SK-24	95.0-55.5	—	(1.14)	0.7	0.32	

6. ピット

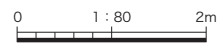
本調査区から確認されたピット (小穴) は計 70 基である。土坑と同様、遺物の出土量が少ないため明確な時期を確定できない場合が多いが、他遺構との切り合いから、ある程度の時間幅を推定できるものもある。ここでは土坑と同様に個別の事実記載は行わず、出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容などを表にまとめて掲載した。本調査区では、ピットは全体的に確認されているが、10 区中央部の分布密度がやや低いようである。覆土は、単層で自然堆積と考えられるもの、レンズ状の堆積を示すもの、或いは掘立柱建物跡の柱穴同様に柱痕をもつものなど多様である。図示可能な遺物が出土したピットは P-46 のみである。1 は平行叩きの須恵器甕破片で、古墳時代以降の遺物と考えられる。



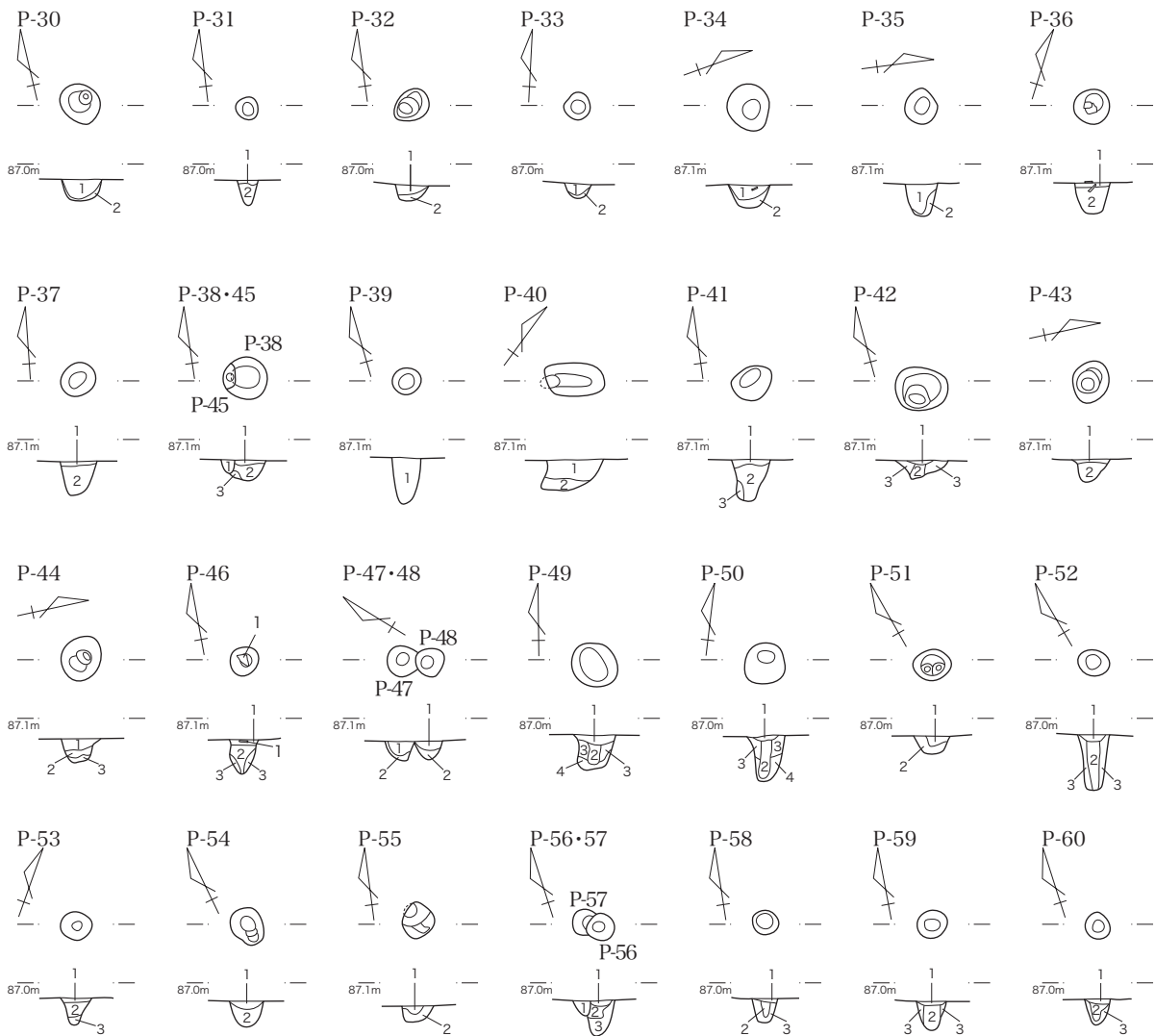
第 329 図 西刑部西原遺跡 10 区 P-46 出土遺物



- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|--|
| <p>P-1, P-2
1 暗褐色土</p> <p>P-3
1 黒褐色土
2 褐色土</p> <p>P-4
1 黒色土
2 黒褐色土</p> <p>P-5
1 暗褐色土
2 黒褐色土
3 黄褐色土</p> <p>P-6
1 黒褐色土
2 黄褐色土</p> <p>P-7
1 黒色土
2 黒褐色土</p> <p>P-8
1 黒褐色土
2 暗灰褐色土</p> | <p>ローム粒・灰色粘土粒微量。しまり弱、粘性やや強。</p> <p>ローム塊 (φ5mm~2cm程)・褐色土塊 (φ5mm~2cm程) 少量、ローム粒微量。しまりやや弱、粘性中。ローム塊 (φ5mm~1cm程) 多量。黒色土を混入。しまり弱、粘性中。</p> <p>ローム粒微量。しまりやや強、粘性中。ローム塊 (φ5mm~1cm程)・ローム粒少量。しまりやや弱、粘性中。</p> <p>ローム粒微量。しまり弱、粘性やや強。ローム塊 (φ5mm~1cm程)・ローム粒少量。しまりやや弱、粘性中。ローム粒多量。しまり弱、粘性やや強。</p> <p>ローム塊 (φ1~2cm程)・褐色土塊 (φ1~2cm程) 少量、ローム粒微量。しまり弱、粘性中。ローム塊 (φ5mm~1cm程) 多量。しまり弱、粘性やや強。</p> <p>ローム塊 (φ5mm~1cm程)・ローム粒微量。しまりやや弱、粘性中。ローム塊 (φ5mm~3cm程)・ローム粒少量。しまり弱、粘性中。</p> <p>ローム粒微量。しまり弱、粘性中。砂粒微量。やや粘質。しまりやや強、粘性中。</p> | <p>P-9
1 黒褐色土</p> <p>P-10
1 黒褐色土
2 黒色土
3 黒褐色土
4 暗黄褐色土</p> <p>P-11
1 黒灰褐色土</p> <p>P-12
1 暗褐色土
2 褐色土
3 暗黄褐色土</p> <p>P-13
1 黒灰色土
2 黒色土</p> <p>P-14
1 暗褐色土
2 黒色土
3 暗黄褐色土
4 黄褐色土</p> | <p>ローム粒微量。しまり弱、粘性中。(P-7の1層に似る)</p> <p>灰色粘土粒少量、ローム塊 (φ5mm~1cm程) 微量。しまり弱、粘性中。ローム粒微量。しまり弱、粘性中。ローム塊 (φ1~5cm程)・ローム粒少量。しまりやや弱、粘性中。ローム塊 (φ1~2cm程)・ローム粒中量。しまり・粘性やや強。</p> <p>灰色粘土粒少量、ローム粒・砂粒微量。しまりやや弱、粘性やや強。</p> <p>ローム粒少量。しまり・粘性やや強。ローム粒多量。しまり弱、粘性中。ローム主体。黒色土混入。しまりやや強、粘性中。</p> <p>灰色粘土粒少量、ローム粒微量。しまりやや弱、粘性やや強。ローム粒・炭化粒微量。しまりやや弱、粘性中。</p> <p>ローム粒少量。しまりやや強、粘性中。ローム塊 (φ5mm~1cm程)・ローム粒微量。しまりやや弱、粘性やや強。ローム塊 (φ5mm~3cm程) 中量、ローム粒微量。しまりやや弱、粘性やや強。ローム主体。黒色土微量。しまりやや弱、粘性中。</p> | <p>P-15
1 黒色土</p> <p>P-16
1 暗褐色土
2 黒色土</p> <p>P-17
1 黒褐色土</p> <p>P-18
1 暗褐色土
2 黒褐色土
3 暗褐色土</p> <p>P-19
1 黒褐色土
2 黒色土</p> <p>P-20
1 黒褐色土
2 黒色土</p> <p>P-21
1 暗褐色土
2 黒褐色土
3 暗褐色土</p> | <p>ローム粒・炭化粒微量。しまりやや弱、粘性中。</p> <p>ローム塊 (φ5mm~1cm程) 少量、ローム粒微量。しまりやや弱、粘性中。砂粒少量、ローム塊 (φ5mm~2cm程)・灰色粘土塊 (φ5mm~2cm程) 微量。しまりやや弱、粘性やや強。</p> <p>ローム塊 (1cm程)・ローム粒微量。やや砂質土。しまり弱、粘性やや弱。(自然堆積)</p> <p>ローム粒・砂粒微量。しまりやや弱、粘性中。ローム塊 (φ5mm~1cm程) 微量。しまりやや弱、粘性中。ローム粒微量。やや粘質土。しまり・粘性やや強。</p> <p>ローム粒・砂粒微量。しまりやや弱、粘性中。暗灰色粘土粒・ローム粒微量。しまりやや強、粘性中。</p> |
|---|---|---|---|---|--|



第330図 西刑部西原遺跡10区 ピット実測図(1)



P-21 (マキトリか?)

- 1 暗褐色土 ローム粒・白色粒微量。しまりやや強、粘性中。
- 2 黒褐色土 ローム塊 (φ5mm~3cm程)・ローム粒中量。しまりやや強、粘性中。
- 3 黄褐色土 ローム主体、黒色土少量。しまりやや弱、粘性やや強。

P-22

- 1 暗褐色土 ローム粒・白色粒微量。しまりやや強、粘性中。
- 2 黒色土 ローム粒・砂粒微量。しまりやや弱、粘性中。
- 3 黒褐色土 ローム塊 (φ5mm~3cm程)・ローム粒中量。しまりやや強、粘性中。

P-23

- 1 黒灰色土 ローム粒・白色粒・暗灰色粘土粒微量。しまりやや弱、粘性中。
- 2 暗黄褐色土 ローム塊 (φ1cm程)・ローム粒少量。しまりやや弱、粘性中。
- 3 暗灰色土 ローム塊 (φ1cm程)・ローム粒微量。やや粘質土。しまり・粘性やや強。

P-24

- 1 黒灰色土 ローム粒・白色粒・暗灰色粘土粒微量。しまりやや弱、粘性中。
- 2 暗灰色土 暗灰色粘土塊 (φ5mm~1cm程)・ローム粒・小礫微量。しまり弱、粘性やや強。
- 3 暗灰色土 ローム塊 (φ1cm程)・ローム粒微量。やや粘質土。しまり・粘性やや強。

P-25

- 1 暗褐色土 ローム粒・焼土粒微量。しまりやや弱、粘性中。
- 2 暗黄褐色土 ローム塊 (φ5mm~1cm程)・ローム粒少量。しまりやや弱、粘性中。

P-26

- 1 褐色土 ローム塊 (φ5mm~5cm程)・ローム粒中量。しまり弱、粘性やや弱。(人為的堆積)
- 2 暗褐色土 ローム塊 (φ5mm~5cm程)・ローム粒微量。しまり弱、粘性やや弱。
- 3 黒褐色土 ローム塊 (φ5mm~2cm程)・ローム粒少量。しまりやや弱、粘性中。

P-27

- 1 暗黄褐色土 ローム塊 (φ5mm~1cm程)・ローム粒多量。ブロック間に黒色土微量混入。しまり弱、粘性中。

P-28

- 1 暗褐色土 ローム粒・白色粒少量、ローム塊 (φ5mm~1cm程) 微量。しまりやや弱、粘性中。
- 2 黒褐色土 ローム粒・灰色粘土粒微量。しまりやや強、粘性やや弱。
- 3 暗褐色土 ローム塊 (φ5mm~5cm程)・ローム粒少量。しまりやや弱、粘性中。

P-29

- 1 黒褐色土 ローム粒少量。しまりやや弱、粘性中。

P-30

- 1 暗褐色土 ローム塊 (φ1cm程)・ローム粒・砂粒微量。しまりやや弱、粘性中。(P-30の1層に似る)
- 2 暗黄褐色土 ローム塊 (φ5mm~1cm程)・ローム粒中量。しまりやや強、粘性中。

P-31,32,33

- 1 黒褐色土 ローム粒・砂粒微量。しまりやや弱、粘性中。(P-30の1層に似る)
- 2 黒色土 ローム塊 (φ5mm~1cm程)・ローム粒・砂粒微量。しまり・粘性やや強。

P-34,35

- 1 黒褐色土 ローム粒・砂粒微量。しまりやや弱、粘性中。(P-30の1層に似る)

P-36,37,40,43

- 1 暗褐色土 砂粒少量、ローム粒微量。しまり弱、粘性やや弱。
- 2 黒色土 ローム塊 (φ5mm~1cm程)・ローム粒・砂粒微量。しまり・粘性やや強。

P-38

- 1 暗褐色土 砂粒少量、ローム粒・白色粒微量。しまりやや強、粘性やや弱。(P-36の1層に似る)
- 2 黒色土 ローム塊 (φ5mm~1cm程)・ローム粒・砂粒微量。しまり・粘性やや強。
- 3 暗褐色土 ローム粒・砂粒微量。しまり・粘性やや強。

P-39

- 1 黒色土 ローム塊 (φ5mm~1cm程)・ローム粒・砂粒微量。しまり・粘性やや強。

P-41,46

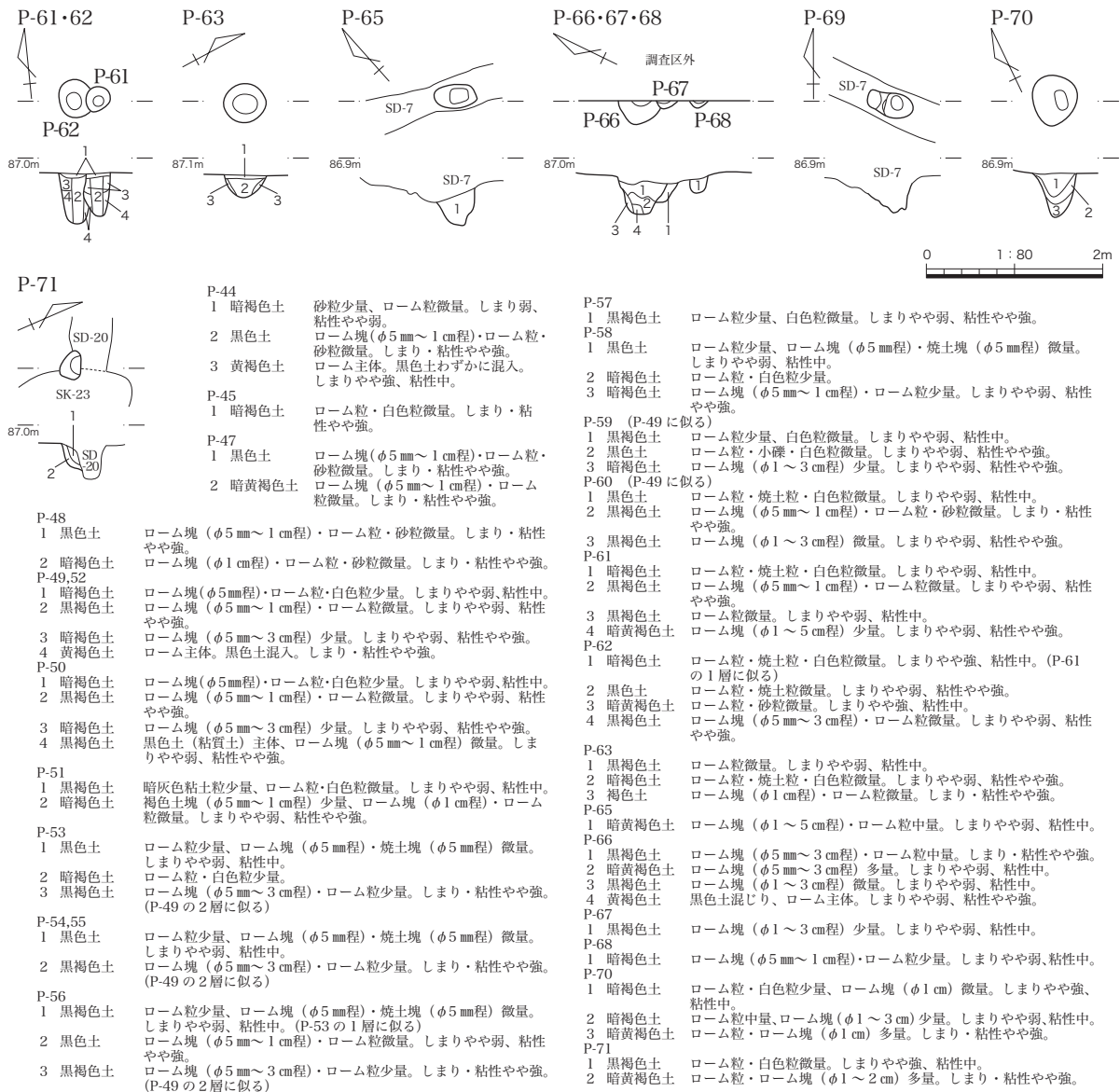
- 1 暗褐色土 砂粒少量、ローム粒微量。しまり弱、粘性やや弱。
- 2 黒色土 ローム塊 (φ5mm~1cm程)・ローム粒・砂粒微量。しまり・粘性やや強。
- 3 暗黄褐色土 ローム塊 (φ5mm~1cm程) 少量。しまりやや弱、粘性やや強。

P-42 (マキトリ)

- 1 暗褐色土 砂粒少量、ローム粒微量。しまり弱、粘性やや弱。
- 2 黒色土 ローム塊 (φ5mm~1cm程)・ローム粒・砂粒微量。しまり・粘性やや強。
- 3 暗褐色土 ローム塊 (φ5mm~3cm程) 少量。しまりやや強、粘性中。



第331図 西刑部西原遺跡10区 ピット実測図(2)



第332図 西刑部西原遺跡10区 ピット実測図(3)

第146表 10区 P-46遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 甕	高 [11.3] 厚 1.6	内面同心円状あて具痕。外面格子叩き。	内: 2.5Y7/5 浅黄 外: 5Y5/1 灰	やや粗い、白・灰細砂、 灰礫 焼成: 硬質	No.1 33.6	胴部破片

第147表 10区 ピット計測表

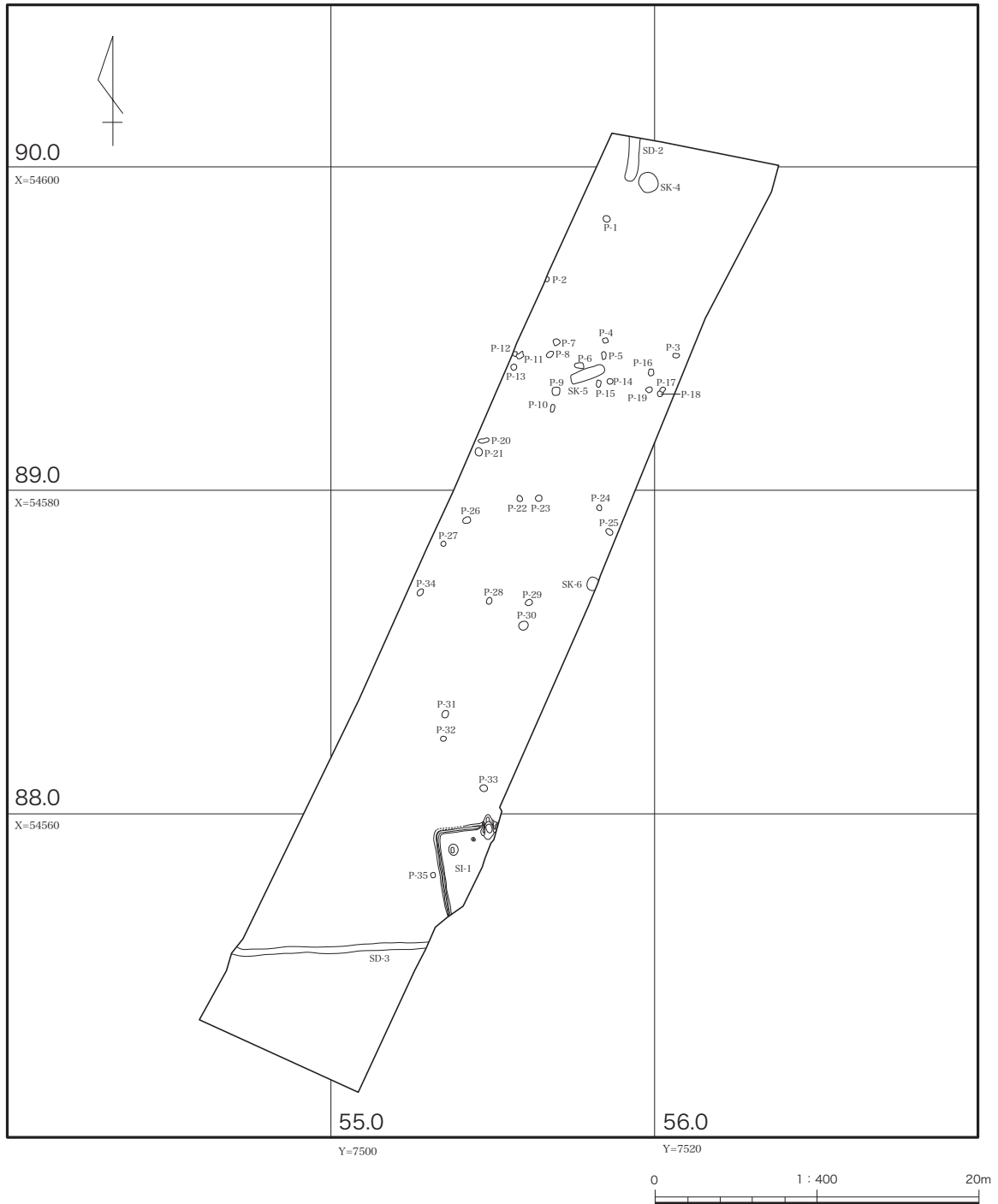
遺構番号	グリッド	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	備考
P-1	56.5-93.0	円形	0.28	0.27	0.07	
P-2	56.5-93.0	円形	0.25	0.22	0.08	
P-3	56.5-93.0	隅丸方形	0.42	0.37	0.26	
P-4	56.5-93.0	円形	0.32	0.28	0.32	
P-5	57.0-93.0	円形	0.3	0.28	0.31	
P-6	57.0-53.0	円形	0.29	0.25	0.22	SD-7と重複
P-7	57.0-93.0	—	0.42	0.35	0.34	
P-8	57.0-93.0	円形	0.38	0.36	0.22	

第3章 遺跡の環境

P-9	57.0-93.0	楕円形	0.39	0.31	0.37	
P-10	56.5-93.0	円形	0.4	0.38	0.38	
P-11	57.0-93.0	円形	0.25	0.23	0.14	
P-12	57.0-93.5	(円形)	0.41	(0.35)	0.25	SX-6と重複
P-13	56.5-93.5	円形	0.26	0.26	0.25	
P-14	56.5-93.5	楕円形	0.44	0.41	0.36	SX-6と重複
P-15	56.5-93.5	楕円形	0.21	0.17	0.17	
P-16	56.5-93.5	楕円形	0.37	0.34	0.37	
P-17	56.5-93.0	円形	0.4	0.37	0.47	SI-1と重複
P-18	57.0-93.0	円形	0.36	0.34	0.24	
P-19	56.5-93.5	円形	0.24	0.24	0.21	
P-20	56.5-94.0	円形	0.25	0.24	0.22	
P-21	56.5-94.0	楕円形	0.66	0.4	0.39	
P-22	56.5-94.0	円形	0.43	0.42	0.41	
P-23	56.5-94.0	円形	0.29	0.27	0.22	
P-24	56.0-94.0	楕円形	0.48	0.35	0.24	
P-25	56.0-94.0	円形	0.29	0.28	0.34	
P-26	56.0-94.0	—	0.44	0.36	0.36	P-27と重複
P-27	56.0-94.0	—	0.32	0.24	0.34	P-26と重複
P-28	55.5-94.5	円形	0.39	0.39	0.6	
P-29	56.0-95.0	円形	0.25	0.25	0.16	
P-30	55.5-95.0	楕円形	0.46	0.42	0.24	
P-31	56.0-94.5	円形	0.25	0.25	0.28	
P-32	56.5-94.5	楕円形	0.41	0.33	0.17	
P-33	56.5-95.0	円形	0.3	0.28	0.17	
P-34	56.0-95.0	楕円形	0.53	0.46	0.25	
P-35	56.0-95.0	楕円形	0.4	0.35	0.35	
P-36	56.0-95.0	円形	0.4	0.38	0.34	
P-37	56.0-95.0	円形	0.4	0.34	0.37	
P-38	56.0-95.0	(円形)	0.47	(0.34)	0.22	P-45と重複
P-39	56.0-95.0	円形	0.31	0.29	0.51	
P-40	56.0-95.0	楕円形	0.62	0.37	0.34	
P-41	56.0-95.0	楕円形	0.45	0.35	0.46	
P-42	56.0-95.0	楕円形	0.57	0.47	0.2	
P-43	56.0-95.5	楕円形	0.48	0.4	0.25	
P-44	56.0-95.0	楕円形	0.51	0.43	0.25	
P-45	56.0-95.0	—	(0.27)	(0.15)	0.15	P-38と重複
P-46	56.0-95.5	円形	0.34	0.30	0.37	
P-47	56.0-95.5	—	0.34	(0.30)	0.21	P-48と重複
P-48	56.0-95.5	円形	0.31	0.3	0.21	P-47と重複
P-49	55.5-95.5	円形	0.53	0.48	0.39	
P-50	56.0-95.5	円形	0.5	0.45	0.5	
P-51	56.0-95.5	楕円形	0.41	0.34	0.2	
P-52	56.0-95.5	楕円形	0.34	0.28	0.61	
P-53	56.0-95.5	円形	0.35	0.31	0.29	
P-54	56.0-95.5	—	0.42	0.35	0.28	
P-55	56.0-95.5	—	0.35	0.34	0.17	
P-56	56.0-95.5	円形	0.31	0.3	0.39	P-57と重複
P-57	56.0-95.5	—	0.29	0.17	0.16	P-56と重複
P-58	56.0-95.5	円形	0.28	0.27	0.27	
P-59	56.0-95.5	円形	0.33	0.3	0.31	
P-60	56.0-95.5	円形	0.3	0.25	0.29	
P-61	55.5-95.5	円形	0.3	0.27	0.49	
P-62	55.5-95.5	(円形)	0.44	0.32	0.56	
P-63	56.0-95.0	円形	0.45	0.45	0.25	
P-65	56.5-93.0	楕円形	0.47	0.27	0.35	
P-66	56.5-94.5	—	0.42	0.27	0.38	
P-67	56.5-94.5	—	0.2	0.1	0.21	
P-68	56.5-94.5	—	0.2	0.08	0.16	
P-69	56.5-93.5	楕円形	0.52	0.28	0.32	
P-70	56.5-94.0	楕円形	0.57	0.5	0.5	
P-71	56.0-95.5	—	0.32	0.24	0.3	

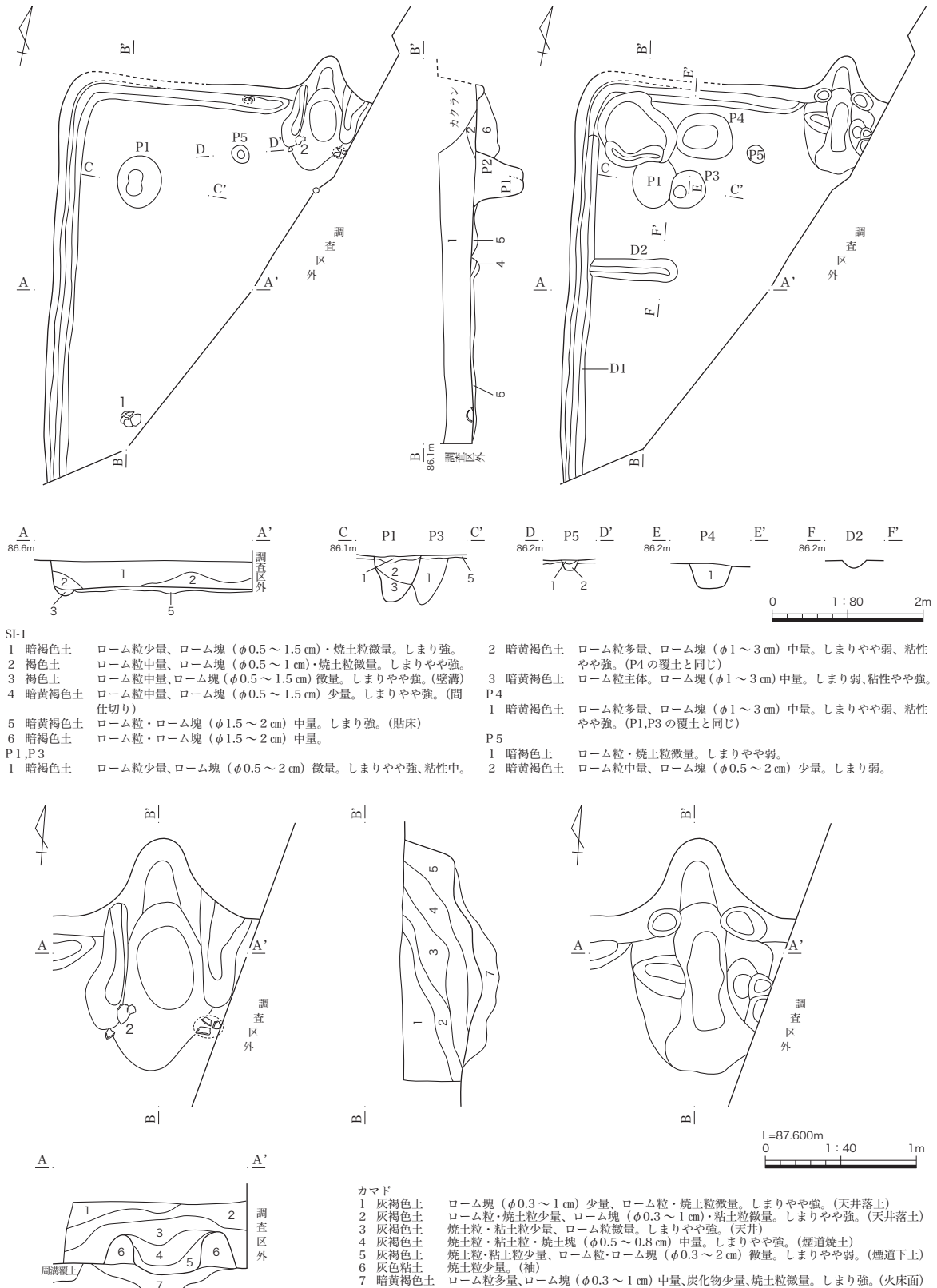
第11節 11区の遺構と遺物

本調査区は台地上の平坦面に位置する。11区は北に14区、西に宇都宮調査E区と境を接しており遺構の分布密度は比較的低い区域である。竪穴建物跡1棟、溝2条、土坑3基、ピット35基が確認された。



第333図 西刑部西原遺跡11区 全体図 (S=1/400)

1. 竪穴建物跡

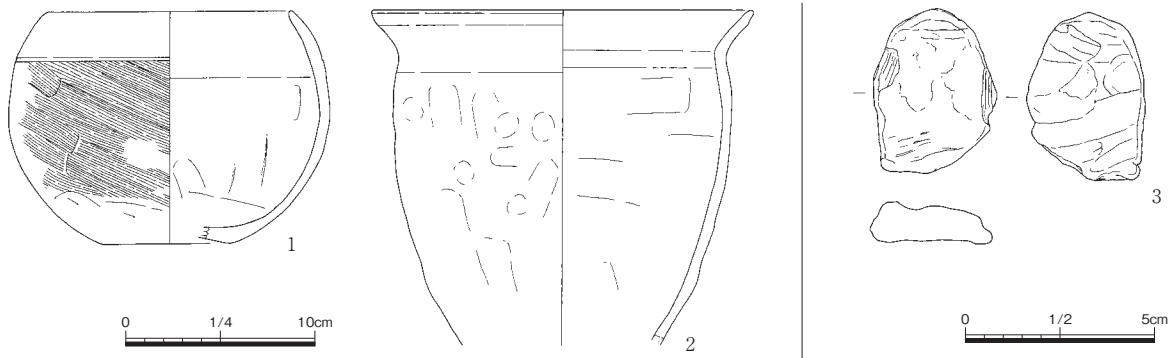


第334図 西刑部西原遺跡11区 SI-1実測図

11 区 SI- 1 (遺構：第 334 図、遺物：第 335 図、図版五三・一〇四)

位置 グリッド 87.7-55.0・87.5-55.5 平面形 隅丸方形 規模 東西 3.68 m 以上、南北 5.37 m 以上 主軸方向 N -8° - E (推定値) 覆土 自然堆積 壁 壁高 40 ~ 56 cm 残る。床 薄く全面に貼床あり。

柱穴 P1 (径 55 ~ 34 cm、深さ 63 cm)、P3 (径 49 ~ 46 cm、深さ 65 cm)、P5 (径 24 cm、深さ 12 cm)。入口ピット 確認できなかつた。貯蔵穴 P4 (長軸 76 × 短軸 59 cm、深さ 33 cm) は北壁際のカマド西側にあり、隅丸形状を呈する。壁溝 D1 (幅 28 ~ 39 cm、深さ 16 cm) はカマド西側を除き残存部の壁際を全周する。間仕切り溝 D2 (幅 20 ~ 30 cm、深さ 8 cm) は東西方向に掘られ、西壁に接する。掘方 北西隅に土坑状の掘り込みをもつ。カマド 北壁際を裾広がり U 字状に掘り込む。袖天井部ともに極めて残りが悪い。袖付け根に当たる部分には対になるピット状の掘り込みを有する。遺物 遺物は計 3 点を図示した。1 はハケ目の付いた鉢で床面直上の出土。2 はカマド内出土の甕。3 は焼成粘土塊である。不掲載の土器類は、土師器甕破片が主体で、他に少量の土師器坏、焼成粘土塊などがある。遺物から本建物は古墳時代終末期 (7 世紀前半から中葉) の建物と考えられる。



第 335 図 西刑部西原遺跡 11 区 SI- 1 出土遺物

第 148 表 11 区 SI- 1 出土遺物観察表

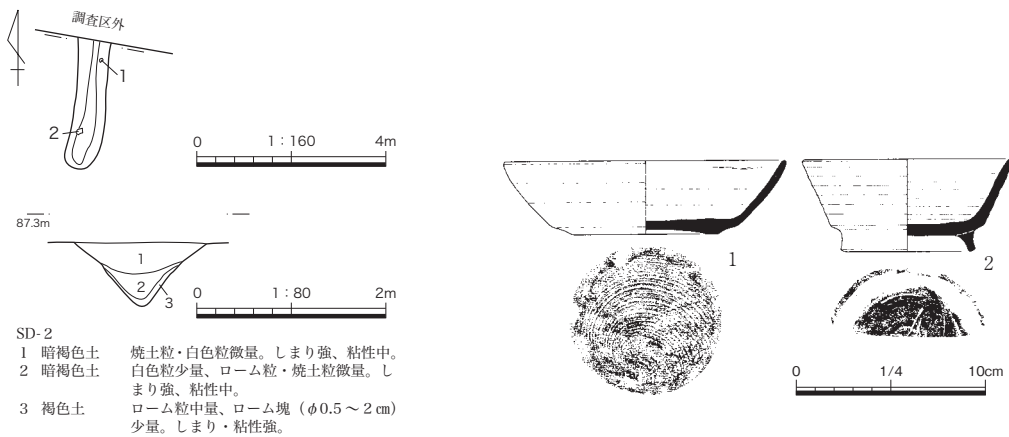
掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	土師器鉢	口 12.6 底 (6.8) 高 17.8	口縁部内外面ヨコナデ。内面胴部ヘラナデ。胴部外面上半ナメハケ目。下端部磨滅のため不明瞭だがヘラケズリか。底部ヘラケズリ。	内外面とも 5YR6/8 橙	やや粗い、白・灰粗砂、赤粒 焼成：やや硬質	No. 1 床直	口縁部 3/4、底部 1/5
2	土師器甕	口 (9.8) 高 [17.7]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラケズリ。胴部外面スス及び粘土付着。	内：5YR5/6 明赤褐 外：5YR4/6 赤褐	粗い、白・透明・黒礫、多量の雲母片 焼成：軟質	No. 3、カマド	口縁部 2/5、胴部 上半 1/4
3	焼成粘土塊	長 4.3 幅 3.3 厚 1.1 重 8.9	ワラ状の繊維質の脱痕及びナデ痕跡あり。胎土は坏類に似るがやや砂の混入が多い。	内：10YR7/3 に近い黄橙 外：10YR8/4 浅黄橙	やや緻密、白微砂 焼成：軟質	カマド	部分残存

2. 溝

11 区 SD- 2 (遺構・遺物：第 336 図、図版五三・一〇四)

位置 グリッド 89.5-55.5・90.0-55.5 重複遺構 無し。規模・平面形 長さ 2.75m 以上、上幅 0.65 m。若干の曲がりをもつが、調査区外が多く不明。覆土 暗褐色土主体の 3 層に分層。自然堆積と考えられる。

壁・断面形 壁高は深さ 66 cm。断面採取部分は薬研状だが、その他部分は逆台形状。底面 やや凹凸あ



第336図 西刑部西原遺跡11区 SD-2実測図・出土遺物

り。 遺物 2点を図示した。1は須恵器杯、2は須恵器高台付杯。いずれも覆土中の出土である。不掲載遺物は須恵器蓋・杯、土師器杯など計10点弱と少ない。奈良時代から平安時代の溝と考えられる。

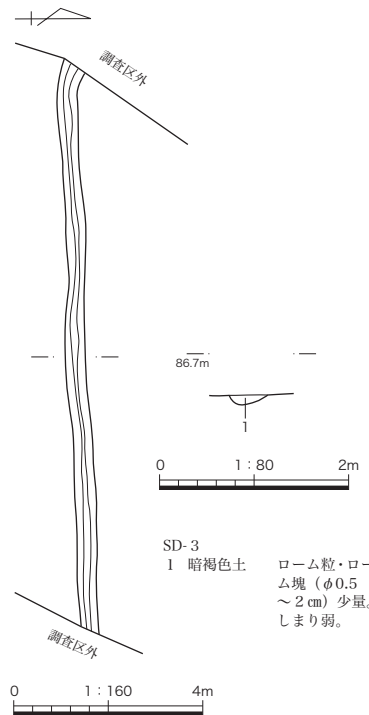
第149表 11区 SD-2出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器杯	口 (14.6) 底 7.6 高 3.9	内外面ロクロナデ。底部外面回転系切りのち外周手持ちヘラケズリ。	内：5Y8/2 灰白 外：2.5Y8/3 淡黄	やや緻密、灰粗砂～礫 焼成：やや硬質	No 2 23.0	口縁部1/3、 底部完存
2	須恵器高台付杯	口 (10.8) 高 4.9	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。	内：5Y4/1 灰 外：5Y3/2 オリーブ黒	やや緻密、白細砂～礫 焼成：硬質	No 1 17.7	口縁部～底部 1/2

11区 SD-3 (遺構：第337図、図版五三)

位置 グリッド 87.5-54.5・87.5-55.0 重複遺構無し。規模・平面形 長さ12.0m以上、上幅平均0.4mで東西軸の直線的な溝である。覆土 自然堆積か。ローム粒・ローム塊を少量含み、しまりは弱い。

壁・断面形 断面は皿状もしくは逆台形。確認面からの深さは10～20cmと極めて浅い。底面凹凸が多い。遺物 遺物は殆ど出土せず、時期は不明だが、覆土のしまりが弱く、近現代の溝の可能性もある。

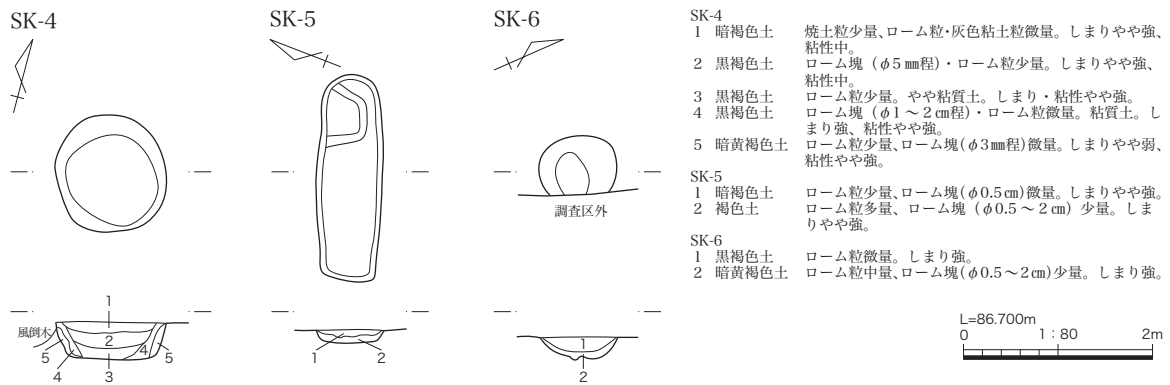


第337図 西刑部西原遺跡11区 SD-3実測図

3. 土坑

本調査区からは計 3 基の土坑を確認したが、他の調査区同様、遺物の出土量が極めて少なく明確な時期は確定できない。ただし他遺構との切り合いから、ある程度の時間幅を推定できるものもある。ここでは遺構個別の事実記載は行わず、表にまとめて掲載し、特徴的な遺構については補足説明を行う。

SK- 4 は直径 1 m 以上の断面円筒形を呈し、しっかりと掘方をもつ。SK- 6 は円形で、皿状の断面形を有する。これらは自然堆積で、古墳時代から平安時代の遺構の覆土に似ている。これに対し SK- 5 は長方形を呈し、近現代の長方形土坑に似るが、しまりが良いため中世の土坑の可能性もある。



第 338 図 西刑部西原遺跡 11 区 土坑実測図

第 150 表 11 区 土坑計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
SK-4	89.5-55.5	円形	1.24	1.15	0.4	
SK-5	89.0-55.5	方形	2.18	0.69	0.14	
SK-6	88.5-55.5	不整な円形	0.81	(0.62)	0.24	

4. ピット

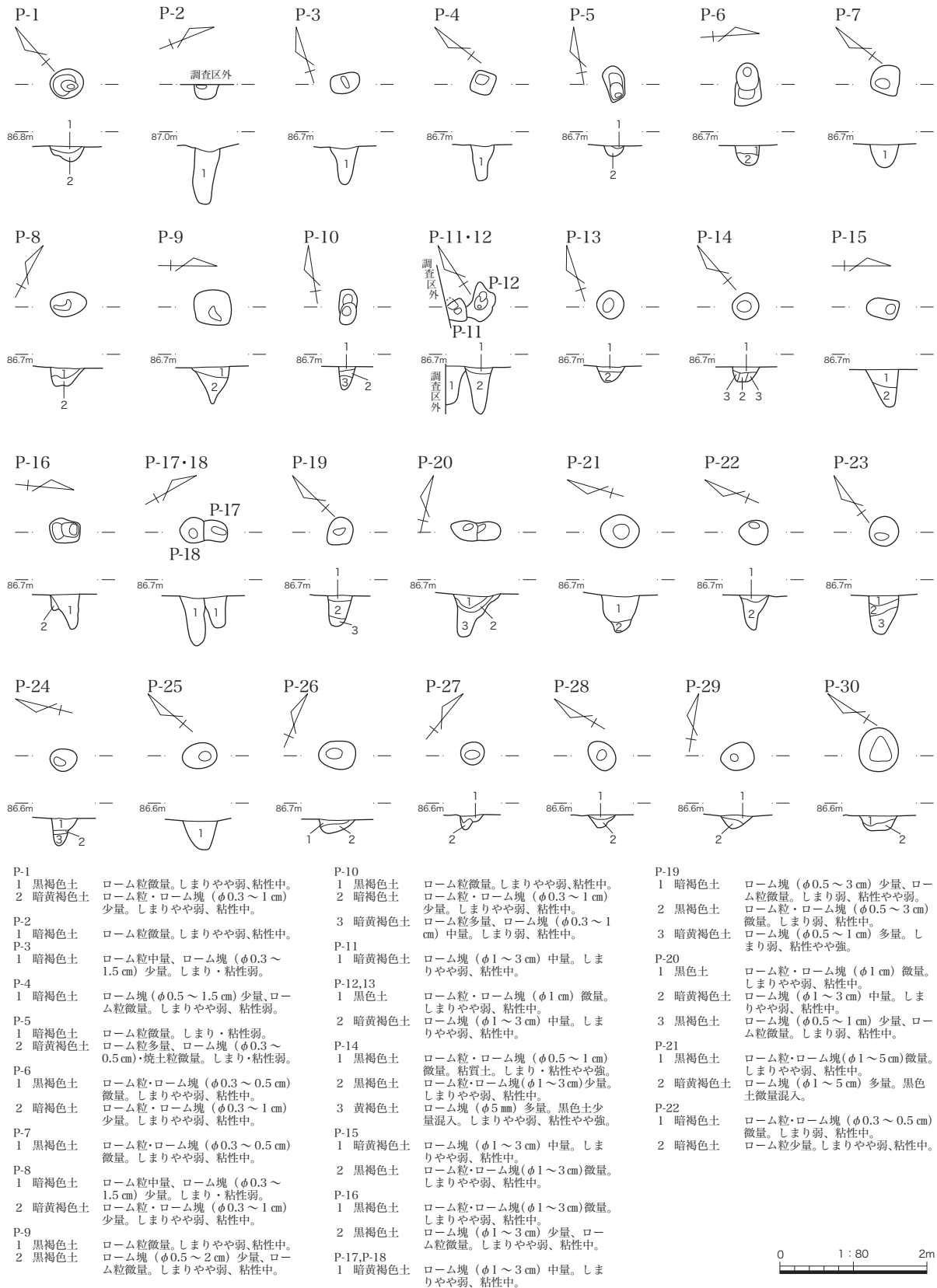
本調査区から確認されたピット（小穴）は計 35 基である。土坑と同様、遺物の出土量が少ないため明確な時期を確定できない場合が多いが、他遺構との切り合いから、ある程度の時間幅を推定できるものもある。

ここでは土坑と同様に個別の事実記載は行わず、出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容などを表にまとめて掲載した。本調査区では、ピットは中央部からまとめて出土した。柱穴状の形状を呈するものが多いが、柱痕の残るピットは確認できなかった。

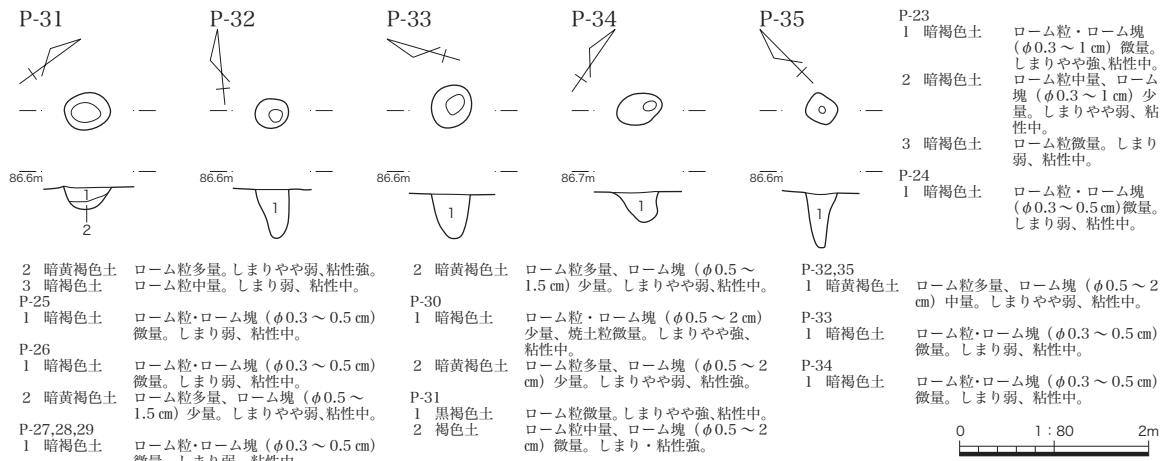
第 151 表 11 区ピット計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
P-1	89.5-55.5	円形	0.45	0.4	0.21	
P-2	89.5-55.5	—	(0.33)	(0.20)	0.73	
P-3	89.0-56.0	楕円形	0.41	0.27	0.48	
P-4	89.0-55.5	隅丸方形	0.37	0.36	0.47	
P-5	89.0-55.5	楕円形	0.47	0.27	0.14	
P-6	89.0-55.5	—	0.59	0.35	0.29	
P-7	89.0-55.5	—	0.45	0.44	0.32	
P-8	89.0-55.5	楕円形	0.49	0.32	0.25	
P-9	89.0-55.5	隅丸方形	0.57	0.53	0.49	

第3章 発見された遺構と遺跡



第339図 西刑部西原遺跡11区 ピット実測図(1)



第 340 図 西刑部西原遺跡 11 区 ピット実測図 (2)

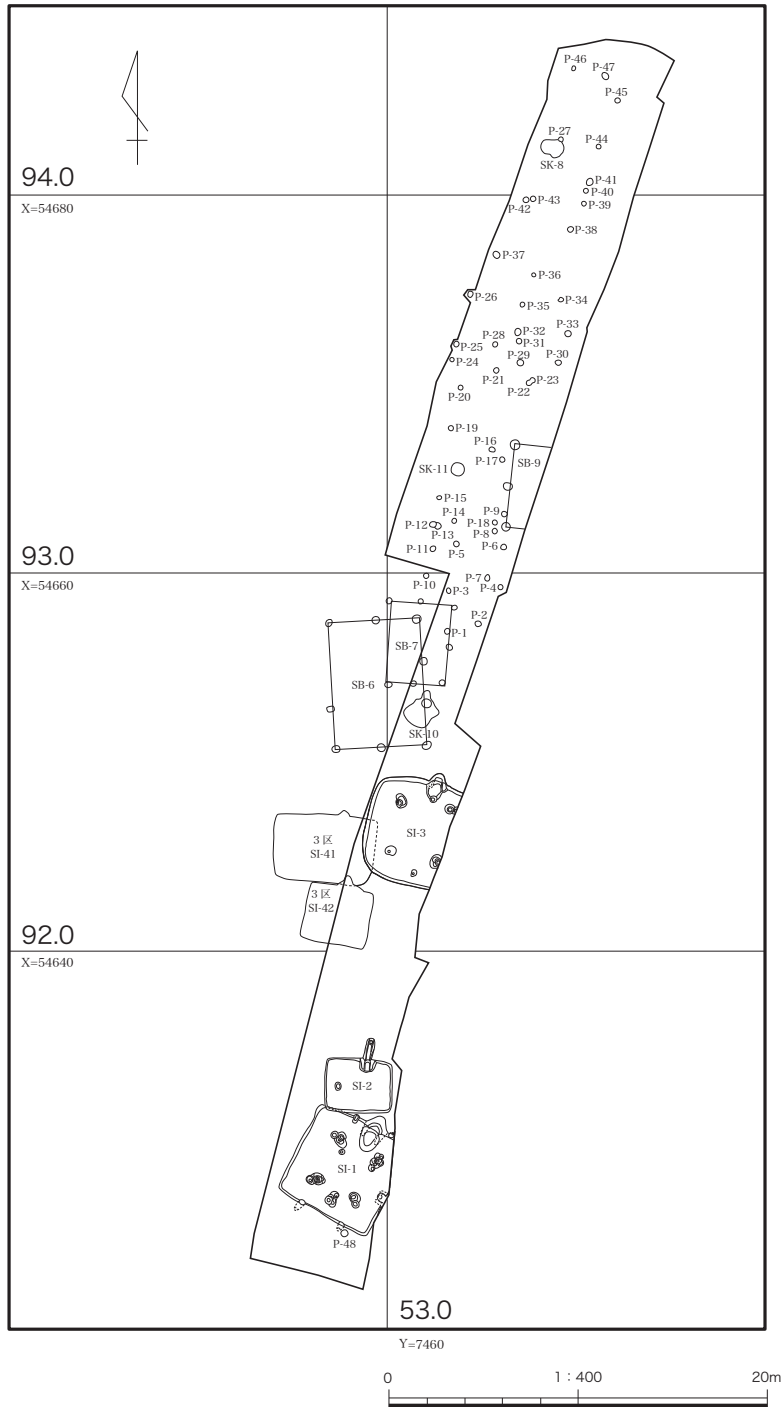
P-10	89.0-55.5	—	0.47	0.25	0.32	
P-11	89.0-55.5	—	0.32	0.32	0.52	
P-12	89.0-55.5	—	0.52	0.4	0.62	
P-13	89.0-55.5	円形	0.38	0.37	0.2	
P-14	89.0-55.5	円形	0.36	0.34	0.2	
P-15	89.0-55.5	楕円形	0.42	0.26	0.5	
P-16	89.0-55.5	—	0.41	0.34	0.47	
P-17	89.0-56.0	—	0.39	0.35	0.42	
P-18	89.0-56.0	—	0.36	0.35	0.65	
P-19	89.0-55.5	—	0.41	0.36	0.42	
P-20	89.0-55.0	楕円形	0.67	0.28	0.57	
P-21	89.0-55.0	円形	0.52	0.45	0.5	
P-22	88.5-55.5	楕円形	0.39	0.34	0.47	
P-23	88.5-55.5	円形	0.4	0.39	0.52	
P-24	88.5-55.5	楕円形	0.36	0.3	0.37	
P-25	88.5-55.5	楕円形	0.46	0.35	0.39	
P-26	88.5-55.0	楕円形	0.49	0.39	0.19	
P-27	88.5-55.0	円形	0.31	0.31	0.18	
P-28	88.5-55.0	楕円形	0.41	0.35	0.17	
P-29	88.5-55.5	楕円形	0.45	0.37	0.18	
P-30	88.5-55.5	円形	0.6	0.52	0.2	
P-31	88.0-55.0	楕円形	0.48	0.38	0.22	
P-32	88.0-55.0	円形	0.35	0.31	0.52	
P-33	88.0-55.0	円形	0.45	0.42	0.47	
P-34	88.5-55.0	楕円形	0.48	0.33	0.32	
P-35	87.5-55.0	—	0.35	0.33	0.57	

第12節 12区の遺構と遺物

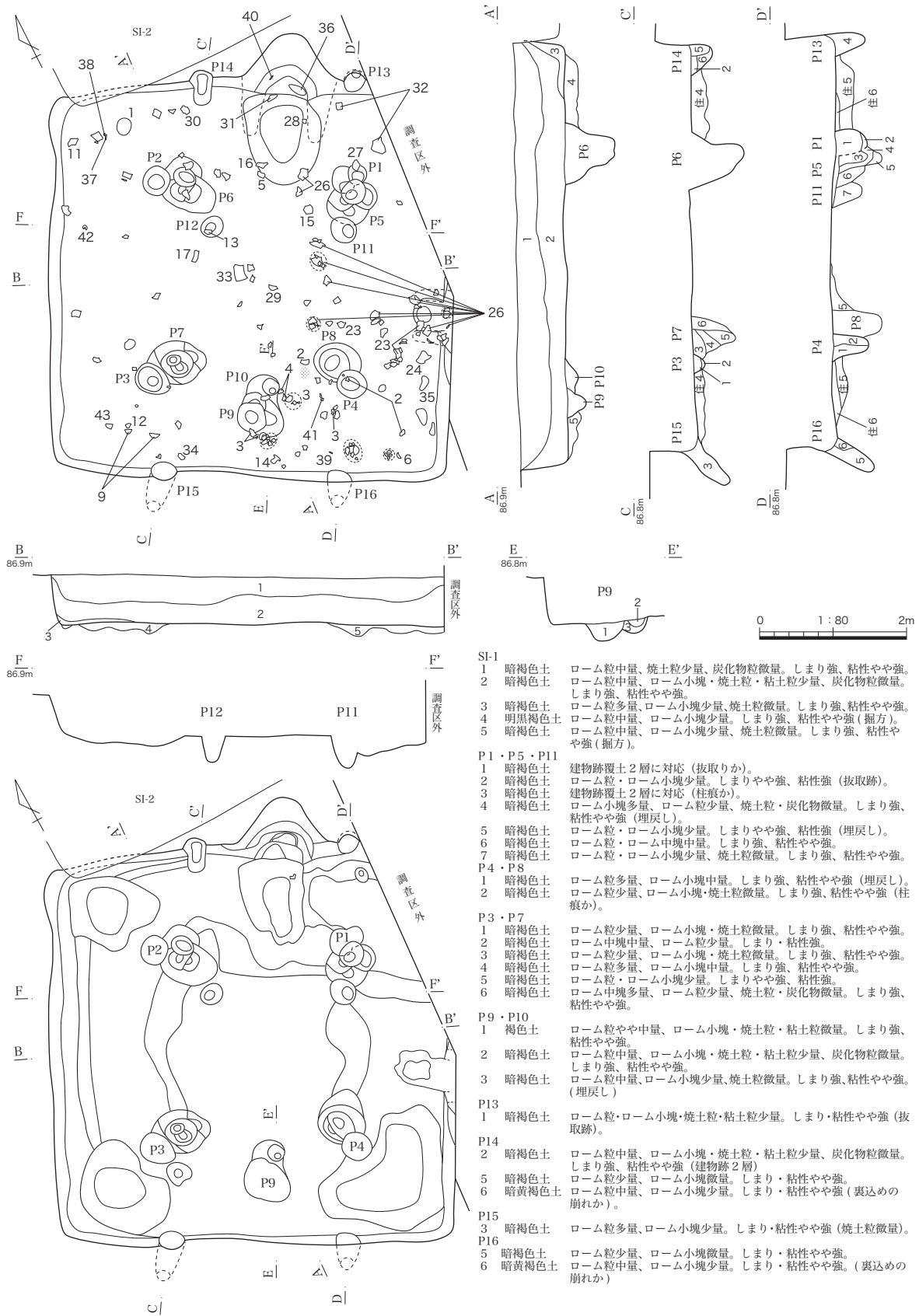
本調査区では竪穴建物跡3棟、掘立柱建物跡3棟、土坑3基、ピット48基が確認された。

1. 竪穴建物跡

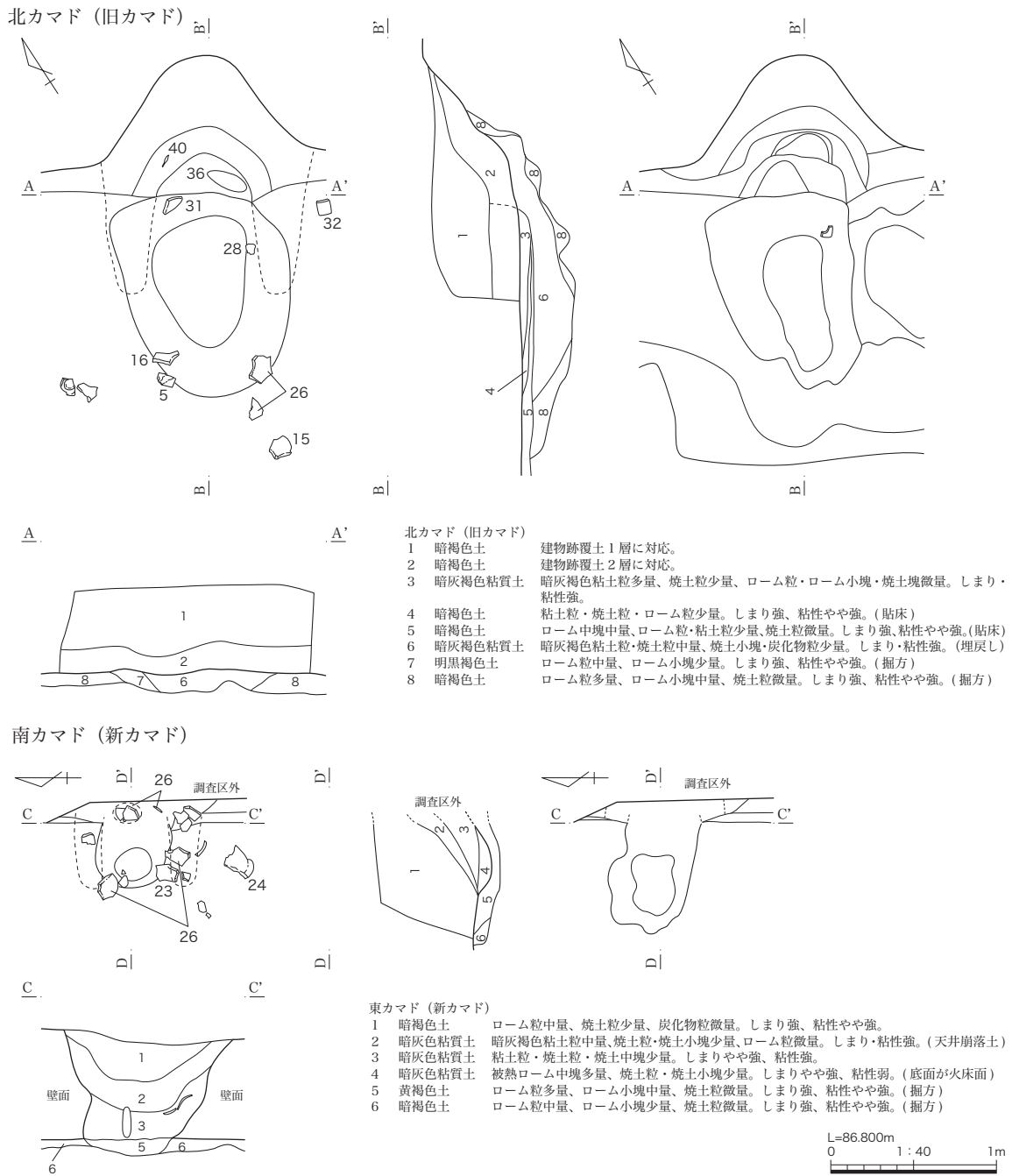
12区 SI-1 (遺構：第342・343図、遺物：第344～346図、図版五四・一〇四・一〇五・一一二・一一三・一一五)



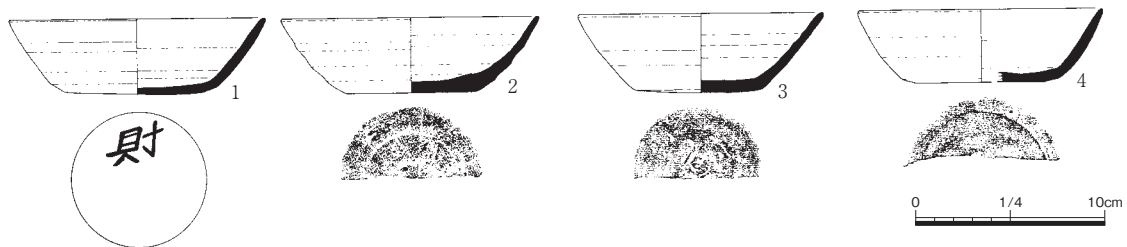
第341図 西刑部西原遺跡12区 全体図 (S=1/400)



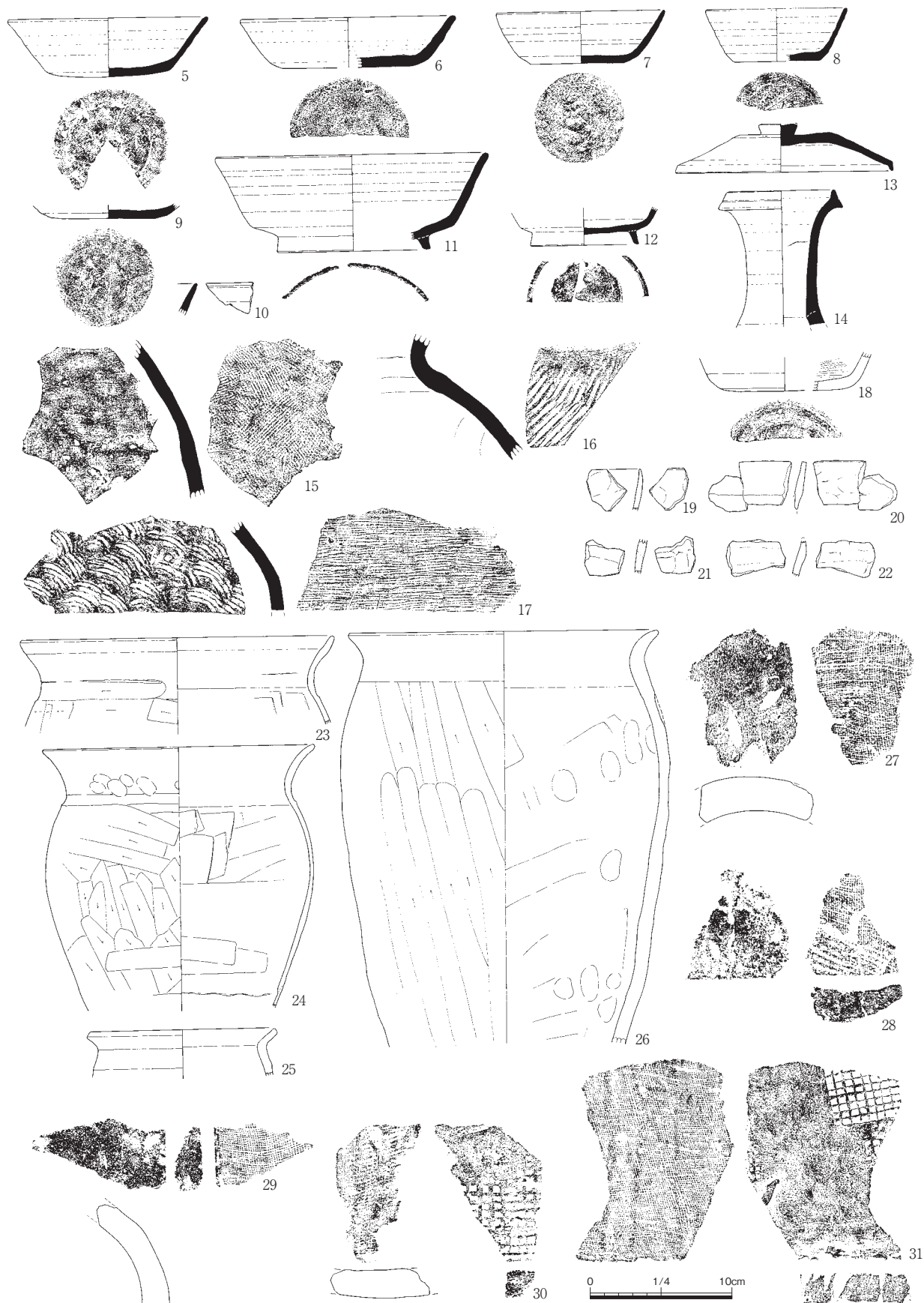
第342図 西刑部西原遺跡12区 SI-1実測図(1)



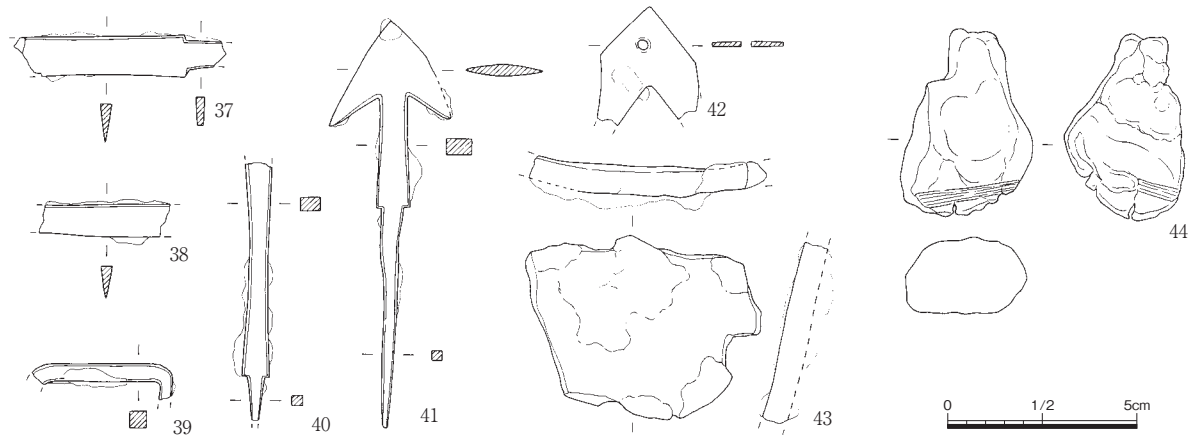
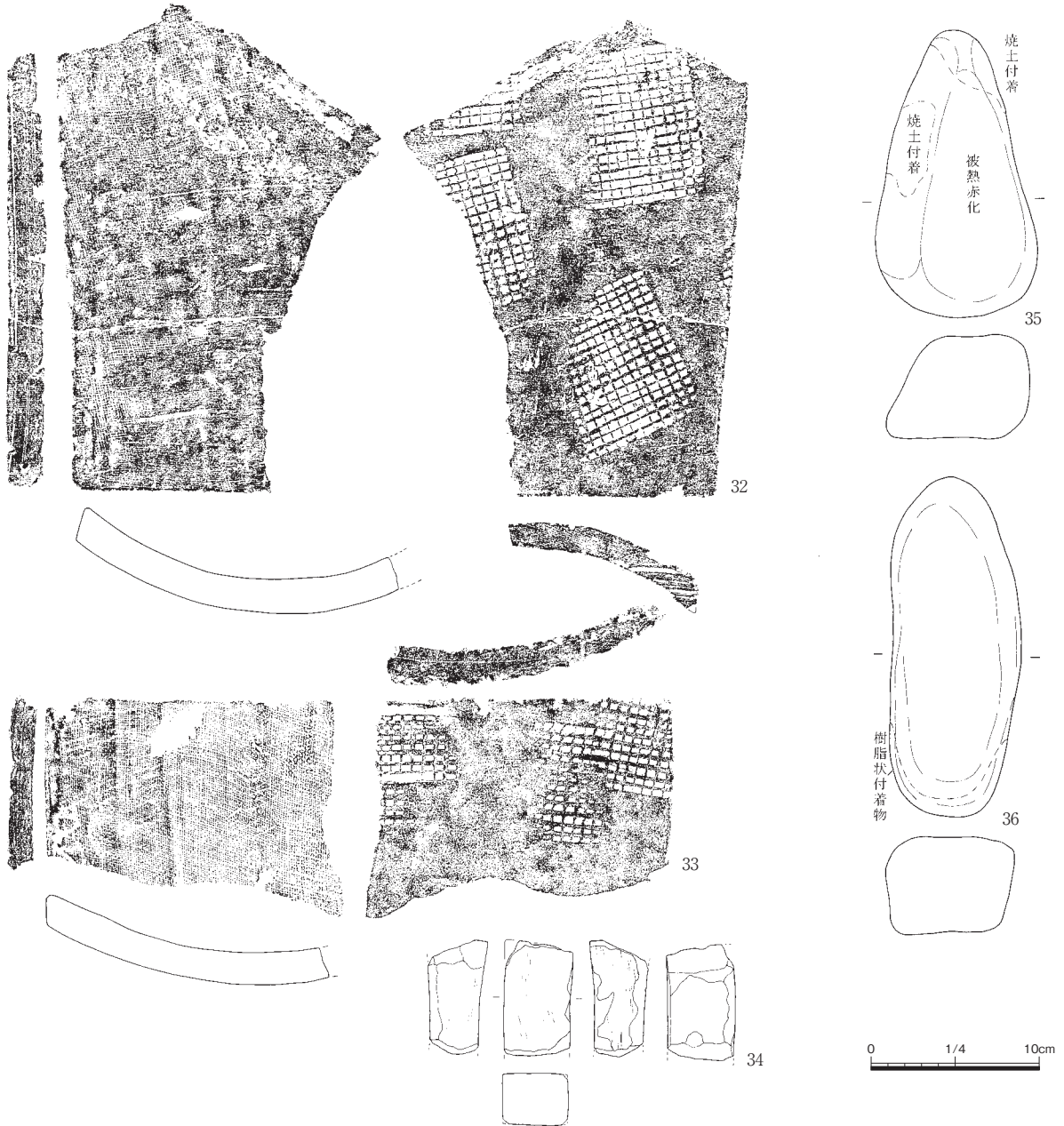
第343図 西刑部西原遺跡12区 SI-1実測図(2)



第344図 西刑部西原遺跡12区 SI-1出土遺物(1)



第345図 西刑部西原遺跡12区 SI-1出土遺物(2)



第346図 西刑部西原遺跡12区 SI-1出土遺物(3)

位置 グリッド 91.0-52.5・91.5-52.5 重複遺構 SI- 2より新しい。柱の重複から2～3時期の建替えが想定される。平面形 方形か。規模 東西 5.42×南北 6.04 m 主軸方向 N -28° - E 覆土 自然堆積

壁 壁高 75.3 cm 床 貼床あり。柱穴 1時期目:P11 (径 40～33 cm、深さ 40 cm)、P12 (径約 31 cm、深さ 30 cm) があるが、対応するピットが無く不明瞭。2時期目:P5 (径 70～51 cm、深さ 64 cm)、P6 (径 85～64 cm、深さ 71 cm)、P7 (径 77～60 cm、深さ 62 cm)、P8 (径 63～55 cm、深さ 66 cm) が対応する。3時期目:P1 (径 45～32 cm、深さ 41 cm)、P2 (径 42～37 cm、深さ 31.9 cm)。P3 (径 51～38 cm、深さ 41.5 cm)、P4 (径約 42 cm、深さ 46 cm) が対応する。P13 (径約 30 cm、深さ 32 cm)、P14 (径 48～32 cm、深さ 30 cm)、P15 (径 35～17 cm、深さ 65 cm)、P16 (径 33～17 cm、深さ 66 cm) は壁柱穴か。入口ピット P9 (径 69～55 cm、深さ 24 cm) は2時期目に、P10 (径 42～32 cm、深さ 17 cm) は3時期目に対応。

掘方 中央部を島状に残す。カマド 北カマドは改築時に壊され東に移る。東カマドは煙道部が調査区外となり全形不明。袖部の甕破片は芯材に転用されたものか。遺物 須恵器類は坏・蓋・瓶類・甕が、土師器類は坏・甕の他、製塩土器(19～22)が出土。この他瓦、砥石、鉄製品(刀子・鍔釘・鉄鏃・鋳物:鍋か)、焼成粘土塊がある。口縁部に沈線のある須恵器(10)は新羅系土器の可能性ある。不掲載遺物は土師器坏・甕類が主体で、小コンテナ4箱に及ぶ。礫は約9 kgある。平安時代(9世紀代)の建物と考えられる。

第152表 12区 SI- 1出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 坏	口 13.2 底 8.3 高 4.1	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリ、二次底部面をもつ。底部に焼成時のヒビ割れあり。底部外面墨書あり「財」か。	内:2.5Y6/1 黄灰 外:2.5Y7/1 灰白	やや粗い、白・灰粗砂～礫 焼成:やや硬質	No.1 10.9	完存
2	須恵器 坏	口 (13.4) 底 7.0 高 4.2	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。	内:2.5Y5/1 黄灰 外:10YR4/1 褐灰	やや粗い、白粗砂～礫 焼成:硬質	No.12・22・25 5.8 (No.25)	口縁部 1/3、底部 1/2
3	須恵器 坏	口 (13.0) 底 6.7 高 4.2	内外面ロクロナデ。歪みが大きく口径は復元値。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。中央部に爪状圧痕あり。	内外面とも 5Y5/2 オリーブ黄	やや粗い、白粗砂～礫 焼成:やや硬質	No.18・34・42、南西区、一括、南ベルト一括 床直 (No.5.8)	口縁部 3/4、底部 1/2
4	須恵器 坏	口 (12.8) 底 (6.7) 高 [3.9]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのちナデ。二次底部面を有する。	内:7.5Y6/2 灰オリーブ 外:7.5Y5/2 灰オリーブ	やや緻密、白粗砂～礫 焼成:硬質	No.43 12.2	口縁部～体部 1/3、底部 1/2
5	須恵器 坏	口 (13.8) 底 8.6 高 4.1	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。	内:5Y6/2 灰オリーブ 外:5Y6/2 灰オリーブ	やや粗い、黒・白細砂 焼成:やや硬質	No.77、北西一括 21.3	口縁部 1/4、底部 3/4
6	須恵器 坏	口 (14.8) 底 9.0 高 3.5	内外面ロクロナデ。底面回転ヘラ切りのちナデ。二次底面をもつ。	内:5Y6/1 灰 外:5Y5/1 灰	やや粗い、白・灰粗砂～礫 焼成:硬質	No.114 床直	口縁部～底部 1/2
7	須恵器 坏	口 (11.8) 底 6.5 高 3.7	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリ。	内:2.5Y 暗灰黄 5/2 外:2.5Y 灰黄 6/2	やや粗い、白・灰色粗砂 焼成:やや硬質	西ベルト一括、北東区	口縁部 1/8 底部完存
8	須恵器 坏	口 (9.8) 底 (6.0) 高 3.7	内外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切りのちナデのちヘラ記号。	内:2.5Y 黄灰 5/1 外:5Y 灰 4/1	やや緻密、白粗砂 焼成:硬質	南東区一括、南西区一括	口縁部 1/8、底部 1/3
9	須恵器 坏	高 [1.1]	底部外面回転ヘラケズリ。二次底部面をもつ。底部内面磨滅のため平滑。使用痕か。	内外面とも 7.5Y6/1 灰	やや緻密、白・灰粗砂 焼成:やや硬質	No.7・31 17 (No.31)	底部完存
10	須恵器 坏	長 2.2 幅 3.2 厚 4.5	内外面ロクロナデ。口縁部に一条の沈線あり。新羅土器の可能性あり。	内:2.5Y 黄灰 6/1 外:2.5Y 灰黄 6/2	緻密、白細砂 焼成:硬質	南ベルト一括	口縁部破片
11	須恵器 高台付 坏	口 (18.8) 底 (10.5) 高 6.7	内外面ロクロナデ。高台貼付。	内:2.5Y6/2 灰黄 外:5Y7/1 灰白	やや緻密、白・透明微粒、白・透明礫、雲母片 焼成:やや硬質	No.88、北西一括 26.8	口縁部～高台部 1/4、底部欠損
12	須恵器 高台付 坏	口 7.5 底 7.5 高 [2.7]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのち高台貼付。	内:10Y 灰 5/1 外:7.5Y 灰 5/1	やや緻密、白・細砂 焼成:硬質	No.7、南西区一括 43.3	底部 1/2、体部下半 1/4
13	須恵器 蓋	口 15.2 穴 2.7 高 3.4	天井部外面回転糸切りのち回転ヘラケズリのちツマミ貼付。	内外面とも N5/0 灰	やや粗い、白細砂～粗砂 焼成:やや硬質	北ベルト一括、北東区、北西一括、No.93 1.7	ほぼ完存
14	須恵器 長頸壺	口 7.5 高 [9.5]	内外面ロクロナデ。頸部外面一部褐色袖付着。	内:7.5Y5/1 赤灰 外:7.5Y5/1 赤灰	やや緻密、白・黒細砂～粗砂 焼成:硬質	No.38 10.8	口縁部～頸部 完存

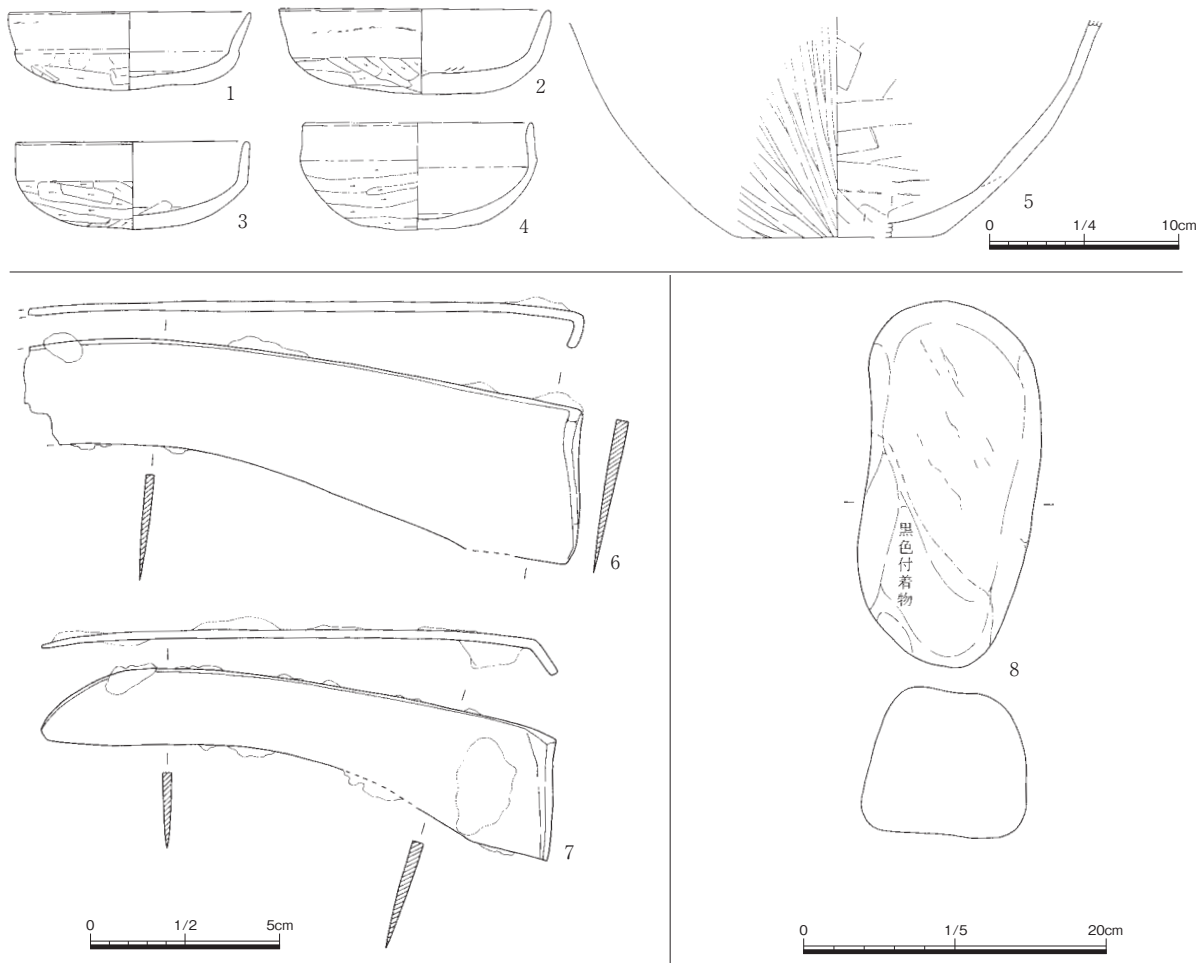
第3章 発見された遺構と遺跡

15	須恵器 甕	厚 1.0	内面無文あて具痕。外面細かな平行叩き。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：2.5Y6/2 黄灰	やや粗い、黒・透明・白 細砂、白礫、雲母片 焼成：硬質	No.26 59.2	胴部破片
16	須恵器 甕	厚 1.3	胴部内面無文あて具痕。胴部外面平行叩き。頸部内外 面ロクロナデ。	内：N3/0 暗灰 外：N5/0 灰	やや粗い、白粗砂～礫 焼成：硬質	No.76 7.2	胴部～頸部 破片
17	須恵器 甕	長 [6.2] 厚 0.8	内面同心円状あて具痕。外面細かな平行叩き。	内外面とも 5Y5/1 灰	やや粗い、白・灰細砂～礫 焼成：硬質	No.4 51.2	胴部破片
18	土師器 坏	底 9.0 高 [2.4]	体部内面～底部内面ロクロナデのちヘラミガキ。体部 外面ロクロナデ。底部外面回転系切りのち外周回転ヘ ラケズリ。	内：5YR5/6 明赤褐 外：7.5YR6/6 橙	やや粗い、白・黒粗砂 焼成：やや硬質	北ベルト一 括	底部 1/4
19	土師器 製塩土 器	厚 0.4	内外面指頭押圧およびナデ。口縁端部先細り状。薄手。	内：7.5YR6/6 橙 外：10YR6/4 にぶい黄褐	やや粗い、白色・灰色・細 砂、白色礫、白色針状物 焼成：硬質	貼床一括	口縁部破片
20	土師器 製塩土 器	厚 0.6	内面弱いヨコナデか。外面ナデ及び指頭押圧。口縁端 部に平坦面あり。被熱したためか赤化する。	内：2.5YR6/6 橙 外：2.5YR6/6 橙	やや粗い 焼成：やや軟質	南西区一括	口縁部破片
21	土師器 製塩土 器	厚 0.6	内面ナデか。外面指頭押圧。接合痕あり。	内：10YR5/3 にぶい黄褐 外：10YR7/4 にぶい黄褐	やや粗い、白色・灰色・ 細砂、白色針状物 焼成：やや硬質	北東区	胴部破片
22	土師器 製塩土 器	厚 0.6	内面ナデ。外面ナデ及び指頭押圧および輪積み痕あり。	内：7.5YR6/6 橙 外：7.5YR6/6 橙	やや粗い、白色・灰色砂、 白色針状物 焼成：やや軟質	北西一括	口縁部付近 破片
23	土師器 甕	口 (22.0) 高 [6.9]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部上半内面ヘラナデ。胴部 上半外面ヨコヘラケズリ。武蔵型の土甕。	内：5YR5/6 明黄褐 外：5YR4/6 赤褐	やや緻密、白・黒細砂 焼成：やや軟質	No.50・55・ 65、南東区 一括 23.6 (No.65)	口縁部～頸 部 1/2
24	土師器 甕	口 (17.8) 高 [18.5]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面 上半部ナメヘラケズリ。下半部タテ及びナメヘラ ケズリ。胴下半部外面一部にスス附着。内面明瞭な積 み上げ休止痕。胴部上半を中心にかマドの粘土附着。	内：10YR5/3 にぶい黄褐 外：10YR4/2 灰黄褐	やや緻密、白細砂、赤色 粒 焼成：硬質	No.52 16.8	口縁部～胴 部 1/4
25	土師器 小型甕	口 (12.8) 高 [3.4]	口縁部～胴部上半の内外面ロクロナデ。外面には黒色 の付着物が認められる。小型の常総甕。口縁端部をつ まみ上げている。	内：10YR8/4 浅黄橙 外：7.5YR7/6 橙	やや粗い、白・黒粗砂 焼成：軟質	北ベルト、 西ベルト、 北西区一括	口縁部 1/4
26	土師器 甕	口 (21.4) 高 [29.2]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半部ヘラナデ。下 半部ヘラケズリのちヘラナデ。胴部内面ナデ・指頭押 圧のち一部ヘラナデ。非常に雑なつくりの常総甕。	内外面とも 5YR5/6 明赤 褐	粗い、白礫多量、砂粒・ 雲母片やや多量 焼成：軟質	No.27・28・ 54・60・64・ 67・69・71・ 72・110・ 111 床直 (No.111)	口縁部 1/12、胴部 上半 1/2、 下半ほぼ完 存
27	男瓦	長幅 [10.1] 厚 [7.9] 重 [3.0] 261.0	凹面が布目痕。凸面がヘラナデ。	10YR7/3 にぶい黄橙	粗い、白・灰粗砂～礫 焼成：硬質	No.74 4.3	部分残存
28	男瓦	長幅 [7.0] 厚 [6.2] 厚 3.0 重 [130.0]	凹面が布目痕。凸面がヘラナデ。	5Y3/1 オリーブ灰	粗い、白・灰粗砂～礫 焼成：軟質	No.108 8.1	部分残存
29	男瓦	長幅 [4.3] 厚 [8.5] 厚 2.0 重 [76.0]	凹面が布目痕。凸面がヘラナデ。	10YR6/4 にぶい黄	粗い、白・灰粗砂～礫 焼成：やや軟質	No.97 44.3	部分残存
30	女瓦	長幅 [9.8] 厚 [6.7] 厚 2.0 重 [137.0]	凸面が格子叩。凹面が布目痕。桶巻き。	2.5Y7/3 浅黄	粗い、白・灰・黒粗砂～ 礫 焼成：軟質	No.2 46.6	部分残存
31	女瓦	長幅 [14.0] 厚 [11.1] 厚 2.0 重 [425.0]	凸面が格子叩。凹面が布目痕。桶巻き。	5YR6/8 橙	やや粗い、白・灰粗砂 焼成：やや硬質	No.106 9.3	部分残存
32	女瓦	長幅 29.3 厚 [20.5] 厚 2.0 重 [1360.0]	凸面が格子叩。凹面が布目痕。桶巻き。	5YR5/8 明赤褐	粗い、白・灰・黒細砂～ 礫、赤粒 焼成：やや硬質	No.75・105 0.3 (No.75)	部分残存
33	女瓦	長幅 [13.0] 厚 [16.5] 厚 2.0 重 [692.0]	凸面が格子叩。凹面が布目痕。桶巻き。	2.5Y8/2 灰白	やや粗い、白・黒細砂～ 粗砂 焼成：やや硬質	No.94 11.6	部分残存
34	石器 砥石	長幅 [6.7] 厚 [4.5] 厚 [3.1] 重 [130.0]	長軸方向に 4 面の砥面が見られる。 平面形：長方形 断面形：長方形	2.5Y8/1 灰白	凝灰岩	No.32 0.6	部欠
35	石器 支脚か	長幅 21.2 厚 10.7 厚 7.6 重 2553.0	被熱のため全面的に赤味を帯びる。一部焼土附着。カ マド構築材かあるいは支脚か。 平面形：隅丸三角形 断面形：隅丸台形	7.5YR5/4 にぶい褐	—	No.47 4.6	ほぼ完存
36	石器 編物石	長幅 24.6 厚 5.5 厚 7.4 重 3085.0	下端部に褐色の付着物あり。漆か。 平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸方形	2.5Y7/3 浅黄	—	No.109 17.5	ほぼ完存
37	鉄製品 刀子	長幅 [5.5] 厚 1.0 厚 0.2 重 [7.6]	切先と茎を欠損。背は直線的。棟幅は約 2.0 mm。両関 で平造り。	—	鉄製	No.85 20.8	部分残存

38	鉄製品 刀子	長 [3.2] 幅 0.8 厚 0.2 重 [3.0]	刃部のみ残る。背は直線的。棟は平坦で刃部は平造り。37と同一個体の可能性もある。	—	鉄製	No.102 6.0	部分残存
39	鉄製品 釘	長 [3.6] 幅 0.4 厚 0.4 重 [3.2]	一辺4.0mm四方の角断面の鉄材をコの字に曲げており、鏝と考えられる。木質などの付着は確認できない。	—	鉄製	No.13 38.9	部分残存
40	鉄製品 鉄鏝	長 [6.9] 幅 0.8 厚 0.2 重 [6.6]	長頸鏝の破片。鏝身は欠損するがノミ箭式の可能性が高い。関は台形関。茎は短く、断面形は正方形に近い。	—	鉄製	No.107 22.2	部分欠損
41	鉄製品 鉄鏝	長 10.8 幅 3.1 厚 0.3 重 12.1	腸袂の三角形鏝。鏝身は両丸造りで厚さ3.0mm。頸部は短く断面形は長方形。関は台形関で茎は完存している。	—	鉄製	No.16 37.0	完存
42	鉄製品 鉄鏝	長 3.2 幅 2.6 厚 0.1 重 3.6	五角形の無茎鏝。腸袂の両端部を欠損。孔は径3.0mmで先端に寄っている。断面は板状。	—	鉄製	No.3 35.2	部分欠損
43	不明鉄 製品	長 [4.8] 幅 [6.2] 厚 0.7 重 [46.3]	厚さ6.0～7.0mmの鋳物の破片。上面から見ると丸みをもつため鍋の可能性あり。	—	鉄製	No.115 床直	部分残存
44	焼成粘 土塊	長 5.0 幅 3.1 厚 2.0	不定形でやや扁平な粘土塊。磨滅著しく不明瞭だが左側面は破面と考えられる。部分的にフラ(?)の脱痕あり。胎土は塊環類と類似。	7.5YR7/6 橙	やや緻密 焼成：軟質	不明	部分残存

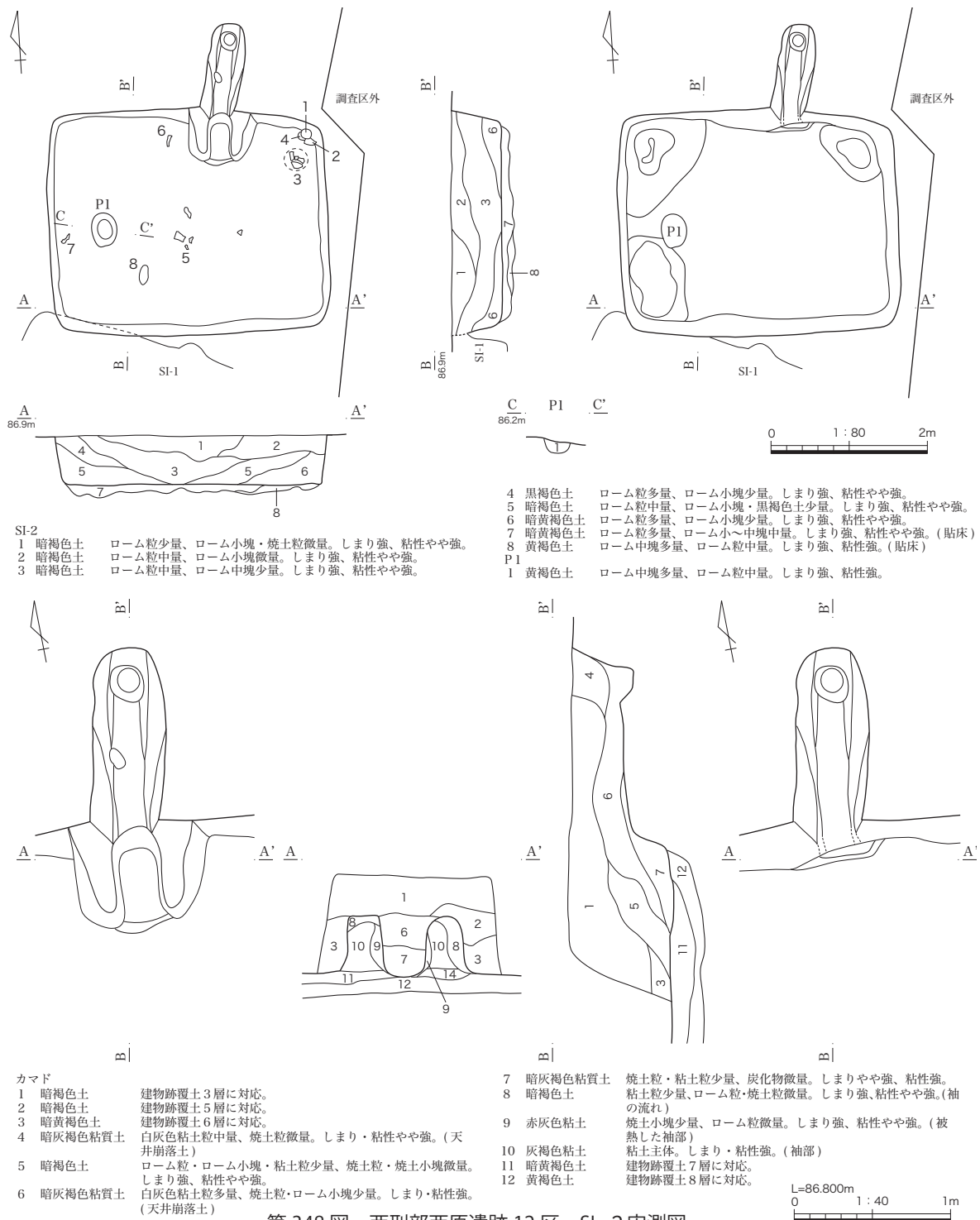
12区 SI-2 (遺構：第348図、遺物：第347図、図版五五・一〇五・一一三)

位置 グリッド91.5-52.5 重複遺構 SI-1より古い。平面形 隅丸長方形 規模 東西3.91×南北3.57m 主軸方向 N-2.5°-E 覆土 自然堆積 壁 壁高37.0～66.8cm残る。床 貼床あり。柱穴



第347図 西刑部西原遺跡12区 SI-2出土遺物

第3章 発見された遺構と遺跡



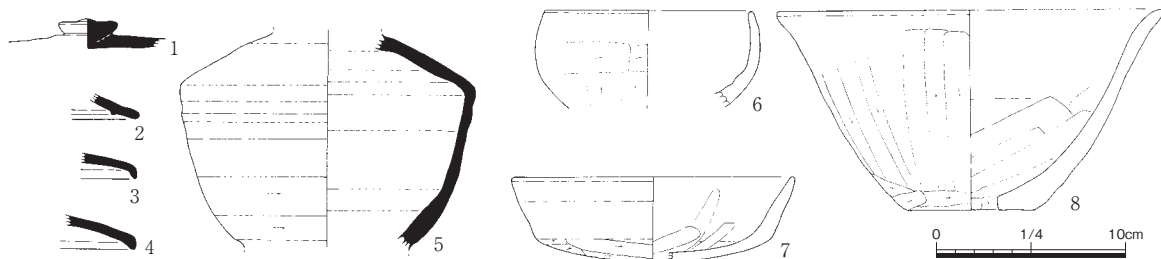
P1 (径 42 ~ 32 cm、深さ 15 cm) が 1 本のみ確認されるが、用途は不明。掘方 南東コーナーを除く、四隅を土坑状に掘る。カマド 北壁中央部やや東に位置し、壁の上半部から長さ 1.1 m に渡り細長く掘り込む。先端部には小ピットがあり、煙突などを設置した痕跡と考えられる。遺物 土師器坏(1~4)・常総型甕(5)の他鎌が 2 本出土した。不掲載遺物は土師器甕・坏が主体で、これに少量の須恵器蓋・甕などがあり、総量は小コンテナ箱 1/5 程度と非常に少ない。遺物から奈良時代の建物跡と考えたい。

第153表 12区 SI-2 出土遺物観察表

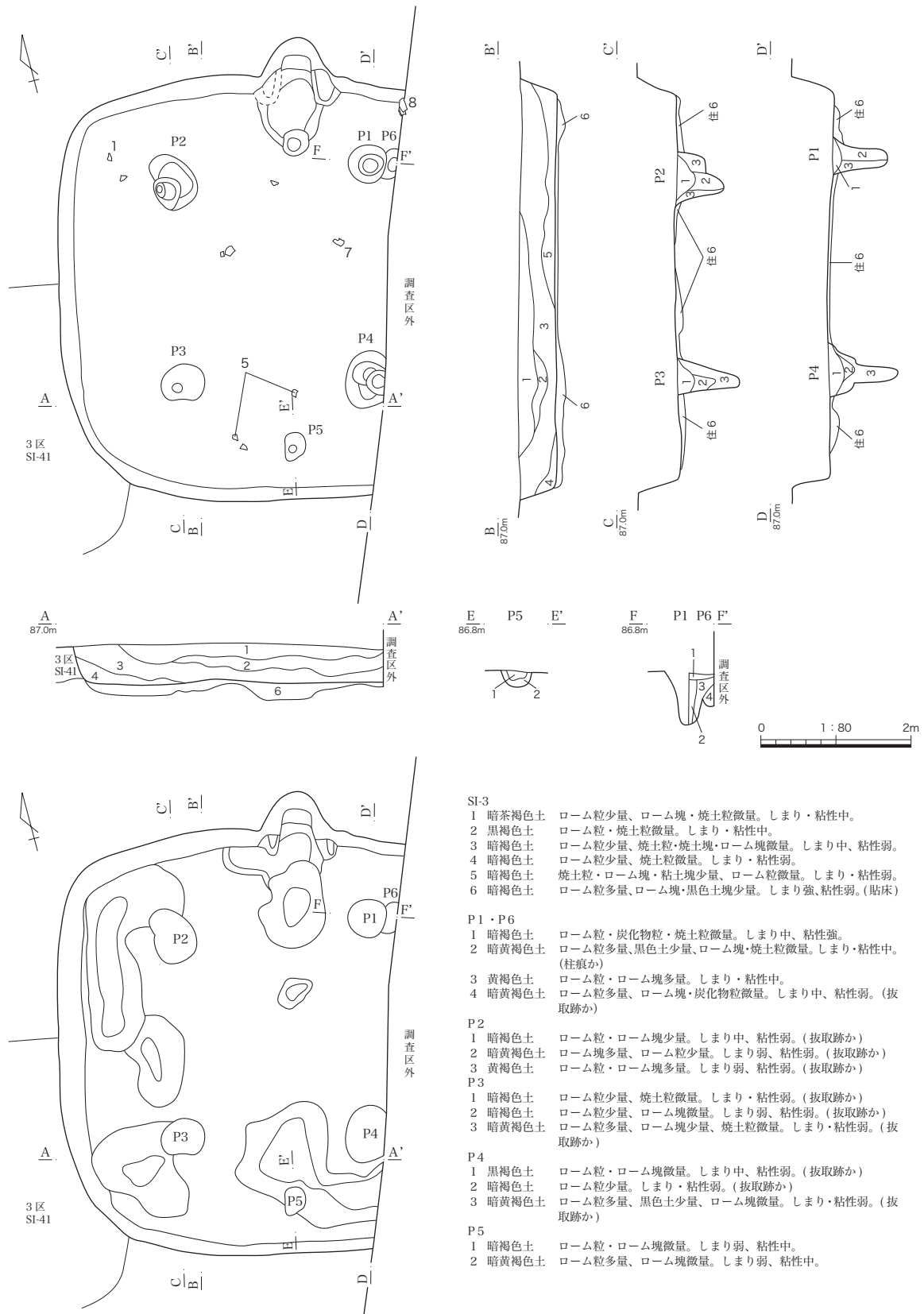
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 坏	口 12.6 高 4.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部内面ナデ。体部外面上半部指頭押圧、下半部ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：10YR8/4 浅黄橙	やや緻密、黒細砂 焼成：やや軟質	No.1 37.1	ほぼ完存
2	土師器 坏	口 (14.0) 高 4.5	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。底部内面指頭押圧及び爪圧痕あり。体部外面ヘラケズリ及び一部ナデ。口縁部外面～内面全面漆仕上げ。	内：10YR3/1 黒褐 外：10YR8/4 浅黄橙	緻密、白・黒・灰粗砂 焼成：やや硬質	No.3 4.3	口縁部～底部 2/5
3	土師器 坏	口 (12.0) 高 4.6	口縁部外面～体部内面ヨコナデ及び漆仕上げ。体部外面ヘラケズリ。底部内面ナデ。	内：7.5YR7/6 橙 外：5YR7/6 橙	やや粗い、白・灰・黒粗砂、赤粒 焼成：やや軟質	No.4、カマド一括 1.9	口縁部 3/4、底部 3/4
4	土師器 坏	口 (11.8) 高 5.6	口縁部外面～体部内面ヨコナデ。体部外面ヨコヘラケズリ。底部外面多方向ヘラケズリ。口縁部内外面漆仕上げ。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	やや緻密、黒細砂・赤粒 焼成：やや硬質	No.2 3.9	口縁部～底部 1/2
5	土師器 甕	底 (10.0) 高 [11.4]	胴部内面ヘラナデ。胴部外面タテヘラナデ。底部外面一方向ヘラナデ。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	やや粗い、白・灰粗砂～礫、雲母片 焼成：やや硬質	No.10、AAヘルト一括 14.2	胴部下半 1/8、底部一部
6	鉄製品 鎌	長 [14.8] 幅 4.1 厚 0.3 重 [60.1]	先端部を欠損。背は僅かに丸みをもつ。角棟で棟幅は2.8mm。刃部は平造り。基部は鋭角に折り曲げている。	—	鉄製	No.6 7.0	部分欠損
7	鉄製品 鎌	長 13.7 幅 3.3 厚 0.3 重 [40.8]	背は緩やかに丸みを帯び先端にかけ曲がりが強くなる。角棟で棟幅は2.0mm。刃部は平造り。基部の折り曲げは浅く、くの字状。	—	鉄製	No.5 2.2	完存
8	石器 編物石	長 23.6 幅 11.2 厚 9.3 重 3918.0	表面に黒色附着物(ススカ)あり。支脚か。平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸台形	5Y6/2 灰オリブ	—	No.12 52.1	ほぼ完存

12区 SI-3 (遺構：第350・351図、遺物：第349図、図版五五・一〇五)

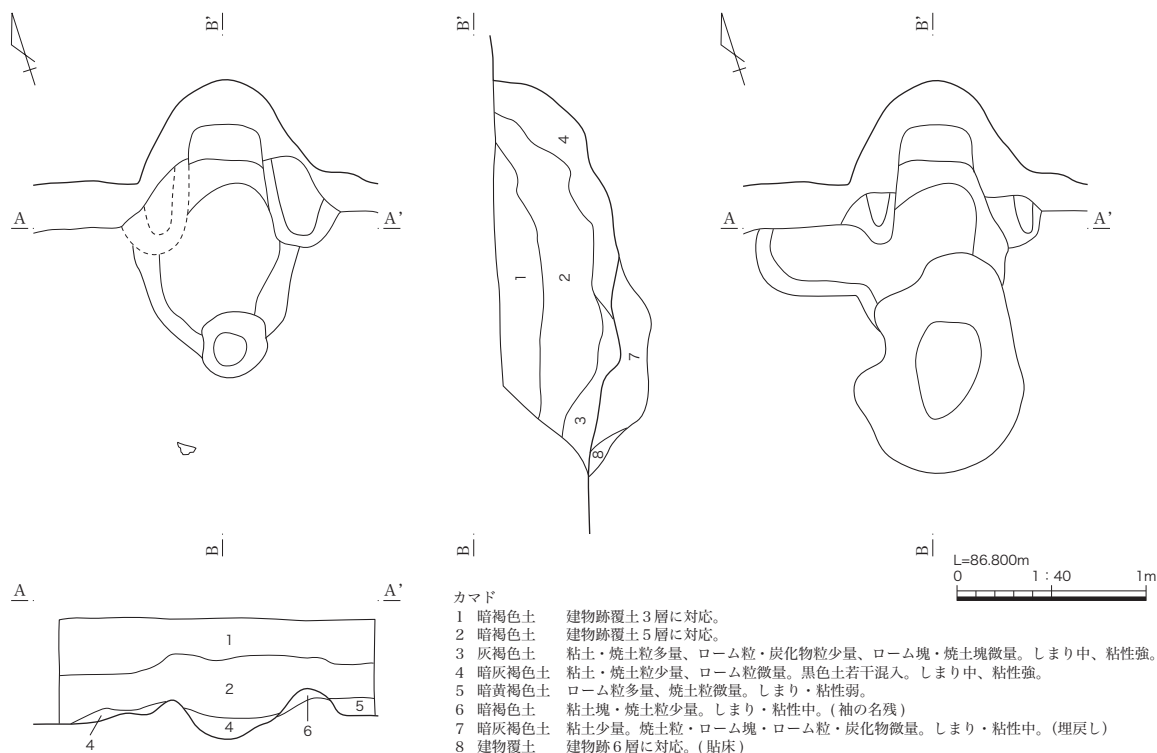
位置 グリッド 92.0-52.5・92.0-53.0 重複遺構 古墳時代終末期の3区 SI-41 より新しい。平面形 東壁は調査区外。壁が弧状に膨らむ隅丸方形か。規模 東西 4.38 m以上、南北 6.05 m 主軸方向 N-15° - E 覆土 自然堆積 壁 壁高 51.9～58.9 cm 床 貼床あり。柱穴 P1 (径 50 cm、深さ 72 cm)、P2 (径 75～57 cm、深さ 62 cm)、P3 (径 58～50 cm、深さ 78 cm)、P4 (径 78～残 52 cm、深さ 92 cm)、P6 (推定径 40 cm、深さ残 28 cm) の計 5 本である。入口ピット P5 (径 40～27 cm、深さ 20 cm) は南壁際にある。掘方 中央部を掘り残し、周縁部を不整な土坑状に掘り下げる。カマド 北壁際を隅丸台形状に掘り込む。煙道は先端部では垂直に立つ。両袖はローム地山を掘り残した上に、灰色粘土を貼り付け構築している。遺物 殆どが覆土上層～中層にかけ出土した。図示した遺物は須恵器蓋(1～4)、長頸瓶(5)土師器坏(6・7)・甕(8)がある。不掲載の土器類は土師器甕が最も多く、次いで土師器坏類・武蔵型甕、須恵器坏の順で、総量は小コンテナ箱 1/2 である。本遺構は奈良時代前葉の建物跡と考えられる。



第349図 西刑部西原遺跡 12区 SI-3 出土遺物



第350図 西刑部西原遺跡 12区 SI-3実測図(1)



第351図 西刑部西原遺跡12区 SI-3実測図(2)

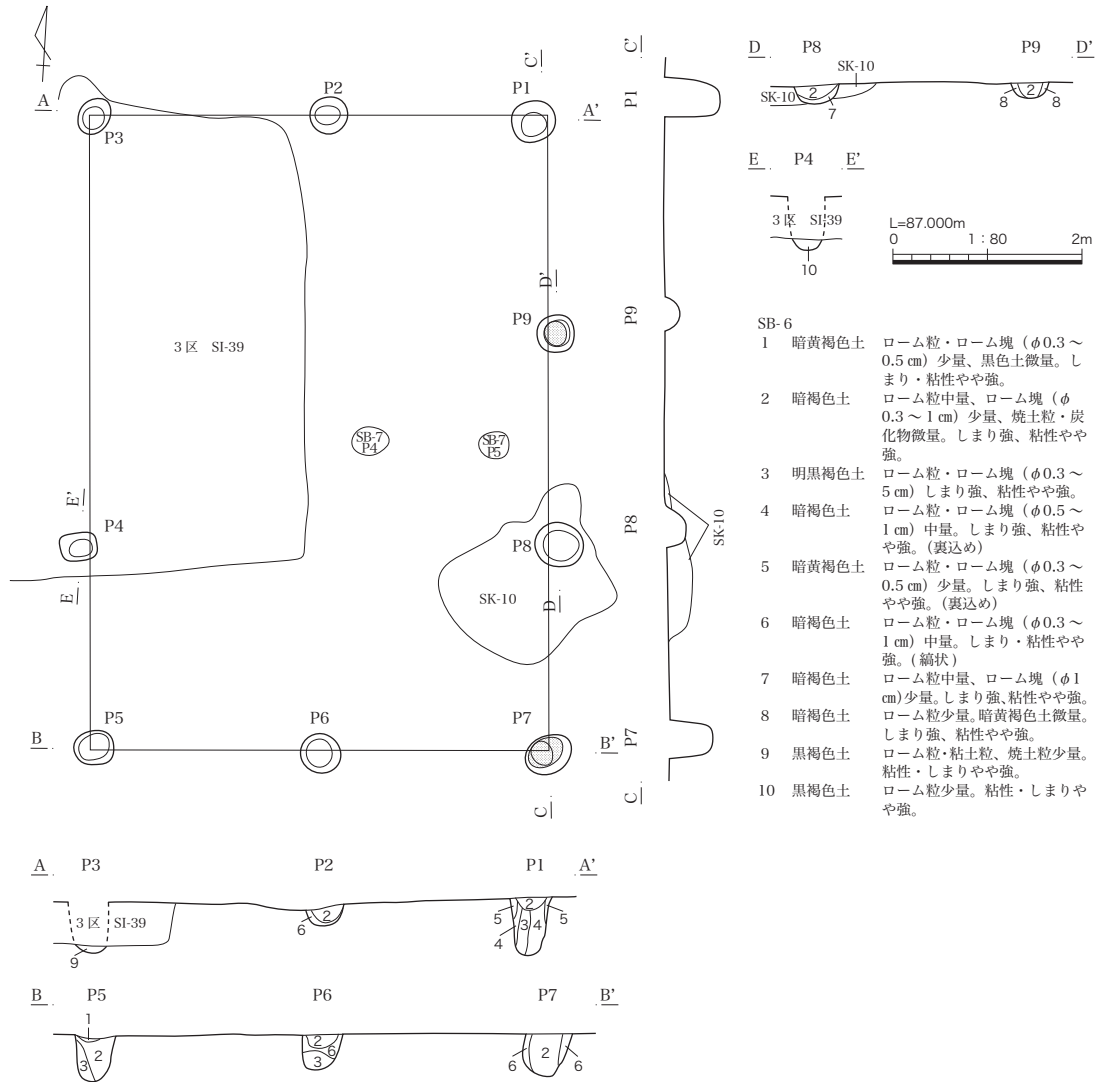
第154表 12区 SI-3出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器蓋	高 [1.6] ワミ 3.1	天井部外面回転ヘラケズリのちナデのちツマミ貼付。内面ロクロナデ。	内：2.5Y8/4 淡黄 外：2.5Y8/3 淡黄	やや緻密、白・灰粗砂 焼成：やや硬質	No.9 10.2	天井部破片、ツマミ完存
2	須恵器蓋	高 [1.0]	内外面ロクロナデ。内面に返りあり。混入品。	内外面とも 5Y3/1 オリーブ黒	やや緻密、白細砂〜礫・雲母片 焼成：硬質	一括	口縁破片
3	須恵器蓋	高 [1.3]	内外面ロクロナデ。	内：2.5GY オリーブ灰 外：10Y5/1 灰	やや緻密、白粗砂 焼成：硬質	北東区一括	口縁部 1/6
4	須恵器蓋	高 [1.8]	内外面ロクロナデ。外面緑色の自然釉付着。	内：2.5Y6/1 黄灰 外：2.5Y8/3 淡黄	やや緻密、白・灰粗砂 焼成：硬質	北東区一括、北東区一括	口縁部破片
5	須恵器長頸瓶	径 (15.4) 高 [11.3]	内外面ロクロナデ。胴部外面下半部回転ヘラケズリ。肩部に厚めの降灰がみられる。肩部内面緑色の自然釉。肩の張りが強い。二条の太い沈線状のロクロ目あり。	内：N5/0 灰 外：7.5Y6/1 灰	やや粗い、白・黒粗砂 焼成：硬質	No.6.8、南東区一括、北東区一括 3.2 (No.6)	胴部〜肩部 1/4
6	土師器環	口 (10.8) 高 [5.1]	口縁部内外面ヨコナデ体部外面ヘラケズリ。体部内面剥離著しく調整不明。外面漆仕上げ。混入品。	内：5YR7/6 橙 外：5YR6/6 橙	やや粗い、灰・白粗砂、赤粒 焼成：やや軟質	北東区一括	口縁部〜体部 1/3
7	土師器環	口 (14.6) 高 4.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内：10YR2/1 黒 外：5Y2/1 黒	やや緻密、白細砂 焼成：やや軟質	No.3、北東区一括 7.7	口縁部 3/8、底部 1/2
8	土師器甔	口 (20.0) 底 6.6 高 10.6 孔 2.5	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリのち下部ヨコヘラケズリ。胴部内面ナメヘラナデ。底部外面ヘラケズリのちナデか。孔は外面より穿孔する。	内：7.5YR6/6 橙 外：10YR6/4 にぶい黄橙	粗い、白・灰・黒礫 焼成：軟質	No.2 3.1	胴部 1/3、底部完存

2. 掘立柱建物跡

12区 SB-6 (遺構：第352図、図版五六)

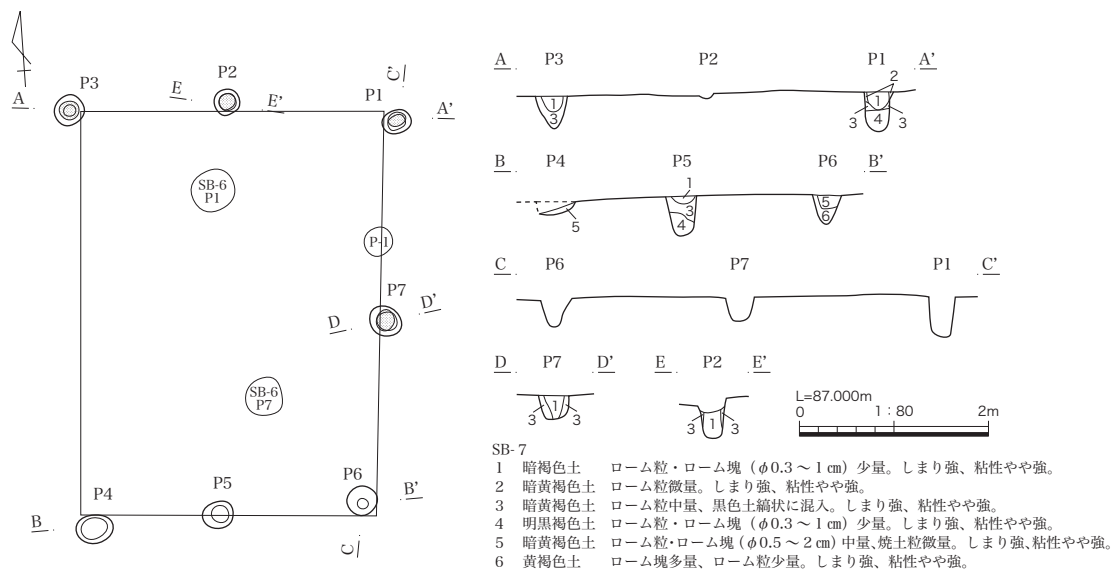
位置 グリッド 92.5-52.5・92.5-53.0 重複遺構 古墳時代終末期の3区 SI-39より古く、SB-7との切り合いは不明。SK-10より新しい。 規模・平面形 桁行3間×梁行2間の南北棟側柱建物。桁行総長6.7m、梁行総長4.8m 柱間 桁行の柱間寸法は東側柱列で南から2.2m+2.2m+2.3m、梁行の柱間寸法は平均2.4mである。 主軸方向 N-2.5°-W 柱穴 P1(径47cmの円形、深さ61cm)、P2(径39cmの円形、深さ20cm)、P3(径43~32cmの楕円形、深さ47cm)、P4(径38~25cmの不整形円形)、P5(径42cmの不整形円形、深さ50cm)、P6(径44cmの円形、深さ37cm)、P7(径51~40cmの楕円形、深さ46cm)、P8(径約50cmの楕円形、深さ22cm)、P9(径42cmの楕円形、深さ16cm)の計9本が見つかった。このうちP1から確認された柱痕から、柱の直径は15cm前後と推定される。 遺物 遺物は図示できるものは殆ど無く、土師器甕小破片が数点出土したのみである。古墳時代終末期の建物より古い可能性があるが、明確な時期は不明である。



第352図 西刑部西原遺跡12区 SB-6実測図

12区 SB- 7 (遺構：第353図、図版五六)

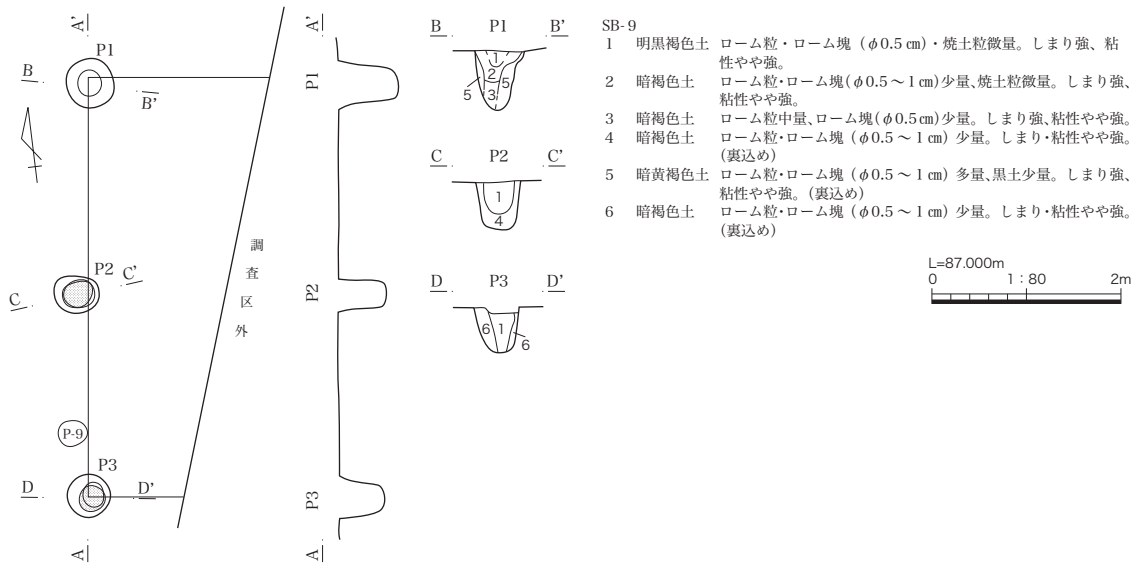
位置 グリッド 92.5-52.5・92.5-53.0 重複遺構 SB- 6、P- 1との重複関係は不明。 規模・平面形 桁行2間×梁行2間の南北棟側柱式建物で、桁行総長4.2 m、梁行総長3.1 mである。 柱間 桁行の柱間寸法は平均2.1 m、梁行の柱間寸法は平均1.55 mである。 主軸方向 N -2.0° - E 柱穴 P1 (径31～26 cmの楕円形、深さ43 cm)、P2 (径28 cmの円形、深さ29 cm)、P3 (径33 cmの円形、深さ35 cm)、P4 (径39～29 cmの楕円形、深さ4 cm)、P5 (径34～30 cmの円形、深さ42 cm)、P6 (径32 cmの円形、深さ31 cm)、P7 (径35～30 cmの楕円形、深さ26 cm) の計7本を確認した。このうちP1～P3・P7の4本から柱痕が確認された。柱の推定直径は15～20 cmである。 遺物 遺物は出土しなかったため、明確な帰属時期は不明である。



第353図 西刑部西原遺跡12区 SB-7実測図

12区 SB- 9 (遺構：第354図、図版五六)

位置 グリッド 93.0-53.0 重複遺構 P- 9との重複は不明。南西5 mにSB- 7が位置する。 規模・平面形 多くが調査区外のため全形は不明だが、桁行2間×梁行推定1間の南北棟側柱式建物と考えた。桁行総長4.5 m、梁行総長2 m以上。 柱間 桁行の柱間寸法は南から2.2 m+2.3 m、梁行の柱間寸法は不明である。 主軸方向 N - 7° - E 柱穴 P1 (径約50 cmの円形、深さ63 cm)、P2 (径47～40 cmの楕円形、深さ51 cm)、P3 (径46 cmの円形、深さ43 cm) の計3本を確認した。断面の柱痕から推定できる柱の太さは15 cm前後である。 遺物 遺物が出土しなかったため、正確な帰属時期は不明である。

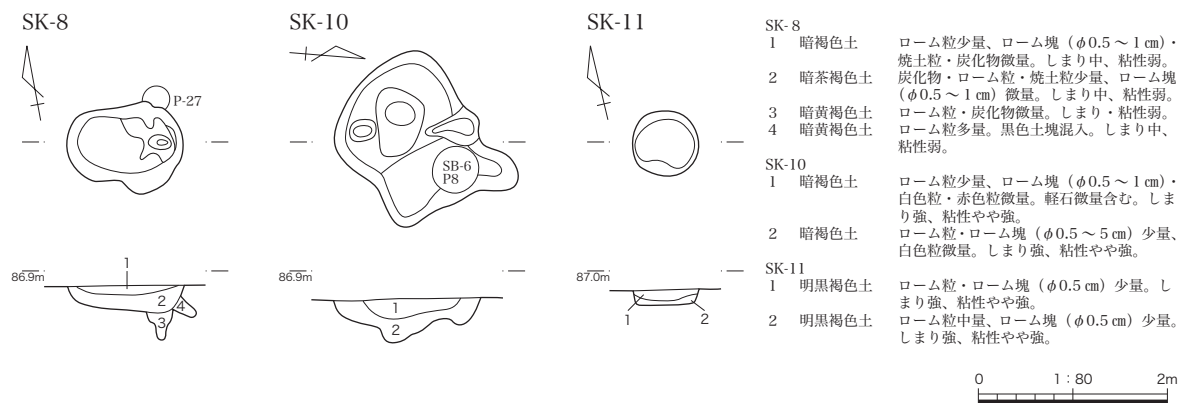


第354図 西刑部西原遺跡12区 SB-9実測図

3. 土坑

本調査区からは計3基の土坑を確認した。他の調査区同様、遺物の出土量が極めて少なく、明確な時期は確定できない。ただし他遺構との切り合いから、ある程度の時間幅を推定できるものもある。ここでは遺構個別の事実記載は行わず、表にまとめて掲載し、特徴的な遺構については補足説明を行う。

SK-11は径64cmの平面円形で、浅い筒状の断面形をもつ。自然堆積と考えられる。SK-8・10は不整形で、底面の凹凸が顕著である。これらの帰属時期は不明と言わざるを得ないが、SK-10は掘立柱建物跡SB-6より古いことが判明している。

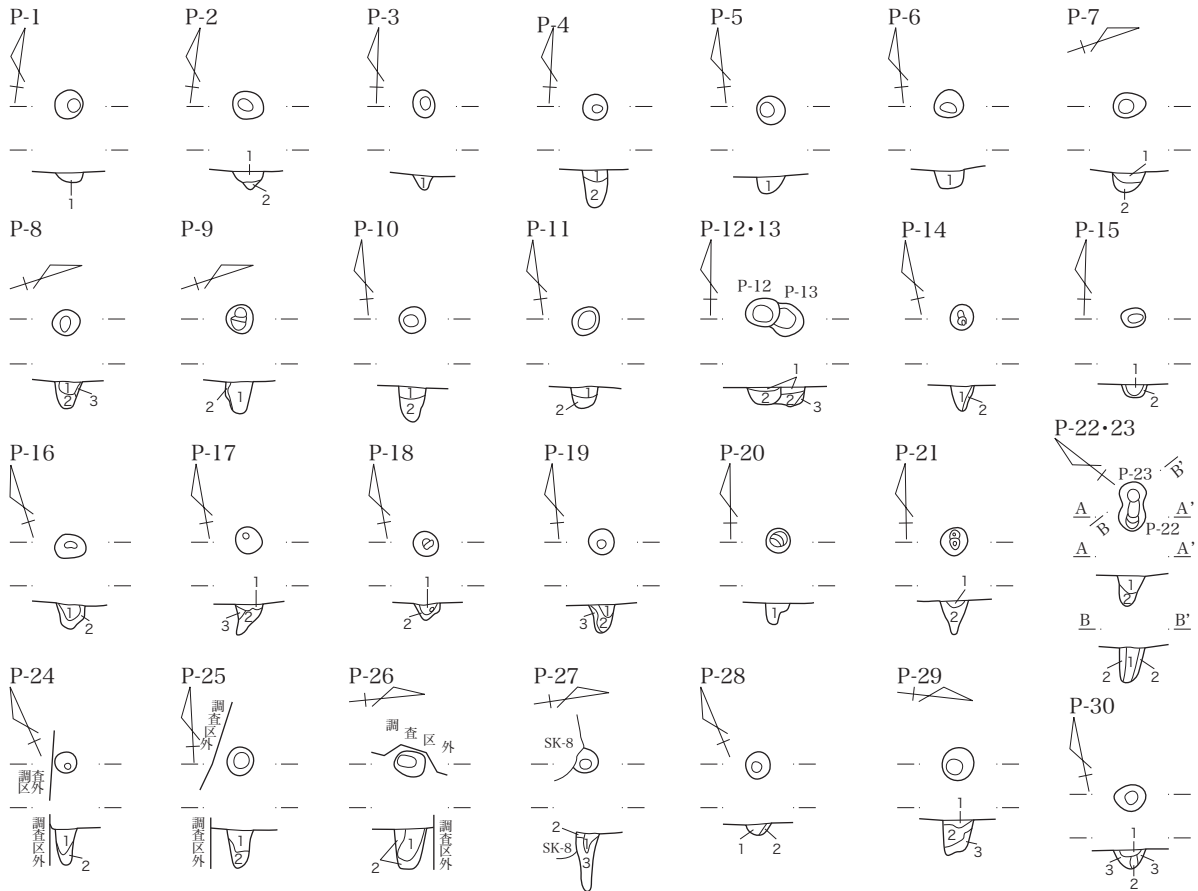


第355図 西刑部西原遺跡12区 土坑実測図

第155表 12区 土坑計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
SK-8	94.0-53.0	—	1.2	0.95	0.59	P-27と重複
SK-10	92.5-53.0	—	1.97	1.65	0.46	SB-6と重複
SK-11	93.0-53.0	円形	0.7	0.70	0.16	

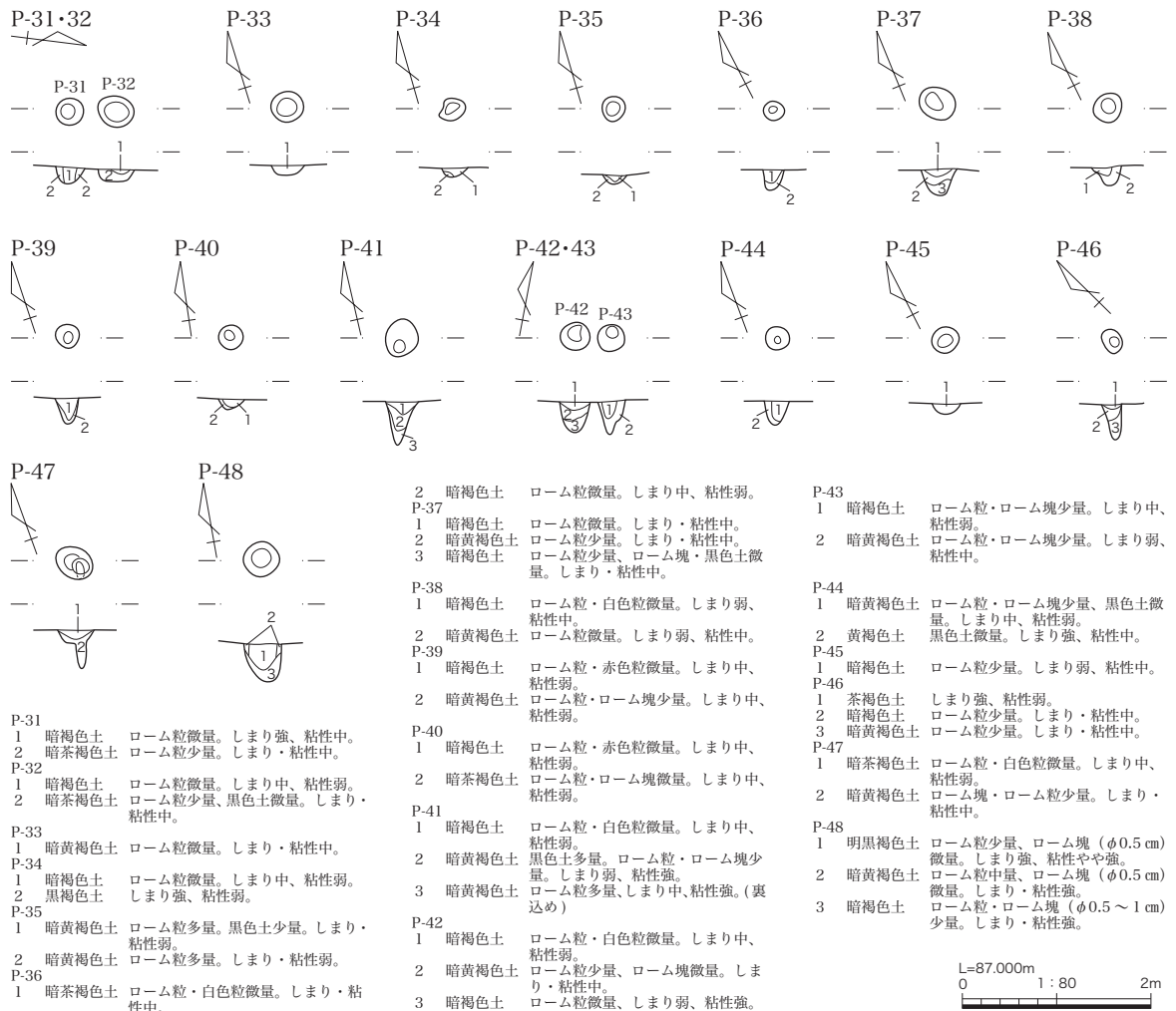
4.ピット



P-1	1 暗黄褐色土	ローム粒中量、ローム塊 (φ0.5~1cm) 少量、白色粒微量、赤色粒極めて微量。しまり強、粘性やや強。	2 明黒褐色土	ローム粒少量、しまり強、粘性やや強。	P-24	1 暗褐色土	明黒褐色土・ローム塊 (φ0.5~1cm) 中量、ローム粒少量、赤色粒微量。しまり強、粘性やや強。	
P-2	1 暗褐色土	ローム粒少量、赤色粒極めて微量。しまり強、粘性やや強。	2 暗黄褐色土	ローム粒中量。しまり強、粘性やや強。	2 暗黄褐色土	2 暗黄褐色土	ローム粒多量、ローム塊 (φ0.5~1cm) 中量。しまり強、粘性やや強。	
P-3	1 暗褐色土	ローム粒少量、赤色粒ごく微量。しまり強、粘性やや強。	P-14	1 暗褐色土	ローム粒少量、白色粒・赤色粒極めて微量。しまり強、粘性やや強。	2 暗黄褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ0.5cm) 少量。しまり強、粘性やや強。(縮状)	
P-4,P-10,P-11	1 暗褐色土	ローム粒微量、白色粒・赤色粒極めて微量。しまり強、粘性やや強。	2 暗黄褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ0.5cm) 少量。しまり強、粘性やや強。(縮状)	P-15	1 明黒褐色土	ローム粒微量。しまり強、粘性やや強。	
P-5	1 暗黄褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ0.5~1cm)・赤色塊 (φ0.5~1cm) (1P) 少量、白色粒微量。しまり強、粘性弱。	2 暗褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ0.5cm) 少量。しまり強、粘性やや強。	2 暗黄褐色土	2 暗黄褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ0.5cm) 少量。しまり強、粘性やや強。	
P-6	1 暗黄褐色土	ローム塊 (φ0.5~1cm) 少量、ローム粒微量。しまり強、粘性やや強。(縮状)	P-16	1 暗褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ0.5cm) 少量、赤色粒微量。しまり強、粘性やや強。	2 暗褐色土	ローム粒多量 (縮状)、ローム塊 (φ0.5cm) 少量。しまり強、粘性やや強。	
P-7	1 暗褐色土	ローム粒少量、赤色粒ごく微量。しまり強、粘性やや強。	2 明黒褐色土	ローム粒少量、ローム塊 (φ0.5cm) 微量。しまり強、粘性やや強。	P-17	1 暗褐色土	ローム粒少量、ローム塊 (φ0.5cm) 微量。しまり強、粘性やや強。	
P-8	1 暗褐色土	ローム粒少量、白色粒・赤色粒極めて微量。しまり強、粘性やや強。	2 暗黄褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ0.5cm) 微量。しまり強、粘性やや強。(柱痕)	2 暗黄褐色土	2 暗黄褐色土	ローム粒多量、ローム塊 (φ0.5cm) 少量。しまり強、粘性やや強。	
P-9	2 暗黄褐色土	ローム粒中量、ローム塊 (φ0.5cm) 少量。しまり強、粘性やや強。	3 暗黄褐色土	ローム粒中量、ローム塊 (φ0.5cm) 少量。しまり強、粘性やや強。	P-18	1 明黒褐色土	ローム粒中量 (縮状)。しまり強、粘性やや強。	
P-12	1 暗褐色土	ローム粒微量、白色粒・赤色粒ごく微量。しまり強、粘性やや強。	P-20	1 暗褐色土	ローム粒多量 (縮状)。しまり強、粘性やや強。	2 暗黄褐色土	2 暗黄褐色土	ローム粒中量 (縮状)。しまり強、粘性やや強。
P-13	2 明黒褐色土	ローム塊 (φ0.5~1cm) 少量、ローム粒微量、赤色粒極めて微量。しまり強、粘性やや強。	P-21	1 暗褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ0.5~1cm) 少量。しまり強、粘性やや強。	2 明黒褐色土	2 明黒褐色土	ローム粒中量 (縮状)。しまり強、粘性やや強。
P-16	1 暗褐色土	ローム粒少量、白色粒・赤色粒極めて微量。しまり強、粘性やや強。	P-22	1 暗褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ0.5~1cm) 少量。しまり強、粘性やや強。	2 暗黄褐色土	2 暗黄褐色土	ローム粒少量、ローム塊 (φ0.5cm) 微量。しまり強、粘性やや強。
P-17	1 暗褐色土	ローム粒少量、ローム塊 (φ0.5cm) 微量。しまり強、粘性やや強。	P-23	1 明黒褐色土	ローム粒少量、赤色粒極めて微量。しまり強、粘性やや強。	2 暗褐色土	2 暗褐色土	ローム粒少量、ローム塊 (φ1cm) 中量。しまり強、粘性やや強。(裏込め)
P-18	1 明黒褐色土	ローム粒中量 (縮状)。しまり強、粘性やや強。	P-24	1 暗褐色土	ローム粒少量、赤色粒極めて微量。しまり強、粘性やや強。	2 暗黄褐色土	2 暗黄褐色土	ローム粒少量、ローム塊 (φ0.5cm) 微量。しまり強、粘性やや強。
P-19	1 明黒褐色土	ローム粒中量 (縮状)。しまり強、粘性やや強。	P-25	1 暗褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ0.5cm) 少量。しまり強、粘性やや強。	2 明黒褐色土	2 明黒褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ0.5cm) 中量。しまり強、粘性やや強。
P-20	1 暗褐色土	ローム粒多量 (縮状)。しまり強、粘性やや強。	P-26	1 暗褐色土	ローム粒微量。しまり強、粘性やや強。	2 暗黄褐色土	2 暗黄褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ0.5cm) 少量。しまり強、粘性やや強。
P-21	1 暗褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ0.5~1cm) 少量。しまり強、粘性やや強。	P-27	1 暗褐色土	ローム粒少量、ローム塊 (φ0.5cm) 微量。しまり強、粘性やや強。	2 暗黄褐色土	2 暗黄褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ0.5~1cm) 少量。しまり強、粘性やや強。
P-22	1 暗褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ0.5~1cm) 少量。しまり強、粘性やや強。	P-28	1 暗褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ0.5cm) 少量。しまり強、粘性やや強。	2 暗黄褐色土	2 暗黄褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ0.5cm) 少量。しまり強、粘性やや強。
P-23	1 明黒褐色土	ローム粒少量、赤色粒極めて微量。しまり強、粘性やや強。	P-29	1 暗褐色土	ローム粒微量。しまり強、粘性やや強。	2 明黒褐色土	2 明黒褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ0.5cm) 少量。しまり強、粘性やや強。
P-24	1 暗褐色土	明黒褐色土・ローム塊 (φ0.5~1cm) 中量、ローム粒少量、赤色粒微量。しまり強、粘性やや強。	P-30	1 暗褐色土	ローム粒少量、ローム塊 (φ0.5cm) 微量。しまり強、粘性やや強。	2 暗黄褐色土	2 暗黄褐色土	ローム塊 (φ0.5~1cm) 多量、ローム粒中量 (縮状)。しまり強、粘性やや強。(裏込め)
P-25	1 明黒褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ0.5cm) 少量。しまり強、粘性やや強。		2 暗黄褐色土	ローム塊 (φ0.5~1cm) 少量、ローム粒微量。しまり強、粘性やや強。(柱痕)	3 暗黄褐色土	3 暗黄褐色土	ローム塊 (φ0.5~1cm) 中量、ローム粒少量。しまり強、粘性やや強。
P-26	1 暗褐色土	ローム粒・赤色粒微量。しまり中、粘性弱。(柱痕)						
P-27	1 暗褐色土	ローム粒少量、ローム塊 (φ0.5cm) 微量。しまり強、粘性やや強。						
P-28	1 暗褐色土	ローム粒・ローム塊 (φ0.5cm) 少量。しまり強、粘性やや強。						
P-29	1 暗褐色土	ローム粒微量。しまり強、粘性やや強。						
P-30	1 暗褐色土	ローム粒少量、ローム塊 (φ0.5cm) 微量。しまり強、粘性やや強。						



第356図 西刑部西原遺跡12区 ピット実測図(1)



第 357 図 西刑部西原遺跡 12 区 ピット実測図 (2)

本調査区からは計 48 基のピットが確認された。土坑と同様、遺物の出土量が少ないため明確な時期を確定できない場合が多いが、他遺構との切り合いから、ある程度の時間幅を推定できるものもある。

ここでは土坑と同様に個別の事実記載は行わず、出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容などを表にまとめ掲載した。前述の通り、ピットは 12 区北部において多く分布している。柱穴状の形状を呈するものが多く、掘立柱建物跡の掘方が混在している可能性もある。柱痕は P-23・31・39・43・44 から認められる。

第 156 表 12 区 ピット計測表

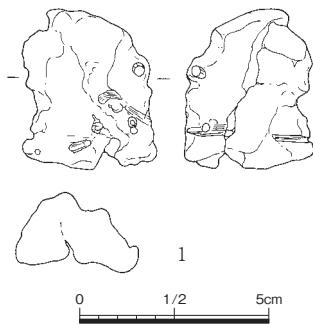
遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
P-1	92.5-53.0	円形	0.3	0.29	0.1	
P-2	92.5-53.0	楕円形	0.33	0.31	0.19	
P-3	92.5-53.0	楕円形	0.29	0.23	0.16	
P-4	92.5-53.0	楕円形	0.28	0.26	0.4	
P-5	93.0-53.0	円形	0.3	0.3	0.17	
P-6	93.0-53.0	円形	0.32	0.3	0.19	
P-7	92.5-53.0	楕円形	0.35	0.27	0.2	
P-8	93.0-53.0	円形	0.3	0.28	0.29	
P-9	93.0-53.0	円形	0.31	0.29	0.34	
P-10	92.5-53.0	円形	0.28	0.28	0.37	

P-11	93.0-53.0	楕円形	0.29	0.29	0.22	
P-12	93.0-53.0	—	0.35	0.31	0.18	P-13 と重複
P-13	93.0-53.0	—	(0.34)	0.28	0.21	P-12 と重複
P-14	93.0-53.0	円形	0.27	0.26	0.27	
P-15	93.0-53.0	楕円形	0.26	0.2	0.14	
P-16	93.0-53.0	楕円形	0.32	0.26	0.26	
P-17	93.0-53.0	楕円形	0.28	0.28	0.32	
P-18	93.0-53.0	楕円形	0.26	0.26	0.17	
P-19	93.0-53.0	円形	0.28	0.27	0.3	
P-20	93.0-53.0	円形	0.26	0.26	0.23	
P-21	93.5-53.0	円形	0.28	0.28	0.37	
P-22	93.0-53.0	—	(0.29)	—	0.33	P-23 と重複
P-23	93.5-53.0	—	(0.29)	—	0.38	P-22 と重複
P-24	93.5-53.0	円形	0.22	0.22	0.37	
P-25	93.5-53.0	円形	0.3	0.28	0.41	
P-26	93.5-53.0	楕円形	0.33	0.28	0.43	
P-27	94.0-53.0	—	(0.26)	0.25	0.52	SK-8 と重複
P-28	93.5-53.0	円形	0.27	0.26	0.12	
P-29	93.5-53.0	円形	0.36	0.33	0.37	
P-30	93.5-53.0	楕円形	0.33	0.29	0.21	
P-31	93.5-53.0	円形	0.3	0.28	0.17	
P-32	93.5-53.0	楕円形	0.38	0.33	0.13	
P-33	93.5-53.0	円形	0.35	0.32	0.1	
P-34	93.5-53.0	—	0.3	0.23	0.09	
P-35	93.5-53.0	円形	0.26	0.25	0.1	
P-36	93.5-53.0	円形	0.21	0.21	0.22	
P-37	93.5-53.0	楕円形	0.4	0.33	0.28	
P-38	93.5-53.0	楕円形	0.32	0.29	0.2	
P-39	93.5-53.0	楕円形	0.28	0.24	0.28	
P-40	93.5-53.0	円形	0.27	0.27	0.1	
P-41	94.0-53.0	楕円形	0.42	0.35	0.45	
P-42	93.5-53.0	円形	0.31	0.31	0.32	
P-43	93.5-53.0	円形	0.3	0.29	0.35	
P-44	94.0-53.5	円形	0.25	0.24	0.26	
P-45	94.0-53.5	円形	0.3	0.27	0.1	
P-46	94.0-53.0	楕円形	0.25	0.2	0.37	
P-47	94.0-53.5	楕円形	0.41	0.32	0.4	
P-48	91.0-52.5	円形	0.38	0.37	0.4	

5. 遺構外

遺構外から出土した遺物は少なく、少量の土師器・須恵器類などが出土したのみである。

1 は焼成粘土塊である。胎土はキメが細かく、坏類の胎土と類似している。表裏面を貫通する円形の孔があるが、ワラ状繊維の脱痕と考えられる。



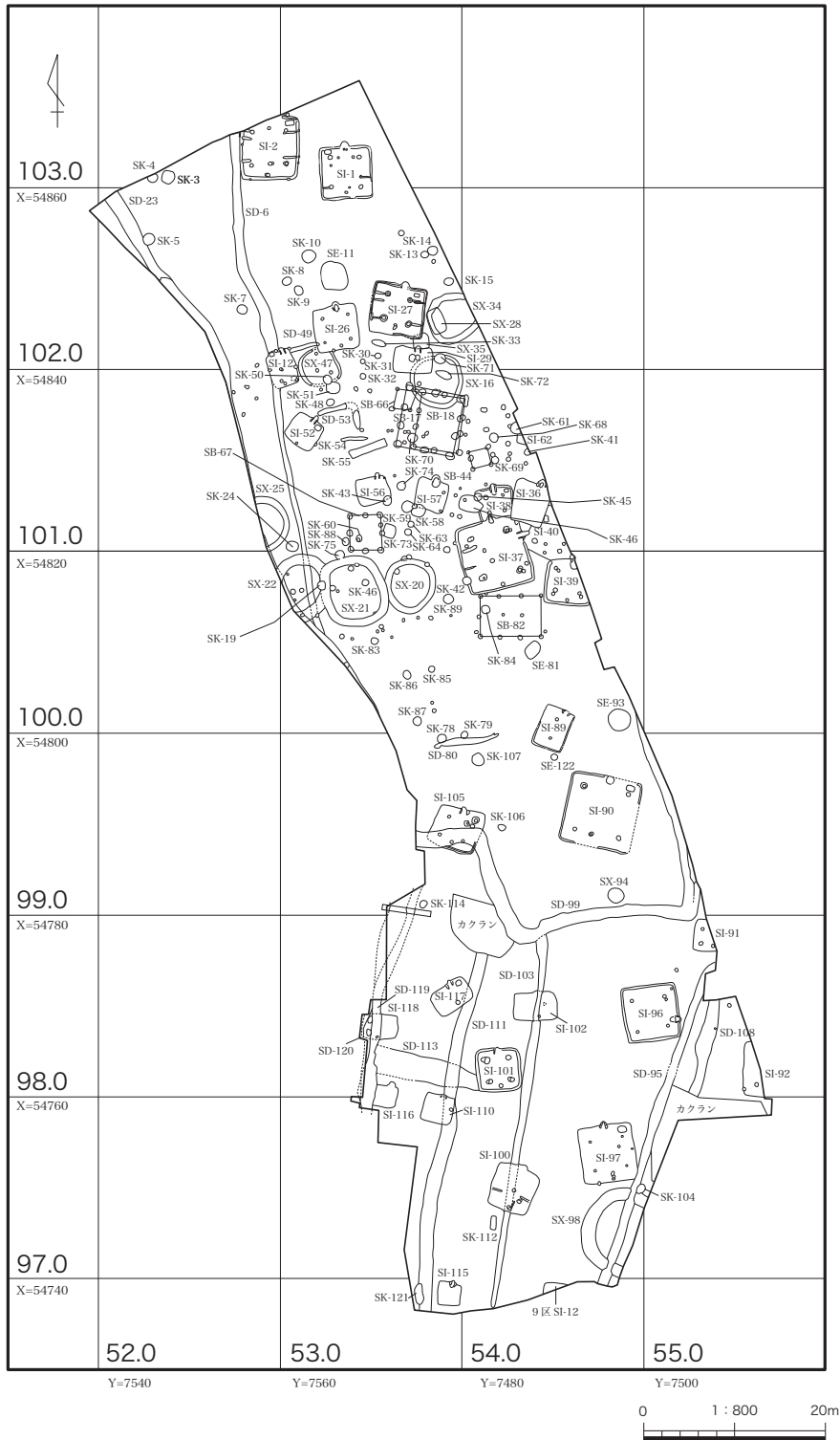
第 358 図 西刑部西原遺跡 12 区
調査区一括出土遺物

第 157 表 12 区 調査区一括出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	焼成粘土塊	長 4.2 幅 3.2 厚 2.0 重 13.9	胎土は坏類に似るが管状の繊維質を多く含み、その脱痕が顕著。	内外面とも 5YR4/8 淡黄	緻密、白・灰微粒砂 焼成：軟質	調査区一括	部分欠損

第13節 13区の遺構と遺物

本区では竪穴建物跡30棟、掘立柱建物跡6棟、周溝遺構8基、円形有段遺構1基、性格不明遺構2基、井戸4本、溝13条、土坑56基、ピット97基が確認された。

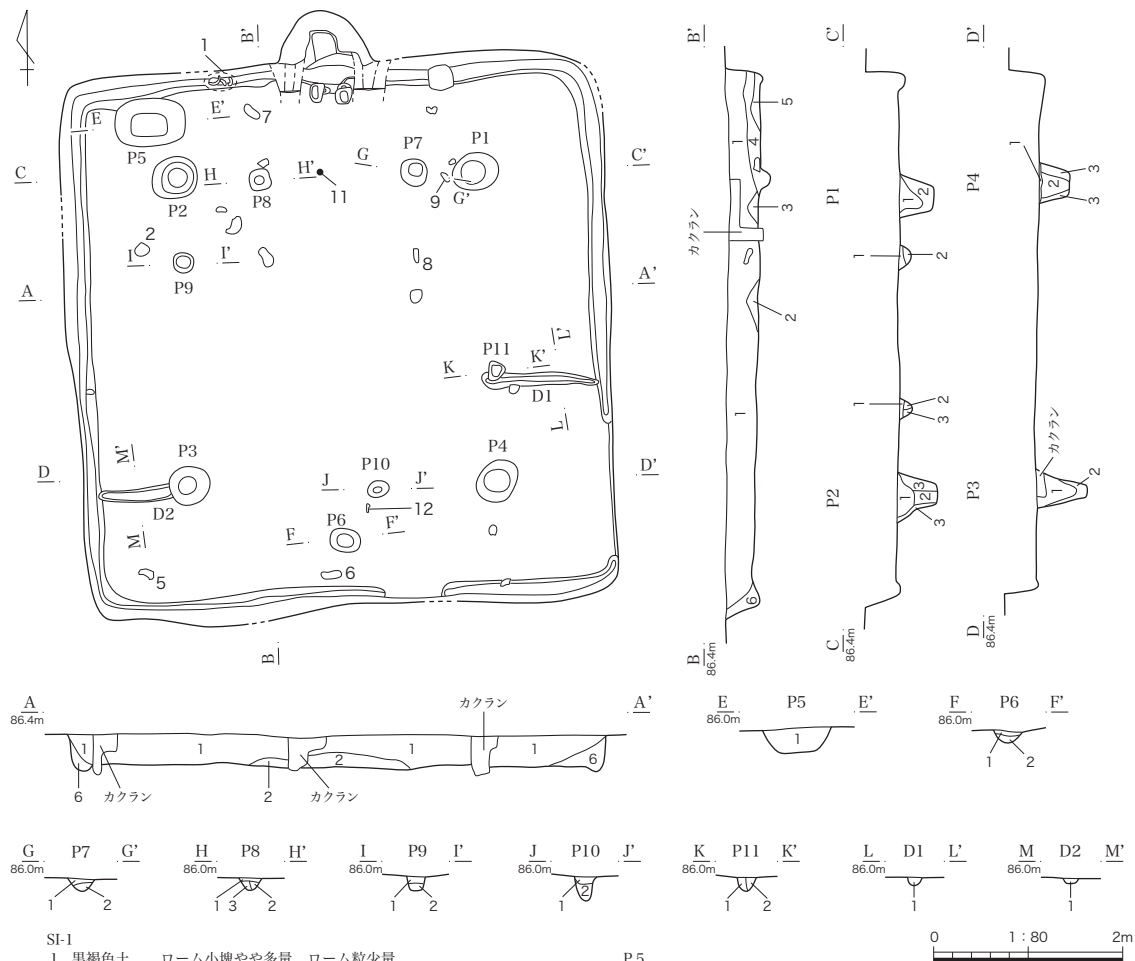


第359図 西刑部西原遺跡13区 全体図 (S=1/800)

1. 竪穴建物跡

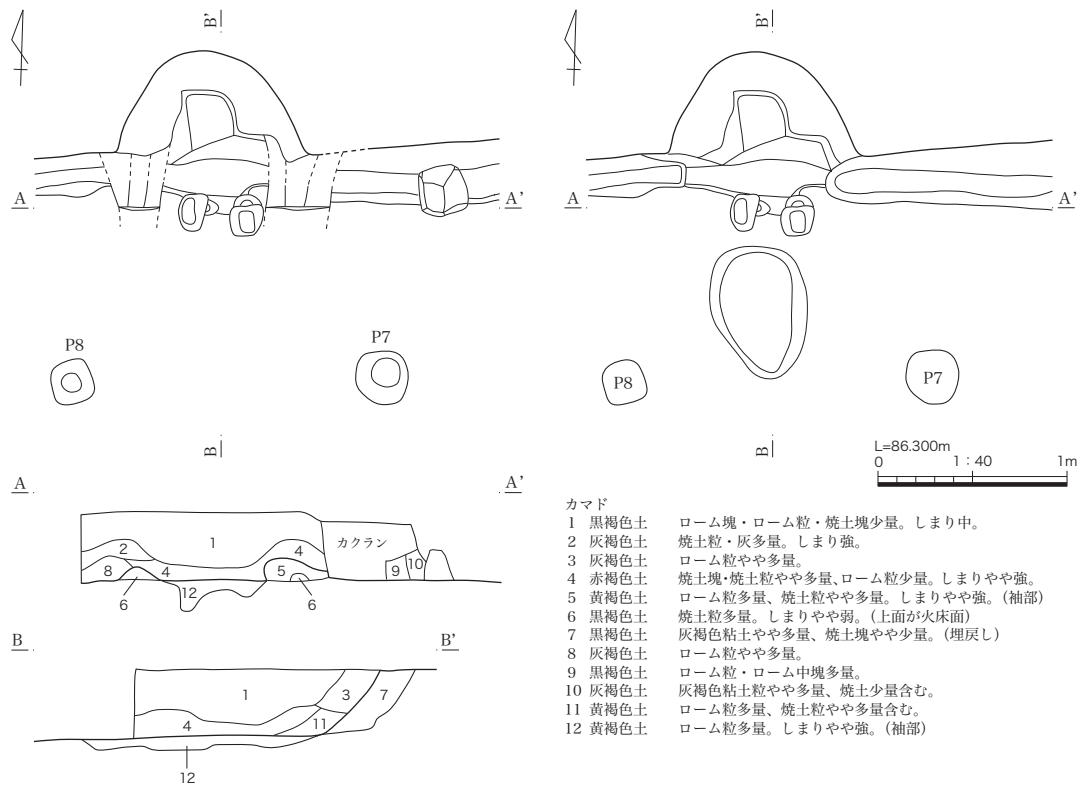
13区 SI-1 (遺構：第360・361図、遺物：第362図、図版五八・一〇五)

位置 グリッド102.5-53.0・103.0-53.0 重複遺構 無し。 平面形 隅丸正方形 規模 東西5.67×南北6.05m 主軸方向 N-3°-W 覆土 自然堆積 壁 壁高33~41cm 床 ローム面を床面とし、概ね平坦。 柱穴 P1(径49~41cm、深さ36cm)、P2(径50~44cm、深さ41cm)、P3(径42cm、深さ52cm)、P4(径46~38cm、深さ31cm)は主柱穴。 入口ピット P6(径31~24cm、深さ12cm)は南壁より50cmほど離れて位置する。 貯蔵穴 P5(長軸62×短軸51cm、深さ26cm)は北西隅にある。 ピット P7(径30cm、深さ12cm)、P8(径25cm、深さ12cm)、P9(径22cm、深さ14cm)、P10(径23~17cm、深さ25cm)は用途不明。P11(径20cm、深さ13cm)は間仕切り溝関連のピットか。 壁溝 南

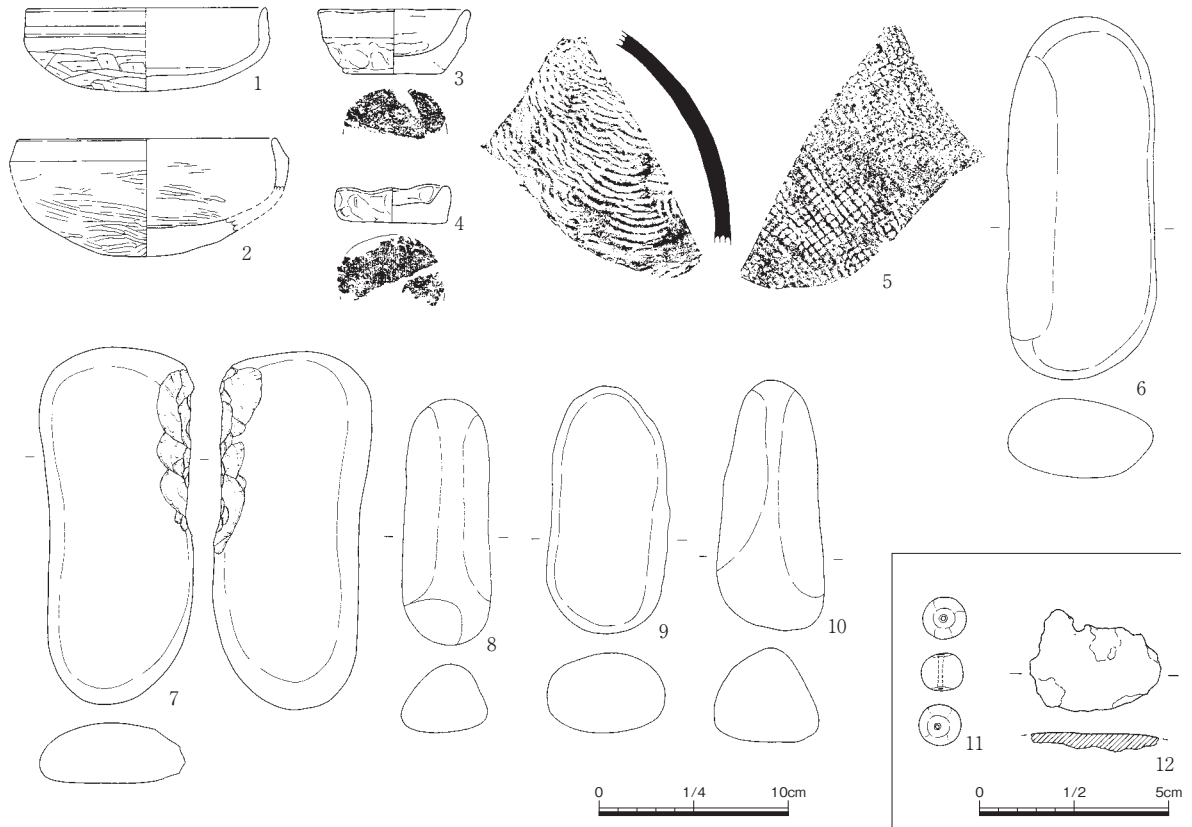


- | | | | | | |
|-------|--------|----------------------------|------------|---------|--------------------------|
| SI-1 | 1 黒褐色土 | ローム小塊やや多量、ローム粒少量。 | P5 | 1 黒褐色土 | ローム粒やや多量。 |
| | 2 灰褐色土 | 焼土粒・灰多量。しまり弱。 | P6 | 1 暗褐色土 | ローム小塊・ローム粒少量。しまりやや強。 |
| | 3 黒褐色土 | ローム粒少量。 | | 2 暗褐色土 | ローム小〜中塊やや多量。しまりやや強。 |
| | 4 黒褐色土 | 焼土粒・灰多量。 | P7 | 1 暗灰褐色土 | ローム粒・ローム小塊・焼土塊やや多量、しまり弱。 |
| | 5 黒褐色土 | ローム粒やや多量。 | | 2 灰褐色土 | ローム小塊少量、しまり弱。 |
| | 6 黒褐色土 | ローム中塊やや多量、ローム粒少量。 | P8 | 1 暗灰褐色土 | ローム粒・ローム小塊・焼土塊やや多量、しまり弱。 |
| P1・P3 | 1 黒褐色土 | ローム小塊やや多量、ローム粒少量。しまり弱。(柱痕) | | 2 灰褐色土 | ローム小塊少量、しまり弱。 |
| | 2 黄褐色土 | ローム中〜大塊多量。しまりやや強。(裏込め) | P9・P10・P11 | 1 暗褐色土 | ローム小塊・ローム粒少量。しまりやや強。 |
| P2 | 1 黒褐色土 | ローム小塊やや多量、ローム粒少量。しまり弱。(柱痕) | | 2 暗褐色土 | ローム小〜中塊やや多量。しまりやや強。 |
| | 2 黒褐色土 | ローム粒多量。しまり弱。(柱痕) | D1・D2 | 1 黄褐色土 | ローム小塊・ローム粒多量。しまりやや弱。 |
| | 3 黄褐色土 | ローム中〜大塊多量。しまりやや強。(裏込め) | | | |
| P4 | 1 黒褐色土 | ローム粒多量。しまり弱 | | | |
| | 2 黄褐色土 | ローム小塊・ローム粒多量。しまり弱(柱痕) | | | |
| | 3 黄褐色土 | ローム中〜大塊多量。しまりやや強。(裏込め) | | | |

第360図 西刑部西原遺跡13区 SI-1実測図(1)



第361図 西刑部西原遺跡13区 SI-1実測図(2)



第362図 西刑部西原遺跡13区 SI-1出土遺物

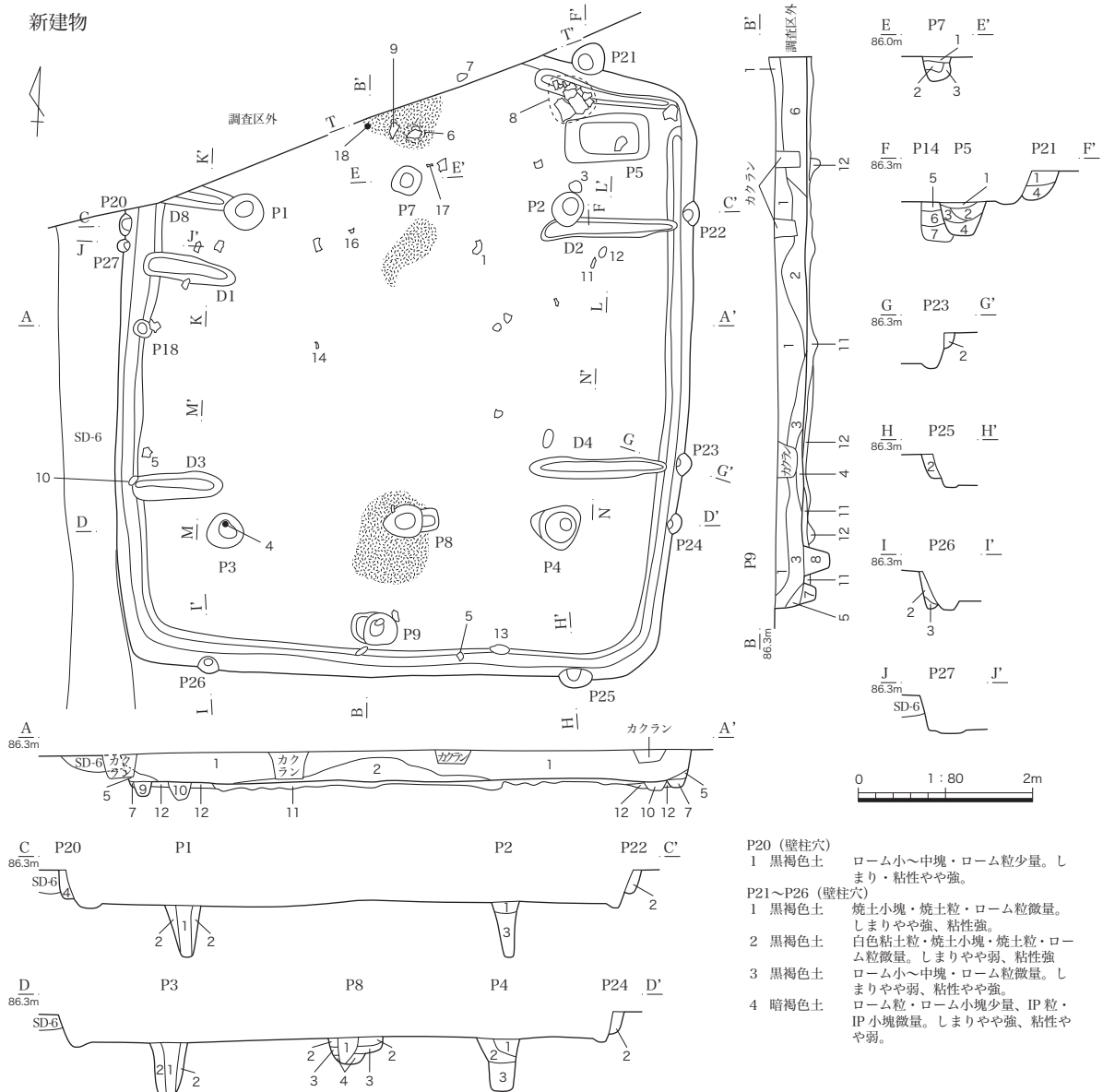
東コーナー付近で2か所途切れる。幅 15～20 cm、深さ 5～10 cmと浅い。間仕切り溝 南半部に D1（長幅 8～16 cm、深さ 13 cm）、D2（長さ 76 cm、幅 10～16 cm、深さ 7 cm）がある。カマド 北壁中央部を半円形に掘り込むが、床面では凸字状を呈する。構築材の粘土は殆ど残っていない。燃烧部底面には小さなピット状の掘り込みが並ぶ。遺物 12 点を図示。土師器環、手握ね土器、編物石、土玉の他鉄製品が出土。1 の土師器環はカマド内、2 が床面直上の出土。3 は覆土中から出土した粗製環。12 は不明鉄製品だが、厚みがあり若干湾曲することから鋳物の破片の可能性あり。不掲載遺物は土器類が小コンテナ 1 箱弱、礫が 3.7 kg。遺物から古墳時代終末期の建物跡と考えられる。

第 158 表 13 区 SI- 1 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技 法 ・ 特 徴	色 調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器環	口 12.5 高 4.4	体部内面～口縁部外面ヨコナデ。体部外面上半ナデ下半部ヘラケズリ。底部内面ナデ。内面全面及び口縁部外面～体部外面上半漆仕上げ。口縁部は直上し、2条(あるいは2段)の沈線状のヨコナデを施す。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや粗い、灰・白・黒砂粒～礫、赤色粒 焼成：やや硬質	No.1、カマド 4.1	完存
2	土師器杯	口 13.3 高 6.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリのち雑なヘラミガキ。体部～底部内面やや入念なヘラミガキ。磨滅が著しい。内面～体部外面にかけ漆仕上げ。	内：7.5YR6/6 橙 外：5YR6/8 橙	やや粗い、白・灰・黒細砂～礫 焼成：やや軟質	No.3、北西、北ベルト床直	口縁部～体部 2/3、底部ほぼ残存
3	土師器粗製環	口 (8.4) 底 (6.0) 高 5.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部内面ナデ。体部外面指頭押圧、及びナデ。底部外面ナデか。	内：7.5YR6/6 橙 外：5YR7/8 橙	やや緻密、白・灰細砂 焼成：軟質	南西	口縁部 1/8、底部 1/2
4	土師器手握ね土器	口 5.6 底 5.8 高 2.0	内面全面～体部外面指頭押圧及びナデ。底部外面ヘラナデか。	内外面とも 5YR5/6 明赤褐色	やや粗い、白・赤粒粗砂～礫 焼成：軟質	南西	口縁部 1/4、底部 1/2
5	須恵器甕	厚 0.8 高 9.0	内面同心円状あて具痕。外面格子叩き。肩部に降灰が見られる。	内：5Y6/1 灰 外：5Y4/1 灰	やや粗い、白・灰・黒粗砂～礫、黒色粒 焼成：硬質	No.7 1.0	胴部破片
6	石器編物石	長 18.8 幅 7.7 厚 3.2 重 832.0	未加工の自然礫。平面形：楕円形 断面形：不整な楕円形	2.5Y6/2 灰黄	—	No.19 1.2	完存
7	石器編物石	長 19.1 幅 7.6 厚 4.4 重 1127.0	長軸の素側縁上半部を両面から剥離している。平面形：不整な楕円形 断面形：不整な楕円形	10R5/3 赤褐	—	No.11 2.1	ほぼ完存
8	石器編物石	長 13.2 幅 4.5 厚 36.0 重 352.0	未加工の自然礫。平面形：楕円形 断面形：隅丸の三角形	2.5Y6/1 黄灰	—	No.16 1.3	完存
9	石器編物石	長 13.1 幅 6.2 厚 4.1 重 498.0	未加工の自然礫。平面形：不整な楕円形 断面形：楕円形	10YR6/2 灰黄褐	—	No.15 床直	ほぼ完存
10	石器編物石	長 13.2 幅 5.5 厚 4.9 重 456.0	未加工の自然礫。平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸三角形	N7/0 灰白	—	P2 覆土中	完存
11	土製品土玉	長 0.91-0.99 幅 1.02-1.05 重 1.0	孔の下 1/4 ほどの部位に稜あり。片面から穿孔したのもちもう一方から孔の端部を整えたものか。平面形：円体 断面形：不整な円形 全体に黒褐色を呈する。漆仕上げか否かは不明瞭。	2.5Y3/1 黒褐	やや緻密、白細砂 焼成：やや硬質	No.9 15.2	完存
12	不明鉄製品	長 [2.1] 幅 [3.4] 厚 [0.2] 重 [5.3]	平坦面に僅かな丸みをもつ。鋳物などから剥落した破片か。	—	鉄製	南北ベルト中	部分残存中

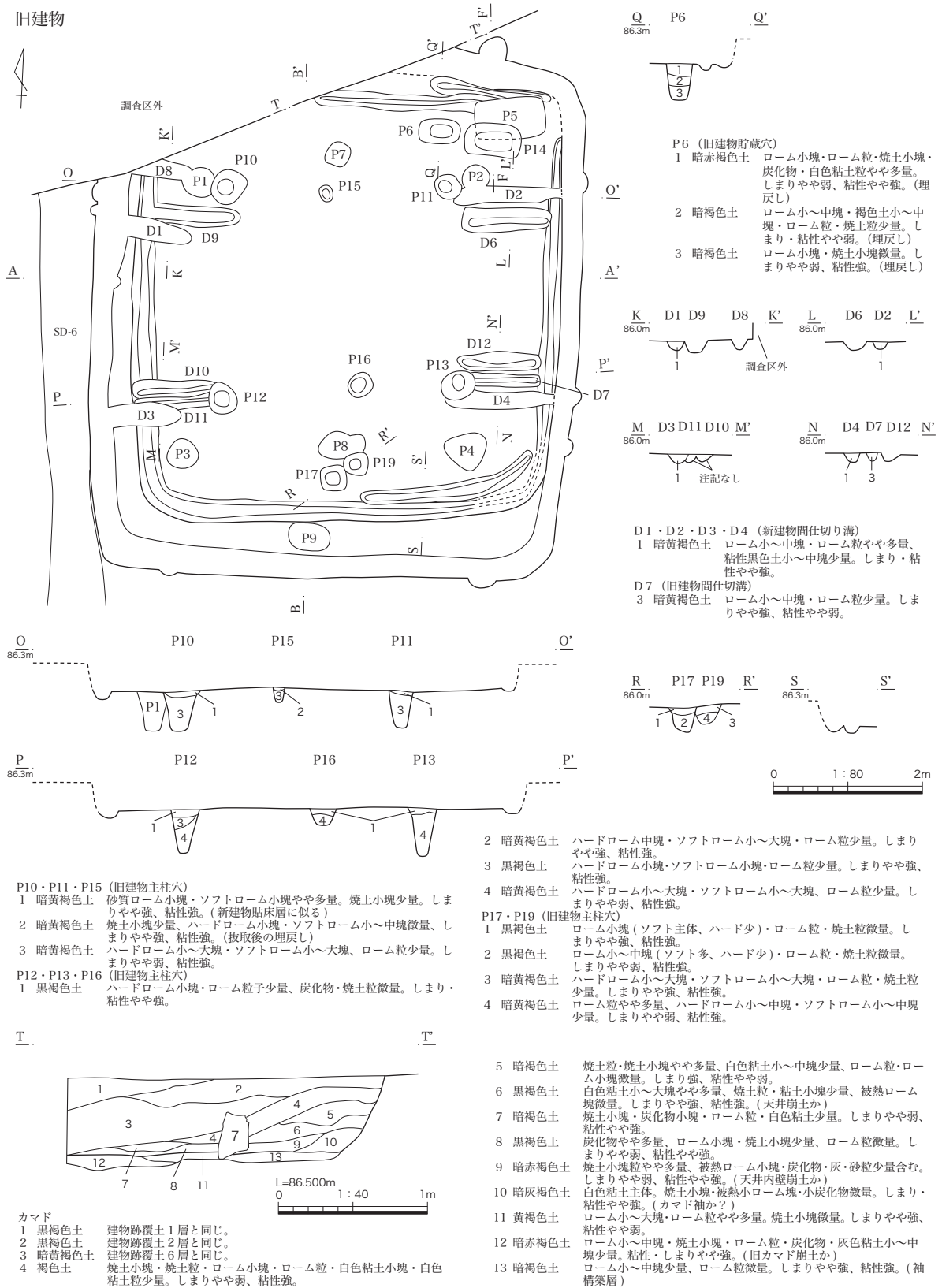
13 区 SI- 2 (遺構：第 363・364 図、遺物：第 365 図、図版五八・一〇五・一〇六・一一二・一一五)

位置 グリッド 103.0-53.0・103.0-52.5 重複遺構 古墳時代後期の溝 SD-6 より新しい。規模・平面形
 新建物：東西 6.57 m 以上 × 南北 6.32 m の隅丸長方形 旧建物：一辺約 5.7m の隅丸方形 主軸方向 N-1° - E 覆土 自然堆積 壁 壁高 39～25 cm 床 ほぼ全面が貼床。床下から 2 時期以上の建替えを確認。以下新建物から述べる。柱穴 P1 (径 47～42 cm、深さ 58 cm)、P2 (径 38 cm、深さ 63 cm)、P3 (径 42 cm、深さ 58 cm)、P4 (径 36 cm、深さ 58 cm) は主柱穴。P7 (径 37～29 cm、深さ 28 cm)、P8 (径 45～38 cm、深さ 27 cm) はしっかりした掘方をもつが、性格不明。P18 (径 21～18 cm、深さ 45 cm) も不明。

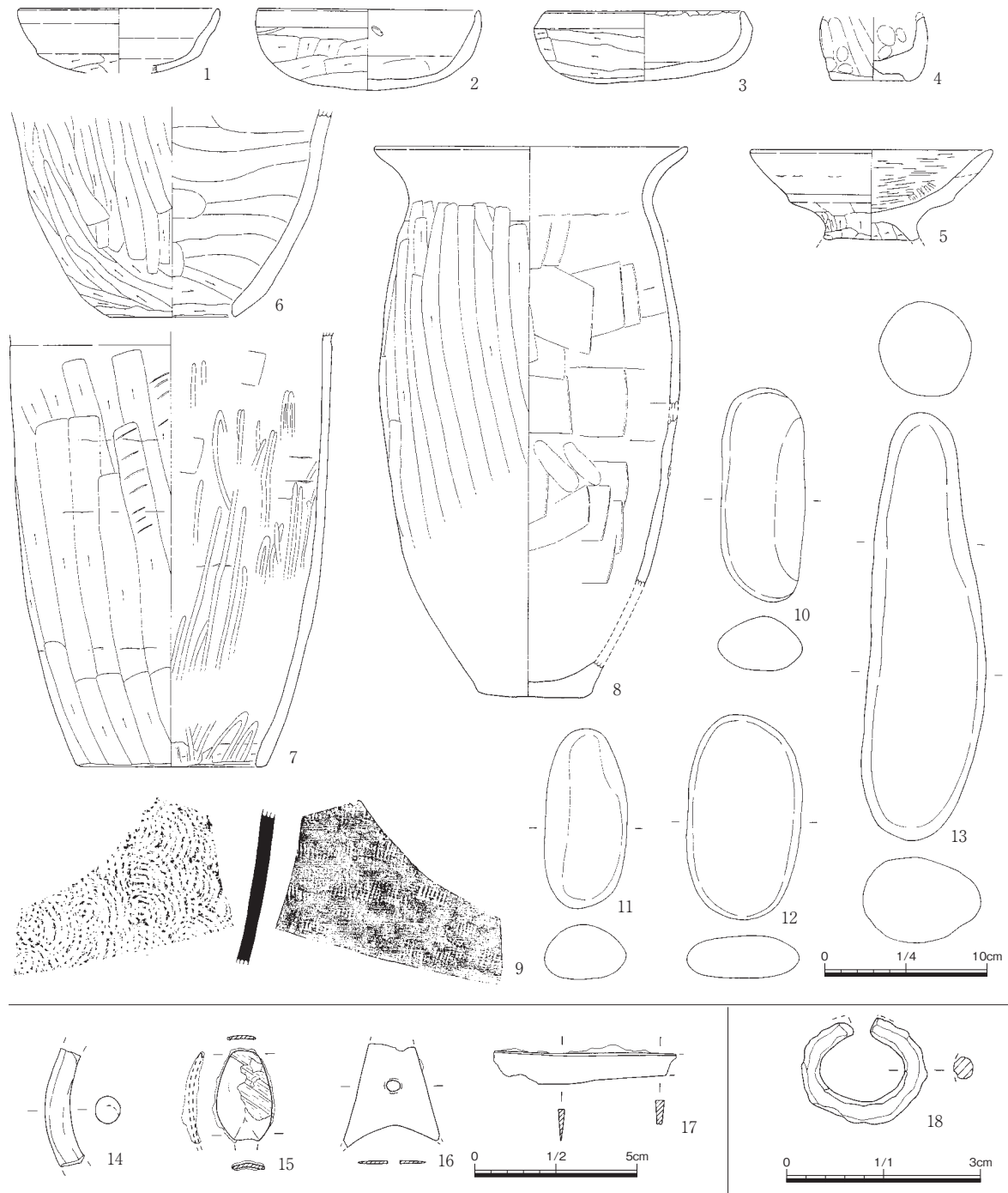


- SI-2
- 1 黒褐色土 焼土塊少量、ローム粒微量。しまりやや弱、粘性強。
 - 2 黒褐色土 ローム塊・焼土小塊・焼土粒・ローム粒少量。白色粘土小〜中塊・炭化物微量。しまり・粘性やや強。
 - 3 暗褐色土 ローム小塊・焼土小塊・炭化物・ローム粒少量。しまりやや弱、粘性強。
 - 4 暗赤褐色土 焼土小〜中塊・炭化物やや多量、ローム小塊・ローム粒少量。しまり・粘性やや弱。
 - 5 暗黄褐色土 ローム小〜中塊・ローム粒少量。焼土粒・砂粒微量。しまり・粘性やや弱。
 - 6 暗褐色土 焼土塊・ローム塊やや多量、白色粘土塊少量、炭化物微量。しまりやや弱、粘性強。
 - 7 黒褐色土 ローム小〜中塊少量、ローム粒微量。しまり・粘性やや強。(新建物壁溝)
 - 8 暗褐色土 ローム粒・ローム小塊・焼土粒・焼土小塊少量。しまりやや弱、粘性強。(採取痕：P9入口ピット)
 - 9 暗褐色土 ローム小〜中塊・ローム粒少量。しまり・粘性やや弱。(採取痕：P18)
 - 10 暗黄褐色土 ソフトローム小〜中塊・ローム粒少量、しまり・粘性やや強。(旧建物壁溝)
 - 11 黒褐色土 ローム小〜中塊・ローム粒少量、焼土粒・炭化物微量。しまり・粘性やや強。(新建物構築に伴う貼床)
 - 12 黄褐色土 ハード・ソフトローム小〜中塊多量。しまり・粘性やや強。(旧建物貼床)
- P1・P3 (新建物主柱穴)
- 1 暗褐色土 ローム小〜中塊・ローム粒少量。しまり・粘性やや強。(柱痕)
 - 2 暗黄褐色土 ローム小〜大塊やや多量、ローム粒少量。しまりやや強、粘性強。(裏込め)
- P2・P4 (新建物主柱穴)
- 1 暗褐色土 ローム小〜中塊・ローム粒少量。しまりやや弱、粘性やや強。(採取痕か)
 - 2 暗黄褐色土 ローム小〜大塊・ローム粒少量。しまりやや弱、粘性強。(採取痕か)
- P20 (壁柱穴)
- 1 黒褐色土 ローム小〜中塊・ローム粒少量。しまり・粘性やや強。
- P21~P26 (壁柱穴)
- 1 黒褐色土 焼土小塊・焼土粒・ローム粒微量。しまりやや強、粘性強。
 - 2 黒褐色土 白色粘土粒・焼土小塊・焼土粒・ローム粒微量。しまりやや弱、粘性強
 - 3 黒褐色土 ローム小〜中塊・ローム粒微量。しまりやや弱、粘性やや強。
 - 4 暗褐色土 ローム粒・ローム小塊少量、IP粒・IP小塊微量。しまりやや強、粘性やや弱。
- P8 (新建物主柱穴)
- 1 黒褐色土 ローム小〜大塊・ローム粒やや少量、焼土小塊・炭化物微量。しまり・粘性やや弱。(柱痕)
 - 2 黒褐色土 ローム小塊・ローム粒やや多量。しまり・粘性やや強。(裏込め)
 - 3 暗灰褐色土 白色粘土少量、ローム小〜中塊微量。しまりやや弱、粘性やや強。(裏込め)
 - 4 暗黄褐色土 ローム小塊多量。しまりやや強、粘性やや弱。(裏込め)
- P5 (新建物貯蔵穴)・P14 (旧建物貯蔵穴)
- 1 暗赤褐色土 焼土小塊・白色粘土小塊少量、炭化物微量。しまり・粘性やや強。
 - 2 暗赤褐色土 焼土小〜中塊・白色粘土小塊やや多量、ローム小塊・ローム粒少量、灰色粘土少量含。しまりやや弱、粘性強。
 - 3 暗灰褐色土 焼土小塊・ローム小塊・灰色粘土少量含む。しまりやや弱、粘性やや強。
 - 4 暗灰褐色土 砂質ハードローム小〜大塊・焼土小塊・白色粘土小塊微量。しまりやや弱、粘性やや強。
- P7 (旧建物柱穴か)
- 1 暗褐色土 白色粘土小塊少量、ローム塊・ローム粒少量。焼土粒・砂粒微量。しまりやや弱、粘性やや強。(埋戻し)
 - 2 暗褐色土 ローム塊・ローム粒やや多量、焼土粒微量。しまりやや弱、粘性強。(採取跡か)
 - 3 暗黄褐色土 ローム小塊・ローム粒やや多量、ローム土と暗褐色土の互層。しまりやや弱、粘性やや強。(採取痕か)
- 3 暗黄褐色土 ハードローム塊主体、ローム粒やや少量。しまりやや弱、粘性強。(採取痕か)

第363図 西刑部西原遺跡13区 SI-2実測図(1)



第364図 西刑部西原遺跡13区 SI-2実測図(2)



第365図 西刑部西原遺跡13区 SI-2出土遺物

P20 (径 22 ~ 13 cm、深さ 18 cm)、P21 (径 38 cm、深さ 33 cm)、P22 (径 27 ~ 19 cm、深さ 43 cm)、P23 (径 26 ~ 18 cm、深さ 41 cm)、P24 (径 23 ~ 15 cm、深さ 36 cm)、P25 (径 39 ~ 21 cm、深さ 38 cm)、P26 (径 24 ~ 17 cm、深さ 47 cm)、P27 (径 16 ~ 14 cm、深さ 18 cm) は壁柱穴。深さは確認面からの計測値。入口ピット P9 (径 53 ~ 35 cm、深さ 61 cm) は南壁中央に位置する。貯蔵穴 P5 (長軸 85 × 短軸 55 cm、深さ 40 cm) は北東部にある。壁溝 幅 20 ~ 32 cm、深さ 10 ~ 15 cm で壁際をほぼ全周する。間仕切り溝 D1 (幅 13 ~ 31 cm、深さ 13 cm)、D2 (幅 11 ~ 22 cm、深さ 9 cm)、D3 (幅 14 ~ 28 cm、深さ 12 cm)、D4 (幅 12 ~ 23 cm、深さ 13 cm)、D8 (幅 24 cm、深さ 14 cm) と東西方向に計 5 本確認。旧建物は更に 2 時

期の建替えが想定されるが区別は困難なため、まとめて述べる。P10（径51～43cm、深さ52cm）、P11（径37～34cm、深さ48cm）、P12（径45～38cm、深さ58cm）、P13（径48～38cm、深さ63cm）は主柱穴。P15（径22～16cm、深さ20cm）、P16（径34～32cm、深さ23cm）は不明ピット。P17（径40～33cm、深さ34cm）、P19（径35cm、深さ25cm）は入口ピットか。P6（長軸55×短軸33cm、深さ47cm）、P14（長軸77×短軸41cm、深さ42cm）は貯蔵穴。壁溝は幅20～25cm、深さ10cm前後で、ほぼ全周する。D6（幅24～33cm、深さ11cm）、D7（幅16cm、深さ11cm）、D9（幅28cm、深さ16cm）、D10（幅22～25cm、深さ11cm）、D11（幅14cm前後、深さ11cm）、D12（幅17～26cm、深さ12cm）は間仕切り溝で、東西方向に6本確認できた。カマド 調査区外のため不明。焼土・白色粘土を確認したのみ。遺物 18点を図示。土師器環・手捏ね土器・甕・高環・甑がある。石器類では編物石、金属製品は鉄鏃・刀子の他銅製耳環が出土した。このうち床面直上は1・5・14・18などがある。18は破損した脚部を研磨し再利用している。不掲載物は土器類が小コンテナ2.5箱、礫が2.1kg出土した。古墳時代後期末葉の建物と考えたい。

第159表 13区 SI-2出土遺物観察表

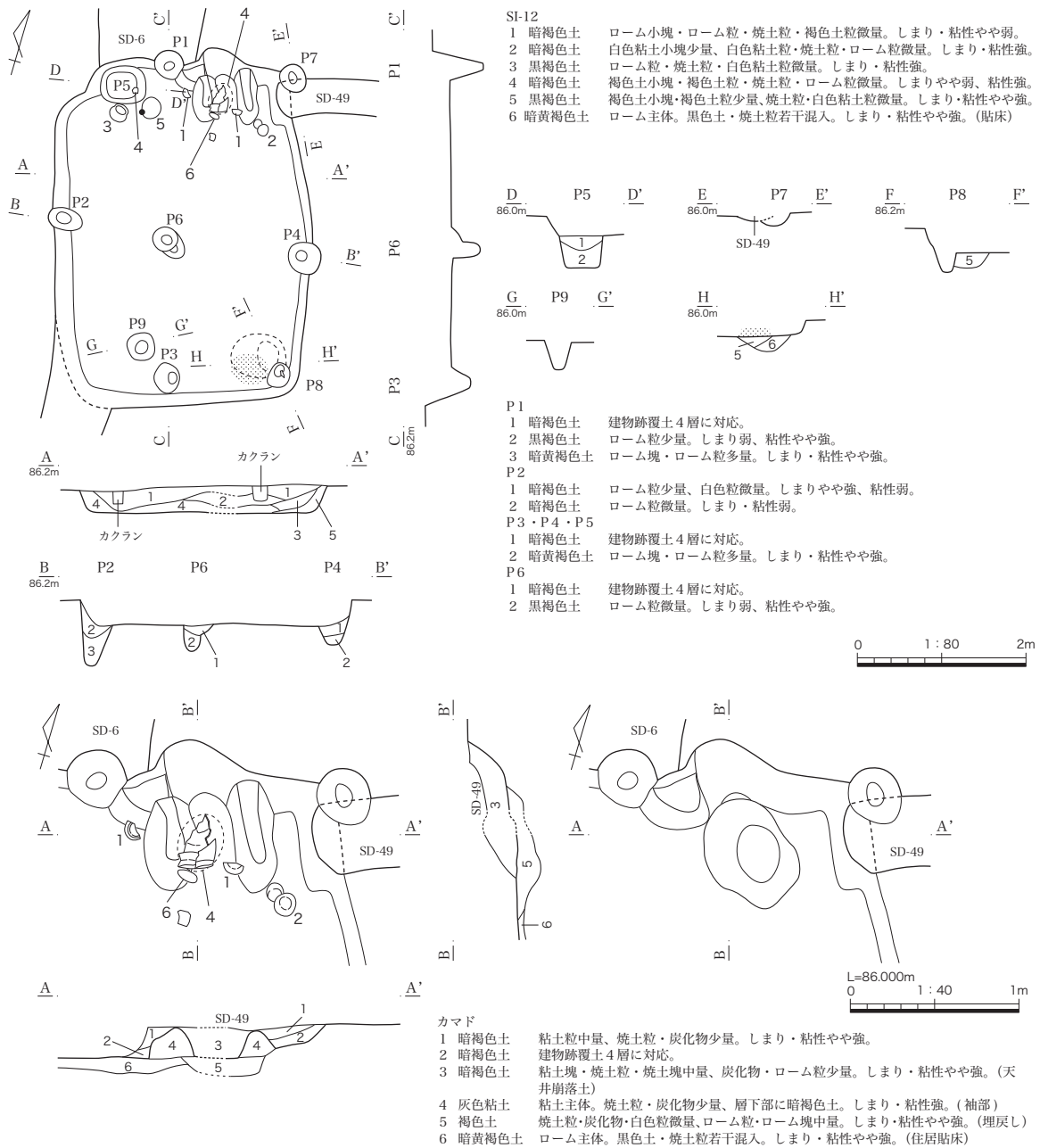
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器環	口(12.2)高4.0	内面～口縁部外面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内：10YR6/2 灰黄褐外：10YR8/4 浅黄橙	やや緻密、灰・白・黒細砂焼成：やや硬質	No.6 床直	口縁部1/2、底部1/8
2	土師器環	口(13.4)高5.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面上半ヘラナデ。下半部ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。口縁部内面にモミあるいはウリ科種の圧痕あり。	内外面とも7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・灰細砂焼成：やや軟質	P5、南西、北東	口縁部3/4、底部1/2
3	土師器環	口12.0高4.3	体部内面～口縁部外面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部外面ヨコヘラケズリ。内外面漆仕上げ。口縁部内面に連続して剥離がみられる。	内外面とも7.5YR8/6 浅黄橙	やや緻密、白・灰細砂～礫、赤色粒焼成：やや硬質	No.5 3.5	ほぼ完存
4	土師器手捏ね土器	口(5.8)底4.9高4.0	内面指頭押圧。外面指頭押圧及びナデ。	内外面とも5YR6/6 橙	やや粗い、白・赤粒細砂焼成：やや軟質	No.34 柱穴の中	口縁部及び底部欠損、体部3/4
5	土師器高環	口(14.8)高5.6	口縁部外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキのち黒色処理。体部外面～脚接合部ヘラケズリのちナデか。脚部内面ヨコヘラケズリ。脚部破面に研磨痕あり。脚部欠損後も再利用したものか。	内：7.5YR2/1 黒外：10YR7/4 鈍い黄橙	やや粗い、白・透明・灰色粗砂～礫焼成：やや軟質	No.14・33、南東、南西 床直 (No.14)	口縁部1/4、底部完存、脚部一部
6	土師器甑	高 [2.5]	胴部外面中位タテヘラケズリ。下位～下端部ナメヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。孔内面ヘラケズリにより穿孔。	内外面とも7.5YR7/6 橙	やや緻密、灰・赤・白粗砂、礫・砂粒・赤色粒焼成：硬質	No.10、北東 27.3	胴部～底部1/2
7	土師器甑	底11.6高 [26.8]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヘラナデのち疎らなタテヘラミガキ。底部外面やや外削ぎ状のヘラケズリ。	内：10YR7/6 明黄橙外：5YR6/6 橙	やや緻密、白・灰色赤粒粗砂焼成：硬質	No.28 9.5	口縁部一部、胴部～底部5/6
8	土師器甕	口(18.0)底7.0高34.5	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面タテヘラナデ。底部外面ヘラナデか。胴部中位に最径をもつ。胴下半部は赤化・剥落が顕著で脆く調整不明。	内：10YR5/1 褐灰外：10YR7/4 鈍い黄橙	粗い、白・灰・黒粗砂～礫焼成：軟質	No.1 7.6	口縁部1/4、底部完存
9	須恵器甕	厚0.7	外面カキ目のち単位の小さな格子叩き。内面同心円状あて具痕。	内外面とも7.5Y6/1 灰	やや粗い、白・黒粗砂～礫、黒色のシミ状粒子含む焼成：硬質	No.11 27.4	胴部破片
10	石器編物石	長13.0幅5.2厚3.3重320.0	未加工の自然礫。平面形：不整な楕円形断面形：不整な楕円形	5Y6/2 灰オリーブ	—	No.27 床直	完存
11	石器編物石	長11.0幅5.0厚3.4重290.0	未加工の自然礫。平面形：不整な楕円形断面形：不整な楕円形	5Y6/1 灰	—	No.21 床直	完存
12	石器編物石	長12.6幅6.9厚2.6重339.0	未加工の自然礫。平面形：楕円形断面形：楕円形	2.5Y6/4 にぶい黄	—	No.22 床直	完存
13	石器編物石	口26.4底7.2高5.9重1352.0	未加工の自然礫。平面形：長い楕円形断面形：不整な楕円形	2.5YR4/2 灰赤	—	No.15 床直	完存
14	不明土製品	長 [3.6] 径 7.5	若干のナデ。平面形：やや湾曲した棒状断面形：円形を呈する	10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、細砂焼成：やや軟質	No.26 床直	部分残存
15	不明鉄製品	長 [1.8] 幅 2.8厚 0.2重 [2.5]	楕円形に近いサジ状の平面形を呈する。若干の反りをもち、基部に稜を有する。下端部以下を欠損し、全形及び用途は不明。	—	鉄製	南東部	部分残存
16	鉄製品鉄鏃	長 [2.9] 幅 [2.9] 厚 0.2重 [2.6]	無茎の腸挟長三角形鏃。孔は径4.0mmで中央部に穿たれる。先端部を欠損。	—	鉄製	No.25 14.8	先端部欠損

第3章 発見された遺構と遺物

17	鉄製品 刀子	長幅厚重 [5.5] 1.0 0.2 [4.5]	刀子破片。関は不明瞭。棟幅は2.0mmで刃部は平造り。	—	鉄製	No.24 24.2	端部欠損
18	銅製品 耳環	長幅厚重 [1.6] [1.9] 0.4 [2.9]	平面形は楕円形。断面形は円形か。内側面の一部を残すのみで他は大きく剥落。金箔などは確認できない。	—	銅製	No.27 床直	外面剥落

13区 SI-12 (遺構：第366図、遺物：第367図、図版五九・一〇六)

位置 グリッド 102.0-52.5・102.0-53.0 重複遺構 SD-6より新しくSD-49より古い。平面形 南北に長い隅丸長方形 規模 東西3.02×南北4.23m 主軸方向 N-22°-W 覆土 自然堆積 壁 壁高28~36cm残存。床 ローム地山を床面とし、概ね平坦。柱穴 P1(径35~34cm、深さ57cm)、P2(径

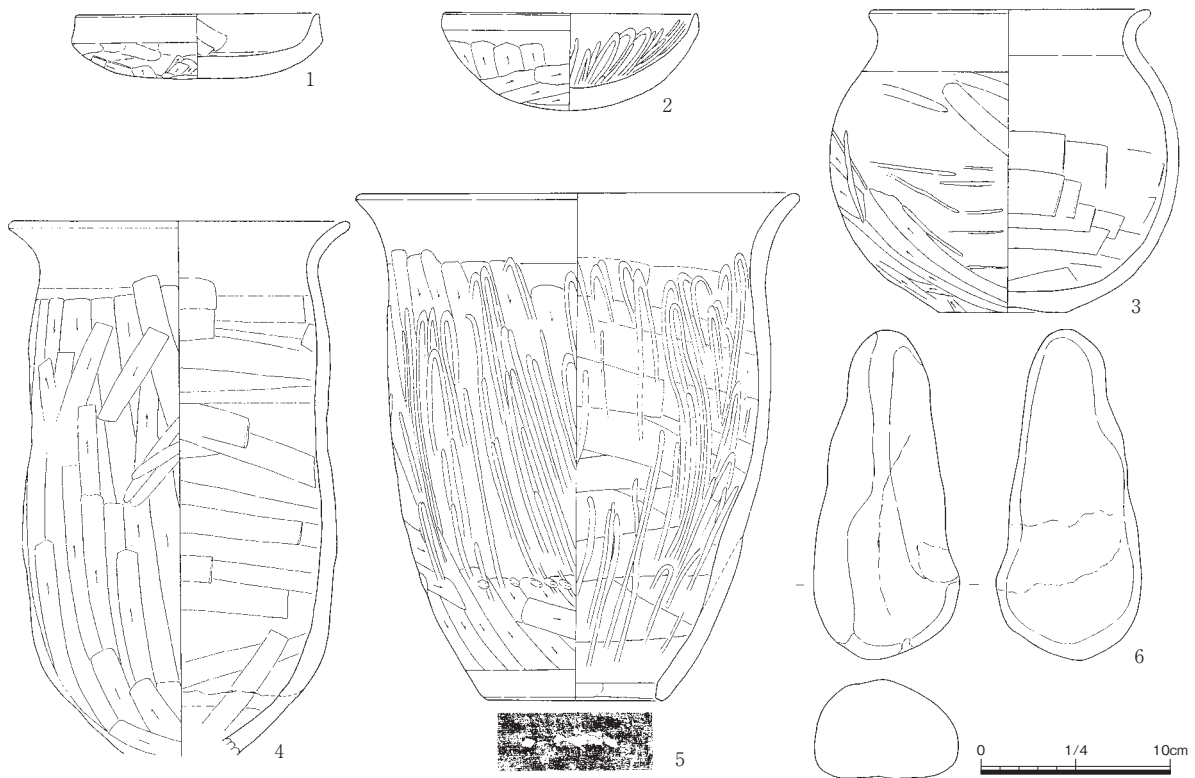


第366図 西刑部西原遺跡13区 SI-12実測図

39～26 cm、深さ63 cm)、P3(径36～30 cm、深さ51 cm)、P4(径38～38 cm、深さ25 cm)、P6(径43～29 cm、深さ28 cm)は支柱穴か。P7(径33～29 cm、深さ14 cm)は浅く、P8(径29～25 cm、深さ23 cm)、P9(径35～32 cm、深さ34 cm)はしっかりした掘方をもつが位置的にも柱穴とは考えにくい。

入口ピット 確認できなかった。貯蔵穴 P5(長軸53×短軸42 cm、深さ38 cm)は北西隅に位置する。

壁溝 確認できなかった。カマド 北壁東寄りに位置し壁を浅く掘り込む。煙道の立ち上がりは54°と緩やか。袖は灰色粘土を主体とする。覆土中から土師器甕(4)が出土した。遺物 6点を図示した。2・3・5が床面直上の遺物で、5の土師器甕は胴部外面下半部に縄の圧痕がみられる。不掲載遺物は土器類が小コンテナ1/2で、礫は約500 g出土した。古墳時代後期後葉(6世紀中葉)の建物跡と考えられる。



第367図 西刑部西原遺跡13区 SI-12出土遺物

第160表 13区 SI-12出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 坏	口 12.6 高 4.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上端部ナデ。中位～下部ヘラケズリのちナデ。体部～底部内面ナデ。	内：10YR8/6 黄橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	やや粗い、白・灰・黒粗砂～礫、赤色粒 焼成：硬質	No.8 3.0	ほぼ完存
2	土師器 坏	口 13.1 高 5.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面タテヘラケズリのち下半部ヨコヘラケズリ。体部内面放射状ヘラミガキ。体部内面ほぼ全面漆仕上げ。	内：10YR7/6 明黄褐 外：7.5YR7/6 橙	やや粗い、白・灰・黒・赤粗砂～礫 焼成：やや硬質	No.10 床直	完存
3	土師器 甕	口 14.6 底 7.6 高 16.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半ヘラナデ、下半ナメヘラケズリのちヘラミガキ。胴部内面ヘラナデのち黒色処理。胴中央部に黒斑。胴下半～底部赤変。	内：N2/0 黒 外：2.5Y6/3 にぶい黄	やや粗い、灰・黒・白・赤粗砂～礫 焼成：やや硬質	No.1 床直	ほぼ完存
4	土師器 甕	口 (17.4) 高 [28.9]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリのち上半部及び下端部をナメヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。胴部内面に帯状(幅6-7cm)の炭化物の着痕あり。	内外面とも 10YR7/4 にぶい黄橙	粗い、白・灰細砂～礫 焼成：軟質	No.6 カマド 3.9	口縁部 7/8、胴部 1/2
5	土師器 甕	口 22.8 高 26.8	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半部タテヘラケズリ。下半部ナメヘラケズリのちヨコヘラケズリのちやや粗いヘラミガキ。底部ヘラケズリのち内外面ヨコナデ。胴下半部外面の接合痕付近に縄圧痕あり。	内：7.5YR6/6 橙 外：7.5YR4/1 褐灰	やや緻密、白・黒・赤細砂 焼成：硬質	No.4 床直	口縁部 7/8、底部 完存
6	石器 編物石	長 17.0 幅 7.6 厚 5.2 重 920.9	上半部はやや褐色味を帯びる。被熱したものか。平面形：撥形 断面形：不整な楕円形	上部：7.5YR5/2 灰褐 下部：5YR8/2 灰白	—	No.11 6.3	部欠

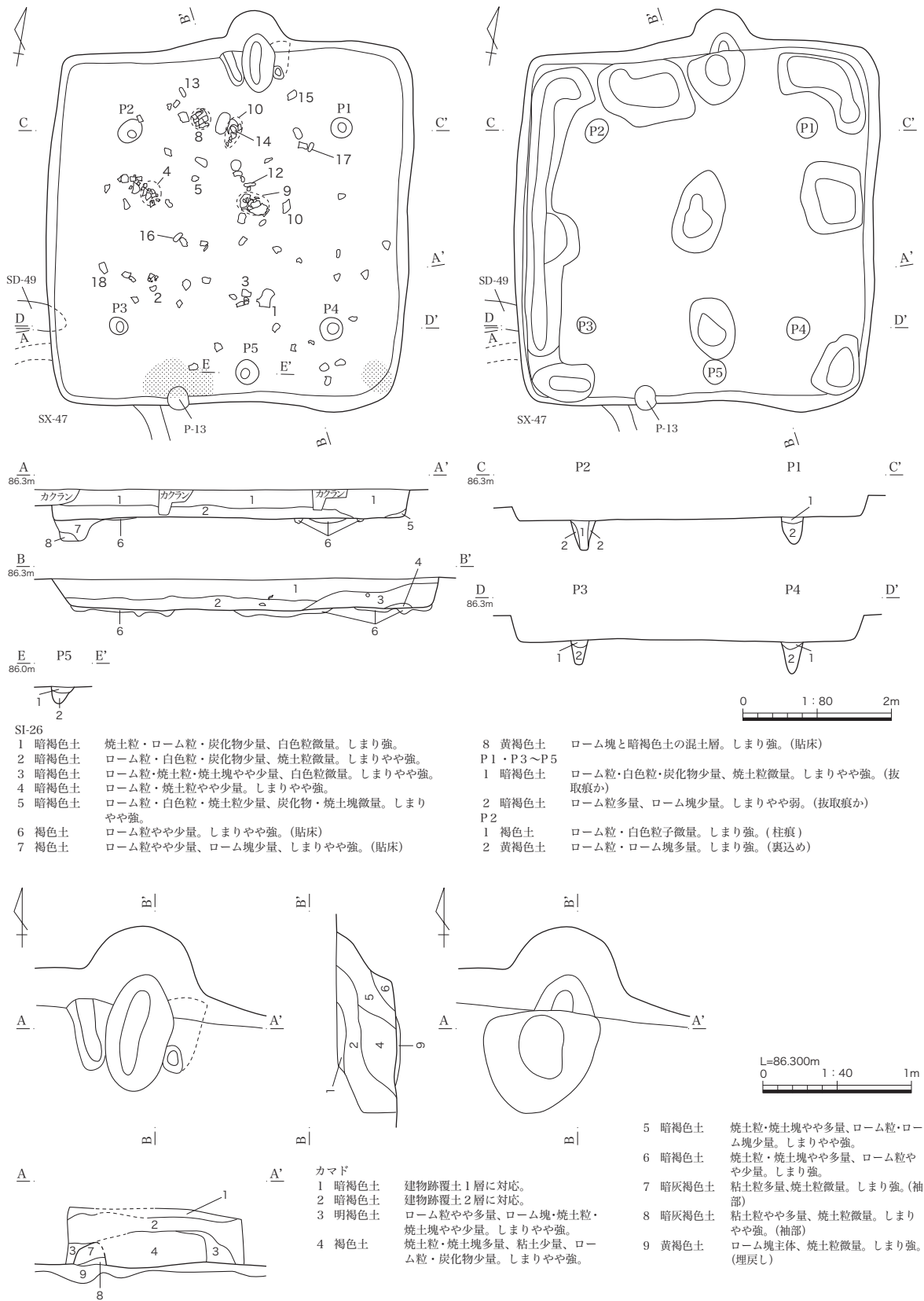
13区 SI-26 (遺構：第368図、遺物：第369図、図版五九・一〇六・一〇七・一一六)

位置 グリッド 102.0-52.5・102.0-53.5 重複遺構 円形周溝遺構 SX-47 より新しい。 平面形 やや不整な隅丸方形 規模 東西 4.81×南北 5.25 m 主軸方向 N -7° - W 覆土 自然堆積 壁 壁高 32～37 cm 床 概ね平坦。部分的に貼床あり。 柱穴 P1 (径 29 cm、深さ 37 cm)、P2 (径 37～27 cm、深さ 32 cm)、P3 (径 25 cm、深さ 38 cm)、P4 (径 32 cm、深さ 42 cm)。主柱穴 P2 には明瞭な柱痕が認められた。

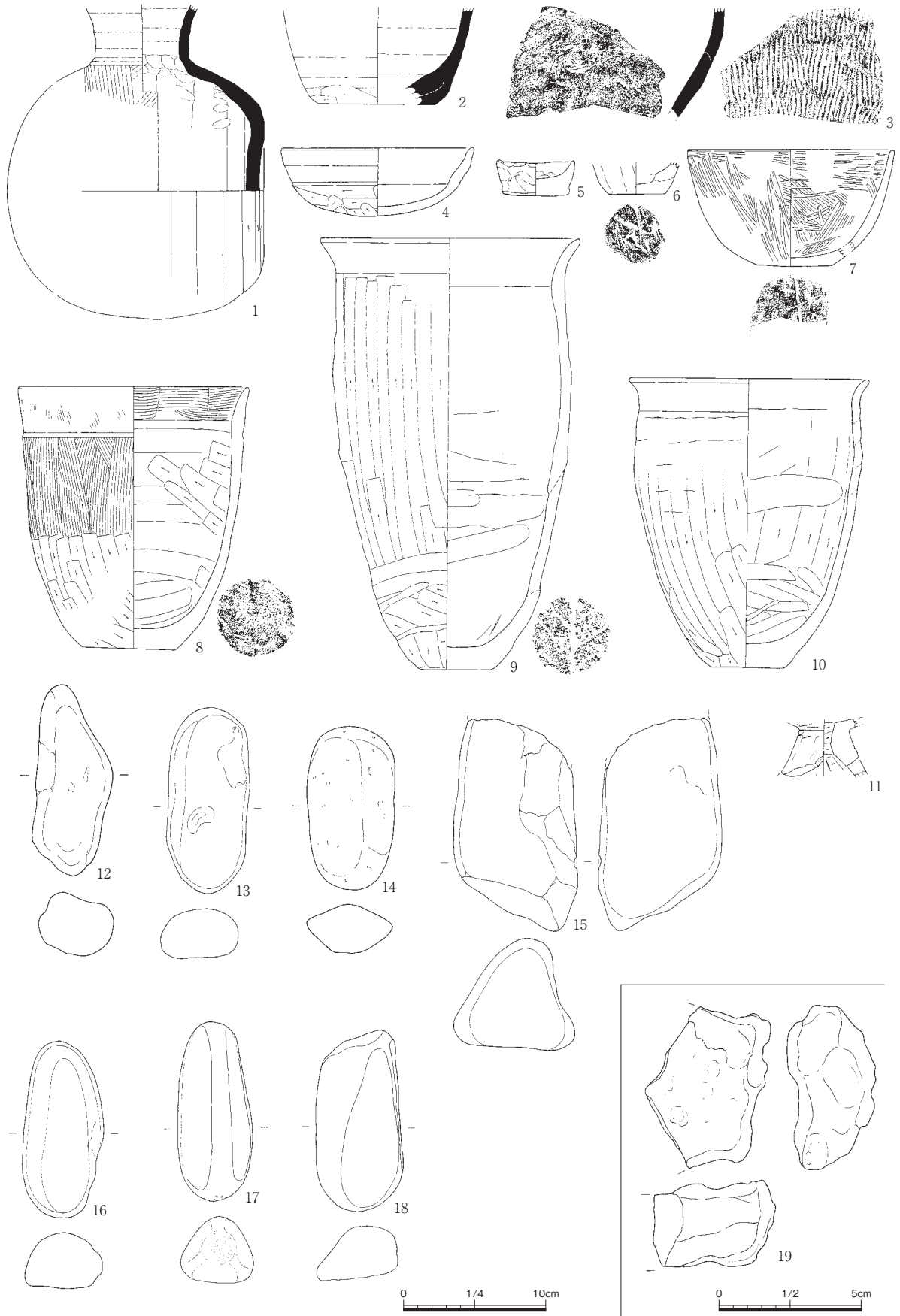
入口ピット P5 (径 34～30 cm、深さ 23 cm) は南壁際中央やや東寄りに位置する。 掘方 壁際を中心に深めの土坑状掘り込みあり。西部では床面から 30 cm 以上の深さをもつ。 カマド 北壁中央部やや東寄りに位置し、奥壁を半円形に掘り込む。煙道は段を有し、その後丸みをもって立ち上がる。袖などの粘土は殆ど残っていない。 遺物 須恵器は甕や瓶類、土師器は坏・鉢・甕類、その他は編物石、鉄滓破片 (19) が出土した。床面付近の遺物は、2・4・8がある。2は平底短頸瓶の底部付近の破片、8はハケ目調整された小型の甕で、下半部はヘラケズリ調整を施す。11は器台の破片。混入品だが数少ない古墳時代前期の遺物として掲載した。不掲載遺物の総量は小コンテナ 2 箱弱、不掲載礫の重量は 12 kg に及ぶ。遺物から古墳時代終末期の建物跡と考えたい。

第 161 表 13 区 SI-26 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技 法 ・ 特 徴	色 調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 横瓶	高 [21.9]	内外面ロクロナデ。胴部外面上半キ目、胴部外面下端部～底部外面回転ヘラケズリ。内面指頭押圧痕。頸部接合部内面ヘラケズリのち指頭押圧。接合部外面肩部一部に降灰あり。黄褐色の粘土組 (補強帯) 貼付。	内：N5/6 灰 外：10Y6/1 灰	やや粗い、白・灰・黒粗砂～礫 焼成：硬質	No 17 9.6	胴部～口縁部 2/3
2	須恵器 平底短頸瓶	底高 (8.2) 高 [6.8]	内外面ロクロナデ。胴部外面下端部手持ちヘラケズリ。底部外面調整不明。	内外面とも N5/1 灰	やや粗い、白・灰粗砂～礫 焼成：硬質	No 25、SI-27 北西、SI-27 No 94 0.8	底部～胴部 1/2
3	須恵器 甕	厚高 1.0 [7.7]	外面平行叩き。内面浅い同心円状あて具痕。	内：5G5/1 緑灰 外：5B4/1 暗青灰	やや粗い、白・灰色粗砂～礫 焼成：硬質	No 18 20.4	胴部破片
4	土師器 坏	口高 13.3 高 4.8	口縁部内外面及び体部内面ヨコナデ、体部～底部外面多方向ヘラケズリ。全面漆仕上げ。	内：10YR7/3 にぶい黄橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	緻密、白・灰・黒細砂～粗砂 焼成：やや硬質	No 36、北西 2.6	口縁部 3/4、底部 3/4
5	土師器 手捏ね土器	口底高 (5.4) 4.4 2.5	内外面指頭押圧及びナデ成形。口縁部は打ち欠いたような痕跡があるが不明瞭。	内：5YR7/8 橙 外：5YR6/6 橙	やや緻密、灰・白・黒細砂、赤色粒 焼成：やや軟質	No 42 25.0	口縁部一部、底部完存
6	土師器 手捏ね土器	底高 4.3 [2.3]	外面縦位のナデ。内面不明。底部外面スタレ状圧痕か。	内：5YR7/6 橙 外：7.5YR7/6 橙	粗い、白・灰微粒砂、黒・灰粗砂少々 焼成：軟質	南東	底部完存、体部一部
7	土師器 鉢	口高 (14.4) 高 (8.2)	内外面ともに入念なヘラミガキ。底部外面木葉痕のち多方向ヘラケズリ。内面一部に褐色の付着物あり。漆か。	内：5YR6/6 橙 外：2.5YR5/6 明赤褐	やや緻密、白細砂、赤色粒 焼成：やや硬質	北西	口縁部 1/4、底部 2/5
8	土師器 甕	口底高 15.9 6.5 18.4	口縁部外面ハケ目のちヨコナデ。胴部外面ハケ目のち下半部タテヘラケズリ。口縁部内面ヨコナデのちハケ目。胴部内面ヨコヘラナデのちナメヘラケズリ。底部外面一方向ヘラケズリ。器形は直線的に立ち上がる。口縁部と胴部境は太めの浅い沈線が巡る。	内外面とも 5YR6/8 橙	粗い、白・灰・黒粗砂～礫 やや軟質	No 50 1.4	口縁部 3/4、底部完存
9	土師器 甕	口底高 (18.0) 5.3 30.4	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面上半部タテヘラケズリ、下半部ナメヘラケズリ。底部外面木葉痕。	内：10YR6/3 にぶい黄橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	粗い、白・灰・黒粗砂～礫 焼成：やや軟質	No 60、覆土中、北西、北 11.2	口縁部 1/2、底部完存
10	土師器 甕	口底高 18.8 5.3 20.3	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面タテヘラナデのちヨコ・ナメヘラナデ。胴部外面タテヘラケズリ。底部外面多方向ヘラケズリのちナデ。胴上半部は内外面とも磨減が著しく調整は不明瞭。	内外面とも 10YR7/4 にぶい黄橙	粗い、黒・白・灰・赤色粒粗砂～礫 焼成：やや軟質	No 52・67、北ベルト、北東 15.0 (No 52)	口縁部 1/2、底部完存
11	土師器 器台	高 [4.0]	坏部内面風化著しく調整不明。坏部～脚部外面タテのヘラナデ。底部の孔はヘラケズリにより両面から穿孔。脚部は 3 か所孔あり。表面から穿孔か。混入品。	内：5YR6/6 橙 外：7.5YR8/6 浅黄橙	粗い、白・透明・黒・赤粒・灰細砂～礫 焼成：軟質	北西	底部～脚部の破片
12	石器 編物石	長幅厚重 13.1 5.2 4.5 450.0	未加工の自然礫。平面形：不整形 断面形：歪んだ円形	7.5Y7/1 灰白	—	No 58 13.8	ほぼ完存
13	石器 編物石	長幅厚重 13.0 5.5 3.5 395.5	未加工の自然礫。平面形：長い楕円形 断面形：楕円形	2.5Y6/3 にぶい黄	—	No 46 床直	完存
14	石器 編物石	長幅厚重 11.4 6.0 3.4 331.0	未加工の自然礫。平面形：楕円形 断面形：隅丸の菱形	10YR7/2 にぶい黄橙	—	No 53 18.9	ほぼ完存



第368図 西刑部西原遺跡13区 SI-26 実測図

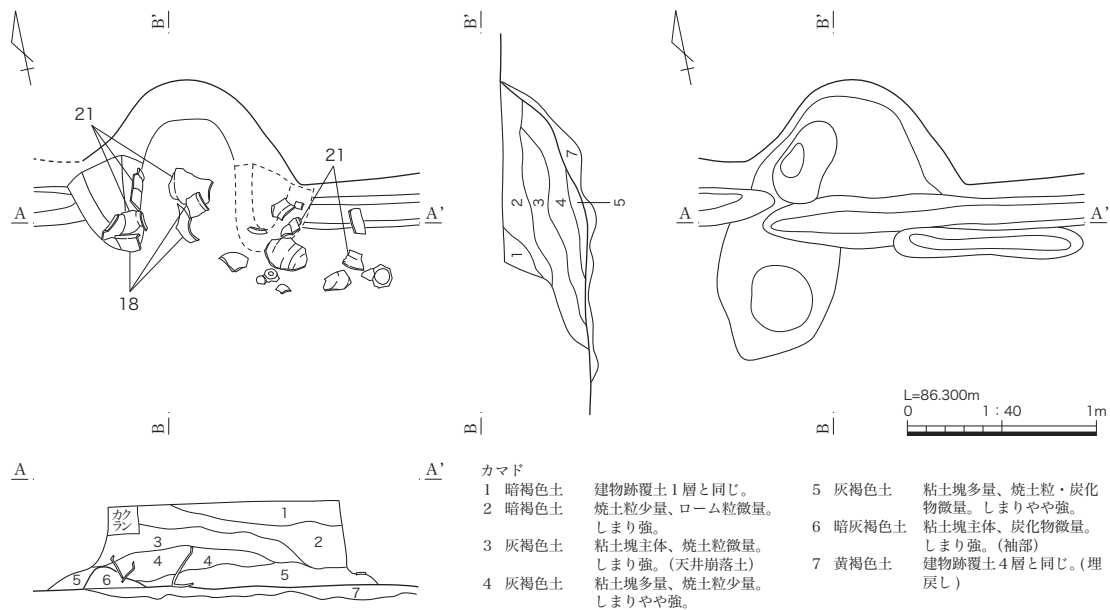


第369図 西刑部西原遺跡13区 SI-26 出土遺物

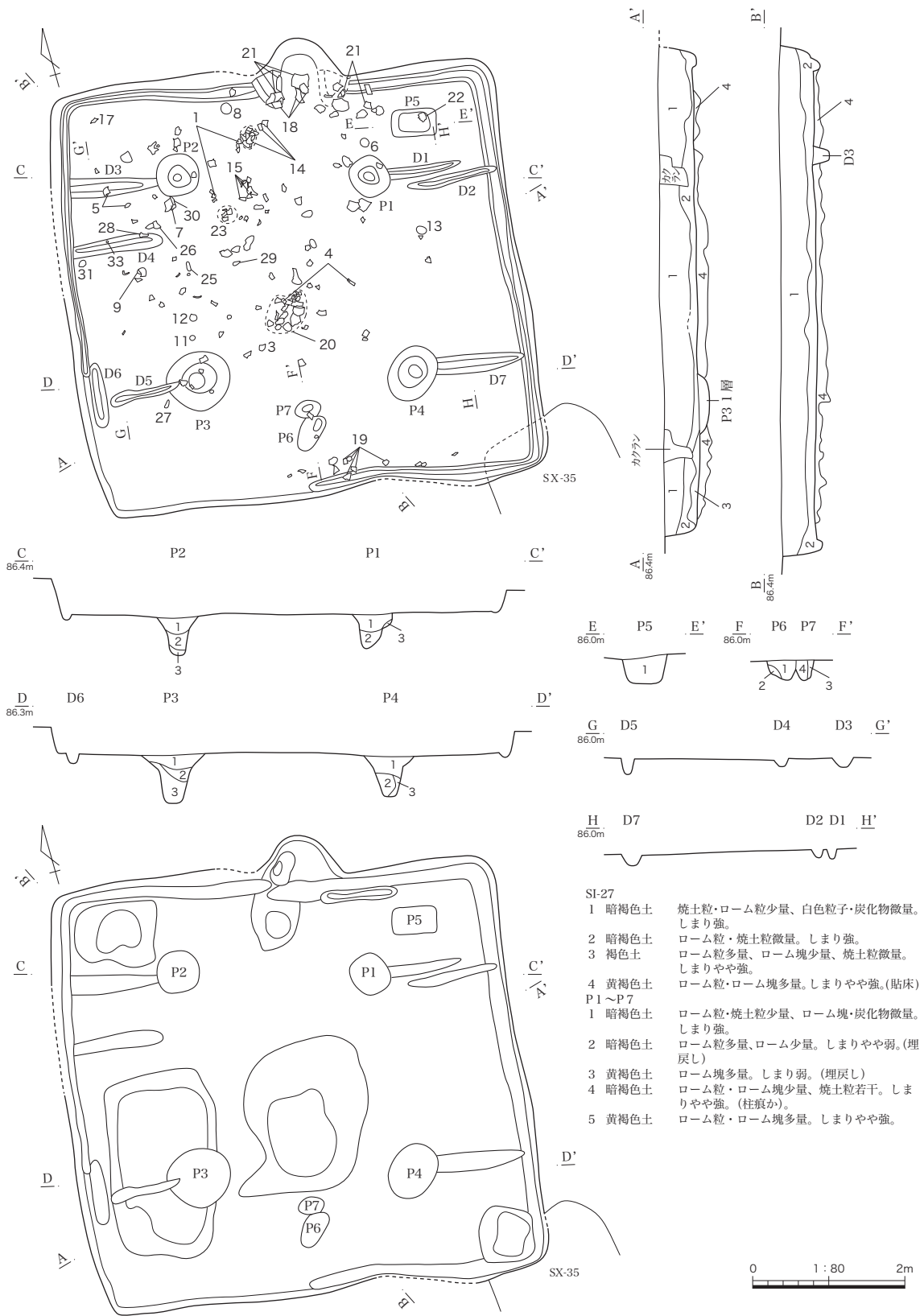
15	石器 編物石	長 13.5 幅 8.4 厚 7.6 重 1052.3	上半部は弱く赤変、下半部は黒みを帯びスあるいはタール状の炭化物が帯状に付着。上半部欠損。 平面形：棒状 断面形：隅丸三角形	10YR5/3 にぶい黄褐	—	No.1 2.8	部欠
16	石器 編物石	長 12.4 幅 5.0 厚 3.8 重 407.7	未加工の自然礫。 平面形：長い楕円形 断面形：楕円形	5Y6/1 灰	—	No.32 20.3	完存
17	石器 編物石	長 12.5 幅 5.2 厚 4.5 重 417.6	上端・下端部には敲打痕あり。 平面形：楕円形 断面形：隅丸三角形	7.5Y6/2 灰オリーブ	—	No.3 12.6	完存
18	石器 編物石	長 12.4 幅 5.8 厚 3.6 重 488.0	未加工の自然礫。 平面形：隅丸の長方形 断面形：不整な台形	7.5Y5/2 灰オリーブ	—	No.29 7.6	完存
19	鉄滓	長 [5.7] 幅 [4.2] 厚 [2.9] 重 [69.9]	腕形鍛冶滓と考えられるが不明瞭。破面に分厚いサビがみられることから廃棄された鉄滓に二次的に鉄分が付着したと考える。	表裏ともサビあり 7.5YR5/6 明褐	磁着度：6	1層中	部欠

13区 SI-27 (遺構：第370・371図、遺物：第372・373図、図版一〇七・一一二)

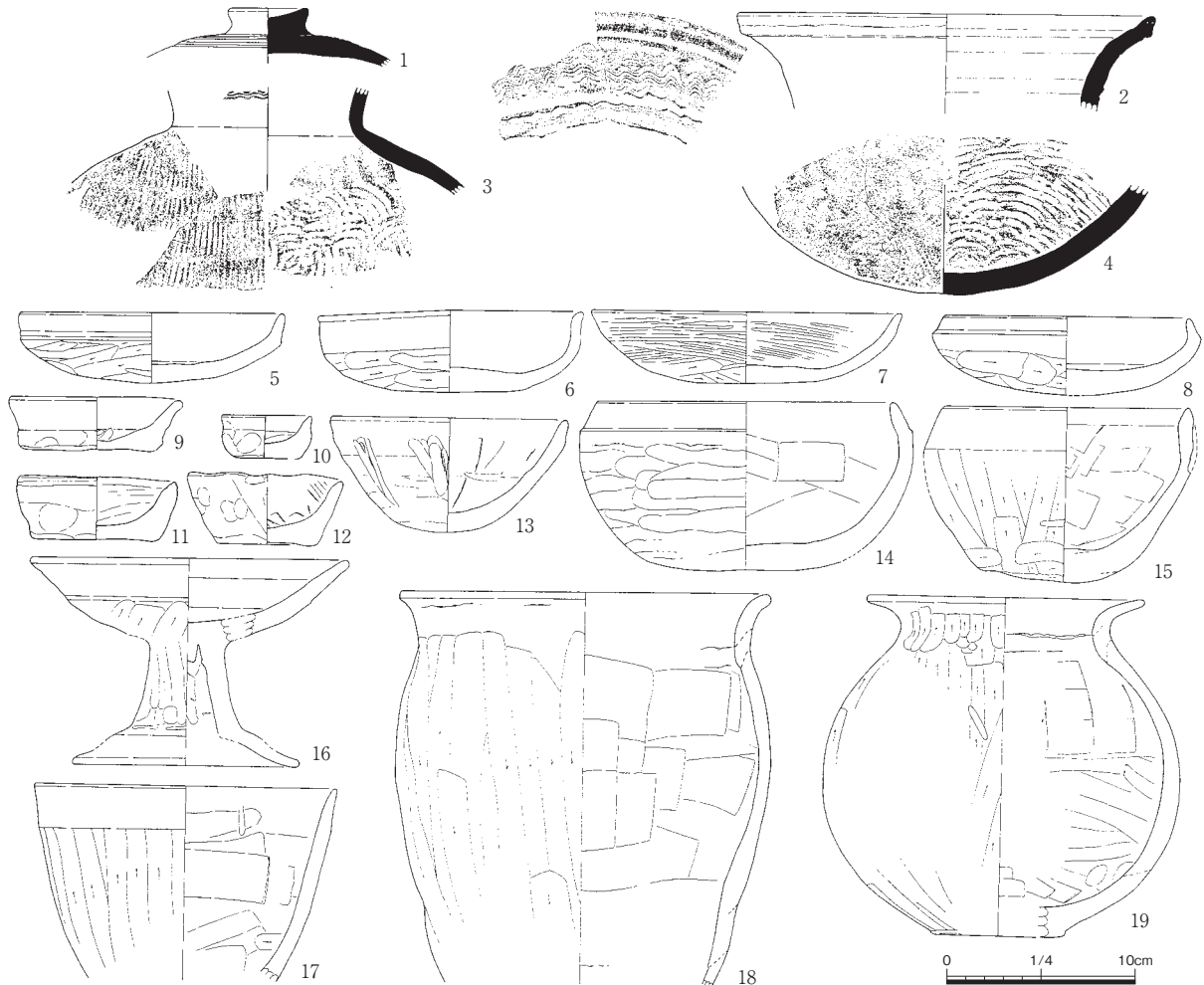
位置 グリッド 102.0-53.5 重複遺構 奈良時代の竪穴状遺構 SX-35 より古い。 平面形 概ね正方形 規模 東西 5.92×南北 6.03 m 主軸方向 N -4° - E 覆土 暗褐色土主体の3層に分層、自然堆積か。 壁 壁高 42～47 cm 床 細かな凹凸あるが概ね平坦。 柱穴 P1 (径 56～48 cm、深さ 45 cm)、P2 (径 58～54 cm、深さ 50 cm)、P3 (径 83～78 cm、深さ 57 cm)、P4 (径 73～66 cm、深さ 54 cm)。いずれも柱痕は確認できなかった。 入口ピット P6 (径 66～33 cm、深さ 26 cm) は南壁際から 60 cm ほど離れて位置する。 貯蔵穴 北東コーナーの P5 (長軸 58×短軸 37 cm、深さ 37 cm) は長方形の掘方をもつ。 壁溝 確認できなかった。 掘方 北西・南東隅、中央部及び南西部にはやや浅い土坑状の掘り込みが認められ、ローム土主体の4層で埋戻す。 カマド 北壁中央部やや東寄りに位置する。煙道部は隅丸台形状に掘り込む。煙道はくの字に段をもち立ち上がる。袖の残存は非常に悪い。土師器甕(18・21)が覆土中から出土する。 遺物 須恵器は蓋・甕類、土師器は坏・粗製坏・手捏ね土器・鉢・高坏・甕・甌と器種も豊富で、その他編物石、焼成粘土塊、土玉、鉄鏃がある。この内6・8・15・20などが床面付近からの出土遺物である。不



第370図 西刑部西原遺跡13区 SI-27 実測図(1)



第371図 西刑部西原遺跡13区 SI-27実測図(2)

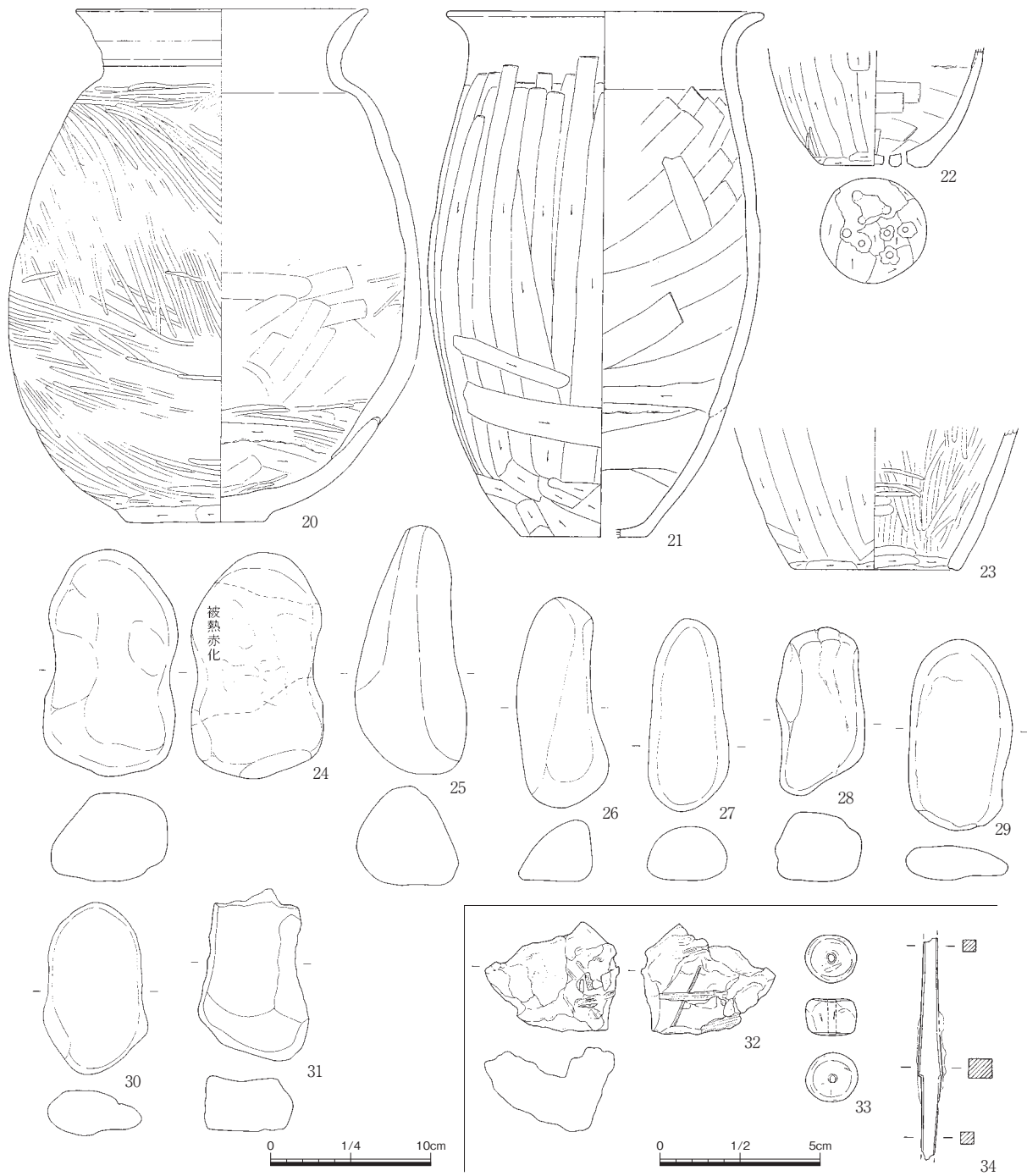


第372図 西刑部西原遺跡13区 SI-27出土遺物(1)

掲載遺物は土器類が小コンテナ4箱分と多く、礫の総重量は9.4 kgである。古墳時代後期末(6世紀末～7世紀初頭)の建物跡と考えられる。

第162表 13区 SI-27出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器蓋	口 (12.8) 高 [3.0] ワミ (3.9)	ツマミ分厚いリング状。天井部回転ヘラケズリのちカキ目。表面は灰色。裏面及び断面は橙色を呈する焼成不良の土器。高環の蓋か。	内：5YR6/8 橙 外：5Y5/2 灰オリーブ	やや粗い、白・灰・黒細砂～礫 焼成：やや軟質	No.13・37 21.9 (No.13)	天井部 1/2、ツマミ 端部欠損
2	須恵器甕	口 (22.0) 高 [5.2]	口縁部～頸部内外面ロクロナデ。頸部外面櫛描波状文。	内：N4/0 灰 外：N3/0 暗灰	やや粗い、白・灰粗砂～礫 焼成：硬質	北西	口縁部 1/8
3	須恵器甕	高 [5.3]	外面平行叩き。内面同心円状あて具痕。頸部内外面ロクロナデのち外面櫛描波状文。	内：N3/0 暗灰 外：2.5Y6/1 黄灰	やや粗い、白・黒・灰粗砂、白色粒多量、灰色礫少量、石英粒微量 焼成：硬質	No.98、南 10.8	胴部破片
4	須恵器甕	高 [5.7]	内面同心円状あて具痕。外面平行叩きのちナデ。	内：N5/0 灰 外：N4/0 灰	やや粗い、白・灰・黒粗砂～礫 焼成：硬質	No.73・80、 南 18.6 (No.73)	底部 2/3
5	土師器環	口 (13.9) 高 3.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内面ナデ。漆仕上げ。口縁端部の漆は使用により磨滅したのか。	内：10YR8/4 浅黄橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	緻密、透明・赤色粒・灰微粒砂 焼成：やや硬質	No.3・22 9.7 (No.22)	口縁部 1/2、底部 1/2
6	土師器環	口 14.0 高 4.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内面ナデか。漆はほぼ全面に塗られたものとする。体部内面、1か所にモミ圧痕確認。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	やや緻密、白・赤・黒・灰細砂～粗砂 焼成：やや硬質	No.66 1.9	口縁部 3/4、底部 完存
7	土師器環	口 16.5 高 3.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデのちヘラミガキ。体部外面ヘラケズリのちヘラミガキ。内面及び体部外面漆仕上げ。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・灰粗砂～礫 焼成：やや硬質	No.18 10.8	口縁部 3/4、底部 4/5
8	土師器環	口 12.8 高 4.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内面ナデ。	内：5YR7/8 橙 外：5YR6/6 橙	やや粗い、白・灰・黒・赤色粒細砂～礫 焼成：やや軟質	No.8 2.2	完存



第373図 西刑部西原遺跡13区 SI-27出土遺物(2)

9	土師器 坏	口 底 高 12.9 8.1 2.9	体部内面~口縁部外面ヨコナデ。底部内面焼成前の亀裂補修痕あり。体部外面~底部外面ナデ及び指頭押圧。粗雑なつくり。	内: 10YR5/3 にぶい黄褐 外: 7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・黒・灰細砂 焼成: 硬質	No. 141 6.4	口縁部 3/4、底部 完存
10	土師器 坏	口 底 高 4.1-4.5 3.5 2.5	体部~底部内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面~底部外面指頭押圧及びナデ。小型で雑なつくり。	内: 10YR6/6 明黄橙 外: 10YR3/1 黒褐	やや粗い、白・灰粗砂 焼成: やや軟質	北	ほぼ完存
11	土師器 坏	口 底 高 8.1 6.7 3.3	口縁部内外面ヘラ状工具による沈線。体部内面ヘラナデ。体部外面~底部外面ナデ及び指頭押圧か。磨滅が著しく調整は不明瞭。	内: 2.5Y4/1 黄灰 外: 10YR 灰黄褐 5/2	粗い、白・赤・黒細砂~粗砂 焼成: やや硬質	No. 85 3.7	ほぼ完存
12	土師器 坏	口 底 高 8.0 5.0 3.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ指頭押圧。体部内面ヘラナデ及びナデ。底部外面ナデ。線刻あるいは糸状物(毛髪)の圧痕。磨滅顕著のため調整は不明瞭。雑なつくり。	内: 10YR4/1 褐灰 外: 10YR5/2 灰黄褐	やや粗い、白・黒・赤・灰粗砂 焼成: やや軟質	No. 86 2.7	ほぼ完存

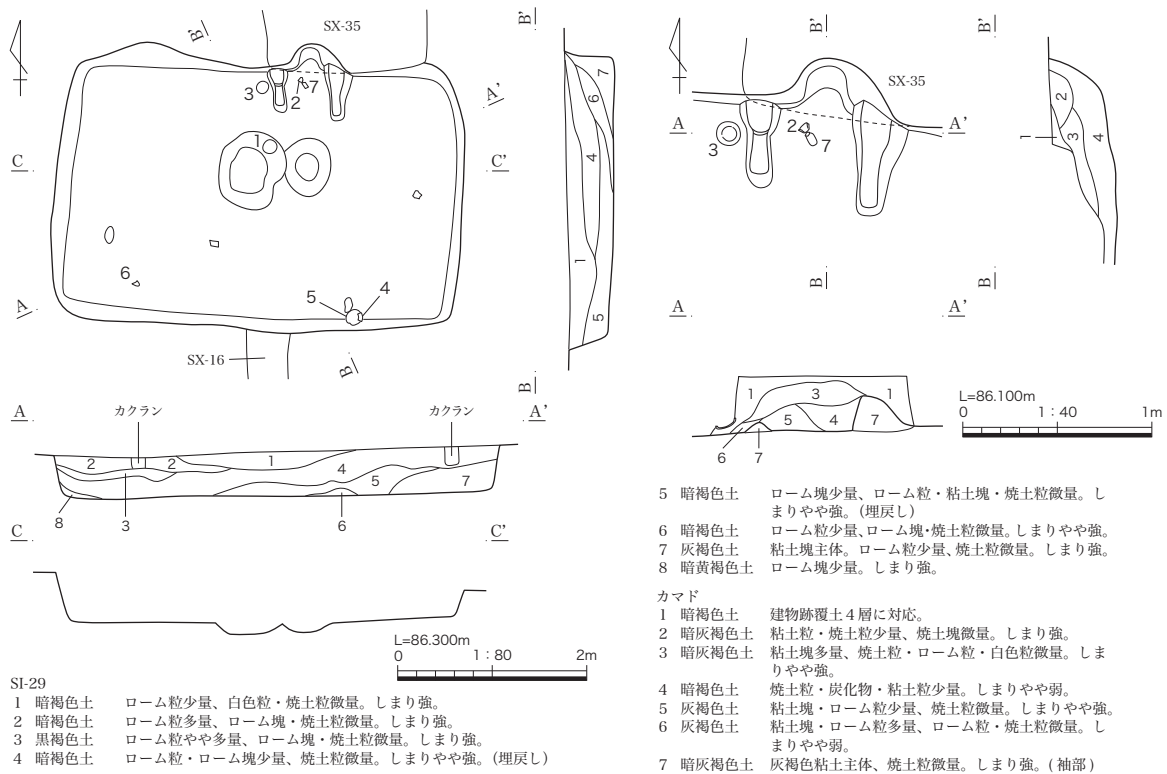
13	土師器 坏	口高 12.4 6.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。輪積痕あり。体部内面ヘラナデ。体部外面には乾燥段階で生じた縦位の亀裂を補修した痕跡が3か所認められる。	内：10YR8/4 にぶい黄橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、灰・黒・赤粗砂 焼成：硬質	No.70 26.1	完存
14	土師器 鉢	口高 (15.5) 8.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面ナデのちヘラケズリ。内外面漆仕上げ。平底に近い。	内：10YR7/2 にぶい黄橙 外：10YR8/2 灰白	緻密、白・黒細砂 焼成：やや硬質	No.10・12 5.7 (No.10)	口縁部 1/2、底部 1/2
15	土師器 鉢	口高 12.8 9.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面タテヘラケズリ。体部内面ヘラナデ。内面黒色処理。底部外面には粘土を継ぎ足したと考えられる痕跡あり。雑なつくり。歪み大。口縁部～体部上半にかけ剥離が顕著。特に口縁部直下の剥離は帯状に巡っており、このうちの一部は焼成時に剥離した可能性もある。	内：2.5Y3/1 黒褐 外：10YR8/4 浅黄橙	やや粗い、灰・黒・白粗砂 焼成：やや硬質	No.41・ 42・44、北 中央 床直 (No.44)	ほぼ完存
16	土師器 高坏	口高 (16.6) (11.0)	坏内面～口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。脚部外面タテヘラケズリ、内面ヨコヘラケズリ。端部ヨコナデ。	内：5YR6/6 橙 外：5YR5/6 明赤褐	緻密、白・灰・微砂粒 焼成：やや硬質	北～中央、 北、南東	口縁部1/4、 脚1/2
17	土師器 小型甕	口高 (16.0) [10.4]	胴部外面タテヘラケズリのち口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。	内：10YR6/4 にぶい黄橙 外：2.5Y4/3 オリーブ褐	やや粗い、白・透明・黒・白粗砂～礫、赤色粒 焼成：やや軟質	No.1、北 17.6	口縁部 1/5、胴部 2/3
18	土師器 甕	口高 (19.2) [21.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヘラナデのち下半部を帯状にヘラケズリ。歪み大きい。胴部中位の一部に炭化物付着。	内外面とも 10YR6/3 にぶい黄橙	やや粗い、白・灰・黒粗砂～礫 焼成：やや硬質	No.120・ 123・124、 カマド 3.3 (No.120)	口縁部 1/2、胴部 1/2
19	土師器 甕	口底高 (14.8) (7.0) 17.6	口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヨコまたはナメヘラナデ。	内：10YR4/1 褐灰 外：7.5YR7/6 橙	やや粗い、灰・黒・白細砂～粗砂 焼成：やや硬質	No.112・ 113・114・ 115、南、南 西、南東 4.6 (No.114)	口縁部 1/8、底部 1/4
20	土師器 甕	口底高 18.0 8.6 32.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半部タテヘラナデのち粗いヘラミガキ。下半部～下端部はヨコヘラケズリのちヨコまたはナメヘラミガキ。胴部内面上半部ヘラナデか。下半部ヘラナデのち内面の積み上げ休止部分をヘラケズリのち疎らなヘラミガキ。底部内面ヘラナデのち一方ヘラミガキ。胴部中位に2か所の黒斑あり。底部外面多方向ヘラケズリ。	内：5YR6/6 橙 外：5YR7/6 橙	やや粗い、灰・黒・白・赤粗砂～礫 焼成：やや軟質	No.87、北 1.9	ほぼ完存
21	土師器 甕	口高 (19.6) 33.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。下端部はナメヘラケズリのち一部ヨコヘラケズリ。胴部内面ナメヘラナデのち下半部ヨコヘラケズリ。底部外面ヘラケズリ。底部内面付近は黒色を呈する。炭化物か。	内：10YR5/3 にぶい黄橙 外：7.5YR7/6 橙	粗い、白・灰・黒粗砂～礫 焼成：やや軟質	No.119・ 121・114・ カマド No.129・No.125・No.137 2.7 (No.137)	底部一部、 口縁部～胴 部3/4
22	土師器 甕	口底高 (13.4) (6.6) [7.4]	胴部外面タテヘラケズリ。下端部ナメヘラケズリ。胴部～底部内面ヘラナデ。底部外面一方向ヘラケズリのち外面から棒状工具で穿孔。孔は計8つ。	内外面とも 10YR7/4 にぶい黄橙	やや粗い、灰・白・黒粗砂～礫 焼成：やや軟質	No.142 7.0	底部完存、 胴下半部 1/2
23	土師器 甕	口底高 10.4 [8.9]	胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。一部ヘラケズリのちタテヘラミガキ。底部内・外面ヘラケズリ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・灰・黒・赤粗砂～礫 焼成：硬質	No.55、北 9.4	底部1/2、 胴下半部 1/4
24	石器 編物石	長幅厚重 14.2 7.9 5.5 915.4	裏面の中央部に被熱の痕跡あり。支脚か。平面形：くびれの小さい分銅形 断面形：不整形	10Y4/1 灰	—	カマド	ほぼ完存
25	石器 編物石	長幅厚重 15.5 6.8 6.2 741.3	全面が暗い赤褐色を呈する。被熱したものか。平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸三角形	5YR3/2 暗赤褐	—	No.33 2.8	完存
26	石器 編物石	長幅厚重 13.0 5.4 4.3 390.4	未加工の自然礫。平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸三角形	5Y5/1 灰	—	No.50 28.0	完存
27	石器 編物石	長幅厚重 12.1 4.9 3.4 314.0	未加工の自然礫。平面形：不整な楕円形 断面形：不整な楕円形	5Y7/1 灰白	—	No.105 23.0	完存
28	石器 編物石	長幅厚重 10.6 5.3 4.3 338.1	未加工の自然礫。平面形：不整な長方形 断面形：不整な隅丸正形	2.5Y7/3 浅黄	—	No.25 15.9	部欠
29	石器 編物石	長幅厚重 11.9 6.3 2.0 246.2	未加工の自然礫。平面形：不整な楕円形 断面形：不整な楕円形	2.5Y7/1 灰白	—	No.59 14.0	部欠
30	石器 編物石	長幅厚重 10.8 6.3 2.9 267.0	未加工の自然礫。平面形：不整な楕円形 断面形：不整な楕円形	2.5Y6/4 にぶい黄	—	No.19 6.6	ほぼ完存
31	石器 砥石か	長幅厚重 [10.8] 5.5 3.6 [397.7]	右側面を打ち欠く。編物石を転用した砥石か。砥面は表面一面のみで擦痕は明瞭。	2.5Y6/2 灰黄	—	No.29 2.2	部欠
32	焼成粘土塊	長幅厚重 3.4 4.2 2.4 15.9	主に左面及び右面にワラ状の繊維圧痕あり。坏の胎土と似ており軽い。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや粗い、白・赤色粗砂 焼成：やや軟質	覆土中	一部残存

第3章 発見された遺構と遺物

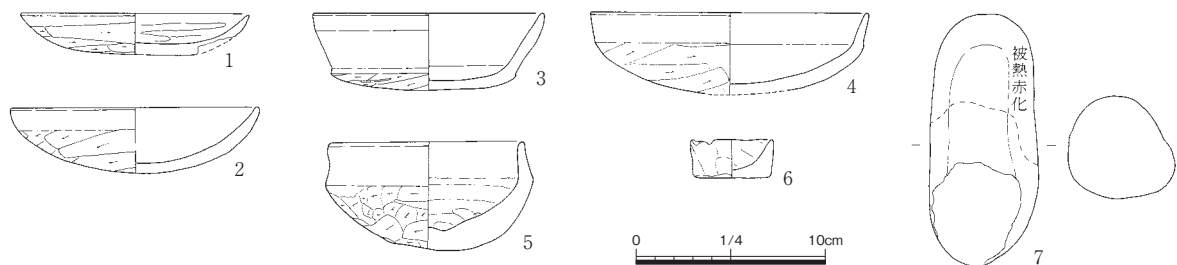
33	土製品 土玉	長 1.6 穴 0.22-0.35 孔 0.14-0.15	上面の孔はメガネ状(8の字)を呈する。孔を開け直したためか。	内外面とも 5YR7/6 橙	やや緻密、白微粒砂 焼成：やや軟質	No.28 22.8	完存
34	鉄製品 鉄鏃	長 [6.8] 幅 0.7 厚 0.4 重 [6.9]	長頸鏃の破片。頸部・筥被・茎とも断面形は正方形に近い。筥被は台形関。基下半部欠損。	—	鉄製	南東部覆土 中	鏃身部欠損

13区 SI-29 (遺構：第374図、遺物：第375図、図版五九・六〇・一〇七・一〇八)

位置 グリッド 102.0-53.5・101.5-53.5 重複遺構 円形周溝遺構 SX-16 より新しく、竪穴状遺構 SX-35 より古い。平面形 東西軸の長方形 規模 東西 4.25×南北 3.05 m 主軸方向 N-2° - E 覆土 埋戻しと考えられる。壁 壁高 40～55 cm 床 ローム面で、概ね平坦。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 中央部に浅いピット状の凹みあり。カマド 北壁中央部やや東寄りに位置し、壁を凸字状に掘り込む。煙道は丸みをもって立つ。構築材には灰褐色粘土を使用、残りは非常に悪い。遺



第374図 西刑部西原遺跡13区 SI-29 実測図



第375図 西刑部西原遺跡13区 SI-29 出土遺物

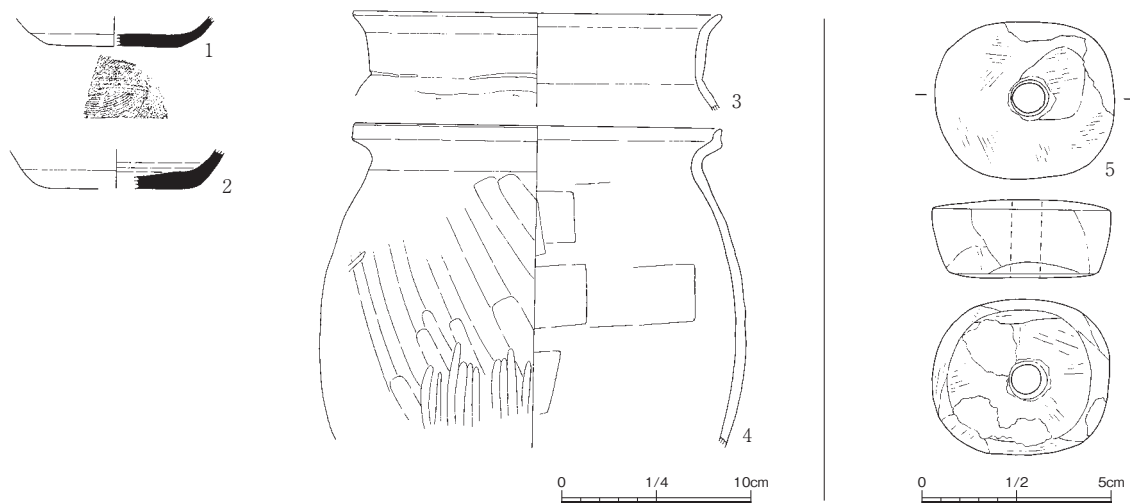
物 土師器環、手捏ね土器、礫などを掲載。1・3の土師器環が床面付近の出土。不掲載遺物のうち土器類は小コンテナ 1/2 箱程度、礫は 1.3 kg である。古墳時代終末期（7 世紀後半）の建物か。

第 163 表 13 区 SI-29 出土遺物観察表

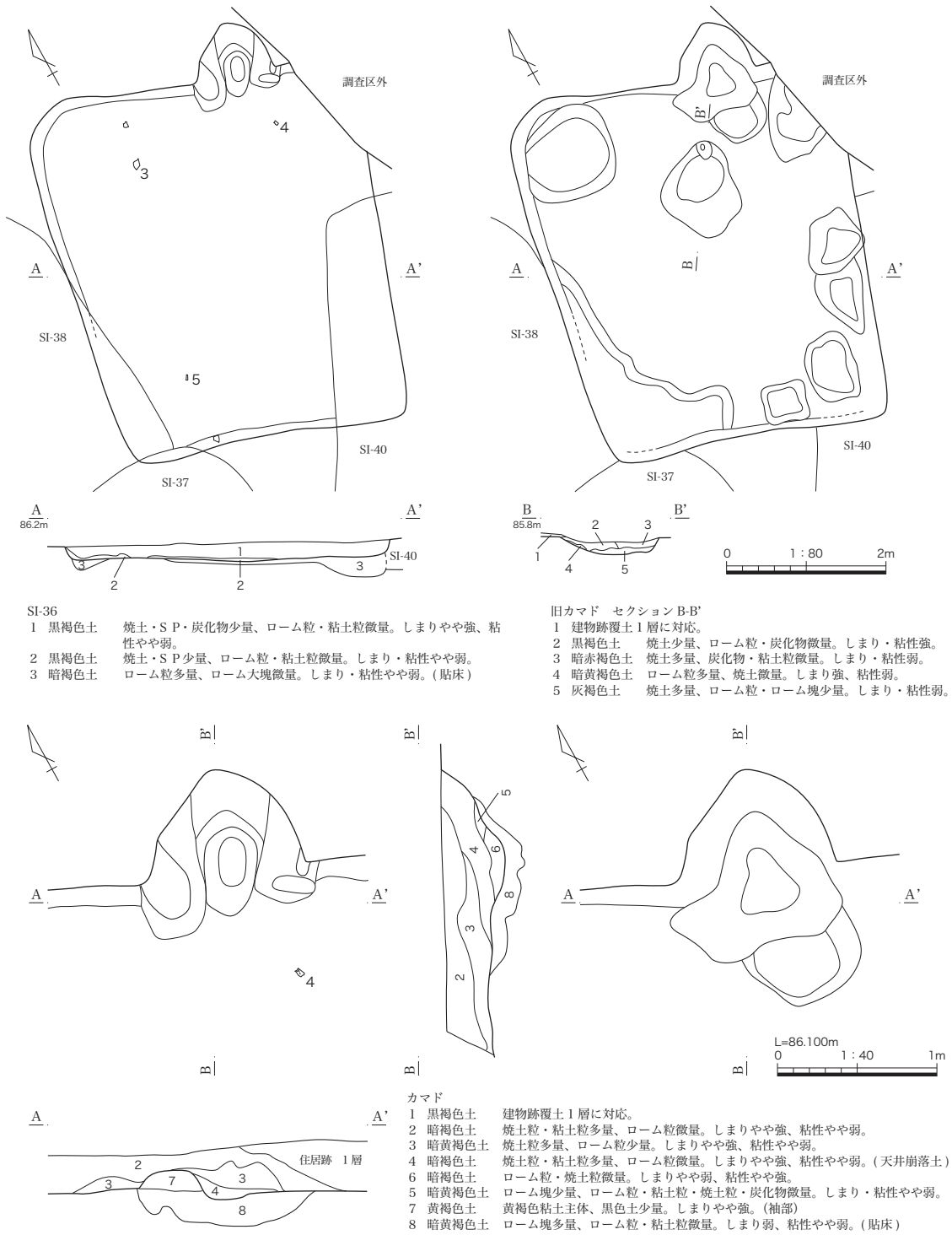
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器環	口 12.0 高 2.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面強いヘラナデ。体部外面ヘラケズリ。口縁部内外面に漆残る。	内：10YR7/3 にぶい黄橙 外：10YR6/4 にぶい黄橙	緻密、白・灰微粒砂 焼成：やや硬質	No.1、南ベ ルト 2.0	口縁部3/4、 底部完存
2	土師器環	口 12.9 高 3.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面磨滅のため調整不明。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内外面とも 10YR7/6 明 黄褐	やや粗い、白粗砂 焼成：やや硬質	カマドNo.10 5.1	ほぼ完存
3	土師器環	口 12.0 高 4.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。口縁部外面褐色付着物あり。漆か。	内：5YR6/6 橙 外：7.5YR6/6 橙	やや粗い、白・灰粗砂 焼成：やや軟質	No.9、カマド、 北東、南東 2.6	口縁部1/2、 底部3/4
4	土師器環	口 (14.4) 高 4.4	口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部外面ヨコ、底部外面一方向のヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内：10YR3/1 黒褐 外：10YR5/3 にぶい褐	やや緻密、白細砂、赤色粒 焼成：やや硬質	No.6 33.1	口縁部3/4、 底部1/2
5	土師器環	口 10.1 高 5.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部内面ナデ。体部外面細かいヘラケズリのちナデか。底部外面一方向ヘラケズリ。歪みが大きく厚手。全体的に粗雑なつくり。	内：10YR7/6 明黄褐 外：7.5YR7/6 橙	やや緻密、白細砂、白礫 焼成：やや硬質	No.7 33.5	ほぼ完存
6	土師器手捏ね土器	口 (4.2) 高 2.0	口縁部～体部内外面ナデ及び指頭押圧。底部外面ナデ。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	やや緻密、灰微粒砂、赤色粒 焼成：やや軟質	No.5 26.1	ほぼ完存
7	石器編物石	長 13.1 幅 5.6 厚 5.5 重 551.7	支脚か。被熱のため上半部赤化。一部黒色味帯びる。平面形：楕円形 断面形：不整な円形	10YR5/3 にぶい黄褐	—	No.11、カ マド 床直	部欠

13 区 SI-36 (遺構：第 377 図、遺物：第 376 図、図版六〇・一〇八)

位置 グリッド 101.0-54.0 重複遺構 古墳時代後期から終末期の建物跡 SI-37・38・40 より新しい。平面形 南北軸の隅丸長方形 規模 東西 3.85 ～南北 4.99 m 主軸方向 N -12° - E 覆土 自然堆積か。壁 壁高 5 ～ 27 cm 床 貼床あり。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 壁際に深さ 20 cm 前後の土坑状の掘り込みが断続的にみられる。カマド 北壁中央部東寄りに位置し、丸みをもつ三角形に掘り込む。床下の掘方は深さ約 10 cm で、ローム塊主体の 8 層で埋戻す。遺物 床面直上の遺物は皆無で、1・2 の須恵器環、3・4 土師器甕、5 の石製紡錘車が覆土中から出土。不掲載物は土師器甕類を主体とし、少量の須恵器環・蓋などがある。小コンテナ箱約 1/5 と少ない。遺物から平安時代の建物跡と考えたい。備考 カマド前面の床下から検出された掘り込みは、規模の小さい旧建物を拡張した際のカマドの痕跡と考えられる。



第 376 図 西刑部西原遺跡 13 区 SI-36 出土遺物



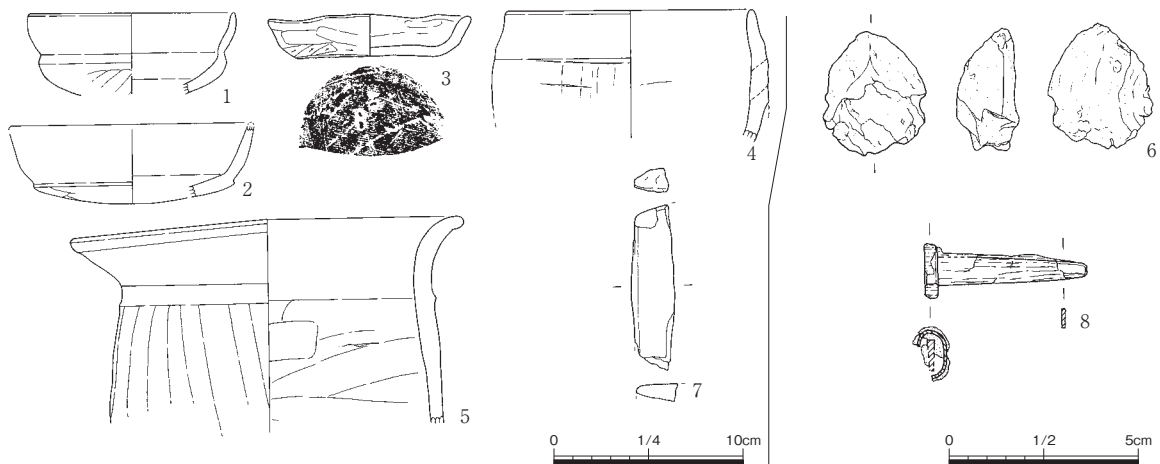
第377図 西刑部西原遺跡13区 SI-36実測図

第 164 表 13 区 SI-36 出土遺物観察表

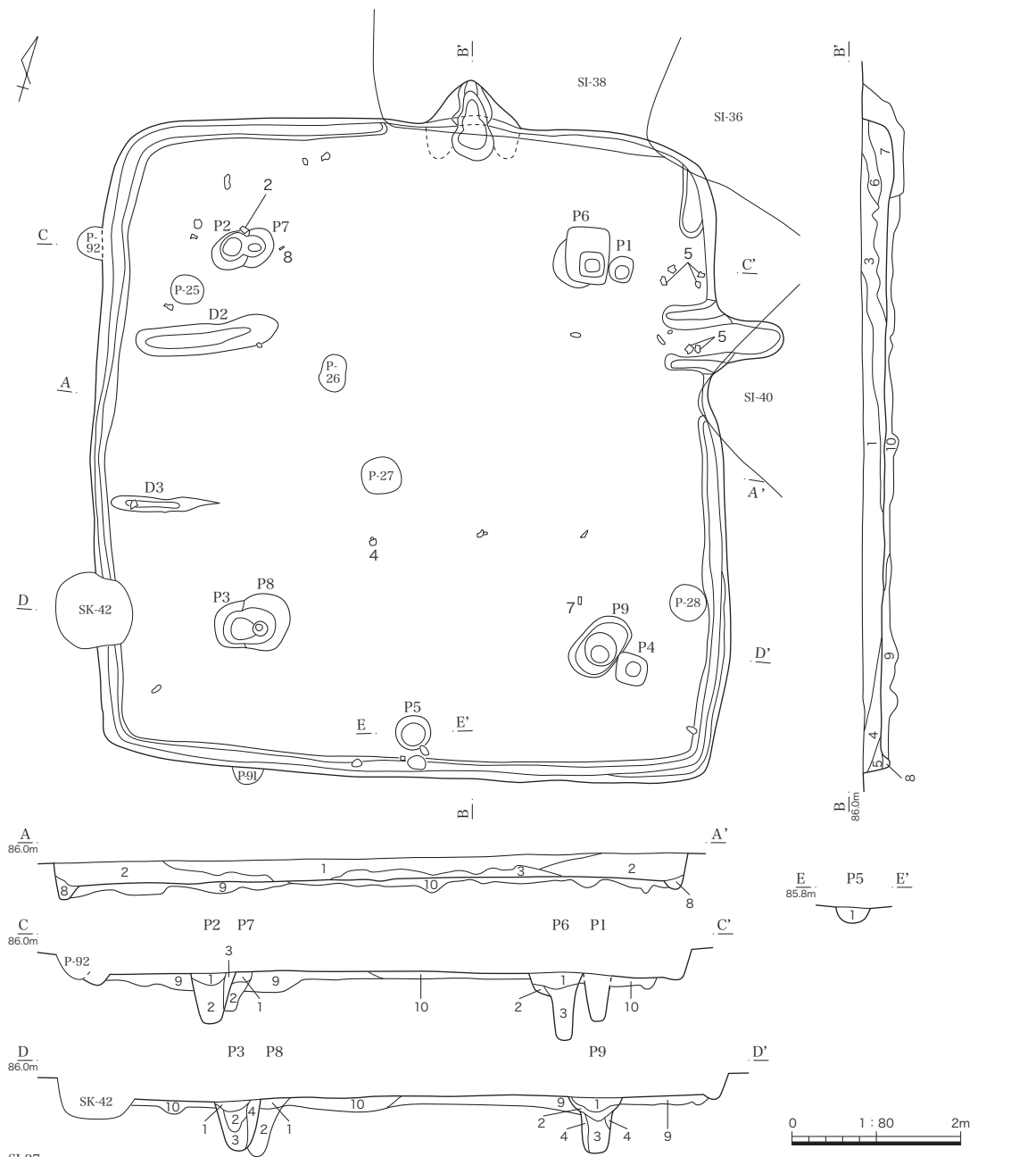
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技 法 ・ 特 徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	須恵器 環	底 (7.0) 高 [1.7]	内外面ロクロナデ。底部外面回転糸切りのち外周持ちヘラケズリ。	内外面とも 10YR6/4 に ぶい黄橙	やや緻密、白・灰粗砂～ 粗砂、灰礫 焼成：硬質	覆土	底部 1/4
2	須恵器 環	底 (7.0) 高 [2.1]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのちナデ。	内：5Y6/1 灰 外：5Y5/1 灰	やや粗い、白・灰粗砂～礫 焼成：硬質	南西	底部 1/4
3	土師器 甕	口 (19.2) 高 [5.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ。コの字口縁の裏。	内外とも 5YR5/6 明赤褐	緻密、白・灰・黒細砂 焼成：やや硬質	No.4、北東、 北西 7.0	口縁部 1/3
4	土師器 甕	口 (19.0) 高 [16.8]	口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面上半ナメナデ。下半部タテヘラミガキ。胴部内面ヘラナデ。	内外面とも 7.5YR5/4 に ぶい褐	やや粗い、白・灰粗砂～ 礫 焼成：やや軟質	No.2、カマ ド、北東 9.5	口縁部 1/3、胴部 上半 1/5
5	石製品 紡錘車	長 4.7 幅 4.2 厚 2.0 重 52.5 孔 0.7-0.75	平面形は隅丸長方形。上面はレンズ状に丸みをもつ。側面は主に横方向の擦痕あり。黒斑あるいは褐色を呈する部分があり、被熱したものか。	10YR7/3 にぶい黄橙	凝灰岩	No.5 4.9	ほぼ完存

13 区 SI-37 (遺構：第 379～381 図、遺物：第 378 図、図版六〇・六一・一一五)

位置 グリッド 101.0-53.5・100.5-54.0・101.0-54.0 重複遺構・建替え SI-36 (平安時代)、SK-42 より古く、SI-38・40 (古墳時代後期) より新しい。2 時期以上の建替えを確認。平面形 新旧建物とも正方形 規模 新建物：一辺 8.05 m 旧建物：一辺推定 6.4～6.5 m 主軸方向 N-15.5° -W (新建物) 覆土 自然堆積と考えられる。壁 壁高 27～38 cm 床 概ね平坦で、全面が貼床(新旧建物は床面を共有)。新建物：柱穴 P6 (長軸 79×短軸 61 cm、深さ 79 cm)、P2 (径 56～40 cm、深さ 58 cm)、P3 (径 57 cm、深さ 60 cm)、P9 (径 79～50 cm、深さ 64 cm) は支柱穴。入口ピット P5 (径 41～41 cm、深さ 19 cm)。貯蔵穴 未確認。壁溝 幅 15～20 cm、深さ 10～16 cm。間仕切り溝 D2 (幅 33～45 cm、深さ 15 cm)、D3 (幅 14～17 cm、深さ 8 cm) の 2 本を確認。掘方 新・旧建物とも周囲を浅く掘り込む。カマド 新カマドは東壁北寄りに位置し、平面 U 字状に掘り込む。煙道は長く、端部で急角度で立ち上がる。袖は灰色粘土で構築される。燃焼部から煙道にかけ、多量の焼土が堆積する。旧建物：柱穴 P1 (径 31 cm、深さ 55 cm)、P7 (推定径 40～50 cm、深さ 46 cm)、P8 (径約 70 cm、深さ 67 cm)、P4 (一辺 36～40 cm、深さ 58 cm) は支柱穴か。入口ピット P10 (径約 36 cm、深さ 15 cm) 壁溝 外側に D4、内側に D5 があり 2 時

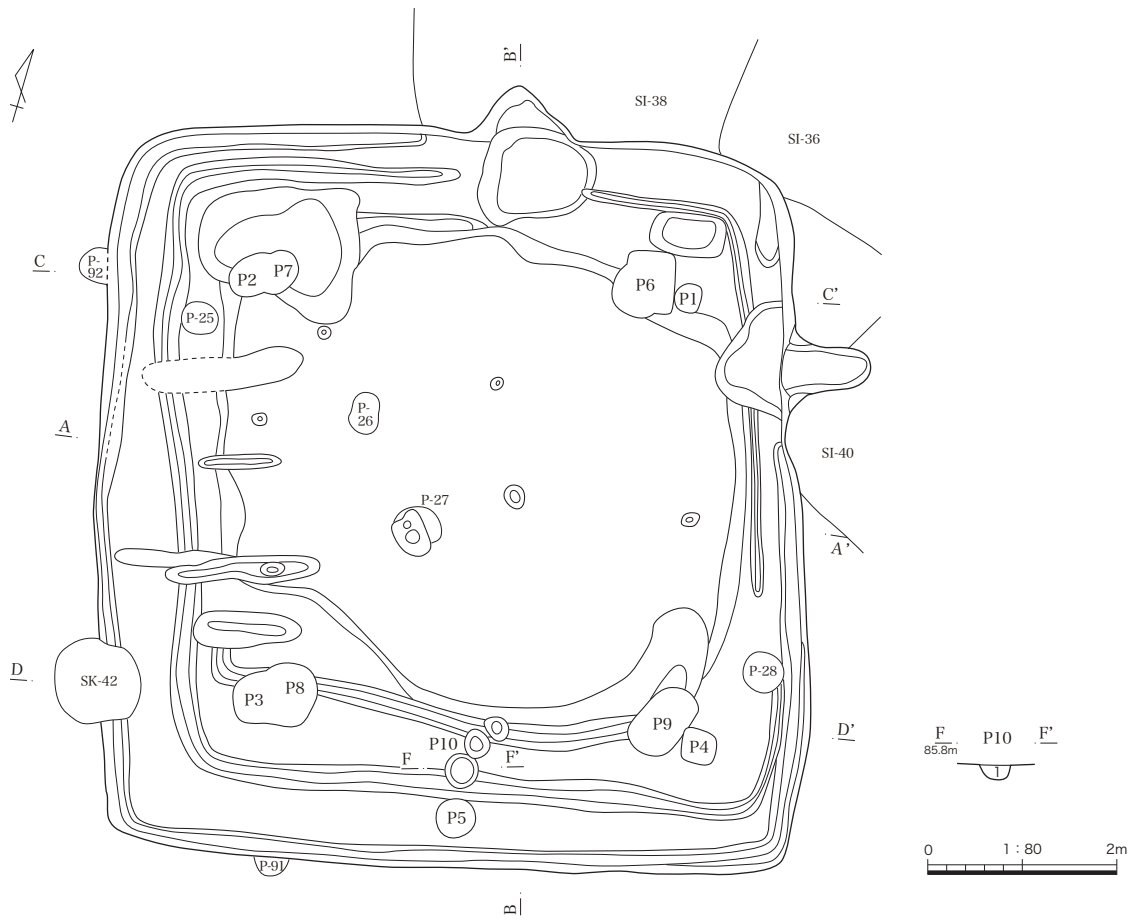


第 378 図 西刑部西原遺跡 13 区 SI-37 出土遺物



- | | |
|----------|---|
| SI-37 | |
| 1 褐色土 | ローム粒やや少量、ローム塊少量、焼土粒・白色粒微量。しまりやや強。 |
| 2 褐色土 | ローム粒やや少量、焼土粒・白色粒微量。しまりやや強。 |
| 3 褐色土 | ローム粒やや少量、粘土粒・粘土塊・焼土粒・焼土塊少量、炭化物微量。しまりやや強。 |
| 4 褐色土 | ローム粒やや少量、粘土粒・粘土塊少量、ローム塊・焼土粒微量。しまりやや強。 |
| 5 褐色土 | ローム粒少量、焼土粒・炭化粒微量。しまりやや強。(自然埋没) |
| 6 褐色土 | ローム粒・ローム塊・粘土粒・粘土塊・焼土粒少量、炭化物微量。しまりやや強。 |
| 7 暗黄褐色土 | ローム粒・粘土粒・粘土塊・焼土粒やや少量、ローム塊少量。しまりやや強。(旧カマドから流れた土) |
| 8 暗褐色土 | ローム粒やや少量、焼土粒少量。しまりやや強。 |
| 9 暗褐色土 | ローム粒多量・ローム塊やや少量。しまりやや強。(貼床) |
| 10 暗褐色土 | ローム塊やや多量、ローム粒少量。しまりやや強。(貼床) |
| P 2 | |
| 1 暗褐色土 | ローム粒少量、焼土粒微量。しまりやや強。(建物覆土に対応) |
| 2 褐色土 | ローム粒やや多量、ローム塊やや少量。しまりやや強。(抜取痕) |
| 3 暗黄褐色土 | ローム塊多量。しまり強。(埋戻し) |
| P 3 | |
| 1 暗褐色土 | ローム粒少量、焼土粒微量。しまりやや強。(建物覆土に対応) |
| 2 褐色土 | ローム粒やや多量、ローム塊やや少量。しまりやや強。(抜取痕) |
| 3 褐色土 | ローム粒・ローム塊多量。しまりやや強。(柱痕) |
| 4 暗褐色土 | ローム主体。黒色土少量。しまり強。(埋戻し) |
| 2 褐色土 | ローム粒やや多量、ローム塊やや少量。しまりやや強。(抜取痕) |
| 3 褐色土 | ローム粒・ローム塊多量、しまり強。(埋戻し) |
| P 5・P 10 | |
| 1 暗黄褐色土 | ローム粒やや少量、ローム塊少量、焼土粒微量。しまりやや強。 |
| P 6 | |
| 1 褐色土 | ローム粒・焼土粒やや少量、粘土粒・粘土塊少量、ローム塊微量。しまりやや強。 |
| 2 褐色土 | ローム粒やや多量、ローム塊・焼土粒やや少量。しまりやや強。(抜取痕) |
| 3 褐色土 | ローム粒やや多量、ローム塊・焼土粒やや少量、焼土塊少量。しまりやや強。(抜取痕) |
| P 7・P 8 | |
| 1 褐色土 | ローム粒やや少量、ローム塊少量、焼土粒微量。しまり強。(埋戻し) |
| 2 褐色土 | ローム粒やや少量、ローム塊少量、しまりやや強。(埋戻し) |
| P 9 | |
| 1 褐色土 | ローム粒少量、焼土粒若干。しまりやや強。(抜取痕) |
| 2 明褐色土 | ローム粒少量、焼土粒若干。しまりやや強。(抜取痕) |
| 3 褐色土 | ローム粒・ローム塊多量。しまりやや強。(柱痕) |
| 4 暗褐色土 | ローム主体。黒色土少量。しまり強。(埋戻し) |

第379図 西刑部西原遺跡13区 SI-37実測図(1)

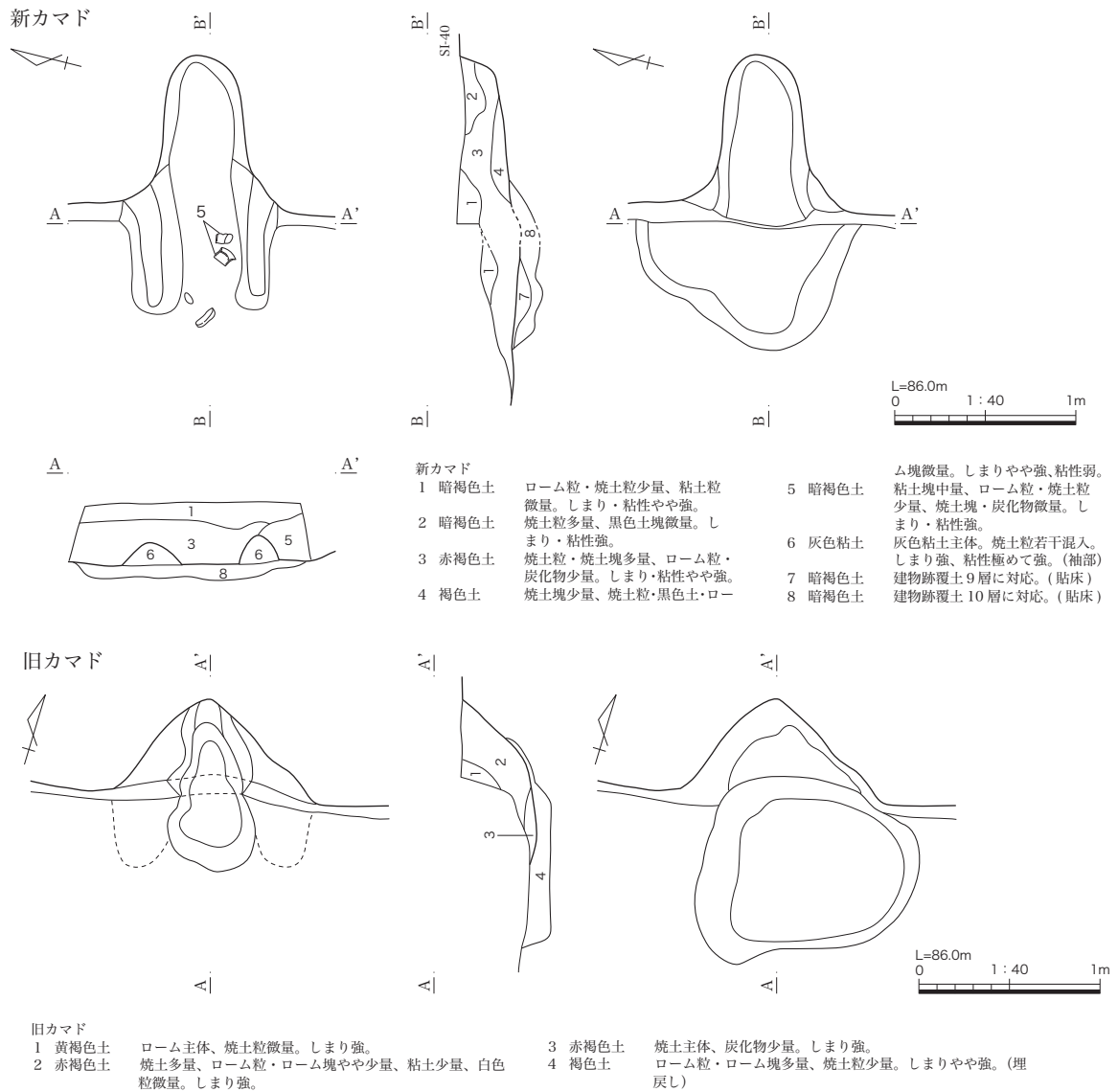


第380図 西刑部西原遺跡13区 SI-37 実測図(2)

期以上の変遷が伺える。間仕切り溝 D6～D8 は建物跡西部に集中。カマド 旧カマドは北壁中央部に三角形に掘り込む。煙道部は68°の角度で立ち上がる。袖部は旧住居に壊され不明。多量の焼土が認められる。遺物 出土遺物は極めて少なく、床面直上の土器類は皆無である。計8点を図示した。土師器杯・手捏ね土器・鉢・甕などがある。石器類では砥石や軽石(浮きか)がある。鉄製品の刀子破片(8)は刃部を欠損するが柄の木質が残る。また柄縁金具には鞘の一部が付着している。不掲載の土器類は小コンテナ約1/2箱、礫の重量は5.6kgである。遺物から古墳時代終末期(7世紀後葉)の建物跡と考えられる。

第165表 13区 SI-37 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器杯	口(10.7) 高[4.3]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内面ナデ。内面～口縁部外面漆仕上げ。小型の杯。稜が明確で器高が高い。	内外面とも7.5YR7/6橙	やや緻密、白・黒細砂 やや硬質	北カマド	口縁部1/8、 底部1/6
2	土師器杯	口(12.8) 高[3.8]	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。全面に漆仕上げ。	内:10R6/6赤橙 外:5YR6/6橙	やや緻密、白・黒細砂 焼成:やや硬質	No.9 14.5	口縁部一 部、底部 1/5
3	土師器杯	口(10.4) 底(7.4) 高2.3	口縁部内外面弱いヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面スノコあるいは敷物状の三本の沈線風圧痕あり。その後、ヘラナデのち一部ヘラミガキ。体部下端ヘラケズリか。歪み大きい。平底を呈する。	内:7.5YR7/6橙 外:10YR6/3にぶい黄橙	やや粗い、灰・黒・粗砂 ～礫 焼成:やや硬質	北西	口縁部1/4、 底部1/4
4	土師器鉢	口(12.8) 高[6.9]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラナデか。体部内面ヘラナデか。内外面剥落が著しく調整不明瞭。	内:5YR7/6橙 外:7.5YR7/6橙	やや粗い、白・黒・赤粗砂 焼成:やや硬質	No.16 16.0	口縁部1/4
5	土師器甕	口19.4-20.3 高[11.3]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面上半ナメヘラナデ。胴部外面タテのヘラナデ。歪み大きく口縁部は楕円形。	内外面とも5YR5/6明赤褐	やや粗い、灰・白・赤粗砂～礫 焼成:やや軟質	No.1・2・ 27・30、東 カマド 6.0 (No.27)	胴上半1/3、 口縁部1/2

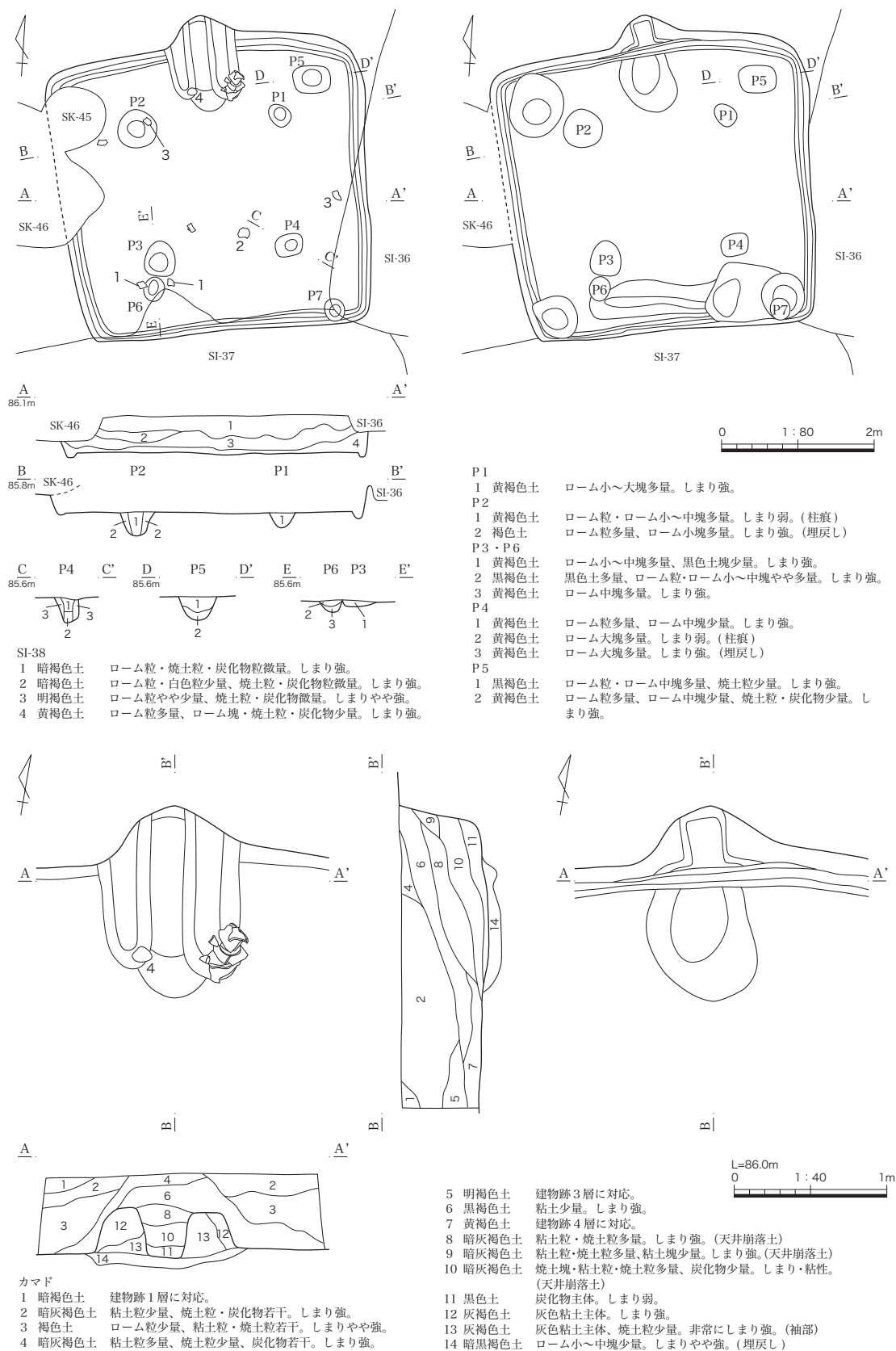


第381図 西刑部西原遺跡13区 SI-37実測図(3)

6	石器 軽石	長 3.3 幅 2.6 厚 1.5 重 3.4	加工痕などはみられない。	10YR8/3 浅黄橙	—	北東	部分残存
7	石器 砥石	長 [8.7] 幅 [2.3] 厚 [0.9] 重 28.6	擦痕などは確認できない。仕上げ砥石か。上端は自然面で未使用。 平面形：不明 断面形：不明	2.5GY6/1 オリーブ灰	チャートか	No.22 床直	部分残存
8	鉄製品 刀子	長 [4.4] 幅 0.9 厚 0.2 重 [2.5]	刀部欠損。柄縁の幅約3.0mm。内部には木質が残り、外面には鞘が付着する。茎は薄く柄の木質が付着。	—	鉄製	No.8 9.0	茎部残存

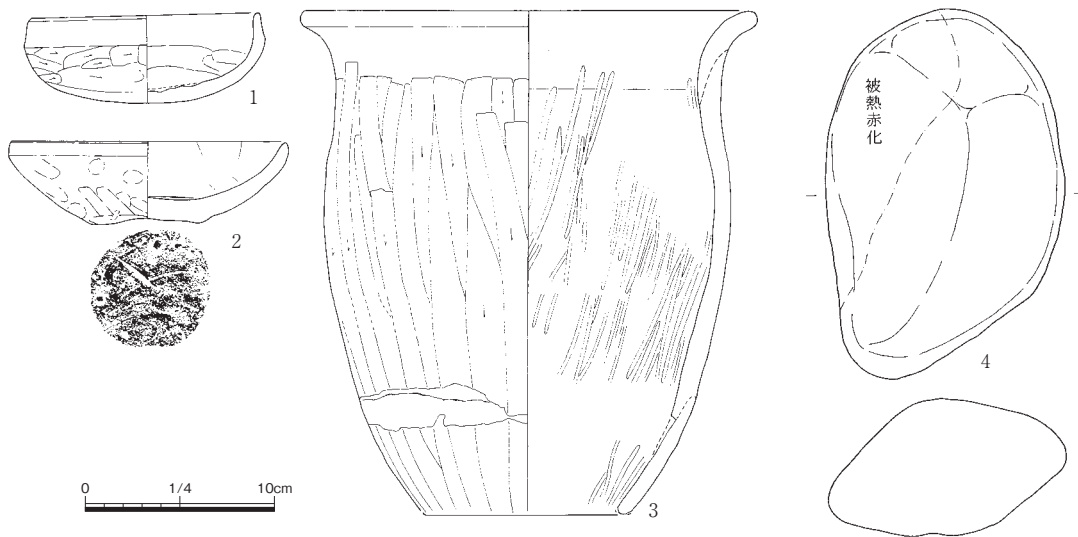
13区 SI-38 (遺構：第382図、遺物：第383図、図版六一・一〇八)

位置 グリッド 101.0-54.0 重複遺構 建物跡 SI-36 (平安時代)・37 (古墳時代終末期)、SK-46 と重複し、いずれよりも古い。平面形 正方形 規模 東西 3.94×南北 4.21 m 主軸方向 N -9.5° -W 覆土 自然堆積と思われる。壁 壁高 45 cm 床 ローム地山を床面とするが一部に貼床あり。柱穴 P1 (径



第382図 西刑部西原遺跡13区 SI-38実測図

31～24 cm、深さ 17 cm)、P2 (径 50 cm、深さ 28 cm)、P3 (径 45～39 cm、深さ 15 cm)、P4 (径 39～29 cm、深さ 31 cm) は支柱穴か。 入口ピット 確認できなかった。 貯蔵穴 P5 (長軸 48～短軸 36 cm、深さ 30 cm) は隅丸の長方形を呈する。この他、P6 (径 33～25 cm、深さ 18 cm) P7 (径 26 cm、深さ 37 cm) は用途不明。 壁溝 幅約 15 cm、深さ 7～10 cm で壁際にほぼ全周する。 掘方 北西隅、南壁際に土坑状の掘り込みをもつ。 カマド 北壁中央部を浅く凸字形に掘り込む。袖は灰色粘土で構築する。焼土は煙道部からの流れ込みか。 遺物 土師器坏・甕類が少量出土。4 はカマド袖内から出土した礫で、芯材と考えられる。この他不掲載遺物は土器類が、小コンテナ 1/2 弱、礫は約 14 kg 出土している。遺物から古墳時代後期末 (6 世紀末葉～7 世紀初頭) の建物跡と考えたい。



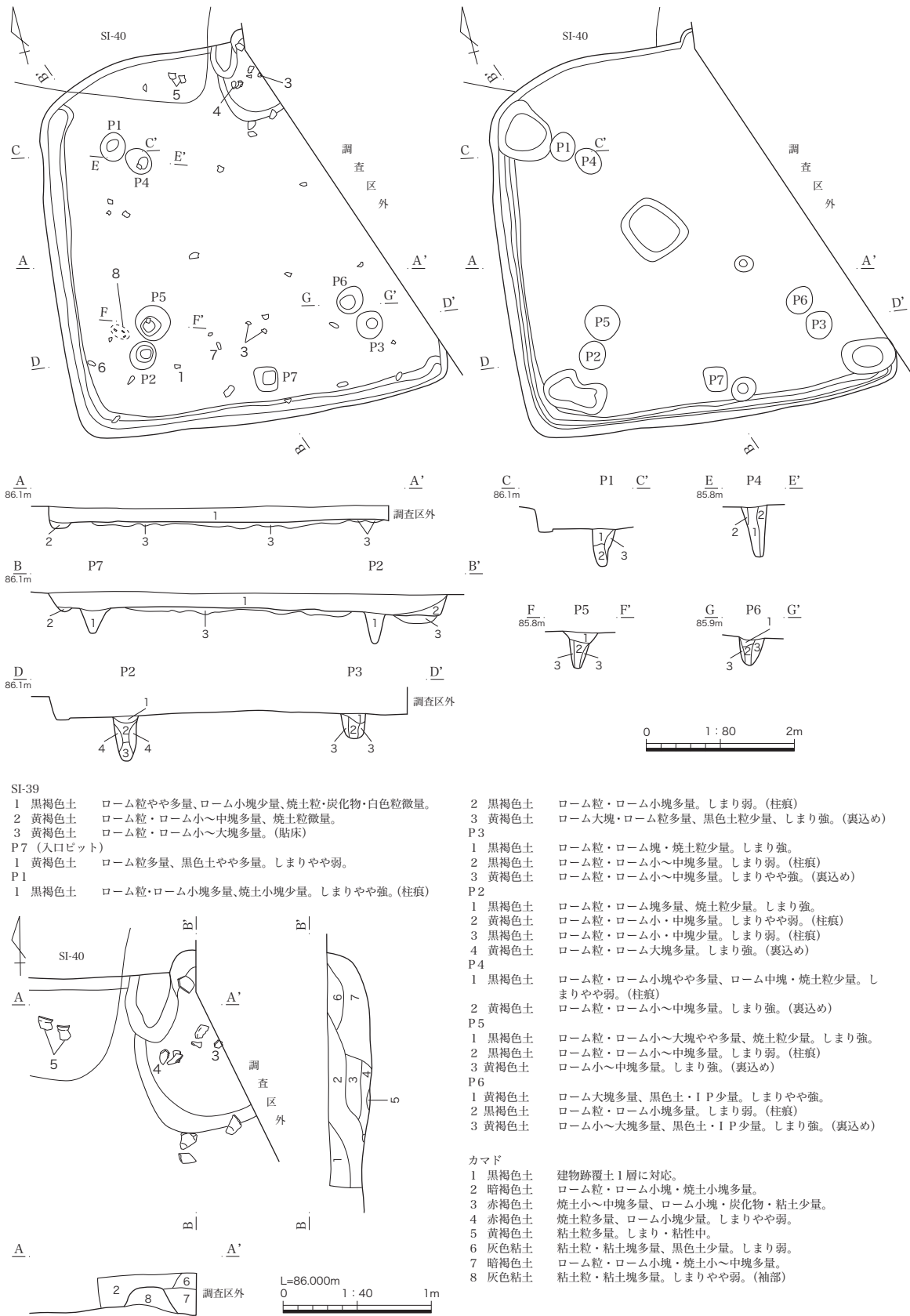
第 383 図 西刑部西原遺跡 13 区 SI-38 出土遺物

第 166 表 13 区 SI-38 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	土師器 坏	口 11.8 高 4.7	口縁部内外面ヨコナデ内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。底部内外面剥離著しく調整不明。内外面漆仕上げ。	内：10YR8/3 浅黄橙 外：7.5YR8/4 浅黄橙	やや粗い、赤・黒粗砂 焼成：軟質	No.3・4、西、 南西 23.2 (No.3)	口縁部 3/4、 底部完存
2	土師器 坏	口 (14.4) 底 5.8 高 4.2	内面ヘラナデのちナデ。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ及び指頭押圧。底部外面ヘラ切り。通常の土師器坏の胎土と比べやや礫の混入が多い。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	やや粗い、白・赤・灰粗砂～礫 焼成：やや硬質	No.6 14.6	口縁部 1/2、 底部完存
3	土師器 甕	口 (23.0) 底 (10.7) 高 26.7	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヘラナデのちタテヘラミガキ。孔の下端部が一部残るが調整不明瞭。	内：10YR7/6 明黄褐 外：10YR5/1 褐灰	やや緻密、黒・白・赤細砂～粗砂 焼成：硬質	No.7、カマ ド 床直	口縁部 1/2、底部 3/4、胴部 3/5
4	石器 支脚	長 19.5 幅 12.1 厚 7.2 重 2329.6	側縁近辺に被熱による赤化及びスガが付着。 平面形：不整な楕円形 断面形：不整な楕円形	2.5Y8/3 淡黄	—	No.3、カマ ド 23.2	ほぼ完存

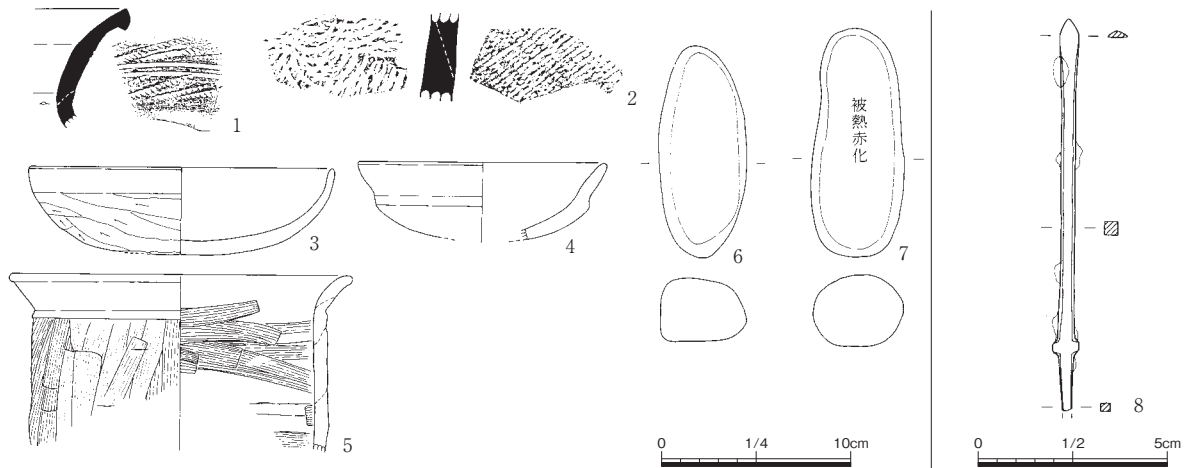
13 区 SI-39 (遺構：第 384 図、遺物：第 385 図、図版六一・一一二)

位置 グリッド 100.5-54.0・100.5-54.5 重複遺構・建替え 古墳時代後期の建物跡 SI-40 より新しい。柱穴の状況から建替え (拡張か) が想定できる。東半部は調査区外。 平面形 北壁がやや丸みをもつ隅丸方形か。 規模 東西 4.97 m 以上 × 南北 5.31 m 主軸方向 N -8° - E 覆土 黒褐色土及び黄褐色土の 2 層に分層。自然堆積。 壁 壁高 20～27 cm 床 全面が貼床。若干の凹凸あり。 柱穴 P1 (径 38～33 cm、深さ 50 cm)、P2 (径約 35 cm、深さ 55 cm)、P3 (径約 36 cm、深さ 33 cm) は拡張後の柱穴。P4 (径



第384図 西刑部西原遺跡13区 SI-39実測図

37～30 cm、深さ 67 cm)、P5 (径 46～46 cm、深さ 48 cm)、P6 (径 38～31 cm、深さ 33 cm) は拡張前の
 支柱穴。 入口ピット P7 (径 38～34 cm、深さ 29 cm) は南壁中央部に位置する。 貯蔵穴 確認できな
 かったが、調査区外に存在する可能性が高い。 壁溝 西壁と南壁に確認できる (幅 20～25 cm、深さ 4～
 8 cm)。 掘方 全体的に浅い凹凸を有し、四隅に土坑状の掘り込みがある。深さは 15～20 cmで、黄褐色土
 (3層) で埋戻している。 カマド 左半部を調査。北壁中央部やや東に位置し、煙道は浅く半円形に掘り込む。
 袖は灰褐色粘土で構築。主体焼土は煙道部に厚く堆積する。 遺物 土器類は須恵器甕小破片、土師器坏・甕、
 編物石、鉄製品 (鉄鏃) が出土。土師器坏 (3) のみが床直の遺物。不掲載土器類は小コンテナ箱 1/3、礫は 3.6
 kg確認された。本建物跡は古墳時代終末期 (7世紀前半から中葉) と考えられる。



第 385 図 西刑部西原遺跡 13 区 SI-39 出土遺物

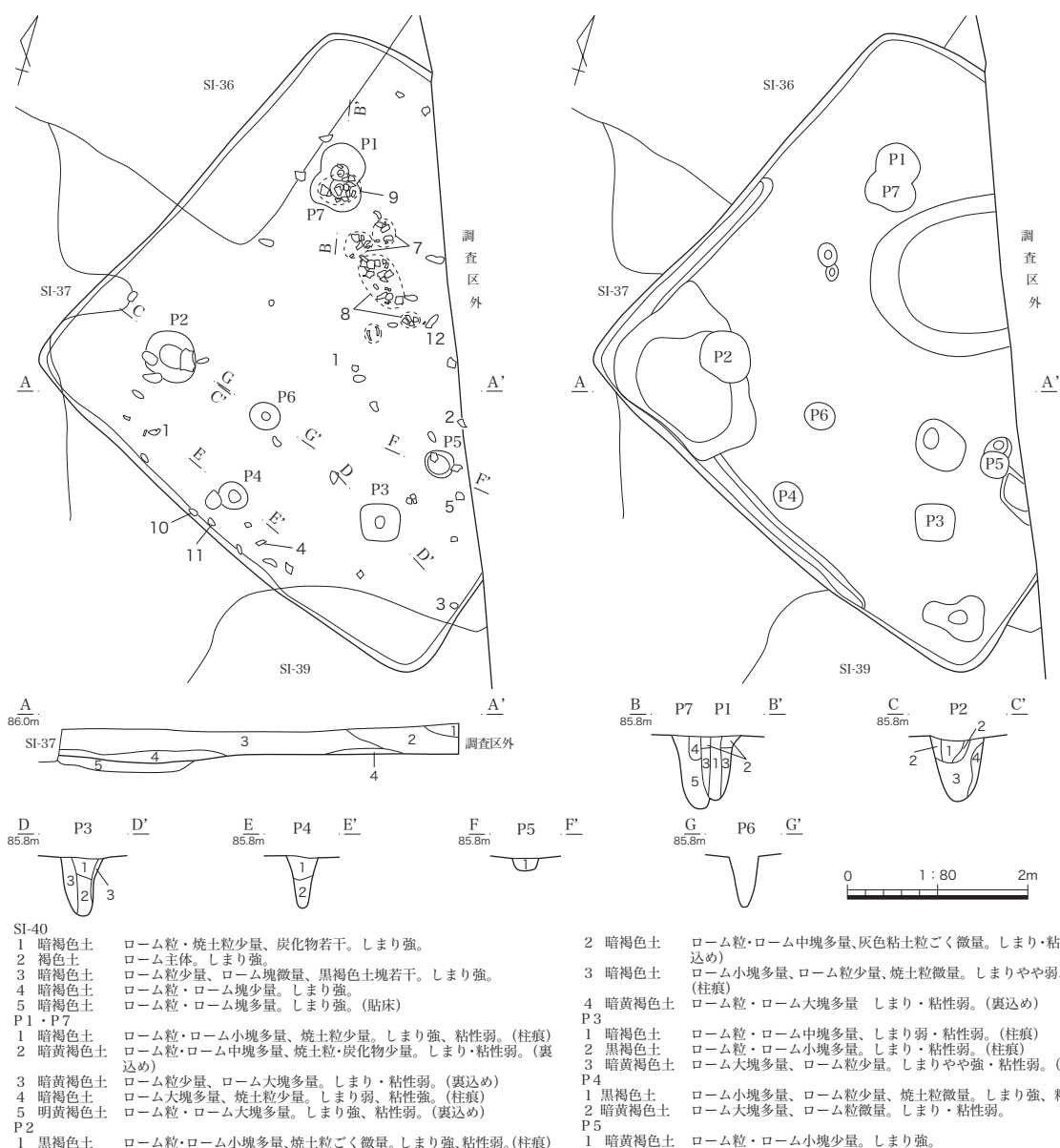
第 167 表 13 区 SI-39 出土遺物観察表

掲載 番号	器種	法量 (cm/g)	技 法 ・ 特 徴	色 調	胎土・素材・焼成	出土位置・ 床上 (cm)	残存
1	須恵器 甕	高 [5.6]	口縁部 2 条の横位沈線を挟み、その上下に斜位の櫛刺 突文を施す。	内：N5/0 灰 外：N4/0 灰	やや緻密、白細砂 焼成：硬質	No. 23 5.1	口縁部破片
2	須恵器 甕	高 [4.6]	外面格子叩き。内面同心円状あて具痕。	内：10YR6/3 にぶい黄橙 外：10YR8/1 灰白	やや緻密、白細砂 焼成：硬質	北東	胴部破片
3	土師器 坏	口 (15.8) 高 4.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。体部内 面ナデ。内外面漆仕上げ。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：10YR6/3 にぶい黄橙	緻密、黒・白・赤細砂 焼成：硬質	No. 6・25・ 26・39、北東 床直 (No. 25・ 26)	口縁部 1/2、底部 完存
4	土師器 坏	口 (12.8) 高 4.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面磨滅 のため調整不明。内外面口クロ仕上げ。	内：7.5YR7/6 橙 外：10YR8/4 浅黄橙	やや緻密、白・黒細砂 焼成：やや軟質	No. 3、南 14.6	口縁部 1/2、底部 1/2
5	土師器 甕	口 (17.6) 高 [9.4]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテハケ目。胴部内 面ヨコハケ目。粘土の接合痕が明確に認められる。	内外面とも 5YR5/6 明赤 褐	やや粗い、黒・白・灰・ 赤粗砂 焼成：やや硬質	No. 1・2 5.2 (No. 1)	口縁部～胴 部上半 1/4
6	石器 編物石	長 11.2 幅 4.5 厚 3.4 重 278.9	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：隅丸方形	10Y4/1 灰	—	No. 30 1.8	ほぼ完存
7	石器 編物石	長 12.0 幅 4.8 厚 3.8 重 331.0	被熱したものか全体的に赤化している。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	10YR5/2 灰黄褐	—	No. 34 6.7	完存
8	鉄製品 鉄鏃	長 [11.2] 幅 0.5 厚 0.3 重 [6.0]	箭式の長頸鏃。鏃身は片丸造り。頸部は正方形を呈し、 一辺 3.7 mm ほど。刺筒被で、茎の下端部を欠損。	—	鉄製	No. 21 11.4	茎端部欠損

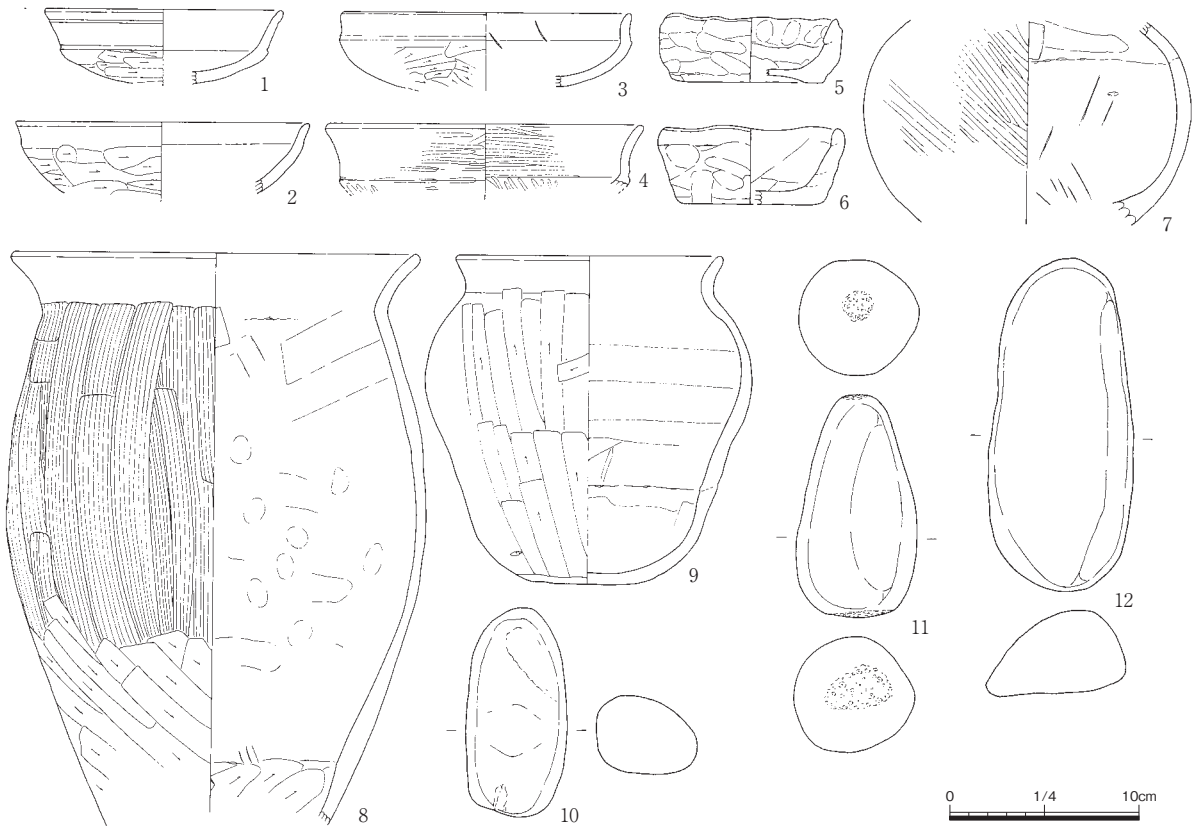
13 区 SI-40 (遺構：第 386 図、遺物：第 387 図、図版六一・一〇八)

位置 グリッド 100.5-54.0・101.0-54.0 重複遺構 SI-36 (平安時代)・37・39 (いずれも古墳時代終末期)

と重複し、いずれより古い。平面形 不整形 規模 東西 5.36～南北 5.38 m 主軸方向 N -21.5° - E
 覆土自然堆積か。壁 壁高 35～40 cm 床 部分的に貼床あり。硬化面は未確認。柱穴 P1(径 50 cm、深さ 70 cm)、P2 (径 56～53 cm、深さ 66 cm)、P3 (径 49～46 cm、深さ 64 cm)、P7 (径約 56 cm、深さ 78 cm) は支柱穴と考えられる。貯蔵穴 未確認。入口ピット P4 (径 34～30 cm、深さ 56 cm) は南壁際にある。ピット P5 (径 31～28 cm、深さ 14 cm)、P6 (径 33～30 cm、深さ 58 cm) は用途不明。壁溝 南壁・西壁の一部に確認。幅約 20 cm、深さ約 10 cm。掘方 中央部には浅く、南西隅は土坑状の掘り込みを確認。暗褐色土 5層で埋戻す。カマド 確認できなかった。遺物 土師器杯・手捏ね土器・鉢・小形壺・甕のほか編物石が見られる。3・7・8・9・12は床面直上出土。不掲載の土器類は小コンテナ 1箱弱、礫は 17.2 kgと多い。古墳時代後期(6世紀末から7世紀初頭)の建物跡と考えられる。



第386図 西刑部西原遺跡13区 SI-40 実測図



第 387 図 西刑部西原遺跡 13 区 SI-40 出土遺物

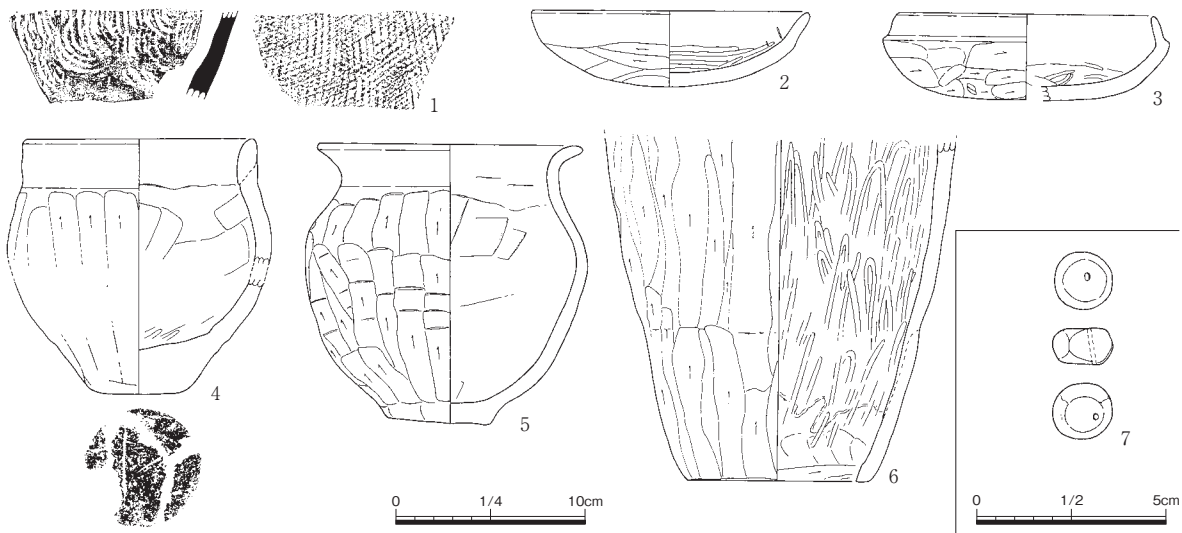
第 168 表 13 区 SI-40 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	土師器 坏	口 (12.4) 高 [3.9]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ。全体漆仕上げ。口縁部に明澄な沈線あり。	内：7.5YR7/4 にぶい橙 外：7.5YR6/4 にぶい橙	やや粗い、赤・黒・白・灰・透明細砂～粗砂、赤色粒、礫 焼成：やや軟質	No.45、南東、南西 7.5	口縁部1/2、 底部2/5
2	土師器 坏	口 (15.2) 高 [4.2]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヨコナデ。体部外面ナデのちヘラケズリ。内外面薄く褐色の付着物あり。漆か。	内：10YR4/4 褐 外：10YR5/3 にぶい黄褐	やや粗い、白・黒・赤細砂～粗砂、礫、赤色粒 焼成：やや軟質	No.21 20.6	口縁部～体 部破片
3	土師器 坏	口 (14.8) 高 [3.9]	体部内面～口縁部外面ヨコナデ。口縁部内面一部ヘラナデ痕あり。体部外面ヨコヘラケズリ。漆仕上げか(漆は内面に多く残る)。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：10YR7/6 明黄橙	やや緻密、白・黒・灰細砂～粗砂、礫少量 焼成：やや軟質	No.28 床直	口縁部1/8、 底部1/8
4	土師器 坏	口 (8.2) 高 [3.5]	体部内面ヘラミガキのち黒色処理。体部外面ヘラミガキ。体部内外面漆仕上げか。	内：2.5Y2/1 黒 外：2.5Y5/3 黄褐	やや粗い、白・灰・透明細砂～粗砂 焼成：やや軟質	No.38 13.3	口縁部～体 部1/6
5	土師器 坏	口 8.8 底 8.3 高 [3.4]	口縁部内外面雑なヨコナデ。体部内面輪積痕のち指頭押圧。体部外面ヘラナデ。	内：2.5Y2/1 黒 外：10YR1.7/1 黒	やや粗い、黒・白細砂～粗砂 焼成：やや軟質	No.25 28.7	ほぼ完存
6	土師器 坏	口 (8.8) 高 [4.0]	口縁部内外面雑なヨコナデ。体部内面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部外面ナデのち指頭圧痕。底部外面ナデ。漆仕上げか。	内：10YR6/3 にぶい黄橙 外：10YR6/2 灰黄褐	やや粗い、白・黒・灰細砂～粗砂 焼成：やや軟質	南東	口縁部1/3、 底部1/3
7	土師器 小型壺	高 [10.7]	胴部外面ヘラケズリのちヘラミガキ。胴部内面ヘラナデ。肩部内面ナデか。内面の赤化は二次的に被熱したためか。内面にモミ圧痕あり。	内：2.5YR6/3 にぶい橙 外：7.5YR6/6 橙	やや緻密、黒・白・灰細砂～粗砂 焼成：やや硬質	No.13・14、西、南東、南西 床直 (No.13・14)	胴部ほぼ完 存
8	土師器 甕	口 (21.0) 高 [27.7]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテハケ目。下端部ナメヘラケズリ。胴部内面指頭押圧・ナデ成形のち上半部ヘラナデ。下端部ナメヘラケズリ。	内：10YR4/3 にぶい黄橙 外：10YR5/2 灰黄褐	粗い、白・灰・黒粗砂、灰礫 焼成：軟質	No.15・16 床直 (No.15・16)	口縁部1/4、 胴部3/4

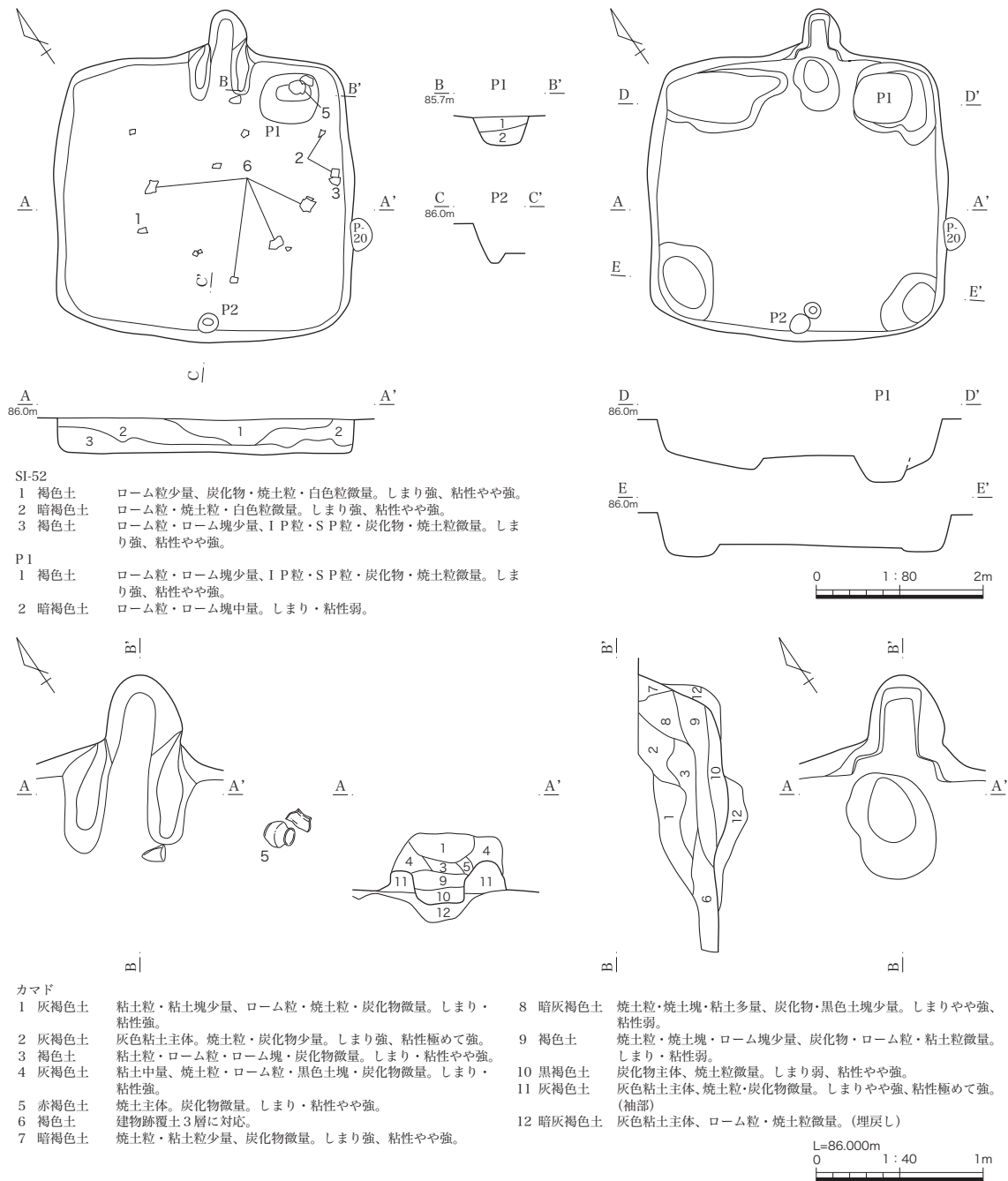
9	土師器 鉢か	口高 13.6 17.4	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。底部外面多方向ヘラケズリ。僅かに褐色の漆状付着物あり。漆仕上げか。外面モミ圧痕1か所確認。	内：2.5Y7/3 浅黄 外：2.5Y8/3 浅黄	やや緻密、白・灰細砂 焼成：やや硬質	No. 11・12、 南東 床直 (No. 11・12)	胴部～底部 1/2
10	石器 編物石	長幅厚重 11.0 5.3 4.1 399.5	中央部に僅かに凹みあり。 平面形：楕円形 断面形：不整な楕円形	7.5GY4/1 暗緑灰	—	No. 42 7.0	完存
11	石器 編物石 か	長幅厚重 11.7 6.0 6.0 626.7	上端部と下端部に敲打痕あり。若干平坦面が認められる。 平面形：洋ナシ形（定型） 断面形：不整な円形	5Y6/1 灰	—	No. 41 6.9	完存
12	石器 編物石	長幅厚重 17.5 7.5 4.3 816.4	未加工の自然礫。 平面形：楕円形（定型） 断面形：隅丸の三角形	2.5Y6/2 灰黄	—	No. 18 床直	完存

13区 SI-52（遺構：第389図、遺物：第388図、図版六二・一〇八）

位置 グリッド 101.5-53.0 重複遺構 無し。 平面形 北壁と南壁が丸みをもつ隅丸の正方形 規模 東西 3.55×南北 4.00 m 主軸方向 N-55° - E 覆土 3層に分層。自然堆積と考えられる。 壁 壁高 41～43 cm 床 中央部はローム地山を床面とする。概ね平坦で、硬化面は未確認。 柱穴 確認できなかった。 入口ピット P2（径 25～24 cm、深さ 47 cm）は南壁中央部の壁際に位置する。 貯蔵穴 P1（長軸 48×短軸 43 cm、深さ 34 cm）は北東隅に位置する。 壁溝 確認できなかった。 掘方 四隅を土坑状に掘り込み、ローム塊混じりの暗褐色土で埋戻す。 カマド 北壁中央やや東寄りに位置する。北壁を凸字状に掘り込み、煙道の立ち上がりは約 65° で直線的に立つ。構築材は灰色粘土を主体とする。燃烧部は皿状に掘り込み、暗灰褐色土で埋戻し火床面としている。 遺物 遺物は須恵器甕破片、土師器坏・小型甕・甑の他、土玉がある。床面付近の遺物は 2・3 の土師器坏で、6 の甑は建物跡中央部の床面直上から破片で出土したものが接合した。不掲載遺物のうち土器類は小コンテナ 1/3 箱程度、礫は 1.2 kg である。古墳時代後期末（6 世紀末～7 世紀初頭）の建物か。



第388図 西刑部西原遺跡 13区 SI-52 出土遺物



第398図 西刑部西原遺跡13区 SI-52 実測図

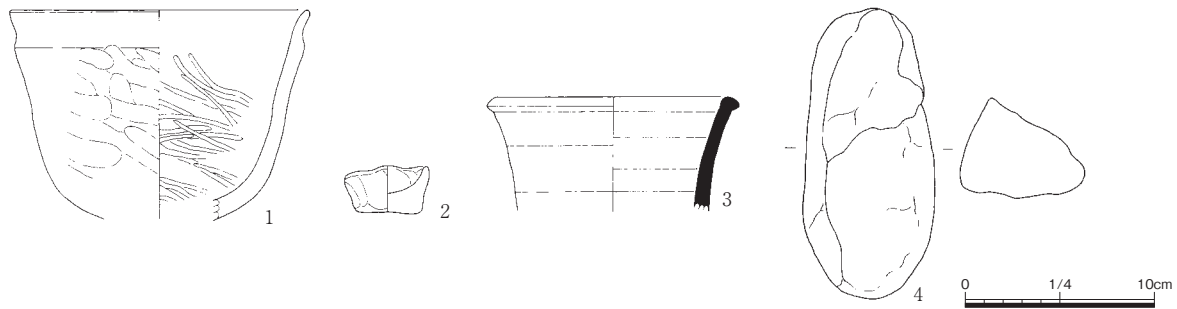
第169表 13区 SI-52 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 甕	厚 0.7~1.0	外面格子叩き。内面同心円状あて具痕。	内：N4/O 灰 外：N6/O 灰	やや粗い、白粗砂 焼成：硬質	No.12 35.8	胴部破片
2	土師器 坏	口 14.6 高 4.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデのちヘラミガキ。全面に漆仕上げか。	内：10YR7/2 にぶい黄橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、黒・白・透明 細砂 焼成：硬質	No.5・6 2.2 (No.6)	口縁部 3/4、体部 ~底部完存
3	土師器 坏	口 (13.4) 高 4.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部~底部内面ナデのち疎らなミガキ。体部~底部外面ナデのちヘラケズリ。一部縄圧痕あり。内外面漆仕上げ。平底に近い。	内外面とも 10YR7/3 にぶい黄橙	やや緻密、白・灰・黒細砂 焼成：やや硬質	No.6 2.2	口縁部 1/4、底部 1/4
4	土師器 小型甕	口 (11.8) 高 (13.4)	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリのちナデか。胴部内面ヘラナデ。底部内面ヘラナデのちミガキ。底部外面木葉痕か。胴内面下半部は黒色を呈し外面下半部はスス付着。磨滅顕著なため調整不明瞭。	内：2.5YR7/6 橙 外：7.5YR4/1 褐灰	やや粗い、黒・白・透明 粗砂~礫 焼成：やや軟質	カマド	口縁部 3/4、底部 4/5、胴部 1/2

5	土師器 甕	口 13.7 底 5.2 高 14.8	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半タテヘラナデ、下半部タテヘラケズリのちナメヘラケズリ。底部外面一方向ヘラケズリ。熱を強く受けたためか、胴下半部は黒色、底部付近は褐色を呈する。貯蔵穴が完全に埋没した（あるいは埋戻した）後、この位置にあった。	内：10YR4/1 褐灰 外：7.5YR4/2 灰褐	やや粗い、灰・白・透明・黒粗砂～礫 焼成：やや硬質	No.2 34.3	ほぼ完存
6	土師器 甌	底 9.6 高 [18.0]	胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面タテヘラケズリまたはヘラナデのち雑なヘラミガキ。底部はヘラケズリにより穿孔。胴部内面下半部は粘土の接合部を薄く引き延ばした跡が残る。	内：7.5YR5/2 灰褐 外：7.5YR4/2 灰褐	やや緻密、黒・白・赤粗砂 焼成：硬質	No.7・8・9・13 床直 (No.13)	口縁部～胴部 7/8
7	土製品 土玉	長 1.5 幅 1.6 厚 0.85-0.95 孔 1.0-1.8 重 2.03	孔は斜めに穿たれ、一方向から刺突している。球状の粘土粒を押しつぶしたような形状。漆仕上げ。	内：7.5YR5/6 明褐 外：10YR8/2 灰白	やや緻密、黒・透明微粒砂 焼成：やや硬質	覆土中	完存

13区 SI-56（遺構：第391図、遺物：第390図、図版六二・一〇八）

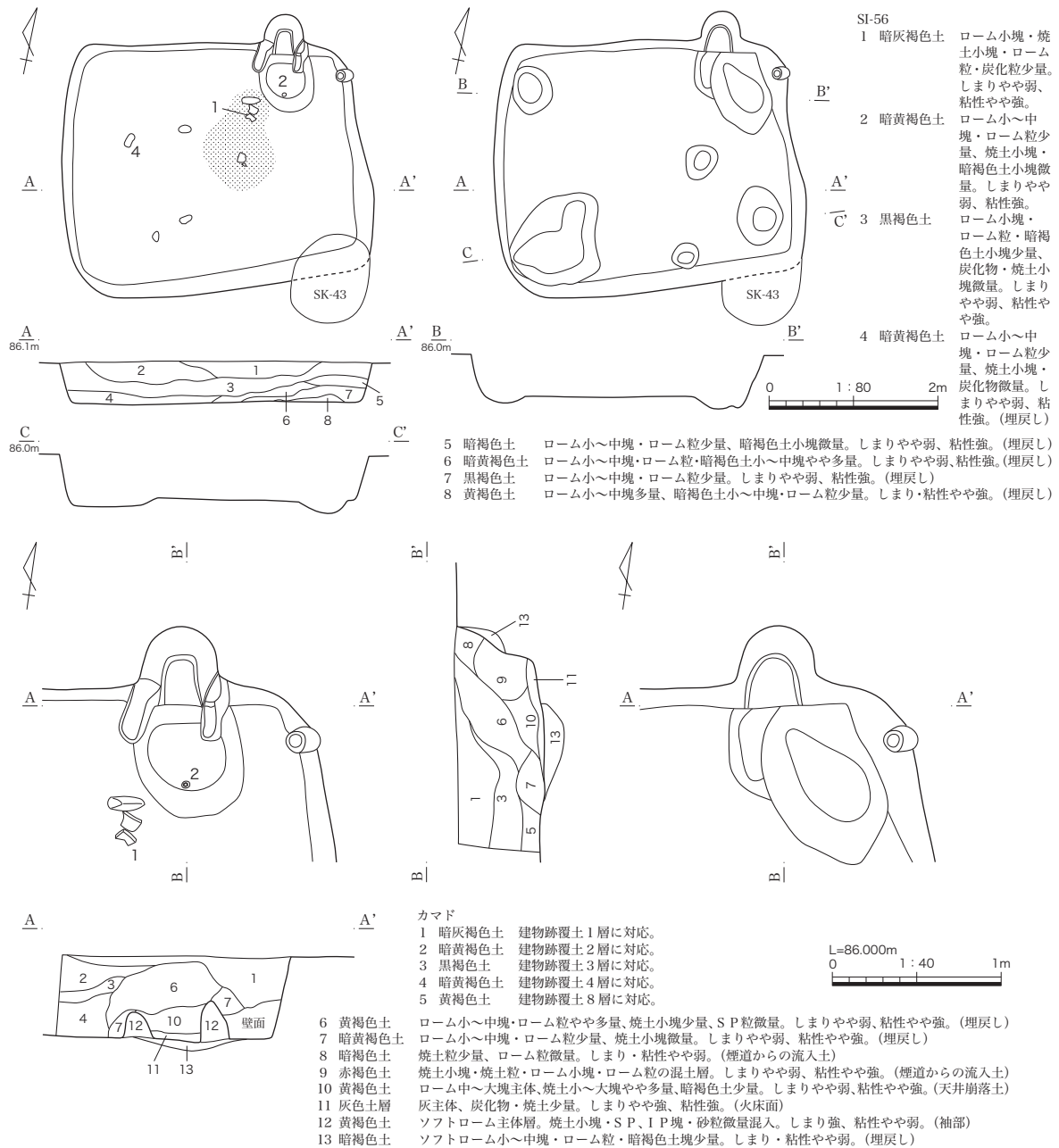
位置 グリッド 101.0-53.0・101.0-53.5 重複遺構 時期不明の土坑 SK-43 より古い。 平面形 やや東辺が短い隅丸長方形 規模 東西 3.61×南北 2.8～3.0 m 主軸方向 N -12.5° -W 覆土 8層に分層。いずれも自然堆積と考えられる。 壁 壁高 42～56 cm 残存 床 中央部はローム地山を床面とし概ね平坦である。四隅に貼床が見られる。 柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。 掘方 建物跡の四隅に土坑状の掘り込みがある。深さ 10～15 cm と浅く、ローム塊混じりの暗褐色土で埋戻している。 火竈 北壁際の北東コーナー付近に設置される。壁面を半円形に掘り込み、煙道は中位で段を有する。燃焼部から煙道部にかけて焼土が厚く堆積している。 遺物 器種不明の須恵器口縁部破片（平瓶か）、土師器鉢・手捏ね土器、石器（編物石）があるが床面直上の遺物は皆無である。1は土師器鉢としたが、内面にヘラミガキを施すことから甌の可能性もある。不掲載遺物のうち土器類は小コンテナ 1/3 箱程度、礫は 2.6 kg である。古墳時代終末期（7世紀前半～中葉）の建物か。



第390図 西刑部西原遺跡 13区 SI-56 出土遺物

第170表 13区 SI-56 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	土師器鉢	口 (15.2) 高 [11.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデのちミガキ。胴部外面ナデのちケズリ。全体漆仕上げか。	内外面とも 10YR6/4 にぶい黄橙	やや緻密、黒・赤粗砂 焼成：やや硬質	No.8 31.4	口縁部 1/8、胴部 1/4
2	土師器手捏ね土器	口 (4.4) 高 2.4	口縁部～体部外面指頭押圧。内面指ナデ。底部外面ナデ。	内：10YR5/3 にぶい黄褐 外：10YR5/2 灰黄褐	緻密、黒・白細砂、礫少量 焼成：やや軟質	No.1 36.0	口縁部 1/2～底部完存
3	須恵器器種不明	口 (12.0) 高 [6.0]	内外面ロクロナデ。口縁は断面三角形に突出する。混入品。	内外面とも N5/0 灰	やや粗い、白・灰粗砂～礫 焼成：硬質	南ベルト	口縁部～胴部破片
4	石器編物石	長 15.0 幅 6.7 厚 4.8 重 661.3	未加工の自然礫。平面形：楕円形 断面形：三角形	2.5Y7/1 灰白	—	No.4 27.7	完存

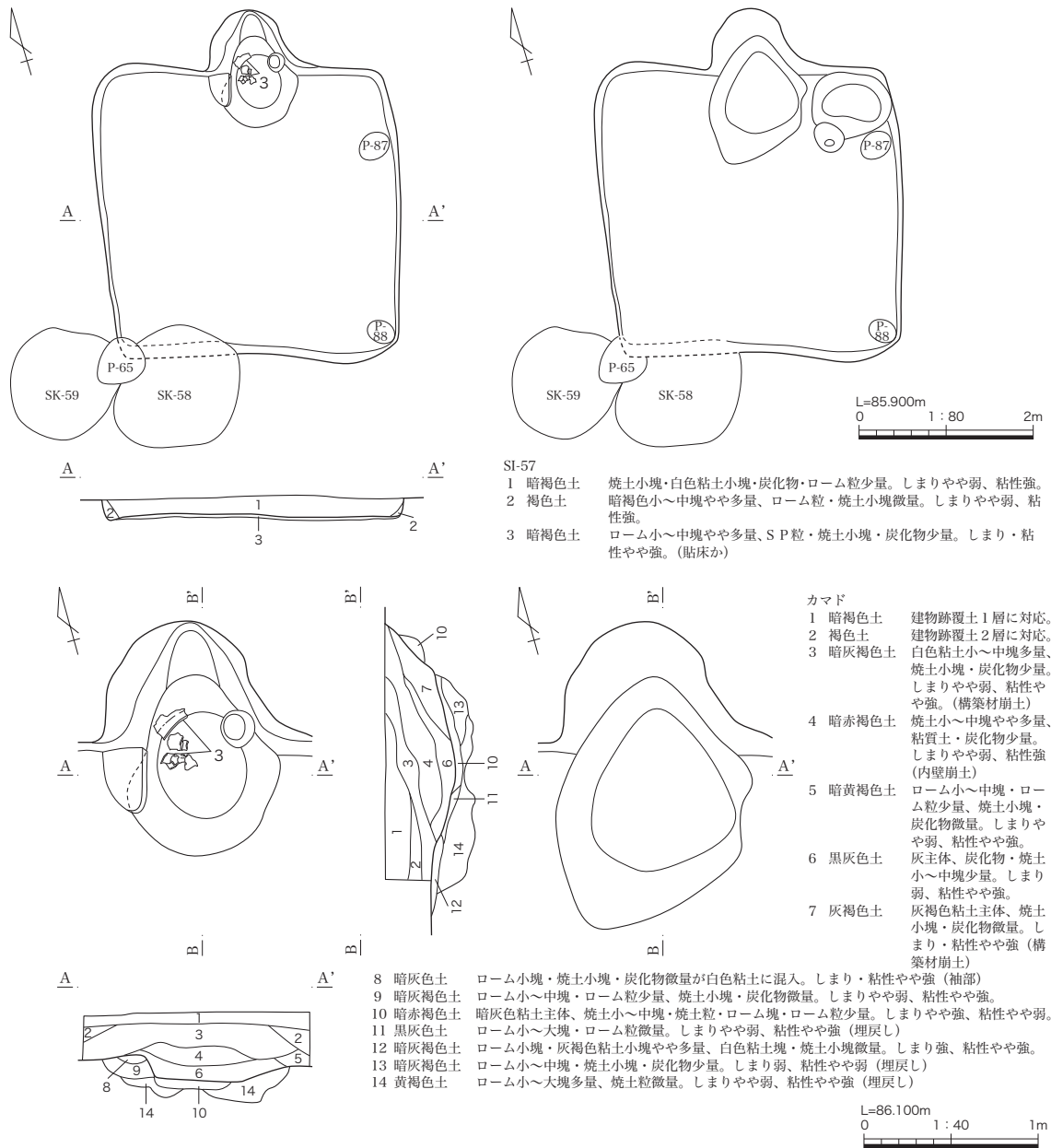


第391図 西刑部西原遺跡13区 SI-56 実測図

13区 SI-57 (遺構：第392図、遺物：第393図、図版六二)

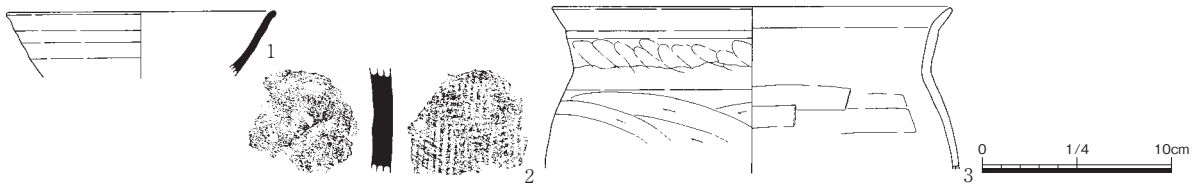
位置 グリッド 101.0-53.5・101.0-54.0 重複遺構 SK-58・59、P-65より古い。平面形 やや不整な隅丸正方形 規模 東西3.45×南北3.35m 主軸方向 N-7°-E 覆土 暗褐色土主体の2層からなり自然堆積と考えられる。壁 壁高20～24cm 床 全体的に浅い貼床あり。概ね平坦で、硬化面は確認できず。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 北東コーナーに土坑状の掘り込みあり。

カマド 北壁中央部に位置し壁を半円形に掘り込んでいる。燃烧部には灰主体の層(6層)が認められる。袖の残りは悪く、左側が僅かに残るのみである。粘土は取り去られたものか。床下は広く皿状に掘り込み、黄褐色土及び灰褐色土で埋戻し、燃烧部としている。遺物は3の武蔵型甕が燃烧部の床面から出土している。



第392図 西刑部西原遺跡13区 SI-57 実測図

遺物 須恵器環(1)・甕小破片(2)、土師器甕(3)を図示した。遺物量は極めて少なく、床面付近の遺物は3の土師器甕のみである。不掲載遺物は土師器環・甕類が主体で、小コンテナ1/5弱、礫の出土は皆無である。遺物から平安時代(9世紀前葉から中葉)の建物跡と考えたい。



第393図 西刑部西原遺跡13区 SI-57 出土遺物

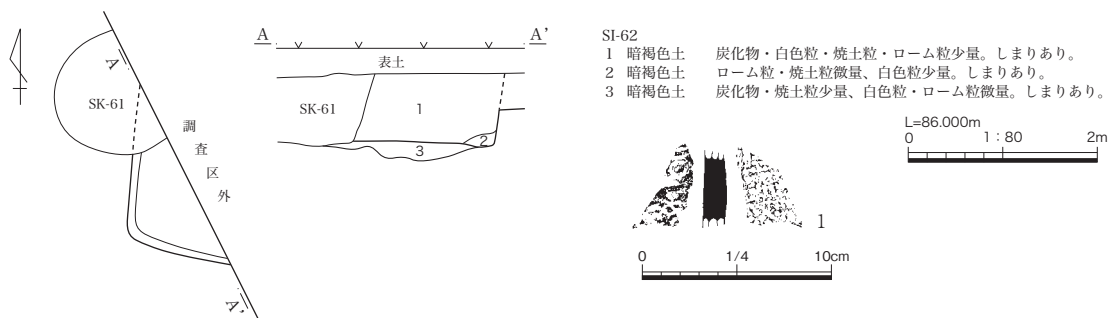
第171表 13区 SI-57 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 坏	口 (14.0) 高 [3.4]	口縁部～体部内外面ロクロナデ。	内：10YR4/1 褐灰 外：10YR5/3 にぶい黄褐	緻密、白細砂 白色針状物 焼成：硬質	カマド	口縁部～体部 1/6
2	須恵器 甕	高 [5.4] 厚 1.0	外面平行叩き。内面無文あて具痕。	内：5Y5/1 灰 外：10YR5/4 にぶい黄褐	粗い、白・黒・赤粗砂 焼成：やや軟質	西ベルト	胴部破片
3	土師器 甕	口 (20.8) 高 [8.7]	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部外面指頭によるナメナデ。胴部外面上半ヨコヘラケズリ。胴部内面上半ヨコヘラナデ。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	緻密、灰・白細粗砂 焼成：やや軟質	№1・8、南西、カマド 1.3 (№1)	口縁部 1/3、胴上半 1/2

13区 SI-62 (遺構・遺物：第394図、図版六三)

位置 グリッド 101.5-54.0 重複遺構 時期不明の土坑 SK-61 より古い。 平面形 方形と考えられるが、残存部が少なく不明瞭。 規模 一辺 1.6 m以上 主軸方向 不明 覆土 暗褐色土主体の2層に分層され、自然堆積と考えられる。 壁 壁高は断面から 98～102 cmの高さを確認。 床 確認できる範囲では全面貼床で、若干の凹凸を有する。硬化面は確認できない。 柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。

掘方 南西隅のみの状況だが、凹凸を有する底面を暗褐色土で埋戻している。 カマド 調査区内では確認できなかった。 遺物 図示可能な遺物は須恵器甕 1片のみである。不掲載遺物は土師器坏・甕類が主体で、小コンテナ 1/5 弱、礫の出土は皆無である。遺物から古墳時代終末期(7世紀前半～中葉)の建物跡と考えたい。



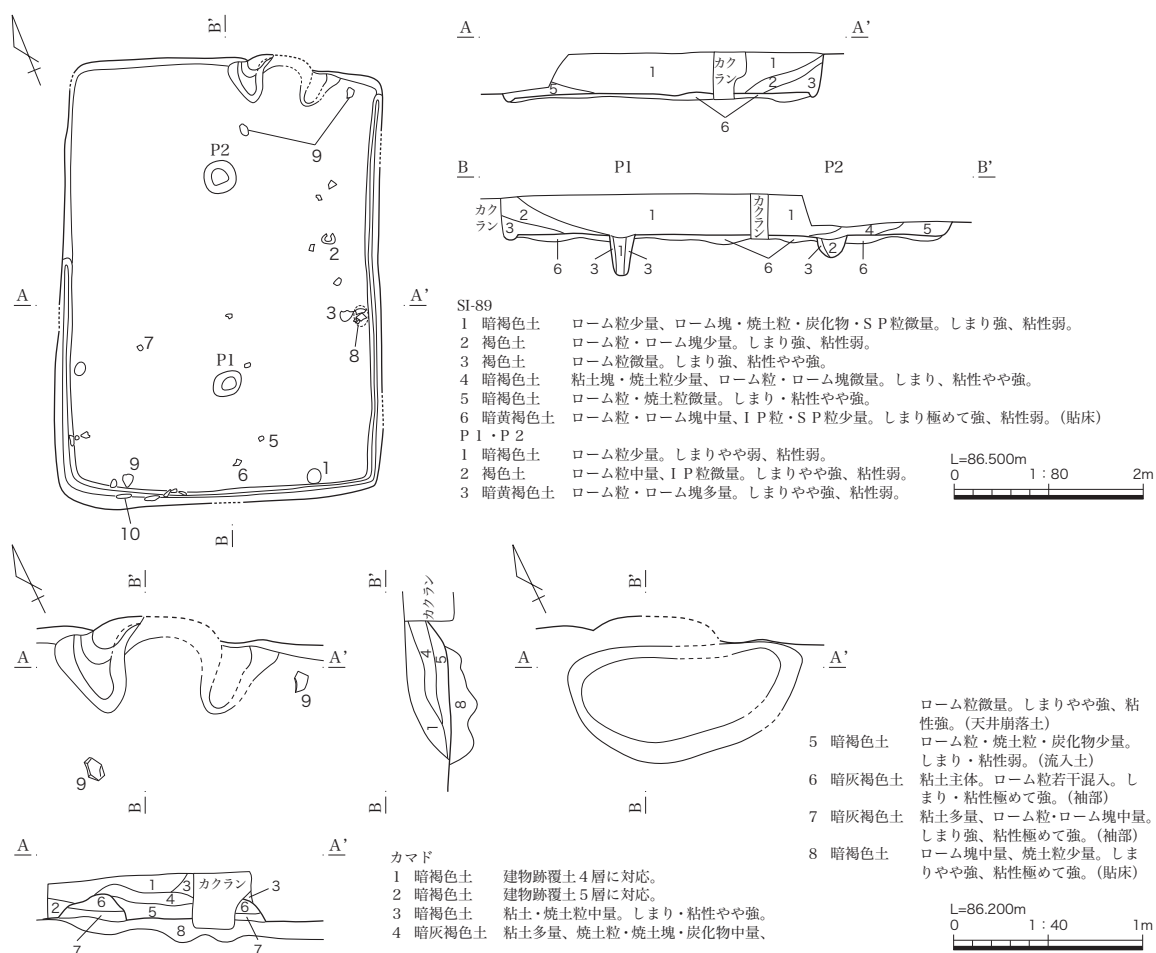
第394図 西刑部西原遺跡13区 SI-62 実測図・出土遺物

第172表 13区 SI-62 出土遺物観察表

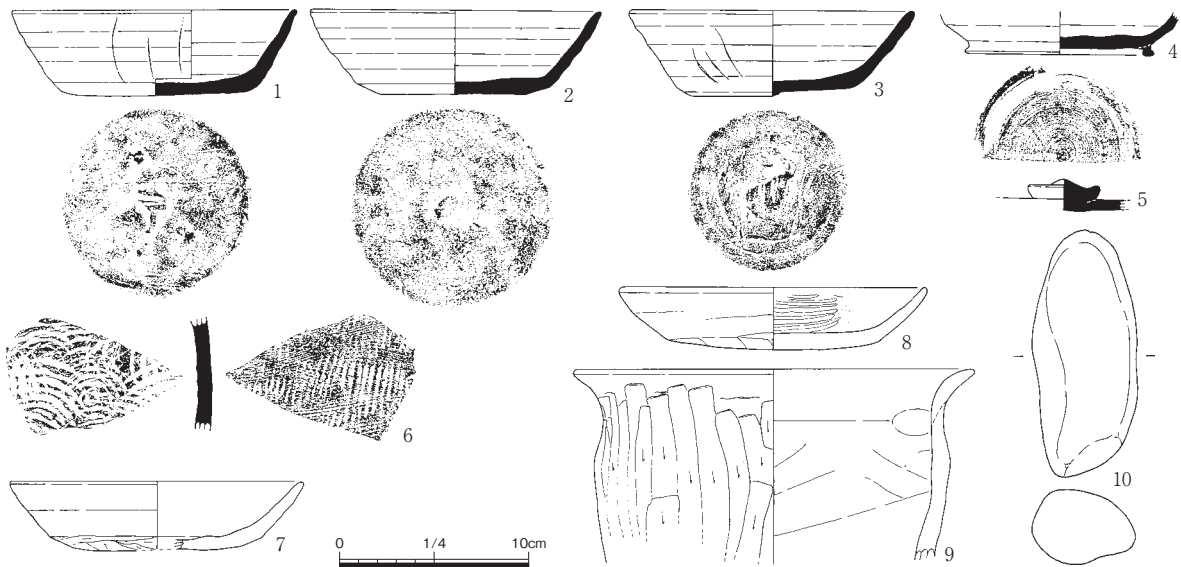
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 甕	厚 1.0-1.2	外面重複した格子叩き。内面同心円状あて具痕。	内：10R4/1 暗赤灰 外：10YR4/1 褐灰	やや緻密、白細砂 焼成：硬質	覆土中	胴部破片

13区 SI-89 (遺構：第395図、遺物：第396図、図版六三・一〇八・一〇九)

位置 グリッド 99.5-54.0・99.5-54.5・100.0-54.0・100.0-54.5 重複遺構 無し。平面形 南北軸の長方形 規模 東西3.42×南北4.70m 主軸方向 N-21°-E 覆土 暗褐色土及び褐色土主体の5層からなり、自然堆積と考えられる。壁 壁高は45cm残る。床 ほぼ全面が貼床。概ね平坦で、硬化面などは認められない。柱穴 P1(径33~24cm、深さ37cm)、P2(径36~34cm、深さ17cm)は建物跡の中心軸状に位置する。P1は掘り込みも深く、柱痕を残す。P2も柱痕はあるが、深さはP1の1/2弱。入口ピット・貯蔵穴 確認できなかった。壁溝 東壁際及び南壁際の全面と西壁際南半部に確認。幅12~18cm、深さ5~6cmと非常に浅い。カマド 北壁中央部東寄りに設置。壁際を極めて浅く弧状に掘り込んでいる。袖は暗灰褐色粘土で構築されている。遺物 計10点を図示した。土器は須恵器杯・高台付杯・蓋・甕などがあり、土師器は杯・甕が出土している。石器は編物石がある。このうち床面付近の遺物は須恵器杯(1・2・3)、土師器杯(7・8)などがある。1・3の須恵器杯は体部側面に同様のヘラ記号が見られる。8は平底化した杯で、赤褐色を呈する。不掲載の土器類は土師器甕・杯が主体で、少量の須恵器類があり、小コンテナ箱1/5、礫は3.1kg確認された。遺物から奈良時代中葉の建物跡と考えられる。



第395図 西刑部西原遺跡13区 SI-89 実測図



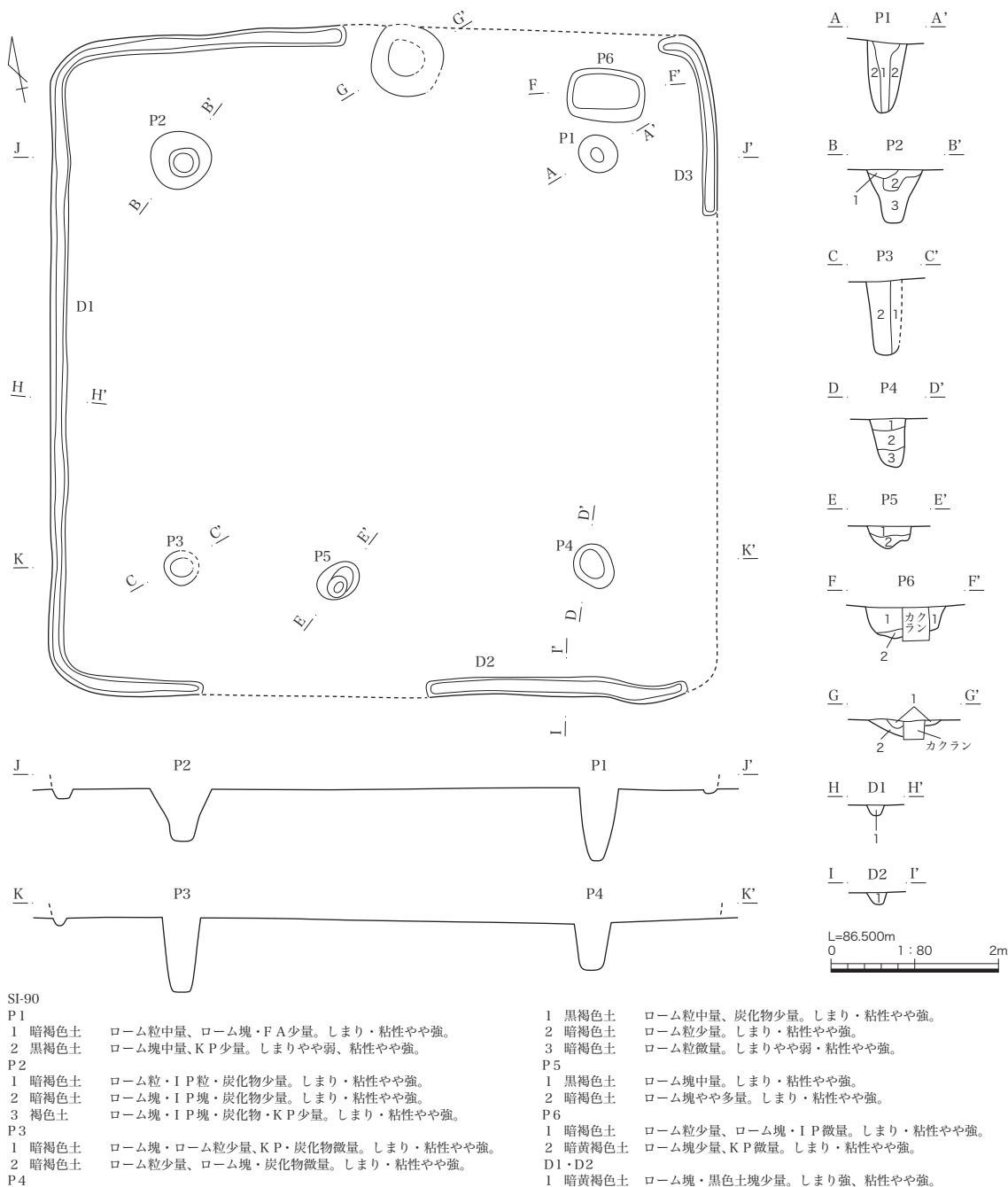
第 396 図 西刑部西原遺跡 13 区 SI-89 実出土遺物

第 173 表 13 区 SI-89 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 杯	口 14.6 底 9.7 高 4.6	口縁部内外面ロクロナデ。体部内面ロクロナデ。体部外面ロクロナデのちへラ描き。底部外面回転へラ切りのちナデ。	内：5YR7/8 橙 外：7.5YR8/6 浅黄橙	粗い、白・黒細砂～粗砂、礫、赤色粒 焼成：軟質	No. 4 2.2	ほぼ完存
2	須恵器 杯	口 15.0 底 8.0 高 4.4	体部内外面ロクロナデ。底部外面回転へラ切りのちナデ。二次底部面を有する。器面の磨滅著しい。	内：2.5Y8/2 灰白 外：2.5Y8/3 淡黄	粗い、黒・白・灰細砂～粗砂 焼成：軟質	No. 1、北東 1.5	口縁部 5/6、 底部完存
3	須恵器 杯	口 14.8 底 8.3 高 4.5	体部内外面ロクロナデ。体部外面2か所にへラ描きあり。底部外面回転へラ切りのちナデ。	内：7.5YR7/6 にぶい橙 外：10YR7/2 にぶい黄橙	粗い、白・黒細砂～粗砂、礫、白色粒 焼成：軟質	No. 2 床直	口縁部 3/4、 底部完存
4	須恵器 高台付 杯	底 (9.5) 高 [2.1]	内面ロクロナデ。底部外面回転へラケズリのち高台貼付。色調は黄褐色。焼成が不十分なためか。	内：10YR6/4 にぶい黄橙 外：10YR5/4 にぶい黄褐	粗い、白・赤・黒細砂～粗砂 焼成：硬質	北東	体部一部、 底部 1/2
5	須恵器 蓋	高 [1.6] 穴 3.8	天井部内面ロクロナデ。外面回転へラケズリのちナデ、ツマミ貼付。	内：7.5Y6/1 灰 外：N8/0 灰白	緻密、白・黒・透明細砂～粗砂 焼成：硬質	No. 5 4.8	ツマミ完 存、天井部 一部
6	須恵器 甕	厚 0.6-0.85	外面格子叩きのちハケ目。内面同心円状あて具痕。	内：N6/0 灰 外：2.5GY5/1 オリーブ灰	緻密、白・黒細砂～粗砂 焼成：硬質	No. 14 6.8	胴部破片
7	土師器 杯	口 (15.2) 高 [3.6]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヨコナデ。底部外面多方向へラケズリ。一部漆仕上げ。平底に近い形状。	内：10YR8/3 浅黄橙 外：10YR7/3 にぶい黄橙	粗い、黒・白・透明細砂～粗砂 焼成：軟質	No. 15、北東、南東 1.6	口縁部 2/3
8	土師器 杯	口 15.8 高 3.3	体部内面へラミガキ。体部外面へラケズリのちミガキか（磨滅のため不明瞭）。底部外面多方向へラケズリ。	内外面とも 2.5YR4/6 赤褐	粗い、黒・白・黒細砂～粗砂、礫、赤色粒 焼成：軟質	No. 3 床直	ほぼ完存
9	土師器 甕	口 (20.6) 高 [11.2]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面へラナデ。体部外面ナデのちへラケズリ。	内：5YR7/4 にぶい橙 外：5YR7/6 橙	粗い、白・黒・灰細砂～粗砂、礫、白色粒 焼成：硬質	No. 6・7・17 2.8 (No. 17)	口縁部～胴部 上半 1/3
10	石器 編物石	長 12.2 幅 5.4 厚 3.7 重 368.2	未加工の自然礫。平面形：不整な楕円形 断面形：不整形	5YR6/2 灰褐	粗い、白・黒細砂～粗砂、礫、赤粒 焼成：硬質	No. 22 1.1	完存

13 区 SI-90 (遺構：第 397 図、図版六三)

位置 グリッド 99.5-54.5・99.0-54.5 重複遺構 無し。平面形 隅丸正方形 規模 東西 7.81×南北 7.92 m 主軸方向 N-15° - E 覆土 柱穴及び貯蔵穴中に僅かに残る。壁・床 削平され不明。柱穴 P1(径 49～43 cm、深さ 58 cm)、P2(径 72～71 cm、深さ 52 cm)、P3(径約 40 cm、深さ 75 cm)、P4(径 54～45 cm、深さ 58 cm) は主柱穴。入口ピット P5(径 54～38 cm、深さ 25 cm) はやや壁から離れる。貯蔵穴 P6(長軸 92×短軸 63 cm、深さ 33 cm) は北東コーナー付近に位置する。壁溝 南壁・東壁・北壁



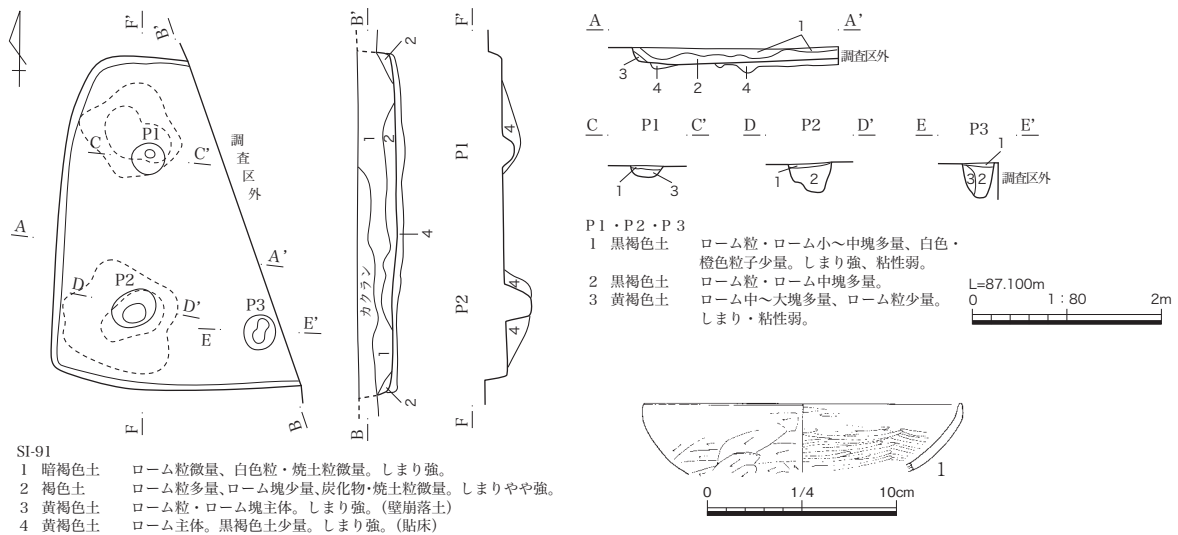
第397図 西刑部西原遺跡13区 SI-90実測図

で一部途切れるが、床面が削平されているため、壁溝は本来繋がっていた可能性もある。幅16～24cm、最深部15cmほどである。カマド 北壁中央部に燃烧部掘方の痕跡のみを確認。遺物 図示可能な遺物は確認できなかった。柱穴から出土した小破片から、古墳後期～終末期の建物跡と想定される。

13区 SI-91 (遺構・遺物：第398図、図版六三)

位置 グリッド 98.5-55.0・99.0-55.0 重複遺構 無し。 平面形 東半部が調査区外の為不明。 規模 東西 2.54 m以上～南北 3.47 m 主軸方向 N -5° - E (西壁のみで推定) 覆土 自然堆積と考えられる。

壁 壁高は 36～40 cm残る。 床 調査部分では全面が貼床で、やや凹凸がある。硬化面は未確認。 柱穴 P1 (径 32～34 cm、深さ 13 cm)、P2 (径 48 cm、深さ 32 cm) は主柱穴と考えられる。P3 (径 33～37 cm、深さ 36 cm) は位置的に入口ピットの可能性もある。 貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。 掘方 四隅に不整形の掘り込みをもち、ローム土主体の4層で埋戻している。 カマド 確認できなかった。 遺物 覆土中から 20点ほど出土した土師器片のうち、器形復元可能な土師器坏 1点を図示した。遺物は古墳時代終末期 (7世紀後葉) の様相を呈するが、建物跡が小型なため後世 (奈良時代以降) の建物の可能性もある。



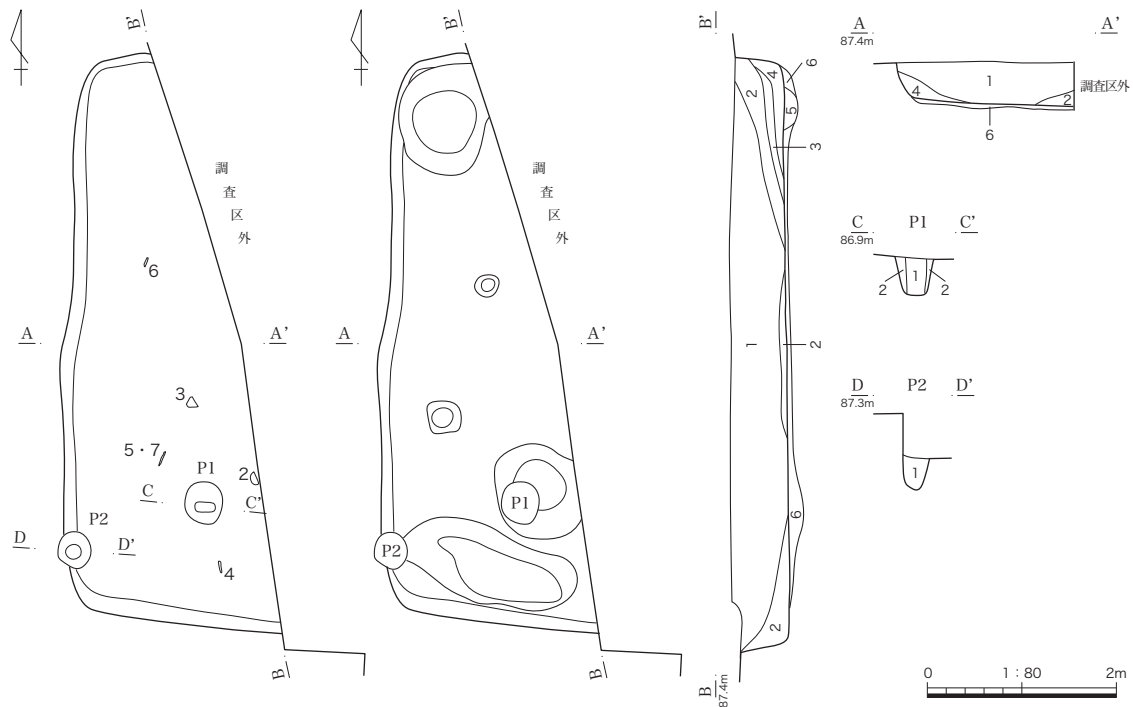
第398図 西刑部西原遺跡 13区 SI-91 実測図・出土遺物

第174表 13区 SI-91 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器坏	口 (16.6) 高 [3.8]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ。体部外面ヨコヘラケズリのちナナメヘラケズリ。	内：2.5YR5/6 明赤褐 外：2.5YR5/8 明赤褐	やや粗い、白・灰・透明 細砂～粗砂、礫、赤色粒 焼成：やや軟質	南	口縁部～体部 1/3

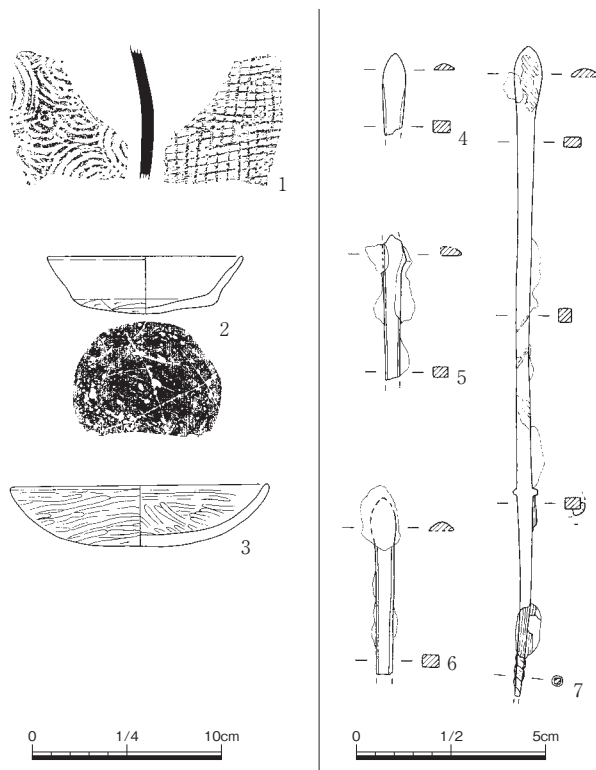
13区 SI-92 (遺構：第399図、遺物：第400図、図版六四・一一二)

位置 グリッド 97.5-55.5・98.0-55.5 重複遺構 無し。 平面形 建物跡西部を調査したのみで全形は不明。 規模 東西 2.2 m以上 × 南北 5.76 m 主軸方向 N -1.5° - E (西壁から推定) 覆土 自然堆積と考えられる。 壁 壁高 50～60 cm 床 ほぼ全面が貼床。硬化部分は確認できなかった。 柱穴 P1 (径 46～41 cm、深さ 40 cm) は断面から柱痕が確認できた。P2 (径 39～34 cm、深さ 34 cm) は壁柱穴の可能性もある。 入口ピット・貯蔵穴 確認できなかったが、調査区外に存在する可能性が高い。 壁溝 確認できなかった。 掘方 北西及び南西コーナーに不整形の掘り込みをもち、深さは 20～30 cmほどで、ローム塊を多量含む5層で埋戻している。 カマド 確認できなかった。調査区外に存在する可能性が高い。



- SI-92
- | | | | |
|---------|--------------------------------------|---------|----------------------------------|
| 1 褐色土 | ローム粒多量、ローム小～中塊・白色粒少量、橙色粒多量。しまり強、粘性弱。 | 6 黄褐色土 | ローム粒・ローム塊多量、黒色土少量。しまり・粘性やや強。(貼床) |
| 2 暗黄褐色土 | ローム粒・ローム小～中塊多量、白色粒・橙色粒少量。しまり強、粘性弱。 | P1 | |
| 3 黒褐色土 | ローム粒・ローム小塊・橙色粒少量。しまり強、粘性弱。 | 1 暗黄褐色土 | ローム粒・ローム小～中塊多量。しまり強、粘性弱(柱痕)。 |
| 4 暗黄褐色土 | ローム粒多量、ローム大塊少量、橙色粒微量。しまり・粘性弱。 | 2 明黄褐色土 | ローム粒少量、ローム小～大塊多量。しまり・粘性弱(裏込め) |
| 5 暗黄褐色土 | ローム粒・ローム塊多量、黒色土少量。しまり強、粘性やや強。(貼床) | P2 | |
| | | 1 黒褐色土 | ローム粒・ローム小塊多量、白色粒・橙色粒微量。しまり・粘性弱。 |

第399図 西刑部西原遺跡13区 SI-92 実測図



第400図 西刑部西原遺跡13区 SI-92 出土遺物

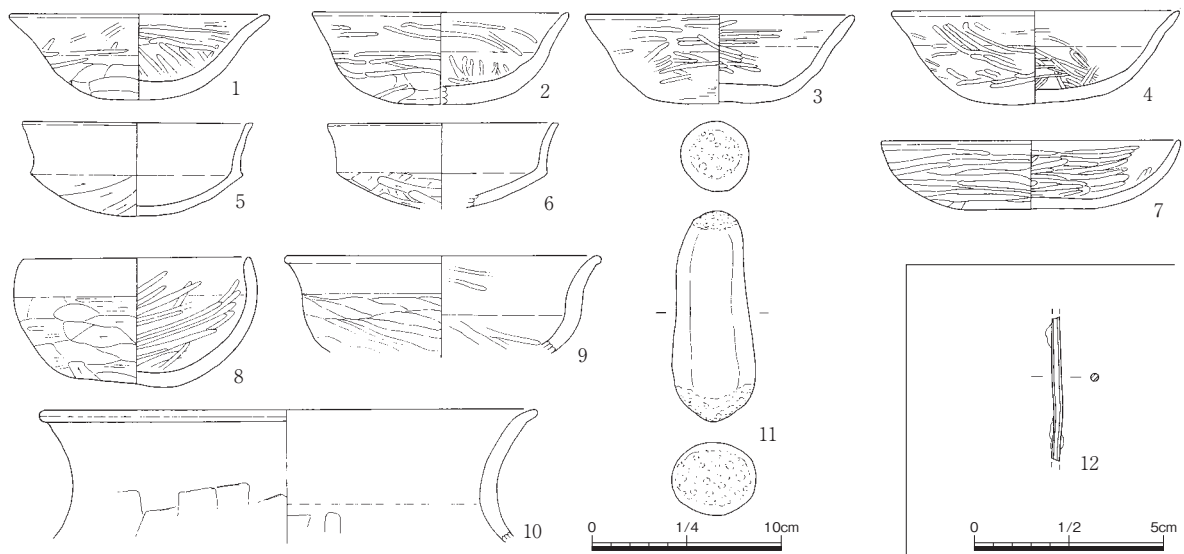
遺物 殆どが覆土中から出土。計7点を図示した。土器は須恵器甕、土師器坏などで、その他鉄鏃がある。2の土師器坏は径が小さく、底部外面に「井」の字状の線刻がある。3は内外面を入念に磨く土師器坏。鉄鏃はいずれも床面付近から出土。鏃身は片丸の鑿箭式が多く、7はほぼ完形に近い。不掲載遺物は土器類は小コンテナ箱1/2程度、礫は確認できなかった。遺物から古墳時代終末期（7世紀前半から中葉）の建物跡と考えられる。

第175表 13区 SI-92 出土遺物観察表

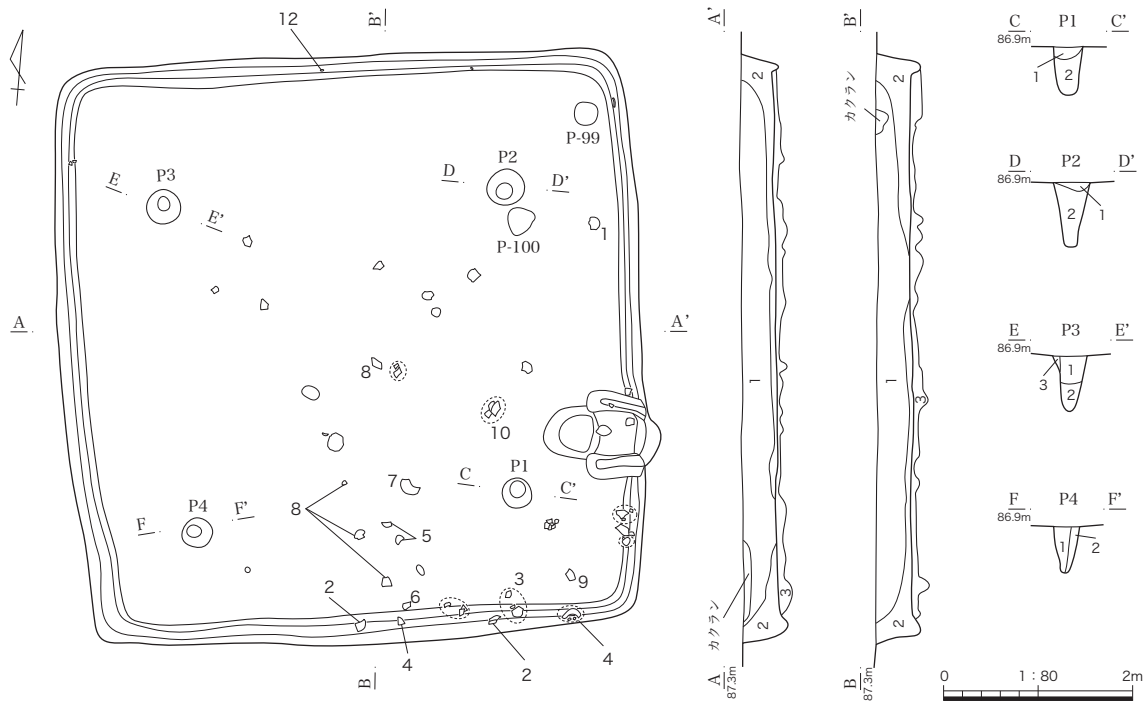
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 甕	厚 0.48-0.55	胴部外面格子叩き、胴部内面同心円状あて具痕。	内：N6/0 灰 外：N5/0 灰	緻密、白・黒・灰細砂～粗砂、礫、白色粒 焼成：やや硬質	南西	胴部破片
2	土師器 坏	口 (10.0) 高 3.0	口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部外面多方向ヘラケズリ。内面及び口縁部外面漆仕上げ。底部外面に焼成前の「井」の字状の線刻あり。	内：10YR5/3 にぶい黄褐 外：10YR6/4 にぶい黄橙	粗い、黒細砂～粗砂、赤色粒 焼成：軟質	No.4 35.4	口縁部～底部 2/3
3	土師器 坏	口 (12.0) 高 3.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヨコナデのちヘラミガキ。体部外面ヘラケズリのちヘラミガキ。部分的に褐色付着物あり。漆の可能性あり。	内：10YR6/4 にぶい黄橙 外：10YR5/4 にぶい黄褐	やや粗い、黒・赤細砂～粗砂、礫、赤色粒 焼成：やや軟質	No.2 19.8	口縁部～底部 1/3
4	鉄製品 鉄鏃	長 [2.0] 幅 0.6 厚 0.3 厚重 [0.7]	鑿箭式の長頭鏃破片。鏃身部は片丸造り。鏃身部の幅5.5mm、厚さ1.8mm。	—	鉄製	No.5 床直	部分残存
5	鉄製品 鉄鏃	長 [3.9] 幅 0.7 厚 0.3 厚重 [2.6]	片刃箭式の長頭鏃。鏃身は片丸造りで、幅6.0mm、厚さ2.5mm。頸部断面形は長方形。	—	鉄製	No.3 6.5	部分残存
6	鉄製品 鉄鏃	長 [4.9] 幅 0.9 厚 0.6 厚重 [3.8]	鑿箭式の長頭鏃。鏃身は片丸造りで、幅6.5mm、厚さ2.2mm。頸部は幅4.2mm、厚さ3.3mmの長方形。	—	鉄製	No.1 4.8	部分残存
7	鉄製品 鉄鏃	長 [17.2] 幅 0.8 厚 0.4 厚重 [10.0]	鑿箭式の長頭鏃。鏃身は片丸造りで、幅7.5mm、厚さ2.0mm。棘窪被。茎には繊維を巻き付けている。矢柄の木質も残る。	—	鉄製	No.3 6.5	ほぼ完存

13区 SI-96 (遺構：第402図、遺物：第401図、図版六四・一〇九・一一二)

位置 グリッド 98.0-54.5・98.0-55.0・98.5-54.5・98.5-55.0 重複遺構 無し。 平面形 正方形 規模 東西6.20×南北6.14m 主軸方向 N-9°-W 覆土 自然堆積 壁 壁高35～49cm 床 概ね平坦。全面的に貼床。 柱穴 P1(径31cm、深さ50cm)、P2(径38cm、深さ68cm)、P3(径36cm、深さ56cm)、P4(径30cm、深さ48cm)は主柱穴か。 入口ピット・貯蔵穴 確認できなかった。 壁溝 壁際を全周する(幅15～25cm、深さ10cm前後)。 掘方 細かな凹凸が多いローム粒・ローム塊主体の3層で埋戻す。 カマド 東壁際やや南寄りに位置する。壁面を弧状に浅く掘り込み、煙道の立ち上がりは約68°と急角度である。強く被熱した天井崩落土(2層)が堆積する。 遺物 平面的には南東部を中心に分布する。遺物



第401図 西刑部西原遺跡13区 SI-96 出土遺物

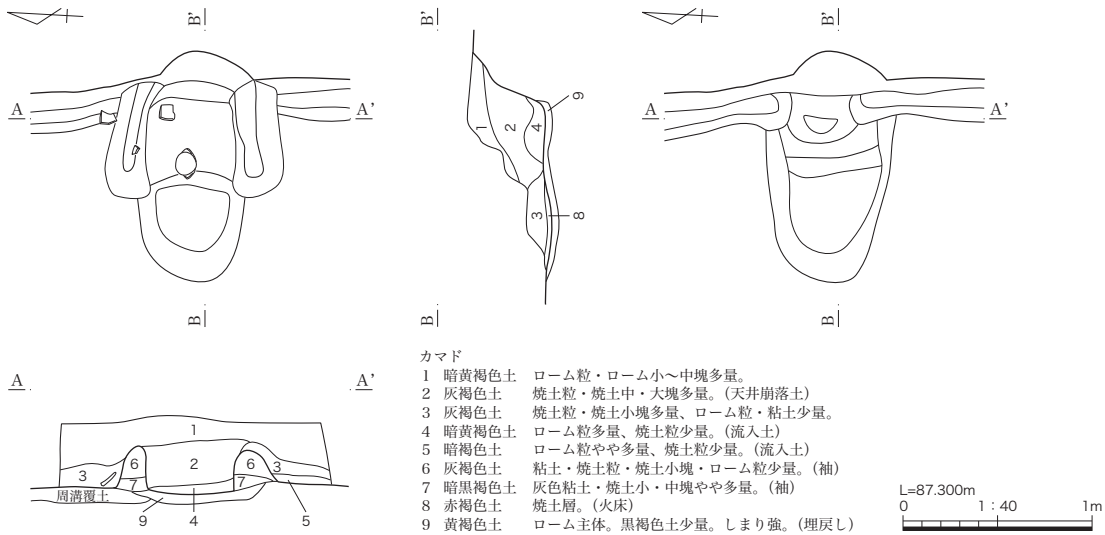


SI-96

- 1 黒褐色土 ローム粒・ローム小塊多量。しまり強。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒・ローム小・中塊多量。しまり強。
- 3 黄褐色土 ローム粒・ローム塊多量、暗褐色土少量。しまり強。(貼床)
- P1・P2
- 1 暗黄褐色土 ローム粒・ローム小塊多量。しまり強。(抜取痕か)
- 2 明黄褐色土 ローム粒・ローム小へ中塊多量。(抜取痕か)

P3

- 1 暗黄褐色土 ローム粒・ローム小へ中塊多量。しまりやや強。(抜取痕か)
- 2 明黄褐色土 ローム粒・ローム小へ中塊多量。しまりやや弱。(抜取痕か)
- 3 暗黄褐色土 ローム粒・ローム中塊多量。しまり強。(裏込め)
- P4
- 1 暗黄褐色土 ローム粒・ローム小塊多量。しまり強。(柱痕)
- 2 明黄褐色土 ローム粒・ローム小へ中塊多量。(裏込め)



カマド

- 1 暗黄褐色土 ローム粒・ローム小へ中塊多量。
- 2 灰褐色土 焼土粒・焼土中・大塊多量。(天井崩落土)
- 3 灰褐色土 焼土粒・焼土小塊多量、ローム粒・粘土少量。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒多量、焼土粒少量。(流入土)
- 5 暗褐色土 ローム粒やや多量、焼土粒少量。(流入土)
- 6 灰褐色土 粘土・焼土粒・焼土小塊・ローム粒少量。(袖)
- 7 暗黒褐色土 灰色粘土・焼土小・中塊やや多量。(袖)
- 8 赤褐色土 焼土層。(火床)
- 9 黄褐色土 ローム主体。黒褐色土少量。しまり強。(埋戻し)

第402図 西刑部西原遺跡13区 SI-96 実測図

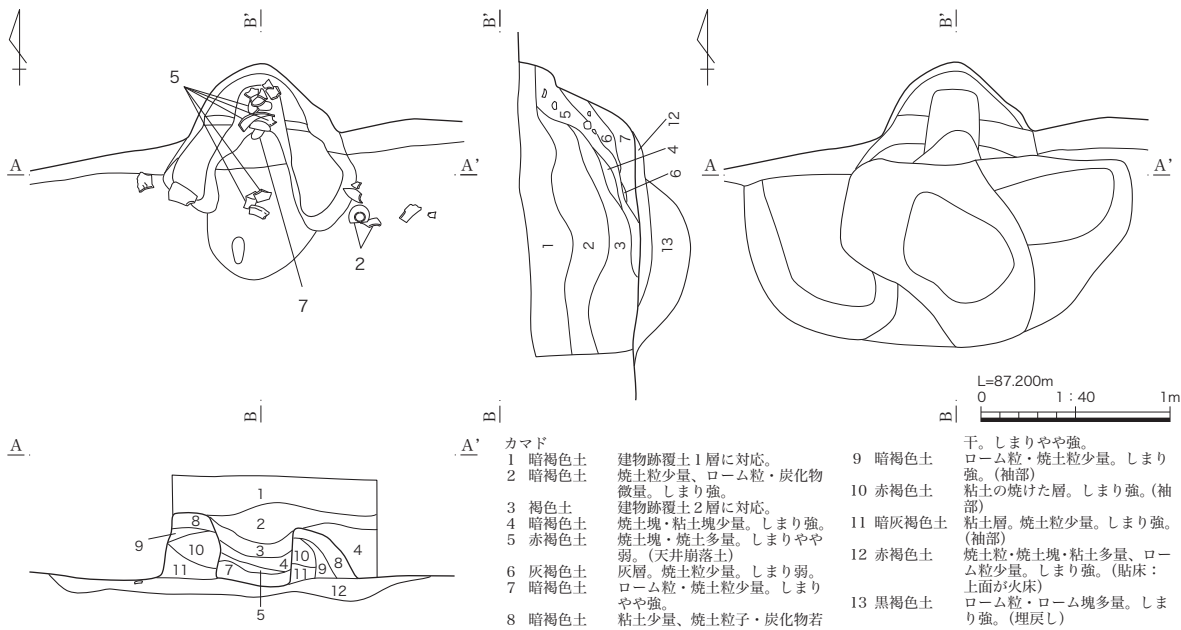
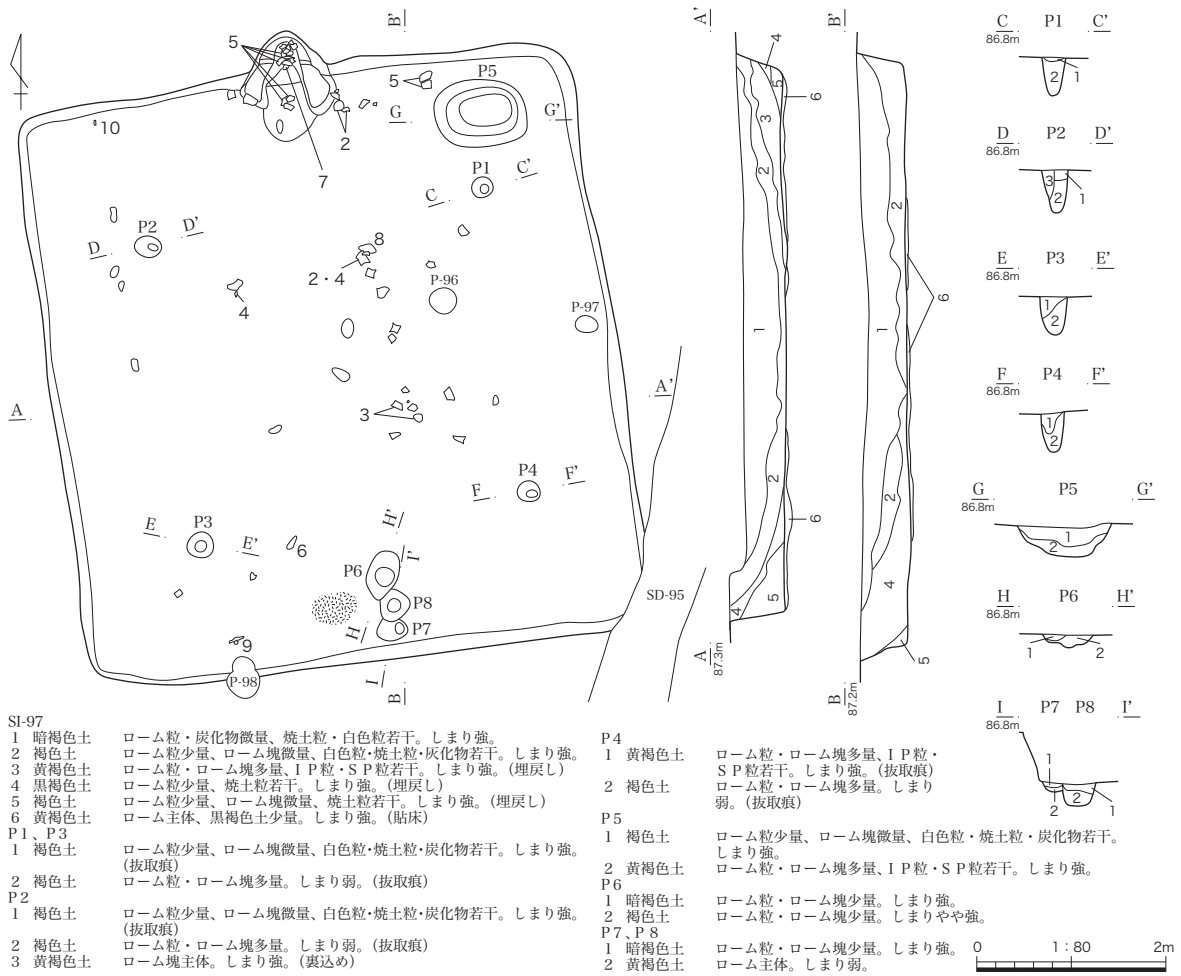
は土師器坏類(1~9)が多く、このほか甕(10)がある。この他敲石や鉄製品がある。1は床面直上の遺物で、口縁は外反し、内外面にミガキを施す。5・6の土師器坏は非在地系の土器か。鉄製品は鉄鏝の茎下端部の破片か。不掲載遺物は土師器坏・甕類が主体で、小コンテナ1/2弱と少ない。遺物から古墳時代後期前葉の建物跡と考えたい。

第176表 13区 SI-96 出土遺物観察表

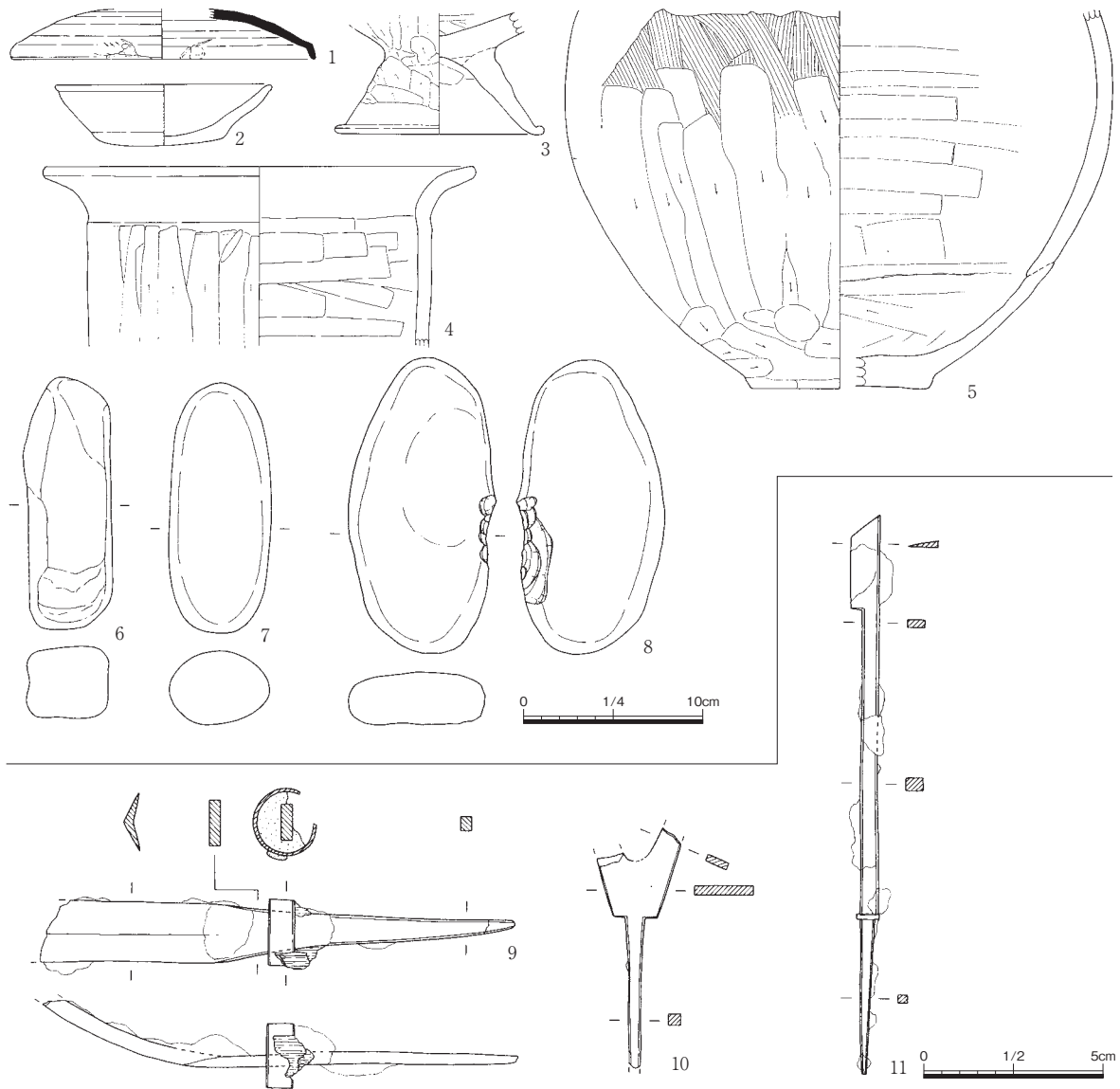
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 坏	口 (13.4) 高 4.4	口縁部内外面ヨコナデのちへラミガキ。体部内面へラミガキ。体部外面へラケズリのちナデか。	内：5YR5/8 明赤褐 外：5YR6/8 橙	やや粗い、黒・白・灰細砂～粗砂、礫、赤色粒 焼成：やや軟質	No.37 床直	口縁部 1/2、底部 1/2
2	土師器 坏	口 (13.4) 高 4.7-4.9	口縁部内面ヨコナデ。口縁部外面ヨコナデのちへラミガキ。体部内面ヨコナデのちへラミガキ。体部外面へラナデのちへラミガキ。全体漆仕上げか。	内：5YR5/6 明赤褐 外：5YR4/3 にぶい赤褐	やや粗い、透明・白・赤細砂～粗砂 焼成：やや軟質	No.9・13、南東、床直一括 22.2 (No.9)	口縁部 2/3、底部 1/2
3	土師器 坏	口 (14.0) 高 4.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヨコナデのちミガキ。体部外面ヨコナデのちミガキ。底部外面回転へラ切りのちへラミガキ。全体的に橙褐色を呈する。器面の磨減は顕著である。底部は平底気味。	内外面とも 5YR6/8 橙	やや粗い、黒・赤・透明細砂～粗砂、礫、赤色粒 焼成：やや軟質	No.8、南東 17.5	口縁部 1/2、底部 2/3
4	土師器 坏	口 14.8 高 4.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面へラミガキ。体部外面へラケズリのちへラミガキ。体部内面漆仕上げか。底部は平底気味。	内：7.5YR3/2 黒褐 外：7.5YR4/3 褐	やや粗い、赤・白細砂～粗砂、礫、赤色粒 焼成：やや軟質	No.7・12・13 28.9 (No.13)	口縁部 1/2、底部 3/4
5	土師器 坏	口 (11.6) 高 4.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデか。体部外面へラケズリ。	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR6/4 にぶい橙	やや粗い、黒・灰・白細砂～粗砂 焼成：やや硬質	No.16・17、南東、南ベルト、南西 3.8	口縁部 1/4、底部 2/3
6	土師器 坏	口 (11.6) 高 [4.5]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面へラケズリのちナデ。体部外面黒斑あり。口縁部端部は平坦。	内：7.5YR5/4 にぶい褐 外：7.5YR5/3 にぶい褐	粗い、黒・灰・赤細砂 焼成：やや軟質	No.11、南東、西ベルト 12.8	口縁部 1/2、底部 2/3
7	土師器 坏	口 (15.6) 高 3.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデのちミガキ。体部外面へラケズリのちミガキ。全体的に漆仕上げか。	内：10YR4/2 灰黄褐 外：10YR6/3 にぶい黄橙	やや粗い、黒・灰細砂～粗砂 焼成：やや軟質	No.19 22.0	口縁部～底部 2/5
8	土師器 坏	口 11.8 高 6.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面へラナデのちへラミガキ。体部外面へラケズリのちへラミガキ。底部外面多方向へラケズリ。	内：5YR6/8 橙 外：7.5YR6/6 橙	やや粗い、白・透明・黒細砂～粗砂、礫、赤色粒 焼成：やや軟質	No.14・18・20・33、南東、南ベルト、床直一括 2.4 (No.18)	ほぼ完存
9	土師器 坏	口 (16.4) 高 [5.4]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面へラミガキ。体部外面強めのナデ。	内外面とも 2.5YR6/8 橙	やや粗い、白・灰細砂～粗砂、礫、赤色粒 焼成：やや軟質	No.6 1.2	口縁部～体部 1/4
10	土師器 甕	口 (25.8) 高 [7.1]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面上部へラナデ。胴部外面上部タテへラナデ。部分的に焼成時の黒斑あり。	内：10YR6/4 にぶい黄橙 外：10YR6/3 にぶい黄橙	やや粗い、白・赤・灰細砂～粗砂 焼成：やや軟質	No.35 27.6	口縁部 1/4
11	石器 敲石	長 11.0 幅 3.8 厚 3.7 重 274.7	上端部及び下端部に敲打痕あり。平面形：長い楕円形 断面形：不整な楕円形	5Y7/1 灰白	粗い、透明・茶細砂～粗砂、透明粒 焼成：硬質	北西	完存
12	鉄製品 鉄鏃か	長 [3.7] 径 0.2 重 [0.5]	断面は丸に近く、径 2.0 mm と細い。鉄鏃の茎の可能性あり。	—	鉄製	No.28 4.1	部分残存

13区 SI-97 (遺構：第403図、遺物：第404図、図版六四・一〇九・一一二・一一三)

位置 グリッド 97.5-54.5 重複遺構 時期不明の溝 SD-95 と重複するが切り合い不明。平面形 僅かに南北に長い長方形 規模 東西 5.92×南北 6.65 m 主軸方向 N -8.5° -W 覆土 下層は埋戻した可能性あり。壁 壁高は 46～58 cm 残る。床 中央部に薄く貼床あり。硬化面は確認できなかった。柱穴 P1 (径 22 cm、深さ 42 cm)、P2 (径 27～21 cm、深さ 46 cm)、P3 (径 27 cm、深さ 41 cm) P4 (径 15 cm、深さ 42 cm) は支柱穴と考えられる。入口ピット P7 (径 31～21 cm、深さ 9 cm) は入口関連のピットと考えられるが、P6 (径 51～32 cm、深さ 13 cm)、P8 (径 32 cm、深さ 22 cm) は掘り込みも浅く不明瞭。貯蔵穴 P5 (長軸 98×短軸 71 cm、深さ 31 cm) は隅丸長方形を呈し、壁の立ち上がりは緩やか。北東隅に設置される。壁溝 確認できなかった。掘方 概ね平坦。カマド 北壁中央部に位置し、壁面を半円形に掘り込むが底面は方形を呈する。煙道は急角度で立ち上がり上端部で段を有する。遺物 カマド内からは強く被熱した球胴甕が出土。芯材に転用されたものか。平面的にはカマドから中央部に向け集中する。土師器は坏・台付甕・甕などが、須恵器は蓋が出土した。この他編物石や鉄製品がある。2 は床面直上の遺物。口縁は僅かに内湾し平底化が進んでいる。鉄製品では鉈(9)が注目される。柄縁部は錯膨れにより著しく歪むが、大きく反った刃部がその特徴を良く残している。その他、雁又鏃(10)及び完品の長頸鏃(11)が出土した。不掲載遺物は土師器坏・甕胴部破片が主体で、小コンテナ1箱弱。礫の重量は 3.6 kg 出土した。遺物から奈良時代前葉の建物跡と考えたい。



第403図 西刑部西原遺跡13区 SI-97 実測図

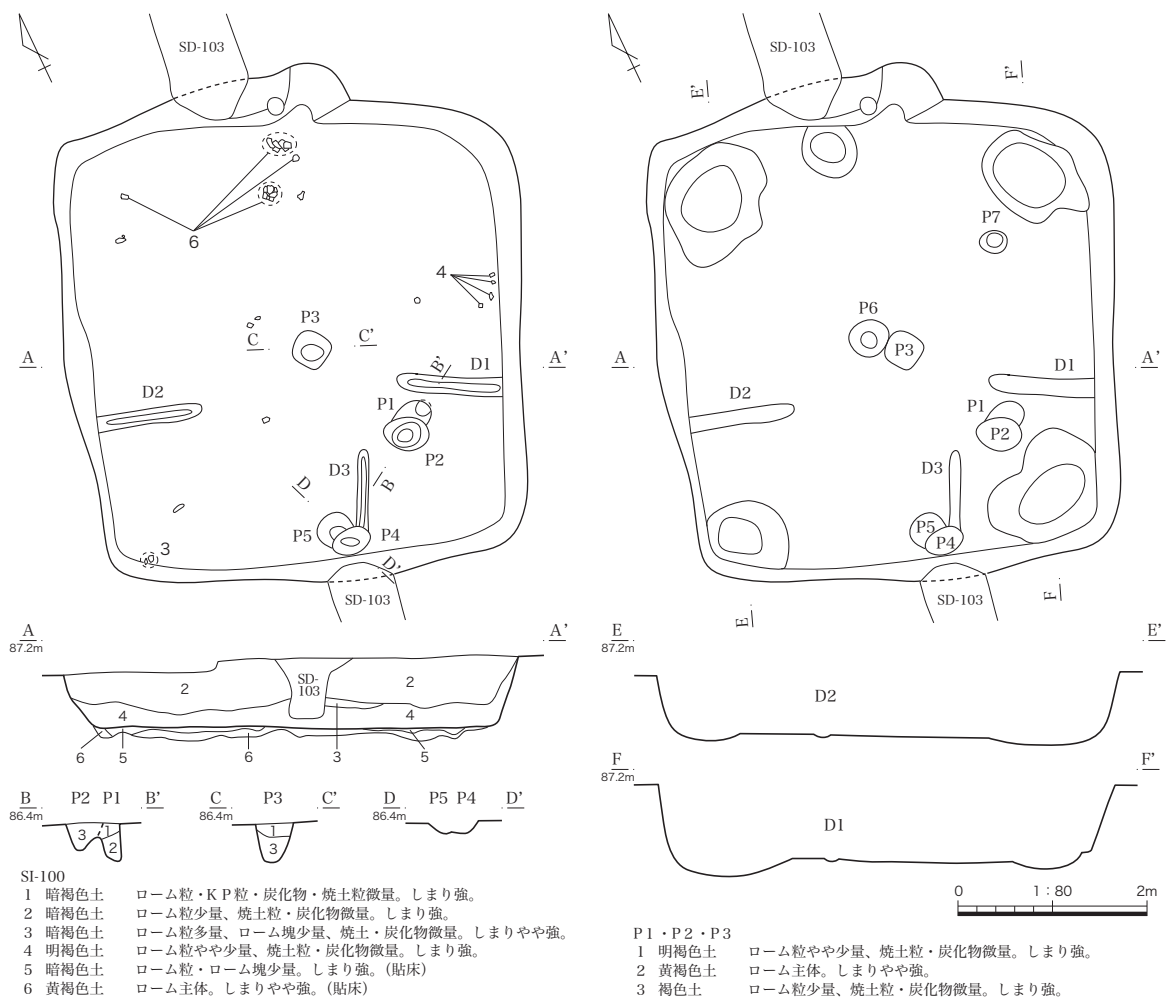


第404図 西刑部西原遺跡13区 SI-97出土遺物

第177表 13区 SI-97出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器蓋	口 (16.7) 高 [2.8]	ロクロ仕上げ。天井部外面回転ヘラケズリ。端部はつまみ上げ、外反する。端部外面には凹みを補修した粘土の貼付けが認められる。	内：7.5Y5/1 灰 外：7.5Y6/1 灰	やや緻密、白・灰粗砂～礫 焼成：硬質	南東	ほぼ完存
2	土師器杯	口 12.0 高 3.3	内面全面～口縁部外面ヨコナデ。体部～底部外面ヘラケズリか（磨滅著しく不明瞭）。内外面漆仕上げ。口縁部明瞭に肥厚。	内：2.5Y7/4 浅黄 外：10YR6/4 にぶい黄橙	やや緻密、黒・白・赤細砂 焼成：やや硬質	No.40 床直	ほぼ完存
3	土師器台付甃	高 [6.7] 脚 (11.5)	脚部端部内外面ヨコナデ。底部外面ナデ。脚部上半～胴部下端外面タテヘラケズリ。底部内面ヘラナデ。脚部の端部は肥厚し、小さく外反する。	内外面とも 2.5YR5/6 明赤褐	やや粗い、白・灰・黒粗砂～礫 焼成：やや硬質	No.21・23 10.4 (No.21)	底部完存、脚端部 1/8
4	土師器甃	口 (23.6) 高 [10.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヨコヘラナデ。外面炭化物(ススカ)の付着あり。	内：7.5YR5/4 にぶい褐 外：5YR5/6 明赤褐	やや粗い、白・灰・黒粗砂～礫 焼成：やや硬質	No.12・16 12.0 (No.16)	口縁部～胴部 1/3
5	土師器甃	高 [21.0]	外面ナナメハケ目調整のち胴下半部タテヘラケズリ。胴下端部はヨコあるいはナメヘラケズリ。内面ヘラナデ、下半部に積み上げ休止痕が見られる。底部外面一方向ヘラケズリ。	内：7.5YR7/6 橙 外：2.5YR6/8 橙	やや粗い、白・黒・灰粗砂～礫 焼成：硬質	No.12・16・30・33・35・37・44・45、北西・南西 2.8 (No.30)	胴部～底部 1/4
6	石器編物石	長 13.6 幅 4.6 厚 4.0 重 469.0	未加工の自然礫。平面形：不整な長方形 断面形：隅丸方形	5G6/1 緑灰	—	No.4 0.3	完存

7	石器 編物石	長 14.0 幅 5.8 厚 3.9 重 490.4	未加工の自然礫。 平面形：長い楕円形 断面形：楕円形	2.5GY6/1 オリーブ灰	—	No. 38 19.3	完存
8	石器 編物石	長 16.3 幅 7.5 厚 2.8 重 561.6	扁平な礫。側面の一部を両面から剥離する。 平面形：不整な楕円 断面形：不整な楕円	5Y6/1 灰	—	No. 15 2.5	完存
9	鉄製品 鈍	長 [13.3] 幅 1.9 厚 0.3 重 [24.0]	刃部は幅 1.7 mm と均一で、関はなく緩やかにすばまり、茎へとつながる。刃部は中央に稜をもち裏面もこれに合わせ窪みを有する。柄縁金具内側には柄の木質が、外側には鞘が付着する。茎の断面は長方形。	—	鉄製	No. 1 24.8	部分欠損
10	鉄製品 鉄鏃	長 [13.3] 幅 1.9 厚 0.4 重 [24.0]	先端部を欠損する雁又式の鉄鏃。鏃身部の断面は長方形で厚さ 2.0 mm。頸部断面は一辺 3.0 mm の正方形。	—	鉄製	No. 10 11.9	部分欠損
11	鉄製品 鉄鏃	長 15.4 幅 0.9 厚 0.4 重 11.0	片刃箭式の長頸鏃。鏃身は片関で片丸造り。厚さ 1.5 mm。関筈被で、茎には木質が残る。頸部は幅 5.0 mm、厚さ 3.8 mm の断面長方形。	—	鉄製	北東部	完存



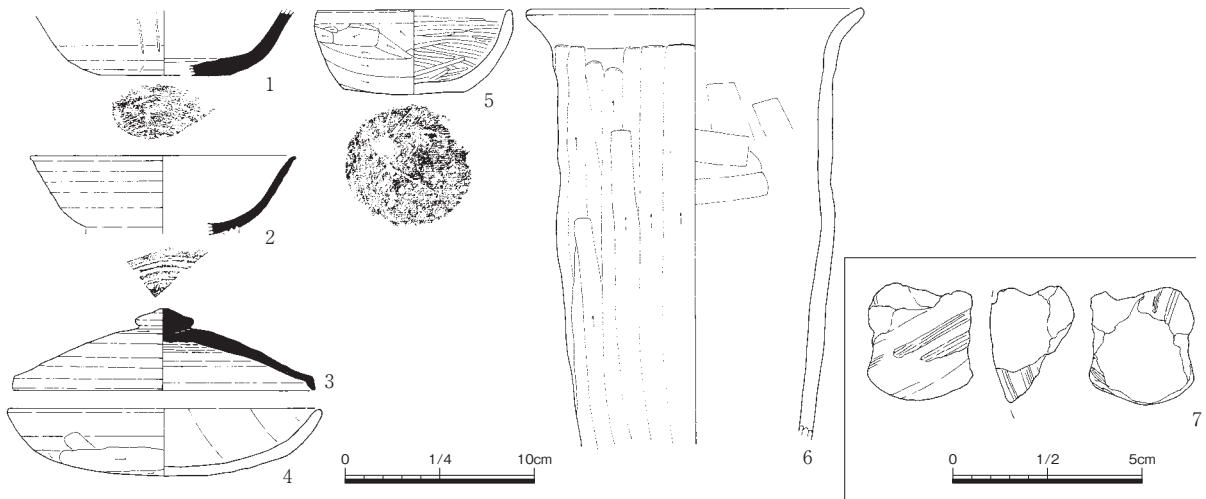
第405図 西刑部西原遺跡13区 SI-100 実測図

13区 SI-100 (遺構：第405図、遺物：第406図、図版六四・六五・一〇九)

位置 グリッド 97.0-54.0・97.5-54.0 重複遺構 奈良時代の溝 SD-103 より古い。平面形 隅丸の正方形に近い。規模 東西 4.78×南北 5.10 m 主軸方向 N-21.5° - E 覆土 自然堆積か。壁 壁高は 51～79 cm 残る。床 貼床あり。硬化面は認められない。柱穴 明確な柱穴は確認できなかった。入口ピット P4 (径 41～27 cm、深さ 14 cm) は位置的に入口ピットの可能性があるが不明瞭。貯蔵穴 確

認できなかった。不明ピット P1 (径 30 ~ 18 cm、深さ 40 cm)、P2 (径 46 ~ 33 cm、深さ 36 cm)、P3 (径 40 cm、深さ 40 cm)、P5 (径 36 ~ 24 cm、深さ 13 cm)、P6 (径 41 ~ 39 cm、深さ 8 cm)、P7 (径 29 ~ 24 cm、深さ 21 cm) があるが性格は不明。壁溝 確認できなかった。間仕切り溝 D1 (幅 18 ~ 20 cm、深さ 5 cm)、D2 (幅 15 ~ 18 cm、深さ 3 cm)、D3 (幅 10 ~ 13 cm、深さ 2 cm) の計 3 本が確認されたがいずれも極めて浅く不明瞭。掘方 中央部は若干凹凸をもち四隅に浅く土坑状の掘り込みをもつ。カマド 北壁中央部の壁面を半円形に掘り込む。構築材の粘土や焼土は殆ど残っていないため、取り去られた可能性が高い。

遺物 須恵器坏 (1)・高台付坏 (2)・蓋 (3)、土師器坏 (4・5)・甕 (6) が出土。その他焼成粘土塊 (7) が出土した。不掲載遺物の総量は小コンテナ箱 1/2 弱、不掲載礫の重量は約 400 g である。遺物から古墳時代終末期~奈良時代前葉の建物跡と考えられる。



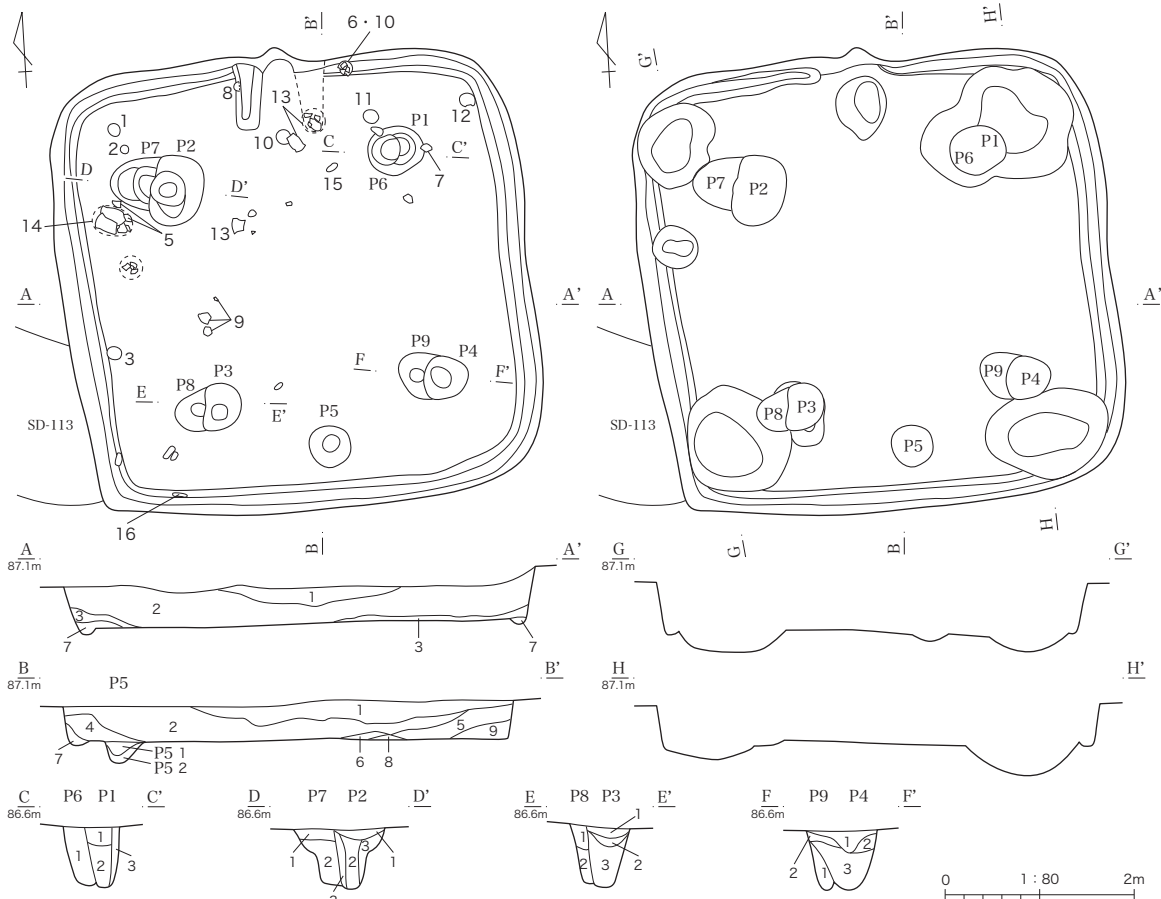
第 406 図 西刑部西原遺跡 13 区 SI-100 出土遺物

第 178 表 13 区 SI-100 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	須恵器坏	高 3.4	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリ。二次底部面を有する。側面にヘラ記号あり。	内外面とも 7.5Y6/1 灰	やや緻密、白・灰細砂 焼成：硬質	北西	口縁部~底部 1/4
2	須恵器高台付坏	口 (13.8) 高 [4.1]	内外面ロクロ仕上げ。底部外面回転ヘラケズリの明瞭な接合沈線あり。高台部剥落。内面赤褐色を呈する。焼成良好。産地不明。金属器模倣か。高台部欠損。	内：N6/0 灰 外：7.5Y5/1 灰	やや緻密、白粗砂~礫 焼成：硬質	北西	口縁部~体部 1/5
3	須恵器蓋	高 4.3 穴 3.1	天井部外面回転ヘラケズリのちツマミ貼付。内外面ロクロ仕上げ。端部はつまみ上げ、やや外反する。	内外面とも 2.5GY6/1 オリーブ灰	やや緻密、白・黒粗砂、黒色粒、白色礫 焼成：硬質	No. 16、南東 2.6	口縁部~天井部 1/2
4	土師器坏	口 (16.4) 高 3.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部~底部内面ナデ。体部外面上端ナデ。体部~底部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。内面ハケ塗りの痕跡顕著。	内：5YR2/1 黒褐 外：7.5YR5/3 にぶい褐	やや緻密、黒・灰・白細砂 焼成：硬質	No. 10 ~ 13、北西 1.0 (No. 12)	口縁部 1/2、底部 2/3
5	土師器坏	口 10.0 高 4.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヨコまたはナメヘラケズリ。体部~底部内面ヘラミガキ。底部外面多方向のヘラケズリ。	内外面とも 2.5YR5/8 明赤褐	緻密、白・灰細砂 焼成：やや軟質	北西	口縁部 3/4、底部完存
6	土師器甕	口 (19.4) 高 [22.7]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。	内：5YR6/6 橙 外：7.5YR6/6 橙	粗い、白・黒・灰粗砂~礫 焼成：軟質	No. 1・2・4・5、北西 1.0 (No. 5)	口縁部~胴部 1/4
7	焼成粘土塊	長 [3.1] 幅 [2.5] 厚 [2.2] 重 [8.9]	正面は丸みを帯び一部にワラ跡あり。側面右側下端にワラ圧痕あり。	7.5YR6/3 にぶい褐	やや緻密、白・赤粗砂 焼成：軟質	覆土中	一部

13区 SI-101 (遺構：第407・408図、遺物：第409図、図版六五・一〇九)

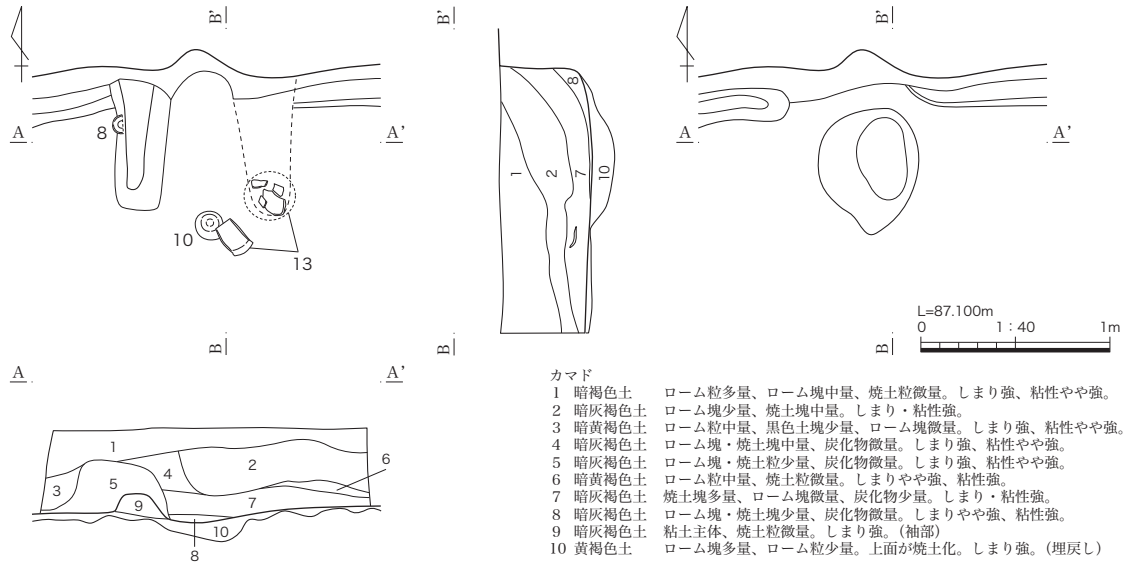
位置 グリッド 98.0-54.0 重複遺構 奈良～平安時代のSD-113より古い。 平面形 隅丸正方形 規模 東西4.93×南北4.87m 主軸方向 N-3.5°-W 覆土 自然堆積 壁 壁高約36～53cm 床 四隅に貼床。中央部はロームを床面とする。 柱穴 P1(径45～35cm、深さ64cm)、P2(径75～52cm、深さ63cm)、P3(径50～45cm、深さ62cm)、P4(径73～46cm、深さ61cm)は主柱穴か。P6(推定径50cm、深さ60cm)、P7(推定径60cm、深さ58cm)、P8(推定径45cm、深さ61cm)、P9(推定径50cm、深さ56cm)は旧時期の柱穴あるいは掘方の可能性あり。 入口ピット P5(径44cm、深さ20cm)は南壁際中央部にある。 壁溝 幅20～30cm、深さ5～8cm。 掘方 四隅を土坑状に掘る。 カマド 北壁中央部を僅かに掘り窪め煙道とする。煙道の立ち上がりはほぼ垂直。灰褐色粘土主体の袖の残りは非常に悪い。カマド前から10が、右袖先端部から13が出土。 遺物 須恵器杯、土師器杯・鉢・粗製杯・甕などが出土。石器類は編物石2点を図示。1～10の坏類は、6を除きすべてが床面直上あるいは床面付近の遺物である。8は乾燥途中で生じ



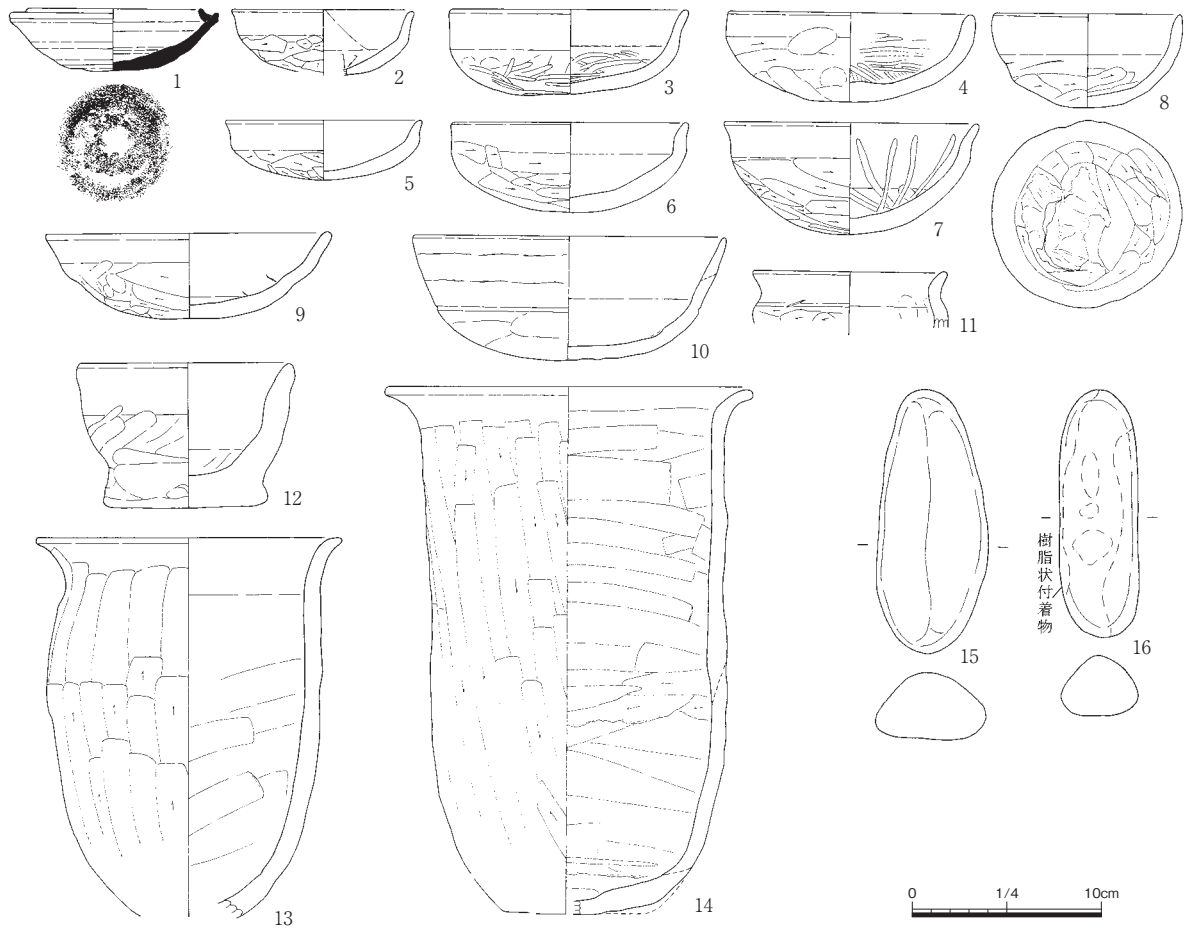
- | | | | | | |
|--------|---------|---|--------|----------------------|------------------------------|
| SI-101 | 1 暗褐色土 | ローム粒多量、ローム塊中量、黒色土塊少量、しまり・粘性強。(埋戻し) | 2 黄褐色土 | ローム主体、しまりやや強、粘性強。 | |
| | 2 黒褐色土 | ローム粒多量、ローム塊・黒色土塊中量、焼土粒少量。しまり強、粘性やや強。(埋戻し) | 3 黄褐色土 | ローム塊・黒色土少量。しまり弱、粘性強。 | |
| | 3 暗黄褐色土 | ローム粒多量、ローム塊・黒色土塊少量、しまり強、粘性やや強。 | P4 | 1 黒褐色土 | ローム塊少量、黒色土混入、しまりやや弱、粘性強。 |
| | 4 暗黒褐色土 | ローム粒・ローム塊・黒色土塊少量、しまり強、粘性やや強。 | | 2 暗黄褐色土 | ローム塊少量、炭化物微量、しまり弱、粘性強。(抜取痕か) |
| | 5 暗灰褐色土 | ローム粒中量、ローム塊少量、白色粒微量、しまり強、粘性やや強。 | | 3 黄褐色土 | ローム塊・黒色土少量。しまり弱、粘性強。(抜取痕か) |
| | 6 暗灰褐色土 | ローム粒微量、焼土塊少量、しまり強、粘性やや強。 | P5 | 1 暗褐色土 | ローム粒・ローム塊少量、しまり・粘性強。 |
| | 7 暗黄褐色土 | ローム塊主体、しまり・粘性強。 | | 2 暗黄褐色土 | ローム主体、しまり・粘性強。 |
| | 8 暗黄褐色土 | ローム主体、しまり・粘性強。 | P6 | 1 黄褐色土 | ローム塊・黒色土少量。しまり弱、粘性強。(抜取痕か) |
| | 9 暗灰褐色土 | 粘土主体。焼土塊少量。しまり・粘性強。(袖部) | P7・P8 | 1 暗黄褐色土 | ローム主体、黒色土混入。しまり、粘性強。(裏込め) |
| | P1・P2 | 1 黒褐色土 | | 2 暗黄褐色土 | ローム主体、しまりやや強、粘性強。(裏込め) |
| | | 2 暗黄褐色土 | | 1 暗黄褐色土 | ローム主体、黒色土混入。しまりやや弱、粘性強。 |
| | | 3 黄褐色土 | | 2 暗黄褐色土 | ローム主体、しまりやや強、粘性強。(裏込め) |
| | P3 | 1 黒褐色土 | | 1 黄褐色土 | ローム塊中量、黒色粒少量。しまり弱、粘性強(抜取痕か) |
| | | ローム塊少量、黒色土混入。しまりやや弱、粘性強。 | | | |

第407図 西刑部西原遺跡13区 SI-101実測図(1)

たヒビに外面から粘土を撫で付け補修したものか。不掲載遺物のうち土器類は小コンテナ 1/2 箱、礫の重さは 3.5 kg である。遺物から古墳時代終末期（7 世紀前半～中葉）の建物と考えられる。



第 408 図 西刑部西原遺跡 13 区 SI-101 実測図 (2)



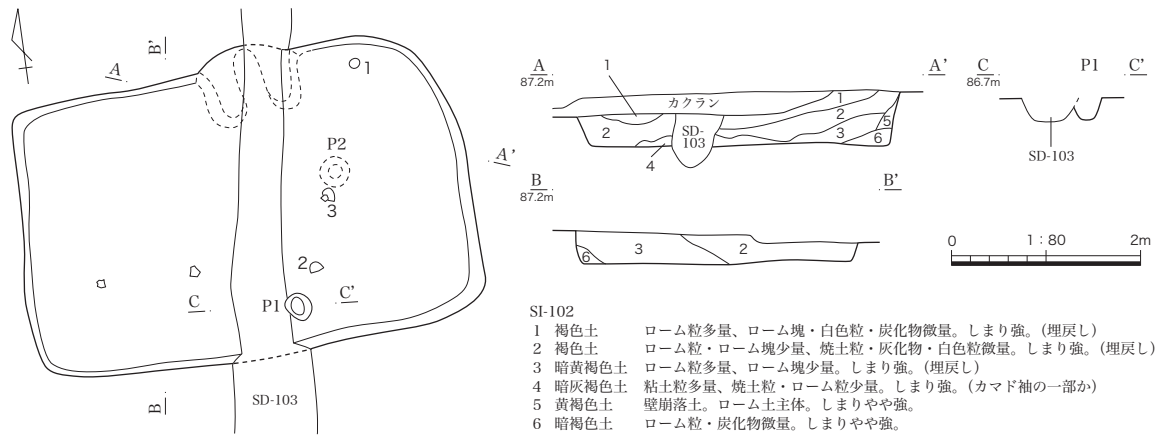
第 409 図 西刑部西原遺跡 13 区 SI-101 出土遺物

第179表 13区 SI-101 出土遺物観察表

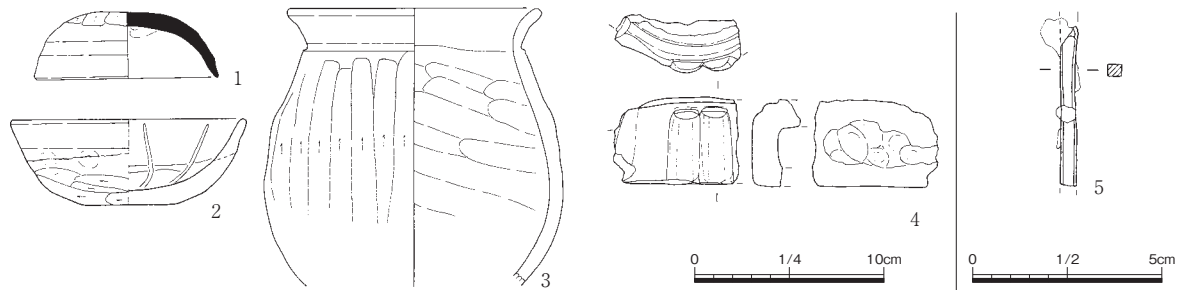
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技 法 ・ 特 徴	色 調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	須恵器 環	口 9.0 高 3.3	内外面口コナデ。底部外面回転ヘラ切りのち外周部回転ヘラケズリか。	内：2.5Y7/3 浅黄 外：2.5Y7/2 灰黄	やや緻密、白・灰・透明 細砂・雲母片 焼成：やや硬質	No.15 床直	ほぼ完存
2	土師器 環	口(9.3-10.0) 高 [3.5]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデのちナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げか。小型で歪みが大きく、器厚も一定していない。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：10YR7/3 にぶい黄橙	やや緻密、白・赤細砂、 灰礫 焼成：やや硬質	No.14 床直	ほぼ完存
3	土師器 環	口 12.2 高 4.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデのちミガキ。体部外面ヘラケズリのちミガキ。内外面漆仕上げ。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：10YR7/3 にぶい黄橙	やや緻密、黒・茶・灰細 砂、礫、赤色粒 焼成：軟質	No.5 2.4	ほぼ完存
4	土師器 環	口 (12.9) 高 4.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデのちミガキ。体部外面ヘラケズリのちヘラナデか。内外面黒色処理か。	内：10YR3/1 黒褐 外：10YR3/4 暗褐	やや粗い、白・黒細砂、 黒礫、赤色粒 焼成：やや軟質	No.16 3.6	口縁部～体 部 1/2
5	土師器 環	口 10.2 高 3.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面共に黒色を呈する。	内外面とも 10YR3/1 黒 褐	やや粗い、白・茶・黒細 砂～粗砂 焼成：やや軟質	No.12・13 床直 (No. 12,13)	ほぼ完存
6	土師器 環	口 12.2 高 4.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面ヘラケズリ。内面黒色処理か。	内：10YR3/1 黒褐 外：10YR5/2 灰黄褐	やや粗い、白・灰細砂、礫、 赤色粒 焼成：やや硬質	No.25 31.0	口縁部～底 部 3/4
7	土師器 環	口 (13.2) 高 5.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデのち放射状ミガキ。体部外面ヘラケズリのち強いナデ。	内：10YR6/4 にぶい黄橙 外：10YR7/3 にぶい黄橙	やや粗い、黒・灰・赤細 砂～粗砂、礫、赤色粒 焼成：やや硬質	No.21 床直	口縁部1/2、 底部 1/2
8	土師器 環	口 9.8 高 4.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。体部外面指頭押圧及びナデ。全体的に漆仕上げ。内外面に焼成前のヒビに粘土を撫でつけた補修痕あり。	内：10YR6/2 灰黄褐 外：10YR7/3 にぶい黄橙	やや粗い、黒・灰細砂 焼成：やや硬質	No.12・カマ ドNo.29 床直 (No.12)	ほぼ完存
9	土師器 環	口 (15.0) 高 [4.5]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヨコナデのちヘラナデ。体部外面指頭押圧のちヘラケズリ。内外面漆仕上げか。黒色の斑点状付着物あり。漆かは不明。	内外面とも H 2.5Y7/3 浅 黄	やや緻密、黒・灰細砂 焼成：軟質	No.6・7・8、 ベルト内、南 西 床直 (No.6-8)	口縁部1/2、 底部 1/2
10	土師器 環	口 16.3 高 6.5	口縁部内外面ヨコナデ。底部～体部内面ナデ。体部～底部外面ヘラケズリか。漆仕上げ。大型の環。口縁部内面～外面にかけ剥落が顕著。	内外面とも 5YR7/6 橙	やや粗い、白・灰・透明 細砂～礫 焼成：やや軟質	カマドNo. 26 床直	ほぼ完存
11	土師器 鉢	口 (10.2) 高 [3.4]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヨコナデのち指頭圧痕。体部外面ヘラケズリ。口縁部内外面漆仕上げか。	内：10YR8/3 浅黄橙 外：10YR8/4 浅黄橙	やや粗い、灰・黒・白細 砂 焼成：やや軟質	No.23 5.8	口縁部完存
12	土師器 粗製環	口 11.1 底 8.7 高 7.8	口縁部外面～体部内面下半部ヨコナデ。底部内面ナデ。体部外面ヨコまたはナメのナデ。底部外面木葉痕か。粗製。	内：5YR2/1 黒褐 外：5YR3/1 黒褐	やや緻密、白・灰細砂 焼成：硬質	No.24 1.1	口縁部7/8、 底部 1/3
13	土師器 甕	口 (17.8) 高 [20.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半ヘラケズリのちナデ。下半部タテヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。胴下半部の被熱顕著。	内：7.5YR7/6 橙 外：5YR6/6 橙	やや粗い、白・灰粗砂～ 礫、黒色粒子、石英粒子 焼成：やや軟質	No.17・カマ ドNo.27・28 1.8 (No.17)	口縁部7/8、 胴部 3/4
14	土師器 甕	口 19.0 高 27.9	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。下端部不明瞭。胴部内面ヘラナデ。胴部下半(接合部)内面ヘラケズリ。底部外面ナデ。	内外面とも 2.5YR5/8 明 赤褐	やや粗い、白・黒・灰細 砂～礫 焼成：やや軟質	No.11 床直	ほぼ完存
15	石器 編物石	長 13.7 幅 6.9 厚 3.4 重 394.3	未加工の自然礫。 平面形：不整な楕円形 断面形：隅丸三角形	10Y7/1 灰白	—	No.19 5.8	完存
16	石器 編物石	長 13.0 幅 4.1 厚 3.1 重 256.2	褐色付着物あり。 平面形：楕円形 断面形：隅丸三角形	2.5Y5/2 暗灰黄	—	No.1 床直	完存

13区 SI-102 (遺構：第410図、遺物：第411図、図版六五・一一〇)

位置 グリッド 98.0-54.0・98.0-54.5・98.5-54.0・98.5-54.5 重複遺構 奈良時代の溝跡 SD-103 と重複し、SD-103 より古い。 平面形 北東隅の丸い不整な長方形 規模 東西 4.76×南北 3.07 m 主軸方向 N-1.5° -W 覆土 埋戻しと考えられる。 壁 壁高は 40～58cm 残る。 床 ロームを床面とし、概ね平坦。 貼床・硬化面共に未確認。 ピット P1 (径 38～23 cm、深さ 25 cm)、P2 (径 31 cm、深さ 20 cm) があるが、位置的に柱穴とは考えにくい。 入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。 カマド 北壁中央部に位置するが、SD-103 によりその大部分を壊されており、詳細は不明。 壁際を浅く弧状に掘り込み、煙道は 90° 近い角度で立ち上がる。 袖は僅かに残った灰褐色粘土から破線でその範囲を想定し復元した。 遺物 遺物量は非常に少ないが、1～3 は床面付近の出土遺物として、時期判定の基準とすることが出来た。 4 は型押しした土人形の台座部分の破片か。混入品と考えられる。 5 は長頸鉢の頸部破片か。不掲載遺物は小コンテナ箱約 1/3。礫は確認できなかった。遺物から古墳時代終末期 (7 世紀中葉～後葉) の建物跡と考えられる。



第410図 西刑部西原遺跡13区 SI-102 実測図



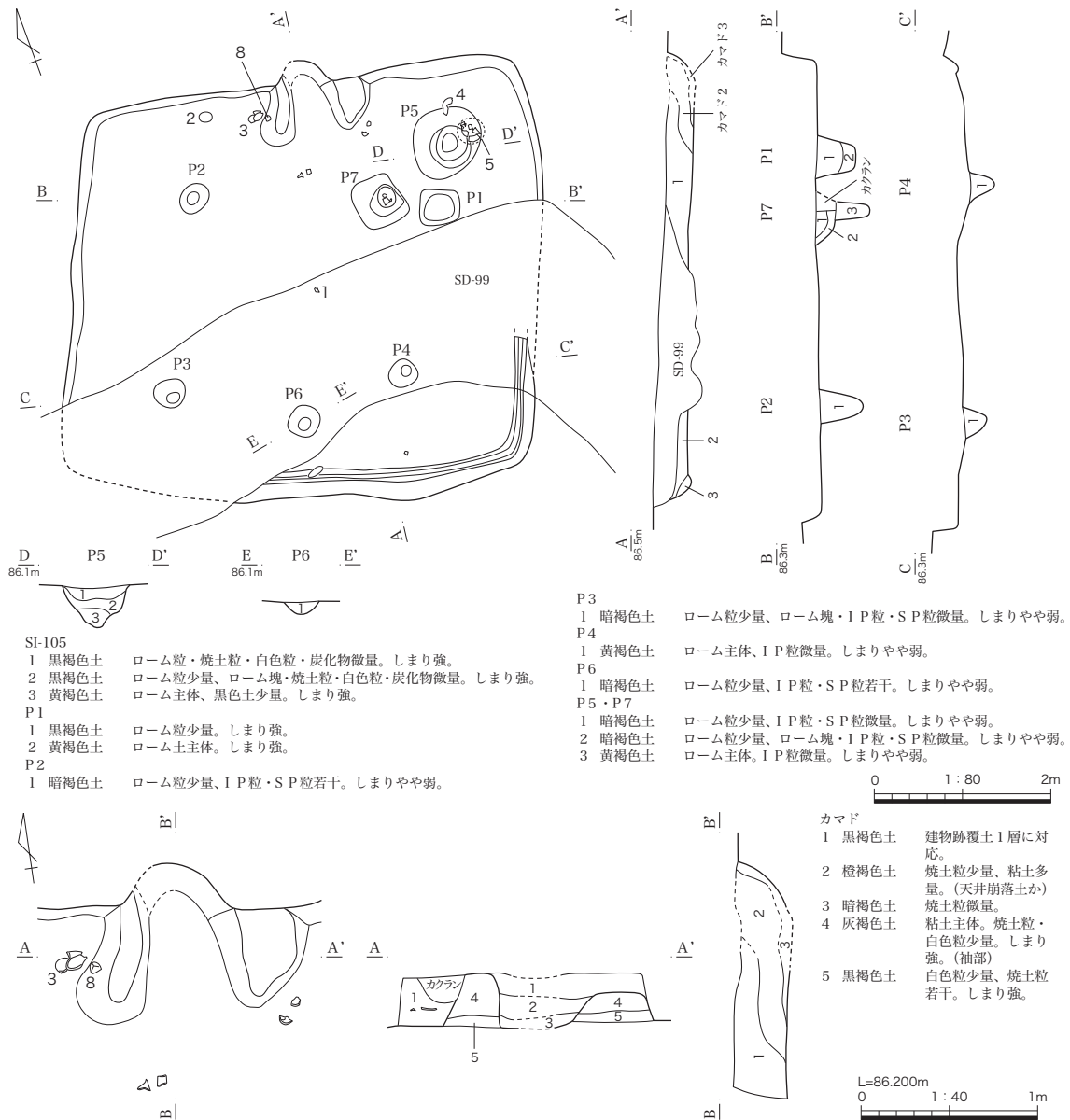
第411図 西刑部西原遺跡13区 SI-102 出土遺物

第180表 13区 SI-102 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器蓋	口 9.5 高 3.5	ロクロ仕上げ。天井部外面ヘラケズリ。天井部内面ナデ。被熱顕著。外面一部焼土付着。	内：10YR4/3 にぶい黄橙 外：10YR5/4 にぶい黄橙	緻密、灰細砂 焼成：硬質	No.5 3.7	ほぼ完存
2	土師器杯	口 (12.2) 高 4.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部内面ナデのち疎らな放射状の不定方向ミガキ。体部外面指頭押圧及びナデ。体部～底部外面ヘラケズリ。内外面黒色処理か。底部は平定気味。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	緻密、灰・黒細砂 焼成：硬質	No.3 1.7	口縁部～体部 1/3
3	土師器甕	口 (13.0) 高 [14.6]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ナメナデ。	内：10YR5/2 灰黄褐 外：5YR4/3 にぶい赤褐	やや粗い、白・黒粗砂～礫多量、雲母片微量 焼成：やや軟質	No.4、南 2.0	口縁部 1/4、胴部 1/3
4	不明土製品	長幅 [6.5] 高 [2.8] 重 [4.7] 53.7	型押しで作られた土人形台座か。内面に指頭押圧を施す。上面は明瞭な段をもつ。側面にカマボコ状の陽刻が並ぶ。	内：N4/0 灰 外：5YR6/6 橙	やや粗い、白・黒・赤粗砂～礫 焼成：やや軟質	北	底部破片
5	鉄製品鉄鏃	長幅 [4.2] 厚 0.4 重 0.3 [3.1]	長頸鏃の頸部破片か。断面は長方形。	—	鉄製	南部	部分欠損

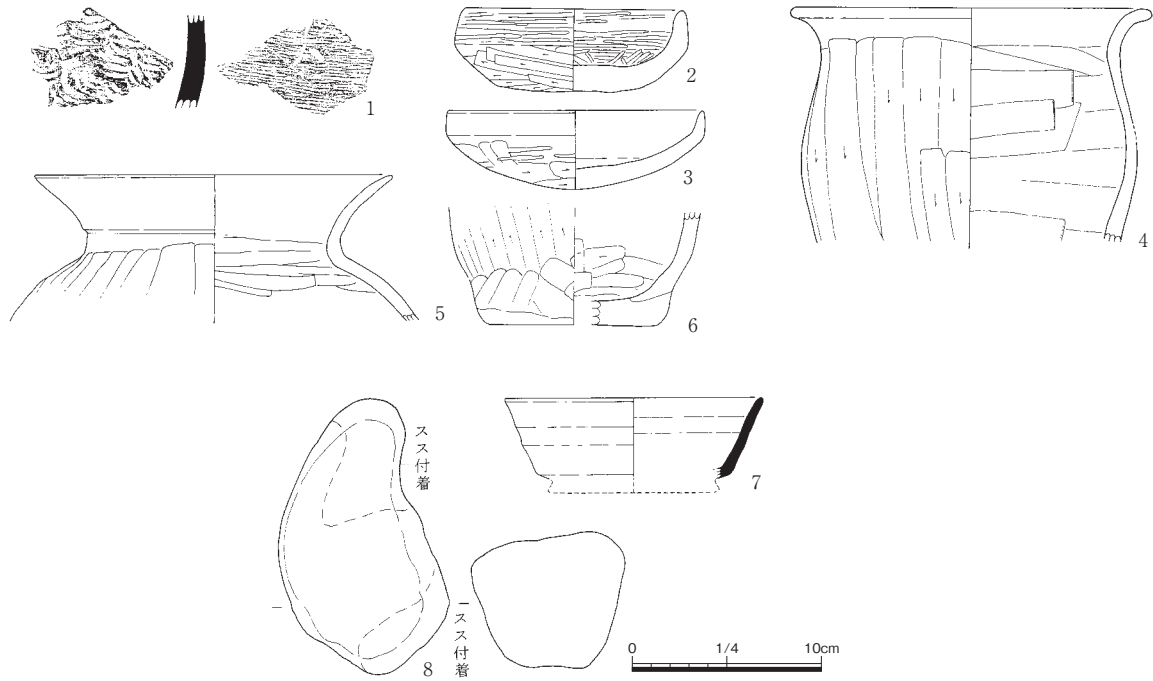
13区 SI-105 (遺構：第412図、遺物：第413図、図版六五・一一〇)

位置 グリッド 99.0-53.5・99.0-54.0・99.5-53.5・99.5-54.0 重複遺構 奈良時代の溝跡 SD-99 により、南西コーナーを欠失する。平面形 西辺に比べ東辺がやや長い不整な長方形 規模 東西 5.18×南北 4.86 m 主軸方向 N-23.5° - E 覆土 黒褐色土主体の2層からなり、自然堆積と考えられる。壁 壁高は 30～38 cm 残存する。床 ローム面を床面とする。概ね平坦で、硬化面は確認できなかった。柱穴 P7 (径 67～63 cm、深さ 68 cm)、P2 (径 36～28 cm、深さ 36 cm)、P3 (径 36～31 cm、深さ 24 cm)、P4 (径 31～29 cm、深さ 26 cm) は主柱穴と考えたい。P7 は柱を抜き取った跡か。P1 (径 44～37 cm、深さ 45 cm)



第412図 西刑部西原遺跡13区 SI-105 実測図

はしっかりした掘方をもつが、覆土の違いから本遺構に伴わない可能性もある。貯蔵穴 P5(径87～72 cm、深さ43 cm)は北東隅に位置する。入口ピット P6(径36～37 cm、深さ13 cm)は上面をSD-99に壊される。壁溝 南壁及び東壁の一部に残っていた。幅20 cm前後、深さ5～8 cmと極めて浅い。カマド 北壁中央部に位置し、壁を半円形に掘り込む。煙道は丸みをもって立つ。袖は灰色粘土主体、焼土は非常に少ない。遺物 須恵器甕破片、土師器杯・球胴甕・長胴甕などが出土する。5の球胴甕は貯蔵穴内の底面から出土した。7は高台付杯。SD-99からの混入品と考えられる。8はカマド外から出土したが、被熱しており、支脚の可能性もある。不掲載遺物の総量は小コンテナ1/3弱、不掲載礫の重量は3.3 kgである。遺物から古墳時代終末期(7世紀前半から中葉)の建物跡と考えたい。



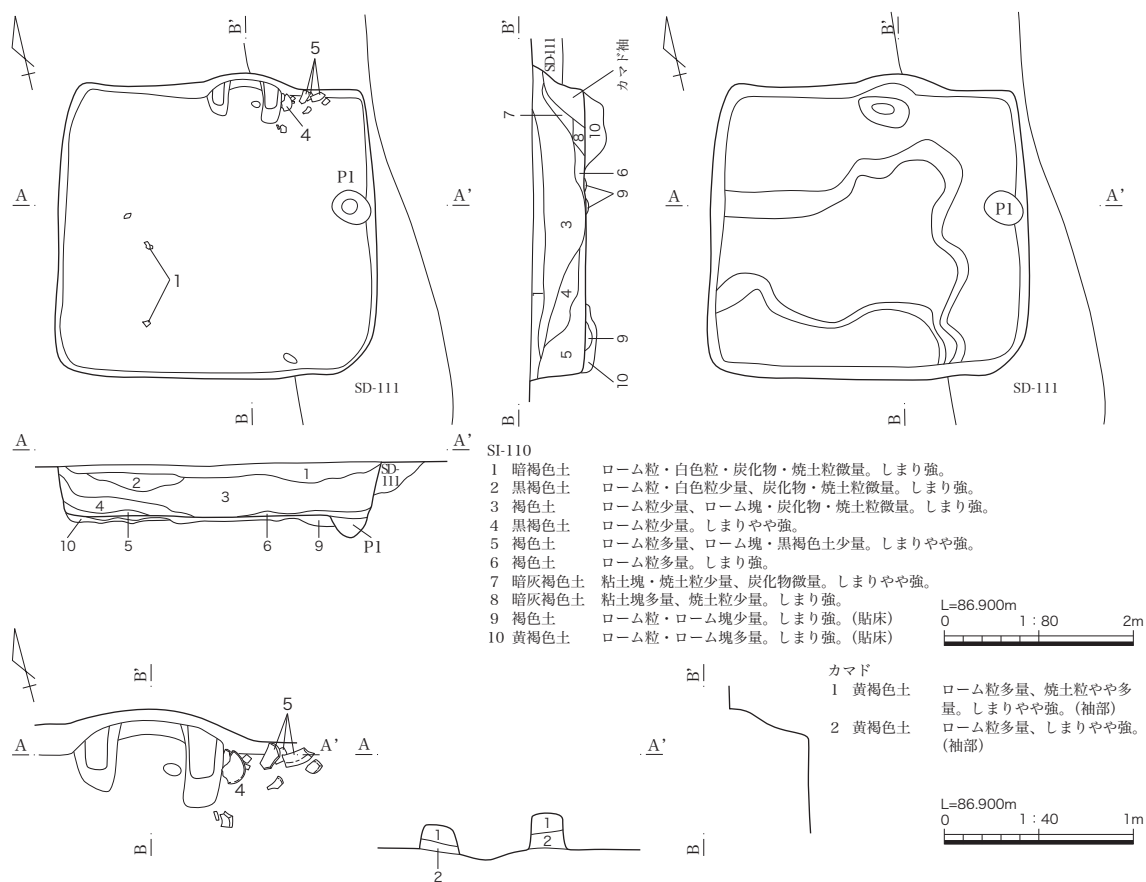
第 413 図 西刑部西原遺跡 13 区 SI-105 出土遺物

第 181 表 13 区 SI-105 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	須恵器 甕	厚 1.1	外面細かな平行叩き。内面同心円状。あて具痕あり。	内：5Y5/2 灰オリーブ 外：5Y6/2 灰オリーブ	緻密、白細砂 焼成：硬質	No. 11 7.0	胴部破片
2	土師器 坏	口 11.3 高 4.4	口縁部内外面ヨコナデのちヨコヘラミガキ。底部内面不定方向ヘラミガキ。体部外面ヨコヘラズリ。底部外面多方向ヘラズリ。	内：5YR6/6 橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	やや粗い、黒・赤粗砂 焼成：硬質	No. 7 14.0	口縁部3/4、 底部完存
3	土師器 坏	口 13.3 高 4.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部内面ナデ。底部外面ヘラズリ。体部上半はヘラナデのち一部に弱いミガキ。内外面漆仕上げ。	内：10YR4/2 灰黄褐 外：10YR3/1 黒褐	やや粗い、白・黒粗砂～ 礫 焼成：やや軟質	No. 1、カマ ド 7.8	口縁部1/2、 底部1/2
4	土師器 甕	口 (18.4) 高 [12.5]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラズリ。胴部内面ヘラナデ。胴部外面被熱のため赤化し脆弱。	内外面とも 10YR6/3 に ぶい黄橙	粗い、灰・白粗砂～礫 焼成：軟質	No. 8、北東 6.7	口縁部 2/5、胴部 上半1/3
5	土師器 甕	口 18.6 高 [7.7]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラナデ。頸部～胴部内面ヨコヘラナデ。球胴の甕。	内：10YR6/3 にぶい黄橙 外：10YR5/3 にぶい黄褐	やや緻密、白・灰・黒粗 砂～礫 焼成：やや軟質	No. 9・14、 P6 床直 (No. 9)	口縁部4/5
6	土師器 甕	底 高 (8.6) [6.1]	胴部外面タテヘラズリのち下端部ナデ。胴部内面ナデのち一部ヘラズリ。底部内面不明。底部外面ヘラズリのちナデ。	内：7.5YR7/6 橙 外：10YR7/6 明黄橙	やや粗い、灰・赤・黒粗 砂～礫 焼成：やや硬質	北西	底部1/3
7	須恵器 高台付 坏	口 (14.6) 高 [3.1]	内外面口クロナデ。底部外面回転ヘラズリのち接合沈線あり。混入品。	内：N4/0 灰 外：N5/0 灰	やや緻密、白・灰細砂～ 粗砂 焼成：硬質	SI-105 周辺	体部1/6
8	石器 支脚	長 14.4 幅 8.3 厚 7.0 重 99.3	上半部はスス及びサビ状の付着物あり。下端部スス付着。 平面形：不整形 断面形：隅丸台形	5YR7/3 にぶい橙	粗い 焼成：硬質	No. 2、カマ ド 12.5 (No. 2)	ほぼ完存

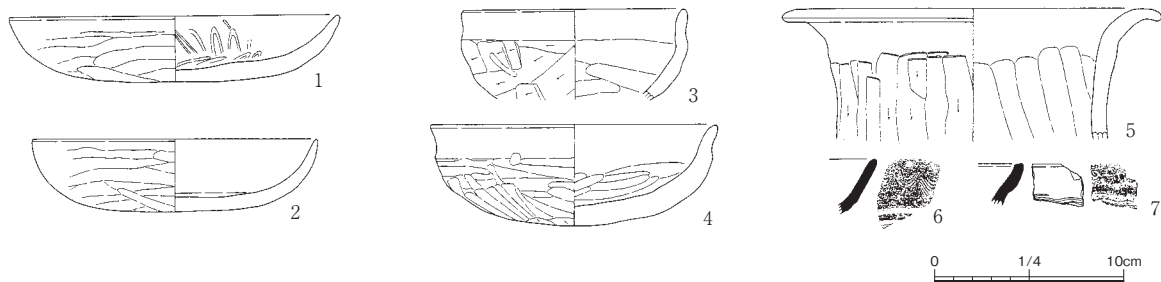
13区 SI-110 (遺構：第414図、遺物：第415図、図版六六・一一〇)

位置 グリッド 97.5-53.5・98.0-53.5 重複遺構 古墳時代終末期の溝跡 SD-111 より新しい。 平面形 やや不整な正方形 規模 東西 3.31×南北 3.19 m 主軸方向 N -12.5° - E 覆土 自然堆積と考えられる。 壁 壁高 53～57 cm 床 全面的に薄い貼床あり。概ね平坦で、硬化面などは認められない。 柱穴 入口ピット・貯蔵穴 確認できなかった。 ピット P1 (径 40～31 cm、深さ 20 cm) は東壁際中央部にある。断面観察により本建物に伴うことは確かだが用途は不明である。 壁溝 確認できなかった。 掘方



第414図 西刑部西原遺跡13区 SI-110 実測図

建物中央部から西壁際部分を島状に残し周囲を掘り窪める。深さは12～24cmあり、ローム塊混じりの9・10層で埋戻す。カマド 北壁中央部やや東寄りに位置する。壁面を浅く弧状に掘り込み煙道としている。煙道は急角度で立ち上がる。袖はローム土と粘土の混合土で構築する。燃烧部は皿状に掘り窪めた後埋戻している。遺物 平面的にはカマド周辺部に集中する。遺物は土師器坏や甕類が少量出土し、殆どが覆土中のものである。床面付近の遺物は1の土師器坏と5の土師器甕である。小破片であるが、須恵器臚の破片(6・7)が2点出土している。不掲載遺物は土器類が小コンテナ箱1/3程度、礫は約300g。遺物から奈良時代前葉(7世紀末葉～8世紀前葉)の建物跡と考えられる。



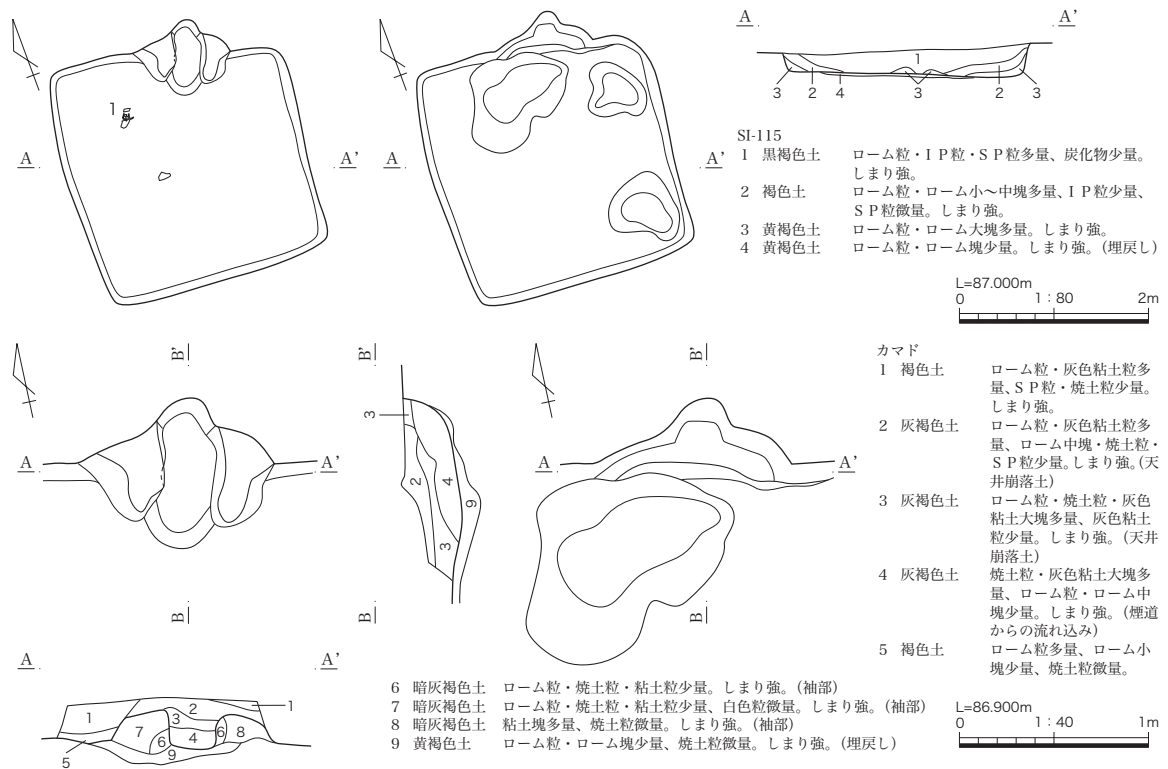
第415図 西刑部西原遺跡13区 SI-110 出土遺物

第182表 13区 SI-110 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土 (cm)	残存
1	土師器 環	口 (17.2) 高 3.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部内面やや雑なヘラミガキ。体部外面ヘラケズリのちナデ。底部外面一方 向ヘラケズリ。	内：10YR5/3 にぶい黄褐 外：7.5YR7/6 橙	緻密、細砂、赤色粒、シャ モットか 焼成：硬質	No.2・3、南 ベルト、南東 3.7 (No.3)	口縁部1/4、 底部1/2
2	土師器 環	口 (14.8) 高 3.7	口縁部内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。体部～底部外 面ヘラケズリのちヘラナデか。口縁部内外面黒色を呈 し、内面褐色。漆仕上げか。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：7.5YR6/6 橙	緻密、黒・白細砂 焼成：硬質	北西、貼 床、南東	口縁部1/2、 底部4/5
3	土師器 環	口 (11.6) 高 [4.7]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリのち強い (深い) 沈線状のナデ。体部内面強いヘラナデ。内外面 漆仕上げ。	内：10YR4/2 灰黄褐 外：10YR7/4 にぶい黄橙	緻密、白・灰・赤細砂 焼成：やや硬質	南東	体部1/2、 口縁部一部
4	土師器 環	口 15.0 高 5.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヨコヘラケズリのち ヘラナデ。底部外面一方ヘラケズリ。内面一部に指 ナデ。外面黒斑は焼成時のものか。	内：10YR6/4 にぶい黄橙 外：10YR5/3 にぶい黄褐	緻密、白・黒細砂 焼成：硬質	カマドNo.12・ 13 8.5 (カマドNo. 12,13)	口縁部1/2、 底部1/4
5	土師器 甕	口 (20.0) 高 [7.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴 部内面タテヘラナデ。	内：7.5YR6/4 にぶい橙 外：7.5YR7/6 橙	やや粗い、白・灰・赤粗 砂～礫 焼成：やや硬質	No.7・10 2.1 (No. 10)	口縁部～胴 部上半1/3
6	須恵器 甕	高 [2.9]	口縁部外面7本一組の櫛描き波状文あり。破片下端部 に太い2条の沈線あり。	内：5Y5/2 灰オリーブ 外：5Y5/1 灰	やや緻密、灰・黒細砂 焼成：硬質	南東	口縁部破片
7	須恵器 甕か	高 [1.3]	ロクロナデ。上下の振幅小さな櫛描波状文がみられる。 口縁は僅かに内湾し、端部は凹線状に浅く凹む。	内外面とも 7.5Y6/1 灰	やや粗い、黒・灰・白細砂 焼成：硬質	南ベルト	口縁部破片

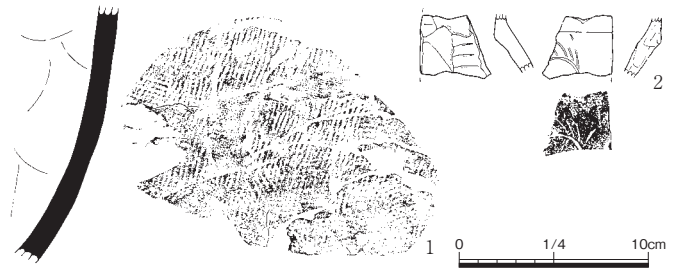
13区 SI-115 (遺構：第416図、遺物：第417図、図版六六・一一〇)

位置 グリッド 96.5-53.5 重複遺構 無し。 平面形 やや不整な正方形 規模 東西 2.52× 南北 2.76 m
 主軸方向 N -6.5° - E 覆土 自然堆積か。 壁 壁高 18～31 cm 床 概ね平坦で、硬化面は未確認。
 貼床あり。 柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。 掘方 カマド前面及び北東隅及び南
 東隅に土坑状の掘り込みあり。ローム土を少量含む4層で埋戻している。 カマド 北壁中央部を不整な凸
 字状に掘り込む。袖は暗灰褐色土で構築する。 遺物 極めて少なく、図示できる遺物は2点のみであった。
 1は床面付近から出土した須恵器横瓶破片。黒色付着物があり、二次的に被熱したものか。2は器種不明の



第416図 西刑部西原遺跡13区 SI-115 実測図

土器。小型の壺形を呈するものか。右端部には縦位の透かしをもち、器面には弧状の浅い沈線文を施す。不掲載遺物は土師器坏・甕胴部破片が主体で、僅か10片ほどである。遺物が少なく明確な年代は確定できないが、奈良時代から平安時代の建物跡と考えたい。



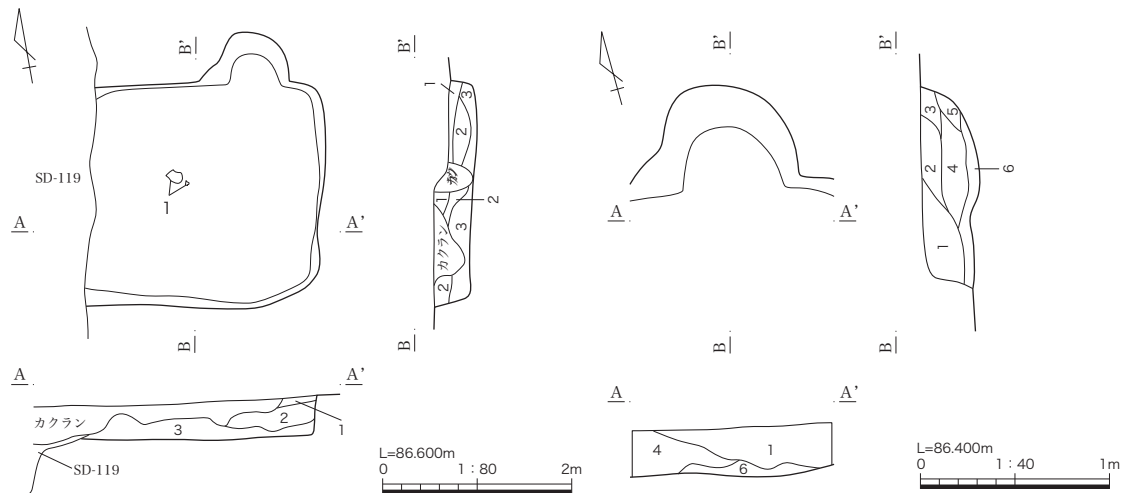
第417図 西刑部西原遺跡13区 SI-115出土遺物

第183表 13区 SI-115出土遺物観察表

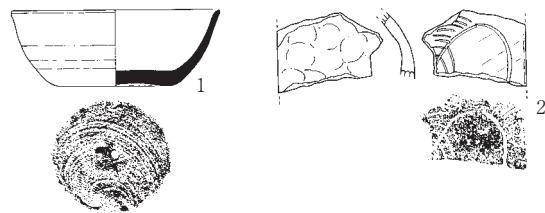
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器横瓶	高 [13.5]	外面平行叩き。内面あて具痕及びナデ。内外面一部に黒色付着物あり。炭化物か。	内：2.5Y8/2 灰白 外：2.5Y8/3 淡黄	やや緻密、灰細砂 焼成：やや硬質	No.2 3.9	胴部破片
2	土師器器種不明	厚 0.9	文様は太めの弧線の上に細めの複数の弧線を組み合わせており、モチーフは不明である。施文は浅い。SI-116-2と同一個体か。	内外面とも 10YR4/3 に ぶい黄褐	やや粗い、白・黒・灰細 砂～粗砂 焼成：やや硬質	1層(覆土 上層)	胴部破片

13区 SI-116 (遺構・遺物：第418図、図版六六・一一〇)

位置 グリッド 97.5-53.5・98.0-53.5 重複遺構 時期不明の溝SD-119より古い。平面形 隅丸長方形
規模 東西2.4m以上×南北2.38m 主軸方向 N-15°-E 覆土 自然堆積 壁 壁高は25～40cm残る。床 ローム地山を床面とする。概ね平坦で硬化面などは見られない。柱穴・入口ピット・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。カマド 北壁コーナー付近に位置する。袖は残っておらず取り去られたものか。焼土は極めて少ない。遺物 遺物は極めて少なく、図示可能な遺物は2点のみである。1は糸切りの須恵



- SI-116
- 1 褐色土 ローム粒少量、焼土粒・炭化物・白色粒微量。しまり強。
 - 2 褐色土 ローム粒少量、白色粒微量。しまりやや強。
 - 3 黄褐色土 ローム主体。白色粒微量。しまり強。
- カマド
- 1 暗褐色土 焼土粒・炭化物・ローム粒少量、粘土粒微量。しまりやや弱。
 - 2 褐色土 粘土粒少量、焼土粒微量。しまり強。(天井崩落土)
 - 3 暗灰褐色土 粘土・焼土粒少量。しまり強。
 - 4 暗褐色土 粘土・焼土粒微量。しまり強。(煙道からの流れ込み)
 - 5 褐色土 ローム塊少量、焼土粒微量。しまり強。
 - 6 暗褐色土 ローム塊少量。しまり強。



第418図 西刑部西原遺跡13区 SI-116実測図・出土遺物

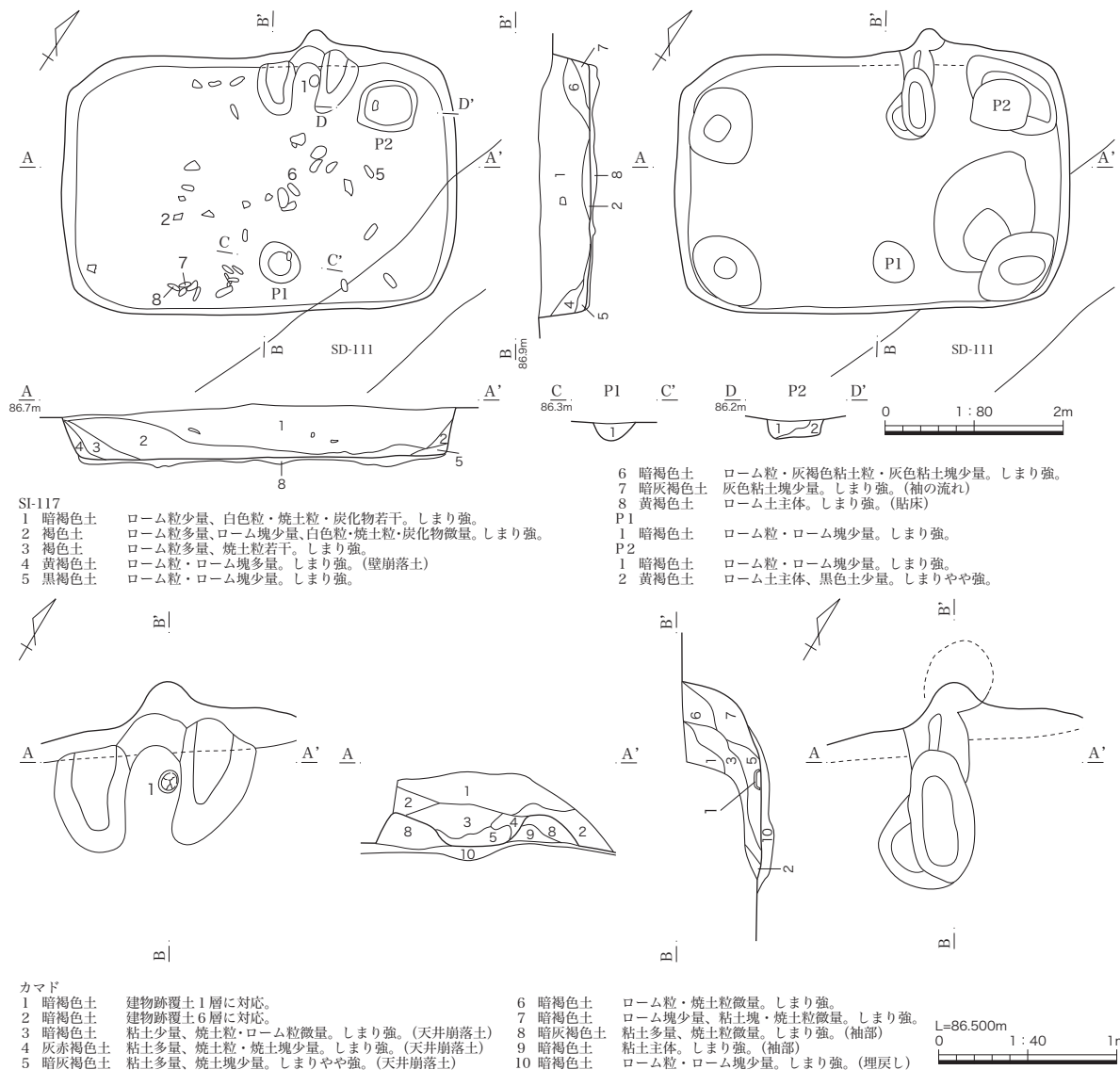
器環。2はSI-115出土の器種不明土器と胎土・焼成共に酷似しており、同一個体と考えられる。不掲載遺物は土器類小破片が10点出土。1の土師器環から奈良時代後葉（8世紀後葉）の建物跡と考えられる。

第184表 13区 SI-116 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器環	口 10.8 高 3.9	口クロ仕上げ。底部外面回転系切り。	内外面とも10YR8/3浅黄橙	やや緻密、白・黒・赤細砂～粗砂 焼成：やや軟質	No 1 25.3	口縁部1/4、底部完存
2	土師器器種不明	高径 [4.0] 12.0	胴部外面ナデのち沈線により施文。弧状の沈線から葉脈のようにさらに細かい弧線状の沈線が描かれている。内面指頭押圧。縦位の透かし彫りは一方向ヘラケズリ。SI-115-2と同一個体か。	内外面とも10YR4/3にぶい黄褐	やや粗い、白・黒・灰細砂～粗砂 焼成：やや硬質	南西	胴部破片

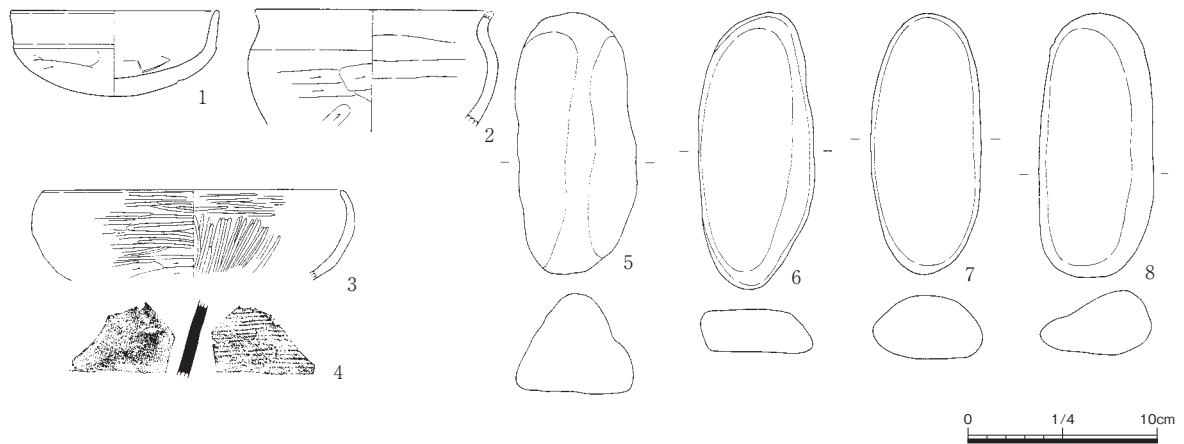
13区 SI-117 (遺構：第419図、遺物：第420図、図版六六・六七・一一〇)

位置 グリッド 98.0-53.5・98.5-53.5・98.5-54 重複遺構 古墳時代終末期の溝 SD-111 より古いか。平面形 隅丸長方形 規模 東西 4.36×南北 3.05 m 主軸方向 N-34° - W 覆土 自然堆積 壁 壁高



第419図 西刑部西原遺跡13区 SI-117 実測図

50～52cm 床 概ね平坦。ほぼ全面に薄い貼床あり。ピット P1(径47～40cm、深さ18cm)は南壁際中央部にあり、入口ピットの可能性もあるか。貯蔵穴 P2(長軸71×短軸61cm、深さ20cm)は北東隅に位置する。壁溝 確認できなかった。掘方 四隅を浅く土坑状に掘り込み、ローム土主体の8層で埋戻す。カマド 北壁中央部やや東寄りに位置し、壁をU字形に掘り込む。焼土は少なく、燃焼部には天井崩落土が堆積する。カマド内の床面からは土師器坏(1)が伏せた状態で単独で出土した。遺物 土師器坏や小型甕、須恵器甕破片、編物石などが出土した。編物石は床面からの出土が多く、法量が均一なものが多い。不掲載遺物は土器類が小コンテナ箱1/5強、礫は20kg近くが確認された。古墳時代終末期(7世紀前葉から中葉)の遺物が多いが、住居跡の規模が小さく、また古墳時代以降の遺物も若干含んでいるなど、やや新しい要素も見られる。



第420図 西刑部西原遺跡13区 SI-117出土遺物

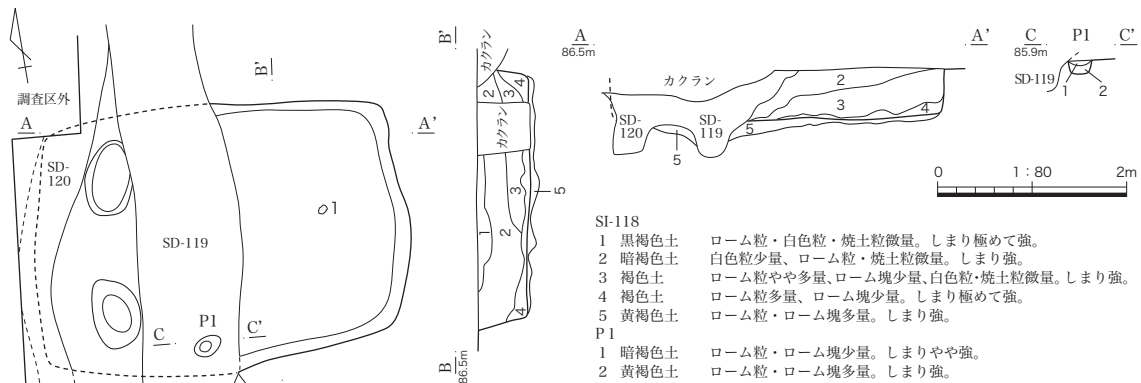
第185表 13区 SI-117出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床直(cm)	残存
1	土師器坏	口 10.8 高 4.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデのちヘラケズリか。体部～底部内面ヘラナデ。内外面漆仕上げ。体部外面剥落顕著。口縁部楕円形に歪む。	内: 7.5YR6/6 橙 外: 7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・赤・黒粗砂 焼成: やや軟質	No. 39 (カマド内) 床直	口縁部完存、体部～底部一部欠損
2	土師器小型甕	口 (12.2) 高 [6.1]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヨコヘラケズリのちヘラナデ。胴部内面ナデ。	内: 10YR4/2 灰黄褐 外: 10YR5/4 にぶい黄褐	やや粗い、白・灰粗砂～礫 焼成: 軟質	No. 6 1.8	胴 1/6
3	土師器坏	口 (7.8) 高 [4.7]	内面口縁部ヨコヘラミガキのち体部入念な放射状ヘラミガキ。口縁部外面ヨコナデのちヨコヘラミガキ。体部～底部外面ヘラケズリのちヘラミガキ。内外面漆仕上げ。混入品か。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	緻密、白・赤細砂 焼成: やや硬質	北西	口縁部 1/8、体部 1/5
4	須恵器甕	高 [4.1] 厚 0.6	外面細かく浅い平行叩き。内面細かく浅い同心円状あて具痕。混入品。	内外面とも 2.5Y6/1 黄灰	緻密、白・灰細砂 焼成: 硬質	北西	胴部破片
5	石器編物石	長 14.0 幅 6.2 厚 5.1 重 603.2	平面形: 楕円形(完形) 断面形: 隅丸の三角形 右側縁にやや凹みあり。紐をかけた可能性あり。	10YR5/4 にぶい黄褐	—	No. 11 床直	完存
6	石器編物石	長 15.0 幅 6.0 厚 2.2 重 351.8	平面形: やや不整な楕円形(完形) 断面形: 隅丸の方形 表裏面とも平坦で器面は平滑だが、人為的に磨いた痕跡はない。	5Y6/2 灰オリーブ	—	No. 19 13.0	完存
7	石器編物石	長 13.8 幅 5.9 厚 3.2 重 372.3	平面形: 楕円形 断面形: 表面はやや丸みを帯び、裏面は概ね平坦くびれ・凹みなどはみられない。	10YR6/3 にぶい黄橙	—	No. 30 床直	完存
8	石器編物石	長 13.9 幅 6.0 厚 3.2 重 385.9	未加工の自然礫。 平面形: 隅の丸い短冊形 断面形: 隅丸三角形	2.5Y6/3 にぶい黄	—	No. 31 床直	完存

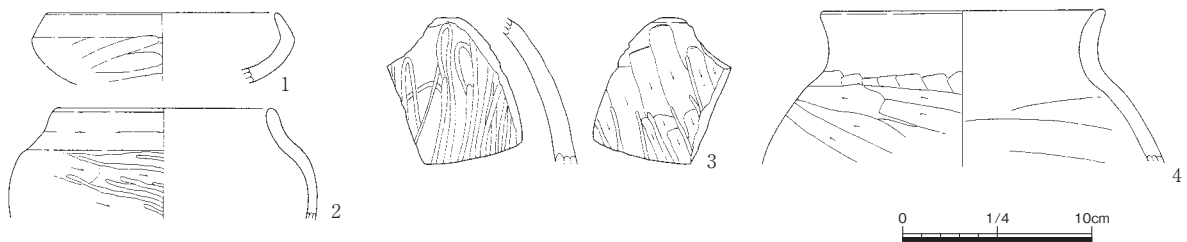
SI-118 (遺構：第 421 図、遺物：第 422 図、図版六七)

位置 グリッド 98.5-54.0・98.0-53.5 重複遺構 SD-119・120 と重複し、いずれの遺構より古い。平面形 中央部から西を大きく欠失するが、東西軸の隅丸長方形と考えられる。規模 東西推定 3.92×南北 2.85 m以上 主軸方向 確認できなかった。覆土 4層からなる自然堆積と考えられる。壁 壁高は 47～52 cm残る。床 ローム地山を床面とする。概ね平坦で、全面に浅く貼床を施す。柱穴 確認できなかった。

入口ピット P1 (径 30～19 cm、深さ 14 cm) は SD-119 に上面を削られるが、位置的に入口ピットと考えたい。貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。掘方 北西部、南西部に土坑状の掘り込みあり。ローム土を多量に含む 5 層で埋戻している。カマド 確認できなかった。SD-119 に削平されたためか。遺物 その殆どが小破片であり、図示可能な遺物は 4 点のみである。3 は内外面にヘラミガキを施す。大型の鉢あるいは甑の可能性もある。不掲載遺物は土師器環・甕胴部破片が主体で、小コンテナ箱 1/5 弱。礫は確認できなかった。古墳時代後期末葉 (6 世紀末から 7 世紀初頭) の建物跡と考えられる。



第 421 図 西刑部西原遺跡 13 区 SI-118 実測図

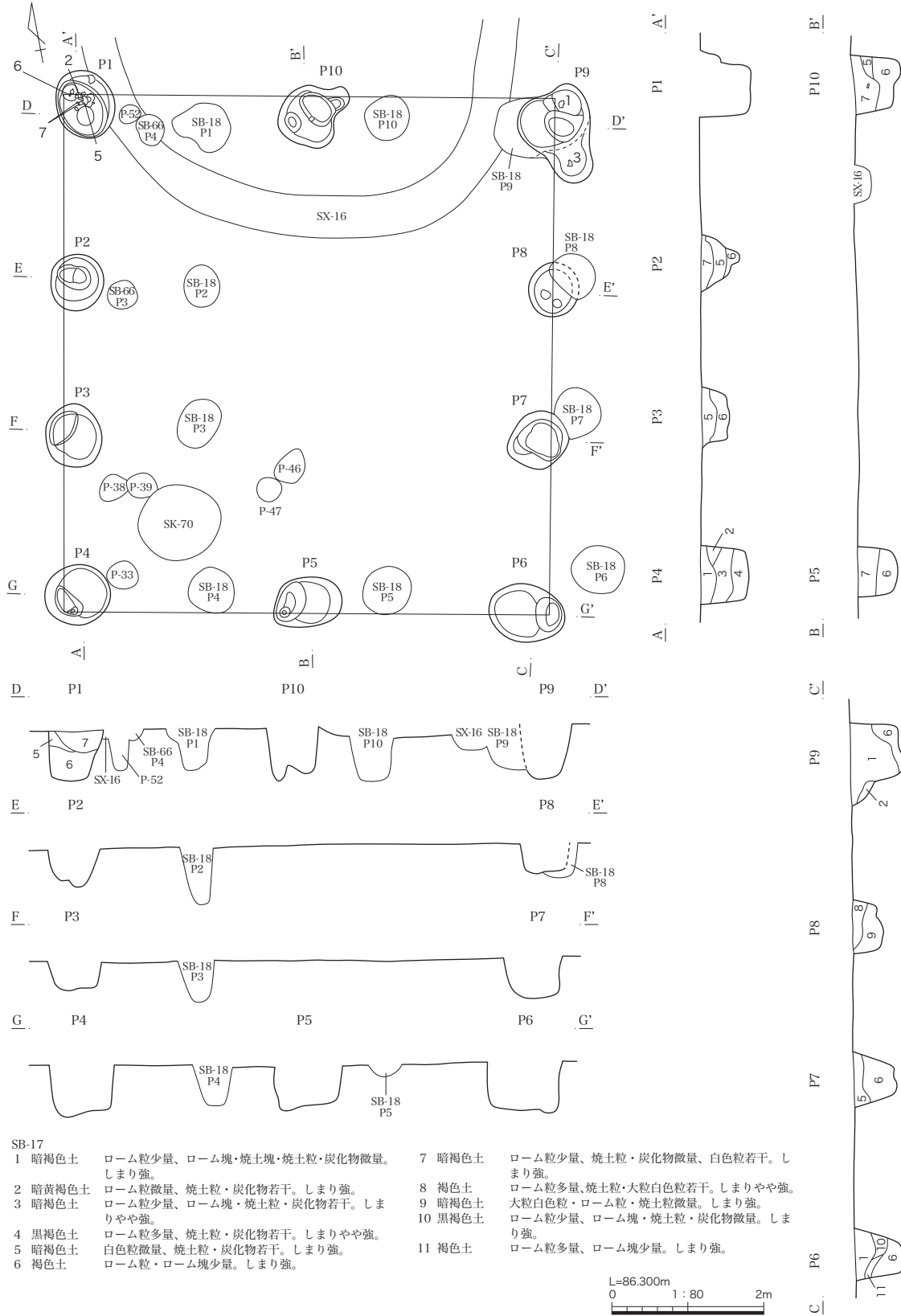


第 422 図 西刑部西原遺跡 13 区 SI-118 出土遺物

第 186 表 13 区 SI-118 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	土師器環	口 (12.0) 高 [3.7]	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面ナデか。内面～口縁部外面漆仕上げ。	内外面とも 5YR7/6 橙	やや粗い、白・赤・黒細砂～粗砂 焼成：軟質	ベルト	口縁部～体部 1/4
2	土師器鉢	口 (11.0) 高 [5.8]	内面～口縁部外面ヨコナデ。体部外面ナメヘラケズリのちヘラミガキ。	内：5YR6/6 橙 外：5YR5/8 明赤褐	やや緻密、白・灰細砂～粗砂 焼成：硬質	南ベルト	口縁部 1/4、体部 上半 1/5
3	土師器鉢か	高 [7.7]	体部内面上半～口縁部外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ。体部外面タテヘラケズリのち疎らなヘラミガキ。大型の鉢か。	内：10YR3/1 黒褐 外：7.5YR6/4 にぶい橙	やや緻密、白・灰・黒粗砂 焼成：硬質	No. 1 1.0	胴部破片
4	土師器甕	口 (14.8) 高 [8.2]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデか (剥落磨滅のため不明瞭)。胴部外面タテヘラナデのちナメヘラケズリ。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	粗い、白・灰粗砂～礫 焼成：軟質	南東	口縁部～胴部 1/8

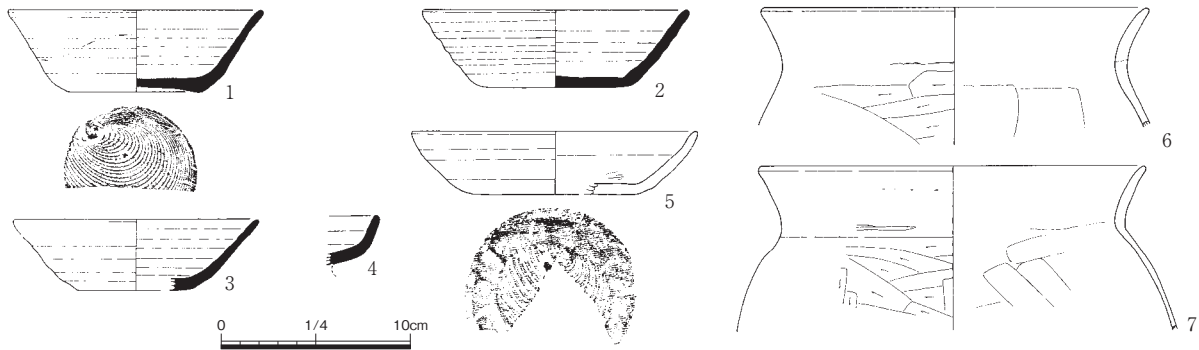
2. 掘立柱建物跡



第423図 西刑部西原遺跡13区 SB-17実測図

13区 SB-17 (遺構：第423図、遺物：第424図、図版六七・一一〇)

位置 グリッド 53.5-101.5 重複遺構 SB-66、SK-70、P-33・38・39・46・47・52 と重複するが、新旧関係は不明。SX-16、SB-18 より新しい。規模・平面形 桁行3間×梁行2間の南北棟側柱式建物。桁行総長6.8m、梁行総長6.4m。柱間 桁行の柱間寸法は南から2.2m+2.1m+2.5m、梁行の柱間寸法は3.2mである。主軸方向 N-11°-E 柱穴 P1 (径90~75cmの楕円形、深さ67cm)、P2 (径73~68cmの円形、深さ47cm)、P3 (径85~72cmの円形、深さ32cm)、P4 (径85~80cmの円形、深さ67cm)、P5 (径94~64cmの楕円形、深さ51cm)、P6 (径98~75cmの楕円形、深さ63cm)、P7 (径79~74cmの不整な円形、深さ59cm)、P8 (径約70cmの円形、深さ37cm)、P9 (径126~76cmの不整楕円形、深さ72cm)、P10 (径98~80cmの不整円形、深さ73cm) が確認された。掘方は大型の楕円形が多いが、柱痕は確認できなかった。遺物 須恵器坏(1・3)はP8覆土中から出土。須恵器坏(2)、土師器坏(5)・甕(6・7)はP1覆土中からそれぞれ出土した。遺物から奈良時代から平安時代の建物跡と考えられる。備考 土層断面では把握できなかったが、調査時の所見では底面の状況から2時期の建替えが行われた可能性が指摘されている。



第424図 西刑部西原遺跡13区 SB-17出土遺物

第187表 13区 SB-17出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器坏	口 (13.2) 底 7.0 高 4.3	内外面ロクロナデ。底部外面回転系切り。体部外面接合痕が顕著。	内：10YR7/3 にぶい黄橙 外：10YR8/4 浅黄橙	やや粗い、白・灰粗砂～礫 焼成：やや硬質	P8 №1 26.5	口縁部 1/2、底部 3/5
2	須恵器坏	口 13.8 底 8.0 高 4.1	内外面ロクロナデ。底部外面一方向ヘラケズリ。体部外面下端ヘラケズリか。新治産。	内：10YR6/1 褐灰 外：10YR4/1 褐灰	やや粗い、白色粒、灰白色礫、雲母片多量 焼成：硬質	P1 №7 28.7	口縁部 1/2、底部 完存
3	須恵器坏	口 (12.6) 底 (6.3) 高 3.8	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのちナデか。	内外面とも 7.5Y5/1 灰	やや粗い、白・灰礫 焼成：硬質	P8 №2 11.9	口縁部 1/6、底部 一部
4	須恵器高台付盤	高 1.9	内外面ロクロナデ。高台部剥落。接合沈線。	内：2.5YR5/2 暗灰黄 外：10YR4/2 灰黄褐	やや緻密、白礫、白色粒、黑色粒 焼成：硬質	覆土中	口縁部～体部 1/12程度か
5	土師器坏	口 (14.8) 底 (8.6) 高 3.6	内外面ロクロナデ。体部内面磨滅のため不明瞭だがヘラミガキか。体部外面下端ヘラケズリにより二次底部面をつくる。底部外面回転系切りのち外周手持ちヘラケズリ。内面黒色付着物あり。漆か。	内：7.5YR8/6 浅黄橙 外：10YR4/2 灰黄褐	やや緻密、白・灰・黒細砂～粗砂 焼成：やや硬質	P1 №2 50.1	口縁部 3/8、底部 1/2
6	土師器甕	口 (20.2) 高 [6.3]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヨコまたはナメヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。	内：5YR4/4 にぶい赤褐 外：5YR5/6 明赤褐	やや緻密、灰・黒細砂～粗砂 焼成：やや硬質	P1 №10 20.1	口縁部～胴部 上半 1/6
7	土師器甕	口 (20.2) 高 [8.7]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。破片左側の黒斑は土器破損後二次的に付いた焦げ跡か。	内：2.5YR5/8 明赤褐 外：5YR5/6 明赤褐	やや緻密、白・灰細砂～粗砂、雲母片 焼成：やや軟質	P1 №3 41.0	口縁部～胴部 上半 1/5

cmの円形、深さ 57.6 cm) である。掘方は円形または楕円形が主で、北東隅柱の P9 が最も大きいと思われるが、SB-17 の P9 に壊されており、全形は不明である。また断面観察から柱痕は確認されなかった。遺物 遺物は少なく、須恵器環(1)・甕(2)が遺構確認面から出土する。また P7 覆土中からは鉄鏃鏃身部の破片が出土している。遺物及び SB-17 との切り合いから、本遺構は奈良時代末から平安時代の建物跡と考えられる。

第 188 表 13 区 SB-18 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技 法 ・ 特 徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	須恵器環	底高 [6.2] [2.4]	内外面ロクロナデ。底部外面回転糸切り。二次底面を有する。	内外面とも 7.5Y5/1 灰	やや緻密、白・灰細砂 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 2/5
2	須恵器甕	高厚 [1.7] [0.8]	内外面ロクロナデ。	内外面とも N5/0 灰	緻密、白・透明細砂 焼成：硬質	覆土中	口縁部一部
3	鉄製品鉄鏃	長幅厚重 [2.2] [0.7] [0.2] [1.3]	鑿箭式の長頸鏃か。鏃身の上半部を欠損するため形状は不明瞭。断面長方形。	—	鉄製	P7 2層中	部分残存

13 区 SB-44 (遺構：第 426 図、図版六八)

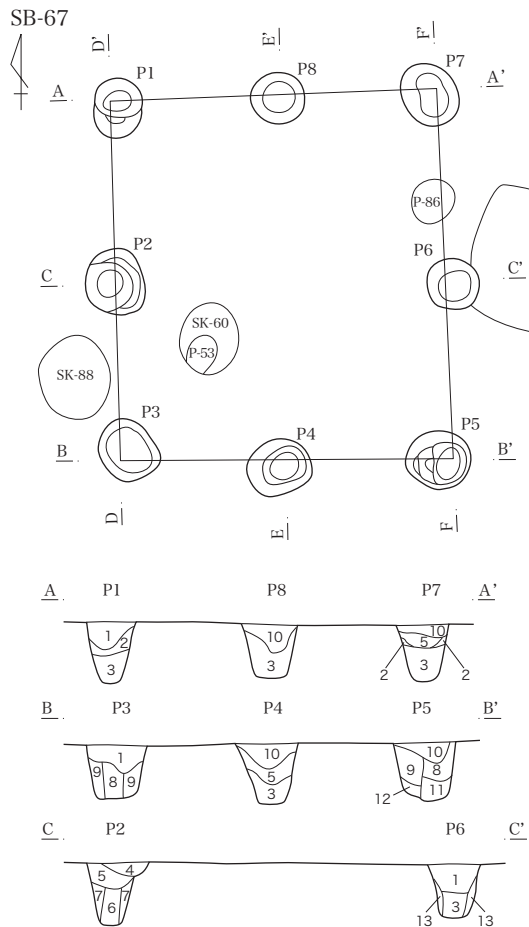
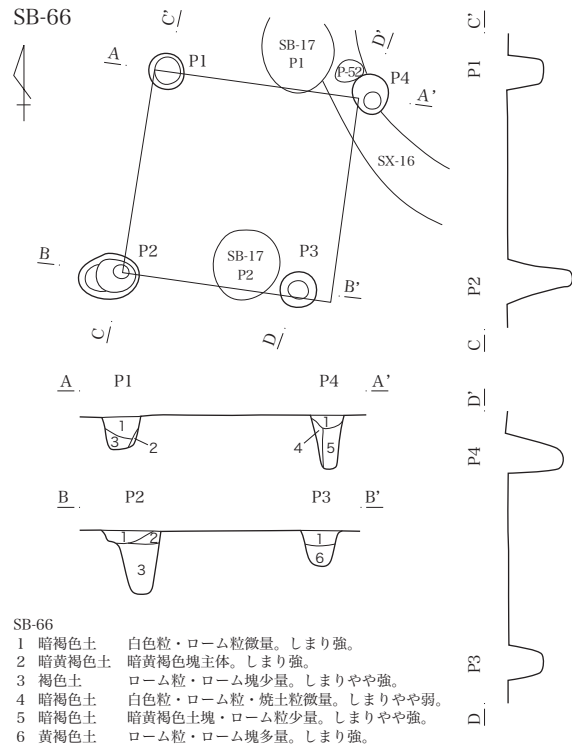
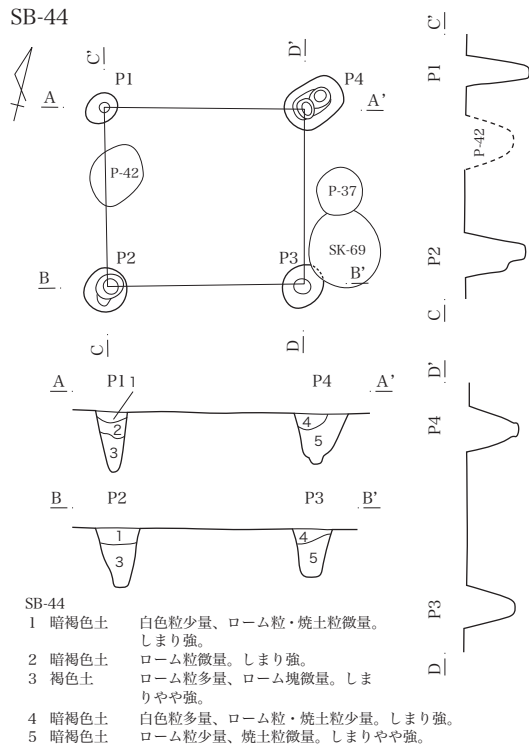
位置 グリッド 54-101.5 重複遺構 SK-69 より古い。P-42 との切り合いは不明。規模・平面形 桁行 1 間 × 梁行 1 間の東西棟側柱式建物跡。桁行総長 2.1 m、梁行総長 1.9 m。柱間 桁行及び梁行の柱間寸法は桁行・梁行総長と同じ。主軸方向 N -75° -E 柱穴 P1 (径 39 ~ 30 cmの楕円形、深さ 65 cm)、P2 (径 46 cmの円形、深さ 63 cm)、P3 (径 48 ~ 44 cmの楕円形、深さ 53 cm)、P4 (径 65 ~ 45 cmの楕円形、深さ 54 cm) である。北西隅の P4 のみ他より大きい長方形を呈する。柱痕は確認できなかった。遺物 遺物は出土しておらず、本遺構の帰属時期は不明である。

13 区 SB-66 (遺構：第 426 図、図版六八)

位置 グリッド 101.5-53.5 重複遺構 SB-17、SX-16、P-52 と重複するが、新旧関係は不明。規模・平面形 桁行 1 間 × 梁行 1 間の側柱式建物跡か。但し柱間が一定しないなど、平面形が乱れており建物の可能性がある遺構として掲載した。桁行総長・梁行総長共に 2.2 m。柱間 桁行及び梁行の柱間寸法は桁行・梁行総長と同じ。主軸方向 N -10° -E 柱穴 P1 (径 38 cmの円形、深さ 37 cm)、P2 (径 64 ~ 48 cmの楕円形、深さ 66 cm)、P3 (径 39 cmの円形、深さ 37 cm)、P4 (径 40 cmの円形、深さ 57 cm) の計 4 本を確認。P4 のみ柱痕が残っていた。遺物 確認できなかったため、時期は不明である。

13 区 SB-67 (遺構：第 426 図、図版六八・六九)

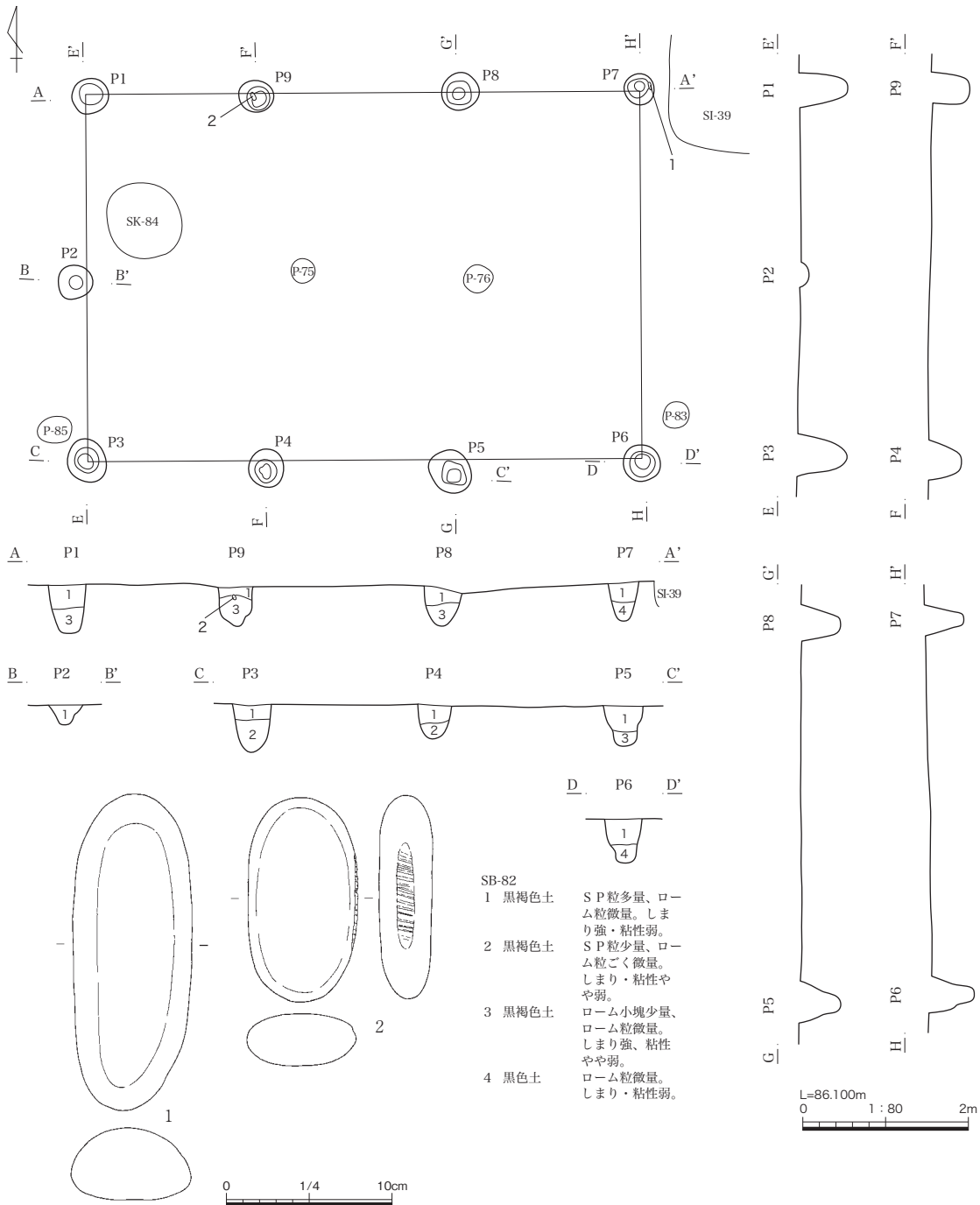
位置 グリッド 101.0-53.0 重複遺構 SK-60、P-53・86 との重複関係は不明。SK-73 より新しい。規模・平面形 桁行 2 間 × 梁行 2 間の南北棟側柱式建物跡。桁行総長 4.0 m、梁行総長 3.5 m。柱間 桁行の柱間寸法は 2 m、梁行の柱間寸法は 1.75 m。主軸方向 N -1° -W 柱穴 P1 (径 63 ~ 51 cmの楕円形、深さ 51 cm)、P2 (径 72 ~ 65 cmの楕円形、深さ 67 cm)、P3 (径 66 ~ 63 cmの不整円形、深さ 62 cm)、P4 (径 69 ~ 61 cmの不整楕円形、深さ 64 cm)、P5 (径 67 ~ 61 cmの円形、深さ 62 cm)、P6 (径 54 cmの円形、深さ 59 cm)、P7 (径 70 ~ 56 cmの楕円形、深さ 59 cm)、P8 (径 56 cmの円形、深さ 56 cm) の計 8 本を確認。このうち P2・3・5・6 から柱痕が確認されており、推定される柱の直径は 17 ~ 20 cm である。遺物 本建物からは時期判別可能な遺物は出土しなかった。



第426図 西刑部西原遺跡13区 SB-44・66・67 実測図

13区 SB-82 (遺構・遺物：第427図、図版六九)

位置 グリッド100.5-54.0 重複遺構 SK-84、P-75・76との重複関係は不明。 規模・平面形 桁行3間×梁行2間の東西棟側柱式建物。桁行総長6.4m、梁行総長4.4m。 柱間 桁行の柱間寸法は東から2.2m+2.2m+2.3m、梁行の柱間寸法は3.2mである。 主軸方向 N-90°-E 柱穴 P1(径約45cmの円形、深さ60cm)、P2(径41cmの不整形円形、深さ27cm)、P3(径53~45cmの不整形円形、深さ52cm)、



第427図 西刑部西原遺跡13区 SB-82実測図・出土遺物

P4（径45cmの円形、深さ41cm）、P5（径54～48cmの楕円形、深さ50cm）、P6（径45cmの円形、深さ55cm）、P7（径37cmの円形、深さ47cm）、P8（径45cmの円形、深さ45cm）、P9（径約40cmの円形、深さ44cm）の計9本の柱穴が調査されたが、柱痕は確認できなかった。また東妻柱列の棟持柱は確認できなかった。遺物 遺物は石器2点が確認されたのみで、時期判別可能な遺物は出土していない。

第189表 13区 SB-82出土遺物観察表

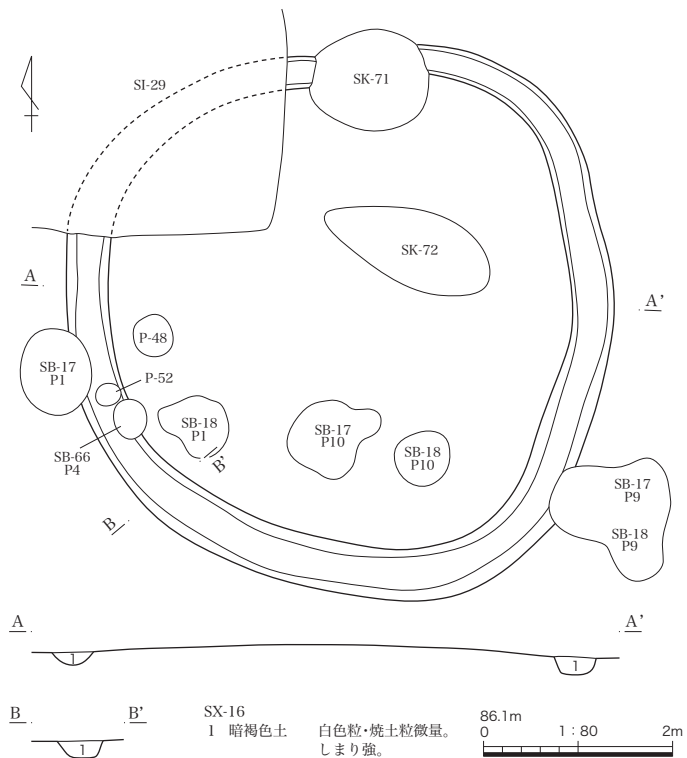
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	石器 編物石	長 19.1 幅 7.2 厚 43.0 重 929.9	未加工の自然礫。 平面形：楕円形 断面形：楕円形	2.5Y7/1 灰白	—	P9 9.7	完存
2	石器 砥石か	長 13.2 幅 6.6 厚 3.2 重 407.4	右側面に深い擦痕あり。砥石か。器面全体に研磨した痕跡あり。	N6/O 灰	—	P7 25.6	完存

3. 円形周溝遺構

13区 SX-16（遺構：第428図、図版六九）

位置 グリッド101.5-53.5・102.0-53.5 重複遺構 7世紀中葉の建物跡 SI-29、8世紀代の掘立柱建物跡 SB-17・18・66、SK-71・72と重複する。SB-17・18より古いと考えられるが、他の遺構との明確な切り合いは不明。

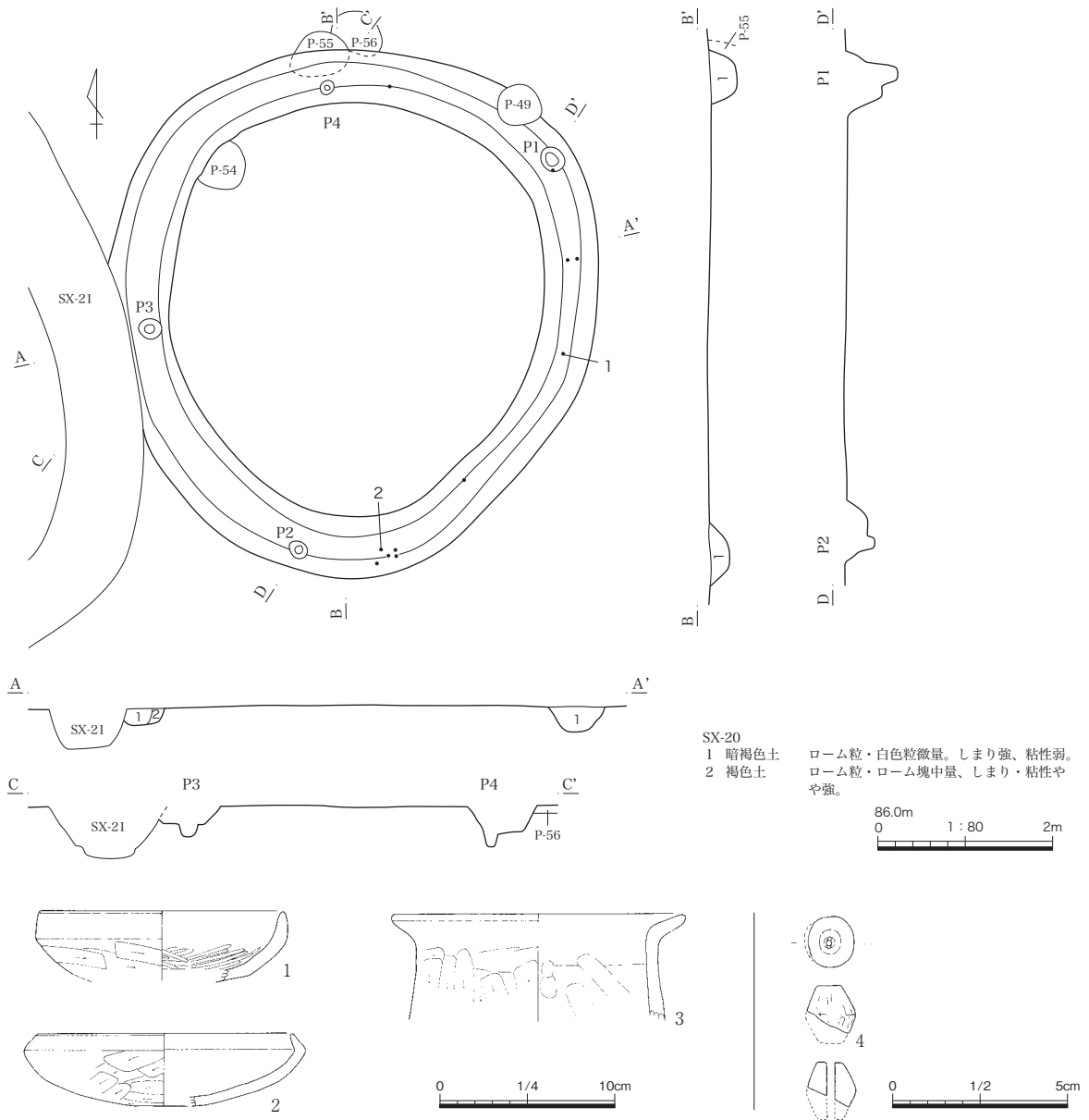
規模・平面形 長径：外5.87m：内5.05m～短径：外5.68m：内4.81m、溝の上幅42～54cmの不整な円形。覆土 暗褐色土単層で、自然体積と考えられる。壁・断面形 壁の残りが少ないため、不明瞭だが、概ね直線的に立ち上がる。壁高は最も浅い北部で6cm、南部から東部にかけてやや深く、14～18cm残る。底面 細かな凹凸があるが、概ね平坦。ピット 確認できなかった。遺物 確認できなかったが、遺構の形態・覆土の様子から古墳時代後期の遺構と考えられる。



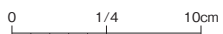
第428図 西刑部西原遺跡13区 SX-16実測図

13区 SX-20 (遺構・遺物：第429図、図版六九・一一〇)

位置 グリッド100.5-53.5 重複遺構 円形周溝遺構SX-21より古い、P49・54～56との新旧関係は不明である。 規模・平面形 長径：外6.0m：内5.5m～短径：外4.75m：内4.18m、上幅約62～76cmの不整な円形を呈する。 覆土 暗褐色土および褐色土からなる2層に分層される。 壁・断面形 壁高は西部で17～20cmと浅く、東部は25cm前後、最も深い北東部は39cm残る。断面形は丸みをもった逆台形を呈する部分が多い。 底面 部分的に工具痕が残り、やや凹凸が多い。 ピット 底面にはP1(径約25cm、深さ19cm)、P2(径23cm、深さ10cm)、P3(径23cm、深さ17cm) P4、(径16cm、深さ18cm)の計4か所にピットが見られるが、覆土の様子は確認できなかった。 遺物 覆土中から土師器杯・甕・甑などの小破片70点が出土し、このうち4点を図示した。1は東部の覆土下層、床上3cmから出土した土師器杯で内面にミガキを施す。4は切子玉を模した土玉で、北西部覆土中から出土した。遺物から7世紀中葉の遺構と考えたい。



SX-20
 1 暗褐色土 ローム粒・白色粒微量。しまり強、粘性弱。
 2 褐色土 ローム粒・ローム塊中量、しまり・粘性やや強。



第429図 西刑部西原遺跡13区 SX-20 実測図・出土遺物

第190表 13区 SX-20 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技 法 ・ 特 徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	土師器 坏	口 (13.8) 高 4.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラナデか。体部内面不定方向の雑なヘラミガキ。	内：7.5YR7/6 橙 外：10YR8/4 浅黄橙	やや粗い、白・灰・黒細砂 焼成：やや軟質	№5 3.0	口縁部 1/4、底部 1/10
2	土師器 坏	口 (14.3) 高 [4.1]	内面及び口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリのちヘラナデ。体部内面黒色付着物あり。漆か。焼成時の歪み大きい。	内：10R5/6 赤 外：5YR3/1 黒褐	やや粗い、白・灰粗砂 焼成：やや硬質	№9 18.6	口縁部 1/8、体部 1/6
3	土師器 甕	口 (16.2) 高 [5.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラナデ。胴部内面ナナメヘラナデ・指頭押圧。	内：10YR6/4 にぶい黄橙 外：10YR6/3 にぶい黄橙	やや粗い、白・灰・黒細砂～粗砂 焼成：硬質	d区、西ベルト	口縁部～胴部 1/6
4	土製品 土玉	径 1.4 厚 [1.3] 孔 0.21-0.27 重 1.51	鈎錘状あるいは切子玉状を呈する。中央部に稜をもつがあまり明瞭ではない。孔は上面から穿孔。ヘラミガキのち漆仕上げしたものか。	内：7.5YR2/1 黒 外：7.5YR5/4 にぶい褐	緻密、白微細砂 焼成：やや硬質	d区、覆土中	1/2

13区 SX-21 (遺構・遺物：第430図、図版六九・七〇・一一〇)

位置 グリッド 110.5-53.0・100.5-53.5 重複遺構 円形周溝遺構 SX-20・22、P-89 より新しい。SK-19・75 より古い。SK-76、P-3・57・58・74 との切り合いは不明。 規模・平面形 長径：外 7.84 m：内 6.96 m、短径：外 7.02 m：内 5.11 m、溝の上幅 80～100 cm の不整な隅丸長方形。 覆土 褐色土及び暗褐色土からなる 3 層に分層。 壁・断面形 壁は直線的で、断面形は隅丸台形、壁高は 46～51 cm。 底面 概ね平坦だが、溝に直交する工具痕を明瞭に残す。 ピット 北東隅に P1 (径 23～43 cm、深さ 36 cm)、東部に P2 (長軸 120×短軸 43 cm の長方形、深さ 15 cm) の計 2 か所の掘り込みあり。 遺物 古墳時代後期の土師器甕・坏類及び須恵器甕破片が少量出土し、このうち 2 点を図示した。いずれも覆土下層から出土しているが SX-20・22 から混入した可能性もある。

13区 SX-22 (遺構・遺物：第431図、図版七〇)

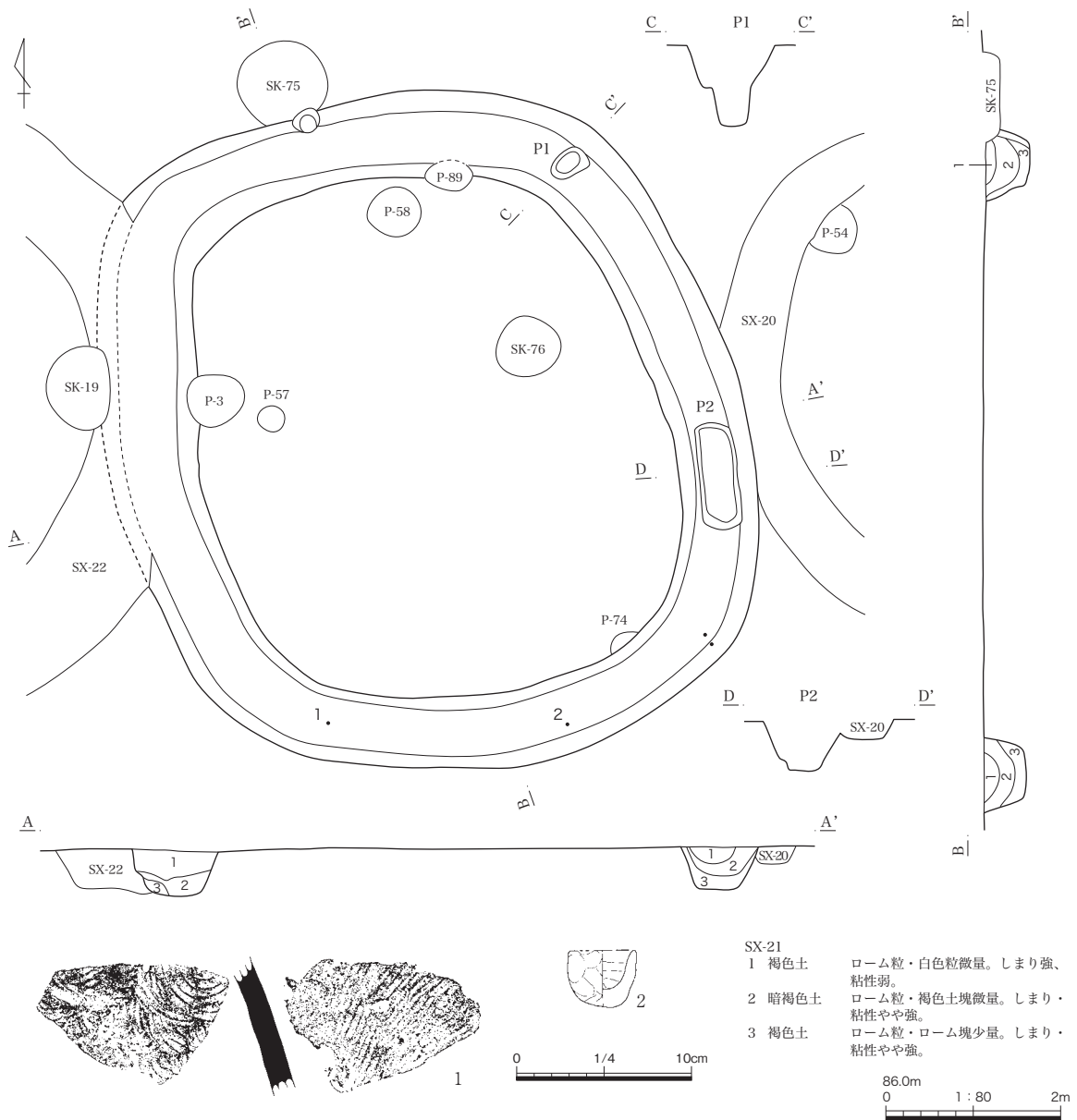
位置 グリッド 100.5-53.0 重複遺構 SK-19、SD-6・23、SX-21 と重複し、本遺構が最も古い。P-4・5・77～80 との新旧関係は不明。 規模・平面形 長径：外 5.6 m 以上、短径：外 7.0 m：内 4.6 m、溝の上幅 1.0～1.23 m。南西部 1/3 が調査区外となるが楕円形を呈するものか。 覆土 褐色土及び暗褐色土を主体とし、自然堆積と考えられる。 壁・断面形 壁高は最深部で 43 cm、断面形は逆台形。 底面 溝に直交する 2 列の工具痕を明瞭に残す。 遺物 僅かに土師器 1 点が出土した。小型の坏で内外面漆仕上げである。古墳時代終末期の遺物であるが、遺物が少なく不明瞭である。

13区 SX-25 (遺構：第433図、図版七〇)

位置 グリッド 101.0-52.5・101.0-53.0 重複遺構 SD-23 より古い。 規模・平面形 南北径：外 6.16 m：内 4.84 m。溝の上幅 57～78 cm。西半分が調査区外となるが、平面形は円形もしくは楕円形か。 覆土 自然堆積か。褐色土及び暗褐色土主体の 4 層からなる。 壁・断面形 壁高は最深部で確認面から 32 cm、断面形は逆台形。 底面 所々に工具痕を明瞭に残す。 遺物 出土遺物は確認できなかったため、明確な時期は不明だが、古墳時代後期から終末期の遺構と考えられる。

13区 SX-34 (遺構：第433図、遺物：第432図、図版七〇・一一〇)

位置 グリッド 102.0-53.5 重複遺構 SX-28 規模・平面形 長径：外 5 m 以上、短径：外 4.81 m：内 4.25 m。溝の上幅 54～90 cm。東端部が調査区外となり不明だが、不整な隅丸三角形を呈するものか。 覆土 白色粒子を含む暗褐色土主体で、自然堆積と考えられる。 壁・断面形 壁高 20～26 cm。断面形は逆台形を

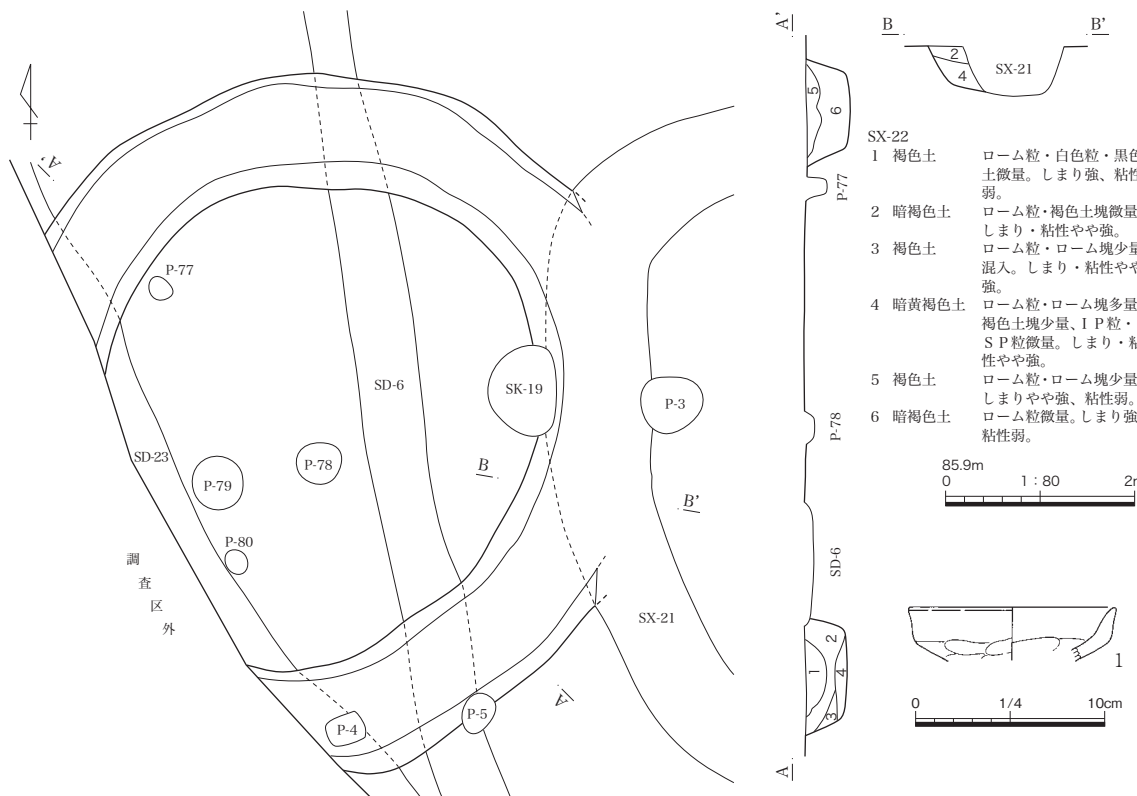


第430図 西刑部西原遺跡13区 SX-21 実測図・出土遺物

第191表 13区 SX-21 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床土(cm)	残存
1	須恵器甕	厚 1.3 口 (10.6)	外面平行叩き。内面同心円状あて具痕。破面の一部が被熱している。焼成時に甕を安定させるために挟んだ破片か。	内：N2/O黒 外：N4/O灰	やや粗い、白・灰粗砂～礫 焼成：硬質	No.4 4.4	底部付近破片
2	土師器 手捏ね 土器	口 (3.6) 高 3.2 厚 1.3	外面指頭押圧及びナデ。内面指ナデ。	内：10YR5/2 灰黄褐 外：7.5YR6/6 橙	緻密、白・黒微細砂 焼成：やや硬質	No.3 15.1	口縁部一部、体部～底部 1/2

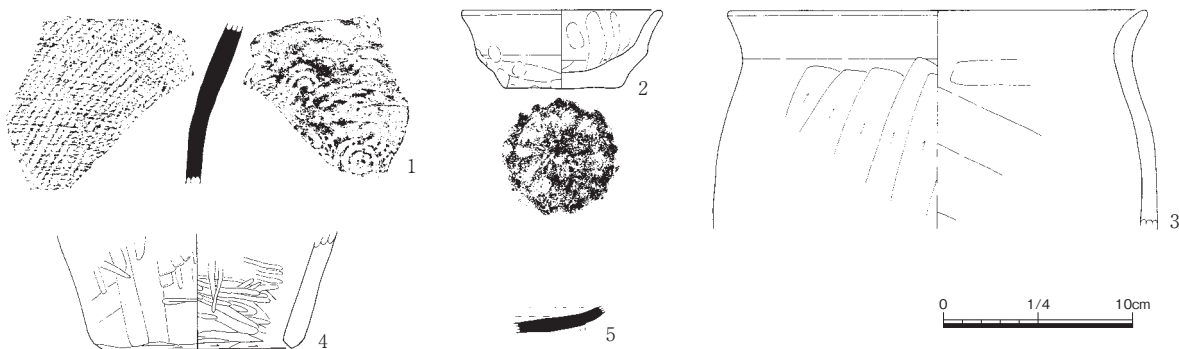
呈する。底面 若干の凹凸あり。遺物 周溝北部の覆土中から遺物が14点出土した。いずれも破片で残存度は低いが、このうち4点を図示した。1は格子叩きのある須恵器甕、2は土師器粗製坏、3は土師器甕、4は内面が磨かれた土師器甕である。遺物から、本遺構は古墳時代後期前半のものと考えられる。



第431図 西刑部西原遺跡13区 SX-22 実測図・出土遺物

第192表 13区 SX-22 出土遺物観察表

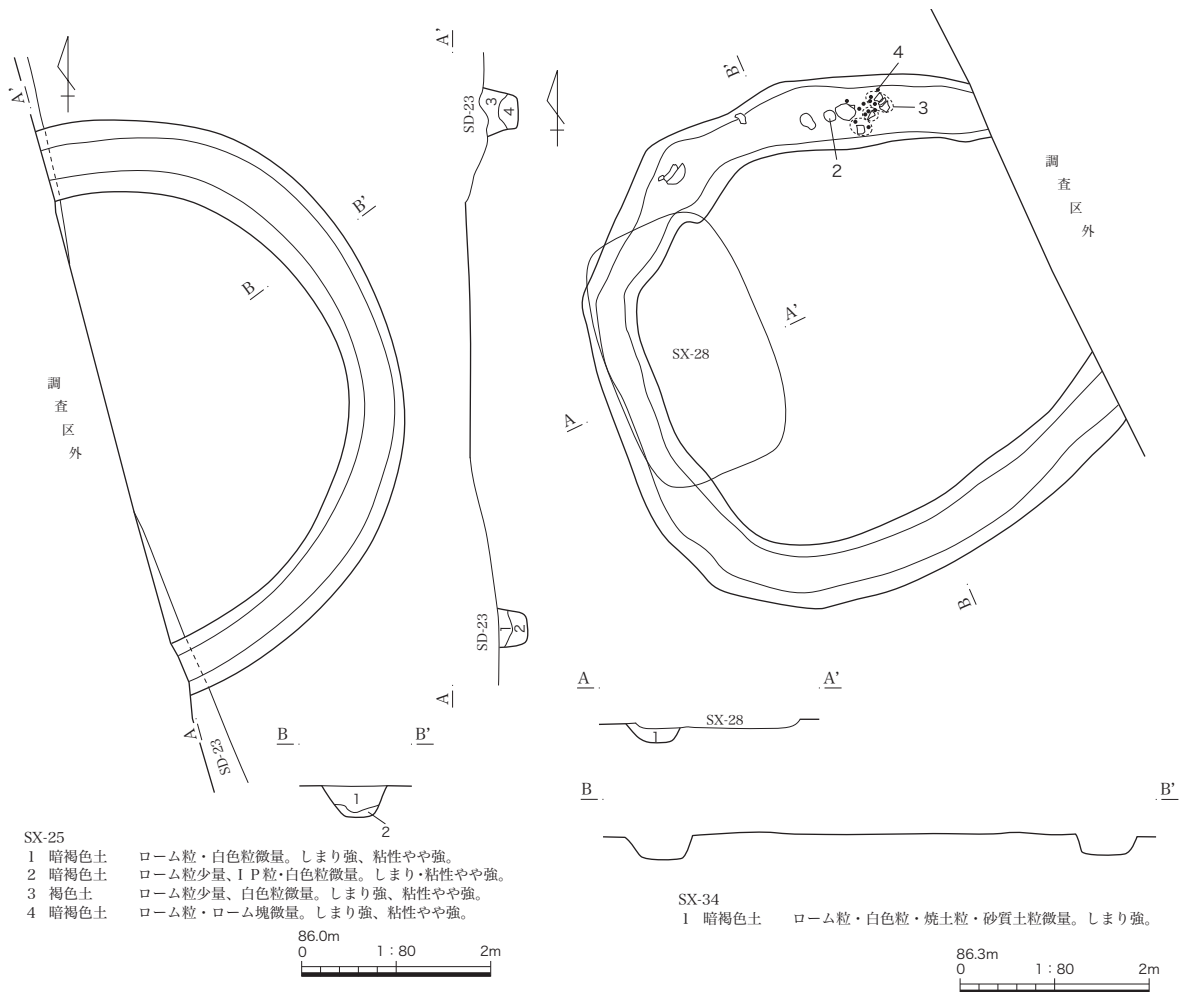
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 坏	口 (10.6) 高 [2.8]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外ヘラナデ。体部外面磨滅のため不明瞭だがナデか。内外面漆仕上げ。	内：10YR7/3 にぶい黄橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、灰粗砂 焼成：やや硬質	覆土中	体部～口縁部 1/4



第432図 西刑部西原遺跡13区 SX-34 出土遺物

第193表 13区 SX-34 出土遺物観察表

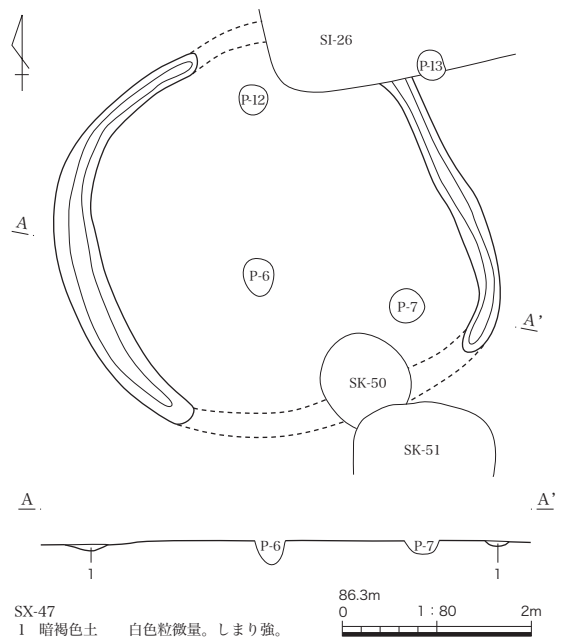
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 甕	高 [9.0]	胴部外面ナメ格子叩き。胴部内面同心円状あて具痕のちヨコヘラナデ。	内：10YR6/1 赤灰 外：10YR7/1 灰白	やや粗い、白・黒細砂 焼成：硬質	覆土中	胴部破片
2	土師器 粗製坏	口 (10.2) 底 6.0 高 4.1	口縁部内面～体部内面ヨコナデ。底部内面ヘラナデ。口縁部外面ヨコナデ。体部外面～底部外面指頭押圧及びナデ。全体的に雑なつくりで歪みあり。	内：5YR7/6 橙 外：5YR6/6 橙	緻密、白粗砂、赤色粒 焼成：軟質	No.5 5.7	口縁部～体部 1/4、底部完存
3	土師器 甕	口 (21.8) 高 [11.5]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ナメヘラナデ。	内外面とも 10YR7/4 にぶい黄橙	やや粗い、白・灰・黒粗砂 焼成：やや軟質	No.11、北 18.3	口縁部 1/8、胴部上半 1/5
4	土師器 甕	底 (10.0) 高 [6.3]	胴部外面タテヘラナデのち疎らなヘラミガキ。胴部内面強いヘラナデのちやや入念なヘラミガキ。底部(端部)はヘラケズリで調整。	内：5YR5/6 明赤褐 外：5YR6/6 橙	緻密、微粒砂、白色粒、赤色粒 焼成：硬質	No.10 10.2	底部 1/4



第433図 西刑部西原遺跡13区 SX-25・34実測図

13区 SX-47 (遺構：第434図、図版七一)

位置 グリッド 102.0-53.0 重複遺構 SI-26より古い。SK-50、P-6・7・12との重複関係は不明。規模・平面形 長径：外5.36m：内4.04m、短径：外4.81m：内4.25m、溝の上幅20～43cm。不整な隅丸方形に近い。上面が深く削られた結果、溝が一部欠失している。覆土 白色粒子を含む1層が確認され、自然堆積と考えられる。壁・断面形 壁高は最深部で12cm。断面形はカマボコ状、或いは皿状を呈する。底面 やや凹凸を有する。出土遺物 出土遺物は確認されなかったため、明確な帰属時期は不明であるが、古墳時代以降に建てられた可能性が高い。



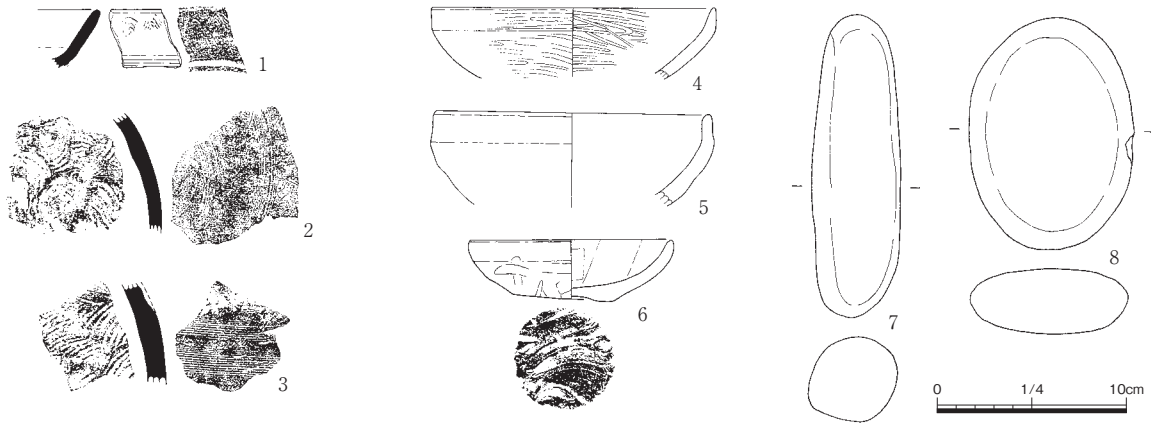
第434図 西刑部西原遺跡13区 SX-47実測図

13区 SX-98 (遺構：第436図、遺物：第435図、図版七一・一一〇)

位置 グリッド 54.0-97.0・55.0-97.0 重複遺構 9区 P-104、SX-29、13区 SK-104、SD-95 より古いと思われる。規模・平面形 長径：外12.6m：内9.76m、短径：外9.4m：内6.8m、溝の上幅は1.18～1.6mである。本遺構は、東は9区西は13区に分けて調査したもので、平面形は東西に長い楕円形を呈する。

覆土 自然堆積か。ローム粒子を多量含む、褐色土及び黒褐色土からなる。壁・断面形 確認面から50～71cm。底面 凹凸が顕著。北東部の底面は段を有し、周辺より一段低くなっている。ピット P1 (長軸75cm×短軸50cm、底面からの深さ42cm)は北西部の周溝に対し直角に掘られる。ローム塊主体の黒褐色土で、しまりは弱く人為的埋戻しか。

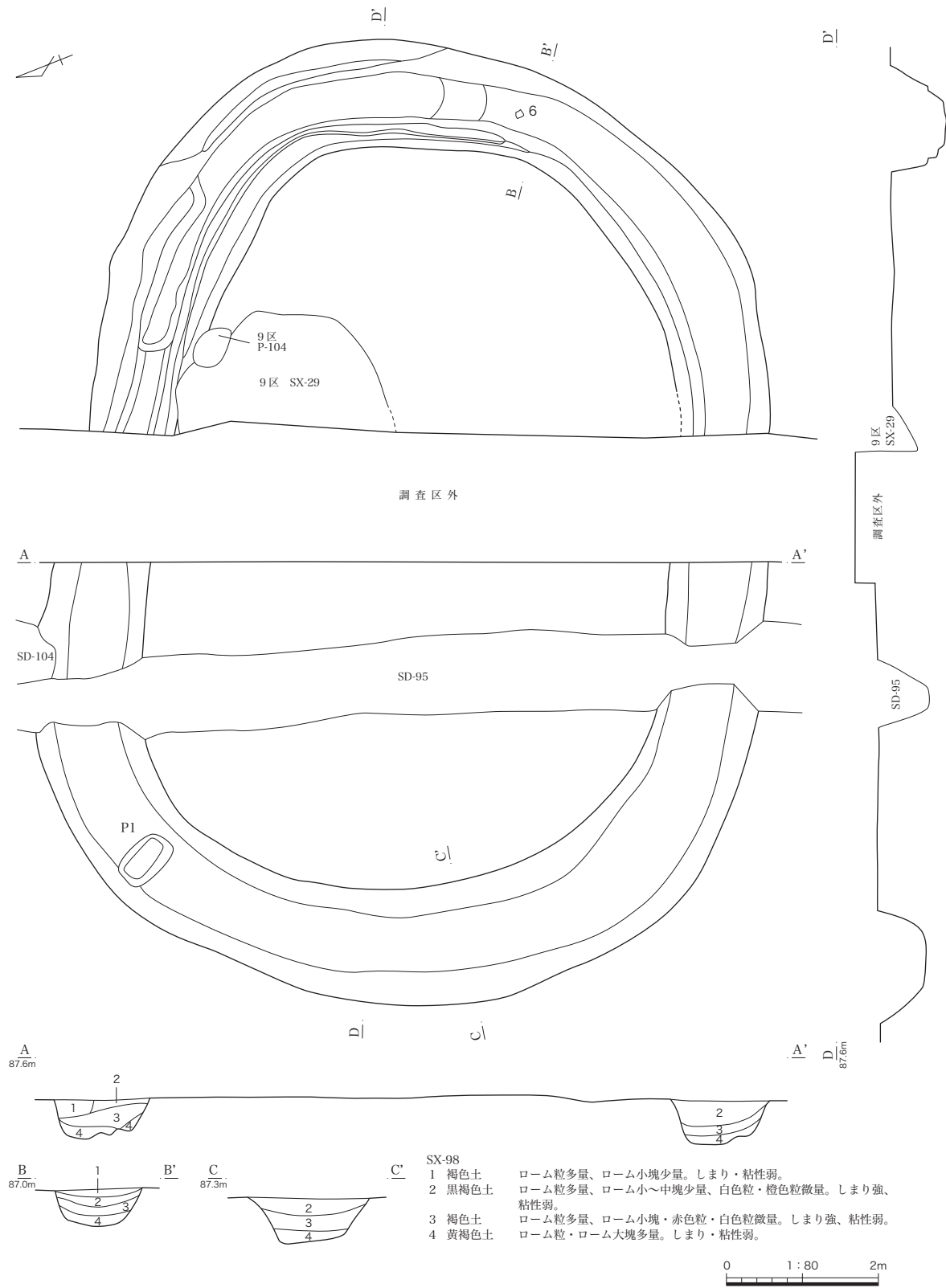
遺物 総量は小コンテナ約1/4箱で、土師器甕・坏類の小破片が主体となる。このうち8点を図示した。1は須恵器甕の口縁部破片。極めて浅く不明瞭だが、櫛描波状文がみられる。2はフラスコ瓶か。3は瓶類の肩部破片と考えられる。いずれも内面には同心円状あて具痕が見られる。4・5は土師器坏。4は内外面に入念なヘラミガキを施す。5は底部外面が静止糸切りの土師器粗製坏である。この他礫(7・8)が少量出土した。遺物から古墳時代終末期の遺構と考えられる。



第435図 西刑部西原遺跡13区 SX-98 出土遺物

第194表 13区 SX-98 出土遺物観察表

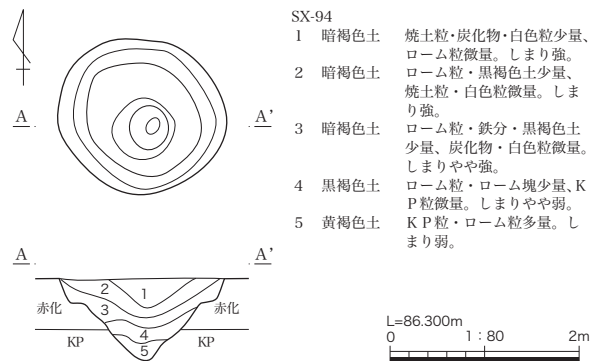
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器甕	高 [3.2]	口縁部に5～6本単位の櫛描波状文が認められるが磨滅のため不明瞭。頸部には低い帯状の隆帯が巡る。	内：5Y7/1 灰白 外：5Y6/1 灰	やや緻密、白・灰細砂 焼成：やや硬質	北	口縁部破片
2	須恵器フラスコ瓶か	高 [6.5]	外面に同心円状の細かなカキ目を施す。内面同心円状あて具痕。	内：2.5GY4/1 暗オリーブ灰 外：N4/0 灰	やや粗い、白・灰粗砂、礫少量 焼成：硬質	北	胴部破片
3	須恵器瓶類	高厚 [5.5] 1.1	外面は水平方向のカキ目が見られる。内面は同心円状あて具か。	内：5Y4/2 灰オリーブ 外：5Y5/2 灰オリーブ	やや粗い、灰・白粗砂 焼成：硬質	北	胴部破片
4	土師器坏	口 (14.8) 高 [4.7]	内外面入念な横方向または斜方向のヘラミガキ。内外面黒色処理か。	内：10YR3/1 黒褐 外：2.5Y3/1 黒褐	緻密、白・灰細砂 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部～体部 1/7
5	土師器粗製坏	口 (14.4) 高 [4.9]	内外面及び口縁部外面ヨコナデ。体部外面磨滅のため調整不明。底部外面静止糸切り。	内：5YR7/6 橙 外：7.5YR7/6 橙	緻密、白・灰細砂、赤色 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部～体部上半 1/8
6	土師器粗製坏	口底 10.6 高 5.5 高 3.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデのちナデ。体部外面指頭押圧のちナデ。底部外面静止糸切り。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	緻密、白・灰細砂、赤色 焼成：やや軟質	No.1 53.9	口縁部1/4、底部完存
7	石器編物石	長 15.9 幅 4.7 厚 4.4 重 526.3	未加工の自然礫。平面形：棒状 断面形：円形	5Y6/2 灰オリーブ	—	周溝覆土	ほぼ完形
8	石器編物石	長 12.1 厚 3.3 重 455.0	縄文時代の磨石の可能性あり。平面形：楕円形 断面形：楕円形	2.5Y6/3 にぶい黄	—	周溝覆土	ほぼ完形



第436図 西刑部西原遺跡13区 SX-98実測図

4. 円形有段遺構

13区 SX-94 (遺構：第437図、図版七一)
 位置 グリッド 99.0-54.5 重複遺構 無し。規模・平面形 東西 1.75 m、南北 1.65 mの楕円形。
 覆土 5層に分層。自然堆積だが、上層部出土の礫は投棄された可能性あり。壁・断面形 壁面は僅かな凹凸をもち、底面は幅狭の平坦面をもつ。
 壁高 確認面から土坑底面まで 0.2 m、小穴底面まで 0.86 m。底面 土坑底面は長径 1.55×短径 1.36 mの不整な楕円形で、底面には長径 1.26×短径 1.06mの不整楕円形のピットを掘る。断面形は深さ 0.64mの円錐状で、壁面は KP 層に達する。
 遺物 時期判別可能な遺物は出土しなかったが、円形有段遺構は南方約 180m に 3区 SK-45 と宇都宮調査 E区 SK-17 が、更に 330 m南には 7区 SK- 7 が位置し、いずれも 8世紀中葉に位置付けられている。



第437図 西刑部西原遺跡 13区 SX-94 実測図

5. 性格不明遺構

13区 SX-28 (遺構・遺物：第438図、図版七〇)
 位置 グリッド 102.0-53.5 重複遺構 SX-34 より新しい。規模・平面形 長軸 2.76×短軸 1.64 mの隅丸長方形。覆土 白色粒子、焼土、炭化物を含む暗褐色土 1層。自然堆積。壁・断面形 壁高 8～15 cm 残。底面から丸みをもって立つ。底面 概ね平坦。貼床無し。遺物 須恵器坏底部破片 1点出土。底部外面回転ヘラ切り。備考 小型の竪穴建物の可能性もあるが、柱穴・カマドは確認できない。

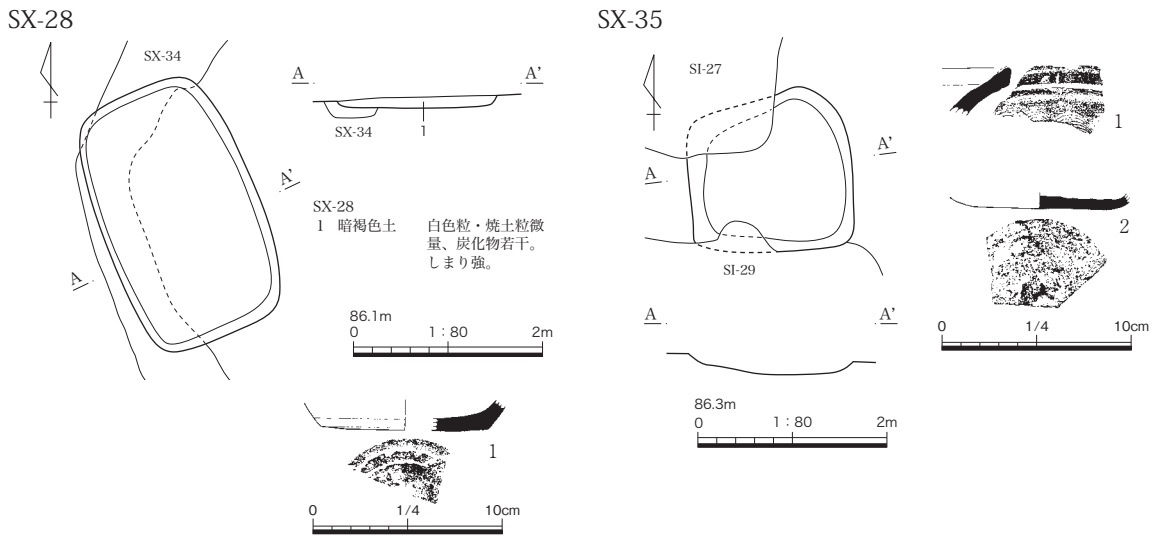
13区 SX-35 (遺構・遺物：第438図、図版七〇)
 位置 グリッド 102.0-53.5 重複遺構 SI-27・29 より新しい可能性が高い。規模・平面形 長軸 1.8×短軸 1.68 mの不整な隅丸長方形。覆土 白色粒子、焼土、炭化物を含む暗褐色土単層。自然堆積。壁・断面形 壁高は 11～20 cm 残る。立ち上がりは緩やか。底面 概ね平坦で貼床。硬化面は未確認。遺物 覆土中より 2点出土した。1は須恵器甕口縁部破片で、櫛描波状文が見られる。2は須恵器坏底部破片である。
 備考 SX-28 同様小型の竪穴建物の可能性もあるが、柱穴・カマドは確認できない。

第195表 13区 SX-28 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器坏	底 (8.7) 高 [1.6]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。	内外面とも 7.5Y5/1 灰	緻密、白・灰粗砂 焼成：硬質	南	底部 1/4

第196表 13区 SX-35 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器甕	高 [3.7]	口縁部内外面(ロクロ)ナデ。僅かに肥厚する口縁直下には沈線が巡る。以下、櫛描波状文が一部みられる。	内外面とも N2/O 黒	やや粗い、白細砂～礫 焼成：硬質	覆土中	口縁部破片
2	須恵器坏	底 (8.0)	ロクロ仕上げ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。モミ圧痕あり。底部内面に若干研磨痕あり。	内：N3/O 暗灰 外：N4/O 灰	やや粗い、細砂～礫、白色粒 焼成：硬質	覆土中	底部 2/5

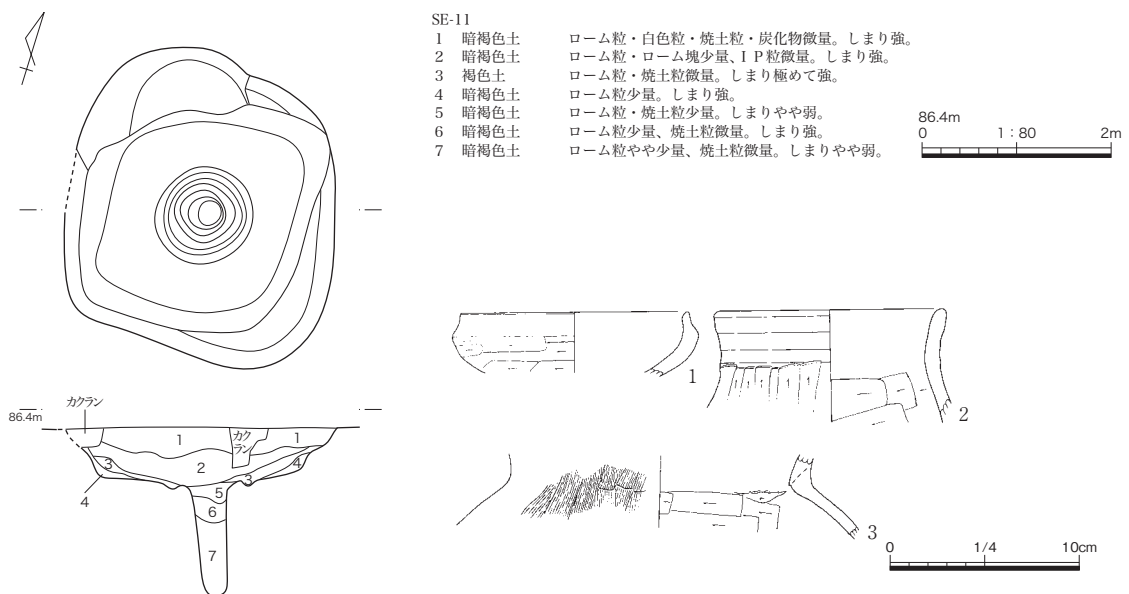


第 438 図 西刑部西原遺跡 13 区 SX-28・35 実測図・出土遺物

6. 井戸

13 区 SE-11 (遺構・遺物：第 439 図、図版七一)

位置 グリッド 102.0-53.0 重複遺構 無し。 規模・形態 有段の井戸。開口部は東西 2.94 ~ 南北 3.38 m の隅丸方形で、深さ 54 cm。底面中央の井筒開口部周縁には、外径約 1 m、幅約 15 cm の溝が環状に掘られる。井戸枠を設置した痕跡と考えられる。井筒の開口部は径約 50 cm、断面形は筒状で徐々に窄まる。壁 壁高は確認面から 1.82 m である。底面 丸みを帯び平坦面は無し。覆土 自然堆積と考えられる。焼土を含む土層が多い。遺物 覆土中から出土した遺物を全て図示した。1 は土師器坏、2 は小型の甕、3 はハケ目調整の球胴甕である。遺物が少なく断定できないが、古墳時代終末期の可能性はある。



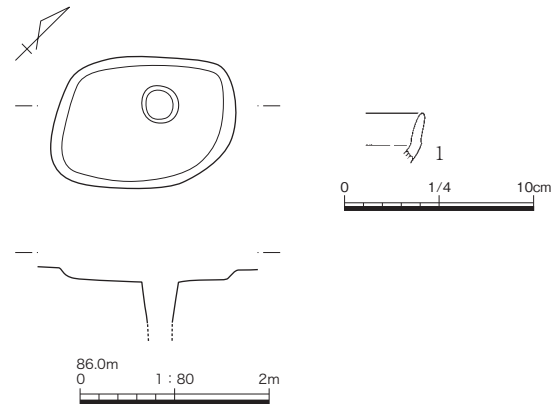
第 439 図 西刑部西原遺跡 13 区 SE-11 実測図・出土遺物

第 197 表 13 区 SE-11 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 坏	口 (11.8) 高 [3.4]	内面～口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内：2.5Y3/1 黒褐 外：7.5YR6/6 橙	やや緻密、白・灰・黒細砂、赤色粒 焼成：やや硬質	北東	口縁部～体部 1/4
2	土師器 甕	口 (11.8) 高 [5.9]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。	内：10YR8/4 浅黄橙 外：7.5YR8/6 浅黄橙	やや緻密、黒細砂、赤色粒 焼成：硬質	覆土中	口縁部一部、胴上半部 1/5
3	土師器 甕	頸 12.4 高 [4.2]	外面細かなタテハケ目。内面ヨコヘラナデ一部ヨコヘラケズリ。被熱のため外面磨滅著しい。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：10YR8/4 浅黄橙	やや粗い、白・灰粗砂 焼成：やや軟質	南東、北東	頸部 1/6

13 区 SE-81 (遺構・遺物：第 440 図、図版七一・七二)

位置 グリッド 100.0-54.0 重複遺構 無し。
規模・形態 有段の井戸。開口部は東西 1.95 ～ 南北 1.39 m の不整な隅丸長方形。深さ約 10 cm である。井筒部は中心を外れた位置に開口し、直径は 34 cm である。壁 確認面から約 60 cm の深さで調査を終了したため底面の様子は不明である。覆土 井筒部には暗褐色土が堆積。人為埋戻しか自然堆積かは判別できなかった。遺物 覆土中から 1 の土師器坏口縁部破片 1 点のみが出土。遺物は古墳時代終末期のものである。



第 440 図 西刑部西原遺跡 13 区 SE-81 実測図・出土遺物

第 198 表 13 区 SE-81 出土遺物観察表

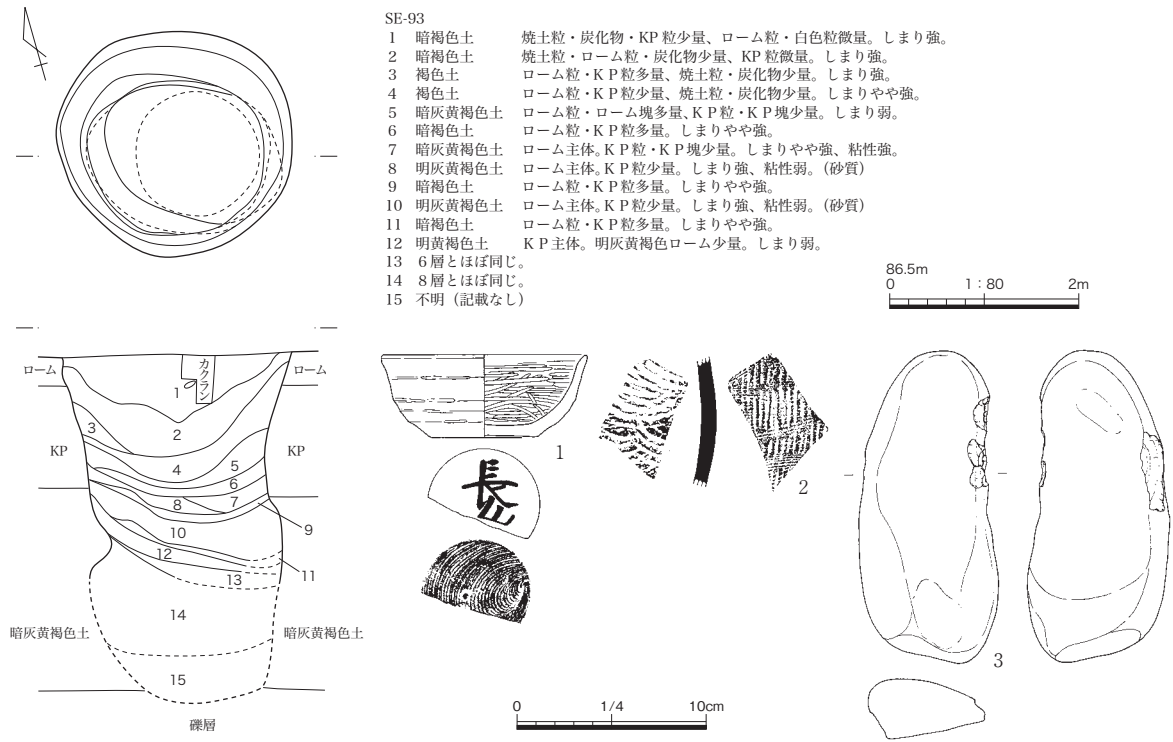
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 坏	高 [2.6]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内外面とも 2.5Y3/2 黒褐	やや緻密、白細砂 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部～体部 1/8

13 区 SE-93 (遺構・遺物：第 441 図、図版七二)

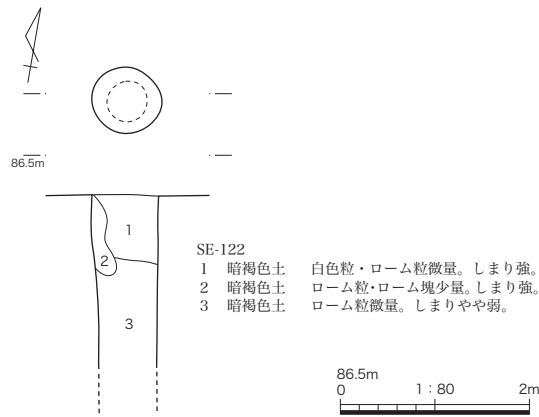
位置 グリッド 100.0-54.5 重複遺構 無し。規模・形態 大型の素掘りの井戸。開口部は東西 2.38 ～ 南北 2.43 m の不整な円形を呈する。壁・断面形 確認面からの深さは 3.64 m。断面形はは徐々に窄まる円筒状か。オーバーハング部分は所々崩落したものか。底面 礫層まで掘り込む。底面は概ね平坦。覆土 自然堆積か。壁面からの崩落土及び廃絶後の流入土がレンズ状に堆積する。遺物 覆土中から少量の遺物が出土。1 はロクロ成形の土師器坏。内面は入念に磨かれ、黒色処理される。底部外面には長口の墨書がある。2 は須恵器甕破片。3 は編物石か。本遺構の時期は、1 の土師器坏から奈良時代後葉の井戸と考えたい。

第 199 表 13 区 SE-93 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 坏	口 (10.8) 底 (5.6) 高 4.2	ロクロ仕上げ。内面ヘラミガキのち黒色処理。外面ロクロ目部分のみ弱いヘラミガキ。底部外面回転切りのち墨書「長口」あり。	内：10Y2/1 黒 外：10YR7/6 明黄褐	緻密、灰・白細砂 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 1/2、 底部 1/2
2	須恵器 甕	高 [5.9]	内面同心円状あて具痕。外面平行叩きのちカキ目。混入品か。	内外面とも N5/0 灰	やや緻密、白粗砂 焼成：硬質	覆土中	胴部破片
3	石器 編物石	長 16.5 幅 6.2 厚 3.8 重 598.4	右側上半部にはやや細かな剥離。左側面中央部やや上りの位置には 1 回ないし 2 回の剥離を行っている。引っかかりを付ける加工か。平面形：不整な楕円形 断面形：不整な三角形	7.5Y6/1 灰	—	覆土中	部欠



第441図 西刑部西原遺跡13区 SE-93 実測図・出土遺物



第442図 西刑部西原遺跡13区 SE-122 実測図

13区 SE-122 (遺構：第442図)

位置 グリッド 99.5-54.0・54.5 重複遺構 切り合う遺構はないが、北に奈良時代後葉の竪穴建物跡 SI-89 が近接する。規模・形態 平面形は直径0.72mの円形を呈する。素掘りの井戸だが、上面の開口部が削平されて井筒部が残った可能性もある。壁・断面形 壁高は確認面から深さ1.8mで終了したため、底面の様子は確認できなかった。断面形は直線的な筒状の形状を保っていた。覆土 自然堆積と考えられる。2層は壁の崩落土か。3層はしまりが弱く、井戸廃絶後、短時間で埋没した可能性が高い。

遺物 確認されなかったため、遺構の帰属時期は不明である。

7. 溝

13区SD-6（遺構・遺物：第443図、図版七二）

位置 グリッド X=100.5～103.0、Y=52.5～53.0 重複遺構 SI-2・12、SX-22、SD-23より古い。規模・形態 長さ52m以上、上幅0.55～1.6m。南北に伸び部分的に蛇行する。壁・断面形 壁高12～22cmと浅く、断面皿状を呈する。底面 概ね平坦。覆土 白色・ローム・焼土・炭化物粒を含む単層で、自然堆積と考えられる。遺物 床面直上の遺物は皆無である。また図示した遺物の他にハケ調整の球胴甕破片があり、こちらは中期まで遡る可能性がある。遺構の重複関係から推定すると古墳時代後期のSI-12、古墳時代終末期のSI-2より古い時期の溝である可能性が高い。

13区SD-23（遺構・遺物：第445図、図版七二）

位置 グリッド X=100.0～102.0、Y=52.0～53.0 重複遺構 SX-22・25、SD-6より新しく、SK-5より古い。規模・形態 長さ64m以上、幅1.6m。調査区の区画に沿って南北に伸びる。壁・断面形 壁高22～38cm、断面形は皿状。底面 北部の底面は船底状で平坦面はない。南部は調査区外のため不明。覆土 暗褐色土主体。自然堆積と考えられる。遺物 遺物は極めて少なく、図示した土師器小型壺1点が出土したのみである。古墳時代後期から終末期の円形周溝遺構より新しいが、明確な時期は不明である。

13区SD-49（遺構：第444図、図版七二）

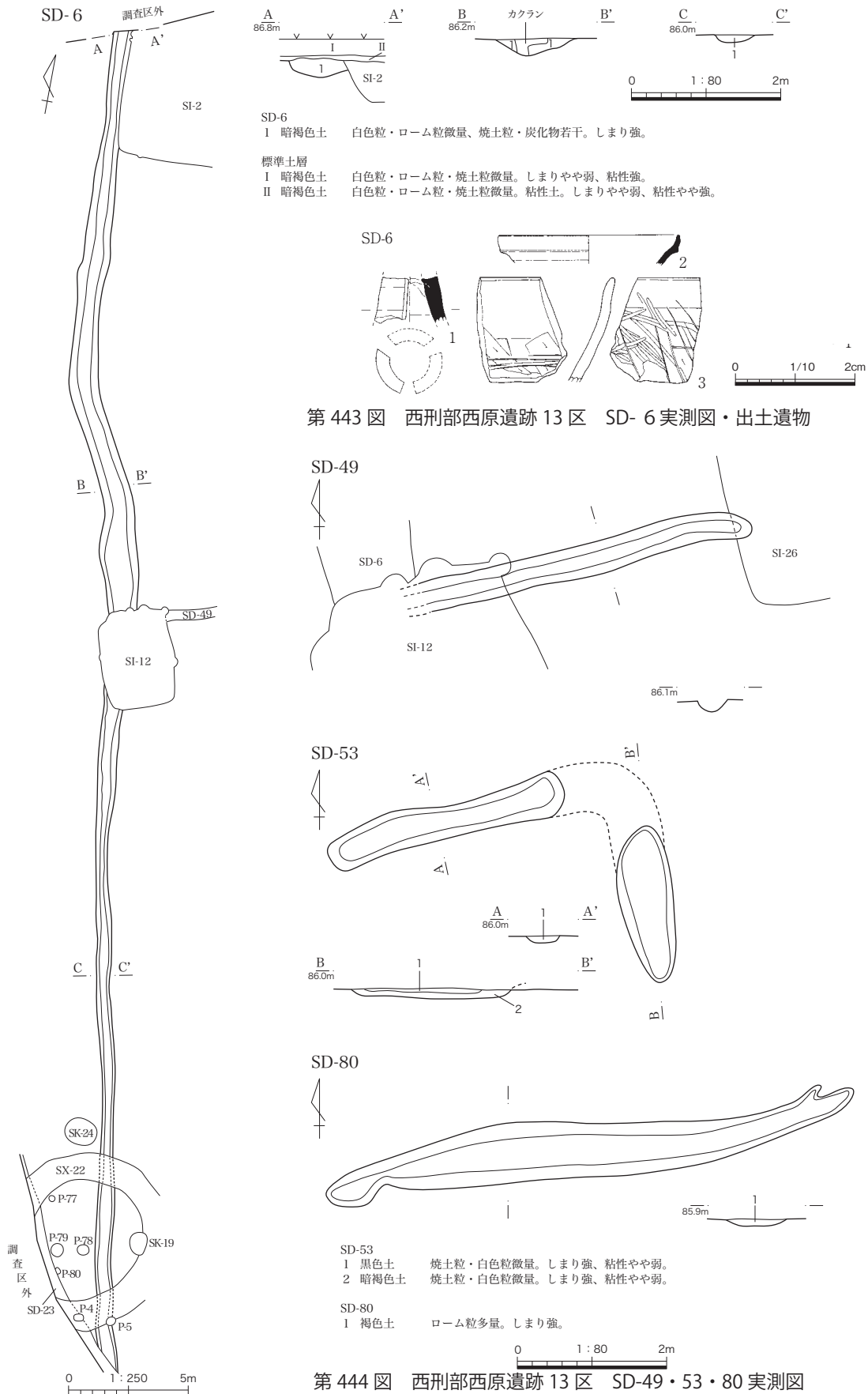
位置 グリッド 102.0-53.0 重複遺構 SI-12・26より新しい。規模・形態 長さ3.9m以上、幅0.41m。東部はSI-26内で完結するが更に東に伸びる可能性もある。壁・断面形 壁高は16～22cm残る。断面はカマボコ状。底面 概ね平坦。覆土 確認できなかった。遺物 古墳時代終末期の建物跡SI-26より新しいが、遺物が出土しなかったため、遺構の時期は不明である。

13区SD-53（遺構：第444図、図版七二）

位置 グリッド 101.5-53.0 重複遺構 無し。規模・形態 東西6.65m以上、南北2.1m以上、上幅0.48～0.75m。L字型に曲がる。壁・断面形 壁高8～16cm。断面は皿状。底面 概ね平坦である。覆土 白色粒子を含む黒色土及び暗褐色土で自然堆積と考えられる。遺物 遺物は出土しなかったため、溝の時期は不明である。

13区SD-80（遺構：第444図、図版七三）

位置 グリッド 99.5-53.5 重複遺構 無し。規模・形態 長さ7.1m以上、最大幅0.8m、蛇行しながら東西方向に伸びる。壁・断面形 壁高は10cm前後、断面は皿状である。底面 若干の凹凸がある。覆土 自然堆積か人為埋戻しかは判別不能。遺物 遺物は出土しなかったため、溝の時期は不明である。



第200表 13区 SD-6 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器高坏	厚 1.0 高 [3.1]	内外面ロクロナデ。三方透かしの高坏脚部破片。	内：5B3/1 暗青灰 外：10YR4/1 灰	やや粗い、白・透明・灰 細砂～粗砂 焼成：硬質	A区	脚部破片
2	須恵器甕	口 (11.8)	ロクロナデ。口縁部は外反したのち小さく内湾する。内面は荒れている。外面薄く自然釉付着。	内：N4/0 灰 外：N2/0 黒	やや粗い、白・灰粗砂、 白色粒多量 焼成：硬質	A区	口縁部 1/8
3	土師器鉢あるいは甑	長 7.0 幅 5.5 厚 0.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラナデのち沈線(平行沈線・半截竹管)を施す。体部外面ヘラナデのち細く鋭い沈線施したのちヘラミガキ。沈線は刀子のような鋭い工具を使用。	内外面とも 7.5YR7/6 橙	やや緻密、白・赤細砂 焼成：硬質	B区	口縁部～胴部破片

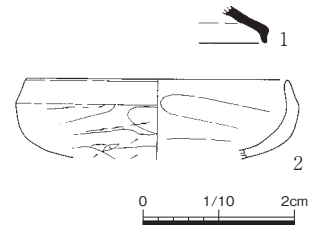
第201表 13区 SD-23 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器小型壺	口 (8.6) 高 [2.6]	口縁部内外面ヨコナデ。頸部内面ヘラケズリか。	内：10YR7/3 にぶい黄橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	やや粗い、灰・白粗砂～礫 焼成：やや軟質	覆土中	頸部破片

13区 SD-95 (遺構：第446図、遺物：第447図、図版七三)

位置 グリッド X=96.5～98.5、Y=54.5～55.0 重複遺構

SX-98より新しく、SK-104より古い。SI-97は不明。規模・形態 長さ37.8m、上幅0.85～1.22m。調査区の壁際に沿って南北に延びる。壁・断面形 壁高は最深部で68cm、断面形は逆台形。底面 部分的に底面に直交する工具痕が残る。覆土 下層はややしまりが強く、上層はしまりが弱い。遺物 覆土中から土師器坏や須恵器蓋の小破片が出土するが混入品の可能性あり。近現代の溝の可能性はある。



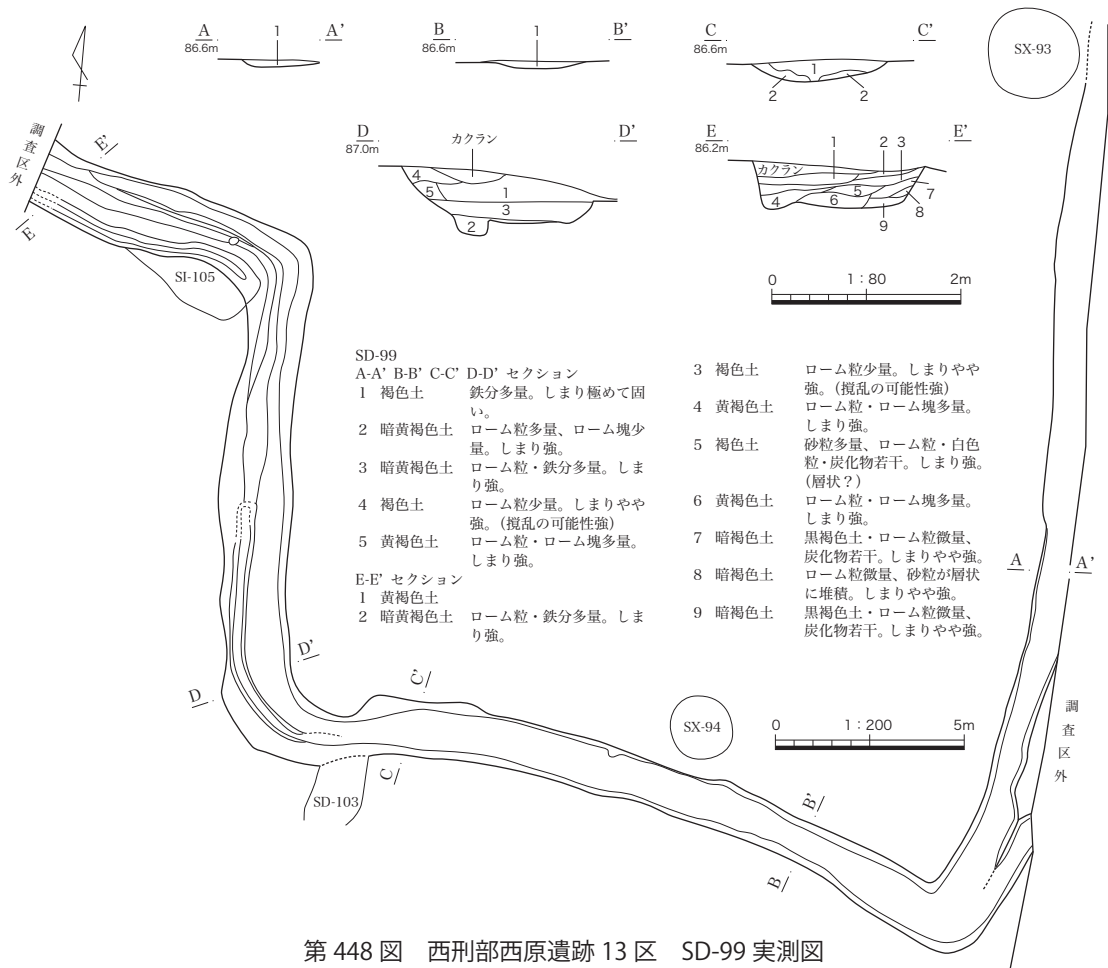
第447図 西刑部西原遺跡13区 SD-95 出土遺物

第202表 13区 SD-95 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器蓋	高 [1.9]	内外面ロクロナデ。端部つまみ上げ。	内外面とも 2.5GY5/1 オリーブ灰	やや緻密、白・灰細砂 焼成：硬質	覆土中	端部破片
2	土師器坏	口 (13.6) 高 [4.2]	口縁部内外面ヨコナデ。内面ナデ。体部外面上半部ナデ。下半部ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内：10YR3/1 黒褐 外：10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、白細砂 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 1/5

13区 SD-99 (遺構：第448図、図版七三)

位置 グリッド X=98.5～100.0、Y=53.5～55.0 重複遺構 古墳時代終末期のSI-105より新しい。SD-103との切り合いは不明である。規模・形態 総延長62m以上、上幅1.1～2.2m。調査区東部では壁際に沿うが、調査区内を鍵の手状に曲がり西壁へ抜ける。壁・断面形 壁高は調査区東部では極めて浅いが、西部に行くにつれ深くなり40～50cmの深さを有する。E-E'断面では溝を掘り直した形跡が見られる。底面 細かな凹凸が残る。覆土 レンズ状に分層される部分は自然堆積と考えられるが、D-D'断面は水平に堆積する部分がある。鉄分の沈着が認められ、水が流れたか或いは沈殿した可能性がある。遺物 殆ど遺物が出土していないため明確な時期は不明である。



第448図 西刑部西原遺跡13区 SD-99 実測図

13区 SD-103 (遺構・遺物：第449図、図版七三・一一三)

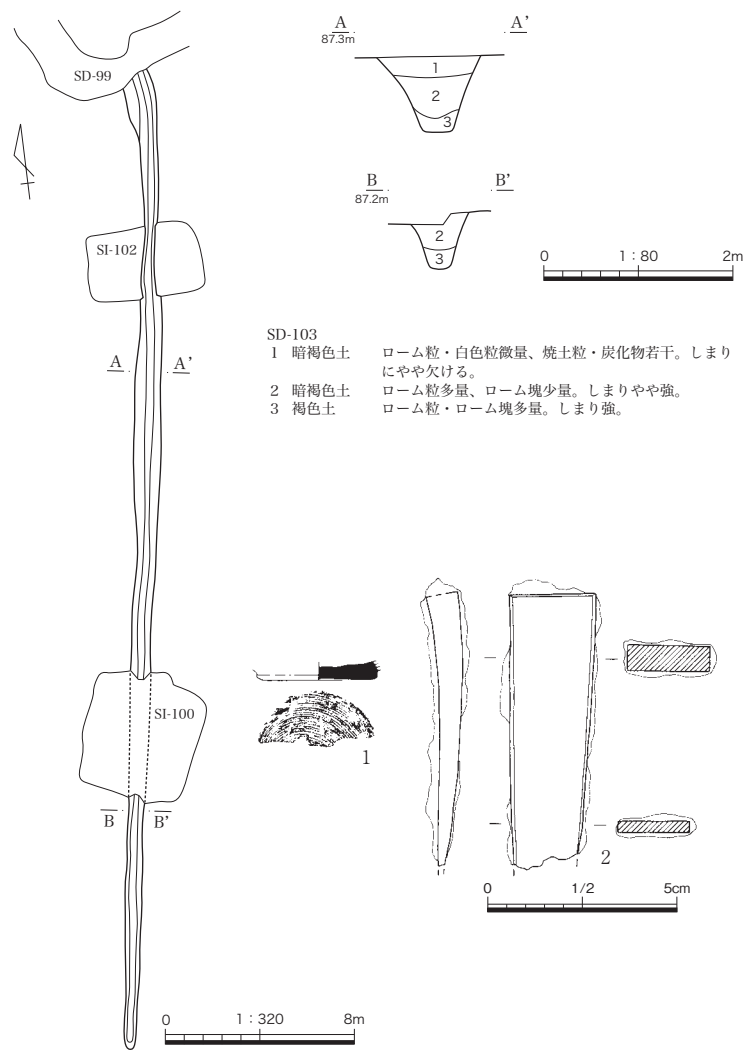
位置 グリッドX=96.5~98.5,Y=54.0 重複遺構 SI-100・102より新しい。SD-99との切り合いは不明瞭。

規模・形態 長さ41.5m、上幅0.61~1.04m、北はSD-99のコーナー付近から始まり南へと続く。壁・断面形 壁高は59~83cm残り、断面形はしっかりとした逆台形を呈する。底面 若干の凹凸が残る。

覆土 上層にややしまりの弱い層があるが、下層はしまりが強い。自然堆積と考えられる。遺物 覆土中から出土した遺物は2点のみで、いずれも図示した。1は須恵器坏底部破片で、底部外面は回転糸切りである。2は鉄製品で、楔の可能性はある。1の須恵器は奈良時代の可能性が高いが、溝中の遺物の少なさから、断定はできない。

第203表 13区 SD-103 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器坏	底長 (6.2)	底部外面回転糸切り。	内外面とも2.5GY3/1オリーブ灰	やや粗い、白・灰礫 焼成：硬質	2層中	底部1/3
2	不明鉄製品(楔か)	長 [7.6] 幅 2.2 厚 0.7 重 [41.0]	下端部を欠損する。側面から見ると若干曲がっている。棟部は平坦で、下端部にかけ幅が徐々に狭まる。	—	鉄製	SI-101付近	先端部欠損



第 449 図 西刑部西原遺跡 13 区 SD-103 実測図・出土遺物

13 区 SD-108 (遺構：第 450 図、図版七三)

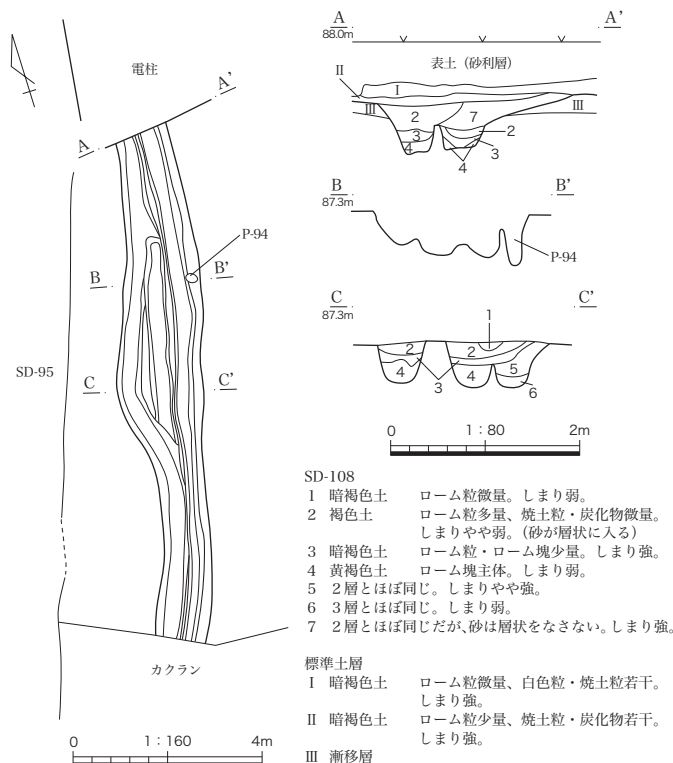
位置 グリッド X=97.5～98.5、Y=55.0 重複遺構 重複遺構はないが、西に位置する SD-95 と平行している。

規模・形態 長さ 10.4 m 以上、上幅 0.5～1.4 m 壁・断面形 壁高は 48～57 cm、断面形は逆台形状を呈する。底面 細かな凹凸が見られる。覆土 しまりの弱い土層が大部分を占める。遺物 時期判別可能な遺物は出土しなかった。近現代の溝の可能性が高い。

SD-111 (遺構・遺物：第 451 図、図版七三・――)

位置 グリッド X=96.5～98.5、Y=53.5～54.0 重複遺構 SI-110、SD-113、SK-121 より古く、SI-117 との切り合いは不明。規模・形態 長さ 40 m 以上、上幅 1.22～1.50 m 壁・断面形 壁高 21～51 cm

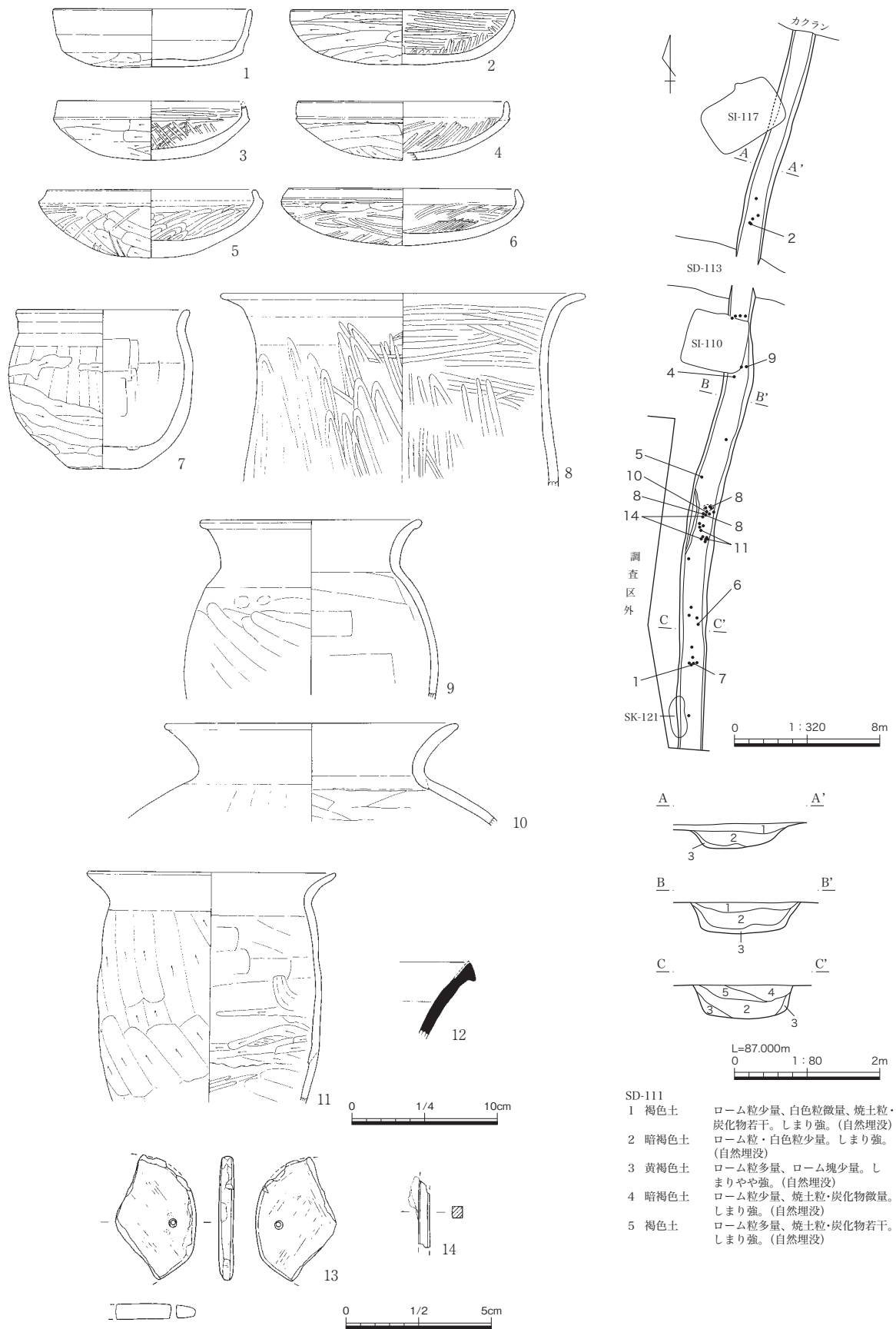
底面 若干の凹凸あるが概ね平坦。覆土 褐色土及び暗褐色土主体の覆土で概ねしまりが強い。自然堆積か。遺物 総量で小コンテナ 2 箱分出土。このうち 14 点を図示した。1～6 は土師器坏、7・9～11 は土師器甕、8 は内面を磨いている甕。12 は須恵器甕、13 は滑石製の鏡形石製模造品、14 は鉄鎌（長頸鎌）の頸部破片である。遺物から時期は古墳時代後期末（6 世紀末～7 世紀初頭）の溝跡と考えられる。



第450図 西刑部西原遺跡13区 SD-108実測図

第204表 13区 SD-111出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 坏	口 13.4 高 4.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部内面ナデ。体部～底部外面多方向ヘラケズリ。口縁部は直線的に立ち上がり、中央部に稜をもつ。底部は僅かに丸みをもつが、平底に近い。	内：5YR7/6 橙 外：10YR7/6 明黄褐	やや緻密、白・黒・赤粗砂 焼成：やや硬質	No.13 15.9	口縁部 7/8、底部 完存
2	土師器 坏	口 15.0 高 3.7	口縁部外面ヨコナデ。口縁部内面ヨコヘラミガキ。底部内面一方向のヘラミガキ。口縁部外面～体部外面ヨコヘラケズリ。底部外面多方向ヘラケズリ。	内：10YR4/6 褐 外：10YR4/4 褐	やや緻密、白細砂 焼成：やや硬質	No.44 24.7	ほぼ完存
3	土師器 坏	口 (13.0) 高 3.7	口縁部外面ヨコナデ。口縁部内面ヨコナデのちヨコヘラミガキ。体部内面不定方向ヘラミガキ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。	内外面とも 10YR4/2 灰黄褐	やや粗い、白粗砂、赤色粒 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 1/3、底部 1/3
4	土師器 坏	口 (14.2) 高 4.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデのちヘラミガキのち黒色処理。体部外面ヘラケズリのちヘラナデ。口縁部直下接合痕あり。明瞭な稜線をもつ。丁寧なつくり。	内：7.5YR2/1 黒 外：5Y2/1 黒	やや緻密、白細砂～粗砂 焼成：やや硬質	No.7 29.4	口縁部 1/3
5	土師器 坏	口 14.0 高 [4.7]	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面やや雑なヘラミガキ。体部外面ナメヘラケズリ及びナメヘラナデのちヘラミガキ。内外面黒色仕上げか。非常に丁寧なつくり。	内外面とも 7.5Y2/1 黒	やや緻密、白細砂～粗砂 焼成：やや硬質	No.34 27.9	口縁部 1/2、底部 5/6
6	土師器 坏	口 (15.5) 高 3.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリのちヘラミガキ。体部内面ヘラミガキ。内外面漆仕上げ。	内：7.5YR3/1 黒褐 外：7.5YR4/2 灰黄褐	やや緻密、白細砂～粗砂 焼成：やや硬質	No.38 24.7	口縁部～体部 1/3
7	土師器 小型甕	口 12.0 底 4.9 高 10.9	胴部内面上半部～口縁部外面ヨコナデ。胴部内面下半部～底部内面ヘラナデ。胴部外面タテヘラナデのち下半部ヨコヘラケズリ。底部外面一方向ヘラケズリ。	内外面とも 5YR6/6 橙	緻密、白・赤細砂 焼成：やや軟質	No.14、D区 12.5	口縁部 2/3、底部 7/8
8	土師器 甕	口 (24.4) 高 [13.0]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラミガキ。口縁部～頸部内面ヨコヘラミガキ。胴部内面タテヘラミガキ。	内：5YR5/6 明赤褐 外：7.5YR6/6 橙	やや粗い、白・灰粗砂 焼成：やや軟質	No.33 28.2	口縁部一 部、頸部～ 胴部上半 1/2
9	土師器 甕	口 (15.0) 高 [12.1]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナメヘラナデ。胴部内面ヨコヘラナデ。口縁部内面に赤褐色を呈する部分あり。赤彩か。	内：5YR5/6 明赤褐 外：10YR6/4 にぶい黄橙	やや粗い、白・灰・黒粗砂～礫 焼成：やや軟質	No.5、SI-10 南東 25.9	口縁部 1/3、胴部 上半 1/5

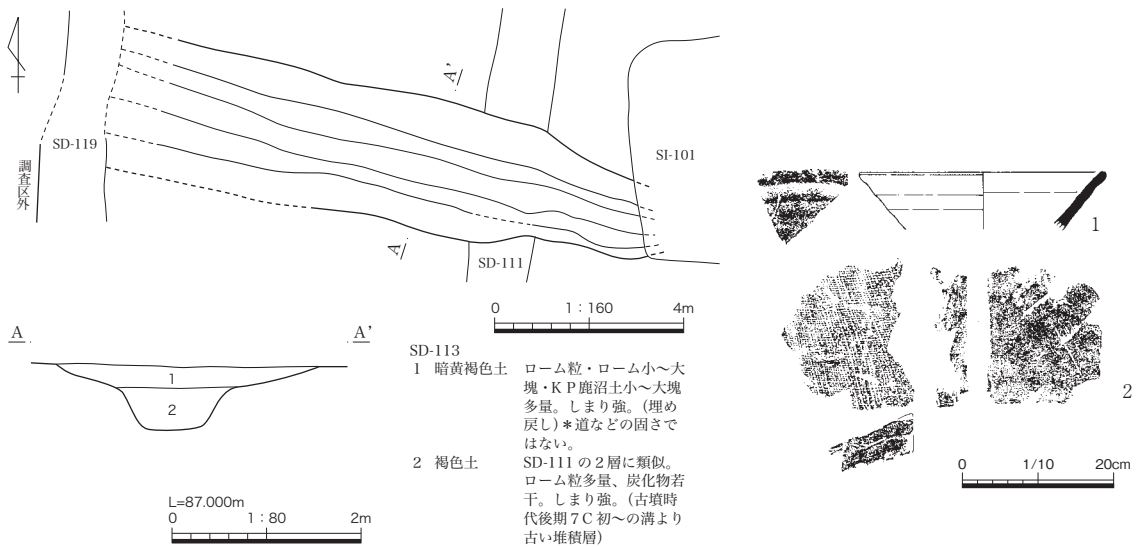


第451図 西刑部西原遺跡13区 SD-111 実測図・出土遺物

10	土師器 甕	口高 (19.8) [6.9]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラナデ。胴部内面ヨコヘラナデ。球胴上の甕。非常に丁寧なつくり。頸部内面の接合痕明瞭。	内：10YR7/3 にぶい黄橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙	やや緻密、白・黒細砂～粗砂 焼成：やや硬質	No.31、D区 37.5	口縁部 1/5
11	土師器 甕	口高 (16.7) [15.9]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテヘラナデのち中位を短くナメにヘラケズリ。胴部内面ヘラナデのち積み上げ休止痕付近を抉り取るように削っている。	内：7.5YR6/4 にぶい黄橙 外：10YR6/3 にぶい黄橙	粗い、黒・白・灰粗砂～礫、黒色粒やや多 焼成：やや硬質	No.23 16.3	口縁部 1/8
12	須恵器 甕	高 [6.1]	内外面ロクロナデ。	内：2.5Y5/3 黄褐 外：2.5Y6/1 黄灰	やや緻密、黒・白細砂～粗砂 焼成：硬質	南西	口縁部～胴部破片
13	石製模 造品(有 孔円板)	径(4.5以上) 重[9.1] 厚0.47 孔0.16-0.26	石材は滑石。表裏面に細かな擦痕。一部に削り痕あり。側面は長軸に対し垂直方向の擦痕がみられる。両面から穿孔。ほぼ半分を欠損するが、大型の有孔円板と考えている。	内：7.5GY7/1 明緑灰 外：2.5GY7/1 明オリーブ灰	滑石	C区	一部破片
14	鉄製品 鉄鏃	長幅厚重 [2.3] 0.4 0.4 [1.7]	長頸鏃の頸部破片か。断面は長方形。	—	鉄製	No.27 2.3	頸部一部

13区 SD-113 (遺構・遺物：第452図、図版七三・——)

位置 グリッド 98.0-53.5・98.0-54.0 重複遺構 SI-101、SD-111 より新しく、SD-119 より古い。 規模・形態 長さ 11.6 m以上、上幅 1.68～2.7 m。東西に直線的に延びる。 壁・断面形 壁高 66 cm。断面は途中に段をもつ逆台形を呈する。掘り直しをしたためか。 底面 細かな凹凸あり。 覆土 暗黄褐色土及び褐色土の2層からなる自然堆積と考えられる。 遺物 遺物の総量は僅か4点で、このうち1の須恵器坏と2の女瓦を図示した。8世紀中葉～9世紀代の溝と考えられる。



第452図 西刑部西原遺跡13区 SD-113実測図・出土遺物

第205表 13区 SD-113出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 坏	口高 (12.6) [3.0]	内外面ロクロナデ。外面線刻あるいはヘラ描きあり。	内外面とも 5GY3/1 暗オリーブ灰	やや粗い、灰・白粗砂～礫 焼成：硬質	2層中	口縁部～体部 1/6
2	女瓦	長幅厚重 [7.6] [6.4] 1.4-1.8 [120.0]	凹面布目痕。凸面ナデ。側面ヘラケズリのちナデ。	内外面とも 2.5Y7/3 浅黄	やや粗い、白・黒細砂～礫 焼成：やや軟質	覆土中	一部破片

13区 SD-119 (遺構：第453図、図版七三)

位置 グリッド X=97.5～99.0、Y=53.0～53.5 重複遺構 SI-116・118、SD-113・120 より新しい。 規模・形態 長さ 24.8 m以上、上幅 1.4～1.9 m。やや蛇行しながら調査区西壁際を南北にはしる。 壁・

8. 土坑

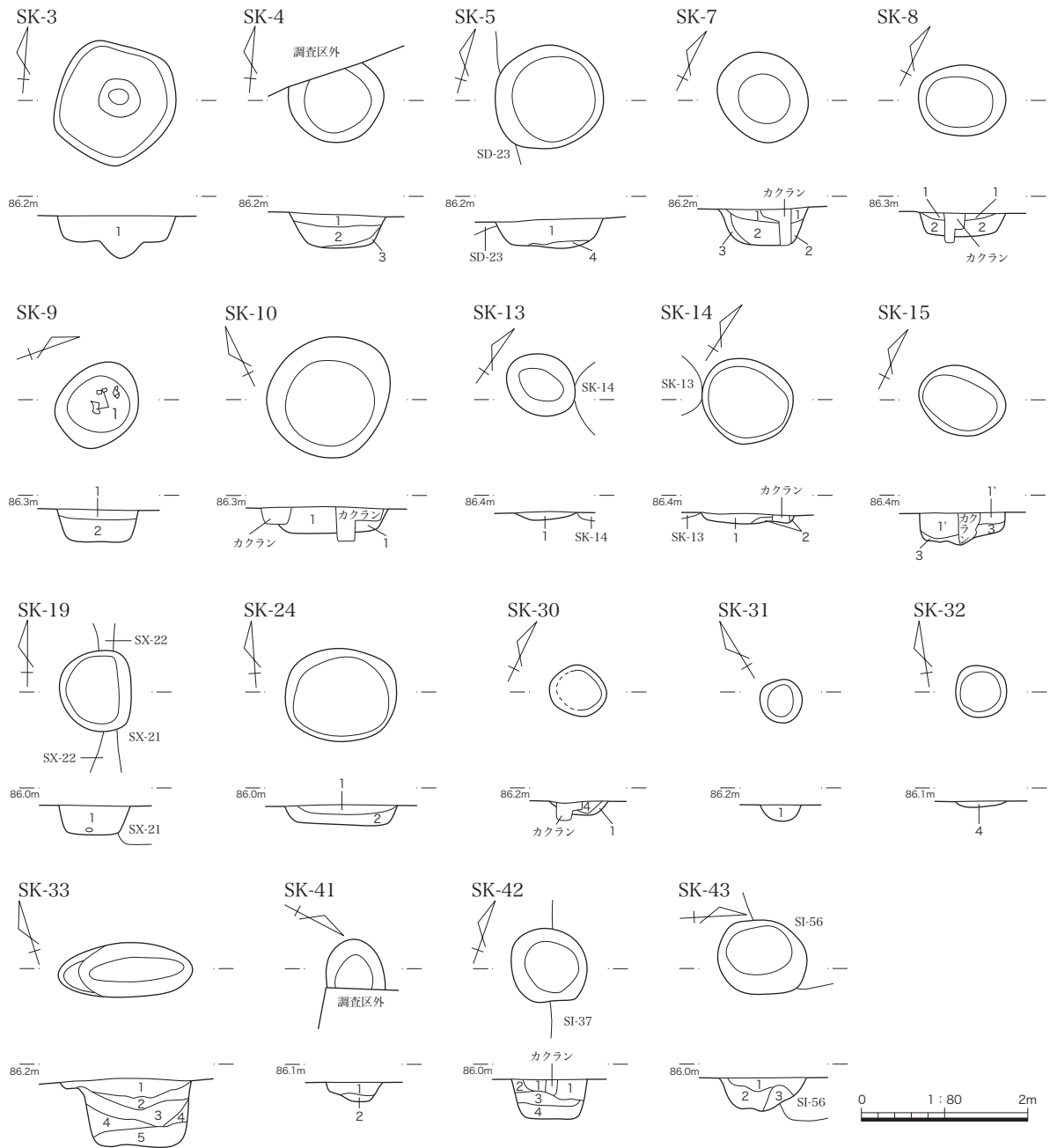
土坑は計 56 基確認された。遺物が少なく明確な時期を確定できないものが多いが、他遺構との切り合いから、ある程度の時間幅を推定できるものもある。ここでは遺構個別の事実記載は行わないが、出土位置・規模・平面形、切り合い状況などを表にまとめ掲載した。また特徴的な遺構・遺物については補足した。

土坑を概観すると、平面形は円形もしくは楕円形を呈し、比較的浅めのものが大多数を占める。断面形は

第206表 13区 土坑計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
SK-3	103.0-52.0	不整な円形	1.56	1.43	0.51	
SK-4	103.0-52.0	円形	(1.14)	(1.12)	0.38	
SK-5	102.5-52.5	円形	1.33	1.22	0.34	
SK-7	102.0-52.5	円形	1.14	0.95	0.4	
SK-8	102.5-53 102.0-53	円形	1.08	0.83	0.43	
SK-9	101.0-53.5	円形	1.07	0.88	0.41	
SK-10	102.5-53.0	円形	1.53	1.35	0.32	
SK-13	102.5-53.5	円形	0.84	0.73	0.9	SK-14 と重複
SK-14	102.5-53.5	円形	1.08	0.97	0.12	SK-13 と重複
SK-15	102.5-53.5	円形	1.06	0.83	0.38	
SK-19	100.5-53.0	円形	0.96	0.84	0.35	SX-21 より新しい SX-22 より新しい
SK-24	100.5-53.0 101.0-53.0	円形	1.32	1.11	0.25	
SK-30	102.0-53.5	円形	0.69	0.63	0.17	
SK-31	102.0-53.0	円形	0.52	0.5	0.2	明確な時期不明
SK-32	101.5-53.0	円形	0.65	0.58	0.04	
SK-33	102.0-53.5	楕円形	1.61	0.64	0.79	
SK-41	101.5-54.0	楕円	(0.59)	(0.70)	0.24	
SK-42	100.5-54.0	円形	0.99	0.9	0.47	SI-37 より新しい
SK-43	101.0-53.5	円形	1.07	0.9	0.4	SI-56 より新しい
SK-45	101.0-54.0	円形	0.88	0.8	0.12	SK-46 より新しい SI-38 より新しい
SK-46	101.0-53.5 101.0-54.0	不整形	2.63	1.8	0.27	SI-38 より新しい SK-45 より古い P-84 は不明
SK-48	101.5-53.0	円形	0.88	0.73	0.28	
SK-50	101.5-53.0	円形	1.03	0.88	0.3	SK-51 重複
SK-51	101.5-53.0	円形	1.57	1.25	0.33	SK-50 重複
SK-54	101.5-53.0	不整形楕円形	2.95	0.36	0.1	
SK-55	101.5-53.5 101.5-53.0	長方形	4.1	0.79	0.44	
SK-58	101.0-53.5 101.0-54.0	不整形	1.56	1.37	0.3	SK-59 より新しい P-65 より古い
SK-59	101.0-53.5	-	1.3	1.25	0.3	P-65 より古い SK-58 とは新旧不明
SK-60	101.0-53.0	円形	0.74	0.6	0.25	P-65 より古い
SK-61	101.5-54.0	円形	(0.94)	(1.38)	0.77	SI-53 と重複
SK-63	101.0-53.5	円形	0.7	0.64	0.33	底面細かな凹凸あり
SK-64	101.0-53.5	円形	0.76	0.71	0.16	性格・時期不明
SK-68	101.5-54.0	円形	0.13	0.94	0.11	
SK-69	101.0-54.0 101.5-54.0	円形	0.82	0.77	0.34	P-37 重複 SB-44 重複
SK-70	101.5-53.5	円形	1.07	0.98	0.12	
SK-71	102.0-53.5	不整な円形	1.24	1.06	0.36	SX-16 と重複 (新旧不明)
SK-72	101.5-53.5	楕円形	1.83	0.83	0.18	
SK-73	101.0-53.0	隅丸方形	1.45	1.22	0.24	SB-67 重複
SK-74	101.0-53.5	円形	1.04	0.92	0.4	
SK-75	100.5-53.0 101.0-53.0	円形	1.04	1.02	0.24	SX-21 より新しい
SK-76	100.5-53.0	円形	0.74	0.7	0.11	
SK-78	99.5-53.5	円形	1.04	0.92	0.16	
SK-79	99.5-53.5 99.5-54.0 100.0-53.5 100.0-54.0	円形	0.82	0.71	0.19	
SK-83	100.5-53.5 100.0-53.5	円形	0.8	0.75	0.27	

第3章 発見された遺構と遺物



SK-3,4,5,7,8,9,10

- 1 暗褐色土 白色粒・ローム粒微量、焼土粒・炭化物若干。しまり強。
- 2 暗褐色土 1層より暗い。ローム粒少量、焼土粒・炭化物若干。しまり強。
- 3 黄褐色土 ローム粒・ローム塊多量。しまり強。
- 4 暗褐色土 ローム粒・ローム塊少量。しまり強。

SK-13,14,15,19,30,31,32

- 1 暗褐色土 白色粒微量、焼土粒若干。しまり強。
- 1' は、ローム粒が微量入る。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒若干。しまり強。
- 3 褐色土 ローム粒多量・ローム塊微量。しまり強。
- 4 暗褐色土 1層に炭化物入る。しまり強。

SK-24

- 1 暗褐色土 白色粒・ローム粒微量、焼土粒・炭化物若干。しまり強。
- 2 褐色土 ローム粒・ローム塊少量、白色粒・I P粒若干。しまり強。

SK-33

- 1 暗褐色土 白色粒・ローム粒微量、I P粒・S P粒・焼土粒・炭化物若干。しまり強。
- 2 黒褐色土 ローム粒・焼土粒微量。しまり強。

SK-30

- 3 暗黄褐色土

- 4 暗褐色土

- 5 褐色土

SK-41

- 1 暗褐色土 白色粒微量、ローム粒・焼土粒・炭化物若干。しまり強。

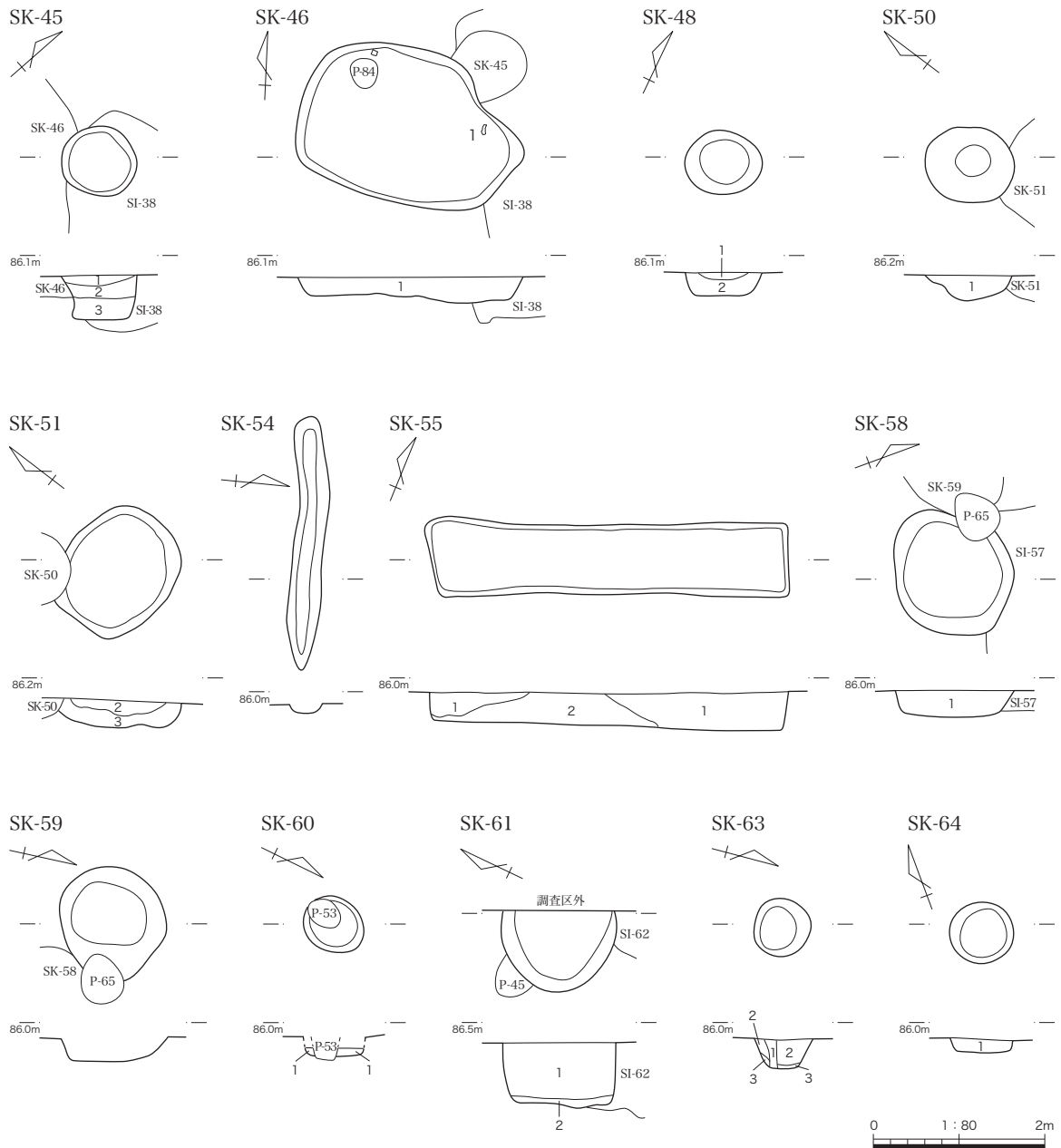
SK-42

- 1 暗褐色土 ローム粒・焼土粒微量、白色粒・炭化物若干。しまりやや強。
- 2 褐色土 ローム粒少量、焼土粒微量、炭化物若干。しまりやや強。
- 3 褐色土 ローム粒少量、白色粒・炭化物若干。しまりやや強。
- 4 褐色土 ローム粒微量、白色粒若干。しまりやや強。

SK-43

- 1 黒褐色土 焼土小～中塊少量、炭化物・ローム粒微量。しまりやや強、粘性強。
- 2 暗褐色土 褐色土小～中塊少量、焼土小～中塊・ローム粒微量。しまりやや弱、粘性強。
- 3 暗黄褐色土 ローム小～中塊・褐色土小～中塊少量、ローム粒・焼土小塊微量。しまりやや弱、粘性強。

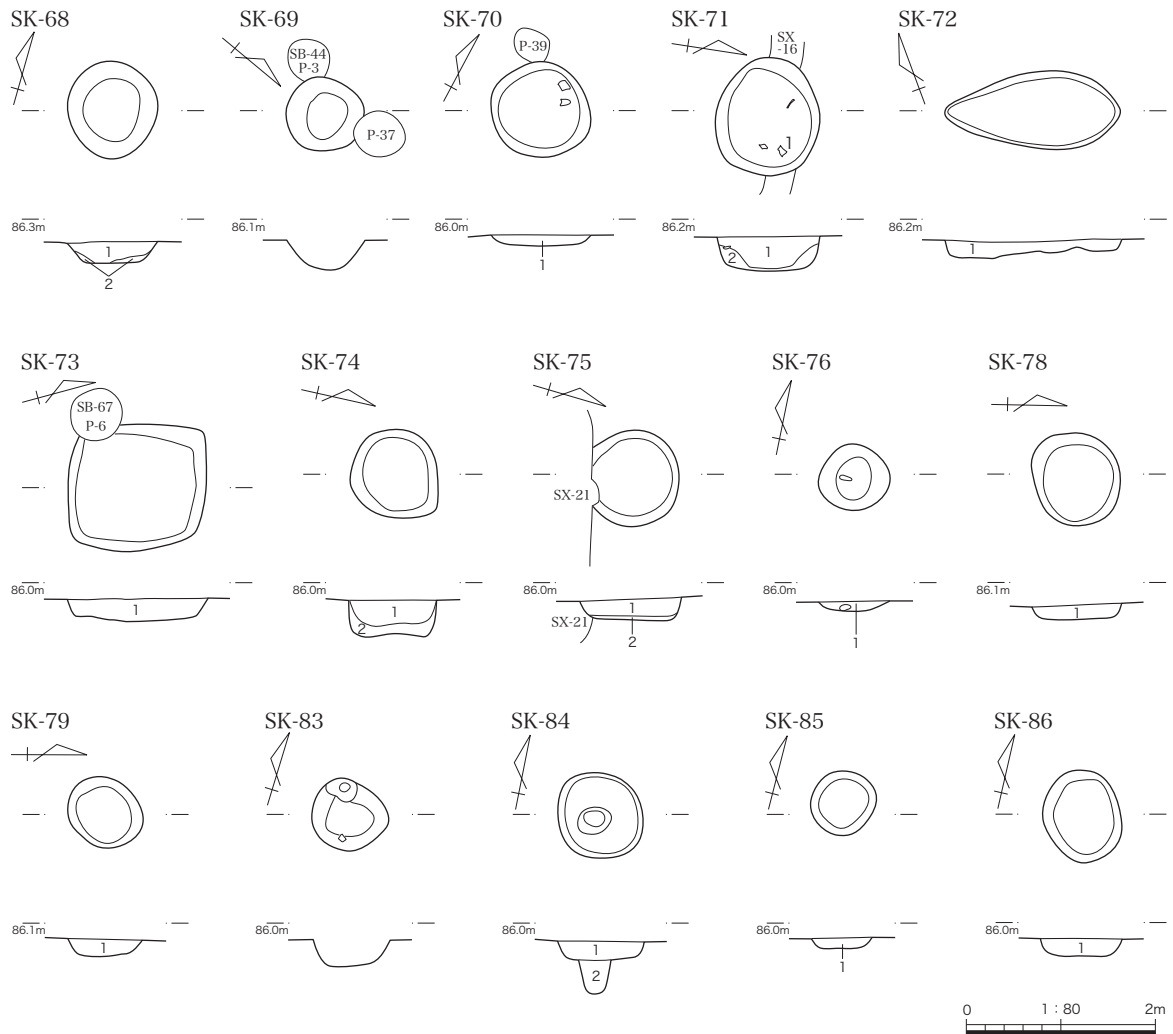
第454図 西刑部西原遺跡13区 土坑実測図(1)



- | | |
|---|---|
| <p>SK-45
1 暗褐色土 白色粒・ローム粒少量、焼土粒微量、炭化物若干。しまり強。
2 褐色土 ローム粒 (SK-46 より若干多い)・焼土粒少量、白色粒微量、炭化物若干。しまりやや強。(SI-38 の覆土)
3 褐色土 ローム粒少量、暗褐色土微量。しまり強。(SI-38 の覆土)</p> <p>SK-46
1 褐色土 ローム粒・焼土粒少量、白色粒微量、炭化物若干。しまりやや強。</p> <p>SK-48
1 暗褐色土 白色粒・ローム粒微量、焼土粒・炭化物若干。しまり強。
2 暗褐色土 1層より暗い。ローム粒少量、焼土粒・炭化物若干。しまり強。</p> <p>SK-50.51
1 暗褐色土 白色粒少量、焼土・炭化物若干。しまり強。
2 暗褐色土 白色粒・ローム粒微量、焼土粒・炭化物若干。しまり強。
3 暗褐色土 2層より暗い。ローム粒少量、焼土粒・炭化物若干。しまり強。</p> <p>SK-55
1 暗黄褐色土 ローム粒・ローム少〜大塊多量、焼土粒・白色粒微量。しまり弱、粘性やや強。
2 暗黄褐色土 ローム粒・ローム少〜大塊多量、焼土粒・白色粒微量。しまり弱、粘性やや弱。</p> | <p>SK-58
1 暗褐色土 焼土小塊・S P小〜中塊・ローム少塊・ローム粒微量、暗褐色土に混入。暗褐色土は、若干粘土質で、黒灰色じみる。しまりやや弱、粘性あり。</p> <p>SK-60
1 暗褐色土 白色粒微量、ローム粒・焼土粒・炭化物若干。しまり強。</p> <p>SK-61
1 暗褐色土 白色粒 (大粒もはいる)・焼土粒・ローム粒微量、炭化物若干。しまり強。
2 暗褐色土 ローム粒・焼土粒微量、大粒白色粒若干。しまり強</p> <p>SK-63
1 黒褐色土 ローム粒若干。しまりやや欠ける。
2 暗褐色土 ローム粒微量、白色粒・焼土粒若干。しまり強。
3 褐色土 ローム粒・ローム塊多量。しまり強。</p> <p>SK-64
1 暗褐色土 白色粒・ローム粒・焼土粒若干。しまり強。</p> |
|---|---|

第455図 西刑部西原遺跡13区 土坑実測図(2)

第3章 発見された遺構と遺物



SK-68,72
 1 暗褐色土 白色粒微量、ローム粒・焼土粒・炭化物若干。しまり強。
 2 黄褐色土 ローム粒・ローム塊多量。しまり強。
 SK-70
 1 暗褐色土 白色粒・焼土粒微量、炭化物・ローム粒若干。しまり強。
 SK-71
 1 暗褐色土 白色粒・ローム粒微量、焼土粒・炭化物若干。しまり強。
 2 褐色土 ローム粒・ローム塊少量。しまり強。
 SK-73
 1 黒褐色土 焼土粒・ローム粒少量。しまり強。
 SK-74
 1 黒褐色土 ローム小塊多量、白色粒・焼土粒若干。しまり若干欠ける。
 2 暗黒褐色土 ローム中塊・ローム粒少量。しまり若干欠ける。

SK-75
 1 暗褐色土 ローム粒微量。しまり強、粘性弱。
 2 褐色土 ローム粒・ローム塊少量。しまりやや強、粘性弱。
 SK-76
 1 黒褐色土 白色粒微量、焼土粒若干。しまり強。
 SK-78,79,86
 1 暗黒褐色土 褐色土小塊多量、焼土粒微量。しまり強。
 SK-84
 1 黒褐色土 焼土粒・白色粒微量。しまり強。
 2 褐色土 ローム少・中塊・ローム粒多量。とても固くしまっている。
 SK-85
 1 黒褐色土 焼土粒微量。しまり強。

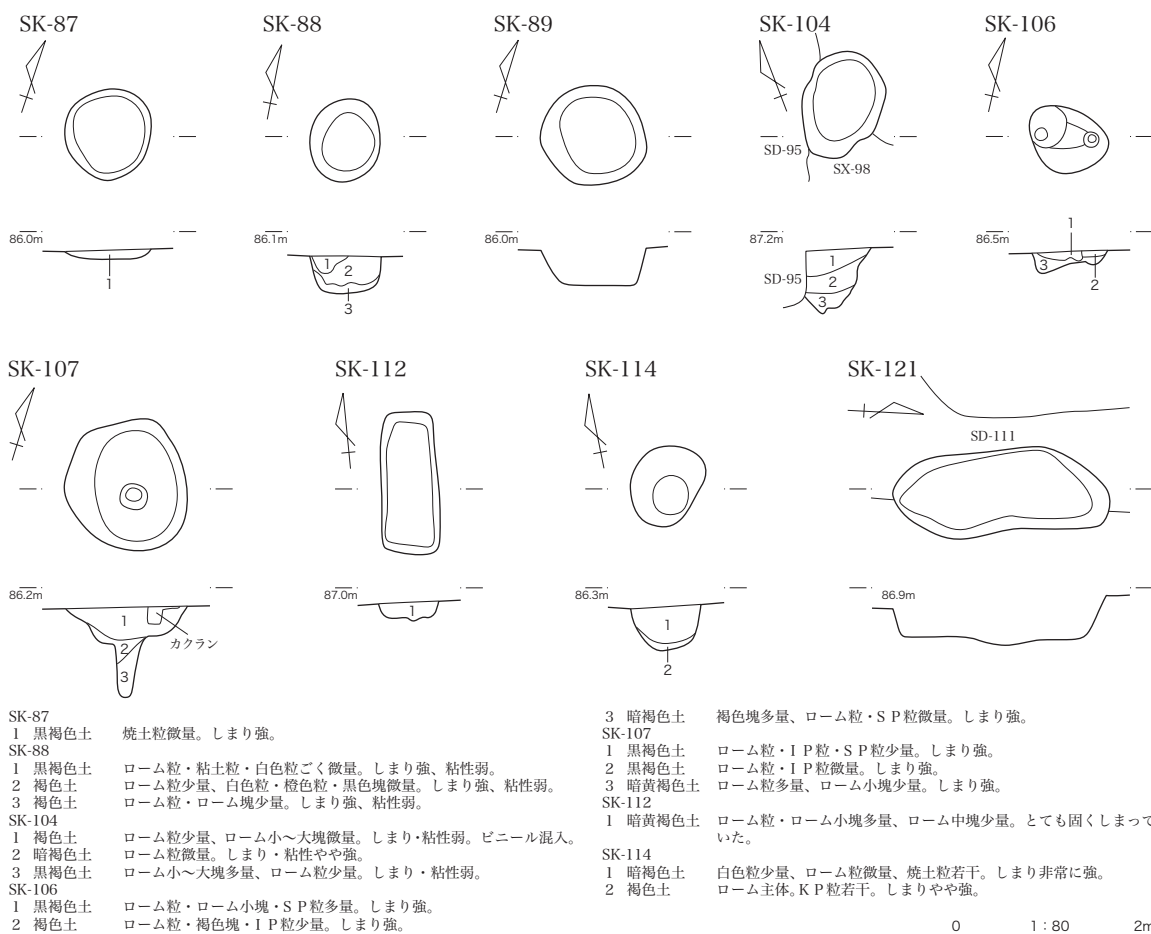
第 456 図 西刑部西原遺跡 13 区 土坑実測図 (3)

第 207 表 13 区 SK- 9 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	土師器 甕	口 (20.8) 高 [9.2]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タテハケ目。胴部内面斜方向ヘラナデ。胴部外面、赤化した粘土付着。	内：5Y2/1 黒 外：5Y2/2 オリーブ黒	やや粗い、白・灰粗砂 焼成：やや硬質	No.3 21.0	口縁部 1/4、胴部 上半 1/8

第 208 表 13 区 SK-15 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	須恵器 瓶類	高 [4.5] 厚 0.75	胴部外面平行叩きのちカキ目。内面口クロナデ。	内：N5/0 灰 外：N4/0 灰	やや粗い、灰・白礫 焼成：硬質	覆土中	胴部破片



- SK-87
1 黒褐色土 焼土粒微量。しまり強。
- SK-88
1 黒褐色土 ローム粒・粘土粒・白色粒ごく微量。しまり強、粘性弱。
2 褐色土 ローム粒少量、白色粒・橙色粒・黒色塊微量。しまり強、粘性弱。
3 褐色土 ローム粒・ローム塊少量。しまり強、粘性弱。
- SK-104
1 褐色土 ローム粒少量、ローム小〜大塊微量。しまり・粘性弱。ピニール混入。
2 暗褐色土 ローム粒微量。しまり・粘性やや強。
3 黒褐色土 ローム小〜大塊多量、ローム粒少量。しまり・粘性弱。
- SK-106
1 黒褐色土 ローム粒・ローム小塊・S P粒多量。しまり強。
2 褐色土 ローム粒・褐色塊・I P粒少量。しまり強。
- SK-107
1 黒褐色土 ローム粒・I P粒・S P粒少量。しまり強。
2 黒褐色土 ローム粒・I P粒微量。しまり強。
3 暗黄褐色土 ローム粒多量、ローム小塊少量。しまり強。
- SK-112
1 暗黄褐色土 ローム粒・ローム小塊多量、ローム中塊少量。とても固くしまっていた。
- SK-114
1 暗褐色土 白色粒少量、ローム粒微量、焼土粒若干。しまり非常に強。
2 褐色土 ローム主体。K P粒若干。しまりやや強。
- SK-114
3 暗褐色土 褐色塊多量、ローム粒・S P粒微量。しまり強。

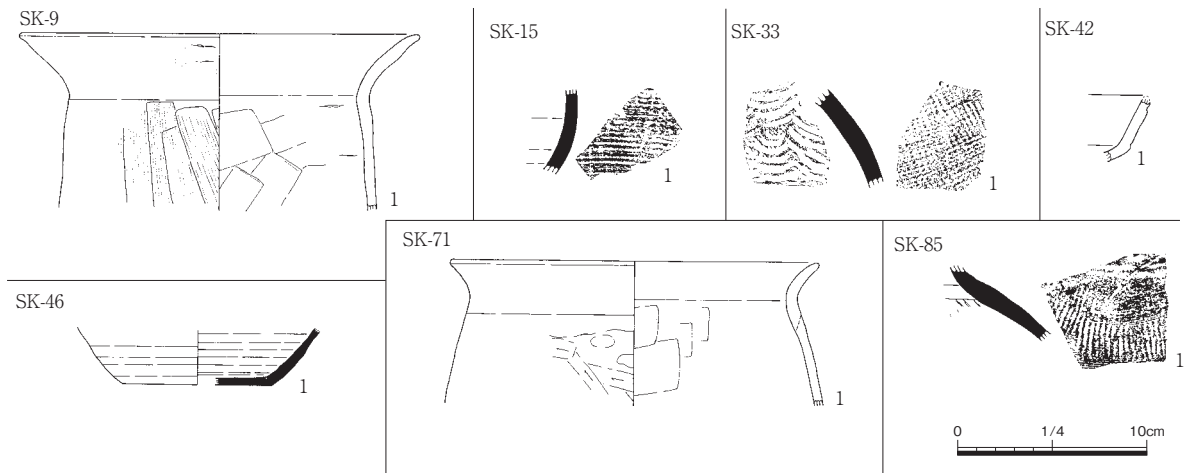
第 457 図 西刑部西原遺跡 13 区 土坑実測図 (4)

SK-84	100.5-54.0	円形	0.99	0.9	0.56	
SK-85	100.0-53.5	円形	0.7	0.69	0.12	
SK-86	100.0-53.5	円形	0.98	0.8	0.19	
SK-87	100.0-53.5	円形	0.98	0.88	0.11	
SK-88	101.0-53.0	円形	0.89	0.77	0.4	
SK-89	100.5-53.5	不整な円形	1.12	1.05	0.37	
SK-104	97.0-54.5 97.5-54.5 97.0-55.0 97.5-55.0	楕円形	1.16	0.83	0.68	SD-95 と SX-98 との 新旧関係は不明
SK-106	99.0-54.0	円形	0.87	0.67	0.22	
SK-107	99.5-54.0	円形	1.42	1.25	0.95	
SK-112	97.0-54.0	長方形	1.51	0.59	0.21	
SK-114	99.0-53.5	円形	0.89	0.71	0.47	
SK-121	96.5-53.5	楕円形	2.24	0.85	0.42	SD-111 より新しい

皿状もしくは逆台形状を呈し、殆どが自然堆積の様相を呈する。この他、深い円筒形を呈するもの (SK-61)、底面にピットをもつもの (SK-107)、楕円形で深いもの (SK-33)、不整形で浅い土坑 (SK-46)、溝状の土坑 (SK-59) などがあるが、断面観察からいずれも自然堆積と考えられる。

長方形の土坑は少ないが、このうち浅く自然堆積と考えられるもの (SK-73・112) と、人為埋戻しでしまりの弱いもの (SK-55) がある。前者は古墳時代〜古代の土坑と考えられるが、後者は近現代の土坑と思われる。遺物は概して少なく、第 458 図に示したが、土師器及び須恵器の小破片が殆どであり、時期を確定できるような状況は見られなかった。

第3章 発見された遺構と遺物



第 458 図 西刑部西原遺跡 13 区 土坑出土遺物

第 209 表 13 区 SK-33 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 甕	高 [5.7] 厚 0.9	外面格子叩き。内面同心円状あて具痕。	内外面とも N4/O 灰	やや粗い、白・灰細砂～粗砂、礫少々 焼成：硬質	覆土中	胴部破片

第 210 表 13 区 SK-42 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 坏	高 [3.4]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内外面漆仕上げ。口縁部直下に沈線あり。	内：10YR7/6 明黄褐 外：10YR8/6 黄橙	やや緻密、礫、赤色粒 焼成：やや硬質	覆土中	胴部破片

第 211 表 13 区 SK-46 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 坏	底 (7.8) 高 [2.9]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデ。	内外面とも 5Y5/1 灰	やや緻密、白細砂～粗砂 焼成：硬質	No. 2 22.9	底部 1/5、 体部 1/4

第 212 表 13 区 SK-71 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 甕	口 (18.2) 高 [7.6]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半指頭押圧及びナデ。胴部内面上半ヘラナデ。	内：10YR5/4 にぶい黄橙 外：10YR6/4 にぶい黄橙	やや粗い、黒・白粗砂 焼成：やや軟質	No. 1 21.8	口縁部一部、胴部上半 1/6

第 213 表 13 区 SK-85 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器 甕	高 [3.8]	頸部内外面ロクロナデ及びナデ。肩部外面カキ目のち擬格子叩き。	内：10YR6/2 灰黄褐 外：N5/O 灰	やや粗い、白・黒・灰粗砂 焼成：硬質	覆土中	肩部破片

9.ピット

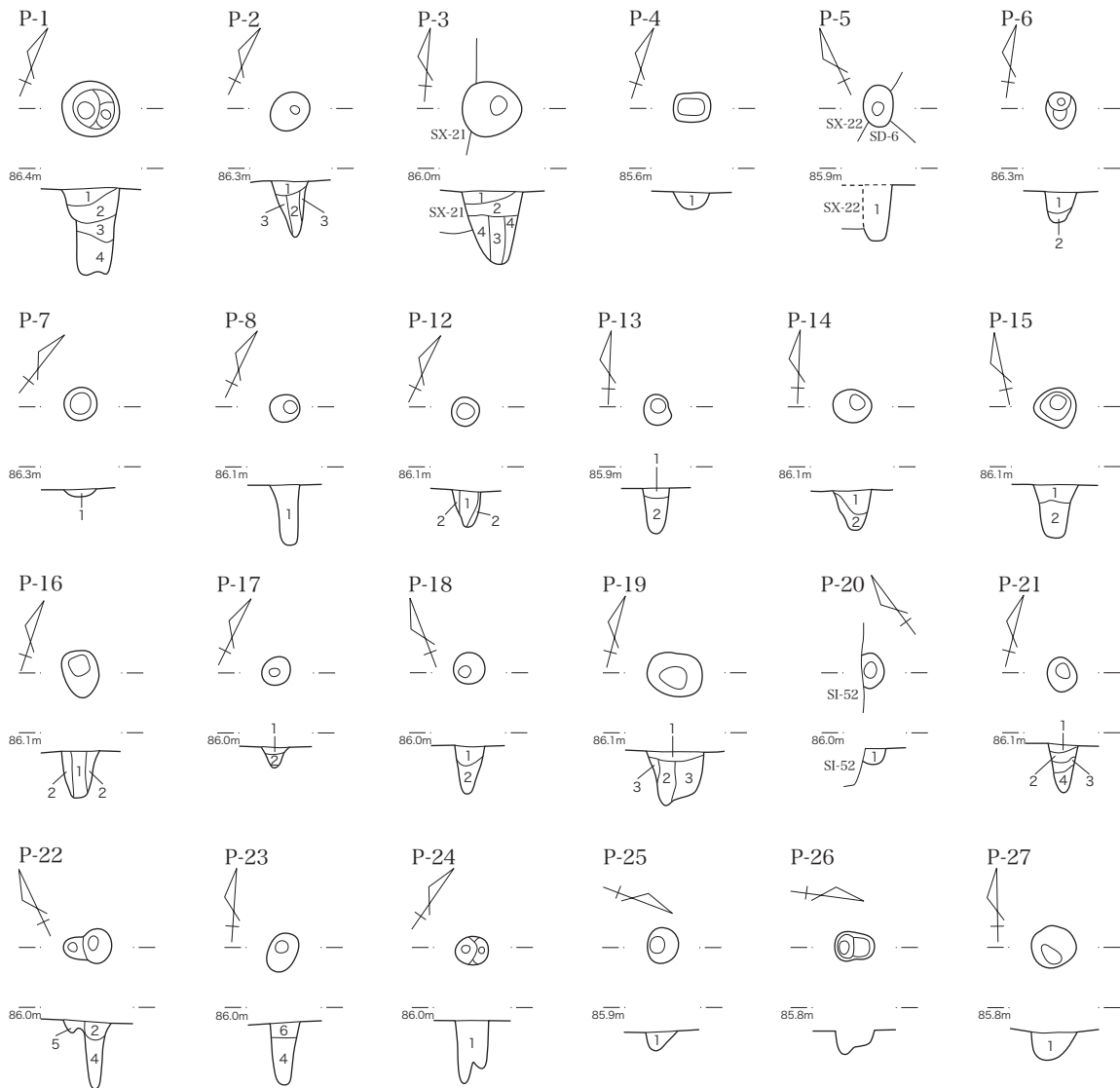
本調査区から確認されたピット（小穴）は計97基である。土坑と同様、遺物が少なく明確な時期を確定できないものが殆どであるが、他遺構との切り合いから、ある程度の時間幅を推定できるものもある。

ここでは土坑と同様に個別の事実記載は行わず、出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容などを表にまとめ掲載した。

ピットは主に13区北部の遺構集中範囲から確認されており、他の調査区と較べ、柱穴状の形態をもつものが多いようである。覆土は、単層で自然堆積と考えられるもの、レンズ状の堆積を示すもの、或いは掘立柱建物跡の柱穴同様に柱痕をもつものなど多様である。このうち柱痕が明瞭なものは、P-3・12・16・19・49・61・62・79・88・90・93などがある。遺物は図示可能なものを第463図にまとめた。

第214表 13区 ピット計測表

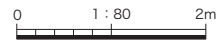
遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
P-1	102.5-53.5	円形	0.63	0.6	0.94	
P-2	102.5-53.5	—	0.45	0.39	0.648	
P-3	100.5-53.0	楕円形	0.57	0.55	0.804	
P-4	100.5-53.0	方形	0.4	0.3	0.185	
P-5	100.5-53.0	楕円形	0.43	0.37	0.466	
P-6	101.5-53.0 102.0-53.0	—	0.4	0.33	0.34	
P-7	101.5-53.0	円形	0.37	0.35	0.08	
P-8	101.5-53.0	円形	0.33	0.3	0.67	
P-12	102.0-53.0	円形	0.32	0.29	0.4	
P-13	102.0-53.0	—	0.32	0.29	0.707	
P-14	101.5-53.0	円形	0.42	0.36	0.42	
P-15	101.5-53.0	—	0.47	0.43	0.59	
P-17	101.0-54.0	円形	0.31	0.29	0.237	
P-18	101.0-53.5	円形	0.35	0.34	0.512	
P-19	101.5-54.0	楕円形	0.62	0.47	0.59	
P-20	101.5-53.0	楕円形	(0.38)	(0.24)	0.17	
P-21	101.5-52.5	—	0.4	0.3	0.52	
P-22	101.5-52.5	—	0.53	0.36	0.784	
P-23	101.5-52.5	—	0.41	0.31	0.67	
P-24	101.5-52.5	—	0.35	0.3	0.52	
P-27	100.5-54.0	円形	0.49	0.46	0.3	
P-29	101.5-54.0	円形	0.54	0.52	0.44	
P-30	101.5-54.0	—	0.48	0.44	0.37	
P-31	101.5-54.0	楕円形	0.56	0.45	0.38	
P-32	101.5-54.0	—	0.7	0.5	0.46	
P-36	101.5-54.0	円形	0.4	0.39	0.33	
P-37	101.5-54.0	円形	0.52	0.49	0.45	
P-40	101.5-54.0	円形	0.5	0.47	0.18	
P-41	101.5-54.0	円形	0.49	0.44	0.51	
P-42	101.0-54.0	円形	0.47	0.44	0.606	
P-43	101.0-54.0	円形	0.41	0.4	0.28	
P-44	101.5-54.0	円形	0.36	0.34	0.32	
P-45	101.5-54.0	—	(0.46)	(0.35)	0.36	
P-48	101.5-53.5	円形	0.45	0.42	0.55	
P-49	100.5-53.5	円形	0.5	0.46	0.66	
P-50	101.0-53.5	円形	0.26	0.24	0.475	
P-51	102.0-52.5	—	0.48	0.33	0.376	
P-52	101.5-53.5	円形	0.29	0.25	0.4	
P-53	101.0-53.0	円形	0.42	0.32	0.35	
P-54	100.5-53.5	—	(0.58)	(0.44)	0.07	
P-55	100.5-53.5	—	0.65	0.55	0.383	
P-56	100.5-53.5	—	0.63	0.43	0.117	
P-57	100.5-53.0	円形	0.31	0.31	0.61	
P-58	100.5-53.0	円形	0.62	0.58	0.21	
P-59	101.0-54.0	円形	0.28	0.2	0.16	
P-60	101.0-54.0	—	0.69	0.5	0.389	
P-61	101.0-54.0	円形	0.49	0.45	0.456	
P-62	101.0-53.5	円形	0.7	0.65	0.409	
P-63	100.5-53.0	円形	0.53	0.52	0.72	
P-64	100.5-53.0	円形	0.32	0.29	0.38	



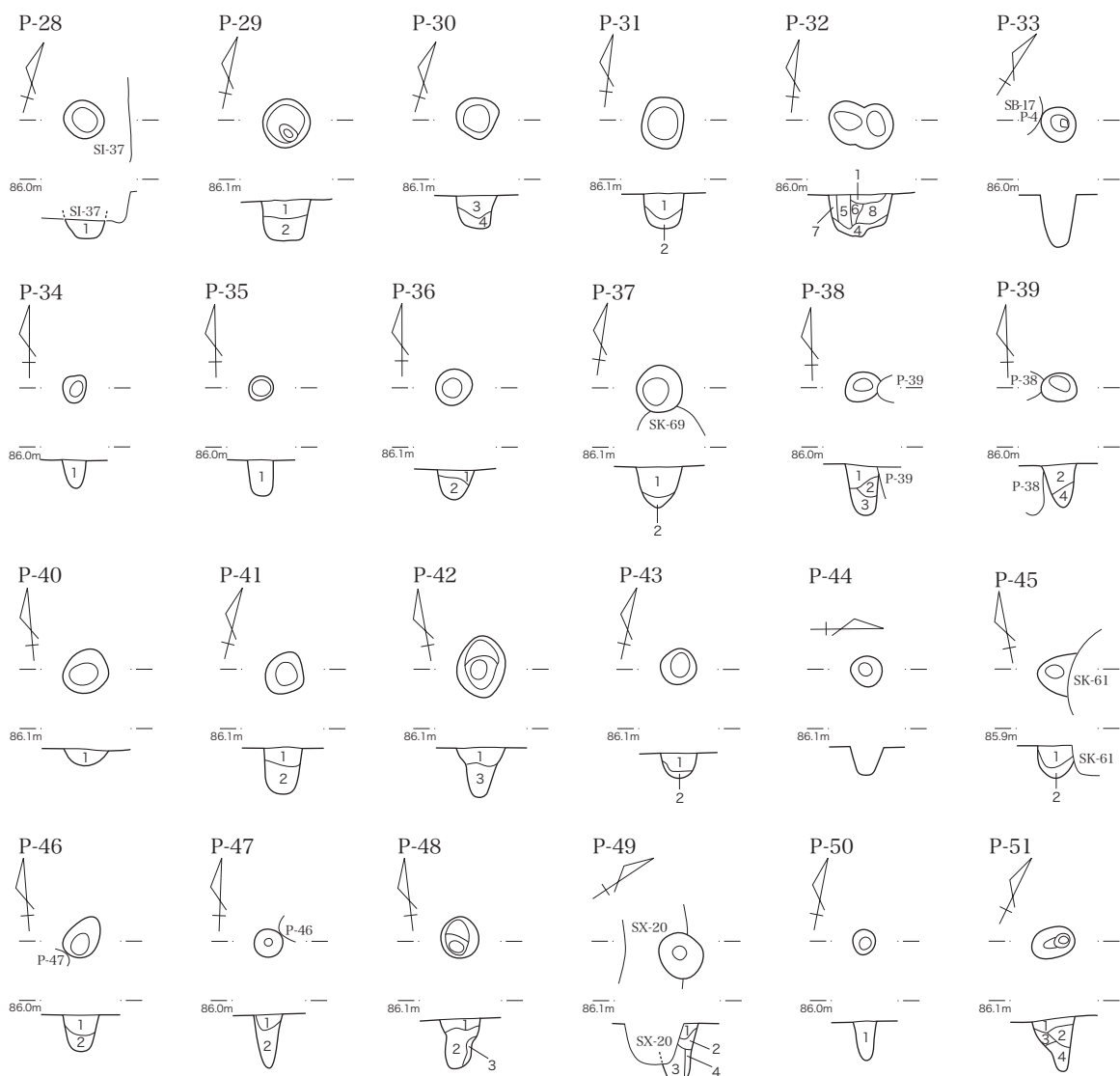
- P-1**
 1 暗褐色土 砂質土粒・塊微量。しまり強。
 2 暗褐色土 砂質土粒・塊少量、焼土粒若干。しまり強。
 3 暗褐色土 砂質土粒・塊少量、しまり弱。
 4 暗黄褐色土 暗黄褐色ローム主体。しまり弱。
- P-2**
 1 暗褐色土 ローム粒・焼土粒若干。しまり強。
 2 褐色土 ローム塊微量。しまり強。
 3 褐色土 ローム塊少量。しまり強。
- P-3**
 1 暗褐色土 ローム粒・白色粒微量、ローム塊若干。しまり強、粘性やや強。
 2 暗褐色土 ローム粒・白色粒・I P粒・褐色土塊・ローム塊微量。しまり・粘性やや強。
 3 黒褐色土 ローム粒・白色粒微量。しまり・粘性弱。
 4 褐色土 ローム塊少量、ローム粒微量。しまり・粘性やや強。
- P-4**
 1 褐色土 ローム粒中量、ローム塊少量。しまり強、粘性弱。
 2 褐色土 ローム粒・ローム塊少量。しまりやや弱、粘性弱。
- P-5**
 1 黒褐色土 ローム粒・ローム塊微量。しまり・粘性やや強。
 2 褐色土 ローム粒・ローム塊中量。しまり強、粘性やや強。
- P-6**
 1 暗褐色土 白色粒微量、ローム粒若干。しまり強。
 2 褐色土 ローム粒・白色粒少量。しまりやや強。

- P-7**
 1 暗褐色土 白色粒微量。しまり強。
- P-8**
 1 暗褐色土 白色粒少量、炭化物若干。しまり強。
- P-12**
 1 灰褐色土 白色粒・塊少量、焼土粒・炭化物若干。しまり強。
 2 暗褐色土 白色粒微量。しまり強。
- P-13**
 1 暗褐色土 白色粒少量、焼土粒微量。しまり強。
 2 暗褐色土 白色粒微量、ローム粒若干。しまり強。
- P-14**
 1 暗褐色土 白色粒・焼土粒・ローム粒微量。しまり強。
 2 暗褐色土 ローム粒若干。しまり強。
- P-15**
 1 暗褐色土 ローム粒若干。しまり強。
 2 褐色土 ローム粒・塊少量。しまりやや欠ける。
- P-16**
 1 暗褐色土 ローム粒若干。しまりやや強。(柱痕か?)
 2 暗褐色土 ローム粒微量、大粒白色粒・焼土粒若干。しまり強。
- P-17**
 1 暗褐色土 焼土粒・ローム粒・白色粒若干。しまり強。
 2 暗褐色土 ローム粒少量。しまり強。
- P-18**
 1 暗褐色土 焼土粒・ローム粒・白色粒若干。しまり強。
 2 暗褐色土 ローム粒少量。しまり強。

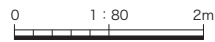
- P-19**
 1 暗褐色土 白色粒多量、焼土粒・ローム粒若干。しまり強。
 2 暗褐色土 ローム粒微量、大粒白色粒・焼土粒若干。しまりやや強。(石入る。柱痕か?)
 3 暗褐色土 ローム粒少量、白色粒・焼土粒若干。しまりやや強。P-20 ローム粒・焼土粒微量。しまりやや強、粘性弱。
- P-21,22,23,24**
 1 暗褐色土 ローム粒・白色粒微量、ローム塊若干。しまりやや強。
 2 暗褐色土 ローム粒・白色粒若干、ローム塊微量。しまり強。
 3 褐色土 ローム粒少量、I P粒若干。しまり強。
 4 褐色土 ローム粒少量、I P粒若干。しまり弱。
 5 暗褐色土 ローム粒若干。しまり強。
 6 暗褐色土 ローム粒・白色粒若干。しまり強。
- P-25**
 1 褐色土 ローム粒やや少量、焼土粒若干。しまりやや強。
- P-27**
 1 褐色土 ローム粒・ローム塊やや多量。しまりやや強。



第459図 西刑部西原遺跡13区 ピット実測図(1)

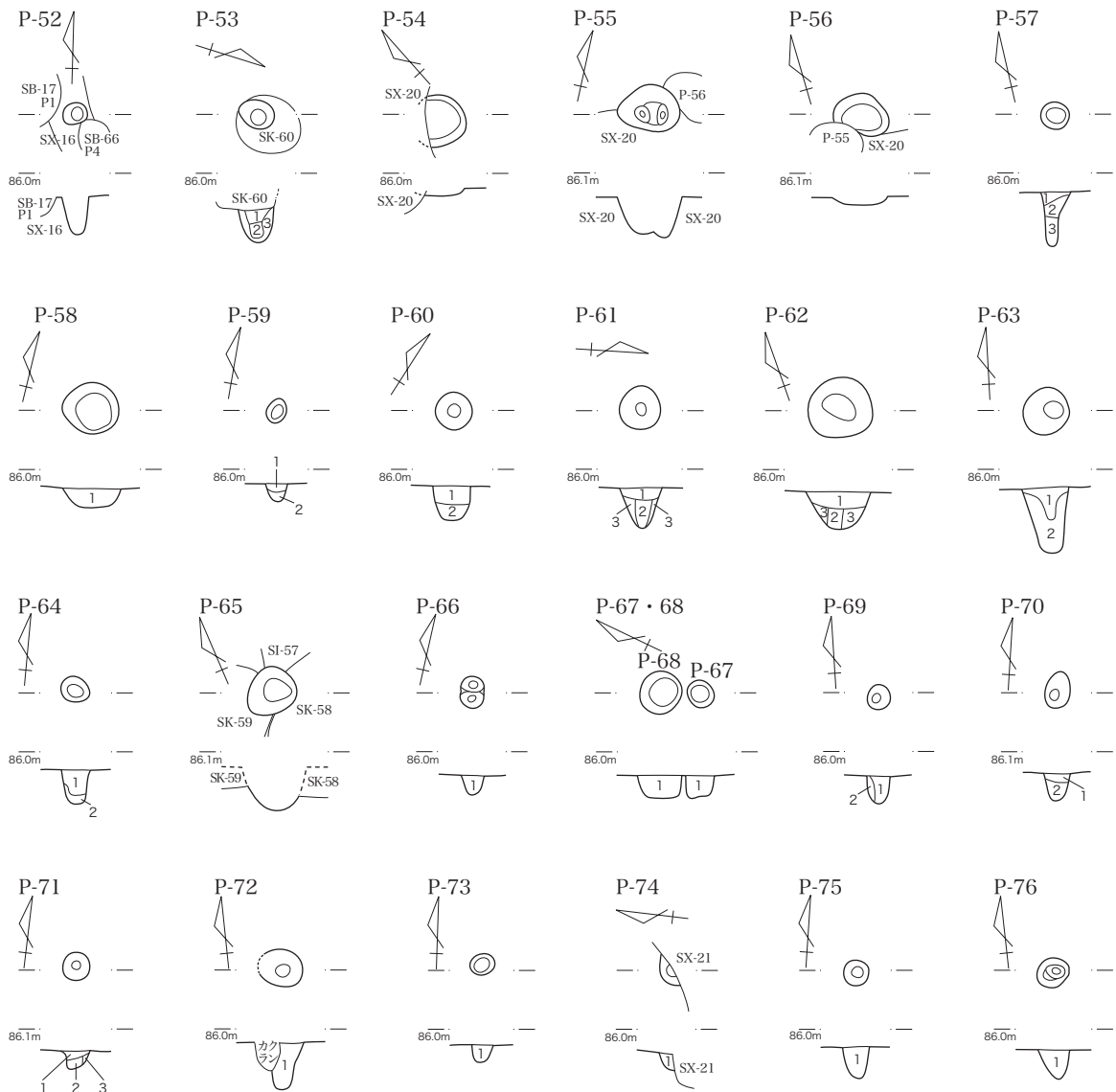


- | | | |
|---|---|--|
| <p>P-28
1 褐色土</p> <p>P-29
1 暗褐色土
2 暗褐色土</p> <p>P-30,31,32
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 暗褐色土
4 褐色土
5 暗灰褐色土
6 暗黄褐色土
7 暗褐色土
8 暗褐色土</p> <p>P-34,35
1 暗褐色土</p> <p>P-36,37,40,42
1 暗褐色土
2 褐色土
3 褐色土</p> <p>P-46
1 暗褐色土
2 暗褐色土</p> <p>P-47
1 暗褐色土
2 暗褐色土</p> <p>P-48
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 暗褐色土</p> <p>P-49
1 暗褐色土
2 暗褐色土</p> <p>P-50
1 暗褐色土</p> <p>P-51
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 褐色土
4 褐色土</p> | <p>P-38,39
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 暗褐色土
4 黄褐色土</p> <p>P-41
1 暗褐色土
2 褐色土</p> <p>P-43
1 暗褐色土
2 黄褐色土</p> <p>P-44
1 暗褐色土
2 褐色土</p> <p>P-45
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 暗褐色土
4 黄褐色土</p> <p>P-46
1 暗褐色土
2 暗褐色土</p> <p>P-47
1 暗褐色土
2 暗褐色土</p> <p>P-48
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 暗褐色土</p> <p>P-49
1 暗褐色土
2 暗褐色土</p> <p>P-50
1 暗褐色土</p> <p>P-51
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 褐色土
4 褐色土</p> | <p>P-28
ローム粒やや多量、ローム塊少量、焼土粒微量。しまりやや強。</p> <p>P-29
1 暗褐色土 焼土粒・ローム粒・白色粒若干。しまり強。
2 暗褐色土 ローム粒少量。しまり強。</p> <p>P-30,31,32
1 暗褐色土 焼土粒・ローム粒・白色粒若干。しまり強。
2 暗褐色土 ローム粒少量。しまり強。
3 暗褐色土 焼土粒・ローム粒・白色粒微量、炭化物若干。しまりやや強。
4 褐色土 ローム粒・ローム塊少量、白色粒若干。しまりやや強。
5 暗灰褐色土 白色粒多量、焼土粒若干。しまり強。
6 暗黄褐色土 白色粒微量、焼土粒若干。しまり強。
7 暗褐色土 白色粒少量、焼土粒若干。しまり強。
8 暗褐色土 白色粒・焼土粒若干。しまり強。</p> <p>P-34,35
1 暗褐色土 白色粒・ローム粒若干。しまりやや強。</p> <p>P-36,37,40,42
1 暗褐色土 白色粒・焼土粒少量、炭化物若干。しまり強。
2 褐色土 ローム粒・ローム塊少量、しまり強。
3 褐色土 ローム粒・ローム塊少量、焼土粒若干。しまり強。</p> <p>P-46
1 暗褐色土 白色粒・ローム粒若干。しまりやや強。
2 暗褐色土 白色粒・ローム粒若干。しまり強。</p> <p>P-47
1 暗褐色土 白色粒・ローム粒若干。しまりやや強。
2 暗褐色土 ローム粒若干。しまり強。</p> <p>P-48
1 暗褐色土 白色粒・焼土粒少量、炭化物若干。しまり強。
2 黄褐色土 ローム主体。しまり強。</p> <p>P-49
1 暗褐色土 白色粒・焼土粒少量、炭化物若干。しまり強。
2 暗褐色土 ローム主体。しまり強。</p> <p>P-50
1 暗褐色土 白色粒・焼土粒少量、炭化物若干。しまり強。
2 暗褐色土 ローム粒・ローム塊少量。しまり強。</p> <p>P-51
1 暗褐色土 白色粒・焼土粒微量、炭化物・ローム粒若干。しまり強。
2 暗褐色土 ローム粒・白色粒微量、焼土若干。しまり強。
3 褐色土 ローム粒少量、I P粒若干。しまり強。
4 褐色土 ローム粒少量、I P粒若干。しまり弱。</p> |
|---|---|--|



第460図 西刑部西原遺跡13区 ピット実測図(2)

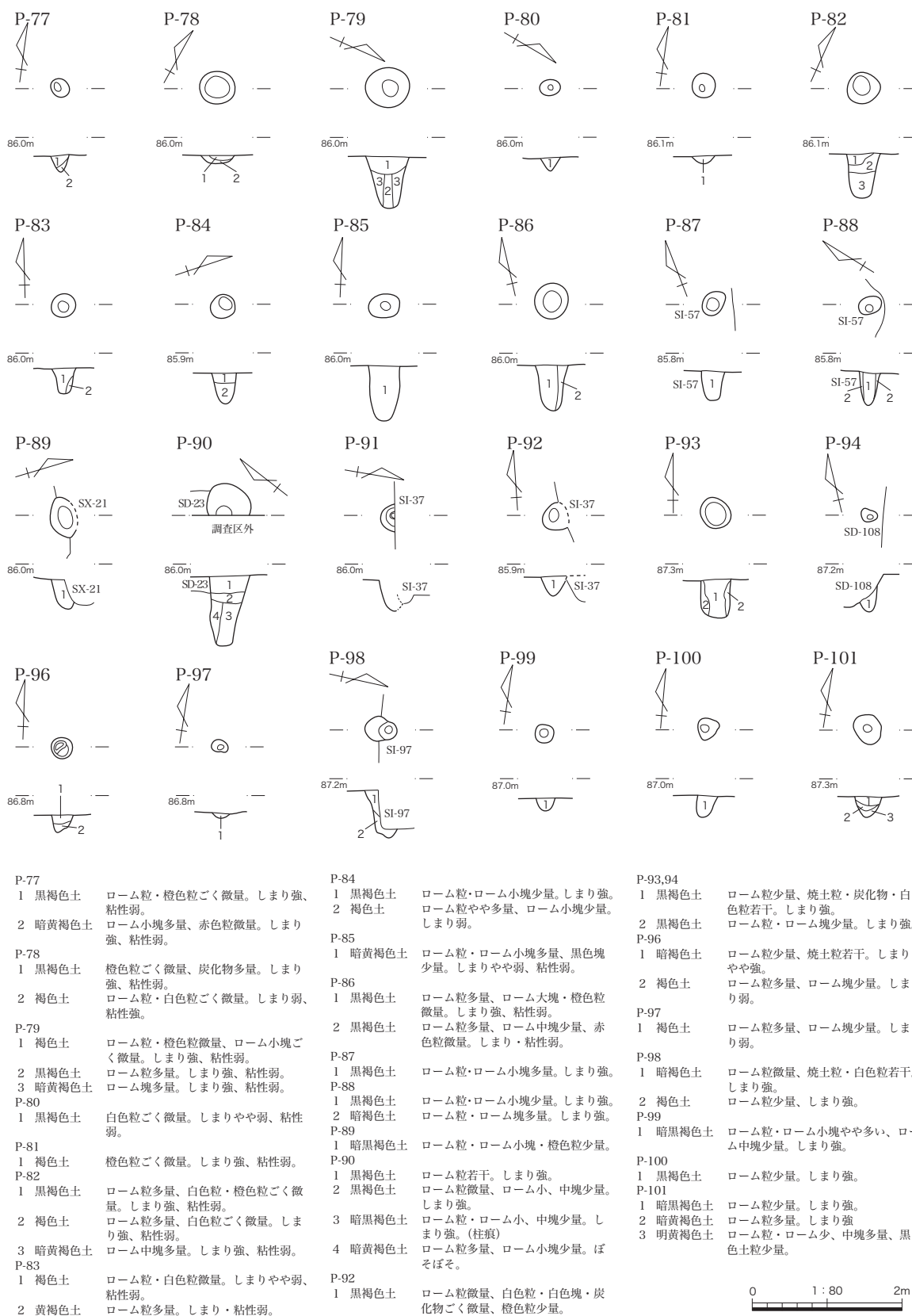
第3章 発見された遺構と遺物



P-53	1 暗褐色土 2 暗褐色土 3 黄褐色土	ローム粒・白色粒微量、焼土粒若干。しまり強。 ローム粒微量、しまりやや強。 ローム粒・ローム塊少量、しまり強。	2 褐色土 3 褐色土	ローム粒・暗黄褐色土塊少量、焼土粒若干。しまり強。 ローム粒・ローム塊多量。しまり強。	P-69	1 褐色土 2 褐色土	ローム粒・ローム小塊多量、炭化物若干。しまり強。 ローム粒微量。しまり弱。	
P-57	1 褐色土	ローム粒・暗黄褐色土塊・白色粒少量、焼土粒若干。しまり強。	P-62,63,68,71	1 褐色土 2 暗褐色土 3 褐色土	白色粒・ローム粒少量、炭化物・焼土粒若干。しまり強。 ローム粒若干。しまり強。 ローム粒多量、白色粒少量。しまりやや強。	P-70	1 黒褐色土 2 黒褐色土	ローム粒・白色粒少量。しまり強、しまり強。
P-58	1 暗褐色土 2 暗褐色土 3 暗褐色土	ローム粒・白色粒微量。しまり強。 ローム粒少量、白色粒微量。しまり強。 ローム粒若干。しまりやや強。	P-64	1 褐色土	ローム小塊少量。しまり弱。 ローム小、中塊多量。しまり弱。	P-72	1 褐色土	白色粒・橙色粒ごく微量。しまり強、粘性弱。
P-59	1 暗褐色土 2 暗褐色土	焼土粒・白色粒微量。しまり強。 白色粒若干。しまり強。	P-66	1 褐色土 2 黄褐色土	ローム粒・ローム小塊少量。しまり強。 ローム粒・ローム小塊少量。しまり強。 炭化物少量、ローム粒若干。上部にのみ、焼土小塊少量。	P-73	1 黒褐色土	ローム粒・橙色粒ごく微量。しまりやや強、粘性やや弱。
P-60	1 褐色土	白色粒微量、暗黄褐色塊・焼土粒若干。しまり強。 ローム粒・ローム塊微量、焼土粒若干。しまり強。	P-67	1 褐色土	炭化物少量、ローム粒若干。上部にのみ、焼土小塊少量。	P-74	1 褐色土	ローム粒少量。しまり弱。
P-61	1 暗褐色土	白色粒微量、ローム粒・炭化物・焼土粒若干。しまり強。	P-68,71	1 褐色土 2 暗褐色土 3 褐色土	白色粒・ローム粒少量、炭化物・焼土粒若干。しまり強。 ローム粒若干。しまり強。 ローム粒多量、白色粒少量。しまりやや強。	P-75	1 褐色土	橙色粒多量、ローム粒微量。しまり強、粘性やや弱。
P-64	1 暗褐色土 2 暗褐色土 3 暗褐色土	ローム粒・白色粒微量。しまり強。 ローム粒少量、白色粒微量。しまり強。 ローム粒若干。しまりやや強。	P-73	1 褐色土	ローム粒・ローム小塊少量。しまり強。	P-76	1 褐色土	ローム粒・白色粘土微量、橙色粒少量。しまり強、粘性やや弱。
P-65	1 暗褐色土 2 暗褐色土	焼土粒・白色粒微量。しまり強。 白色粒若干。しまり強。	P-74	1 褐色土	ローム粒・ローム小塊少量。しまり強。			
P-66	1 褐色土	白色粒微量、暗黄褐色塊・焼土粒若干。しまり強。 ローム粒・ローム塊微量、焼土粒若干。しまり強。	P-75	1 褐色土	炭化物少量、ローム粒若干。上部にのみ、焼土小塊少量。			
P-67	1 褐色土	白色粒微量、ローム粒・炭化物・焼土粒若干。しまり強。	P-76	1 褐色土	ローム粒・ローム小塊少量。しまり強。 ローム小、中塊多量。しまり弱。			
P-68	1 褐色土	白色粒・ローム粒少量、炭化物・焼土粒若干。しまり強。 ローム粒若干。しまり強。 ローム粒多量、白色粒少量。しまりやや強。						
P-69	1 褐色土	ローム粒・暗黄褐色土塊少量、焼土粒若干。しまり強。 ローム粒・ローム塊多量。しまり強。						
P-70	1 黒褐色土 2 黒褐色土	ローム粒・白色粒少量。しまり強、しまり強。						
P-71	1 暗褐色土 2 暗褐色土 3 暗褐色土	ローム粒・白色粒微量。しまり強。 ローム粒少量、白色粒微量。しまり強。 ローム粒若干。しまりやや強。						
P-72	1 褐色土	白色粒・橙色粒ごく微量。しまり強、粘性弱。						
P-73	1 黒褐色土	ローム粒・橙色粒ごく微量。しまりやや強、粘性やや弱。						
P-74	1 褐色土	ローム粒少量。しまり弱。						
P-75	1 褐色土	橙色粒多量、ローム粒微量。しまり強、粘性やや弱。						
P-76	1 褐色土	ローム粒・白色粘土微量、橙色粒少量。しまり強、粘性やや弱。						



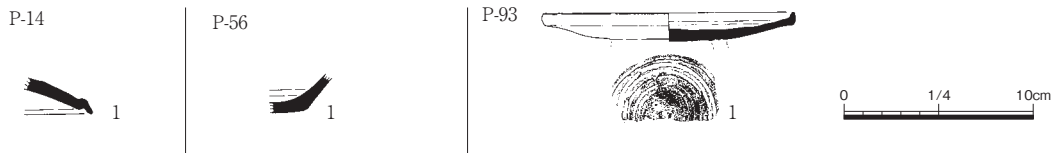
第461図 西刑部西原遺跡13区 ピット実測図(3)



第462図 西刑部西原遺跡13区 ピット実測図(4)

第3章 発見された遺構と遺物

P-65	101.0-53.5	—	0.53	0.53	0.162	
P-66	100.5-53.5	—	0.34	0.26	0.22	
P-67	100.5-53.5	円形	0.32	0.29	0.25	
P-68	100.5-53.5	円形	0.48	0.45	0.25	
P-69	100.5-53.5	円形	0.27	0.27	0.32	
P-70	100.5-53.5	—	0.4	0.29	0.31	
P-71	100.5-53.5	円形	0.32	0.29	0.21	
P-72	100.5-53.5	—	0.44	0.41	0.51	
P-73	100.5-53.5	円形	0.26	0.24	0.19	
P-74	100.5-53.5	—	(0.39)	(0.15)	0.17	
P-75	100.5-54.0	円形	0.29	0.28	0.34	
P-76	100.5-54.0	—	0.35	0.34	0.34	
P-77	100.5-53.0	円形	0.25	0.25	0.218	
P-78	100.5-53.0	円形	0.47	0.43	0.114	
P-79	100.5-53.0	円形	0.55	0.53	0.67	
P-80	100.5-53.0	円形	0.25	0.21	0.151	
P-81	100.0-53.5	円形	0.32	0.31	0.11	
P-82	100.0-53.5	—	0.42	0.41	0.6	
P-83	100.5-54.0	円形	0.34	0.31	0.34	
P-84	—	円形	0.34	0.3	0.417	
P-85	100.5-54.0	楕円形	0.41	0.31	0.74	
P-86	101.0-53.5	円形	0.47	0.4	0.582	
P-87	101.0-53.5	円形	0.37	0.29	0.38	
P-88	101.0-53.5	円形	0.3	0.25	0.746	
P-89	100.5-53.0	—	0.56	0.31	0.39	
P-90	100.0-53.0	—	(0.59)	(0.41)	0.93	
P-91	100.5-54.0	—	(0.36)	(0.19)	(0.41)	
P-92	101.0-53.5	—	0.35	0.29	0.321	
P-93	98.0-55.0 98.5-55.0	円形	0.4	0.4	0.5	
P-94	98.0-55.0	—	0.21	0.18	0.49	
P-96	97.5-54.5	円形	0.29	0.29	0.24	
P-97	97.5-54.5	—	0.22	0.16	0.07	
P-98	97.5-54.5	—	0.43	0.34	0.64	
P-99	98.5-55.0	—	0.25	0.25	0.18	
P-100	98.5-55.0	—	0.3	0.28	0.3	
P-101	98.5-55.0	楕円形	0.4	0.37	0.28	



第 463 図 西刑部西原遺跡 13 区 ピット出土遺物

第 215 表 13 区 P-14 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器蓋	高 [1.9]	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリ。	内外面とも 7.5Y5/1 灰	やや緻密、灰・白細砂～粗砂 焼成：硬質	覆土中	口縁部破片

第 216 表 13 区 P-56 出土遺物観察表

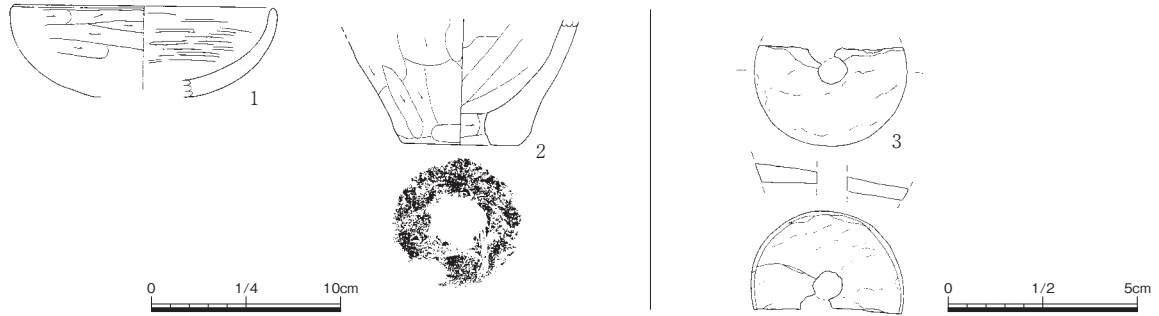
掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器坏	高 [1.9]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちナデか。	内：7.5Y5/1 灰 外：7.5Y6/1 灰	やや粗い、白・黒粗砂 焼成：硬質	覆土中	底部～体部下端破片

第 217 表 13 区 P-93 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	須恵器高台付皿または高坏	口 (13.2) 高 [1.5]	内外面ロクロナデ。口縁部ツマミ上げ。底部外面回転ヘラケズリのち接合沈線のち高台貼付。底部内面半径 3cm ほどの範囲で研磨痕あり。	内外面とも 7.5Y5/1 灰	やや緻密、白粗砂 焼成：硬質	覆土中	口縁部 1/5、高台部欠損

8. 遺構外

遺構外から出土した遺物は総数20点ほどで、いずれも土師器・須恵器類の小片が多い。このうち3点を図示した。1は内外面ヘラミガキのある土師器坏。2は土師器甑の底部付近の破片。底部の孔はヘラケズリによる穿孔。3は泥岩の石製紡錘車の剥片である。



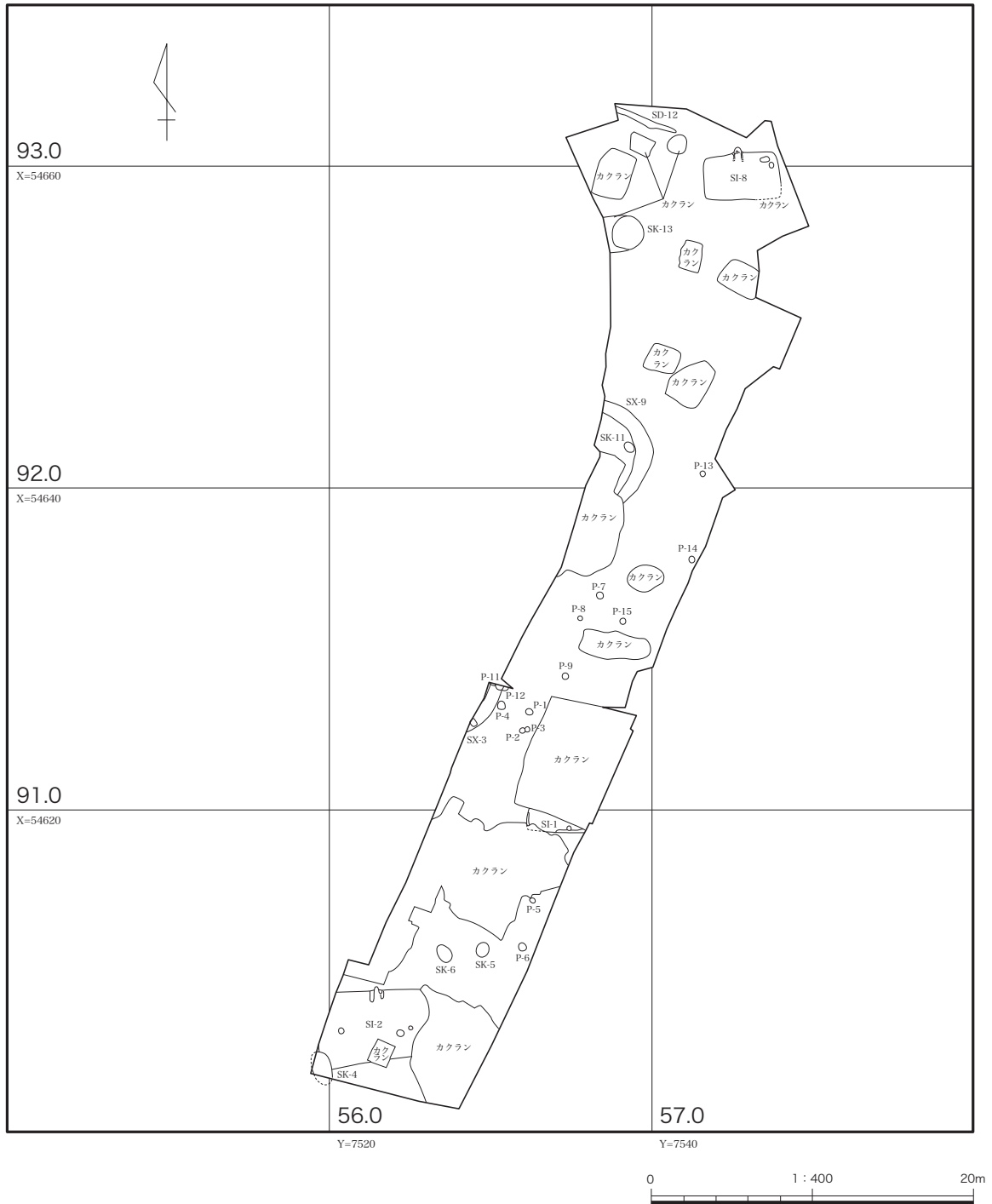
第464図 西刑部西原遺跡13区 遺構外出土遺物

第218表 13区 遺構外出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成・石材	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器坏	口 (13.6) 高 [4.7]	口縁部内外面ヨコナデ。体部から底部内面ヨコヘラミガキ。体部外面ヨコヘラケズリ。体部～底部磨滅のため調整不明。内外面漆仕上げ。	内：5YR5/6 明赤褐 外：7.5YR7/6 橙	やや緻密、白細砂～粗砂 焼成：やや硬質	102-53.5	口縁部 1/4、底部 1/4
2	土師器甑	底 6.0 高 [6.6] 孔 2.4	胴部外面タテヘラケズリ、下端ナデ。底部外面ヘラナデのち孔部ヘラケズリ。胴部内面ナメ方向ヘラナデ。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや粗い、白・黒粗砂 焼成：やや軟質	102.5-53	底部完存
3	石製品紡錘車	孔 0.7 厚 [0.5] 重 [7.2]	上面下面共に剥離し欠損。孔は垂直方向のノミ痕を明瞭に残す。未完成品か。	N4/0 灰	泥岩	表土中	部分残存

第14節 14区の遺構と遺物

本調査区は台地上平坦面に位置し、南部の11区、北部の10区と境を接する。竪穴建物跡3棟、周溝遺構2基、溝1条、土坑5基、ピット14基が確認されたが、攪乱部分が非常に多く、より多くの遺構が存在した可能性がある。

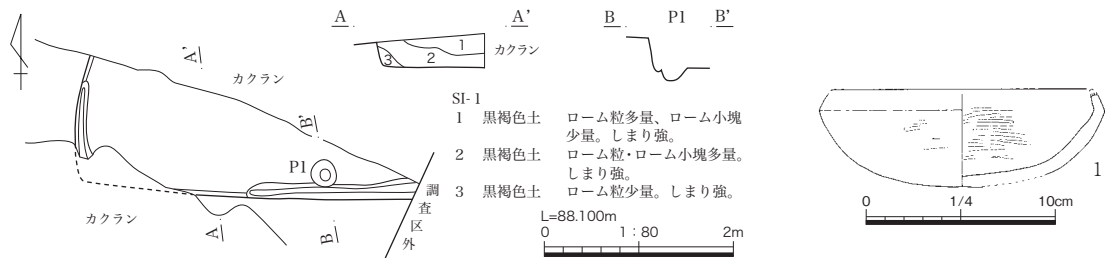


第465図 西刑部西原遺跡14区 全体図 (S=1/400)

1. 竪穴建物跡

14 区 SI- 1 (遺構・遺物：第 466 図、図版七六)

位置 グリッド 90.5-56.5 平面形 北部の大半と南西コーナーを攪乱される。方形あるいは長方形と思われる。規模 東西 3.62 m 以上 × 南北 1.35 m 以上 主軸方向 不明 覆土 自然堆積と考えられる。壁 壁高は 31 ~ 39 cm である。床 ローム面を床面としており概ね平坦である。柱穴 P1 (径 29 cm、深さ 14 cm) は壁際にあるため、入口ピットの可能性もある。壁溝 壁溝は残存部の南壁及び西壁の一部に見られる。幅 9 ~ 16 cm、深さ約 7 cm。カマド 調査区外に存在するものと思われる。遺物 遺物は極めて少なく、土師器甕及び坏の小破片が計 6 点出土したのみで、このうち 1 点を図示した。1 の土師器坏は内外面にヘラミガキが施されるが、磨滅が顕著で不明瞭。古墳時代後期から終末期の遺物と考えられる。



第 466 図 西刑部西原遺跡 14 区 SI- 1 実測図・出土遺物

第 219 表 14 区 SI- 1 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	土師器坏	径 (14.8) 高 [4.9]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面剥離著しく不明瞭だがヘラケズリのちヘラミガキか。体部内面ヘラミガキ。口縁部外面漆仕上げ。	内：7.5YR5/4 にぶい褐色 外：7.5YR6/4 にぶい橙	粗い、黒・灰・白粗砂～礫・赤粒 焼成：軟質	覆土中	口縁部 1/4

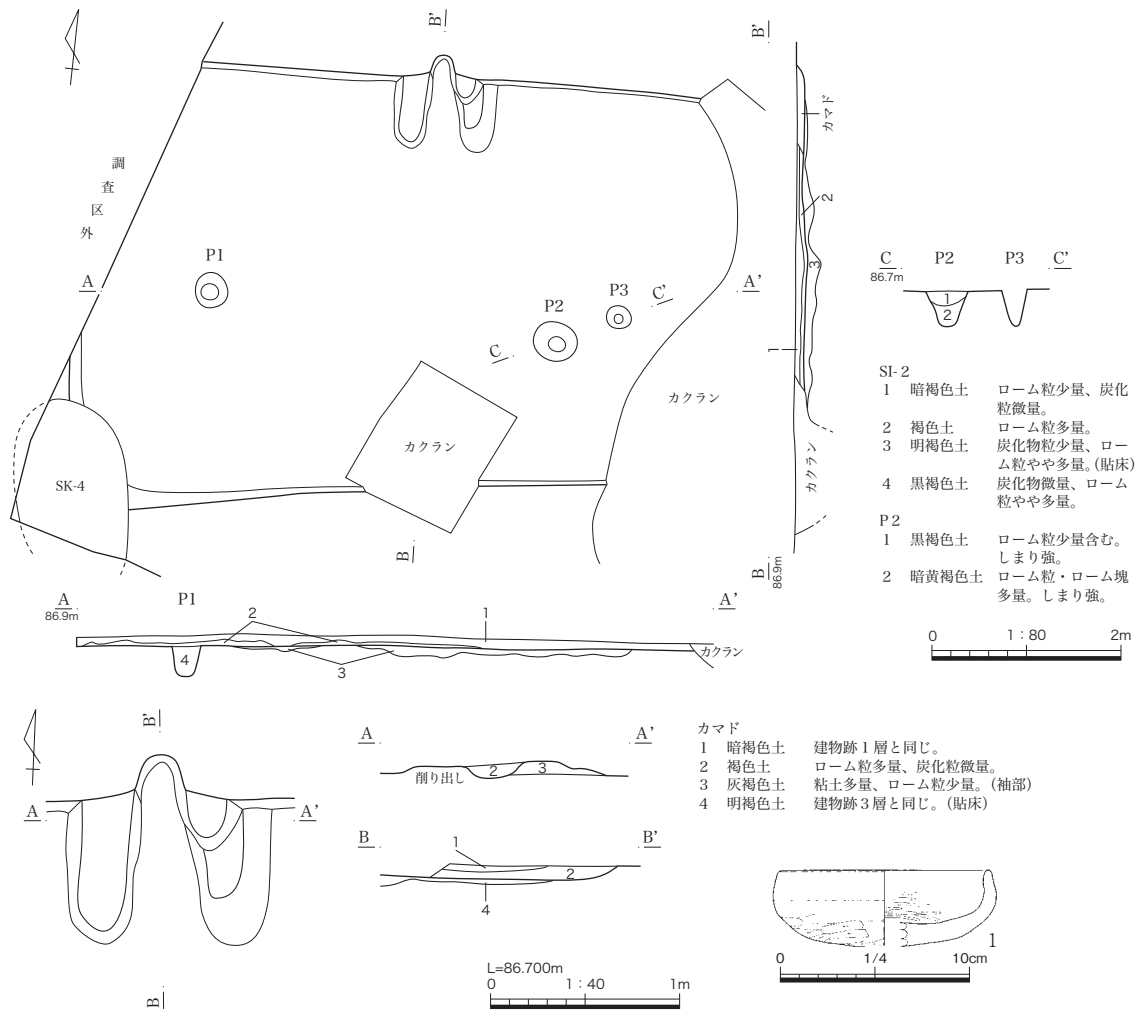
14 区 SI- 2 (遺構・遺物：第 467 図、図版七六)

位置 グリッド 90.0-55.5・90.0-56.0 重複遺構 SK- 4 平面形 北西隅と東壁は攪乱を受け不明だが、東西軸の長方形と推定可能。規模 東西 6.9 m 以上 × 南北 4.7 m 以上 主軸方向 不明 覆土 暗褐色土及び明褐色土からなる自然堆積か。壁 壁高は最深部で 12 cm と極めて浅い。床 ほぼ全面に薄い貼床あり。

柱穴 P1 (径 35 cm、深さ 31 cm)、P2 (径 45 ~ 40 cm、深さ 39 cm)、P3 (径 26 cm、深さ 38 cm) がある。二本主柱の建物か。掘方 底面に若干の凹凸を残し、ローム粒を少量含む 3 層で埋戻す。カマド 北壁中央部付近の壁際を U 字状に掘り込む。焼土は非常に少ない。袖は灰褐色粘土で構築されていた。遺物 遺物は土師器甕及び坏の小破片が計 14 点出土し、このうち 1 点を図示した。1 は赤色塗彩が見られ、内面にヘラミガキを施す。遺物は古墳時代後期中葉の土器と考えられるが、出土量が少なく遺構の帰属時期は明確にはできなかった。

第 220 表 14 区 SI- 2 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	土師器坏	口 (10.8) 高 4.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ。体部外面ヘラケズリ。外面に赤色塗彩あり。	内：10YR8/4 浅黄橙 外：5YR5/8 明赤褐	やや粗い、灰粗砂・赤粒 焼成：硬質	南西	口縁部～体部 1/4



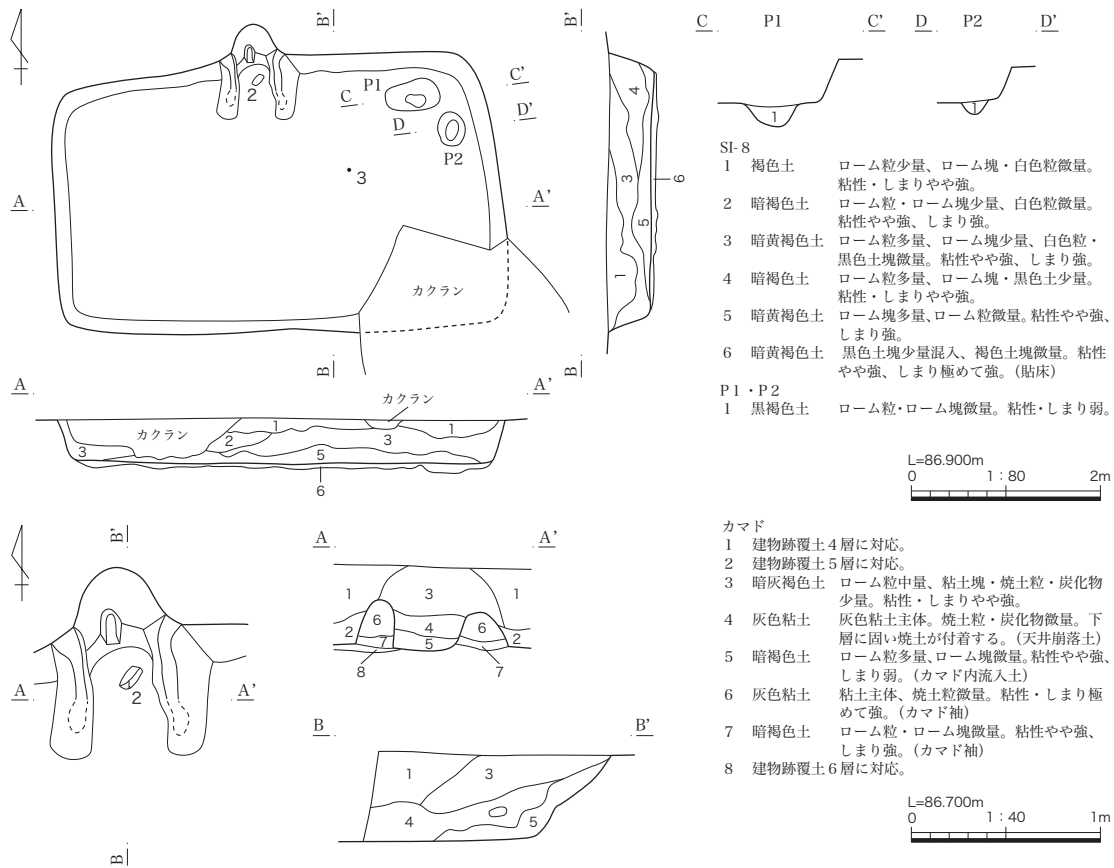
第 467 図 西刑部西原遺跡 14 区 SI-2 実測図・出土遺物

14 区 SI-8 (遺構：第 468 図、遺物：第 469 図、図版七六・——)

位置 グリッド 92.5-57.0・93.0-57.0 平面形 東西軸の長方形。南西隅を攪乱される。規模 東西 4.76 × 南北 2.92 m 主軸方向 N-4°-E 覆土 自然堆積と考えられ、褐色土及び暗黄褐色土主体の 5 層からなる。壁 壁高 40~46 cm 床 全面的に貼床を施すが、概ね平坦である。ピット P2(径 27~35 cm、深さ 17 cm) は柱穴の可能性はあるが、対応する柱穴が確認できなかった。貯蔵穴 P1(長軸 55 × 短軸 34 cm、深さ 26 cm) は北東隅にあり、不整な長方形状を呈する。掘方 底面には細かな凹凸があり 6 層で、

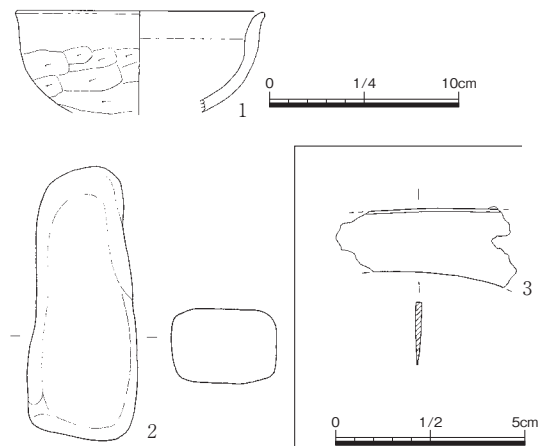
第 221 表 14 区 SI-8 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 環	口 12.8 高 [5.3]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。口縁部外面及び内面漆仕上げ。	内外面とも 10YR7/4 に ぶい黄橙	やや粗い、白・灰・黒粗 砂～礫、赤粒 焼成：やや軟質	カマド	口縁部～体 部 1/2
2	石器 編物石	口 14.3 底 5.5 高 3.7 厚 602.0	未加工の自然礫。 平面形：隅丸長方形 断面形：隅丸長方形	10GY4/1 暗緑灰	—	No.2 7.7	完存
3	不明 鉄製品	長 [4.6] 幅 2.0 厚 0.2 重 [4.5]	鉄鏃あるいは鎌か。	—	鉄製	No.1 床直	部分残存



第 468 図 西刑部西原遺跡 14 区 SI- 8 実測図

平坦に埋戻している。カマド北壁中央部をU字状に掘り込み煙道部としている。煙道は約45°の角度で立ち上がる。燃烧部には天井崩落土が厚く堆積する。遺物 遺物は極めて少なく、覆土中から土師器甕及び坏類の小破片16点が出土し、うち3点を図示した。1は器高の高い土師器坏で、口縁はやや外反気味である。2はカマド内から出土したが、被熱しておらず支脚の可能性は低い。3の鉄製品は、鎌または刀子の破片で、床面直上から出土している。最も遺存度の高い土師器坏(1)から判断すると、古墳時代後期中葉(6世紀中頃)の建物と考えられる。

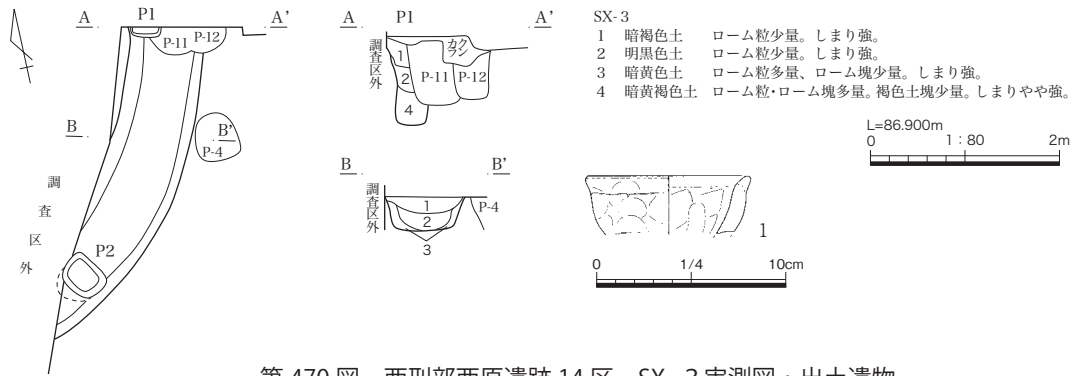


第 469 図 西刑部西原遺跡 14 区 SI- 8 出土遺物

2. 円形周溝遺構

14区 SX- 3 (遺構・遺物：第470図、図版七六)

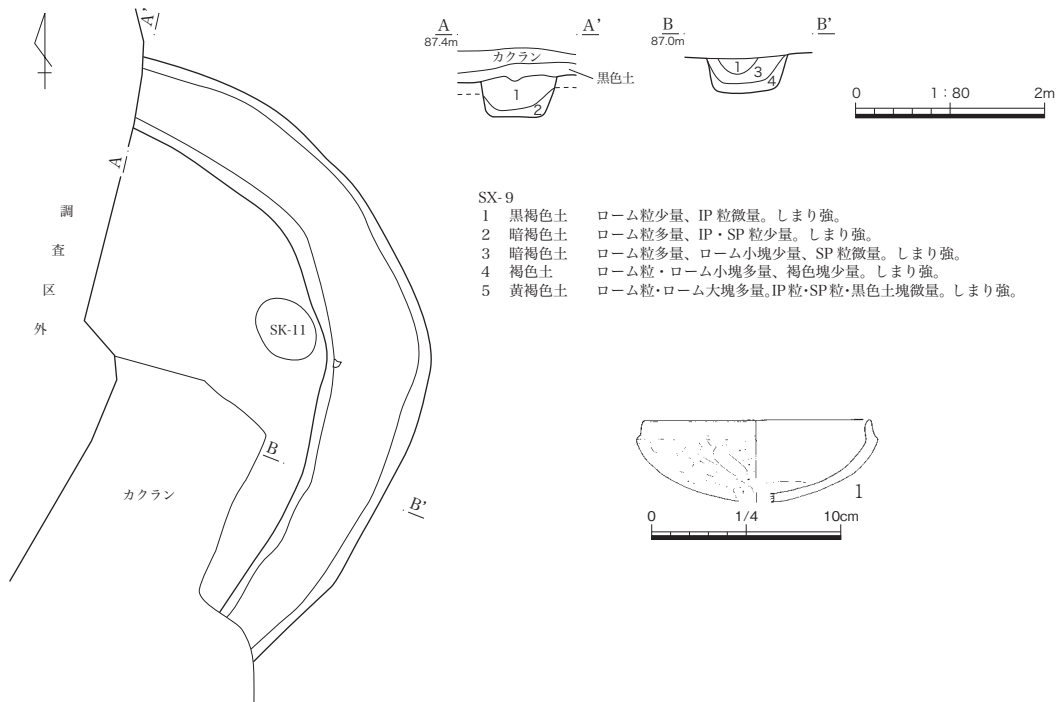
位置 グリッド91.0-56.0 重複遺構 P-11・12より古い。 規模・平面形 周溝の一部が残るのみで、全体の形状は不明。溝の上幅50～75cm。 覆土 自然堆積か。 壁・断面形 壁高38cm。断面形は逆台形状を呈する。 底面 概ね平坦である。 ピット P1(長軸34cmの隅丸方形、周溝底面からの深さ40cm)、P2(長軸44×短軸36cmの隅丸方形、周溝底面からの深さ44cm)は周溝に直交して掘り込まれる。またP2の南側面はオーバーハングしている。 遺物 覆土中から土師器粗製坏が1点出土した。1点のみで時期の確定は難しいが、古墳時代後期から終末期の可能性が高い。



第470図 西刑部西原遺跡14区 SX- 3実測図・出土遺物

第222表 14区 SX- 3出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器粗製坏	口 (8.2) 高 [3.1]	口縁部内外面ヨコナデ。内面体部ヘラナデのちナデ。外面指頭押圧及びナデ。	内：5YR7/6 橙 外：10YR5/3 にぶい黄褐	緻密、白細砂 焼成：硬質	覆土中	口縁部 3/8



第471図 西刑部西原遺跡14区 SX- 9実測図・出土遺物

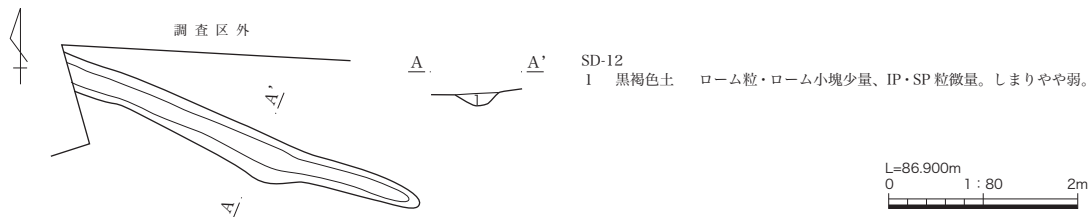
14 区 SX- 9 (遺構・遺物：第 471 図、図版七七)

位置 グリッド 91.5-56.5・92.0-56.5 規模・平面形 周溝の多くが調査区外及び攪乱を受け不明である。残存部は全体の 1/3 程度か。溝の上幅 79～108 cm。覆土 自然堆積と考えられる。壁・断面形 壁高 36～43 cm 残。断面形は逆台形状を呈する。底面 周溝に直交する工具跡が残る。遺物 覆土中から土師器小破片(甕・坏) 40 点が出土。図示可能な 1 の土師器坏を掲載した。時期は古墳時代終末期のものと考えられる。

第 223 表 14 区 SX- 9 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上(cm)	残存
1	土師器 坏	口 (11.8) 高 [4.3]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリのち一部ナデ。体部内面一部ナデ。	内：5YR6/6 橙 外：5YR6/8 橙	やや緻密、黒・白細砂～ 礫、赤粒 焼成：やや硬質	北	口縁部 1/2、底部 1/2

3. 溝



第 472 図 西刑部西原遺跡 14 区 SD-12 実測図

14 区 SD-12 (遺構：第 472 図、図版七七)

位置 グリッド 93.0-56.5・93.0-57.0 規模・平面形 長さ 4.04m 以上、上幅 0.30～0.50 m である。大部分が調査区外にあるため全形は不明だが、若干蛇行している。覆土 黒褐色土単層からなる自然堆積と考えられる。壁・断面形 壁高は 10 cm 弱と浅く、遺構底面がかろうじて残ったものと考えられる。断面形は皿状。遺物 時期を判別できるような遺物は出土しなかった。

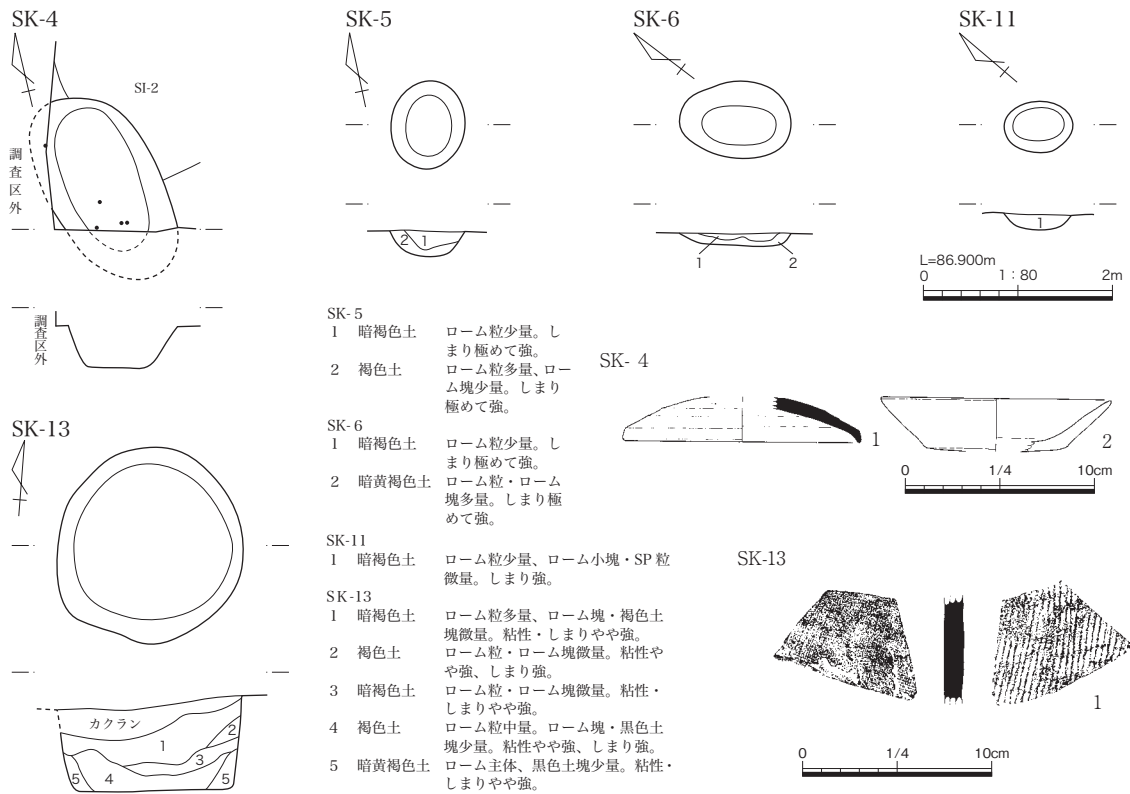
4. 土坑

本調査区からは計 5 基の土坑が確認された。位置的には調査区南部にまとまりがある。土坑は遺物の出土量が少ないため明確な時期を確定できないものが多い。ただし建物跡などとの切り合いから、ある程度の時間幅を推定できるものもある。ここでは出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容などを表にまとめ掲載した。このうち、特徴的な遺構・遺物については補足説明を行うこととしたい。

土坑を形態別に概観すると、平面形はいずれも楕円形を呈し、比較的浅めのものが大多数を占める。土坑は小型のもの (SK- 5・6・11) と推定長軸 2 m を越えるやや大型のもの (SK- 4) がある。出土遺物は古墳時代終末期から奈良時代の遺物が散見される。

SK-13 は径約 2 m の円形を呈し、断面形は円筒形を呈する。覆土は自然堆積と考えられる。遺物は内面に無文あて具痕を有する須恵器甕破片が出土する。8 世紀代の遺物か。

第3章 発見された遺構と遺物



第 473 図 西刑部西原遺跡 14 区 土坑実測図・出土遺物

第 224 表 14 区 土坑計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
SK-4	90.0-55.5・56.0	楕円形	(1.53)	(1.13)	0.54	
SK-5	90.5-56.0	楕円形	0.95	0.77	0.29	
SK-6	90.5-56.0	楕円形	1.15	0.80	0.16	
SK-11	92.0-56.5	楕円形	0.7	0.57	0.15	
SK-13	92.5-56.5	円形	20.6	13.0	0.84	

第 225 表 14 区 SK-4 出土遺物観察表

掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	須恵器蓋	口 (12.2) 高 [2.3]	内外面ロクロナデ。天井部外面回転ヘラケズリ。	内外面とも 10YR6/1 褐灰	やや粗い、白粗砂 焼成：硬質	覆土中	口縁部～天井部 1/6
2	土師器環	口 (11.8) 底 (7.4) 高 [2.8]	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。全面漆仕上げ。口縁部は長くほぼ平底に近い器形。	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：7.5YR8/6 浅黄橙	緻密、白細砂 焼成：やや硬質	覆土中	口縁部 1/4

第 226 表 14 区 SK-13 出土遺物観察表

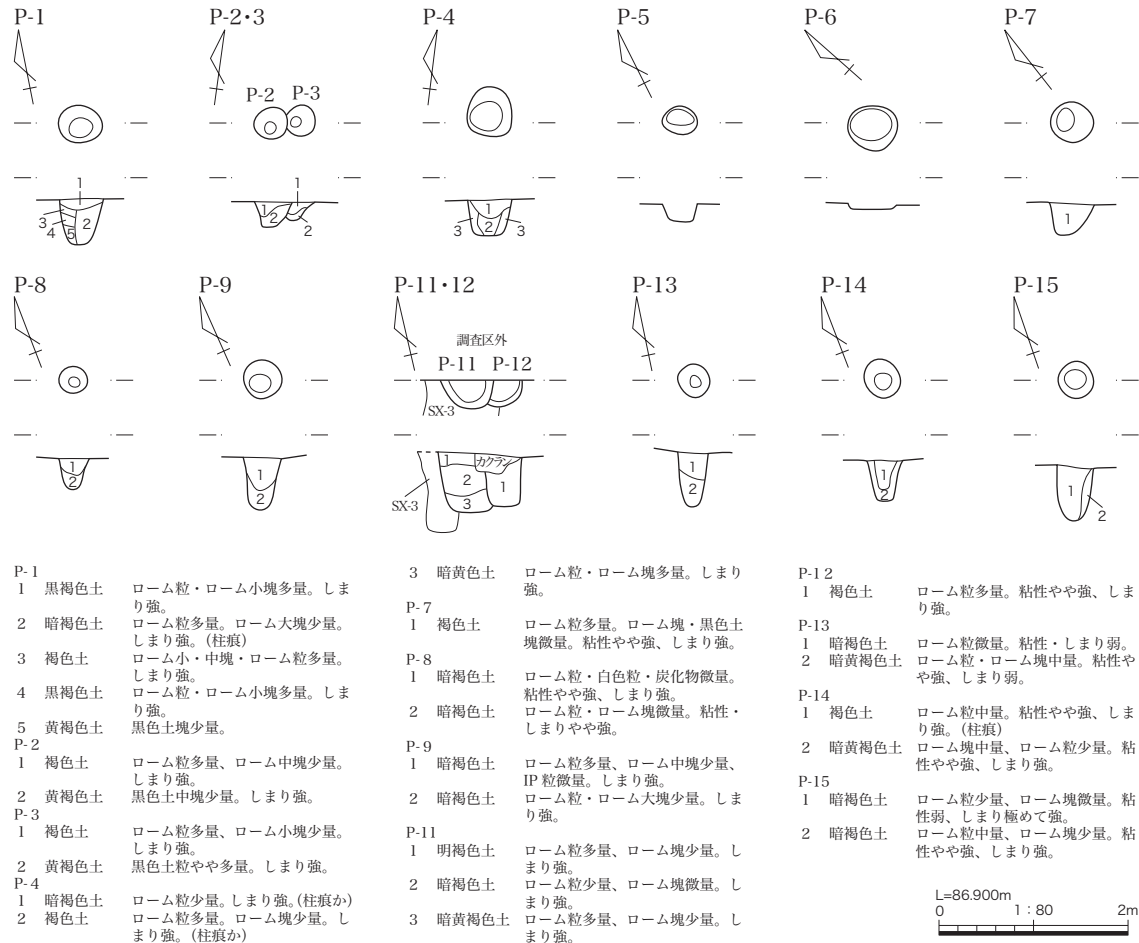
掲載番号	器種	法量 (cm/g)	技法・特徴	色調	胎土・素材・焼成	出土位置・床上 (cm)	残存
1	須恵器甕	高 [5.8] 厚 0.9	内面無文あて具痕のちヘラナデ。外面擬格子叩き及び降灰あり。	内：5Y5/1 灰 外：5Y5/2 灰オリーブ	やや粗い、白粗砂～礫 焼成：硬質	覆土中	胴部破片

5. ピット

本調査区から確認されたピット（小穴）は計 14 基である。土坑と同様、遺物の出土量が少ないため明確な時期を確定できないものが多いが、他遺構との切り合いから、ある程度の時間幅を推定できるものもある。

ここでは土坑と同様に個別の事実記載は行わず、出土位置・規模・平面形、切り合い状況や遺物の内容などを表にまとめ掲載した。

ピットはその殆どが 14 区中央部の円形周溝遺構近辺から確認されている。形態は柱穴状のものが多い。覆土は、単層で自然堆積と考えられるもの、レンズ状の堆積を示すもの、或いは掘立柱建物跡の柱穴同様に柱痕をもつものなど多様である。明瞭な柱痕があるピットは P- 1・4・14・15 などがある。



- P-1
1 黒褐色土 ローム粒・ローム小塊多量。しまり強。
2 暗褐色土 ローム粒多量。ローム大塊少量。しまり強。(柱痕)
3 褐色土 ローム小・中塊・ローム粒多量。しまり強。
4 黒褐色土 ローム粒・ローム小塊多量。しまり強。
5 黄褐色土 黒色土塊少量。
- P-2
1 褐色土 ローム粒多量、ローム中塊少量。しまり強。
2 黄褐色土 黒色土中塊少量。しまり強。
- P-3
1 褐色土 ローム粒多量、ローム小塊少量。
2 黄褐色土 黒色土粒やや多量。しまり強。
- P-4
1 暗褐色土 ローム粒少量。しまり強。(柱痕か)
2 褐色土 ローム粒多量、ローム塊少量。しまり強。(柱痕か)
- P-7
1 褐色土 ローム粒多量。ローム塊・黒色土塊微量。粘性やや強、しまり強。
- P-8
1 暗褐色土 ローム粒・白色粒・炭化物微量。粘性やや強、しまり強。
2 暗褐色土 ローム粒・ローム塊微量。粘性・しまりやや強。
- P-9
1 暗褐色土 ローム粒多量、ローム中塊少量、IP 粒微量。しまり強。
2 暗褐色土 ローム粒・ローム大塊少量。しまり強。
- P-11
1 明褐色土 ローム粒多量、ローム塊少量。しまり強。
2 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊微量。しまり強。
3 暗黄褐色土 ローム粒多量、ローム塊少量。しまり強。
- P-12
1 褐色土 ローム粒多量。粘性やや強、しまり強。
- P-13
1 暗褐色土 ローム粒微量。粘性・しまり弱。
2 暗黄褐色土 ローム粒・ローム塊中量。粘性やや強、しまり弱。
- P-14
1 褐色土 ローム粒中量。粘性やや強、しまり強。(柱痕)
2 暗黄褐色土 ローム塊中量、ローム粒少量。粘性やや強、しまり強。
- P-15
1 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊微量。粘性弱、しまり極めて強。
2 暗褐色土 ローム粒中量、ローム塊少量。粘性やや強、しまり強。

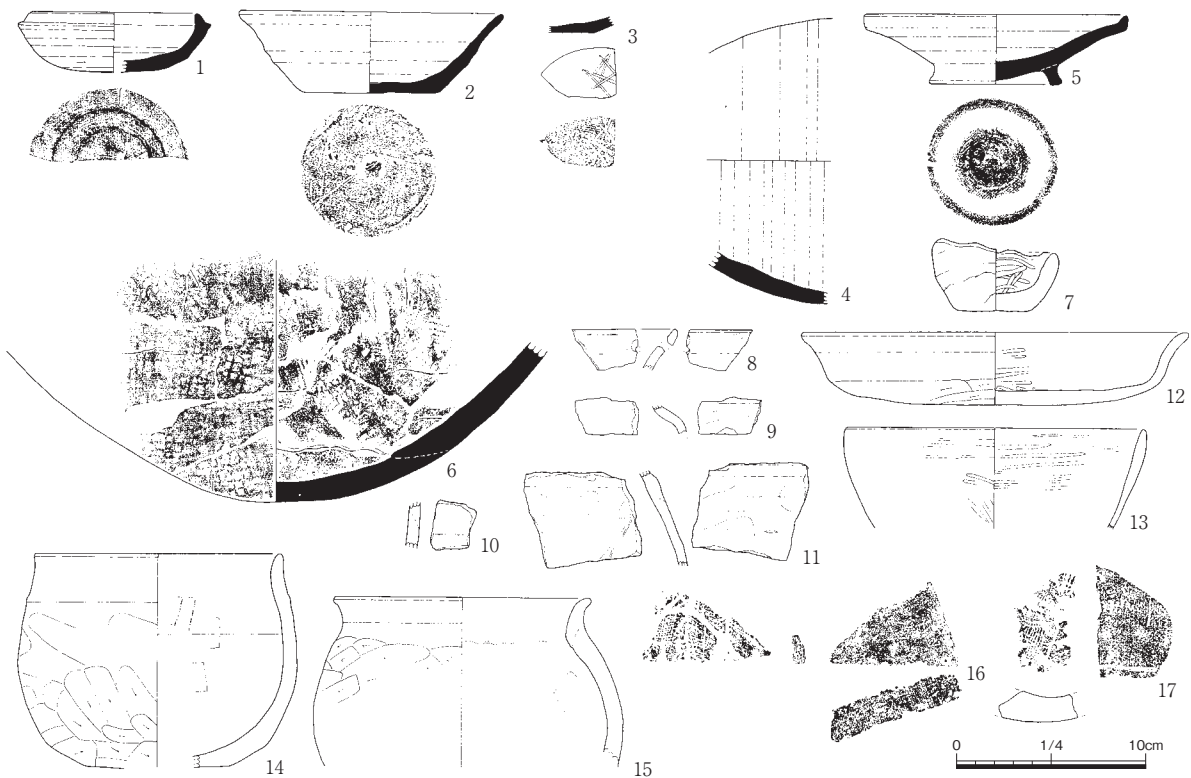
第 474 図 西刑部西原遺跡 14 区 ピット実測図

第 227 表 14 区 ピット計測表

遺構番号	グリッド	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
P-1	91.0-56.5	円形	0.45	0.40	0.47	
P-2	91.0-56.5	円形	0.35	0.35	0.19	P-2 は P-3 より新しい
P-3	91.0-56.5	円形	0.34	0.30	0.21	P-3 は P-2 より古い
P-4	91.0-56.0	円形	0.51	0.45	0.36	
P-5	90.5-56.5	円形	0.35	0.30	0.18	
P-6	9.5-56.5	円形	0.51	0.50	0.06	
P-7	91.5-56.5	円形	0.46	0.43	0.34	
P-8	91.5-56.5	円形	0.30	0.29	0.33	
P-9	91.0-56.5	円形	0.42	0.40	0.57	
P-11	91.0-56.5	円形	(0.6)	(0.24)	0.62	SX-3、P-12 と重複
P-12	91.0-56.5	円形	(0.36)	(0.24)	0.54	P-11 と重複
P-13	92.0-57.0	楕円形	0.36	0.35	0.58	
P-14	91.5-57.0	円形	0.42	0.40	0.44	
P-15	91.5-56.5	円形	0.40	0.38	0.60	

第15節 試掘トレンチ

ここでは試掘トレンチ調査で出土した遺物をまとめた。トレンチ調査を実施した範囲は遺跡中央部東側で、3～7区の西側部分にあたる。3区西部は平台地上の坦面にあたり、遺構密度も比較的高く遺物も多い。このため3区同様の集落が存在する可能性が高い。これに対し、5・7区西部の4区周辺地域は低地に向け若干傾斜しつつあり、遺構密度が低く、当然遺物の出土も少ない。トレンチは東西軸に設定し掘削順に番号を付した。詳細な位置は第3図調査区割図を参照されたい。なお、遺物観察表中の出土位置の欄には、トレンチ番号だけでなく、東西方向の位置関係を把握しやすくするためグリッド番号を併記している。



第 475 図 西刑部西原遺跡 試掘トレンチ出土遺物

第 228 表 西刑部西原遺跡 試掘トレンチ出土遺物

掲載番号	器種	法量(cm/g)	技 法 ・ 特 徴	色 調	胎土・素材・焼成	出土位置	残存
1	須恵器 環	口 (8.6) 高 [3.1]	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリ。	内：5Y5/1 灰 外：5Y4/1 灰	やや緻密、白細砂～粗砂 焼成：硬質	TX90-47 トレンチ 286	口縁部1/2、 底部1/2
2	須恵器 環	口 (13.8) 底 7.0 高 4.3	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ切りのちへラ記号。	内外面とも 2.5Y8/2 灰白	やや粗い、白細砂～礫 焼成：やや硬質	TX93-48 トレンチ 283	口縁部1/4、 底部完存
3	須恵器 環	底 (8.0) 高 [0.9]	ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリのちナデのちへラ記号。	内：2.5Y7/3 黄褐 外：2.5Y6/2 灰黄	やや緻密、白・灰・黒粗砂 焼成：硬質	TX85-46 トレンチ 290	底部1/6
4	須恵器 横瓶	径 (15.0)	外面回転ヘラケズリ。内面ロクロナデ。外面一部に緑色の自然釉付着。	内外面とも 10YR7/3 に ぶい黄橙	やや緻密、黒細砂、微砂粒、黒色粒 焼成：硬質	TX91-47 トレンチ 285	胴部破片
5	須恵器 高台付 環	口 (13.8) 高 3.7	ロクロ仕上げ。底部外面回転系切りのち高台貼付。焼け歪み顕著。歪みを補正して実測。伏せた環を乗せ重ね焼きしたため、口縁部内面に剥がし取った痕が残る。このため環の内面は釉がみられない。	内：2.5Y7/1 灰白 外：2.5Y4/2 暗灰黄	やや粗い、白・黒細砂～礫 焼成：硬質	TX91-47 トレンチ 285	体部1/2、 底部完存

6	須恵器 甕	高 [9.1]	胴部内面下半～底部内面平行線文あて具。外面格子叩き。	内：2.5YR8/3 淡黄	やや緻密、白細砂、灰礫 焼成：軟質	TX91-47 西 トレンチ 285	底部完存
7	土師器 手捏ね 土器	口 (5.6) 底 3.7 高 4.0	内面ナデのち一部ヘラミガキ。口縁部～体部外面指頭押圧。輪積痕あり。底部外面ナデ。	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR6/6 橙	やや緻密、白細砂 焼成：やや軟質	TX92-52 トレンチ 284	ほぼ完存
8	土師器 有孔壺 か	厚 4.5	口縁部内外面弱いヨコナデのちナメのナデ。孔は焼成前に内外面両方から穿つ。孔径外面 5 mm、内面 6.5 mm。	内：5YR5/6 明赤褐 外：5YR6/8 橙	やや緻密、白細砂 焼成：やや軟質	UT-TN トレンチ 不明	口縁部破片
9	土師器 小型壺 か	厚 4.5	肩部外面ヨコナデのちヨコヘラケズリか。内面ナデ。	内：10YR4/2 灰黄褐 外：10YR3/2 黒褐	やや粗い、灰粗砂 焼成：やや硬質	UT-TN トレンチ 不明	胴部破片
10	土師器 製塩土 器	厚 6.5	内外面ナデ。外面輪積痕あり。極めてよく被熱しており脆い。器形は不明、筒状か。	内：10YR8/4 浅黄橙 外：5YR6/8 橙	やや粗い、白・灰細砂、 白色針状物 焼成：軟質	TX90-46 トレンチ 286	小破片
11	土師器 甕か	厚 6.5	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ。輪積痕あり。胴部内面ナデ及びヘラナデ・指頭押圧あり。	内外面とも 5YR6/6 橙	やや粗い、小砂粒、礫、 白色粒、白色針状物微量 焼成：軟質	TX91-47 西(木の根) トレンチ 285	胴部破片
12	土師器 坏	口 (20.2) 高 3.9	口縁部内外面ヨコナデ。内面ヘラミガキ。体部～底部外面ヘラケズリのちヘラミガキか。大型の盤状坏。全体は橙色を呈する。器面は磨滅が著しく調整不明瞭。	内：2.5YR5/8 明赤褐 外：5YR5/6 明赤褐	やや緻密、白・黒細砂～ 粗砂 焼成：やや硬質	TX91-47 西(木の根) トレンチ 285	口縁部 1/12、底部 1/3
13	土師器 坏	口 (15.6) 高 [5.4]	口縁部内外面ヨコナデのち内面ヨコヘラミガキ。体部外面ヘラケズリのちヘラミガキか。器面内外面共に磨滅が顕著で調整不明瞭。	内外面とも 2.5YR5/8 明 赤褐	やや緻密、白・灰細砂～ 粗砂 焼成：やや硬質	TX91-47 西(木の根) トレンチ 285	口縁部～体 部 1/4
14	土師器 鉢	口 (12.8) 底 [7.2] 高 11.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半ナデ、下半一部ナメヘラケズリ。体部外面下端ヨコヘラケズリ。底部外面ヘラケズリ。体部～底部内面ヘラナデ。	内外面とも 7.5YR6/6 橙	やや粗い、白・灰・黒・ 赤粗砂～礫 焼成：やや軟質	TX91-47 西 トレンチ 285	口縁部 1/2、 底部 1/4
15	土師器 甕	口 13.2 径 16.3 高 [8.7]	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。外面部分的に黒斑あり。	内外面とも 5YR5/6 明赤 褐	やや緻密、白・黒細砂～ 礫 焼成：やや軟質	TX91-47 西 トレンチ 285	口縁部～胴 部上半 3/4
16	女瓦	長 [7.0] 幅 [6.6] 厚 1.7 重 [58.0]	凹面布目痕。凸面がナデ。	内外面とも 5YR4/4 にぶ い赤褐	やや粗い、白・灰・黒粗 砂～礫 焼成：やや軟質	TX91-49 トレンチ 285	部分残存
17	男瓦	長 [6.3] 幅 [4.2] 厚 1.5 重 [41.0]	凹面布目痕。凸面縦位のケズリ、横位の沈線状のナデあり。	内：7.5YR4/6 褐	やや粗い、灰・黒・赤粒 粗砂 焼成：やや軟質	TX90-46 トレンチ 286	部分残存

遺物は計 17 点を図示した。1 は返りをもつ須恵器坏。底部外面に回転ヘラケズリが見られる。2 の須恵器坏は底部外面に「×」字状のヘラ記号が見られる。3 の須恵器坏底面のヘラ記号はやや複雑である。4 は横長の横瓶である。図示していないが胴部外面の緑色の自然釉が見られる。5 の須恵器高台付坏は非常に歪みが大きい。黄褐色の自然釉が付着している。8・9 は小形の土師器類。8 は有孔の小形壺と考えられる。孔は焼成前に両面から穿孔される。本遺跡からはこの 1 点のみが出土した。9 は小形の壺か。10・11 は覆土中に白色針状物を含む土器。10 は橙色を呈する製塩土器と考えられる。11 はやや深い器形で甕の可能性はある。製塩土器以外の土器で、白色針状物を含む土器は極めて少なく、小破片が数点出土するのみである。12 は大形の盤状坏である。赤褐色を呈し、内面は入念に磨かれている。13 は内外面を入念に磨く土師器坏で、薄手で入念なつくりである。16 は女瓦、17 は男瓦である。瓦は 3 区の円形有段遺構 (SK-45) と 12 区の SI- 2 からも出土している。小破片ではあるが掲載した。

これらの遺物は殆どがトレンチ 284～トレンチ 286 から出土している。しかも東部に集中しており、この部分においても古墳時代後期から平安時代の遺構が存在することが想定される。

第4章 まとめと成果

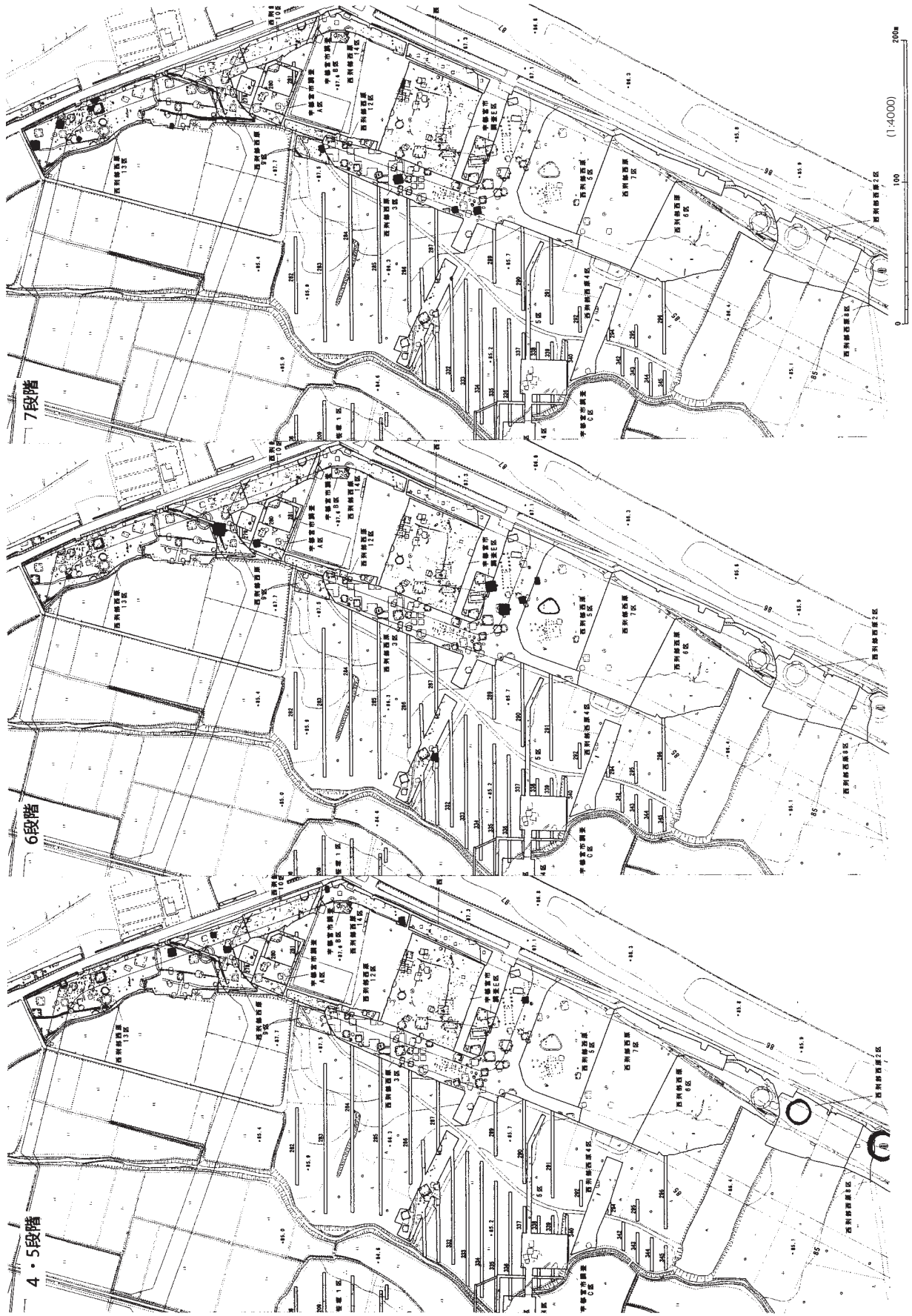
第1節 遺構の変遷について

西刑部西原遺跡の今回調査区内においては古墳時代中期末（TK 23-47 段階）から平安時代（9 世紀後葉）にかけ、竪穴建物跡を中心とした遺構群により構成されている。ここでは西に近接する中島笹塚遺跡の段階別の土器変遷（内山 2008）をもとに、その重複関係・出土遺物の検討により帰属時期の判別可能な遺構について述べてみたい。その変遷は第 229 表と第 476~478 図に示すとおりである。

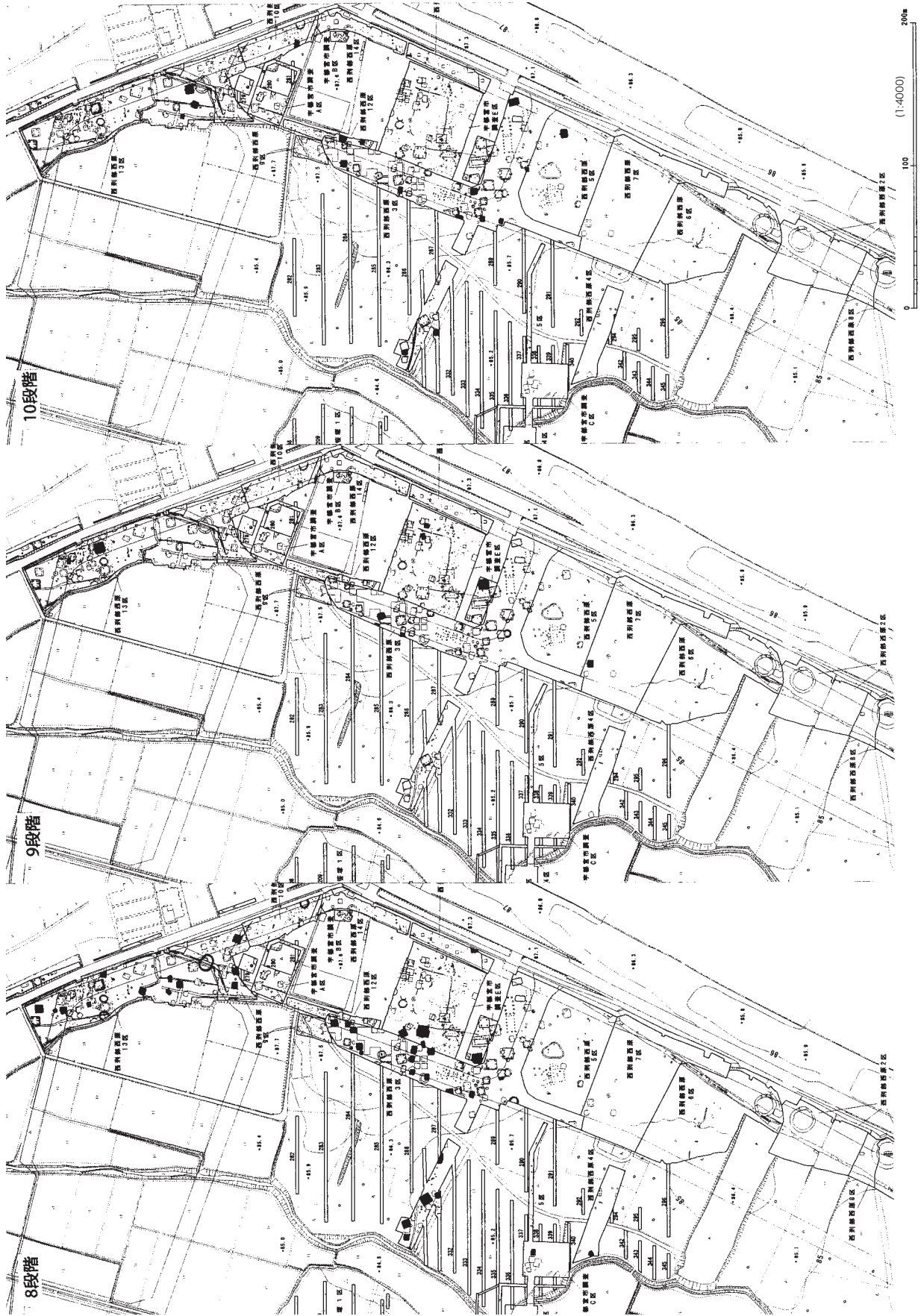
1~3 段階：今回調査区内では未確認。4 段階：14 区 SI-21 のみ。5 段階：3・9・13・14 区から竪穴建物 4 棟。8 区に琴平塚 9 号墳。13 区に南北方向の溝 1 条、円形周溝遺構 1 基。6 段階：竪穴建物 7 棟のうち、張り出しピットを持つ大型建物が 3 棟。円形周溝遺構 1 基。7 段階：竪穴建物 10 棟、13 区から 9 区にかけ溝 1 条、3 区に遺物集中地点（SX-21）。8 段階：3 区を中心に竪穴建物 38 棟を確認。比較的小型の建物が多い中、宇都宮調査 E 区に複数回建て替えられた大型建物（SI-012）あり。最大規模の円形周溝遺構（SX-98）を含む 6 基を確認。井戸 2 本。遺構数は一回目のピークを迎える。9 段階：竪穴建物 8 棟、円形周溝遺構 1 基と激減する。これ以降円形周溝遺構は見られなくなる。10 段階：竪穴建物 19 棟。掘立柱建物 3 棟、井戸 2 本。遺構も多様性を持ち 2 回目のピークを迎えるが北部で遺構数が減少し始める。11 段階：竪穴建物 11 棟、井戸 3 本、溝 1 条の他、円形有段遺構（7 区 SX-7）と類似する遺構を 9 区から確認。宇都宮調査 E 区 SK-017 も 8 世紀中葉である。12 段階：竪穴建物 10、掘立柱建物跡 1 棟、円形有段遺構 1 基、井戸 1 本、溝 1 条を確認。道路状遺構（SF-13）が 5~8 区に作られる。円形有段遺構（3 区 SK-45）は覆土上層から礫・須恵器・瓦等が出土。13~15 段階：遺構のバリエーションは少なくなるが居木などの自然遺物を多く出土する SE-23 がある。宇都宮調査区では、この時期の遺構が一番多い。最も新しい建物は 3 区 SI-30 で、9 世紀後葉以降の建物は確認できていない。

第 229 表 西刑部西原遺跡 各調査区遺構時期変遷表

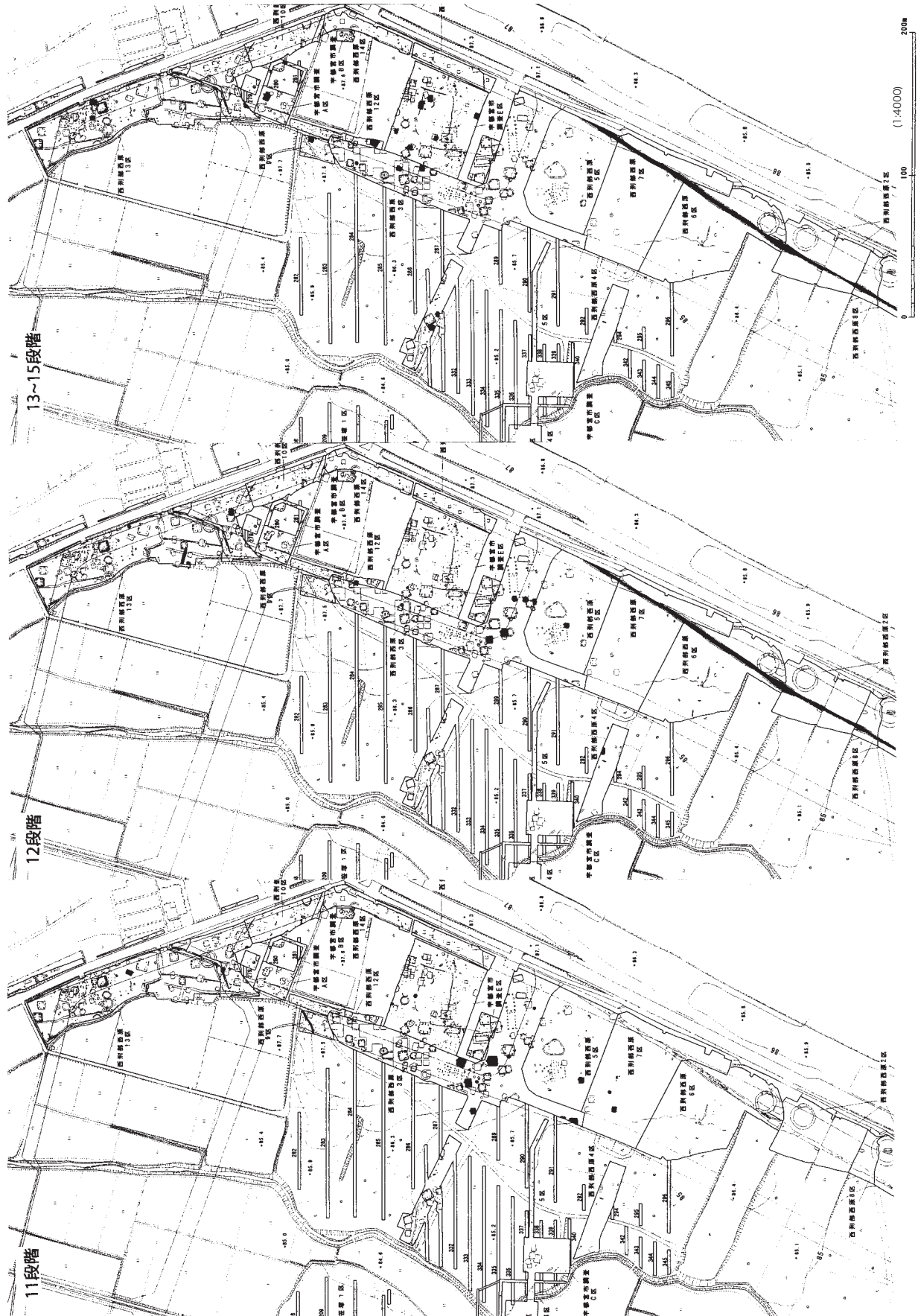
時代	暦年代	段階	3 区	4 区	5 区	6 区	7 区	8 区	9 区	10 区	11 区	12 区	13 区	14 区
古墳時代中期末	TK-23-47	4 段階												SI-2
古墳時代後期前葉~中葉	MT15-TK10	5 段階	SI-77					SZ-9	SI-13・SI-16				SI-96・SX-34・SD-6	SI-8
古墳時代後期後葉	TK43	6 段階	SI-74・SI-81・SI-84・SI-87		SI-1・SX-3				SI-12				SI-12	
古墳時代後期末	6 世紀末葉~7 世紀初頭 TK209	7 段階	SI-11・SI-34・SI-36・SX-21						SI-49・SD-3・SD-120				SI-2・SI-27・SI-38・SI-40・SI-52・SI-118・SD-111	
古墳時代終末期前半	7 世紀前半~中葉 飛鳥 I 新・飛鳥 II	8 段階	SI-7・SI-10・SI-14・SI-15・SI-18・SI-22・SI-24・SI-32・SI-33・SI-39・SI-40・SI-41・SI-43・SI-46・SI-50・SI-51・SI-53・SI-56・SI-58・SI-59・SI-90・SX-28	SI-2					SI-9・SI-10・SI-15・SI-26	SX-6	SI-1		SI-1・SI-26・SI-39・SI-56・SI-62・SI-92・SI-101・SI-102・SI-105・SI-117・SX-20・SX-22・SX-98・SE-11・SE-81	SX-9
古墳時代終末期後半	7 世紀後半 飛鳥 III・IV	9 段階	SI-13・SI-26・SI-47・SX-29				SI-4			SI-1			SI-29・SI-37・SI-91	
奈良時代前葉	7 世紀末~8 世紀前葉	10 段階	SI-4・SI-16・SI-35・SI-38・SI-52・SI-82・SI-83・SI-89・SI-91・SI-92・SB-73・SE-95・SE-107・SD-57	SI-3	SI-14				SB-22・SB-23	SI-2	SD-2	SI-2・SI-3	SI-97・SI-100・SI-110	
奈良時代中葉	8 世紀中葉	11 段階	SI-1・SI-5・SI-6・SI-31・SI-60・SI-61・SE-37・SE-75・SE-76		SI-5		SI-5・SI-6・SX-7	SI-21・SD-2・SX-25					SI-89	
奈良時代後葉	8 世紀後葉	12 段階	SI-2・SI-3・SI-42・SI-85・SI-86・SI-88・SB-101・SK-45	SI-1	SI-4・SF-13	SF-13	SF-13	SF-13	SI-14				SI-116・SE-93・SD-113	
平安時代	9 世紀前葉	13 段階											SI-36・SI-57	
平安時代	9 世紀中葉	14 段階	SI-8・SI-12・SI-54・SE-23						SI-1・SI-7			SI-1		
平安時代	9 世紀後葉	15 段階	SI-30											



第476図 西刑部西原遺跡 遺構変遷図(1)



第477図 西刑部西原遺跡 遺構変遷図(2)



第 478 図 西刑部西原遺跡 遺構変遷図 (3)

第2節 出土遺物について

(1) 土器 古墳時代 土師器：供善具は坏・高坏・椀・鉢、煮炊具は甕・甑、貯蔵用大型甕などがある。後期前葉の13区SI-96は内外面を磨く橙色の坏類が出土する一方、薄手で口縁が外反する土器（北武蔵系か：401図5・6）が見られる。6段階の3区SI-74から放射状ミガキの坏が多く見られる。北武蔵系と考えられる坏類は3区SI-11-7（薄手の坏）とSI-367・8（有段口縁の坏）で見られる。この他、底部外面に静止糸切り跡を残す土器が13区SI-38・SX-98から出土する。これらは体部外面をナデ成形する特徴があり、磯岡遺跡SI-4（6世紀後葉）に類例が認められる。高坏は少なく、13区SI-2・27、3区SI-53などで散見される程度である。甕は在地系の長胴甕を主体とし、少量のハケ調整甕が3区SI-11・34、9区SI-15、13区SI-26・39・40等から出土する。3区SI-7-10は常総型甕。東谷遺跡群に於いては9-10段階以降一般化するもので早い段階（8段階）に取り入れた例と言える。3区SI-50-4は薄手の鉢で、極めて強く被熱する。器厚は薄く非在地系の土器と考えられる。小型甑は9区SI-12・同SI-13等にあり、本遺跡では5・6段階から見られる。大型甑は6・7段階では内面に入念なミガキを施す3区SI-87・同SI-36が残るが後に簡略化していく。この他、3区SI-13-10及びSI-58-15・16はハケ調整大型甕。最大径は40~50cmの大型品である。非在地系の土器の可能性もある。須恵器：器種は供膳具に坏・高坏・蓋が、貯蔵具に瓶類・甕がみられる。甕は3区SI-87をはじめ比較的多いが、その他の器種は非常に少ない。坏は3区SI-18・同SI-53、13区SI-101、試掘トレンチから計4点出土するのみである。3区SI-39（89図1）の高坏は東海産か。13区SI-27-1は高坏の蓋。蓋は3区SI-33、13区SI-102より出土する。3区SI-53（113図2）の瓶類は東海産と思われる。3区SI-53（113図3）のフラスコ瓶は湖西産か。13区SI-26からは横瓶と平底短頸瓶が出土。

奈良時代 土師器：供善具の器種は坏・蓋・椀・鉢、煮炊具は甕・台付甕、そのほか貯蔵用の甕がある。奈良時代にはいと赤色の盤状坏（3区SI-5・6・31等）が増える。また12段階になるとロクロ土師器坏（3区SI-2-25・26等）が出現する。底部に静止糸切りを持つ土師器坏が3区SI-14にある。古墳時代のものと若干異なり、体部外面をヘラケズリする。3区SI-92-5も静止糸切りの坏だが、こちらは体部がナデ及び指頭押圧調整で、混入品かもしれない。3区SI-2-27は北武蔵系の坏か。こちらも混入品の可能性がある。胎土中に白色針状物を含む製塩土器は、3区SI-3・42から計3点確認され、いずれも12段階にあたる。製塩土器は砂田遺跡17区SI-150（奈良時代）、及び西刑部西原遺跡県土整備部調査第三区で器形復元可能な個体が出土している。鉢類は少ないが、3区SI-61-10や、ロクロ成形の大型鉢（3区SI-2-23）はいずれも被熱しており、煮炊具と思われる。ロクロ成形の大型鉢は八幡根東遺跡に類例がある。甕類は在地産の長胴甕が引き続き使用され、5区SI-14から多く出土する。常総型甕は10段階から急激に増え、武蔵型甕は11段階以降に一般化する。ハケ調整甕は少なくなるが、4区SI-3（長胴甕）、3区SI-88（胴張形）、同SI-61（小型甕）など若干残る。3区SI-1・SI-2・SI-3からは白色針状物の混入する土師器小破片。胎土は砂粒を多く含むため、甕と考えられる。南比企産であろうか。大型のハケ調整甕は3区SI-14、13区SI-97等から出土する。前者は最大径40cmあり、貯蔵用と考えられる。須恵器：坏・高台付坏・椀・鉢・蓋・高坏・甕・捏ね鉢と器種も豊富になる。煮炊具は甑、貯蔵具は瓶類・甕などがある。須恵器の産地は益子産を主体とし、三毳窯産や新治窯産が少量確認されている。坏類は奈良時代後半になると須恵器が主体となり、高台付坏が新たに器種に加わる。SE-95-1の高台付坏は湖西産と考えられる。高坏は四方の透かしをもつ大型品（9区SI-14）がある。甕は3区SI-91から出土する。湖西産の甕と法量が極めて類似するが、こちらは無文で、高台を持つのに対し、本

例は体部に波状文を持ち、高台を持たない。年代は8世紀前葉（後藤 1989）とされており、建物跡の年代とほぼ一致する。金属製品模倣の土器は3区 SI-85 から鉄鉢型土器が1点、9区 SI-21 からは銅碗模倣の鉢が1点出土する。3区 SI-91-16 の大型鉢は口径約33cmある。瓶類は比較的多く、長頸瓶（3区 SI-1・SI-2・SI-5等）、短頸壺（3区 SI-2・6・85等）短頸壺蓋（3区 SI-3・SK-45）小型短頸壺（3区 SI-2・85）横瓶（3区 SI-91）、平瓶（3区 SI-1）等がある。このうち3区 SI-1-9（長頸瓶）は東海産と考えられる。小型の甕は3区 SI-2・SI-8・SI-5、5区 SI-4 などがある。このうち3区 SI-5（31 図 18）は口縁部に凸帯を持つ特徴的な形態を持つ湖西産の甕と考えられる。年代は8世紀前半に位置付けられており（後藤 1989）本遺構の年代観と合致する。3区 SI-1 の大型甕は頸部文様が粗大な一本描きの波状文となる。新羅土器碗と思われる土器が4区 SI-1（208 図 3）から出土する。新羅土器は栃木県内では7遺跡から計16点が確認されている。このうち8点が出土する西下谷田遺跡の資料は7世紀後葉から8世紀前葉とやや古い。本遺跡例は体部が丸みを帯びる点、刺突列を持たない点など、周辺の前田遺跡（SI-097: 8世紀中葉）や免の内台遺跡（SI-306: 8世紀初頭）出土遺物に類似する。陶硯は脚部小破片が3区 SX-21 及び遺構外から計2点出土。奈良時代以降の遺物と考えられる。

平安時代 土師器：供膳具は坏、煮炊具は甕・台付甕が確認される。坏は殆どがロクロ成形で、3区 SI-8・SE-23、9区 SI-1 等から出土する。甕は常総型及び武蔵型が主体で、常総型甕は3区 SI-8 や9区 SI-1、武蔵型甕は12区 SI-1、13区 SI-36・57 等がある。また小破片であるが、製塩土器が12区 SI-1 から4点出土する。前述した県土整備部調査Ⅲ区の SI-57（9世紀中葉）と時期的に近い資料である。須恵器：供膳具は坏・碗・高台付坏・蓋・瓶類など、煮炊具は甕・甑、貯蔵具は大型甕がみられる。産地は奈良時代同様、益子・新治・三叢が主体を成す。供膳具の主体を成す須恵器坏を見ると、9世紀中葉の3区 SI-54-1 は益子の滝ノ入・倉見沢窯、最も新しい9世紀後葉の3区 SI-30-2 は三叢の大芝原 B 窯式段階と考えられる。このうち SI-57-1 は胎土中に多量の白色針状物を含む須恵器坏で、本遺跡中僅かこの1点が確認されたのみである。遺物の残存が少なく歪みもあるため不明瞭だが、埼玉県鳩山窯跡群の出土例と比較するとⅦ期（9世紀中葉）の土器に類似するようである（渡辺 1990）。また時期は若干遡るが、琴平塚5号墳前方部北東側にも白色針状物を含む蓋があり、時期は奈良時代で南比企産とされている。12区 SI-1-10 は口縁部直下に沈線が見られる。新羅土器碗か。甑は3区 SI-54 から複数確認された。117 図 5 は4孔の甑、117 図 6 は胴部復元最大径が39cm程の大型品である。小型の甕は3区 SI-8・54 から出土し、大型の甕はほとんど見られなくなる。灰陶器は9区 SI-27（原始灰釉か）、3区 SK-72、3区遺構外から計3点が出土する。産地はいずれも湖西産か。（2）墨書・線刻 墨書土器：計15点出土。3区 SE-23 からは底部及び体部に「来」の墨書をもつ坏（土師器2、須恵器4）が6点。「生氏□」（土師器坏）が1点の計7点出土。その他「財」「大」「千」「古」「長□」等の墨書があり、いずれも平安時代の坏に記される。刻書：判読可能な文字が2点ある。3区 SI-3 の須恵器甕は「厨」と読めるか。3区 SI-5-7 の須恵器蓋の刻書は「里」か。3区 SI-58-2 の捏ね鉢は鳥の脚を彷彿とさせる。

（3）石製模造品 5段階の9区 SI-8 から器種不明の穿孔剥片が1点、7段階の13区 SD-111 から鏡型が1点出土する。白玉は3区 SI-11 から4点、同区 SI-74 から2点、同区 SI-87 から4点、3区 SI-4 の1点は混入品と考えられ、グリッド出土の1点も含め殆どが古墳時代後期の6～7段階に限定される。（4）石製紡錘車 石製紡錘車は計9点出土。いずれも奈良時代以降のものである。9区 SI-17 は滑石片岩製で粗雑な鋸歯文が残る。3区 SI-2・SI-3・SI-6・SI-85・SI-88 からは奈良時代中～後葉の紡錘車が出土した。石材は滑石片岩及び結晶片岩が主体となるが、SI-2-36 は粘板岩製、13区 SI-36 は凝灰岩製である。（5）金属製品 鍔付足金物は古墳時代終末期の3区 SI-22 覆土中から出土した。本来大刀の鞘尻に付する佩用金具で、全

国で119例が確認されている(田村2010)。本例は銅地銀張であることから、銀装の圭頭(または方頭)大刀に付されていた可能性が高い。栃木県内では足利市立岩1号墳から銅製の鍔付足金物1点が出土している。鉄製品は計115点出土し、近現代の遺物を除き可能な限り図化した。器種は刀子・鎌・手鎌・鋤先・鉤・釘・錐・楔・鋳物等がある。このほか轡の引手、鑷子状鉄製品、弓筈型鉄製品、また刺突具状の用途不明鉄製品(3区SI-88)などがある。点数は鉄鎌・刀子・鎌・手鎌の順で多い。鉄鎌:殆どが長頸鎌で、少量の短頸鎌、無茎鎌がある。古墳終末期で鎌身の形態が判別できるもの7本のうち5本が鑿箭式で、残り2本が片刃箭式である。奈良時代以降の長頸鎌は鑿箭式の外、方頭斧箭式(3区SI-6)や片刃箭式などがある。このほかやや大型の短頸鎌(3区SI-38、12区SI-1)もある。鎌は奈良時代に多く、背は直線的なもの、先端部が丸みを持つもの、全体的に弧状を呈する物などがある。鉄製紡錘車は軸・紡錘車共に鉄製のものが5個体、軸が鉄製で紡錘車が石製のものが1点(3区SI-5)ある。このうち平安時代の9区SI-1-14は完形品で、上端部を螺旋状に加工している。鑷子状鉄製品(3区SI-53)は峰高前遺跡に類例がある。(6)木製品 3区SE-23-13の居木は漆塗りである点、正倉院宝物の素地無垢木鞍(第8号鞍)に類似する。第8号鞍は居木に赤漆、居木先に黒漆を塗り分けているが、本例は全面に黒漆が塗布されていた可能性が高い。居木の素材は10ある鞍の内8つの鞍に桜の木が使用されている。15の横櫛は平城宮出土の類例(9世紀前葉)を見ると、幅は11~12cm、高さ4cm前後のものが多く素材は殆どがイスノキ製である。平城宮6ABO区出土櫛(24点)は、3cmあたりの平均歯数32枚とされているが、本例もほぼ同一で、極めて共通点が多い。(7)和鏡 4区出土の和鏡「群蝶双雀鏡」の類例は栃木県日光市二荒山神社所蔵品及び鹿児島県指宿市指宿神社所蔵品がある。2羽の雀と蝶のモチーフは共通するが、二荒山神社鏡は径20.15cm、指宿神社鏡は径19.83cm、と本遺跡例と較べ極めて大きい。年代は二荒山神社鏡の嘉永元年(1387)の銘文がある。指宿神社鏡も南北朝時代(1336~1392)の年代観が与えられている(内川1999)。なお本遺跡の鏡は13世紀前半から中葉の鎌倉時代の所産とされている(國學院大學 内川隆志氏のご教示による)。

参考・引用文献

- 足利市1979『近代足利市史』第3巻 資料編 原始・古代 中世 近世 足利市史編さん委員会
- 大隅申良2008『岡崎古墳群の研究』鹿児島大学総合研究博物館研究報告No.3 鹿児島大学総合研究博物館
- 亀田幸久1996『八幡根東遺跡』栃木県教育委員会(財)栃木県文化振興事業団
- 合田恵美子2007『峰高前遺跡』栃木県教育委員会(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 今平利幸1991『前田遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第29集 宇都宮市教委委員会
- 山武考古学研究所1992『免の内台遺跡』栃木県芳賀町文化財報告 第15集 栃木県芳賀町教育委員会
- 後藤建一1989 第5章付載1「湖西窯跡群の須恵器と構造」『静岡県の窯業遺跡』本文編 静岡県文化財調査報告書第42集 静岡県教育委員会
- 田村隆太郎2010『合代島丘陵古墳群』第2東名No.124・125地点 静岡県埋蔵文化財調査研究所報告第218集 静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 椛山林継・原田一敏・青木豊・内川隆志・金城南海子1999「薩摩の神社奉納鏡」-大型和鏡を中心として-『國學院大學考古学資料館紀要』第15輯 國學院大學考古学資料館
- 椛山林継・青木豊・内川隆志2000「関東・東北地方の神社奉納鏡」-大型和鏡を中心として-『國學院大學考古学資料館紀要』第16輯 國學院大學考古学資料館
- 奈良国立文化財研究所1993 木器集成図録 近畿原始編(解説) 奈良国立文化財研究所資料 第36冊
- 鈴木友也1990「日本馬具大鑑」第一巻 古代上 日本中央競馬会 吉川弘文館
- 津野 仁2005『東谷・中島地区遺跡群6 磯岡遺跡(2~7区)』栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 渡辺 一1990『鳩山窯跡群』II 窯跡編 鳩山窯跡群遺跡調査会 鳩山町教育委員会

第5章 西刑部西原遺跡の自然化学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

第1節 西刑部西原遺跡3区の自然科学分析(1)

はじめに

西刑部西原遺跡3区では、古代の井戸跡等が検出されている。このうち、SE-23からは、曲物や櫛等の木製品、SE-75からは昆虫遺体や種実遺体がそれぞれ出土している。

今回の分析調査では、井戸跡から出土した木製品、種実遺体、昆虫遺体の種類同定を行い、木材利用、植物利用、古植生等に関する資料を得る。

1. 木製品の樹種(第230表、第479図)

(1) 試料

試料は、古代(9世紀中葉)の井戸跡(SE-23)から出土した木製品4点(試料番号1~4)である。このうち、試料番号1の曲物は、側板(a)と底板(b)の2点の部材について同定を行う。したがって、合計点数は5点である。

(2) 方法

剃刀の刃を用いて木口(横断面)・柁目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラル(抱水クロラル、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

(3) 結果

樹種同定結果を第230表に示す。木製品は、針葉樹1種類(ヒノキ)と広葉樹2種類(コナラ属アカガシ亜属・イスノキ)に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

第230表 西刑部西原遺跡3区の樹種同定結果

番号	遺構	図版番号	時期	種類	樹種
1a	SE-23(井戸跡)	第188図	古代	曲物(側板)	ヒノキ
1b	SE-23(井戸跡)	第188図	古代	曲物(底板)	ヒノキ
2	SE-23(井戸跡)	第189図	古代	櫛	イスノキ
3	SE-23(井戸跡)	第189図	古代	居木	コナラ属アカガシ亜属
4	SE-23(井戸跡)	第188図	古代	不明木製品	ヒノキ

・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか~やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はヒノキ型~トウヒ型で、1分野に1~3個。放射組織は単列、1~15細胞高。

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸~厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~15細胞高のものと同定される。

・イスノキ (*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.) マンサク科イスノキ属

散孔材で、道管は横断面で多角形、ほとんど単独で散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は階段穿孔を有するが、段数は5前後で少ない。放射組織は異性II型、1~3細胞幅、1~20細胞高。柔組織は、独立帯状または短接線状で、放射方向にほぼ等間隔に配列する。

(4) 考察

木製品は、曲物、櫛、居木、不明木製品に分けられる。曲物は、側板と底板があるが、いずれも針葉樹のヒノキであった。ヒノキは、木理が通直で割裂性が高く、楔の使用で薄い板の作成が可能である。また、精油成分により、耐水性や殺菌性に優れた材質を有するので、このような材質が木材利用の背景に考えられる。ところで、近世・近代の民俗事例（農商務省山林局，1912）では、曲物に使用する木材としてヒノキを第一とし、他にスギやモミ属を挙げている。今回の結果は、近世・近代の民俗事例とも一致しており、同様の木材利用が古代まで遡ることが推定される。

櫛は、常緑広葉樹のイスノキであった。イスノキは重硬で加工はやや困難であるが、硬い方が櫛の歯等の細かい加工には適している。このような材質を考慮したことが推定される。古代におけるイスノキの櫛は、西日本を中心に報告例があり、東日本でも新潟県曾根遺跡や長野県屋代遺跡群等で報告されている（川村，1983；島地・伊東，1988；高橋・辻本，1999）。イスノキの櫛は、民俗事例でもツゲに次ぐ良材とされており（農商務省山林局，1912）、これらの出土例は民俗事例とも一致する。

イスノキは、暖温帯常緑広葉樹林に生育する常緑広葉樹で、現在の栃木県には生育していない。このことから、本遺跡の櫛については、イスノキが生育している地域（静岡以西）で製作された櫛が持ち込まれた可能性がある。

不明木製品はヒノキ。居木はアカガシ亜属であった。不明木製品については、曲物と同じくヒノキ材の加工性や耐水性等を考慮した用材の可能性がある。アカガシ亜属の居木は、一木で中央部が薄く削られた長方形の板状に柄が削り出されており、柄の付け根付近には穿孔が認められる。板状の部分が柂目板となる木取りである。アカガシ亜属は、重硬で強度の高い材質を有することから、強度等が考慮された可能性が高いが、現時点では詳細は不明である。

2. 種実遺体の同定（第231表、第482図）

(1) 試料

試料は、古代の井戸跡(SE-75)の底面付近の土壌を水洗選別して得られた種実遺体1点(試料番号6)である。

(2) 方法

種実遺体は、1試料中に複数の種類が混在していた。そこで、双眼実体顕微鏡下でこれらを観察・分類し、その形態的特徴および当社所有の現生標本との比較から種類を同定した。同定後の種実遺体等は、種類毎にビンに入れ、ホウ酸・ホウ砂水溶液による液浸保存をおこなう。

(3) 結果

結果を第231表に示す。木本2種類、草本7種類の種実の他に、炭化材、不明植物遺体、動物遺骸等が検出された。検出された種実の種類は、木本は、落葉低木のサンショウ、落葉藤本のブドウ科で、針葉樹・常緑樹や高木を含まない。草本は、単子葉植物1種類（イネ）、双子葉植物6種類（カナムグラ、アサ、タデ属、アカザ科-ヒユ科、イヌコウジュ属、ナス科）である。以下に、同定された種実の形態的特徴などを記す。

第231表 西刑部西原遺跡3区の種実遺体同定結果

番号	遺構	位置	時期	種類名	部位	点数
6	SE-75 (井戸跡)	底面付近	古代	サンショウ	核	1
				イネ	胚乳	1
				カナムグラ	種子	4
				アサ	種子	4
				タデ属	果実	1
				アカザ科-ヒユ科	種子	1
				ブドウ科	種子	1
				イヌコウジュ属	果実	1
				ナス科	種子	1
				炭化材	破	1
				不明植物遺体		1
動物遺骸		1				

・サンショウ (*Zanthoxylum piperitum* DC.) ミカン科サンショウ属

縦半分に割れた核の破片が検出された。黒色、倒卵形体で、長さ3.7mm、幅2.5mm程度。片方に臍がみられる。表面は浅く細かな網目模様がみられる。核皮は硬く黒いため、炭化の有無の識別は困難である。

・イネ (*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

炭化した胚乳が検出された。黒色。長楕円形でやや偏平。長さ5mm、幅2.5mm、厚さ1.5mm程度。一端に胚が脱落した凹部があり、両面には2~3本の縦溝がある。表面はやや平滑。脱穀した米を蒸したり炊いたりし過ぎて「おこげ」となった場合には、このように明瞭に胚乳の形をとどめることはないと考えられる。おそらく脱穀前の穎に入った生米の状態です火を受け、炭化した穎は脆く壊れやすいので脱落し胚乳のみが残ったものと思われる。

・カナムグラ (*Humulus japonicus* Sieb. et Zucc.) クワ科カラハナソウ属

種子が検出された。灰褐色で側面観は円形、上面観は両凸レンズ形。径3.5mm程度。全個体が縦方向に一周する稜に沿って、半分に割れている。基部には淡黄褐色でハート形の臍点をもつ。種皮は薄く、表面はざらつく。

・アサ (*Cannabis sativa* L.) クワ科アサ属

種子が検出された。灰褐色、広倒卵状楕円形。長さ3.5mm、幅3mm、厚さ2.5mm程度。基部には大きな楕円形の臍点がある。全個体が縦方向に一周する稜に沿って、半分に割れている。種皮には、うっすらと葉脈状網目模様がある。

・タデ属 (*Polygonum*) タデ科

果実が検出された。黒褐色、片凸レンズ状卵円形。長さ2.5mm、幅1.5mm程度。先端は尖り、2花柱が残存する。表面には網目模様があり、ざらつく。

・アカザ科-ヒユ科 (Chenopodiaceae - Amaranaceae)

種子が検出された。黒色、円盤状でやや偏平。径1mm程度。一端が凹み、臍がある。種皮表面は光沢が強く、微細な網目模様がみられる。

・ブドウ科 (Vitaceae)

種子破片が検出された。灰褐色。完形ならば広倒卵形、側面観は半広倒卵形で丸みがあり、基部はやや尖る。径3.5mm程度。属以下の同定の根拠となる背面部分が欠損しているため、ブドウ科と同定するにとどめた。

・イヌコウジュ属 (*Mosla*) シソ科

果実が検出された。茶褐色、卵円形。径1.3mm程度。下端は舌状にわずかに突出する。果皮はやや厚く硬く、表面には大きく不規則な網目模様がある。

・ナス科 (Solanaceae)

種子が検出された。淡褐色、歪な腎臓形で偏平。径3.5mm程度。種皮は薄く柔らかい。側面のくびれた部分に臍があり、表面は臍を中心として同心円状に星形状網目模様が発達する。網目模様は比較的大きく、網目を構成する壁の幅は太くしっかりしている。

(4) 考察

同定された種実遺体の種類のうち、イネ、アサは、大陸から渡来した栽培種とされている。穀類のイネは完全に炭化した状態で検出された。アサは、果実が食用に、繊維が衣料や縄用に利用可能である。また、自生する有用植物では、サンショウは、香辛料・薬用として利用される。ブドウ科は、果実が多汁で生食可能な種を含む。ナス科やアカザ科には、山菜として食用可能な種類や渡来した栽培種が含まれる。これらの有

用植物が遺構から検出された状態（破片や何らかの理由により火熱を受け炭化した等）を考慮すると、生活残渣が破棄されたこと等が考えられる。

遺跡周辺における自然環境を推定するため、自生する植物に着目すると、カナムグラ、タデ属、アカザ科—ヒユ科、イヌコウジュ属などは、開けた草地に生育する、いわゆる「人里植物」であることから、林縁部や集落周辺の明るく開けた場所に生育していた可能性がある。サンショウやブドウ科も、これらの人里植物とともに林縁部や集落周辺の明るく開けた場所に生育していた可能性がある。

3. 昆虫遺体の種類

(1) 試料

試料は、古代の井戸跡（3区 SE-75）から出土した昆虫遺体1点（試料番号5）である。

(2) 方法

ルーペを用いて各部位の形態的特徴を観察し、現生標本と比較しながら種類を同定する。なお、同定は、藤山家徳先生にお願いした。

(3) 結果

・ヒラタゴミムシの一種

頭部、前胸腹板？、中胸腹板、左右上翅、以上同一個体のもと思われる。

ヒラタゴミムシには近縁種が多く、断片的な資料では種までの同定は難しい。

・マイマイカブリ (*Damaster blaptoides* Kollar)

前胸背板、前胸腹板。

マイマイカブリは北海道から九州まで分布する我が国の代表的な大型甲虫で、形態的特徴などから5～6亜種に分けられている。しかし、今回の資料は部分的でこの遺骸から亜種の決定は出来ない。ただし、生息域が関東地方で、時代もさほど古くないので、亜種ヒメマイマイカブリとして問題ないであろう。

・マグソコガネ？の一種

小型のマグソコガネではないかと思うが、種までは決められない。

・不明甲虫

前胸背板、後胸腹板ほか。

両側が薄色に縁取られた扁平な前胸背板は特徴的であるが、その所属を決定できなかった。

・アオオサムシ (*Carabus insulicola* Chaudoir)

左上翅先端部、2片。

アオオサムシは、本州北端部から近畿地方北部まで生息する代表的なオサムシで、関東地方ではよく地表を歩いているのに出くわすことがある。

(4) 考察

アオオサムシ、マイマイカブリは、共に食餌（マイマイカブリの餌はカタツムリ）を求めて地表を歩き回る。ヒラタゴミムシも地上性。井戸枠が低かったなら、これらの甲虫が井戸に落ちることは不思議ではない。ジョウカイ類は、ホタル類に近縁の体の柔らかい甲虫で、野山の樹上などにめずらしくない。マグソコガネ類もよく飛翔する。遺跡からよく出土するものに、飛翔力の強いコガネムシ類があるが、ここの昆虫群の中には含まれていなかった。

4. 引用文献

川村恵洋(1983) 曾根遺跡出土木材の識別, 新潟大学農学部演習林報告, 16, p.75-82.

農商務省山林局編(1912) 木材ノ工藝的利用. 1308p., 大日本山林會.

島地 謙・伊東隆夫編(1988) 日本の遺跡出土木製品総覧. 296p., 雄山閣.

高橋 敦・辻本崇夫(1999) 木製品・自然木、炭化材の樹種. 「長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 42 上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 26 -更埴市内その5- 更埴条里遺跡・屋代遺跡群(含む大境遺跡・窪河原遺跡) -古代1編- 本文」, p.333-337, 日本道路公団・長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター.

まとめ

東谷・中島地区遺跡群の西刑部西原遺跡3区、権現山遺跡SG1区および10区から出土した木材は、曲物の部材が多く、他に櫛や用途不明の加工木、加工痕の認められない木材が各1~2点あった。曲物の部材についてみると、ヒノキの利用が多く見られる。この結果は、ヒノキの耐水性や殺菌性などの材質を考慮した木材利用と考えられ、古代・中世を通して同様の利用が行われたことが推定される。

ヒノキは、関東地方では、山地の尾根筋などに生育しており、平野部には生育していない。したがって、これらの曲物は、木材または曲物として持ち込まれた可能性がある。曲物については、これまで行われた樹種同定結果で、地域に関わらずヒノキが多い傾向が見られる。このことから、用途と用材が確立しており、周辺で木材を入手したのではなく、木材あるいは製品として地域間を移動していたことも想定される。

※(報告書編者註) 報告の原文は西刑部西原遺跡3区の井戸(SE-23・75)および権現山遺跡SG1区の井戸(SE-169)出土遺物と一緒に報告になっているため、「まとめ」ではこれらの木材を含めた記述になっている。

第2節 西刑部西原遺跡3区の自然化学分析（2）

はじめに

本報告では、西刑部西原遺跡の発掘調査で出土した種実や昆虫、動物遺体の同定、さらに木製品の漆塗膜構造等の理化学性の検討を目的として、自然科学分析調査を実施した。以下に分析結果を記す。

1. 漆塗膜薄片作製・観察（第481図）

（1）試料

試料は、平安時代の井戸跡（3区SE-23）から出土した鞍の部品（居木：第188図）より採取された漆塗膜片1点（試料番号3）である。

（2）分析方法

塗膜片を合成樹脂で包埋し、樹脂を固化させる。塗膜の断面が出るようにダイヤモンドカッターで切断し、切断面を研磨する。研磨面をスライドガラスに接着し、反対側も切断と研磨を行ってプレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡、落射蛍光顕微鏡、反射顕微鏡で塗膜構造や混和物について観察する。

（3）結果

漆塗膜片（試料番号3;SE-23 出土居木）の薄片写真を第481図に示す。漆塗膜片は、木地が認められず、塗膜層が2層認められる。下部には透過光で赤褐色、落射蛍光で鈍い黄褐色の層が認められ厚さ約60 μ mを測る。この層の最下部には黒色粒子が部分的に認められ、下地の一部に由来すると考えられる。この他には混和物は認められないことから、下地の上に透明漆が塗布されていると考えられる。透明漆の上には、透過光・落射蛍光共に黒色を呈する層が約30～40 μ mの厚さで認められることから、黒色顔料を混和させた漆層と考えられる。黒色粒子は微細であり、油煙等の可能性があるが、詳細は不明である。

（4）考察

井戸跡（SE-23）から出土した9世紀代の資料と考えられる鞍の部品（居木）の塗膜は、肉眼で黒色を呈する。塗膜片の薄片観察の結果、下地の上に透明漆と黒色粒子を混和した黒漆が塗布されており、この黒漆によって黒色を呈すると考えられる。

関東地方では、下田町遺跡（埼玉県熊谷市）の平安時代の井戸跡から出土した黒漆塗の鞍部品（前輪）の漆塗膜を対象とした調査事例があり、黒色物質を混和した下地層（40～100 μ m）の上に透明漆（100～150 μ m）が厚く塗られた資料であることが確認されている（パリノ・サーヴェイ株式会社,2004）。今回の試料と比較すると、漆層が厚く、表面に黒漆が塗られない等の塗膜構造の違いが指摘される。

2. 種実同定・昆虫同定（第482図）

（1）試料

試料は、平安時代の井戸跡（3区SE-23）下～最下層より出土した曲げ物内埋積物より採取された種実遺体（試料番号1）と昆虫遺体（試料番号2）である。種実および昆虫遺体は、いずれも抽出・選別された複数の試料がタッパー容器内に水漬けで保管された状態にある。

本分析では、種実遺体については全点を対象として、昆虫遺体は50点程度を目安として抽出し、同定を行った。

第232表 種実同定結果

分類群	部位	状態	試料番号	
			1	3区 SE-23
木本				
コナラ亜属	果実	破片	4	長さ 21.04+ mm, 幅 10.74+ mm
クワ属	核	完形	4	
サンショウ	種子	完形	1	
		破片	1	
草本				
イネ	穎	破片	1	長さ 4.08 mm, 幅 3.77 mm, 厚さ 3.17 mm 2種(表面網目2個、平滑1個)
カヤツリグサ科	果実	完形	1	
アサ	果実	完形	1	
イヌタデ近似種	果実	完形	3	
タデ属	果実	完形	3	
ナデシコ科	種子	完形	3	
アカザ科	種子	完形	1	
ヒユ科	種子	完形	1	
		破片	3	
カタバミ属	種子	完形	24	
		破片	2	
ヒメミカンソウ	種子	完形	1	
スマレ属	種子	完形	4	
ナス近似種	種子	完形	1	
ナス科	種子	完形	26	
メナモミ属	果実	完形	1	
昆虫類			16	

(2) 分析方法

1) 種実同定

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて種実遺体を抽出する。種実遺体の同定は、現生標本と石川(1994)、中山ほか(2000)等との対照より実施し、個数を集計して一覧表で示す。分析後は、種実遺体と昆虫類を70%程度のエタノール溶液を入れた容器中で保存する。

2) 昆虫同定

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて同定が可能な昆虫遺体50片程度を抽出する。昆虫遺体の同定は、形態的特徴より実施し、結果を一覧表で示す。分析後は、乾燥を防ぐために昆虫遺体を水入りの管瓶で保管する。なお、同定解析は、松本浩一氏(東京農業大学)の協力を得ている。

(3) 結果

1) 種実同定

結果を第232表に示す。井戸跡(3区SE-23)から出土した曲げ物内埋積物からは、被子植物17分類群(コナラ亜属、クワ属、サンショウ、イネ、イネ科、カヤツリグサ科、アサ、イヌタデ近似種、タデ属、ナデシコ科、アカザ科、ヒユ科、カタバミ属、ヒメミカンソウ、スマレ属、ナス近似種、ナス科、メナモミ属)86個の種実遺体が抽出同定されたほか、昆虫類が16個確認された。

栽培種は、イネの穎の破片、アサの果実、ナス近似種の種子が各1個確認された。一方、栽培種を除く分類群では、木本が森林の林縁部や二次林などの明るく開けた場所に生育する落葉広葉樹3分類群(高木のコナラ亜属、クワ属、低木のサンショウ)10個と、草本が明るく開けた場所に生育する、いわゆる人里植物に属する11分類群(カヤツリグサ科、イヌタデ近似種、タデ属、ナデシコ科、アカザ科、ヒユ科、カタバミ属、ヒメミカンソウ、スマレ属、ナス科、メナモミ属)73個が確認された。栽培種を除く分類群では、カタバミ属とナス科が各26個と多い。

以下に、栽培種や木本等の主な分類群の形態的特徴等を記す。

・コナラ亜属 (*Quercus subgen. Quercus*) ブナ科コナラ属

果実は灰褐色、破片の大きさは、最大で長さ 21.04 mm、幅 10.74 mm。基部の着点部分を欠損する。破片は丸みを帯びる。完形ならば球～長楕円体の可能性があるが、全形は不明。果皮表面は平滑で、ごく浅く微細な縦筋がある。本地域に分布するコナラ亜属は、クヌギ節クヌギ (*Q. acutissima* Carruthers) とコナラ節コナラ (*Q. serrata* Thunb. ex Murray)、ミズナラ (*Q. crispula* Blume) が普通にみられるほか、カシワ (*Q. dentata* Thunb. ex Murray)、ナラガシワ (*Q. aliena* Blume.)、コナラ節内の種間雑種が存在するとされる。

・クワ属 (*Morus*) クワ科

核は灰褐色、長さ 2.0 mm、幅 1.3 mm、厚さ 1 mm 程度の三角状広倒卵体。一側面は狭倒卵形で、他方は稜になりやや薄い。一辺が鋭利で、基部に爪状突起を持つ。表面には微細な網目模様がありざらつく。本地域に分布するクワ属は、ヤマグワ (*M. australis* Poir.) と栽培種のマグワ (*M. alba* L.) があるが、核の実体顕微鏡下観察による判別は困難である。

・サンショウ (*Zanthoxylum piperitum* (L.) DC.) ミカン科サンショウ属

種子は灰黒褐色、長さ 4.11 mm、幅 3.01 mm、約半分に割れた厚さ 1.55 mm 程度のやや偏平な倒卵体。腹面正中線上基部に斜切形の臍がある。種皮は厚く硬く、表面には浅く細かな網目模様がある。

・イネ (*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

穎は淡灰褐色。完形ならば長さ 6.0-7.5 mm、幅 3.0-4.0 mm、厚さ 2.0 mm 程度のやや偏平な長楕円体。破片の

第 233 表 検出分類群一覧

コウチュウ目 Coleoptera
オサムシ科 Carabidae
オサムシ属 Carabus
オオナガゴミムシ <i>Pterostichus fortis</i>
モリヒラタゴミムシ属 <i>Colpodes</i>
セアカヒラタゴミムシ <i>Doilichus halensis</i>
ホソツヤヒラタゴミムシ <i>Synuchus atricolor</i>
ツヤヒラタゴミムシ属 <i>Synuchus</i>
クロツヤヒラタゴミムシ属 <i>Synuchus</i>
ナガヒョウタンゴミムシ <i>Scarites terricola</i>
カワチマルクビゴミムシ <i>Nebria lewisi</i>
オオゴモクムシ <i>Harpalus capito</i>
ゴモクムシ属 <i>Harpalus</i>
キボシマメゴモクムシ <i>Stenolophus smaragdulus</i>
ヒメゴミムシ <i>Aniasodactylus tricuspidatus</i>
ヒメゴモクムシ属 <i>Aniasodactylus</i>
アトボシアオゴミムシ <i>Chlaenius naeviger</i>
アオゴミムシ <i>Chlaenius pallipes</i>
ガムシ科 Hydrophilidae
キベリヒラタガムシ <i>Enochrus japonicus</i>
ヒラタガムシ属 <i>Enochrus</i>
ハネカクシ科 Staphylinidae
アリガタハネカクシ属 <i>Paederus</i>
ナガエハネカクシ属 <i>Ochtheophilum</i>
コガネムシ科 Scarabaeidae
オオマガノコガネ <i>Aphodius quadratus</i>
ウスグロマガノコガネ <i>Aphodius comatus</i>
マガノコガネ属 <i>Aphodius</i>
コケシマガノコガネ <i>Myrnessus samurai</i>
カナブン <i>Rhomborrhina japonica</i>
エンマコガネムシ属 <i>Onthophagus</i>
ゾウムシ科 Curculionidae
ハナゾウムシ亜科 Anthonomus
ハエ目 Diptera
イエバエ科 Muscidae
ハチ目 Hymenoptera
アリ科 Formicidae
クロオオアリ <i>Camponotus japonicus</i>
ケアリ属 <i>Lasius</i>
アズマオオズアリ <i>Pheidole fervida</i>
カワゲラ目 Plecoptera
カワゲラ科 Perlidae
カメムシ目 Hemiptera
サシガメ科 Reduviidae
クロサシガメ <i>Pirates cinctiventris</i>

の大きさは 1.9 mm 程度。基部に斜切状円柱形の果実序柄と 1 対の護穎を有し、その上に外穎 (護穎と言う場合もある) と内穎がある。外穎は 5 脈、内穎は 3 脈をもち、ともに舟形を呈し、縫合してやや偏平な長楕円形の稲糊を構成する。穎は柔らかく、表面には顆粒状突起が縦列する。

・アサ (*Cannabis sativa* L.) クワ科アサ属

果実は灰褐色、長さ 4.08 mm、幅 3.77 mm、厚さ 3.17 mm の歪な広倒卵体。縦方向に一周する稜がある。両端は切形で、頂部に径 1 mm 程度の淡灰褐色、楕円形の突起がある。果皮表面には葉脈状網目模様があり、断面は柵状。

・カタバミ属 (*Oxalis*) カタバミ科

種子は黒褐色、長さ 1.3-1.5 mm、幅 1.0 mm 程度の偏平な倒卵体。基部はやや尖る。種皮は薄く、表面には 4-7 列の横隆条が配列する。

・ナス近似種 (*Solanum cf. melongena* L.) ナス科ナス属

種子は黄灰褐色、長さ 2.70 mm、幅 3.57 mm、厚さ 1.37 mm の偏平で歪な腎臓形。基部はやや肥厚し、くびれた部分に臍がある。種皮はやや厚く、表面には微細な星形状網目模様が臍から同心円状に発達する。なお、長さ 1.6-2.0 mm、幅 2.0-2.3 mm、厚さ 0.7 mm 程度の野生種と考えられる小型の種子をナス科 (*Solanaceae*) と区別している。

2) 昆虫同定

検出された昆虫遺体分類群一覧を第233表、同定結果を第234表に示す。井戸跡(3区SE-23)から出土した曲げ物内埋積物における昆虫遺体群については、状態が良好で同定が比較的容易なものを中心としたことから、コウチュウ類の割合が高くなった。これらはいずれも、現在の北関東地域の平地に普通に生息する分類群である。

コウチュウ目は、オサムシ科が種数・個体数ともに圧倒的に多く、オオナガゴミムシ、セアカヒラタゴミムシ、ヒメゴミムシなど、平地の乾燥した草地・荒れ地に生息するものが多い。ただし、アオゴミムシとアトボシアオゴミムシのアオゴミムシ類の2種は比較的湿潤な環境を好む分類群である。さらに、これらゴミムシ類を捕食するクロサングメおよびキク科のヨモギを摂食するハムシ科のヨモギハムシも確認された。

また、ナガヒョウタンゴミムシは比較的乾燥した河川敷のような環境に生息する種類であり、比較的川幅の広い河川環境が付近にあったことが推定される。これは、河川中流域に生息するカワゲラ目の一種(種の確定は不能)の出現からも裏付けられる。水生昆虫では、キベリヒラタガムシやヒラタガムシ属の一種も見出され、いずれも止水域の落葉下や泥中に生息する種類である。

この他には、出土数は少ないながらクヌギやコナラの樹液に集合するコガネムシ科のカナブン、広葉樹の樹上に生息するオサムシ科のモリヒラタゴミムシ属の一種、広葉樹の朽木に営巣するアリ科のアズマオオズアリ・アリ科の一種(ハヤシケアリと思われる)などが確認された。さらに、人獣糞や腐植質を摂食するオオマダソコガネ、ウスグロマダソコガネ、コケシマダソコガネなどが多くみられ、イエバエ科の一種およびハエのウジなどを捕食するアリガタハネカクシ属の一種も確認された。

(4) 考察

平安時代の井戸跡(3区SE-23)の下~最下層より出土した曲げ物埋積物の種実遺体群には、栽培種のイネの穎、アサの果実、ナス近似種の種子が確認された。イネは胚乳が、アサおよびナス近似種は果実が食用として利用されるほか、アサは果実が油料や薬用に、茎が繊維等として利用される。これらの栽培種の種実の検出から、当時の植物質食料としての利用や植物利用が示唆される。本遺跡では、過去の分析調査において、古墳時代後期~奈良・平安時代と推定されているE区(宇都宮市教委調査区)の竪穴住居跡のカマドや土坑、円形周溝状遺構から、炭化した栽培種のイネ、アワ(近似種)、キビ(近似種)、コムギ、ムギ類、マメ類等の種実が確認されている。

一方、栽培種を除いた種実遺体群は、木本では森林の林縁部や二次林などの明るく開けた場所に生育する落葉高木のコナラ亜属、クワ属、落葉低木のサンショウが確認された。これらの出土種実は、本遺跡周辺域の森林の林縁部などに生育していたものに由来すると考えられる。草本では人里植物のカヤツリグサ科、イヌタデ近似種、タデ属、ナデシコ科、アカザ科、ヒユ科、カタバミ属、ヒメミカンソウ、スマレ属、ナス科、メナモミ属が確認された。これらは、調査区周辺域の明るく開けた草地環境に由来すると考えられる。

なお、上記した栽培種を除く種実遺体群や昆虫遺体群からみた遺跡周辺の環境は、カヤツリグサ科、イヌタデ近似種、タデ属、ナデシコ科、アカザ科、ヒユ科、カタバミ属、ヒメミカンソウ、スマレ属、ナス科、メナモミ属、ヨモギ等を含む比較的乾燥した草地環境が広がっており、クヌギ・コナラなどのコナラ亜属やクワ属、サンショウ等の落葉広葉樹からなる二次林的環境も存在していたと推定される。また、昆虫遺体群には水生昆虫も検出されたことから、付近には湿地環境を伴う泥質の止水域もしくは田圃と、乾燥した河川敷をもつ河川の存在が示唆される。さらに、人獣糞や腐植質を摂食する分類群の検出から、調査地点付近に人獣糞の集積地や生活残渣の廃棄場等の存在も窺える。

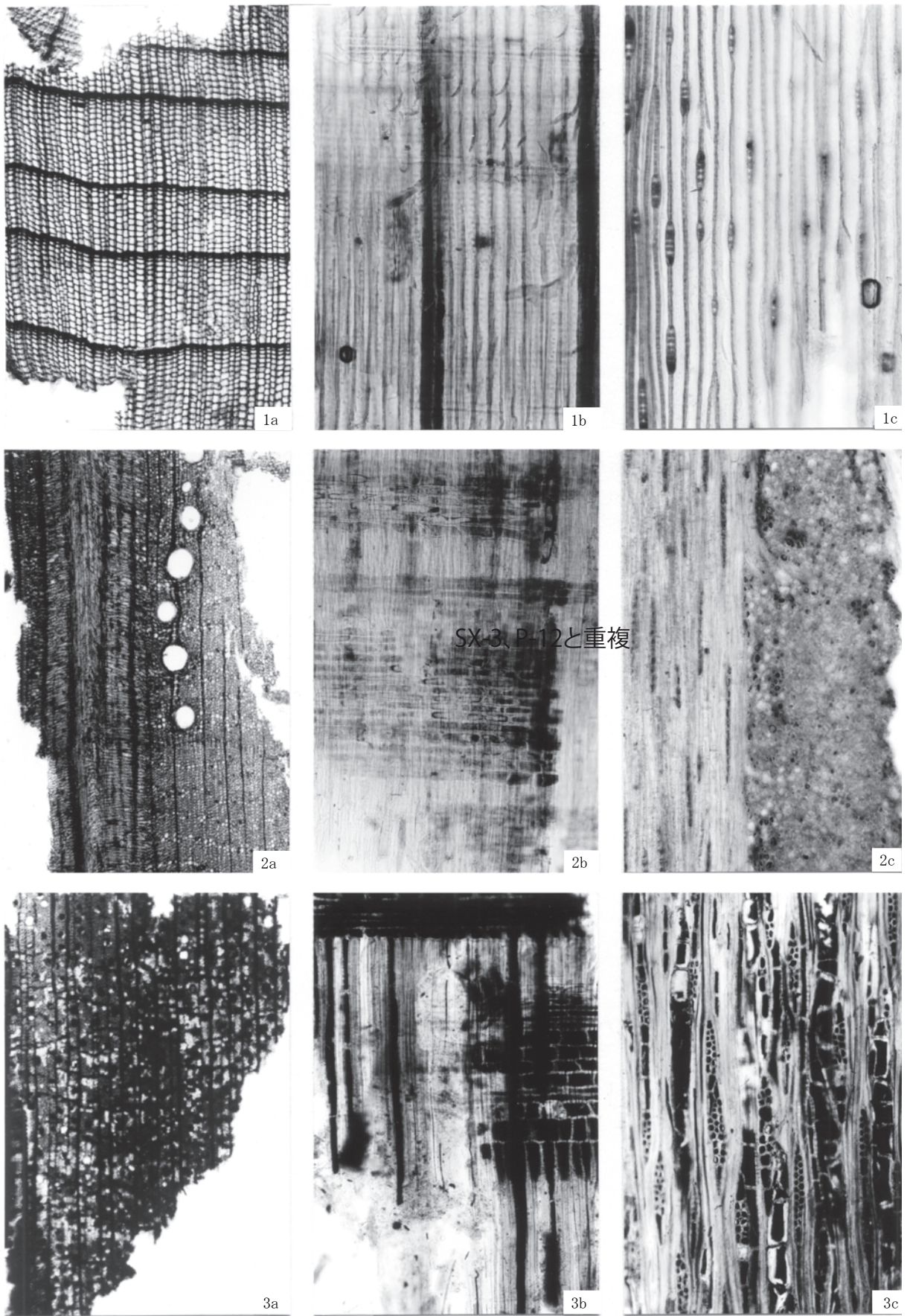
第234表 昆虫同定結果

目名	科名	分類群	部位	備考	生息環境
コウチュウ目	オサムシ科	オオナガゴミムシ	頭部	同一個体と思われる	平地の草地・荒地
コウチュウ目	オサムシ科	オオナガゴミムシ	前胸甲板	同一個体と思われる	
コウチュウ目	オサムシ科	オオナガゴミムシ	右上翅	同一個体と思われる	
コウチュウ目	オサムシ科	オオナガゴミムシ	左上翅	同一個体と思われる	
コウチュウ目	オサムシ科	アトボシアオゴミムシ	右上翅	斑紋より確定	平地の草地・湿地
コウチュウ目	オサムシ科	セアカヒラタゴミムシ	右上翅	翅端部垂端点孔の位置より確定	平地の草地・荒地
コウチュウ目	オサムシ科	セアカヒラタゴミムシ	左上翅先端部	他にも多数本種の破片あり	
コウチュウ目	オサムシ科	セアカヒラタゴミムシ	右上翅基部		
コウチュウ目	オサムシ科	セアカヒラタゴミムシ	右上翅基部		
コウチュウ目	オサムシ科	セアカヒラタゴミムシ	右上翅先端部		
コウチュウ目	コガネムシ科	カナブン	右後腿節		広葉樹林・二次林に多い
コウチュウ目	コガネムシ科	カナブン	後胸甲板		
コウチュウ目	コガネムシ科	カナブン	腹端節		
コウチュウ目	オサムシ科	アオゴミムシ	左上翅基部		平地の湿地・草地
コウチュウ目	オサムシ科	ヒメゴミムシ	左上翅	上翅会合部小条に形状より確定	平地の荒地
コウチュウ目	オサムシ科	オオゴモクムシ	左上翅基部	上翅細毛点と大きさより確定	田畑・荒地・草地
コウチュウ目	オサムシ科	カワチマルクビゴミムシ	前胸甲板		
コウチュウ目	オサムシ科	オオナガゴミムシ	前胸甲板		
コウチュウ目	オサムシ科	オオナガゴミムシ	後胸甲板		
カワゲラ目	カワゲラ科	カワゲラ科の一種	翅の一部		川幅の広い河川
コウチュウ目	オサムシ科	ツヤヒラタゴミムシ属の一種	右上翅	他にも多数本種の破片あり	平地の湿地・草地
コウチュウ目	オサムシ科	ツヤヒラタゴミムシ属の一種	左上翅		
コウチュウ目	オサムシ科	ゴモクムシ属の一種	右上翅		平地から低山地の荒地
コウチュウ目	コガネムシ科	オオマゴソコガネ	前胸甲板		
コウチュウ目	オサムシ科	ナガヒョウタンゴミムシ	頭部・大顎		河川敷・乾燥した草地
コウチュウ目	コガネムシ科	ウスグロマガソコガネ	左上翅		
コウチュウ目	オサムシ科	ツヤヒラタゴミムシ属の一種	前胸甲板		
コウチュウ目	コガネムシ科	マガソコガネムシ属の一種	前胸甲板		
コウチュウ目	オサムシ科	キボシマメゴモクムシ	雄腹端節と交尾器		平地の草地・荒地
ハエ目	イエバエ科	イエバエ科の一種	閉蛹		腐植質に集合
コウチュウ目	ハネカクシ科	アリガタハネカクシ属の一種	頭部		獣人糞のウジを捕食
コウチュウ目	ハムシ科	カミナリハムシ属の一種	右前翅		
コウチュウ目	オサムシ科	モリヒラタゴミムシ属の一種	雄交尾器		広葉樹林の樹上
コウチュウ目	ガムシ科	ヒラタガムシ属の一種	右上翅		停水域
カメムシ目	サンガメ科	クロサンガメ	前胸		荒地の地表部でゴミムシなどを捕食
コウチュウ目	コガネムシ科	コケシマガソコガネ	右前翅	肩部鋸歯と間室列状顆粒により確定	平地の密な草地・芝地の獣糞など
コウチュウ目	ガムシ科	キベリヒラタガムシ	前胸甲板		止水域の水辺の落葉下
コウチュウ目	ハムシ科	ヨモギハムシ	前胸甲板		草地のヨモギを摂食
ハチ目	アリ科	アズマオオズアリ	頭部		樹林内の石下・朽木に営巣
ハチ目	アリ科	ケアリ属の一種	頭部	ハヤシケアリと思われるが確定できず	樹林内の立木の腐朽部に営巣
コウチュウ目	ゾウムシ科	ハナゾウムシ亜科の一種	左上翅		明るい林縁部などに生息
コウチュウ目	コガネムシ科	マガソコガネムシ属の一種	右上翅	他にも多数本種の破片あり	
ハチ目	アリ科	クロオオアリ	頭部の一部		開けた荒地・草地
コウチュウ目	コガネムシ科	コケシマガソコガネ	頭部・前胸	他にも多数本種の破片あり	
コウチュウ目	オサムシ科	クロツヤヒラタゴミムシ属の一種	頭部		平地から低山地の樹林内・林縁部
コウチュウ目	オサムシ科	ヒメゴモクムシ属の一種	前胸甲板		平地の草地
コウチュウ目	ハネカクシ科	ナガエハネカクシ属の一種	頭部		平地・低山地の草地
コウチュウ目	コガネムシ科	エンマコガネムシ属の一種	左中脚		開けた荒地・草地の獣糞など
コウチュウ目	オサムシ科	オサムシ属の一種	類節	アオオサムシと思われるが確定できず	平地の林縁部
コウチュウ目	オサムシ科	ホソツヤヒラタゴミムシ	左上翅基部		樹林の樹上に生息

引用文献

石川茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑.石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.

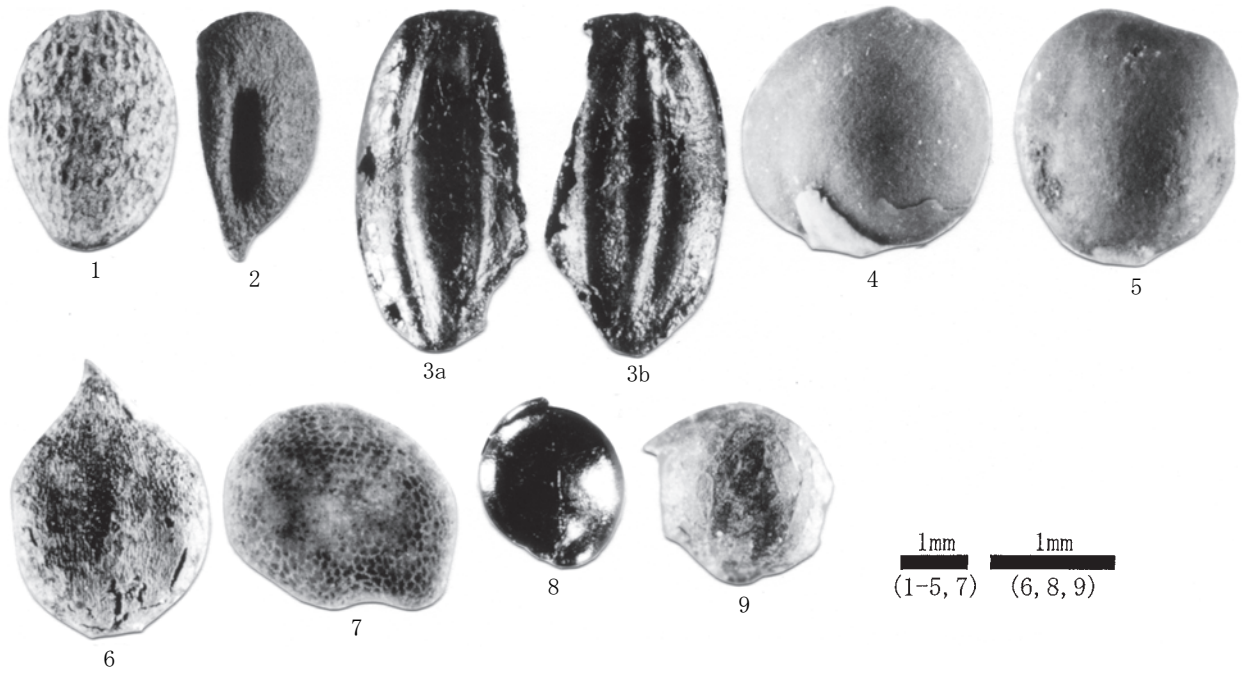
中山至大・井之口希秀・南谷忠志,2000,日本植物種子図鑑.東北大学出版会,642p.



- 1. ヒノキ (試料番号1)
 - 2. コナラ属アカガシ亜属 (試料番号3)
 - 3. イスノキ (試料番号2)
- a: 木口, b: 柁目, c: 板目

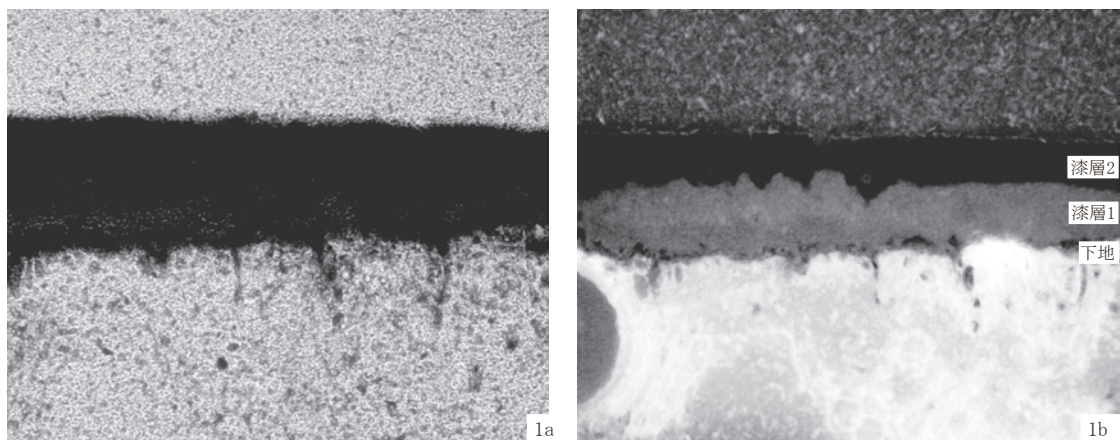
200 μ m: a
 200 μ m: b, c

第 479 図 西刑部西原遺跡 3 区 SE-23 出土の木材



- 1. サンショウ 核(試料番号6)
- 2. ブドウ科 種子(試料番号6)
- 3. イネ 胚乳(試料番号6)
- 4. カナムグラ 種子(試料番号6)
- 5. アサ 種子(試料番号6)
- 6. タデ属 果実(試料番号6)
- 7. ナス科 種子(試料番号6)
- 8. アカザ科-ヒユ科 種子(試料番号6)
- 9. イヌコウジュ属 果実(試料番号6)

第 480 図 西刑部西原遺跡 3 区 SE-75 出土の種実遺体



1. 塗膜断面(SE-23出土居木;3)
a:透過光,b:落射蛍光

第 481 図 西刑部西原遺跡出土居木の塗膜断面



- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1.コナラ亜属 果実(3区 SE23;1) | 2.クリ 果実(3区 SE23;1) |
| 3.クワ属 核(3区 SE23;1) | 4.サンショウ 種子(3区 SE23;1) |
| 5.サンショウ 種子(3区 SE23;1) | 6.イネ 穎(3区 SE23;1) |
| 7.カヤツリグサ科 果実(3区 SE23;1) | 8.アサ 果実(3区 SE23;1) |
| 9.イヌタデ近似種 果実(3区 SE23;1) | 10.タデ属 果実(3区 SE23;1) |
| 11.タデ属 果実(3区 SE23;1) | 12.タデ属 果実(3区 SE23;1) |
| 13.ナデシコ科 種子(3区 SE23;1) | 14.アカザ科 種子(3区 SE23;1) |
| 15.ヒユ科 種子(3区 SE23;1) | 16.カタバミ属 種子(3区 SE23;1) |
| 17.ヒメミカンソウ 種子(3区 SE23;1) | 18.スマレ属 種子(3区 SE23;1) |
| 19.ナス近似種 種子(3区 SE23;1) | 20.ナス科 種子(3区 SE23;1) |
| 21.メナモミ属 果実(3区 SE23;1) | |

第482図 西刑部西原遺跡 SE-23 出土の種実遺体

写真図版

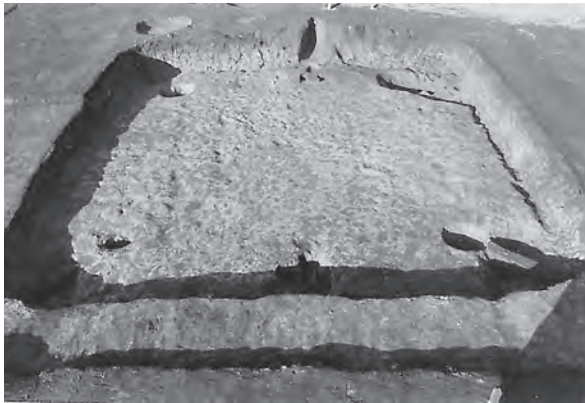


西刑部西原遺跡 全景(北西上空から)



3区航空写真(南西上空から)

図版二
3区遺構



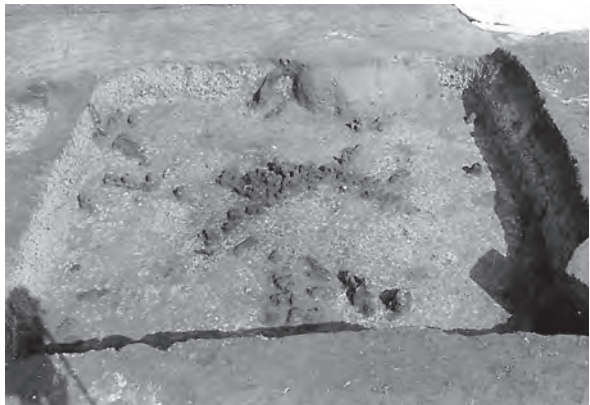
3区 SI-1 掘方(南から)



3区 SI-1 カマド遺物出土状況(南から)



3区 SI-2 遺物出土状況(東から)



3区 SI-2 炭化材出土状況(南から)



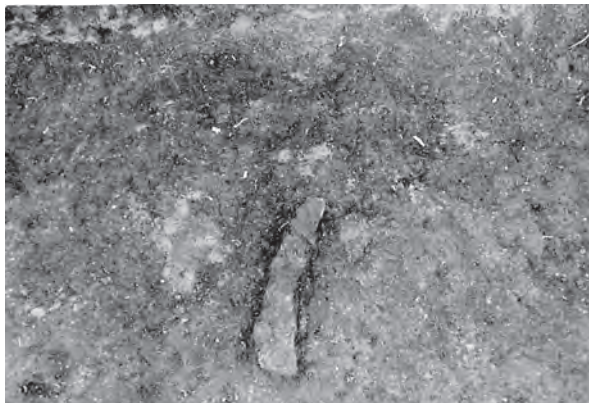
3区 SI-2 カマド掘方(南から)



3区 SI-2 紡錘車出土状況(東から)



3区 SI-2 罎・紡錘車出土状況(南から)



3区 SI-2 鎌出土状況(北から)



3区 SI-3 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-3 完掘 (南から)



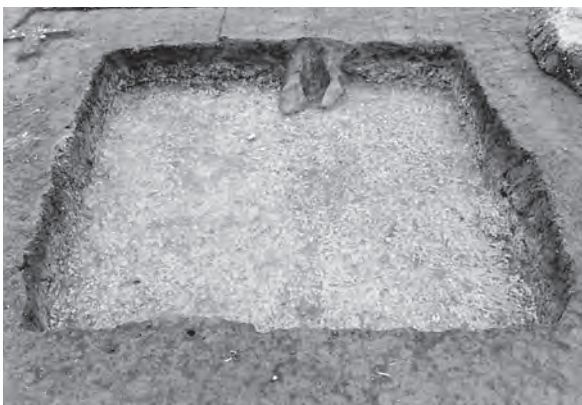
3区 SI-3 掘方 (南から)



3区 SI-3 カマド完掘 (南から)



3区 SI-4 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-4 完掘 (南から)



3区 SI-4 カマド完掘 (南から)



3区 SI-5 遺物出土状況 (南から)

図版四
3区遺構



3区 SI-5 完掘 (南から)



3区 SI-5 カマド完掘 (南から)



3区 SI-5 紡錘車出土状況 (東から)



3区 SI-6 遺物出土状況 (西から)



3区 SI-6 完掘 (南から)



3区 SI-7 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-7 完掘 (南から)



3区 SI-7 カマド完掘 (南から)



3区 SI-7 カマド構築材出土状況（南から）



3区 SI-7 高坏出土状況（東から）



3区 SI-8 カマド完掘（南から）



3区 SI-8 須恵器甕出土状況（南から）



3区 SI-10 遺物出土状況（南から）



3区 SI-10 完掘（南から）



3区 SI-10 カマド完掘（南から）



3区 SI-11 遺物出土状況（南から）

図版六
3区遺構



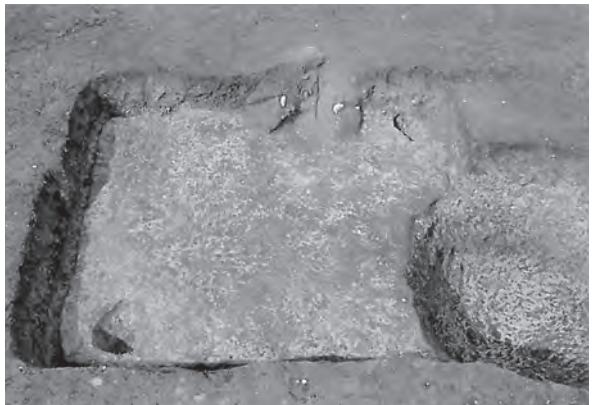
3区 SI-11 完掘 (南から)



3区 SI-11 カマド遺物出土状況 (南から)



3区 SI-11 鉄鏝出土状況 (南から)



3区 SI-12 完掘 (南から)



3区 SI-12 カマド袖断ち割り状況 (南から)



3区 SI-13 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-13 カマド遺物出土状況 (南から)



3区 SI-13 掘方 (南から)



3区 SI-14 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-14 完掘 (南から)



3区 SI-14 カマド遺物出土状況 (南から)



3区 SI-14 遺物出土状況 (南から)



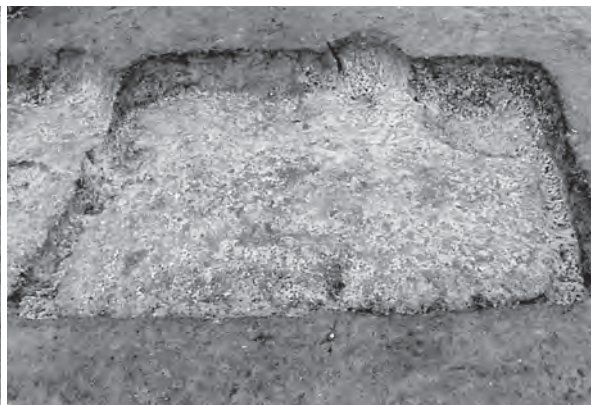
3区 SI-15 完掘 (西から)



3区 SI-15 カマド完掘 (西から)

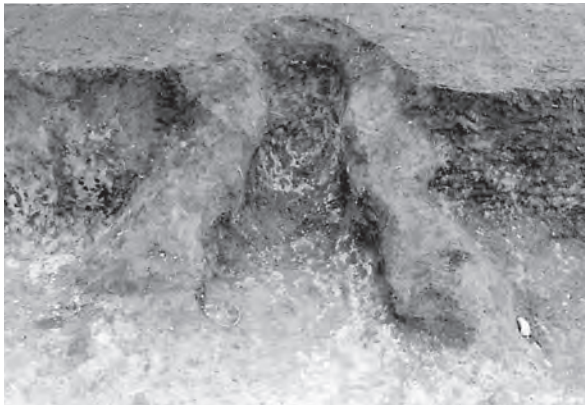


3区 SI-15 掘方 (西から)



3区 SI-16 完掘 (南から)

図版八
3区遺構



3区 SI-16 カマド完掘 (南から)



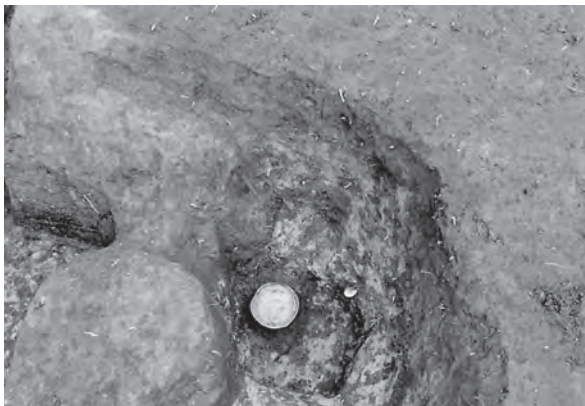
3区 SI-18 遺物出土状況 (西から)



3区 SI-18・19 掘方 (南から)



3区 SI-18 カマド完掘 (西から)



3区 SI-18 P1 遺物出土状況 (西から)



3区 SI-18 完掘 (西から)



3区 SI-18 セクション (南から)



3区 SI-22 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-22 完掘 (南から)



3区 SI-22 カマド完掘 (南から)



3区 SI-22 掘方 (南から)



3区 SI-22 鉄製品出土状況 (東から)



3区 SI-22 刀装具 (足金物) 出土状況 (東から)



3区 SI-24 完掘 (南西から)



3区 SI-26 完掘 (南東から)



3区 SI-26 カマド完掘 (南から)

図版一〇
3区遺構



3区 SI-30 完掘 (南から)



3区 SI-30 カマド完掘 (南から)



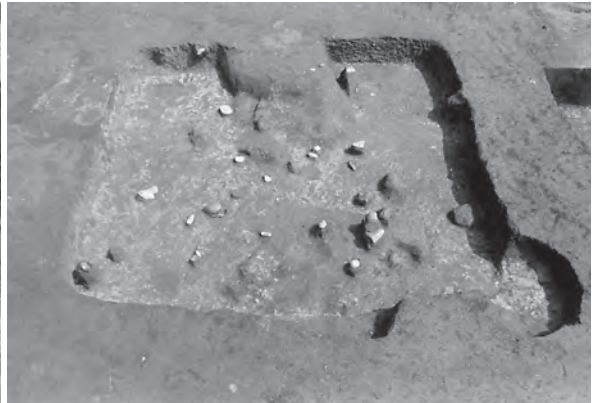
3区 SI-31 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-31 完掘 (南から)



3区 SI-31 カマド完掘 (南から)



3区 SI-32 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-32 完掘 (南から)



3区 SI-32 カマド完掘 (南から)



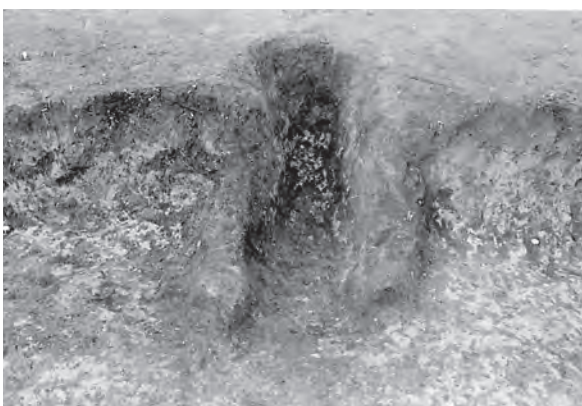
3区 SI-33 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-33 完掘 (南から)



3区 SI-34 完掘 (南から)



3区 SI-34 カマド完掘 (南から)



3区 SI-35 完掘 (南から)



3区 SI-36 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-36 完掘 (南から)



3区 SI-36 カマド完掘 (南から)



3区 SI-36 坏出土状況 (西から)



3区 SI-36 甕・甑出土状況 (東から)



3区 SI-38 完掘 (東から)



3区 SI-38 掘方 (東から)



3区 SI-38 轡の引手出土状況 (西から)



3区 SI-39 完掘 (南から)



3区 SI-40 完掘 (南から)



3区 SI-40 カマド完掘 (南から)



3区 SI-40 掘方(南から)



3区 SI-41 カマド完掘(南から)



3区 SI-41 掘方(西から)



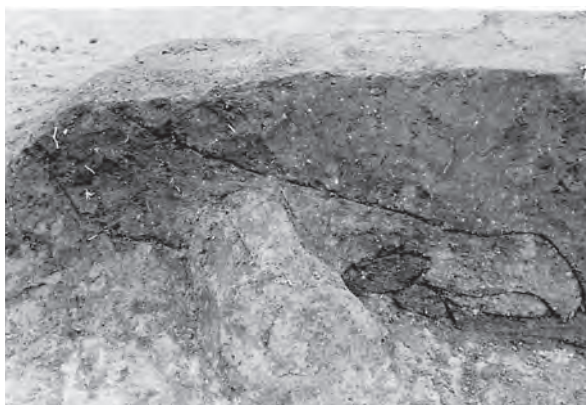
3区 SI-42 遺物出土状況(西から)



3区 SI-43 遺物出土状況(西から)



3区 SI-46 カマド完掘(南から)



3区 SI-46 カマドセクション(南から)



3区 SI-47 遺物出土状況(北西から)

図版一四
3区遺構



3区 SI-47 完掘 (南から)



3区 SI-47 カマド完掘 (西から)



3区 SI-50 遺物出土状況 (東から)



3区 SI-50 完掘 (南から)



3区 SI-50 カマド完掘 (南東から)



3区 SI-51 完掘 (西から)



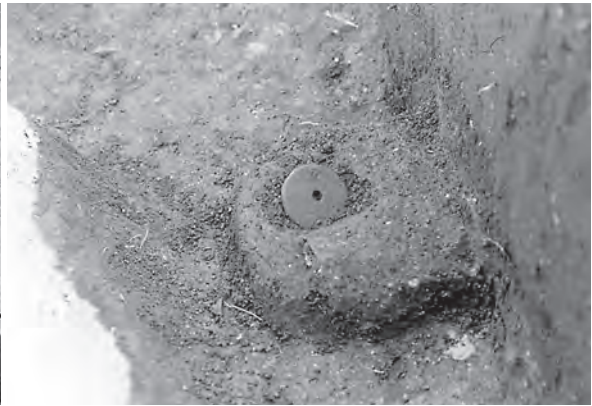
3区 SI-52・58 完掘 (北から)



3区 SI-52 カマド完掘 (南から)



3区 SI-52 掘方(南から)



3区 SI-52 紡錘車出土状況(西から)



3区 SI-53 遺物出土状況(南から)



3区 SI-53 完掘(南から)



3区 SI-53 カマド完掘(南から)



3区 SI-53 掘方(南から)



3区 SI-53 間仕切溝セクション(西から)



3区 SI-53・54 遺物出土状況(南西から)

図版一六
3区遺構



3区 SI-54 完掘 (南西から)



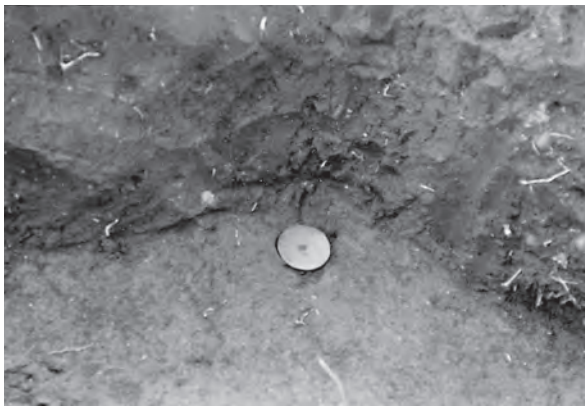
3区 SI-54 カマド完掘 (南から)



3区 SI-54 カマド前面遺物出土状況 (南から)



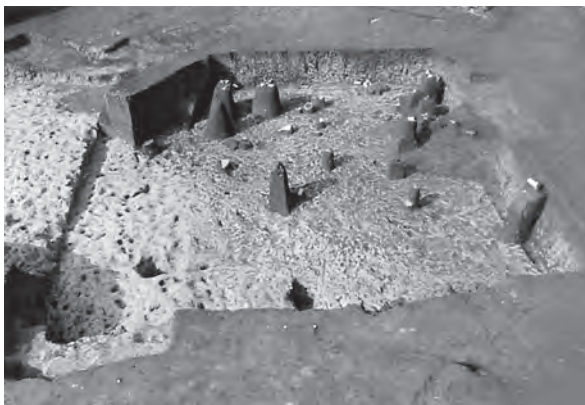
3区 SI-54 掘方 (南から)



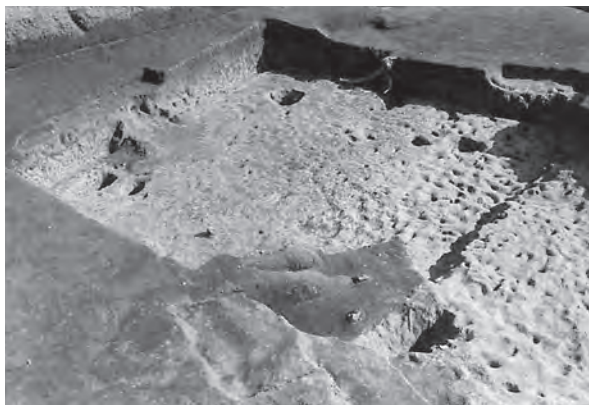
3区 SI-54 紡錘車出土状況 (北西から)



3区 SI-56 掘方 (南から)



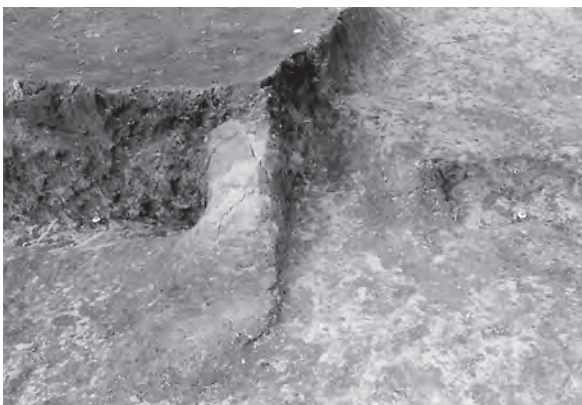
3区 SI-58 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-58 完掘 (北西から)



3区 SI-58 耳環出土状況（南から）



3区 SI-59 カマド完掘（南から）



3区 SI-60 完掘（南東から）



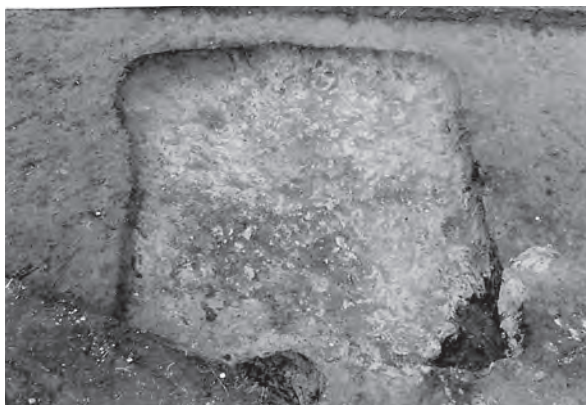
3区 SI-60 遺物出土状況（東から）



3区 SI-61 北東部遺物出土状況（北から）



3区 SI-61 北東部完掘（北から）



3区 SI-71 完掘（南から）

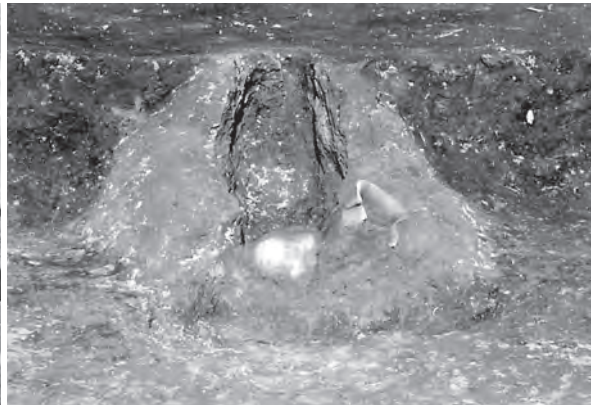


3区 SI-71 掘方（南から）

図版一八
3区遺構



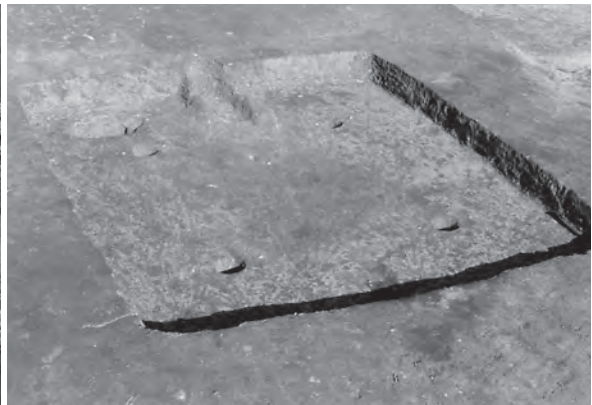
3区 SI-74 完掘 (南から)



3区 SI-74 カマド完掘 (南から)



3区 SI-74 掘方 (南から)



3区 SI-77 完掘 (南西から)



3区 SI-77 カマド完掘 (南西から)



3区 SI-77 掘方 (南から)



3区 SI-78 完掘 (南から)



3区 SI-78 カマド完掘 (西から)



3区 SI-81 完掘(南から)



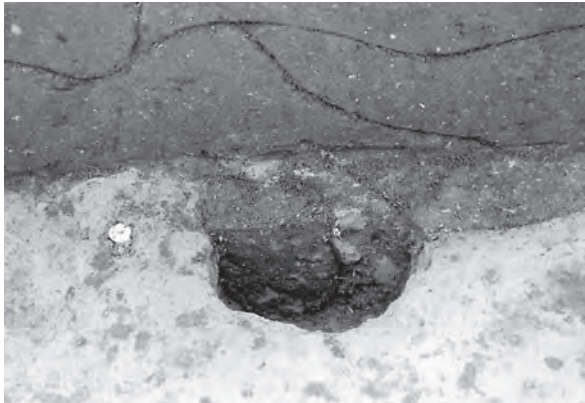
3区 SI-81 カマド完掘(南から)



3区 SI-82 遺物出土状況(南から)



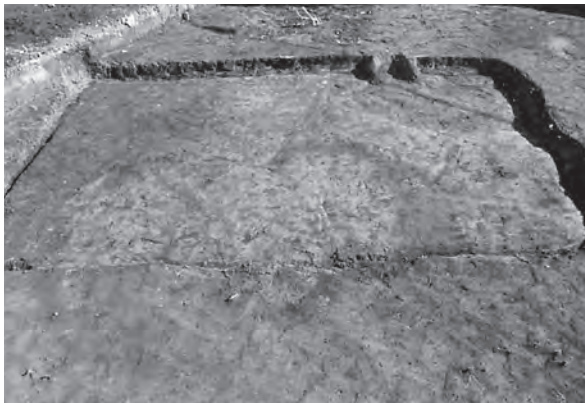
3区 SI-82 完掘(南から)



3区 SI-82 P3 セクション(北から)



3区 SI-82 遺物出土状況(南から)



3区 SI-83 完掘(西から)



3区 SI-83 カマド完掘(西から)

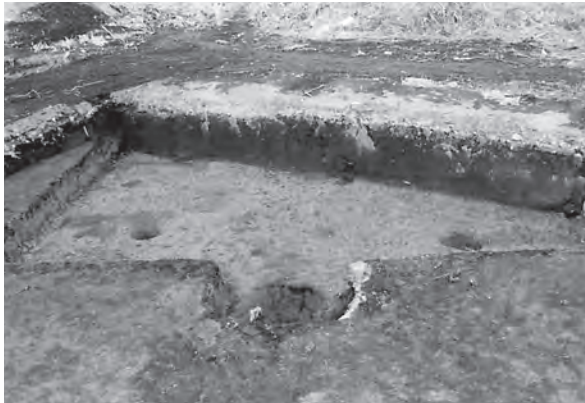
図版二〇
3区遺構



3区 SI-83 掘方(西から)



3区 SI-84 遺物出土状況(北から)



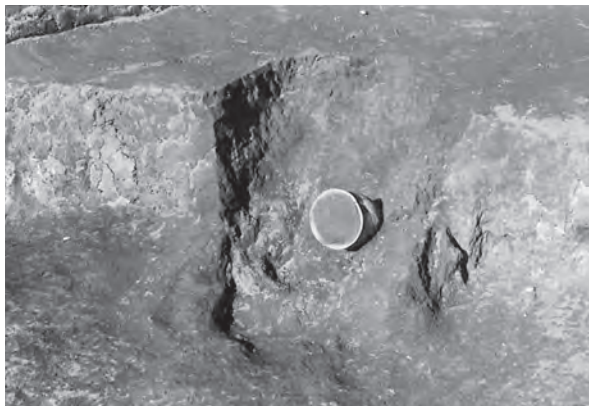
3区 SI-84 完掘(南から)



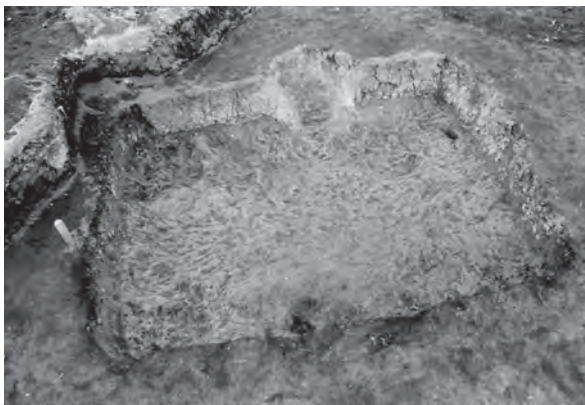
3区 SI-84 掘方(南から)



3区 SI-85 遺物出土状況(南から)



3区 SI-85 カマド完掘(南から)



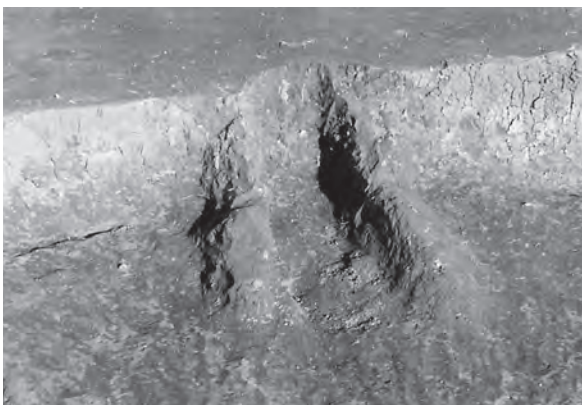
3区 SI-85 掘方(南から)



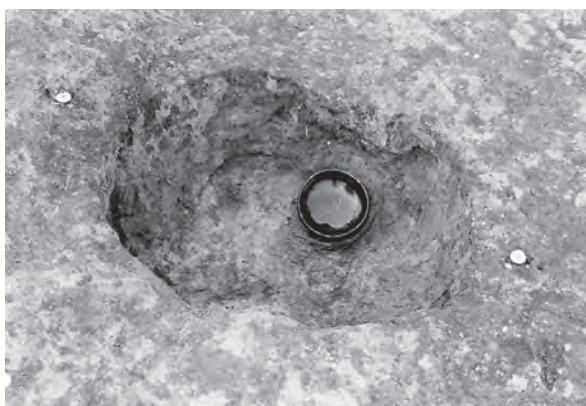
3区 SI-86・87・88 遺物出土状況(西から)



3区 SI-86・87・88 完掘（南から）



3区 SI-87 カマド完掘（南から）



3区 SI-87 貯蔵穴遺物出土状況（南から）



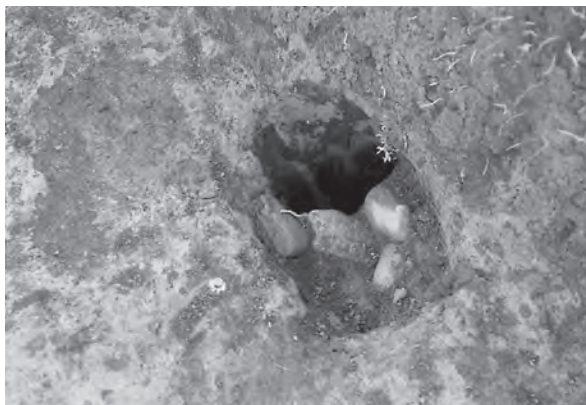
3区 SI-87 掘方（南から）



3区 SI-88 完掘（南から）



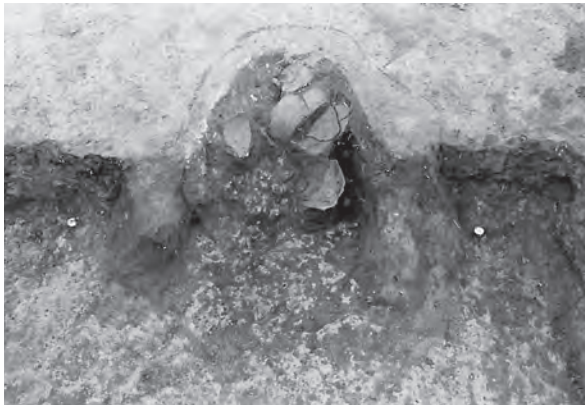
3区 SI-88 カマド完掘（南から）



3区 SI-88 入口ピット遺物出土状況（北西から）



3区 SI-89 完掘（南から）



3区 SI-89 カマド遺物出土状況（南から）



3区 SI-90 南西部遺物出土状況（西から）



3区 SI-90 完掘（南から）



3区 SI-90 カマド完掘（南から）



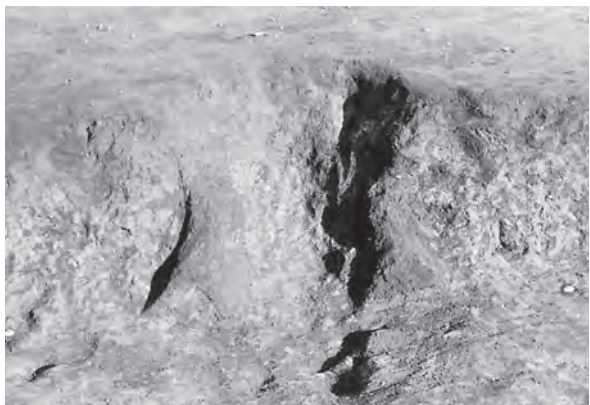
3区 SI-90 刀子出土状況（南から）



3区 SI-91 遺物出土状況（西から）



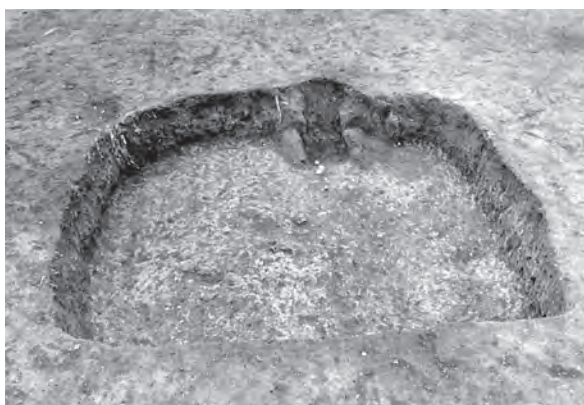
3区 SI-91 完掘（南から）



3区 SI-91 カマド完掘（南から）



3区 SI-92 遺物出土状況 (南から)



3区 SI-92 完掘 (南から)



3区 SI-92 カマド完掘 (南から)



3区 SB-70 完掘 (南から)



3区 SB-70 P6 セクション (東から)



3区 SB-73 完掘 (北から)



3区 SB-73 P2 上面遺物出土状況 (南から)



3区 SB-100 完掘 (西から)

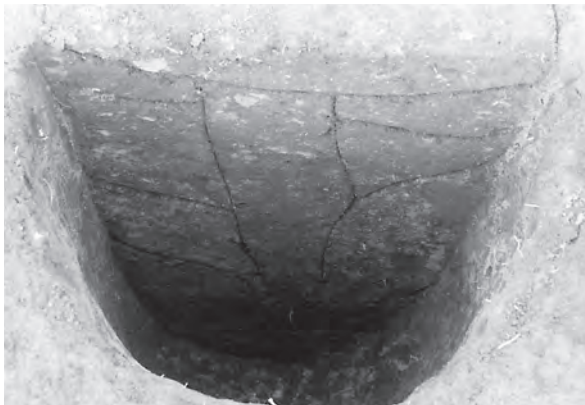
図版二四
3区遺構



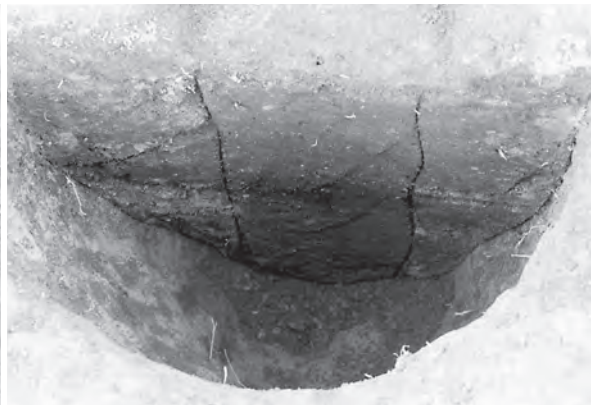
3区 SB-100 P11 セクション (南から)



3区 SB-101 完掘 (西から)



3区 SB-101 P8 セクション (南から)



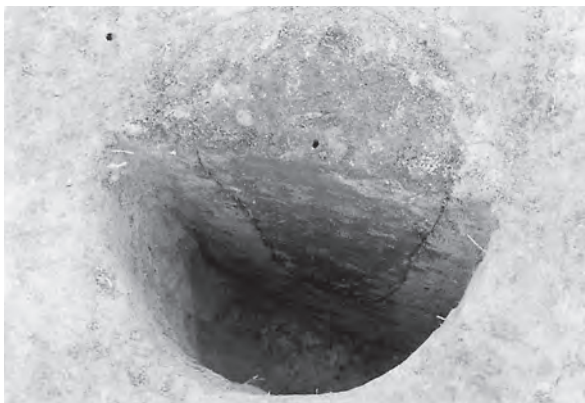
3区 SB-101 P12 セクション (南から)



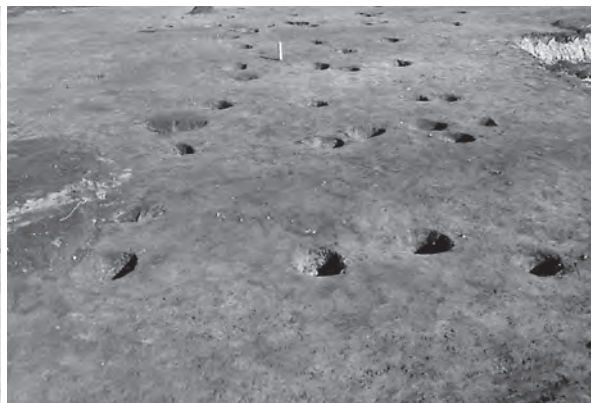
3区 SB-102 完掘 (東から)



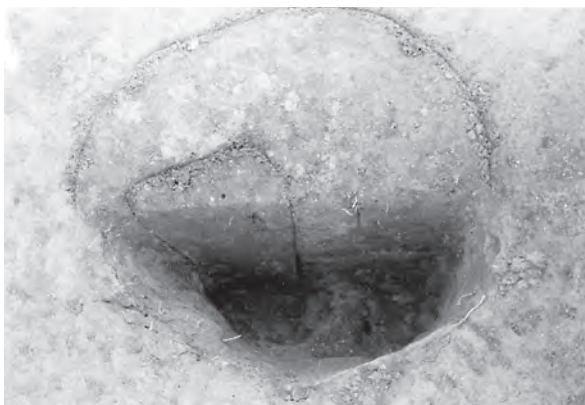
3区 SB-103 完掘 (西から)



3区 SB-103 P2 セクション (南から)



3区 SB-114 完掘 (南から)



3区 SB-106 P7 セクション (西から)



3区 SX-17・SI-90 セクション (南から)



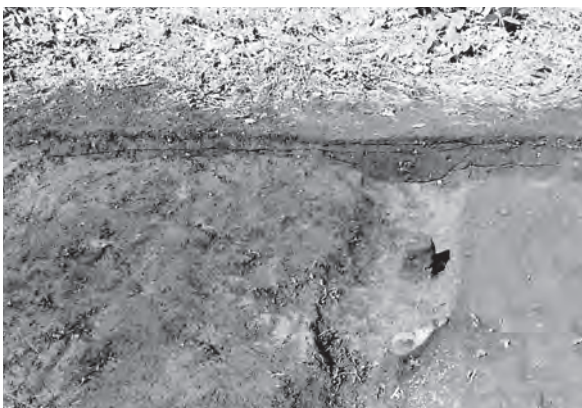
3区 SX-17 セクション (南から)



3区 SX-29 確認状況 (南から)



3区 SX-29 B-B' セクション (南東から)



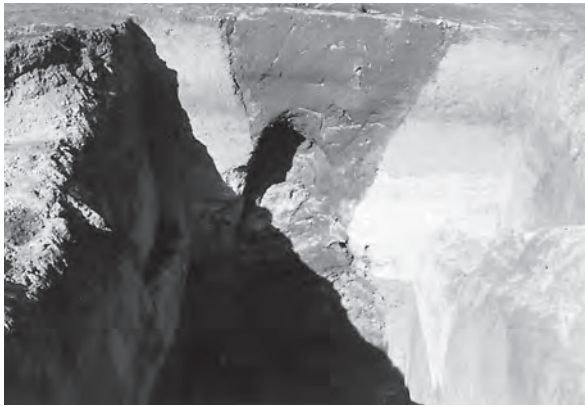
3区 SX-28 セクション (南から)



3区 SX-21 セクション (北から)



3区 SX-21 遺物出土状況 (北西から)



3区 SE-23 上面セクション (南から)



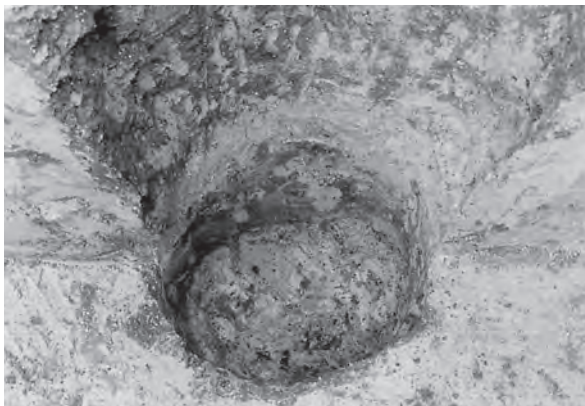
3区 SE-23 底面遺物出土状況 (東から)



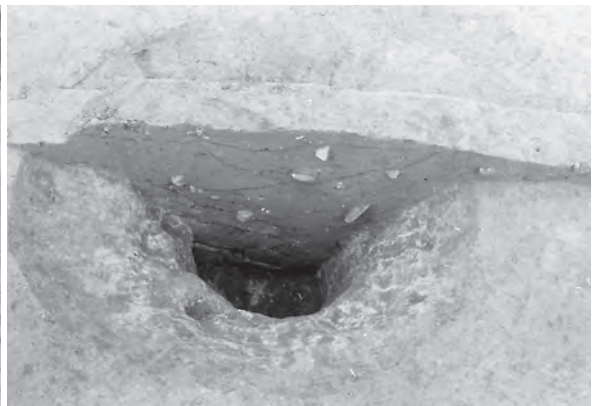
3区 SE-27 セクション (西から)



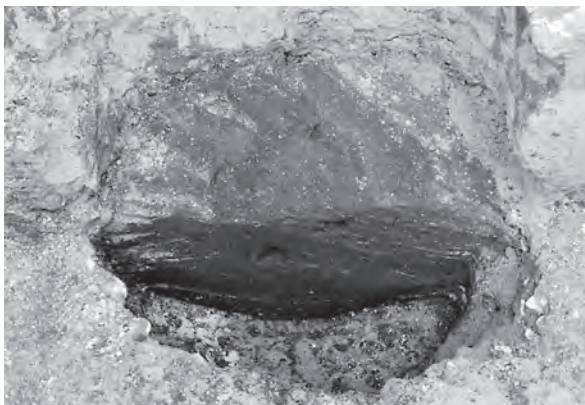
3区 SE-27 完掘 (西から)



3区 SE-27 底面アップ (西から)



3区 SE-37 上部セクション (南から)



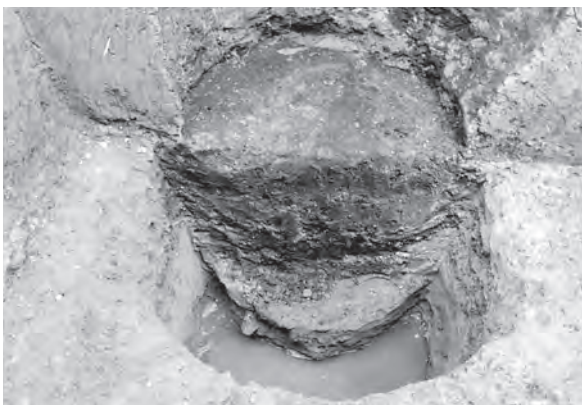
3区 SE-37 底面セクション (南から)



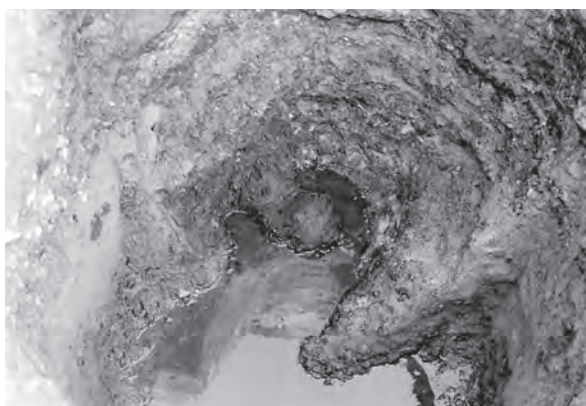
3区 SE-37 完掘 (南東から)



3区 SE-75 中央部セクション (西から)



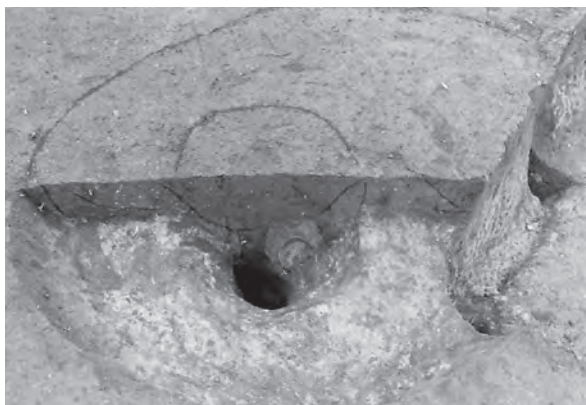
3区 SE-75 底面付近のセクション (西から)



3区 SE-75 遺物出土状況 (西から)



3区 SE-76 完掘 (南から)



3区 SE-95 上面セクション (南西から)



3区 SE-95 完掘 (南から)



3区 SE-107 セクション (南から)

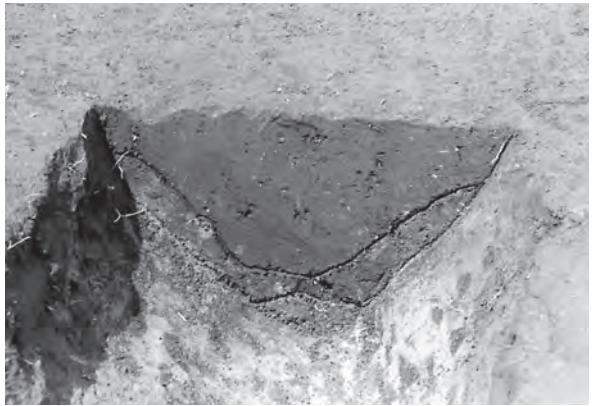


3区 SE-107 完掘 (南から)

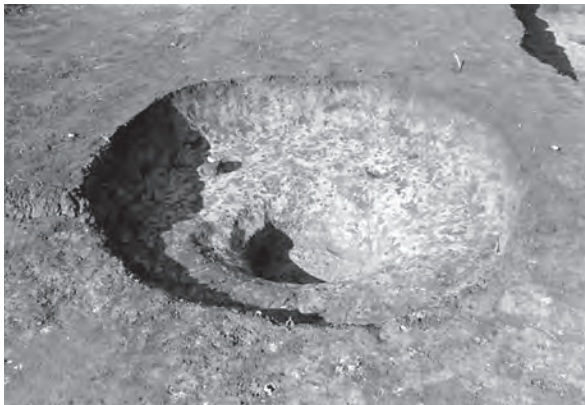
図版二八
3区遺構



3区 SD-57 完掘 (南から)



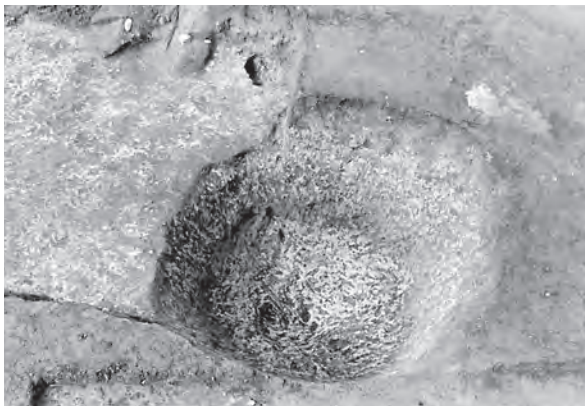
3区 SD-57 D-D' セクション (東から)



3区 SK-25 完掘 (南から)



3区 SK-45 遺物出土状況 (西から)



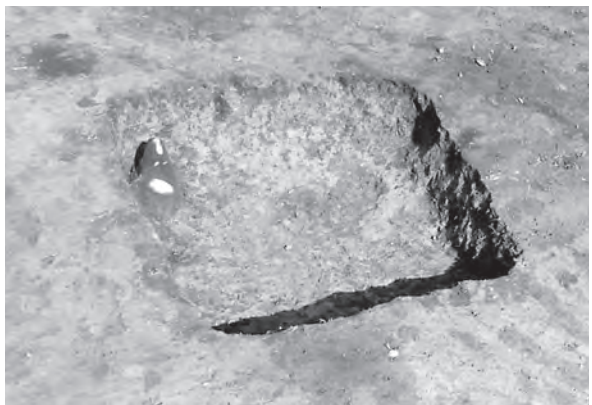
3区 SK-45 完掘 (南から)



3区 SK-62 遺物出土状況 (南から)



3区 SK-63 完掘 (南から)



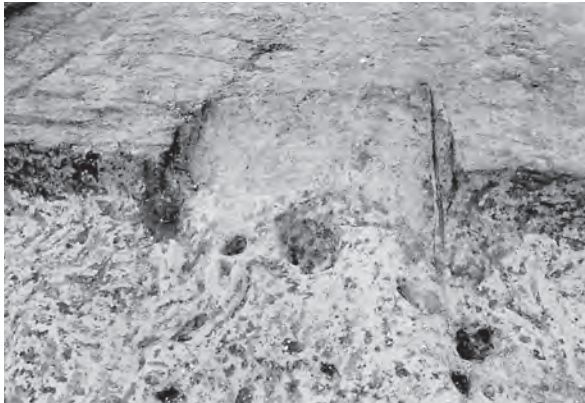
3区 SK-94 完掘 (南から)



4区 SI-1 遺物出土状況（南から）



4区 SI-2 完掘（南から）



4区 SI-2 カマド完掘（南から）



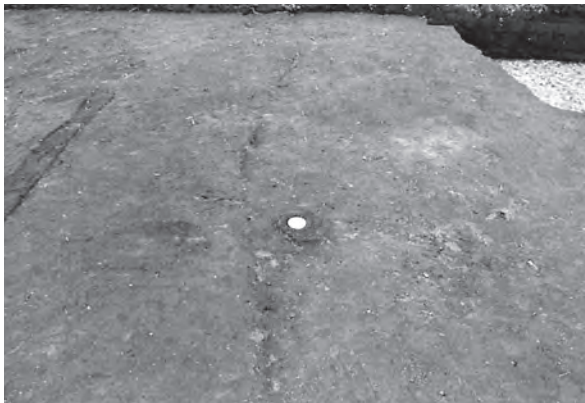
4区 SI-3 遺物出土状況（東から）



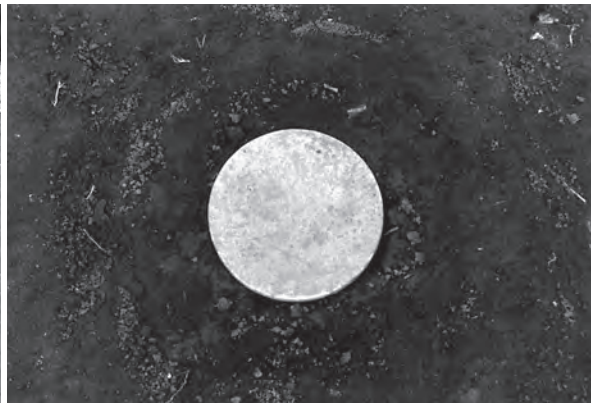
4区 SI-3 完掘（北東から）



4区 SD-7 完掘（南東から）



4区遺構外 和鏡出土地点（南から）



4区遺構外 和鏡出土状況（南から）

図版三〇 5区・6区航空写真



5区航空写真(北東上空から)



6区航空写真(東上空から)



5区 SI-1 北西部遺物出土状況（北から）



5区 SI-1 完掘（南から）



5区 SI-1 カマド完掘（南から）



5区 SI-4 遺物出土状況（南から）



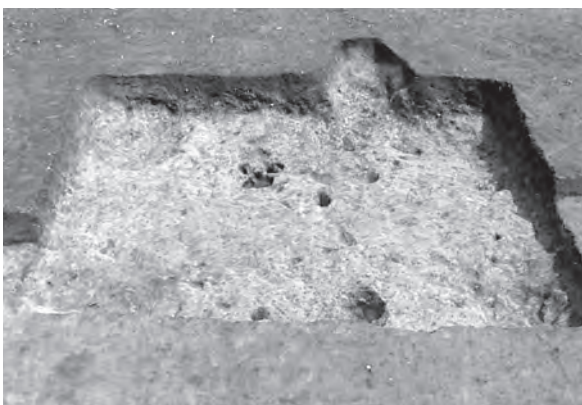
5区 SI-4 完掘（南から）



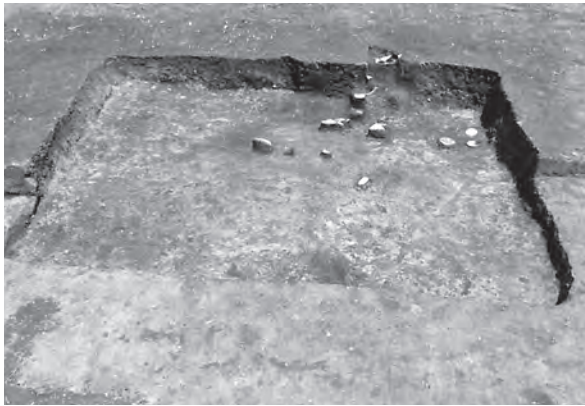
5区 SI-4 カマド遺物出土状況（南から）



5区 SI-4 須恵器甕出土状況（南東から）



5区 SI-5 掘方（南から）



5区 SI-5 遺物出土状況（南から）



5区 SI-5 カマド遺物出土状況（南から）



5区 SI-14 北部遺物出土状況（西から）



5区 SI-14 完掘（南から）



5区 SI-14 掘方（南から）



5区 SI-14 カマド遺物出土状況（南から）



5区 SB-19 完掘（東から）



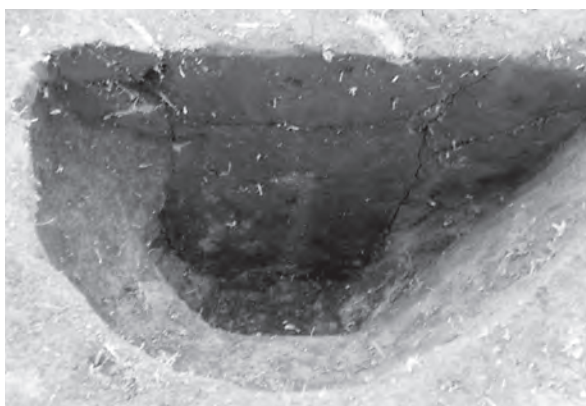
5区 SB-21 周辺（西から）



5区 SB-22 完掘 (東から)



5区 SB-22 P7 セクション (南から)



5区 SB-22 P8 セクション (南から)



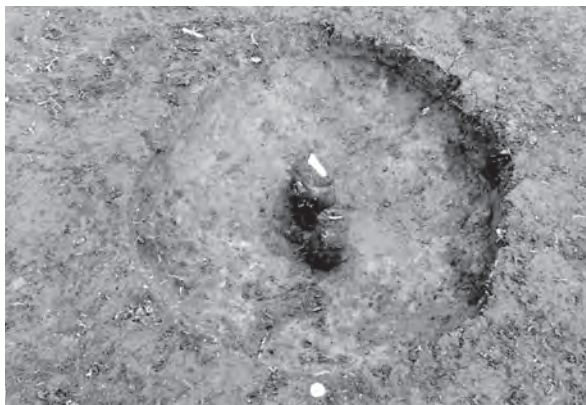
5区 SX-3 完掘 (南から)



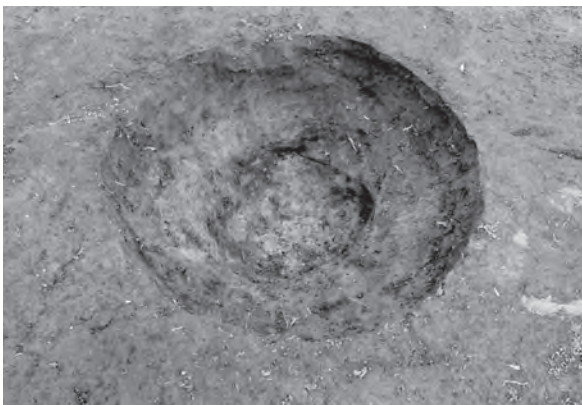
5区 SX-3 北西コーナー (北から)



5区 SX-3 周溝内西側遺物出土状況 (北東から)



5区 SK-16 完掘 (南から)



5区 SK-25 完掘 (南から)

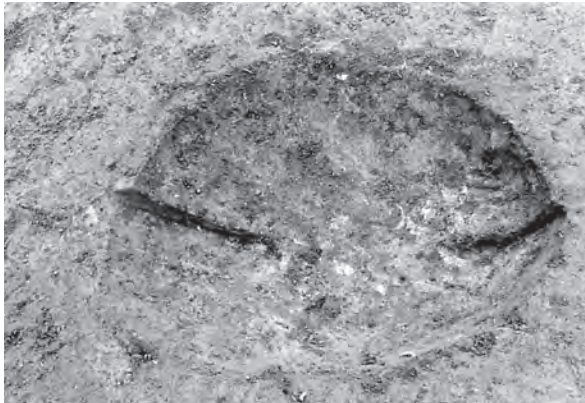
図版三四
6区遺構



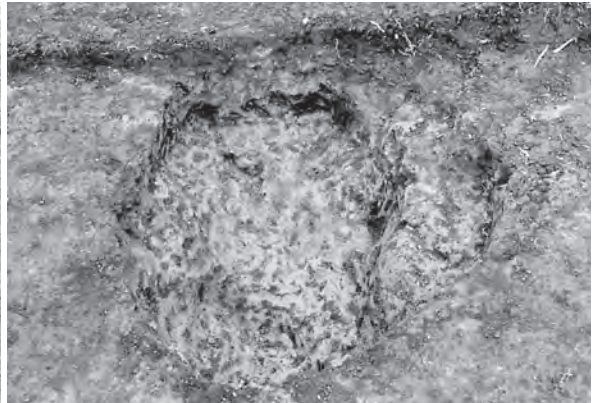
6区 SD-10 西側（東から）



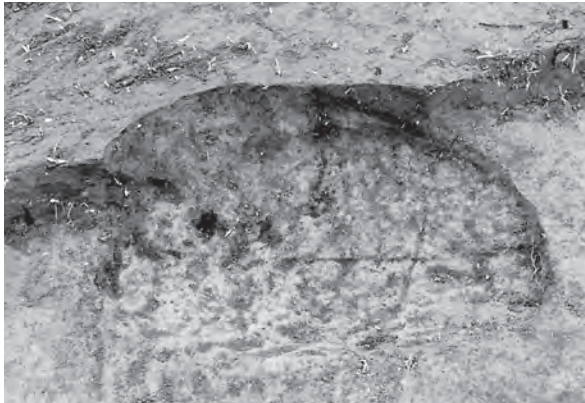
6区 SD-11 全景（北西から）



6区 SK- 2 完掘（南から）



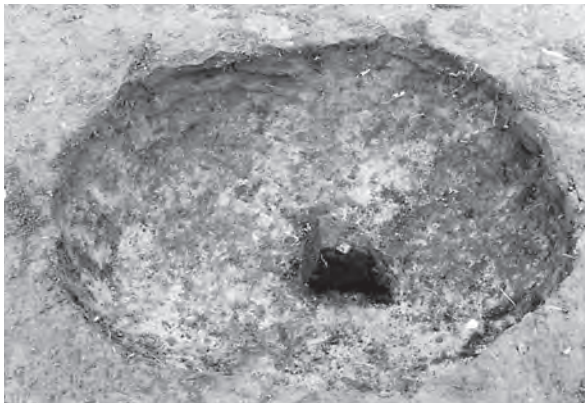
6区 SK- 3 完掘（南から）



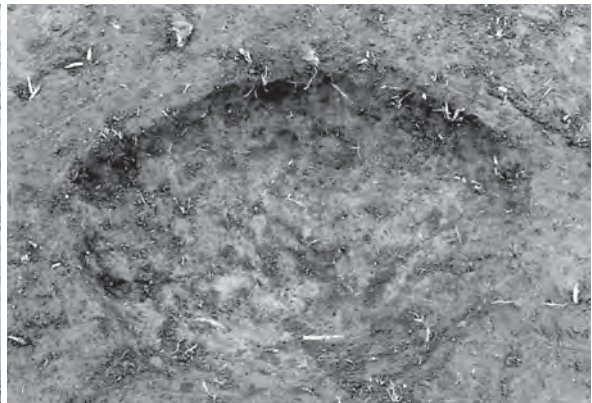
6区 SK- 5 完掘（南から）



6区 SK- 6 遺物出土状況（南から）



6区 SK- 7 完掘（南から）



6区 SK- 8 完掘（南から）

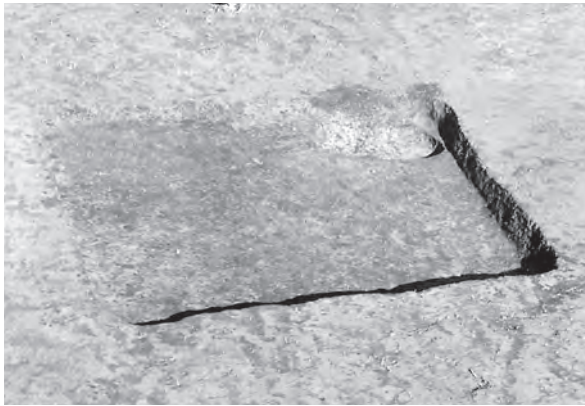


7区西部航空写真(南西上空)



6区・7区東部航空写真(南西上空)

図版三六 7区遺構



7区 SI- 3 完掘 (南から)



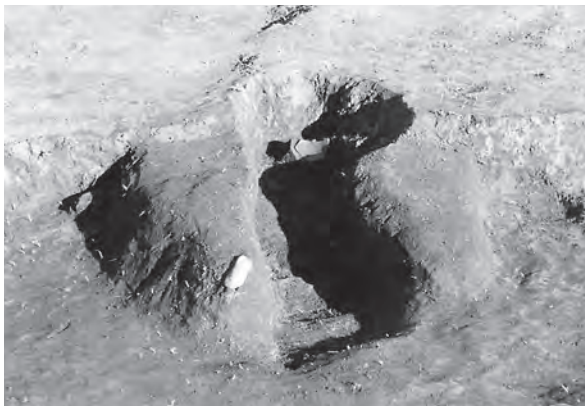
7区 SI- 3 掘方 (西から)



7区 SI- 4 遺物出土状況全景 (南から)



7区 SI- 4 貼床面柱穴 (南から)



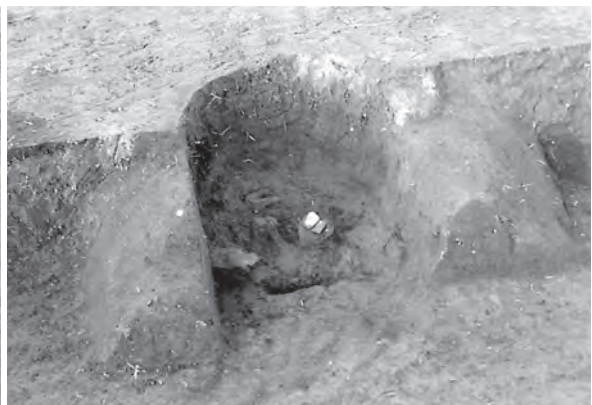
7区 SI- 4 カマド遺物出土状況 (南から)



7区 SI- 5 遺物出土状況 (南から)



7区 SI- 5 完掘 (南から)



7区 SI- 5 カマド完掘 (南から)



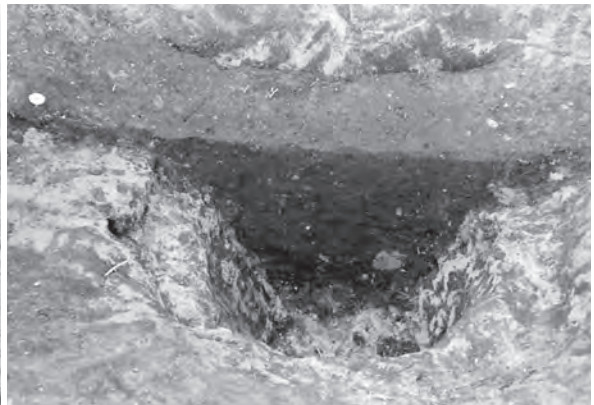
7区 SI- 6 完掘 (南から)



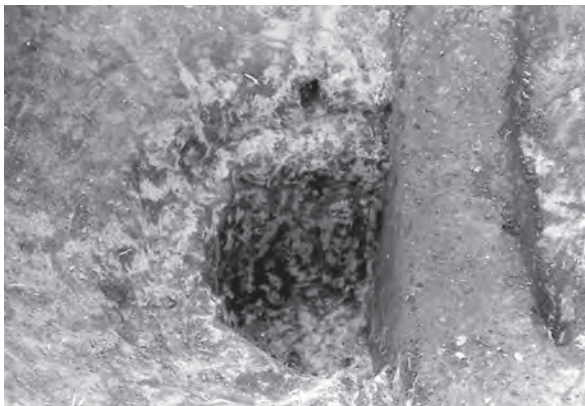
7区 SI- 6 掘方完掘 (南から)



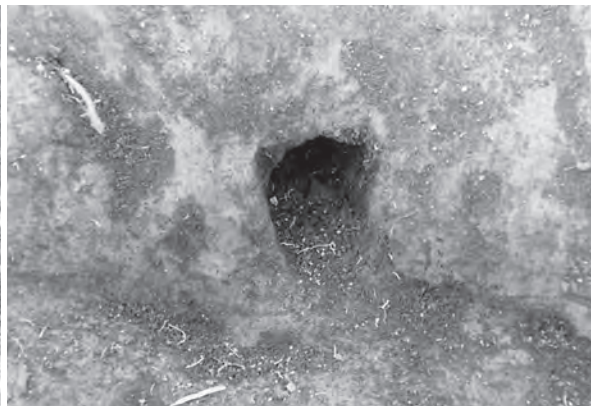
7区 SX- 7 南側遺物出土状況 (南から)



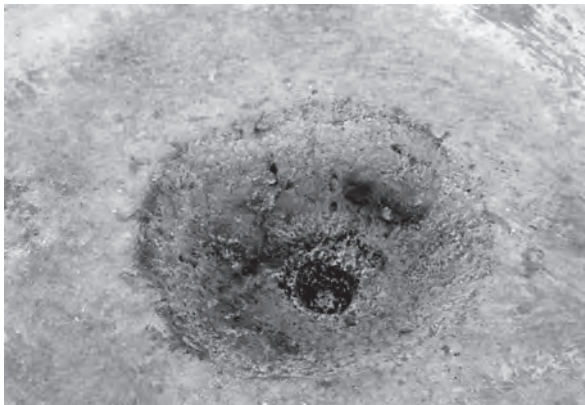
7区 SX- 7 有段下部セクション (南から)



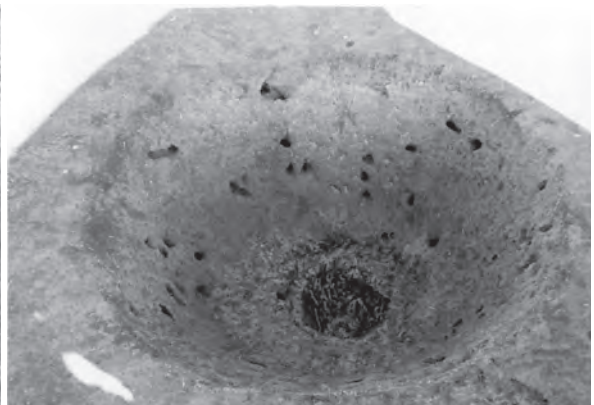
7区 SX- 7 有段下部セクション (南から)



7区 SX- 7 下部横穴アップ (東から)

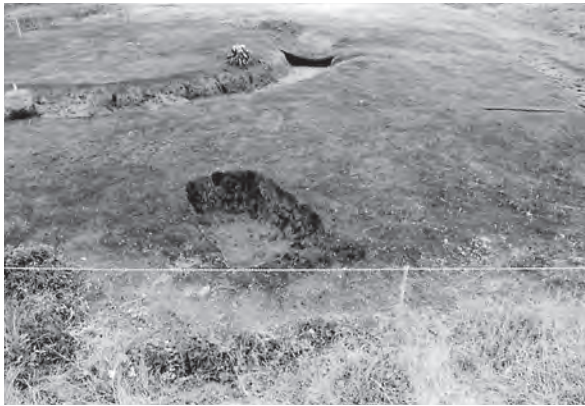


7区 SX- 7 焼土範囲状況 (南から)



7区 SX- 7 完掘全景 (南上から)

図版三八
8区遺構



8区全景（北から）



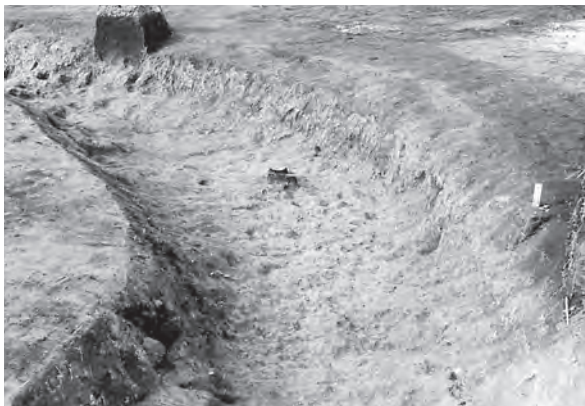
8区琴平塚9号墳周溝 ブリッジ状部分（北から）



8区琴平塚9号墳周溝 ブリッジ状部分完掘（南から）



8区琴平塚9号墳周溝 遺物出土状況（南から）



8区琴平塚9号墳周溝 東部完掘（南東から）



8区琴平塚9号墳周溝 東部完掘（北西から）



8区琴平塚9号墳周溝 北部完掘（東から）



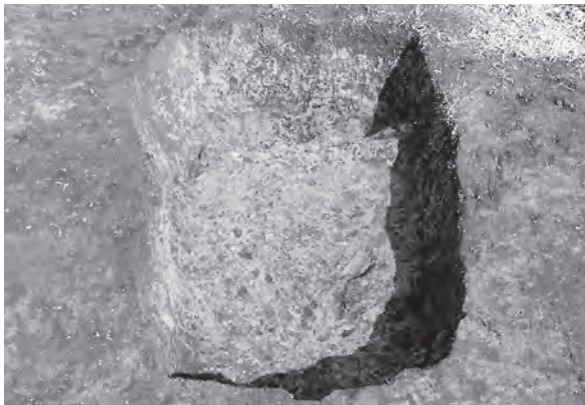
8区琴平塚9号墳周溝 北部完掘（西から）



8区 SK-1 南北セクション (東から)



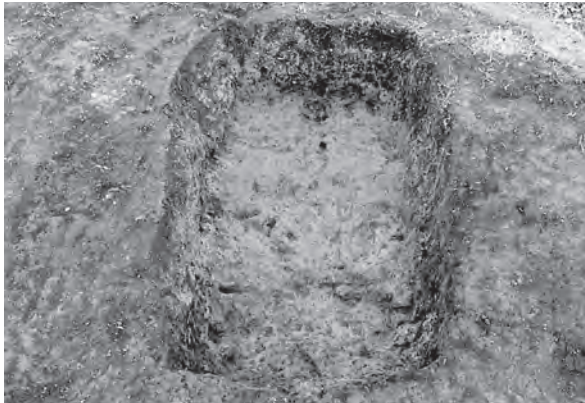
8区 SK-1 北部南北セクション (東から)



8区 SK-1 完掘 (南から)



8区 SK-1 掘方セクション A-A・B-B' (南から)



8区 SK-1 掘方完掘 (南から)



8区 SF-13 セクション (南から)



8区 SF-13 (道路状遺構) 路床の掘方 (北から)



8区 SF-13 (道路状遺構) 作業風景 (北から)

図版四〇 9区北部・南部航空写真



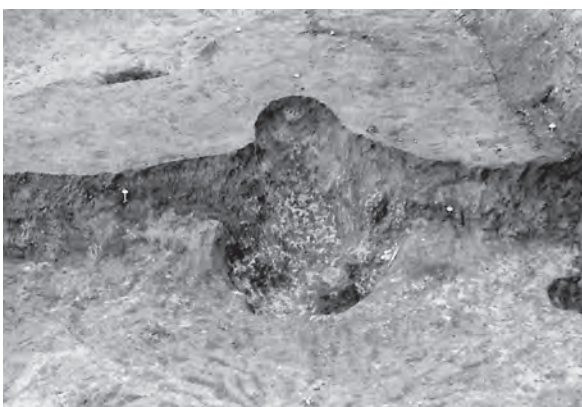
9区北部航空写真(北東上空から)



9区南部航空写真(南上空から)



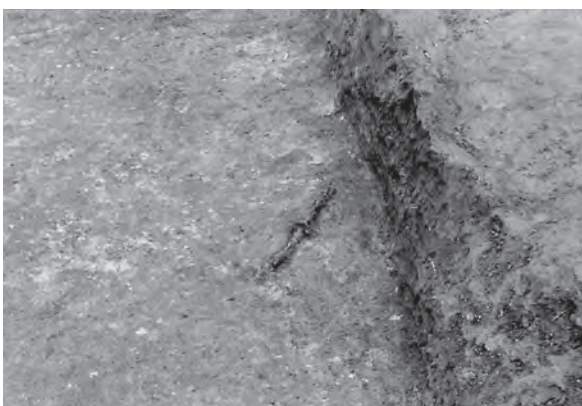
9区 SI-1 遺物出土状況（南から）



9区 SI-1 カマド完掘（南から）



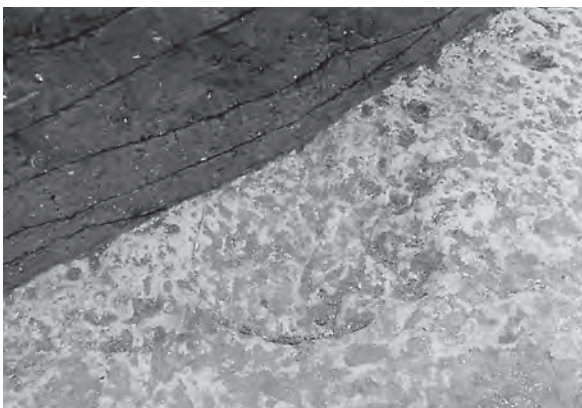
9区 SI-1 刀子・甕出土状況（南から）



9区 SI-1 紡錘車出土状況（西から）



9区 SI-7 完掘（北から）



9区 SI-7 炉完掘（北から）



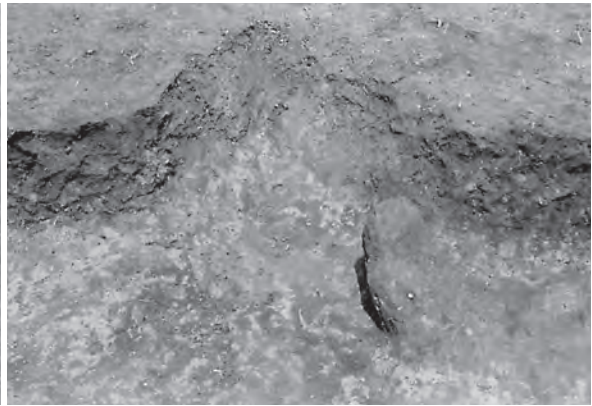
9区 SI-9 完掘（南から）



9区 SI-9 カマド遺物出土状況（南から）



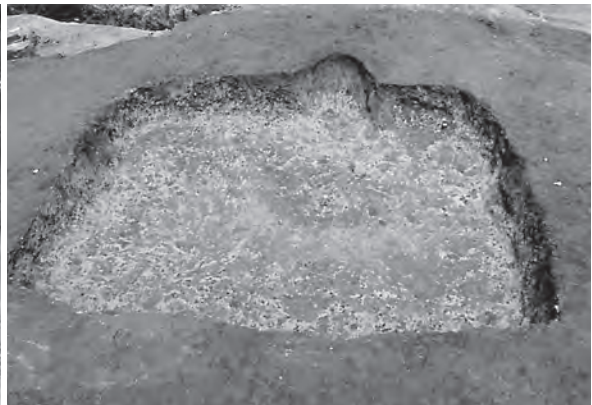
9区 SI-10 完掘 (南から)



9区 SI-10 カマド完掘 (南から)



9区 SI-10 カマド遺物出土状況 (南から)



9区 SI-11 完掘 (南から)



9区 SI-11 カマド完掘 (南から)



9区 SI-12 張出ピット (P6) 遺物出土状況 (南から)



9区 SI-12 北部完掘 (南から)



9区 SI-12 カマド完掘 (南から)



9区 SI-12 張出ピット (P6) 完掘 (南から)



9区 SI-13・14 遺物出土状況 (南から)



9区 SI-13 カマド完掘 (南から)



9区 SI-14 遺物出土状況 (南から)



9区 SI-14 カマド遺物出土状況 (南から)



9区 SI-15 遺物出土状況 (南から)



9区 SI-15 完掘 (南から)



9区 SI-15 カマド遺物出土状況 (南から)

図版四四
9区遺構



9区 SI-16 遺物出土状況 (南から)



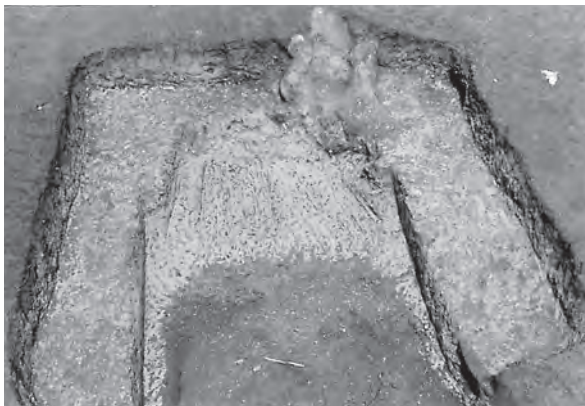
9区 SI-16 完掘 (南から)



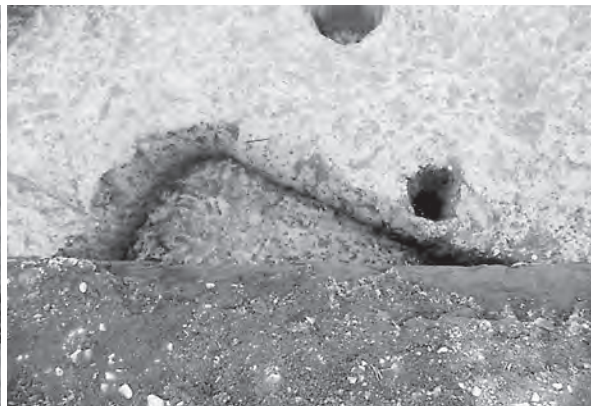
9区 SI-17 遺物出土状況 (南から)



9区 SI-17 カマド完掘 (南から)



9区 SI-17 完掘 (南から)



9区 SI-21 完掘 (南から)



9区 SI-21 遺物出土状況 (南から)



9区 SI-26 完掘 (南から)



9区 SI-26・SD-3 遺物出土状況(南から)



9区 SI-27 完掘(西から)



9区 SI-27 カマド遺物出土状況(西から)



9区 SI-49 遺物出土状況(南から)



9区 SI-49 カマド完掘(南から)



9区 SB-8 完掘(南から)

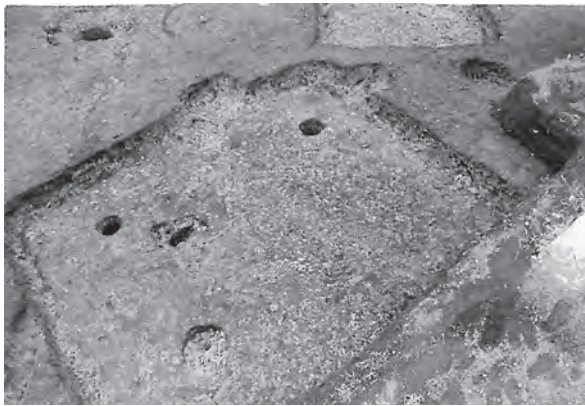


9区 SB-22 完掘(南から)



9区 SB-22 P2、P-31 セクション(西から)

図版四六 9区遺構



9区 SB-23・SI-9 完掘 (南から)



9区 SB-23 P1 セクション (北東から)



9区 SB-35 完掘 (東から)



9区 SX-25 完掘 (東から)



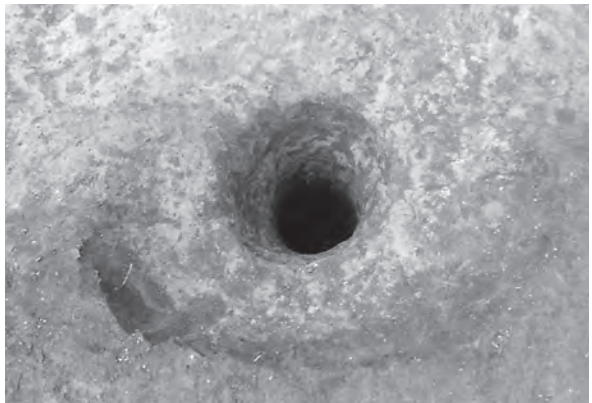
9区 SX-25 完掘 (東から)



9区 SX-29 セクション (東から)



9区 SX-29 底部 (東から)



9区 SE-6 完掘 (南から)



9区 SE-6 断ち割り (西から)



9区 SD-2 完掘 (北東から)



9区 SD-3 完掘 (南から)



9区 SD-3 北部完掘 (南から)



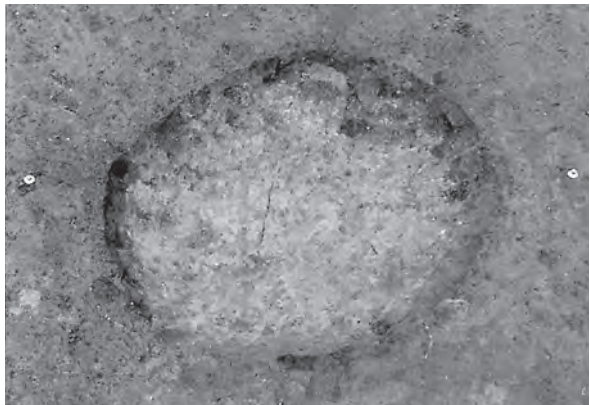
9区 SD-28 完掘 (北西から)



9区 SD-36 完掘 (東から)

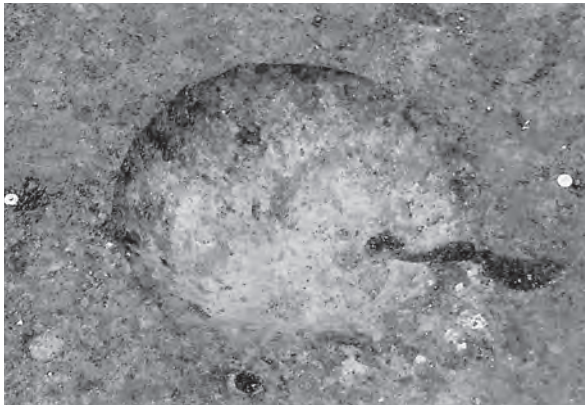


9区 SD-120 完掘 (北東から)



9区 SK-4 完掘 (南から)

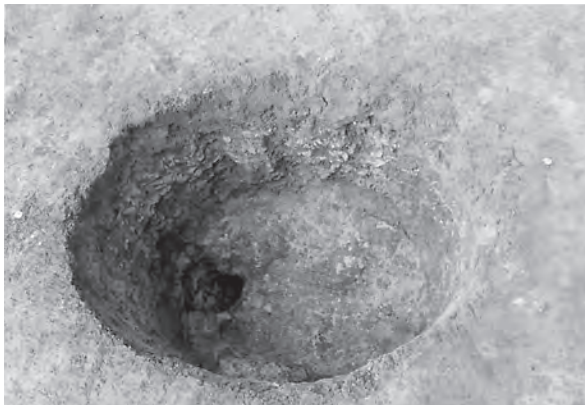
図版四八
9区遺構



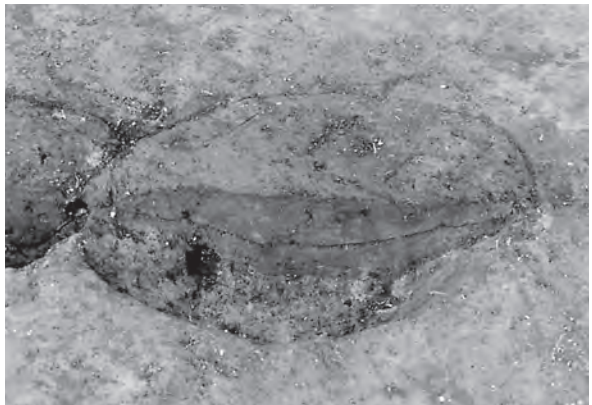
9区 SK-5 完掘 (南から)



9区 SK-20 セクション (南から)



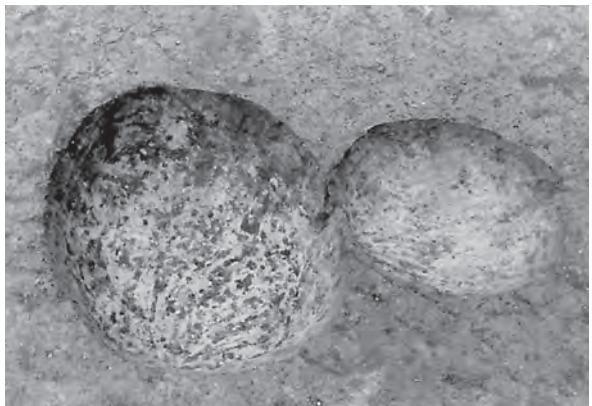
9区 SK-20 完掘 (南から)



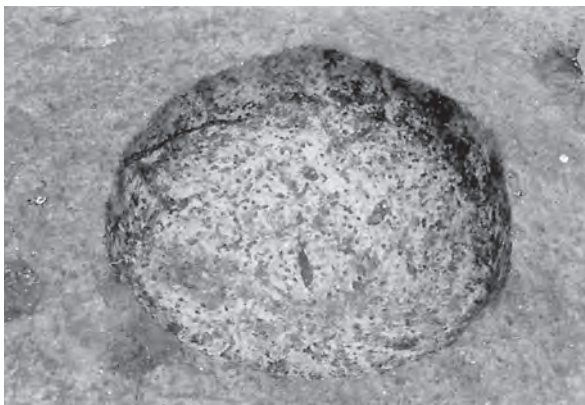
9区 SK-24 セクション (西から)



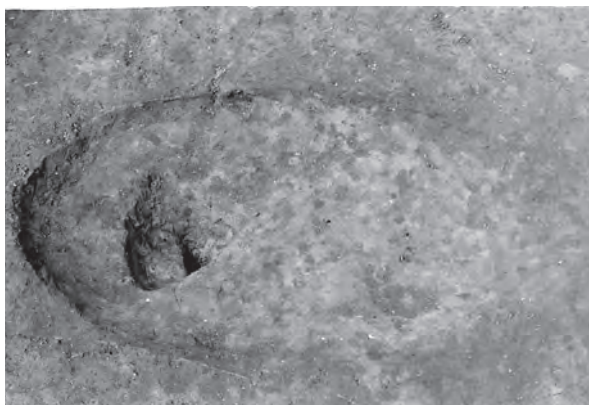
9区 SK-30 完掘 (東から)



9区 SK-31・32 完掘 (東から)



9区 SK-33 完掘 (南から)



9区 SK-34 完掘 (東から)



10区航空写真(西上空から)



11区航空写真(北西上空から)

図版五〇
10区遺構



10区 SI-1 遺物出土状況（東から）



10区 SI-1 完掘（東から）



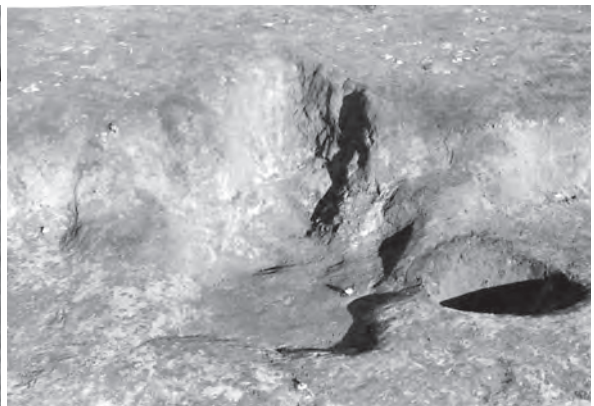
10区 SI-1 カマド遺物出土状況（南から）



10区 SI-2 遺物出土状況（南から）



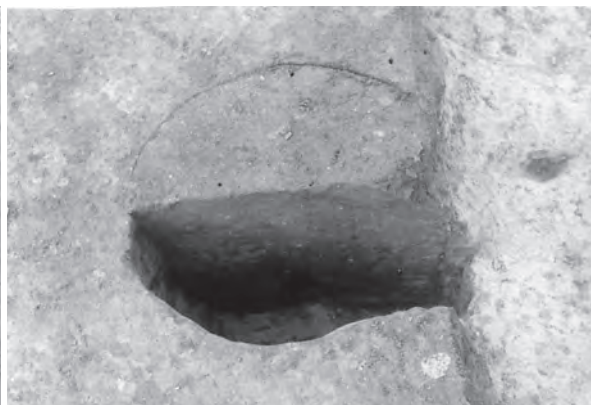
10区 SI-2 完掘（南から）



10区 SI-2 カマド完掘（南から）



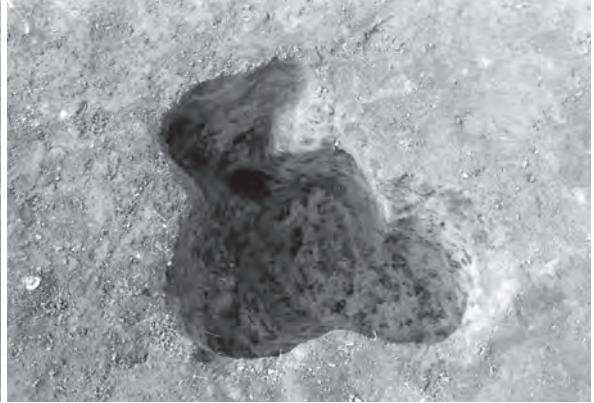
10区 SB-19・SI-2 遺物出土状況（東から）



10区 SB-19 P6 セクション（東から）



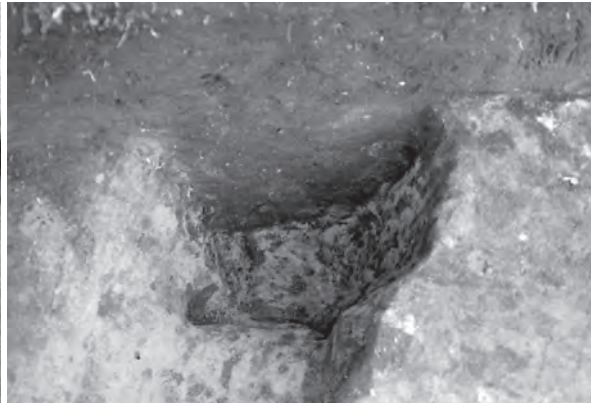
10区 SB-21 完掘 (南から)



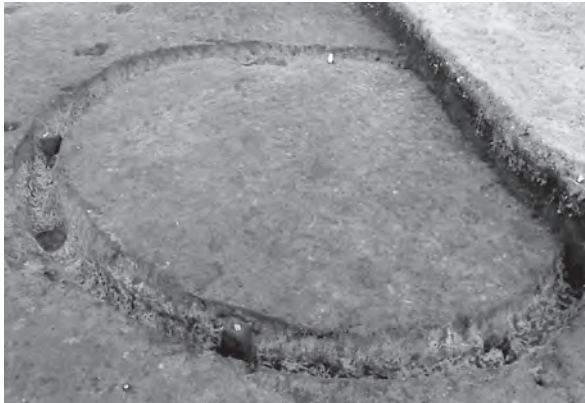
10区 SB-21・P4、SB-22・P6 完掘 (東から)



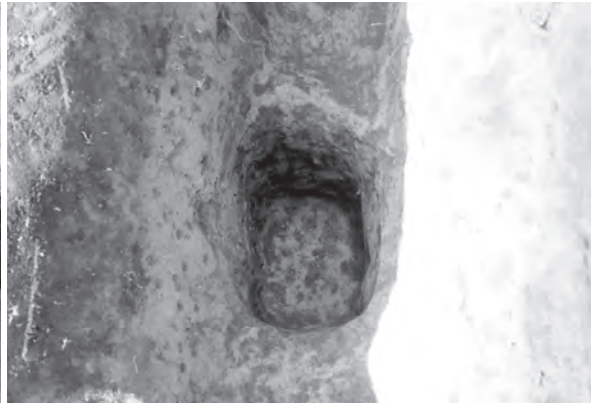
10区 SB-22 完掘 (南から)



10区 SB-22 P8 完掘 (西から)



10区 SX-6 完掘 (南から)



10区 SX-6 P1 完掘 (南東から)



10区 SD-7 完掘 (西から)



10区 SD-15 完掘 (東から)

図版五二
10区遺構



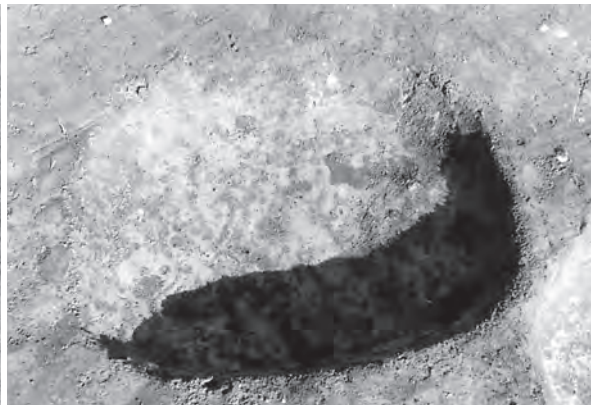
10区 SD-20 完掘 (北西から)



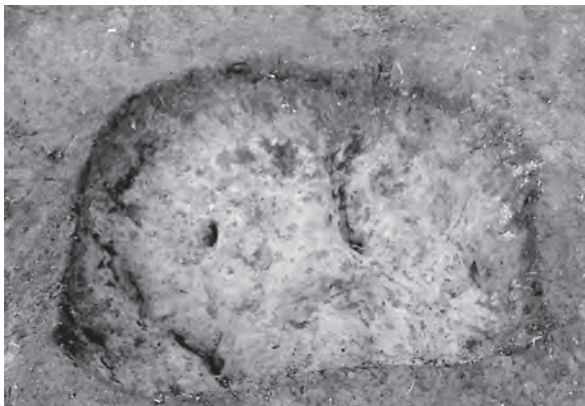
10区 SK- 3 完掘 (南から)



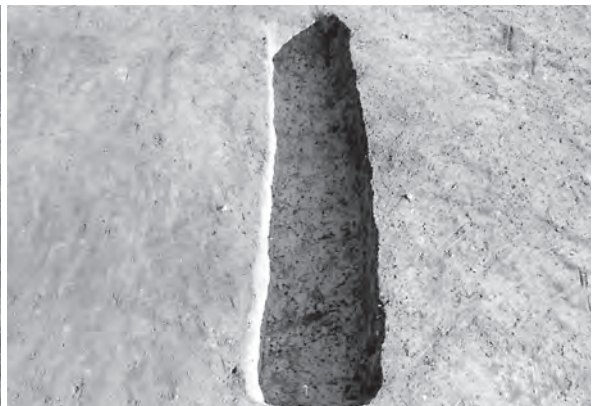
10区 SK- 4 完掘 (南から)



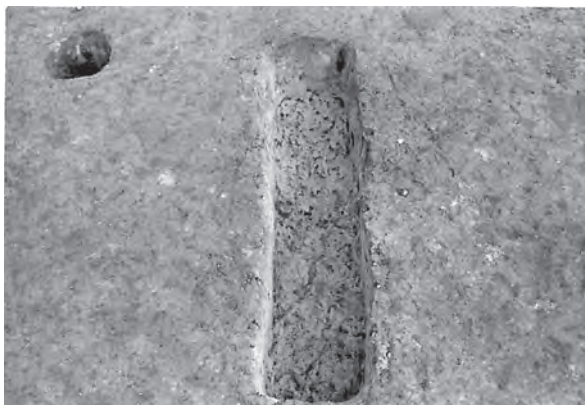
10区 SK- 5 完掘 (南西から)



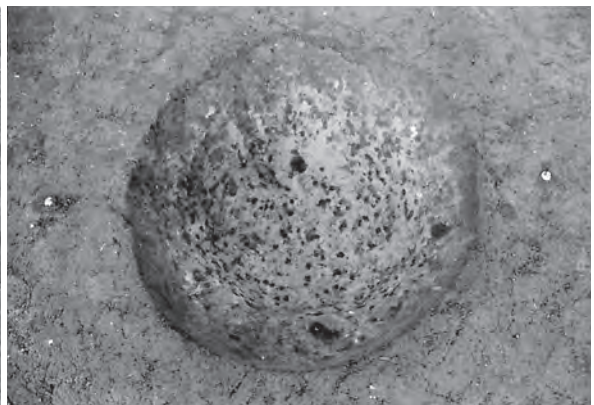
10区 SK-9 完掘 (南から)



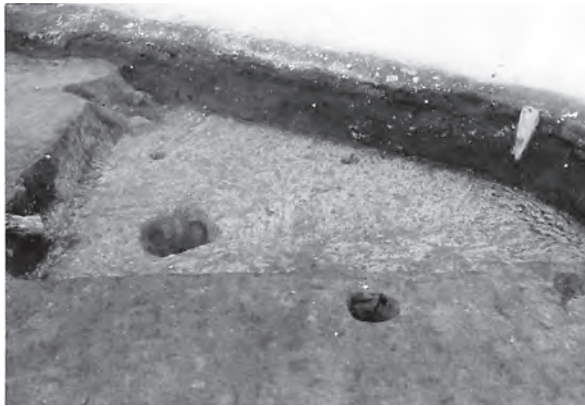
10区 SK-12 完掘 (西から)



10区 SK-13 完掘 (西から)



10区 SK-17 完掘 (南から)



11区 SI-1 完掘(西から)



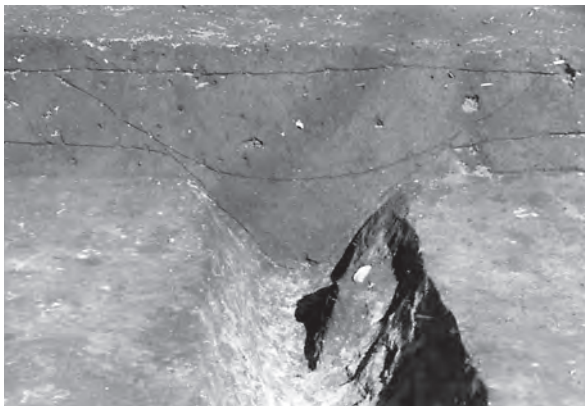
11区 SI-1 カマド完掘(南から)



11区 SD-2・SK-4 完掘(南から)



11区 SD-2 須恵器出土状況(東から)



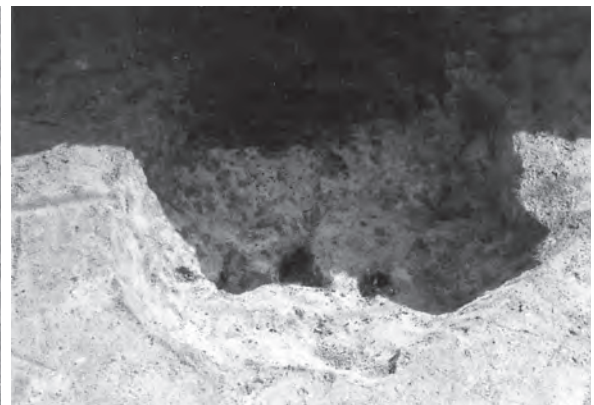
11区 SD-2 セクション(南から)



11区 SD-3 完掘(東から)



11区 SK-5 完掘(南西から)



11区 SK-6 完掘(西から)

図版五四
12区遺構



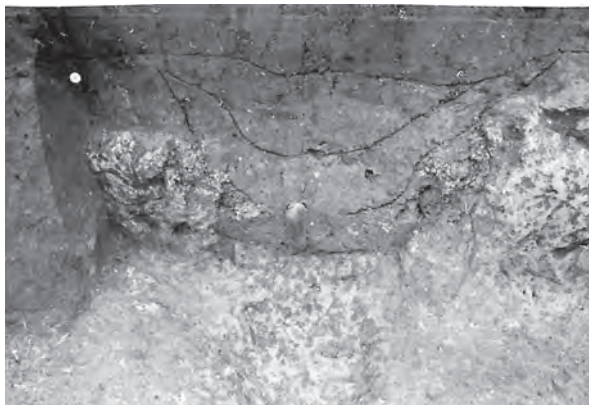
12区 SI-1 遺物出土状況(西から)



12区 SI-1 完掘(南から)



12区 SI-1 東カマド遺物出土状況(西から)



12区 SI-1 東カマド遺物出土状況(西から)



12区 SI-1 東カマドセクション(東から)



12区 SI-1 北カマド完掘(南から)



12区 SI-1 北西部坏出土状況(南から)



12区 SI-1 掘方(南から)



12区 SI-2 遺物出土状況(南から)



12区 SI-2 カマド完掘(南から)



12区 SI-2 甕出土状況(南から)



12区 SI-2 鎌出土状況(西から)



12区 SI-2 掘方(南から)



12区 SI-3 完掘(西から)



12区 SI-3 カマド完掘(南から)

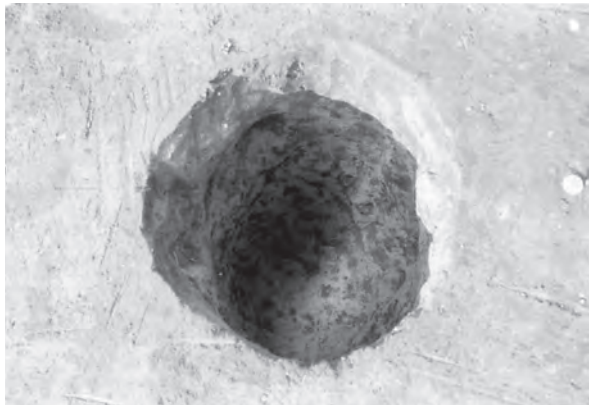


12区 SI-3 掘方(南から)

図版五六
12区遺構



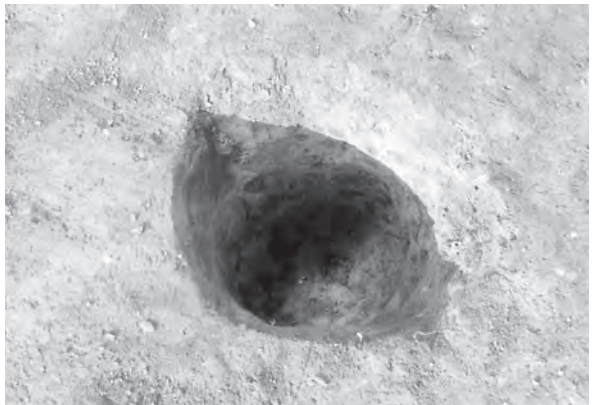
12区SB-6 完掘(南から)



12区SB-6 P1完掘(南から)



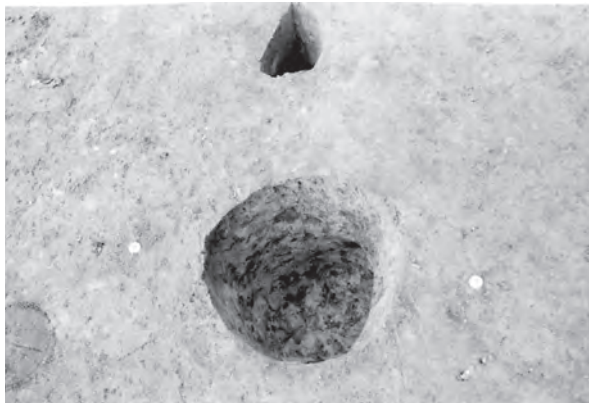
12区SB-7 完掘(南から)



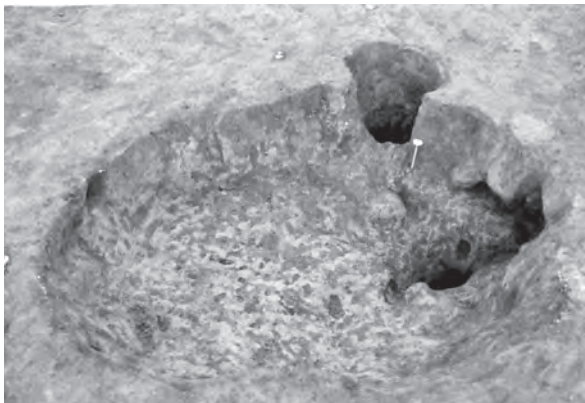
12区SB-7 P1完掘(南から)



12区SB-9 完掘(南から)



12区SB-9 P3完掘(南から)



12区SK-8 完掘(南から)



12区SK-11 完掘(南から)



13区北半部航空写真（南東上空から）



13区南半部航空写真（南上空から）

図版五八
13区遺構



13区 SI-1 完掘 (南から)



13区 SI-1 遺物出土状況 (南から)



13区 SI-1 カマド完掘状況 (南から)



13区 SI-2 遺物出土状況 (南から)



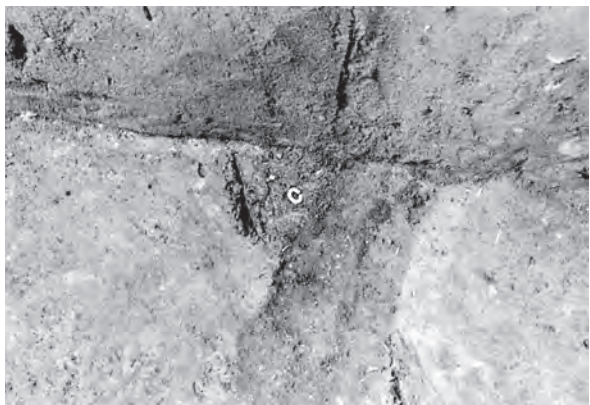
13区 SI-2 完掘 (南から)



13区 SI-2 掘方 (南から)



13区 SI-2 カマドセクション (東から)



13区 SI-2 耳環出土状況 (南から)



13区 SI-12 完掘 (南から)



13区 SI-12 カマド完掘 (南から)



13区 SI-12 カマド遺物出土状況 (南から)



13区 SI-26 遺物出土状況 (南から)



13区 SI-26 完掘 (南から)



13区 SI-26 カマド完掘状況 (南から)



13区 SI-29 遺物出土状況 (東から)



13区 SI-29 完掘 (南から)

図版六〇
13区遺構



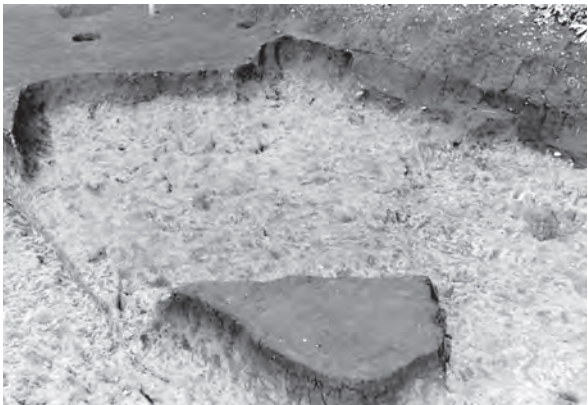
13区 SI-29 カマド遺物出土状況 (南から)



13区 SI-36 遺物出土状況 (南から)



13区 SI-36 カマド遺物出土状況 (南から)



13区 SI-36 掘方 (南西から)



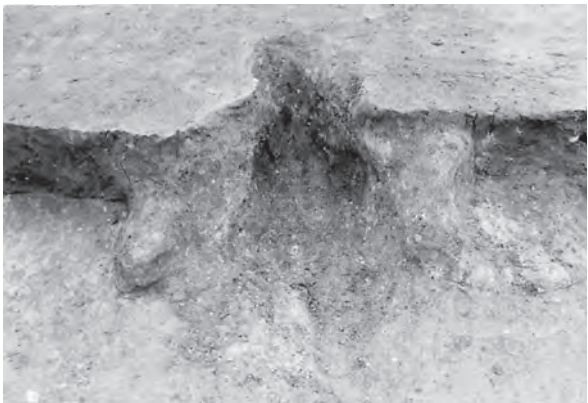
13区 SI-37 遺物出土状況 (西から)



13区 SI-37 掘方 (南から)



13区 SI-37 東カマド完掘 (西から)



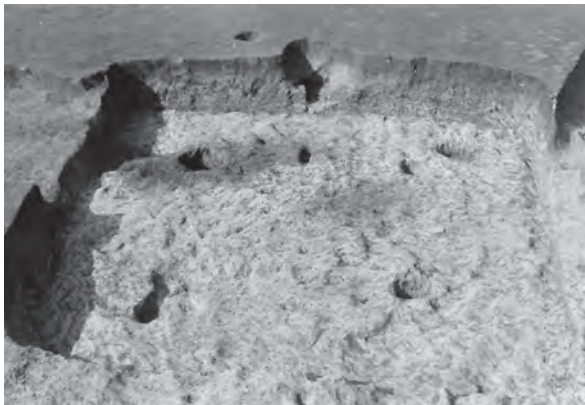
13区 SI-37 北カマド完掘 (南から)



13区 SI-37 北カマド掘方(南から)



13区 SI-38 完掘(南から)



13区 SI-38 掘方(南から)



13区 SI-38 カマド袖断ち割り状況(南から)



13区 SI-39 遺物出土状況(南から)



13区 SI-39 完掘(南西から)

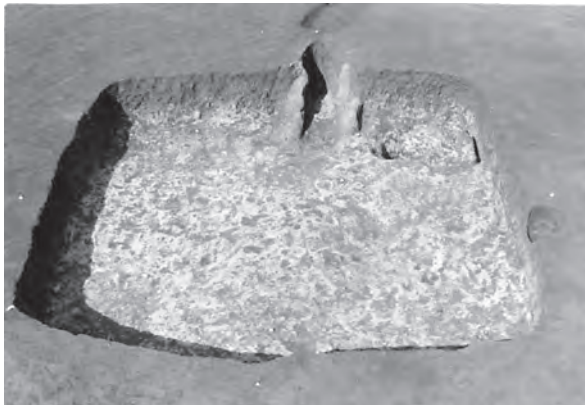


13区 SI-40 遺物出土状況(南西から)



13区 SI-40 遺物出土状況アップ(南から)

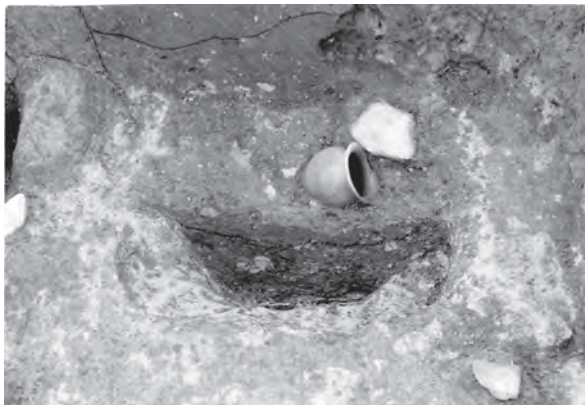
図版六二
13区遺構



13区 SI-52 完掘(南から)



13区 SI-52 カマド完掘(南から)



13区 SI-52 貯蔵穴遺物出土状況(南から)



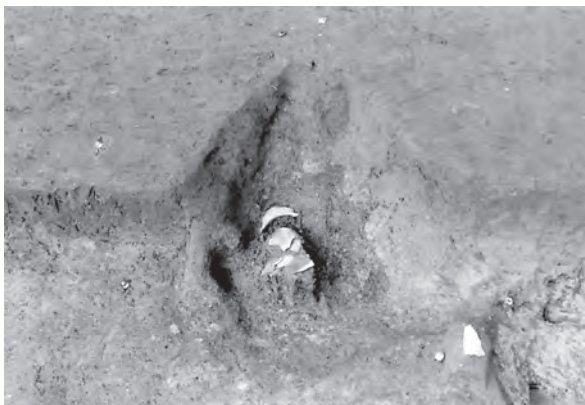
13区 SI-56 遺物出土状況(南から)



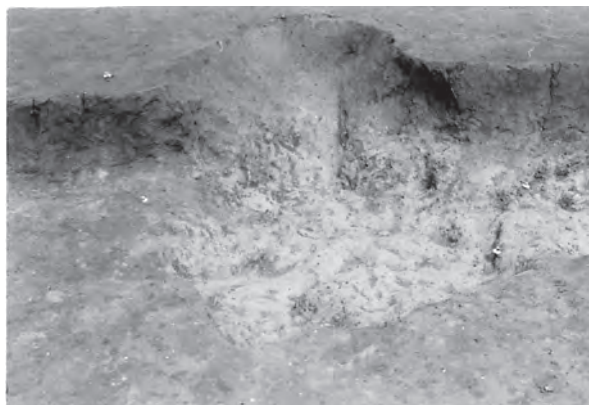
13区 SI-56 カマド完掘(南から)



13区 SI-57 セクション(南から)



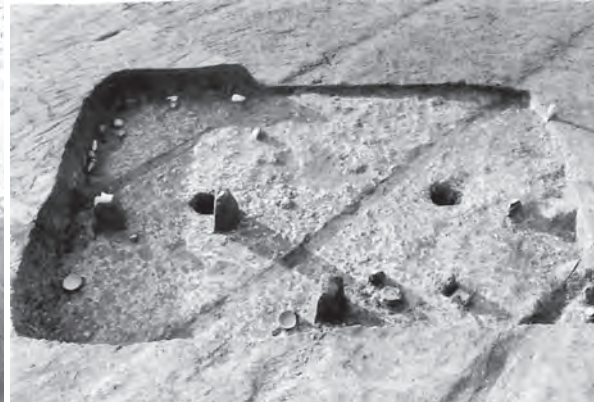
13区 SI-57 カマド遺物出土状況(南から)



13区 SI-57 カマド掘方(南から)



13区 SI-62・SK-61 完掘 (南から)



13区 SI-89 完掘遺物出土状況 (東から)



13区 SI-89 完掘 (南から)



13区 SI-89 カマド完掘 (南から)



13区 SI-89 東部遺物出土状況 (西から)



13区 SI-90 完掘 (東から)

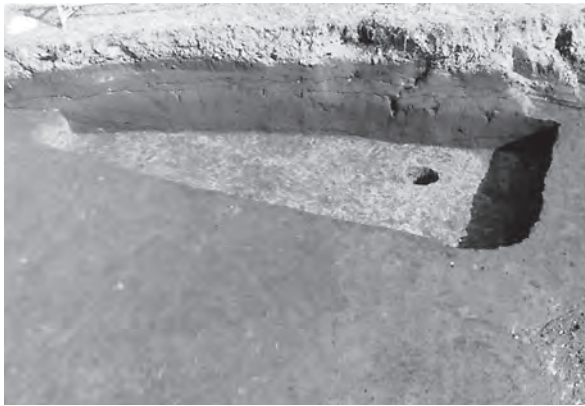


13区 SI-91 完掘 (西から)



13区 SI-91 掘方 (西から)

図版六四
13区遺構



13区 SI-92 完掘 (西から)



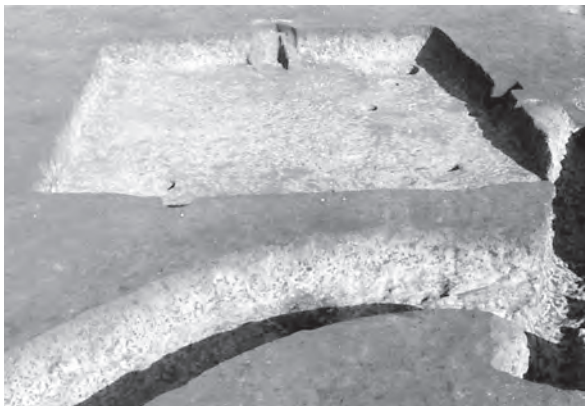
13区 SI-96 遺物出土状況 (南から)



13区 SI-96 カマド完掘 (西から)



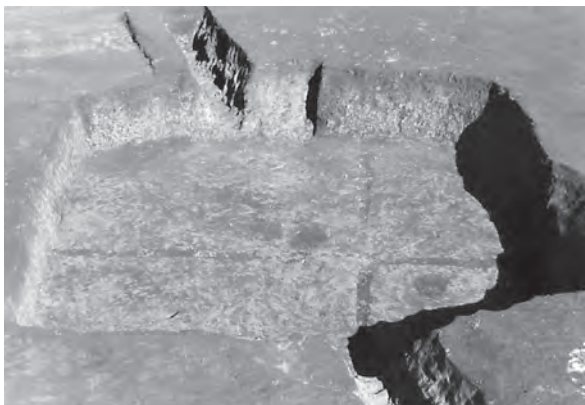
13区 SI-97 遺物出土状況 (南から)



13区 SI-97 完掘 (南から)



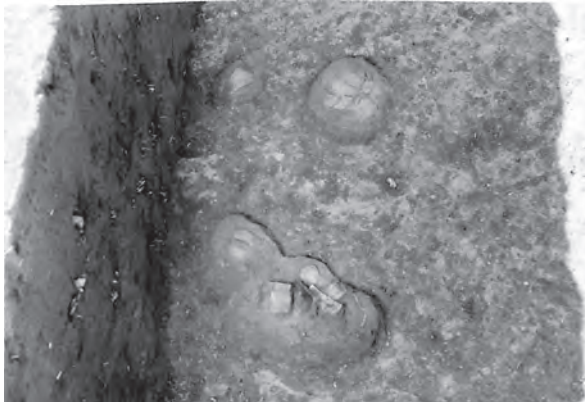
13区 SI-97 カマド遺物出土状況 (南から)



13区 SI-100 完掘 (南から)



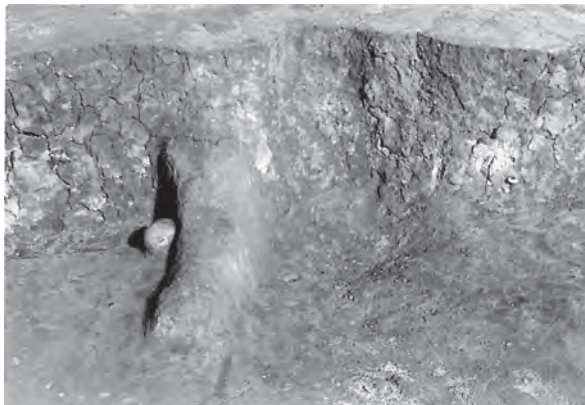
13区 SI-100 掘方 (東から)



13区 SI-100 遺物出土状況(北から)



13区 SI-101 完掘(南から)



13区 SI-101 カマド完掘(南から)



13区 SI-101 掘方(南から)



13区 SI-102 遺物出土状況(東から)



13区 SI-102 完掘(南から)

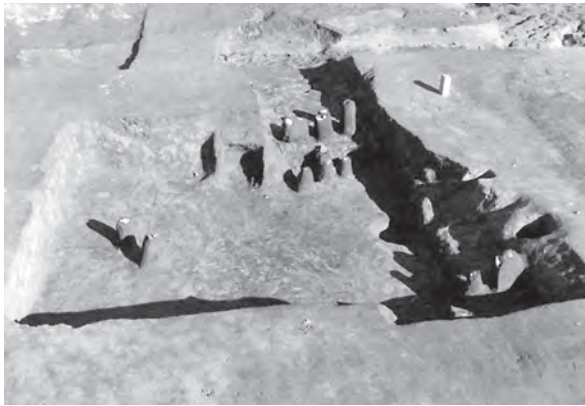


13区 SI-105 完掘(南から)

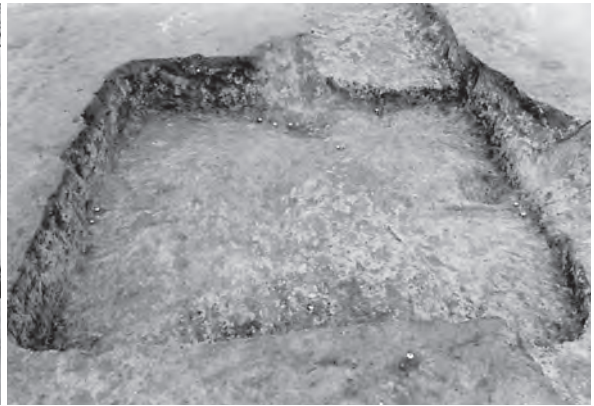


13区 SI-105 カマド遺物出土状況(南から)

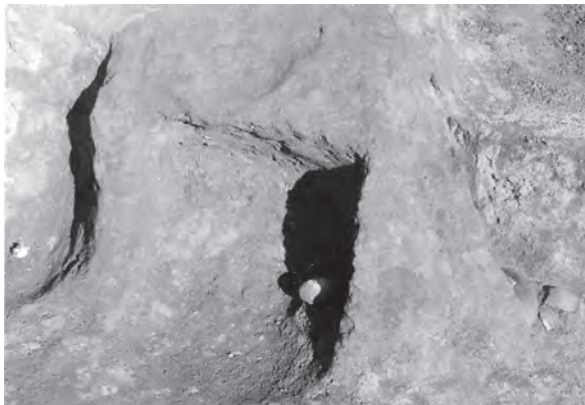
図版六六
13区遺構



13区 SI-110 遺物出土状況(南から)



13区 SI-110 完掘(南から)



13区 SI-110 カマド完掘(南から)



13区 SI-115 遺物出土状況(南から)



13区 SI-115 掘方(南から)



13区 SI-116 遺物出土状況(南から)



13区 SI-117 完掘(南から)



13区 SI-117 遺物出土状況(南から)



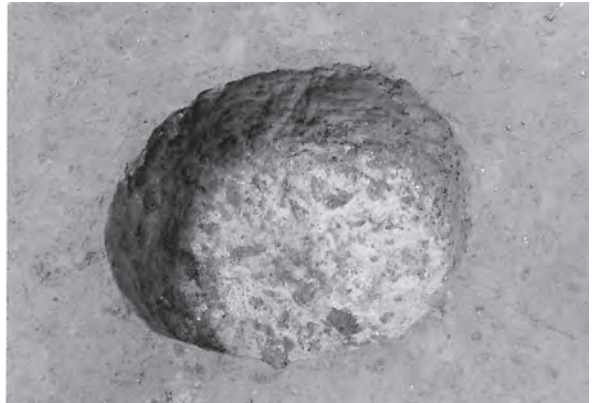
13区 SI-117 カマド遺物出土状況(南から)



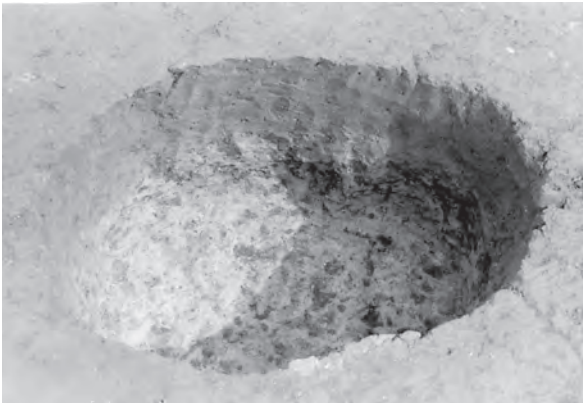
13区 SI-118 遺物出土状況(東から)



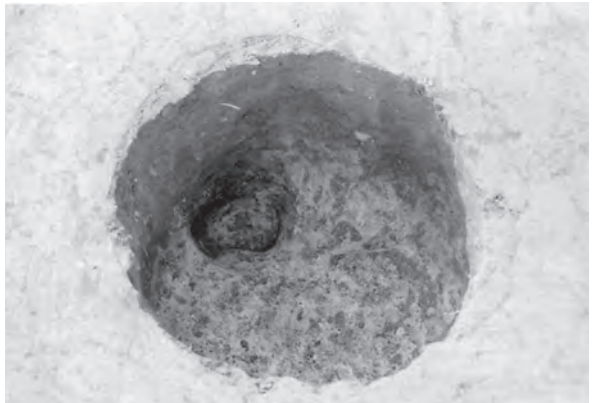
13区 SB-17 完掘(西から)



13区 SB-17 P3 完掘(東から)



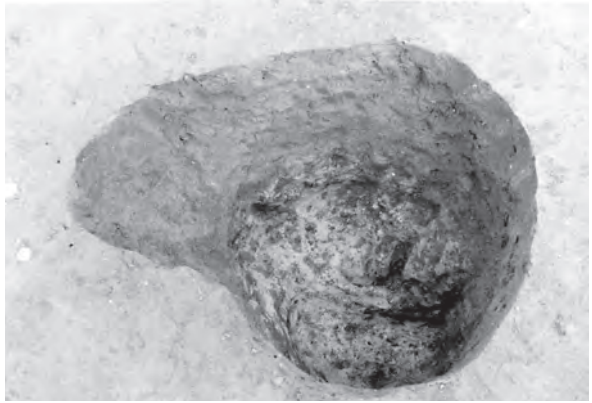
13区 SB-17 P6 完掘(南から)



13区 SB-17 P10 完掘(東から)

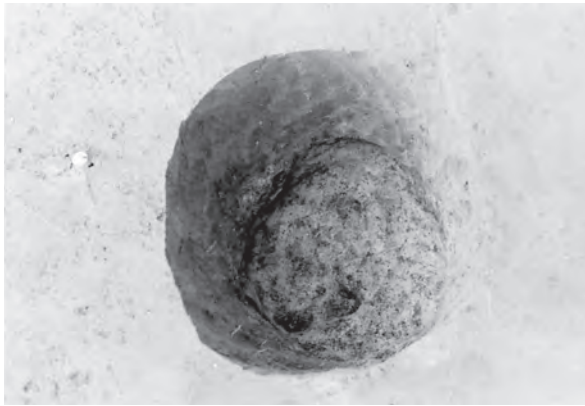


13区 SB-17・18 完掘(西から)

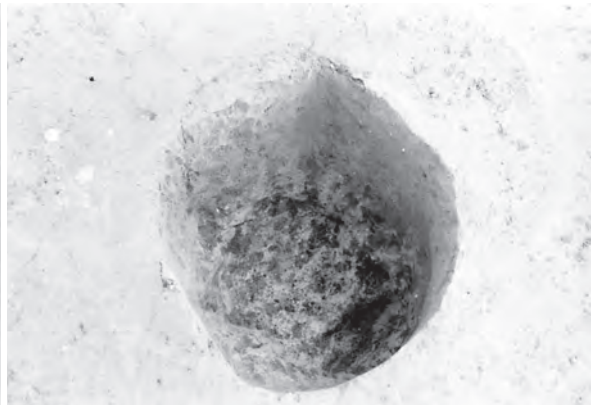


13区 SB-18 P1 完掘(南から)

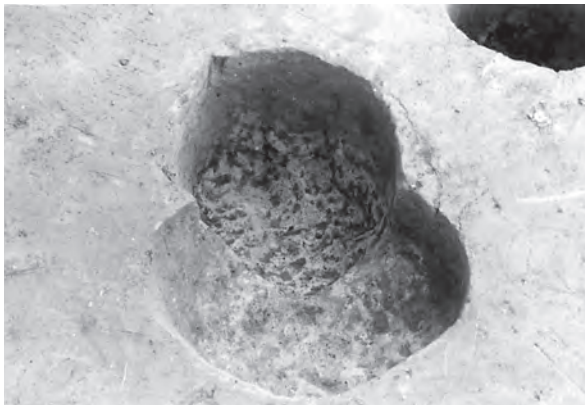
図版六八
13区遺構



13区 SB-18 P2 完掘 (南から)



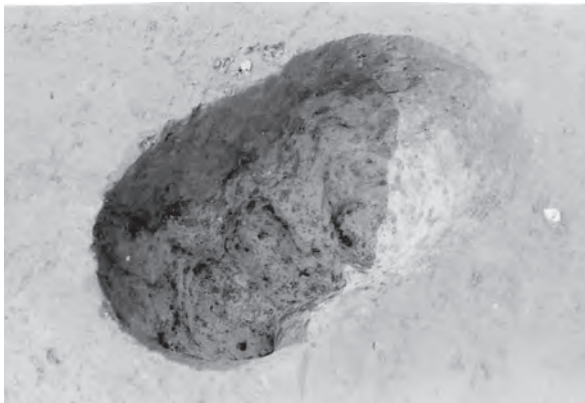
13区 SB-18 P3 完掘 (南から)



13区 SB-18 P8 完掘 (西から)



13区 SB-44 完掘 (西から)



13区 SB-44 P4 完掘 (南から)



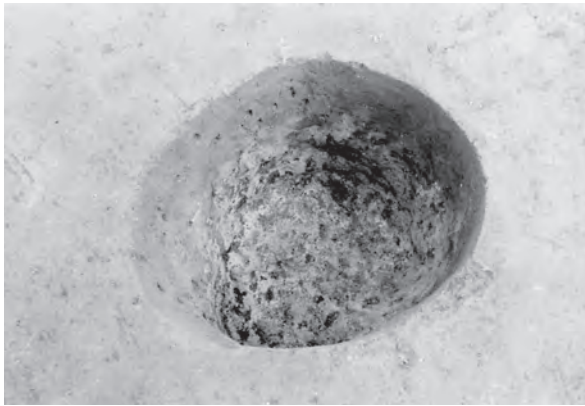
13区 SB-66 完掘 (西から)



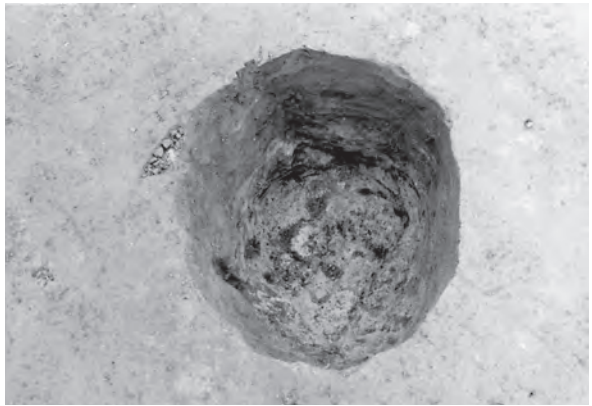
13区 SB-66 P1 完掘 (南から)



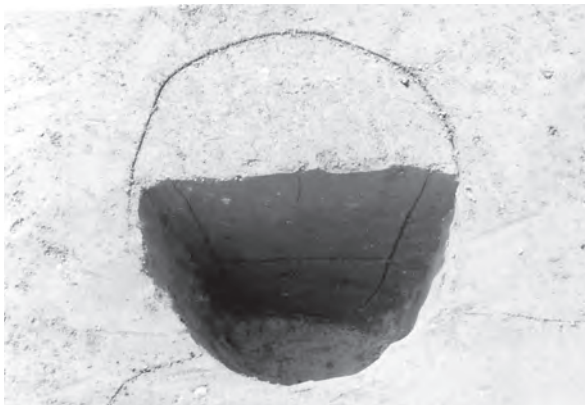
13区 SB-67 完掘 (西から)



13区SB-67 P4完掘(西から)



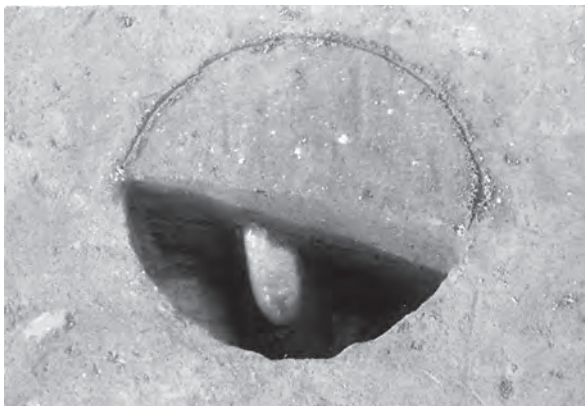
13区SB-67 P5完掘(西から)



13区SB-67 P6セクション



13区SB-82 完掘(西から)



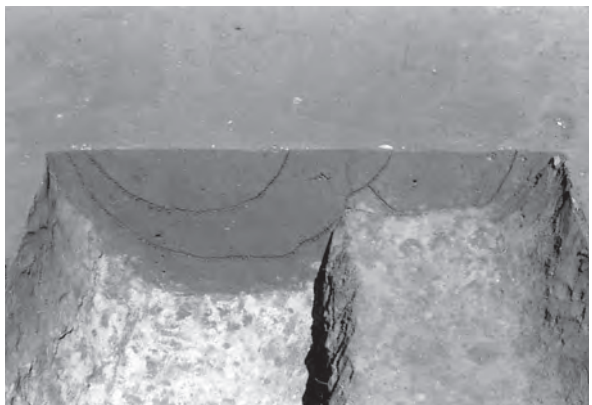
13区SB-82 遺物出土状況



13区SX-16 完掘(南から)



13区SX-20 完掘(南から)

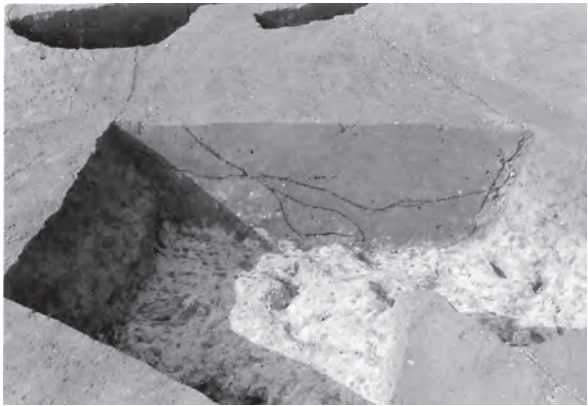


13区SX-20・21 セクション(南から)

図版七〇
13区遺構



13区 SX-21 完掘(南から)



13区 SX-21・22 セクション(南から)



13区 SX-21・22 底面の状況(南から)



13区 SX-22 完掘(南から)



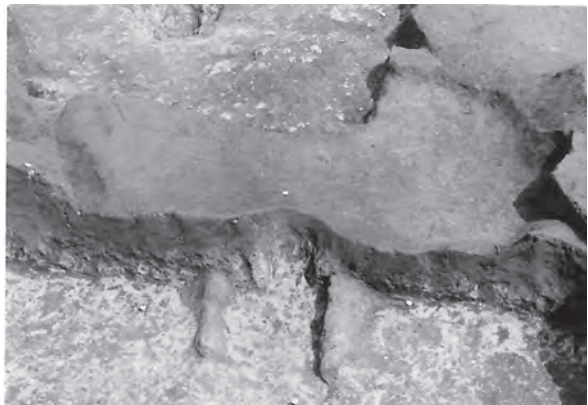
13区 SX-25 完掘(東から)



13区 SX-28・34 完掘(南から)



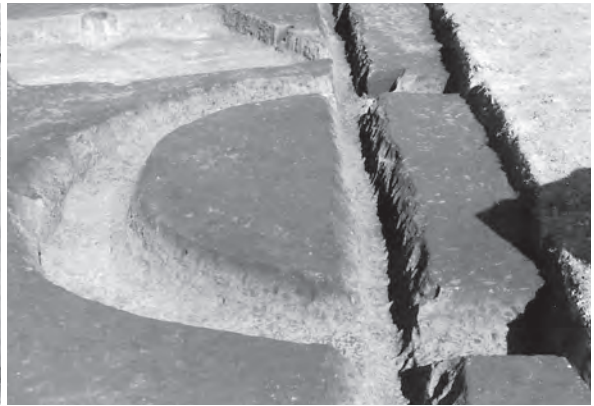
13区 SX-34 遺物出土状況(南から)



13区 SX-35 完掘(南から)



13区SX-47 完掘(南から)



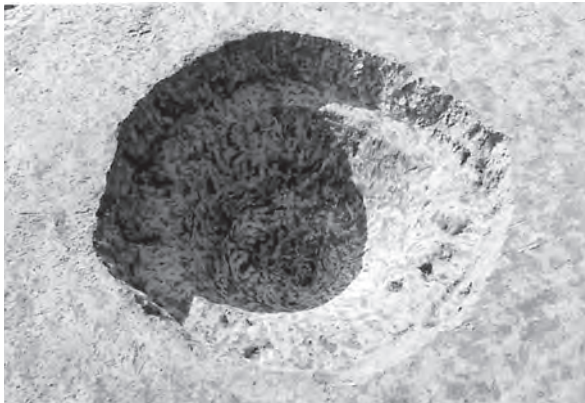
13区SX-98 西半部完掘(南から)



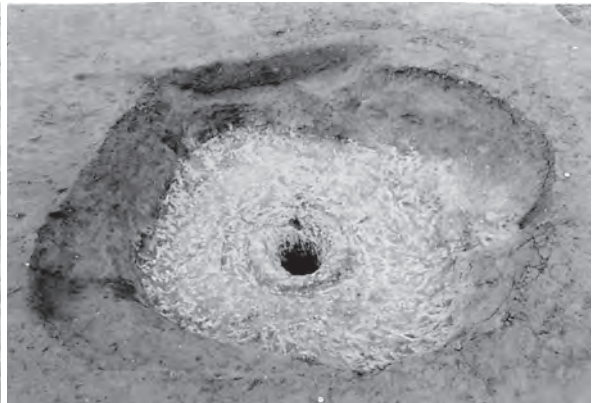
13区SX-98 東半部完掘(東から)



13区SX-98 セクション(南西から)



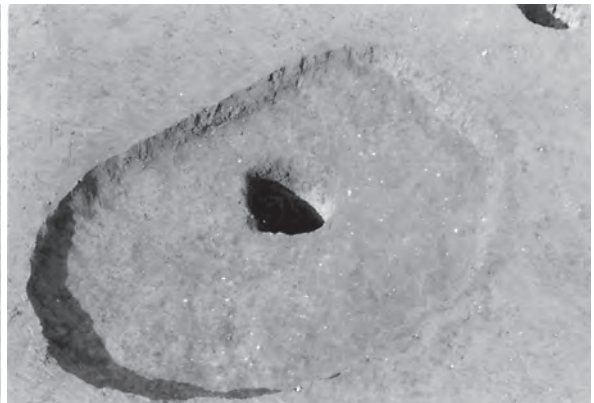
13区SX-94 完掘(東から)



13区SE-11 完掘(東から)

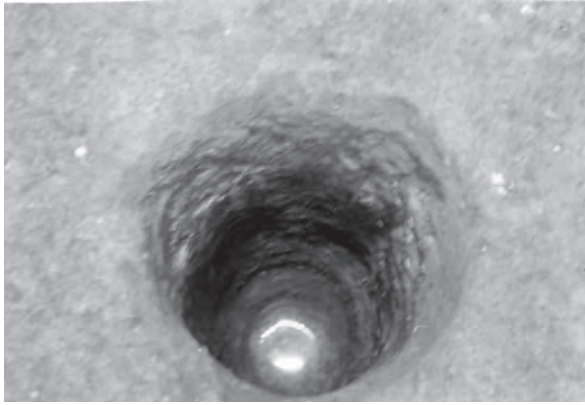


13区SE-11 セクション(南から)



13区SE-81 全体完掘(南から)

図版七二
13区遺構



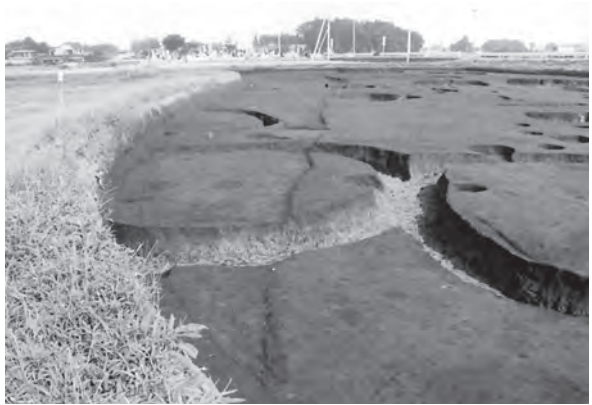
13区 SE-81 中央部完掘 (南から)



13区 SE-93 セクション (南から)



13区 SE-93 完掘 (南東から)



13区 SD-6 完掘 (南から)



13区 SD-6 セクション (南から)



13区 SD-23 完掘 (南から)



13区 SD-49 完掘 (東から)



13区 SD-53 完掘 (東から)



13区 SD-80 完掘（東から）



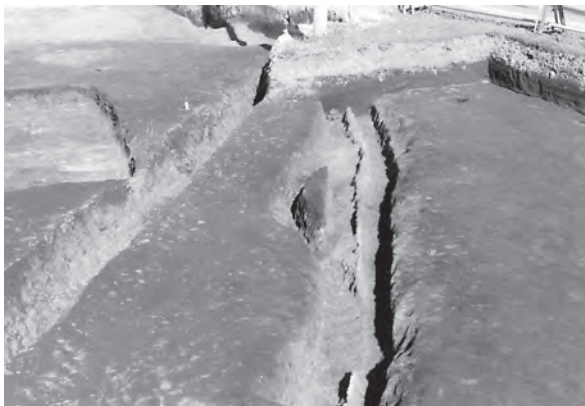
13区 SD-95 完掘（南から）



13区 SD-99 完掘（西から）



13区 SD-103 完掘（南から）



13区 SD-108 完掘（南から）



13区 SD-111 完掘（南から）

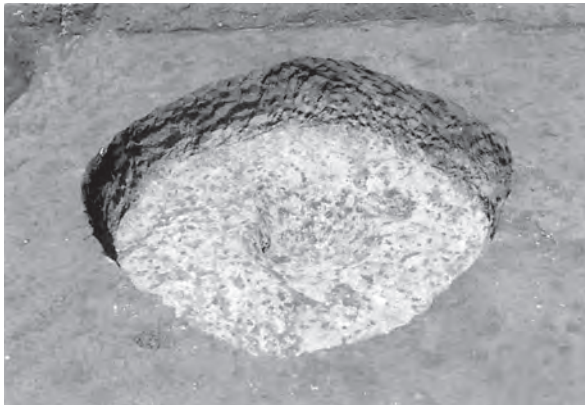


13区 SD-113 完掘（西から）

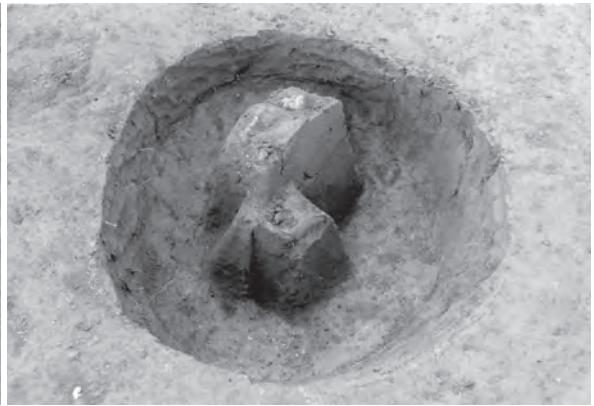


13区 SD-119・120 完掘（南から）

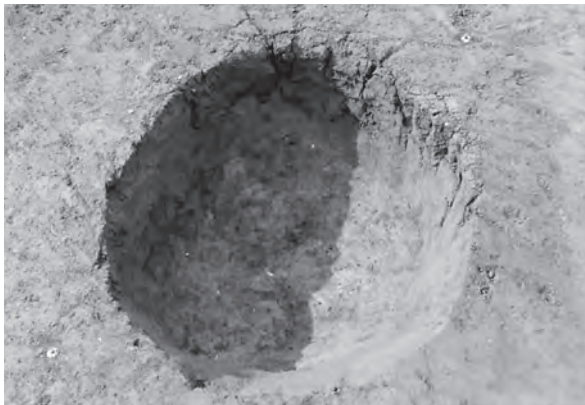
図版七四
13区遺構



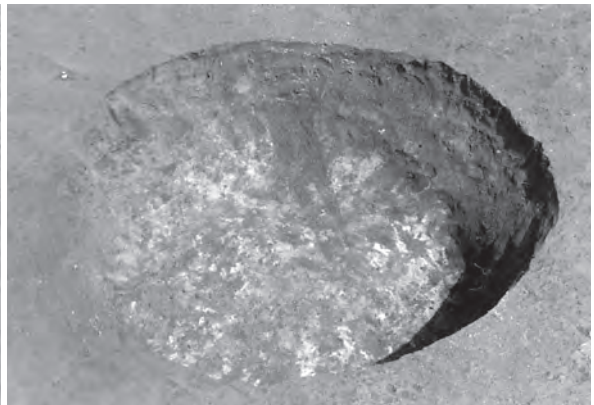
13区 SK-3 完掘 (南から)



13区 SK-9 遺物出土状況 (南から)



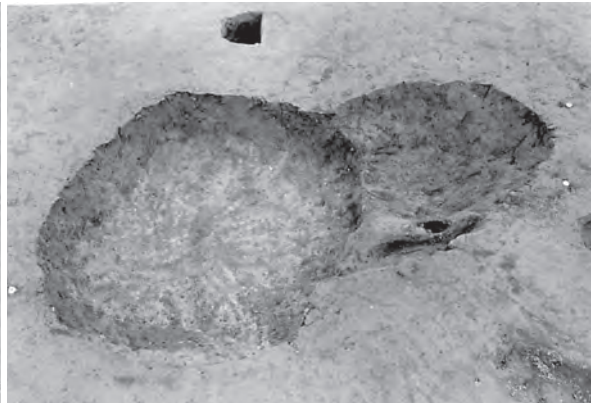
13区 SK-9 完掘 (南から)



13区 SK-10 完掘 (南から)



13区 SK-45・46 完掘 (東から)



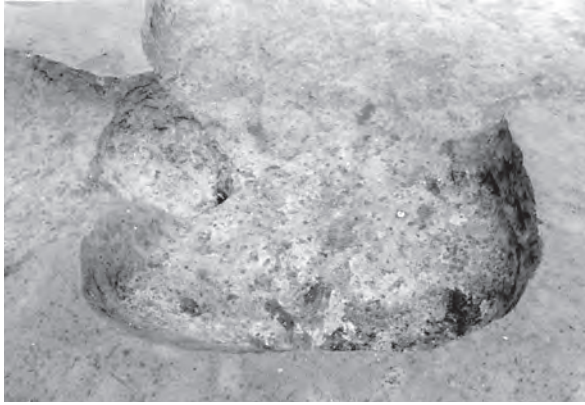
13区 SK-50・51 完掘 (東から)



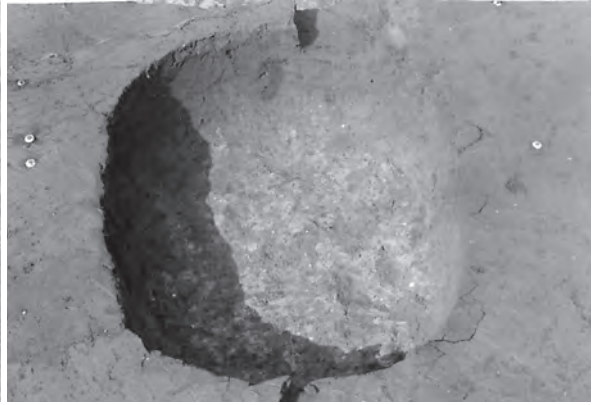
13区 SK-54 完掘 (東から)



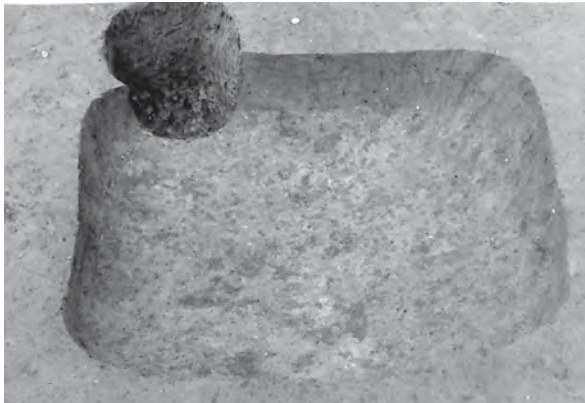
13区 SK-55 完掘 (南東から)



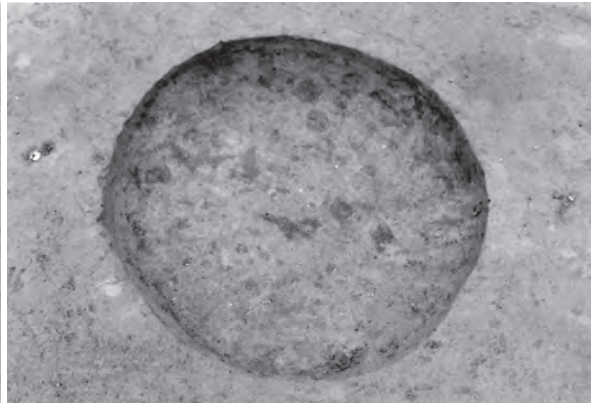
13区 SK-58・P-65 完掘(南から)



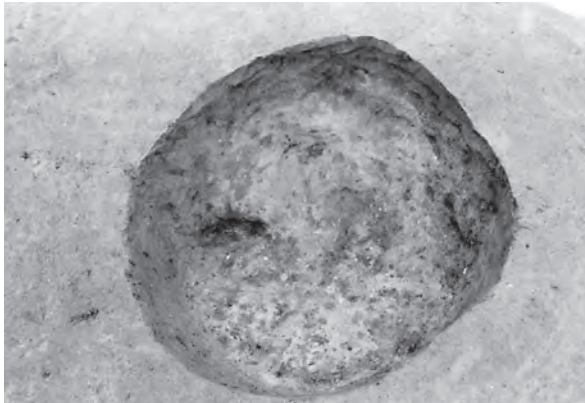
13区 SK-71 完掘(東から)



13区 SK-73 完掘(東から)



13区 SK-86 完掘(南から)



13区 SK-88 完掘(南から)



13区 SK-107 完掘(南から)

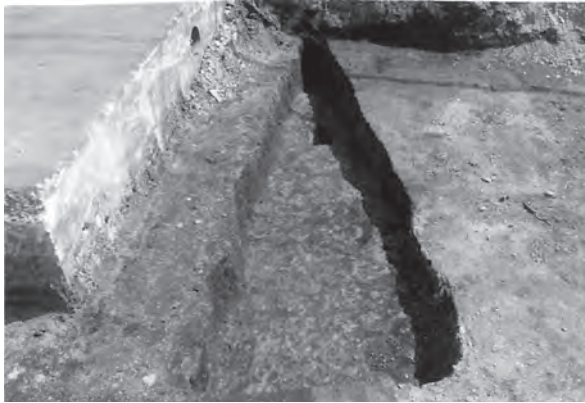


13区 SK-112 完掘(南から)



13区調査区全景(南から)

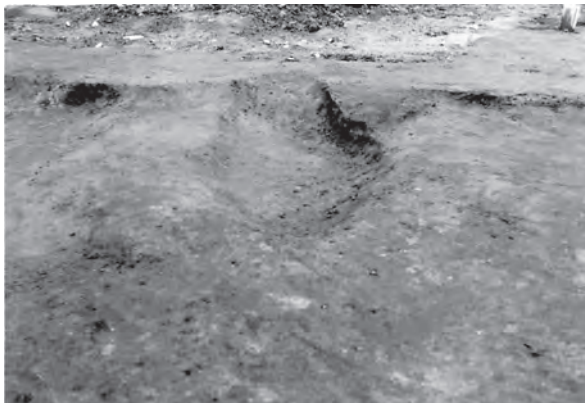
図版七六
14区遺構



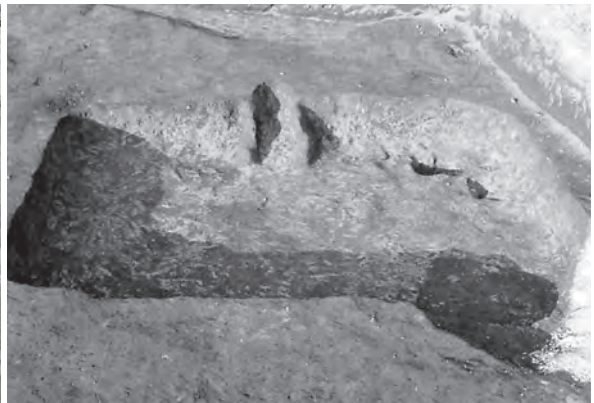
14区 SI-1 完掘(西から)



14区 SI-2 完掘(東から)



14区 SI-2 カマド完掘(南から)



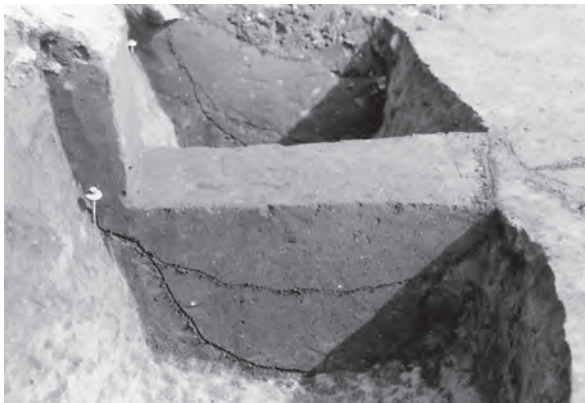
14区 SI-8 完掘(南から)



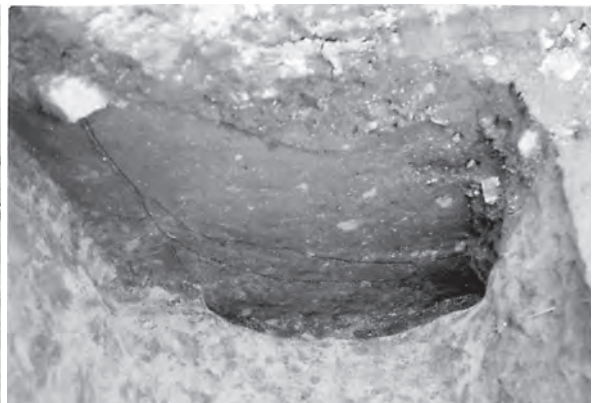
14区 SI-8 カマド遺物出土状況(南から)



14区 SX-3 完掘(東から)



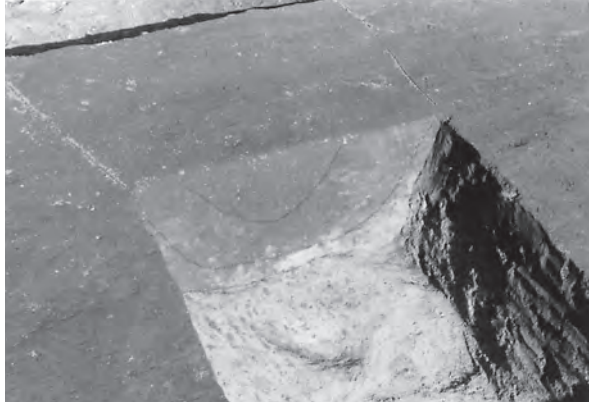
14区 SX-3 南セクション(南から)



14区 SX-3 北セクション(南から)



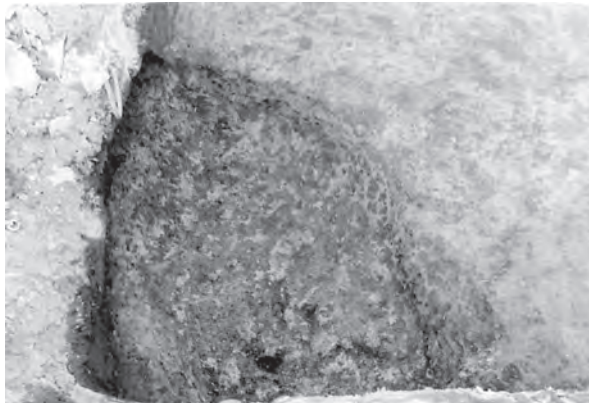
14区SX-9 完掘(南から)



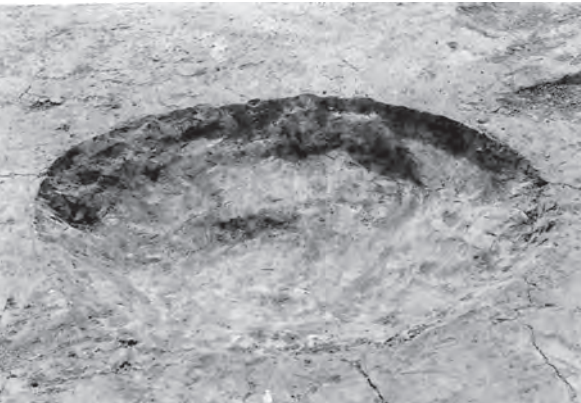
14区SX-9 B-B' セクション(南から)



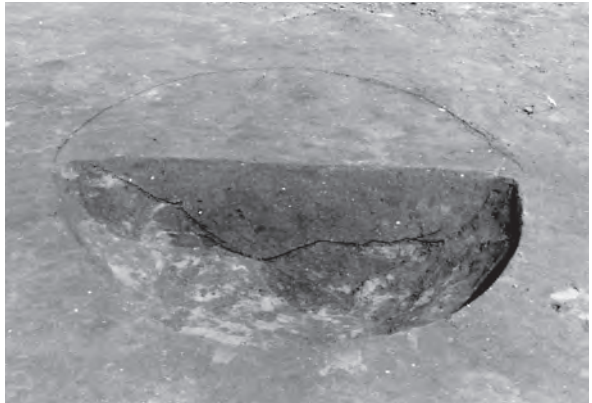
14区SD-12 完掘(南東から)



14区SK-4 完掘(南から)



14区SK-6 完掘(南から)



14区SK-5 セクション(南から)



14区SK-11 完掘(南から)



14区SK-13 セクション(南から)

图版七八
西刑部西原遺跡3区



3区 SI- 1 - 5



3区 SI- 1 - 9



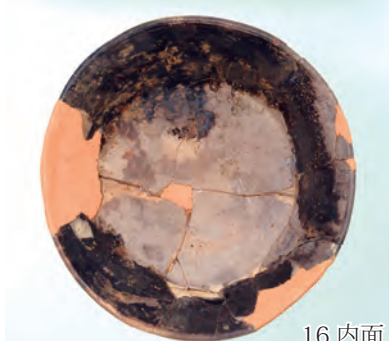
9内面



3区 SI- 1 - 12



3区 SI- 1 - 14



16内面



3区 SI- 1 - 16



3区 SI- 1 - 21



3区 SI- 1 - 22



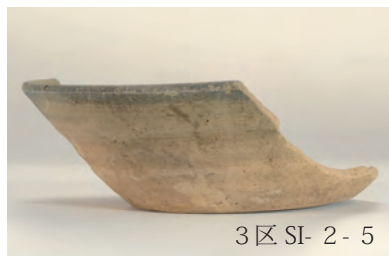
3区 SI- 1 - 23



3区 SI- 1 - 25



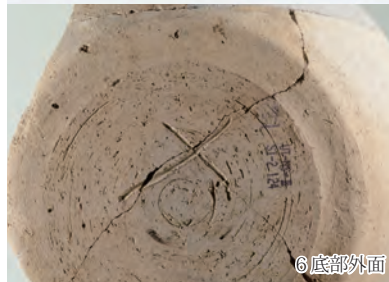
3区 SI- 1 - 32



3区 SI- 2 - 5



3区 SI- 2 - 6



6底部外面



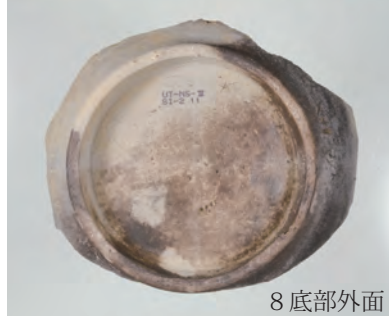
3区 SI- 2 - 7



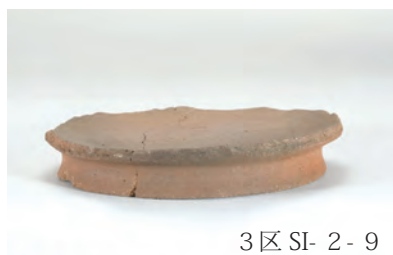
7底部



3区 SI- 2 - 8



8底部外面



3区 SI- 2- 9



3区 SI- 2-20



3区 SI- 2-36



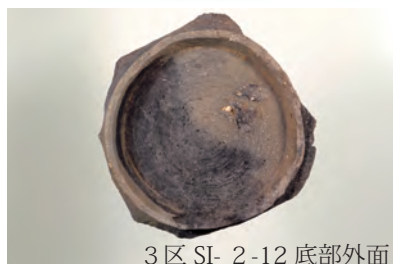
3区 SI- 2-11



3区 SI- 2-22



36 線刻アップ



3区 SI- 2-12 底部外面



3区 SI- 3- 1



3区 SI- 2-13



3区 SI- 2-25



3区 SI- 3- 2



3区 SI- 2-14 内面



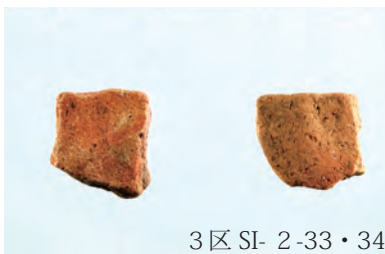
3区 SI- 2-31・32



3区 SI- 3- 6



3区 SI- 2-18



3区 SI- 2-33・34



3区 SI- 3- 8



3区 SI- 2-19



3区 SI- 2-35



8 底部外面

図版八〇 西刑部西原遺跡3区



3区SI-3-12



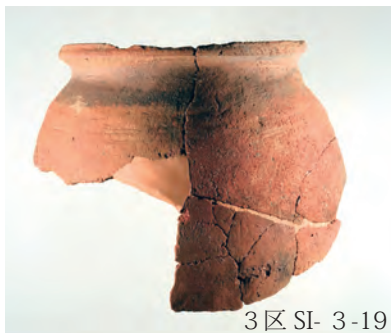
16内面



3区SI-3-16



3区SI-3-18



3区SI-3-19



3区SI-3-20



3区SI-3-21



3区SI-3-22



3区SI-3-27



3区SI-4-2底部内面



3区SI-4-3



3区SI-4-4



3区SI-4-14



3区SI-5-3



3区SI-5-5



5ヘラ記号



3区SI-5-6



3区SI-5-7



3区 SI- 5- 8



3区 SI- 6- 8



3区 SI- 7- 9



3区 SI- 5- 11



3区 SI- 8- 1



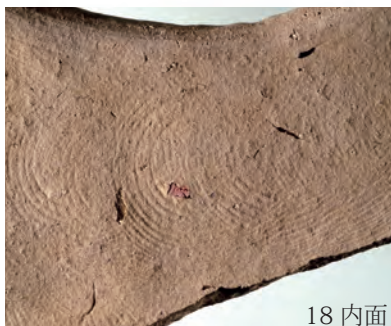
3区 SI- 5- 18



3区 SI- 6- 14



3区 SI- 8- 3



18 内面



3区 SI- 7- 7



3区 SI- 8- 4



3区 SI- 5- 20



8 内面



3区 SI- 8- 6



3区 SI- 5- 24



3区 SI- 7- 8



3区 SI- 8- 8

図版八二 西刑部西原遺跡3区





3区 SI-11-19

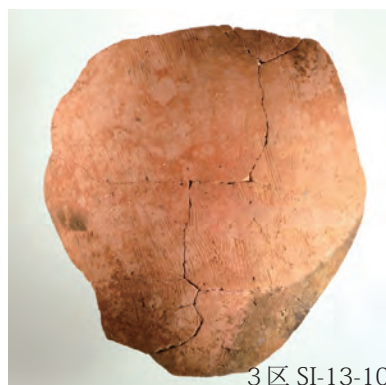
表面



裏面



3区 SI-11-34・35



3区 SI-13-10



3区 SI-11-22



3区 SI-13- 3



3区 SI-14- 3



3区 SI-14- 4



3区 SI-11-29



3区 SI-13- 4

表面



3区 SI-13- 6



3区 SI-14- 6

裏面



3区 SI-13- 7



3区 SI-16- 1

3区 SI-11-32・33



3区 SI-12- 1



3区 SI-13- 8



3区 SI-16- 2

图版八四
西刑部西原遺跡3区



3区 SI-16- 3



3区 SI-18- 6



3区 SI-31- 1



3区 SI-16- 4



3区 SI-24- 1



3区 SI-31- 3



3区 SI-18- 1



3区 SI-31- 5



3区 SI-18- 3



3区 SI-30- 2



3区 SI-32- 1



3区 SI-18- 4



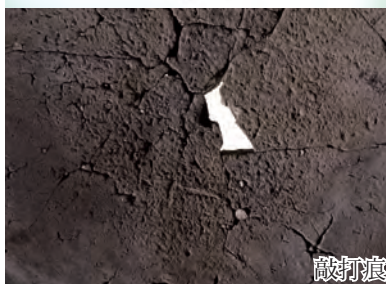
3区 SI-30- 4



3区 SI-32- 2



3区 SI-18- 5



3区 SI-36- 1



3区 SI-36- 2



3区 SI-36- 3



3区 SI-36- 4



3区 SI-36- 5



3区 SI-36- 6



3区 SI-36- 9



3区 SI-36-10



3区 SI-36-22



3区 SI-36-11



3区 SI-36-12



3区 SI-36-13



3区 SI-36-23



3区 SI-36-14



3区 SI-36-15



3区 SI-36-24



3区 SI-38- 1

図版八六 西刑部西原遺跡3区





3区 SI-47- 5



3区 SI-50- 1



上面



3区 SI-52-16



3区 SI-50- 3



3区 SI-47- 6



3区 SI-51- 1



3区 SI-53- 1



3区 SI-51- 2



3区 SI-53- 7



3区 SI-47- 8



3区 SI-51- 3



3区 SI-53- 8



3区 SI-47-10



3区 SI-51- 5

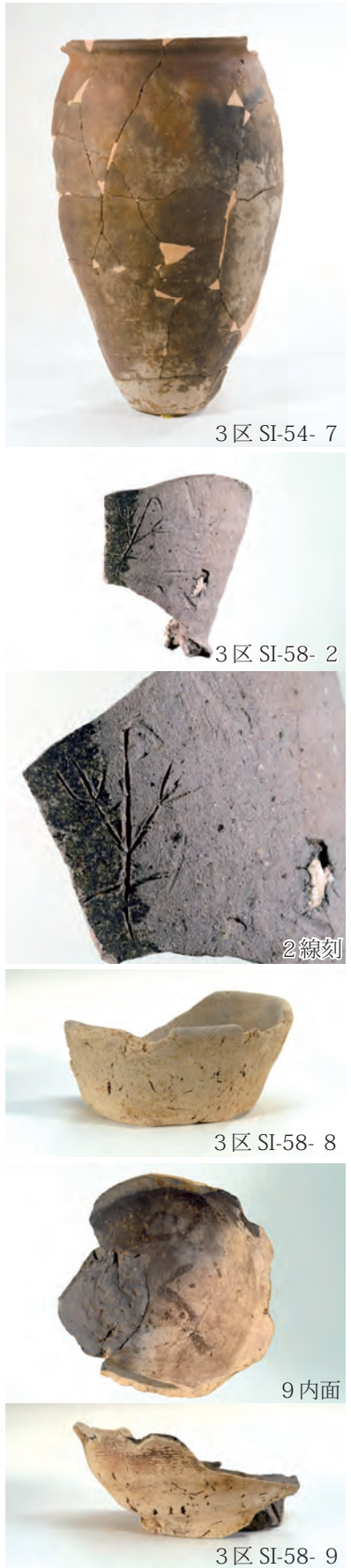


3区 SI-53-11

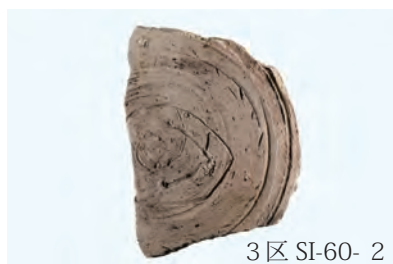


3区 SI-53-12

図版八八 西刑部西原遺跡3区



図版八九 西刑部西原遺跡3区



3区 SI-60- 2



3区 SI-61- 1



底部外面



3区 SI-61- 3



3区 SI-61- 5



3区 SI-61- 8



3区 SI-61-10



3区 SI-61-11



3区 SI-61-14



3区 SI-71- 1



3区 SI-74- 2



3区 SI-74- 4



3区 SI-74- 5



3区 SI-74- 6



7内面



3区 SI-74- 7



3区 SI-74- 8



3区 SI-74- 9

図版九〇 西刑部西原遺跡3区



3区 SI-74-10



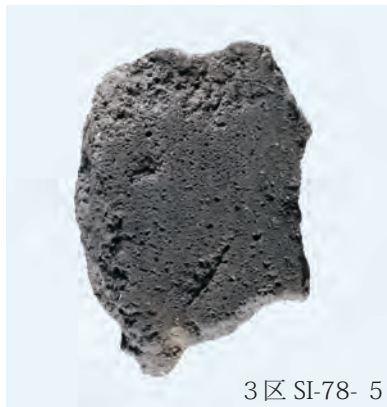
3区 SI-77- 5



3区 SI-84- 1



3区 SI-74-12



3区 SI-78- 5



3区 SI-84- 2



3区 SI-84- 5



3区 SI-74-18・19



3区 SI-81- 1



3区 SI-84- 6



3区 SI-77- 2



3区 SI-81- 3



7内面



3区 SI-77- 3



3区 SI-84- 7



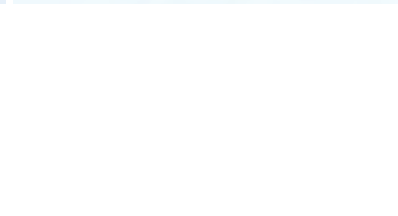
3区 SI-77- 4



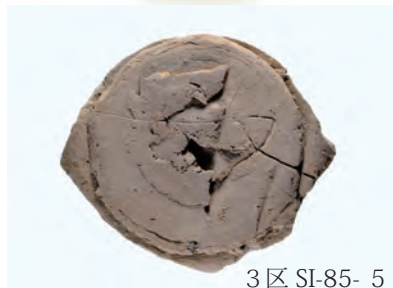
3区 SI-82- 1



3区 SI-85- 4



4底部外面



3区 SI-85- 5



3区 SI-85-11



11 縄圧痕



3区 SI-85-19



3区 SI-85-27



3区 SI-85- 8



3区 SI-85-14



3区 SI-86- 5



8 底部外面



3区 SI-85-15



3区 SI-86- 6



8 刻書



3区 SI-85-16



3区 SI-86- 7 底部外面



3区 SI-85-10



3区 SI-85-18



3区 SI-86- 8



3区 SI-85-13



3区 SI-86- 9

図版九二 西刑部西原遺跡3区



3区 SI-86-12



3区 SI-87-4



3区 SI-87-12



3区 SI-86-14



3区 SI-87-6



上面

側面

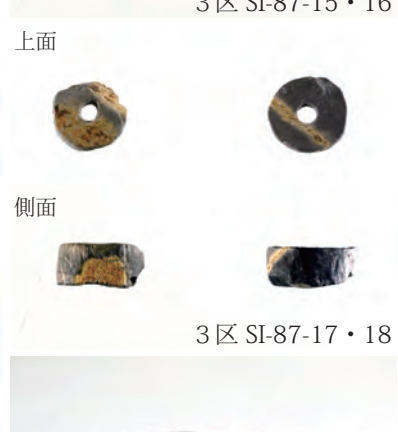
3区 SI-87-15・16



3区 SI-86-15



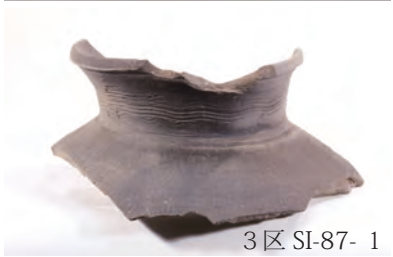
3区 SI-87-7



上面

側面

3区 SI-87-17・18



3区 SI-87-1



3区 SI-87-9



3区 SI-88-1



3区 SI-87-2



3区 SI-87-11



3区 SI-88-2



3区 SI-87-3



3区 SI-88-3



3区 SI-88- 4



7 底部内面



3区 SI-91-18



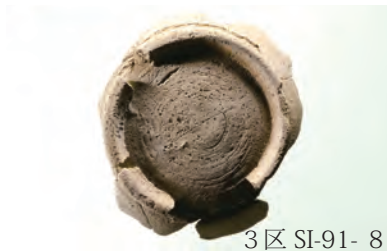
3区 SI-91- 7



3区 SI-91-19



3区 SI-88- 5



3区 SI-91- 8



3区 SI-91-20

下面



3区 SI-88-11



3区 SI-91-14



3区 SI-91-22



3区 SI-88-11



14 上から



3区 SI-90- 4



3区 SI-91-15



3区 SI-91- 1



3区 SI-91-16



3区 SI-91-23

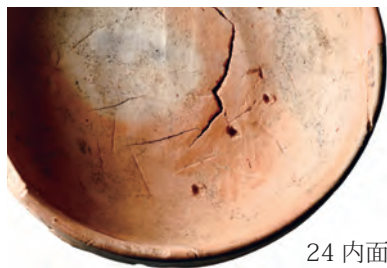
图版九四 西刑部西原遺跡3区



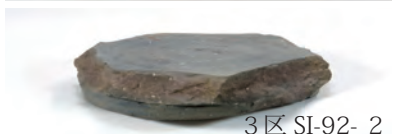
3区 SI-91-24



3区 SX-21-10



24 内面



3区 SI-92- 2



3区 SX-21-13



3区 SX-21-24



2 底部外面



3区 SX-21-14



25 内面



3区 SX-21- 1



3区 SX-21-16



3区 SX-21-25



3区 SX-21- 3



3区 SX-21-18



26 内面



3区 SX-21- 5



3区 SX-21-19



3区 SX-21-26



3区 SX-21- 6



3区 SX-21-21



3区 SX-21-27

図版九五 西刑部西原遺跡3区



3区 SX-21-29



3区 SX-21-30



3区 SX-21-31



3区 SX-21-37



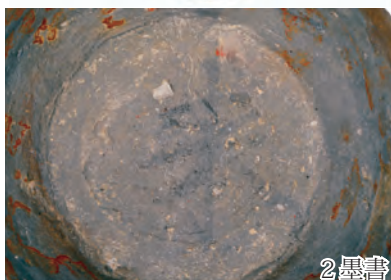
3区 SE-23- 1



3区 SE-23- 2



2 底部外面



2 墨書



3区 SE-23- 3



3 底部外面



3区 SE-23- 4



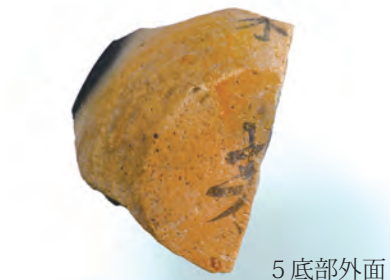
4 底部外面



4 墨書



3区 SE-23- 5



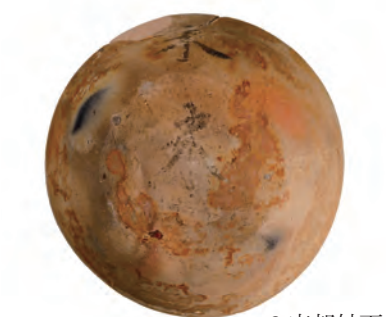
5 底部外面



6 内面



3区 SE-23- 6



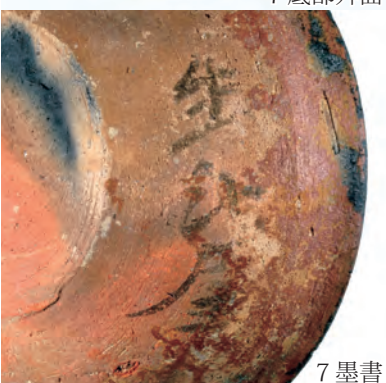
6 底部外面



3区 SE-23- 7



7 底部外面



7 墨書

図版九六 西刑部西原遺跡3区



表面



裏面



3区 SE-23-14

表面



裏面



3区 SE-23-14-2

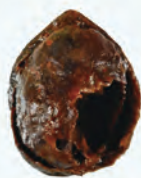
表面



裏面



3区 SE-23-15



3区 SE-23 種子 (クルミ)



3区 SE-75-3

表面



裏面



3区 SE-75-8

図版九八 西刑部西原遺跡3区



3区 SE-76-2



3区 SE-95-1



3区 SE-95-2



3区 SD-57-4



3区 SK-45-4

凹面



3区 SK-45-10

凸面



(凹面)



3区 グリッド-6



3区 グリッド-9



3区 グリッド-16



3区 グリッド-17



3区 グリッド-18



凸面



3区 SK-45-9



凹面

凸面

3区 グリッド-19



3区 グリッド-20



3区 グリッド-21

表面



裏面



3区 グリッド-22

図版九九 西刑部西原遺跡4・5区



4区 SI- 1 - 2



4区 SI- 3 - 2



5区 SI- 4 - 5



4区 SI- 1 - 3



4区 SI- 3 - 3



5 底部の焼合



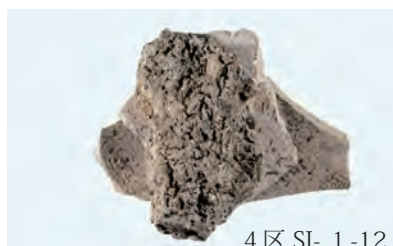
4区 SI- 1 - 5



5区 SI- 1 - 1



5区 SI- 5 - 1



4区 SI- 1 - 12



5区 SI- 1 - 2



5区 SI- 5 - 2



4区 SI- 1 - 14



5区 SI- 1 - 3



2へラ記号



4区 SI- 2 - 2



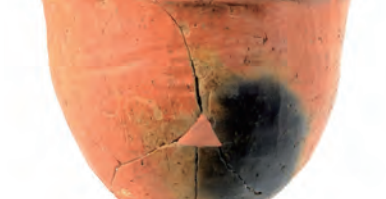
5区 SI- 1 - 4



5区 SI- 5 - 3



4区 SI- 3 - 1



5区 SI- 1 - 6



5区 SI- 5 - 4

図版一〇〇 西刑部西原遺跡5区



5区 SI- 5- 6



5区 SI- 5- 7



5区 SI- 5-11



5区 SI-14- 8



5区 SI- 5- 8



5区 SI-14- 6



5区 SI- 5- 9



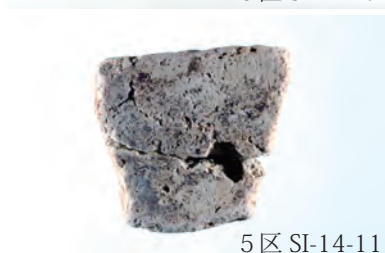
5区 SI-14- 7



5区 SI-14- 9



5区 SI-14- 3



5区 SI-14-11



5区 SI-14-10



7区 SI- 4- 1



7区 SI- 4- 2



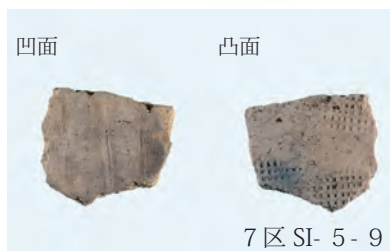
7区 SI- 4- 8



7区 SI- 5- 1



7区 SI- 5- 6



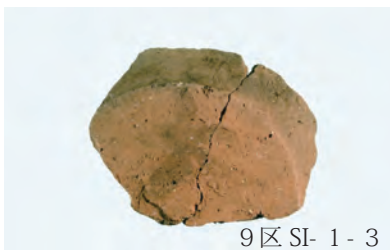
7区 SI- 5- 9



7区 SI- 5- 8



9区 SI- 1- 2



9区 SI- 1- 3



9区 SI- 1- 6



9区 SI- 1- 8



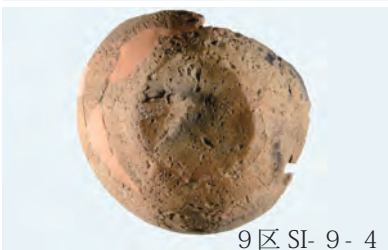
9区 SI- 1-12



9区 SI- 7- 1



9区 SI- 9- 3



9区 SI- 9- 4



9区 SI-10- 2



9区 SI-12- 2



9区 SI-12- 3



9区 SI-12- 5

图版一〇二 西刑部西原遺跡9区



9区 SI-12- 6



9区 SI-12- 8



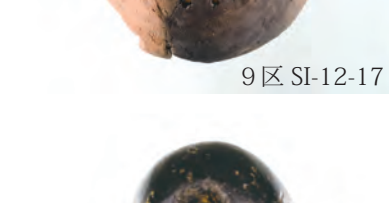
9区 SI-12-11



9区 SI-12-16



9区 SI-12-17



9区 SI-12-19



9区 SI-13- 1



9区 SI-14- 1



9区 SI-14- 4



9区 SI-14- 5



5 底部外面



9区 SI-14- 6



9区 SI-14- 8



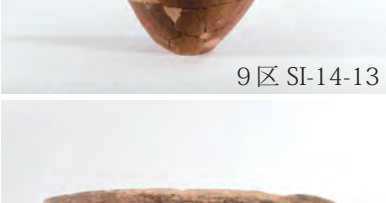
9区 SI-14- 9



9区 SI-14-12



9区 SI-14-13



9区 SI-15- 1



9区 SI-15- 2



9区 SI-16- 3



9区 SI-26- 2



9区 SI-15- 3



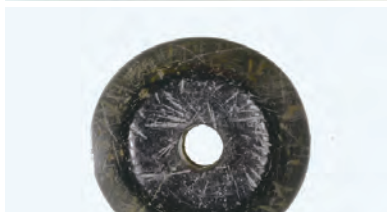
9区 SI-16- 5



9区 SI-27- 1



9区 SI-15- 4



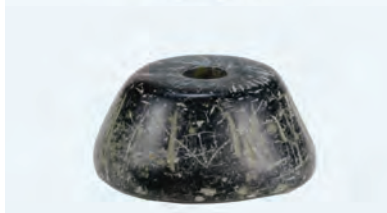
9区 SI-17- 4



9区 SI-49- 4



9区 SI-15- 5



9区 SI-17- 4



9区 SI-49-11



9区 SI-15- 7



9区 SI-21- 2



9区 SD- 3- 3



9区 SI-16- 2



9区 SI-26- 1



9区 SD-120- 2

图版一〇四 西刑部西原遺跡10・11・12区



10区 SI- 1- 3



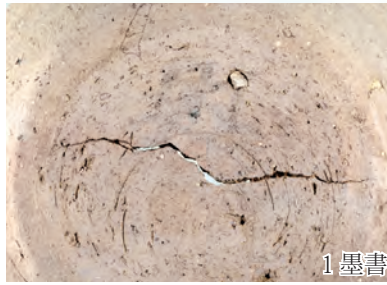
12区 SI- 1- 1



12区 SI- 1- 13



3底部外面



1墨書



12区 SI- 1- 14



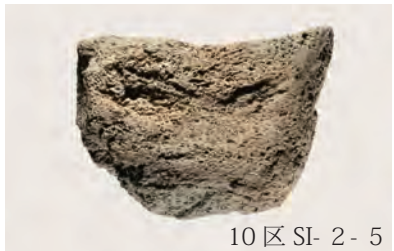
10区 SI- 1- 4



12区 SI- 1- 2



12区 SI- 1- 19・20



10区 SI- 2- 5



12区 SI- 1- 3



12区 SI- 1- 21・22



11区 SI- 1- 1



12区 SI- 1- 6



12区 SI- 1- 26



11区 SD- 2- 1



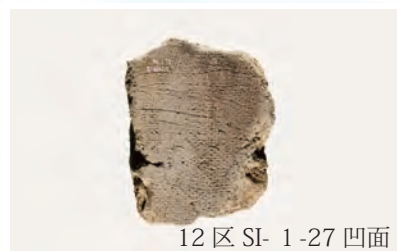
12区 SI- 1- 8



11区 SD- 2- 2



12区 SI- 1- 10



12区 SI- 1- 27凹面



12区 SI- 1-28 (凹面)



12区 SI- 1-34



13区 SI- 1-11



12区 SI- 1-29 (凹面)



12区 SI- 2- 1



13区 SI- 2- 1



12区 SI- 1-30



12区 SI- 2- 2



13区 SI- 2- 2



12区 SI- 1-31



12区 SI- 2- 4



13区 SI- 2- 3



12区 SI- 1-32



12区 SI- 3- 8



13区 SI- 2- 4



凹面

12区 SI- 1-33



13区 SI- 1- 1



凸面



13区 SI- 1- 2



13区 SI- 2- 7

図版一〇六 西刑部西原遺跡13区



13区 SI- 2- 8



13区 SI-12- 4



13区 SI-26- 4



13区 SI-26- 5



13区 SI- 2- 9



13区 SI-12- 5



13区 SI-26- 7



13区 SI- 2-14



5 縄の圧痕



13区 SI-26- 8



13区 SI-12- 1



13区 SI-12- 2



13区 SI-12- 3



13区 SI-26- 1



13区 SI-26- 9



13区 SI-26-10



13区 SI-27-11



13区 SI-27-12



13区 SI-27-13



13区 SI-27-14



13区 SI-27-19



13区 SI-27-21



13区 SI-27- 6



13区 SI-27- 7



13区 SI-27- 8



13区 SI-27- 9



13区 SI-27-10



13区 SI-27-20



13区 SI-27-31



13区 SI-27-33



13区 SI-29- 1



13区 SI-29- 2



13区 SI-29- 3

図版一〇八 西刑部西原遺跡13区



13区 SI-29- 4



13区 SI-29- 5



13区 SI-38- 3



13区 SI-52- 5



13区 SI-29- 6



13区 SI-40- 8



13区 SI-52- 7



13区 SI-36- 5



13区 SI-56- 2



13区 SI-36- 5



13区 SI-38- 1



13区 SI-40- 9



13区 SI-89- 1



13区 SI-38- 2



13区 SI-89- 2



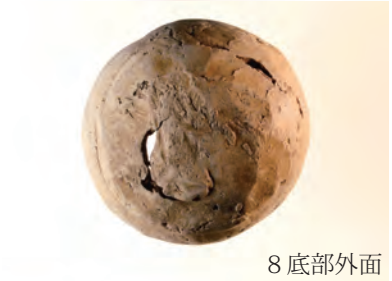
13区 SI-40- 5



13区 SI-52- 2



13区 SI-89- 3





13区 SI-102- 1



13区 SI-105- 5



13区 SB-17- 1



13区 SI-102- 2



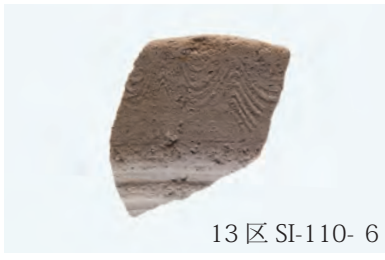
13区 SI-110- 2



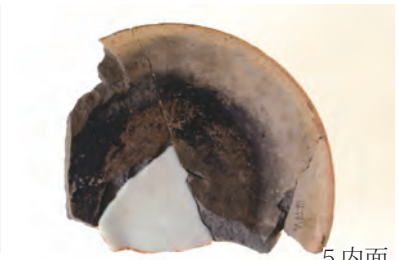
13区 SB-17- 2



13区 SI-102- 3



13区 SI-110- 6



5内面



13区 SI-102- 4



13区 SI-115- 2



13区 SB-17- 5



13区 SI-105- 2



13区 SI-116- 2



13区 SX-20- 4



13区 SI-105- 3



13区 SI-116- 2



13区 SX-21- 2



13区 SI-105- 4

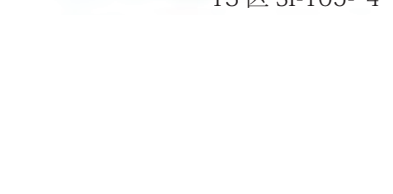


2裏面

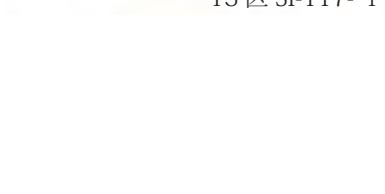
13区 SI-117- 1



13区 SX-34- 2



13区 SI-105- 4



13区 SI-117- 1



13区 SX-98- 6



13区 SD-111- 1



14区 SI- 8- 1



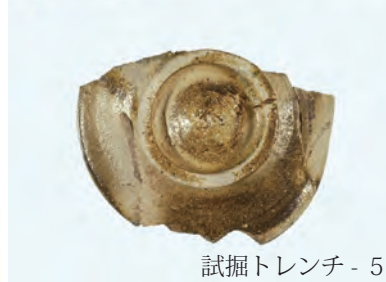
試掘トレンチ



13区 SD-111- 2



14区 SX- 9- 1



試掘トレンチ - 5



13区 SD-111- 5



試掘トレンチ - 1



試掘トレンチ - 7



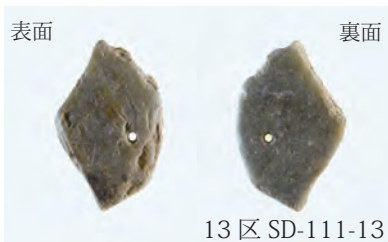
13区 SD-111- 7



試掘トレンチ - 2



試掘トレンチ - 8



表面

裏面

13区 SD-111-13



2底部外面



試掘トレンチ - 14



13区 SD-113- 2 (凹面)



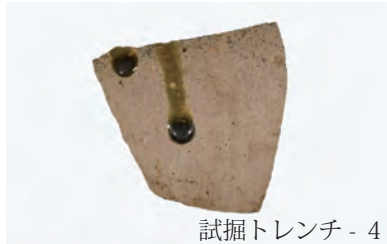
試掘トレンチ - 3



試掘トレンチ - 16 (凹面)



13区 遺構外 - 3



試掘トレンチ - 4



凹面

凸面

試掘トレンチ - 17

図版一一二 西刑部西原遺跡 鉄製品 (鉄鏃・直刀)



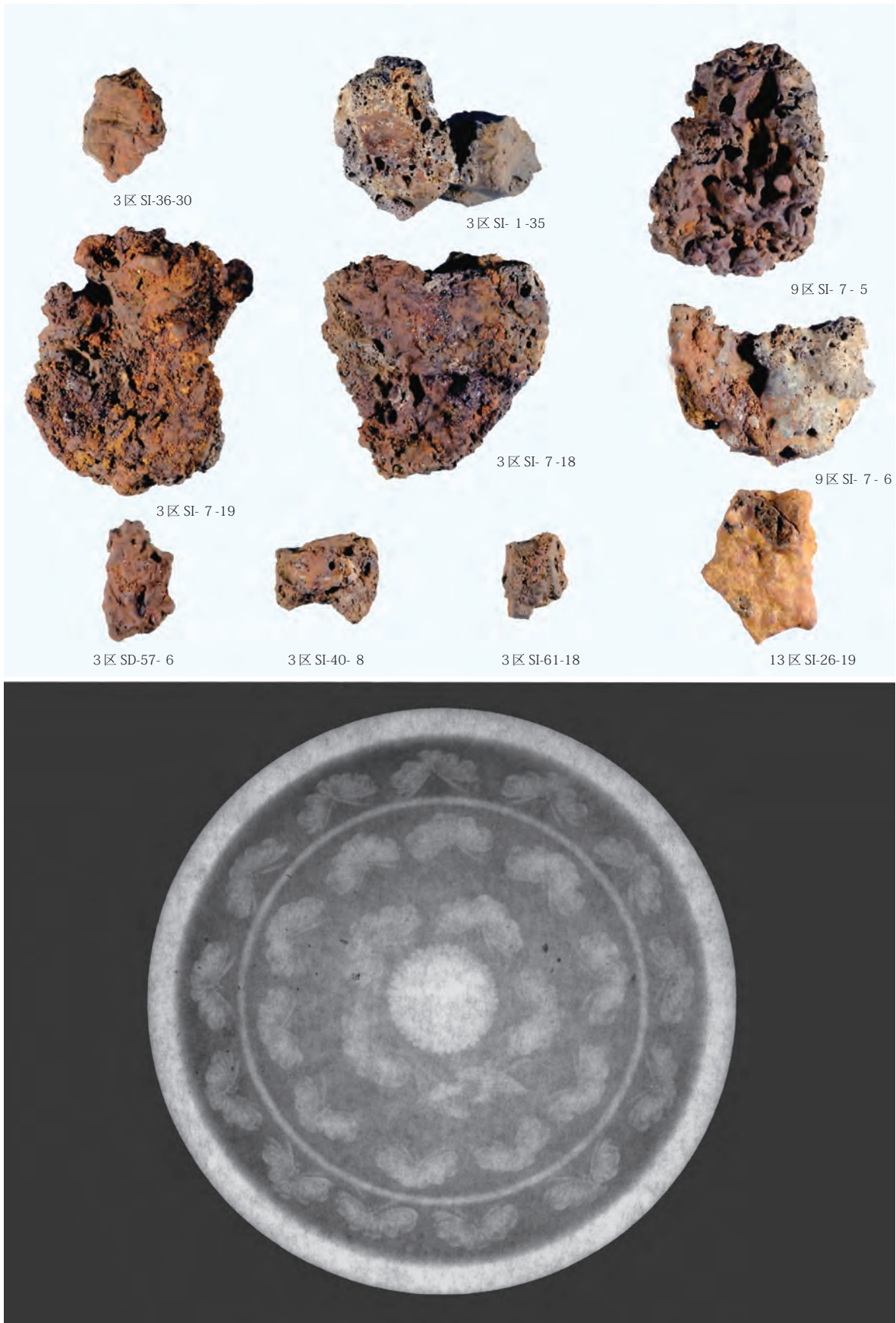


図版一一四 西刑部西原遺跡 鉄製品 (紡錘車)





図版一一六 西刑部西原遺跡 鉄滓・青銅鏡X線写真



図版一一七 西刑部西原遺跡 青銅鏡 (群蝶双雀鏡)



報告書抄録

ふりがな	とうや・なかじまちくいせきぐん 16 にしおさかべにしはらいせき
書名	東谷・中島地区遺跡群 16 西刑部西原遺跡（古墳・奈良・平安時代編）
副書名	一都市再生機構による東谷・中島土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査一
巻次	16
シリーズ名	栃木県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第362集
編著者名	亀田幸久
編集機関	財団法人 とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター
所在地	〒329-0418 栃木県下野市紫474番地 TEL 0285-44-8441
発行機関	栃木県教育委員会 財団法人とちぎ未来づくり財団
発行年月日	西暦 2013年3月30日（平成25年3月30日）

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にしおさかべにしはら 西刑部西原 いせき 遺跡	とちぎけんうつのみやし 栃木県宇都宮市 ひらつかちようあざにしはら 平塚町字西原地内	09201	271	36度 29分 40秒 (3区) (世界測地系)	139度 54分 46秒 (3区) (世界測地系)	3区 20000404 ~ 20010206 4区 20000913 ~ 20001020 5区 20010501 ~ 20010712 6区 20010501 ~ 20010806 7区 20011105 ~ 20020128 8区 20030911 ~ 20031010 9区 20050707 ~ 20060223 10区 20051128 ~ 20060126 11区 20051214 ~ 20060217 12区 20061204 ~ 20070125 13区 20070703 ~ 20071227 14区 20071206 ~ 20071220	8,200 900 3,000 2,800 4,800 100 1,200 600 450 600 3,375 540	東谷・中 島土地区 画整理事 業に伴う 事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西刑部西原 遺跡	集落	古墳	3区 竪穴建物跡 63 棟、掘立柱建物跡 8 棟、円形周溝遺構 3 基、性格不明遺構 2 基、井戸 7 本、溝 1 条、円形有段遺構 1 基、土坑 20 基、ピット 18 基	土師器、須恵器、 灰釉陶器、木製品 (居木・桶・櫛) 鉄 製品(鎌・手鎌・ 鋤先・刀子・紡錘 車・鉤・釘・鏃・ 直刀・引手)、その 他金属製品(金銅 製耳環・鍔付足金 物)、石器(砥石・ 敲石・石製紡錘車・ 編物石)、石製模造 品白玉・鏡型土製 品・鉄滓。 和鏡(群蝶双雀鏡)	
		奈良	4区 竪穴建物跡 3 棟、溝 1 条、土坑 3 基 5区 竪穴建物跡 4 棟、掘立柱建物跡 3 棟、円形周溝遺構 1 基、土坑 20 基、ピット 13 基		
		平安	6区 溝 2 条、土坑 8 基、ピット 1 基 7区 竪穴建物跡 4 棟、円形有段遺構 1 基、土坑 3 基、道路状遺構 8区 土坑 1 基、道路状遺構、琴平塚 9 号墳 9区 竪穴建物跡 15 棟、掘立柱建物跡 4 棟、円形有段遺構 2 基、井戸 1 本、溝 6 条、土坑 10 基、ピット 118 基		
		10区 竪穴建物跡 3 棟、掘立柱建物跡 3 棟、円形周溝遺構 1 基、溝 3 条、土坑 13 基、ピット 70 基 11区 竪穴建物跡 1 棟、溝 2 条、土坑 3 基、ピット 35 基 12区 竪穴建物跡 3 棟、掘立柱建物跡 3 棟、土坑 3 基、ピット 48 基 13区 竪穴建物跡 30 棟、掘立柱建物跡 6 棟、円形周溝遺構 8 基、円形有段遺構 1 基、性格不明遺構 2 基、井戸 4 本、溝 13 条、土坑 56 基、ピット 97 基			
		14区 竪穴建物跡 3 棟、性格不明遺構 2 基、溝 1 条、土坑 5 基、ピット 14 基			

要約	<p>田川の東岸の低台地状に立地する。開析谷を挟んだ西側に中島笹塚遺跡、南側に磯岡北遺跡が存在。古墳時代：中期末から後期終末期の竪穴建物跡 68 棟、円形周溝遺構 10 基、井戸 4 本、性格不明遺構（遺物集中地点）1、溝跡 5 条を確認。3区 SI-58 からは鳥に似た線刻（或いは刻書か）ある須恵器捏鉢が出土。土器類では少量だが北武蔵系の土師器環、東海産の須恵器瓶類等が見られる。SI-22 から銅地銀張の鍔付足金物が出土。同 SI-53 からは鑷子状鉄製品が出土している。この他古墳時代後期の円墳（琴平塚 9 号墳）の周溝、木棺墓 1 基、土坑墓 1 基を確認。</p> <p>奈良時代：竪穴建物跡 40 棟、掘立柱建物跡 4 棟、井戸 6 本、円形有段遺構 3 基、溝跡 5 条などを確認。円形有段遺構は 3区・7区 13区から確認される。また 7区・8区では道路状遺構の一部を調査した。3区からは刻書のある須恵器甕（「厨」か）須恵器蓋（「里」か）が出土。、4区 SI-1 から新羅土器碗、3区 SI-5 から湖西産の須恵器甕が出土。鉄製品は 3区 SI-38 から轡の引手が、13区 SI-97 から鉤が出土する。</p> <p>平安時代：竪穴建物跡 9 棟、井戸 1 本を確認。在地産の土器類の他、製塩土器や、南比企産の須恵器環、湖西産の灰釉陶器瓶類が少量出土する。9世紀中葉の井戸 SE-23 からは「来」の墨書土器や多くの自然遺物と共に木製品（居木・桶・櫛等）が出土。完形品の鉄製紡錘車が 9区 SI-1 から出土。</p> <p>中世：4区から鎌倉時代の青銅製和鏡（群蝶双雀鏡）が出土する。</p>
----	--

東谷・中島地区遺跡群埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

- | | | |
|--|-----------------------|------------------|
| 1 「磯岡遺跡（I区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第 229 集 | 1999（平成 11）年 3 月 |
| 2 「砂田遺跡（1区・2区・3区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第 265 集 | 2002（平成 14）年 3 月 |
| 3 「推定東山道関連地区（権現山遺跡 SG I 区 杉村遺跡 SG 1 区 磯岡北遺跡 SG 3 区・SG 4 区・SG 6 区・SG 7 区・SG 8 区・SG11 区・SG12 区・SG13 区・SG14 区 西刑部西原遺跡 2 区・6 区・7 区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第 274 集 | 2003（平成 15）年 3 月 |
| 4 「琴平塚古墳群（西刑部西原遺跡 1・2・6 区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第 283 集 | 2004（平成 16）年 3 月 |
| 5 「立野遺跡」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第 290 集 | 2005（平成 17）年 3 月 |
| 6 「磯岡遺跡（2区～7区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第 292 集 | 2005（平成 17）年 6 月 |
| 7 「磯岡北古墳群（磯岡北遺跡 S G 12 区・SG16～18 区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第 299 集 | 2006（平成 18）年 3 月 |
| 8 「砂田遺跡（4～6・18・19・23・24 区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第 305 集 | 2007（平成 19）年 3 月 |
| 9 「中島笹塚古墳群・中島笹塚遺跡遺跡（1～8 区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第 311 集 | 2008（平成 20）年 3 月 |
| 10 「権現山遺跡北部（2～4 区・SG 1 区）・杉村遺跡（GN 1 区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第 331 集 | 2010（平成 22）年 3 月 |
| 11 「砂田姥沼遺跡（1～3 区）・砂田瀧遺跡（1～3 区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第 337 集 | 2011（平成 23）年 3 月 |
| 12 「西刑部西原遺跡 旧石器・縄文・弥生時代編」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第 354 集 | 2012（平成 24）年 3 月 |
| 13 「砂田遺跡（10・12・13・16・27 区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第 355 集 | 2012（平成 24）年 3 月 |
| 14 「権現山遺跡南部（SG2 区・SG5 区・SG9 区・SG10 区・SG15 区）・磯岡遺跡（SG9 区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第 360 集 | 2013（平成 25）年 3 月 |
| 15 「砂田遺跡（7～9・11・14・15・17・20～22・25・26・28～42 区）」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第 361 集 | 2013（平成 25）年 3 月 |
| 16 「西刑部西原遺跡 古墳・奈良・平安時代編」 | 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告第 362 集 | 2013（平成 25）年 3 月 |

栃木県埋蔵文化財調査報告第 362 集

東谷・中島地区遺跡群 16

西刑部西原遺跡

（古墳・奈良・平安時代編）

—都市再生機構による東谷・中島土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査—

発行 栃 木 県 教 育 委 員 会

宇都宮市埴田 1-1-20

T E L 028 (623) 3425

財団法人とちぎ未来づくり財団

宇都宮市本町 1-8

T E L 028 (643) 1011

平成 25 年 3 月 30 日発行

編集 財団法人とちぎ未来づくり財団

埋蔵文化財センター

下野市紫 474 番地

T E L 0285 (44) 8441

印刷 下野印刷株式会社
